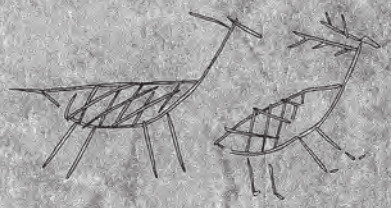
西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡

―一般国道24号京奈和自動車道（紀北東道路）改築事業に伴う第1次・第2次発掘調査報告書―



2010年3月

財団法人 和歌山県文化財センター

西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡

―一般国道24号京奈和自動車道（紀北東道路）改築事業に伴う第1次・第2次発掘調査報告書―

2010年3月

財団法人 和歌山県文化財センター

巻頭図版1

西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第1次・第2次調査）



1．調査地遠景（西から、奥が橋本市）



2．調査地遠景（南から、奥が和泉山脈）

巻頭図版2

西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第1次・第2次調査）



1．調査区全景（西から、手前が第２次調査地）



2．調査区全景（西から、奥が第１次調査地）



1．西飯降Ⅱ遺跡（06－1－3区）下層遺構面全景（東から）



2．竪穴建物9（西から）

巻頭図版4

西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第1次調査）



1．西飯降Ⅱ遺跡（06－1－4区）下層遺構面全景（東から）



2．土器棺墓1（南から）



1．磨製石剣（S４：竪穴建物12出土）



2．絵画土器（436～442：自然流路８出土）

巻頭図版6　丁ノ町・妙寺遺跡（第2次調査）



1．掘立柱建物群北半全景（北西から）



2．自然流路９北半（北から）



1．丁ノ町・妙寺遺跡（07－3－1区）下層遺構面全景（北から）



2．埋設土器1（西から）



1．弥生時代中期末葉の土器群（自然流路９出土）



2．磨製石斧（Ｓ５：竪穴建物 13 出土）

序　文

かつらぎ町は紀ノ川の中流に位置し、町の北側は和泉山脈に、南側は紀伊山地に囲まれた自然豊かな町です。

古代には、大化改新の詔で畿内の南限とされた紀伊兄山があり、官道の南海道には萩原駅家が設置されていました。また、中世には高野政所が設置されていた慈尊院への船運路、さらに、近世には川上船の通行路や、和歌山城下と大和・伊勢を結ぶ大和街道が通り、古くから交通の要衝として栄えてきました。

紀ノ川から北側を望むと、和泉山脈が東西にそびえ、まるで屏風を広げたように見えます。その山々の南麓に西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡が位置しています。今回、和歌山・奈良・京都を結ぶ交通路として、その開通が待ち望まれる京奈和自動車道の改築事業に伴い西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡などの発掘調査が実施されました。

かつらぎ町域ではこれまでに弥生時代の船岡山遺跡や、古代の佐野廃寺、近世の窪・萩原遺跡の発掘調査などで大きな発掘成果がありました。しかしながら、調査事例の少なさともあいまってか、県内ではまだまだ内容が不明な遺跡も多い地域といえます。

しかし、この４年間にも及ぶ発掘調査によって、縄文時代から鎌倉時代に及ぶ各時代において、数多くの新知見をえることができました。その成果は、和歌山県の発掘調査成果を全国に発信する大きな成果となりつつあります。

本書で取り上げる内容では、官省符荘にかかわる中世の農地、古代の条里水田、古墳時代の集落、縄文時代の集落、そして、鹿の描かれた絵画土器に象徴される弥生時代の集落が挙げられます。

ここにその発掘調査の前半部分の成果をまとめ報告書を刊行します。本書を通じて和歌山県の歴史の一端を明らかにすることに貢献できれば幸いです。最後になりましたが、発掘調査及び本書の作成に際して、ご指導・ご協力をいただきました関係各位・地元の皆様方に深く感謝申し上げます。

財団法人　和歌山県文化財センター
理事長　小　関　洋　治

例　言

1．本書は和歌山県伊都郡かつらぎ町西飯降・丁ノ町・妙寺に所在する西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は一般国道24号京奈和自動車道（紀北東道路）改築事業に伴い、平成18年度（第1次調査）・平成19年度（第2次調査）の2年次にわたって発掘調査を実施し、平成20年度・平成21年度の2年次にわたって出土遺物整理を実施した。

3．発掘調査及び出土遺物整理業務は、国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所の委託を受け、和歌山県教育委員会の指導のもと、財団法人和歌山県文化財センターが実施した。

4．発掘調査及び出土遺物整理の調査組織は以下の通りである。

［発掘調査］

専務理事　松田長次郎（平成19年度　事務局長兼務）

事務局長　熊崎訓自（平成18年度）

事務局次長　山本新平（平成19年度　管理課長兼務）

管理課長　西本悦子（平成18年度）

埋蔵文化財課長　渋谷高秀（平成18年度）、村田　弘（平成19年度）

発掘調査担当

平成18年度（第1次調査）：前田義明、村田　弘、土井孝之、佐伯和也、日置　智、辰巳陽一、北森さやか、手島芙実子

平成19年度（第2次調査 丁ノ町・妙寺遺跡）：前田義明、冨永里菜、田中元浩、日置　智

［出土遺物整理］

専務理事　松田長次郎（平成20年度5月まで　事務局長兼務）

事務局長　酒部三依（平成20年度6月から　管理課長兼務）、田中洋次（平成21年度）

管理課長　冨加見泰彦（平成21年度）

埋蔵文化財課長　村田　弘（平成20年度・平成21年度）

出土遺物整理担当　田中元浩（平成20年度・平成21年度）

5．本書は田中が執筆・編集し、第6章の一部を前田が執筆した。

6．発掘調査及び出土遺物整理に際し、下記の諸機関・諸氏よりご協力・ご教示を得た。記して感謝の意を表したい。（敬称略・順不同）

国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所・かつらぎ町教育委員会・財団法人京都市埋蔵文化財研究所・和歌山県立紀伊風土記の丘・和歌山県教育委員会

李　基星・池田保信・石田由紀子・五十川伸矢・井藤　徹・伊藤淳史・岩本次郎・大岡康之・大下　明・大野　薫・柏田有香・加藤雅士・北野隆亮・工楽善通・桑原久男・小賀直樹・千　羨幸・高橋智也・立岡和人・丹野　拓・千葉　豊・塚原秀之・土谷崇夫・土屋みずほ・寺前直人・中川　貴・長友朋子・仲原知之・中村貞史・中野榮治・額田雅裕・萩野谷正宏・濱田延充・浜中邦弘・東　徹志・平尾政幸・深澤芳樹・藤井幸司・藤井　整・前田敬彦・松岡淳朗・村井伸也・村上　昇・本村充保・森　郁夫・森岡秀人・森村健一・谷上真由美・矢野健一・竜子正彦・和田大作・和田晴吾・藁科哲男

7．本書で用いた現地写真は各調査担当者が撮影した。また、遺物写真は田中が撮影し、墨書土器の赤外線写真については村井伸也（財団法人京都市埋蔵文化財研究所）が撮影した。

8．発掘調査及び出土遺物整理に際し、作業委託・分析委託として、下記の委託業務を実施した。
基準点測量・航空写真撮影・航空写真測量:株式会社南紀航測センター（第１次調査・第２次調査）
土壌分析（プラントオパール分析・花粉分析・珪藻分析）：株式会社古環境研究所
炭化物の分析（放射性炭素年代測定・樹種同定）：株式会社古環境研究所
考古地磁気年代推定：株式会社夏原技研
土器の胎土分析：パリノサーヴェイ株式会社
サヌカイト製遺物の原材産地分析：有限会社遺物材料研究所
木製品・鉄製品保存処理、木製品の樹種調査：株式会社吉田生物研究所
9．自然科学分析など委託・依頼した報告については付章として掲載した。付章の執筆は第１節～第６節を株式会社古環境研究所、第７節を株式会社夏原技研、第８節をパリノサーヴェイ株式会社、第９節を遺物材料研究所、第10節を株式会社吉田生物研究所が行った。
10．掘調査及び出土遺物整理で作成した実測図・写真・デジタルデータ・台帳などの記録資料は、財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が各々保管している。

凡　例

1．発掘調査及び出土遺物整理は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006．４）に準拠して行った。
2．実測図及び地区割の基準線は、平面直角座標系第Ⅵ系（世界測地系）を基準とし、数値はｍ単位で表示している。また、図示した北は座標北を示す。
3．発掘調査で使用した標高は、東京湾標準潮位（Ｔ．Ｐ．）を基準とした。
4．地区名は第１次調査:西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）…、丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）、第２次調査:丁ノ町妙寺遺跡（07－１区）…と調査年度と大地区名により呼称し、さらに小地区を分割する。
5．遺構番号は、各調査において個別に付しており、遺構番号の重複や、同一遺構において異なる遺構番号を付しているため、報告にあたり新たに遺構名を付与した。遺構名は遺構の種類ごとにアラビア数字の番号を付して「竪穴建物１」などとした。また、遺構番号は調査次数ごとに付した。なお、旧遺構名は新遺構名の後に（1001）と表記し、新旧遺構名の対照を遺構一覧表に記載した。
6．遺物番号は調査次数ごとの通し番号とし、遺物の種類ごとに土器は１～、石器・石製品はＳ１～、木製品はＷ１～、鉄製品はＩ１～を付した。なお遺物番号と遺物写真番号は一致する。
7．平面図・断面図・遺構図は対象により適宜縮尺を変えて掲載しており、図ごとにバースケールと縮尺を示している。
8．遺物実測図の縮尺は原則として土器１/４、石器・鉄製品１/２であるが、木製品や一部の石器・石製品などについては、必要に応じて異なる縮尺を用い、図ごとにバースケールを示した。
9．土層及び遺物の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）『新版標準土色帖』2003年度版を基準としている。
10．発掘調査で使用した調査コードは以下の通りである。出土遺物・記録資料はこの調査コードを用い管理している。
第１次調査：06－13・26、27（2006年度－かつらぎ町・西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡）
第２次調査：07－13・27（2007年度－かつらぎ町・丁ノ町・妙寺遺跡）

目　次

巻頭図版
序文
例言
凡例
目次

第１章　調査に至る経緯と経過
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査・出土遺物整理の経過 …… 2
第２章　位置と環境
　第１節　位置と地理的環境 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　調査の方法
第４章　第１次調査の調査成果　西飯降Ⅱ遺跡(06 － 13・26)丁ノ町・妙寺遺跡(06 － 13・27)
　第１節　基本層序と遺構面 …… 11
　第２節　西飯降Ⅱ遺跡（06 － １区）の調査成果 …… 22
　第３節　西飯降Ⅱ遺跡（06 － ２区）の調査成果 …… 92
　第４節　丁ノ町・妙寺遺跡（06 － １区）の調査成果 …… 109
　第５節　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）の石器・石製品 …… 124
　第６節　西飯降Ⅱ遺跡（第１次調査）の木製品 …… 130
第５章　第２次調査の調査成果　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 13・27）
　第１節　基本層序と遺構面 …… 133
　第２節　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － １区）の調査成果 …… 140
　第３節　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － ２区）の調査成果 …… 163
　第４節　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － ３区）の調査成果 …… 168
　第５節　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － ４区）の調査成果 …… 232
　第６節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の石器・石製品 …… 234
　第７節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の木製品 …… 248
　第８節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の鉄製品 …… 250
第６章　総括 …… 251
付章　自然科学分析
　第１節　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）におけるプラントオパール分析 … 260
　第２節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）におけるプラントオパール分析 …… 266
　第３節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）出土炭化物の放射性炭素年代測定 …… 268
　第４節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における花粉分析 …… 270
　第５節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における珪藻分析 …… 276
　第６節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）出土炭化物の樹種同定 …… 278
　第７節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における考古地磁気年代推定 …… 281
　第８節　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土土器の胎土分析 …… 287
　第９節　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土サヌカイト製遺物の原材産地分析 …… 301
　第 10 節　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土木製品の樹種調査 …… 309

参考文献
付表１　遺構一覧表
付表２　遺物観察表
写真図版

挿図目次

図１　調査地位置図……１
図２　調査区配置図……２
図３　官省符荘付近の地形分布図……４
図４　かつらぎ町域の遺跡分布図……６
図５　地区割の方法……８
図６　調査区の設定と地区割り図……９
図７　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）東西標準土層……13・14
図８　西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）、
　　丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）東西標準土層…15・16
図９　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）
　　上層遺構面全体図……17・18
図10　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）
　　下層遺跡面全体図……19・20
図11　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）南北標準土層……21
図12　包含層（西飯降Ⅱ遺跡06－１区）出土土器……22
図13　西飯降Ⅱ遺跡（06－１）区上層遺構面平面図……23
図14　西飯降Ⅱ遺跡（06－１）区下層遺構面平面図……24
図15　溝３（5027）平面図・断面図……25
図16　自然流路１（5030）断面図……26
図17　自然流路２（5007）平面図・断面図……27
図18　落ち込み１、溝１～３自然流路１・２、出土土器・土製品…28
図19　竪穴建物１（5089）平面図・断面図……29
図20　竪穴建物２（5335）平面図・断面図……30
図21　竪穴状遺構１（5012）断面図……31
図22　竪穴建物１・２、竪穴状遺構１、土坑３・４出土土器…32
図23　焼成土坑１・２、鍛冶遺構１、ピット３平面図・断面図…33
図24　土坑４、溝４・５・７・８、自然流路４断面図……34
図25　溝６（5331）平面図・断面図……35
図26　土坑５、焼成土坑１、溝４～７出土土器……36
図27　自然流路３・４出土土器……37
図28　竪穴建物３（5095）平面図・断面図……38
図29　自然流路５（5472）平面図・遺物出土状況図……39
図30　自然流路５（5472）断面図……40
図31　竪穴建物３、土坑６、ピット２・３、溝９・10、
　　自然流路５出土土器……41
図32　自然流路６（5186・5324）平面図・立面図・断面図…42
図33　自然流路６（5186）出土土器……43
図34　竪穴建物４・５平面図・断面図……44
図35　竪穴建物６・７平面図・断面図……45
図36　竪穴建物４～７出土土器……46
図37　焼成土坑４・土坑７・８平面図・断面図……47
図38　土坑７～10、溝11・12出土土器……48
図39　竪穴建物８（5506）平面図・断面図……50
図40　竪穴建物９（5185）平面図・断面図……51
図41　竪穴建物10（5369）平面図・断面図……52
図42　竪穴建物11（5370）平面図・断面図……53
図43　竪穴建物９～11出土土器……54
図44　竪穴建物12（5373）平面図・断面図……55
図45　竪穴建物13（5183）平面図・断面図……56
図46　竪穴建物14（5523）平面図・断面図……57
図47　竪穴状遺構２（5182）平面図・断面図……58
図48　竪穴建物12～14、竪穴状遺構２出土土器……59
図49　方形周溝墓１（5269）平面図……60
図50　方形周溝墓１（5269）平面図・断面図……61
図51　方形周溝墓１（5269）出土土器１……62
図52　方形周溝墓１（5269）出土土器２……63
図53　方形周溝墓２（5268）平面図・断面図……64
図54　方形周溝墓２（5268）出土土器１……65
図55　方形周溝墓２（5268）出土土器２……66
図56　方形周溝墓３（5418）平面図・断面図……67
図57　方形周溝墓３（5418）出土土器……68
図58　土器棺墓１・２平面図・断面図……69
図59　土器棺墓１（5246）出土土器……70
図60　土器棺墓３（5325）土坑11平面図・断面図……71
図61　土器棺墓４・５平面図・断面図……72
図62　土器棺墓２～５出土土器……74
図63　土坑12（5320）平面図・断面図……75
図64　土坑14・15平面図・断面図……76
図65　土坑12～14出土土器……77
図66　土坑25・26・34平面図・断面図……78
図67　土坑13・18・21・22・27～31・35平面図・断面図……79
図68　土坑15～24出土土器……80
図69　土坑25～33、ピット４・５出土土器……81
図70　溝13（5258）平面図・断面図……82
図71　溝14（5200）平面図・断面図……83
図72　溝13～17出土土器……84
図73　自然流路８（5180）平面図・断面図……86
図74　自然流路８（5180）出土土器１……87
図75　自然流路８（5180）出土土器２……88
図76　自然流路８（5180）出土土器３……89
図77　自然流路８（5180）出土土器４……90
図78　自然流路８（5180）出土土器５……91
図79　包含層（西飯降Ⅱ遺跡06－２区）出土土器……92
図80　西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）上層遺構面全体図……93
図81　西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）下層遺構面全体図……94
図82　掘立柱建物１（89）平面図・断面図……95
図83　溝18（１）周辺遺構平面図……96
図84　溝18、条里水田（古代）周辺出土土器……97
図85　溝18（１）断面図……98
図86　自然流路６（46）断面図・堰平面図……99

図 87　自然流路６（46）平面図・立面図 …… 100
図 88　土坑 36、溝 19、自然流路６、溝 21 出土土器 … 101
図 89　竪穴建物 15（63）平面図・断面図 …… 102
図 90　竪穴建物 16（24）平面図・断面図 …… 103
図 91　竪穴状遺構３～５、土坑 37 平面図・断面図 …… 104
図 92　竪穴状遺構６（25）平面図・断面図 …… 105
図 93　方形周溝墓４（77）平面図・断面図 …… 106
図 94　自然流路７（226、244）断面図 …… 107
図 95　方形周溝墓４、土坑 38・39、溝 26・27、
　　自然流路７出土土器 …… 108
図 96　包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 06 －１区）出土土器 … 109
図 97　丁ノ町・妙寺遺跡（06 －１）区上層遺構面全体図 … 110
図 98　丁ノ町・妙寺遺跡（06 －１）区下層遺構面全体図 … 111
図 99　土坑 40・42・43 平面図・断面図 …… 112
図 100　溝 28、自然流路９断面図 …… 113
図 101　土坑 40 ～ 44、落ち込み２、溝 28 出土土器 …… 114
図 102　竪穴建物 17（51）床面Ａ平面図・断面図 …… 115
図 103　竪穴建物 17（51）床面Ｃ平面図・断面図 …… 116
図 104　竪穴建物 17（51）炉断面図 …… 117
図 105　竪穴建物 18（63）平面図・断面図 …… 118
図 106　竪穴建物 19・20 平面図・断面図 …… 119
図 107　土器棺墓６、土坑 45・47・49 平面図・断面図 …… 120
図 108　竪穴建物 17 ～ 20、土坑 45 ～ 48 出土土器 …… 121
図 109　土器棺墓６（169）出土土器 …… 122
図 110　土坑 49 ～ 51、溝 29 ～ 34、自然流路 10 出土土器 … 123
図 111　西飯降Ⅱ遺跡（06 －１・２区）出土石器・石製品１ … 125
図 112　西飯降Ⅱ遺跡（06 －１・２区）出土石器・石製品２ … 126
図 113　西飯降Ⅱ遺跡（06 －１・２区）出土石器・石製品３ … 127
図 114　西飯降Ⅱ遺跡（06 －１・２区）出土石器・石製品４ … 128
図 115　丁ノ町・妙寺遺跡（06 －１区）出土石器・石製品 … 129
図 116　西飯降Ⅱ遺跡（06 －１・２区）出土木製品１ …… 131
図 117　西飯降Ⅱ遺跡（06 －１・２区）出土木製品２ …… 132
図 118　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）基本層序模式図 … 133
図 119　丁の町・妙寺遺跡（07 －１区・07 －２区）標準土層 … 134
図 120　丁の町・妙寺遺跡（07 －３区・07 －４区）標準土層 … 135・136
図 121　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）全体図 … 137・138
図 122　包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 07 －１区）出土土器・土製品 … 140
図 123　丁ノ町・妙寺遺跡（07 －１区）全体図 …… 141・142
図 124　掘立柱建物１平面図・断面図 …… 143
図 125　掘立柱建物２断面図 …… 144
図 126　掘立柱建物２・礎石建物１平面図・断面図・立体面 … 145
図 127　掘立柱建物２出土土器１ …… 146
図 128　掘立柱建物２出土土器２ …… 147
図 129　掘立柱建物２出土土器３ …… 148
図 130　掘立柱建物２、礎石建物１、土坑１・２・４、ピット１、
　　溝１出土土器・土製品 …… 150
図 131　掘立柱建物周辺遺構平面図 …… 151
図 132　掘立柱建物３平面図・断面図 …… 152
図 133　掘立柱建物４平面図・断面図 …… 153
図 134　掘立柱建物５平面図・断面図 …… 154
図 135　掘立柱建物３～５出土土器・土製品 …… 155
図 136　掘立柱建物６平面図・断面図 …… 156
図 137　掘立柱建物７平面図・断面図 …… 157
図 138　掘立柱建物８～ 10 平面図・断面図 …… 158
図 139　土坑５、溝３・４、自然流路３断面図 …… 160
図 140　掘立柱建物６・７・９・10、落ち込み１、ピット４～９、
　　土坑５、溝２・４、自然流路３出土土器 …… 161
図 141　掘立柱建物（古代）周辺出土土器・土製品 …… 162
図 142　包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 07 －２区）、掘立柱建物 11、
　　耕作痕１、土坑７・８出土土器 …… 163
図 143　丁ノ町・妙寺遺跡（07 －２区）全体図 …… 164
図 144　掘立柱建物 11（2327）平面図・断面図 …… 165
図 145　焼成土坑１（2371）平面図・断面図 …… 166
図 146　集石遺構１、土坑７・８平面図・断面図 …… 167
図 147　丁ノ町・妙寺遺跡（07 －２区・07 －３区・07 －４区）
　　上層遺構面　全体図 …… 169
図 148　包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 07 －３区）
　　出土土器・土製品 …… 170
図 149　自然流路７（3010）平面図・立面図 …… 171
図 150　自然流路７（3010）平面図・断面図・立面図 … 172
図 151　溝５（3008）平面図・断面図・立面図 …… 173
図 152　自然流路７（3010）出土土器 …… 174
図 153　焼成土坑２・３平面図・断面図 …… 175
図 154　焼成土坑４・５平面図・断面図 …… 176
図 155　竪穴建物１・２平面図・断面図 …… 177
図 156　竪穴建物３・４平面図・断面図 …… 178
図 157　竪穴建物１～３出土土器 …… 180
図 158　竪穴建物４、土坑９、ピット 10 出土土器 …… 181
図 159　土坑 10、ピット 10 平面図・断面図 …… 182
図 160　溝６（3030）平面図・断面図 …… 183
図 161　土坑 10、溝６、自然流路８出土土器 …… 184
図 162　竪穴建物５（3018）平面図・断面図 …… 185
図 163　竪穴建物６（3021）平面図・断面図 …… 186
図 164　竪穴建物７（3020）平面図・断面図 …… 187
図 165　竪穴建物８・９平面図・断面図 …… 188
図 166　竪穴建物 10（3027）平面図・断面図 …… 189
図 167　溝状遺構１（3121、3126）平面図・断面図 …… 189
図 168　土坑 11 ～ 13 平面図・断面図 …… 190
図 169　竪穴建物 7・9・10、土坑 11・12、溝状遺構１出土土器 … 191
図 170　土坑 13（3232）出土土器 …… 192
図 171　土坑 14・18・20 ～ 22 断面図 …… 193
図 172　土坑 15 ～ 17・19 平面図・断面図 …… 194
図 173　土坑 14 ～ 19 出土土器 …… 195
図 174　自然流路９（3150）断面図 …… 196
図 175　自然流路９（3150）平面図 …… 197
図 176　自然流路９（3150）北半遺物出土状況図 …… 198
図 177　自然流路９（3150）南半遺物出土状況図 …… 199
図 178　自然流路９（3150）出土土器１ …… 200
図 179　自然流路９（3150）出土土器２ …… 201
図 180　自然流路９（3150）出土土器３ …… 202
図 181　自然流路９（3150）出土土器４ …… 203
図 182　自然流路９（3150）出土土器５ …… 204
図 183　自然流路９（3150）出土土器６ …… 205
図 184　自然流路９（3150）出土土器７ …… 206

図 185　自然流路９（3150）出土土器８ …… 207
図 186　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 3 区）
　　下層遺構面（第５層下面）全体図 …… 208
図 187　竪穴建物 11（3142）平面図・断面図…… 209
図 188　竪穴建物 11（3142）平面図…… 210
図 189　竪穴建物 12（3224）平面図・断面図…… 211
図 190　竪穴建物 13（3147）平面図・断面図…… 212
図 191　竪穴建物 11 ～ 13 出土土器 …… 213
図 192　竪穴状遺構１・２平面図・断面図 …… 214
図 193　竪穴状遺構２(3188)石鏃集中区出土状況図・立面図… 215
図 194　埋設土器１（3149）出土土器 …… 216
図 195　埋設土器１(3149）平面図・断面図 …… 217
図 196　埋設土器２～４平面図・断面図 …… 218
図 197　埋設土器２～４出土土器 …… 219
図 198　配石遺構１・２平面図 …… 220
図 199　配石遺構１・２断面図 …… 221
図 200　集石遺構２～５平面図・断面図 …… 222
図 201　集石遺構６～９・11 平面図・断面図…… 223
図 202　土坑 23（3254）平面図・断面図…… 224
図 203　土坑 26（3167）平面図・断面図…… 225
図 204　土坑 24・25・27・28・31・32・34 ～ 37、
　　落ち込み２平面図・断面図 …… 226
図 205　竪穴状遺構２、配石遺構２、集石遺構５～８、
　　土坑 23 ～ 31 出土土器・土製品 …… 227
図 206　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 3 区）
　　下層遺構面（第６層下面）全体図 …… 228
図 207　落ち込み３、土坑 38、溝 10 平面図・断面図 … 229
図 208　落ち込み３、土坑 38、溝 10 出土土器 …… 230
図 209　包含層（丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 4 区））、
　　溝 11 出土土器 …… 232
図 210　焼成土坑６、溝 11、自然流路 11 平面図・断面図 … 233
図 211　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品１ …… 234
図 212　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品２ …… 235
図 213　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品３ …… 236
図 214　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品４ …… 237
図 215　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品５ …… 238
図 216　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品６ …… 239
図 217　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品７ …… 240
図 218　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品８ …… 241
図 219　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品９ …… 242
図 220　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品 10 …… 243
図 221　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品 11 …… 244
図 222　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品 12 …… 245
図 223　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品 13 …… 246
図 224　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土石器・石製品 14 …… 247
図 225　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土木製品１ …… 248
図 226　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 ～ 4 区）
　　出土木製品２ …… 249
図 227　丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 区）
　　遺構・包含層出土鉄製品 …… 250
図 228　種類別器種構成 …… 251
図 229　条里復元図 …… 253
図 230　機能別器種構成 …… 254
図 231　弥生時代の西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町、妙寺遺跡の
　　集落構造 …… 256
図 232　縄文時代の集落の配置構成 …… 258
図 233　西飯降Ⅱ遺跡№３地点のプラントオパール分析… 263
図 234　西飯降Ⅱ遺跡№２地点のプラントオパール分析… 263
図 235　西飯降Ⅱ遺跡№４地点のプラントオパール分析… 264
図 236　丁ノ町・妙寺遺跡№１地点のプラントオパール分析… 264
図 237　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における
　　植物珪酸体分析結果 …… 266
図 238　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における
　　花粉ダイアグラム（１） …… 272
図 239　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における
　　花粉ダイアグラム（２） …… 272
図 240　(広岡 1977)により求められた地磁気永年曲線変化… 281
図 241　中島・谷崎による地磁ベクトル図 …… 282
図 242　各焼成土坑の消磁ベクトル図 …… 285
図 243　各焼成土坑の残留磁化方向の等面積投影図 …… 285
図 244　地磁気永年変化曲線と各焼成土坑の消磁後の測定結果… 286
図 245　各粒度段階における鉱物・岩石出現頻度（１）… 292
図 246　各粒度段階における鉱物・岩石出現頻度（２）… 293
図 247　胎土中の砂の粒径組成 …… 294
図 248　砕屑物・基質・孔隙の割合 …… 247
図 249　サヌカイトおよびサヌカイト様岩石の原産地… 302

写真目次

写真１　発掘調査風景（第２次調査）……3
写真２　注記作業風景（出土遺物整理）……3
写真３　現地説明会風景……3
写真４　講演会開催風景……3
写真５　調査地周辺航空写真（1947年米軍撮影）……4
写真６　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）
　　プラントオパールの顕微鏡写真……267
写真７　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）
　　プラントオパールの顕微鏡写真……267
写真８　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の花粉・胞子…275
写真９　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の珪藻……277
写真10　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の炭化材……280
写真11　胎土薄片（１）……298
写真12　胎土薄片（２）……299
写真13　胎土薄片（３）……300
写真14　樹種同定顕微鏡写真……310

表目次

表１　掘立柱建物２・礎石建物１出土土器
　　（07－１区）の器種構成……251
表２　掘立柱建物群・掘立柱建物周辺出土土器
　　（07－１区）の器種構成……254
表３　西飯降Ⅱ遺跡№３地点のプラントオパール分析結果…262
表４　西飯降Ⅱ遺跡№２地点のプラントオパール分析結果…262
表５　西飯降Ⅱ遺跡№４地点のプラントオパール分析結果…262
表６　丁ノ町・妙寺遺跡№１地点の
　　プラントオパール分析結果……262
表７　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の植物珪酸体分析結果…266
表８　測定試料及び処理……268
表９　測定結果……269
表10　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における花粉分析結果　271
表11　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における珪藻分析結果　277
表12　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における樹種同定結果…278
表13　熱残留磁気測定結果……284
表14　考古地磁気測定結果（平均磁化方向）……286
表15　考古地磁気年代推定年代……286
表16　試料一覧および胎土分類結果……287
表17　薄片観察結果（１）……289
表18　薄片観察結果（２）……290
表19　薄片観察結果（３）……291
表20－１　各サヌカイト（安山岩）の原産地における
　　原石群の元素比の平均値と標準偏差値……303
表20－２　原産地不明の組成の似たサヌカイト（安山岩）製遺物で
　　作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値……304
表21　岩屋原産地からのサヌカイト原石の分類結果…306
表22　和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石の分類結果…306
表23　和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石の分類結果…306
表24　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土サヌカイト製
　　遺物の元素比分析結果……307
表25　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土安山岩製
　　遺物の原材産地分析結果……308
表26　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡　樹種同定表…309

写真図版目次

巻頭図版１　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次・第２次調査）
１．調査地遠景（西から、奥が橋本市）
２．調査地遠景（南から、奥が和泉山脈）
巻頭図版２　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次・第２次調査）
１．調査区全景（西から、手前が第２次調査地）
２．調査区全景（西から、奥が第１次調査地）
巻頭図版３　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）
１．西飯降Ⅱ遺跡（06－１－３区）下層遺構面全景（東から）
２、竪穴建物９（西から）
巻頭図版４　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）
１．西飯降Ⅱ遺跡（06－１－４区）下層遺構面全景（東から）
２．土器棺墓１（南から）
巻頭図版５　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）
１．磨製石剣（Ｓ４：竪穴建物12出土）
２．絵画土器（436～442：自然流路８出土）
巻頭図版６　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）
１．掘立柱建物群北半全景（北西から）
２．自然流路９北半（北から）
巻頭図版７　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）
１．丁ノ町・妙寺遺跡（07－３－１区）下層遺構面全景（北から）
２．埋設土器１（西から）
巻頭図版８　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）
１．弥生時代中期末葉の土器群（自然流路９）
２．磨製石斧（Ｓ５：竪穴建物13出土）

写真図版１　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）

１．調査地遠景（西から）
２．調査地空中写真（西から）
３．調査地空中写真（南から）

写真図版２　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）

１．調査区全景
２．西飯降Ⅱ遺跡（06－１・２区）全景
３．西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）、丁ノ町・妙寺遺跡(06－１区)全景

写真図版３　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．西飯降Ⅱ遺跡（06－１－４区）上層遺構面全景（西から）
２．西飯降Ⅱ遺跡（06－１－３区）上層遺構面全景（北から）

写真図版４　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．西飯降Ⅱ遺跡（06－１－４区）下層遺構面全景（東から）
２．西飯降Ⅱ遺跡（06－１－３区）上層遺構面全景（東から）
３．西飯降Ⅱ遺跡（06－１－３区）下層遺構面全景（西から）

写真図版５　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．溝３（5027）遺物出土状況（北から）
２．自然流路２（5007）北半（南から）
３．自然流路２（5007）南半（北から）

写真図版６　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．自然流路２堰（5326）検出状況（東から）
２．自然流路２木樋（5326）検出状況（東から）
３．自然流路２堰（5326）検出状況（東から）

写真図版７　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．竪穴建物１（5089）遺物、炭化材出土状況（東から）
２．竪穴建物１（5089）遺物、炭化材出土状況（北から）
３．竪穴建物１（5089）炭化材出土状況（南東から）
４．竪穴建物１（5089）遺物出土状況（西から）
５．竪穴状遺構１（5012）（西から）

写真図版８　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．竪穴建物２（5335）（南から）
２．竪穴建物３（5095）（西から）
３．竪穴建物３（5095）竈完掘状況（南東から）

写真図版９　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．焼成土坑１（5501）（南から）
２．焼成土坑２（5301）（西から）
３．鍛冶遺構１（5300）（西から）

写真図版10　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．西飯降Ⅱ遺跡（06－１－３区）下層遺構面全景（西から）
２．自然流路６（5324）堰検出状況（東から）
３．溝６（5331）遺物出土状況（東から）
４．自然流路７（5472）南半（北から）
５．自然流路７（5472）遺物出土状況（北から）

写真図版11　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．西飯降Ⅱ遺跡(06－１－３区)弥生時代遺構全景(東から)
２．西飯降Ⅱ遺跡(06－１－４区)弥生時代遺構全景(北から)

写真図版12　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．竪穴建物４（5184）（南から）
２．竪穴建物４（5184）ＳＫ遺物出土状況（北から）
３．竪穴建物４（5184）炉（北から）

写真図版13　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．竪穴建物５（5507）（南から）
２．竪穴建物６（5402）・７（5400）(北から、手前が竪穴建物７)
３．土坑７（5243）・８（5244）遺物出土状況（南から）

写真図版14　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．竪穴建物８（5506）（西から）
２．竪穴建物９（5185）（南から）
３．竪穴建物９（5185）（西から）

写真図版15　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．竪穴建物10（5369）（東から）
２．竪穴建物11（5370）（西から）
３．竪穴建物13（5183）（東から）

写真図版16　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．竪穴建物12（5373）（北から）
２．竪穴建物12（5373）Ｐ５磨製石剣出土状況（北東から）
３．竪穴建物12（5373）Ｐ５磨製石剣出土状況（北西から）
４．竪穴建物14（5523）（北から、竪穴建物７の下層）

写真図版17　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．方形周溝墓１（5269）・２（5268）（南から）
２．方形周溝墓１（5269）・２（5268）（南東から）
３．方形周溝墓３（5418）（北西から）

写真図版18　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．方形周溝墓１（5269）（西から）
２．方形周溝墓１（5269）南セクション（東から）
３．方形周溝墓１（5269）
４．方形周溝墓１（5269）周溝内ＳＫ２（5328）（南から）
５．周溝内ＳＫ２（5328）遺物出土状況（南から）

写真図版19　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．土器棺墓１（5246）（南西から）
２．土器棺墓１（5246）検出状況（南西から）
３．土器棺墓２（5247）（南東から）
４．土器棺墓３（5325）（南から）
５．土器棺墓５（5491）（東から）

写真図版20　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．土器棺墓４（5479）（東から）
２．土坑12（5320）（南から）
３．土坑15（5298）（西から）
４．溝13（5258）（南から）
５．溝14（5200）（北から）

写真図版21　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

１．自然流路８（5180）北半（南から）
２．自然流路８（5180）北半遺物出土状況１（西から）
３．自然流路８（5180）北半遺物出土状況２（西から）
４．自然流路８（5180）北半遺物出土状況３（南から）
５．自然流路８（5180）北半遺物出土状況４（南から）

写真図版22　西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）

１．西飯降Ⅱ遺跡（06－２－４区）下層遺構面全景（東から）
２．西飯降Ⅱ遺跡（06－２－２区）下層遺構面全景（北から）

写真図版23　西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）

１．溝18（１）・条里水田畦畔北半（南から）
２．溝18（１）・条里水田畦畔南半（北から）
３．溝18（１）土層断面（南から）
４．水田畦畔断割状況（南から）

写真図版 24　西飯降Ⅱ遺跡（06－2区）

1．自然流路6（46）南半（北西から）
2．自然流路6（46）北側堰検出状況（東から）
3．自然流路6（46）北側堰検出状況（南から）
4．自然流路6（46）南側堰状況（北から）
5．自然流路6（46）田下駄出土状況（西から）

写真図版 25　西飯降Ⅱ遺跡（06－2区）

1．自然流路6（46）南半（北西から）
2．自然流路6（46）下駄出土状況（北から）
3．自然流路6（46）木製品出土状況（北から）

写真図版 26　西飯降Ⅱ遺跡（06－2区）

1．西飯降Ⅱ遺跡(06－2－2区)竪穴建物、竪穴状遺構全景(北から)
2．竪穴建物15（63）（南から）
3．竪穴建物16（24）（南から）
4．竪穴状遺構4（65）（西から）
5．竪穴状遺構4（65）土層断面図（西から）

写真図版 27　丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）

1．丁ノ町・妙寺遺跡(06－1－1区)上層遺構面全景（西から）
2．丁ノ町・妙寺遺跡(06－1－2区)下層遺構面全景(西から)
3．丁ノ町・妙寺遺跡(06－1－4区)下層遺構面全景(東から)

写真図版 28　丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）

1．落ち込み2（15）（西から）
2．土坑43（50）（南から）
3．土坑42（49）樽形ハソウ出土状況1（東から）
4．土坑42（49）樽形ハソウ出土状況2（東から）
5．土坑42（49）樽形ハソウ出土状況3（東から）

写真図版 29　丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）

1．竪穴建物17（51）床面A（東から）
2．竪穴建物17（51）床面A（北から）
3．竪穴建物17（51）床面C（東から）
4．竪穴建物17（51）溝2（122）土層断面（東から）
5．竪穴建物17（51）床面A炉（東から）

写真図版 30　丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）

1．竪穴建物18（63）土層断面（東から）
2．竪穴建物18（63）（東から）
3．竪穴建物19（173）・20(172)(北から手前が竪穴建物19)
4．竪穴建物19（173）土層断面（東から）
5．土器棺墓6（169）（南から）
6．土坑47（84）（東から）
7．土坑49（85）遺物出土状況（北から）
8．溝34（54）（北から）

写真図版 31　丁ノ町・妙寺遺跡（第2次調査）

1．調査地遠景（東から）
2．調査地遠景（北から）
3．調査区空中写真（南から）

写真図版 32　丁ノ町・妙寺遺跡（第2次調査）

1．調査区全景
2．丁ノ町・妙寺遺跡（07－1・2区）全景
3．丁ノ町・妙寺遺跡（07－2・3・4区）全景

写真図版 33　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）

1．丁ノ町・妙寺遺跡（07－1－1区）全景（東から）
2．丁ノ町・妙寺遺跡（07－1－4・5区）全景（西から）

写真図版 34　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）

1．掘立柱建物群北半全景（北西から）
2．掘立柱建物群南半全景（北西から）

写真図版 35　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）

1．掘立柱建物1（北から）
2．掘立柱建物2（北から）
3．掘立柱建物2（南西から）

写真図版 36　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）

1．掘立柱建物2布掘溝（1256）（北から）
2．掘立柱建物2布掘溝（1256）遺物出土状況（南から）
3．掘立柱建物2布掘溝（1256）土層断面（南から）
4．掘立柱建物2整地層断ち割り（南から）
5．礎石建物1礎石出土状況（南から）

写真図版 37　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）

1．掘立柱建物4（南から）
2．掘立柱建物5（南から）
3．掘立柱建物6（南から）

写真図版 38　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）

1．掘立柱建物7（南から）
2．掘立柱建物4、P8木柱検出状況（西から）
3．掘立柱建物10（北から）
4．掘立柱建物7、P12根石検出状況（北から）
5．土坑5（1247）曲物出土状況（南から）

写真図版 39　丁ノ町・妙寺遺跡（07－2区）

1．丁ノ町・妙寺遺跡（07－2－1区）全景（西から）
2．丁ノ町・妙寺遺跡（07－2－3・4区）全景（西から）

写真図版 40　丁ノ町・妙寺遺跡（07－2区）

1．掘立柱建物11（2327）（北西から）
2．焼成土坑1（2371）（西から）
3．集石遺構1（2051）（南から）

写真図版 41　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）

1．丁ノ町・妙寺遺跡(07－3－1区)上層遺構面全景(東から)
2．丁ノ町・妙寺遺跡(07－3－2区)全景(西から)

写真図版 42　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）

1．自然流路7（3010）（西から）
2．自然流路7（3010）木杭検出状況（西から）
3．溝5（3008）木樋検出状況（北から）

写真図版 43　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）

1．焼成土坑2(3005)・3(3006)(南から、手前が焼成土坑3)
2．焼成土坑2（3005）・3（3006）土層断面（東から）
3．焼成土坑3（3006）完掘状況（南から）
4．焼成土坑3（3006）赤変状況（南から）
5．焼成土坑5（3282）（南から）

写真図版 44　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）

1．竪穴建物1（3287）（北から）
2．竪穴建物2（3292）・3(3296)(北西から、手前が竪穴建物2)
3．竪穴建物4（3300）（北西から）

写真図版 45　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）

1．竪穴建物1（3287）遺物出土状況（東から）
2．竪穴建物2（3292）竈遺物出土状況（南東から）
3．竪穴建物3（3296）竈遺物出土状況（南東から）
4．竪穴建物4（3300）遺物出土状況（南西から）

5．竪穴建物４（3300）竈遺物出土状況（南から）
6．竪穴建物４（3300）、Ｐ３遺物出土状況（北から）
7．竪穴建物２（3292）竈完掘状況（南から）
8．竪穴建物４（3300）竈完掘状況（南から）

写真図版 46　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．溝６（3030）（南から）
2．土坑 10（3122）（西から）
3．丁ノ町・妙寺遺跡(07－３－１区)弥生時代遺構全景(北東から)
4．竪穴建物６（3021）・土坑 12（3023）（南から）
5．竪穴建物８（3040）（北から）

写真図版 47　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．竪穴建物５（3018）（北から）
2．竪穴建物７（3020）（北西から）
3．竪穴建物９（3026）（東から）

写真図版 48　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．溝状遺構１（3121・3126）（西から）
2．溝状遺構１（3126）遺物出土状況（南から）
3．土坑 11（3047）（北から）
4．土坑 12（3023）遺物出土状況（南から）
5．土坑 13（3232）（南から）
6．土坑 13（3232）土層断面（南から）
7．土坑 15（3069）（北から）
8．土坑 19（3164）（南から）

写真図版 49　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．自然流路９（3150）南半遺物出土状況１（南から）
2．自然流路９（3150）南半遺物出土状況２（北から）
3．自然流路９（3150）北半遺物出土状況（北から）

写真図版 50　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．自然流路９（3150）全景（南から）
2．自然流路９（3150）土層断面（南西から）
3．自然流路９(3150)46 ～ 48 遺物出土状況 46 ～ 48(北から)
4．自然流路９（3150）１～５遺物出土状況（東から）
5．自然流路９（3150）木製品Ｗ８出土状況（南から）

写真図版 51　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．丁ノ町・妙寺遺跡(07－３－１区)下層遺構面全景（北から）
2．丁ノ町・妙寺遺跡（07－３－１区）下層遺構面南半（西から）

写真図版 52　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．竪穴建物 11（3142）（北から）
2．竪穴建物 11（3142）土層遺物出土状況（北から）
3．竪穴建物 12（3224）（北東から）

写真図版 53　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．竪穴建物 13（3147）（南東から）
2．竪穴建物 13（3147）土層断面（南東から）
3．竪穴建物 13（3147）土層断面（北西から）
4．竪穴建物 13（3147）集石１（南から）
5．竪穴建物 13（3147）集石２（東から）

写真図版 54　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．竪穴状遺構１（3222）（北から）
2．竪穴状遺構２（3188）北半（西から）
3．竪穴状遺構２（3188）石錘集中出土状況（南から）

写真図版 55　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．埋設土器１（3149）蓋石検出状況（南から）
2．埋設土器１（3149）土器出土状況（西から）
3．埋設土器１（3149）底石検出状況（西から）

写真図版 56　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．埋設土器２（3153）（北から）
2．埋設土器２（3153）石核出土状況（南東から）
3．埋設土器４（3225）（北から）

写真図版 57　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．配石遺構１（3143）・２（3144）
2．配石遺構２（3144）（西から）
3．配石遺構２（3144）立石検出状況（西から）

写真図版 58　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．埋設土器１、配石遺構１・２、集石遺構６・７全景（北から）
2．集石遺構６（3189）（南から）
3．集積遺構７（3127）（西から）
4．集石遺構８（3218）（東から）
5．集石遺構９（3219）（西から）

写真図版 59　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）

1．土坑群全景（北から）
2．土坑 23（3254）上層遺物出土状況（東から）
3．土坑 27（3246）（西から）
4．土坑 26（3167）磨製石斧出土状況（東から）
5．溝 10（3270）（北西から）

写真図版 60　丁ノ町・妙寺遺跡（07－４区）

1．丁ノ町・妙寺遺跡（07－４－２区）全景（南東から）
2．丁ノ町・妙寺遺跡（07－４－１区）全景（東から）
3．焼成土坑６（4005）（北東から）
4．溝 11（4008）（南東から）
5．溝 11（4008）遺物出土状況（南東から）

写真図版 61　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

包含層（西飯降Ⅱ遺跡 06－１区）出土土器

写真図版 62　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

落ち込み１、溝１～３、自然流路１・２出土土器

写真図版 63　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

竪穴建物１、竪穴状遺構１、土坑４・５、焼成土坑１出土土器

写真図版 64　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

溝６・７、自然流路３出土土器

写真図版 65　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

竪穴建物３、ピット１、自然流路３～５出土土器

写真図版 66　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

竪穴建物４・５、自然流路６出土土器

写真図版 67　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

竪穴建物 11、竪穴状遺構２、土坑７～ 10、溝 11・12 出土土器

写真図版 68　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

方形周溝墓１出土土器

写真図版 69　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

方形周溝墓１・２出土土器

写真図版 70　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

方形周溝墓２・３出土土器

写真図版 71　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

方形周溝墓３、土器棺墓１～４出土土器

写真図版 72　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）

土坑 12 ～ 15・19・21・22・32 出土土器

写真図版 73　西飯降Ⅱ遺跡（06－1区）
土坑 25・27、溝 13 出土土器
写真図版 74　西飯降Ⅱ遺跡（06－1区）
自然流路 8 出土土器 1
写真図版 75　西飯降Ⅱ遺跡（06－1区）
自然流路 8 出土土器 2
写真図版 76　西飯降Ⅱ遺跡（06－1区）
自然流路 8 出土土器 3
写真図版 77　西飯降Ⅱ遺跡（06－1区）
自然流路 8 出土土器 4
写真図版 78　西飯降Ⅱ遺跡（06－2区）
包含層（西飯降Ⅱ遺跡 06－2区）、溝 18、条里水田（古代）周辺、自然流路 6 出土土器
写真図版 79　西飯降Ⅱ遺跡（06－2区）、丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）
土坑 39、自然流路 6・7、包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 06－1区）出土土器
写真図版 80　丁ノ町・妙寺遺跡　（06－1区）
竪穴建物 17・18・20、土坑 40 ～ 42・45・48・49、落ち込み 2、溝 28 出土土器
写真図版 81　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第 1 次調査）
土器棺墓 6、溝 29・溝 32 出土土器、西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）出土石器・石製品
写真図版 82　　西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）
西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）出土石器・石製品
写真図版 83　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第 1 次調査）
西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）、丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）出土石器・石製品
写真図版 84　西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）
西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）出土木製品
写真図版 85　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）
包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 07－1区）、掘立柱建物 2 出土土器
写真図版 86　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）
掘立柱建物 2、柱穴 3、土坑 1 出土土器
写真図版 87　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）
掘立柱建物 2 出土土器
写真図版 88　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）
掘立柱建物 2・3・4、ピット 1、土坑 2、溝 1、包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 07－1区）出土土器
写真図版 89　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）
掘立柱建物 4・6 ～ 9 出土土器
写真図版 90　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）
ピット 4、溝 4、掘立柱建物（古代）周辺出土土器・土製品
写真図版 91　丁ノ町・妙寺遺跡（07－2・3区）
掘立柱建物 11、土坑 8、包含層（丁ノ町妙寺遺跡 07－2・3区）出土土器
写真図版 92　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
竪穴建物 1 ～ 3、自然流路 7 出土土器
写真図版 93　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
竪穴建物 4、ピット 10、土坑 9、溝 6 出土土器
写真図版 94　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
竪穴建物 9、土坑 10 ～ 12・15・16・19、溝状遺構 1、自然流路 8 出土土器
写真図版 95　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
土坑 13、自然流路 9 出土土器 1
写真図版 96　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
自然流路 9 出土土器 2
写真図版 97　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
自然流路 9 出土土器 3
写真図版 98　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
自然流路 9 出土土器 4
写真図版 99　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
自然流路 9 出土土器 5
写真図版 100　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
自然流路 9 出土土器 6
写真図版 101　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
自然流路 9 出土土器 7
写真図版 102　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
竪穴建物 11 ～ 13 出土土器
写真図版 103　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
竪穴状遺構 2、埋設土器 2・3、土坑 23 出土土器
写真図版 104　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
埋設土器 1、土坑 24・25・27 出土土器
写真図版 105　丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）
配石遺構 2、集石遺構 5 ～ 8、落ち込み 3、溝 10 出土土器
写真図版 106　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土土製品、石器・石製品 1
写真図版 107　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 2
写真図版 108　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 3
写真図版 109　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 4
写真図版 110　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 5
写真図版 111　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 6
写真図版 112　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 7
写真図版 113　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 8
写真図版 114　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 9
写真図版 115　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土木製品・鉄製品

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

一般国道 24 号京奈和自動車道は、京都市・奈良市・和歌山市を結ぶ総延長 120 ㎞に及ぶ高規格幹線道路である。京奈和自動車道は、国土幹線自動車道等と連携し、都市圏外周部の環状交通体系を形成することで、京都・奈良・和歌山の拠点都市間交通の時間短縮、関西国際空港や重要港湾などへのアクセス向上を目指している。それにより物流の効率化や、大規模災害など緊急時における交通路の確保、国道 24 号線の渋滞緩和、沿線環境の改善など近畿圏の一体的な地域発展に寄与することが期待される。紀北東道路は京奈和自動車道のうち、和歌山県橋本市高野口町大野から紀の川市神領までの延長 16.9 ㎞の区間である。この区間の道路建設予定地内である和泉山脈南麓や紀の川北岸には、多数の周知の埋蔵文化財包蔵地が点在している。今回の調査地である西飯降地内・丁ノ町地内・妙寺地内は、周知の埋蔵文化財包蔵地である西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡が所在する（図１）。

京奈和自動車道の建設に伴い大規模な調査の必要が生じることが想定されたため、和歌山県教育庁文化遺産課は当該地で平成 15 年度から平成 16 年度に分布調査を行い、既往の埋蔵文化財包蔵地の見直しを実施した。その結果、遺物の散布を認めた範囲をかつらぎ町との協議のうえ、新たに埋蔵文化財包蔵地として取り扱うこととした。平成 17 年度には確認調査を実施し、国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所との協議のうえ、平成 18 年度には西飯降地内、丁ノ町地内で本発掘調査を実施することとなった。そこで、和歌山県教育庁文化遺産課の指導のもと、財団法人和歌山県文化財センターが「一般国道 24 号京奈和自動車道（紀北東道路）改築事業に伴う第１次発掘調査」としてこれを受託し、西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡の発掘調査を実施することとなった。さらに、平成 18 年度には平成 17 年度確認調査地点より東側の西飯降地内・中飯降地内、西側の丁ノ町地内･妙寺地内でも確認調査が行われ、本調査の必要性があると判断された。そのため「一般国道 24 号京奈和自動車道（紀北東道路）改築事業に伴う第２次発掘調査」として引き続き、財団法人和歌山県文化財センターが受託し、西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡の発掘調査を実施した（図２）。

なお、第１次調査の西飯降Ⅱ遺跡と第２次調査の西飯降Ⅱ遺跡の調査区間においては、谷状地形により分断されており、遺跡の内容が異なると判断される。そのため本書では第１次調査の西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡と第２次調査の丁ノ町・妙寺遺跡を報告する。第２次調査の西飯降Ⅱ遺跡の調査については引き続き行われた、第３次～第７次調査の内容とともに報告予定である。

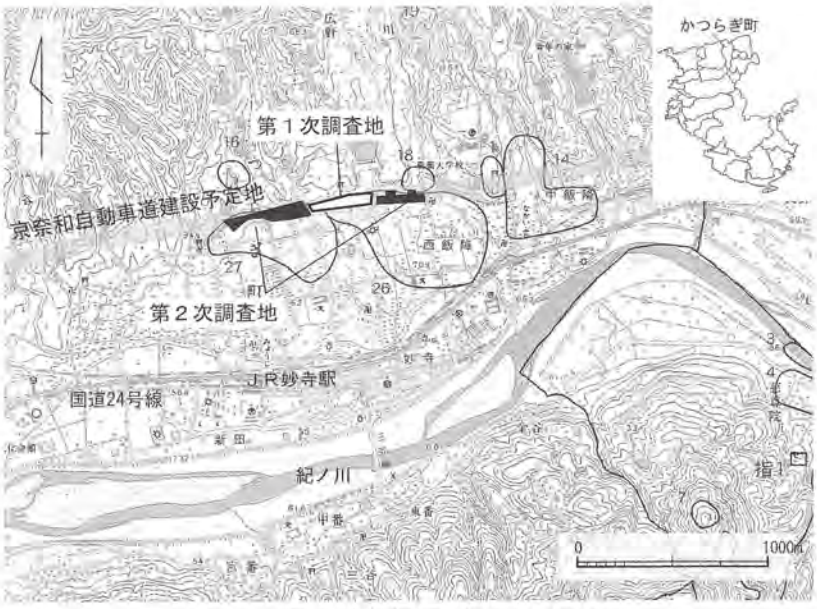


図１　調査地位置図（S=1/40000）

第２節　発掘調査・出土遺物整理の経過

発掘調査・出土遺物整理の経過については以下の通りである。

第１次調査　第１次調査は、平成18年５月20日から平成19年３月27日にかけて実施した。調査面積は18,776㎡である。調査は工事請負方式で実施し、掘削作業等は株式会社南海辰村建設に委託し、基準点測量・航空写真撮影・航空写真測量を株式会社南紀航測センターに委託した。

調査は東西に長い調査地を中央で南北に分け、反転して行った。前半は北側を中心に、後半は南側を中心に調査を行った。中世の耕作土層と考えられる遺構面は平板測量と写真撮影を行い、下層の古墳時代後期と弥生時代中期の遺構面で航空写真撮影・航空写真測量を実施した。当初、遺構面１面を予定していたが、調査の進展に伴い弥生時代中期の下層遺構面が存在することが判明したため、協議のうえ、設計変更を行い遺構面２面の調査となった。

調査区の中央部では水田遺構が遺存していることから、プラントオパール分析を株式会社古環境研究所に委託し実施した。この他発掘調査と併行し、応急整理として遺物の洗浄・登録を行っている。

第２次調査　第２次調査は丁ノ町・妙寺遺跡の調査については、平成19年５月16日から平成20年２月29日にかけて実施し、調査面積は17,223㎡である。また、今回報告の対象外とした西飯降Ⅱ遺跡の調査については、平成19年10月３日から平成20年３月21日にかけて実施し、調査面積は6,613㎡である。調査は工事請負方式で実施し、掘削作業等は株式会社久本組に委託し、基準点測量・航空写真撮影・航空写真測量を株式会社南紀航測センターに委託した。

調査は東西に長い調査区を４つの大地区に分割し、さらに排土置場確保と仮設道路建設のため、大地区を小地区に分割して行った。07－３区では当初、遺構面１面を予定していたが、調査の進展に伴い縄文時代後期の下層遺構面が存在することが判明したため、遺構面２面の調査となった。

07－３区では平安時代～鎌倉時代、弥生時代の自然流路でプラントオパール分析、花粉分析、珪藻分析を株式会社古環境研究所に委託し実施した。また、焼成土坑から出土した炭化物の樹種同定、放射性炭素年代測定を株式会社古環境研究所に、被熱遺構の年代測定に有効な手段である熱残留磁気測定を株式会社夏原技研に委託し実施した。この他発掘調査と併行し応急整理として



図２　調査区配置図（S=1/5000）

遺物の洗浄・登録を行っている。

出土遺物整理　出土遺物整理は平成20年4月12日から平成22年3月26日にかけて実施した。コンテナ（遺物収納箱）363箱について出土遺物の水洗・注記・登録・接合・補強・復元・実測・拓本・トレース・写真撮影を実施し、報告書用の原稿執筆、本報告書の作成、刊行を行った。実測点数は土器類1472点、石器・石製品292点、鉄製品6点、木製品24点である。

重要な遺物については産地の分類のため委託分析を行った。出土土器については胎土分析をパリノサーヴェイ株式会社に、サヌカイト製遺物の原材産地分析を有限会社遺物材料研究所にそれぞれ委託した。また、木製品、鉄製品の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託した。



写真1　発掘調査風景（第2次調査）

調査委員会の開催　調査の進展に伴い有識者・各分野の専門家から指導を受けるため、調査委員会を開催した。発掘調査は平成19年12月10日に、出土遺物整理は平成20年10月14日、平成21年9月11日に開催した。調査委員会では井藤　徹・工楽善通・坪ノ内　徹・森　郁夫・和田晴吾の各氏に指導いただいた。



写真2　注記作業風景（出土遺物整理）

普及活動・現地説明会　調査成果については、地域住民への回覧誌『京奈和通信』の発行、当センターのホームページ上での情報提供、情報紙『風車』での調査成果の特集、記者発表など、各媒体を通じて行った。

現地説明会・現地公開は、第1次調査では平成19年2月24日、3月10日に、第2次調査では平成19年10月27日に開催し、多くの参加者を得た。平成18年11月4日には体験発掘を実施した。各団体から現地見学の申し出があり、かつらぎ町文化財審議委員による現地視察などが行われた。



写真3　現地説明会風景

また、平成19年3月24日にはかつらぎ町教育委員会との共催で調査報告会を、平成20年2月19日にはかつらぎ町教育委員会主催『第13回かつらぎ町歴史・文化講座』が行われ調査成果についての講演を行った。

出土遺物の展示は、かつらぎ町文化会館において平成20年2月19日から3月14日まで、当センター海南調査事務所にて発掘調査速報展「紀州の歩み」を平成20年5月12日から6月30日まで、和歌山県立紀伊風土記の丘との共催で平成20年度冬期企画展「紀ノ川流域の考古学・民俗学　第1部　鹿の描かれた時代～紀ノ川流域の弥生時代～」を平成21年1月24日から3月15日まで行った。



写真4　講演会開催風景

第2章　位置と環境

第1節　位置と地理的環境

西飯降Ⅱ遺跡は、伊都郡かつらぎ町西飯降地内に所在し、東西 700 m、南北 500 mの範囲である。丁ノ町・妙寺遺跡は、伊都郡かつらぎ町丁ノ町・妙寺地内に所在し、東西約 750 m、南北 350 mの範囲で、西飯降Ⅱ遺跡の西側に接する。現況は果樹園となっていたが、1947 年に撮影された航空写真（写真５）から、それ以前は水田として利用されていたことがわかる。

周辺の地形を概観すると、中央構造線の内帯である和泉山脈が屏風のように東西にそびえ、山地から南には鮮新－更新統の菖蒲谷層からなる丘陵が発達する。その丘陵の南縁および、丘陵を開析する主要谷に沿って中位、低位の河岸段丘が広がり、丘陵から延びる中位段丘と低位段丘を小さな谷が樹枝状に開析している。周辺には畑谷池、桧ノ森池をはじめとした、開析谷を流れる小河川を堰き止めることにより形成された溜池が数多く分布している。開析谷が低位段丘へ開ける箇所にはそれぞれ段丘扇状地が発達している（図３）。

遺跡を中心とする地形は紀ノ川右岸に広がる和泉山脈の山麓部に相当し、かつらぎ町域では、低位段丘Ⅱ面がもっとも奥まった場所に位置する。西飯降・丁ノ町・妙寺地内は、西は小黒谷川、東は弁天谷川が流れ紀ノ川へ合流しており、この開析谷を流れる河川の間に遺跡は立地する。調査地は、中位段丘Ⅰ面に区分される恋野面が低位段丘Ⅱ面に区分される二見面に接する位置に当たり、北から南へ約 40 ～ 30° の傾斜が見られる。標高は約 70 ～ 80 mを測る。調査地の西端、東端、第１次調査地と第２次調査地の間には、開析谷と谷に沿うように延びる微高地が存在し、その周囲には段丘扇状地がひろがる。

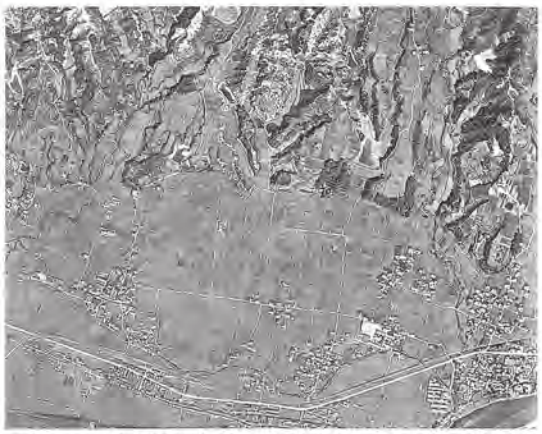


写真５　調査地周辺航空写真（1947 年米軍撮影）

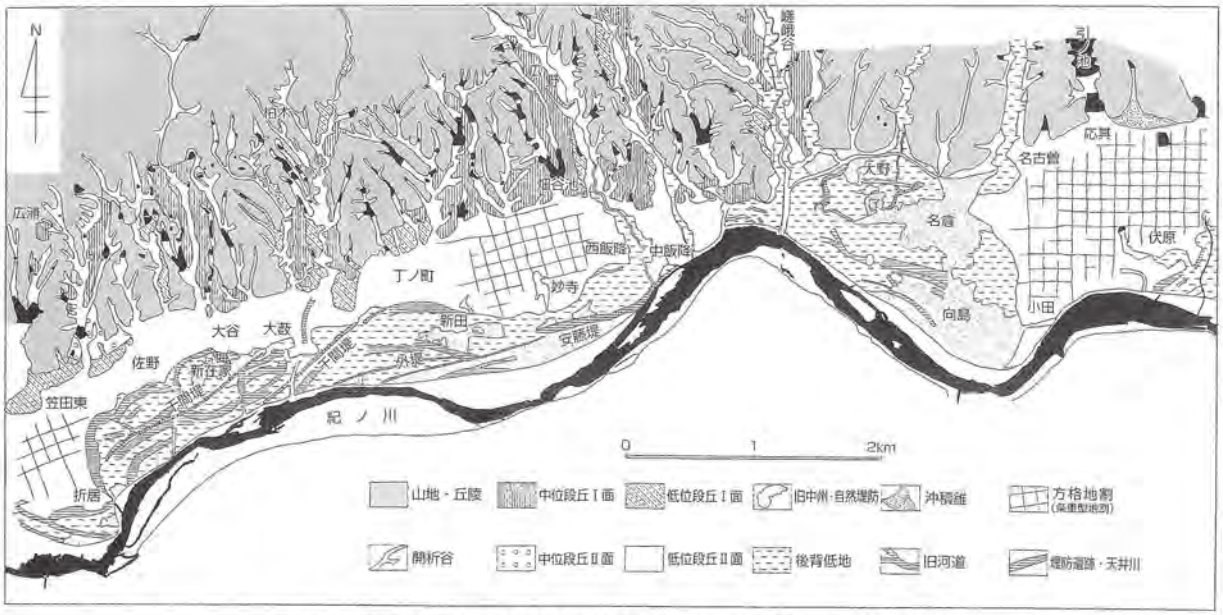


図３　官省符荘付近の地形分布図（額田 2003 より転載）

第2節　歴史的環境

遺跡の立地する低位段丘Ⅱ面の上には、かつらぎ町域、橋本市域において多くの遺跡が存在する。調査地では、現在も西飯降Ⅱ遺跡（26）、丁ノ町・妙寺遺跡（27）周辺には丹生神社（西飯降）、八太神社（妙寺）、八王子神社（丁ノ町）など多くの神社が存在しており、当時の生活の場として安定した土地利用状況がうかがえる。また、丘陵上には、中世の山城跡や弥生時代～古代にかけての墳墓跡が見られる。以下では調査地周辺の歴史的環境について時代ごとに述べる（図４）。

縄文時代　西飯降Ⅱ遺跡では、以前から西飯降の集落北側で縄文時代の石鏃や縄文土器が多数採取されている。石鏃はいずれもサヌカイト製の打製石鏃で、石鏃の基部は凹基・平基の小型品と有茎の大型品がみられる。また石鏃の散布地から約300ｍ北の西飯降遺跡（18）では、円筒の柄頭をもち、頭部からやや離れた位置に鍔状の隆帯がめぐる石棒が表採されている。この石棒は綾杉状の沈線を頭部や隆帯に施すもので、関東・東北地方に主に分布する成興野型石棒と呼ばれるものである。時期は縄文時代後期後半から縄文時代晩期の所産である。西日本での成興野型石棒の出土は、現在４例とごく少数であり貴重な出土例となる。

かつらぎ町西端に位置する船岡山遺跡（6）では、発掘調査により土坑、焼土坑、配石遺構などの縄文時代の遺構が検出されている。配石遺構は直径４ｍ程に復元できるもので、外周部には大型の石材を、中心部には小型の石材を配している。遺跡出土の主な遺物にはヒスイ製の大珠がある。

紀ノ川左岸の西渋田遺跡（29）では道路改良工事中に100点以上の縄文土器片が出土している。土器の文様は巻貝により平行沈線文や扇状圧痕文がみられ、縄文時代後期後半の宮滝式に相当する。

その他、かつらぎ町内では、大谷遺跡（15）や移遺跡（５）においてもサヌカイト製の石鏃が採集されており縄文時代の遺跡は各所に存在するものと思われる。

弥生時代　かつらぎ町域では弥生時代前期に相当する遺跡は確認されていない。しかし、弥生時代後期以降になると町域でも竪穴建物などが検出され、当時の生活が明らかになる。

佐野遺跡（10）は佐野廃寺（4）の下層に展開する集落で、弥生時代中期と、弥生時代後期～古墳時代前期に盛行を迎える。計21棟の竪穴建物が検出されているが、その内14棟が弥生時代中期のものである。竪穴建物には周堤を持つ炉が築かれており、紀ノ川流域で顕著に見られる炉の構造である。

現在、紀ノ川の中島に立地する船岡山遺跡は、弥生時代中期～後期にかけての竪穴建物13棟、掘立柱建物１棟が検出されている。船岡山遺跡の円形竪穴建物は主柱穴を８本均等に並べ、炉を中心にして同心円状に拡張した住居が特徴的であり、佐野遺跡と同様に炉には周堤を持つ。船岡山遺跡の竪穴建物はそれぞれ５つのグループを持ち分布している。それぞれのグループは円形竪穴建物２棟ないし、これに方形竪穴建物１棟が伴い、３棟１単位で一定の間隔を保っている。住居の形態・時期から同時に並存していたのは各グループ１棟であり、少なくとも３世代にわたり存続していたことが推測される。また、船岡山遺跡はその立地の特殊性から、高地性集落に類する機能を有すると考えられる。また、萩原Ⅰ遺跡（11）からは弥生時代中期の土器棺が出土した。

古墳時代　古墳時代の遺跡は、船岡山遺跡において竪穴建物が１棟検出されている。住居中央に炉をもつ方形竪穴建物で、住居床面には炭化材や焼土が広がり焼失住居と考えられている。

また、今回の調査地の北東の中位段丘上に存在する丁ノ町遺跡（16）や、妙寺遺跡（19）では庄内式期から布留式期の所産と考えられる土器棺墓が存在する。

古墳は、５世紀代の築造とされる西渋田１号墳（12）が紀ノ川左岸に立地する。封土は周囲の開墾により削平されていたが、発掘調査では周溝の一部を検出している。西渋田１号墳は結晶片

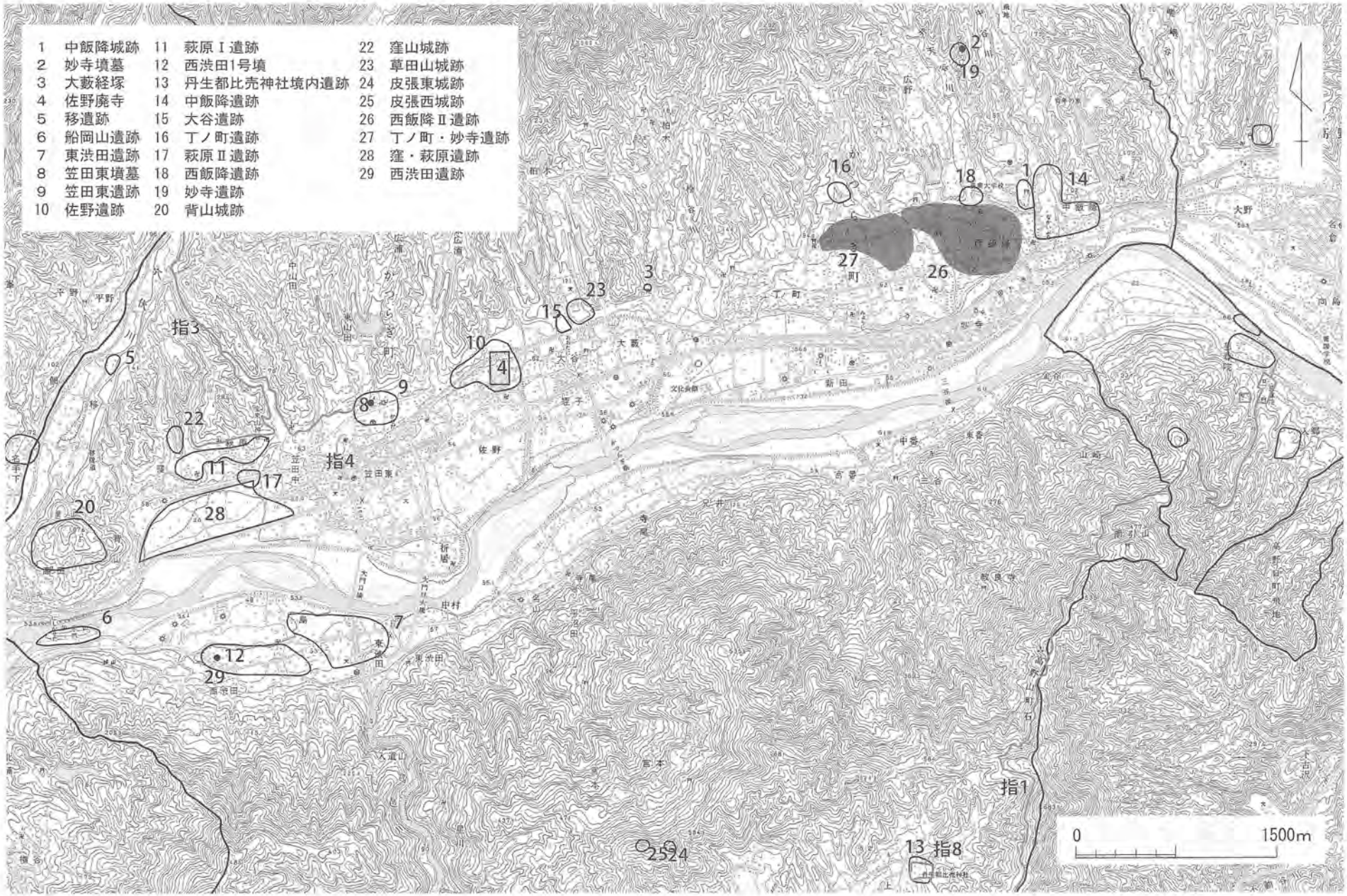


図4　かつらぎ町域の遺跡分布図（S=1/40000）

岩の板石を組み合わせた、長さ1.78ｍ、幅0.3ｍの箱式石棺を埋葬施設とし、棺内には頭蓋骨の一部と大腿骨の一部が残存し、長さ60㎝ほどの直刀1振が出土している。このように現在内容の判明しているかつらぎ町域の古墳時代の遺跡・古墳はごく少数にとどまる。

一方、対岸の九度山町域に範囲を広げると、古墳時代中期後半の竪穴建物4棟が検出された慈尊院Ⅱ遺跡、古墳時代後期の横穴式石室をもつ真田古墳が見られる。

古代　古代には「大化改新の詔」によって畿内の四至が定められ、畿内の南は現在の背山をもって分けられ、かつらぎ町域はいわば畿内の南の門戸として重要な位置を占めるようになる。それに伴い紀伊国には官道の南海道が整備される。南海道については少なくとも3度の変更が認められ、延暦3（784）年以前には飛鳥浄御原宮から紀ノ川に沿うルートが、延暦三（784）年以前には河内国府から紀見峠を越え紀ノ川にいたるルートが考えられ、かつらぎ町域には南海道が貫通していた。『日本後期』弘仁2（811）年条には南海道駅家である「萩原・名草・賀太（加太）」の3つが廃止された記事があり、かつらぎ町萩原には駅家が存在していたと推定される。萩原Ⅰ遺跡（11）は萩原駅家推定地として発掘調査が行われたが、明確な遺構は検出していない。

大宝元（701）年の大宝令制定によってかつらぎ町域は伊都郡に編成される。平城宮内裏跡から出土した荷札木簡には「紀伊国伊都郡指理郷白米五斗」と表記される。平安時代の『和名類聚抄』にも伊都郡には「神戸・賀美・村主・指理・桑原」の5つの郷名が見られ、指理郷は（いぶり）という音訓に漢字を当てたものであり、今回の調査地である西飯降地区周辺がその推定地にあげられる。

紀ノ川沿いには古代寺院が集中し、計11の寺院が築かれる。かつらぎ町域には『日本霊異記』に「紀伊国伊刀郡桑原之狭屋寺」として登場する佐野廃寺（4）が存在する。佐野廃寺では塔跡や、金堂などの主要な建物跡の他に、東西7間の講堂が検出されており、法起寺式の伽藍配置を持つ。金堂からは川原寺式の軒丸瓦、塔跡からは元薬師寺式、巨勢寺式の軒丸瓦が出土している。なお、今回の調査地北方の中位段丘上では、須恵器有蓋壺の骨蔵器が発見された妙寺墳墓（2）がある。

中世　高野山開設後、高野山領官省符荘が設置される。荘園領は高野政所が存在したとされる慈尊院を基点に、東は橋本市神野々、西はかつらぎ町佐野、南は九度山町入郷・九度山にいたる広大な領地を形成している。官省符荘とは国司許認可による国免荘に対して、中央政府の符によって許認可された特権的な荘園を示す名称であるが、現在は地名として定着している。その立荘は、永承4（1049）年に散在する寺田を代償とし高野政所に隣接する前田・荒野を領域としたことに端を発し、その後次第に領地が拡大し、河南方、上方、下方といった3つのブロックに区分される。調査地である西飯降・丁ノ町・妙寺地内も官省符荘下方に区分され、12世紀に「西伊揖」が、13世紀には「丁町」、13世紀後半には「妙寺湯屋西」の名が文献上で現れるようになる。また、西飯降北方には応其上人によって改修されたとされる畑谷池が存在し、池のほとりには応其上人に関する碑文が刻まれた五輪塔が存在する。

中世段階のかつらぎ町域の遺跡としては、慶勝寺墓地内に存在する大藪経塚（3）をはじめ、丹生都比売神社境内遺跡（13）など多数の経塚が存在する。また、城館跡は町域に22箇所を数え、その多くは在地武士や官省符荘官の居城である中世屋敷城跡と、天正9（1581）年の織田信長の高野山攻めにかかわる山城である。前者には中飯降城跡、柏木城跡、草田山城跡（23）、三谷城跡があり、後者には成高山城跡、背山城跡、星川城屋敷跡などがある。

以上のように西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡の歴史的環境を概観した。発掘調査事例の少なさともあいまって現状では内容のわかる遺跡はごく少数であるが、上記に挙げた重要な遺跡が存在することからも、古来より紀ノ川中流域の歴史的展開の要地であったと考えられる。

第３章　調査の方法

調査は、原則的に当センターの定めた『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006. ４）を基準として進めた。

発掘調査で使用した調査コードは、第１次調査：06 － 13・26（2006 年度－かつらぎ町・西飯降Ⅱ遺跡）、06 － 13・27（2006 年度－かつらぎ町・丁ノ町・妙寺遺跡）、第２次調査：07 － 13・27（2007 年度－かつらぎ町・丁ノ町・妙寺遺跡）である。出土遺物・記録資料はこの調査コードを用い管理している。

地区割の方法　実測図作成や遺物取り上げの際に用いた地区割の基準線は、平面直角座標系（世界測地系）第Ⅵ系の座標軸を使用し、数値はｍ単位で表示している。取り上げ区画については、かつらぎ町を網羅する範囲に基点（X ＝ -186.00 ㎞、Y ＝ -42.00㎞）を設け、この基点から西方向と南方向にそれぞれ１㎞四方の区画を１単位とし大区画を設定し、北東端を基点に西方向へロ

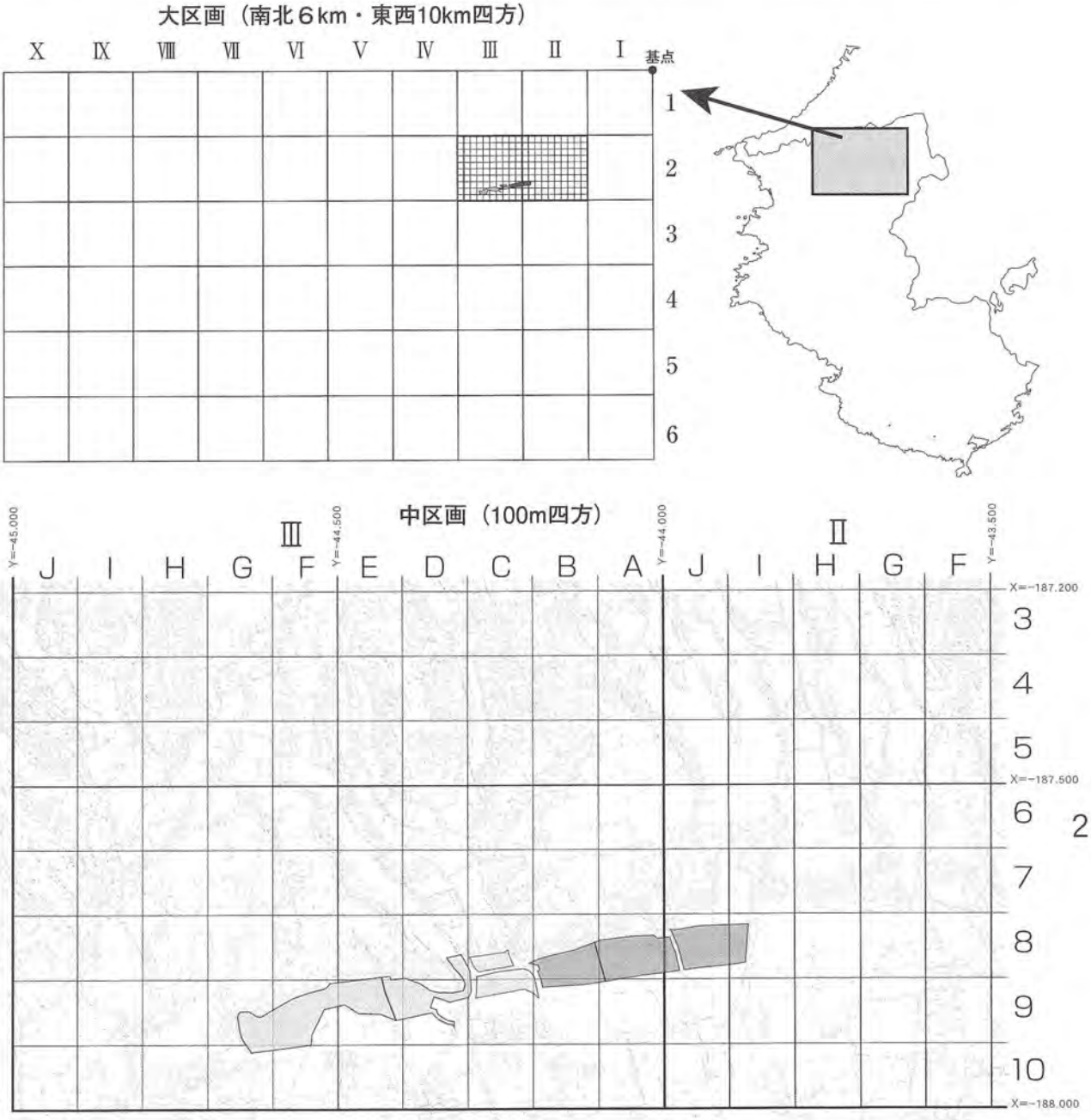
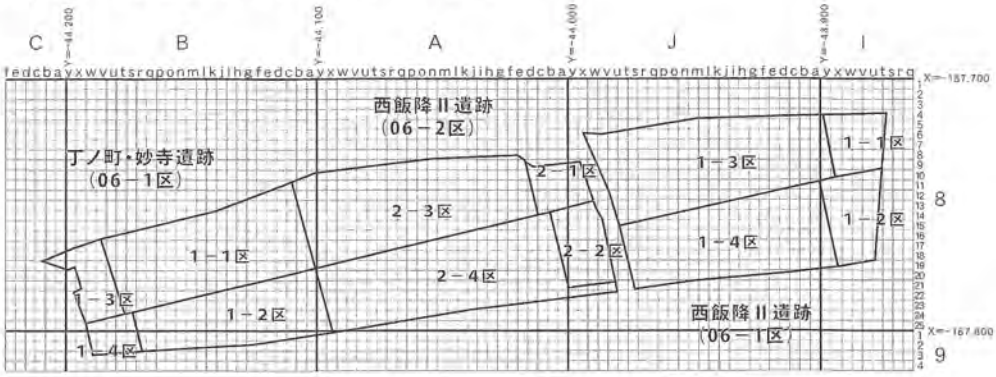


図５　地区割の方法

第１次調査　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡



第２次調査 丁ノ町・妙寺遺跡

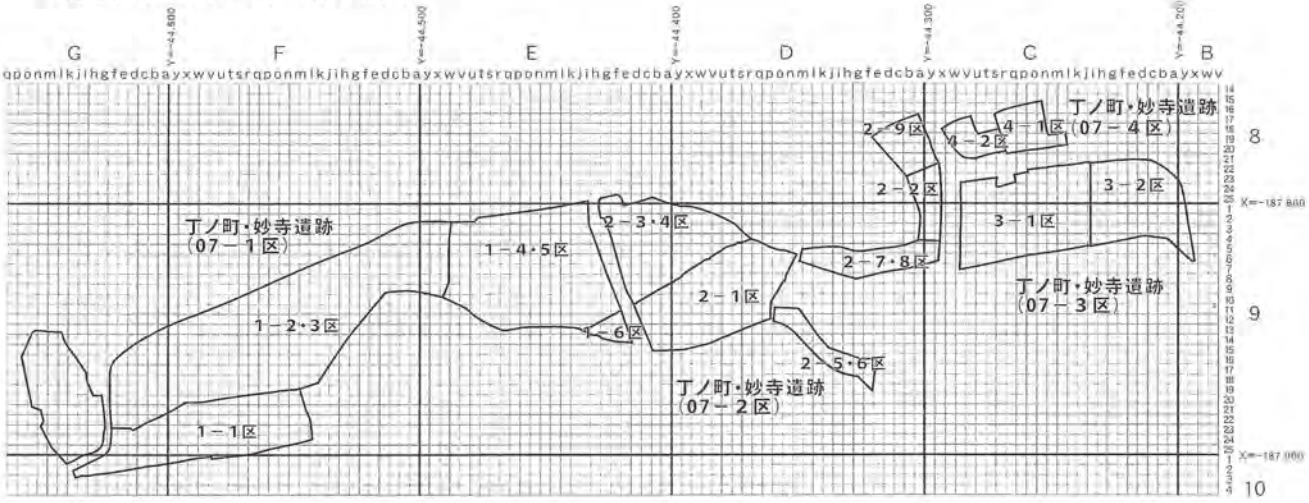


図６　調査区の設定と地区割図（S=1/3000）

ーマ数字Ⅰ～Ⅹと、南方向へアラビア数字で１～６と表記した（図５）。

次に、大区画内をそれぞれ100ｍ四方の区画を１単位とした中区画を設定し、北東端を基点とし西方向へ大文字アルファベットでＡ～Ｊと、南方向へアラビア数字で１～10と表記した。さらに４ｍ四方の区画を１単位とした小区画を設定し、北東端を基点とし西方向へアルファベット小文字でａ～ｙと、南方向へアラビア数字で１～25と表記した。遺構図作成や遺物取り上げの際には、原則として、４ｍ四方の小区画で行い、大区画－中区画－小区画を組み合わせて表記し用いた（図５・図６）。

方位は、座標北を使用し、標高は東京湾平均海面（T.P.）からのプラス値を使用した。

調査区の設定　調査成果については、第１次調査、第２次調査の調査次数ごとに報告する。地区名の表記については調査年度と大地区名で表記し、さらに必要に応じて小地区を分割する。

第１次調査では、調査地を南北に分割し、まず北側半分、その後反転し南側の調査を実施した。調査地は西飯降Ⅱ遺跡（06－１区､06－２区）､丁ノ町･妙寺遺跡（06－１区）の大地区に分割した。さらに、それぞれの調査区では排土置場と全景写真撮影用の足場を設置するため、大地区をさらに４つの小地区に分割し調査を行った。なお、遺跡境界に近い南北セクションを境に西側を丁ノ町・妙寺遺跡、東側を西飯降Ⅱ遺跡として扱った。

第２次調査では、調査地を大きく丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区、07－２区、07－３区、07－４区）の大地区に分割した。さらに排土置場確保と仮設道路建設のため、07－１区を１－１区～１－６区の小地区に、07－２区を２－１区～２－10区に、07－３区を３－１区・３－２区に、07－４区を４－１区・４－２区の小地区に分割して調査を行った。

遺構名・遺構番号　遺構番号は、各調査において個別に付しており、遺構番号の重複や、同一遺構において異なる遺構番号を付しているため、報告では新たに遺構名を付与した。遺構名は遺構の種類ごとにアラビア数字の番号を付して「竪穴建物１」等とした。また、遺構番号は調査次数ごとに付した。なお、旧遺構名は新遺構名の後に「(1001)」と表記し、新旧遺構名の対照を遺構一覧表に記載した。

掘削　掘削は、果樹園造成時に搬入された造成土と表土（第１層）、近・現代の水田耕作土および、床土（第２層）である第３層上面まで機械掘削を行った。

第１次調査では、既往の諸研究や現況の地形測量図から、調査地は妙寺条里区に含まれ、条里地割が遺存することが想定できた。そのため、中世の遺物包含層である第３層下面で条里地割の検出を試み、平板測量を行った。また、古代以降の遺物包含層（第４－２層）以下は人力掘削し調査を進めた。また、堆積層が厚さ 60 ㎝以上と厚い箇所については、一部、第３層半ばまで機械掘削を行っている。第２次調査では中世の遺物包含層（第３層）以下は人力掘削し調査を進めた。

遺物の取り上げ　出土遺物については小地区ごとに取り上げ、遺物の取り上げ単位（袋・コンテナ）に１番から登録番号を与え､遺物登録台帳とデジタルカメラ写真を作成して管理している。

記録方法　調査における記録等として写真撮影と記録図面を作成した。写真撮影については４×５判・６×７判・35㎜を用い、フィルムはカラーリバーサルフィルムおよびモノクロームフィルムを使用した。また、700 万画素相当のデジタルカメラを補助的に使用した。

撮影内容は、基本的に写真台帳に日時・調査区・対象・方向・使用フィルムを登録し把握しているほか、デジタル画像データに内容を付して保存している。

調査における記録図面は、航空写真測量によるＳ＝１/50 の遺構平面図と、調査員・調査補助員によるＳ＝１/10・１/20 の遺構実測図（遺構断面図・遺構平面図）、Ｓ＝１/100 の遺構配置図を作成した。

出土遺物整理　出土遺物整理は整理補助員や整理作業員を直接雇用し、出土遺物の洗浄･注記･登録・接合・実測・トレースの各作業を中心に行った。

出土遺物整理では、遺物の取り上げ単位である１袋ごとに遺物登録番号を与え台帳を作成している。番号は原則として、調査年次毎に行い、遺物登録台帳には地区･取り上げグリッド、層位、取り上げ日、備考を記入した。また遺物登録台帳には遺物内容と点数を記入し、遺物の内容把握を行った。遺物登録台帳は作成後データ入力し、条件ごとの遺物の検索を可能にしている。

調査では、石器剥片、骨片・炭化物などの微細遺物を採集する目的で、一部の遺構の埋土を持ち帰り、土壌水洗を行った。剥片については大きさ別に分類し、数量を計測した。

木製品・金属製品以外のすべての遺物破片に注記を行った。注記は当センター規定の調査コード（調査年度－市町村コード･遺跡番号）と遺物登録番号を記入した。接合及び抽出は調査年次･遺跡別に遺構出土分を優先して行った。

発掘調査で撮影した写真については、フィルム種類ごとにアルバムに収納した。収納については、調査年度・遺跡・地区・撮影日時順に収納し、それぞれシリアルナンバーを記入し、遺跡名・地区・遺構・方向を記入した。また、写真についても写真台帳を作成し管理している。

遺構実測図については地区単位に図面ケースに収納し、番号を記入し、種類・内容・縮尺・遺構番号を記入した遺構実測台帳を作成し管理している。遺構実測図については Adobe Illustrator を用いてトレースを行い、図面をデジタルデータ化して保存している。

第４章　第１次調査の成果

西飯降Ⅱ遺跡（06 － 13・26）、丁ノ町・妙寺遺跡（06 － 13・27）

第１節　基本層序と遺構面

調査地は北側から南側へ向かって緩やかな勾配をもつ。また、調査地の東側と西側は地形が高く、中央部が谷状に地形が低くなっている。調査区の東部・中央部・西部では堆積状況が異なるため、西飯降Ⅱ遺跡（06 － １区）と、西飯降Ⅱ遺跡（06 － ２区）、丁ノ町・妙寺遺跡（06 － １区）に分け、基本層序を記述する。

基本層序は上から第１層から第３層が中世以降、第４層が弥生時代中期から古代の遺物包含層である。第４層は細分され、広域に分布する、第４－２層と第４－４層が鍵層になる。

遺物包含層の時期は、第４－１層が古墳時代後期から古代、第４－４層が弥生時代中期から弥生時代後期である。調査区東部の西飯降Ⅱ遺跡では第４－２層と第４－４層の間に洪水砂と考えられる間層が堆積している。また。西飯降Ⅱ遺跡（06 － １区）の南東を中心に、弥生時代中期以降に堆積したと考えられる第４－３層が堆積する。調査では第４－２層下面の遺構面を上層遺構面、第４－４層下面の遺構面までを下層遺構面として遺構検出を行っている。

１．西飯降Ⅱ遺跡（06 － １区）

西飯降Ⅱ遺跡（06 － １区）の土層堆積は以下の通りである（図７・図 11）。

第１層　表土と現代の水田、あるいは果樹園の耕作土である。

第２層　現代の水田床土、あるいは整地層である。

第３層　２層に細分できる。共に包含する遺物量は少量である。

第３－１層　2.5Ｙ灰黄色系のシルト。室町時代（15 世紀）の水田層である。圧縮をうけ部分的に密着した状態となっている。

第３－２層　2.5Ｙ黄灰色系のシルト。鎌倉時代（13 世紀）の遺物包含層である。

第４層　７層に細分可能であり、広域に堆積する第４－２層と第４－４層が鍵層となる。

第４－１層　10ＹＲにぶい黄褐色系シルト。時期は未確定である。

第４－２層　10ＹＲ褐灰色系～黒褐色系シルト。西飯降Ⅱ遺跡（06 － １区）の西側で中近世の水田が検出されている。

第４－３層　2.5Ｙ黄灰色系細砂で風化礫を含み、１～２層に細分される。西飯降Ⅱ遺跡（06 － １区）南西（１－２区）では東側に落ちていく谷地形を呈し、第４－４層の上層に第４－３層が堆積する。古墳時代の竪穴建物や自然流路やの埋土となる。

間層　暗色傾向を示す堆積土で砂礫を多く含む洪水砂層である。第４－３層下面での大半の遺構の埋土となり、１～３層に細分される。

第４－４層　10ＹＲ黒褐色系シルト。弥生時代中期の土器を包含する。弥生時代中期と古墳時代前期の遺構の埋土となっている。

第５層　2.5Ｙ灰黄色系シルトで、弥生時代中期から古墳時代前期の遺構の基盤層に相当し、第５層以下は無遺物層で地山である。

２．西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）・丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）

西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）・丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）の土層堆積は以下の通りである（図８）。

第１層　表土と現代の水田、あるいは果樹園の耕作土である。

第２層　現代の水田床土、あるいは整地層である。

第３層　２層に細分できる。共に包含する遺物量は少量である。

第３－１層　2.5Ｙ灰黄色系のシルト。室町時代（15 世紀）の水田層である。

第３－２層　2.5Ｙ黄灰色系のシルト。鎌倉時代（13 世紀）の遺物包含層である。

第４層　西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）・丁の町・妙寺遺跡（06－１区）では第４－３層、第４－７層は確認されていない。広域に堆積する第４－１層と第４－４層が鍵層となる。

第４－１層　10ＹＲにぶい黄褐色系シルト。鎌倉時代の遺物包含層である。

第４－２層　10ＹＲ褐灰色系～2.5Y 黄灰色系シルト。遺物は土師器、須恵器を含み、古代（９世紀後半）以降に堆積する。西飯降Ⅱ遺跡２－３区、２－４区、丁ノ町・妙寺遺跡１－１区・１－２区下面では古代の水田を検出している。地点によってはさらに細分できる。また、丁ノ町・妙寺遺跡の西半では、第４－２層直下で第４－４層が堆積する。

間層　2.5Ｙ黄灰色～灰白色系シルト、遺物の包含量は少ない。調査地の中央埋没谷には、洪水砂層である粗砂礫主体の堆積層である１～３層が認められる。

第４－４層　10ＹＲ黒褐色～５Ｙオリーブ黒色系シルトに、５Ｙ灰オリーブ色系風化礫を多量に含む。弥生土器・土師器を包含する。第４－４層下面では、弥生時代中期から古墳時代前期の遺構面を形成する。丁ノ町・妙寺遺跡では、地形は西に高く上り、第４－２層の直下に堆積する。

第４－５層　10ＹＲ黒褐色～2.5Ｙ黄灰色系シルトからシルト質極細砂を呈する。西飯降Ⅱ遺跡 06－２区、丁ノ町・妙寺遺跡 06－１区の中央南半埋没浅谷から西側の微高地の中程に堆積する。埋没浅谷の部分では黒褐色にグライ化している。弥生時代中期から古墳時代前期の遺構の基盤層となる。

第４－６層　10ＹＲ黒褐色～2.5Ｙ黄灰色系シルトからシルト質極細砂である。西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）・丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）の中央南半埋没浅谷から西側の微高地の中程に堆積する。埋没浅谷の部分では黒褐色にグライ化している。弥生時代中期から古墳時代前期の遺構の基盤層となる。第４－５層との層界が明確でない箇所も多い。

第５層　10ＹＲ灰白色～2.5Ｙ黄灰系シルト、または砂礫層と岩盤となる部分もある。弥生時代中期から古墳時代前期の遺構の基盤層に相当し、第５層以下は無遺物層の地山である。

なお、西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）、丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）の西半部分では、第４－４層下面と第４－５層下面では、調査地北側の中位段丘や北西側の開析谷からの土砂の流入により、層の厚みが不揃いとなり各々の層準が揃わない状況が起こっている。また、調査の進捗に伴って、丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）の北側（中位段丘側）や西側で、第４－２層と第４－４層の間の間に介在する洪水層が無くなり、部分的に両方の堆積層が圧縮され密着した状況にあることが判明した。西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）や、丁ノ町・妙寺遺跡１－１区と１－４区の調査では、これらの堆積層を同時に掘削した範囲が生じている。そのため異なる時期の遺構が最下面において検出される結果となっている。

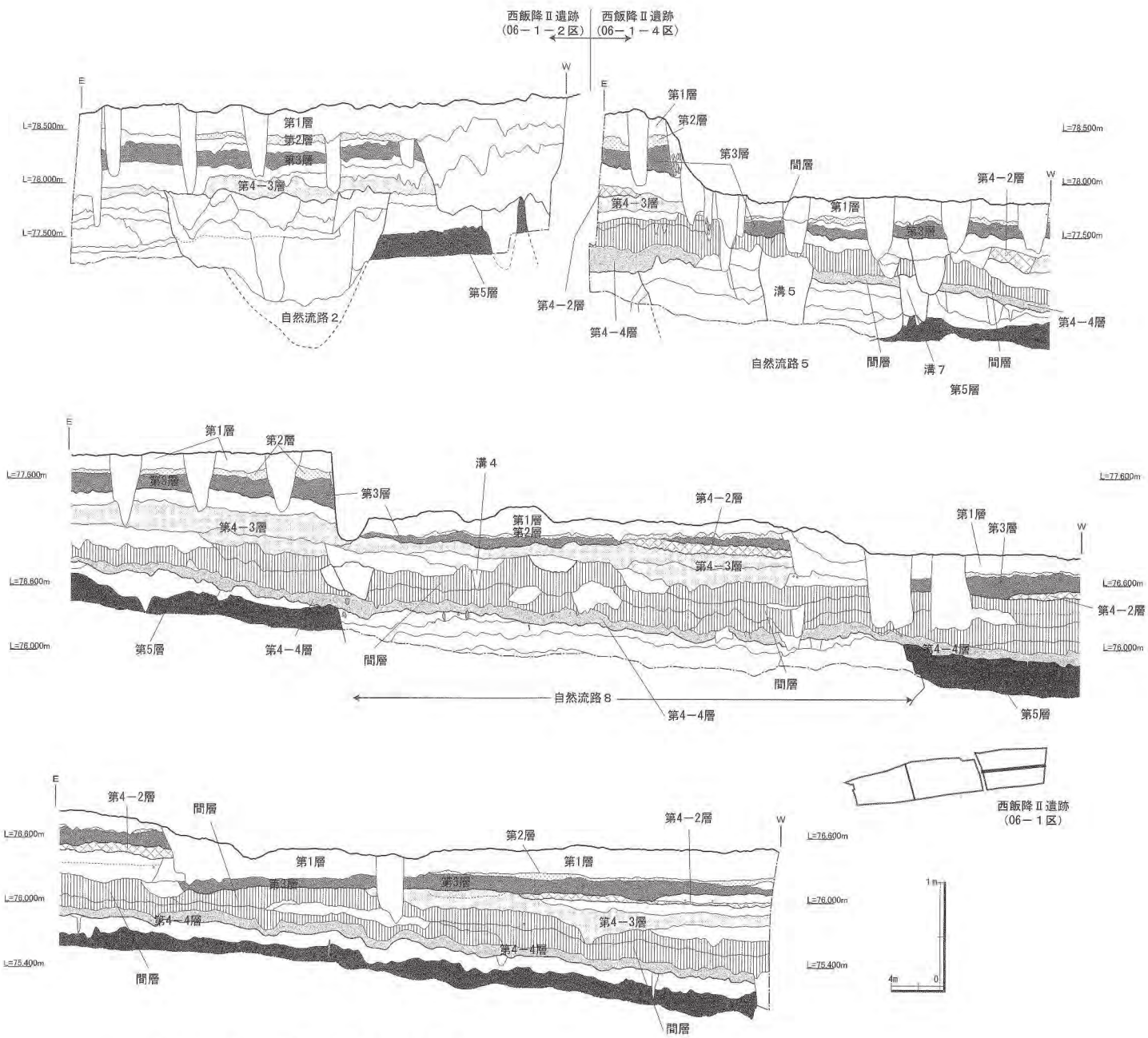


図７　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）東西標準土層

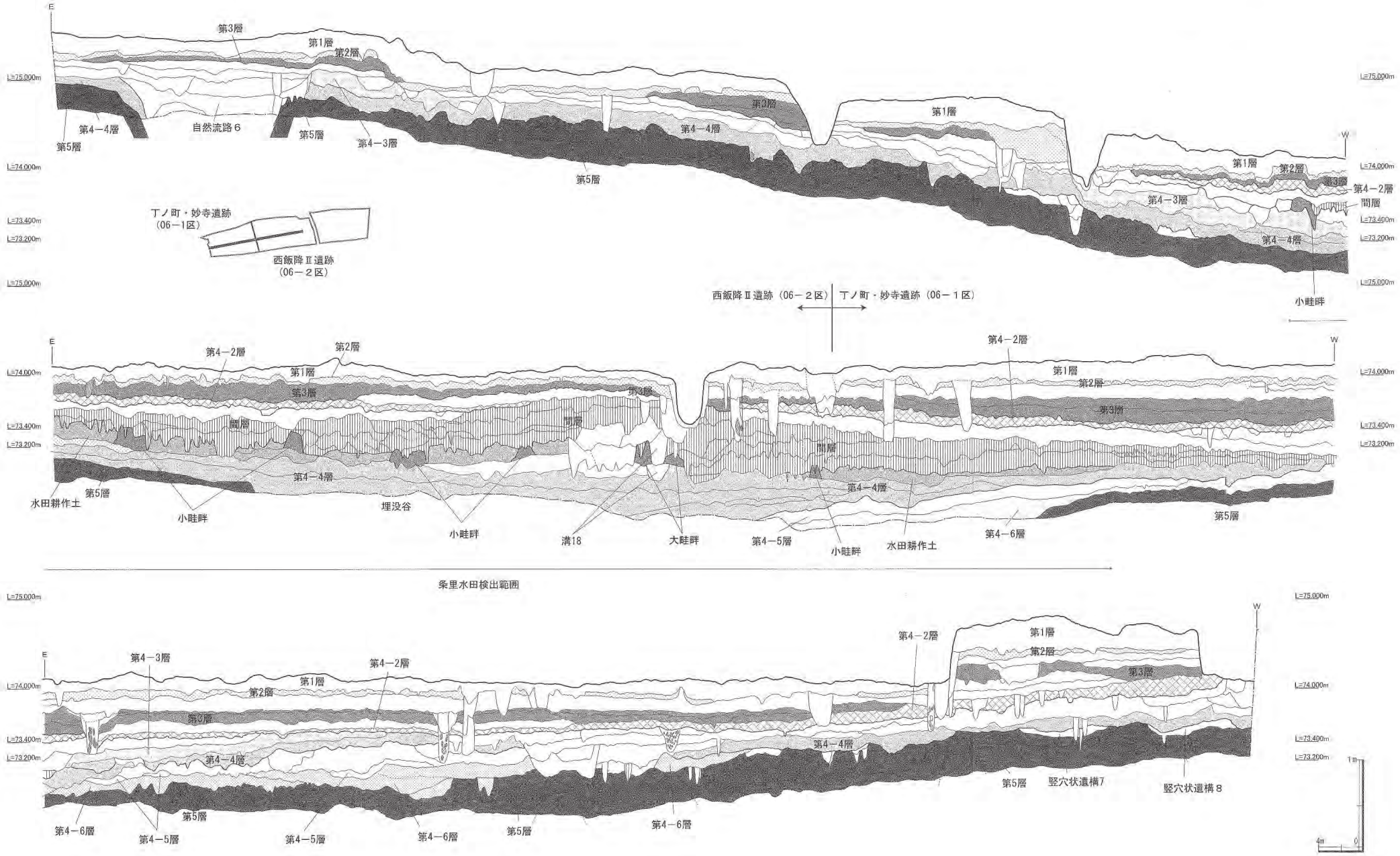


図８　西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）・丁ノ町妙寺遺跡（06－１区）東西標準土層

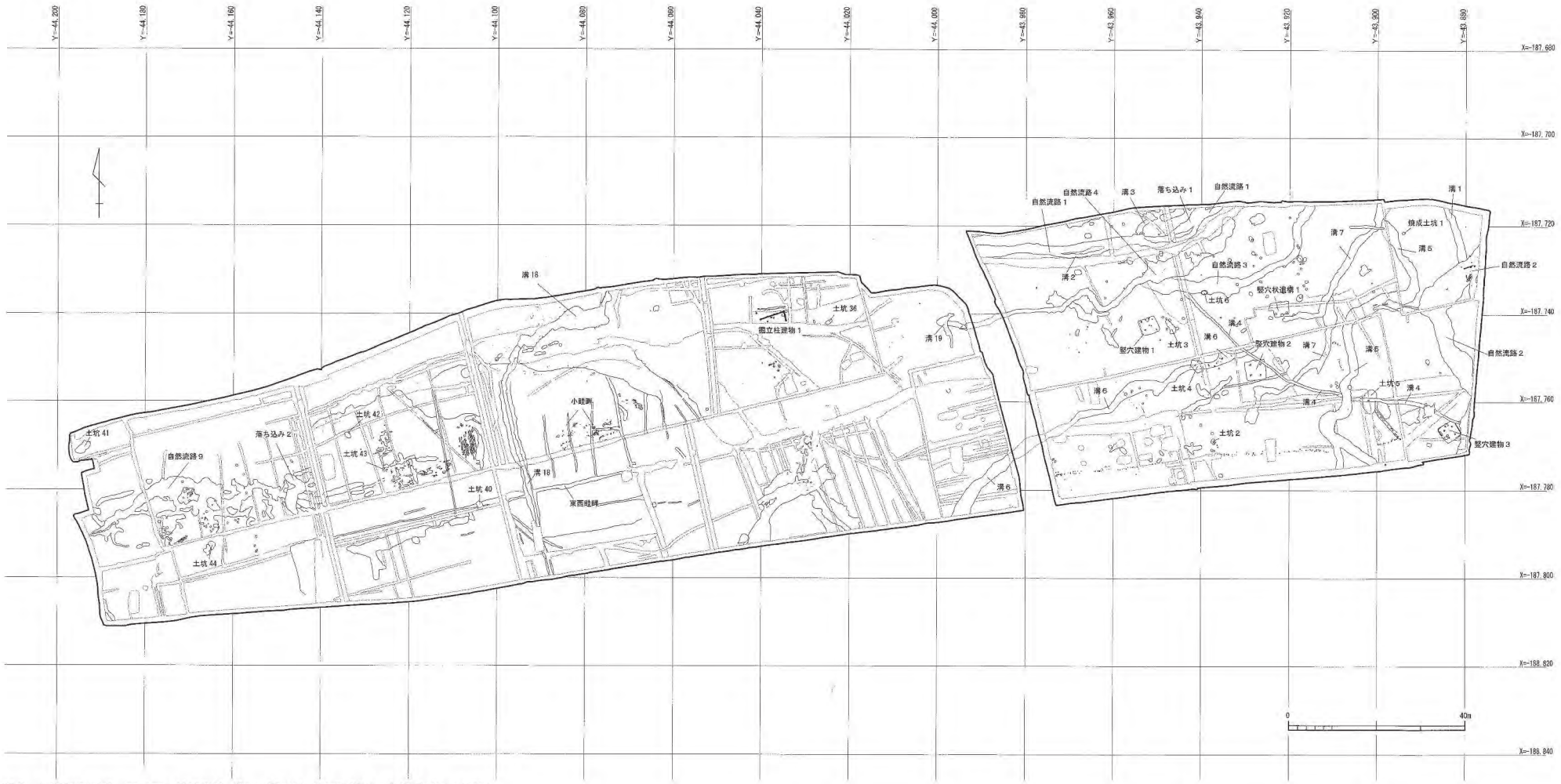


図９　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）上層遺構面　全体図（S=1/800）

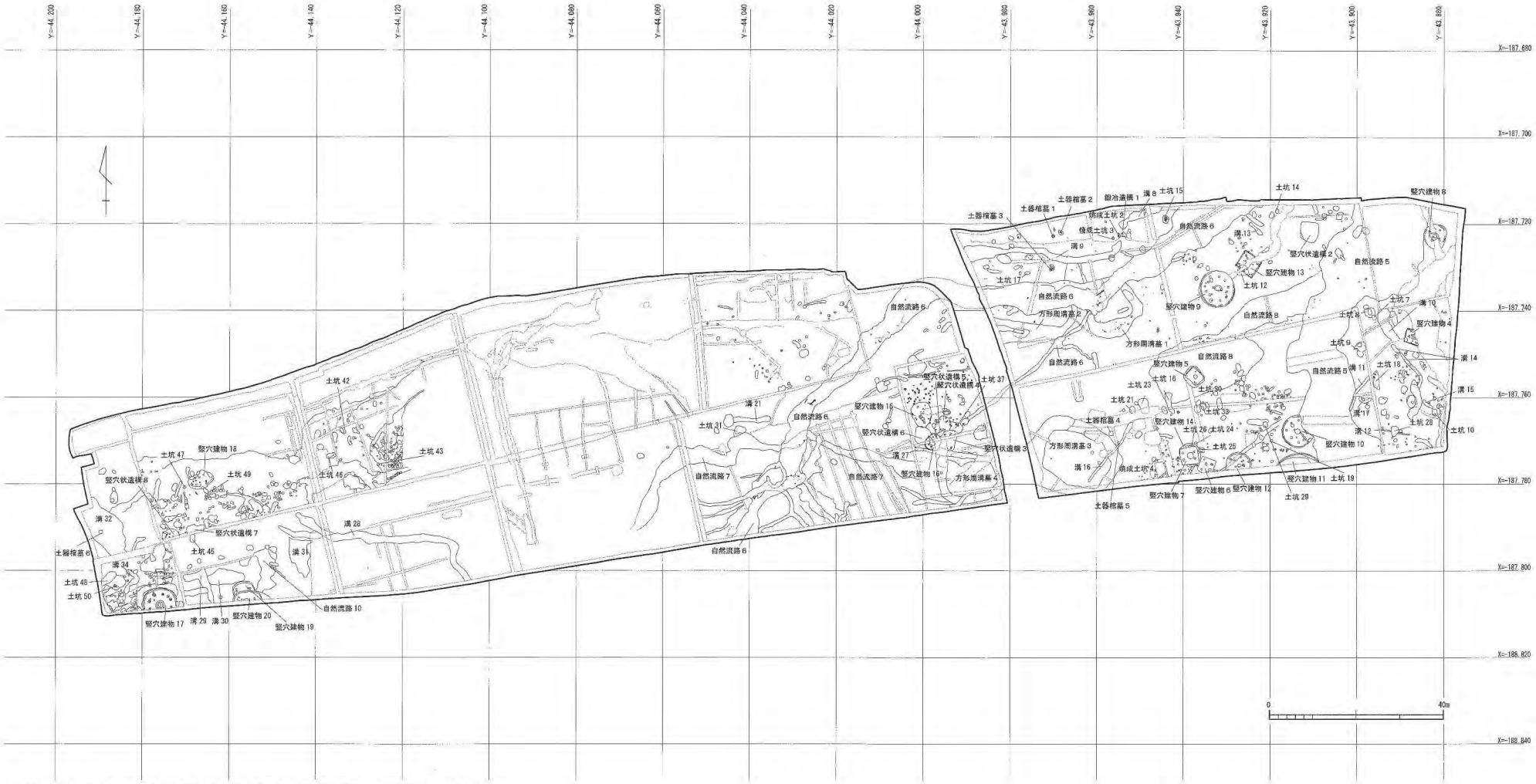


図 10　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第 1 次調査）下層遺構面　全体図（S=1/800）

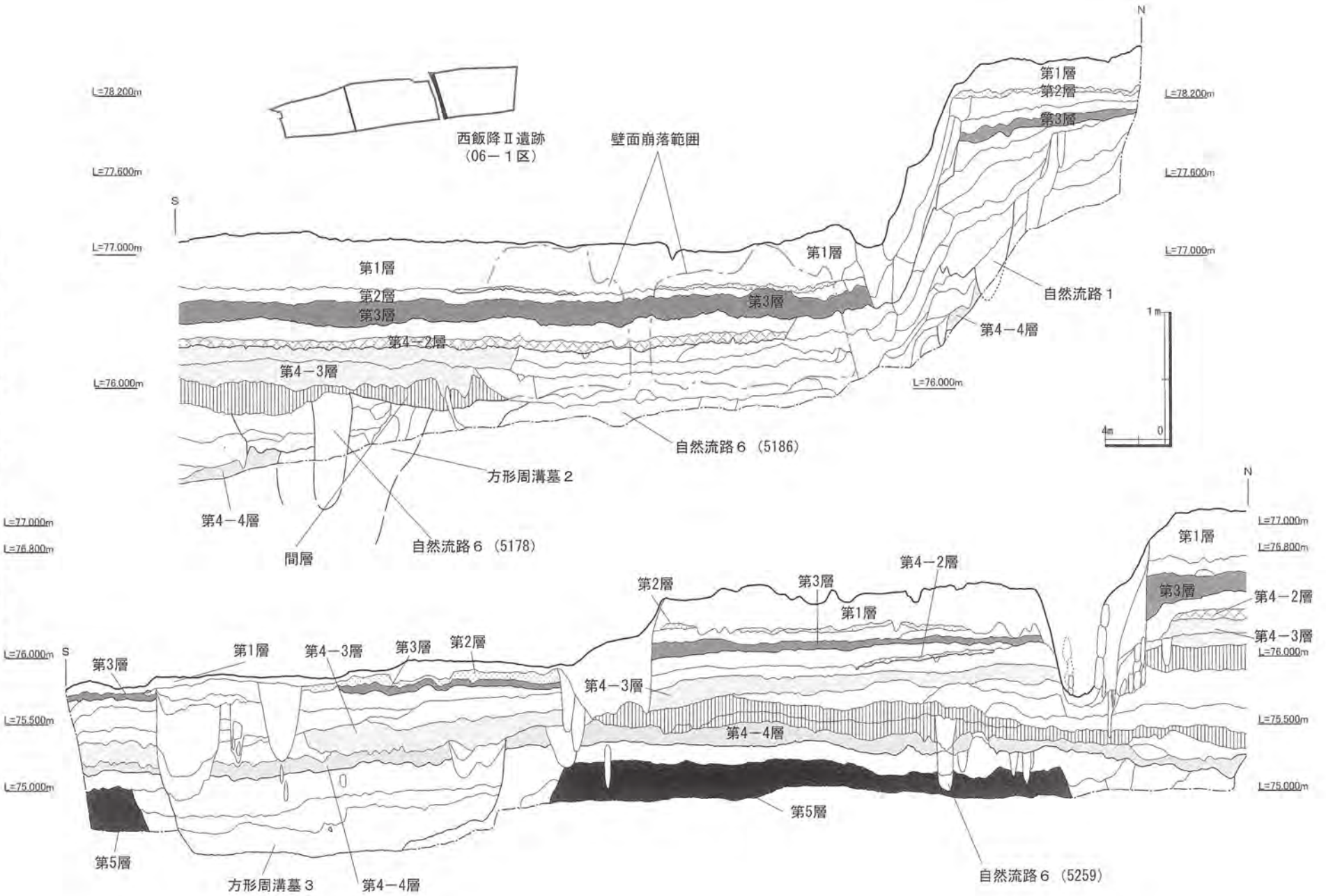


図11　西飯降Ⅱ遺跡（06－1区）南北標準土層

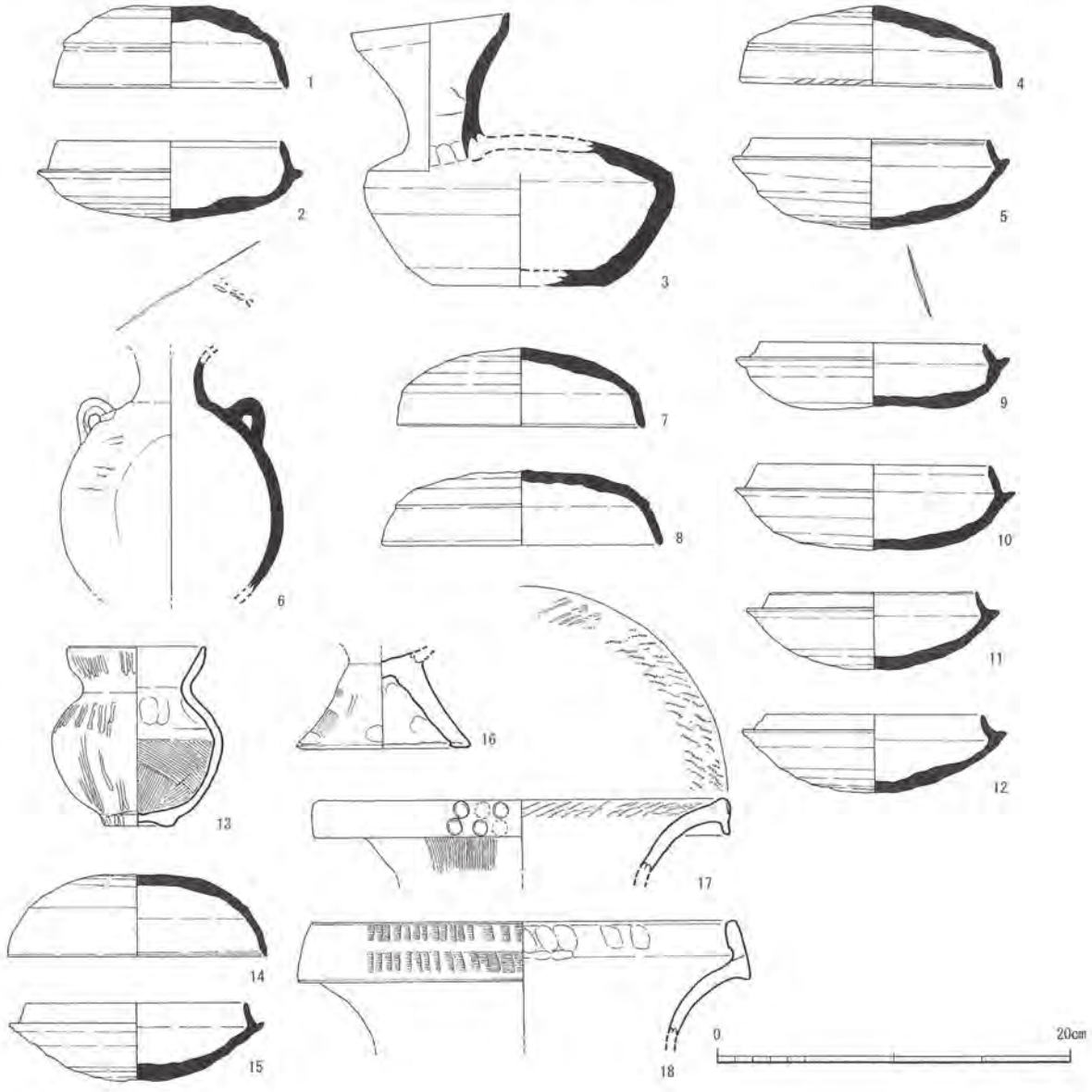
第２節　西飯降Ⅱ遺跡（06 － １区）の調査成果

１．調査区の概要

西飯降Ⅱ遺跡（06 － １区）は、第１次調査地の最も東に位置する調査区である。調査地北側に中位段丘が迫る低位段丘上に位置する。調査区北には応其上人により改修されたとされる畑谷池が存在する。

遺構面は第４－２層下面で遺構検出を行い、上層遺構面として調査を行った。また、第４－４層下面でも遺構検出を行い、下層遺構面として調査を行った。また、第４－３層以下の遺構面についても、第４－４層下面で同一遺構面として検出を行い記録した。調査区は南北に傾斜がみられ、第４－１層以下は均一に堆積しない。そのため、下層遺構面では上層遺構面の遺構についても検出した例も多く、遺構の検出層位に齟齬がみられる。

上層遺構面では、第４－２層下面で古墳時代後期の竪穴建物３棟をはじめとして、古墳時代後



1～3：包含層第4-2層　4・5：包含層第4-3層　6：包含層第4-4層より上位層　7～12：包含層間層　13～18：包含層第4-4層

図12　包含層（西飯降Ⅱ遺跡 06－１区）出土土器

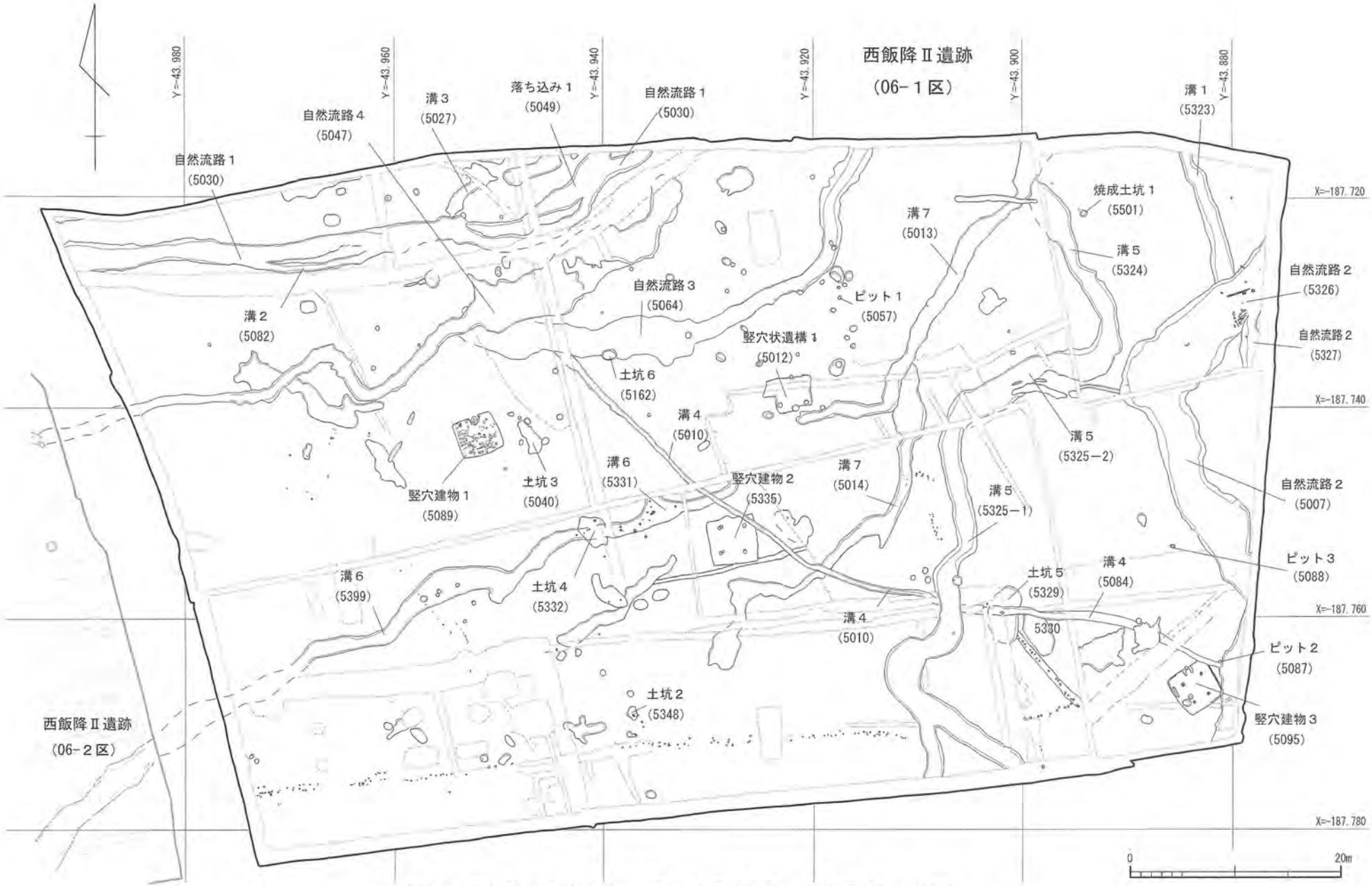


図 13　西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）上層遺構面　全体図（S=1/500）

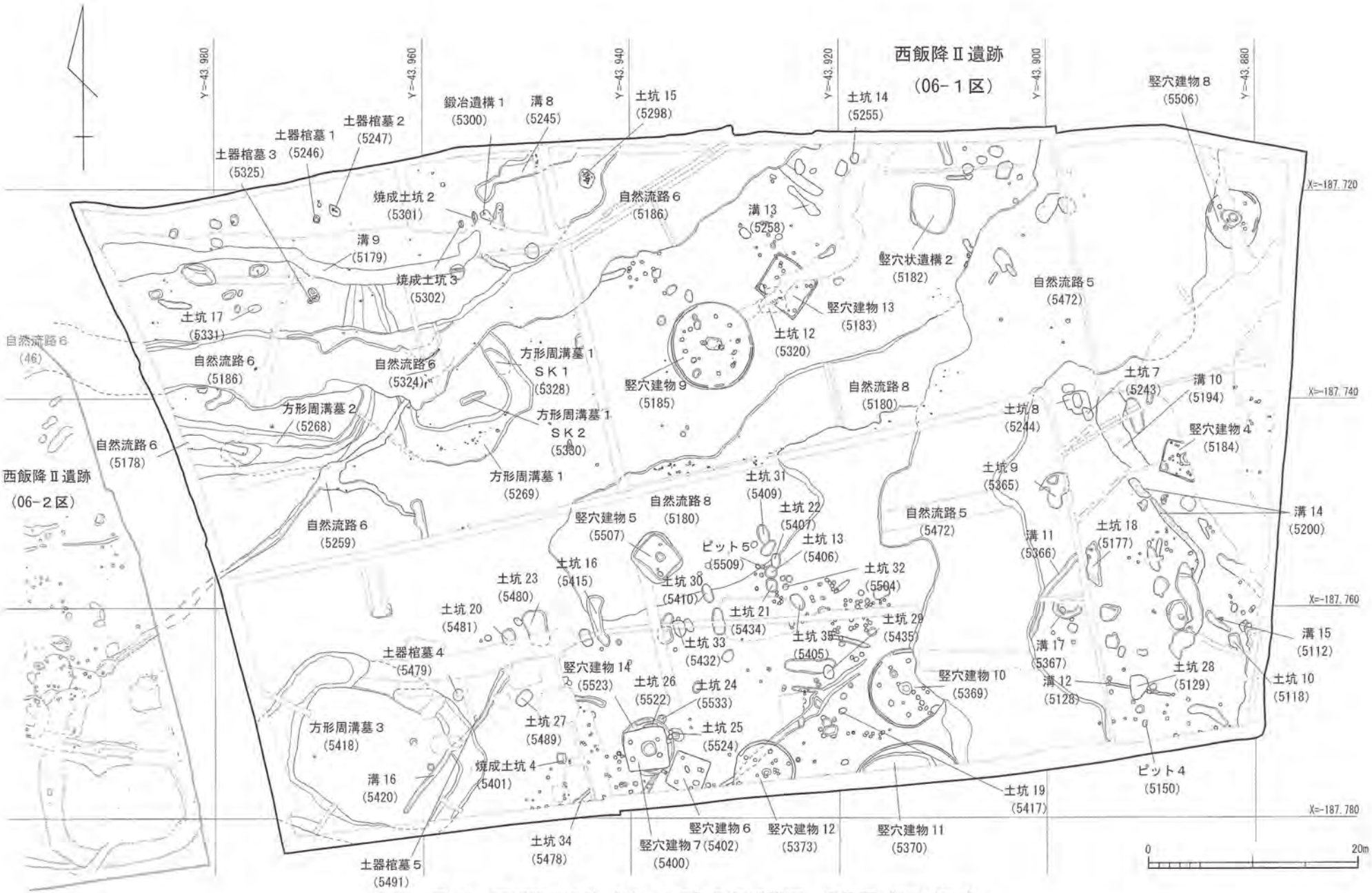


図14　西飯降Ⅱ遺跡（06－1区）下層遺構面　全体図（S=1/500）

期から中世までの焼成土坑、溝、自然流路を検出している。いずれの自然流路も北東方向から南西方向へ流れる。

下層遺構面では、第４－３層下面、第４－４層下面で弥生時代中期から古墳時代前期の遺構面を検出した。古墳時代前期の遺構は、竪穴建物４棟、焼成土坑、土坑、溝等を検出した。弥生時代中期から弥生時代後期の遺構は、竪穴建物７棟、方形周溝墓３基、土器棺墓５基、土坑、ピット、溝、自然流路等を検出している。一部、第４－２層下面の遺構も下層遺構面で検出したが、その分別は行えていない。

２．古代から中世の遺構と遺物

落ち込み１（5049）（図 18） 調査区北西（１－３区）で自然流路１と重複し検出した落ち込みである。北側は調査区外へ延びる。自然流路１と重複するが、前後関係は分からない。幅 1.45 m、深さ 0.1 mを測り、自然流路１の北肩に形成された落ち込みとみられる。遺物は土師器甕（20）、黒色土器椀（19）、須恵器甕（21）が出土している。（19）は内面のみ黒化する黒色土器で、体部外面はヘラケズリを施し、Ｃ手法によって作られる。遺構の時期は、平安時代前期（９世紀）と考えられる。

溝１（5323）（図 18） 調査区北東（１－１区）で自然流路２と重複し検出した溝である。北方向から南方向へ流れ、北側は調査区外へと延びる。幅 1.7 m、深さ 0.6 の溝で、自然流路２が後出する。遺物は黒色土器椀（24）が出土している。（24）は高台をもち、内面と外面口縁部を黒化するものである。内面はヘラミガキ。遺構の時期は、平安時代中期（10 世紀）と考えられる。

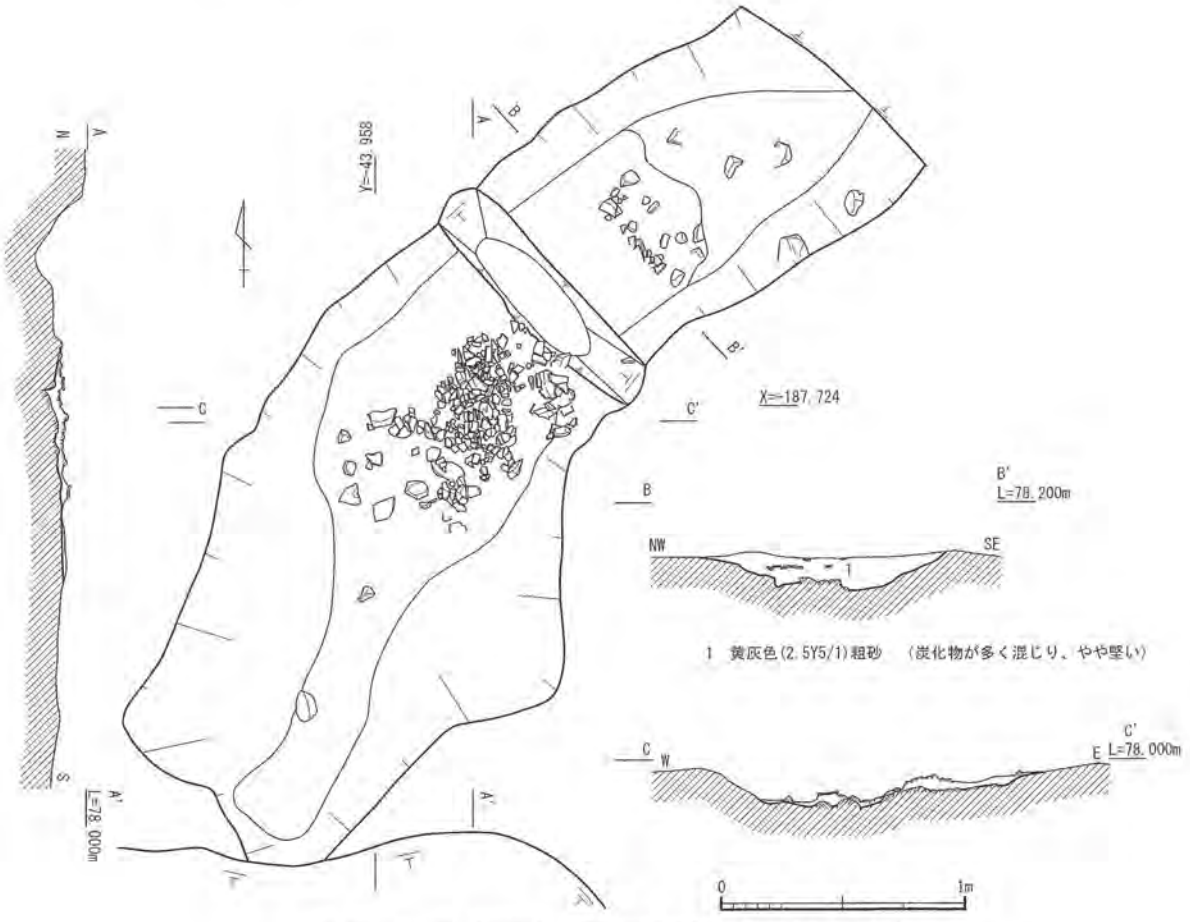


図 15 溝３（5027）平面図・断面図 （S＝1/30）

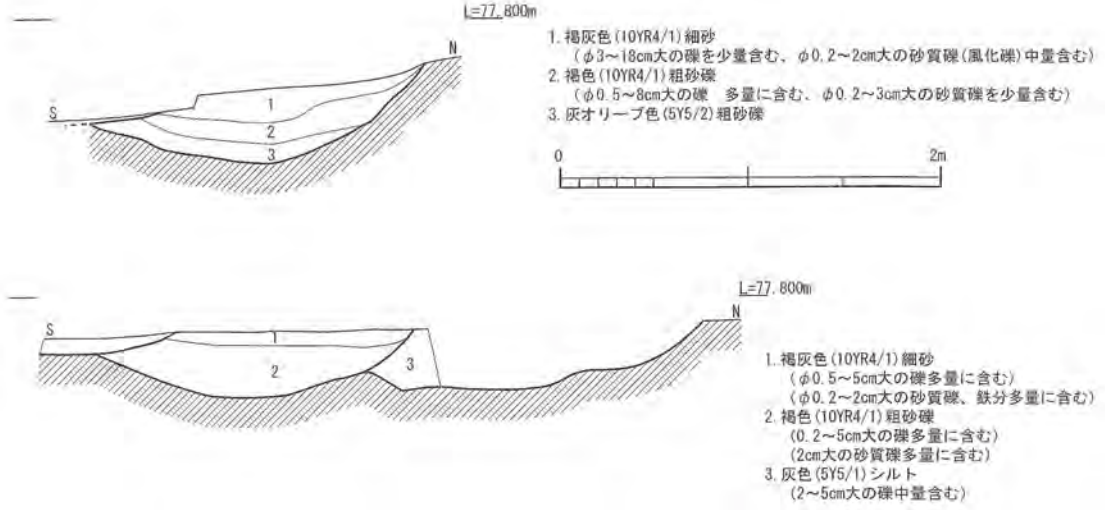


図16　自然流路１（5030）断面図　（S＝1/40）

溝２（5082）（図18）　自然流路１に重複して検出した溝である。東西方向に流れる溝で、自然流路１が後出する。溝の規模は幅0.95ｍ、深さ0.2ｍを測る。遺物は須恵器壺Ｍ（27）が出土している。遺構の時期は、平安時代（9世紀～10世紀）と考えられる。

溝３（5027）（図15・図18）　調査区北西（１－３区）で検出した溝である。北側は調査区外に延び、南側は自然流路１と重複し途切れる。幅、1.0ｍ～1.55ｍ、深さ0.15ｍを測る北東方向から、南西方向に流れる溝である。埋土は黄灰色粗砂で、炭化物を多く含む。溝中央では直径10㎝大の亜角礫とともに遺物が集中して出土している。

遺物は土師器椀Ａ（28）・皿Ａ（29～31）・甕（32～35）・鍋（42）、製塩土器（36～41）、須恵器蓋（43）・杯Ｂ（44・45）・杯Ａ（46・47）・皿Ｃ（48）、土錘（49）が出土している。

（28）は外面ヘラケズリによるＣ手法による。（36～40）は丸底Ⅲ式のもので、口縁部は直立して伸びるものである。（41）は外側に広がる口縁部をもつ。いずれの製塩土器も内外面ユビオサエにより粘土紐接合痕を顕著に残す。（42）は扁平な把手を貼り付けるものである。（46～48）はいずれも焼成不良である。（49）の土錘は管状土錘である。遺構の時期は、平安時代前期（９世紀後半）と考えられる。

自然流路１（5030）（図16・図18）　調査区北側（１－３区）を東西方向に流れる自然流路である。落ち込み１、溝２、溝３と重複し、これらより後出する。幅2.15ｍ、深さ0.5ｍを測る。埋土は３層に分けられ、褐灰色砂質土～褐色粗砂礫で風化礫、鉄分を多く含む。土師器皿（22）、須恵器高杯（23）が出土している。遺構の時期は、鎌倉時代以降と考えられる。

自然流路２（5007）（図17・図18）　調査区西（１－１区・１－２区）で検出した自然流路である。自然流路（5327）、堰（5326）を同一遺構とした。自然流路２（5327）は枝分かれし、南に延びる流路である。堰（5326）は、自然流路２内に築かれた木樋を持つ堰である。自然流路２（5007）は幅5.0ｍ、深さ1.25ｍを測り、北東方向から南西方向に流れ、途中屈曲し南東方向に流れる。埋土は灰オリーブ色～青灰色を呈し、土質は細砂～シルトが交互に堆積し、上層は鉄分の沈着が著しい。自然流路は北側で断面逆台形の箱掘であり、自然流路を利用し人工的に改変したものと考えられる。堰は自然流路の北東で検出しており、直径10～20㎝大の木杭、木材を組み合わせてしがらみを作る。堰の大多数は失われていたが、自然流路中央には木樋が遺存しており、流路を横断するように堰が築かれ、木樋を通して水が流されたと考えられる。木樋（Ｗ９）は木材を方形に刳り貫き身としたもので、木樋（Ｗ10）が（Ｗ９）に重なるように検出した。木樋身は長さ2.28

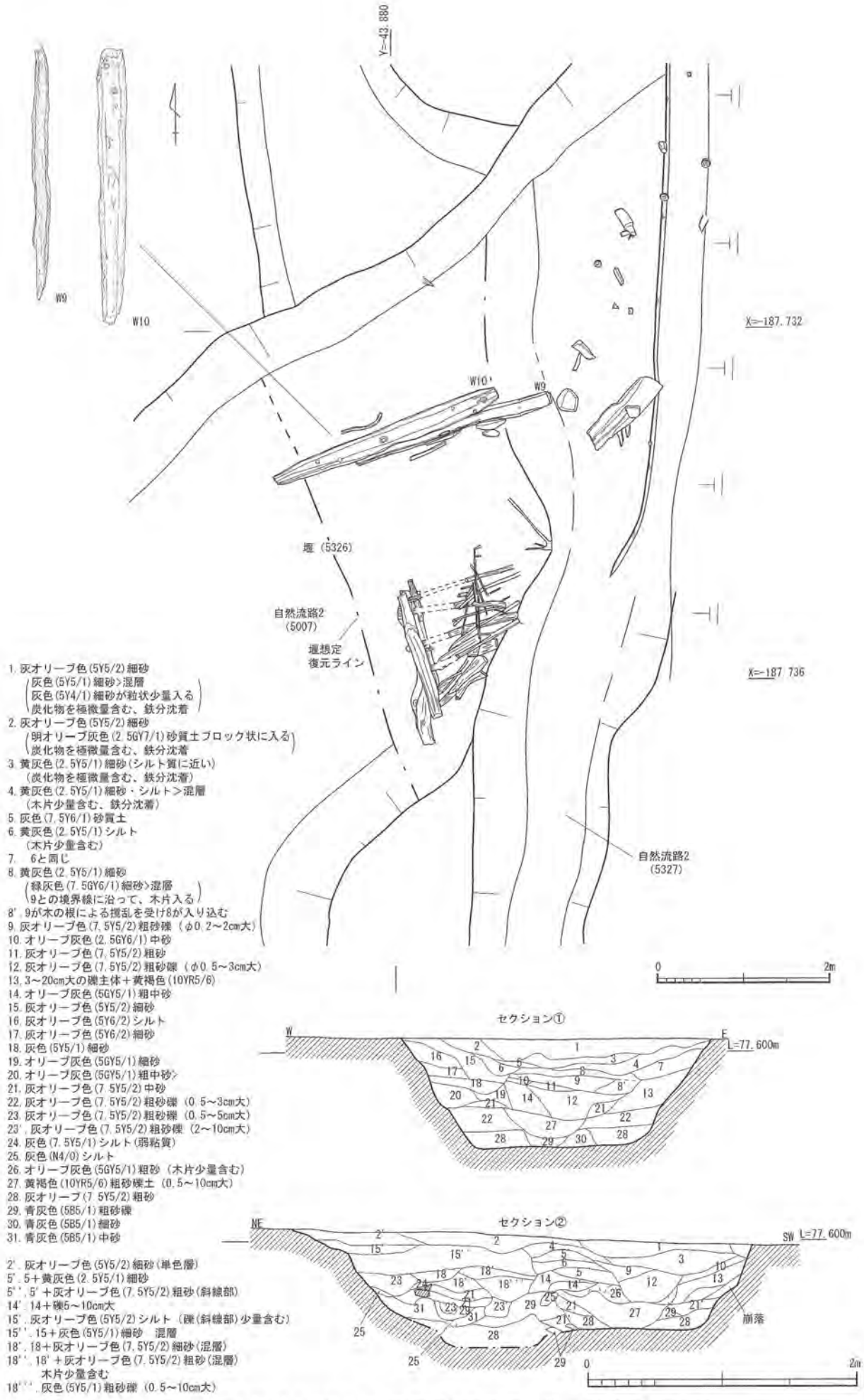
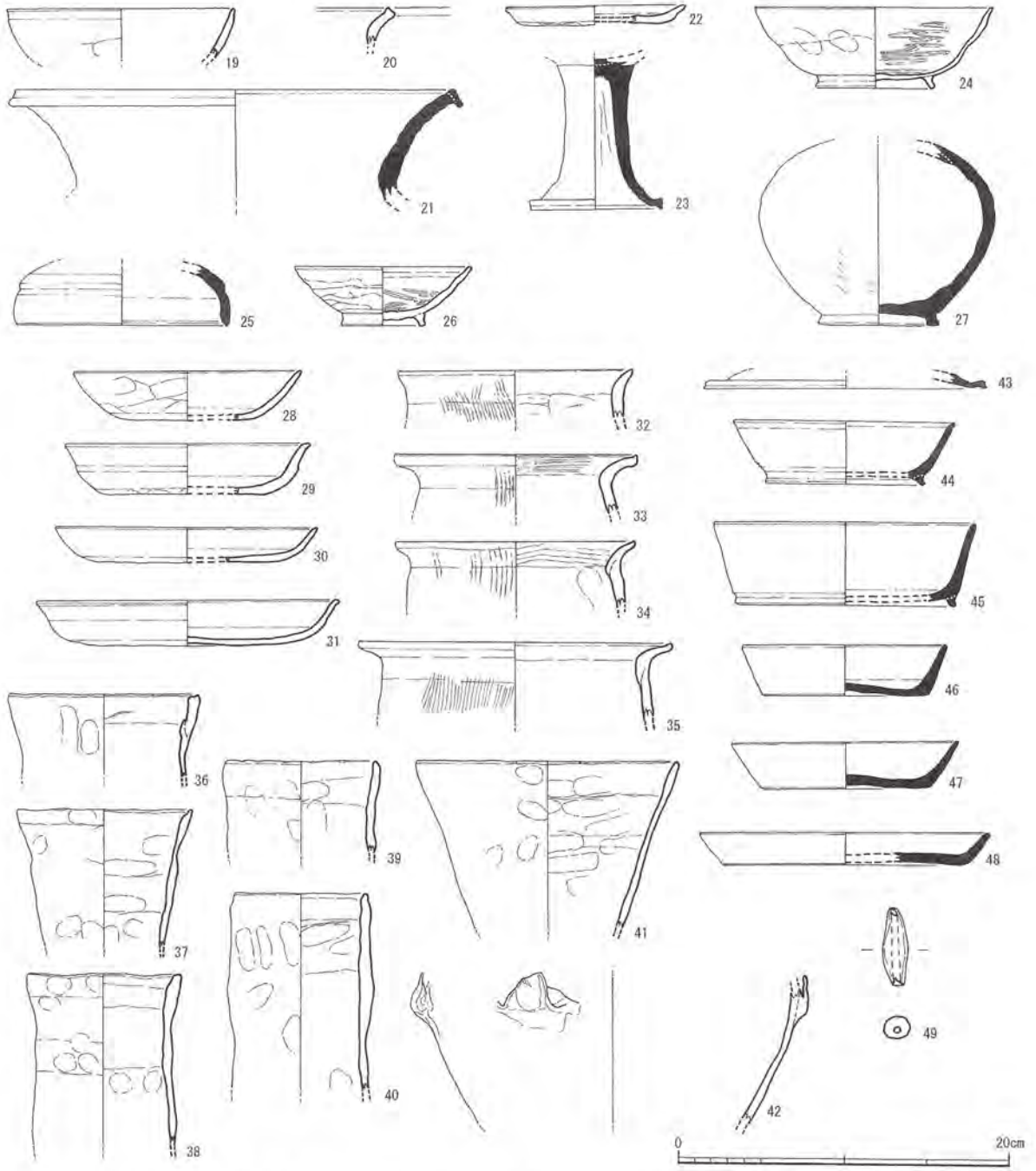


図17　自然流路２（5007）平面図・断面図　（S＝1/40、S＝1/60）



19～21：落ち込み1（5049） 22・23：自然流路1（5030） 24：溝1（5323） 25・26：自然流路2（5007） 27：溝2（5082） 28～49：溝3（5027）

図18　落ち込み1、溝1～3、自然流路1・2、出土土器・土製品

m、幅0.14 mを測る。木樋（W9）は長さ2.48 m、幅0.26 mを測る。いずれも腐食が著しい。

遺物は須恵器杯蓋（25）、黒色土器椀（26）、木杭（W2）、木樋（W9・10）が出土している。（26）は内面全面、外面は口縁部のみ黒化している小型の椀である。外面はヘラケズリによる。（W2）は矢板状の木杭で、板材の両側面を切り出し、先端を尖らせる。（25）は混入遺物と考えられる。遺構の時期は、平安時代中期（10世紀）と考えられる。

3．古墳時代後期の遺構と遺物

古墳時代後期の遺構は第4－2層下面の上層遺構面と、第4－4層下面の下層遺構面にまたがって検出しており、航空写真測量においても個別の遺構面で記録している。本来は第4－2層

下面で検出したものと考えられるが、調査時に遺構面の把握や検出層位の整理が行われていないため、その分別ができなかった。本書では、検出層位を付記し報告する。

竪穴建物１（5089）（図 19・図 22）　第４－２層下面、調査区北西（１－３区）で検出した。建物西側は近世の暗渠排水溝に削平される。方形４本柱の竪穴建物で、南北 3.75 m、東西 4.0 m、深さ 0.2 mを測る。竪穴建物上層には炭化材が集中し、埋土には炭化物を多く含むことから焼失建物と考えられる。建物西側の炭化材は、建物壁面に並行し等間隔に並ぶ。倒壊した状況がうかがわれ、垂木材または壁板と考えられる。

建物の構造は建物北側に造り付け竈を備え、主柱穴４基をもつ。床面には遺物が散乱した状況で出土しており、焼失直前の状況を良好に留める。Ｐ３上面では須恵器大甕（64）が出土した。Ｐ２北西からは火災により被熱を受けた台石（Ｓ 43）が出土している。

遺物は床面、竈周辺を中心に須恵器杯蓋（50 ～ 53）・杯身（54 ～ 63）・大甕（64）、土師器甑（65）・甕（66）、台石（Ｓ 43）が出土している。いずれも火災により被熱を受ける。（65）は牛角状の把手をもつ甑で、内面から挿し込み把手を取り付ける。（64）は須恵器大甕で、内面に当て具による青海波文、外面に平行タタキ目を残す。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ 10 型式）と考えられる。

竪穴建物２（5335）（図 20・図 22）　第４－２層下面、調査区中央（１－４区）で検出した。

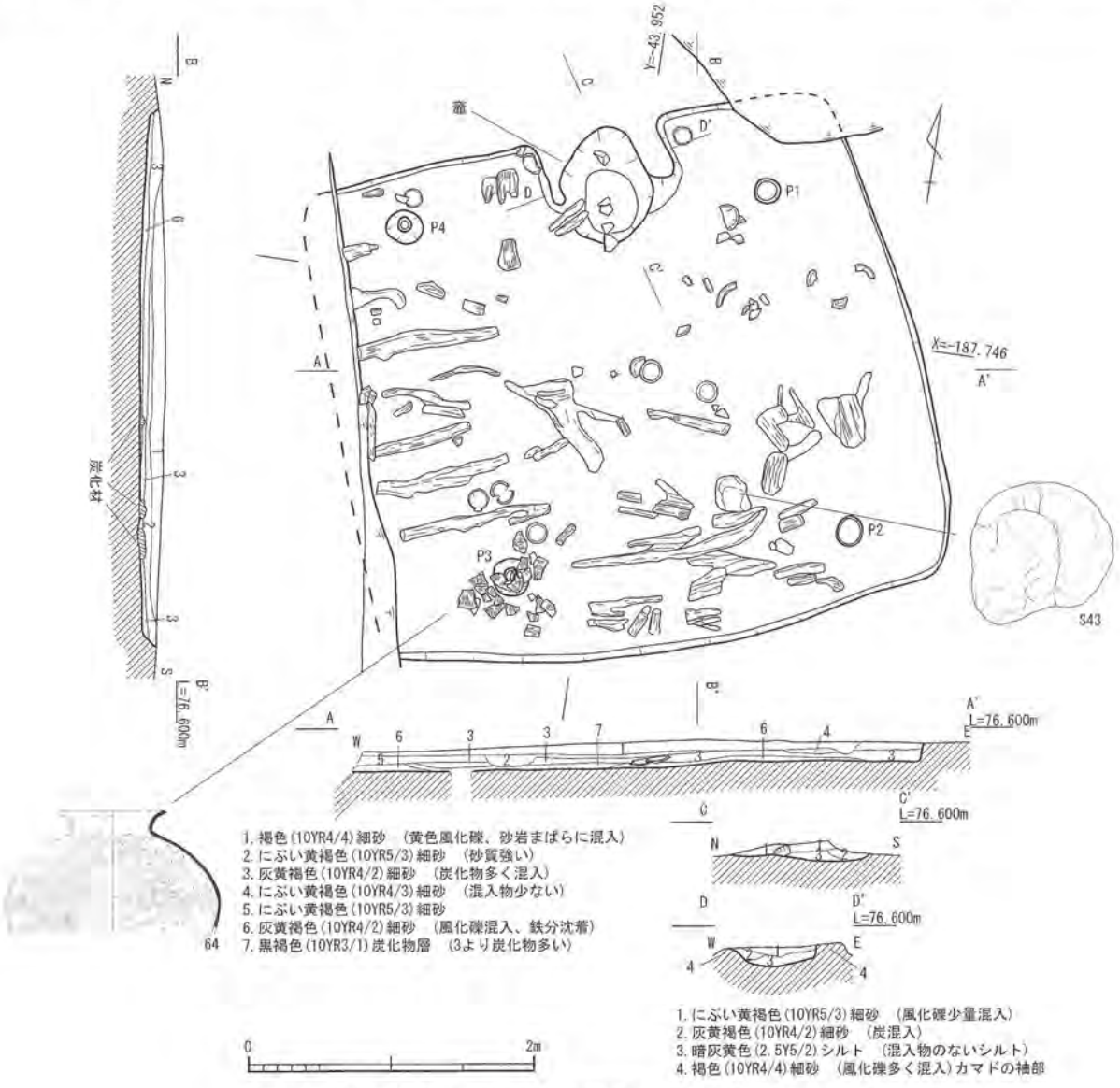


図 19　竪穴建物１（5089）平面図・断面図　（S＝1/50）

建物北東は溝４と重複し、溝４が後出する。方形４本柱の竪穴建物で、南北 4.6 m、東西 4.6 m、深さ 0.2 mを測る。上面は後世の削平を受ける。

建物の構造は、主柱穴４基をもつのみである。同時期の竪穴建物と異なり、造り付け竈を持たないが、建物北側がわずかに突出する形状を持つため、竈が存在した可能性がある。

遺物の出土は少なく、須恵器杯身（67）が出土した。（67）は杯底部外面にヘラ記号をもつ。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ 10 型式）と考えられる。

竪穴状遺構１（5012）（図 21・図 22） 第４－２層下面、竪穴建物２の北東で検出した竪穴状遺構である。遺構中央は近世の暗渠排水溝に削平される。南北 3.3 m、東西 4.6 m、深さ 0.4 mを測り、平面形は方形を呈し、北西隅のみ西側に突出する。遺構の規模から考えて、竪穴建物の可能性がある。遺構南東隅と南西隅に直径 0.5 mの円形の土坑をもつ。床面ではこれら以外の遺構は検出していない。埋土は上下２層に分けられ、灰黄色～灰色細砂、暗灰黄色細砂で、鉄分を多く含む。

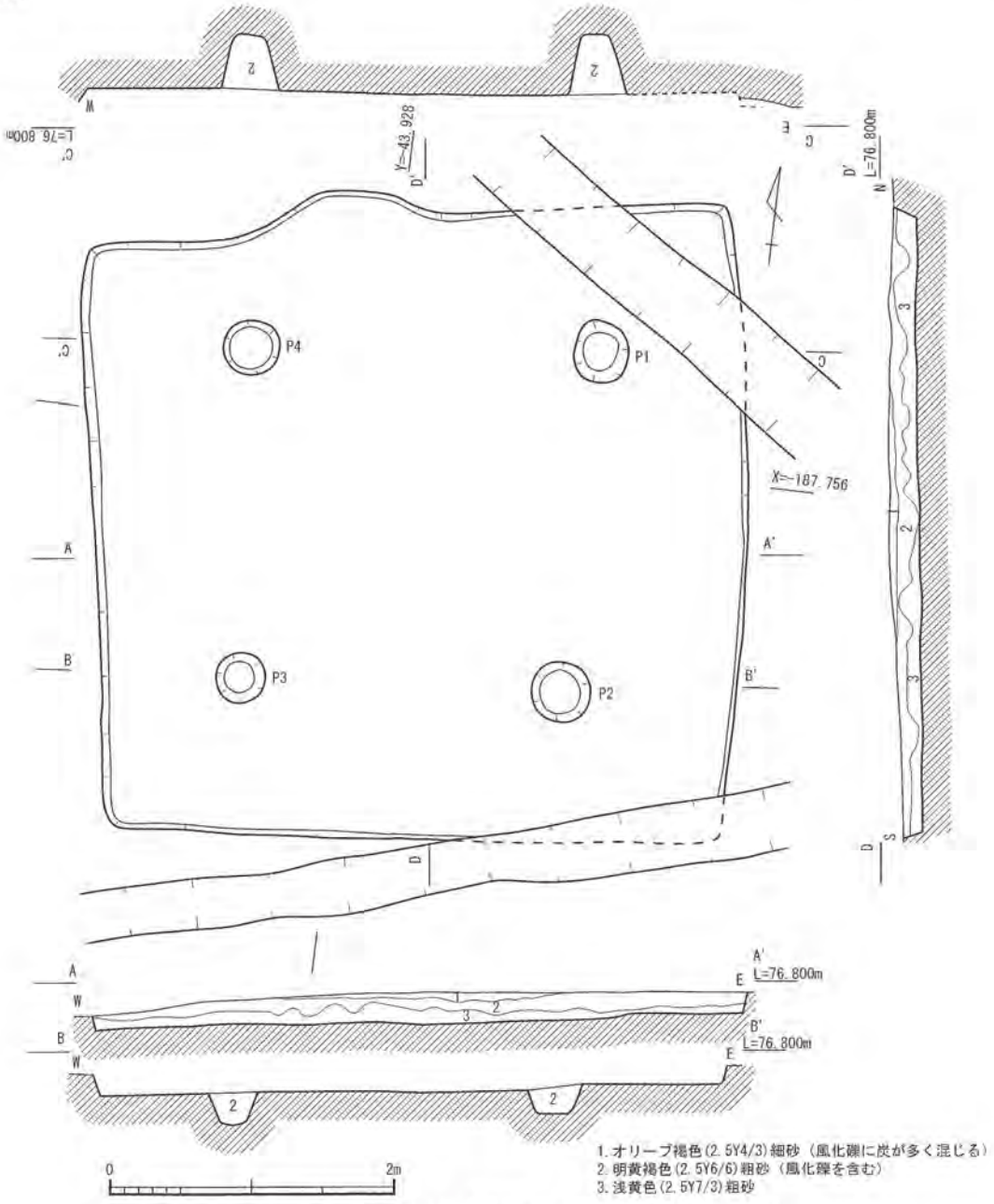


図 20　竪穴建物２（5335）平面図・断面図　（S＝1/50）

遺物は、須恵器杯身(68)が出土しているのみである。遺構の時期は、古墳時代後期(ＴＫ10型式)と考えられる。

焼成土坑１（5501）（図23・図26）　第４－２層下面、調査区北東（１－１区）で検出した土坑である。炭化物多く含み、土坑底面が被熱するため焼成土坑とした。長径0.7ｍ、短径0.6ｍ、深さ0.15ｍを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は上下２層に分けられ、上層は灰褐色細砂で炭化物を多く含み、下層は灰褐色の被熱土で底面は焼成を受け赤変する。

遺物は土坑上面から土師器甕（75・76）が出土している。（75・76）は頸部にヘラ状工具による押圧を施すもので、内面はヘラケズリを施す。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ10～ＴＫ217型式）と考えられる。

焼成土坑２(5301)(図23)　第４－４層下面、調査区北西(１－３区)で検出した焼成土坑である。長径1.2ｍ、短径0.5ｍ、深さ0.15ｍを測り、平面形は長楕円形を呈する。埋土は上下２層に分けられる。上層は南側に堆積し、灰褐色細砂で炭化物を多く含む。遺物の出土は認められない。

焼成土坑３（5302）　第４－４層下面、焼成土坑２の西で検出した焼成土坑である。長径0.7ｍ、短径0.45ｍ、深さ0.2ｍを測り、平面形は円形を呈する。埋土に炭化物を多く含む。遺物の出土は認められない。

鍛冶遺構１(5300)（図23）　第４－４層下面、焼成土坑２の東で検出した。焼成土坑２、焼成土坑３、鍛冶遺構１は並んで位置し、長軸を南北方向にそろえる。長楕円形の土坑に重複し、円形に掘り窪める。長径1.5ｍ、短径0.9ｍ、深さ0.3ｍを測り、平面形は長楕円形を呈する。埋土は３層に分けられ、中央の土坑は上下２層に分けられ、中央の土坑では１層の下部に焼土層が広がる。埋土中には焼土・炭化物・スラグを含む。調査時の所見で鋳造炉とされたが、それを裏付ける記録類は見当たらない。また、遺物の出土は認められなかった。焼成土坑２、焼成土坑３と関連する遺構と考えられる。

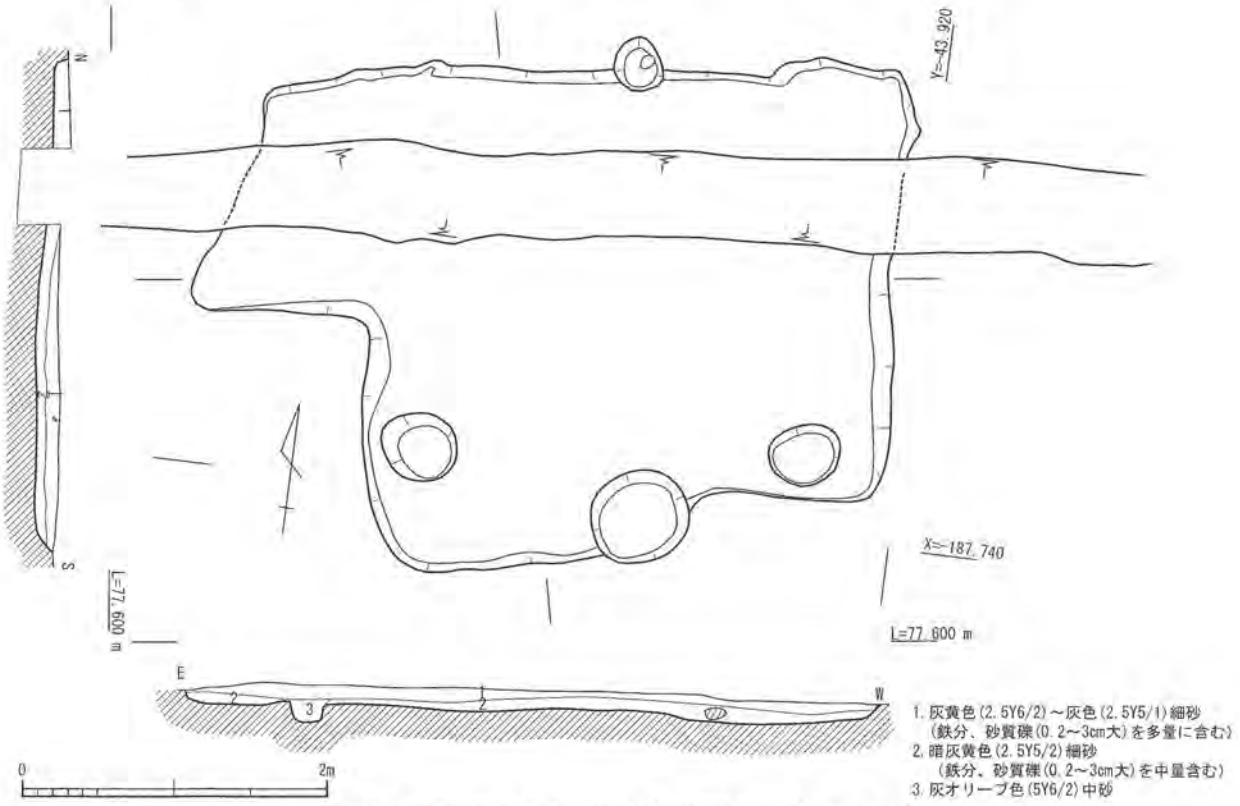
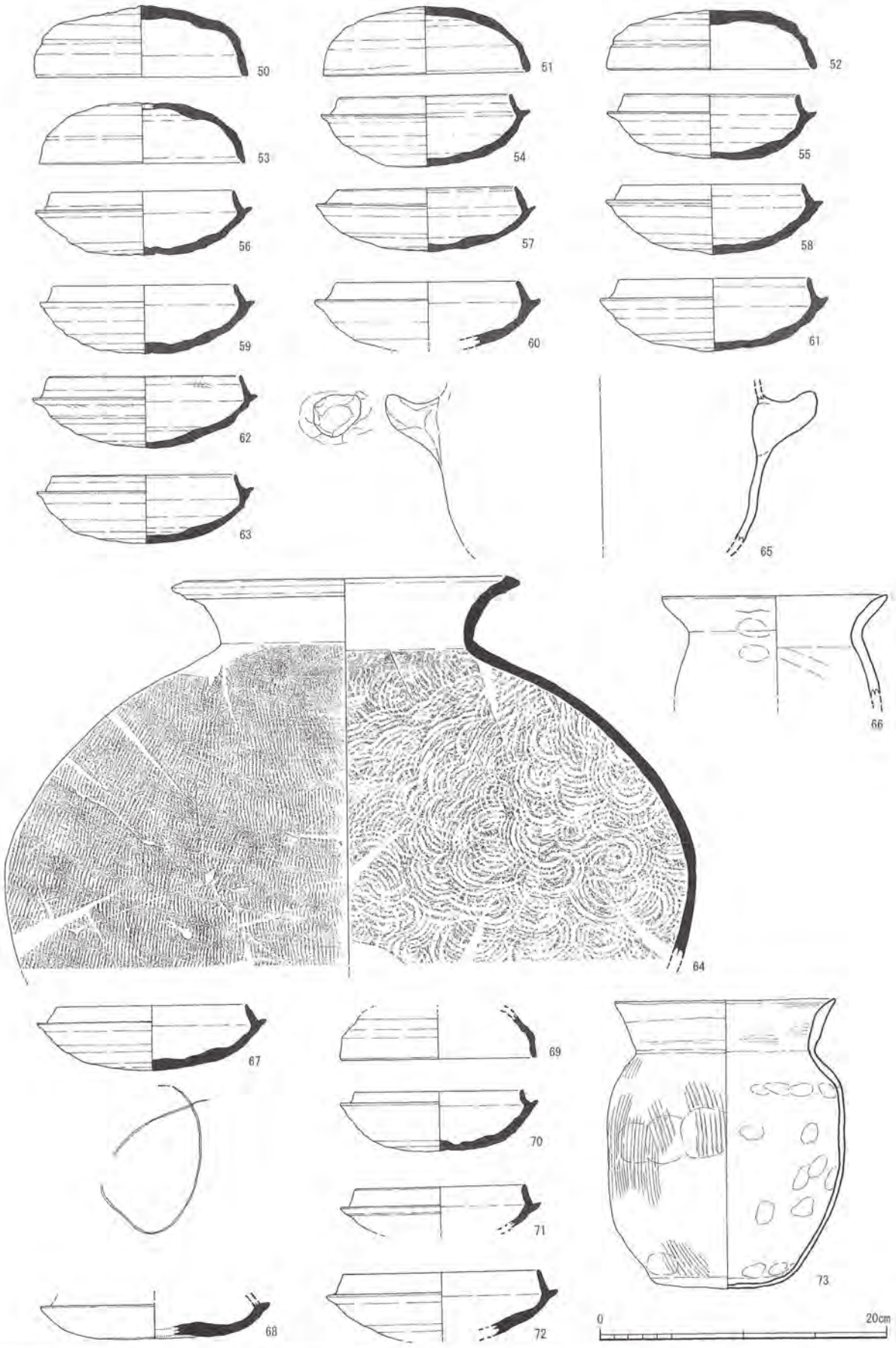


図21　竪穴状遺構１（5012）断面図　（S＝1/50）



50～66：竪穴建物1（5089）　67：竪穴建物2（5335）　68：竪穴状遺構1（5012）69・70：土坑3（5040）　71～73：土坑4（5332）

図22　竪穴建物1・2、竪穴状遺構1、土坑3・4出土土器

土坑３（5040）（図 22） 第４－２層下面、竪穴建物１の東で検出した土坑である。長径 4.3 m、短径 3.3 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は南北に長い不整形を呈する。埋土は１層で、落ち込み状に埋没している。遺物は須恵器杯蓋（69）・杯身（70）が出土している。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ 10 型式）と考えられる。

土坑４（5332）（図 22・図 24） 第４－２層下面、溝６に重複して検出した土坑である。溝６に後出する。長径 2.0 m、短径 1.85 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は長楕円形を呈する。埋土は１層で、暗灰黄色細砂で炭化物を微量に含む。遺物は土師器平底鉢（73）、須恵器杯身（71・72）が出土している。（73）はくの字に外反する口縁部をもち、底部は平底を呈する。内外面にユビオサエが顕著に残る。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ 10 ～ＴＫ 217 型式）と考えられる。

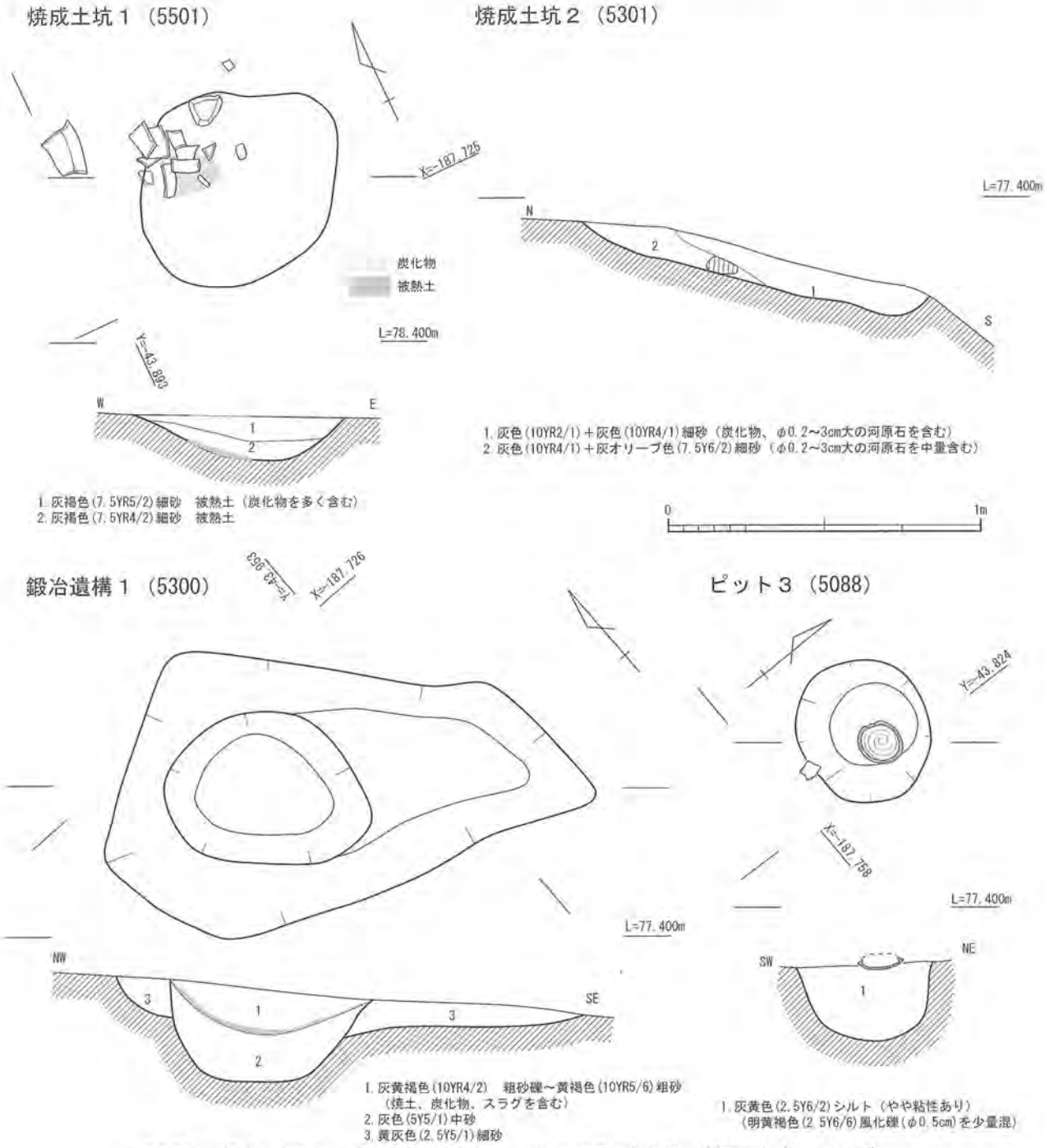


図 23　焼成土坑１・２、鍛冶遺構１、ピット３平面図・断面図（S＝1/20）

土坑５（5329）（図 26） 第４－２層下面、調査区南東（１－４区）で検出した土坑である。溝４と重複し溝４が後出する。長径 5.5 m、短径 3.0 m、深さ 0. １mを測り、平面形は長楕円形を呈する。埋土は１層で、極めて浅い土坑である。遺物は土師器長胴甕(74)が出土している。(74)は外面は縦方向のハケの後、ナデ。内外面ともに粘土紐接合痕を顕著に残し、ほぼ完形に復元できる。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ 10 型式）と考えられる

ピット３（5088）（図 23） 第４－２層下面、調査区南東（１－２区）で検出したピットである。円形で直径 0.45 m、深さ 0.25 mを測る。遺物は埋土上層から完形の須恵器杯身（115）が出土

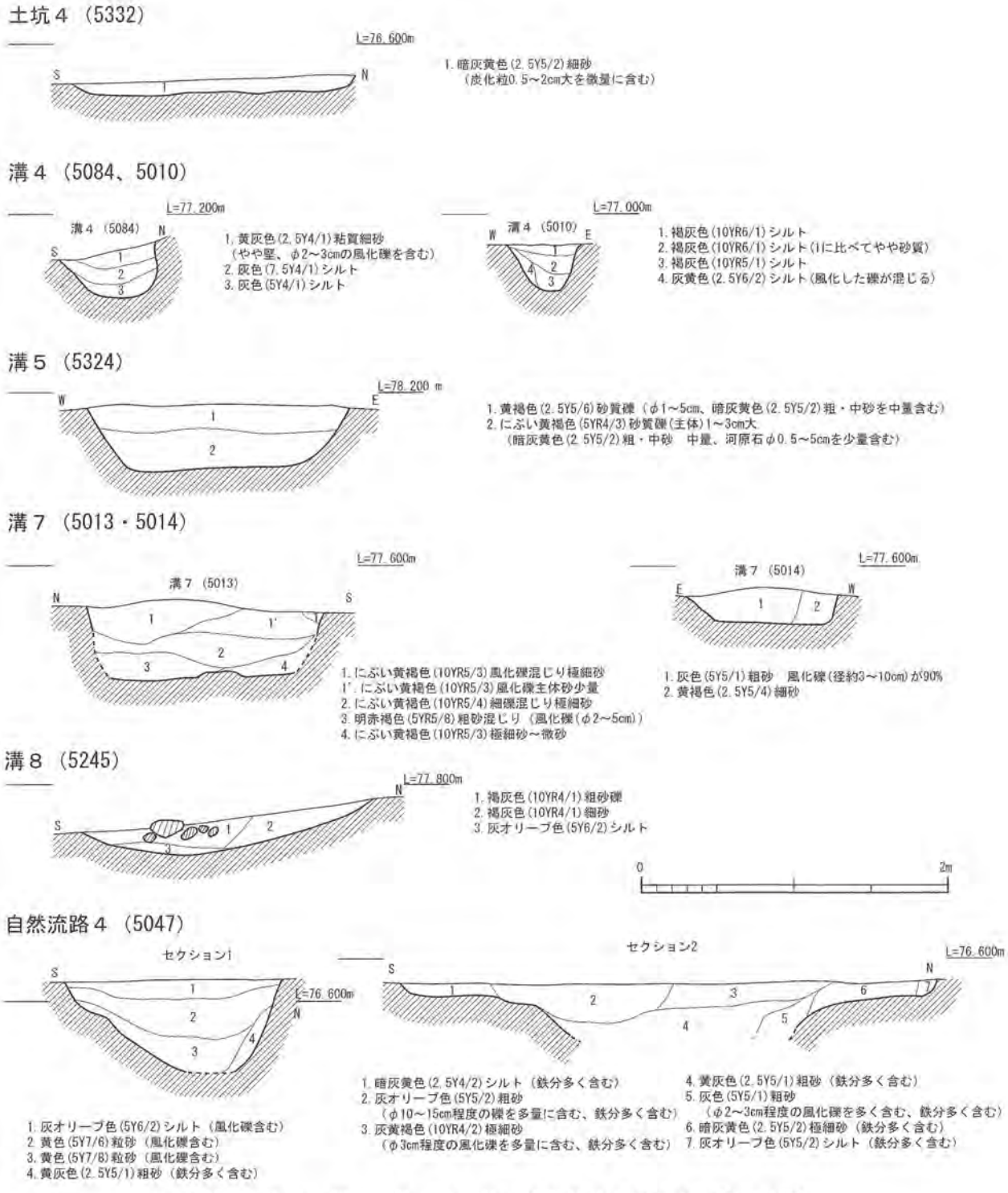


図 24 土坑４、溝４・５・７・８、自然流路４断面図 (S=1/40)

している。遺構の時期は古墳時代後期（ＴＫ 10 ～ＴＫ 43 型式）と考えられる

溝４（5084・5010）（図 24・図 26） 第４－２層下面、調査区中央（１－２区～１－４区）で検出した。北西方向から南東方向へ、調査区を横断するように流れる小溝である。竪穴建物２、竪穴建物３、土坑５、溝６と重複し、溝４が後出する。また溝５、自然流路３と重複し、これらが後出する。

遺構の規模は、検出長 70.0 ｍ以上、幅 0.5 ～ 0.65 ｍ、深さ 0.3 ～ 0.35 ｍを測る。埋土は３～４層に分けられ褐灰色～灰色のシルトが水平に堆積する。遺物は、土師器、製塩土器（77）、須恵器蓋(78)が出土している。(77)は丸底Ⅱ式の製塩土器である。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ 10 ～ＴＫ 217 型式）と考えられる。

溝５（5324・5325）（図 24・図 26） 第４－２層下面、調査区中央（１－１区～１－４区）で検出した。北方向から南方向へ、途中屈曲しながら調査区を縦断する溝である。溝４と重複し溝５が後出する。幅 1.7 ～ 4.5 ｍ、深さ 0.45 ～ 0.8 ｍを測る。埋土は２層に分けられ、砂礫を多く含む黄褐色～にぶい黄褐色砂質礫からなる。遺物は、土師器甕（80・82）・椀形高杯（81）、製塩土器、須恵器杯身（79）が出土している。製塩土器は破片のため図化できなかった。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ 10 ～ＴＫ 43 型式）と考えられる。

溝６（5331・5399）（図 25・図 26） 第４－２層下面、調査区南（１－４区）で検出した。北

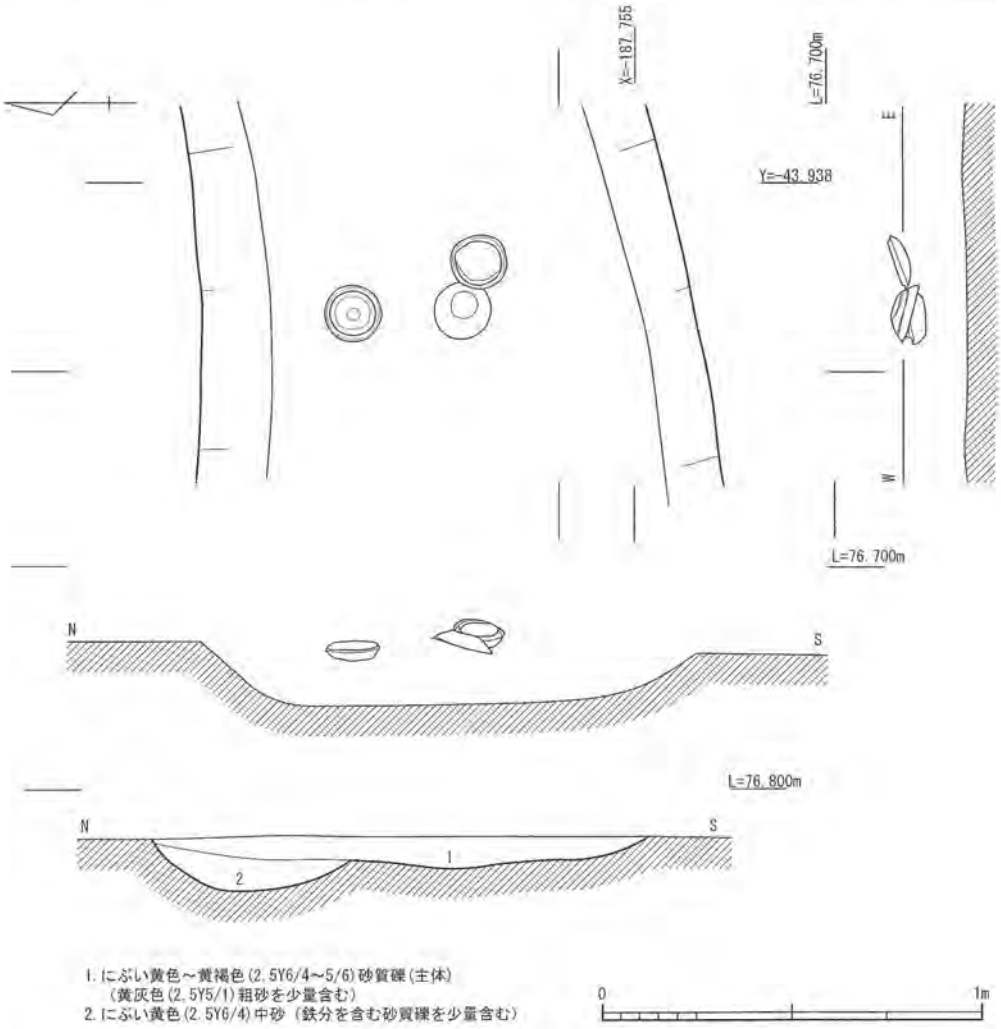
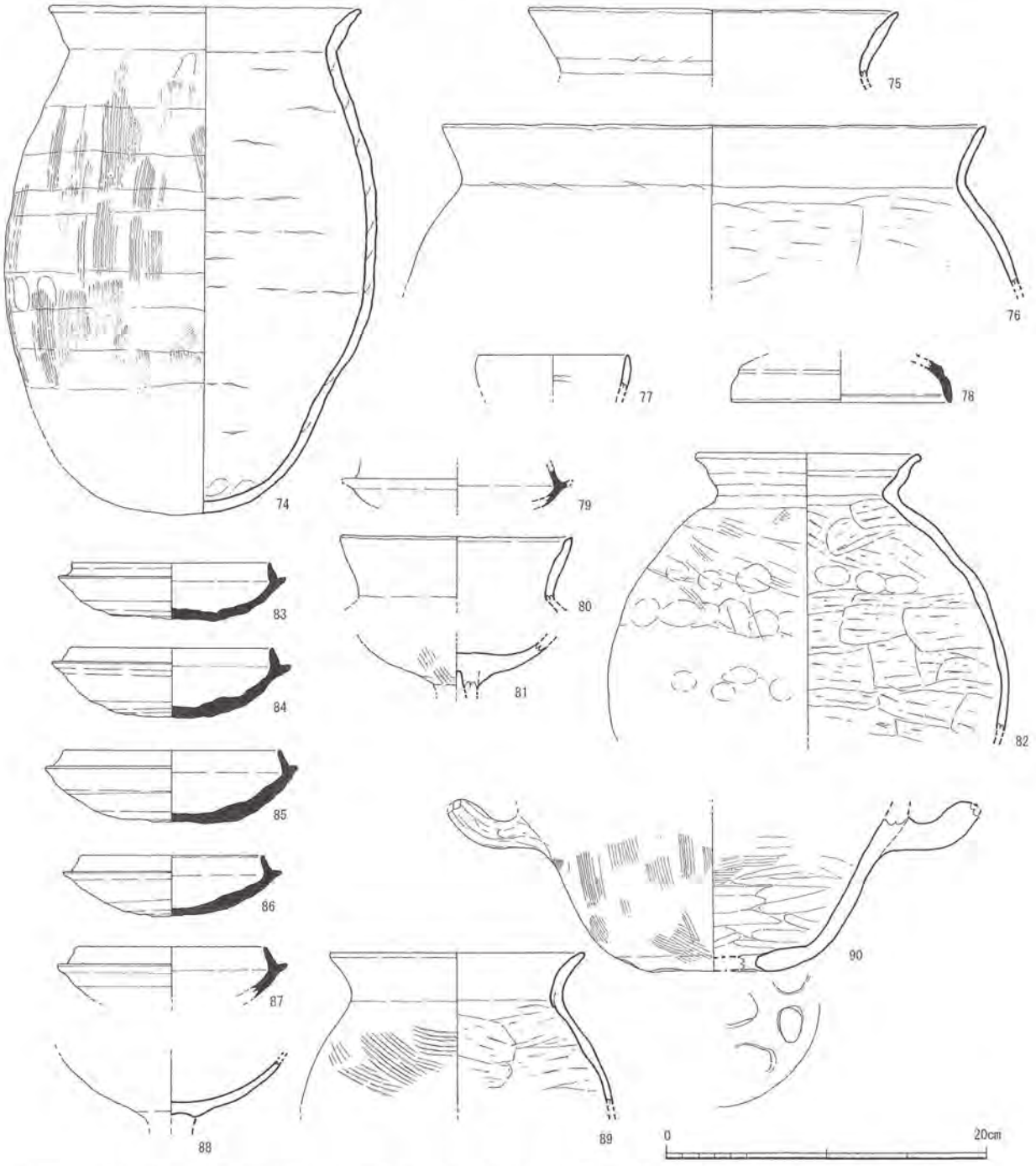


図 25 溝６（5331）平面図・断面図 （S＝1/20）

東方向から南西方向へ流れる小溝である。06－2区で溝6（7）としてこの溝の延長を検出している。南側は調査区外へと延びる。幅1.3ｍ、深さ0.15～0.2ｍを測る。埋土は2層に分けられ、にぶい黄色～黄褐色の砂礫～中砂からなる。上層からは須恵器杯身(83～85)が折り重なって出土した。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ10型式）と考えられる。

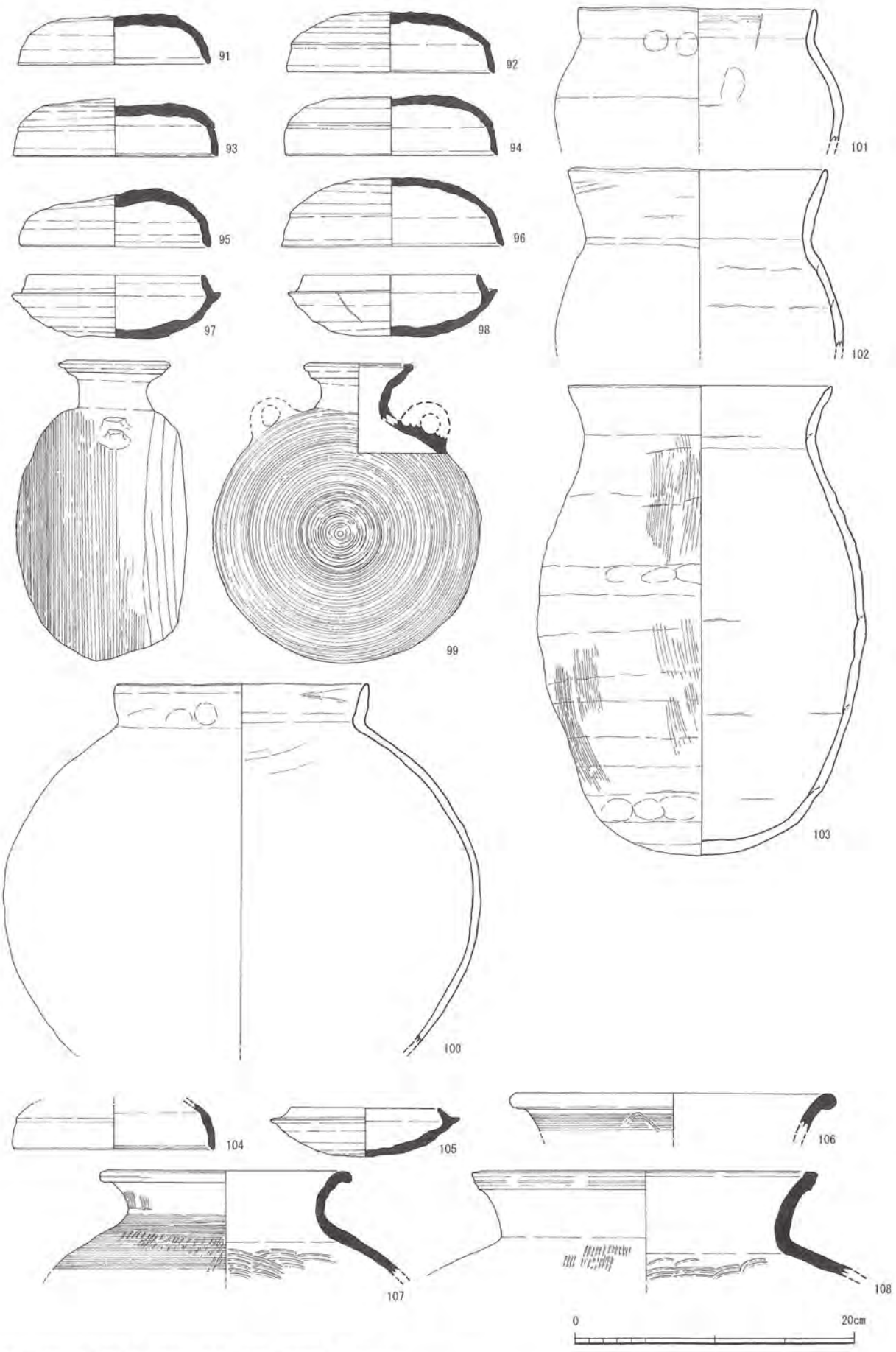
溝7（5013・5014）（図24・図26） 第4－2層下面、調査区中央（1－1区～1－4区）で検出した。北方向から南方向へ、蛇行しながら調査区を流れる溝である。溝5と重複し、溝7が後出する。時期により方向を違え、流れていたと考えられる。幅1.9ｍ、深さ0.2ｍを測る。

遺物は、土師器甕（89）・椀形高杯（88）・甑（90）、須恵器杯蓋（86・87）が出土している。（89）



74：土坑5（5329） 75・76：焼成土坑1（5501） 77・78：溝4（5084） 79～82：溝5（5325） 83～85：溝6（5331） 86～90：溝7（5013・5014）

図26 土坑5、焼成土坑1、溝4～7出土土器



91 ～ 103：自然流路 3（5064）　104 ～ 108：自然流路 4（5047）

図 27　自然流路 3・4 出土土器

は肩部外面を粗いハケ、内面はヘラケズリを施す。(90)は把手がやや低い位置に付き、長く伸びる。底部は平底で、中央孔が１孔、その周囲に円形10孔に復元される蒸気孔をもつ。内面はヘラナデによる。遺構の時期は古墳時代後期（ＴＫ10型式）と考えられる。

溝８（5245）（図24） 第４－４層下面、調査区北西（１－３区）で検出した。北東方向から南西方向に流れ、北側は調査区外に延びる。幅1.9ｍ、深さ0.3ｍを測る。溝中央からは直径10～15㎝大の亜円礫がまとまって出土した。遺物の出土は認められない。

自然流路３（5064）（図27） 第４－２層下面、調査区北（１－３区）で検出した。北東方向から西方向へ流れる自然流路である。自然流路４と重複し、これが後出する。幅4.0ｍ、深さ0.4ｍを測る。上層から完形の遺物が多数出土した。調査時はこれらを自然流路に切り込んだ土坑として遺物を取り上げたが、再度検討した結果、自然流路の上層から出土した遺物と判断した。

遺物は土師器甕（100～102）・長胴甕（103）、須恵器杯蓋（91～96）・杯身（97・98）・提瓶（99）

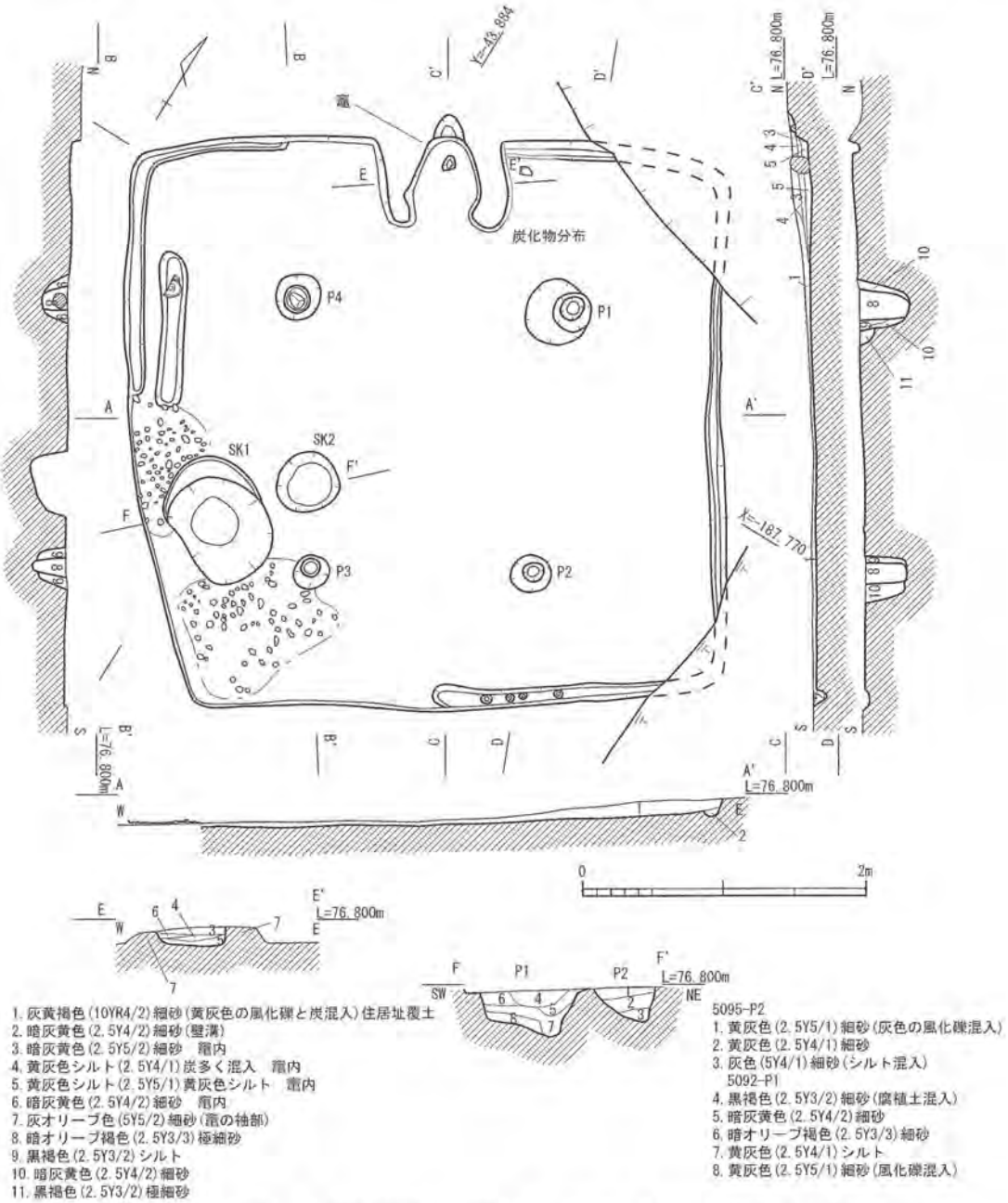


図28　竪穴建物３（5095）平面図・断面図　（S＝1/50）

が出土している。(98) は底部外面にヘラ記号をもつ。(99) は環状の把手がつく、外面はカキメを施す面と、回転ヘラケズリを施す面がある。ほぼ完形で出土している。(103) は完形の長胴甕で、外面は縦方向のハケのちナデ。粘土紐接合痕を顕著に残す。遺構の時期は、古墳時代後期（MT 15 ～TK 10 型式）と考えられる。

自然流路４（5047）（図 27） 第４－２層下面、調査区北（１－３区）で検出した。北東方向から西方向へ流れる自然流路で、06 － 2 区でこの溝の延長を検出している。自然流路３と重複し、自然流路４が後出する。幅 1.45 m、深さ 0.6 mを測る。埋土中に風化礫、鉄分を多く含む。

遺物は須恵器杯蓋（104）・杯身（105）・甕（106 ～ 108）が出土している。(106) は頸部にヘラ記号「へ」をもつ。遺構の時期は、古墳時代後期（TK 10 ～TK 43 型式）と考えられる。

竪穴建物３（5095）（図 28・図 31） 第４－２層下面、調査区南西（１－２区）で検出した。建物北東で溝４と重複する。方形４本柱の竪穴建物で、南北 4.1 m、東西 4.2 m、深さ 0.05 m を測る。

建物の構造は、建物北側に造り付け竈を備え、主柱穴４基、周壁溝、貯蔵穴、土坑をもつ。竈は燃焼部、袖部、煙道部が残存しており、燃焼部は長さ 0.8 m、幅 0.55 mで、燃焼部の下面中央には直径 0.1 ～ 0.2 mの小孔を検出しており、支脚痕と考えられる。周壁溝は南西隅が途切れる。南西隅の床面には、礫敷と考えられる直径１～５㎝大の円礫が集中して出土している。柱穴

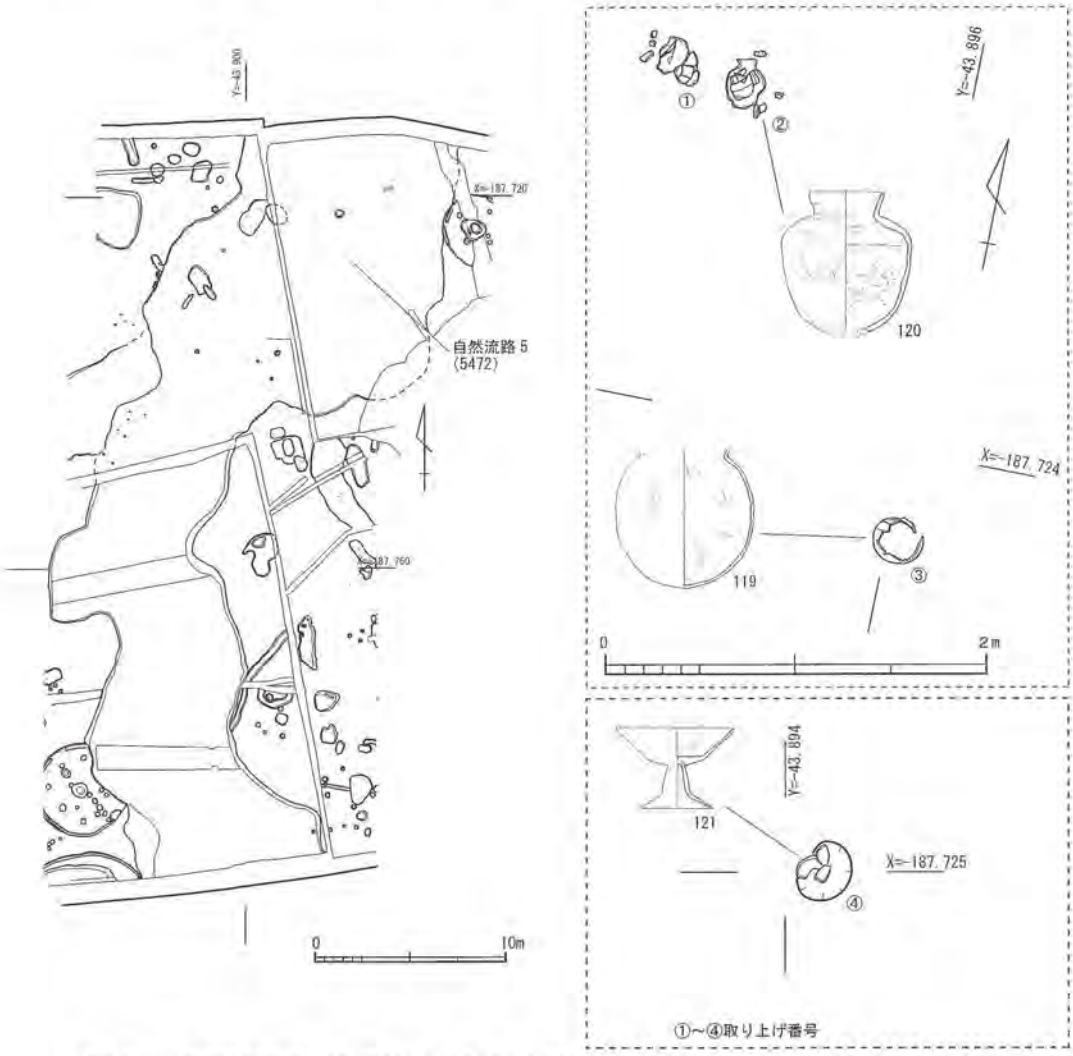


図 29　自然流路５（5472）平面図・遺物出土状況図　(S＝1/40、S＝1/400)

は円形で直径0.25～0.35ｍ、深さ0.25～0.4ｍを測る。貯蔵穴、土坑は建物の南西、Ｐ３の北で検出している。

遺物は土師器高杯（111）、須恵器杯蓋（109）・杯身（110）が出土している。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ10型式）と考えられる。

土坑６（5162）（図31）　第４－２層下面、自然流路３に重複して検出した土坑である。長径1.1ｍ、短径0.95ｍ、深さ0.1ｍを測り、平面形は楕円形を呈する。遺物は須恵器杯身（112・113）が出土している。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ10型式）と考えられる。

自然流路５（5472）（図29・図30・図31）　第４－４層下面、調査区東（１－１区～１－４区）で検出した自然流路である。第４－４層下面で竪穴建物10をはじめ多くの遺構と重複し、自然流路５が後出する。北方向から南方向に流れ、調査区を縦断する。南北端は調査区外へと続く。検出長は60.0ｍ以上、幅15.55ｍ、深さ0.5ｍ以上を測る。最も深い場所では流路底を確認出来ていない。南側では上面が削平を受け、流路のごく一部しか検出していない。流路中では遺物の出土はわずかである。遺物は土師器甕（119・120）・有稜高杯（121）が出土している。遺構の時期は、古墳時代前期から古墳時代後期と考えられる。

自然流路６（5186・5324・5178・5259）（図32・図33）　第４－４層下面、調査区北西（１－１区～１－４区）で検出した自然流路である。上層遺構面の自然流路４と重複し、これが後出する。

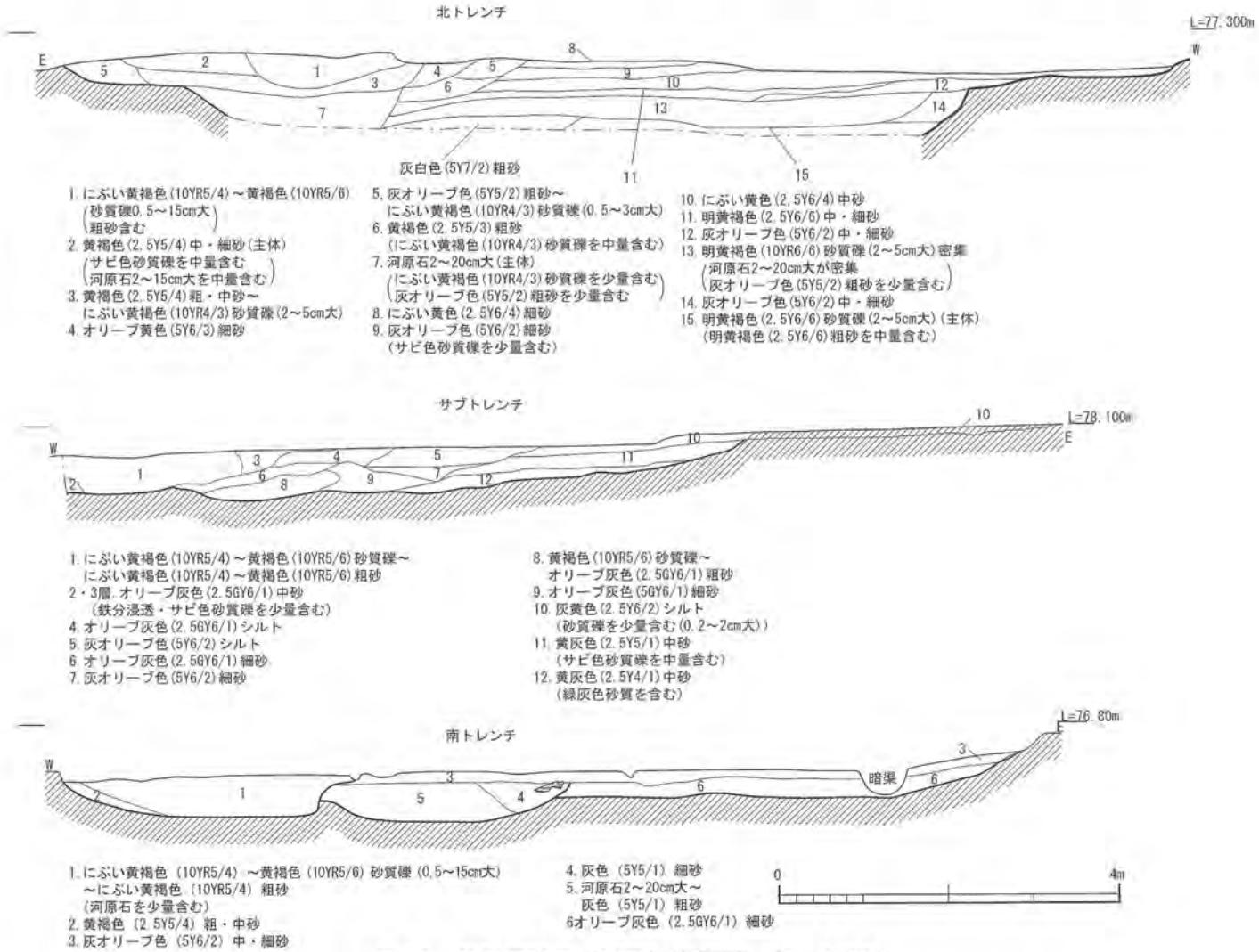
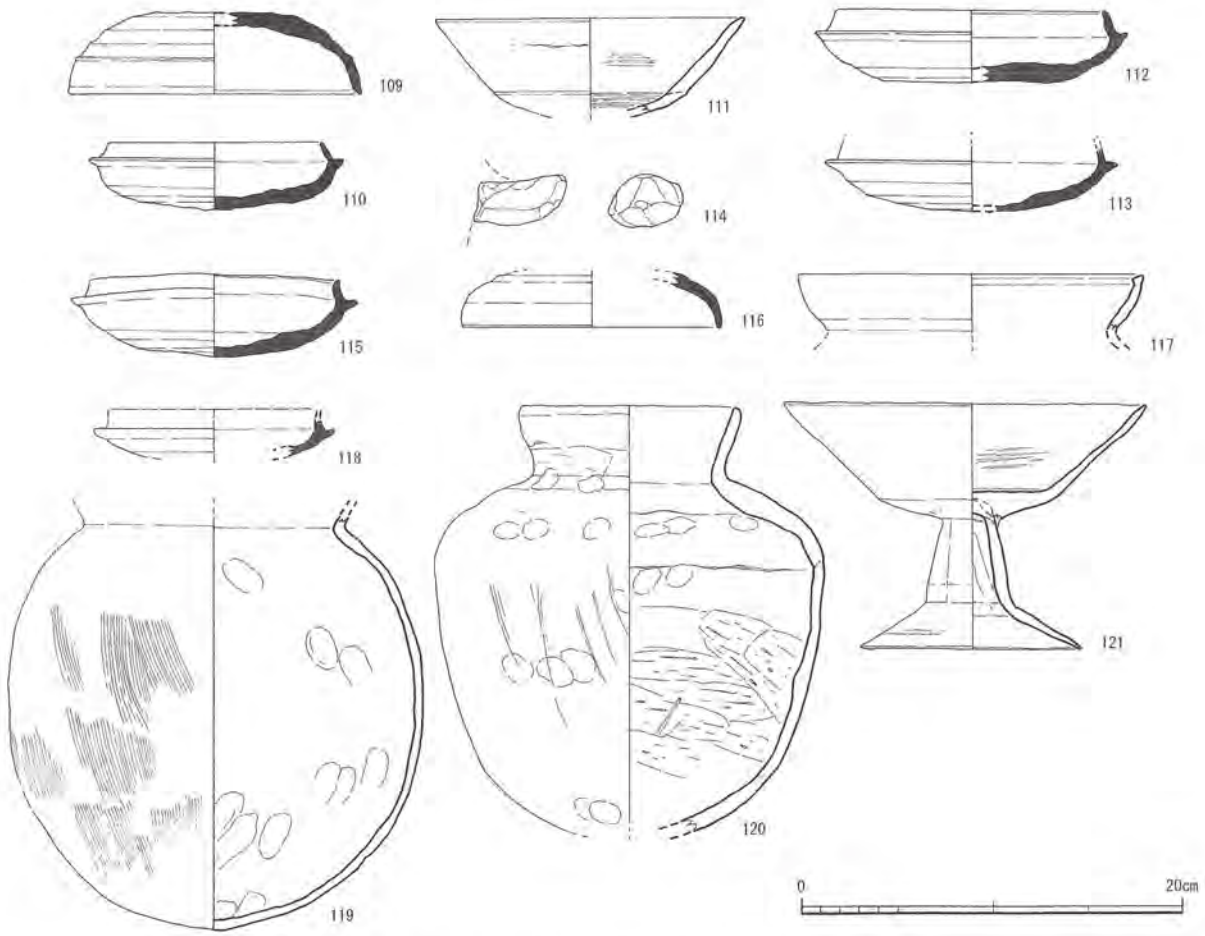


図30　自然流路５（5472）断面図　（S＝1/80）



109～111：竪穴建物3（5095） 112・113：土坑6（5162） 114：ピット2（5087） 115：ピット3(5088） 116：溝9（5179） 117：溝10（5194）
118～121：自然流路5（5472）

図31　竪穴建物3、土坑6、ピット2・3、溝9・10、自然流路5出土土器

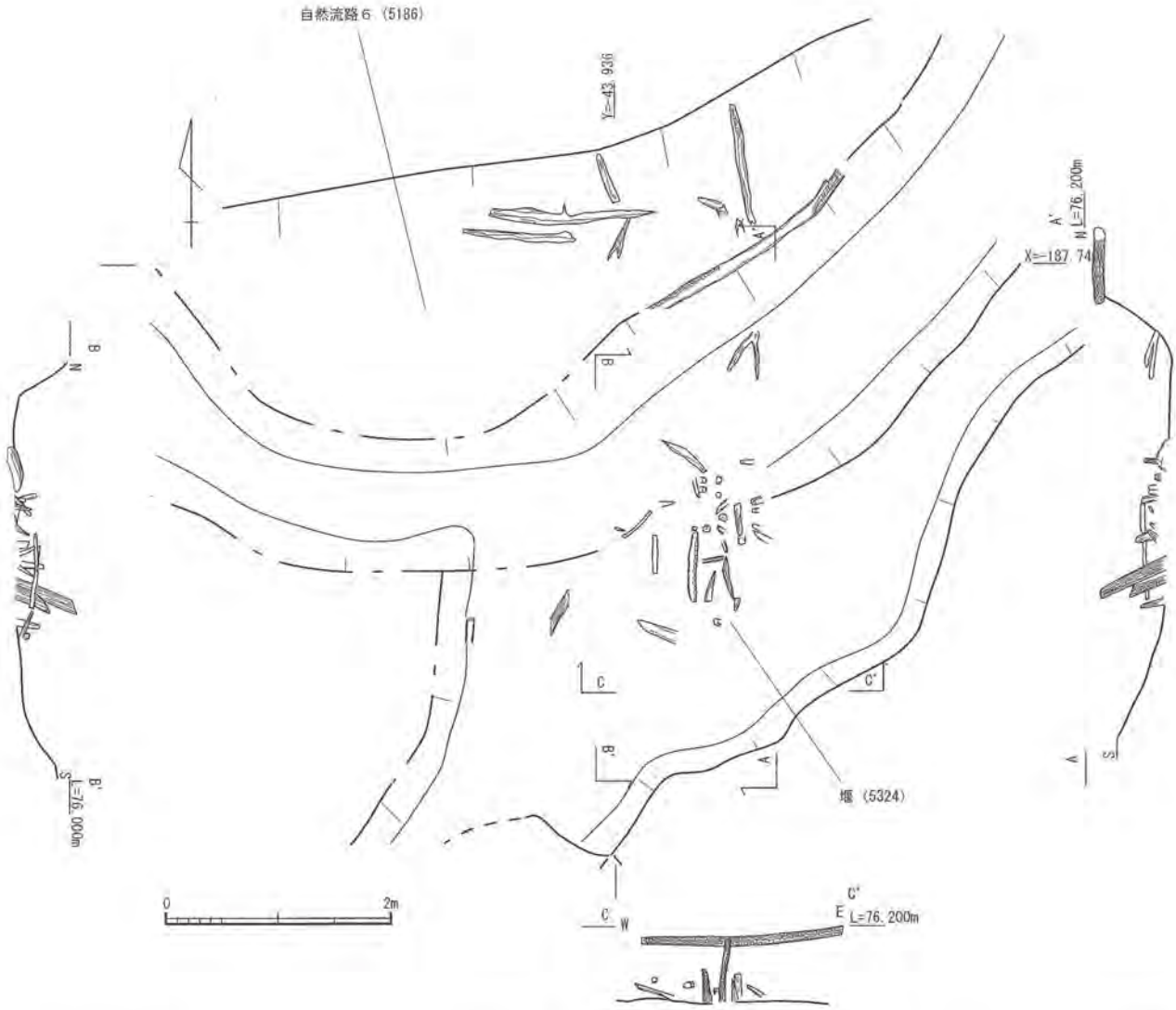
また、弥生時代の方形周溝墓１、方形周溝墓２と重複し、自然流路６が後出する。調査区外に西に延び、06－２区で自然流路６（46）としてこの溝の延長を検出している。

自然流路６は東西に流れる自然流路（5186）と堰（5324）、そこから分岐する溝（5259）、溝（5178）で構成される。自然流路６（5186）は検出長65.0ｍ以上、幅6.4ｍ、深さ0.6ｍ以上を測る。深いところでは流路の底は確認できていない。

堰(5324)は、流路底に垂直に打ち込まれた木杭と、杭に対して直角に据えた木杭・自然木からなる。これらは、自然流路６の水量を調節する目的で設けられた水制と考えられる。堰の西では溝（5259・5178）が取り付き、自然流路６から水を流す水路として機能していたと考えられる。

なお、自然流路６については、調査時に上層遺構面の自然流路４の掘削段階で自然流路６を検出したため、遺物の取り上げや検出層位の記録に混乱がみられる。

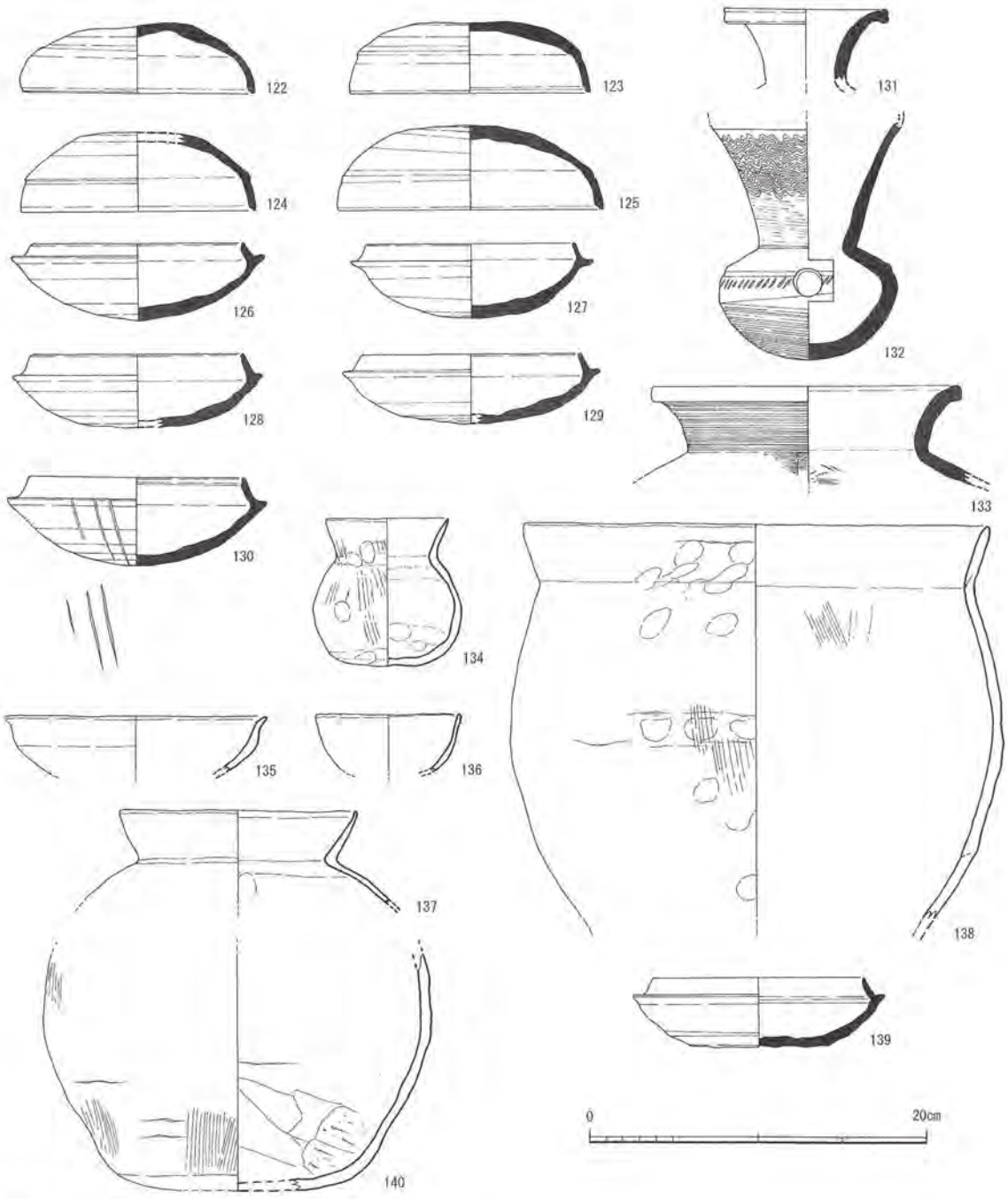
遺物は土師器小壺（134）・杯（135）・甕（137）・長胴甕（138・140）、製塩土器（136）、須恵器杯蓋（122～125）・杯身（126～130・141）・壺Ｌ（131）・鼈（132）、甕（133）が出土している。（130）は底部外面にヘラ記号「｜｜｜」をもつ。（136）は丸底Ⅱ式の製塩土器である。（131）は上層遺構面の自然流路４の遺物の混入とみられる。遺構の時期は、古墳時代後期（ＴＫ10～ＴＫ217型式）と考えられる。



自然流路4（5047）
1. 灰色(5Y5/1)　粗砂礫(0.2～2cm大主体)
　（鉄分、砂質礫を多量に含む）
2. 灰色(5Y5/1)粗砂
　（鉄分、砂質礫を多量に含む）
3. 黄褐色(2.5Y5/6)　砂質礫(主体)＋灰オリーブ色(7.5Y6/2)中砂
4. 灰色(5Y5/1)　粗砂礫(2～5cm大主体)
　（淡いオリーブ色砂質礫を多量に含む。鉄分砂質礫を多量に含む）
5. 灰オリーブ色(7.5Y5/2)　粗砂礫(0.5～10cm大主体)
　鉄分砂質礫少量含む

自然流路6（5186）
6. 灰黄色(2.5Y6/2)砂質土
　（鉄分沈着、炭化粒1mm未満　極微量含む）
7. 灰色(2.5Y5/1)シルト鉄分沈着、炭化粒1mm未満、微量含む
7'. 灰オリーブ色(5Y6/2)　粗・中砂
8. 灰色(7.5Y5/1)シルト(弱粘質化)オリーブ灰色(5GY6/1)細砂含む
9. 褐灰色(10YR5/1)砂質土（鉄分沈着）
10. オリーブ灰色(5GY6/1)粗砂礫(濃緑灰色砂質礫を中量含む)

図32　自然流路6（5186・5324）平面図・立面図・断面図　(S＝1/60、S=1/40)



122～140：自然流路6（5186）

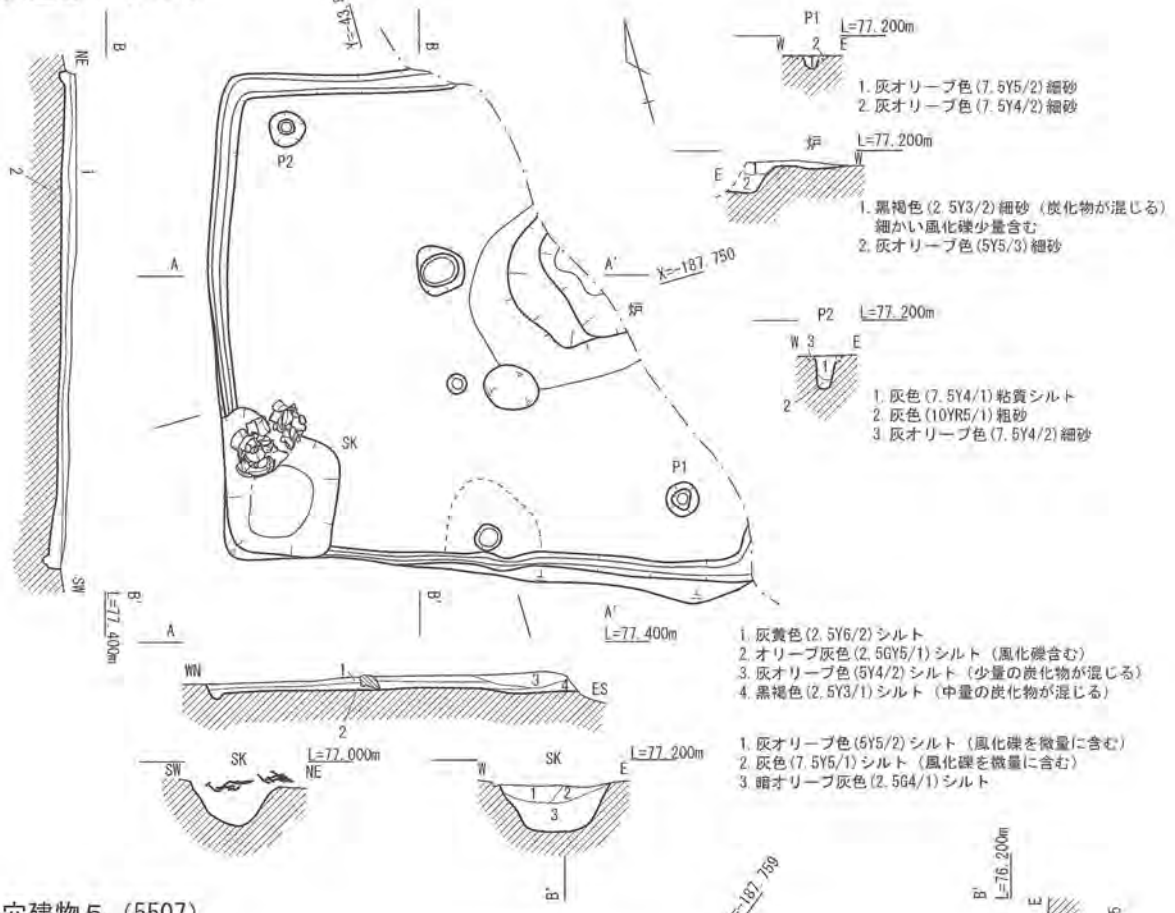
図33　自然流路6（5186）出土土器

4．古墳時代前期の遺構と遺物

竪穴建物4（5184）（図34・図36）　調査区南西（1－2区）で検出した。建物北東は自然流路2と重複し、削平される。方形の竪穴建物で、南北3.3m、東西3.6m以上、深さ0.1mを測る。

建物の構造は建物中央の東寄りに炉を築き、主柱穴2基、周壁溝、貯蔵穴をもつ。炉はその東側が削平されるが、埋土は2層に分かれ上層は炭化物が混じる。炉西側には直径0.3mのピットを検出した。主柱穴は南東隅と北西隅でのみで検出し、円形で直径0.2～0.25m、深さ0.1～0.25mを測る。東側は削平され不明であるが、長方形2本柱の竪穴建物と考えられる。貯蔵穴は建物南西隅で検出し、長径0.8m、短径0.75m、深さ0.3mを測る。貯蔵穴上面からは、完形で置かれていたと考えられる土師器直口壺（144）が出土した。

竪穴建物４（5184）



竪穴建物５（5507）

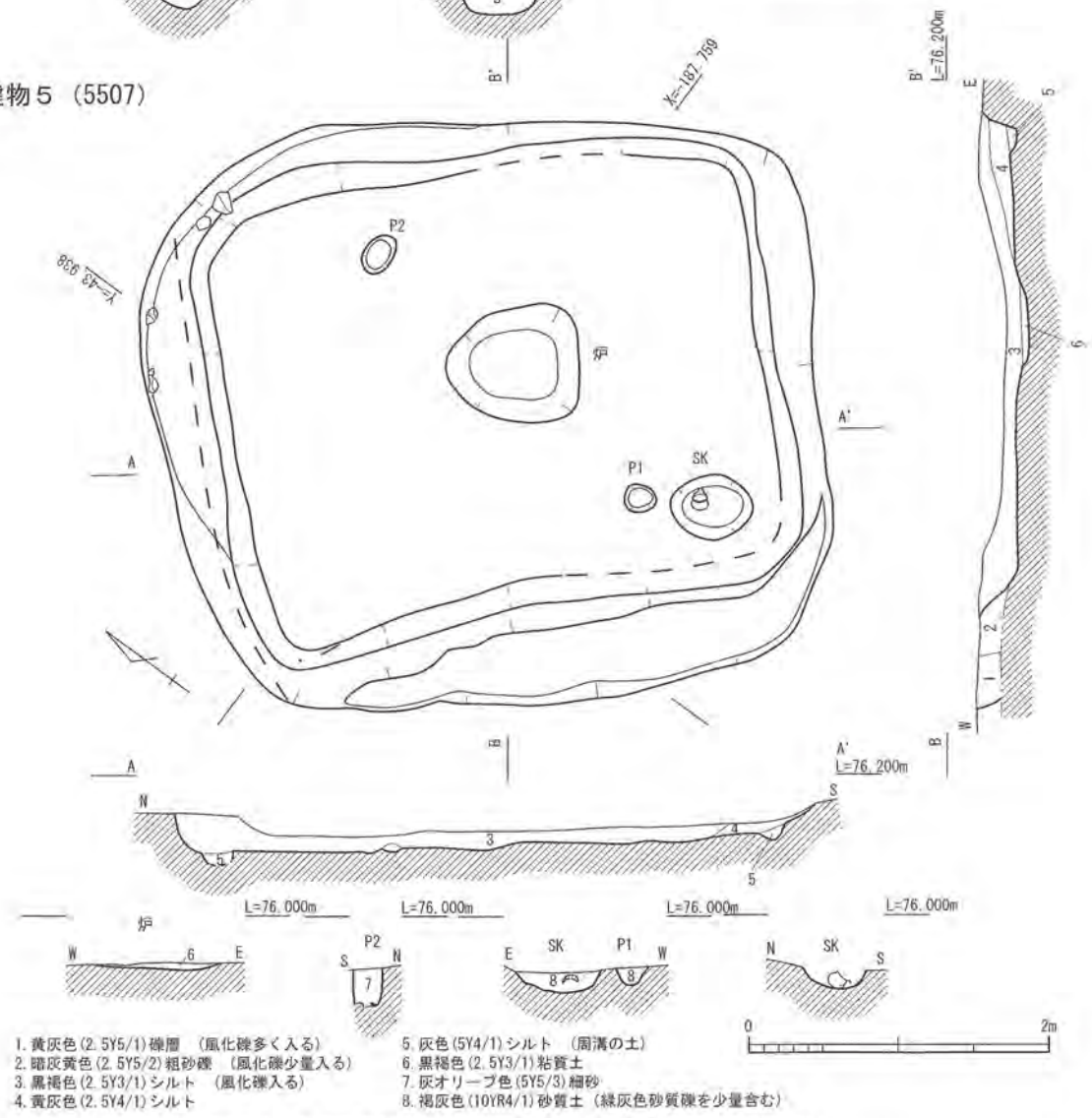
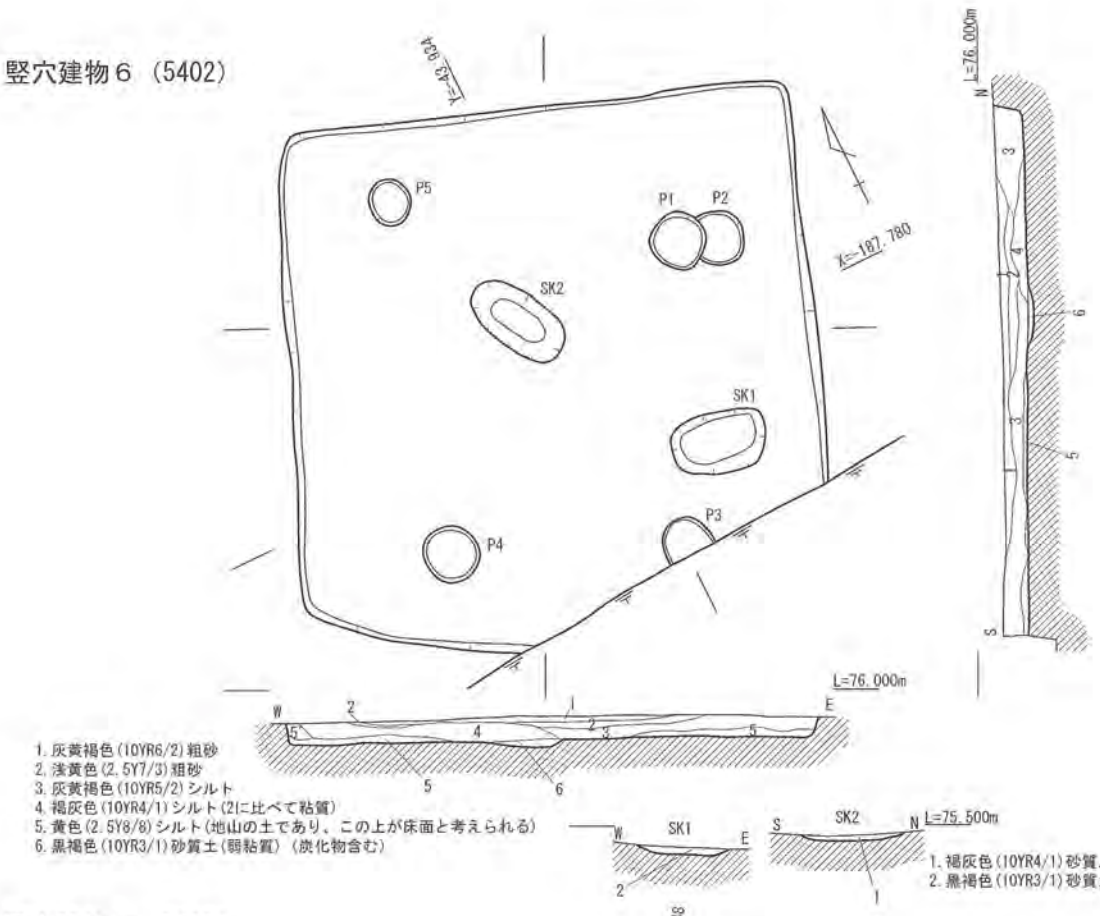


図 34　竪穴建物４・５平面図・断面図　（S＝1/50）

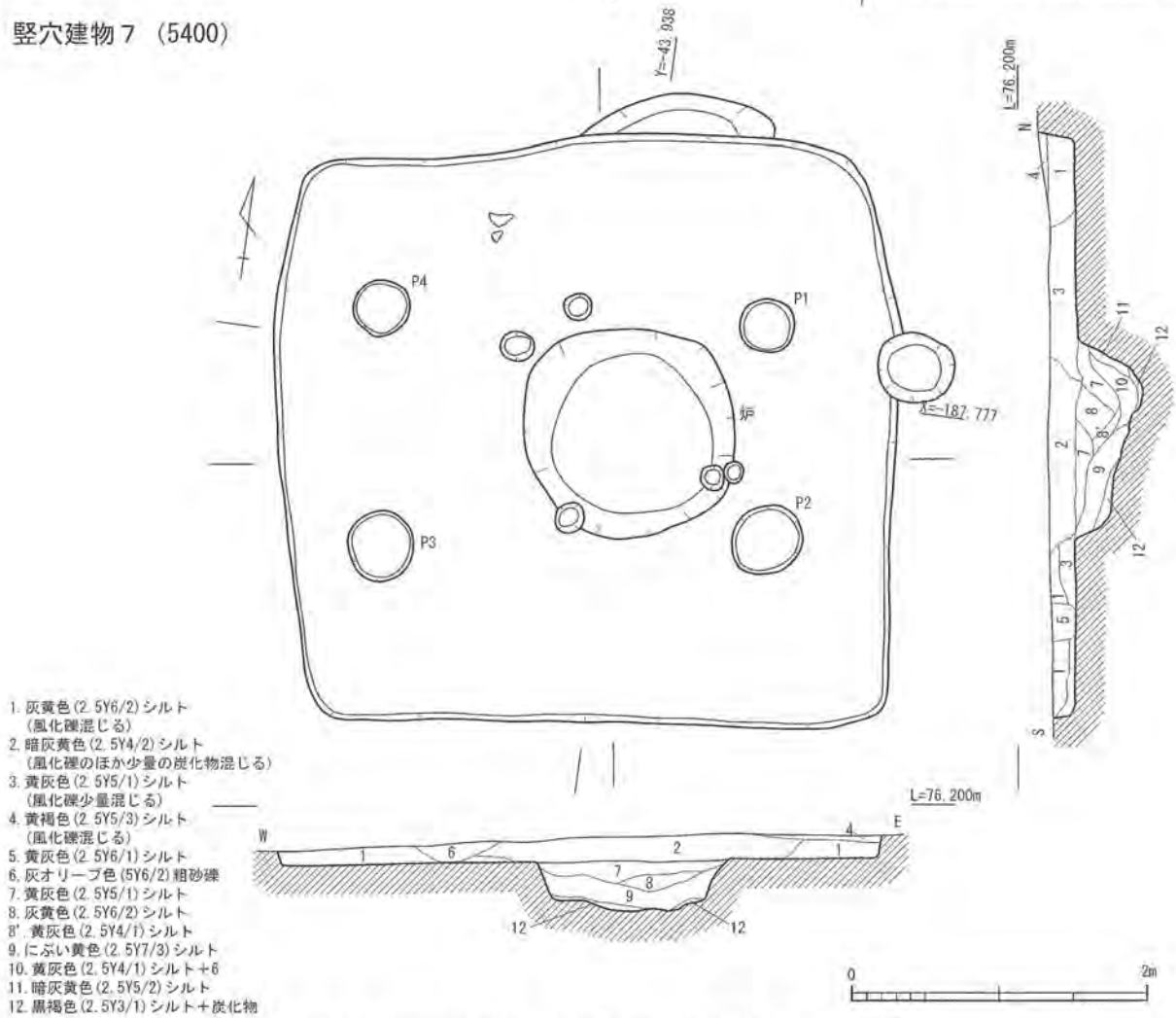
竪穴建物６（5402）



1. 灰黄褐色(10YR6/2)粗砂
2. 淡黄色(2.5Y7/3)粗砂
3. 灰黄褐色(10YR5/2)シルト
4. 褐灰色(10YR4/1)シルト(2に比べて粘質)
5. 黄色(2.5Y8/8)シルト(地山の土であり、この上が床面と考えられる)
6. 黒褐色(10YR3/1)砂質土(弱粘質)（炭化物含む）

1. 褐灰色(10YR4/1)砂質土(炭化物含む)
2. 黒褐色(10YR3/1)砂質土(弱粘質)(炭化物含む)

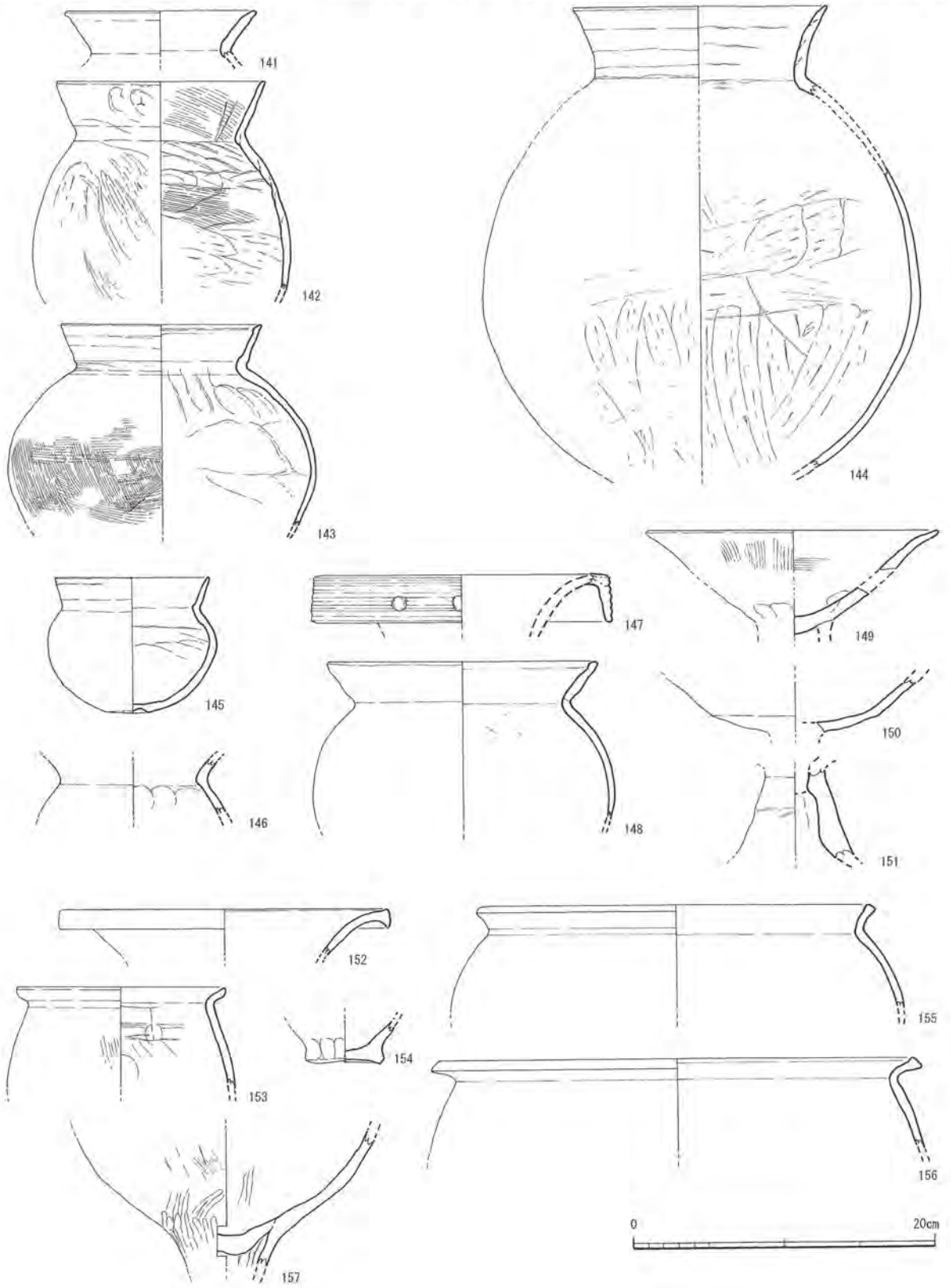
竪穴建物７（5400）



1. 灰黄色(2.5Y6/2)シルト
(風化礫混じる)
2. 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト
(風化礫のほか少量の炭化物混じる)
3. 黄灰色(2.5Y5/1)シルト
(風化礫少量混じる)
4. 黄褐色(2.5Y5/3)シルト
(風化礫混じる)
5. 黄灰色(2.5Y6/1)シルト
6. 灰オリーブ色(5Y6/2)粗砂礫
7. 黄灰色(2.5Y5/1)シルト
8. 灰黄色(2.5Y6/2)シルト
8'. 黄灰色(2.5Y4/1)シルト
9. にぶい黄色(2.5Y7/3)シルト
10. 黄灰色(2.5Y4/1)シルト＋6
11. 暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト
12. 黒褐色(2.5Y3/1)シルト＋炭化物

図 35　竪穴建物６・７平面図・断面図　（S＝1/50）

遺物は、土師器甕（141 ～ 143）・直口壺（144）が出土している。（142）は内外面にヘラケズリを施す。（143）は口縁部が内湾し、端部は内傾する面を作り肥厚する布留形甕である。（144）は破片が多く完形には復元できなかった。内面ヘラケズリ、外面にも浅いヘラケズリを施す。遺構



141 ～ 144：竪穴建物 4（5184） 145・146：竪穴建物 5（5507）SK（5521） 147 ～ 151：竪穴建物 6（5402） 152 ～ 156：竪穴建物 7（5400） 157：竪穴建物 7（5400）炉（5436）

図 36　竪穴建物 4 ～ 7 出土土器

の時期は、古墳時代前期（布留２式）と考えられる。以下、古墳時代前期の土器の編年観は（寺沢 1986）による。

竪穴建物５（5507）（図 34・図 36）　調査区南（１－４区）で検出した。自然流路８と重複し、竪穴建物５が後出する。長方形２本柱の竪穴建物で、南北 3.9 m、東西 4.4 m、深さ 0.25 mを測る。

建物の構造は建物中央に炉を築き、主柱穴２基、周壁溝、貯蔵穴をもつ。炉は長径 0.9 m、短径 0.8 m、深さ 0.1 mを測り、平面形は不整円形を呈し浅い。主柱穴は南東隅と北西隅で検出した。平面形は円形で直径 0.2 ～ 0.25 m、深さ 0.1 ～ 0.3 mを測る。貯蔵穴は南東隅で検出した。長径 0.55 m、短径 0.4 m、深さ 0.15 mを測る楕円形の土坑である。貯蔵穴底面からは土師器小型丸底壺（145・146）が出土している。遺構の時期は、古墳時代前期（布留式前半）と考えられる。

竪穴建物６（5402）（図 35・図 36）　調査区南（１－４区）で検出した。建物南西隅は調査区

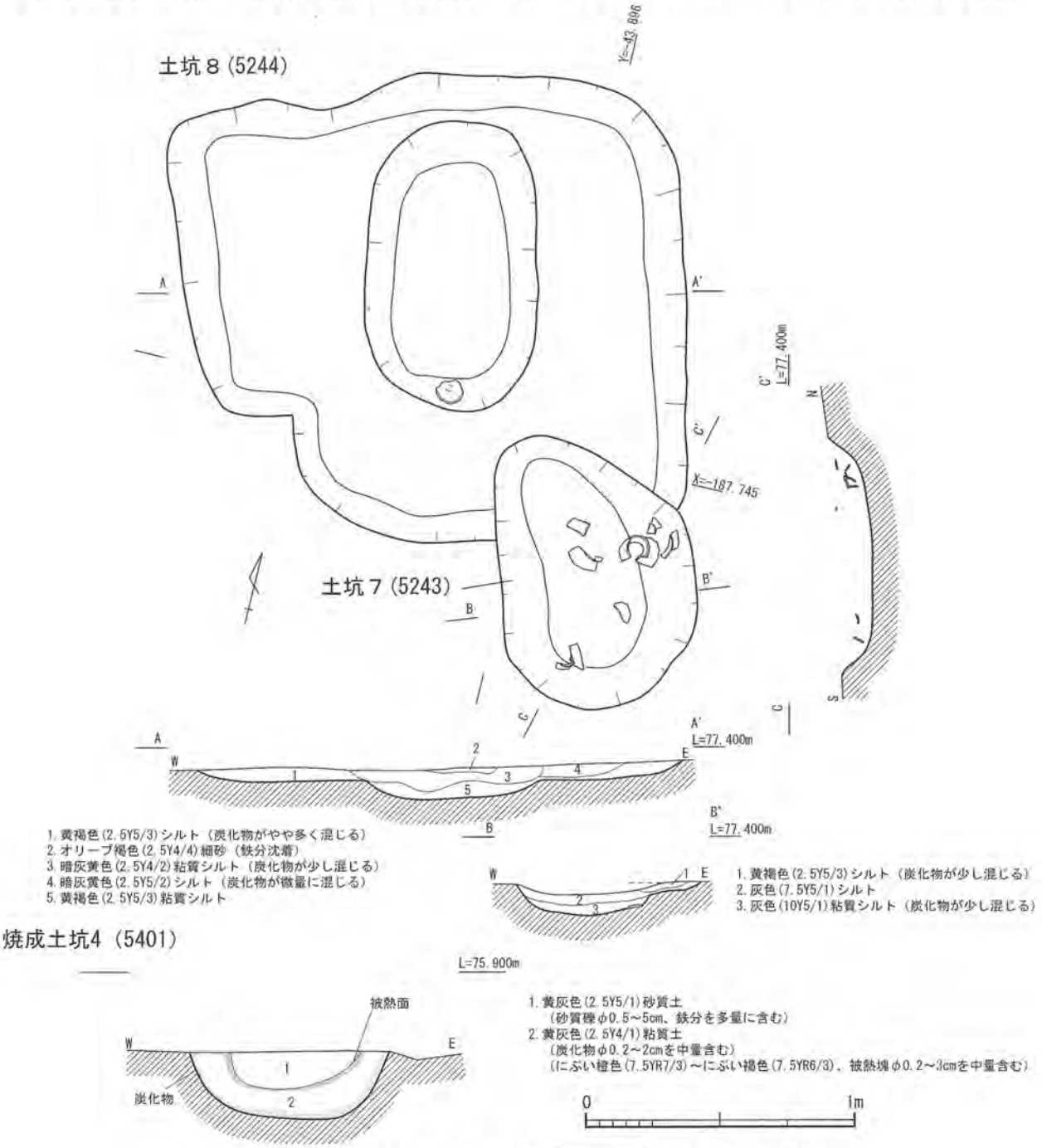
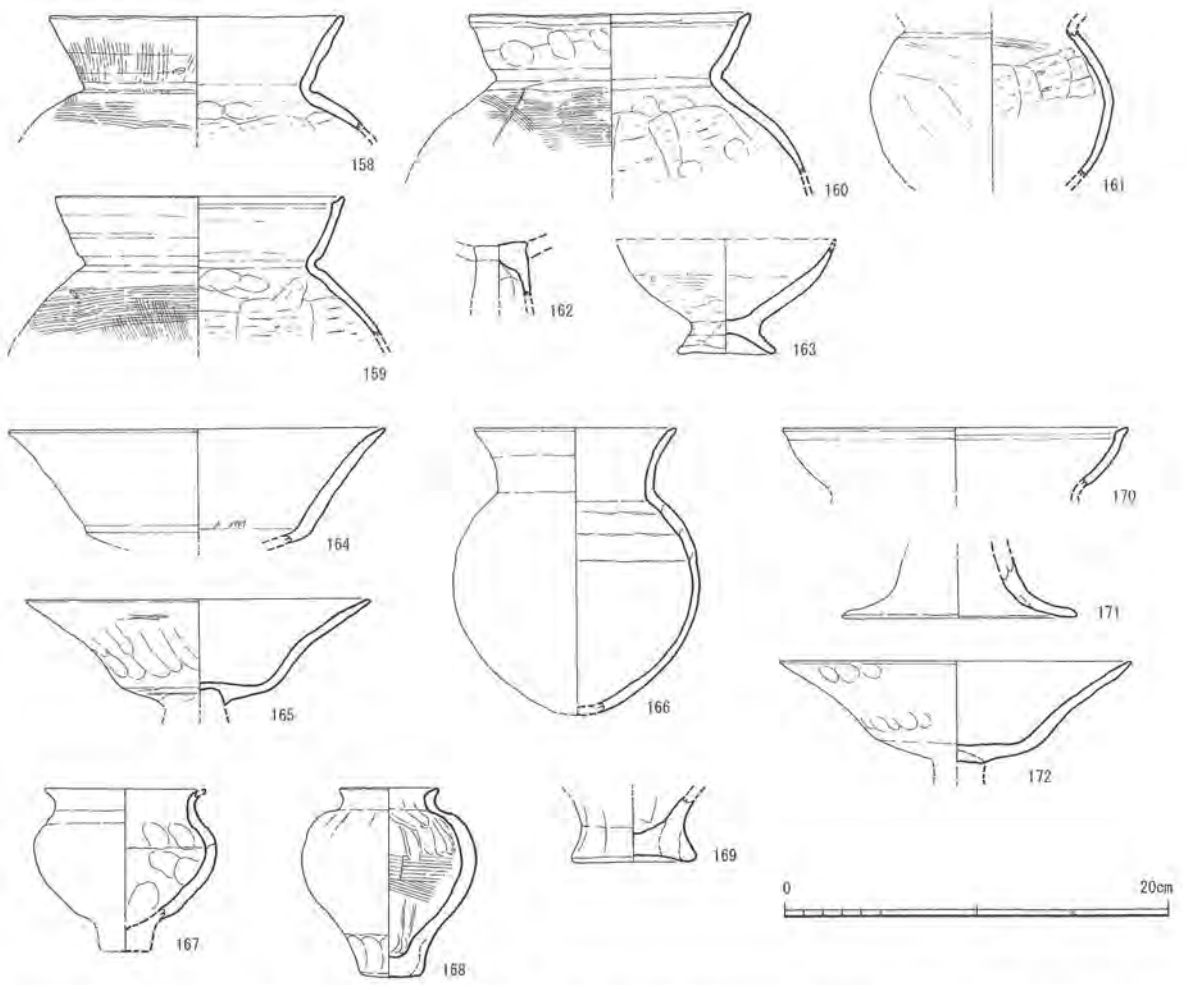


図 37　焼成土坑４・土坑７・８平面図・断面図　（S＝1/30）



158～161：土坑7（5243）　162・163：土坑8（5244）　164～166：土坑9（5365）　167～169：土坑10（5118）　170・171：溝11（5366）　172：溝12（5128）

図38　土坑7～10、溝11・12出土土器

外となる。方形4本柱の竪穴建物で、南北3.6ｍ、東西3.5ｍ、深さ0.15ｍを測る。

建物の構造は、主柱穴4基と土坑をもつ。炉、周壁溝は検出されていない。北東隅の主柱穴Ｐ1・Ｐ2は重複関係をもつ。主柱穴は円形で直径0.3～0.4ｍ、深さ0.5ｍを測る。土坑ＳＫ1・ＳＫ2は建物中央北寄りと建物南西隅で検出し、長径0.65～0.7ｍ、短径0.35～0.45ｍ、深さ0.05ｍを測る。ＳＫ1・ＳＫ2は、ともに埋土に炭化物を含むことから、炉に類似する機能を持つものと考えられる。炉に類似する土坑が2基存在し、北東隅の主柱穴が重複することから、竪穴建物の建て替えが行われたとみられる。

遺物は、土師器甕（148）・高杯（149～151）が出土している。弥生土器広口壺（147）は周辺からの混入遺物と考えられる。（148）は布留形甕で、口縁端部は内側に肥厚する。（150）は杯部上半がまっすぐに伸びる有稜高杯と考えられる。遺構の時期は、古墳時代前期（布留式前半）と考えられる。

竪穴建物7（5400）（図35・図36）　調査区南（1－4区）で竪穴建物14と重複して検出した。竪穴建物14と重複し、竪穴建物7が竪穴建物14の直上に建てられる。方形4本柱の竪穴建物で、南北4.0ｍ、東西4.2ｍ、深さ0.25ｍを測る。

建物の構造は、中央に炉を築き、主柱穴4基とピットをもつ。周壁溝は検出されていない。炉は建物中央で検出し、直径1.4ｍ、深さ0.15ｍを測る。炉の底部で炭化物を多く含む。炉には直径0.15～0.2ｍ前後のピットが重複する。炉は竪穴建物14の炉と重複して検出したため、竪穴建物7に伴う本来の炉の範囲が判然としない。主柱穴は円形で直径0.35～0.5ｍ、深さ0.05ｍを測る。

遺物は、下層の竪穴建物14に伴うと考えられる弥生土器、石錐（S 22）が出土している。遺構の時期は、周囲の方形竪穴建物と規模・構造が類似することから、古墳時代前期（布留式前半）と考えられる。

焼成土坑４（5401）（図37） 調査区南（１－４区）、竪穴建物７の西で検出した焼成土坑である。長径1.0ｍ、短径0.7ｍ、深さ0.25ｍを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は２に分けられ、１層の下面に沿って被熱面を検出した。２層は焼土塊を多く含み、２層下面に沿って炭化物層が確認された。遺物の出土は認められない。

土坑７（5243）（図37・図38） 調査区南西（１－２区）で検出した土坑である。土坑７と土坑８が重複し、土坑７が後出する。長径1.35ｍ、短径0.9ｍ、深さ0.2ｍを測り、平面形は不整形な円形を呈する。埋土は3層に分けられ、黄褐色～灰色シルトからなり炭化物を少量含む。

遺物は、土師器甕（158～160）・小型甕（161）が出土している。（158）は口縁部がくの字に屈曲するもので、口縁部外面は縦方向のハケを施す。口縁部外面には米粒状の刺突文が見られる。（159）は口縁部が内湾し、口縁端部に内傾する面をもち肥厚する布留形甕である。肩部外面は横方向のハケ、肩部外面に米粒状の刺突文が見られる。（160）は布留形甕で、肩部外面は横ハケの後、肩部にヘラ描きによるを斜線文様を施す。（161）は小型の甕で内面ヘラケズリを施す。遺構の時期は、古墳時代前期（布留２式）である。

土坑８（5244）（図37・図38） 土坑７の北で重複して検出した土坑である。長径2.4、短径2.25ｍを測り、平面形は隅丸方形を呈する。土坑北西隅は西側へ張り出す。土坑中央は土坑底面で１段深く掘り窪められる。土坑埋土には炭化物が混じる。遺物は土師器高杯（162）、低脚杯（163）が出土している。遺構の時期は、古墳時代前期（布留２式）である。

土坑９（5365）（図38） 土坑８の南西で検出した土坑である。長径3.45ｍ、短径1.65ｍ、深さ0.1ｍを測り、平面形は不整形を呈する。遺物は、土師器有稜高杯（164・165）・壺（166）が出土している。（165）は凸面状の脚頂部を杯底部に挿し込み、脚部と杯部を接合する。遺構の時期は、古墳時代前期（布留２式）と考えられる。

土坑10（5118）（図38） 調査区南西（１－２区）で検出した土坑である。長径1.5ｍ、短径1.15ｍ、深さ0.3ｍを測り、平面形は方形を呈する。遺物は、土師器小型甕（167・168）が出土している。（167・168）は突出する底部をもち、口縁部は短く外反する。外面はナデによる小型の甕でミニチュア土器と考えられる。（169）は混入した弥生土器である。遺構の時期は、弥生時代後期から古墳時代前期（Ｖ様式～庄内式）と考えられる。

溝11（5366）（図38） 土坑９の南で検出した小溝である。自然流路５と重複しこれが後出する。幅0.6ｍ、深さ0.15ｍを測り、南北方向に流れる。遺物は、土師器甕（170）、土師器高杯（171）が出土している。遺構の時期は、古墳時代前期（布留式前半）と考えられる。

５．弥生時代の遺構と遺物

06－１区では、弥生時代の竪穴建物７棟、方形周溝墓３基をはじめ弥生時代中期から弥生時代後期にわたる遺構を多く検出している。遺構の時期については出土土器をもとに決定したが、出土状況が不明な遺物も多く、型式学的な判断に拠った部分も多い。弥生土器の編年については（土井1989）を参考としたが、本書では凹線文の出現を持ってⅣ様式を区分し、Ⅲ様式を前葉・中葉・後葉に区分し、Ⅳ様式を前葉・中葉・後葉・末葉に区分した。Ｖ様式については初頭・前葉・中葉・後葉・末葉と区分する。また時期の判然としないものについてはⅢ様式前半…、Ⅲ様式…と表記する。

竪穴建物８（5506）（図 39） 調査区北東（１－１区）で検出した。上層遺構面の遺構である溝１と重複し、竪穴建物８の中央は削平される。円形４本柱の竪穴建物で、南北 5.8 m、東西 5.3 m、深さ 0.1 mを測る。

建物の構造は中央に炉を築き、主柱穴５基と周壁溝をもつ。炉は溝１の底面で検出した。長径 1.9 m、短径 1.6 m、0.45 mを測り、平面形は不整円形を呈し中央は一段深く掘り窪められる。主柱穴は円形で直径 0.35 ～ 0.5 m、深さ 0.1 ～ 0.2 mを測る。柱穴Ｐ２・Ｐ３は近接するため、竪穴建物の建て替えが行われたとみられる。周壁溝は部分的に巡る。

遺物は、サヌカイト剥片が出土しているのみである。遺構の時期は、弥生時代中期（Ⅲ様式～Ⅳ様式）と考えられる。

竪穴建物９（5185）（図 40・図 43） 調査区北（１－３区）、竪穴建物 13 の南西で検出した。上層遺構面の遺構である自然流路３と重複する。円形８本柱の竪穴建物で、南北 8.3 m、東西 8.35 m、深さ 0.4 mを測り、検出した竪穴建物の中で最大の規模をもつ。

建物の構造は、中央に炉を築き、炉の両端に２柱穴をもつ、いわゆる「松菊里系（型）住居」である。

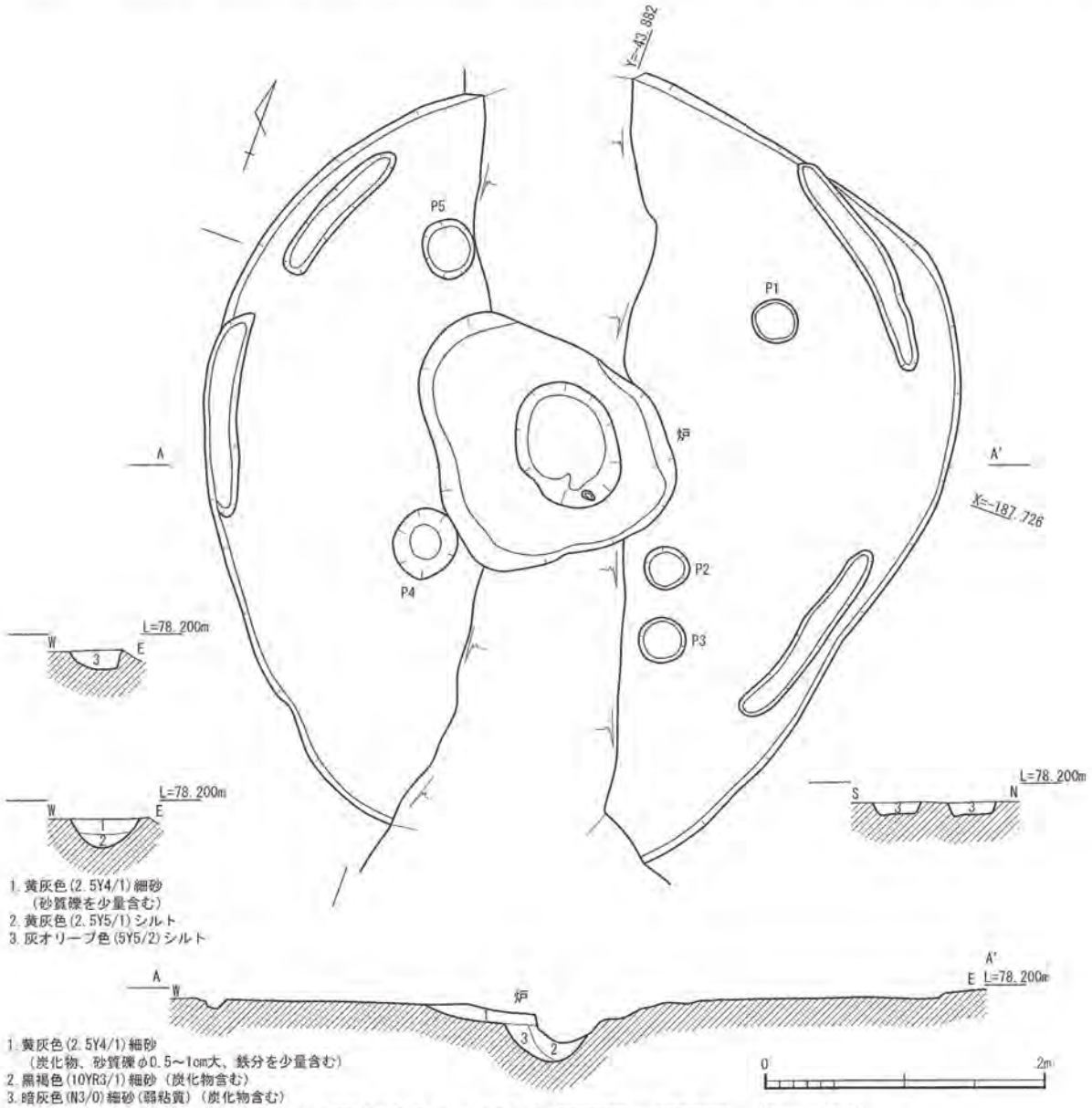


図 39　竪穴建物８（5506）平面図・断面図　（S＝1/50）

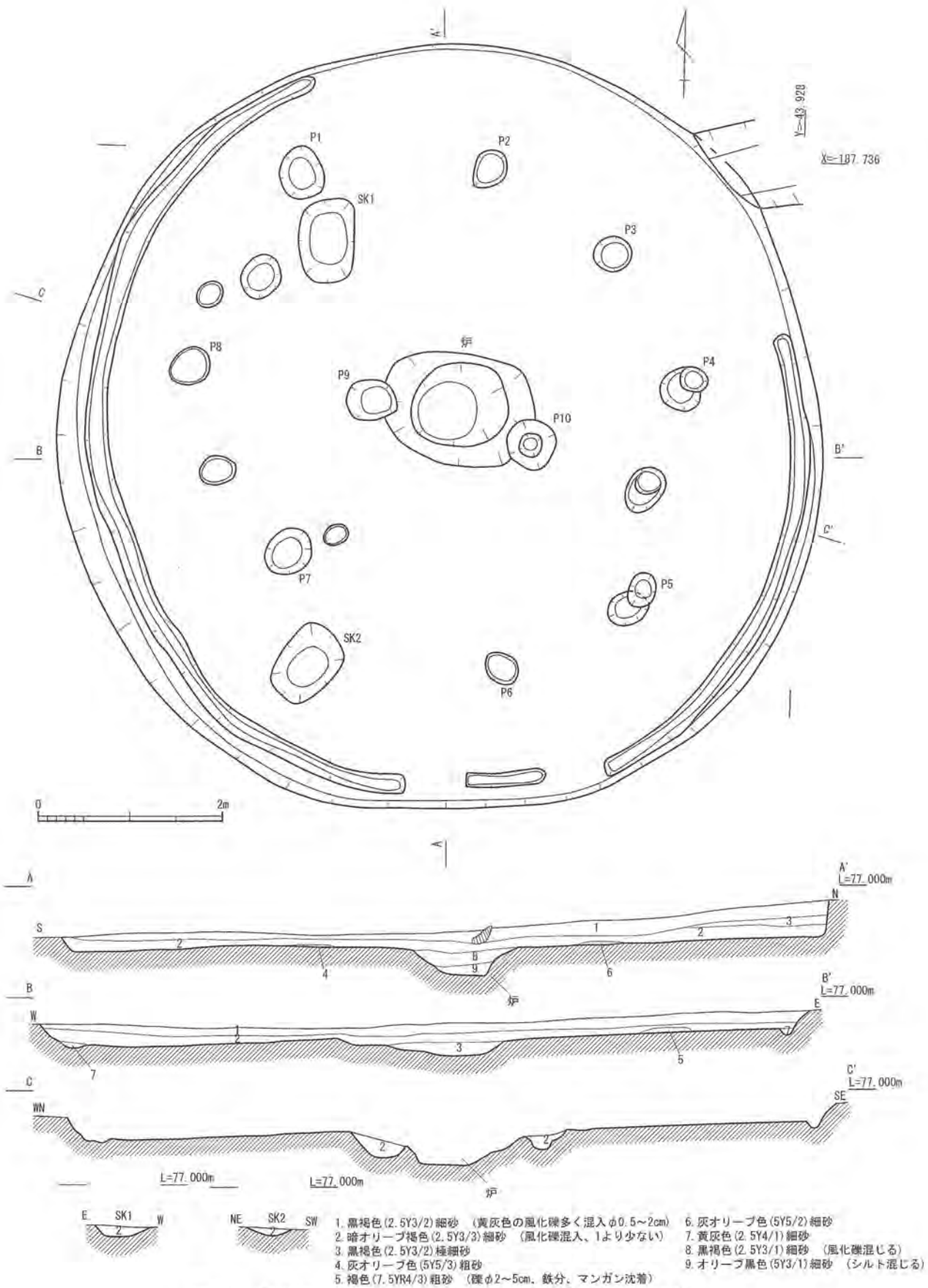


図40　竪穴建物9（5185）平面図・断面図　（S=1/60）

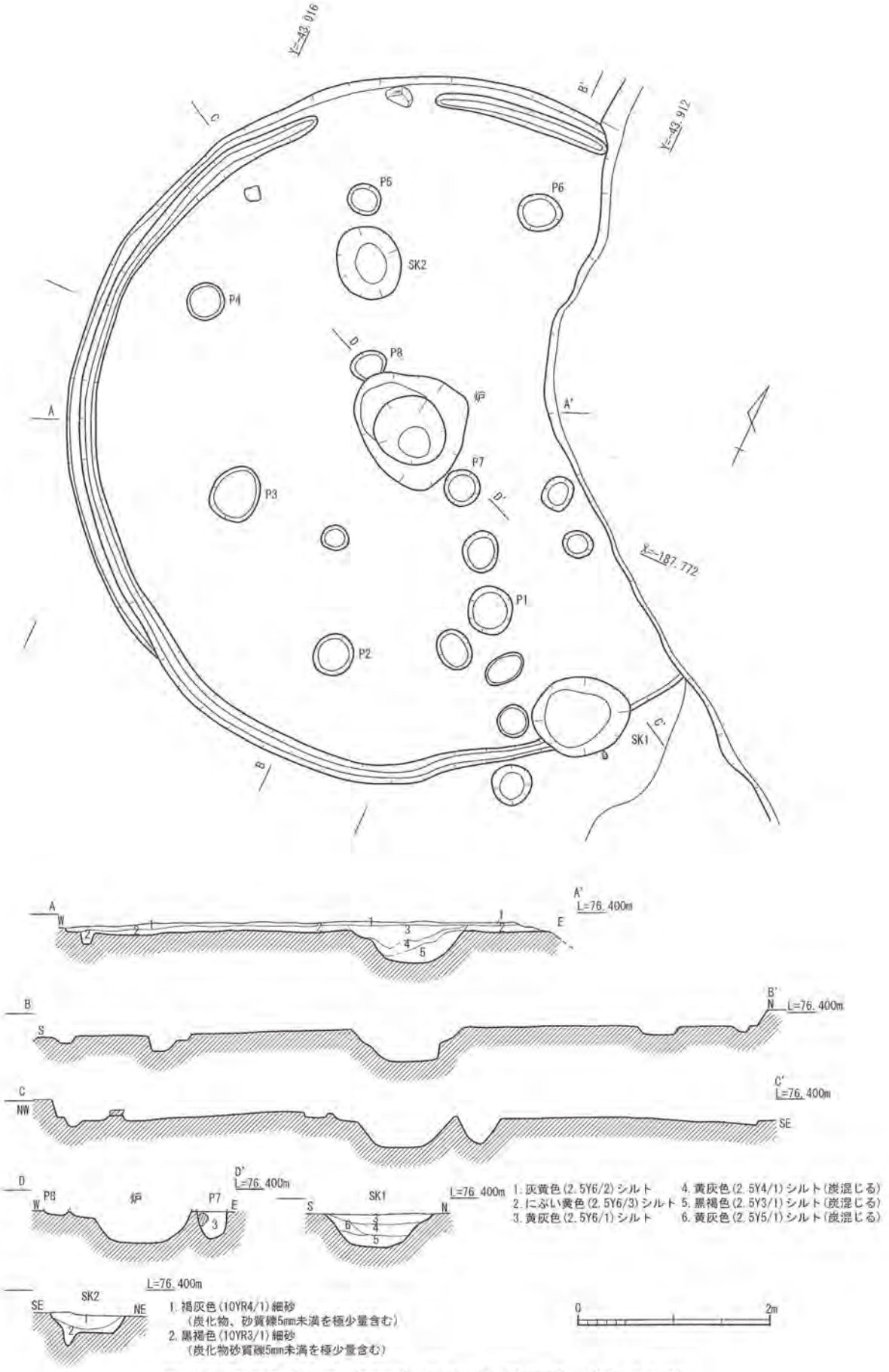


図41　竪穴建物10（5369）平面図・断面図　（S＝1/60）

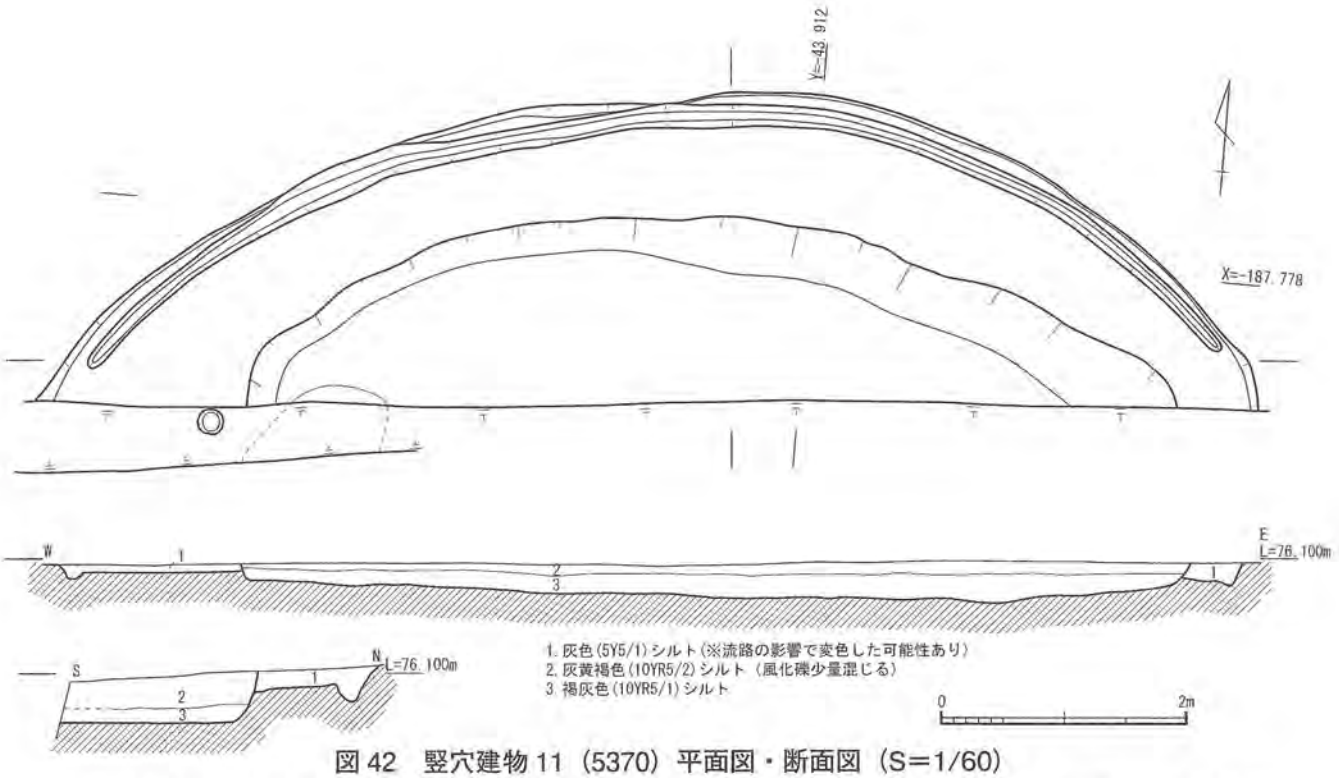


図 42　竪穴建物 11（5370）平面図・断面図（S＝1/60）

主柱穴８基、土坑、周壁溝をもつ。炉は長径 2.2 m、短径 1.85 m、深さ 0.25 mを測り、平面形は楕円形を呈する。２段に掘り窪められ、炉底面は平坦である。本来は炉堤をもっていたと考えられるが、検出できていない。２柱穴は炉に後出して築かれ、円形で直径 0.45 m、深さ 0.25 mを測る。一般的に松菊里系住居に伴う２柱穴は、主柱穴よりも規模が小さく深さも浅いが、竪穴建物９の２柱穴についていえば、ほぼ同規模のものである。柱穴は 14 基以上検出しているが、主柱穴は８基の柱穴が等間隔に並ぶことから８本柱と考えられる。柱穴は円形で直径 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.5 ～ 0.3 mを測る。対応しない柱穴が存在し、主柱穴に重複関係がみられるため、竪穴建物は建て替えが行われたと考えられる。周壁溝は建物北東部のみ途切れ、建物の入口部が想定できる。

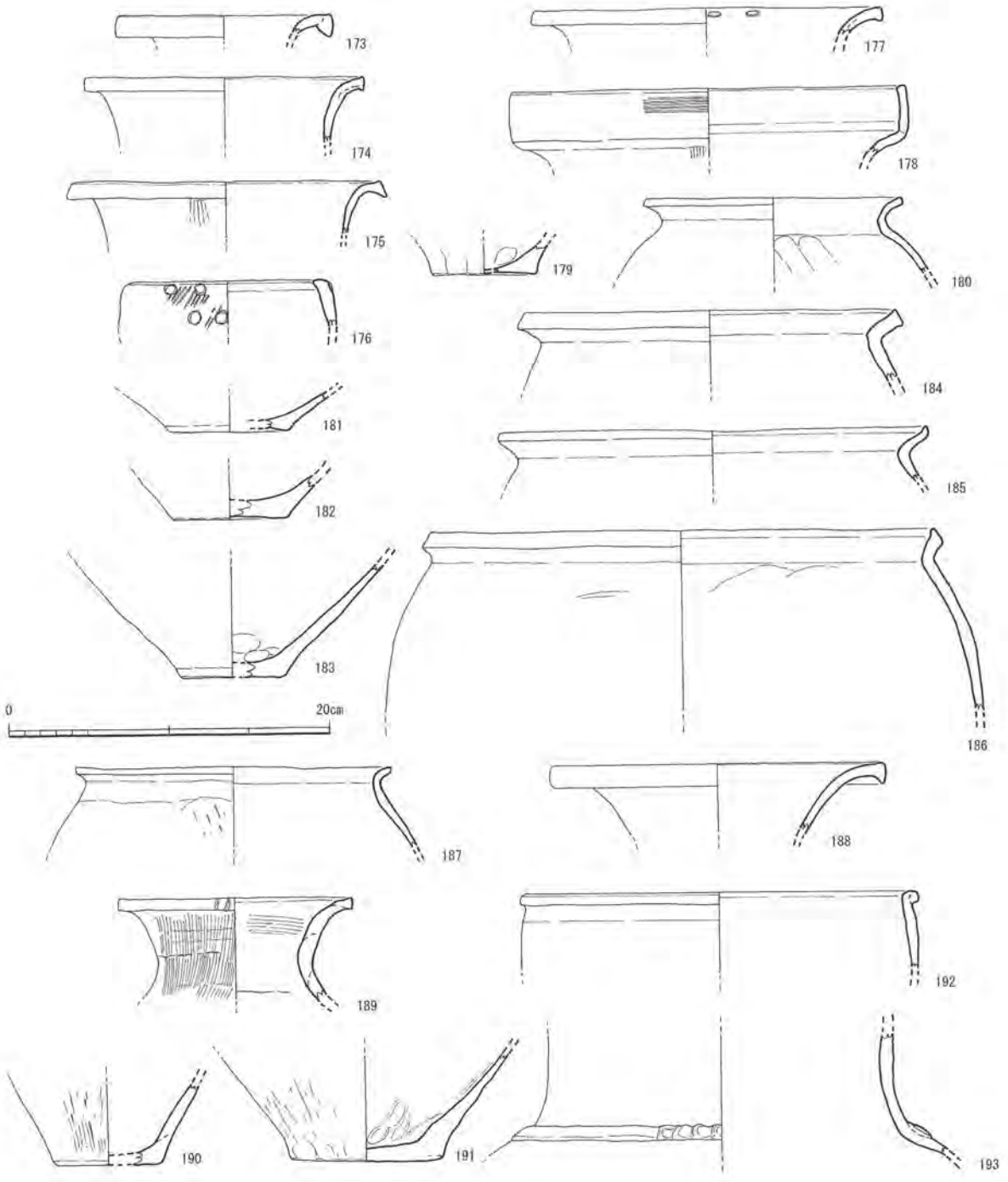
遺物は、弥生土器広口長頸壺（173）・広口壺（174・175・177）・細頸壺（176）・有段口縁壺（178）・壺（181・183）・甕（179・180・182・184 ～ 186）が出土している。（176）は細頸壺口縁部であり、口縁部外面に円形浮文を上下２段に貼り付け、その間に櫛状工具による刺突文を施す。（177）は口縁部内面に円形浮文を貼り付ける。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）と考えられる。

竪穴建物 10（5369）（図 41・図 43）　調査区南（１－３区）、竪穴建物 11 の北で検出した。建物東側で自然流路５と重複し、これに削平される。円形８本柱の竪穴建物と考えられ、南北 7.5 m、東西 5.1 m以上、深さ 0.1 mを測る。

建物の構造は中央に炉を築き、炉の両端に２柱穴をもつ松菊里系住居である。主柱穴６基以上、土坑、周壁溝をもつ。炉は長径 1.2 m、短径 1.1 m、深さ 0.35 mを測り、上面の平面形は不整三角形を呈する。炉中央は２段に掘り窪められ円形を呈する。炉底面は平坦である。本来は炉堤をもっていたと考えられるが、検出できていない。２柱穴は炉に近接し、Ｐ８は炉に後出して検出されているが、その前後関係は明らかではない。Ｐ７は直径 0.35 ～ 0.4 m、深さ 0.3 mを測るのに対し、Ｐ８は直径 0.3 ～ 0.35 m、深さ 0.05 mと浅く、２柱穴の深さが異なる。主柱穴は円形で直径 0.4 ～ 0.75 m、深さ 0.05 ～ 0.3 mを測る。主柱穴の他にもピット、柱穴を検出している。周壁溝は建物北西で途切れ、直径 25 cm程の亜角礫が置かれる。建物の入口部と考えられる。Ｐ５の南で土坑であるＳＫ２を検出した。ＳＫ２は貯蔵穴と考えられ、土坑底部の一部が窪み、棒状の有機質が据えられていた可能性がある。

遺物は弥生土器広口壺（188）・甕（187）、砥石（S 36）が出土している。（187）はくの字に外反する口縁部を持ち、肩部外面はヘラケズリを施す。遺構の時期は、弥生時代中期（Ⅲ様式～Ⅳ様式）と考えられる。

竪穴建物 11（5370）（図 42・図 43） 調査区南（1－3区）、竪穴建物 10 の南で検出した。建物南側は調査区外となる。円形竪穴建物であり、東西 9.7 m以上、深さ 0.15 mを測る。検出した範囲からは大型の竪穴建物に復元されると考えられる。建物中央は土坑状の落ち込みが見られるが、土層の記録からは、別の遺構が上面から切り込んだものと判断した。



173～186：竪穴建物 9（5185） 187・188：竪穴建物 10（5369）SK（5430） 189～193：竪穴建物 11（5370）

図 43 竪穴建物 9～11 出土土器

建物の構造は建物西側に炉と考えられる焼土が存在し、周壁溝をもつ。柱穴、土坑は検出していない。炉は調査区外へと続く。

遺物は、弥生土器広口壺（189）・有段口縁壺（193）・甕（190・191）・鉢（192）が出土している。（189）は頸部外面に縦方向のハケを施すもので、口縁端部には刻み目を施す。大和地域に多くみられる壺である。（193）は頸部に突帯をもつもので、有段の口縁部をもつと考えられる。遺構の時期は、弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）と考えられる。

竪穴建物 12（5373）（図 44・図 48） 調査区南（１－３区）、竪穴建物６の東で検出した。建物南側は調査区外となる。円形６本柱の竪穴建物と考えられ、南北 4.0 m以上、東西 5.9 m、深さ 0.2 mを測る。

建物の構造は中央に土坑を築き、中央土坑の両端に２柱穴をもつ松菊里系住居である。主柱穴

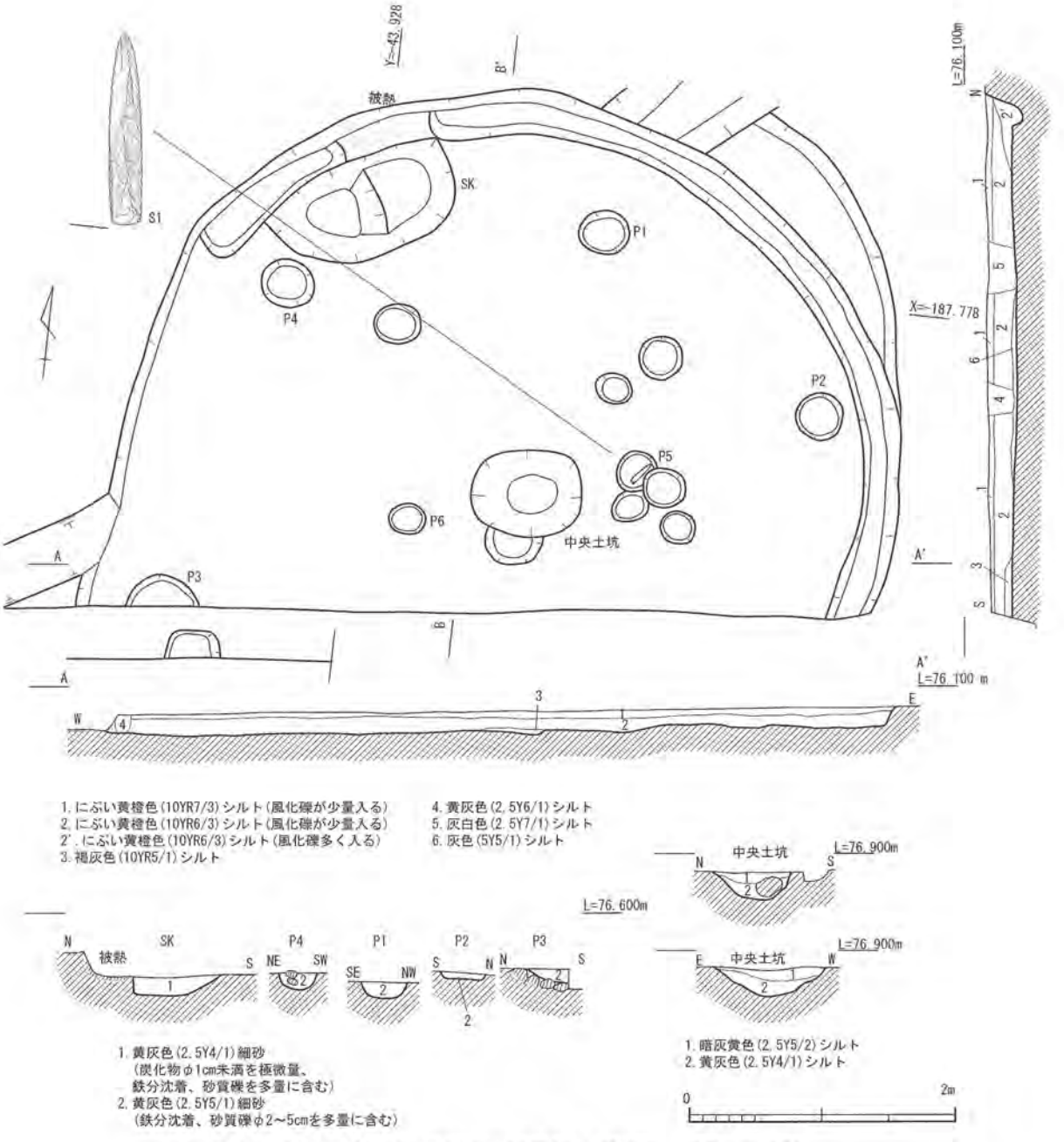


図 44　竪穴建物 12（5373）平面図・断面図　（S＝1/50）

6基以上、土坑、周壁溝をもつ。中央土坑は長径0.85 m、短径0.7 m、深さ0.25 mを測り、平面形は楕円形を呈する。２柱穴は中央土坑の両端からやや離れた場所に位置し、直径0.25～0.3 m、深さ0.05～0.03 mを測る。２柱穴Ｐ５は他のピットと重複して検出し、磨製石剣（Ｓ１）が出土した。松菊里系住居の２柱穴からの磨製石剣の出土は類例がみられない。主柱穴は４基検出しており、調査区外と合わせて６本柱に復元されるものとみられる。主柱穴は円形で直径0.35～0.55 m、深さ0.1～0.15 mを測る。主柱穴の他にも柱穴、ピットを検出している。土坑は北側壁面に接して検出しており、土坑北から壁面にかけて被熱面が認められる。長径1.4 m、短径0.75 m、深さ0.2 mを測る楕円形の土坑で、被熱範囲から考えるならば、壁際炉に相当するものと考えられる。周壁溝は幅0.3 mを測り、建物西側は途切れる。

遺物は、弥生土器甕（195）、弥生土器高杯（196）、磨製石剣（Ｓ１）、石鏃（Ｓ16）が出土している。（194）は土師器甕であるが、上層からの混入品と考えられる。遺構の時期は、弥生時代中期（Ⅲ

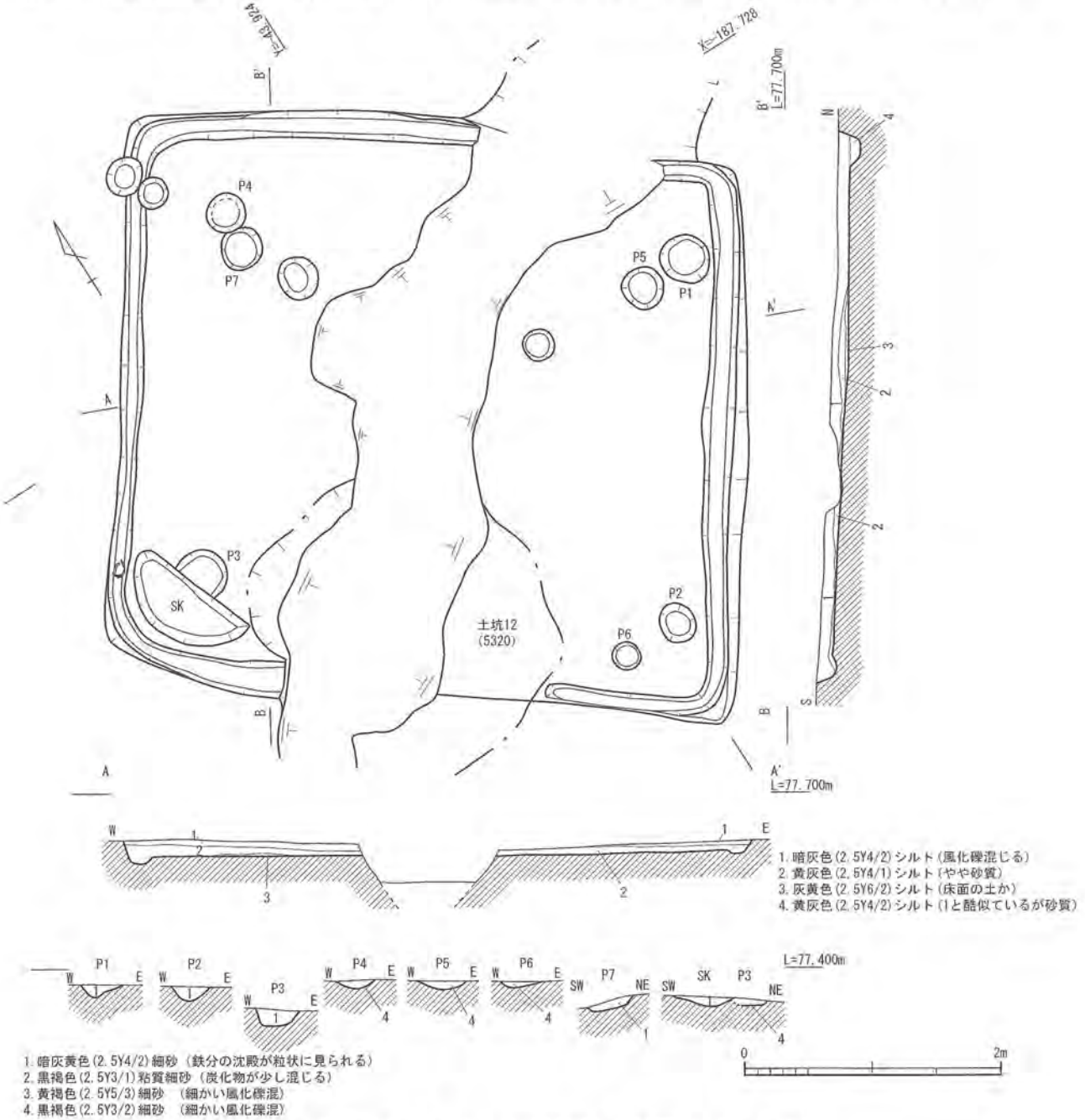


図45　竪穴建物13（5183）平面図・断面図　（S＝1/50）

様式～Ⅳ様式）と考えられる。

竪穴建物 13（5183）（図 45・図 48） 調査区北（1－3 区）、竪穴建物 9 の北で検出した。上層遺構面の遺構である自然流路 3 と重複し、建物中央を削平する。また、土坑 12 と重複し、竪穴建物 13 が後出する。方形 4 本柱の竪穴建物と考えられ、南北 5.0 m、東西 4.6 m、深さ 0.35 m を測る。

建物の構造は主柱穴 4 基、貯蔵穴、ピット、周壁溝を検出している。柱穴は円形で直径 0.3 ～ 0.4 m、深さ 0.05 ～ 0.15 m を測る。主柱穴に重複関係がみられ、近接して位置するため、竪穴建物は建て替えが行われたと考えられる。貯蔵穴は建物西隅の壁面に沿って検出した。長径 1.0 m、短径 0.5 m、深さ 0.1 m を測り、平面形は不整形な三角形を呈する。周壁溝は建物南西部のみ途切れる。

遺物は、弥生土器広口壺（197）・壺（198・200）・甕（199）、石鏃（S 40）が出土している。

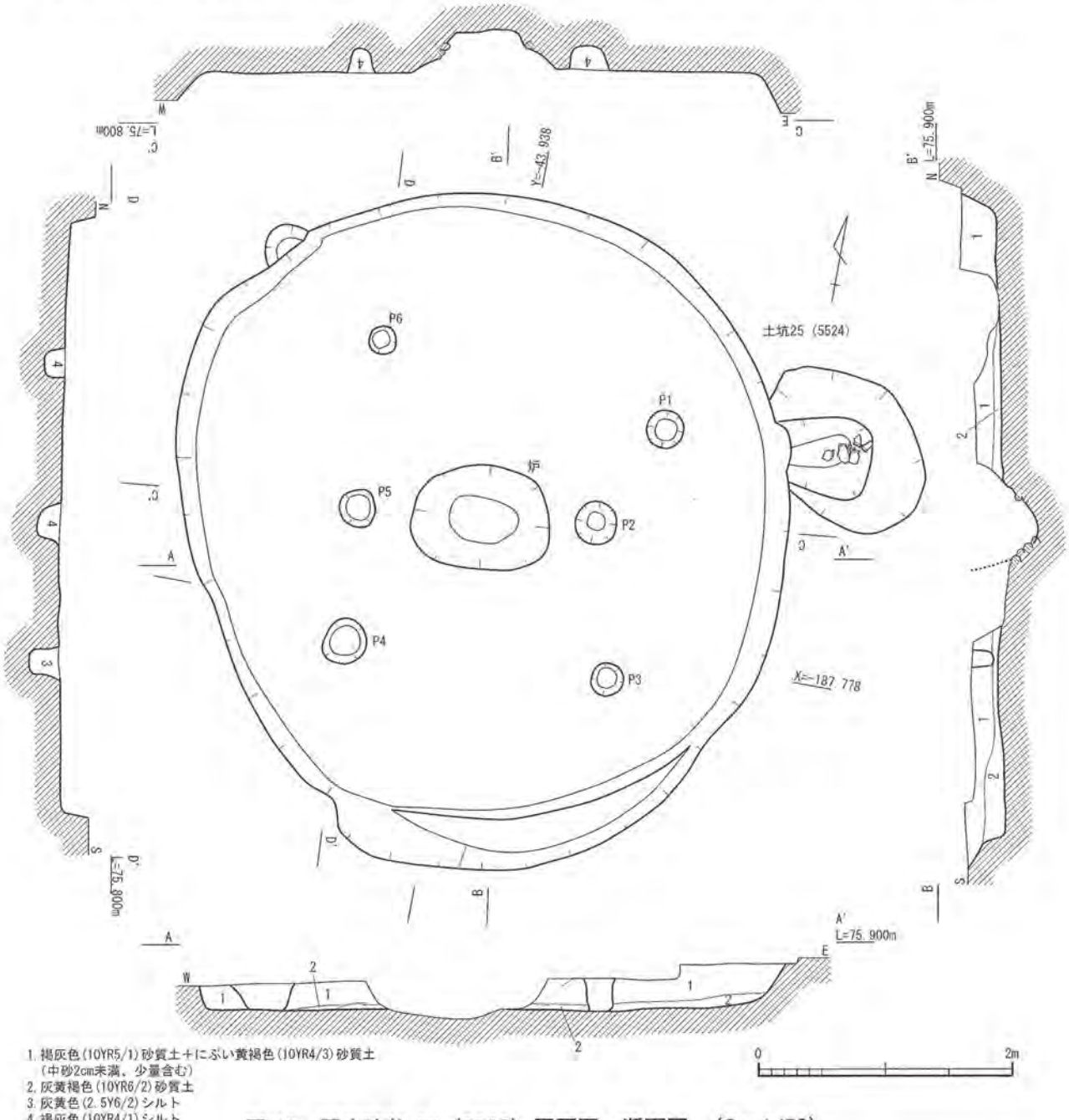


図 46　竪穴建物 14（5523）平面図・断面図　（S＝1/50）

竪穴建物に伴う遺物に乏しく時期を明確にできないが、(198・199) から判断して弥生時代後期後葉（Ⅴ様式後葉）と考えられる。

竪穴建物 14 (5523)（図 46・図 48） 調査区南（１－４区）で竪穴建物７と重複して検出した。竪穴建物７の直下に竪穴建物 14 が築かれる。また、土坑 25 とも重複し竪穴建物 14 が後出する。円形６本柱または、円形４本柱の竪穴建物と考えられ、南北 5.4 m、東西 4.8 m、深さ 0.3 mを測る。

建物の構造は中央に炉を築き、主柱穴６基を検出している。炉は長径 1.0 m、短径 0.85 m、深さ 0.35 mを測り、平面形は楕円形を呈する。柱穴は円形で直径 0.2 ～ 0.35 m、深さ 0.15 ～ 0.30 mを測る。炉の長辺の両端に位置するＰ２とＰ５については、中央炉に伴う２柱穴とも考えられ、松菊里系住居の範疇で捉えられる。

遺物は、弥生土器甕（201・202）・高杯（203 ～ 206）、石錐（Ｓ 20）、板状石核（Ｓ 30）が出土している。(201) は肩部外面にヘラケズリを施す甕である。(204) は平坦な杯底部から屈曲し、立ち上がるものである。(205) は生駒西麓産の搬入品である。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

竪穴状遺構２ (5182)（図 47・図 48） 調査区北（１－３区）で検出した竪穴状遺構である。南北 4.4 m、東西 4.15 m、深さ 0.15 mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。主柱穴、土坑、ピット等は検出していないが竪穴建物の可能性が考えられる。

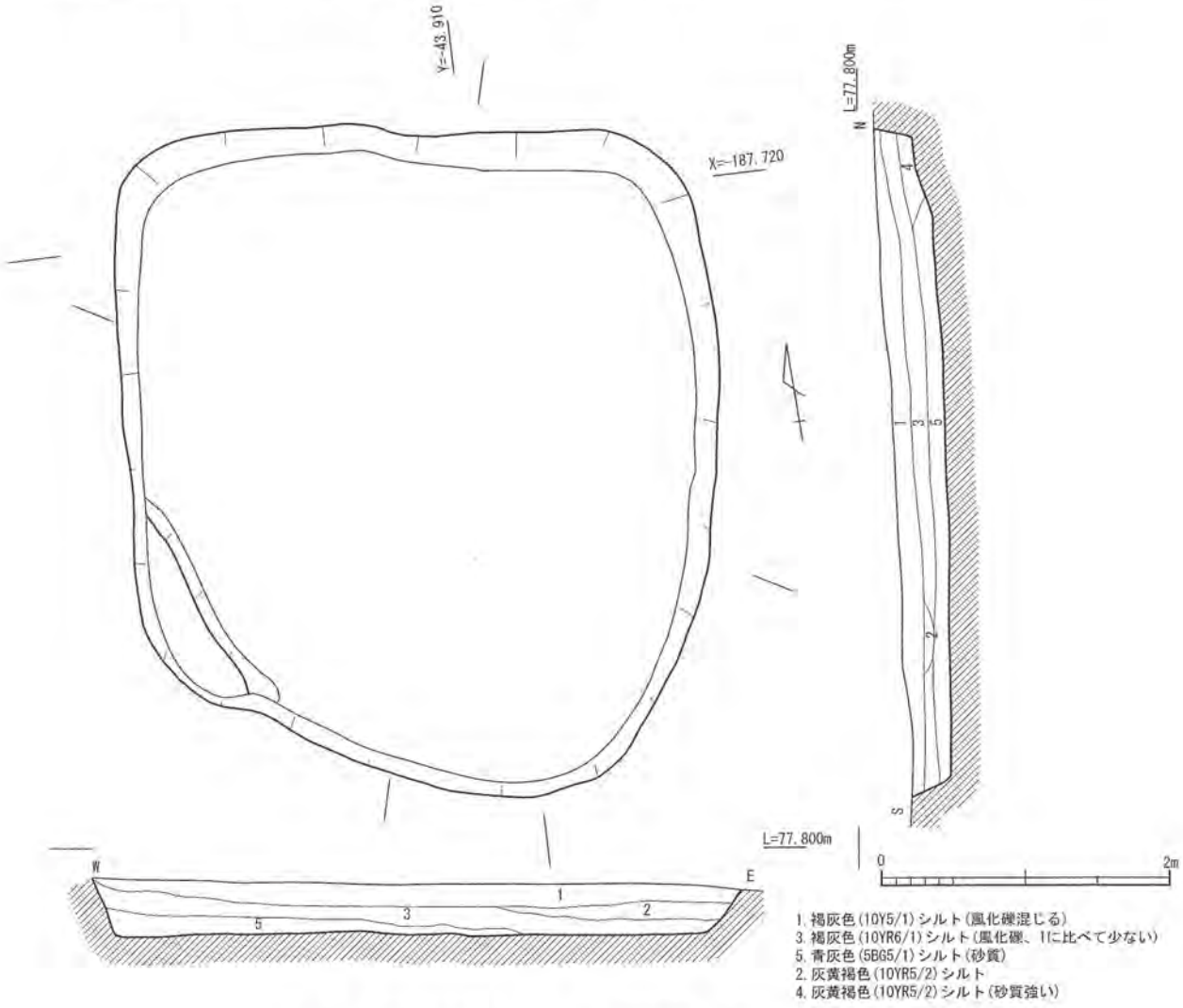
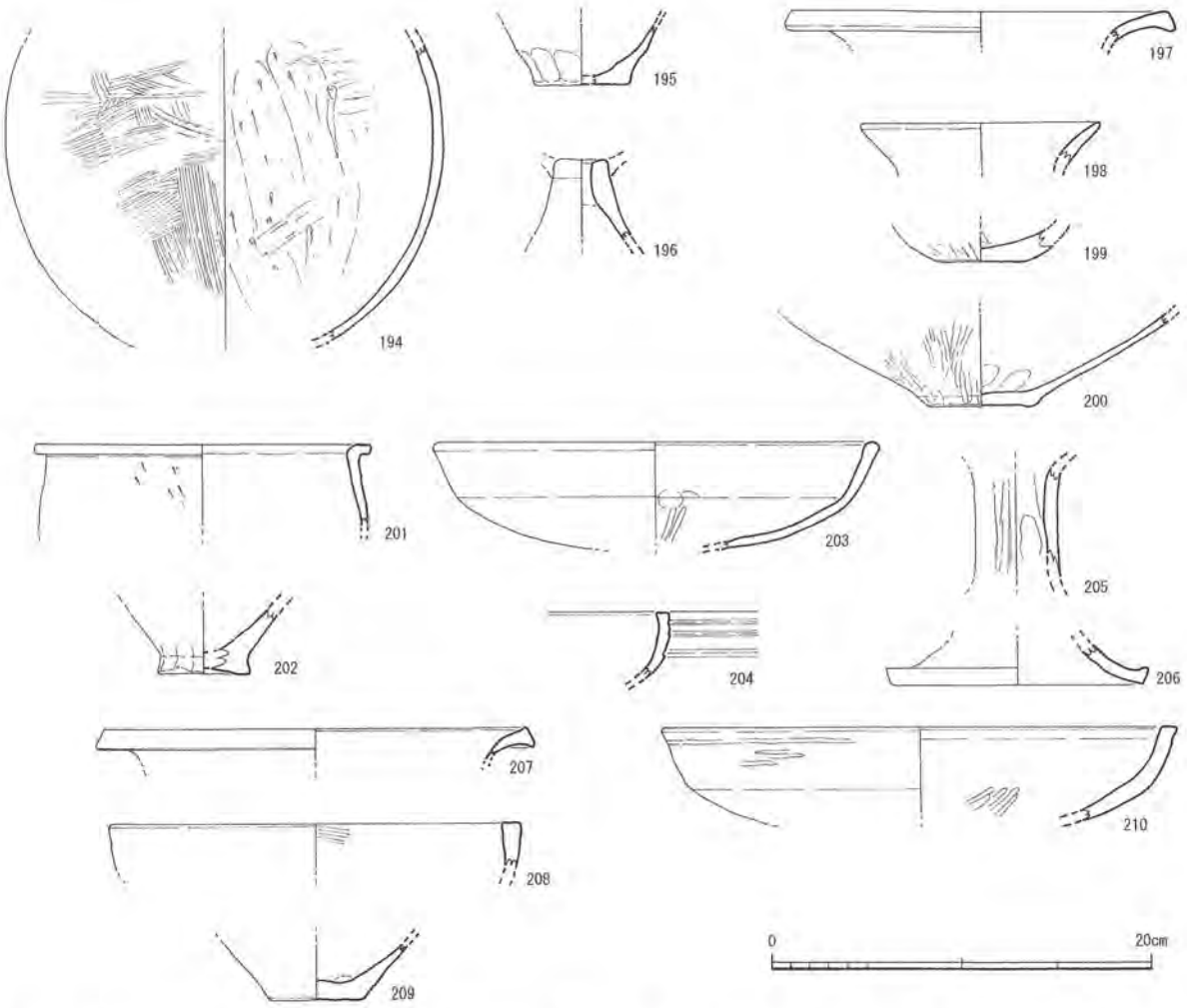


図 47　竪穴状遺構２ (5182) 平面図・断面図　(S＝1/50)



194～196：竪穴建物12（5373）　197～200：竪穴建物13（5183）　201～206：竪穴建物14（5523）　207～210：竪穴状遺構２（5182）

図48　竪穴建物12～14、竪穴状遺構２出土土器

遺物は、弥生土器広口壺（207）、有段口縁壺（208）、壺（209）、高杯（210）が出土している。（210）は屈曲して伸びる杯部をもち、外面はヘラミガキ。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

方形周溝墓１（5269）（図49・図50・図51・図52）　調査区北西（１－３区）で検出した方形周溝墓である。北側周溝は自然流路６と重複し、これに削平される。墳丘はＮ－20°－Ｗに南北軸を置き、墳長は南北6.5ｍ以上、東西8.5ｍを測る。

周溝は幅1.5ｍ～4.0ｍ、深さ0.2～0.6ｍを測り、南東隅で最も周溝の幅が細く、南西隅で最も周溝の幅が広くなる。周溝断面は緩やかなＵ字状を呈し、灰色～オリーブ黒色シルトが水平に堆積し、西側周溝が最も浅くなる。南側周溝、西側周溝の周溝底面からは遺物がまとまって出土している。出土土器の中には底部を穿孔する壺（214・218・219）が含まれ、供献土器と考えられる。

遺物は、弥生土器広口壺（211～213）・広口細頸壺（214～216）・細頸壺（217）・大型細頸壺（220）・有段口縁壺（221～224）・壺（218～219・225～227）・水平口縁高杯（228）・高杯（229）・甕（230～237）・台付甕（238）、石庖丁（Ｓ４）、石庖丁未製品（Ｓ８）、横刃形石器（Ｓ27）が出土している。（213）は頸部から屈曲し、短く外反する口縁部をもつものである。（214）は短く立ち上がる頸部から緩やかに広がる口縁部をもつ。体部外面は横方向のヘラミガキ、底部外面はヘラケズリで、底部側面に三角形上の穿孔を施す。（218）は壺の肩部から底部で、底部側面に楕

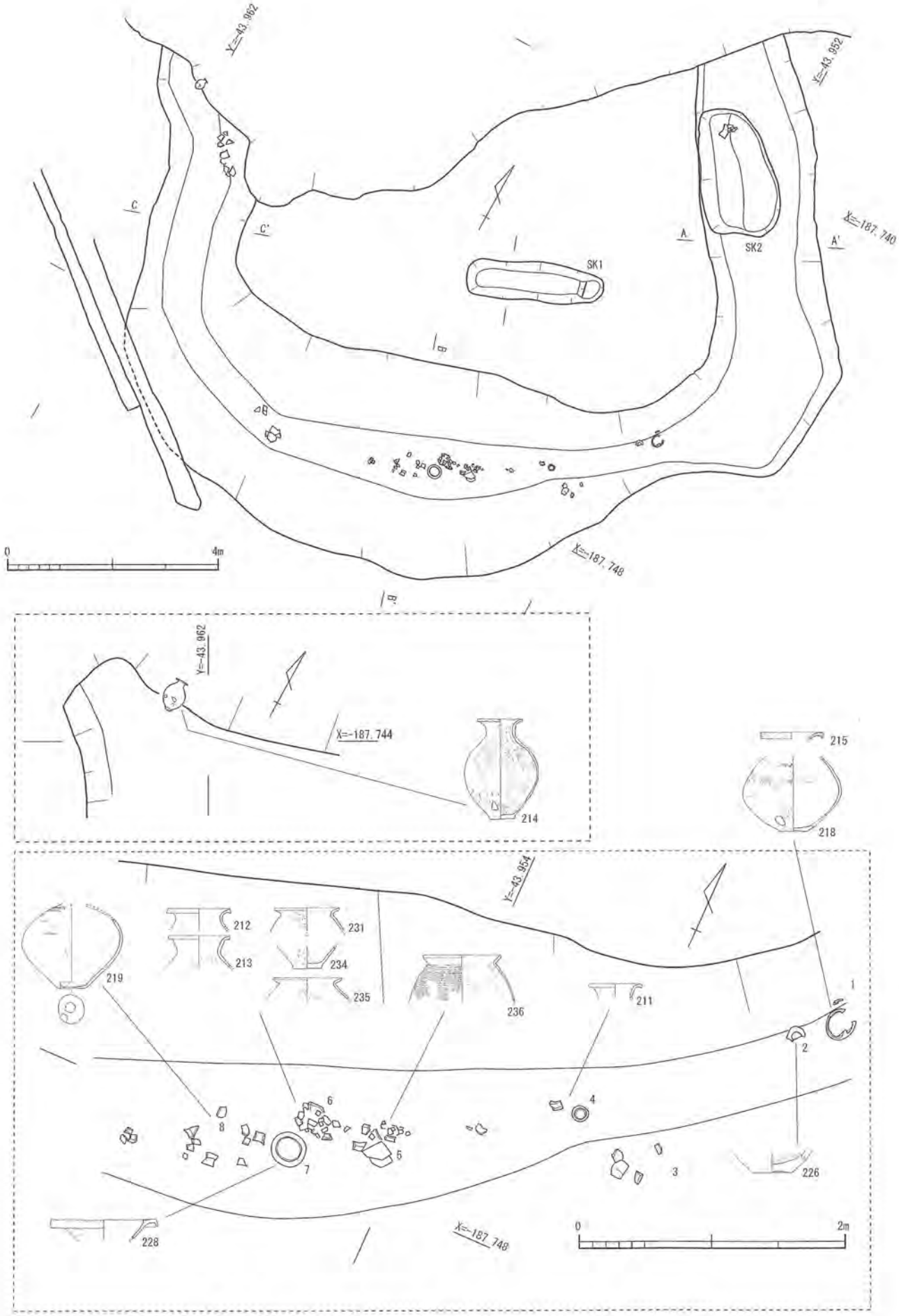


図 49　方形周溝墓 1 （5269）平面図　（S＝1/100、S＝1/40）

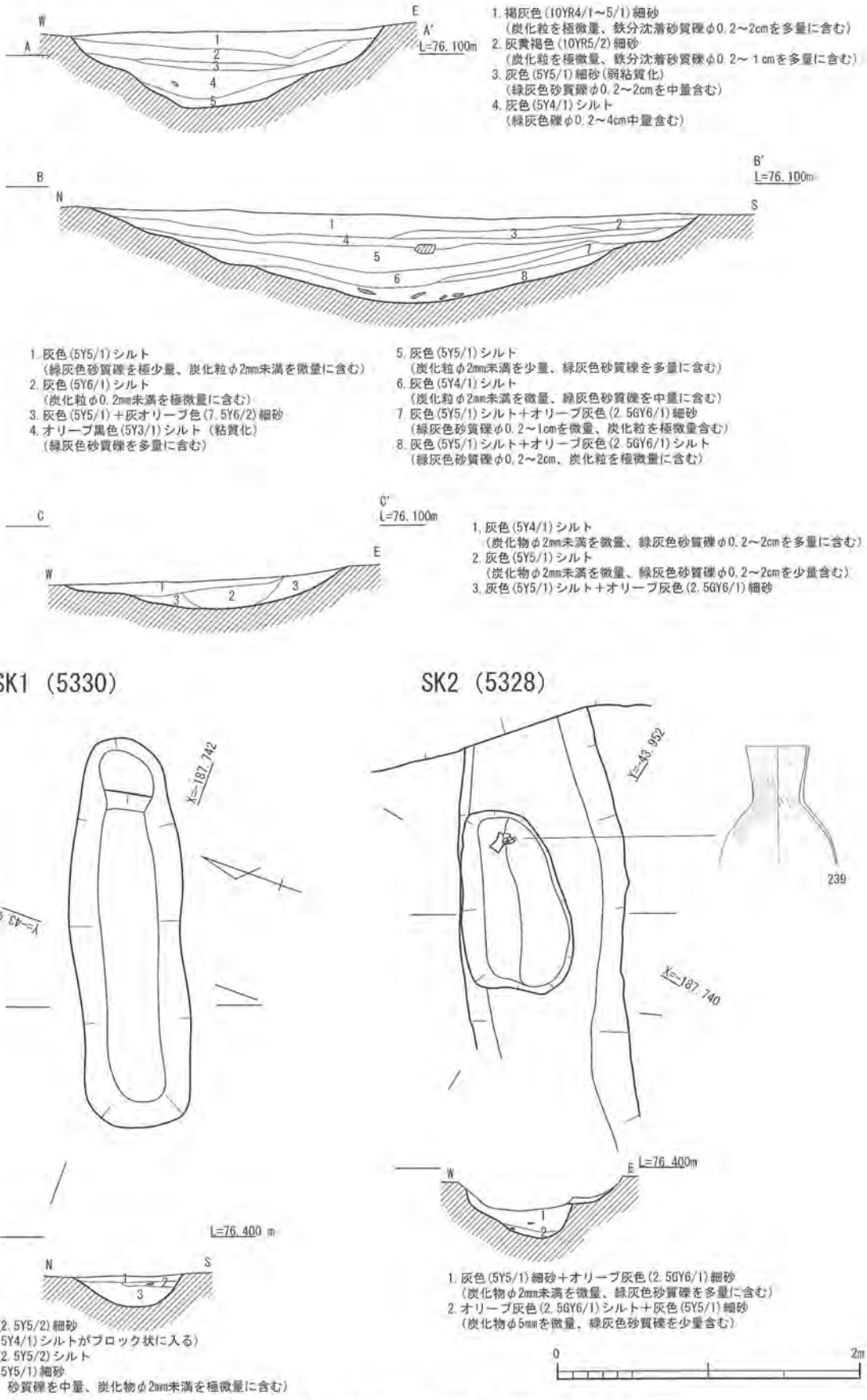


図 50　方形周溝墓 1 (5269) 平面図・断面図　(S＝1/40)

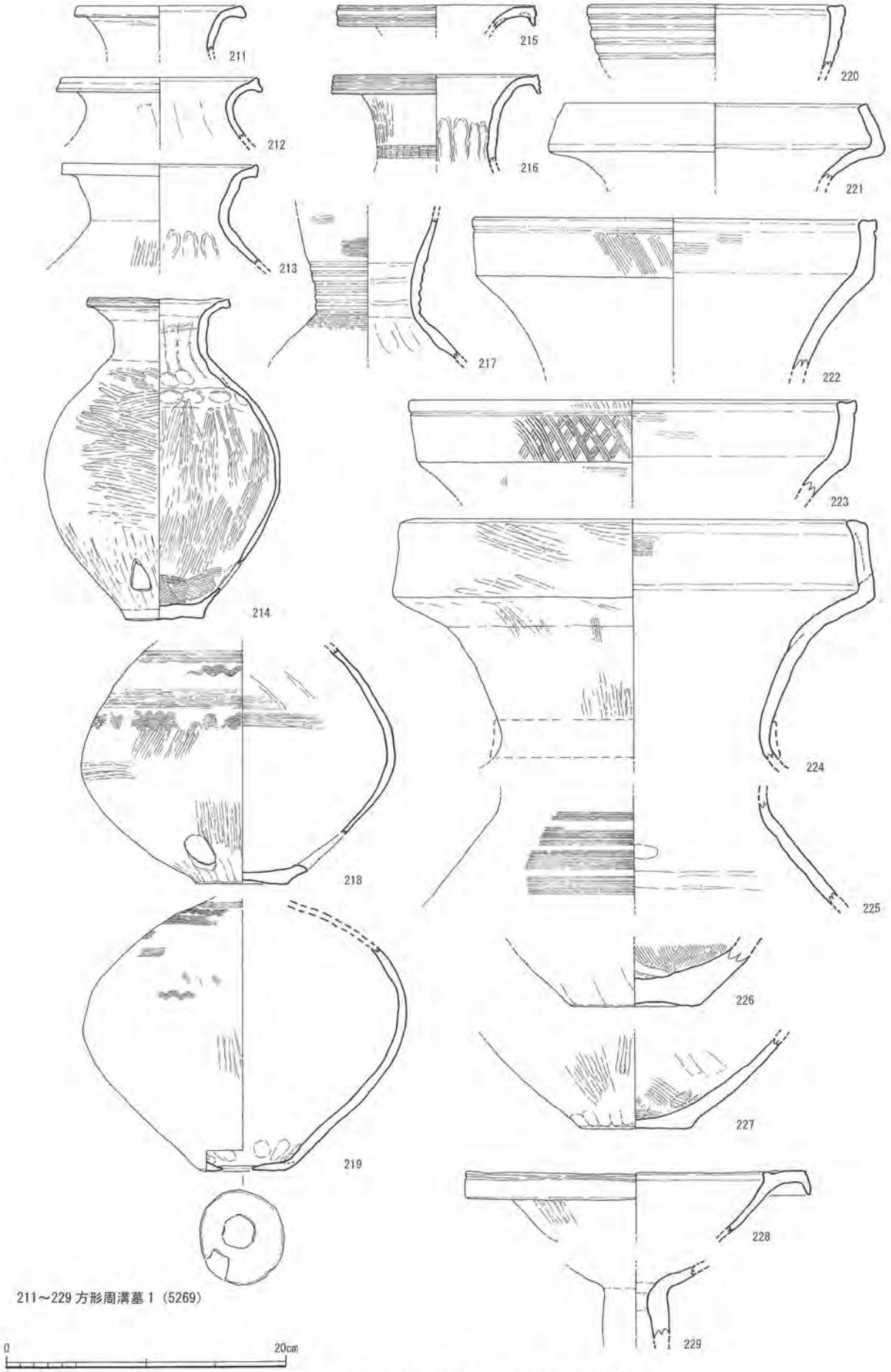
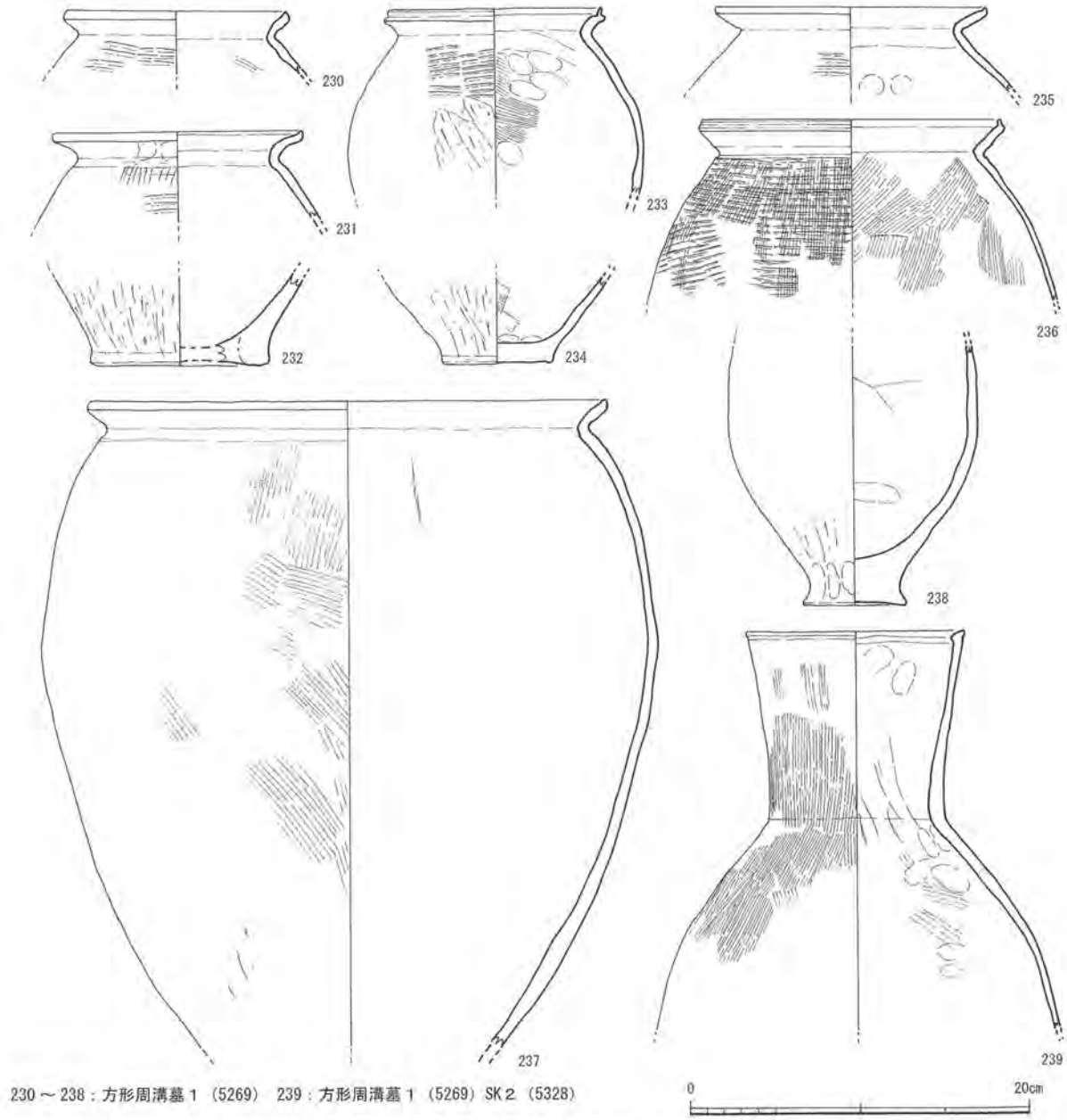


図 51　方形周溝墓 1（5269）出土土器 1



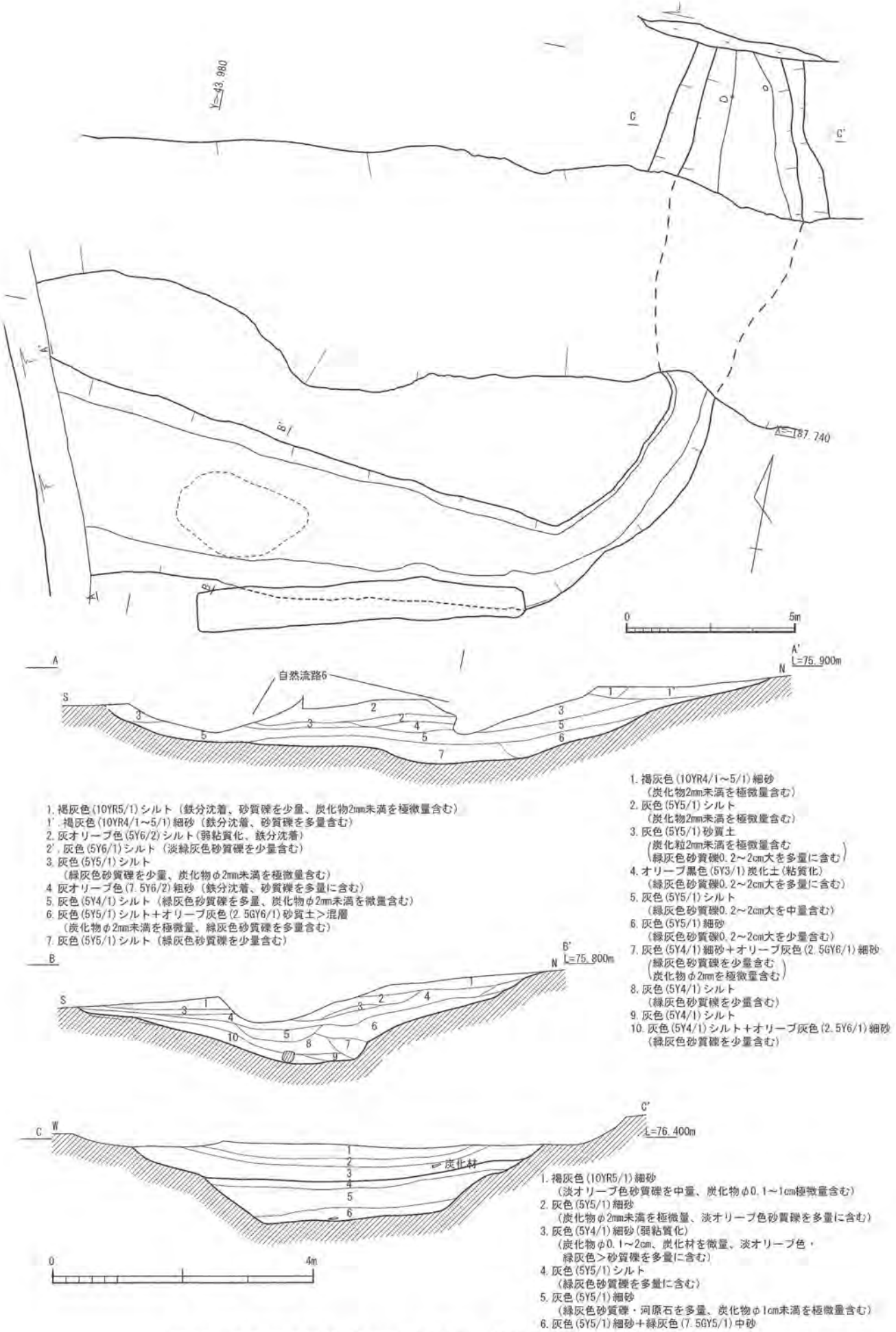
230～238：方形周溝墓１（5269）　239：方形周溝墓１（5269）SK２（5328）

図52　方形周溝墓１（5269）出土土器２

円形の穿孔を行う。(219) は底面中央に円形の穿孔を行うものである。肩部には櫛描直線文、櫛描波状文を交互に施す。(223) は有段の口縁部を持ち、口縁部外面は櫛状工具による斜線文を組み合わせ斜格子文とするものである。(224) は口縁部外面をヘラミガキ、頸部は長く外上方に伸びるものである。(228) は水平口縁部を持つ高杯で、口縁部の垂下はやや短い。垂下部には凹線文１条を施す。(236) はくの字に外折する口縁部を持ち、端部は上方に拡張する。体部外面は水平タタキの後、縦方向のハケ。(237) は大型の甕で体部が長胴を呈する。(238) は突出する底部を持ち、体部は細長い。

墳丘上南西では、埋葬施設と考えられるＳＫ１（5330）を検出している。ＳＫ１は北東方向から南西方向に主軸をもち、長辺 2.65 m、短辺 0.7 m、深さ 0.2 mを測る長方形の土坑である。短辺の北東側は二段に掘り窪められる。遺物の出土は認められない。

また、方形周溝墓北西の周溝内では、周溝内土坑と考えられるＳＫ２（5328）を検出している。ＳＫ２は周溝に並行し、南北方向に主軸をもち、長辺は 2.5 m、短辺 1.35 m、深さ 0.45 mを測る長方

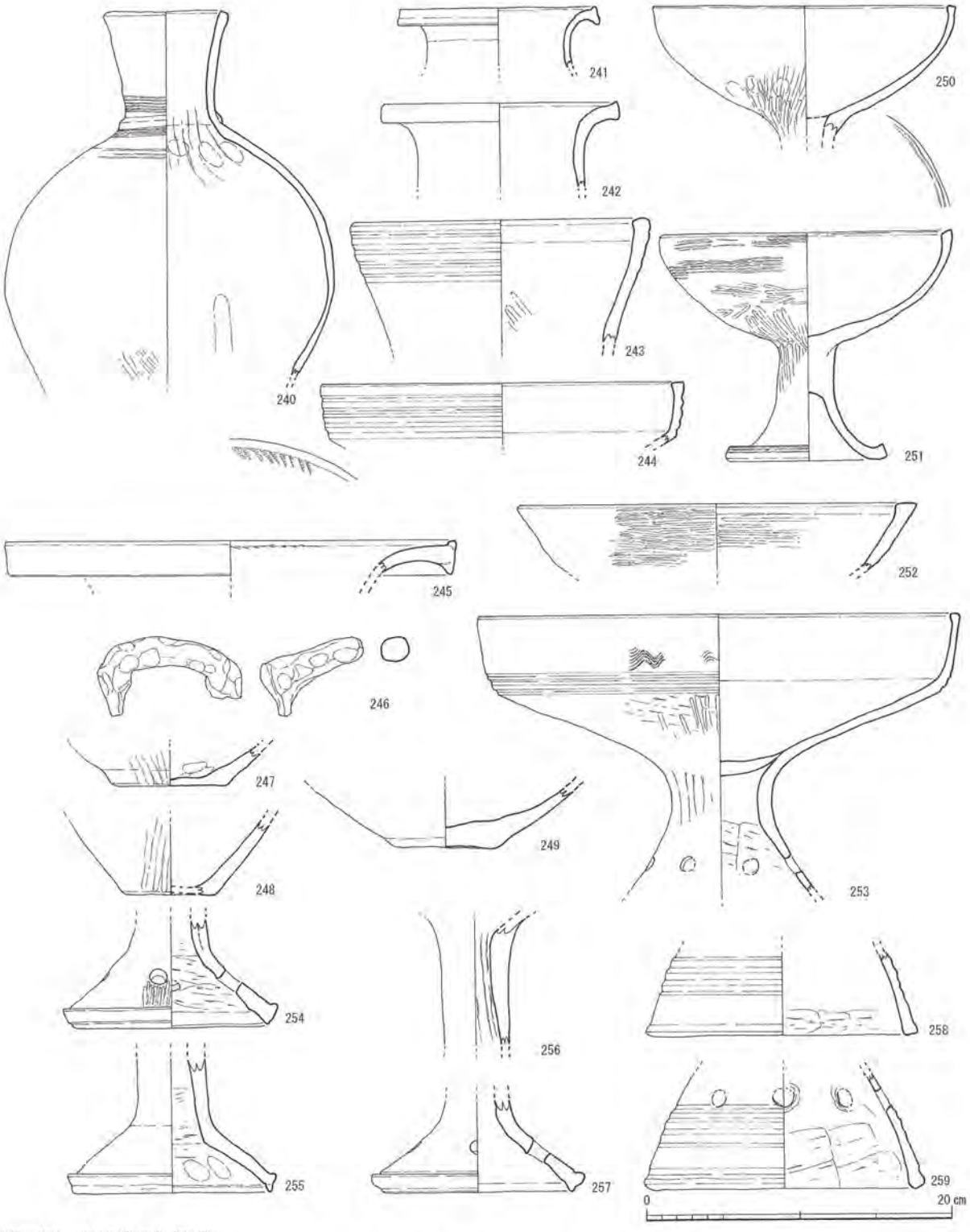


1. 褐灰色(10YR5/1)シルト（鉄分沈着、砂質礫を少量、炭化物2mm未満を極微量含む）
1'. 褐灰色(10YR4/1～5/1)細砂（鉄分沈着、砂質礫を多量含む）
2. 灰オリーブ色(5Y6/2)シルト（弱粘質化、鉄分沈着）
2'. 灰色(5Y6/1)シルト（淡緑灰色砂質礫を少量含む）
3. 灰色(5Y5/1)シルト
（緑灰色砂質礫を少量、炭化物φ2mm未満を極微量含む）
4. 灰オリーブ色(7.5Y6/2)粗砂（鉄分沈着、砂質礫を多量に含む）
5. 灰色(5Y4/1)シルト（緑灰色砂質礫を多量、炭化物φ2mm未満を微量含む）
6. 灰色(5Y5/1)シルト＋オリーブ灰色(2.5GY6/1)砂質土＞混層
（炭化物φ2mm未満を極微量、緑灰色砂質礫を多量含む）
7. 灰色(5Y5/1)シルト（緑灰色砂質礫を少量含む）

1. 褐灰色(10YR4/1～5/1)細砂
（炭化物2mm未満を極微量含む）
2. 灰色(5Y5/1)シルト
（炭化物2mm未満を極微量含む）
3. 灰色(5Y5/1)砂質土
（炭化粒2mm未満を極微量含む
緑灰色砂質礫0.2～2cm大を多量に含む）
4. オリーブ黒色(5Y3/1)炭化土(粘質化)
（緑灰色砂質礫0.2～2cm大を多量に含む）
5. 灰色(5Y5/1)シルト
（緑灰色砂質礫0.2～2cm大を中量含む）
6. 灰色(5Y5/1)細砂
（緑灰色砂質礫0.2～2cm大を少量含む）
7. 灰色(5Y4/1)細砂＋オリーブ灰色(2.5GY6/1)細砂
（緑灰色砂質礫を少量含む
炭化物φ2mmを極微量含む）
8. 灰色(5Y4/1)シルト
（緑灰色砂質礫を少量含む）
9. 灰色(5Y4/1)シルト
10. 灰色(5Y4/1)シルト＋オリーブ灰色(2.5Y6/1)細砂
（緑灰色砂質礫を少量含む）

1. 褐灰色(10YR5/1)細砂
（淡オリーブ色砂質礫を中量、炭化物φ0.1～1cm極微量含む）
2. 灰色(5Y5/1)細砂
（炭化物φ2mm未満を極微量、淡オリーブ色砂質礫を多量に含む）
3. 灰色(5Y4/1)細砂(弱粘質化)
（炭化物φ0.1～2cm、炭化材を微量、淡オリーブ色・
緑灰色＞砂質礫を多量に含む）
4. 灰色(5Y5/1)シルト
（緑灰色砂質礫を多量に含む）
5. 灰色(5Y5/1)細砂
（緑灰色砂質礫・河原石を多量、炭化物φ1cm未満を極微量含む）
6. 灰色(5Y5/1)細砂＋緑灰色(7.5GY5/1)中砂

図53　方形周溝墓２（5268）平面図・断面図（S＝1/150、S＝1/50）



240～259：方形周溝墓２（5268）

図 54　方形周溝墓２（5268）出土土器１

形の土坑である。ＳＫ２からは弥生土器直口壺（239）が出土している。（239）は口縁部から肩部外面にかけて縦方向のハケを施すもので、櫛描文を施さず無文である。口縁端部上端は内外に拡張する。

方形周溝墓１は、Ⅳ様式後葉の遺物（215・216・217・220）が一部含まれるものの、これらの遺物は細片であり、周溝上部からの混入品とみられる。遺構の時期は、周溝内からまとまって出土した供献土器や周溝内土坑から出土した遺物から、弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）と考えられる。

方形周溝墓２（5258）（図 53・図 54・図 55）　調査区北西（１－３区）、方形周溝墓１の西で検

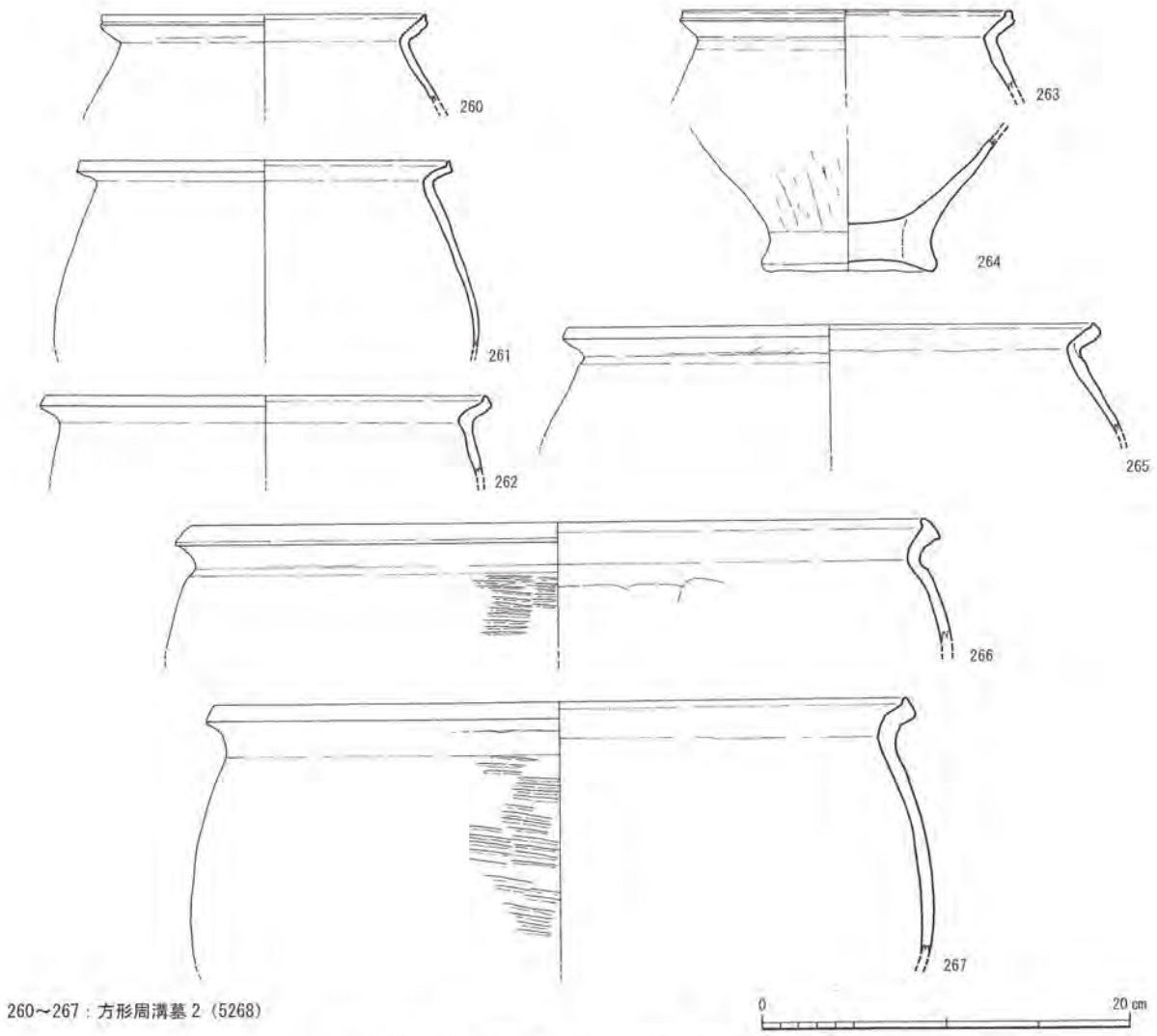


図 55　方形周溝墓２（5268）出土土器２

出した方形周溝墓である。東側周溝は自然流路６と重複し、これに削平される。北側周溝についても溝９に削平され不明である。西側周溝は調査区外となる。墳丘はＮ－５°－Ｅに南北軸を置き、墳長は南北 15 ｍ以上、東西 17 ｍ以上を測る。その規模から大型の方形周溝墓と考えられる。なお、北東隅の周溝については、方形周溝墓と別の遺構が重複する可能性が高いが、調査の記録等からはこれを復元することができなかった。

周溝は、幅 1.5 ｍ～ 6.6 ｍ、深さ 0.6 ～ 0.8 ｍを測り、南東隅で最も周溝の幅が細く、南西隅で最も周溝の幅が広くなる。周溝断面は緩やかなＶ字状を呈し、褐灰色～オリーブ黒色シルトが水平に堆積し炭化物を多く含む。北東側周溝が最も浅くなる。南側周溝からは遺物が出土しているが、その詳細は明らかではない。

遺物は、弥生土器直口壺（240・243）・広口壺（241・242・245）・有段口縁壺（244）・水差（246）・壺（247 ～ 249）・椀形高杯（250 ～ 252）・高杯（253 ～ 257）・脚台付土器（258・259）・甕（260 ～ 267）が出土している。(240) は細頸の頸部から直立気味に伸びる口縁部をもち、頸部には突帯を施す。頸部から肩部にかけて櫛描直線文を施すものである。（251）は椀形の杯部をもつもの。脚部はハの字に広がる。口縁端部上面に櫛描波状文、杯部上半は櫛描直線文２条、杯部下半はヘラミガキを施す。（252）は内外面ヘラミガキを施し、浅い椀形の杯部をもつ。（253）は杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもの。屈曲部に櫛描波状文、凹線文３条を施す。杯下半部はヘラケズリの

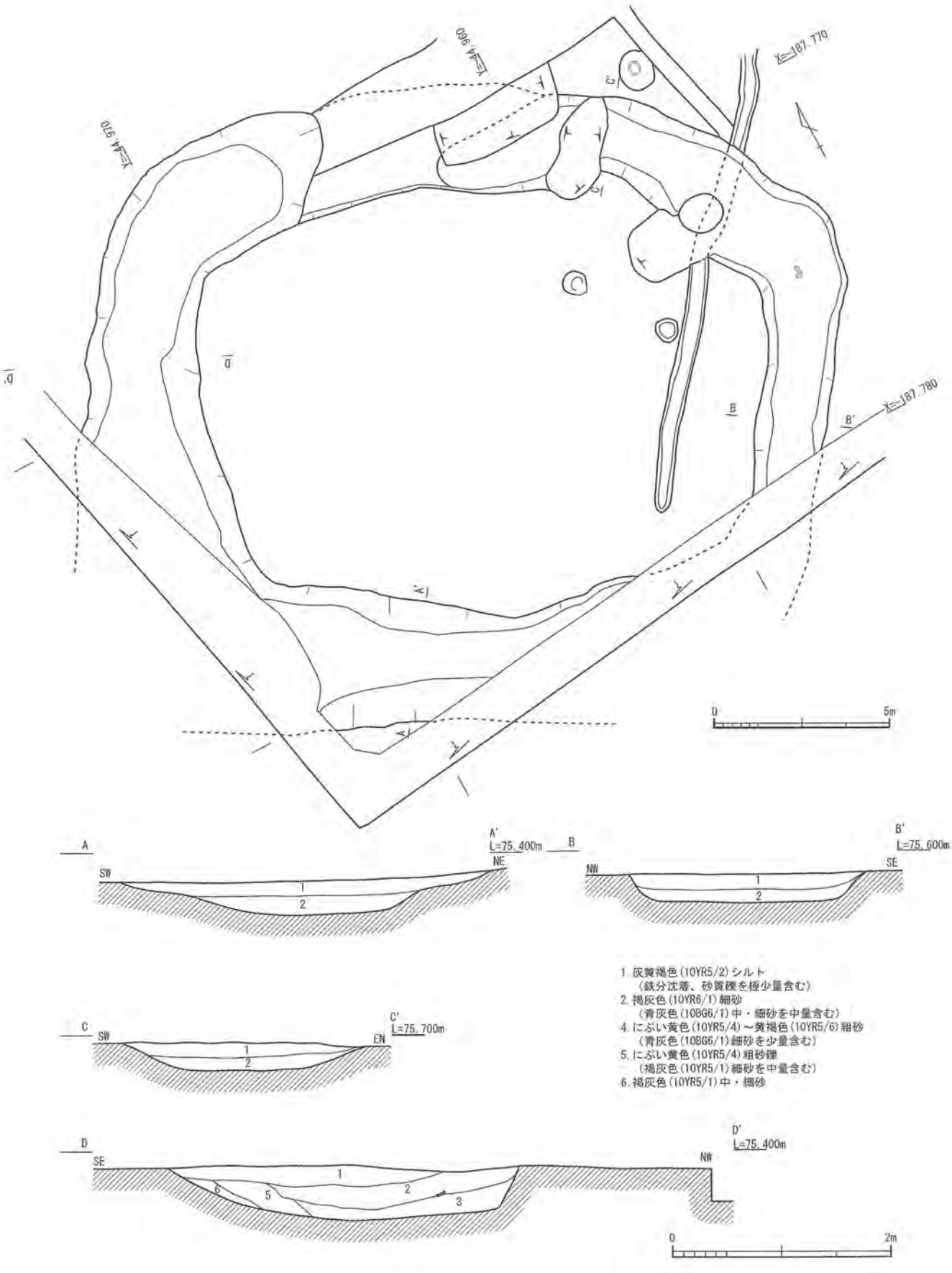


図 56　方形周溝墓３（5418）平面図・断面図　（S＝1/150、S＝1/50）

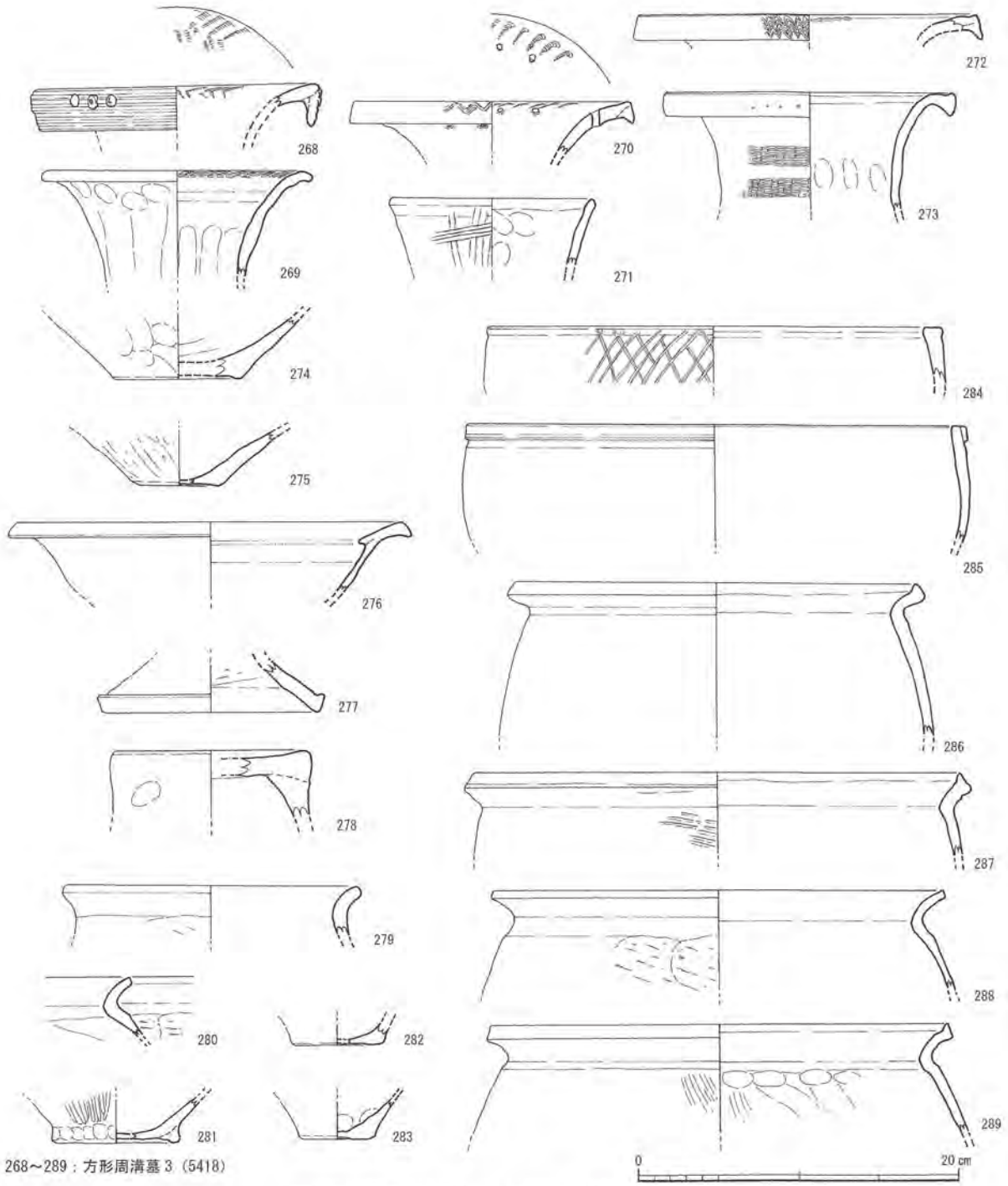


図 57　方形周溝墓３（5418）出土土器

ちヘラミガキ。（267）はくの字に外反する口縁部をもち、外面は左上がり方向のタタキを施す。

方形周溝墓２についても、Ⅳ様式後葉の遺物（243・244・253・254・258・259）が一部含まれるが、周溝上部の混入品とみられる。比較的遺存状況の良好な状態で出土した遺物（240・250・251・264）がⅢ様式前葉に位置付けられることから、遺構の時期は弥生時代中期中葉（Ⅲ様式前葉～中葉）と考えられる。

方形周溝墓３（5418）（図 56・図 57）　調査区南西（１－４区）、で検出した方形周溝墓である。周溝の南西隅と南東隅は調査区外となる。溝 16 と重複し、これが後出するが、調査時には方形周溝墓３の掘削を優先した。墳丘はＮ－30°－Ｅに南北軸を置き、墳長は南北 11.4 ｍ、東西 15.3

mを測る。検出した方形周溝墓の中で、唯一全体が判明する。北側周溝は途中で途切れ、陸橋と考えられる。平面形は東西に長い長方形を呈し、墳丘面積は177.1㎡を測る。

周溝は、幅1.8m～3.3m、深さ0.18～0.5mを測り、周溝南東で最も周溝の幅が細くなる。周溝断面は緩やかなU字状を呈し、褐灰色～にぶい黄色細砂～粗砂が水平に堆積する。周溝からは遺物が出土しているが、その出土状況は明らかではない。

遺物は、弥生土器広口長頸壺（268・270）・広口壺（269・272・273）・直口壺（271）・有段口縁壺（284）・壺（274・281）・甕（275・279・280・282・283・286～289）・鉢（285）・高杯（276・277）・回転台形土器（278）が出土している。（269）は口縁上端部内面に櫛状工具による刺突文を巡らせる。（271）は口縁部外面に粗い縦方向のハケを施す直口壺である。（273）は口縁端部外面に棒状の刺突文を巡らせ、頸部に櫛描簾状文を2条施す。（276）は水平口縁高杯の杯部で、口縁部を下方にわずかに垂下させる。口縁部内面の突帯は上方へ突出せず、内側に突出する。（278）は回転台形土器とされるもので、上面に平坦面を作る。県内では海南市岡村遺跡、有田川町野田地区遺跡などで出土例が見られる。（283）は生駒西麓産の甕底部である。

方形周溝墓3についても、Ⅳ様式後葉の遺物（268・277）が一部混入する。遺構の時期は、遺存状況の良好な遺物から、弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）と考えられる。

土器棺墓1（5246）（図58・図59）　方形周溝墓の周辺では、土器棺墓と考えられる埋設土器

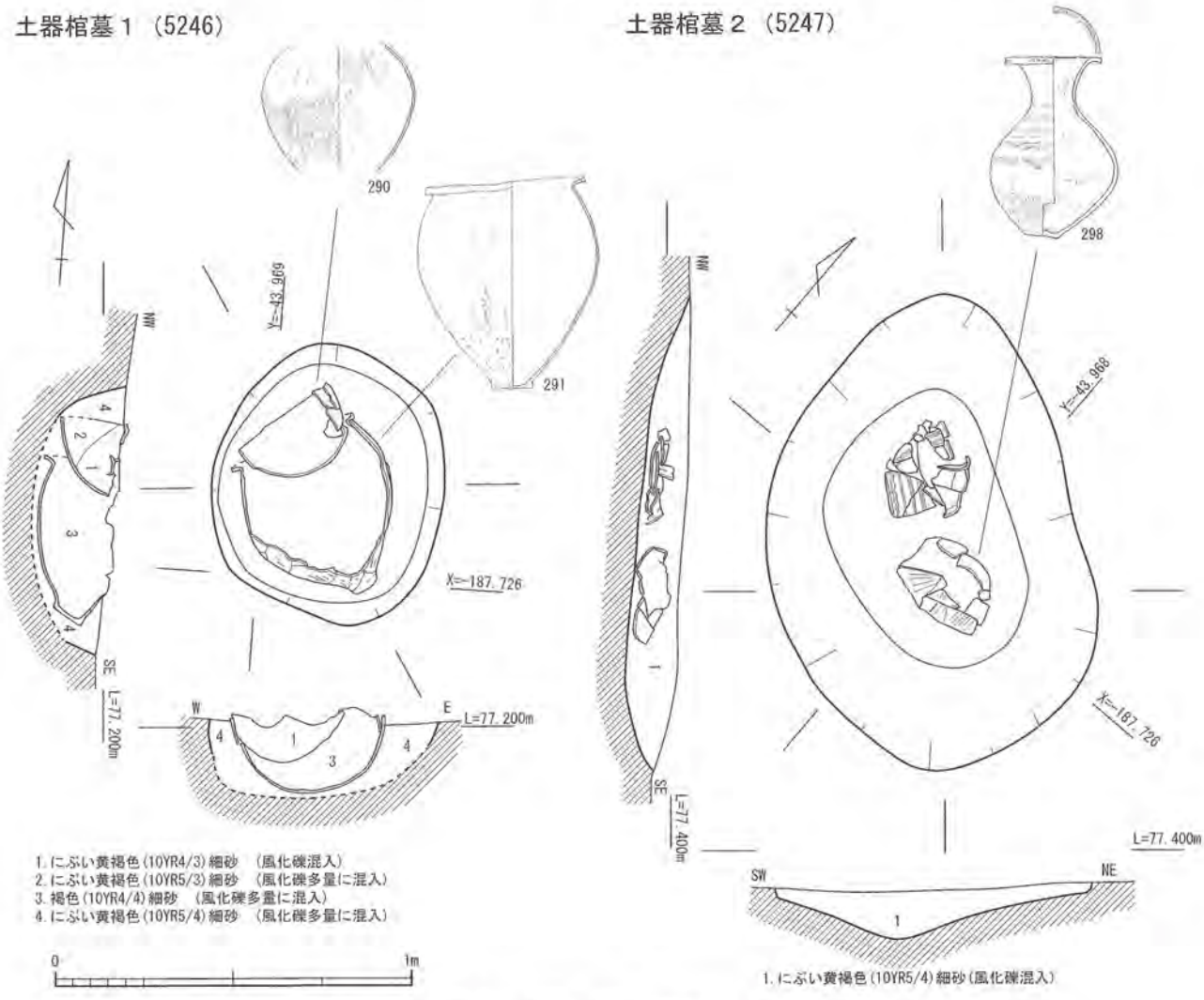
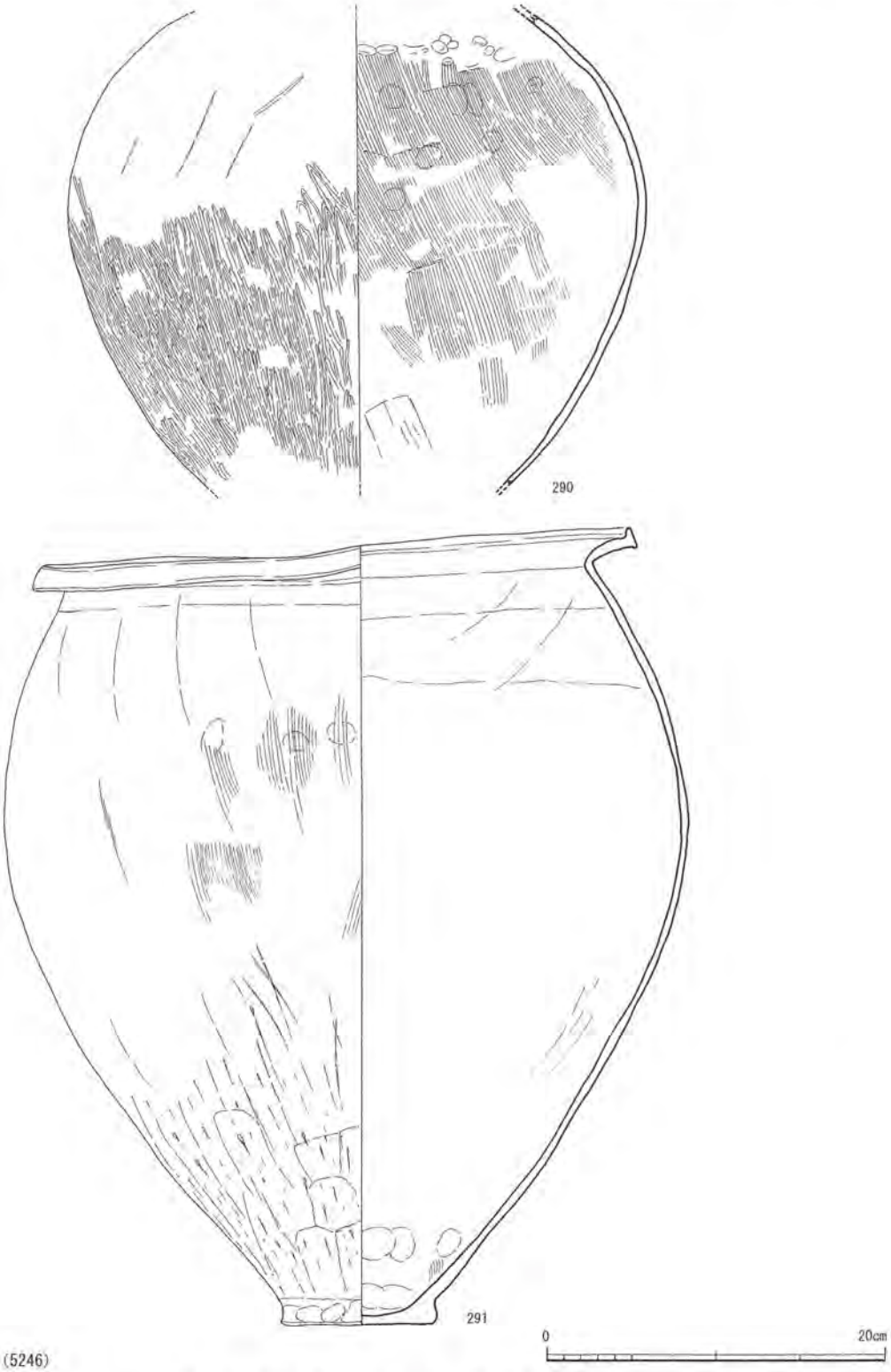


図58　土器棺墓1・2平面図・断面図　(S=1/20)

を合計５基検出している。土器棺墓１は調査区北西（１－３区）、方形周溝墓２の北で検出した。上面は後世の削平を受ける。掘形は長径0.75ｍ、短径0.65ｍ、深さ0.25ｍを測り、平面形は楕円形を呈する。地山起源と考えられるにぶい黄褐色細砂層で整地した後に棺身を埋置する。

棺身は、弥生土器甕（291）を横倒しに埋置する。上半は後世の削平をうけ、検出できたのは土器棺墓の下半部となる。甕の口縁部は北側に向け、口縁部側には壺（290）を置き蓋とする。壺は体部外面の湾曲を利用し、甕口縁部と合わせることにより閉塞する。壺は体部片であり、そ



290・291：土器棺墓１（5246）

図59　土器棺墓１（5246）出土土器

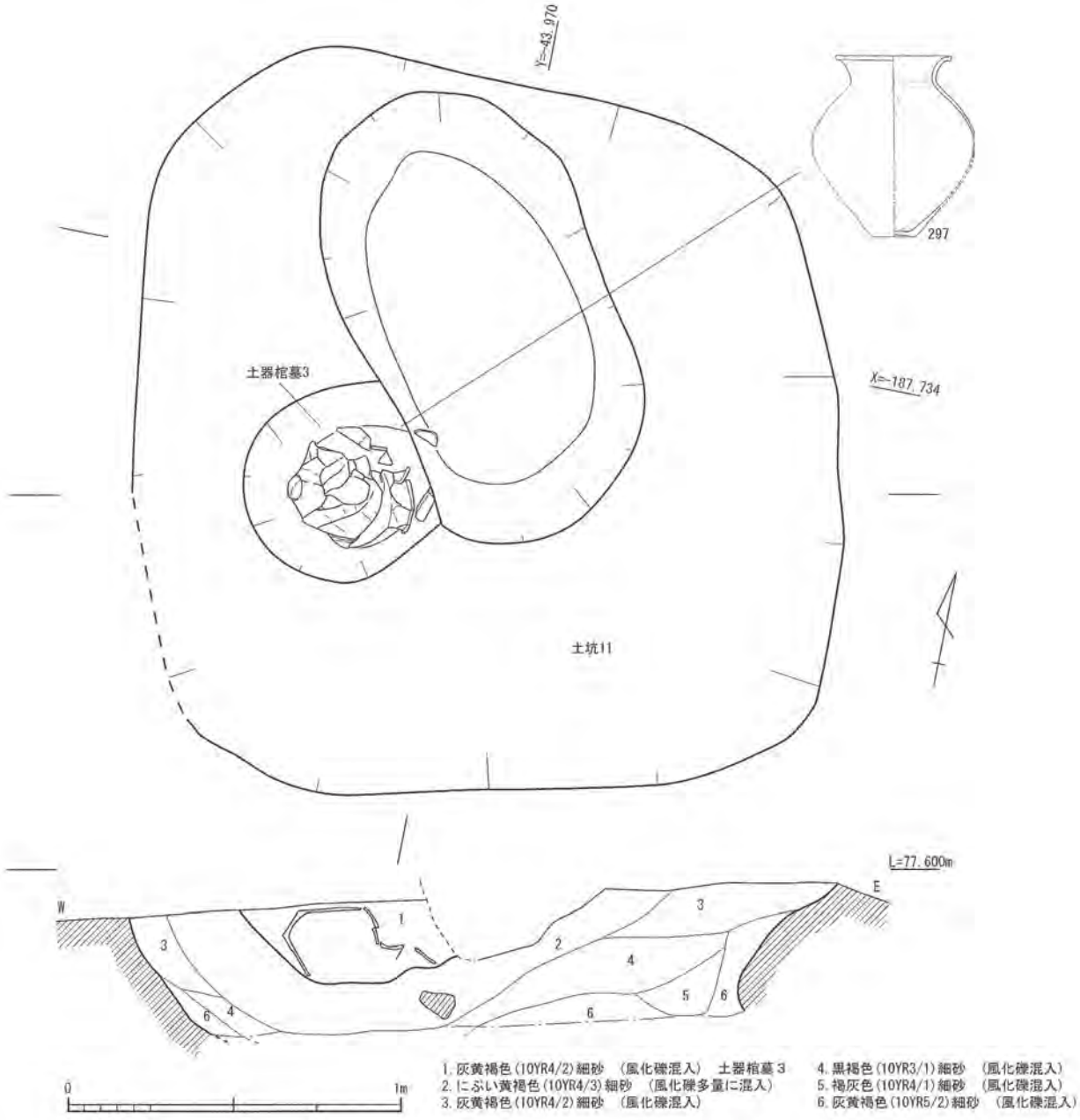


図 60　土器棺墓３（5325）、土坑 11（5326）平面図・断面図　（S＝1/20）

の出土状況から埋設時に口縁部や底部は故意に打ち欠かれ、蓋として適当な大きさに加工されたものとみられる。

（290）は壺体部であり、外面下半部は縦方向のヘラミガキが密に施される。外面上半部は板ナデを施し、一部にヘラ描きの斜線が見られる。内面は縦方向のハケを施す。（291）はくの字に短く外反する口縁部をもち、口縁端部は上下に拡張する。体部上半は板ナデ。体部下半から底部にかけてヘラケズリ。底部は突出する。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）と考えられる。

土器棺墓２（5247）（図 58・図 62）　調査区北西（１－３区）、土器棺墓１の東で検出した。調査時の所見では土器棺墓とされたが、復元された土器から推定して土器棺墓ではない可能性が高い。掘形は長径 1.35 m、短径 0.85 m、深さ 0.15 mを測り、平面形は不整形な楕円形を呈する。

掘形からは弥生土器広口壺（298）が出土している。土器は２つのまとまりに分かれて出土しており、北側では口縁部から上半部、南側では底部から下半部が出土した。遺構埋土は浅く、にぶい黄褐色細砂層からなる。

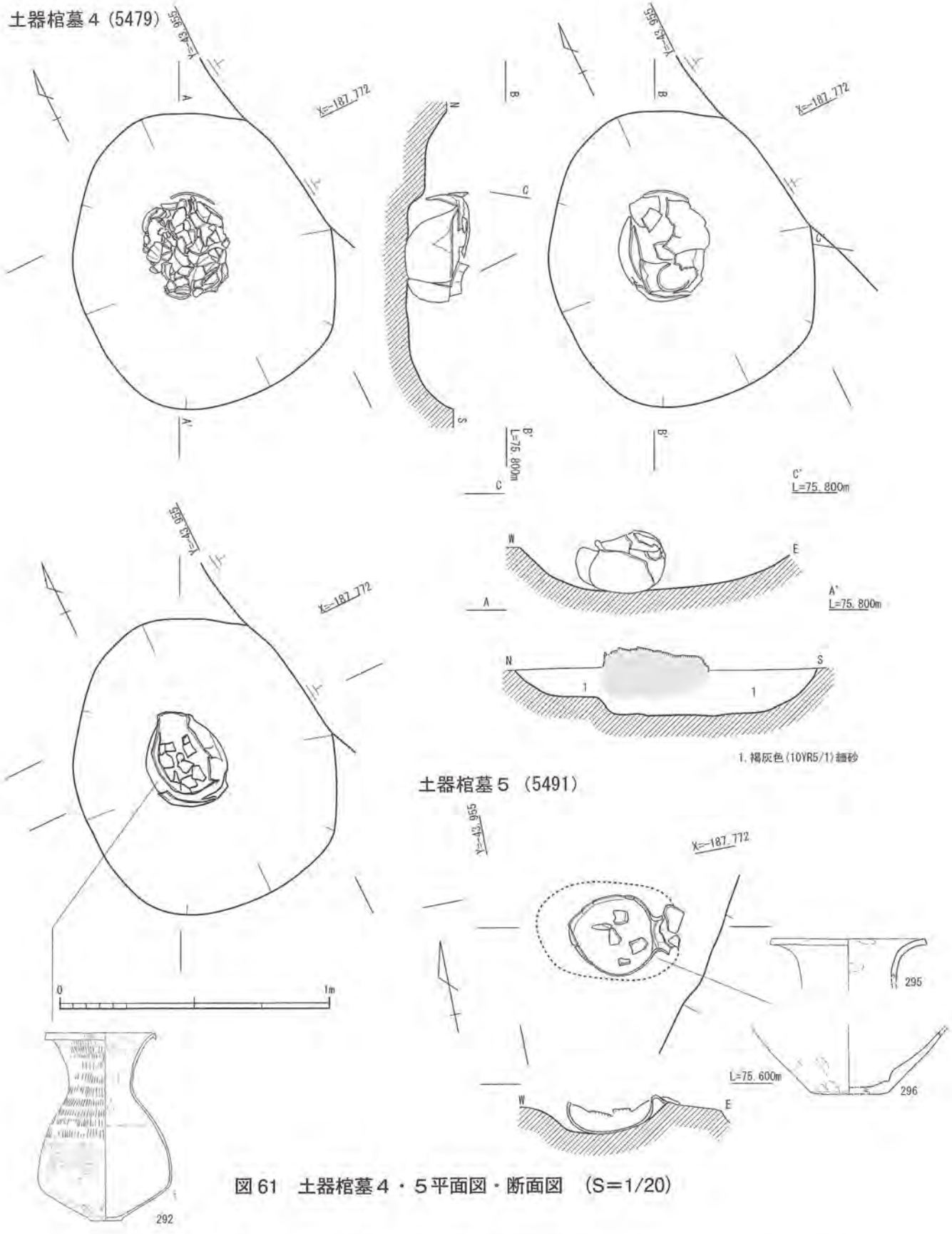


図61　土器棺墓４・５平面図・断面図　（S＝1/20）

（298）は緩やかに広がる口縁部をもち、口縁部外端面に櫛描波状文を施す。口縁部上端面には櫛描波状文を施す。頸部は櫛描直線文、波状文を施し、下半部はヘラミガキを施すものである。

遺構の時期は、弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）と考えられる。

土器棺墓３（5325）（図 60・図 62） 調査区北西（１－３区）、方形周溝墓２の北西で検出した土器棺墓である。方形周溝墓２の北側周溝が削平されその範囲は明らかではないが、方形周溝墓上に築かれた埋設土器の可能性が高い。土器棺墓３は、大型の土坑 11（5326）と重複する。これらの土坑については土器棺墓３に関連する遺構かどうかは判然しない。報告では土器棺墓は土器が埋設された狭い土坑の範囲と判断した。

掘形は長径 0.6 m、短径 0.55 m、深さ 0.25 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は灰黄褐色細砂層で風化礫が混じる。棺身は弥生土器広口壺（297）を横倒しにし、口縁部を斜め下に向ける。完形の状態で出土したが土器の遺存状態は悪く、完形に復元しえなかった。

（297）は緩やかに広がる口縁部をもち、端部は上下に拡張させる。内面は板ナデにより、平底の底部をもつ。胎土は灰白色を呈する。遺構の時期は、弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）と考えられる。

土器棺墓４（5479）（図 61・図 62） 調査区の南西（１－４区）、方形周溝墓３の北で近接して検出した土器棺墓である。掘形は長径 1.1 m、短径 0.95 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は楕円形を呈する。北側は二段に掘り窪め、棺身を埋設する。

棺身は弥生土器広口壺（292）を横倒しに埋置し、その上面に壺体部（293）を、口縁部側に壺底部（294）を置き蓋とするものである。（293）は埋設時に口縁部や底部は故意に打ち欠かれ、蓋として適当な大きさに加工されたものとみられる。（292・294）は生駒西麓産の搬入土器であり、（293）は在地の土器である。他地域からの搬入土器と在地の土器を組み合わせ棺とした例であり、土器棺墓の性格を考える上で興味深い。

（292）は緩やかに広がる口縁部をもち、端部を垂下させるもの。口縁部～頸部にかけて櫛描簾状文 10 条を施す。胴部下半は横方向の分割ヘラミガキを施し、やや下膨れとなる。（293）はやや肩が張る形態である。外面は縦方向のヘラミガキを密に施し、肩部にはヘラ状の工具により描かれた「/」が残る。内面はユビオサエを施す。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）と考えられる。

土器棺墓５（5491）（図 61・図 62） 調査区の南西（１－４区）、土器棺墓４の南東に位置し、方形周溝墓３の北で近接して検出した土器棺墓である。溝 16 と重複し、これが後出する。掘形は長径 0.55 m、短径 0.35、深さ 0.1 mを測る。平面形は楕円形を呈する。上面は後世の削平を受ける。

棺身は弥生土器広口壺（295・296）を横倒しに埋置する。棺蓋などは検出していない。口縁部から底部まで残存する状態で出土したが、遺存状況が極めて悪く、完形には復元できなかった。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式中葉）と考えられる。

土坑 12（5320）（図 63・図 65） 調査区北（１－３区）、で竪穴建物 13 に重複して検出した土坑である。竪穴建物 13 が後出し、上層遺構面の遺構である自然流路３とも重複し、建物中央を削平する。長径 2.5 m、短径 2.4 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は不整円形を呈する。埋土は褐灰色細砂で炭化物と亜円礫を少量含む。埋土中から遺物がまとまって出土した。

遺物は、弥生土器細頸壺（299 ～ 301）・有段口縁壺（302・305）・広口壺（303・304）・無頸壺（309）・甕（306・307）・水平口縁高杯（308）が出土している。（299）は口縁部下に櫛描簾状文、頸部には櫛描直線文を施す。（305）は有段の口縁部をもつものである。段の屈曲部には、刻み目を施す。（309）は内傾気味に伸びる口縁部をもち、口縁端部に粘土紐を貼り付け口縁部突帯とするものである。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式中葉）と考えられる。

土坑 13（5406）（図 65・図 67） 調査区南（１－４区）、土坑 22 と重複して検出した土坑である。土坑 13 が後出する。長径 1.2 m、短径 1.15 m、深さ 0.15 mは測り、平面形は楕円形の土坑である。



292～294：土器棺墓４（5479）　295・296：土器棺墓５（5491）　297：土器棺墓３（5325）　298：土器棺墓２（5247）

図 62　土器棺墓２～５出土土器

遺物は、弥生土器甕（310 ～ 313）・水平口縁高杯（314）が出土している。（314）は屈曲し水平に伸びる口縁部をもつもので、口縁端部は短く垂下させる。杯部は直線的に広がる形態をもつ。遺構の時期は、（314）が古い要素を持つものの、土坑 22 との切り合い関係から弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）と考えられる。

土坑 14（5255）（図 64・図 65）　調査区北（１－３区）で検出した土坑である。長径 1.05 m、短径 0.8 m。深さ 0.15 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は灰色細砂層で鉄分、砂質礫を多く含む。

遺物は弥生土器広口壺（315）・直口壺（316）・甕（317・318）が出土している。（315）はくの字に大きく開く口縁部をもつ口縁端部は上下に拡張し、面を作る。上端面には２個１対で３方向の紐孔をもつ。（318）は端部を内側に肥厚し沈線を巡らせる。外面は肩部に水平タタキ、体部は左上がりのタタキ。胴部下半はヘラケズリを施す。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）と考えられる。

土坑 15（5298）（図 64・図 68）　調査区北（１－３区）で検出した土坑である。長径 2.0 m、短径 1.65 m、深さ 0.3 mを測り、平面形は不整円形を呈する。遺構掘形は緩やかに落ち込む皿状を呈し、中央で直径 10 ～ 20 ㎝大の亜角礫と遺物がまとまって出土した。

遺物は、弥生土器細頸壺（319）・広口壺（320・321）・甕（322）が出土している。（319）は細くすぼまった頸部から直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。外面は縦方向のヘラミガキを施す。破片数から１個体に復元されると考えられるが、完形に復元できなかった。（320・321）は生駒西麓産で、口縁端部は丸く肥厚し垂下させるものである。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

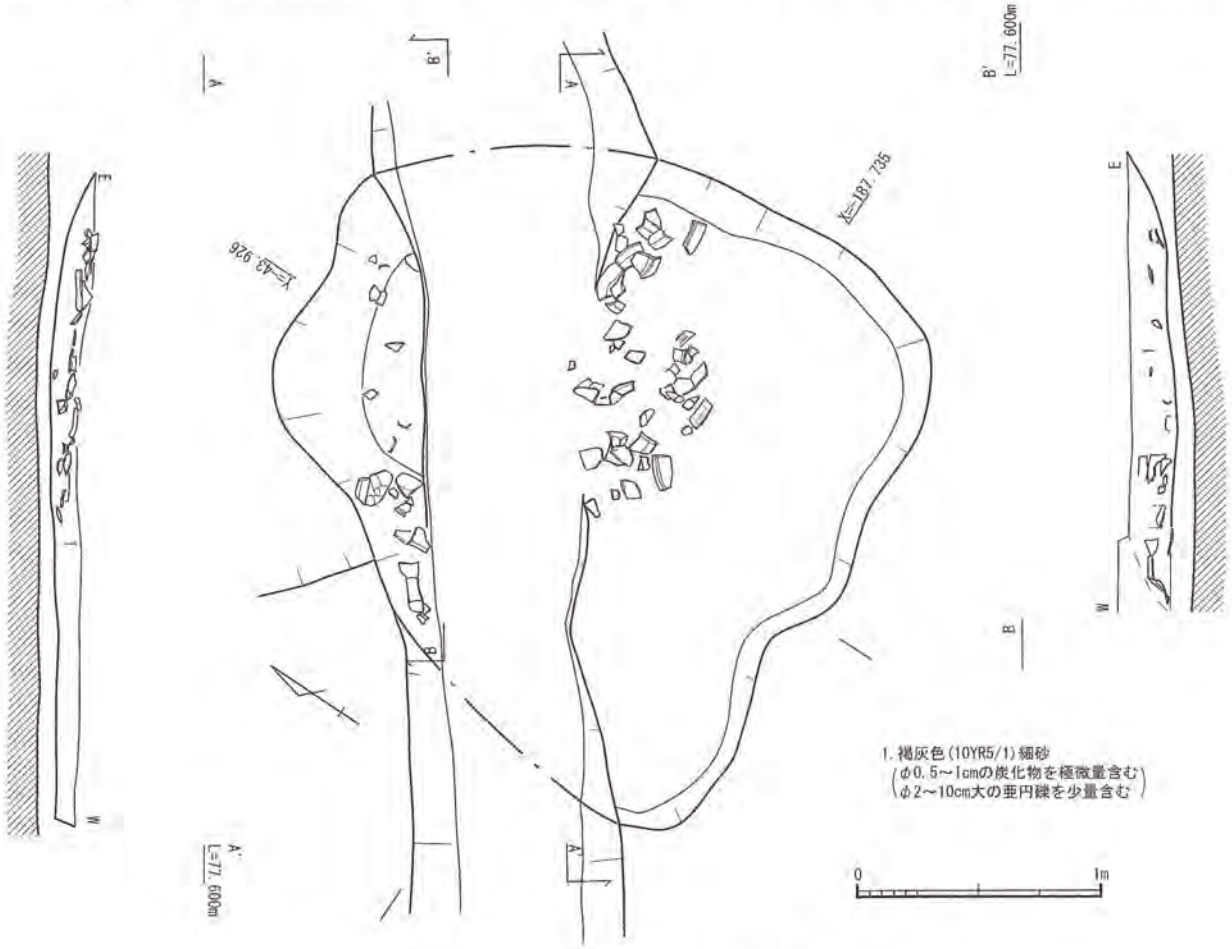
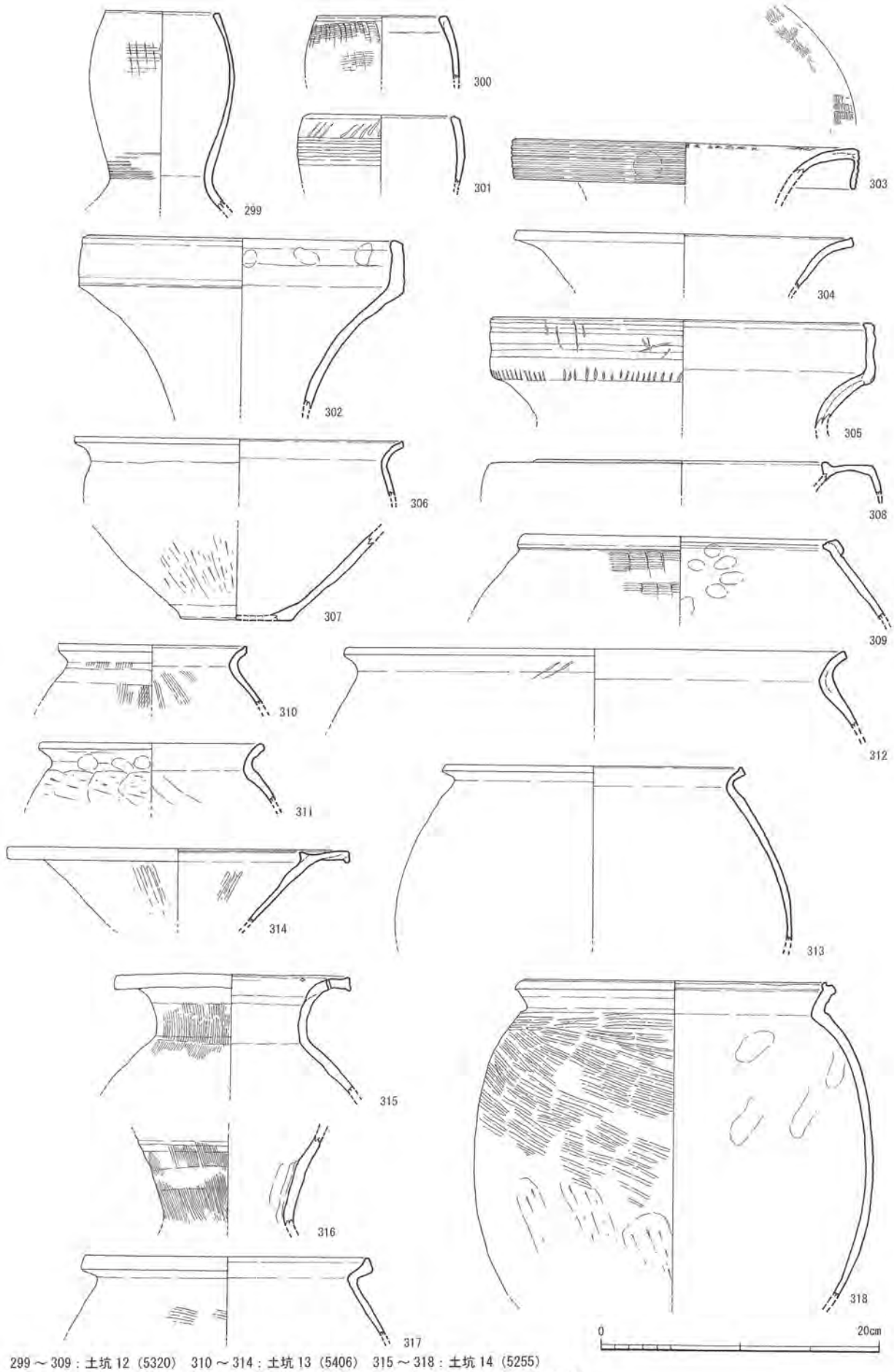


図 63　土坑 12（5320）平面図・断面図　（S＝1/30）



図64　土坑14・15平面図・断面図　（S＝1/20）



299～309：土坑 12（5320）　310～314：土坑 13（5406）　315～318：土坑 14（5255）

図 65　土坑 12～14 出土土器

土坑 16（5415）（図 68）　調査区南（１－４区）で検出した土坑である。長径 5.1 m、短径 1.1 m、深さ 0.15 mを測り、平面形は長楕円形を呈する。南北に長い遺物は、弥生土器甕（324・325）・蓋（323）・高杯（326）が出土している。（319）は細くすぼまった頸部から直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。外面は縦方向のヘラミガキを施す。破片数から１個体分の土器に復元されると考えられるが、完形に復元できなかった。（320・321）は生駒西麓産で、口縁端部は丸く肥厚し垂下させるものである。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式中葉）と考えられる。

土坑 18（5177）（図 67・図 68）　調査区南東（１－２区）で検出した土坑である。長径 4.3 m、短径 0.55 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は長楕円形を呈する。南北に長い土坑である。遺物は、弥生土器広口壺（328）・壺（329・330）・甕（331・332）が出土している。（330）は胎土中に金雲母を顕著に含み搬入土器と考えられる。遺構の時期は、弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）と考えられる。

土坑 20（5481）（図 68）　調査区南西（１－４区）で検出した土坑である。土坑南側を近世の暗渠排水溝に削平される。長径 1.2 m、短径 1.0 m、深さ 0.15 mを測り、平面形は楕円形を呈する。遺物は、弥生土器甕（336 ～ 340）が出土している。（336・337）は短く外反する口縁部を持つもので肩部は横方向のヘラケズリ。ヘラケズリの境界は明瞭で稜が残る。遺構の時期は、弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）である。

土坑 21（5434）（図 67・図 68）　調査区南（１－４区）、土坑 13 と近接して検出した土坑である。長径 1.3 m、短径 1.0 m、深さ 0.15 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は黒褐色の細砂で、円礫直径１～ 10 cm、鉄分を含む。遺物は、弥生土器広口壺（341）・甕（342）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）と考えられる。

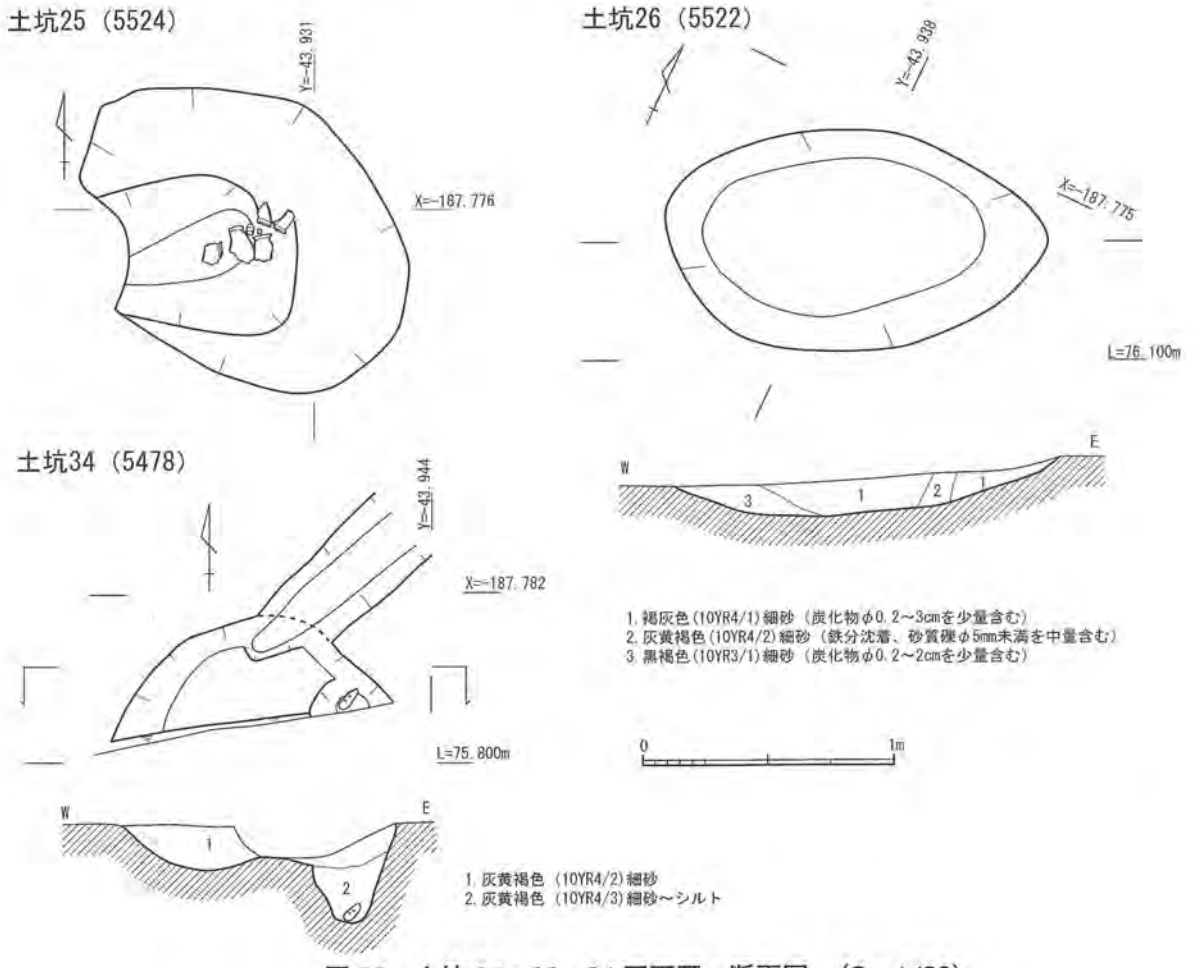
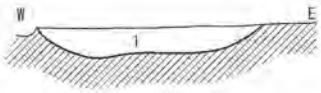


図 66　土坑 25・26・34 平面図・断面図　（S＝1/30）

土坑13（5406）

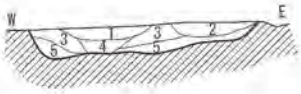
L=76.500m



1. 黒褐色(10YR3/1)細砂
（鉄分沈着、砂質礫φ2cm未満を中量、
河原石φ1～10cmを中量含む）

土坑18（5177）

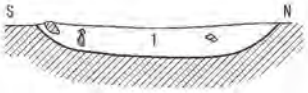
L=77.000m



1. 黄褐色(2.5Y5/3)細砂（風化礫を少量含む）
2. 黒褐色(2.5Y3/2)細砂（風化礫を少量含む）
3. オリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂（風化礫を少量含む）
4. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂（風化礫を少量含む）
5. オリーブ黒色(5Y3/2)細砂（風化礫を少量含む）

土坑21（5434）

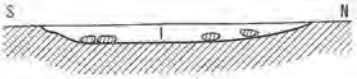
L=76.500m



1. 黒褐色(10YR3/1)細砂
（鉄分沈着、砂質礫2cm未満を中量含む。円礫φ1～10cmを中量含む）

土坑22（5407）

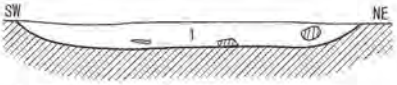
L=76.500m



1. 黒褐色(10YR3/1)細砂
（鉄分沈着、砂質礫2cm未満を中量、
円礫φ1～10cmを中量含む）

土坑27（5489）

L=75.900m



1. 褐灰色(10YR5/1)細砂
（φ0.5～1cmの炭化物を極微量、
φ2～10cm大の円礫を少量含む）

土坑28（5129）

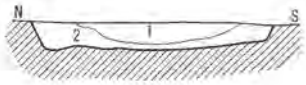
L=76.800m



1. 灰色(5Y4/1)細砂（細かい風化礫を少し含む）
2. 灰色(7.5Y5/1)細砂（細かい風化礫を少し含む）

土坑29（5435）

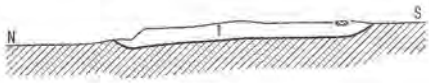
L=76.400m



1. 黄灰色(2.5Y4/1)シルト
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト

土坑30（5410）

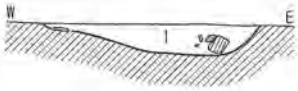
L=76.300m



1. 褐灰色(10YR4/1)細砂

土坑31（5409）

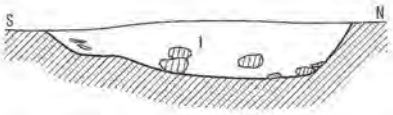
L=76.500m



1. 黒褐色(10YR3/1)細砂
（鉄分沈着、砂質礫φ2cm未満を中量、
円礫φ1～15cmを中量含む）

土坑35（5405）

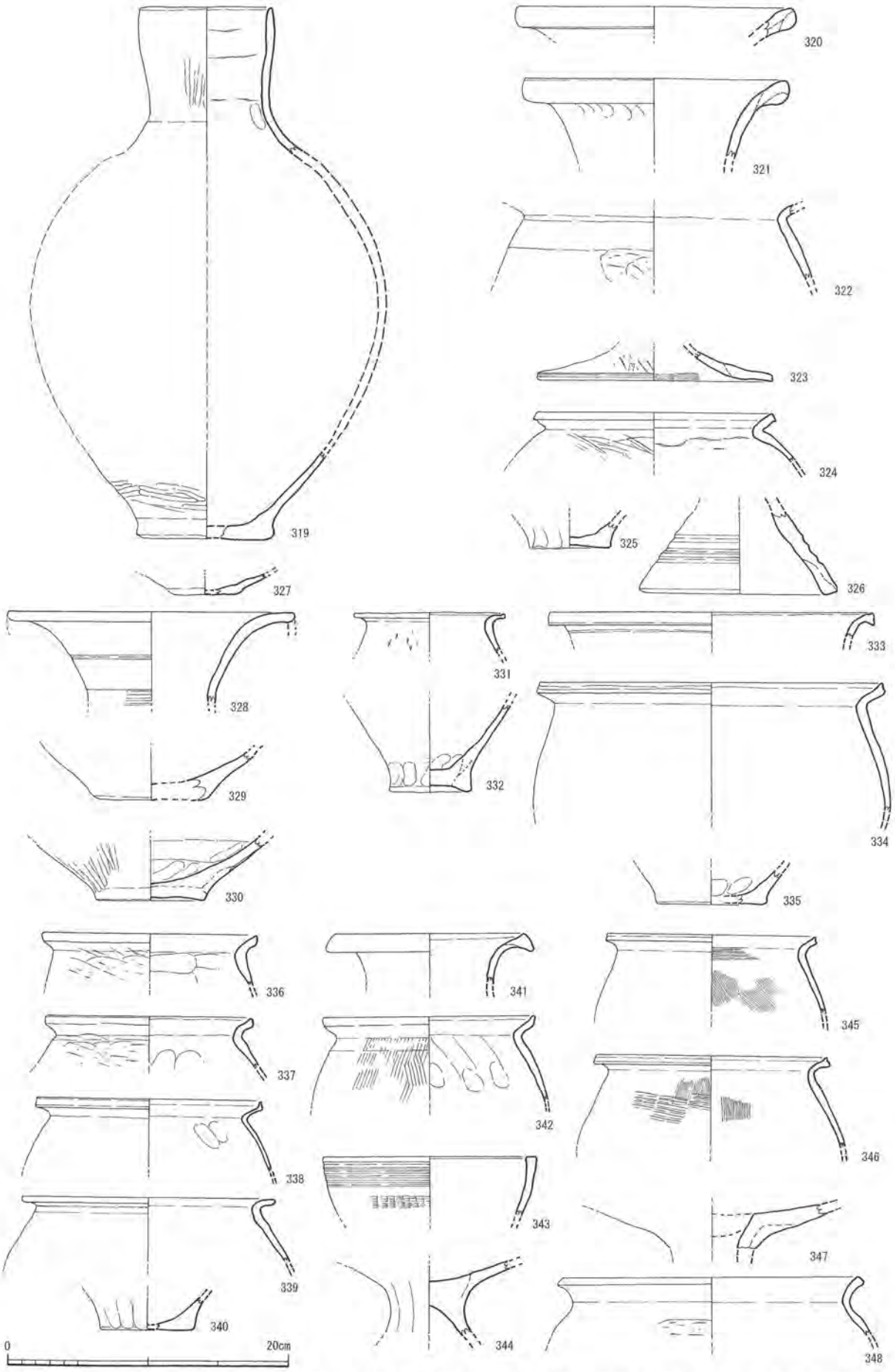
L=76.500m



1. 黒褐色(10YR3/1)細砂
（鉄分沈着、砂質礫2cm未満を中量含む。
円礫φ1～10cmを中量含む。）

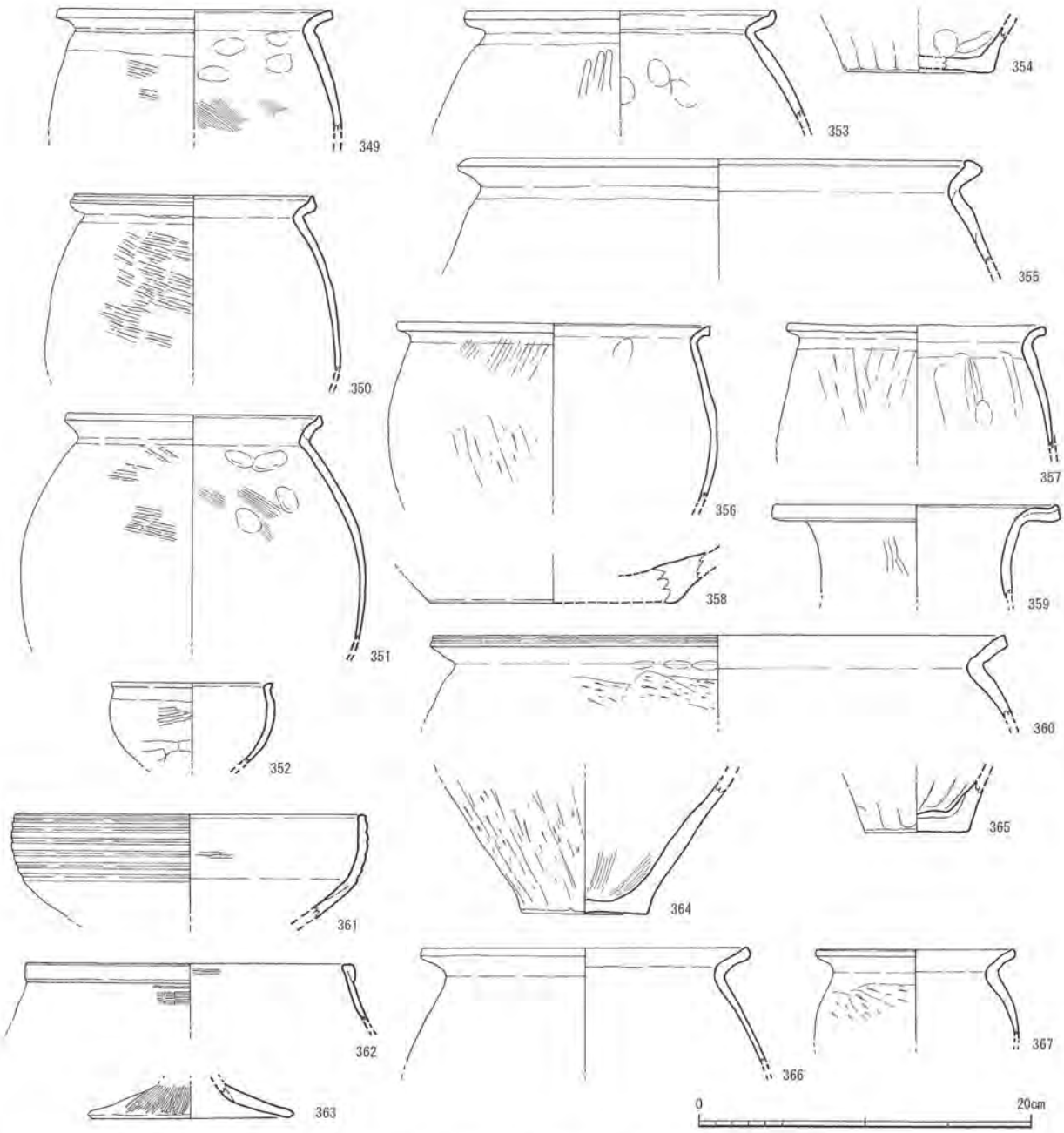


図67　土坑13・18・21・22・27～31・35平面図・断面図（S=1/120、S=1/40）



319～322：土坑 15（5298） 323～326：土坑 16（5415） 327：土坑 17（5331） 328～332：土坑 18（5177） 333～335：土坑 19（5417）
336～340：土坑 20（5481） 341・342：土坑 21（5434） 343・344：土坑 22（5407） 345～347：土坑 23（5480） 348：土坑 24（5533）

図 68　土坑 15～24 出土土器



349～352：土坑 25（5524）353～355：土坑 26（5522）356～358：土坑 27（5489）359：土坑 28（5129） 360：土坑 29（5435）
361：土坑 30（5410）362・363：土坑 31（5409）364：土坑 32（5504）365：土坑 33（5432）366：ピット 4（5150）367：ピット 5（5509）

図 69　土坑 25 ～ 33、ピット 4・5 出土土器

土坑 22（5407）（図 67・図 68）　調査区南（1－4 区）、土坑 13 と重複して検出した土坑である。土坑 13 が後出する。長径 1.45 m、短径 0.9 m、深さ 0.15 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は黒褐色の細砂で、円礫直径 1 ～ 10 ㎝、鉄分を含む。遺物は、弥生土器細頸壺（343）・高杯（344）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）と考えられる。

土坑 25（5524）（図 66・図 69）　調査区南（1－4 区）、竪穴建物 14 と重複し検出した。竪穴建物 14 が後出する。長径 1.3 m、短径 1.1 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は楕円形を呈する。土坑中央から遺物がまとまって出土した。遺物は、弥生土器甕（349 ～ 351）、小型鉢（352）が出土している。（349 ～ 351）は外折する口縁部をもち、外面はタタキ、内面は縦方向のハケを施す。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式中葉）と考えられる。

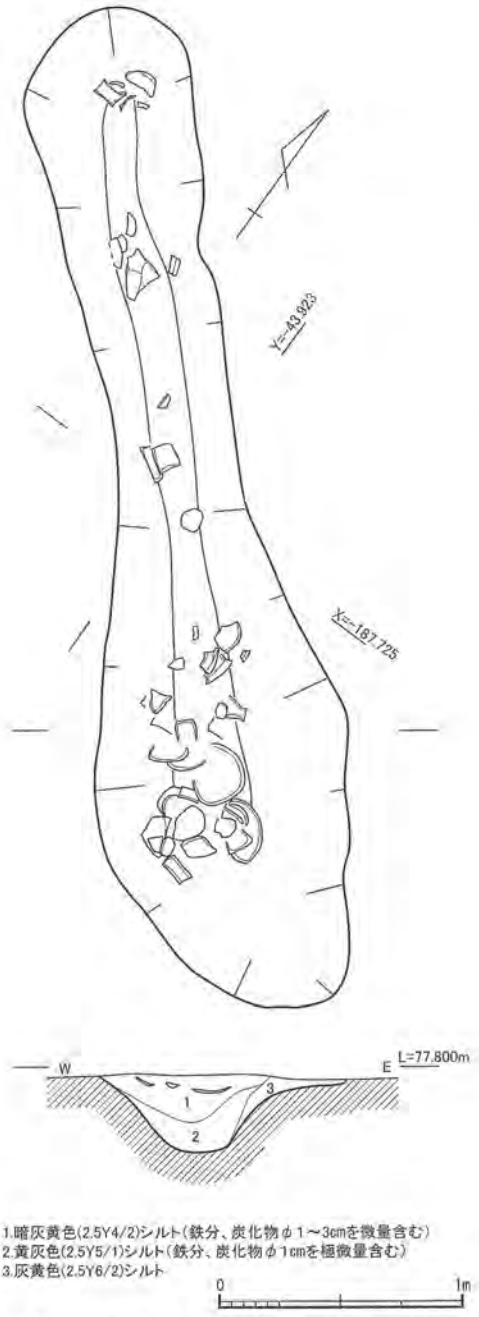


図70　溝13（5258）平面図・断面図　（S＝1/30）

土坑27(5489)（図67・図69）　調査区南西（1－4区）、方形周溝墓3の北東で検出した土坑である。長径1.75m、短径1.15m、深さ0.2mを測り、平面形は楕円形を呈する。遺物は弥生土器甕（356・357）・壺（358）が出土している。（357）は肩部が張らず直線的に伸びるもので。外面はヘラケズリ。内面は板ナデを施す。遺構の時期は、弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）と考えられる。

土坑29（5435）（図67・図69）　調査区南（1－4区）、竪穴建物10の西で検出した土坑である。長径1.4m、短径1.0m、深さ0.2mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は2層に分けられ、黄灰色～暗灰黄色シルト層が堆積する。遺物は、弥生土器甕（360）が出土している。（360）はくの字に外折する口縁部をもち、端部には凹線を施す。肩部外面はヘラケズリを施す。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）と考えられる。

土坑30（5410）（図67・図69）　調査区南（1－4区）、自然流路8に重複して検出した土坑である。土坑30が後出する。長径1.35m、短径0.9m、深さ0.1mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は褐灰色細砂層からなる。遺物は、弥生土器高杯（361）が出土している。（361）は杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもので、屈曲部に凹線文6条をもつ。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

土坑31（5409）（図67・図69）　調査区南（1－4区）、自然流路8に重複して検出した土坑である。土坑31が後出する。長径2.0m、短径1.15m、深さ0.15mを測り、平面形は楕円形を呈する。遺物は、弥生土器無頸壺（362）・蓋（363）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

土坑34（5478）（図66）　調査区南（1－4区）で検出した土坑である。溝と重複し、これが後出する。遺構南側は側溝の掘削により検出できない。長径1.2m、短径0.4m、深さ0.4mを測り、平面形は楕円形を呈すると考えられる。遺物は、石庖丁（S7）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期（Ⅲ様式～Ⅳ様式）と考えられる。

土坑35（5405）（図67）　調査区南（1－4区）で検出した土坑である。長径1.6m、短径1.0m、深さ0.3mを測り、平面形は楕円形を呈するものと考えられる。遺物は、横刃形石器（S25）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期（Ⅲ様式～Ⅳ様式）と考えられる。

溝 13（5258）（図 70・図 72）　調査区北（１－３区）で出土した溝状遺構である。北西方向から南東方向に伸び、長さ 4.0 m、幅 1.0 m、深さ 0.15 mを測る。断面形は緩やかなＶ字形を呈し、埋土は３層に分けられ、１・２層は暗灰黄色～黄灰色シルト層からなり、鉄分・炭化物を含む。土層の観察から再度掘削された状況を示す。遺構・埋土からは遺物、礫がまとまって出土している。

遺物は、弥生土器広口長頸壺（368 ～ 369）・広口壺（370）・細頸壺（372）・有段口縁壺（373）・無頸壺（378）・壺（371・374 ～ 376）・甕（382 ～ 390）・台付鉢(377)・高杯(379 ～ 381)が出土している。(369)は外反する口縁部をもち、端部を垂下させるもの。端部に凹線文５条を施す。端部内面には刺突文を施し、紐孔をもつ。(370)は口縁端部の外側に面をもち、櫛描波状文を施す。（372）は内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。口縁部に凹線５条をもち、頸部に櫛描波状文、肩部に櫛描直線文３条を施す。（373）は端部は外側に引き出し、上方に面をもつ。口縁部外面は凹線文を施す。（377）は鉢部中程で屈曲し、内傾気味に立ち上がる鉢上半部をもつもの。鉢部と脚部の接合は円盤充填技法による。口縁端部は内外に拡張し、上方に内傾面を作る。外面は櫛描簾状文２条を施す。（385 ～ 390）はくの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面はタテハケのちナデ、内面はユビオサエ。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

溝 14（5200）（図 71・図 72）　調査区南東（１－２区）で検出した溝である。北西方向から南東方向に延びる溝で、検出長 11.0 m、幅 0.7 m、深さ 0.1 mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、埋土は黄灰色細砂からなる。溝埋土上面からは直径 10 ～ 20 ㎝大の亜角礫と遺物が多量に出土している。

遺物は、弥生土器壺（393）、甕（392・393）、水平口縁高杯（394）が出土している。(394)は水平に屈曲する口縁部をもち、端部は幅広の面に櫛描波状文を施す。受け部の突出は明瞭である。遺構の時期は、弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）と考えられる。

自然流路８（5180）（図 73・図 74・図 75・図 76・図 77・図 78）　調査区中央（１－３～１－４区）で

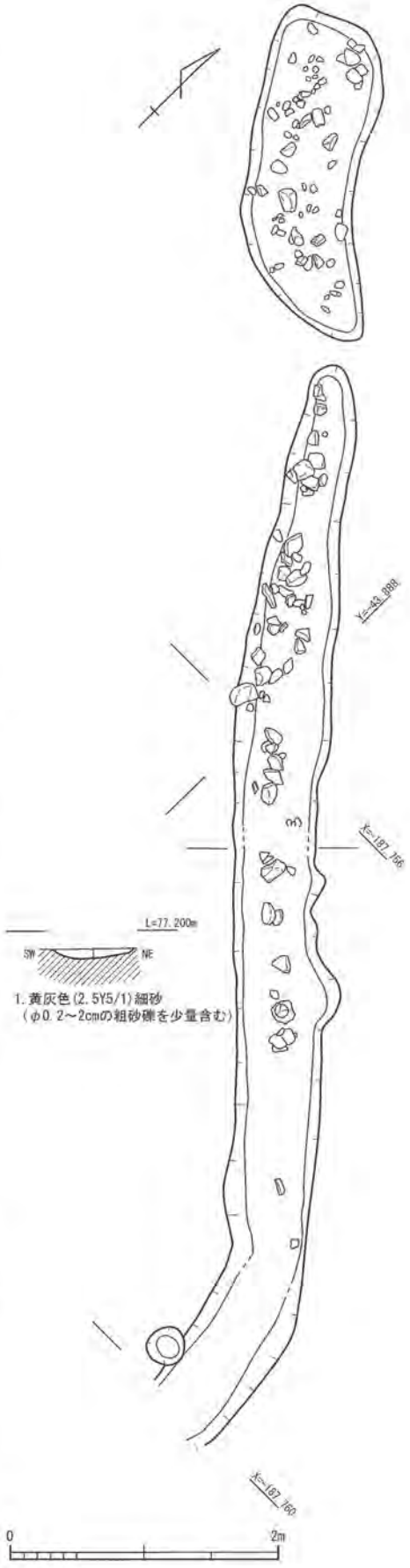
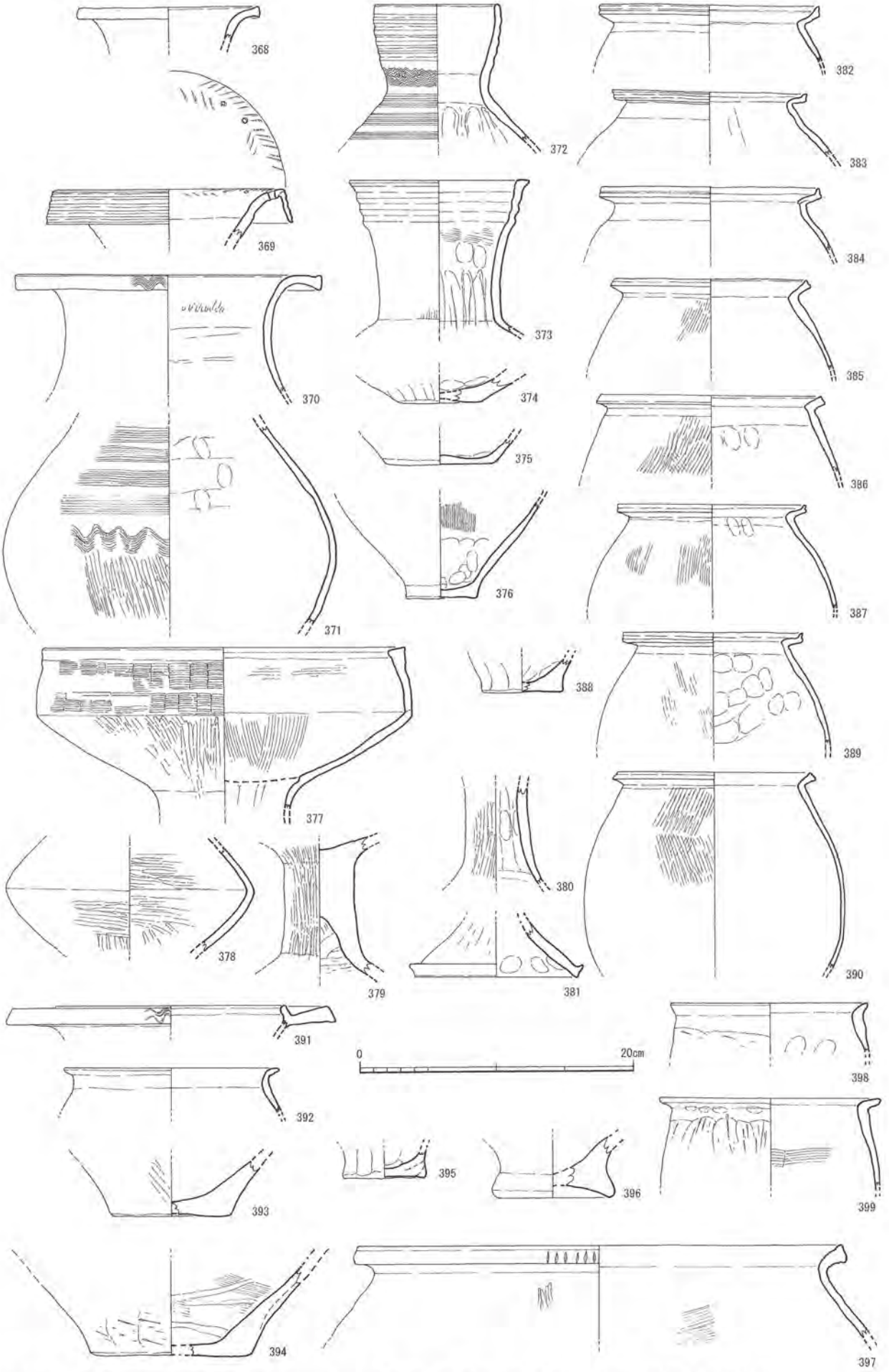


図 71　溝 14（5200）平面図・断面図　(S＝1/50)



368～390：溝13（5258）　391～394：溝14（5200）　395：溝15（5112）　396・397：溝16（5420）　398・399：溝17（5367）

図72　溝13～17出土土器

検出した自然流路である。遺構東側は自然流路５が重複し、南側で竪穴建物５、土坑等が重複する。これらの遺構が後出し、自然流路８が最も古くなる。自然流路８は北東方向から南西方向に流れ、検出長 45.0 m、幅 5.0 ～ 13.0 mを測る。砂礫層が厚く堆積するため、最深部では自然流路の底は確認できていない。

自然流路８は、調査区中央で長方形に大きく落ち込み、西側は途切れる。本来は大規模な自然流路であったが、上面からの削平を受け、流路底の深い部分のみが残ったと考えられる。埋土上層は暗灰黄色細砂～褐灰色細砂層で明オリーブ色の砂礫を多く含む。下層はオリーブ灰色中・細砂と砂礫層が交互に堆積する。遺物は落ち込み部分の上層で多量に出土している。出土状況は不明な点が多いが、異なる層位間でも遺物の接合関係が認められる。

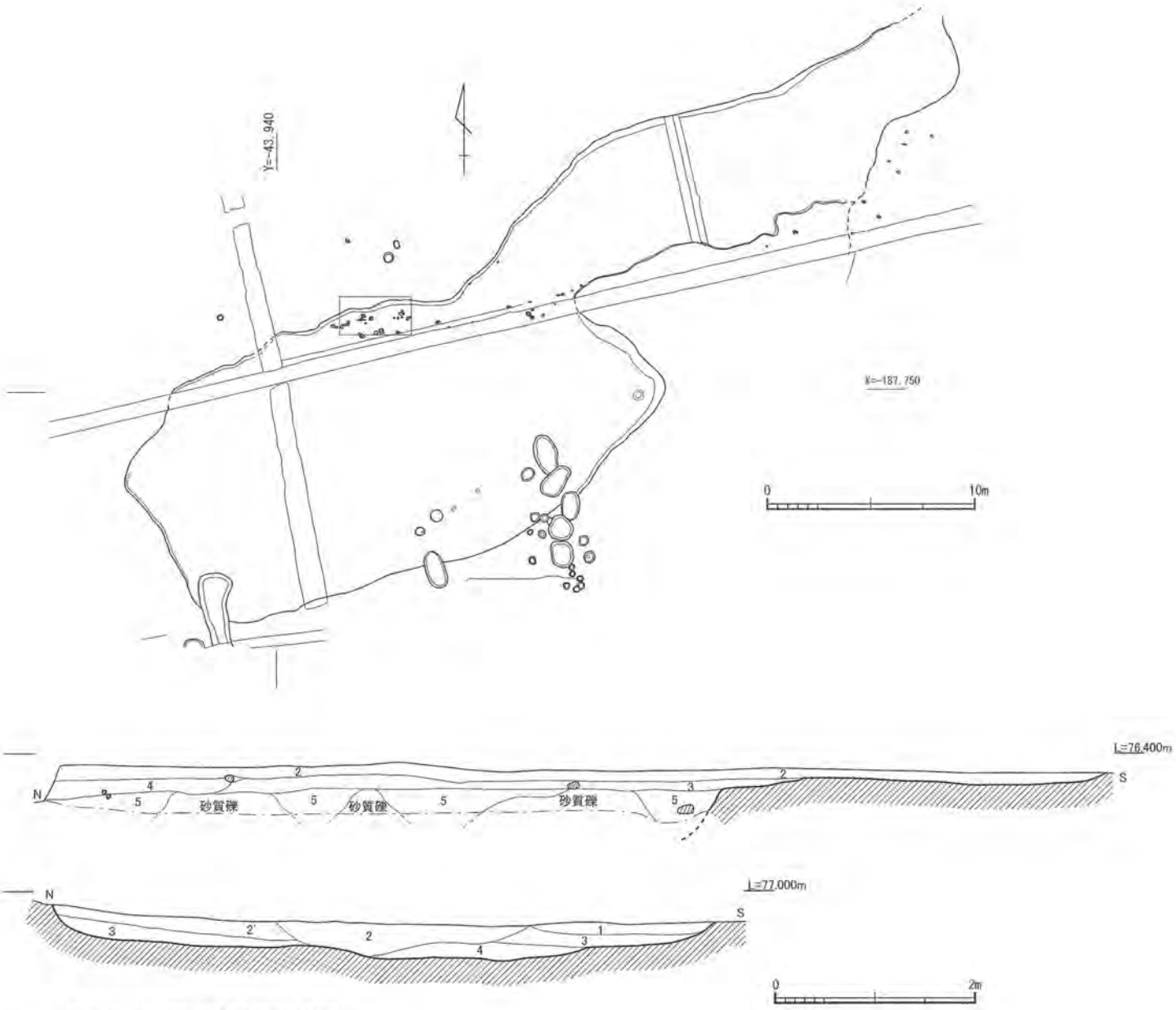
遺物は、弥生土器広口細頸壺（400 ～ 402）・広口壺（403 ～ 409・411 ～ 414・416・417）・広口長頸壺（415）・広口太頸壺（410・418・419）・有段口縁壺（420・421・428・436 ～ 443）・細頸壺（425）・直口壺（424・426・427・429）・無頸壺（478・479）・壺（422・423・430 ～ 435・486・488・489・491・492）・甕（444 ～ 457・493）・大和形甕（494）・瀬戸内系甕（495）・鉢（487・490）・台付鉢（477）・椀形高杯（468・470 ～ 473）・水平口縁高杯（469）・高杯（474・480 ～ 482）・脚台付土器（483 ～ 485）・蓋（475・476）が出土している。

（400・402）は端部を上下に拡張し、上端面には櫛による刺突文を施す。（403・404・412・413・414）は口縁部外側に面をもち、上端部には櫛状工具による綾杉状の刺突文、紐孔をもつ。（409）は頸部から肩部にかけて櫛描簾状文７条・扇状文を施す。（415）は端部外面は刻み目、上端面に櫛による刺突文を施す。(413・414)は上端面には櫛状工具による綾杉状刺突文を施す。(422)は頸部・胴部界に沈線文を施す壺で、弥生時代前期後葉の混入品である。（426 ～ 427）は直線的に伸びる口縁部をもつ直口壺。端部は内外に拡張し上方に面をつくる。口縁部外面は凹線文３条を施す。（429）は上から櫛描波状文、突帯４条を貼り付け、櫛描直線文の順で施文する直口壺である。

（436 ～ 439・441 ～ 443）は絵画土器である。いずれも有段口縁壺で胎土は長石・石英・金雲母を含み、在地の土器とは異なる。焼成も極めて良好である。土器に描かれた絵画は、「鹿」であり、鹿の大きさは横約５cm、縦４cmの大きさで、ヘラ状の工具で描かれたとみられる。鹿には角のある雄鹿と、角の無い雌鹿と性別があり、雌雄並んで描かれた（438）も存在する。描き方は、まず体を半円弧の線で表現し、中は斜線で埋め、その後、頭、角、足を描出する。(439)は鹿の体部の円弧で、描画途中のものとみられる。また、首の長い鹿（441）も存在し、角のある雄鹿が描かれています。(442)は雄鹿の首は太く、二本の線で描かれ、斜線で埋められる。いずれも破片で、接合関係は見られないものの、壺の器種、口径から２個体程度の壺に復元されると考えられる。(442)については土器の産地の同定のため、胎土分析を行った。その結果、別にサンプリングした大和形甕と同様の鉱物組成を示したことから、絵画土器は大和地域からの搬入土器の可能性が高い。

甕は、くの字に外折する口縁部をもち、外面はハケまたは板ナデ調整のもの（444 ～ 451）、水平タタキを施すもの（452 ～ 454）、口縁端部に刻み目をもつもの（455 ～ 458）、肩部以下ヘラケズリを行うもの（459 ～ 467）が存在する。(455)は肩部に櫛描簾状文を施す。

高杯は椀形で杯部外面に２～５条の凹線文を施すもの（468 ～ 473）、内湾気味に立ち上がる椀形の杯部をもつもの(474)が存在する。(474)は端部は内外に拡張し上方に面をつくり、やや下がった杯部下半に突帯２条を貼り付け刻み目を施す。(479)は口縁部に突帯３条を施す。



1.暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂(淡黄色砂質礫を少量含む)
2.褐灰色(10YR4/1)細砂(明オリーブ色砂質礫・河原石中量含む)
2'.2+鉄分沈着
3.黄灰色(2.5Y4/1)細砂(明オリーブ色砂質礫・細砂を少量含む)
4.灰色(N4/0)シルト(明オリーブ色砂質礫を少量含む)
5.オリーブ灰色(5GY5/1)中・細砂(緑灰色砂質礫φ2～10cm大を中量含む、河原石φ2～20cm大を中量含む)

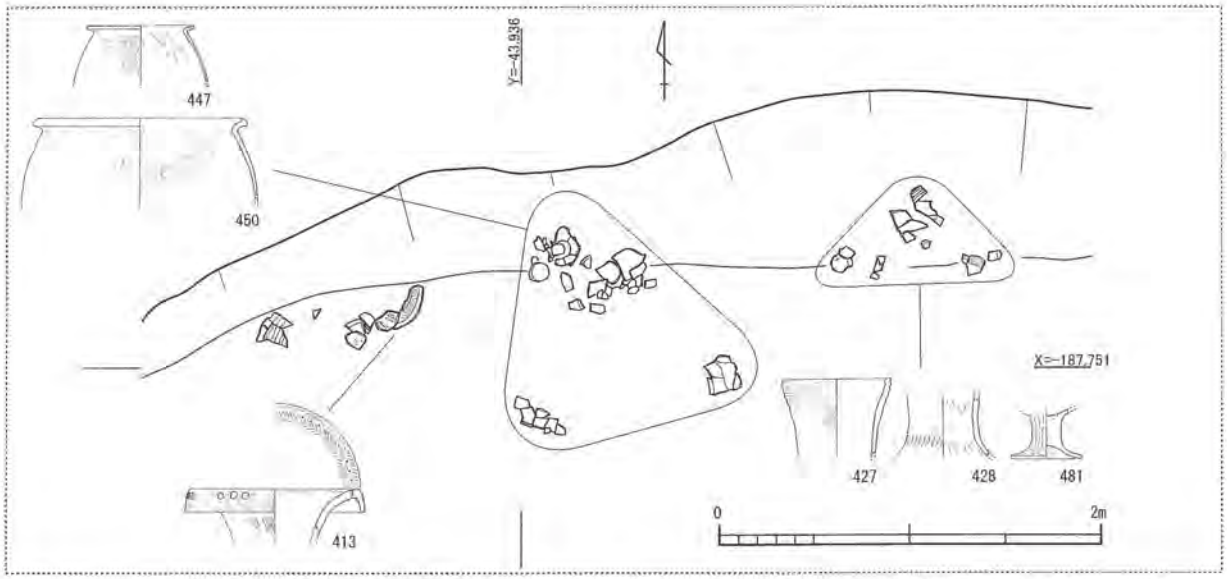
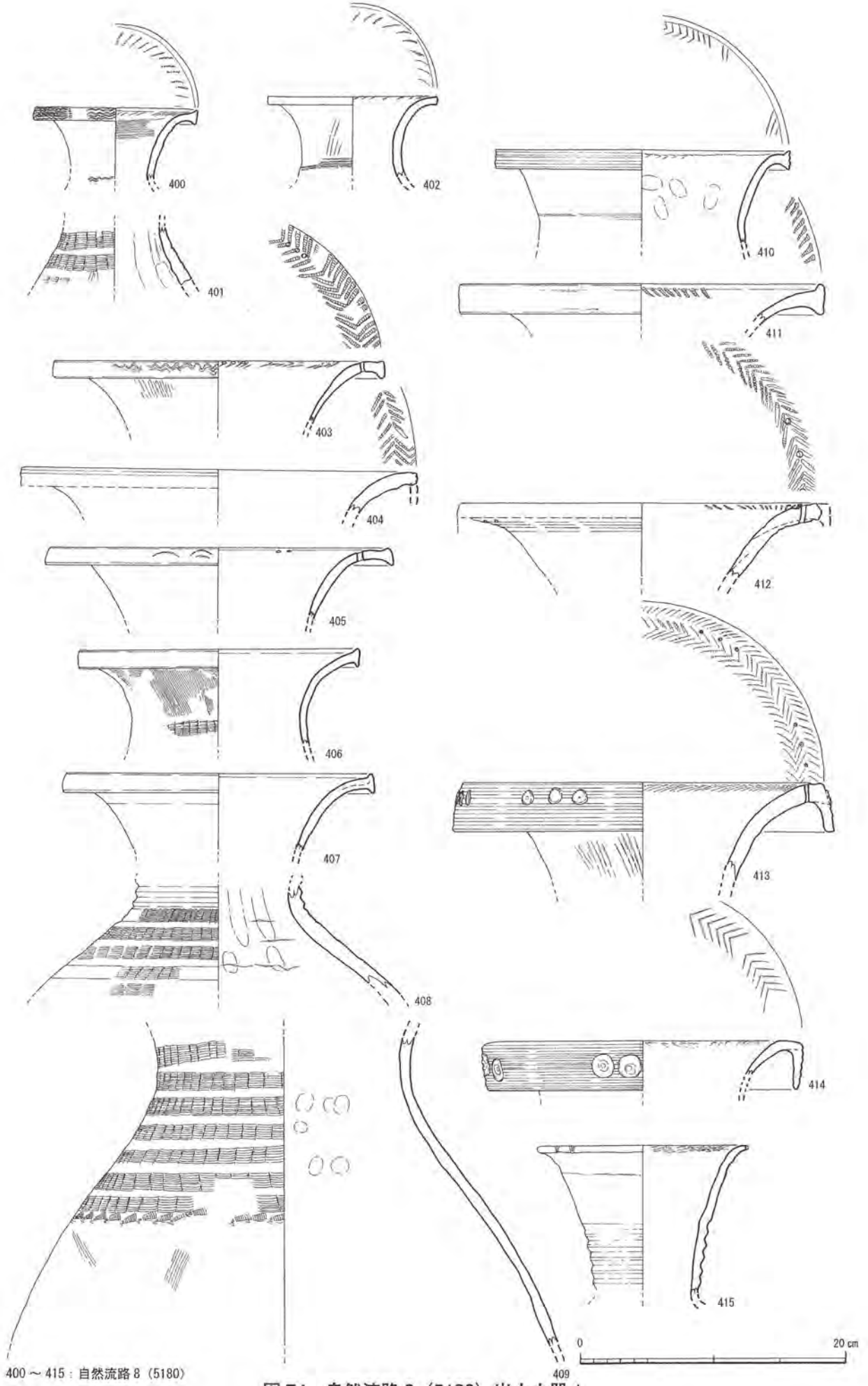
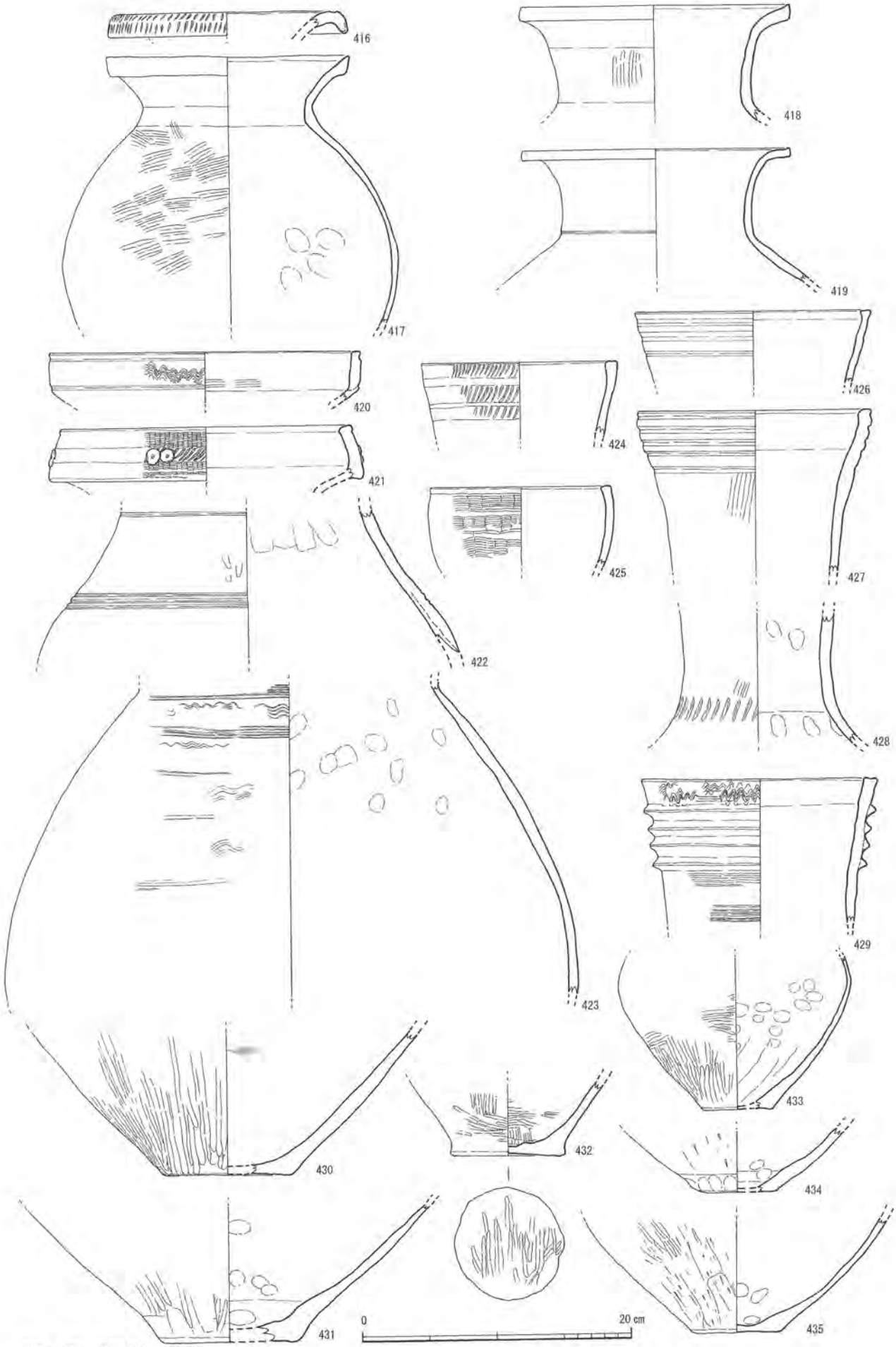


図73　自然流路8（5180）平面図・断面図　（S=1/300、S=1/40、S=1/60）



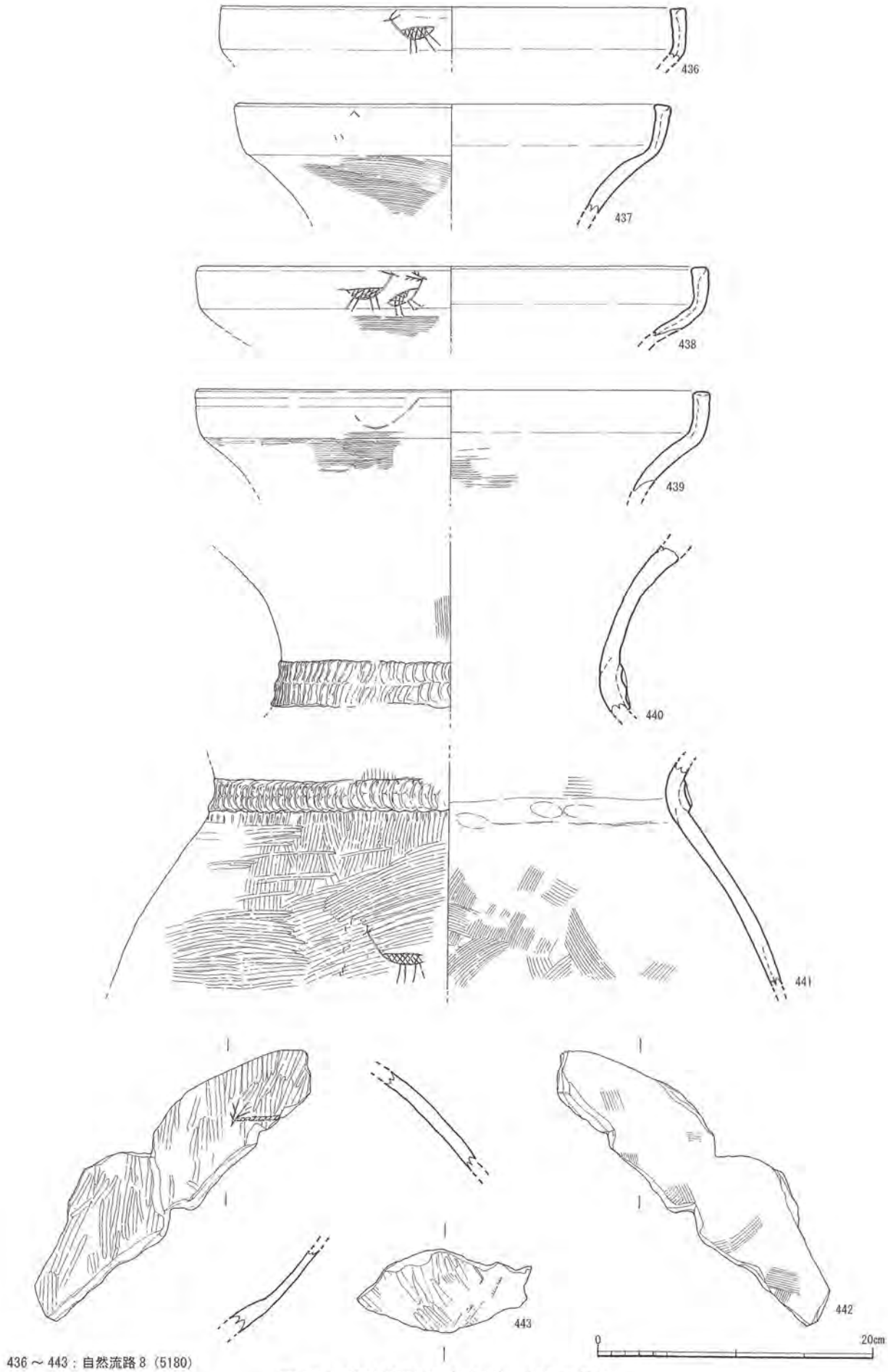
400～415：自然流路8（5180）

図74　自然流路8（5180）出土土器1



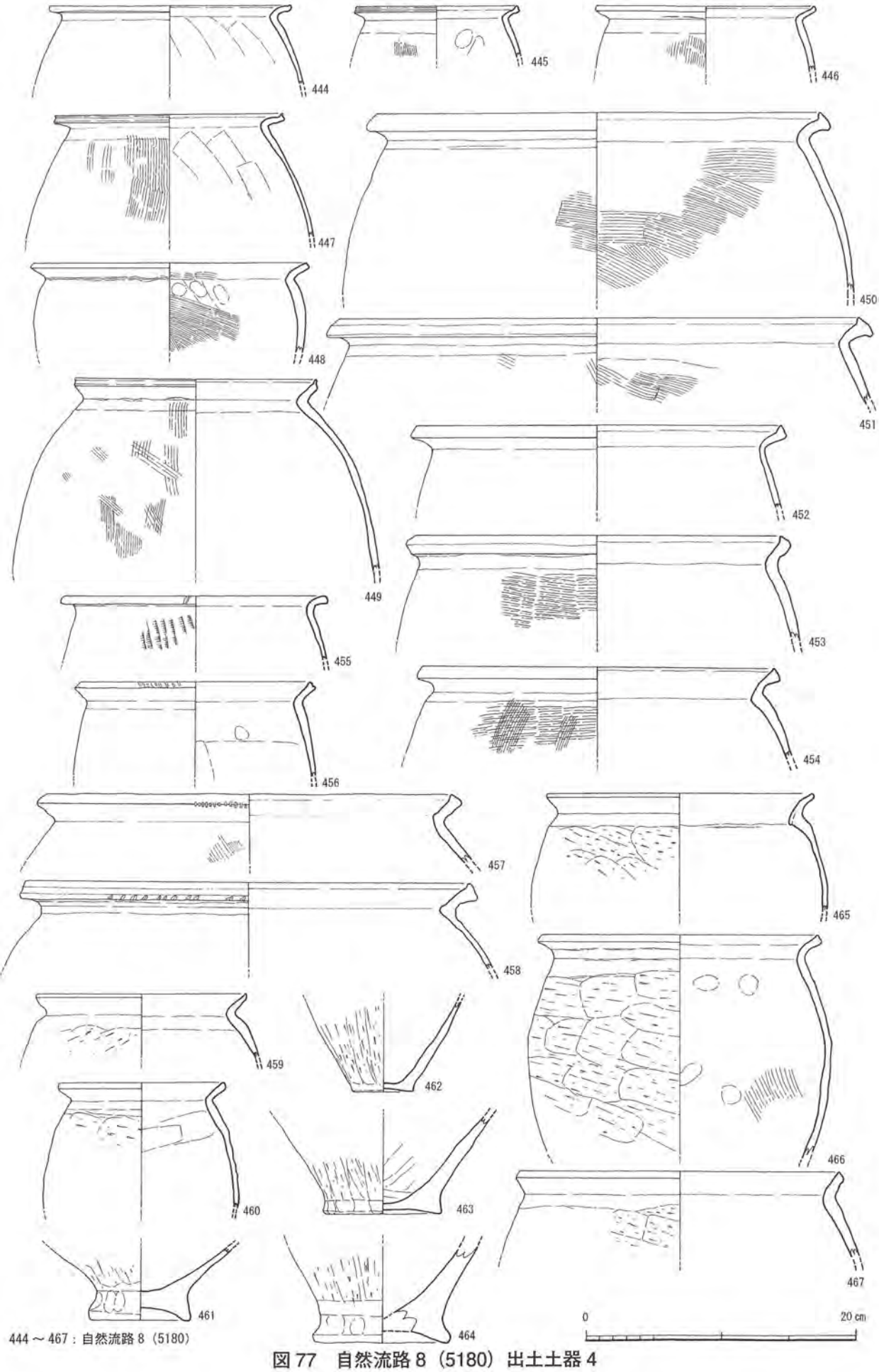
416 ～ 435：自然流路 8（5180）

図 75　自然流路 8（5180）出土土器 2



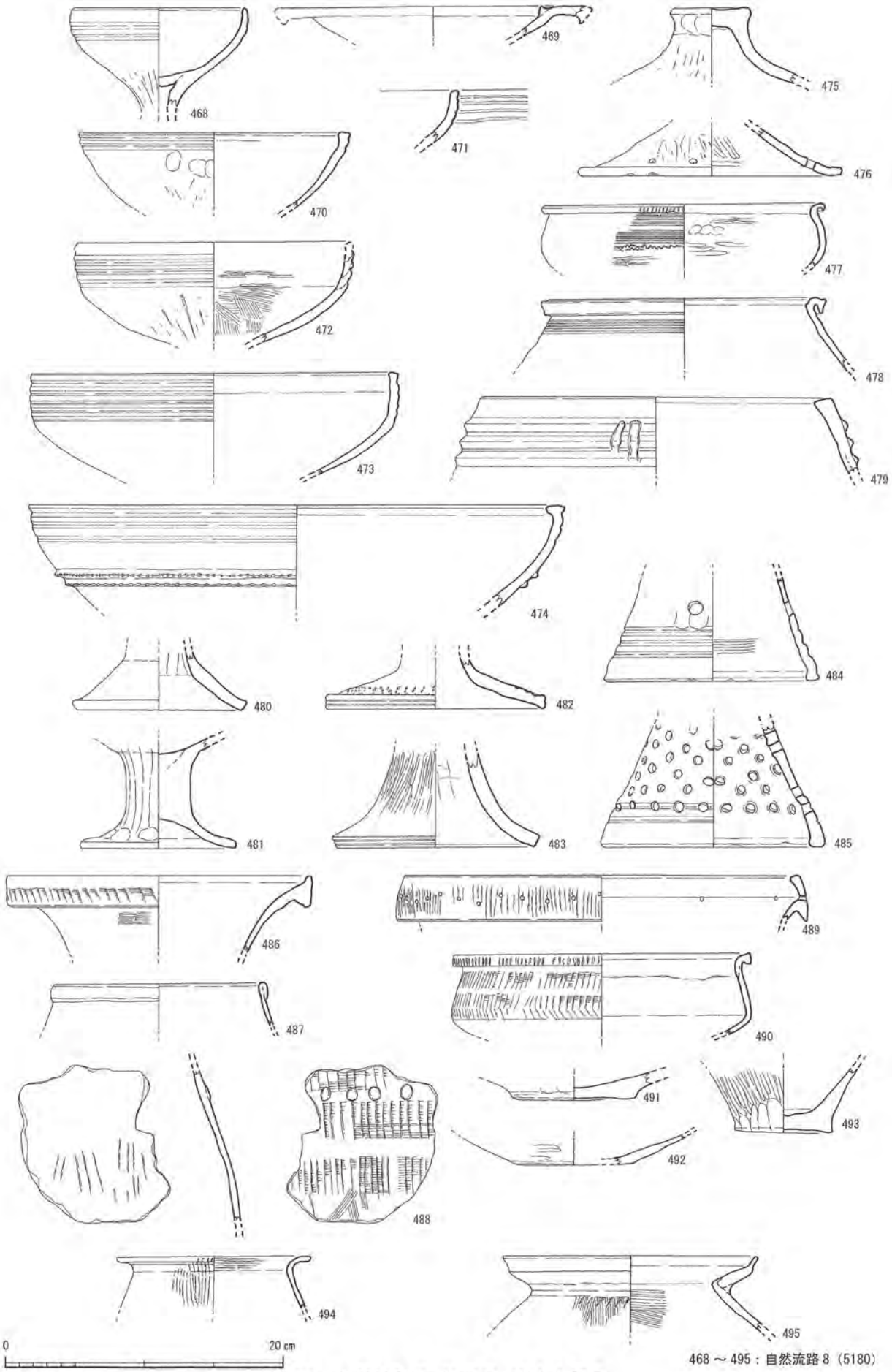
436 ～ 443：自然流路 8（5180）

図 76　自然流路 8（5180）出土土器 3



444～467：自然流路8（5180）

図77　自然流路8（5180）出土土器4



468～495：自然流路8（5180）

図78　自然流路8（5180）出土土器5

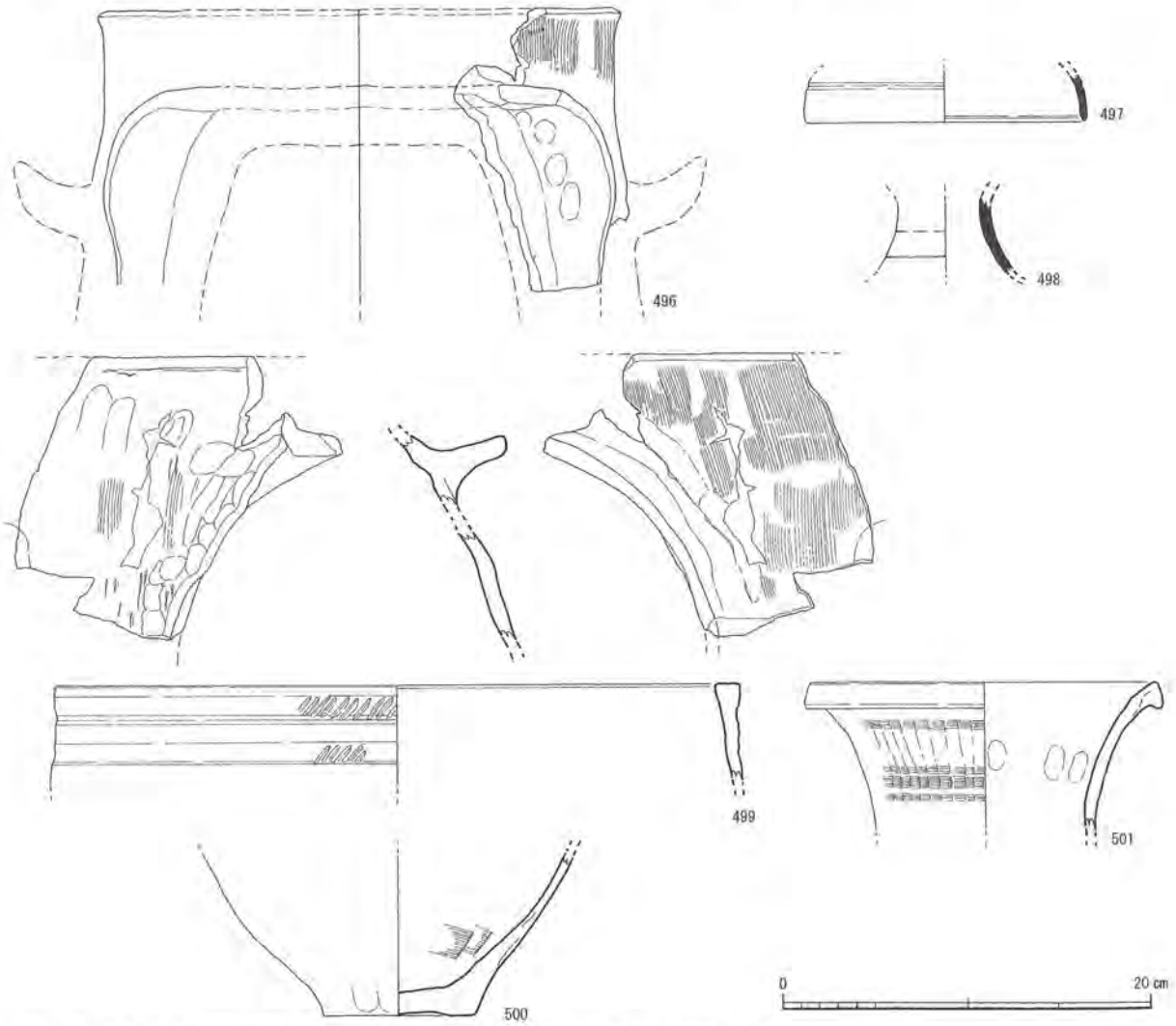
(486 ～ 493) は生駒西麓産。(494) は大和形甕で、口縁端部を刻み、口縁部内面は粗い横ハケ。(495) は口縁端部を上方に拡張し、肩部に刺突文を施す瀬戸内系甕である。頸部の接合から搬入土器とみられる。(422) がⅠ様式後葉、(416・423・429・464 ～ 466) がⅢ様式前葉から中葉と古い様相を示す。それ以外の土器の多くはⅢ様式後葉からⅣ様式前葉の時期を示す。遺構の性格、出土状況を考慮すれば、遺構の時期は一定の時間幅が存在するものとみられる。

第３節　西飯降Ⅱ遺跡（06 － ２区）の調査成果

１．調査区の概要

西飯降Ⅱ遺跡（06 － ２区）は、第１次調査地の中央に位置する調査区である。丁ノ町・妙寺遺跡とは遺跡境界に近い南北セクションを境界とし、地区設定を行った。調査区北には妙寺地区の祭神である八太神社（八幡神社）が存在する。

遺構面は第４－２層下面で遺構検出を行い、上層遺構面として調査を行った。また、第４－４層下面でも遺構検出を行い、下層遺構面として調査を行った。06 － ２区の西半部分では、北西側の開析谷からの土砂の流入（扇状地形成）によって、層厚が不揃いとなる。そのため各々の層



496：包含層第４－３層　497・498・501：包含層間層～第４－４層　499・500：包含層第４－４層

図 79　包含層（西飯降Ⅱ遺跡 06－２区）出土土器

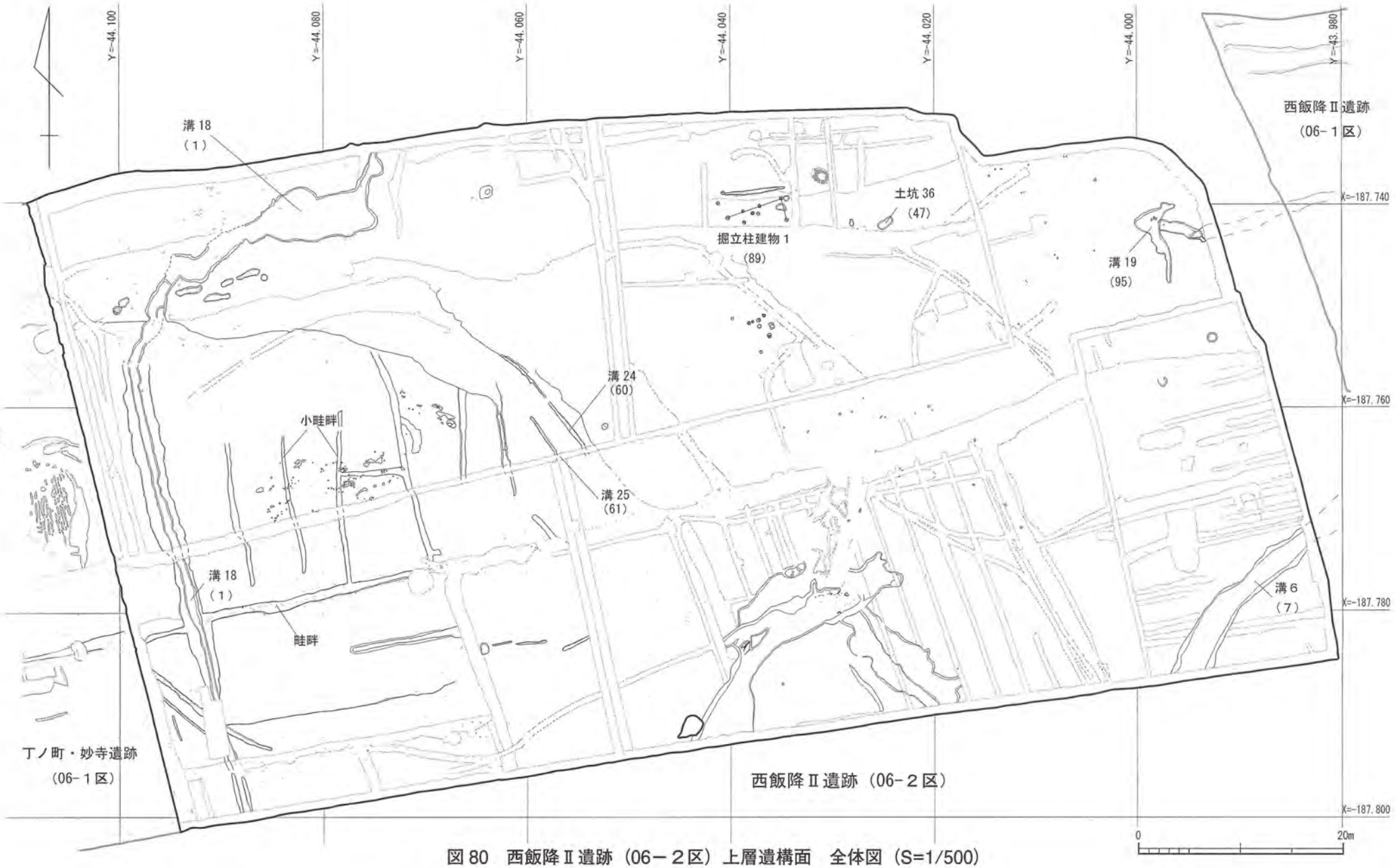


図 80　西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）上層遺構面　全体図（S=1/500）



図81　西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）下層遺構面　全体図（S=1/500）

準が対応しない状況が起こっている。また、丁ノ町・妙寺遺跡との基本層序は明確に対応しない。

上層遺構面である第４－２層下面では、遺構は希薄であるが、古代から中世までの掘立柱建物、土坑、自然流路を検出している。調査区西半から丁ノ町・妙寺遺跡の調査区東半にかけては、鎌倉時代以降の水田の下面で洪水層と考えられる間層を検出し、この洪水層にパックされる形で平安時代の水田を検出した。水田に伴う水路と考えられる溝、坪境に相当する東西畦畔、小畦畔を検出している。

下層遺構面では、第４－４層下面で弥生時代中期から古墳時代後期の遺構面を検出した。古墳時代後期の遺構は自然流路、溝、土坑を検出した。弥生時代中期から弥生時代後期の遺構は、竪穴建物２棟、竪穴状遺構、方形周溝墓１基、土坑、ピット、溝を検出している。

２．古代から中世の遺構と遺物

掘立柱建物１（89）（図 82）　調査区北（２－３区）で検出した掘立柱建物である。桁行３間、梁行２間以上の柱配置をもつ建物に復元され、建物の規模は芯々距離で南北 2.1 m、東西 5.6 m、柱間間隔は桁行約 1.7 ～ 2.1 m、梁行 2.1 mを測る。主軸はN－15°－Wで西偏し、東西棟となる。柱穴掘形は円形で直径 0.2 ～ 0.4 m、深さ 0.1 ～ 0.35 mを測る。掘立柱建物に重複して土坑を検出しているが、これに伴うものか不明である。

遺物は、柱穴掘形から土師器、瓦器が出土しているがいずれも細片である。遺構の時期は、鎌倉時代（13 世紀～ 14 世紀）と考えられる。

溝 18（１）・条里水田（図 83・図 84・図 85）　調査区西半（２－３～２－４区）から丁ノ町・妙寺遺跡東半にかけて、水田を検出した。水田は、平安時代の水田と、20 ～ 30 cmの洪水層である間層を挟んで鎌倉時代の水田を検出した。南側では洪水層の堆積はなく、鎌倉時代に、洪水層を除去して水田を作ったようである。

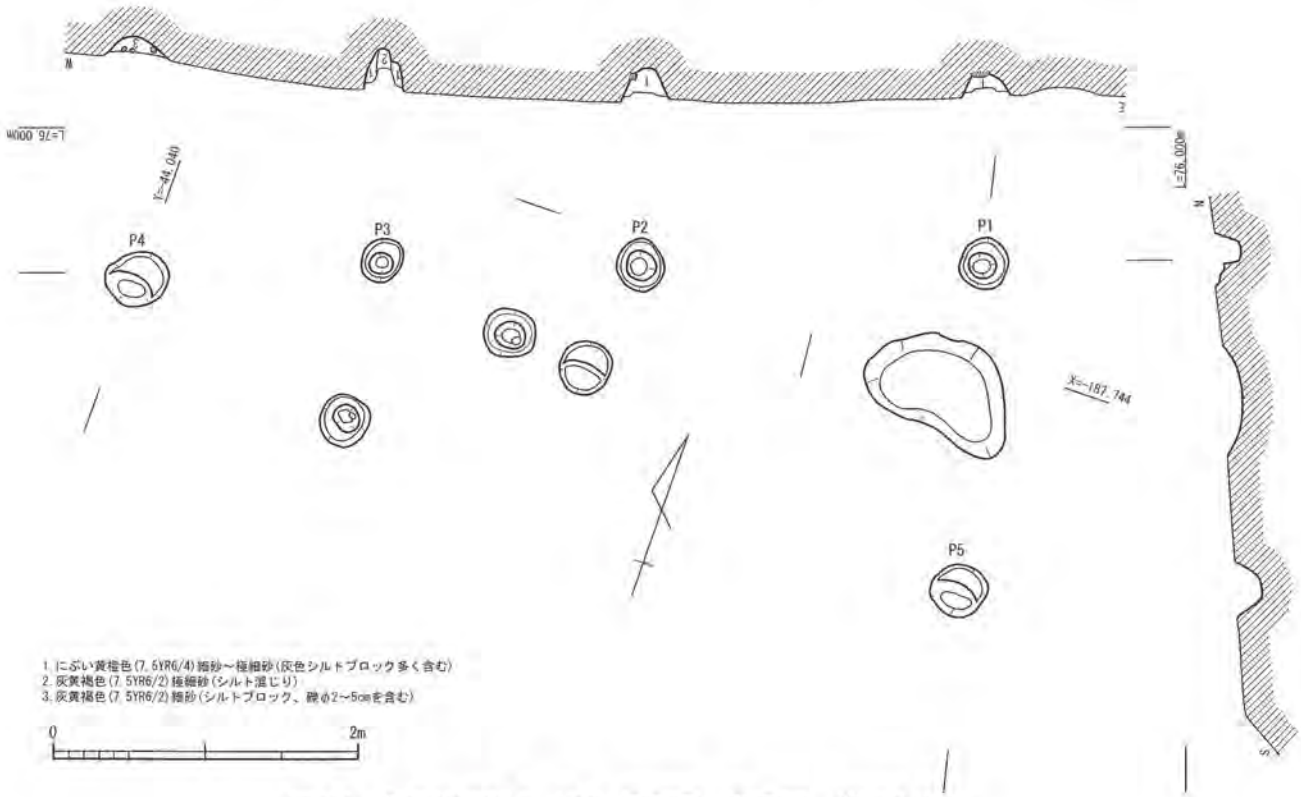


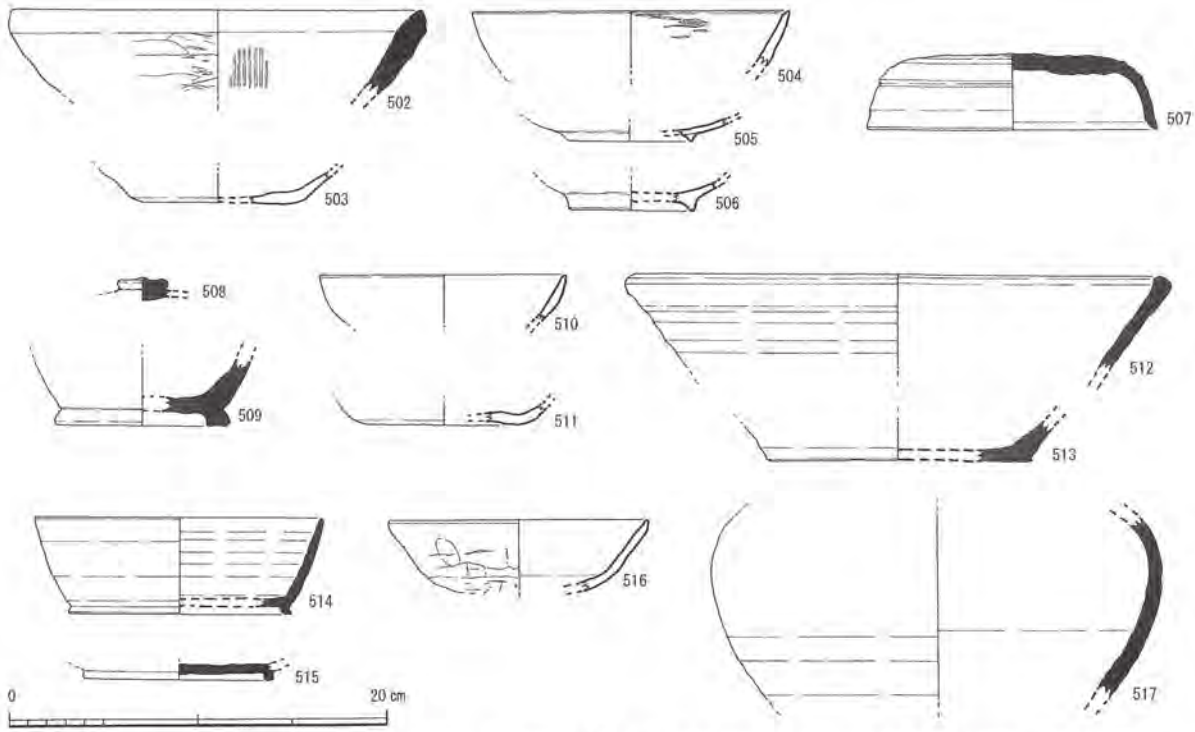
図 82　掘立柱建物１（89）平面図・断面図　（S＝1/50）

平安時代の水田は、丁ノ町・妙寺遺跡の東端から西飯降Ⅱ遺跡へと広がる埋没谷で検出し、検出範囲は東西 80.0 m、南北 50.0 mの範囲である。水田の中央には、山際から流れる南北方向の溝 18（1）が存在し、この溝に沿って両側幅 0.3 m前後の畦畔が存在する。溝 18 は水田を灌漑する南北方向の水路と大畦畔であり、溝部は検出長 60.0 m以上、幅 1.75 ～ 2.1 m、深さ 0.4 m を測る。上層の鎌倉時代の水田でも溝 18 とほぼ同じ位置で溝を検出した。

調査区南半では、この溝と直交する東西方向の畦畔を検出した。この東西畦畔は中世以降、坪境溝として踏襲され、現地形でもその痕跡が確認でき、現在確認される妙寺条里区の北端の境界線と重複する。また、溝 18 に並行して南北方向に延びる小畦畔を検出した。東西で 7 本確認さ



図 83　溝 18（1）周辺遺構平面図（S=1/400）



502・503・513：水田関連包含層第３層上面　504～506：水田関連包含層第４-２層上面　507～511：水田関連包含層第４-２層～間層
512：水田関連包含層第３層～第４-３層　514・515・517 溝 18（１）　516：水田耕作土

図 84　溝 18、条里水田（古代）周辺出土土器

れ約 6.0 m間隔で並ぶ。溝 18、東西畦畔、小畦畔はいずれもＮ - 14° - Ｗと西偏する。

水路の両側の大畦畔や東西畦畔の上部には、多数の杭が打ち込まれている。この杭は自然木の枝や木を割って矢板状にしたもので、畦畔の構造強化を目的としたものと思われる。また、土盛りした畦畔の下部にはまばらにではあるが拳大の円礫が分布している。これも畦畔の排水と考えられる。耕作土の検出面では、直径 10 ～ 15 cmの無数の小さい小穴が検出され、稲株や、人、牛馬の足跡と思われる。

水田は後世の掘削により、古い遺構の遺存状況が悪いが、調査区内では洪水砂礫によって中世水田に壊されることなく古代の耕作土が保存される結果となった。南北溝と東西畦畔は条里地割に相当し、東西畦畔は条里北端の坪境にあたると考えられる。現在確認される妙寺条里もＮ - 14° - Ｗと西偏することもこれを裏付ける。南北水路は坪境を越えて北へ延びることから、妙寺条里区北側では山裾に沿うように水田が広がっていたと考えられる。なお、水田層各層ではプラントオパール分析を実施し、自然科学分析からも水田として利用されていたことが裏付けられた。

遺物は、第３層上面から土師器皿（503）、東播系須恵器擂鉢（502・513）、第４－２層上面から瓦器椀（504 ～ 506）、第４－２層～間層から土師器椀（509）・皿（510）、須恵器杯蓋（507・511）・壺Ｍ（508）、第３層～間層から東播系須恵器片口鉢（512）が出土した。

溝 18 からは、須恵器杯Ｂ（514・515）・壺（517）、平安時代前期の水田耕作土から土師器杯Ａ（516）が出土している。（514）は貼り付け高台の下端面を内外面に引き出し、内面は回転ナデが明瞭で段状に巡るものである。（514）は底部外面をヘラケズリにより仕上げる。

大半の水田跡は出土遺物が少ないため、時代の判定は困難であるが、今回、わずかながら溝 18 や水田耕作土内から平安時代前期（9 世紀後半）の土器が出土した。また、耕作土は洪水層にパックされていることから撹乱を受けていないと判断できる。遺構の時期は、平安時代前期（9 世紀後半）と考えられる。

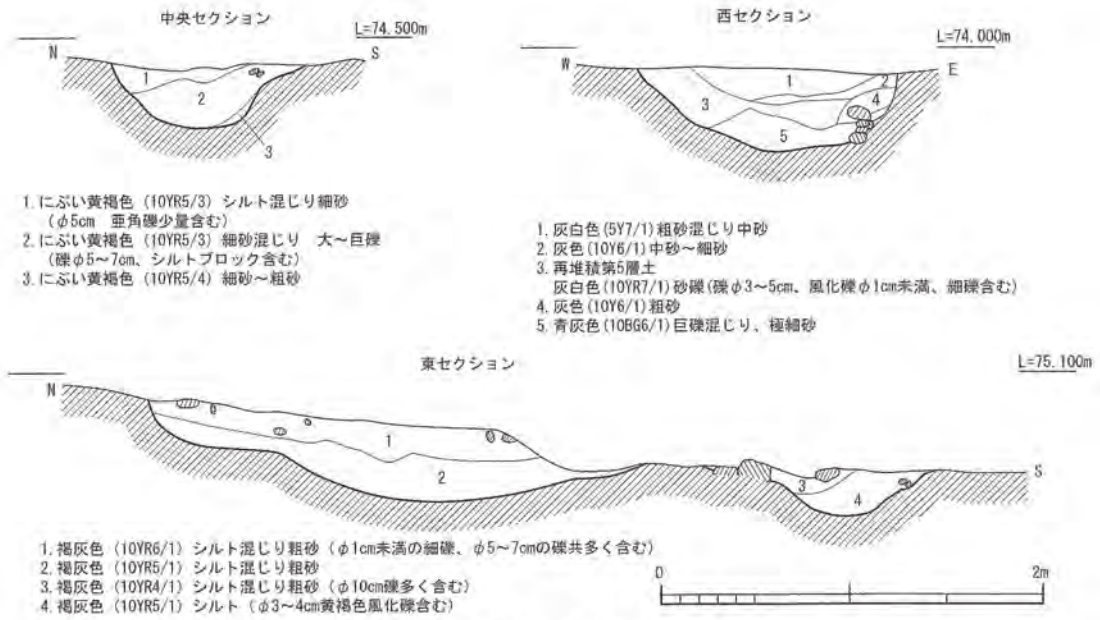


図85　溝18（1）断面図（S=1/40)

3．古墳時代の遺構と遺物

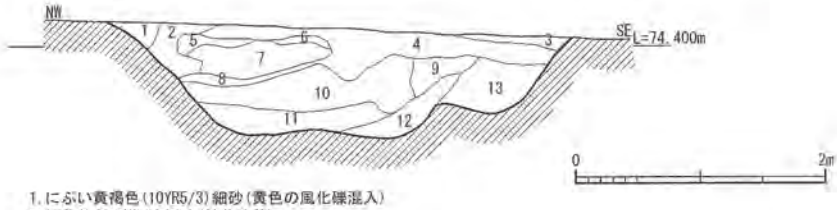
溝19（95）（図88）　第4－2層下面、調査区北東（2－1区）で検出した溝である。06－1区で検出した自然流路4が東に延び、溝19と重複する。検出長8.5m、幅1.2m、深さ0.2mを測り、南北方向に延びる。遺物は、土師器杯（519）、須恵器杯身（520）が出土している。（519）は底部外面にユビオサエを施し、古代の混入品と考えられる。遺構の時期は、古墳時代後期（TK10型式）と考えられる。

溝21（229）（図88）　第4－4層下面、調査区中央（2－4区）で検出した溝である。検出長9.0m、幅0.8m、深さ0.35mを測り、東西方向に延びる溝である。遺物は、高杯（521・522）が出土している。（521・522）はともに高杯脚部である。（521）は脚部と杯底部の接合は円盤状の粘土塊を充填し、（522）は脚頂部を杯底部に挿入するものである。遺構の時期は、古墳時代前期（布留式前半）と考えられる。

自然流路6（46・200）（図86・図87・図88）第4－4層下面、調査区東半（2－1～2－4区）で検出した自然流路で、06－1区自然流路（5186）の延長部分である。東西方向に流れる自然流路7（226・224）と重複し、自然流路6が後出する。また自然流路6（200）は別の遺構として検出していたが、検討の結果これを同じ遺構とした。調査時の記録では検出遺構面や遺構番号に混乱が見られる。

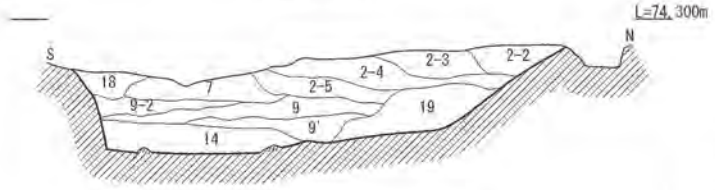
自然流路6は、北東方向から南西方向に流れる自然流路で、検出長74.0m以上、幅3.8～6.25m、深さ0.7～1.0m以上を測る。埋土は砂礫層とシルト層が互層に堆積し、安定して流れていたと考えられる。自然流路の南半では、北側・南側の2カ所で堰を検出している。堰は流路底に垂直に打ち込まれた木杭が集中し、自然流路6（5324）で検出された堰と同様に、水量を調節する目的で設けられた水制と考えられる。また、自然流路検出部分の中央では木製の下駄（W1）・建築部材（W8）が、自然流路検出部分の南では、田下駄（W4）が出土した。共に自然木と重複して出土した。自然流路に投棄された木製品が、流れの緩やかな地点に留まったものとみられる。いずれも遺存状態は極めて良い。

遺物は、土師器甕（540・541）・羽釜（542）・高杯（544）・甑（545）、製塩土器（543）、須恵器杯蓋（523～527）・杯身（528～529）・鉢（531）・短頸壺（532）・壺（533・535）・俵瓶（534）・甕（536～538）・



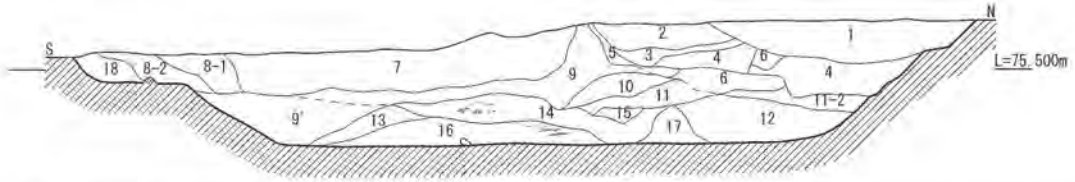
1. にぶい黄褐色(10YR5/3)細砂(黄色の風化礫混入)
2. 灰黄色(2.5Y5/2)細砂(鉄分沈着)
3. 黄褐色(2.5Y5/4)細砂(黄色の風化礫混入)
4. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂(混入物なく均質な砂、鉄分縦方向に沈着)
5. にぶい黄褐色(10YR5/3)粗砂(均質な砂)
6. 5と同じ
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂(φ1～3cmの石多量に混入)
8. 褐灰色(10YR4/1)細砂(シルト混入)
9. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂(φ1～5cmの石多量に混入)
11. 黄灰色(2.5Y4/1)粗砂(φ0.5cmの礫多量に混入、シルト混入)
12. 黄灰色(2.5Y5/1)粗砂(灰色シルト混入)
13. 暗灰黄色(2.5Y5/2)粗砂 (φ1～5cmの石混入、鉄分マンガン沈着)
14. 黒褐色(10YR3/2)シルト

西セクション



1. 青灰色(5BG6/1)粗砂礫混じり極細砂(φ2～5cm風化礫含むラミナ)
2. 明オリーブ灰色(2.5GY7/1)微砂 (シルトブロック少量含む)
2-2. 灰色(10Y6/1)微砂(シルトブロック、鉄分を多く含む
2-3. 灰色(10Y6/1)黄灰色風化礫混じり中砂
2-4. 灰色(10Y6/1)微砂 (鉄分多く含む)
2-5. オリーブ灰色(10Y5/2)微砂 (鉄分多く含む)
3. 緑灰色(7.5GY6/1)中砂混じり微砂(風化礫少量含む)
4. 灰色(N5/1)極細砂混じり微砂(4d層土成因か)
5. 明オリーブ灰色(2.5GY7/1)微砂 (鉄分多く含む)
6. 緑灰色(7.5GY6/1)風化礫混じり粗砂
7. 灰色(10Y6/1)微砂(風化礫φ0.5～2cm微量、鉄分を含む)
8-1. 灰黄色(2.5Y6/2)微砂(しまる)
8-2. 黄褐色(2.5Y5/3)微砂(φ0.5～2cm風化礫少量含む)
9. オリーブ灰色(5GY6/1)微砂
9'. オリーブ灰色(5GY6/1)細砂
9-2. オリーブ灰色(5GY6/1)微砂(黄褐色～黄橙色風化礫少量含む)
10. 暗青灰色～青灰色(5B4/1～6/1)細砂混じり微砂
11. 緑灰色(5GY6/1)細砂混じり粗砂(φ3～4cm礫多く含む)
11-2. 緑灰色(7.5GY6/1)粗砂～細砂(φ2～5cm礫多く含む)
12. 緑灰色(7.5GY6/1)粗砂混じり礫(φ5～10cm主体)
13. 緑灰色(10G5/1)極細砂混じり微砂(φ5～6cm礫、鉄分含む。ラミナ、流木挟む)
14. 青灰色(5BG5/1)極細砂混じり微砂(灰色微砂含む、ラミナ)
15. 灰オリーブ色(7.5Y6/2)微砂混じり粗砂(φ0.5～3cm礫多く含む)
16. 灰色(7.5Y5/1)細砂混じり極細砂(φ0.5～2cm礫多く含む 流木多い)
17. 灰オリーブ(7.5Y6/2)粗砂混じり礫(φ3～6cm) (鉄分多く含む)
18. 灰色(7.5Y4/1)極細砂～微砂(灰白～明緑灰色風化礫φ0.5～3cm含む)
19. 黄褐色(10YR5/6)粗砂混じり風化礫(φ2～3cm主)

東セクション



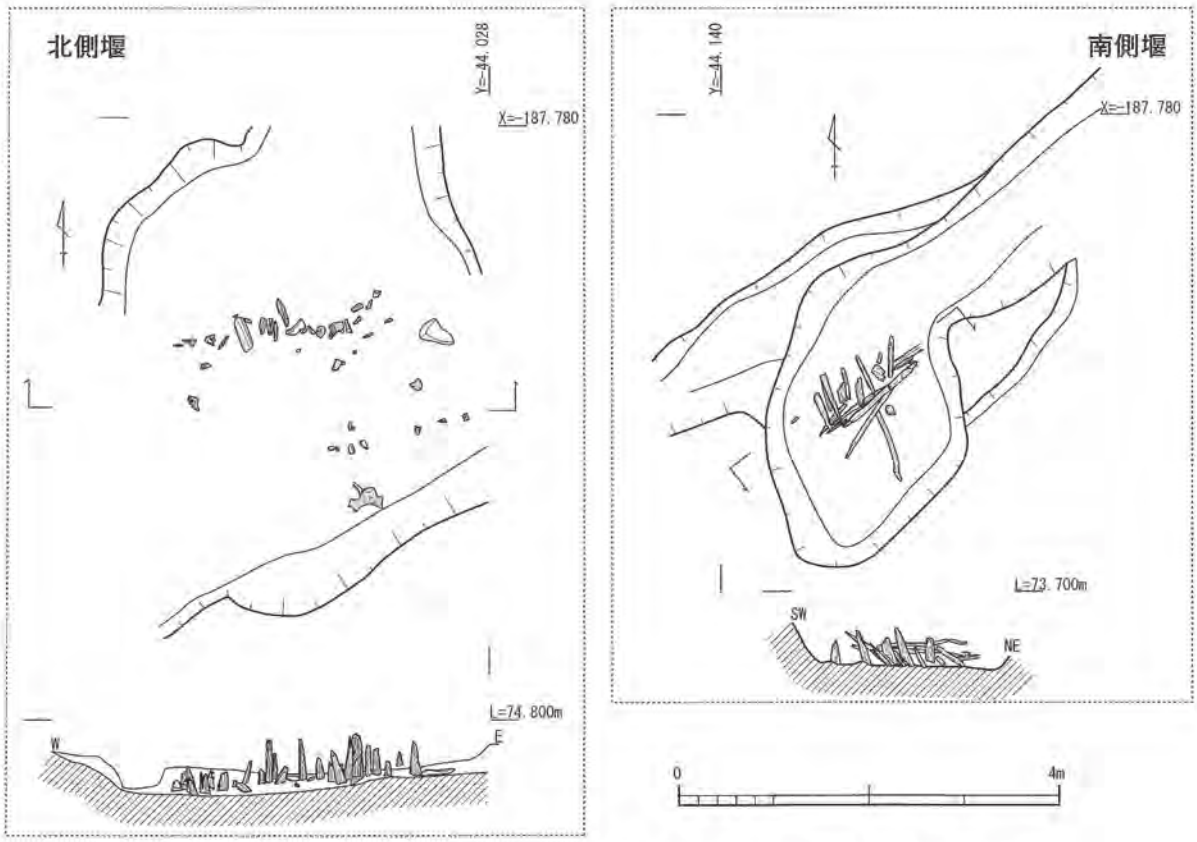


図 86　自然流路６（46）断面図・堰平面図　(S＝1/60、S＝1/80)

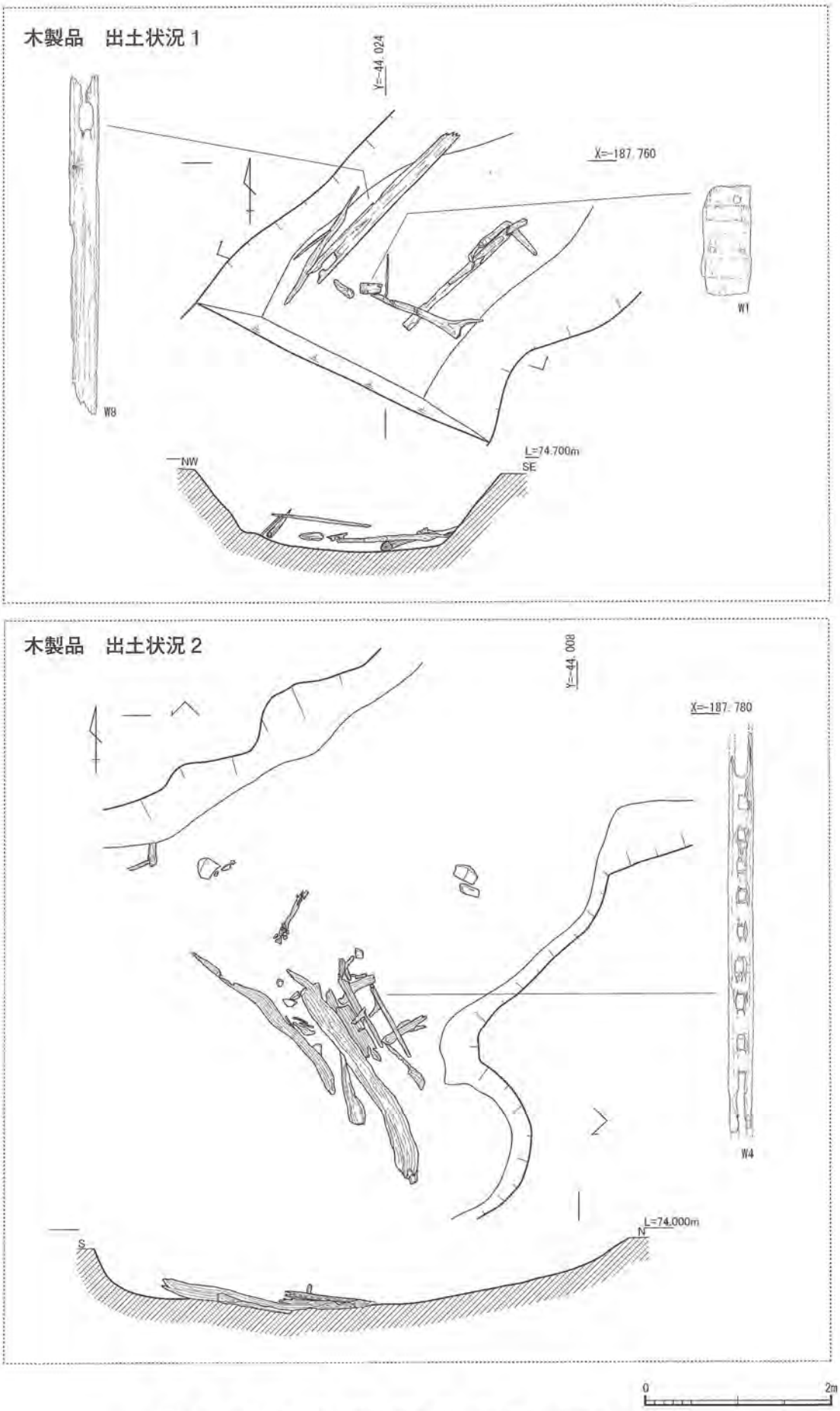
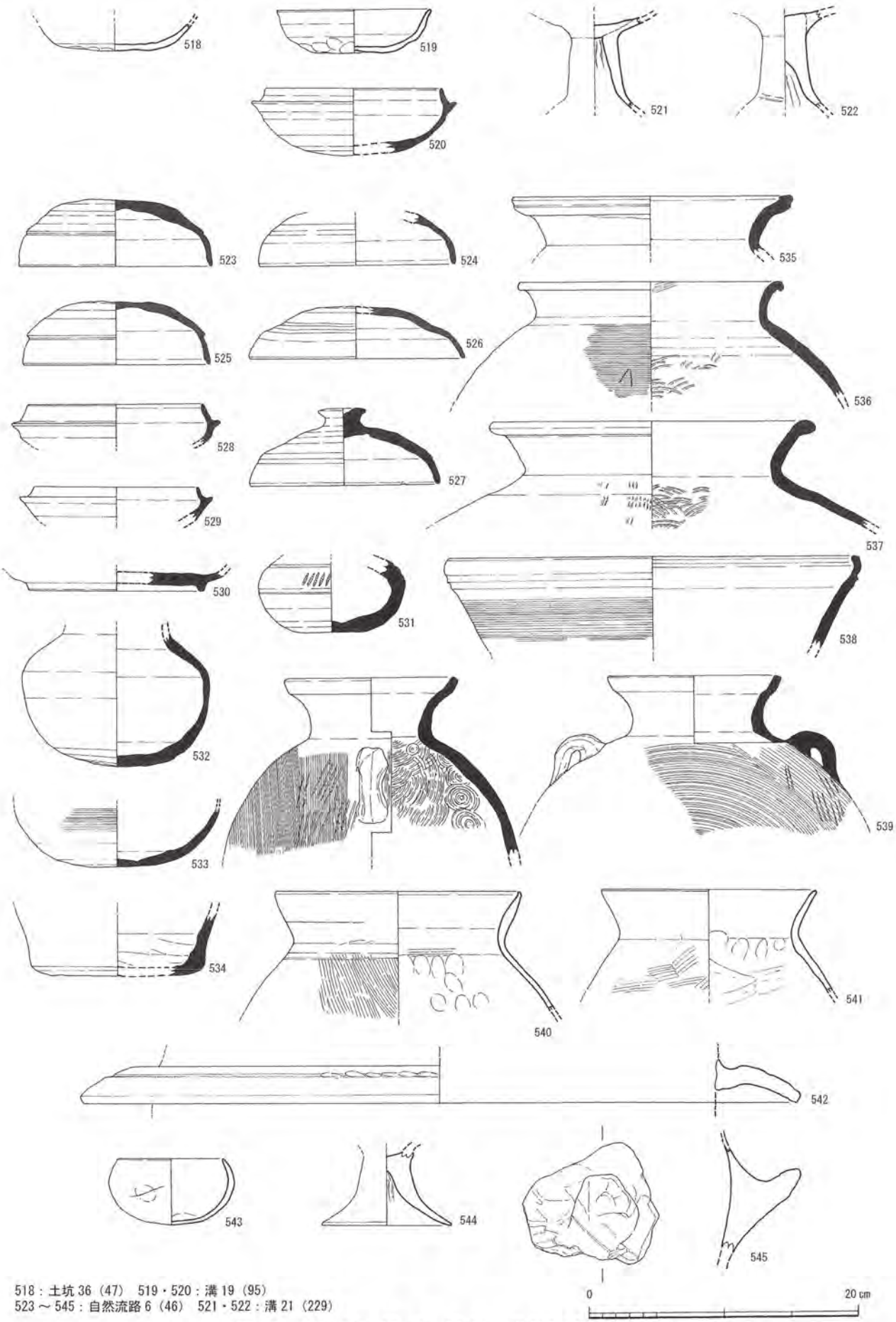


図 87　自然流路６（46）平面図・立面図　（S=1/60）



518：土坑 36（47）　519・520：溝 19（95）
523 ～ 545：自然流路 6（46）　521・522：溝 21（229）

図 88　土坑 36、溝 19、溝 21、自然流路 6 出土土器

提瓶（539）、下駄（W1）、木杭（W3・W5～W7）、田下駄（W4）、部材（W8）が出土している。

（527）は摘みをもつ蓋であり、有蓋高杯の蓋と考えられる。（530）は杯Bの底部であり、他の遺構からの混入品と考えられる。（534）は壺の底部または、俵瓶の体部と考えられる。（536）は肩部以下カキメを施し、ヘラ記号をもつ。（538）は外傾気味に伸びる口縁部から、口縁端部は内湾する口縁部をもつ大甕の口縁部である。（539）は環状の把手を持ち、外面カキメ、内面は当て具による青海波文を残す。（542）は羽釜の鍔部で大型羽釜に復元されるものと考えられる。（545）やや扁平な甑把手。（543）は丸底Ⅱ式の製塩土器である。遺構の時期は、古墳時代後期（TK10～TK217型式）と考えられる。

4．弥生時代の遺構と遺物

竪穴建物15（63）（図89）　調査区東（2－2区）で竪穴状遺構5、竪穴状遺構6と重複して検出した。これらの遺構より後出すると考えられるが、竪穴状遺構6との切り合い関係を誤って掘削している。建物南東は試掘トレンチが、中央は近世の暗渠排水溝が重複する。円形の竪穴建物と考えられ、南北4.0m、東西3.65m、深さ0.1mを測り、平面形は不整円形を呈する。

建物の構造は、中央土坑を築き、柱穴6基、排水溝、周壁溝をもつ。中央土坑は直径0.45m、

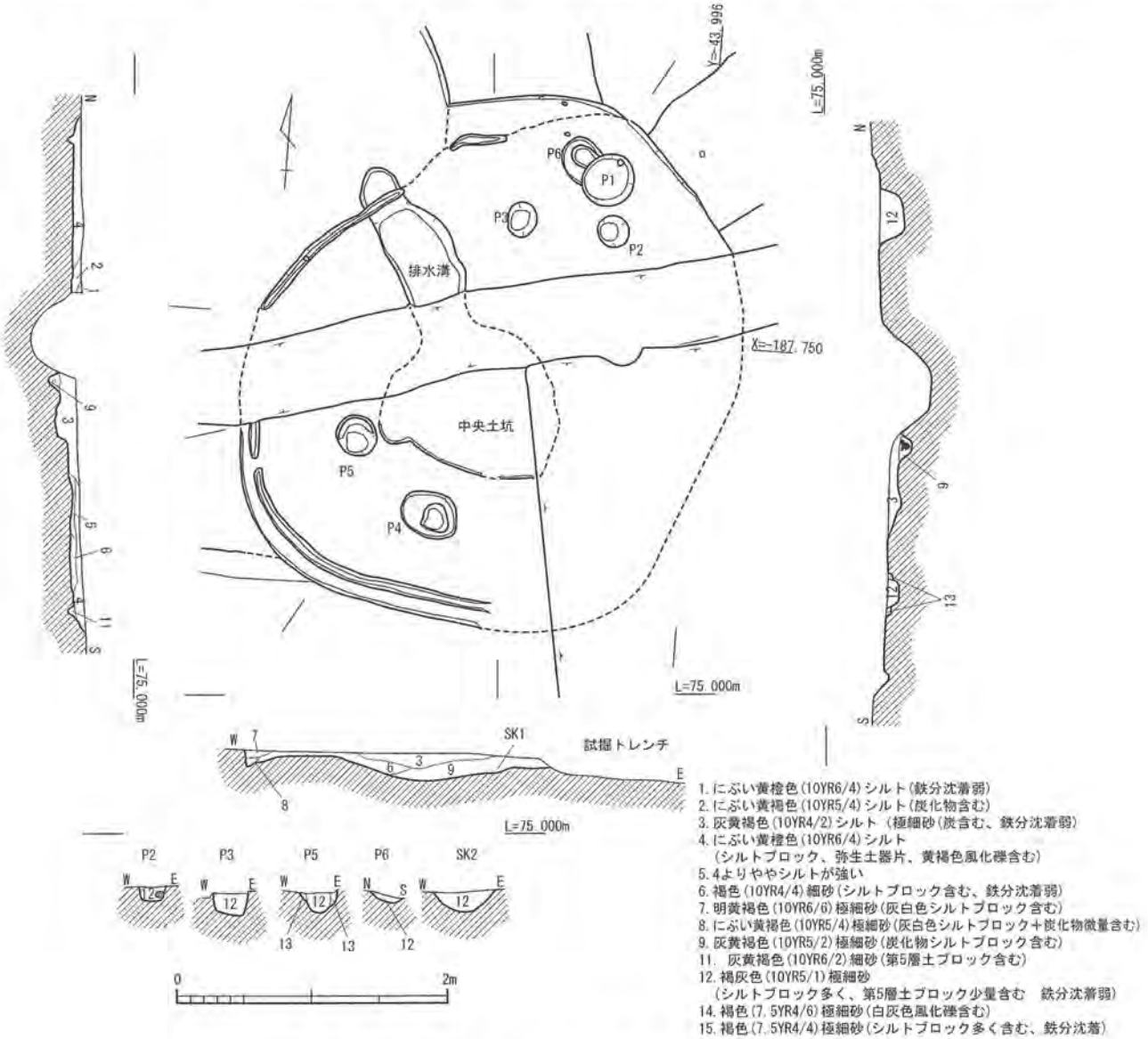


図89　竪穴建物15（63）平面図・断面図　（S=1/50）

深さ0.15ｍを測り、平面形は楕円形を呈する。柱穴は円形で直径0.2～0.4ｍ、深さ0.1～0.15ｍを測る。主柱穴の配置関係は不明である。

遺物の出土は認められず、遺構の時期は不明である。竪穴建物の平面形から判断して弥生時代中期と考えられる。

竪穴建物16（24）（図90）　竪穴建物15の北で検出した。南側で竪穴状遺構6と重複し、竪穴建物16が後出する。建物東側で試掘トレンチと重複する。円形5本柱の竪穴建物と考えられ、南北5.8ｍ、東西4.4ｍ、深さ0.05ｍを測る。平面形は不整円形を呈し、埋土はきわめて浅く、炭化物を少量含む。

建物の構造は中央土坑2基、主柱穴7基以上、周壁溝をもつ。中央土坑は建物南半で検出し、ＳＫ1とＳＫ2が重複する。ＳＫ1は円形で直径0.7メートル、深さ0.05ｍを測る。ＳＫ2は長径1.0ｍ、短径0.75ｍ、深さ0.05ｍを測り、平面形は楕円形を呈する。主柱穴は円形で直径

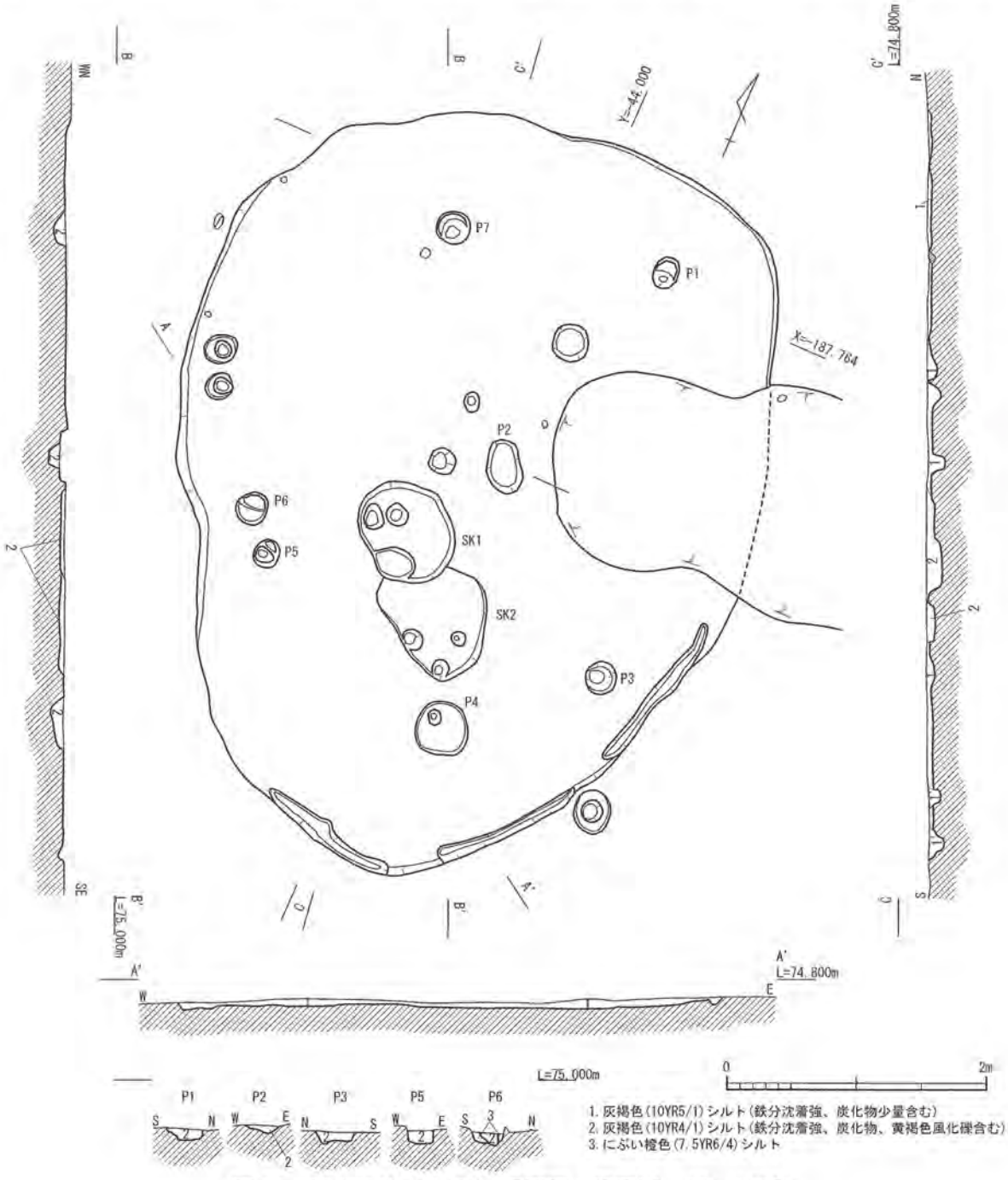
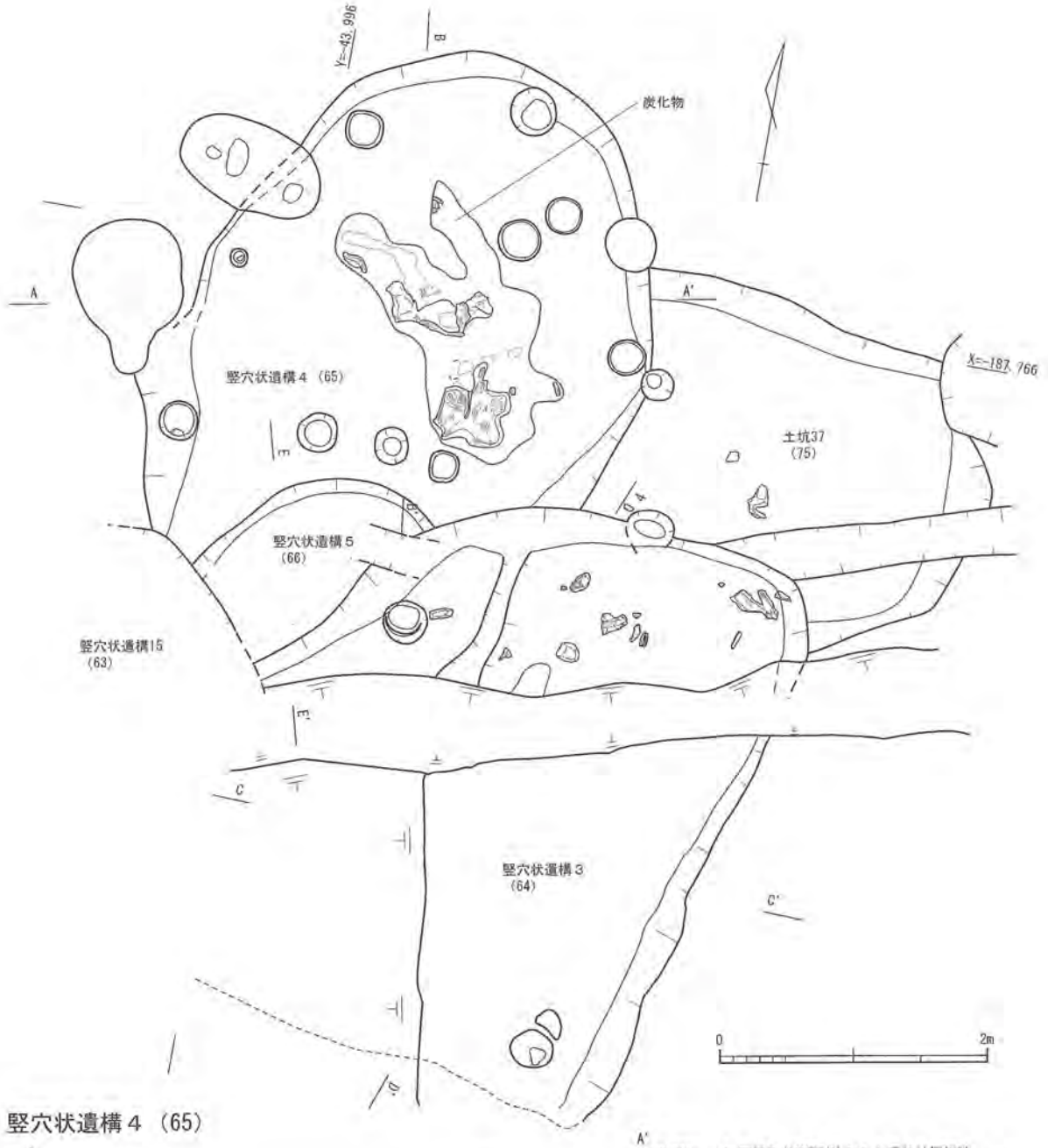
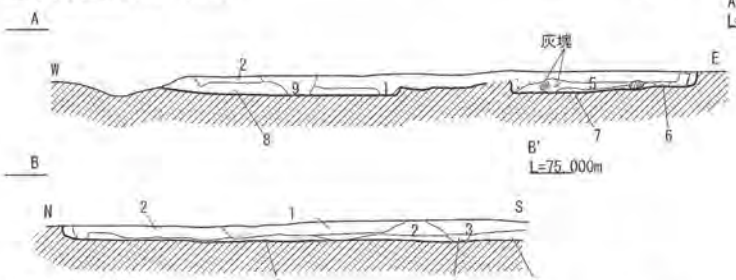


図90　竪穴建物16（24）平面図・断面図　（S＝1/50）

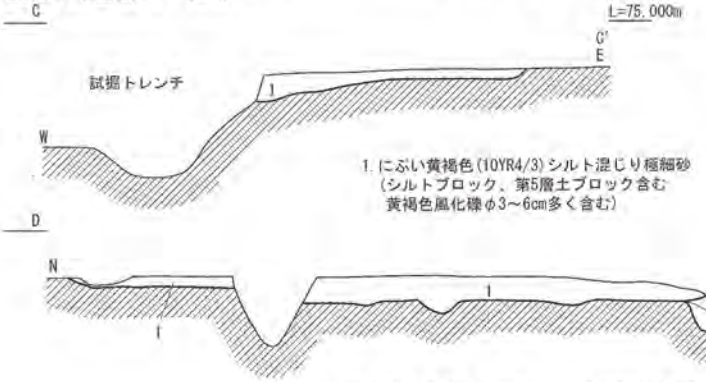


竪穴状遺構４（65）



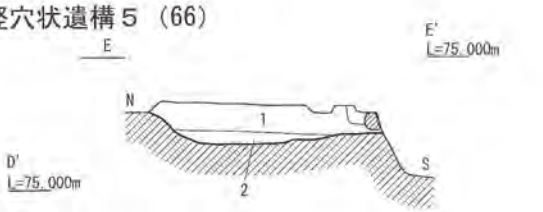
1. 灰褐色(10YR5/1)シルト混じり極細砂
（炭化物、焼土多く含む、黄褐色風化礫含む）
2. にぶい黄橙色(10YR7/2)シルト性極細砂
3. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト混じり極細砂
（炭化物多く含む、風化礫少量含む）
4. 灰褐色(10YR5/1)シルト混じり細砂(炭、灰少量含む)
5. 灰黄褐色(10YR5/2)シルト混じり極細砂
（シルトブロック含む、炭灰含む）
6. にぶい黄橙色(10YR6/3)シルト質極細砂(鉄分含む)
7. にぶい黄褐色(10YR5/2)シルト性細砂
（サビ、灰白色土ブロック含む）
8. 灰黄褐色(10YR6/2)シルト性極細砂(灰白色土ブロック含む)
9. 1層と第5層土壌層土の混土
10. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト～極細砂

竪穴状遺構３（64）



1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト混じり極細砂
（シルトブロック、第5層土ブロック含む
黄褐色風化礫φ3～6cm多く含む）

竪穴状遺構５（66）



1. 褐色(10YR4/4)シルト混じり細砂(シルトブロック多く含む)
2. にぶい黄橙色(10YR6/3)シルト混じり極細砂
（シルトブロック、黄褐色風化礫含む）

図91　竪穴状遺構３～５、土坑37平面図・断面図　(S=1/50)

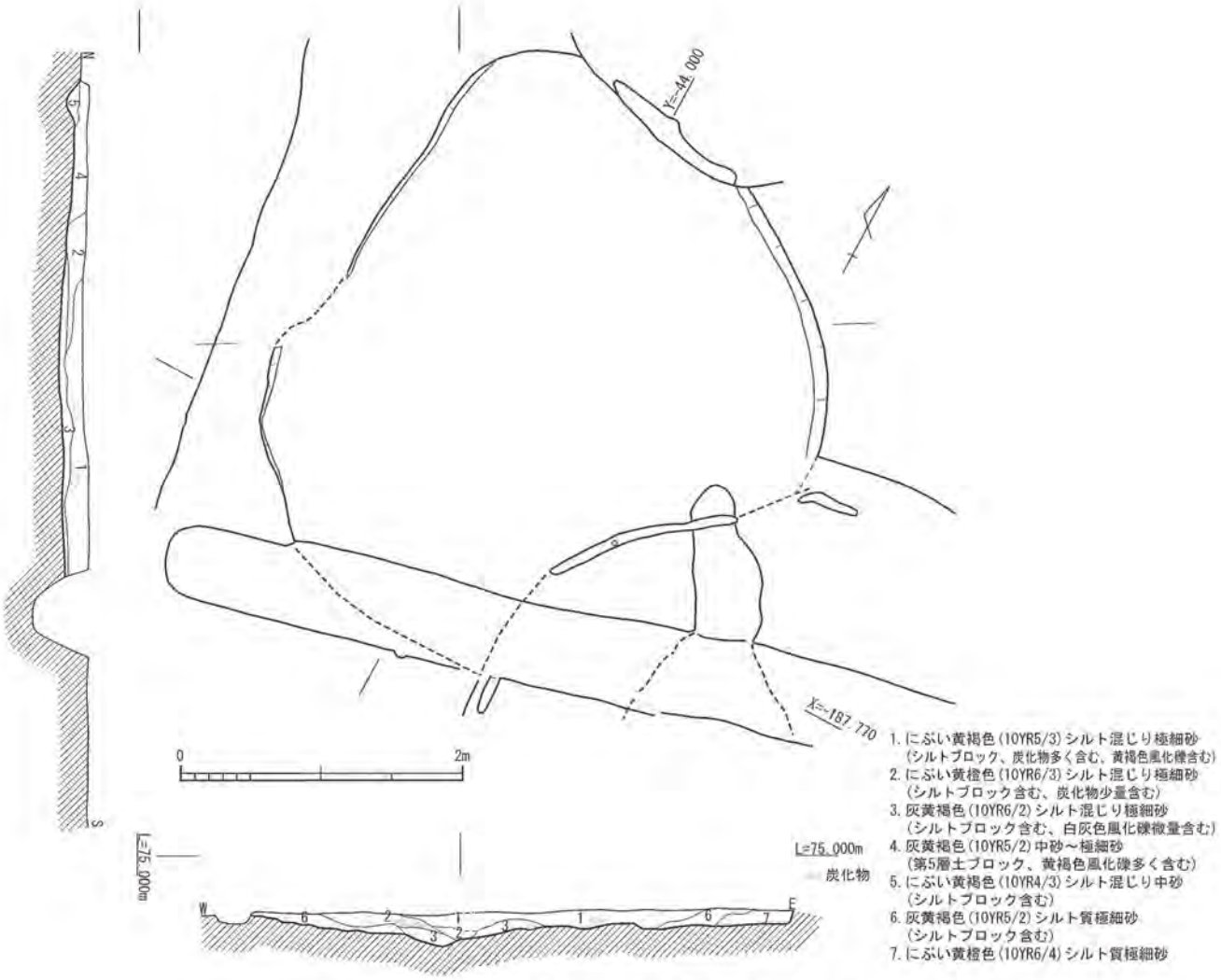


図92　竪穴状遺構６（25）平面図・断面図　（S＝1/40）

0.2～0.4ｍ、深さ0.05～0.1ｍを測る。Ｐ５・Ｐ６が近接するため建物の建て替えが行われたものとみられる。周壁溝は建物南東部分のみで検出した。

竪穴建物15・16については、竪穴建物の埋土がきわめて浅いため、調査時の所見では平地式住居とされていた。しかし、再度検討した結果、中央土坑、周壁溝、主柱穴の掘形も同様に浅いため、竪穴建物が大きく削平を受けたものと判断した。必ずしも良好な検出状況といえないため、ここでは竪穴建物として報告する。

遺物の出土は認められず、遺構の時期は不明であるが、竪穴建物15と同様の時期と考えられる。

竪穴状遺構３～５（64・65・66）（図91）　竪穴建物15の北で検出した。不整円形を呈する竪穴状遺構が複雑に重複する。竪穴建物の可能性も考えられるが、明確に並ぶ主柱穴や、炉と考えられる構造物を伴わないことから竪穴状遺構として報告する。

竪穴状遺構３は竪穴建物15と重複し、竪穴建物15が後出する。南東部分は試掘トレンチと重複する。遺構北側からは炭化物がまとまって出土している。遺構の規模は、南北4.5ｍ以上、東西3.5ｍ以上、深さ0.05ｍを測る。

竪穴状遺構４は、竪穴建物15、竪穴状遺構３と重複し、これらが後出する。遺構中央では炭化材が広がり、焼土、灰塊を多く含む。ピットを複数検出しているが、遺構床面から切り込み、明確に柱穴と認められるものは存在しない。南北4.0ｍ以上、東西3.6ｍ以上、深さ0.15ｍを測り、平面形は不整円形を呈する。また、遺構周辺ではピットを多数検出しており、竪穴状遺構

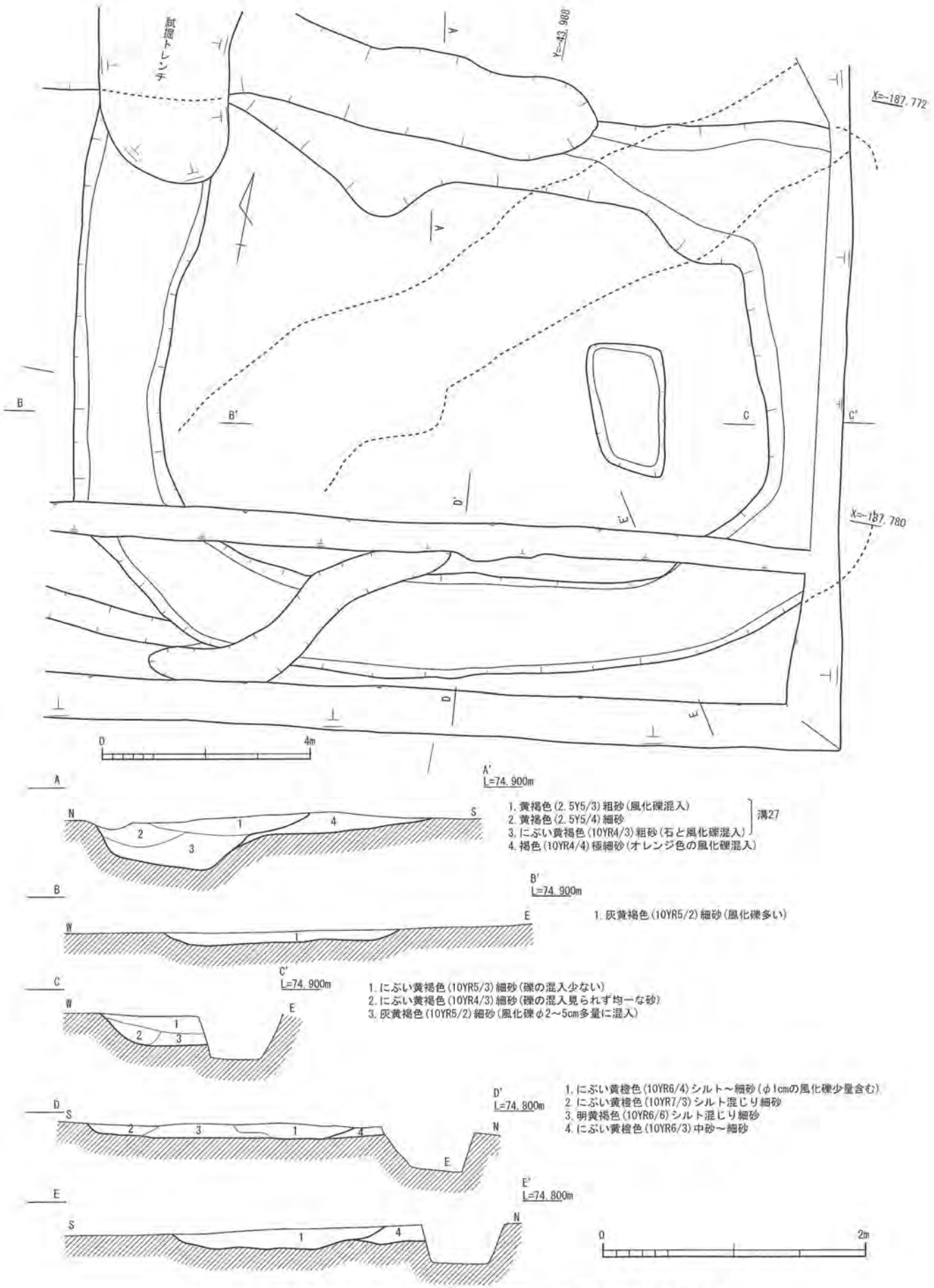


図 93　方形周溝墓４（77）平面図・断面図　（S＝1/100、S＝1/40）

上面から掘りこまれたピットが存在する。このため竪穴状遺構４で検出したピットは、当遺構に伴うものか分別できていない。遺物の出土は認められず、遺構の時期は不明である。

竪穴状遺構６（25）（図 92） 竪穴建物 15・竪穴建物 16 と重複して検出した竪穴状遺構である。竪穴状遺構６が古く、竪穴建物が後出する。遺構南側を近世の暗渠排水溝により削平される。南北 4.8 m、東西 3.6 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は不整円形を呈する。埋土は炭化物を多く含む。土層断面図から判断して炉、周壁溝を伴うものと考えられるが、平面では検出できていない。遺物の出土は認められず、遺構の時期は不明である。

方形周溝墓４（77）（図 93・図 95） 調査区南東（２－２区）で検出した方形周溝墓である。北側周溝は溝 27 と重複し、これが後出する。中央は上層遺構面の溝６に削平される。北西隅は試掘トレンチと重複し、東側周溝は調査区外へと延びる。墳丘はＮ－ 10° －Ｅに南北軸を置き、墳長は南北 7.5 m、東西 11.2 mを測る。

周溝は幅 1.8 m～ 2.0 m、深さ 0.1 ～ 0.25 mを測る。周溝断面は浅いＵ字状を呈し、にぶい黄褐色シルト～細砂を主体とする。墳丘上には土坑を検出しているが、方形周溝墓４に伴うものかどうかはわからない。周溝底面からは遺物が出土しているが、詳細な出土状況は不明である。

遺物は、弥生土器広口壺（546・547）・甕（548・550）・鉢（549）が出土している。他の方形周溝墓に比べ遺物の出土量は少ないが、遺構の時期は、弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）と考えられる。

土坑 39（28）（図 95） 調査区東（２－２区）で検出した土坑である。土坑 37 と重複し、土坑 39 が後出する。長径 2.5 m、短径 1.45 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は楕円形を呈する。土坑下位から縄文土器深鉢（564）が出土している。（564）は三角形の波状口縁をもち、口縁部下は二条の沈線により区画された刻み目突帯をもつ。縄文時代後期（一乗寺Ｋ式）の深鉢である。遺構の切り合い関係から考えて土坑 39 に伴うものではないと判断した。

溝 27（12）（図 95） 方形周溝墓４と重複して検出した溝である。方形周溝墓４、竪穴建物 15、竪穴状遺構３と重複し、方形周溝墓４が古く、竪穴建物 15、竪穴状遺構３がこれより新しい遺

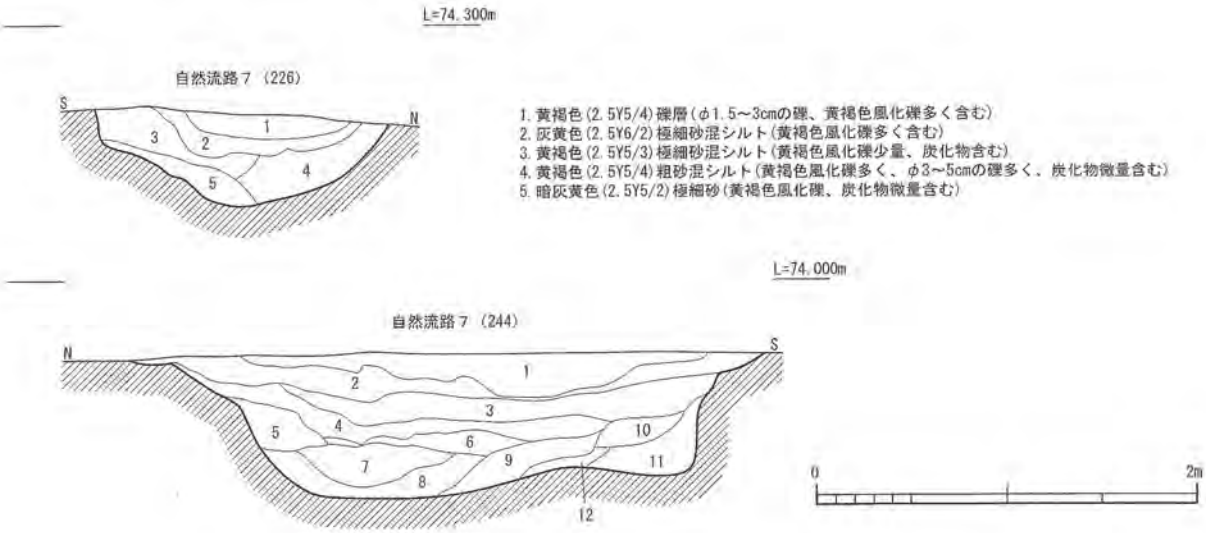
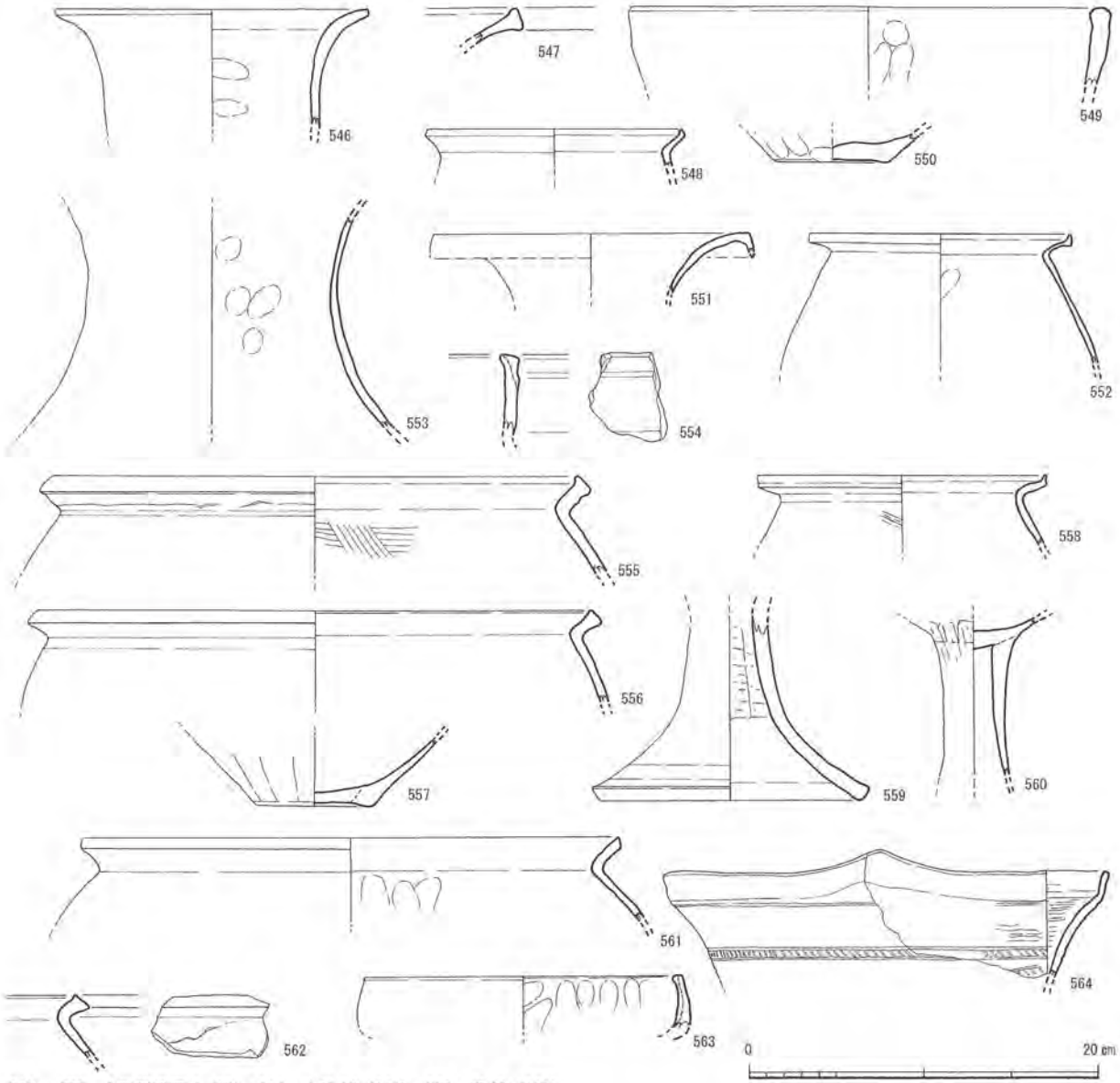


図 94　自然流路７（226、244）断面図　（S＝1/40）



546～550：方形周溝墓4（77） 551：土坑38（231） 552：溝26（228）
553・554：溝27（12） 555～563：自然流路7（244） 564：土坑39（28）

図95　方形周溝墓4、土坑38、39、溝26・27、自然流路7出土土器

構である。検出長15.0ｍ、幅1.05ｍ、深さ0.15ｍを測り、東西方向に流れる溝である。２－４区ではその延長を検出できていない。遺物は、弥生土器広口壺（553）・高杯（554）が出土している。（554）は口縁部直下に凹線文を施す高杯の杯部である。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）と考えられる。

自然流路7（244・226）（図94・図95） 調査区南（２－４区）で検出した自然流路である。２－２区では自然流路の延長は確認できていない。また、２－４区西側でも流路が途切れる。検出長65.0ｍ以上、幅2.7～3.4ｍ、深さ0.5～0.8ｍを測り、東西方向に蛇行しながら流れる。自然流路6と重複し、これが後出する。調査時には、自然流路6の東西で別遺構として認識されていたが、同一遺構として報告する。自然流路7（226）は上面を削平され規模が小さくなる。埋土は0.5ｍと浅い。

遺物は、自然流路7（244）から弥生土器甕（555～558）・高杯（559・560）が、自然流路7（226）から弥生土器甕（562）・壺（563）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）と考えられる。

第４節　丁ノ町・妙寺遺跡（06 － １区）の調査成果

１．調査区の概要

丁ノ町・妙寺遺跡（06 － １区）は、第１次調査地の西に位置する調査区である。調査区は調査地北側の中位段丘から低位段丘Ⅱ面へと移行する緩斜面上に位置している。調査区西は町道を挟んで第２次調査地の 07 － ３区が位置する。06 － １区北西から西にかけては、複数の自然流路が南北に流れており谷状地形を呈する。調査区東から調査区西へとゆるやかな傾斜が見られ、調査区西で最も地形が高くなる。

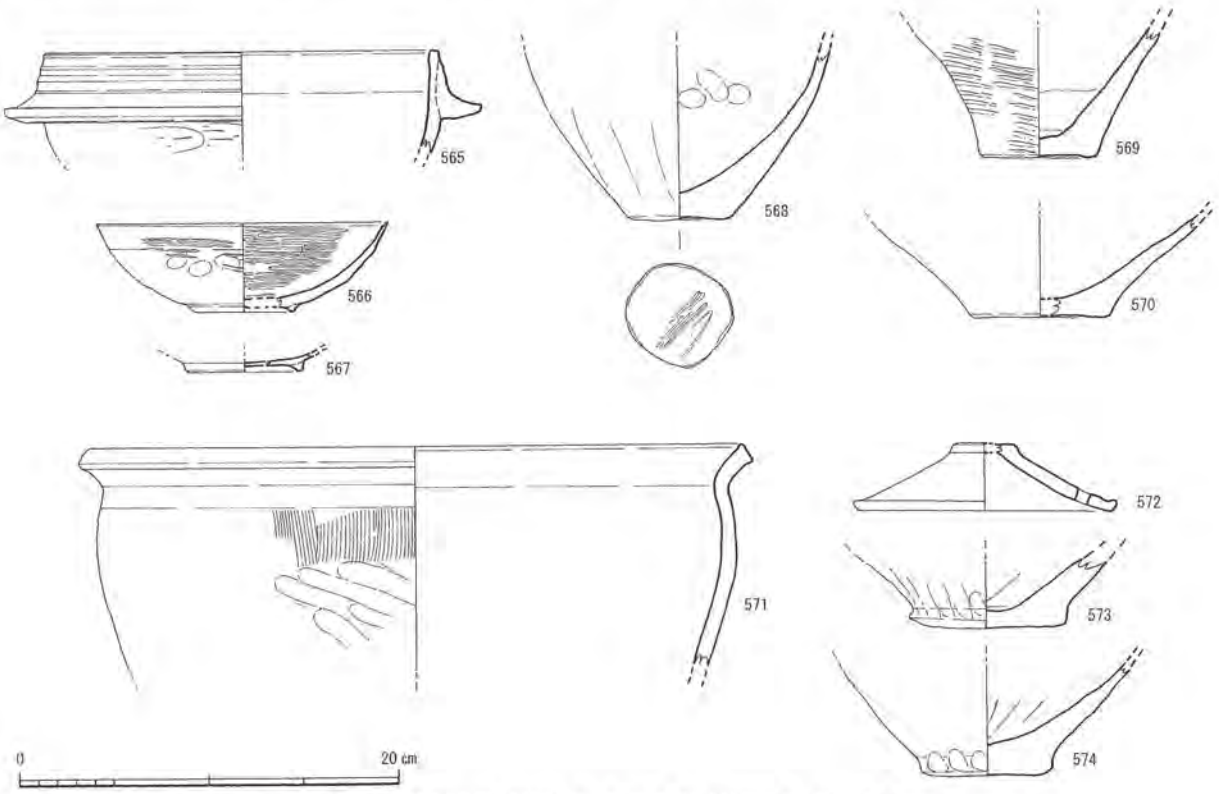
地形の傾斜により、第４－２層の下層では間層を挟まず、第４－４層が直下に堆積する。そのため、西飯降Ⅱ遺跡 06 － １区とは層序が明確には対応しない結果となった。調査は第４－２層下面で遺構検出を行い、上層遺構面として調査を行った。また、第４－４層下面でも遺構検出を行い、下層遺構面として調査を行った。

上層遺構面では、第４－２層下面で古墳時代前期から中世までの遺構を検出した。調査区東半では西飯降Ⅱ遺跡（06 － ２区）で検出した平安時代前期（９世紀後半）の水田を同様に検出した。調査区西半では自然流路が東西に流れ、検出できた遺構は少ない。西飯降Ⅱ遺跡（06 － ２区）と明確には層序が対応しておらず、第４－２層下で古墳時代前期までの遺構を検出している。

下層遺構面では、第４－４層下面で弥生時代中期から古墳時代前期の遺構面を検出した。弥生時代中期から弥生時代後期の遺構は、竪穴建物４棟、土器棺墓１基、土坑などを検出している。

２．古墳時代から中世の遺構と遺物

土坑 40（151）（図 99・図 101）　第４－２層下面、調査区南東（１－２区）で東西畦畔と重複



565：包含層第４－２層　566・567：間層　568：第４－５層　569・570：第４－４層　571 ～ 574：第４－６層

図 96　包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 06－１区）出土土器



図 97　丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）上層遺構面　全体図（S=1/500）

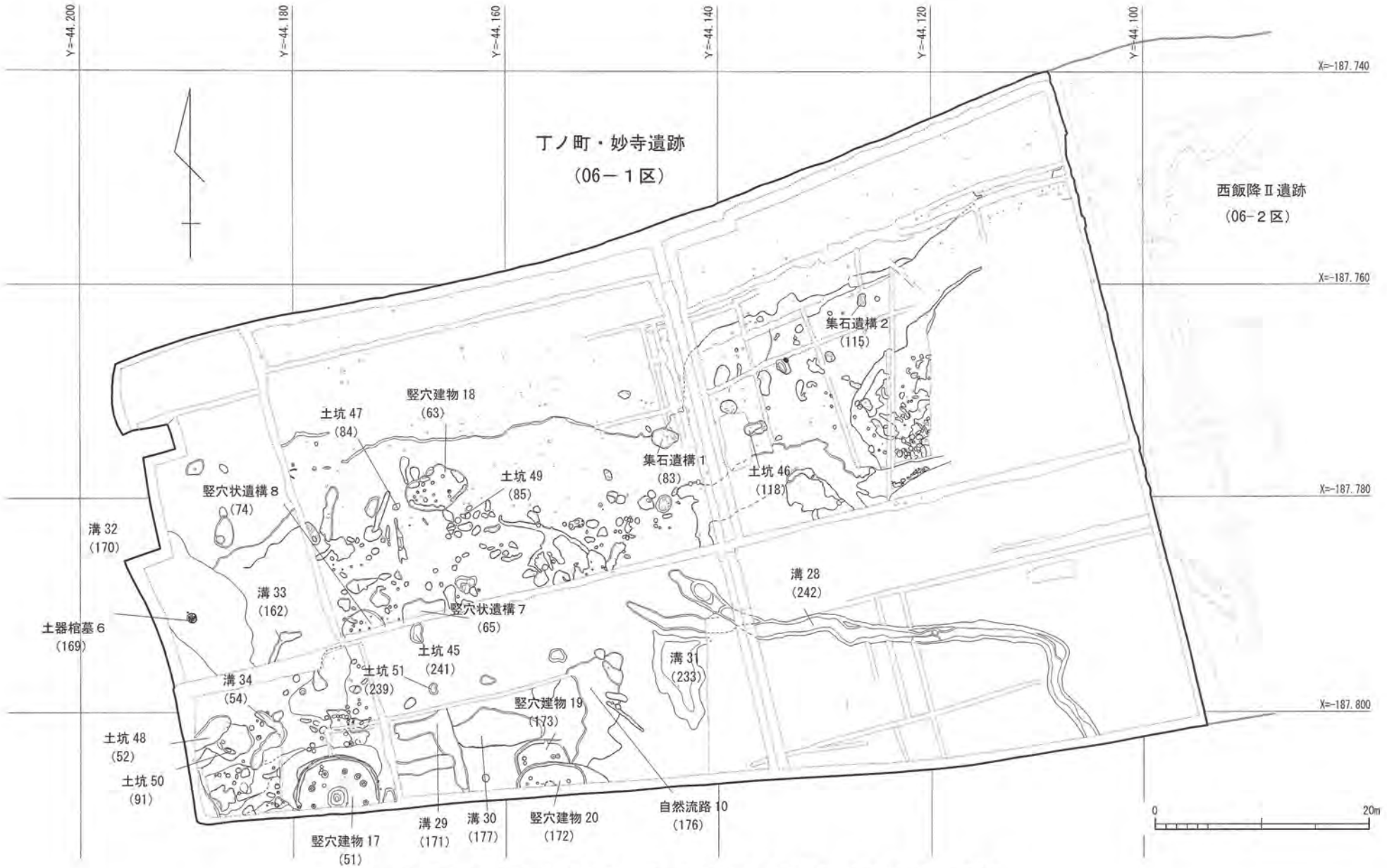


図 98　丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）下層遺構面　全体図（S=1/500）

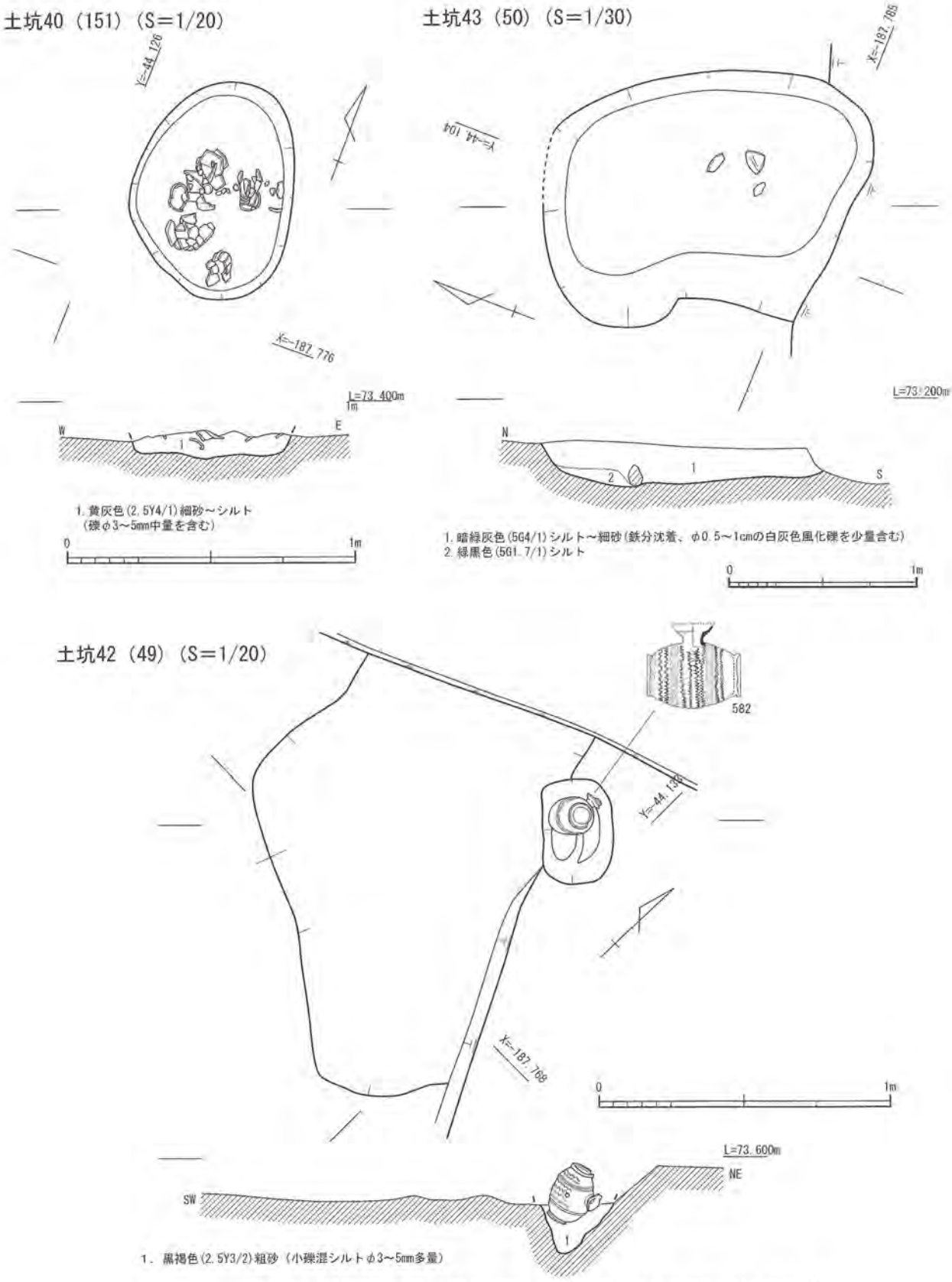


図 99　土坑 40・42・43 平面図・断面図（S＝1/30、S＝1/20）

して検出した土坑である。長径 1.8 m、短径 1.3 m、深さ 0.4 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は黄灰色細砂～シルトからなる単層である。埋土中からはほぼ完形の瓦器椀（575 ～ 579）と土師器皿（580）が出土している。（575・577 ～ 579）は口縁端部内面に沈線を施し、大和型瓦器椀の影響を受けたものである。内面は渦巻き状の暗文を施す。外面上半部はミガキ、下半部は

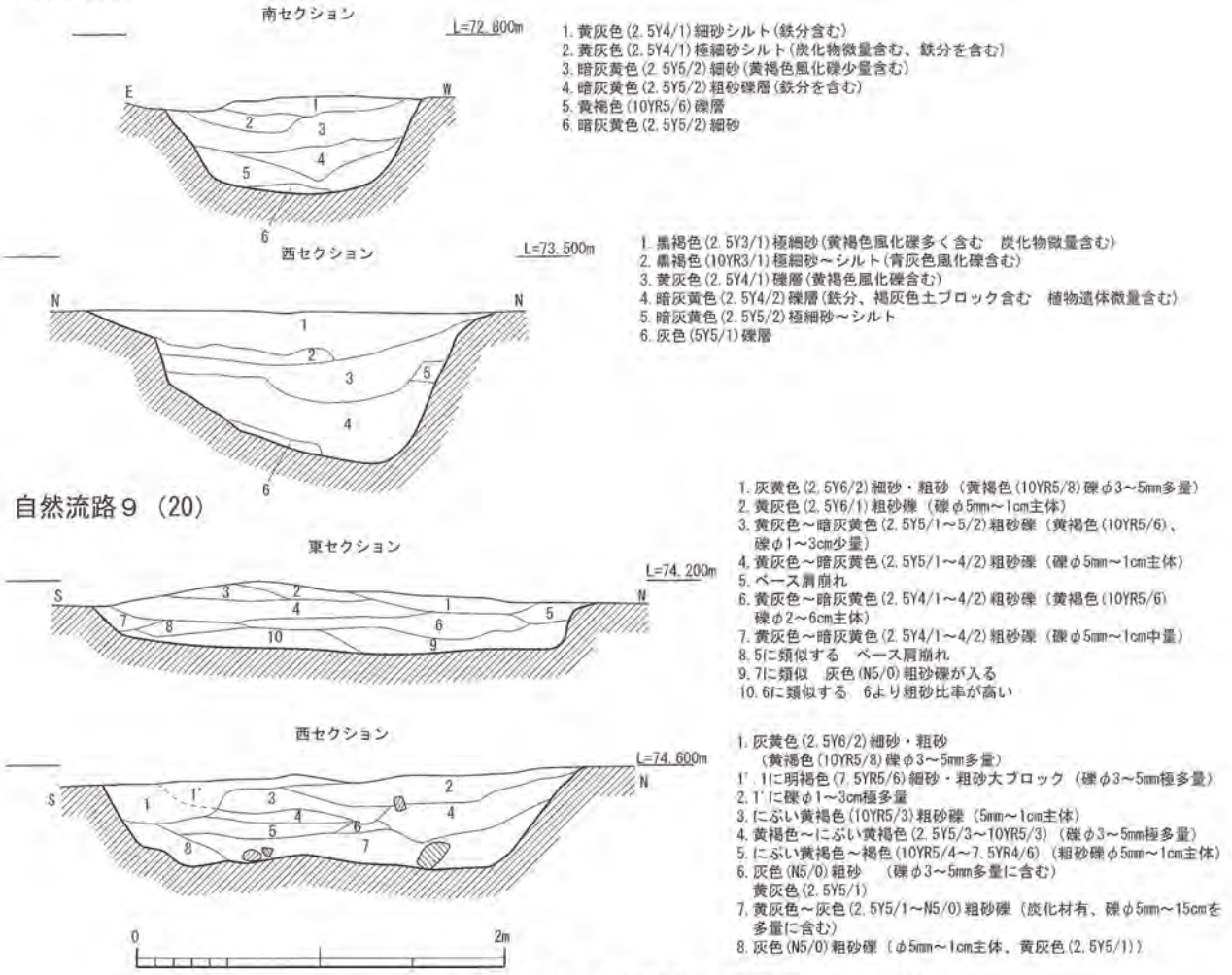


図 100　溝 28、自然流路９断面図　(S＝1/40)

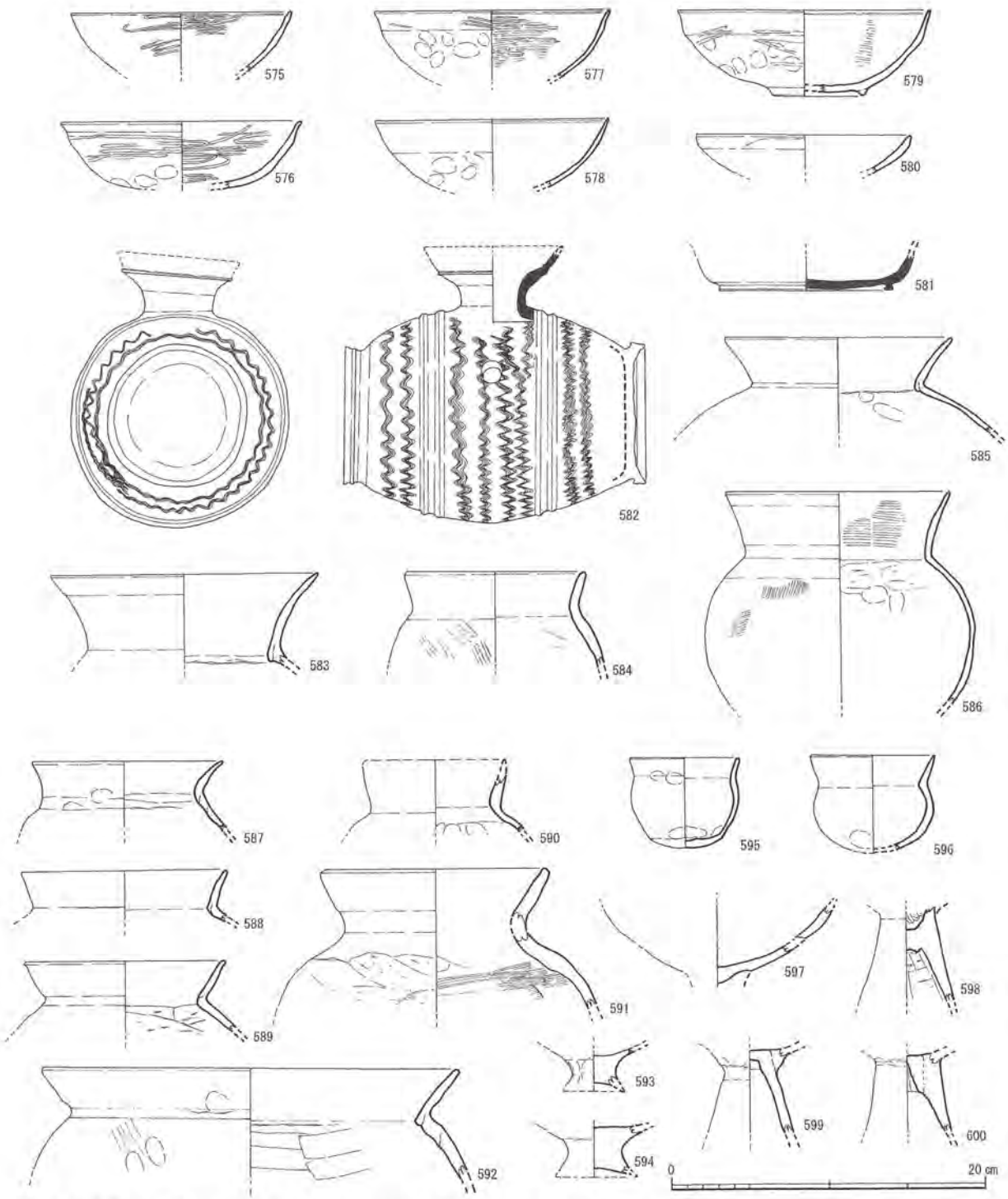
ユビオサエを施す。(580) は口縁部下に黒色の有機物が付着している。これらの瓦器椀は 12 世紀後半（北野編年Ⅱ－２期）に相当する（北野 2005)。遺構の時期は平安時代末～鎌倉時代（12 世紀後半）と考えられる。

土坑 41 (167)（図 101）　第４－２層下面、調査区北西で検出した土坑である。長径 3.95 m、短径 1.7 m、深さ 0.55 m を測り、平面形は不整形な楕円形を呈する。遺物は須恵器杯Ｂ（581）が出土している。遺構の時期は平安時代前期（９世紀）と考えられる。

土坑 42 (49)（図 99･図 101）　第４－２層下面､調査区北東（１－１区）で検出した土坑である。上面は削平を受ける。長径 0.4 m、短径 0.25 m、深さ 0.2 m を測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は単層で黒褐色粗砂からなる。土坑埋土から完形の樽形瓶（582）が、体部側面を縦にした状態で出土している。

（582）は断面正円形の樽形の体部をもち、口縁は有段に屈曲するものである。体部図右側を底部とし、側面を下にした状態で体部を成形する。図左側まで積み上がった段階で、粘土円盤により閉塞する。外面には櫛描波状文８条と突線を施す。遺構の時期は古墳時代中期（ＯＮ 46 型式）と考えられる。

土坑 43 (50)（図 99・図 101）　第４－２層下面、調査区北東（１－１区）で検出した土坑である。長径 1.8 m、短径 1.7 m、深さ 0.4 m を測り、平面形は不整形な楕円形を呈する。埋土は２層に分けられ、暗緑灰色シルト～砂質、緑黒色シルト層が堆積する。遺物は、土師器直口壺（583）



575～580：土坑 40（151）581：土坑 41（167）582：土坑 42（49）583：土坑 43（50）584：土坑 44（159）
585・586：落ち込み 2（15）587～600：溝 28（242）

図 101　土坑 40～44、落ち込み 2、溝 28 出土土器

が出土している。遺構の時期は古墳時代前期（布留３式）と考えられる。

落ち込み２（15）（図 101）　第４－２層下面、調査区中央（１－３区）で検出した落ち込みである。浅い落ち込みで検出長９ｍ、幅 2.6～1.6 ｍ、深さ 0.15 ｍを測る。遺物は、土師器甕（585・586）が出土している。遺構の時期は、古墳時代前期（布留３・４式）と考えられる。

溝 28（242）（図 100・図 101）　第４－４層下面、調査区南東（１－２区）で検出した溝である。東西方向に流れ、調査区の南で屈曲し、南方向へと向きを変え調査区外へ延びる。溝の断面形状はU字形を呈し、シルト～細砂層が交互に堆積する。埋土には有機物、自然木、炭化物を顕著に含む。

遺物は、土師器甕（587 ～ 589・592）・壺（590・591）・小型丸底壺（595・596）・高杯（597 ～ 600）、製塩土器（593・594）、砥石（S 54・S 55）が出土している。（590）は直立気味に伸びる口縁部をもつ。（591）は肩部外面にヘラケズリを施す壺。（593・594）は脚台Ⅳ式の脚部と考えられる。（597）は椀形高杯の杯部で、杯底面に粘土塊を充填することにより脚部と接合する。遺構の時期は、古墳時代前期（布留３・４式）と考えられる。

自然流路９（20）（図 100） 第４－２層下面、調査区北西で検出した自然流路である。東西方向に複雑に屈曲しながら流れる。検出長 60.0 m、幅 1.0 ～ 2.8 m、深さ 0.5 mを測る。灰黄色～黄灰色細砂、粗砂層が交互に堆積する。遺物の出土は認められない。

３．弥生時代の遺構と遺物

竪穴建物 17（51）（図 102 ～図 104・図 108） 調査区南西（１－４区）で検出した。建物全体の約３分の２を検出し、南半は調査区外となる。建物床面は３面（床面Ａ・床面Ｂ・床面Ｃ）検出した。

床面Ａは、円形８本柱の竪穴建物と考えられ、南北 4.1 m以上、東西 8.05 m、深さ 0.2 mを測る。床面Ｃの上部に盛土を行い整地したと考えられる。建物の構造は中央に炉を築き、主柱穴は６基、周壁溝をもつ。床面のほぼ中央には、円形の炉穴が存在する。炉穴は建て替えの中で順次造り替えが認められる。南北 1.1 m、東西 1.0 m、深さ 0.55 mを測り、平面形は円形を呈する。炉堤、

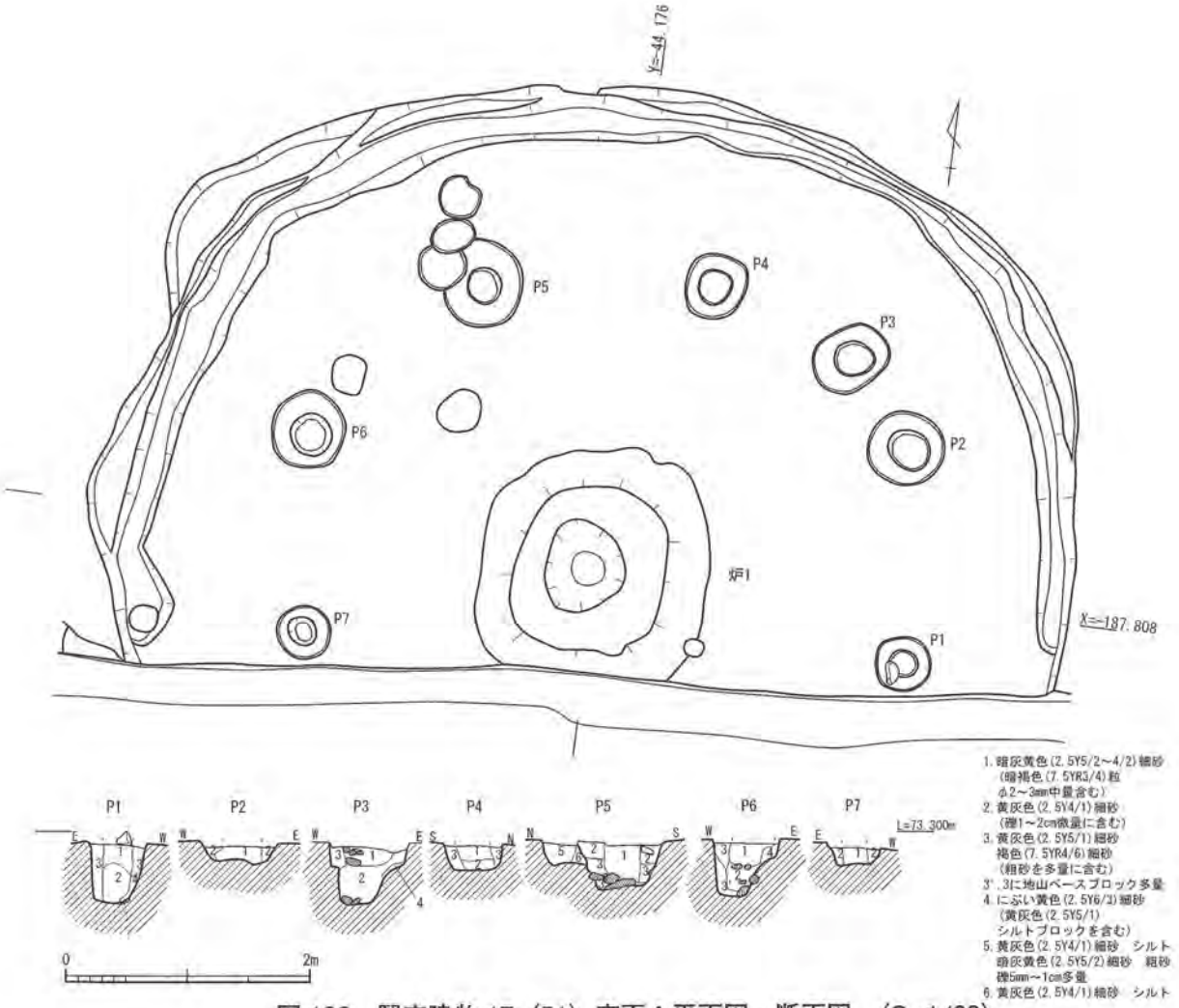
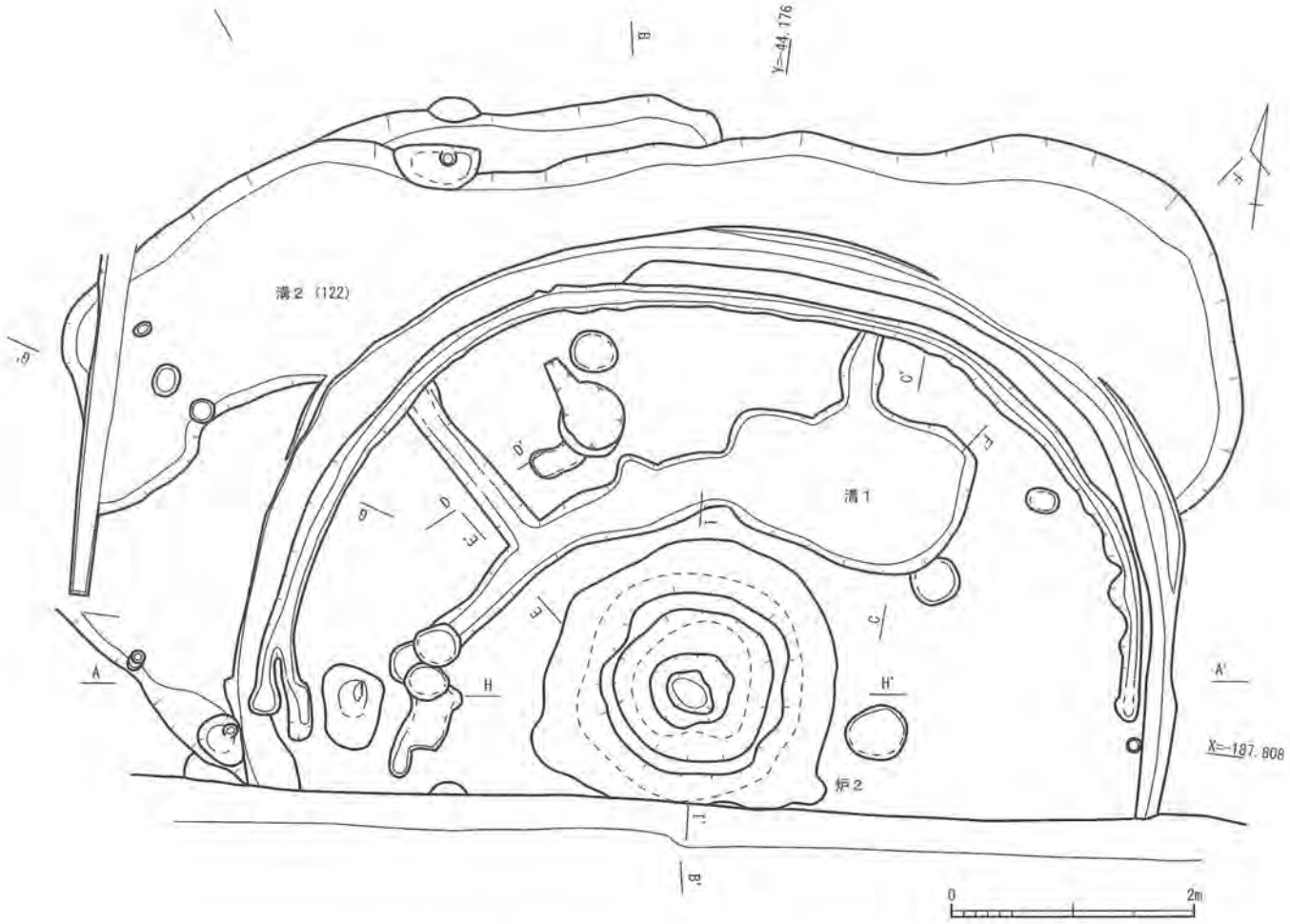
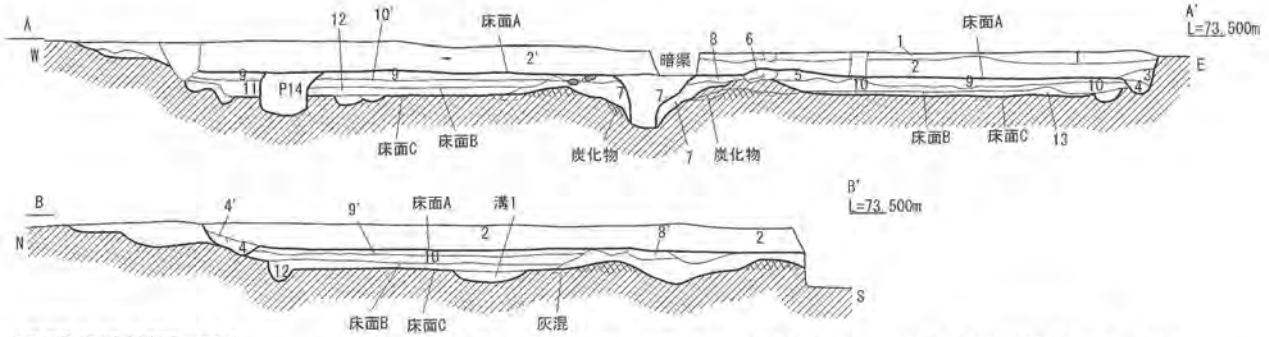


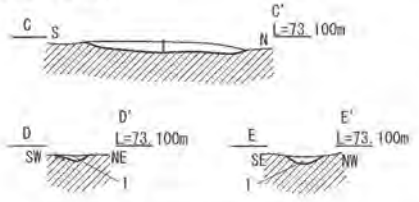
図 102　竪穴建物 17（51）床面Ａ平面図・断面図　（S=1/60）





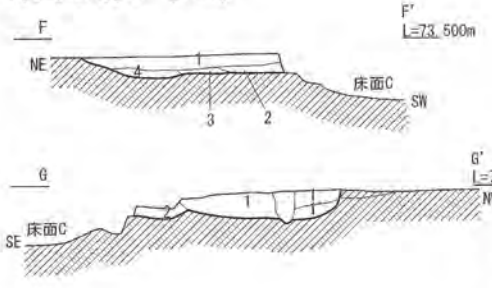
1. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂～シルト
(にぶい黄褐色～暗褐色(10YR4/3～3/3)粒 2～3mm多量)
2. 褐灰色(10YR5/1)細砂～シルト
黄灰色ぎみ(2.5Y5/1) aを境にして、西側ではBが減少する
3. 黄灰色(2.5Y6/1)細砂 (床面A壁溝)
4. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂～シルト (床面A周壁溝)
4'. 礫φ5mm～1cm中量
5. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂シルト
6. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂 (炉壁の周辺に掻き出した炭灰層に該当)
7. 炉穴の上端は、基本的に2と同じ(炉穴)
8'. (5mm～1cm礫を中量)
8. 基本的に2に近いが、
(黄灰色(2.5Y5/1)細砂～シルト
炭粒3～5mm少量 一部炭粒の影響で灰色(N4/0))
9. 黄灰色(2.5Y4/1～5/1)細砂～シルト
黄褐色(10YR5/6)～明褐色(7.5YR5/6)細砂～シルト ブロック多量
褐色粒Bの影響も強い ブロック多
9'. にぶい黄色～明黄褐色(2.5Y6/4～6/6)細砂 (炉壁)
(大ブロック状に多量)
10. 黄灰色(2.5Y4/1)細砂 シルト
(礫5mm～1cm 微量)
10'. 本来の10に9'が混在する
11. 黄灰色(2.5Y4/1)細砂～シルト
(青灰色(10BG6/1)ぎみ、礫5mm～1cm少量)
12. 黄灰色(2.5Y4/1)細砂～シルト (貼床)
10に比べて明色
(礫5mm～2cm中量)
13. 南壁断面土層 最下部と同じ貼床
にぶい黄色(2.5Y6/3～6/4)細砂 シルト
13'. にぶい黄色(2.5Y6/3～6/4)細砂 シルト
(灰色(N4/0)細砂、シルト、炭粒多量)

床面C 溝1



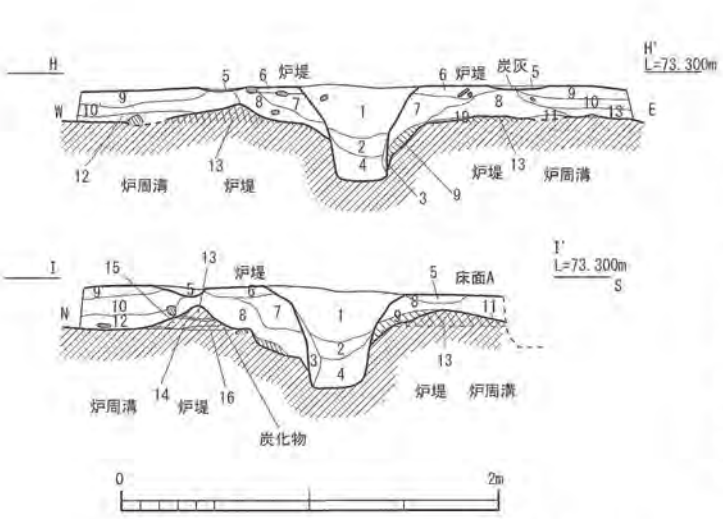
1. 黒褐色～褐灰色(10YR3/1～4/1)シルト
(礫5mm～1cm中量
黄灰色ぎみ(2.5Y4/1))

床面C 溝2 (122)



1. 黄灰色(2.5Y4/1)細砂～シルト
(礫φ5mm～1cm少量)
1'. 地山ベースに1が中ブロック中量入る
2. 黄灰色(2.5Y5/1)粗砂～褐色(7.5YR4/4)粗砂
3. 褐灰色(10YR5/1)細砂～シルト
(礫φ5mm～1cm少量)
4. 暗褐色(7.5YR3/4)粗砂礫
(粗砂主体、5mm～2cm極多量)

図103 竪穴建物17 (51) 床面C平面図・断面図 (S=1/60)



1. 竪穴建物埋土2と同じ埋土のため、炭化物は殆ど入らない
2. 灰黄色(2.5Y6/2)細砂（シルトブロックを多量に含む）
3. 2に炭灰を多量含む
4. 黒色(2.5Y2/1～N2/0)炭灰
5. 黄灰色(2.5Y4/1)シルト～細砂
（褐色(7.5YR 4/6)粒φ5mm～2cmのため褐色気味を呈する）
（灰色～暗灰色(N4/0～3/0)、炭粒3～5mm多量）
6. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂～シルト
（灰色ぎみ(N4/0)礫φ5mm～2cm微量）
7. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂～シルト～ブロック
黄褐色(2.5Y5/4)シルト～黄褐色(10YR5/6)シルト
8. 黄灰色(2.5Y4/1)細砂
（褐色(10YR4/1)、炭灰粒　極多量、黒色(N2/0)炭灰の状況）
9. 黄灰色～暗灰黄色(2.5Y4/1～4/2)細砂
（黒色(N2/0)炭灰を極多量に含む）
10. 炭灰層
11. 8混　炭灰層
12. 黄灰色(2.5Y4/1)細砂～シルト
（粗砂礫を中量、礫5mm～2cmを中量、炭灰を極多量に含む）
13. にぶい黄色(2.5Y6/4)細砂～シルト
（黄褐色(10YR5/6)細砂＋シルト(地山ベース)）
14. 暗灰色(N3/0)炭灰層
15. 黄灰色(2.5Y4/1)細砂～シルト
（基本的に13と同じ(地山ベース)を人為的に盛り上げる）
16. 暗灰色(N3/0)炭灰層

炉堤を構成

図 104　竪穴建物 17（51）炉断面図　（S＝1/40）

炉周溝を検出しており、炉穴の埋土の最下部には厚さ約 10 ～ 15 cmの炭化物、灰が充填されていた。

炉穴の内側には被熱による赤変痕跡は認められない。被熱による赤変痕跡は、炉堤の外側に廻らされた炉周溝の中からその外側にかけて認められる。主柱穴は、配置関係からは主柱６本柱に復原でき、おそらく未検出の南半部を含め主柱穴８基と考えられる。Ｐ２・Ｐ３は近接することから建物の建て替えが考えられる。建て替えに伴う主柱穴の配置は、若干異なるものの基本的に同一位置を保ったままである。

床面Ｂは、柱穴等構造物を伴わないため、床面Ｃ上部の貼床と考えられる。厚さ５cm程度の黄灰色細砂～シルトを床面Ｃの直上に敷き詰める。

床面Ｃは床面Ａの 20 cm直下で検出した、ほぼ同規模の竪穴建物である。床面Ｃの建物の構造は中央に炉を築き、ピット、柱穴、溝１、溝２をもつ。床面Ｃに伴う炉穴の規模は、南北 1.3 m、東西 1.35 m、深さは床面Ａ・Ｂに伴う炉穴の再掘削のため不明である。床面Ｃの炉穴の外周には、高さ約 0.15 m・幅 0.25 m前後（基底部幅では、0.45 ～ 0.58 m）の炉堤がめぐる。また、その外周には、天端幅約 35 cmの炉周溝がめぐる。

溝１は排水溝と考えられ、炉に沿って円弧状の溝が巡り、溝からは２本の溝が建物外部に向かって放射状に延びる。おそらく機能時には木蓋または板材により架構されていたと考えられる。

遺物は、建物埋土から弥生土器広口壺（601・602）・壺（603）・甕（604）・高杯（605・606）・脚台（607）・蓋（609）、石鏃（Ｓ 52）、磨石・敲石が出土している。（601）は端部外面には２段の円形浮文、櫛状工具による刺突文をもつ。（605）は柱状の脚部をもち、内面はヘラケズリ。また、床面Ｃに伴う溝２からは広口壺（610）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期後葉～末葉（Ⅳ様式後葉～末葉）と考えられる。

竪穴建物 18（63）（図 105・図 108）　調査区西半（１－３区）で検出した。東西 6.0 m、南北 4.1 m、深さ 0.15 mを測り、東西に長い長楕円形を呈する。竪穴建物としては、平面形は不整形であるが、床面に周壁溝、柱穴をもつため竪穴建物と判断した。

建物の構造は柱穴６基と、ピット、周壁溝をもつ。主柱穴は円形で直径 0.2 ～ 0.45 m、深さ 0.05 mを測る。また、幅約 0.3 ～ 0.8 m、深さ 0.1 mの木整形な溝状の窪みがめぐり、周壁溝と考えられる。床面は南側全体が北側に比べて低くなり、南地に緩やかな傾斜がみられる。

遺物は、弥生土器広口壺（611）・壺（612）、石鏃（Ｓ 51）、サヌカイト剥片数点が出土している。

(611) は生駒西麓産の広口壺の頸部である。遺構の時期は、弥生時代中期（Ⅲ様式～Ⅳ様式）と考えられる。

竪穴建物19（173）（図106・図108） 調査区南西（１－４区）で竪穴建物20と重複して検出した。建物南側は竪穴建物20と重複し不明である。建物東側の埋土は流失しており、平面形は判然としないが、床面で検出した周壁溝が隅丸方形に巡ることから、隅丸方形４本柱と考えられる。南北2.2ｍ以上、東西6.7ｍ、深さ0.15ｍを測る。竪穴建物19の床面は、竪穴建物20の床面よりもわずかに標高が高い。

建物の構造は、柱穴４基、周壁溝を検出した。柱穴はＰ１・Ｐ２、Ｐ３・Ｐ４が近接することから建て替えが行われたものとみられる。遺物は、弥生土器甕（613）・高杯（614）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後半）と考えられる。

竪穴建物20（172）（図106・図108） 竪穴建物19と重複して検出した。建物南側は調査区外となる。竪穴建物19と同様に建物東側は流失しており、遺構の大半が調査区外となるため断定はできないが、円形の竪穴住居であろう。南北2.3ｍ以上、東西5.05ｍ、深さ0.1ｍを測る。

建物の構造は中央土坑を築き、柱穴６基、周壁溝を検出している。中央土坑は不整円形を呈し、東西1.0ｍ、深さ0.2ｍを測る。主柱穴はその配置の復元が難しい。

遺物は、弥生土器甕（615・616）・壺（617）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ

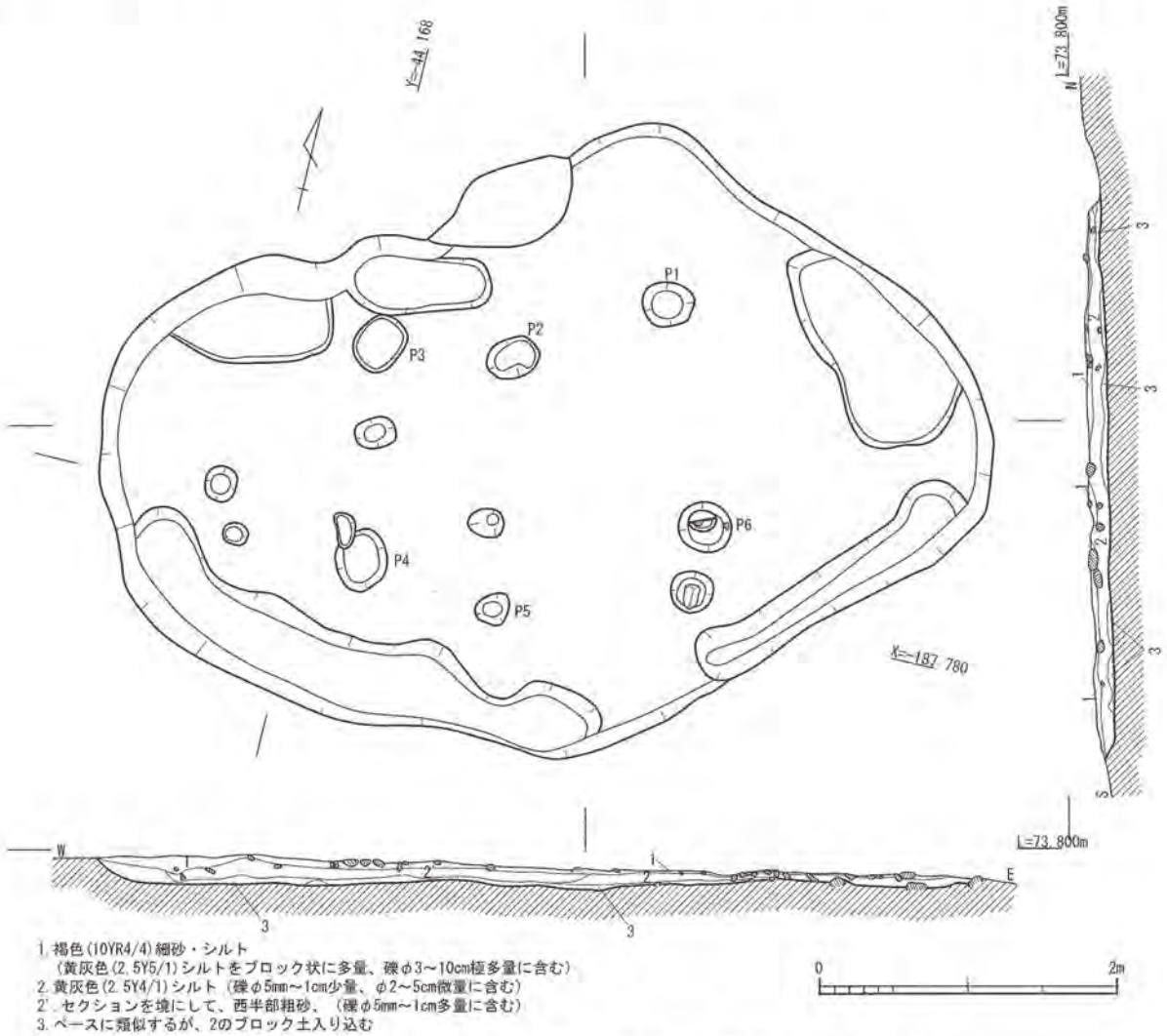


図105　竪穴建物18（63）平面図・断面図　(S=1/50)

様式後半）と考えられる。

土器棺墓６（169）（図 107・図 109）　調査区北西（１－３区）で検出した。溝 32 と重複し、土器棺墓６が後出する。上面は後世の削平を受ける。掘形は円形で、直径 0.95 m、深さ 0.2 mを測る。

棺身は大型の壺（633）を正立させ、掘形中央を一段深く掘り下げ埋置する。掘形は直径５～10 cm大の円礫とともに、オリーブ褐色細砂～シルト、灰色シルト～細砂層により埋められ棺を固定する。上半は後世の削平をうけ、棺身のみを検出したが、棺内からは高杯脚部（634）が出土しており、高杯を倒立させ棺蓋としていたと考えられる。

（633）は肩が張る大型の壺で、東部瀬戸内地域の影響を受けたものである。棺身に用いるため、頸部中ほどで水平に打ち欠く。口縁部は直立気味に立ち上がる頸部からゆるやかに広がる。底部は厚く平底である。胎土は在地のものとは異なり、直径 0.1 ～ 0.3 cmの輝石、全雲母を含み搬入品と考えられる。肩部外面には櫛描直線文、列点文を施す。胴部外面はハケ、底部外面は縦方向のヘラミガキ。体部内面はヘラケズリを施す。備前地域の編年ではⅤ－１様式に位置付けられる（正岡 1992）。（634）は中空の柱状部をもち直線的に立ち上がる柱状脚である。柱状部は粘土板

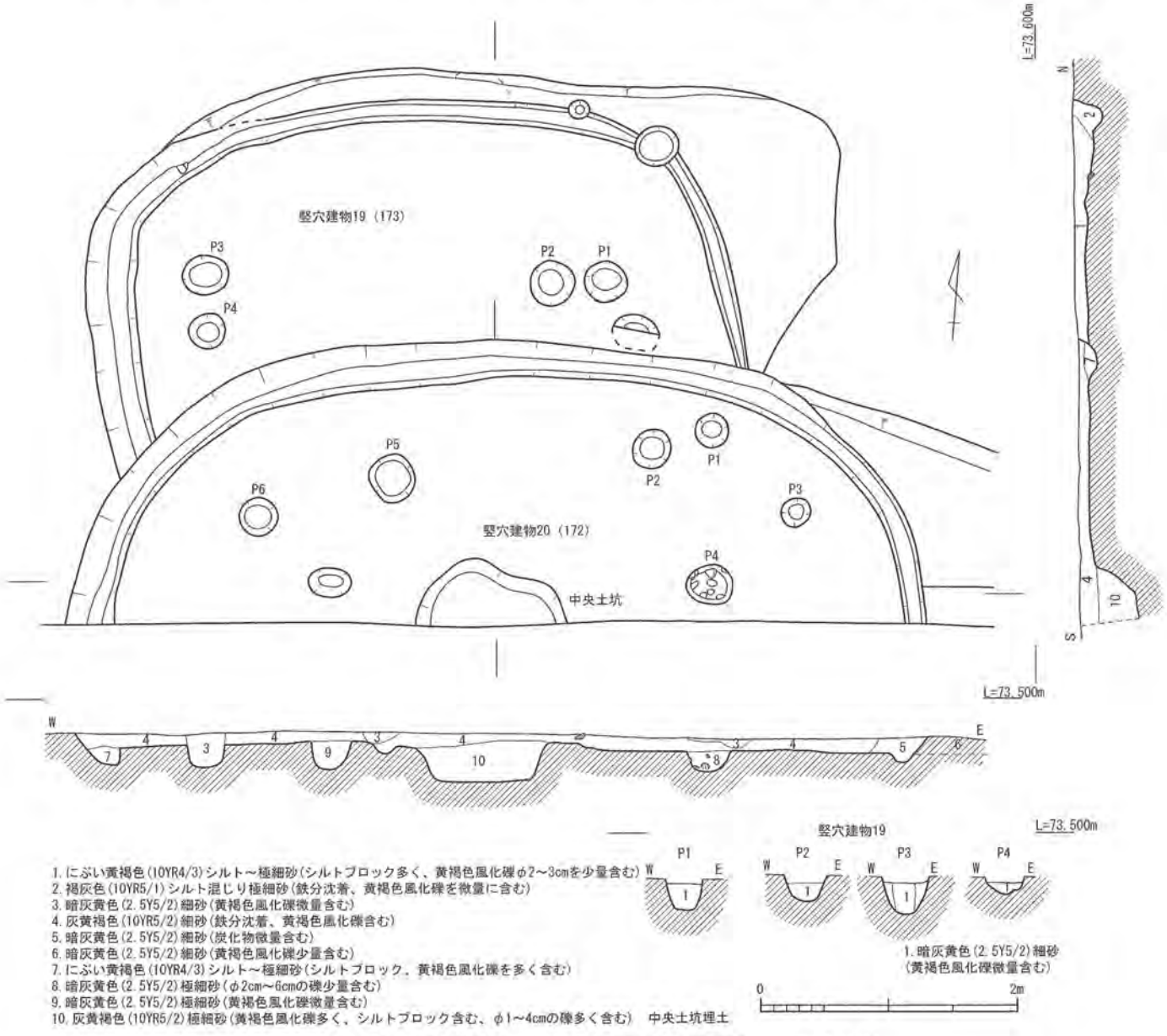


図 106　竪穴建物 19・20 平面図・断面図　（S＝1/50）

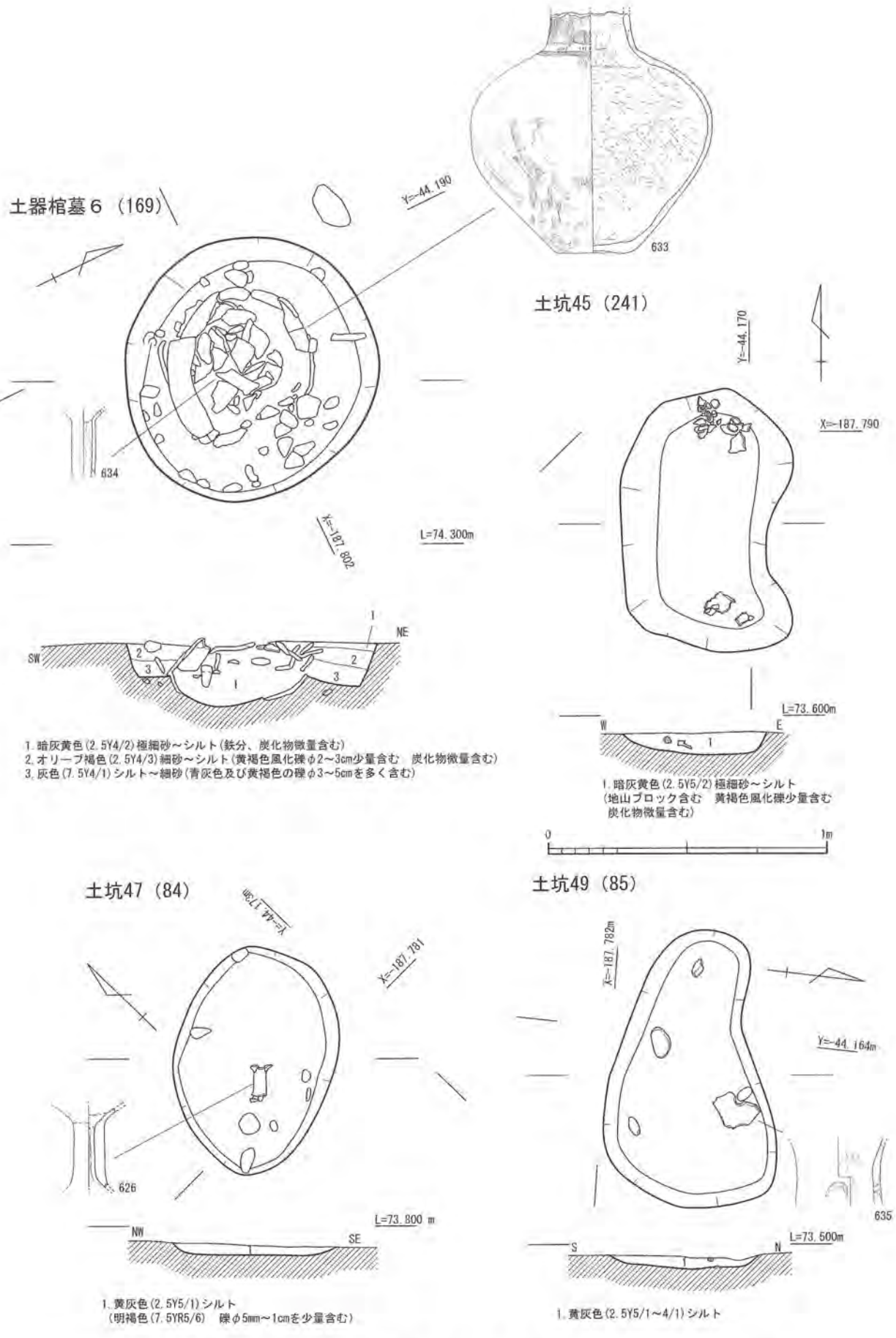
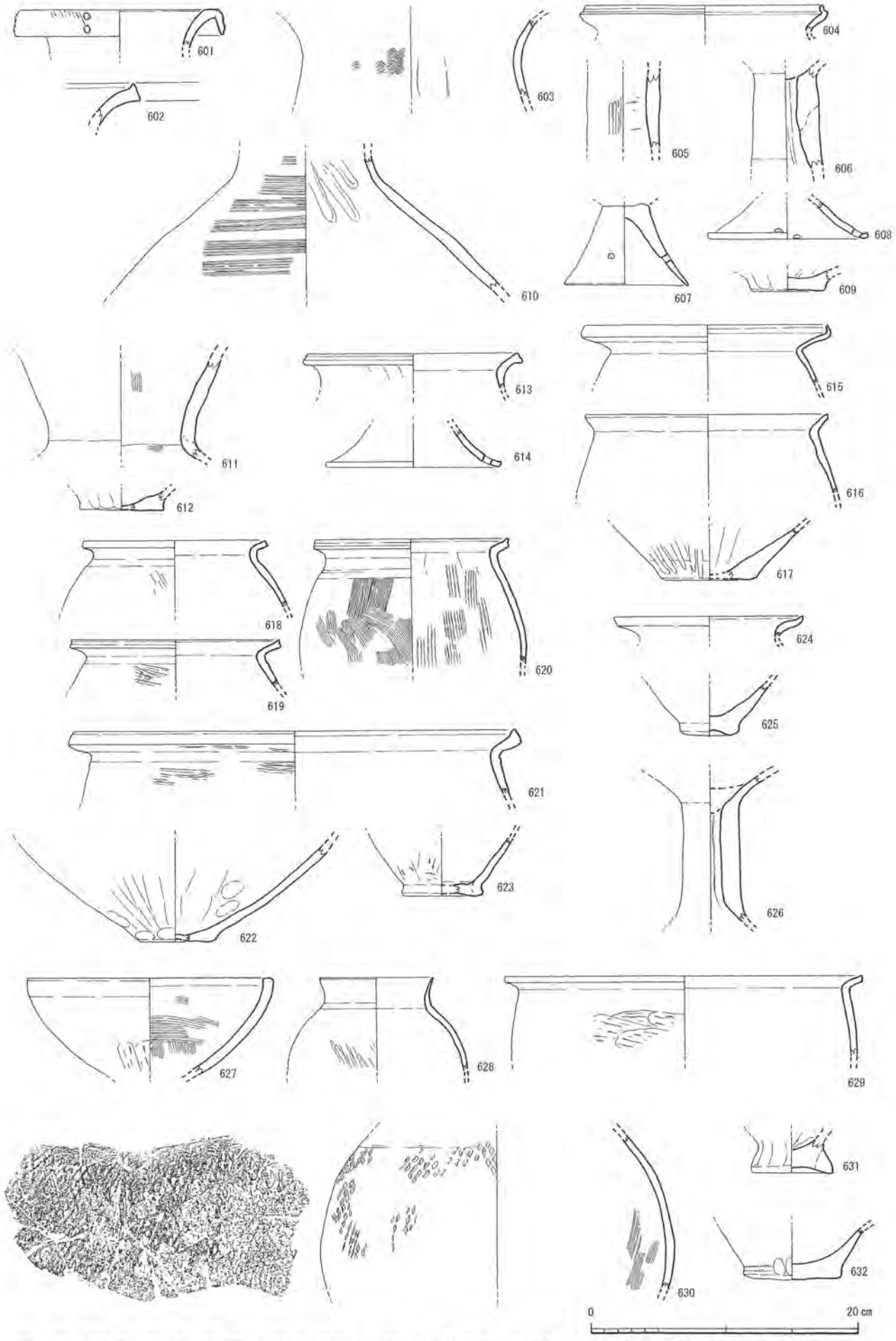


図 107　土器棺墓６、土坑 45・47・49 平面図・断面図　(S=1/20)



601～609：竪穴建物17（51）610：竪穴建物17（51）溝2（122）611・612：竪穴建物18（63）613・614：竪穴建物19（173） 615～617：竪穴建物20（172）
618～623：土坑45（241）624・625：土坑46（118）626：土坑47（84）627～632土坑48（52）

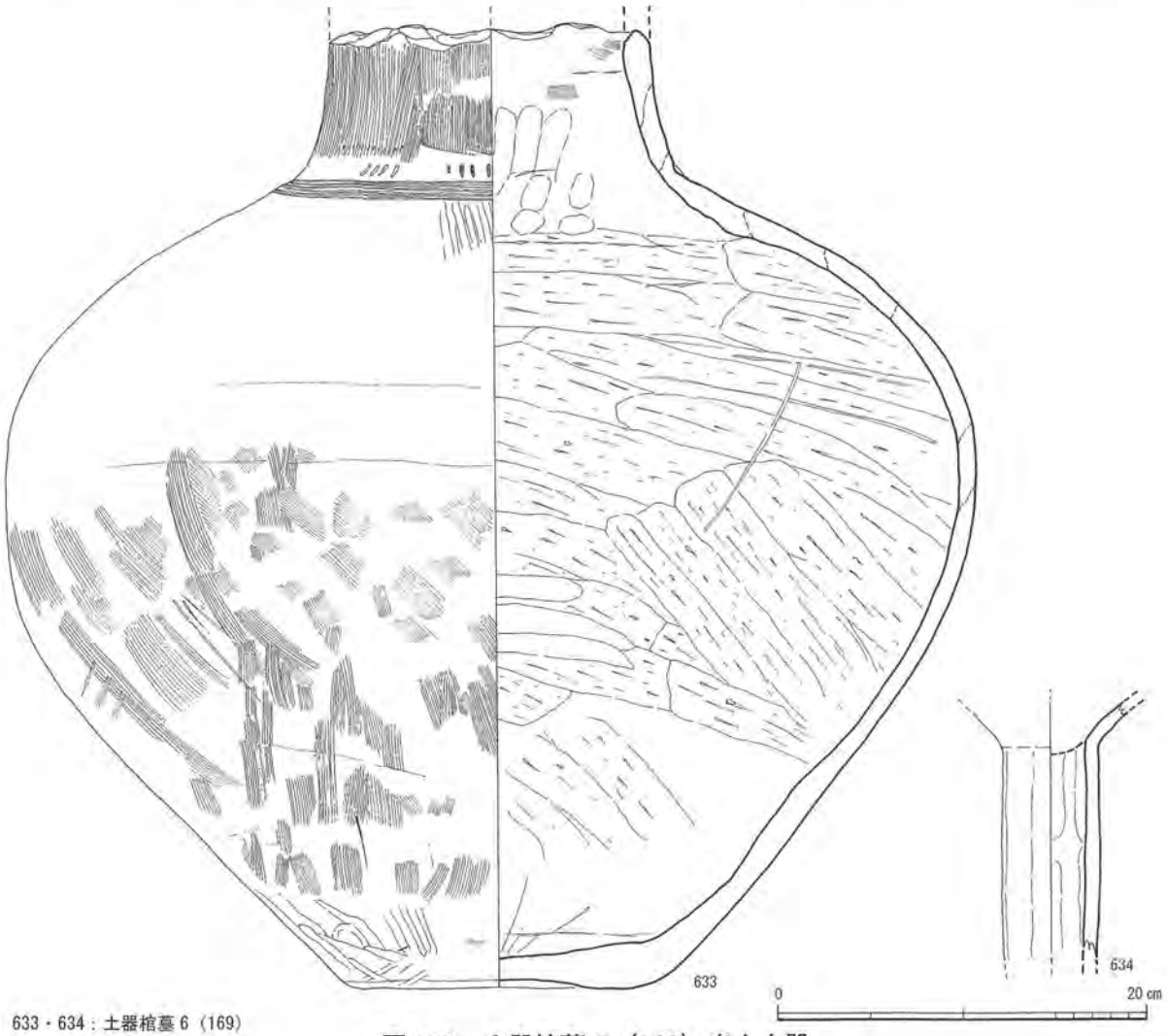
図108　竪穴建物17～20、土坑45～48出土土器

により成形し、杯底部は円盤充填技法により成形される。遺構の時期は、弥生時代後期前葉（V様式前葉）と考えられる。

土坑 45（241）（図 107・図 108） 調査区西半（1－2区）で検出した土坑である。長径 0.95 m、短径 0.55 m、深さ 0.1 mを測り、平面形は不整円形を呈する。埋土は暗灰黄色シルト～極細砂の単層である。土坑北側と南側から遺物が出土している。遺物は、弥生土器甕（618 ～ 621・623）・壺（622）が出土している。（620）は体部内面に粗い縦方向のハケを施すもので大和地域からの影響を受けた甕である。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式中葉）と考えられる。

土坑 47（84）（図 107・図 108） 竪穴建物 18 の西で検出した土坑である。長径 0.85 m、短径 0.6 m、深さ 0.05 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は黄灰色シルトの単層である。遺物は、直径 10 cm大の円礫に混じって、弥生土器高杯（626）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

土坑 48（52）（図 108） 調査区南西（1－4区）で検出した土坑である。遺構西側は調査区外となる。長径 4 m以上、短径 1.85 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は長楕円形を呈する。遺物は、弥生土器高杯（627）・壺（628）・甕（629 ～ 632）が出土している。（627）は椀形の杯部をもつ高杯で、杯部内面は横方向のハケを施す。（628）は頸部が短く直立する。（630）は外面に斜格子のタタキを施す甕の肩部である。遺構の時期は、弥生時代中期末葉（Ⅳ様式末葉）と考えられる。

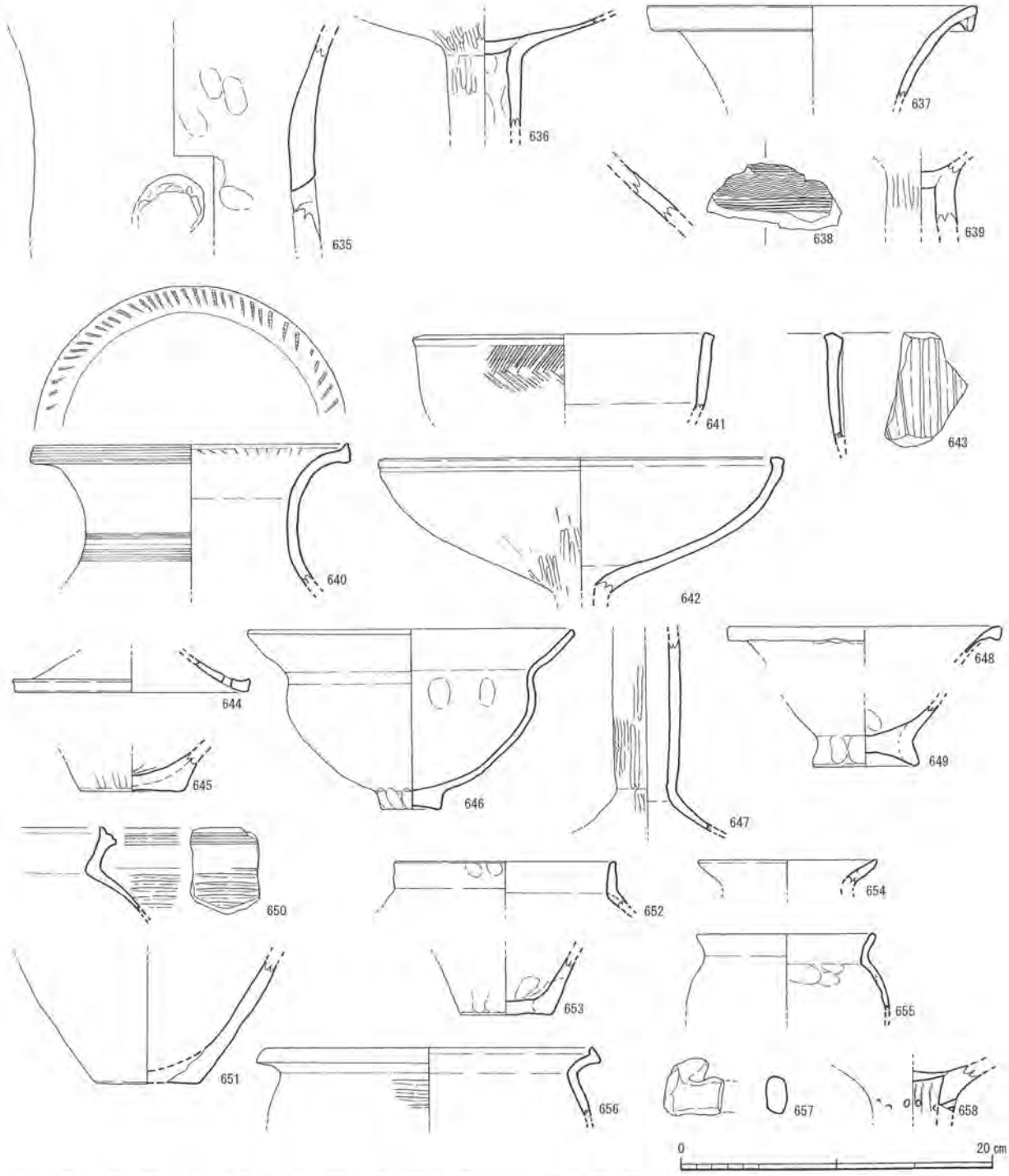


633・634：土器棺墓 6（169）

図 109　土器棺墓 6（169）出土土器

土坑 49（85）（図 107・図 110） 竪穴建物 18 の南で検出した土坑である。長径 1.0 m、短径 0.6 m、深さ 0.5 mを測り、平面形は不整円形を呈する。埋土は黄灰色シルトからなる単層である。遺物は、弥生土器器台（635）が出土している。（635）は円形の透かし穴をもち、直立する筒部から緩やかに外反する口縁部をもつ。遺構の時期は、弥生時代中期末葉（Ⅳ様式末葉）と考えられる。

土坑 51（239）（図 110） 土坑 45 の南で検出した土坑である。長径 1.1 m、短径 0.8 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は楕円形を呈する。遺構埋土は単層で黄灰色シルトからなる。遺物は、弥生土器広口壺（637）・壺（638）・高杯（639）が出土している。（637）は緩やかに外反する口縁部をもち、



635：土坑 49（85） 636：土坑 50（91） 637～639 坑 51（239） 640～643：溝 29（171） 644・645：溝 30（177）
646・647：溝 32（170） 648・649：溝 33（162） 650・651：溝 31（233） 652～655：溝 34（54） 656～658：自然流路 10（176）

図 110 土坑 49～51、溝 29～34、自然流路 10 出土土器

端部は垂下させるものである。遺構の時期は、弥生時代中期末葉（Ⅳ様式末葉）と考えられる。

溝29(171)（図110）　調査区南（１－２区）、竪穴建物17の東で検出した溝である。溝30と重複し、溝29が後出する。遺構南側は調査区外へと延びる。検出長8.0ｍ、幅1.95ｍ、深さ0.2ｍを測り、逆Ｌ字状に屈曲して延びる溝である。方形周溝墓の可能性も考えられるが、全容は不明である。

遺物は、弥生土器広口壺（640）・鉢（641）・高杯（642）・台付鉢（643）が出土している。（640）は口縁端部上面に櫛歯刺突を巡らせ、肩部には櫛書直線文を施す。（641）は口縁部下に綾杉状の刺突を施すもので、生駒西麓産の搬入品である。（642）は椀形の杯部をもち、端部は内側に肥厚する。（643）は縦方向の突帯を５条貼り付けるもの。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）と考えられる。

溝32（170）（図110）　土器棺墓６と重複して検出した溝である。遺構の完掘は行わず上面の検出のみにとどめた。南北方向に流れ、検出長12.0ｍ、幅7.4ｍ、深さ0.4ｍを測る。遺物は、弥生土器鉢（646）・高杯（647）が出土している。（646）はくの字に外反する口縁部をもち、底部は突出する平底である。（647）は中空の脚部をもち、内面はナデによる柱状脚である。遺構の時期は、弥生時代後期前葉（Ｖ様式前葉）と考えられる。

溝34(54)（図110）　竪穴建物17の北西で検出した溝である。検出長5.55ｍ、幅0.75～1.6ｍ、深さ0.25ｍを測り、逆Ｌ字状に屈曲して伸びる溝である。方形周溝墓の可能性も考えられるが、全容は不明である。遺物は、弥生土器無頸壺（652）・小型壺（654・655）・甕（653）が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期後葉（Ｖ様式後葉）と考えられる。

第５節　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）の石器・石製品

１．西飯降Ⅱ遺跡（06－１区・06－２区）の石器・石製品（図111～114）

06－１区の包含層、遺構を中心として、石器・石製品が出土している。石器・石製品のほとんどは弥生時代中期のものである。

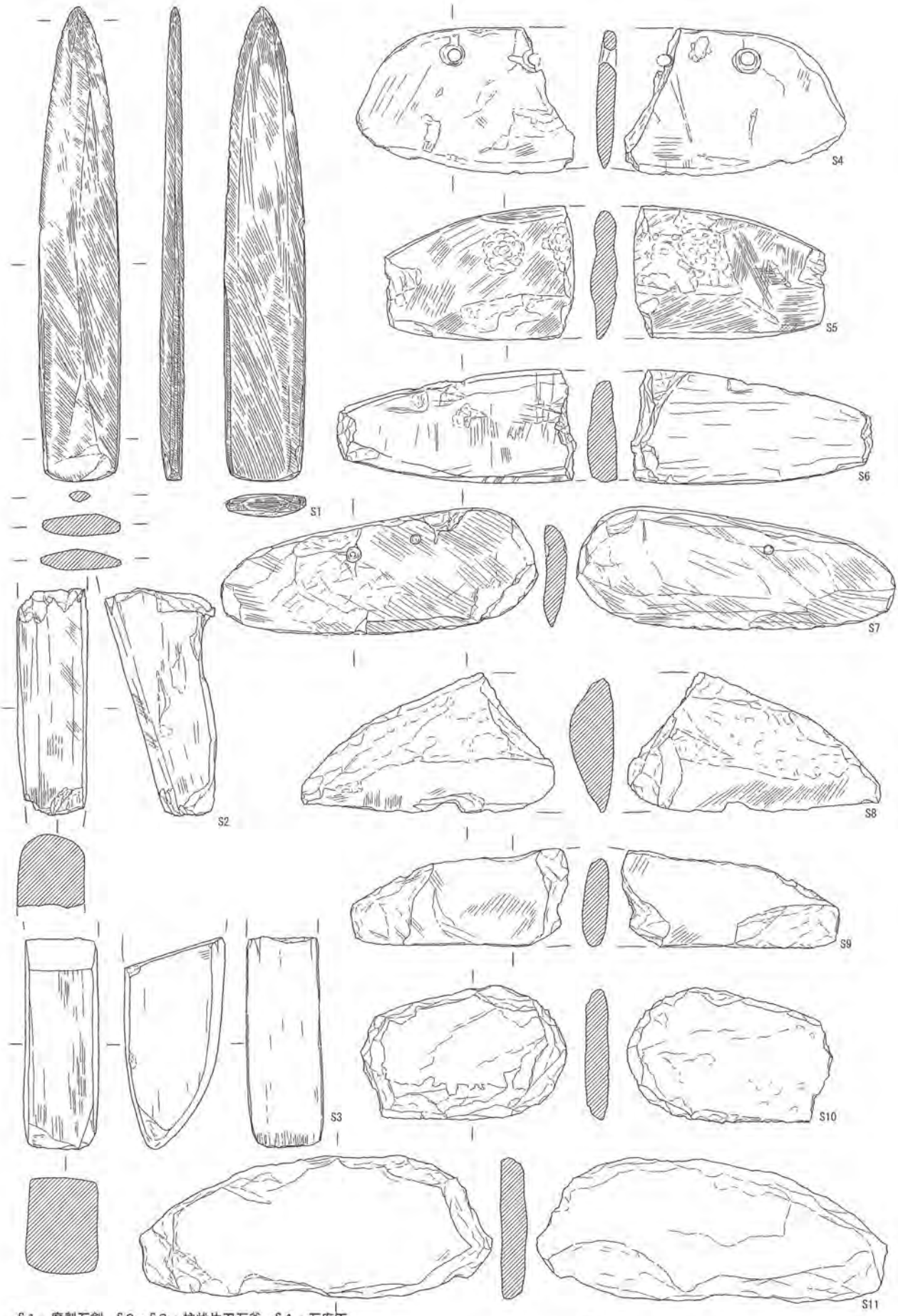
磨製石器は、磨製石剣（Ｓ１）、柱状片刃石斧（Ｓ２・Ｓ３）、石庖丁（Ｓ４）、石庖丁未製品（Ｓ５～Ｓ11）が出土している。

（Ｓ１）は磨製石剣で、松菊里系住居と考えられる竪穴建物12の２柱穴から出土している。明瞭な鎬をもたず、横断面は六角形を呈する磨製石剣である。刃部を中心に左右から斜め方向の研磨を行うが、研磨の方向は一定ではない。基部側面７㎝ほどに面を作り柄とする。刃部には刃こぼれと考えられる欠損が見られる。石材は黒色粘板岩である。寺前分類のＢ技法に分類され、大和盆地周辺に多く見られる（寺前1998）。

（Ｓ２）は断面台形を呈し、基部、刃部は欠損する。（Ｓ３）は断面長方形で、基部を欠損する。（Ｓ２・Ｓ３）ともに結晶片岩製で、石材は密で重い質感をもつ。

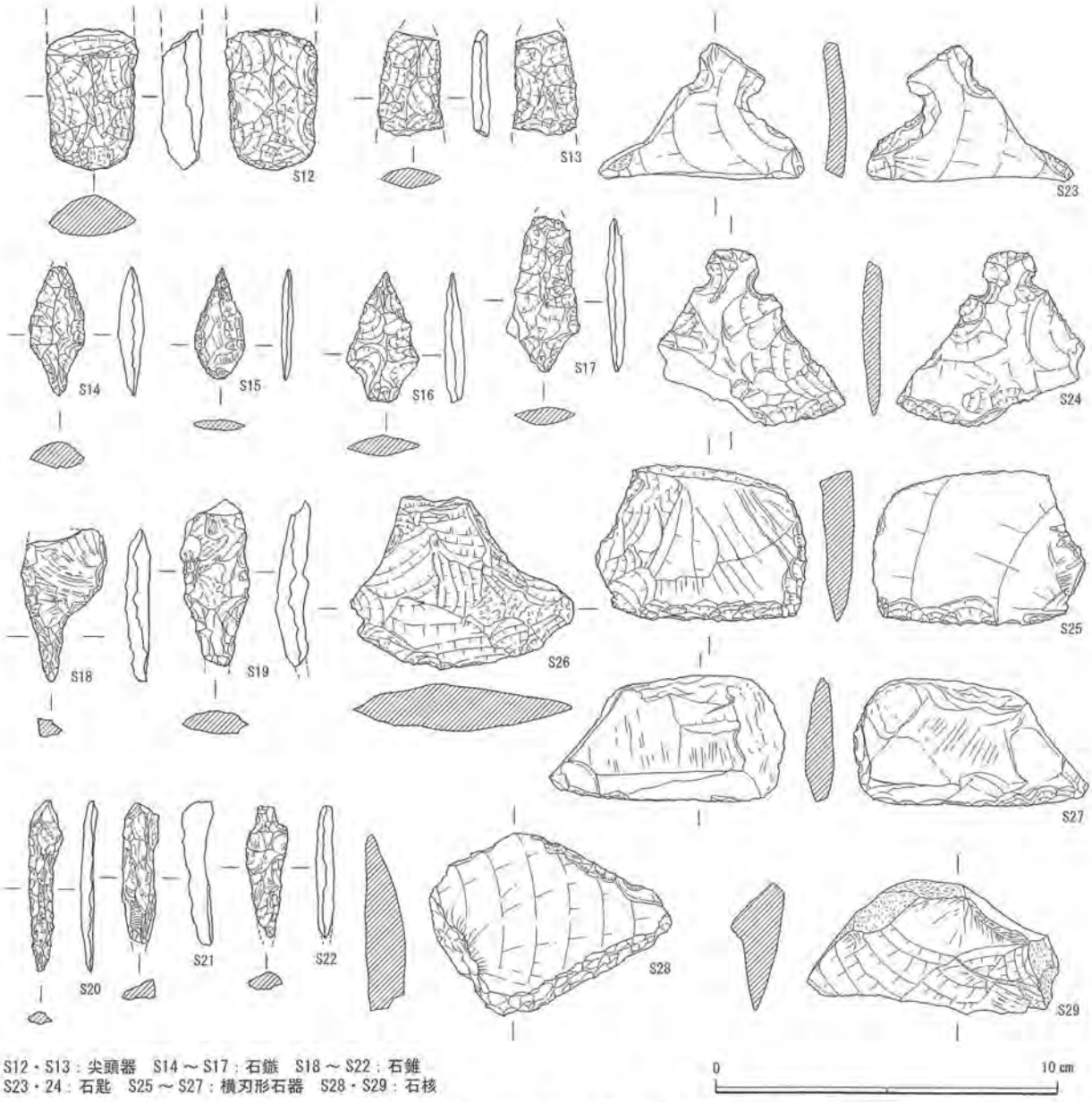
（Ｓ４～Ｓ９）はすべて結晶片岩製である。結晶片岩中には、長石が混じり不純物が多く、良好な石材とは言えない。（Ｓ４）は杏仁形を呈し、約３分の２を欠損する石庖丁の製品である。刃部には刃こぼれが見られる。（Ｓ５）は紐孔を穿孔する位置に敲打を行い、刃部はわずかに稜をもつ。（Ｓ６）は柱状片刃石斧欠損品を転用品か。（Ｓ７）は回転穿孔途中品であり、両面から穿孔を行う。刃部には刃付けが行われており、穿孔前に刃付けが行われたことを示す資料である。（Ｓ８）は側面に敲打痕が残る。（Ｓ９～Ｓ11）は粗割段階の原石、または未製品である。

打製石器は尖頭器（Ｓ12・Ｓ13）、石鏃（Ｓ14～Ｓ17）、石錐（Ｓ18～Ｓ22）、石匙（Ｓ23・



S1：磨製石剣　S2・S3：柱状片刃石斧　S4：石庖丁
S5～S11：石庖丁未製品

図 111　西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）出土石器・石製品 1



S12・S13：尖頭器　S14～S17：石鏃　S18～S22：石錐
S23・24：石匙　S25～S27：横刃形石器　S28・S29：石核

図112　西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）出土石器・石製品2

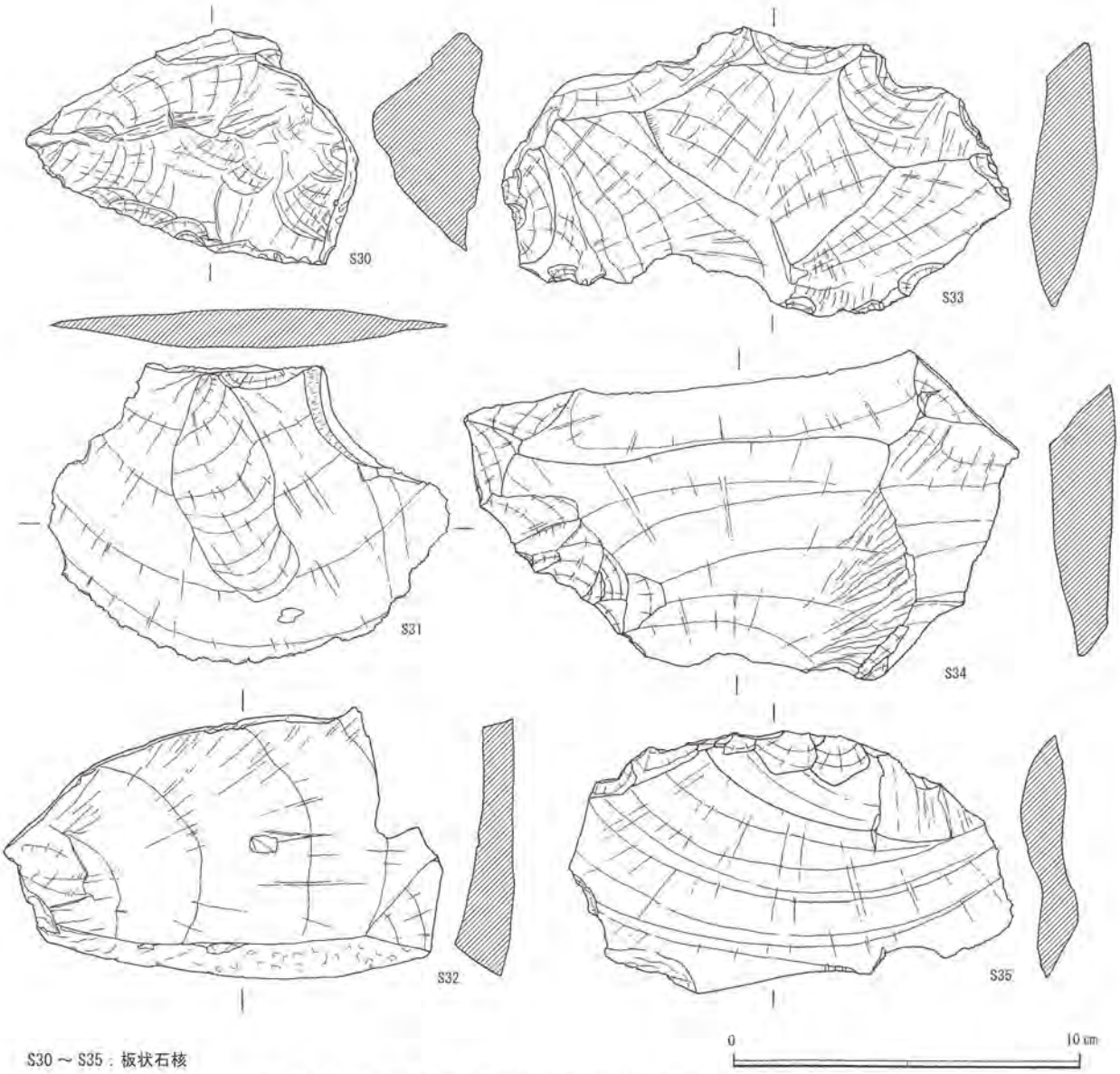
S 24)、横刃形石器または打製石庖丁（S 25～S 27）が出土している。石材はすべてサヌカイト製である。

（S 12）は中型の尖頭器で基部を丸く作り出すことから、打製石剣の基部とも考えられる。上半は欠損する。（S 13）は尖頭器の先端部分と考えられ、基部は欠損する。（S 14）は凸基Ⅱ式、（S 15）は凸基Ⅰ式、（S 16）は有茎式の石鏃である。（S 17）は先端を欠損し、有茎式の尖頭器の可能性も考えられる。

（S 18・S 19）は頭部を明確に作り出すもの。（S 20・S 21）は棒状で錐部のみのもの。（S 21）は先端を欠損する。（S 22）は錐部よりも細い、小型の頭部を作り出すものである。

（S 23）は石匙未製品と考えられ、刃部をもたない。（S 24）は刃部を欠損する。いずれも横長型である。（S 27）は研磨により刃部をもつ横刃形石器で、サヌカイト製石庖丁とも考えられる。

剥片・石核は石核または刃器（S 28・S 29）、板状石核（S 31～S 35）が出土している。その他、竪穴建物埋土や遺構上面からはサヌカイト剥片が出土している。石核・板状石核は蛍光X線による石材の原材産地分析を行い、すべて二上山産という結果が出ている。（S 30）は竪穴建



S30 ～ S35：板状石核

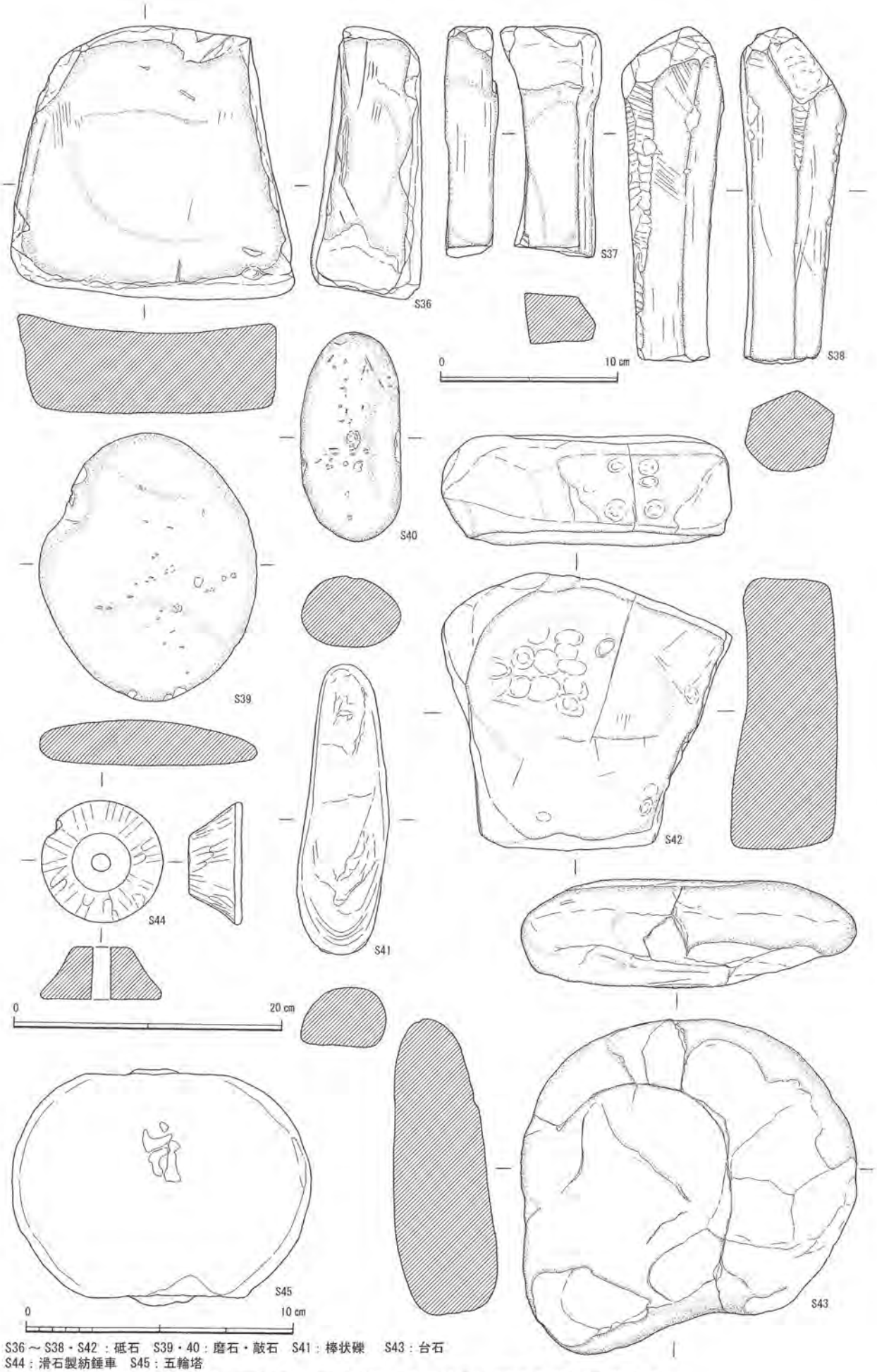
図 113　西飯降Ⅱ遺跡（06－１・２区）出土石器・石製品３

物 14 から出土している。

礫石器は砥石（S 36 ～ S 38）、磨石・敲石（S 39・S 40）、棒状礫（S 41）、砥石または台石（S 42）、台石（S 43）が出土している。（S 38）は平安時代前期、（S 41）は古墳時代前期、（S 43）は古墳時代後期の遺構に伴うものである。

（S 36 ～ S 38）はすべて砂岩製である。（S 37）は断面四角形の砥石で、長軸側面は全面に砥面が認められる。古墳時代以降のものと考えられる。（S 38）は断面六角形の砥石である。（S 40）は上端、平面中央に敲打痕をもつ。（S 42）は表面に円形の敲打痕がのこる。S 43 は焼失住居と考えられる竪穴建物１の南床面から出土している。焼失に伴い黒く焼け、被熱を受け表面の風化が著しい。

石製品は滑石製紡錘車（S 44）、五輪塔（S 45）が出土している。（S 44）は断面台形を呈し、外面は縦方向の研磨が見られる。中央には円孔を穿つものであり、器高は高い。古墳時代後期のものと考えられる。（S 45）は砂岩製の五輪塔の残欠である。中央に梵字「バン」が陰刻される水輪部分である。時期は室町時代以降のものと考えられる。



S36～S38・S42：砥石　S39・40：磨石・敲石　S41：棒状礫　S43：台石
S44：滑石製紡錘車　S45：五輪塔

図 114　西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）出土石器・石製品４

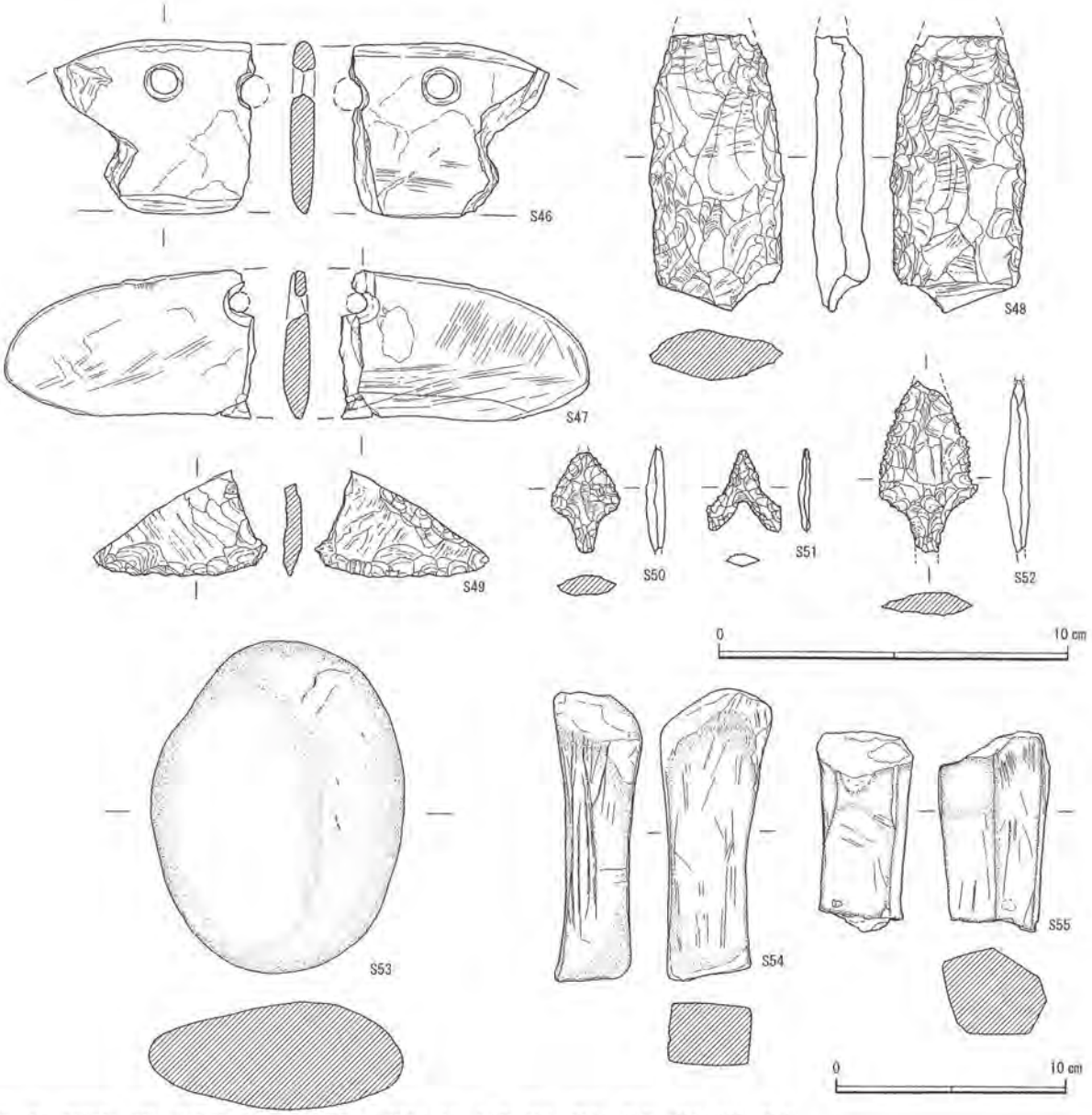
2．丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）の石器・石製品

包含層、遺構から石器が出土している。石器の出土量は西飯降Ⅱ遺跡に比べ少ない。そのほとんどが弥生時代中期のものと考えられる。

磨製石器は石庖丁（S 46・S 47）が出土している。ともに結晶片岩製であり、穿孔を行うことから製品と考えられる。2分の1程度を欠損する。未製品の出土は確認されていない。

打製石器は尖頭器（S 48）、横刃形石器（S 49）、石鏃（S 50～S 52）が出土している。いずれもサヌカイト製で弥生時代のものである。（S 48）は打製石剣と考えられ、中程で折れるが先端に近い部位である、先端は欠損する。（S 50）は有茎式、（S 51）は凹基式の石鏃である。（S 51）は竪穴建物18から出土している。（S 52）は大型の石鏃で、有茎の尖頭器とも考えられる。側縁は凹凸が明瞭に加工される。竪穴建物17から出土している。

礫石器は磨石・敲石（S 53）、砥石（S 54・S 55）が出土している。（S 54・S 55）は溝28からの出土し、古墳時代前期の遺構に伴うものである。（S 54）は断面四角形を呈し、全面に砥



S46・47：石庖丁　S48：尖頭器　S49：横刃形石器　S50～52：石鏃　S53：磨石・敲石　S54・S55：砥石

図115　丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）出土石器・石製品

面が認められる。部分的に細い溝状の痕跡が残る。（S 55）は断面五角形を呈し途中欠損する。共に砂岩製で、きめが細かく金属器用の砥石とみられる。

第６節　西飯降Ⅱ遺跡（第１次調査）の木製品

西飯降Ⅱ遺跡の自然流路２、自然流路６から木製品が出土している。以下、器種ごとにその特徴を概観する。

（Ｗ１）は下駄で、自然流路６から出土した。自然流路埋土の最下層で、数本の流木と木製品と共にまとまって出土した。片方のみの出土である。長さ 23.0 ㎝、幅 10 ㎝、高さ５㎝を測る。

下駄は台と歯を削り出して作る連歯式である。側面から見た場合、前歯・奥歯ともに、外側は垂直に終わるが、内側は「ハ」の字に開く。正面立面から見ると奥歯は台板より幅が広く下端が開く形態をもつ。木材は、コウヤマキの柾目材である。右足用と考えられ、前壺（緒孔）の位置が内側にとりつき、古墳時代から飛鳥時代にかけての下駄の特徴をよく残す。和歌山県内出土の下駄では最も古く、祭祀で使われた特別な履物であったと考えられる。

（Ｗ２・Ｗ３）は木杭である。板材の先端を山形に切り出す。（Ｗ２）は自然流路２からの出土。堰の部材として用いられていた。（Ｗ３）は自然流路６からの出土している。

（Ｗ４）は田下駄で、自然流路６から出土した。枠型（オオアシ）に分類され、足板を取り付ける枠の縦木に当たる。両端は横枠をはめ込むためにＵ字形に削り出される。長さ 83.5 ㎝、幅８㎝、厚さ５㎝を測る。側面には横木をはめる為の方形の枘穴を８つあける。コウヤマキ製である。

（Ｗ５～Ｗ７）は木杭である。自然流路６から出土した。自然流路の堰に用いられた木杭のうち、特徴的なものをサンプリングして図化した。（Ｗ５・Ｗ６）は板材の先端を切り出すものである。（Ｗ７）は断面円形の棒状のものである。

（Ｗ８）は、板状の部材で、直径 10 ～ 20 ㎝大の枘穴をもつものである。自然流路６から（Ｗ１）と共に出土している。長さ 216 ㎝、幅 20 ㎝、厚さ４～６㎝を測る。その大きさから建築部材と考えられる。

（Ｗ９・Ｗ 10）は木樋の樋身である。自然流路２（5327）の堰のほぼ中央に据え付けられる。（Ｗ９）の直上で（Ｗ１０）が出土しており、木桶が再度付け替えられたかと考えられる。（Ｗ９）は断面方形に刳り抜き樋身とするもので、腐食が進行している。長さ 226 ㎝、幅 24 ㎝、厚さ 16 ㎝を測る。（Ｗ 10）は木の外周を利用し円弧状に刳り抜いた樋身である。長さ 268 ㎝、幅 26 ㎝、厚さ８㎝を測る。

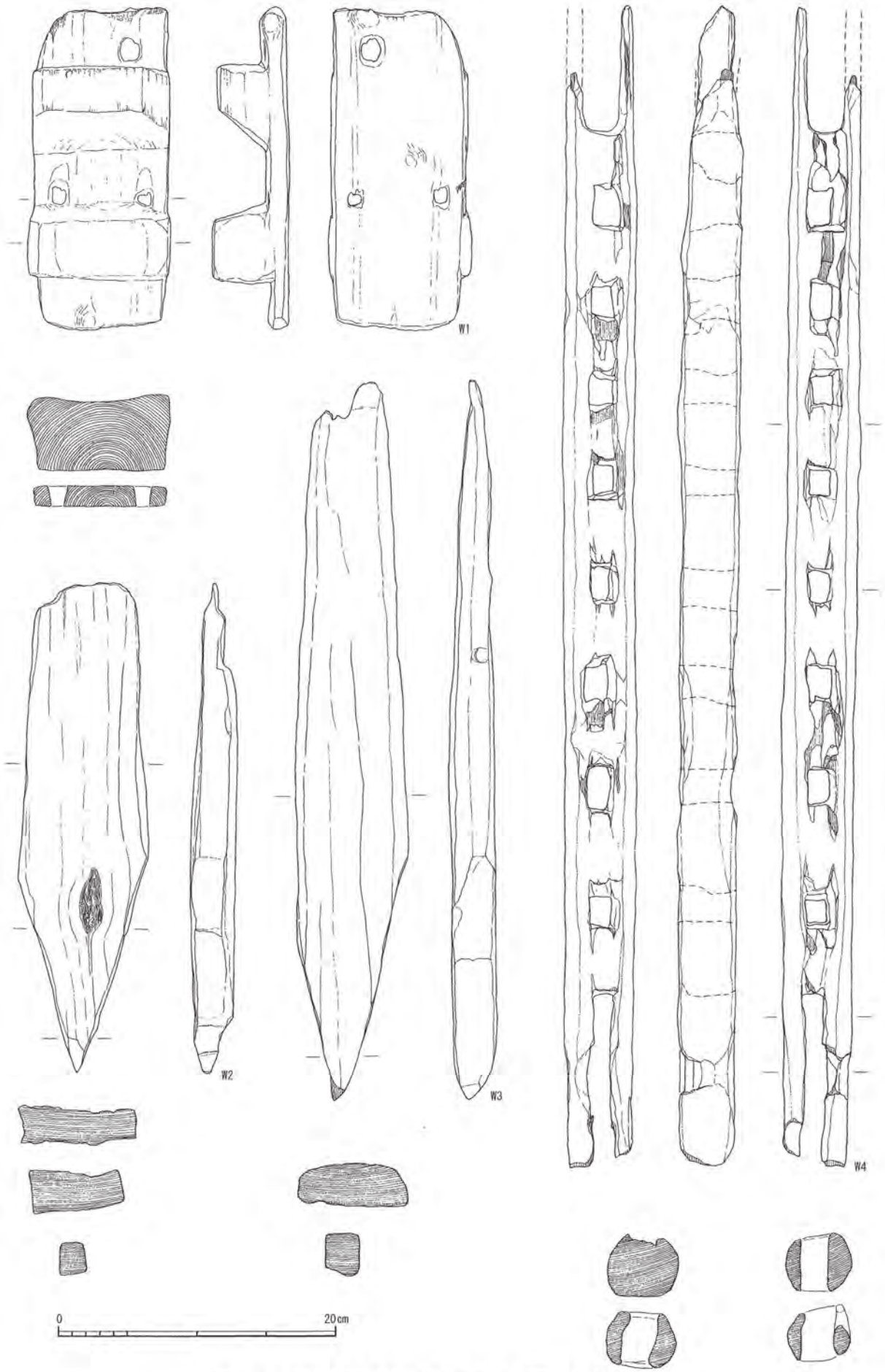


図 116　西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）出土木製品 1

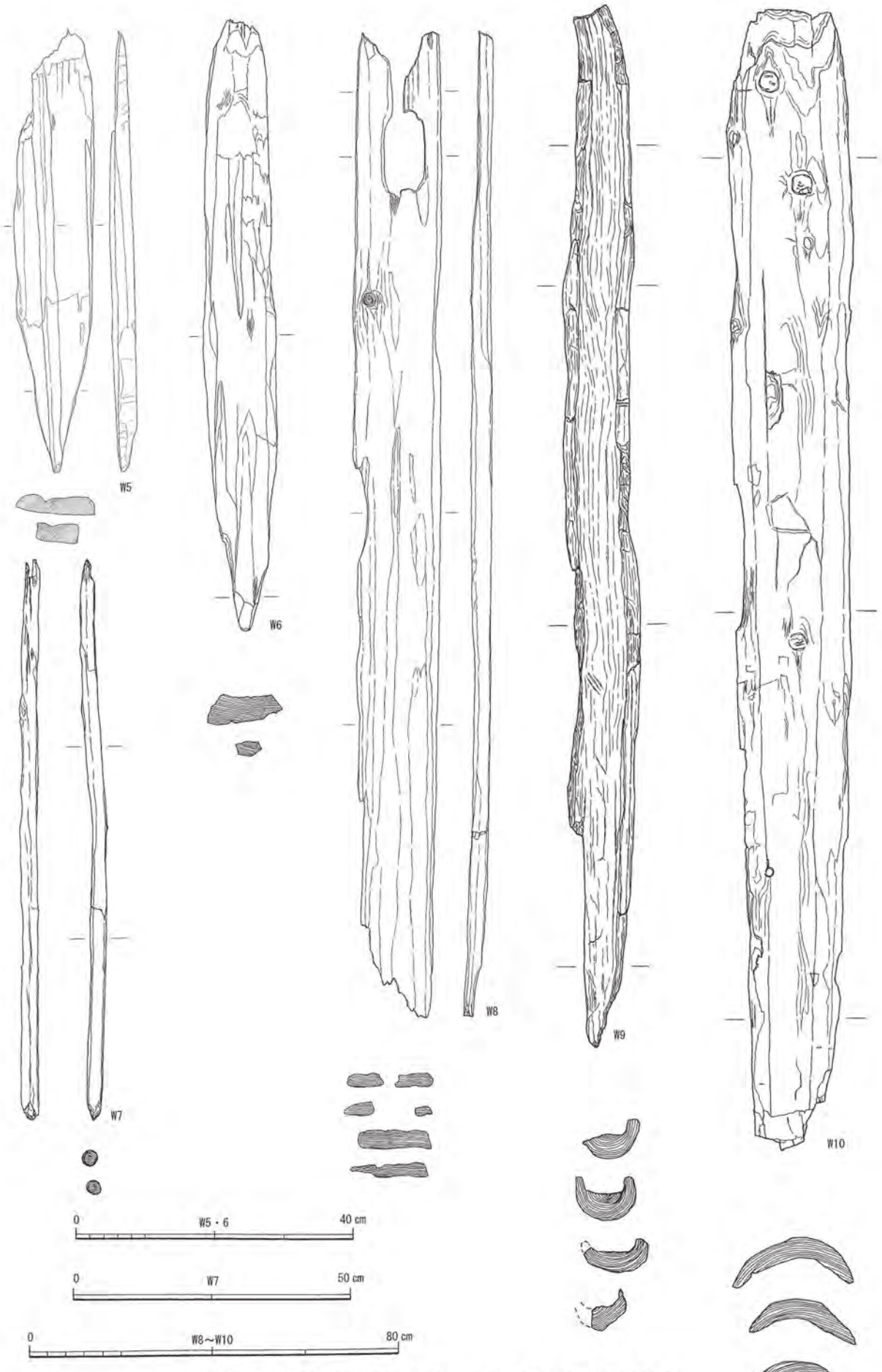


図 117　西飯降Ⅱ遺跡（06－１・２区）出土木製品２

第５章　第２次調査の成果　丁ノ町・妙寺遺跡（07－13・27）

第１節　基本層序と遺構面

第２次調査の調査区は東西に長く、調査区東端と西端には開析谷と、谷に沿うように延びる微高地が形成され、調査区中央は窪地状のやや低い地形を呈している。そのため土層の堆積状況が東西の調査区で大きく異なり、特に第４層以下は東西の調査区で対応しない。

そこで、基本層序は、調査区西側の微高地上から調査区中央部の低地に位置する07－１区・07－２区と、調査地東側の微高地から調査区東端の谷地形に位置するに07－３区・07－４区に分けて記述する。

１．丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区・07－２区）

丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区）は１－１区トレンチ北壁土層断面図、丁ノ町・妙寺遺跡（07－２区）07－２区は２－１区トレンチ東壁土層断面図を代表させる。07－１区・07－２区ともに地形は南北に傾斜し、傾斜面を切土・盛土により雛壇状に造成している。造成の時期は、造成直後に堆積した遺物包含層出土の遺物から室町時代（14世紀）以降と考えられる。以下、基本層序を述べる（図118・図119）。

第１層　現代・近世の水田耕作土および、果樹園造成時に搬入された客土である。

第２層　現代・近世の水田床土、あるいは整地層である。

第３層　中世の耕作土で、2.5Ｙ黄灰色系のシルトないしは細砂層がほぼ水平に堆積する。07－１区中央では50㎝と厚く堆積し、07－１区西側および07－２区東側では20㎝と薄く堆積する。調査区全域にわたって認められる堆積層である。07－２区の南北断面からは、雛段状に造成された後に堆積することがわかる。遺物量は少ないながら、土師器、瓦器、輸入陶磁器が出土してお

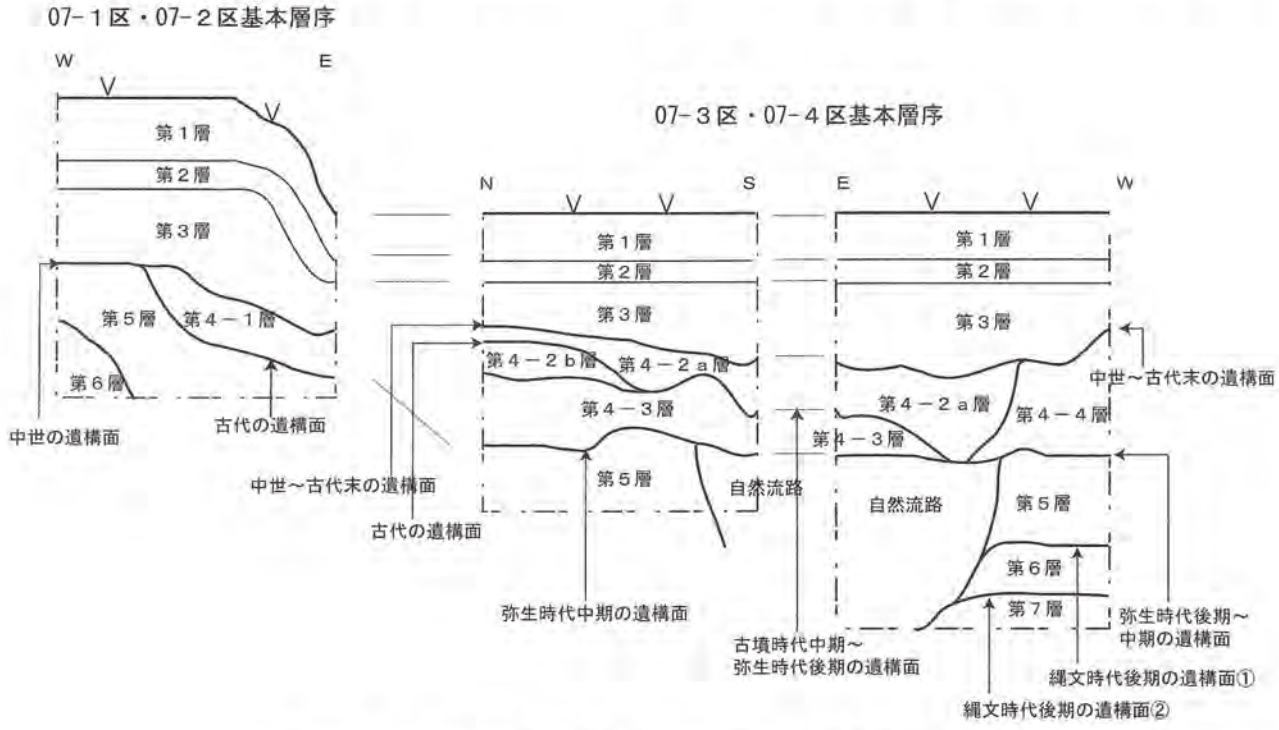


図118　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）　基本層序模式図

り、室町時代（14 世紀）以降に堆積したものと考えられる。07－１区・07－２区の多くの場所では第３層下で遺構面を形成する。

第４－１層　第４－１層は、07－１区南の最も地形が低い平坦地付近に存在する。西に向かって緩やかな傾斜を持ち、西側では中世段階の造成により失われている。10ＹＲ褐灰色系のシルトないし細砂層であり、炭化物を含む。遺物は土師器、須恵器等を含み、古代（９世紀後半）以降に堆積したものと見られる。１－１区・１－２・３区では第４－１層下面で古代の遺構面を形成する。

第５層　古代以前の堆積層である。2.5Ｙ明黄褐色系の細砂層で上面には鉄分を顕著に含む。07－１区・07－２区のほとんどの場所では第３層下面に、第４－１層が残存する箇所では第４－１層下面に存在し、中世・古代の遺構の基盤層となる。遺物の出土は皆無で、堆積の明確な時期は不明である。２－１区では一部、第５層下面で縄文時代の遺構を検出している。

第６層　07－２区北東側の丘陵端では、一部、第６層が堆積する。10ＹＲ黒褐色系の細砂層で粘性が強い。縄文時代の遺構の基盤層となる。遺物の出土は認められず、地山と認識している。

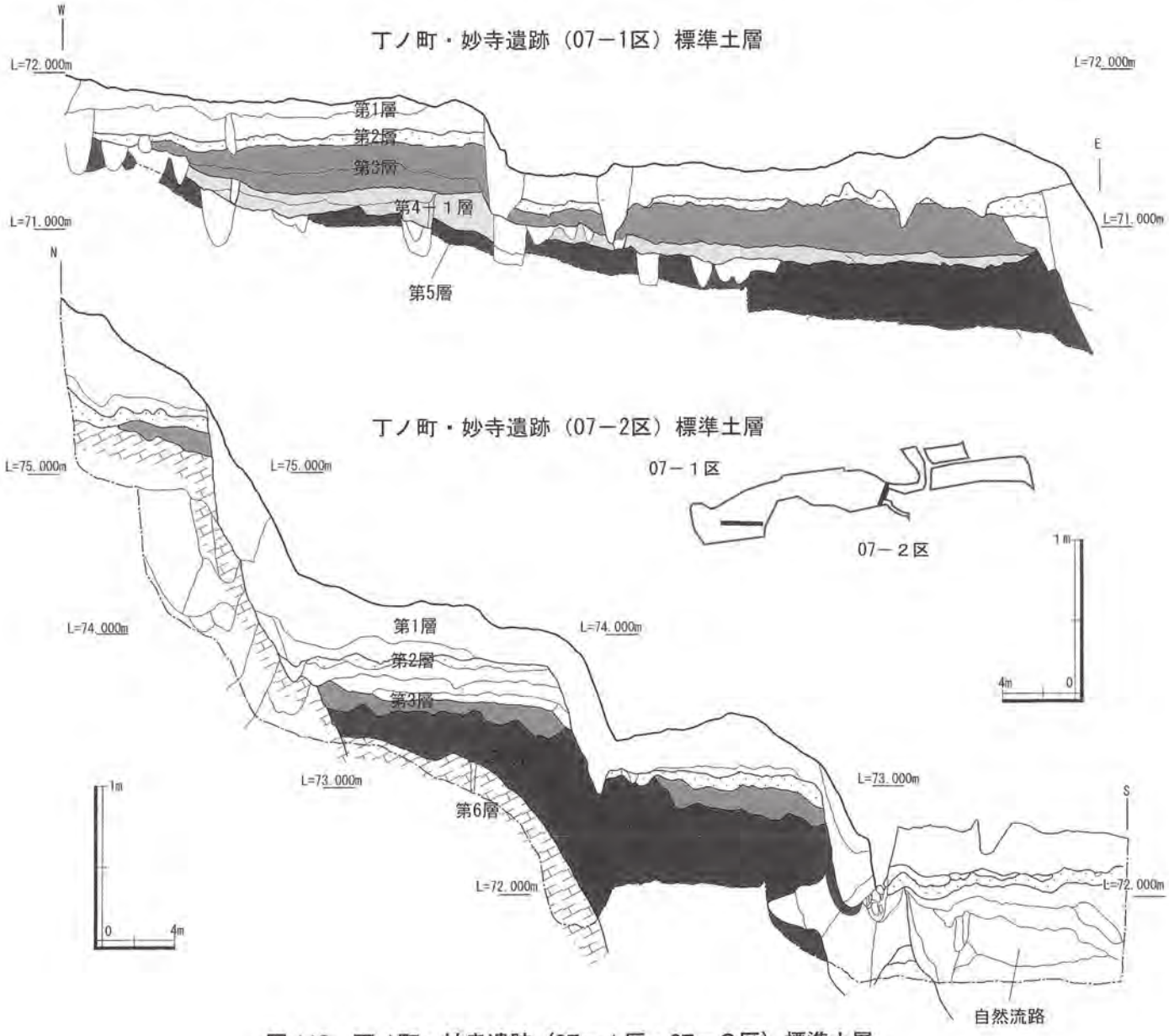


図 119　丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区・07－２区）標準土層

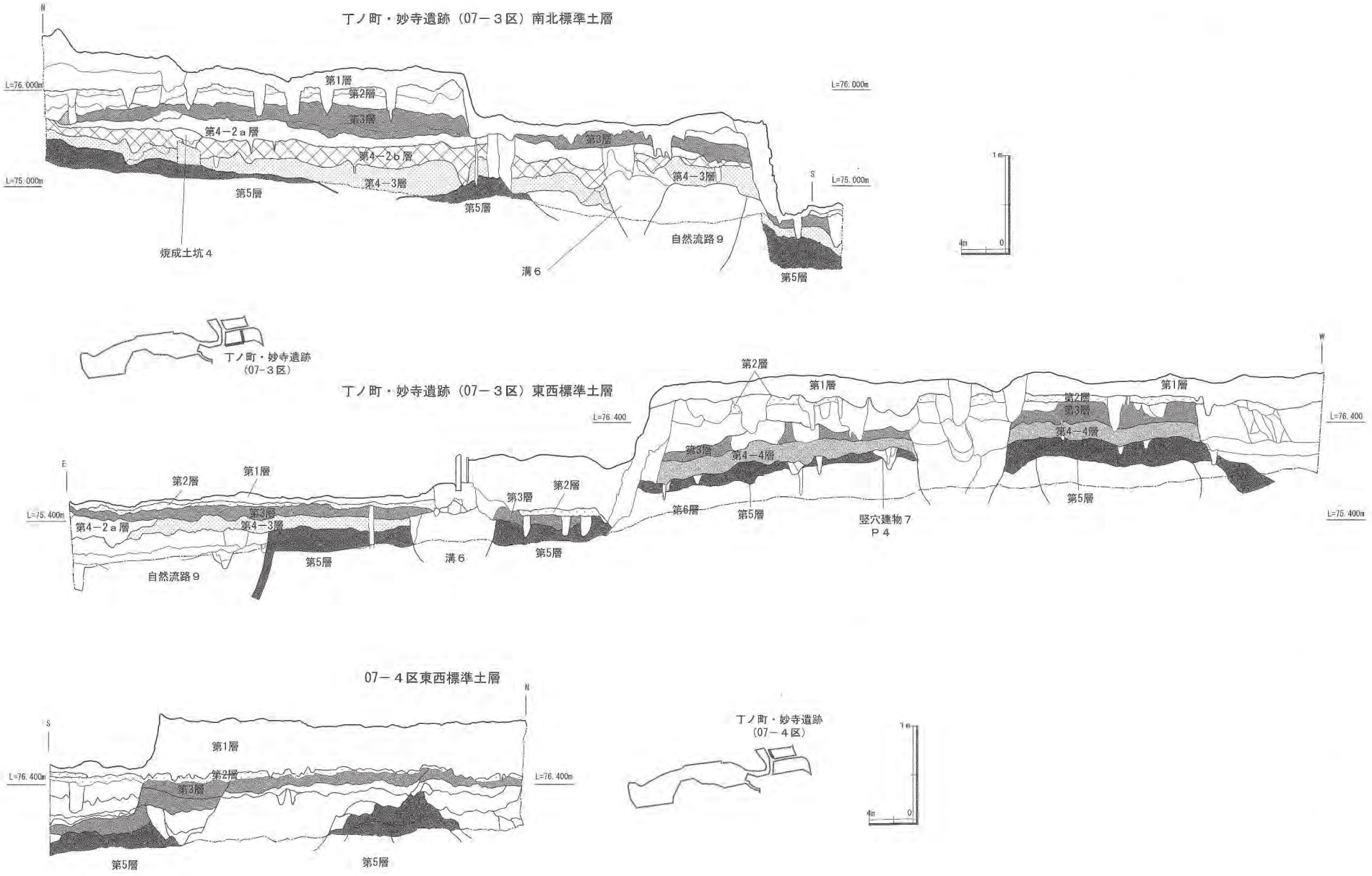


図 120　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区・07－４区）標準土層

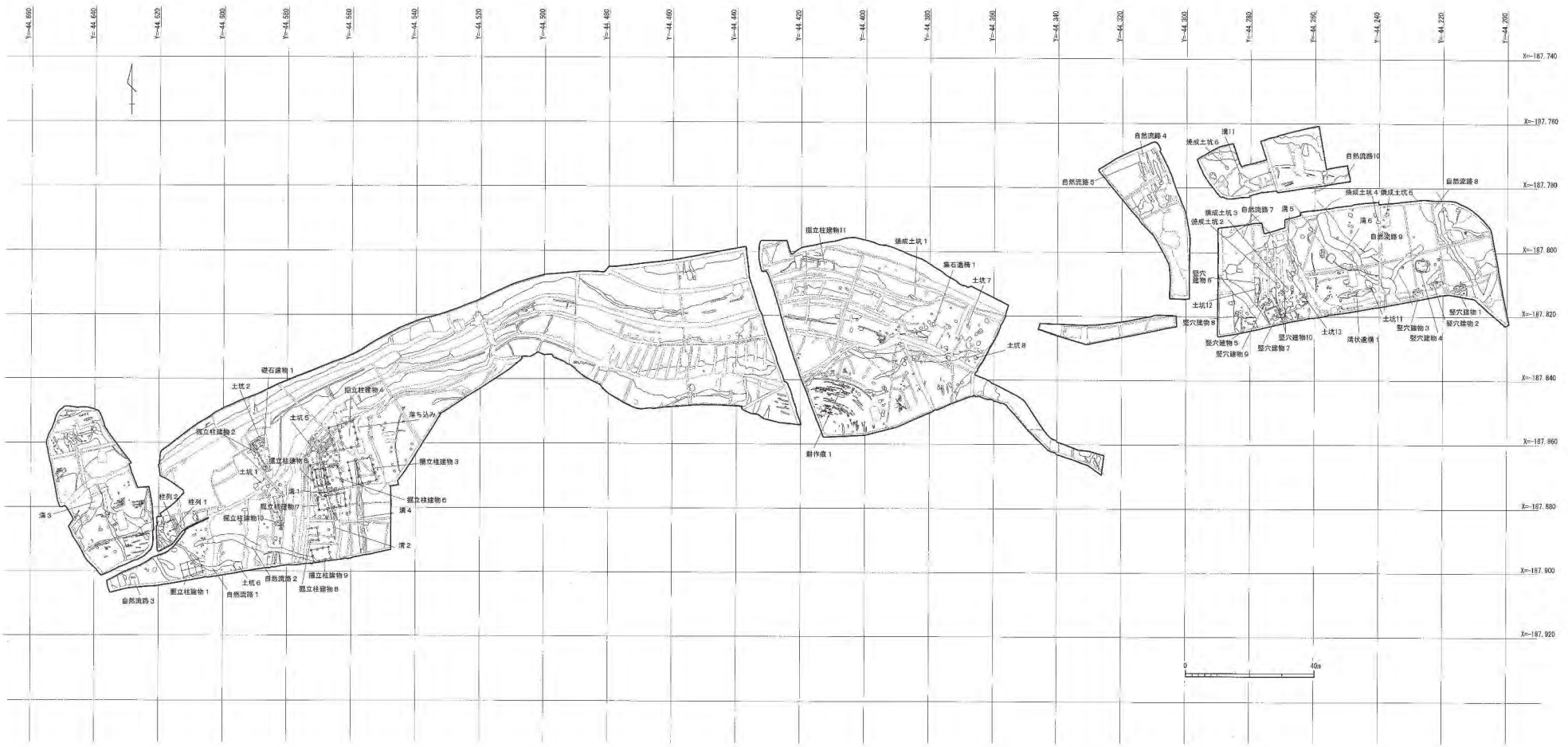


図121　丁ノ町・妙寺遺跡（第2次調査）　全体図（S=1/1000）

2．丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区・07－4区）

丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）は、3－1区トレンチ南壁、東壁土層断面図、丁ノ町・妙寺遺跡（07－4区）は4－2区トレンチ西壁土層断面図を代表させる。07－4区から07－3区へかけては北方向から南方向へ緩やかな傾斜があり、地形の高い07－4区では中世の造成と近現代の撹乱により削平が著しい。一方、07－3区南側を中心に、古墳時代から古代の遺物包含層、弥生時代の遺物包含層、縄文時代の遺物包含層が良好に残存しており、複数の遺構面が重複している。基本層序は以下の通りである（図120）。

第1層　現代・近世の水田耕作土および、宅地造成時に搬入された客土である。

第2層　現代・近世の水田床土、あるいは整地層である。

第3層　中世の耕作土で、2.5Y黄灰色系のシルトないしは細砂層が造成段上に水平に堆積する。調査区全域にわたって認められる堆積層である。遺物量は少ないが、土師器、瓦器が出土しており、室町時代（14世紀）以降に堆積したものと考えられる。第3層下面で中世の遺構面を形成する。

第4－2a層　2.5Y浅黄色系～明黄褐色系の細砂層で砂粒はやや粗い。07－3区中央から東半部にかけて堆積する。遺物はほとんど含まないが、古墳時代後期以降に堆積したと考えられる。4－2a層下面で古墳時代後期から古代の遺構面を形成する。

第4－2b層　2.5Y黄褐色系の細砂層で黄褐色・灰色系のシルトブロックを含み、しまりがない。07－3区中央から東半部に堆積し、古代から古墳時代後期の遺構の基盤層となる。遺物量は少ないが土師器、須恵器、弥生土器を包含しており、第4－2b層下面で弥生時代後期から古墳時代中期の遺構面を形成する。なお、調査では第4－2a層下面の遺構面についても第4－2b層下面において同一面で検出した。

第4－3層　10YR明黄褐色系の細砂～中砂層で灰色系のシルトブロックを含み、下層弥生時代流路に伴う水性堆積の土壌化層と見られる。07－3区中央から東半部にかけて堆積し、弥生時代後期から古墳時代中期の遺構の基盤層となる。弥生土器、土師器、須恵器を包含し、第4－3層下面で弥生時代中期の遺構面を形成する。

第4－4層　2.5Y黒褐色～褐色系の細砂層で風化礫を含む。07－3区西半にのみ残存し、第3層下面の遺構面である中世から古代の基盤層となる。おそらく07－3区西半は小高い微高地上に位置していたため、同じ第4層でも異なる堆積状況を示していると思われる。第4－4層下面では弥生時代中期から弥生時代後期の遺構面を形成する。

第5層　10YR明黄褐色系と灰白色系の細砂層で07－3区中央から東半部にかけては第4－3層下面、07－3区西半では第4－4層下面、4区では第3層下面に存在する。07－3区中央から東半部では弥生時代中期の遺構の基盤層となり、それ以前は複数の自然流路が南北に貫流する。07－3区西半では弥生時代中期から弥生時代後期の遺構の基盤層となり、第5層下面で縄文時代後期から晩期の遺構面を形成する。一方、07－4区では中世段階の造成により第4層および第5層上面が削平をうけ、その後、第5層上面に古代から中世の遺構面が形成されている。07－3区西半では縄文土器・石器を多量に包含するが、その他の調査区では遺物の出土は皆無である。

第6層　2.5Yにぶい黄色系の細砂層でマンガン粒を多く含み、層厚は20cmと薄く堆積する。07－3区西半のみで確認され、第5層下面の縄文時代の遺構の基盤層となる。縄文土器・石器を多く包含し、第6層下面では縄文時代中期から縄文時代後期の遺構面を形成する。

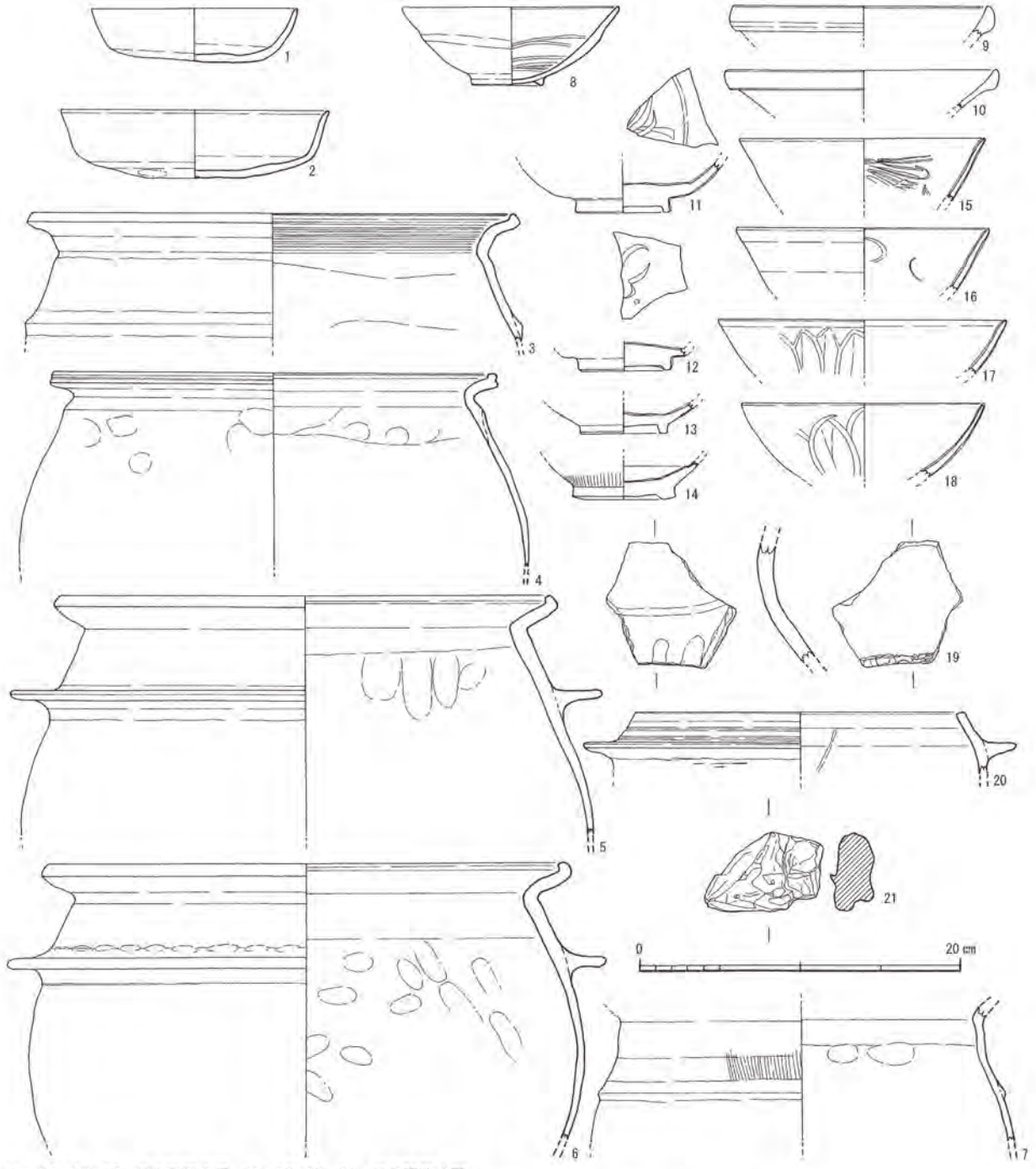
第7層　2.5Y明黄褐色系の細砂層で風化礫を含む。07－3区西半のみで確認され、第6層下面の縄文時代中期から縄文時代後期の遺構の基盤層となる。第7層以下、遺物の出土は皆無であり、07－3区・07－4区の地山と認識している。

第２節　丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区）の調査成果

１．調査区の概要

丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区）は、第２次調査地の最も西に位置する調査区である。調査地北側の中位段丘から低位段丘Ⅱ面へと移行する緩斜面上に位置し、斜面は切土、盛土により雛段状に造成されている。造成段は最も高い位置から計８段を数え、近世以降に暗渠排水溝が掘削される。造成の時期については、造成段上に堆積した耕作土である第３層の時期から、室町時代（14世紀）以降であり、この段階にほぼ現在の地形が形成されたと考えられる。

遺構検出は第３層下面で行い、第４－１層が残存する範囲では第３層下面の遺構面についても第４－１層下面で行った。



1～14・16・17：包含層第３層　15・18・19・21：包含層第４層

図 122　包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 07－１区）出土土器・土製品

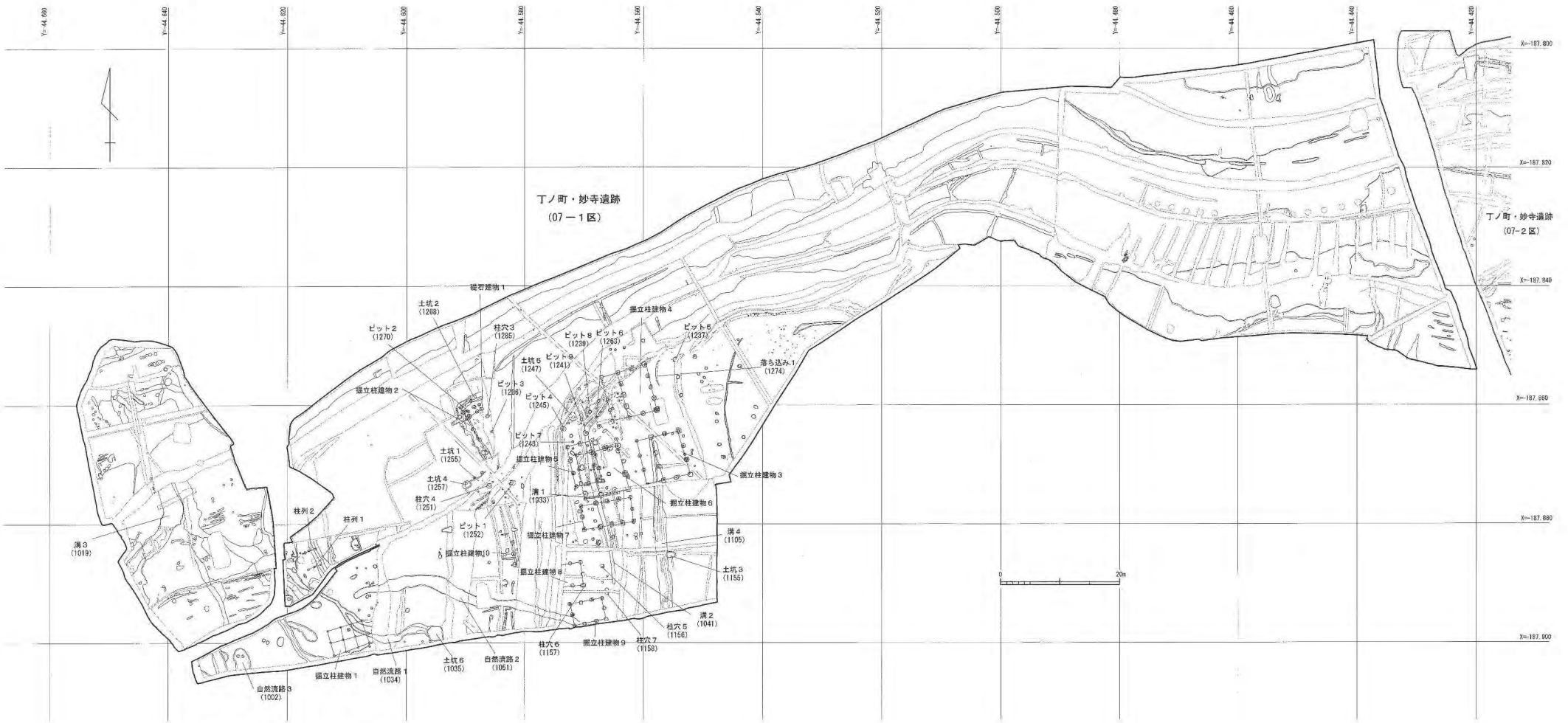


図123　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1区）　全体図（S=1/500）

調査区東半は、後世の造成による削平や、抜根痕により遺構面の遺存状況は悪く、中世の耕作痕、溝を検出したに過ぎない。また、遺物包含層からの遺物の出土も極めて少なく、中世段階には農地として利用されていたとみられる。一方、調査区西半では、第３層下面で鎌倉時代（12 世紀～14 世紀）の掘立柱建物２棟、礎石建物１棟、柱列、土坑、ピット、耕作痕である鋤溝や溝跡を検出している。

また、調査区南に位置する最も地形の低い範囲では、古代の遺物包含層である第４－１層が残存している。第４－１層下面では平安時代前期を中心とする掘立柱建物８棟、柱穴、土坑、ピット、落ち込み等を検出した。

２．中世の遺構と遺物

掘立柱建物１（図 124） 07－１区南西（１－１区）で検出した掘立柱建物である。自然流路１と重複し、掘立柱建物１が後出する。桁行３間、梁行２間の柱配置をもつ総柱建物に復元され、建物の規模は芯々距離で南北 4.1 m、東西 6.4 m、柱間間隔は約 2.0 m等間、床面積約 26.2 ㎡を測る。主軸はN－16°－Wで西偏し、東西棟となる。柱穴掘形は円形で直径 0.2～0.35 m、深さ 0.15～0.4 mを測る。Ｐ２、Ｐ３の位置が外側へ広がるため、南側と東側の柱列はやや傾く。一部の柱穴掘形には、掘形底面に根石とみられる直径 10～15 cmの扁平な亜角礫を据える。

遺物は、柱穴掘形から土師器、瓦器が出土しているがいずれも細片である。遺構の時期は、鎌倉時代（13 世紀～14 世紀）と考えられる。

掘立柱建物２（図 125 ～図 130） 07－１区西半部（１－２・３区）の造成段上で検出した掘立柱建物である。建物西側柱筋と並行して溝を検出しており、柱穴掘形はこの溝の底面で検出した。

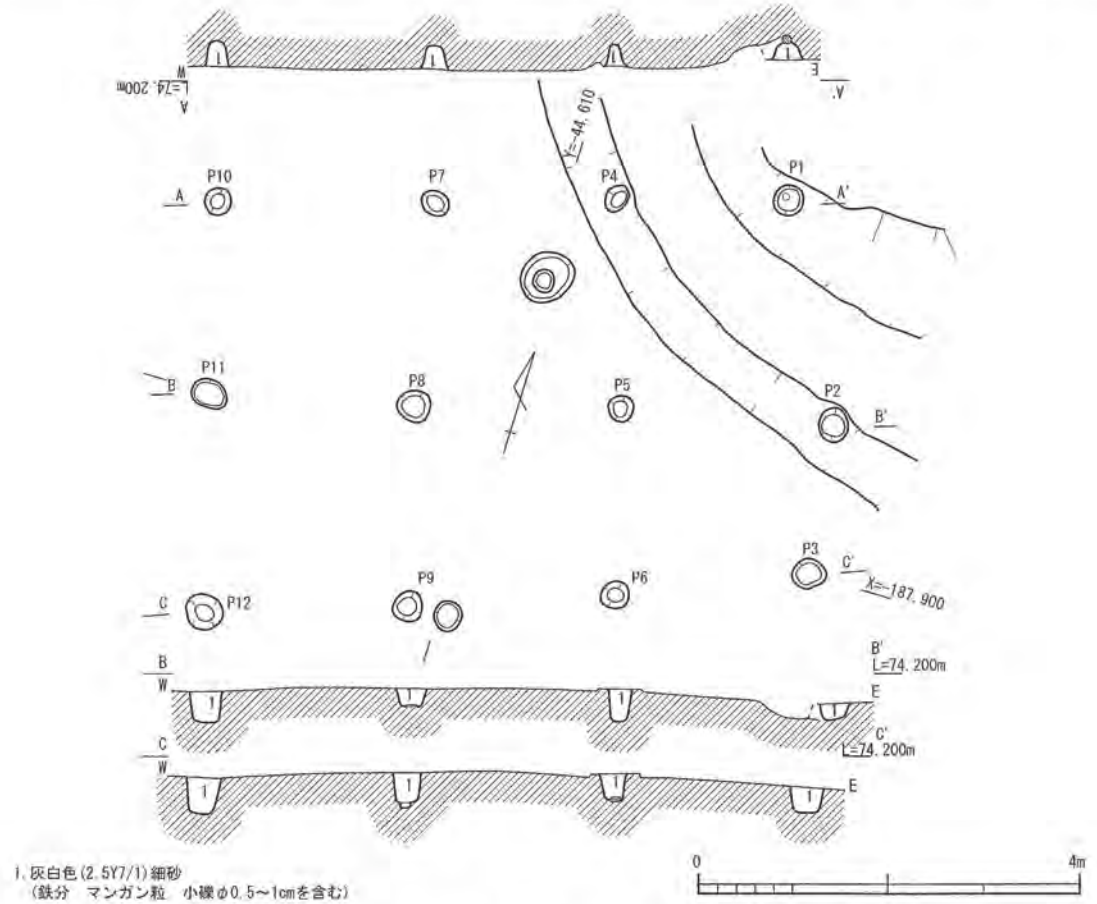


図 124　掘立柱建物１平面図・断面図　(S=1/80)

両者の切り合い関係と、溝と柱筋の方向が対応することから、溝は掘立柱建物に伴う布掘溝であると考えられる。この他、礎石建物１、土坑２と複雑に重複し、礎石建物１、土坑２が後出する。

建物東側と南は近代の暗渠排水溝と中世段階の造成によって削平されているが、溝が北西隅で折れ曲がることから、建物はさらに東側に広がるものと思われる。現状では桁行５間以上、梁行２間以上の柱配置をもつ。建物の規模は芯々距離で南北8.6ｍ以上、東西2.1ｍ以上を測る。柱間間隔は約2.1ｍ（７尺）等間である。主軸はＮ－30°－Ｗで西偏し、南北棟となる。

柱穴掘形は円形で直径0.3～0.65ｍ、深さ0.25～0.5ｍを測る。いずれの柱穴掘形にも掘形底面に根石とみられる直径10～15㎝の亜円礫を据える。

布掘溝は幅約1.5ｍ、深さ0.4ｍを測る。埋土はにぶい黄褐色細砂～灰黄褐色細砂と炭化物・土器片を多量に含む黒褐色細砂が互層に堆積する。土層断面の観察から、溝は複数回の切合いが認められ、再掘削されたことがわかる。最も新しい溝は幅約0.8ｍである。溝の肩部には直径10～30㎝大の亜角礫～亜円礫が敷き詰められる。布掘溝のＰ４南側には土師器、鉄製品が集中して出土した。

また、布掘溝より東側の建物床面に当たる範囲では、各層上面に焼土、炭化物を伴う整地層が認められた。整地に当たり、地山面まで一端掘り下げたのち、厚さ60㎝程の盛土整地を行う。整地層は、風化礫を含むにぶい黄褐色～灰黄褐色細砂からなる整地土を、厚さ10㎝程度で交互に敷き詰める。

遺物は、上面を覆う炭化物層、布掘溝、柱穴掘形埋土から出土した。布掘溝の遺物の取り上げは、上面を覆う炭化物層～布掘溝上層の一部を１層、布掘溝上層を２層、布掘溝中層を３層、布掘溝下層を４層として取り上げている。

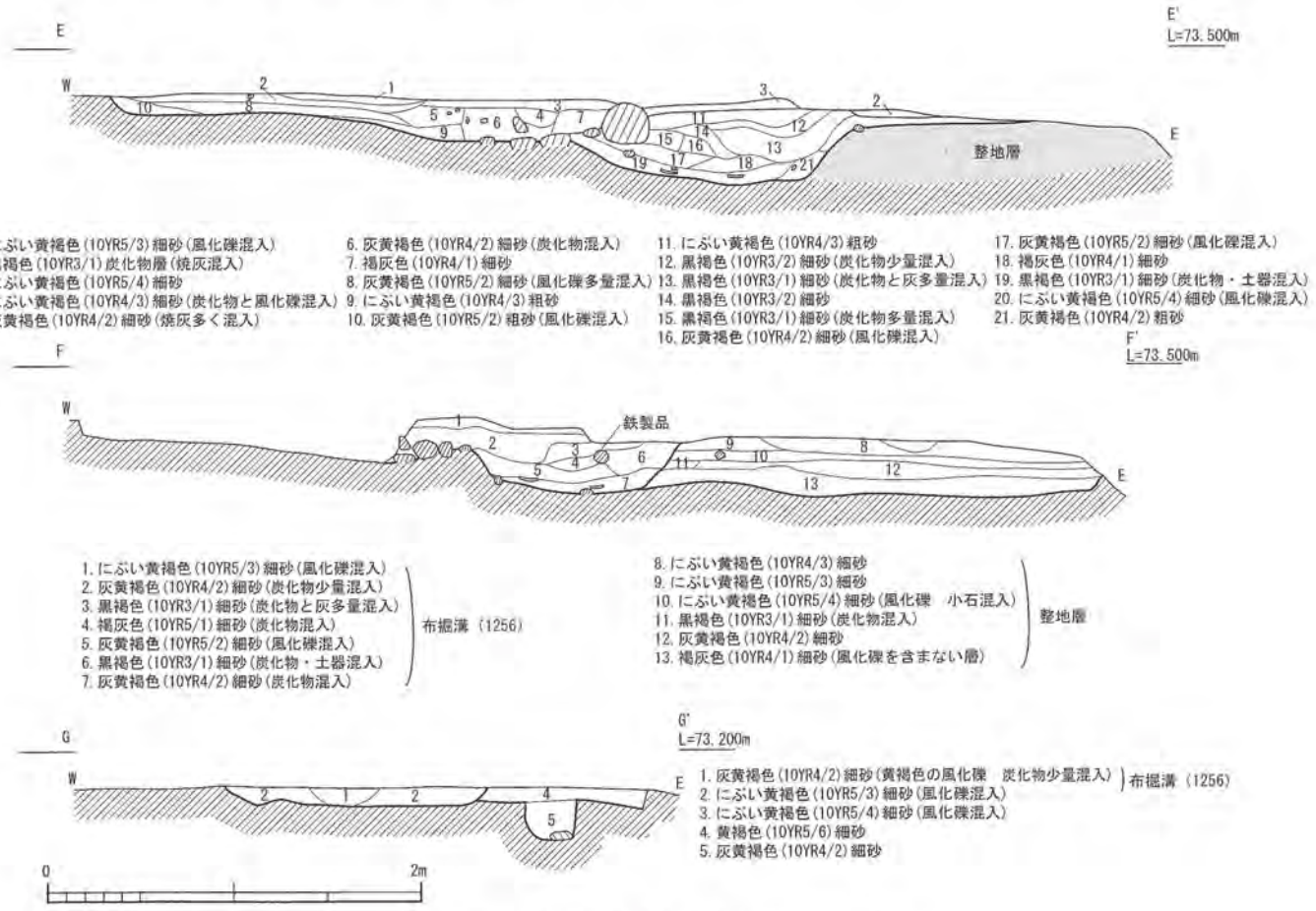


図125　掘立柱建物２断面図　(S=1/40)

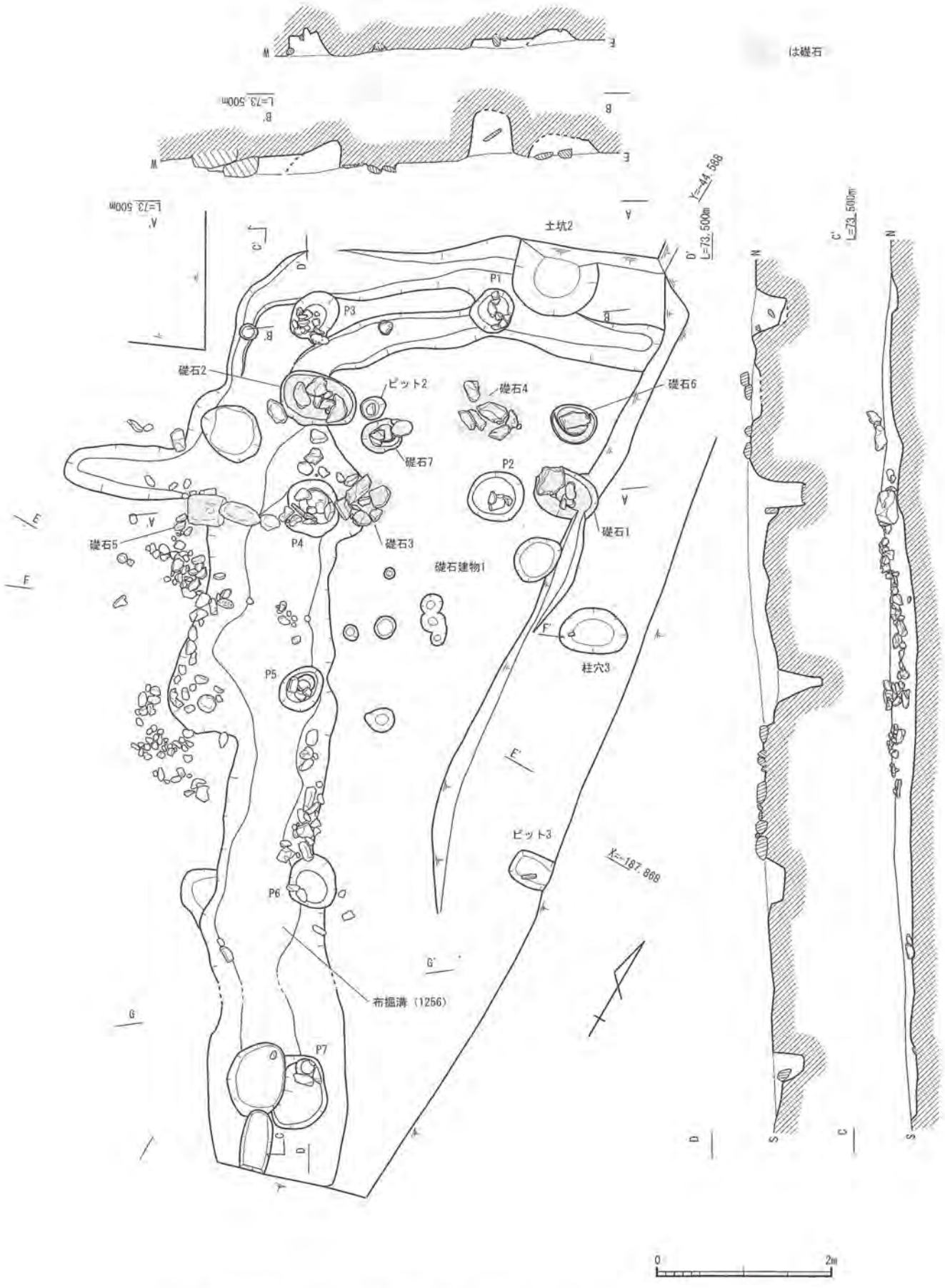
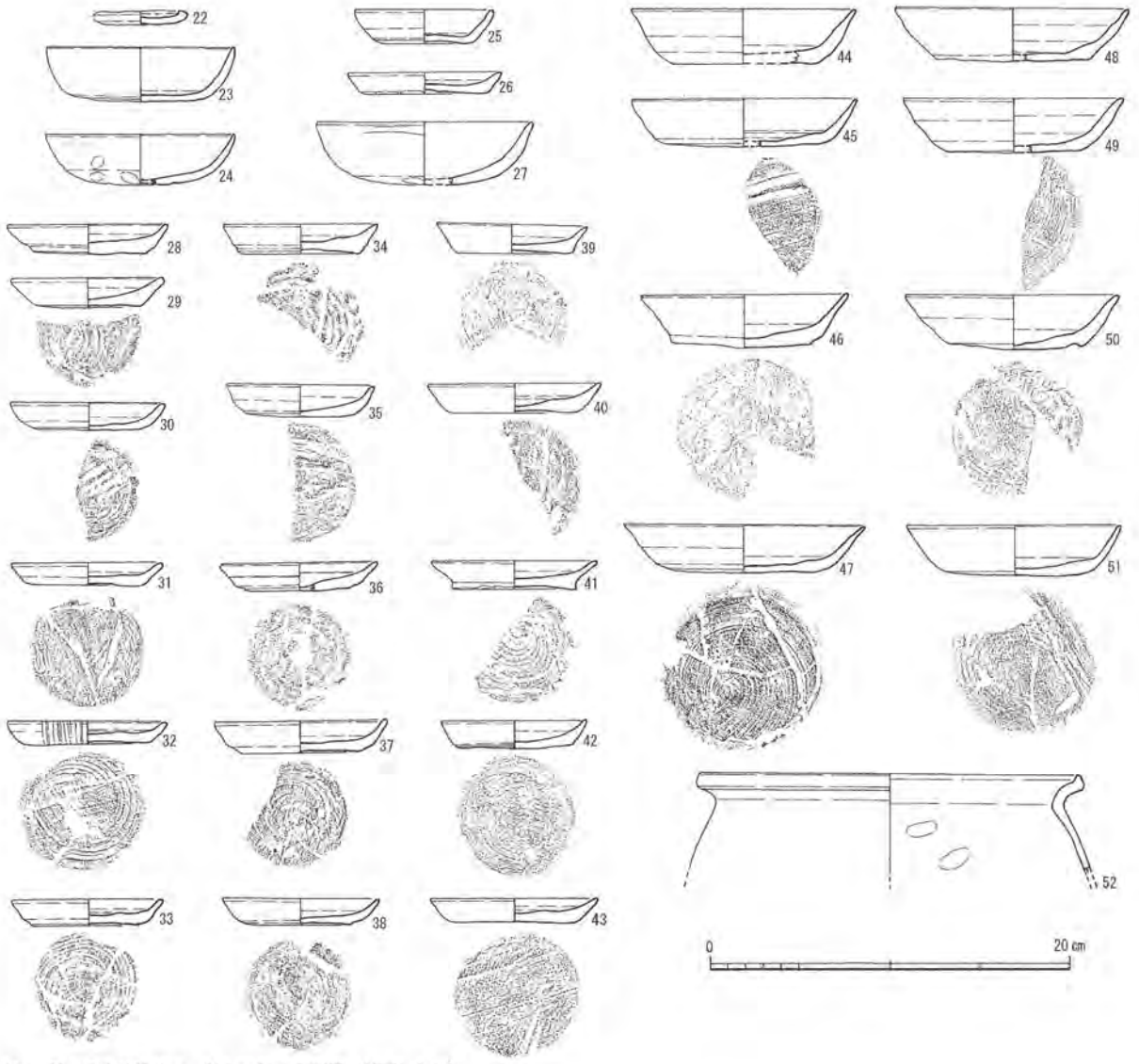


図 126　掘立柱建物２・礎石建物１平面図・断面図・立面図　（S＝1/60）



22～52：掘立柱建物２　【22～52：布掘溝（1256）１層】

図 127　掘立柱建物２出土土器１

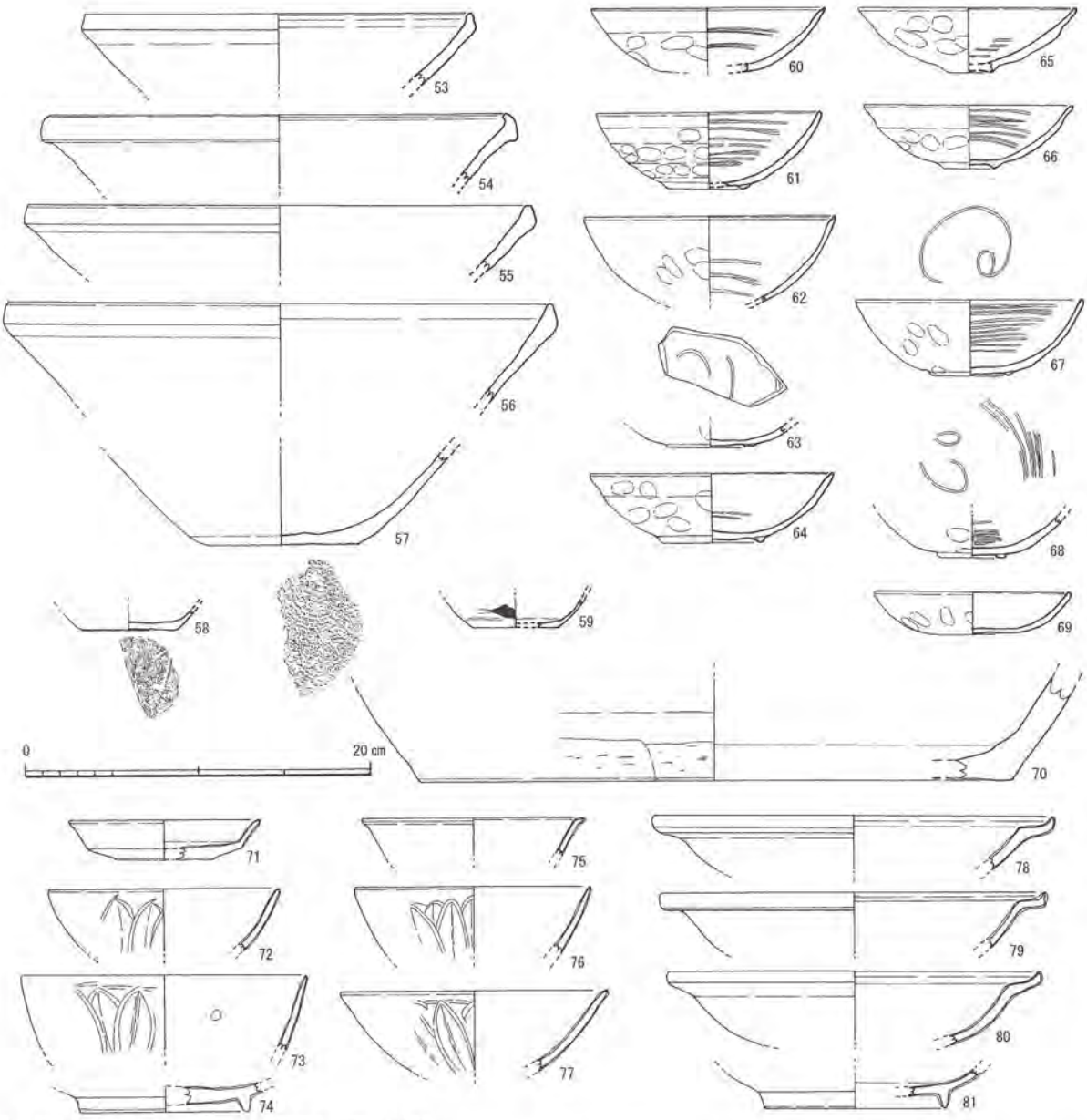
布掘溝からは、土師器受け皿（22）、土師器皿（23～51・82～90・99～105・114～127）・甕（52・92）、東播系須恵器片口鉢（53～57・93・113）・皿（58）、施釉陶器皿（59）、瓦器椀（60～69・106・107・128）、備前焼大甕（70）、常滑焼大甕（98）、青磁皿（71）・椀（72～77・95・96・109）・盤または皿（78～81・97・110）、白磁四耳壺（94）・口禿皿（108）、土錘（91）、焼土・壁土（111・112）、刀子（Ｉ１・Ｉ２）、釘（Ｉ３・Ｉ４）が出土している。

柱穴掘形からは、Ｐ１から土師器皿（135）、Ｐ３から瓦器椀（134）、Ｐ４から土師器皿（129～131）、瓦器椀（132）、東播系須恵器片口鉢（133）が出土している。

土師器皿は、12 cm前後の大皿と９cm前後の小皿の法量に分けられる。その大半は、底部外面に回転糸切痕をもち、胎土の色調が橙色を呈する在地産のものであるが。（22～27）のように手づくねにより成形され、底部外面に回転糸切痕を持たない土師器の一群が存在する。胎土の色調は灰白色～浅黄橙色であり、在地の土師器皿よりも白い色調を呈し、搬入品または白土器を模した一群であると考えられる。これらの土師器には大皿、小皿の法量区分の他、受け皿が存在する。

東播系須恵器片口鉢（53～56・93・113・133）は、口縁端部が上下に拡張し肥厚が顕著であり、森田編年第Ⅱ期第３段階から第Ⅲ期第１段階（森田 1995）に相当する。

瓦器椀は内底面暗文が底面から側面にかけて施され、高台は低く紐状に退化するものが見られる



53～81：掘立柱建物２ 【53～81：布掘溝（1256）１層】

図 128　掘立柱建物２出土土器２

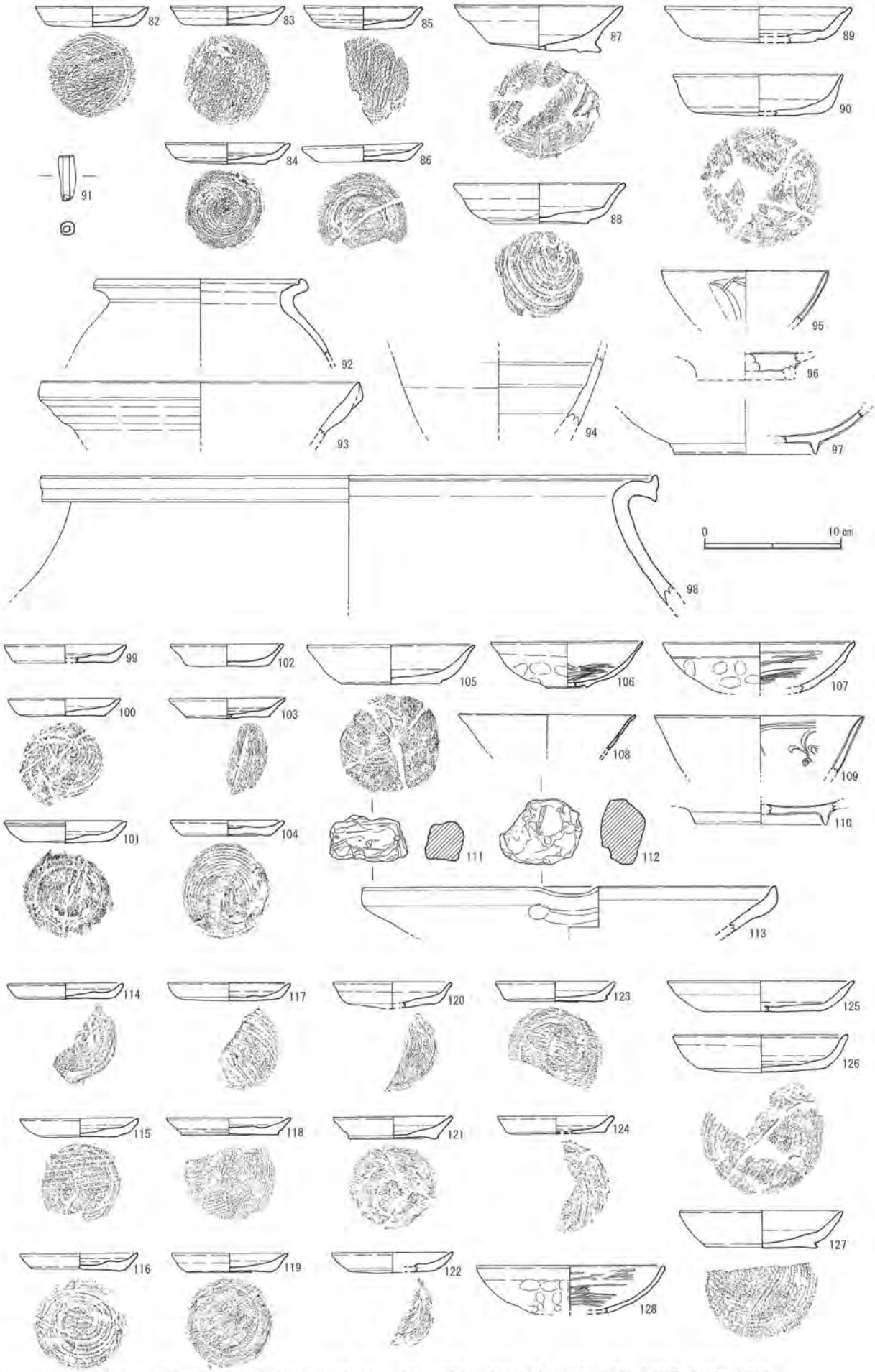
ことから、13 世紀後半（北野編年Ⅲ－２期）に相当する（北野 2005）。瓦器椀は口縁端部内面に沈線をもつ大和型瓦器椀の影響を受けた瓦器椀（60・62・67・107）と、紀伊型瓦器椀の両者が存在する。

（70）は備前焼大甕の底部である。色調は灰白色を呈し、色調が赤褐色化する以前の製品と考えられる。時期は間壁編年Ⅱ期（間壁 1991）に比定される。

掘立柱建物２からは、輸入陶磁器が器種組成の中で一定量を占め、その出土が目立つ。青磁はそのほとんどが龍泉窯系青磁であり、外面に立体的な描写を残す鎬蓮弁文を施すもの、内面に劃花文をもつ碗が多い。時期は 13 世紀半ばから 13 世紀後半までの時期幅を持つが、主体は 13 世紀後半のものである。白磁は（108）が景徳鎮窯、（94）は器壁が厚く閩南窯で作られたものと考えられる。

遺構の時期は、鎌倉時代（13 世紀半ば～13 世紀後半）と考えられる。

礎石建物１（図 126・図 130）　掘立柱建物２に重複して検出した。礎石建物１、掘立柱建物２の上面には、直径 7.0 ｍの範囲で厚さ 15 ㎝の炭化物層が広がる。礎石１～礎石７からなるが、後世の撹乱により礎石の原位置をとどめるものが少なく、正確な平面形は復元できない。掘立柱建物２の整地層上に礎石を据え付けることから、建物廃絶後、同位置での掘立柱建物から礎石建



82～128：掘立柱建物２　【82～98：布掘溝（1256）２層　99～113：布掘溝（1256）３層　114～128：布掘溝（1256）４層】

図 129　掘立柱建物２出土土器３

物への建て替えが行われたと考えられる。

礎石は周辺を10㎝程掘り窪め据え付ける。礎石には30～40㎝前後の大振りの石材一石で礎石とするものと、20㎝前後の小振りの石材を組み合わせて礎石とするものの二種類が存在する。いずれも直径40㎝程度を測る。建物周辺には40～60㎝前後の石材が複数散在しており、礎石として用いられていたものと見られる。礎石６は、直径0.4ｍ、深さ0.3ｍを測り、幅30～35㎝の結晶片岩製の板石による礎石据え付け穴である。礎石７は直径0.35～0.4ｍ、深さ0.15ｍを測り、直径20㎝大の円礫を組み合わせた礎石据え付け穴である。

礎石１からは、瓦器椀（137）が、礎石７から瓦器椀（138）が出土している。また、掘立柱建物２の布掘溝１層として取り上げた、上面を覆う炭化物層からは、土師器、瓦器、東播系須恵器、常滑焼、青磁が出土している。遺構の時期は、鎌倉時代（13世紀後半～14世紀前半）と考えられる。

柱列１・柱列２　07－１区西半部（01－１区）の造成段上で検出した柱列である。柱列１、柱列２は並行し掘立柱建物となる可能性があるが、柱列の規模と柱穴掘形が明確に対応せず、柱列とした。柱列１は芯々距離で2.4ｍ、柱間間隔は0.8ｍ、柱列２は芯々距離で2.8ｍ、柱間間隔は揃わない。柱列の主軸はともにＮ－16°－Ｗで西偏する。柱穴掘形は直径0.25～0.4ｍ、深さ0.1～0.4ｍを測る。柱列１のＰ３底面には扁平な亜円礫を据え付け根石とする。遺物の出土は認められず、遺構の時期は、鎌倉時代以降と考えられる。

土坑１（1255）（図130）　掘立柱建物２の南で検出した柱穴である。遺構の南側は、段の造成により削平される。柱穴３と重複し、柱穴３が後出する。遺構の上面には南北３ｍ、東西７ｍの範囲で厚さ15㎝の炭化物層が広がる。炭化物層は、その時期から、掘立柱建物２上面で検出された炭化物層と関係すると思われる。遺構の規模は、南北2.4ｍ、南北１ｍ以上、深さ0.2ｍを測る。遺構埋土には炭化物を多量に含む。遺物は、炭化物層を中心に土師器皿（142・143・145・146）、焼土・壁土（144）、瓦器椀（147）、青磁碗（148）の出土が認められる。（147）は口縁端部内面に沈線をもつ。遺構の時期は、鎌倉時代（13世紀半ば～13世紀後半）と考えられる。

土坑２（1268）（図130）　掘立柱建物２の布掘溝に重複する形で検出し、掘立柱建物２より後出する。北側は削平を受ける。直径0.7～0.8ｍ、深さ0.5ｍを測り、平面形は円形を呈する。掘形埋土から備前焼大甕（154・155）が出土している。（154・155）は口縁部を丸く折り曲げ玉縁状を呈する。焼成は還元焔焼成で、灰白色の色調を呈し、間壁編年Ⅱ期に相当する。和歌山県内の備前焼の出土事例をみると、間壁編年Ⅱ期のものは根来寺坊院跡出土例が存在するが、類例は極めて少ない。遺構の時期は、鎌倉時代（13世紀後半）と考えられる。

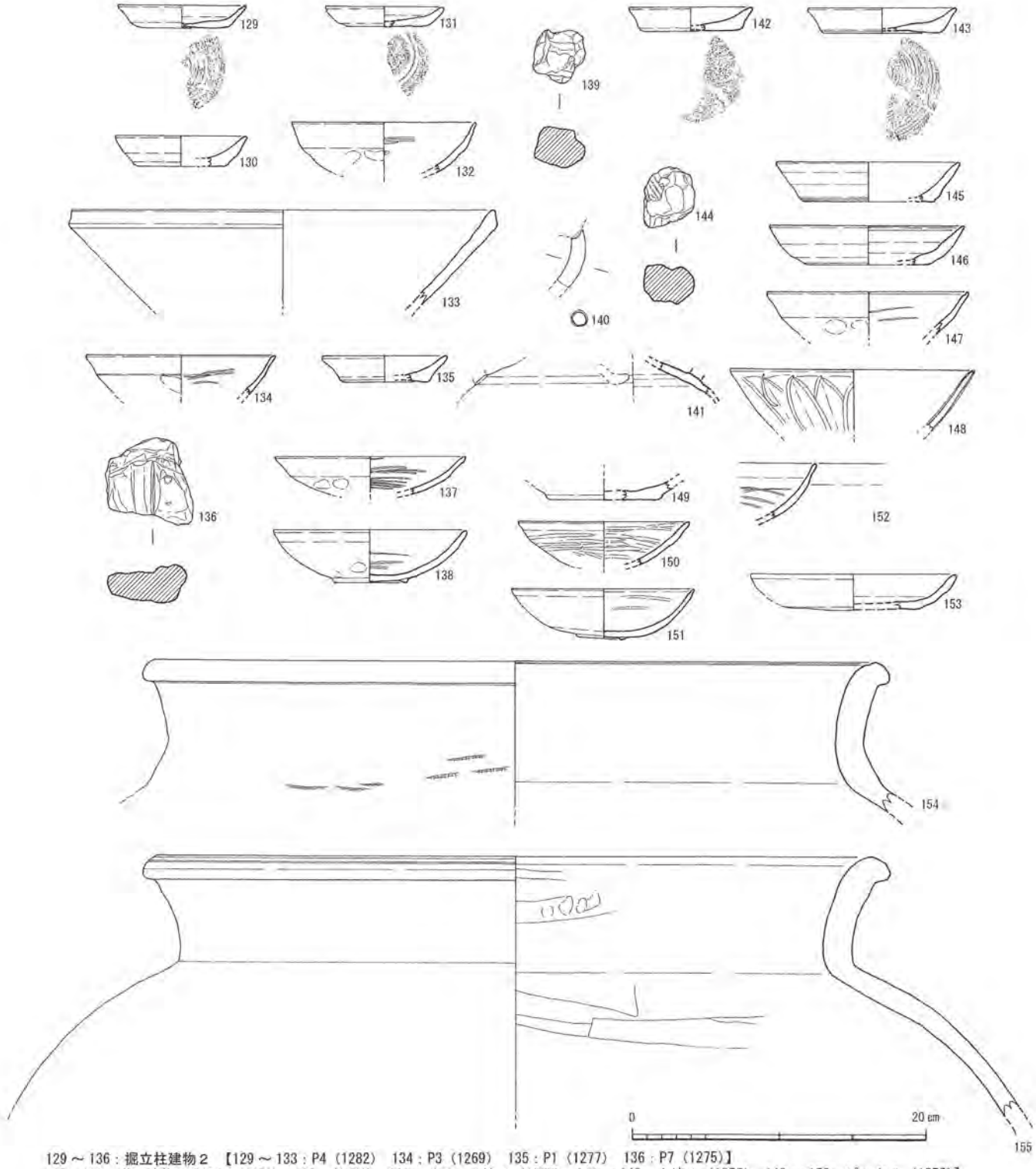
土坑４（1257）（図130）　掘立柱建物２の南で検出した土坑である。土坑１と重複し、土坑４が後出する。直径0.65～0.7ｍ、深さ0.3ｍを測る。埋土からは、土師器、青磁水注（140）、白磁四耳壺肩部（141）、焼土・壁土（139）が出土している。（140）は水注の不遊環に当たると考えられる。遺構の時期は、鎌倉時代（13世紀後半）と考えられる。

ピット１（1252）（図130）　掘立柱建物の南で検出した。直径0.3ｍ、深さ0.2ｍを測り、平面形は円形を呈する。遺物は、土師器皿（149）、瓦器皿（150）・椀（151、152）が出土している。遺構の時期は、鎌倉時代（13世紀後半）と考えられる。

溝１（1033）（図130）　古代の掘立柱建物５と重複する。遺構の掘削は掘立柱建物の柱穴掘形を優先した。東西方向に延びる耕作に伴う溝であり、東西6.0ｍ、幅0.5ｍを測る。溝埋土からは土師器皿（153）が出土している。遺構の時期は、鎌倉時代（13世紀～14世紀）である。

溝２（1041）（図140）　07－１区西半部（１－１区）の最も地形の低い範囲で検出した溝である。

古代の掘立柱建物５・６・７と重複し、溝２が後出する。遺構の掘削は掘立柱建物の柱穴掘形を優先した。南北方向に延び、造成段付近で方向を北西方向に変え、小溝に分枝する。南北 60.0 m以上、幅 0.5 m、深さ 0.1 mを測る。中世の耕作に伴う溝と考えられる。遺物は、平安時代の須恵器甕（237･238）が出土しているが、周囲からの混入品である。遺構の時期は、鎌倉時代（13世紀～14 世紀）と考えられる。



129～136：掘立柱建物２ 【129～133：P4（1282） 134：P3（1269） 135：P1（1277） 136：P7（1275）】
137・138：礎石建物１【137：（1278） 138：（1271） 139～141：土坑４（1257） 142～148：土坑１（1255） 149～152：ピット１（1252）】
153：溝１（1033） 154・155：土坑２（1268）

図 130　掘立柱建物２、礎石建物１、土坑１・２・４、ピット１、溝１出土土器・土製品

3．古代の遺構と遺物

07－1区の南に位置する1－1区の第4－1層下面では、計8棟の掘立柱建物群を検出した。掘立柱建物群は、造成段の下に位置し、この造成段を境にして地形が傾斜変換することから、背後に中位段丘が迫る山際を選地して築かれたと考えられる。

建物はほぼすべて主軸が西偏し、一部の建物で柱筋が揃う等、規則的に配置されているため、一定期間中に継続して築かれたことが分かる。北から順に、南北棟の掘立柱建物4・3・5・6があり、その南に東西棟の掘立柱建物7・8・9・10がある。このうち掘立柱建物5と6は重複し、また掘立柱建物7とも近接するため、少なくとも2時期にわたる変遷が想定できる。出土遺物、層位関係から、遺構の時期は概ね平安時代前期（9世紀前半～後半）に収まる。出土遺物から遺構の時期は、掘立柱建物3・4・6・9が9世紀前半に、掘立柱建物5・7が9世紀後半と考えられる。

掘立柱建物3（図132・図135） 掘立柱建物4の南に位置し、西側にはほぼ同規模の掘立柱建物6が並列する。主軸の振れは等しく、2棟の間隔は3.0mである。桁行3間、梁行2間、西側に廂がとりつく廂1間の柱配置に復元できる。建物の規模は、身舎は芯々距離で南北7.2～7.4m、東西4.8m、廂長を含めると東西7.4～7.5mとなり、床面積は55.5㎡を測る。柱間間隔は桁行約2.4m（8尺）等間、梁行約2.4m（8尺）等間、廂長約2.7m（9尺）、主軸はN－16.5°－Wで西偏し、南北棟である。

柱穴掘形は、一辺0.7～0.9mの方形または円形で、底面には直径15cm程度の柱痕跡が残る。廂の柱穴掘形は0.45～0.6mとやや小さく浅い。身舎の北・東側柱筋に、部分的に根石が残る。根石は直径10～20cmの亜円礫3～5個からなる。また柱掘形埋土は、微細な土器片、炭化物を顕著に含む。検出したすべての建物の柱掘形埋土とも、褐灰色系であるが、炭化物の混入が目立つ。P9から遺物がまとまって出土している。

遺物は、柱穴掘形から土師器杯A（156・158）・椀A（157）・椀C（159）・皿A（162～167）、皿C（160・161）・甕（168・169）・高杯（170・171）、製塩土器（173～175）、須恵器蓋（176～181）・杯B（182～187）、土錘（172）が出土している。土師器はC手法によるものが多い。口縁部は外反するものが多い。（163）は皿内面に漆状の付着物が残る。（170）は杯部が浅く広

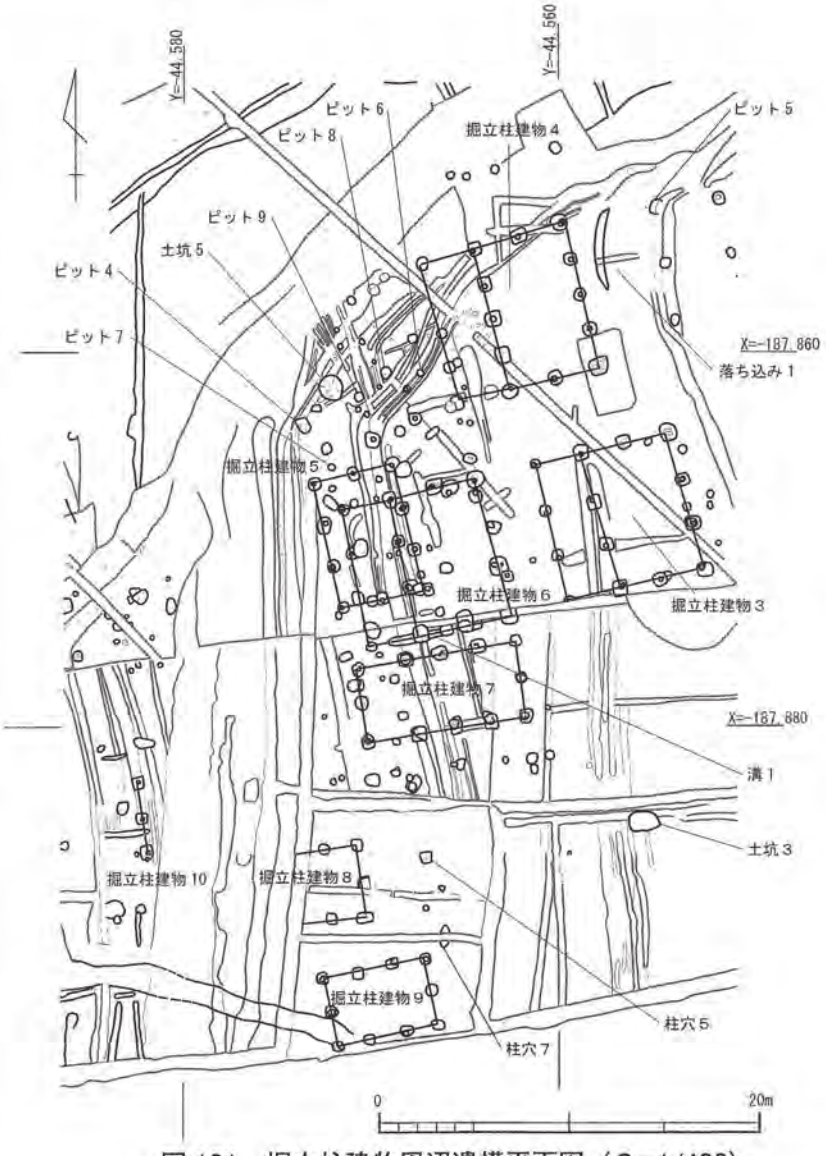


図131 掘立柱建物周辺遺構平面図（S=1/400）

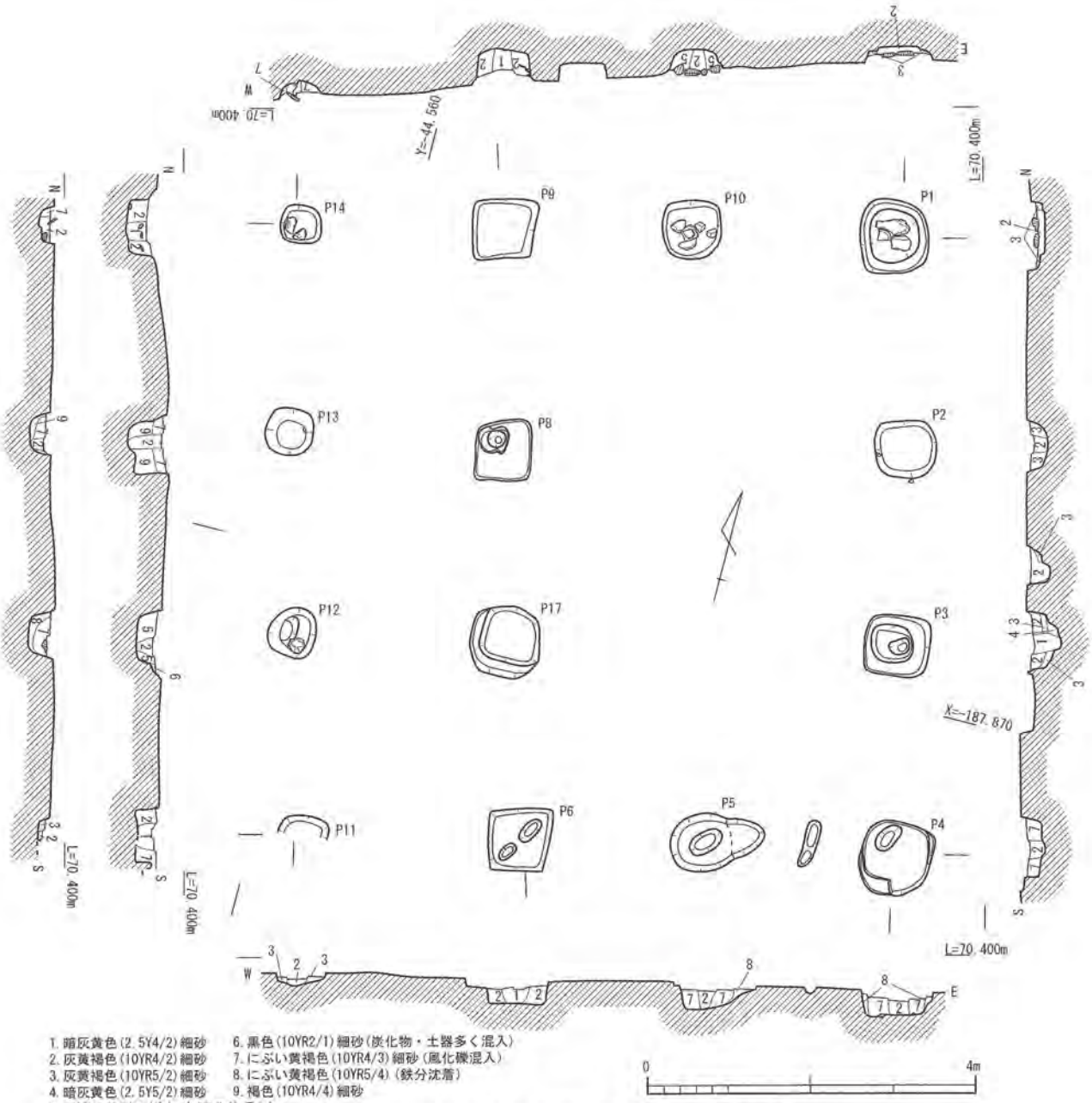


図 132　掘立柱建物３平面図・断面図　(S＝1/80)

がる高杯杯部。(172) は管状土錘で、焼成は土師質である。製塩土器は丸底Ⅲ式で、端部は内傾する面を作り凹線状のナデを施す。(179) は蓋内面に墨が付着し、転用硯とみられる。(181) は蓋内面に墨書をもつ。「禾 (のぎへん)」、または「木 (きへん)」であるがその文字は判然としない。遺構の時期は、平安時代前期 (９世紀前半) と考えられる。

掘立柱建物４ (図 133・図 135)　建物群の最も北に位置し、建物の５ｍほど北には山裾が迫る。桁行４間、梁行２間、西側に廂がとりつき、廂１間の柱配置に復元できる。建物の規模は、身舎は芯々距離で南北 7.8～8.0 ｍ、東西 4.8 ｍ、廂を含めると東西 7.6 ｍとなり、床面積は 60.80 ㎡を測る。柱間間隔は桁行約 2.1 ｍ (７尺) 等間、梁行約 2.4 ｍ (８尺) 等間、廂長約 2.7 ｍ (９尺) である。主軸はＮ－16.5°－Ｗで西偏し、南北棟である。検出した建物群中では最大面積となる。

柱穴掘形は、一辺 0.5～0.8 ｍの方形で、底面には直径 15 ㎝程度の柱痕跡が残る。身舎の南東隅の柱穴Ｐ５には根石が残存し、根石は 30 個ほどの直径５～10㎝の亜円礫を掘形に敷き詰める。また、身舎の西側柱筋のＰ８には柱根が残存しており、直径 15 ㎝の針葉樹材である。Ｐ９、Ｐ

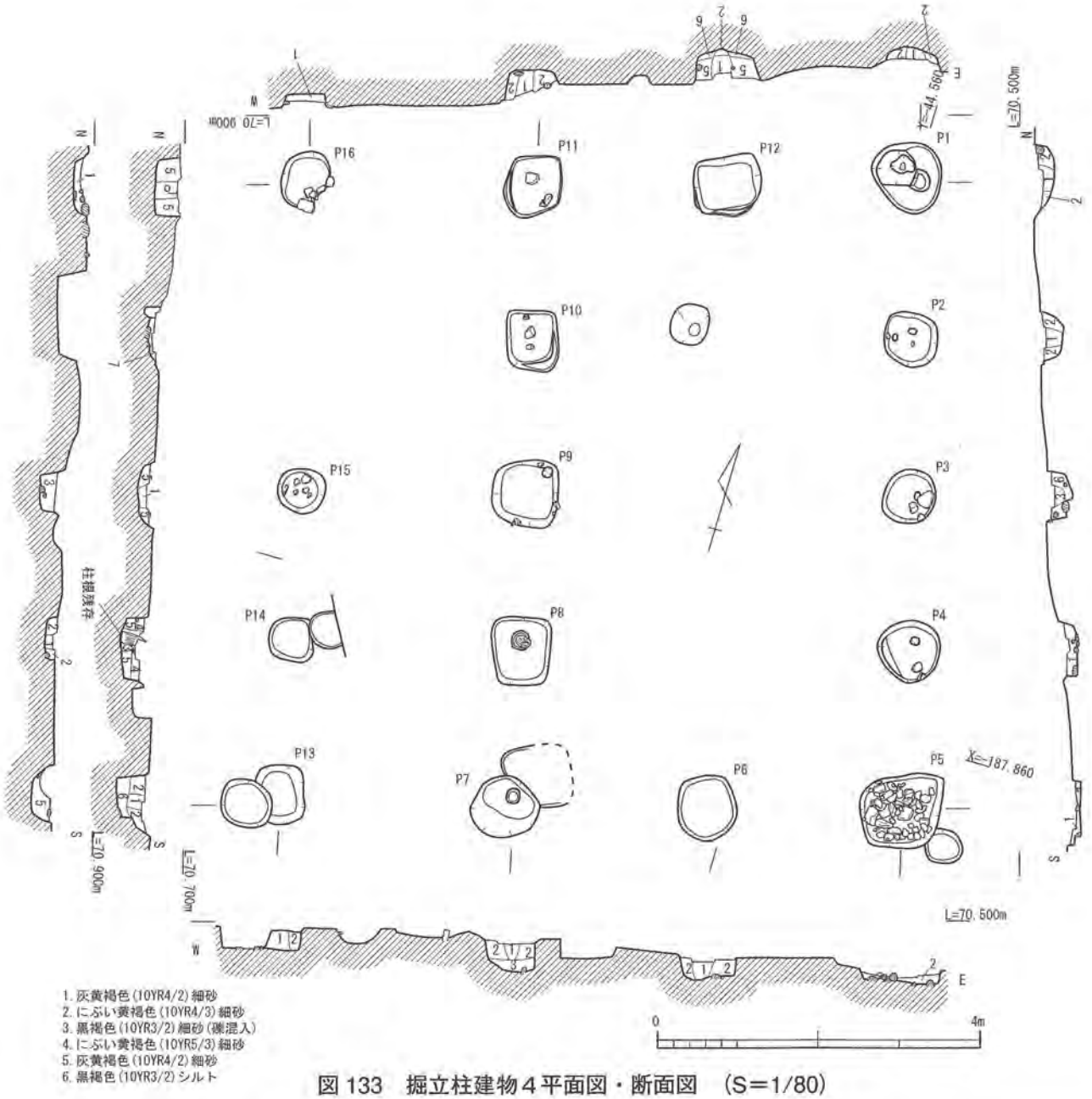


図 133　掘立柱建物４平面図・断面図　(S＝1/80)

11 からの遺物の出土は多い。遺物は柱穴掘形から土師器杯Ａ(188)・皿Ａ(189)・皿または杯(190)・高杯（193)、製塩土器（191・192)、須恵器壺Ｌ（194)・蓋（195～198)・杯Ｂ（199～202）が出土している。(190）は、皿または杯の底部で表裏は不明である。墨書「十」をもち吉祥であろう。(197）は成形時の補修痕が残る。遺構の時期は平安時代前期（９世紀前半）と考えられる。

掘立柱建物５（図 134・図 135）　掘立柱建物４の西に位置し、掘立柱建物６の北西に重複する。桁行３間（6.3 m)、梁行２間の柱配置に復元できる。建物の規模は芯々距離で南北 6.8～6.9 m、東西 4.2～4.5 mとなり、床面積は 31.0 ㎡を測る。柱間間隔は桁行約 2.4 m（８尺）等間、梁行約 2.1 m（７尺）等間である。主軸はＮ－16.5°－Ｗで西偏し、南北棟である。

柱穴掘形は、一辺 0.5～0.85 mの隅丸方形で、底面には直径 10 cm程度の柱痕跡が残る。遺物は、柱穴掘形Ｐ７から土師器皿Ａ（203）が出土している。他の建物に比べ柱穴掘形からの遺物の出土は少なく、いずれも細片である。遺構の時期は、平安時代前期（９世紀後半）と考えられる。

掘立柱建物６（図 136・図 140）　掘立柱建物３の西に並列し、掘立柱建物５が重複する。すぐ南に

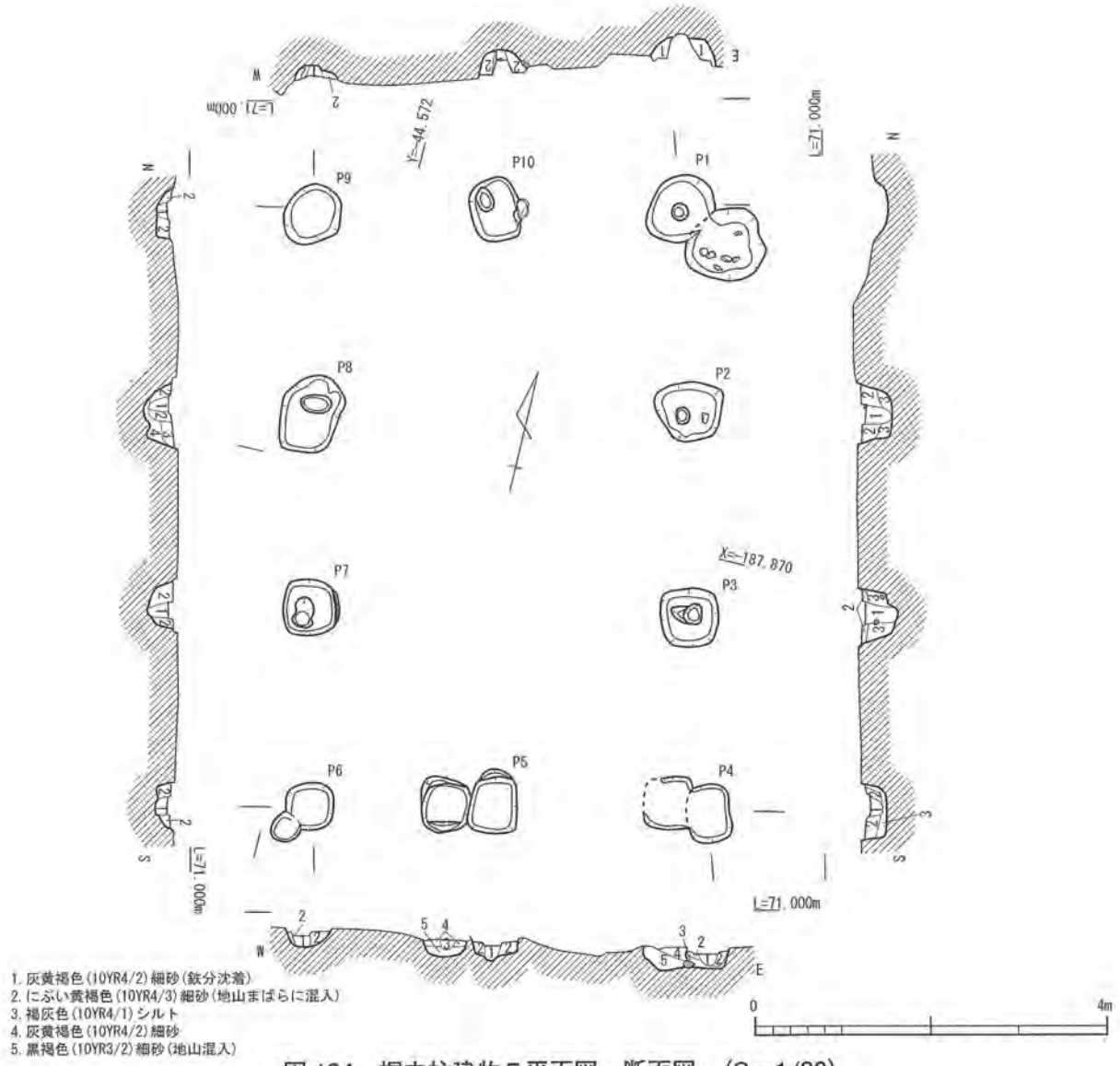


図 134　掘立柱建物５平面図・断面図　(S＝1/80)

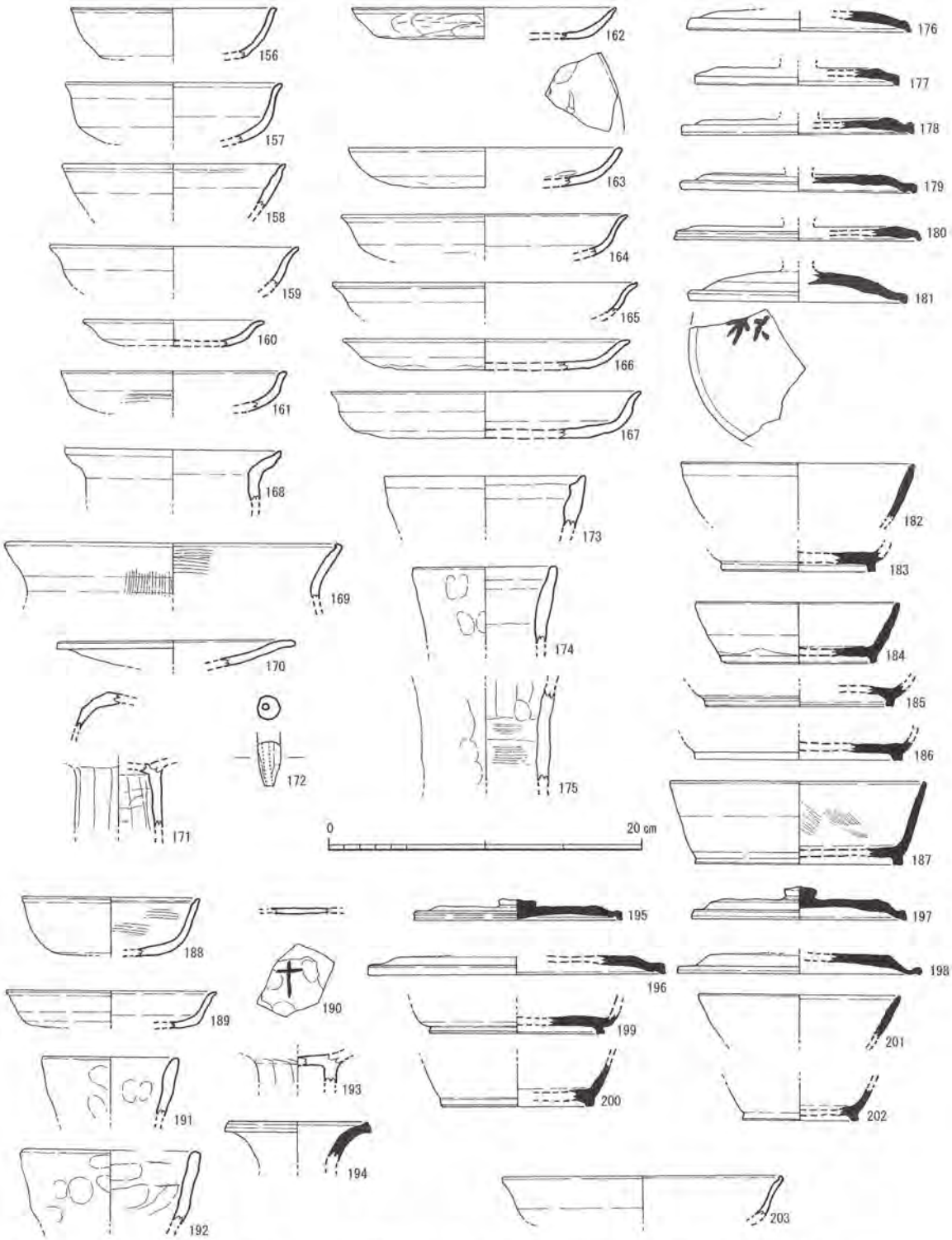
は掘立柱建物７が存在することから、建物群は少なくとも２時期にわたって築かれたものとみられる。

建物の規模・構造は掘立柱建物３とほぼ同じである。桁行３間、梁行２間、西側に廂がとりつき、廂１間の柱配置に復元できる。建物の規模は、身舎は芯々距離で南北 7.2～7.4 m、東西 4.8 m、廂を含めると東西 7.4～7.5 mとなり、床面積は 55.5 ㎡を測る。柱間間隔は桁行約 2.4 m（８尺）等間、梁行約 2.4 m（８尺）等間、廂長約 2.7 m（９尺）である。主軸はN－16.5°－Wで西偏し、南北棟である。

身舎の柱穴掘形は、一辺 0.5～0.8 mの方形で、底面には径 15cm 程度の柱痕跡が残る。検出したすべての建物の柱掘形埋土は、掘立柱建物３と同様に褐灰色系で、炭化物が混じる。遺物は、柱穴掘形から土師器甕（206）、製塩土器（204･205）、須恵器杯Ａ（207）･杯Ｂ（208･209）が出土している。遺構の時期は、平安時代前期（９世紀前半）と考えられ、掘立柱建物３とほぼ同時期である。

掘立柱建物７（図 137・図 140）　掘立柱建物６の南に位置する、建物西側柱筋が掘立柱建物５の西側柱筋と、掘立柱建物９の東側柱筋とほぼ揃う。建物の重複関係と間隔から、掘立柱建物６と、掘立柱建物５・７は同時期のものではないと考えられる。また、掘立柱建物５・掘立柱建物７についても、主軸の方向がわずかに異なるため、同時期のものではない可能性がある。

桁行４間、梁行２間の柱配置に復元できる。建物の規模は、芯々距離で南北 3.8～3.9 m、東西



156～187：掘立柱建物３【156～162・164～168・170・179～181・184・186：P９（1189） 163・173・182：P10（1190） 169・172・176～178：P６（1186） 171・174：P４（1184）175：P13（1249） 183・185・187：P８（1188）】
188～202：掘立柱建物４【188：P12（1203） 189・196・198：200～202：P11（1202） 190・192・195・199：P９（1200） 191：P15（1234）193：P２（1193）194：P７（1198） 197：P１（1192）】
203：掘立柱建物５【203：P７（1209）】

図 135　掘立柱建物 3～5 出土土器・土製品

8.2～8.4ｍとなり、床面積は 32.76 ㎡を測る。柱間間隔は桁行約 1.8～2.7ｍ（６～９尺）、梁行約 2.4ｍ（８尺）等間となる。桁行は 1.8ｍ（６尺）等間を基本とするが、西端桁行のみ９尺と柱間間隔が広く、西側柱筋は廂の可能性も考えられる。主軸はＮ－16.5°－Ｗと西偏し、南北棟である。柱穴掘形は、一辺 0.6～0.8ｍの方形で、柱抜き取り穴が重複する。抜き取り方向に規則性はない。またすべての柱穴の底面には根石が残る。根石は径 10～20cm の亜円礫で１～10 個である。

遺物は、柱穴掘形から土師器皿A（210）、製塩土器（211 ～ 213）、須恵器蓋（214 ～ 216）・杯A（217・218）が出土している。（217・218）はともに焼成不良。古代の遺物の中で杯Aはその大半が焼成不良であれる。（219）は混入した瓦器椀である。遺構の時期は、平安時代前期（９世紀後半）と考えられる。

掘立柱建物８（図 138） 掘立柱建物７の南に位置する。西側は近世の暗渠排水溝や水路により削平を受け、部分的に柱穴が存在するのみであるが、西へ続いていたものと考えられる。柱配置は桁行２間以上、梁行２間に復元される。建物の規模は南北 3.6 m、東西 1.9 m以上となる。柱間間隔は桁行・梁行ともに約 1.8 m（６尺）等間となる。主軸はN - 8° - Wと西偏し、東西棟である。柱穴掘形は、一辺 0.3 ～ 0.35 mの円形で、規模は小さい。

柱穴掘形からの遺物の出土は少なく、いずれも細片である。遺構の時期は、平安時代前期（９世紀）と考えられる。

掘立柱建物９（図 138・図 140） 検出した建物群の最も南に位置する。桁行３間、梁間２間の柱配置に復元される。建物の規模は芯々距離で南北 3.6 m、東西 5.4 mとなり、床面積は 19.5 ㎡を測る。柱間間隔は桁行約 1.8 m（６尺）等間、梁行約 1.8 m（６尺）等間であり、他の建物に比べ小さい。主軸はN - 11° - Wと西偏し、東西棟である。柱穴掘形は、一辺 0.6 ～ 0.5 mの方

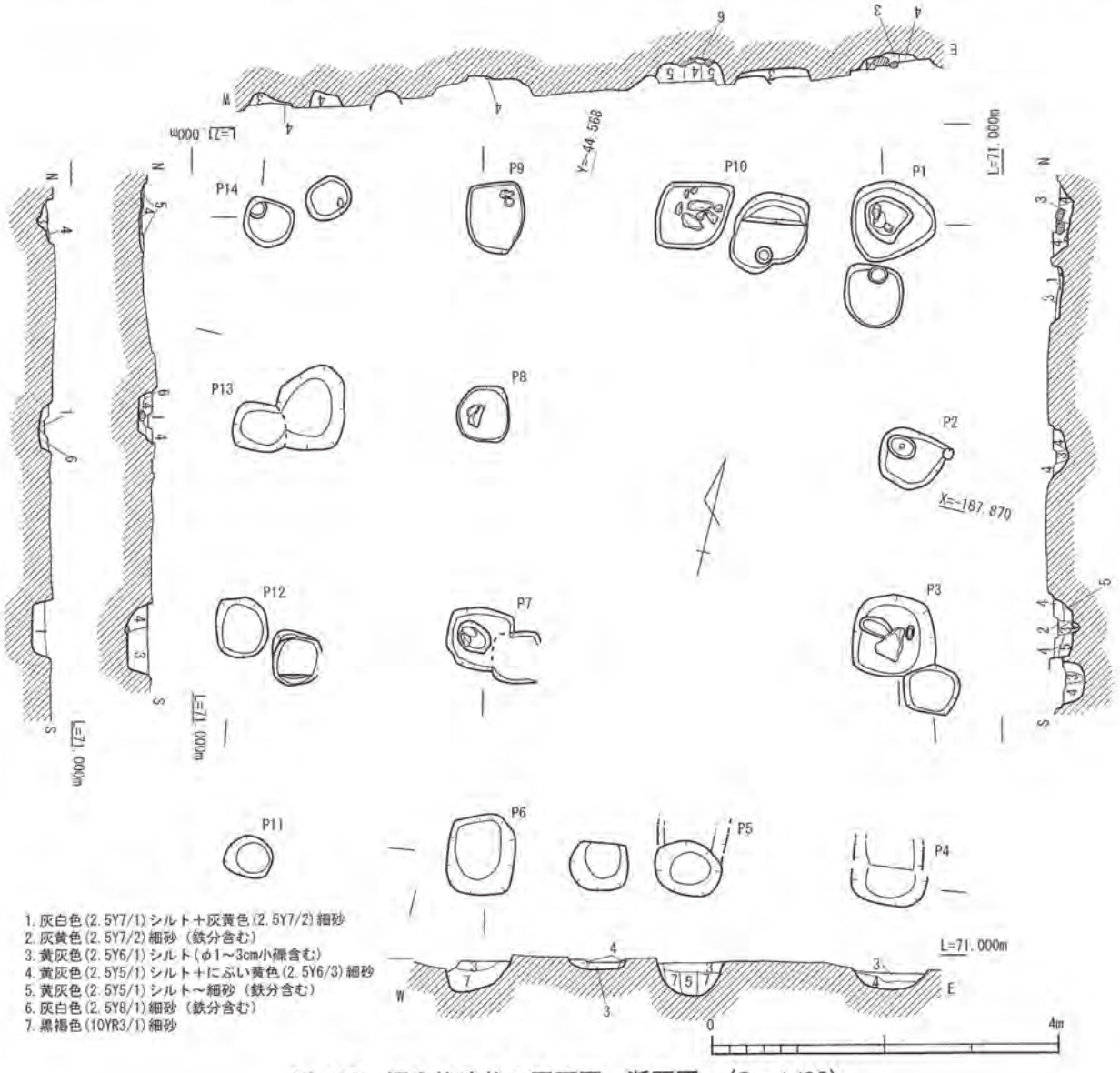


図 136　掘立柱建物６平面図・断面図　（S＝1/80）

形～円形で、底面には径15cm程度の柱痕跡が残る。

遺物は、柱穴掘形から土師器甕（220）、須恵器蓋（221・223）・杯C（222）が出土している。他の建物に比べ遺物の出土は少なく、いずれも細片である。（221）は蓋内面に墨が付着し、転用硯とみられる。遺構の時期は、平安時代前期（9世紀前半）と考えられる。

掘立柱建物10（図138・図140）　掘立柱建物8と同様に近世の暗渠排水溝や水路により削平を受ける。部分的に柱穴が存在するのみであるが、東へ続いていたものと考えられる。柱配置は桁行2間以上、梁行2間に復元される。建物の規模は南北3.6mとなる。柱間間隔は梁行約1.8m（6尺）等間となる。主軸はN－8°－Wと西偏し、東西棟である。柱穴掘形からは土師器椀（224）が出土している。遺構の時期は、平安時代前期（9世紀後半）と考えられる。

落ち込み1（1274）（図140）　掘立柱建物4の東に位置する。この落ち込み付近で傾斜が変換し、さらに東側へ地形が低くなる。ピット5が重複し、これが後出する。南北4.2m、東西2.2m測り、平面形は半円形を呈する。落ち込み1から須恵器杯B（225・226）が出土している。遺構の時期は、平安時代前期（9世紀）と考えられる。

その他の柱穴・ピット（図140）　建物あるいは柱列として報告したもの以外にも、多数の柱穴、ピットを検出した。柱列の復元には至らなかったが、柱痕跡、根石を残すものも含まれていることから、この他にも掘立柱建物が存在していたとみられる。また、07－1区西半部（1－1区）の最も地形の低い範囲の南側や東側の調査区外には、掘立柱建物群が広がっていたものとみられる。

柱穴5～7（1156～1158）は、掘立柱建物9の北側で検出した。掘立柱建物7と掘立柱建物9の間は建物が見られないが、複数の柱穴が認められることから掘立柱建物が存在していたことがうか

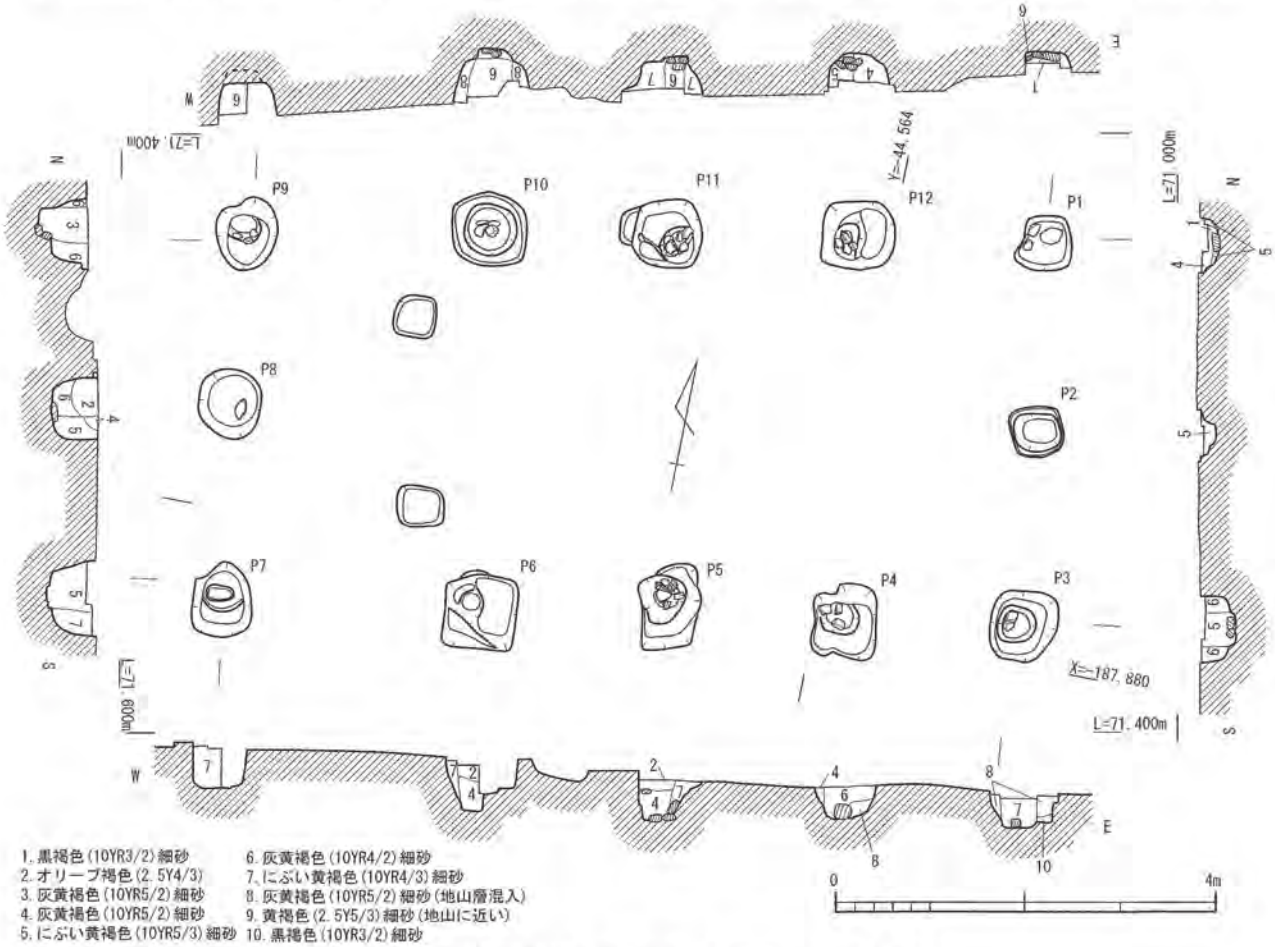


図137　掘立柱建物7平面図・断面図　（S＝1/80）

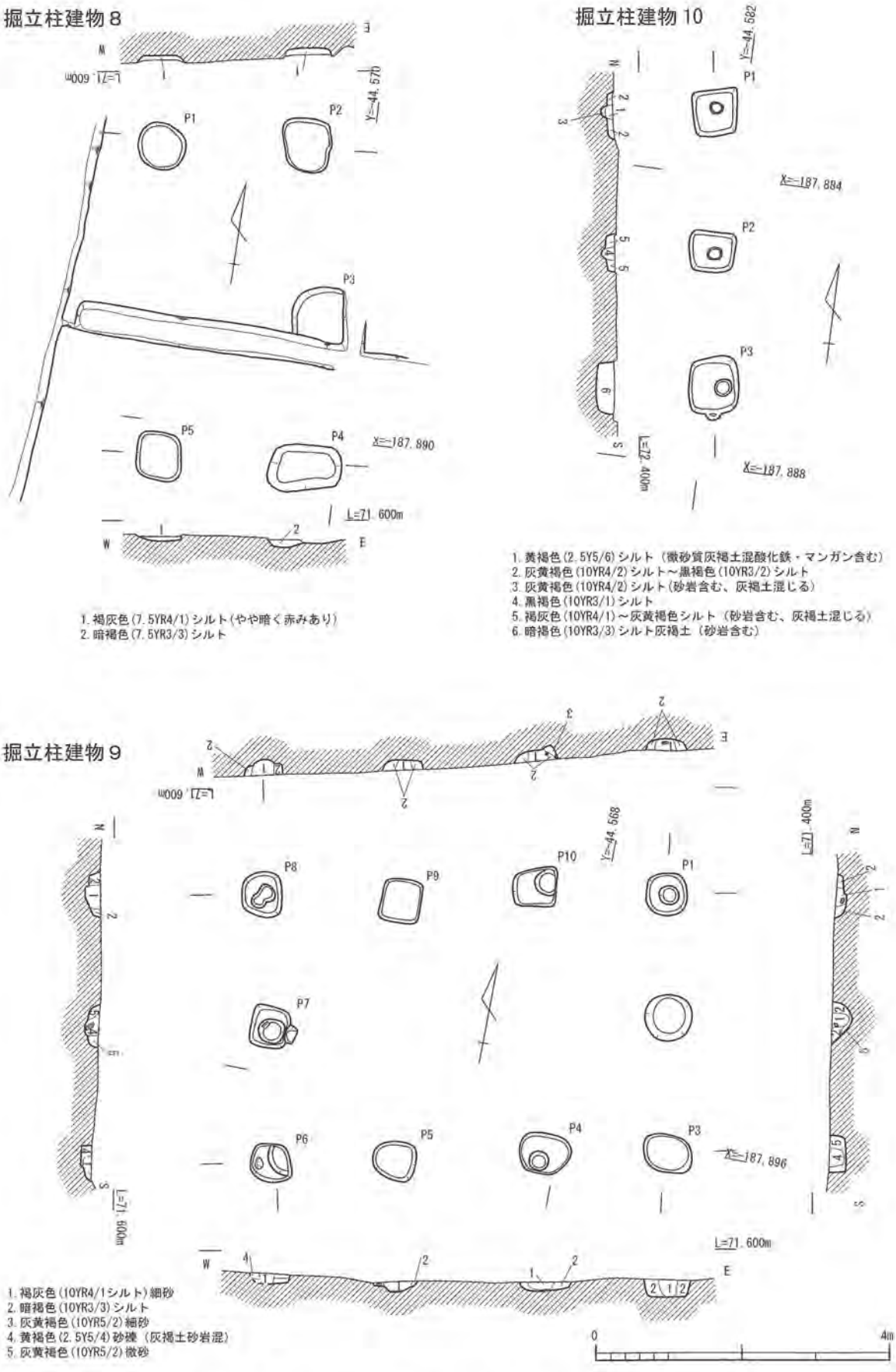


図 138　掘立柱建物８～10 平面図・断面図　(S＝1/80)

がえる。いずれも柱穴掘形は方形～円形で直径0.5～1.1ｍである。遺物の出土は認められない。

ピット４・６～９（1245・1263・1243・1239・1241）は、掘立柱建物４の西、掘立柱建物５・６の北に位置する。ピット５（1237）は掘立柱建物４の東で検出した。ピットを検出した範囲の北側は、山裾が迫り掘立柱建物は検出していない。ピットはいずれも円形で直径0.2～0.3ｍを測る。

ピット４から土師器杯Ａ（228）・杯Ｃ（227）、須恵器杯Ｂ（229）、ピット５から須恵器杯Ｂ（230）、ピット６から須恵器壺Ｌ（231）、ピット７から須恵器杯Ｂ（233）、ピット８から須恵器杯Ｂ（234）、ピット９から土師器皿Ａ（235）、須恵器蓋（236）が出土している。いずれの遺構の時期も平安時代前期（９世紀）と考えられる。

土坑５（1247）（図140）　掘立柱建物４の西で検出した土坑である。素掘りの井戸と考えられる。長径1.4ｍ、短径1.3ｍ、深さ0.6ｍを測り、平面形は円形を呈する。埋土は大きく５層に分けられ、褐灰色の粘質細砂と淡黄色の粗砂が互層に堆積する。第５層上面には明青灰色のシルトが堆積し、曲物底板（Ｗ１）が出土した。その他の遺物は、埋土からは須恵器壺Ｌ（232）が出土している。遺構の時期は、平安時代前期（９世紀）と考えられる。

溝３（1019）（図139）　07－１区西半部（１－１区）の造成段上で検出した溝である。東側には自然流路１が存在する。溝３は調査区を南北方向に流れ、途中、南西方向に流れを変える。溝の幅は3.0ｍ、深さ1.3ｍを測る。自然流路を掘削し、さらに拡張したものとみられ、溝底部は断面逆台形を呈する箱掘である。埋土は大きく４層に分けられ、最下層は礫混じりの粗砂を主体とし、下層は灰色～灰白色のシルトで、自然木や有機質を多く含む。土層断面の観察から、溝は少なくとも２回以上の再掘削が行われたことが確認された。溝埋土から遺物の出土は少なく、いずれも細片であるが、遺構の時期は、平安時代前期（９世紀）と考えられる。

調査地北西には、谷を流れ出る小河川を堰き止め溜池とした桧ノ森池が存在している。桧ノ森池が築かれる前には、谷を流れる自然流路が複数存在していたとみられる。今回の調査で検出した自然流路１・２・３等がこれにあたり、時期により流れを変えながらも、地形の高い位置から低い位置へと流れていたと考えられる。これらの自然流路はそのほとんどが北西方向から南東方向へ流れるのに対し、溝３は南西方向へ方向を違えるように掘削されている。人為的に掘削された溝であり、時期が平安時代前期であることから、同時に併存していた掘立柱建物群との関係がうかがえる。おそらく地形の低い掘立柱建物群へと流れる自然流路の方向を変える目的で開削された溝であろう。

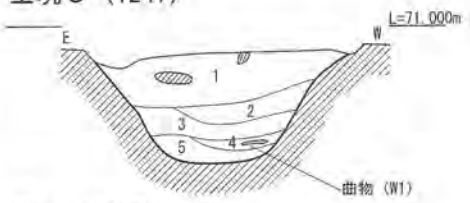
溝４（1105）（図140）　掘立柱建物６と重複して検出した。南北方向に延びる溝で、掘立柱建物６が後出する。耕作に伴う溝とみられ、複数の溝が重複する。検出長30.0ｍ以上、幅1.6ｍを測る。埋土からは、土師器皿Ａ（242）・杯Ｂ（243）、須恵器蓋（239・240）・須恵器杯Ａ（241）・杯Ｂ（244・245）が出土している。遺構の時期は、平安時代前期（９世紀）と考えられる。

掘立柱建物（古代）周辺出土土器・土製品　掘立柱建物群周辺では、遺物包含層である第３層、第４－１層掘削中や、遺構検出中に多くの遺物が出土している。遺物は、土師器杯Ａ（247・248）・椀Ａ（249）・皿Ａ（250・251）・盤（252・253）・甕（254～257）・壺Ｂ（258）、製塩土器（261～265）、須恵器蓋（266～272・284～288）・須恵器杯Ａ（281・282）・杯Ｂ（273～280・289～293）・皿Ｃ（294～296）・壺Ｌ（283）・壺Ａ（298）・壺Ａ蓋（297）・壺（299・300）・円面硯（303・304）、土錘（259・260）、平瓦（301）、鞴羽口（302）が出土している。

（272）は蓋内面に墨書されるが、文字は判別できない。（273）は通常の杯Ｂの半分の大きさで、ミニチュア杯と考えられる。（301）は平瓦と考えられ、一辺のみを残すのみである。焼成は不良である。

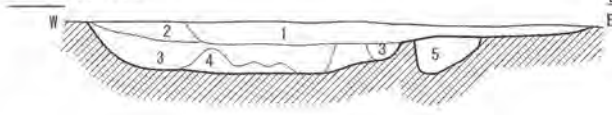
（302）は外面を面取りするもので、鞴羽口と考えられる。二次焼成を受けるが気泡などは見

土坑５（1247）



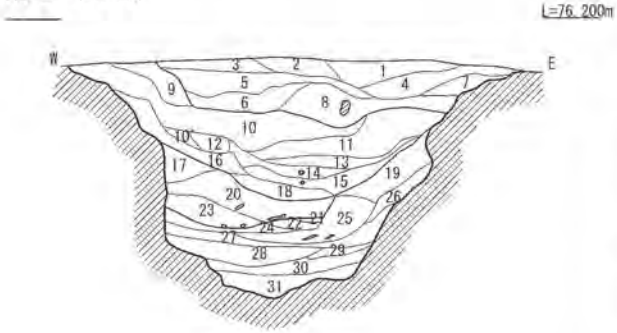
1. 褐灰色(10YR6/1)粘砂　互層状　淡黄色(2.5Y8/3)粘質粗砂（黄～オリーブ砂岩細礫混粘質粗砂）
2. 淡黄色(2.5Y8/3)粗砂(粘質土混、砂岩含む)
3. 褐灰色(10YR6/1～5/1)粘砂(粗砂礫混)
4. 明青灰色(5B7/1)シルト(5層上一面に広がる、所々うすい)
5. 灰白色(5Y8/2)粘質粗砂（明青灰色(5B7/1)シルト混じる）

溝４（1105）



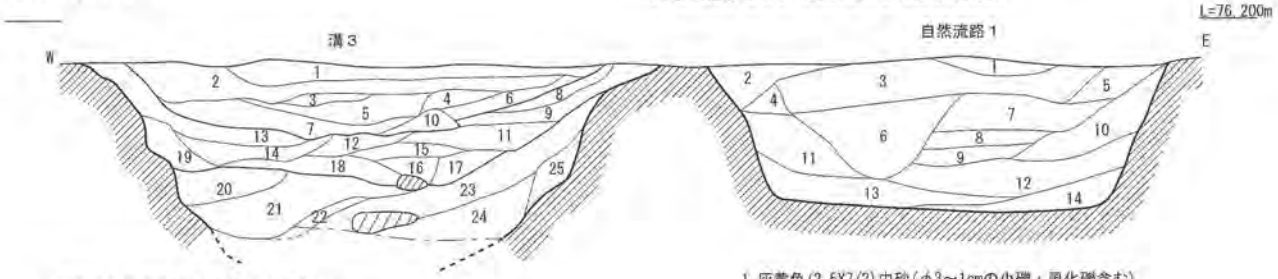
1. 黄褐色(2.5Y5/3)細砂
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂
3. オリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂
5. 灰黄褐色(10YR4/2)細砂

溝３（1019）



1. 灰黄色(2.5Y7/2)シルト(鉄分少)＋褐灰色(10YR5/1)
2. 灰白色(2.5Y8/1)シルト(鉄分多)
3. 灰白色(2.5Y8/1)シルト(小礫φ0.5～1cm含む)
4. 淡黄色(2.5Y8/3)細砂＋黄色(2.5Y8/8)シルトブロック含む
5. 黄色(2.5Y8/6)シルト(小礫φ1cm)＋灰白シルト(2.5Y7/1)
6. 灰白色(2.5Y8/1)シルト(鉄分含む)
7. 灰白色(2.5Y7/1)シルト＋黄色(2.5Y2/8)シルトブロック含む
8. 灰黄色(2.5Y7/2)シルト(鉄分含む)
9. 8とほぼ同じ
10. 灰白色(2.5Y7/1)シルト(鉄分多く含む)
11. 黄灰色(2.5Y6/1)シルト(鉄分多い、灰白色(2.5Y8/1)シルトブロック含む)
12. 黄灰色(2.5Y5/1)シルト(鉄分含む)
13. 12とほぼ同じ
14. 11とほぼ同じ
15. 暗灰色(N3/)シルト(粘性強い)
16. 灰色(5Y4/1)シルト（灰白(2.5Y8/1)シルトをブロック状に含む)
17. 灰白色(2.5Y8/1)シルト（明黄褐色(10YR7/6)ブロック状に含む）
18. 灰色(10YR6/1)シルト(粘性強い)（灰色(7.5Y4/1)シルトをブロック状に含む 自然木含む）
19. 17と同じ
20. 灰色(10Y6/1)シルト(自然木、有機質含む)
21. 明黄褐色(10YR7/6)粗砂(鉄分多い)
22. 23. 18と同じ
25. 灰色(7.5Y5/1)シルト(明黄褐色(10YR7/6)シルトをブロック状に含む 自然木含む)
26. 黄灰色(2.5Y5/1)シルト(鉄多い)
27. 21と同じ
28. 灰色(5Y6/1)粗砂
29. 黄色(2.5Y8/6)粗砂
30. 21と同じ
31. 橙色粗砂(φ0.5～10cm小礫・鉄分含む)溝の底

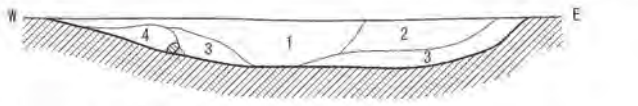
溝３（1019）



1. 明黄褐色(2.5Y7/6)細砂(鉄分少量含む)
2. 灰白色(2.5Y7/1)シルト（鉄分　黒色(2.5Y2/1)シルトブロックを含む）
3. 黄灰色(2.5Y6/1)シルト(黒色(2.5Y2/1)シルトブロック含む)
4. 3と同じ
5. 灰白色(2.5Y7/1)シルト(鉄分、黒色(2.5Y2/1)シルトブロック含む)
6. 灰白色(2.5Y8/1)シルト
7. 灰白色(2.5Y7/1)シルト(鉄分　明黄褐色(2.5Y7/6)シルトブロックを含む)
8. 淡黄色(2.5Y8/4)中砂(明黄褐色(2.5Y7/6)シルトブロック　小礫3～1cm含む)
9. 6とほぼ同じ
10. 黄灰色(2.5Y6/1)シルト(明黄褐色(2.5Y7/6)シルト　黒色(2.5Y2/1)シルトブロックを含む)
11. 灰黄色(2.5Y7/2)シルト(明黄褐色(2.5Y7/6)シルト　黒色(2.5Y2/1)シルトブロックを含む)
12. 灰色(10Y6/1)シルト(粘性強い)
13. 12と同じ
14. 灰色(7.5Y6/1)シルト
15. 14と同じ
16. 灰色(7.5Y5/1)シルト(粘性強い)
17. 灰色(7.5Y6/1)シルト(黒色(2.5Y2/1)シルトブロック　明黄褐色(2.5Y7/6)シルトブロック含む)
18. 17と同じ
19. オリーブ黒色(7.5Y3/2)シルト
20. 15と同じ
21. オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト(明黄褐色(2.5Y7/6)シルトブロック含む)
22. 灰色(7.5Y4/1)シルト
23. 灰色(5Y4/1)シルト(明黄褐色(2.5Y7/6)シルトブロック含む)
24. 灰白色(7.5Y7/1)シルト(明黄褐色(2.5Y7/6)シルトブロック含む)
25. 灰白色(10Y7/1)シルト(粘性強い　鉄分含む)

1. 灰黄色(2.5Y7/2)中砂(φ3～1cmの小礫・風化礫含む)
2. 淡黄色(2.5Y8/4)シルト(φ3～1cmの風化礫含む)
3. 灰白色(2.5Y7/1)粗砂(φ3～1cmの小礫・風化礫含む)
4. 淡黄色(2.5Y8/3)シルト
5. 浅黄橙色(10YR8/3)シルト
6. にぶい黄橙色(10YR6/3)粗砂(φ5～1cmの小礫多く含む)
7. 灰白色(10YR7/1)粗砂(φ1～0.5cmの小礫含む)
8. 灰黄色(2.5Y7/4)粗砂(φ1～0.5cmの小礫含む)
9. 灰黄色(2.5Y7/4)粗砂(風化礫φ3cm多く含む)
10. 浅黄色(2.5Y7/4)粗砂(φ5～1cmの礫多く含む)
11. 浅黄色(2.5Y8/4)シルト(鉄分含む)
12. 灰黄色(2.5Y7/2)中砂(φ1～3cmの小礫含む)
13. 浅黄色(2.5Y7/4)中砂(φ1～0.5cmの小礫多く含む)
14. 灰黄色(2.5Y6/2)粗砂(φ5～1cmの小礫多く含む)

自然流路３（1002）



1. 灰オリーブ色(5Y6/2)砂質土
2. 灰黄褐色(10YR5/2)シルト（φ1mm弱の炭化粒　極微量含む）
3. 灰オリーブ(5Y6/2)シルト
4. 灰オリーブ(5Y5/2)粗砂礫

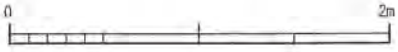
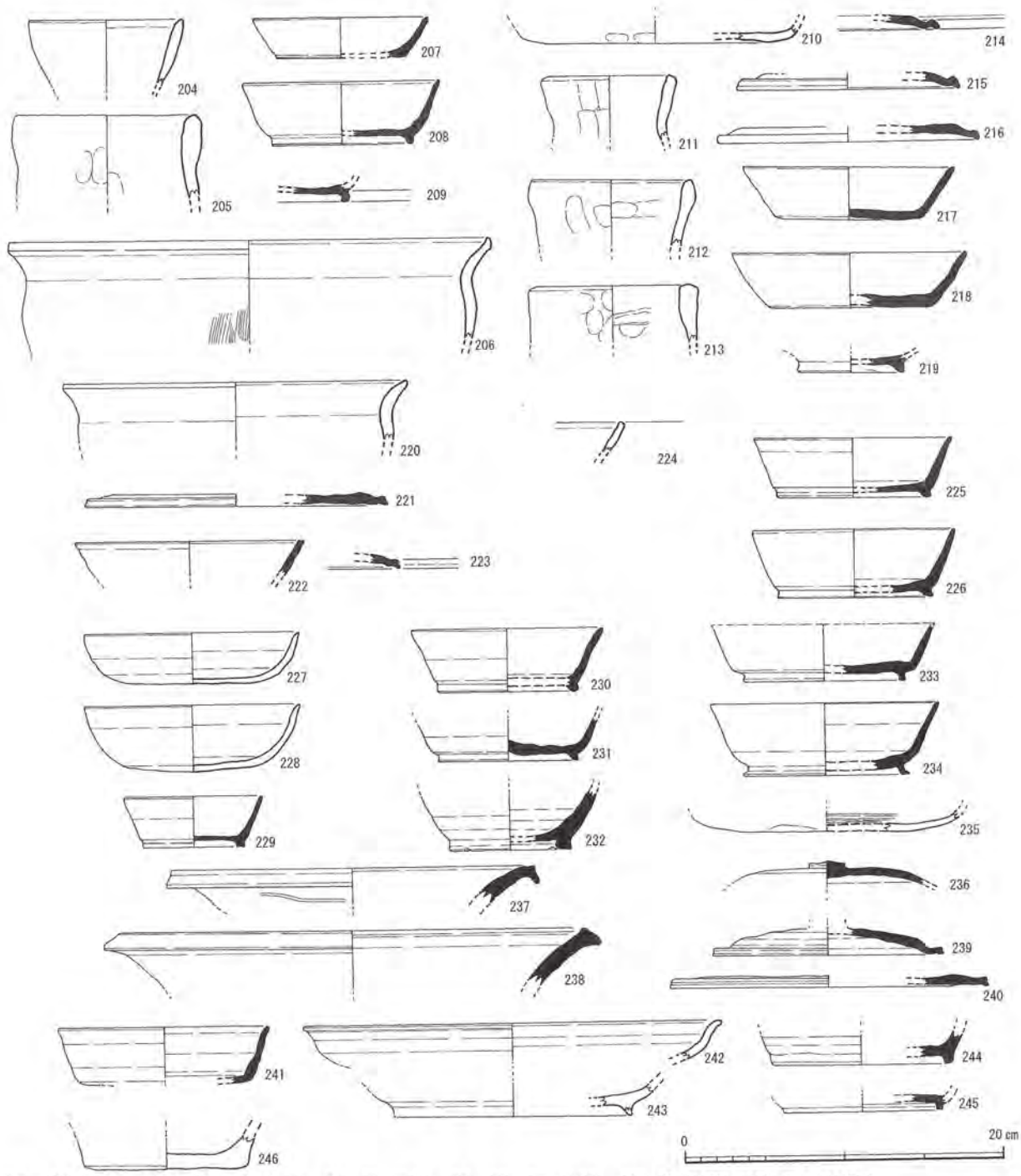


図139　土坑５、溝３・４、自然流路３断面図　(S＝1/40)



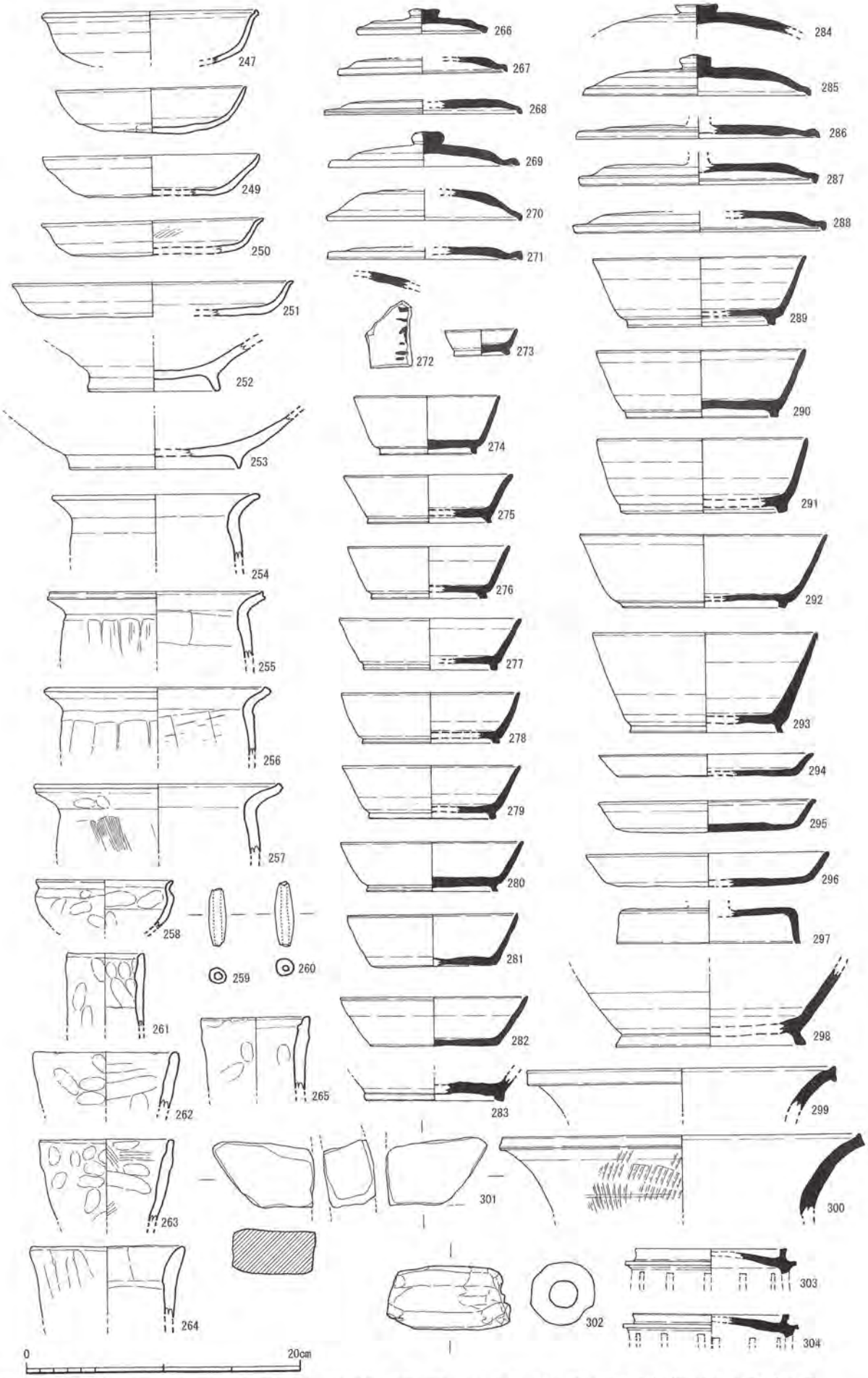
204～209：掘立柱建物６【204：P3（1172） 205：P1（1170） 206・208：P5（1138） 207：P7（1173） 209：P4（1137）】
210～219：掘立柱建物７【210：P12（1136） 211：P7（1131） 212・214～217：P6（1130） 213：P5（1129） 218：P11（1135） 219：P9（1133）】
220～223：掘立柱建物９【220：P10（1031） 221・222：P5（1026） 223：P3（1024）】
224：掘立柱建物10【224：P3（1045）】 225・226：落ち込み１（1274） 227～229：ピット４（1245） 230：ピット５（1237）
231：ピット６（1263） 232：土坑５（1247） 233：ピット７（1243） 234：ピット８（1239） 235・236：ピット９（1241）
237・238：溝２（1041） 239～245：溝４（1105） 246：自然流路３（1002）

図140　掘立柱建物６・７・９・10、落ち込み１、ピット４～９、土坑５、溝２・４、自然流路３出土土器

られない。時期は不明である。（303・304）は圏脚円面硯の硯面から縁部にかけての破片である。10方向に復元できる長方形透かしをもつ。

４．縄文時代の遺構と遺物

自然流路３（1002）調査区南西で検出した自然流路である。南北方向に流れる自然流路を一部検出し、遺構は調査区外の南へとさらに延びる。幅2.5ｍ、深さ0.25ｍを測る。遺構底面は南側に傾斜する。遺構埋土から縄文土器深鉢（246）が出土している。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。



247・251～254・257・259～262・266・267・270・272・273・276～279・282～285・287～289・293～295・299・300・303：包含層第３層
248～250・255・256・258・263～265・268・269・271・274・275・280・281・286・290～292・296～298・301・302・304：包含層第４－１層

図 141　掘立柱建物（古代）周辺出土土器・土製品

第３節　丁ノ町・妙寺遺跡（07－２区）の調査成果

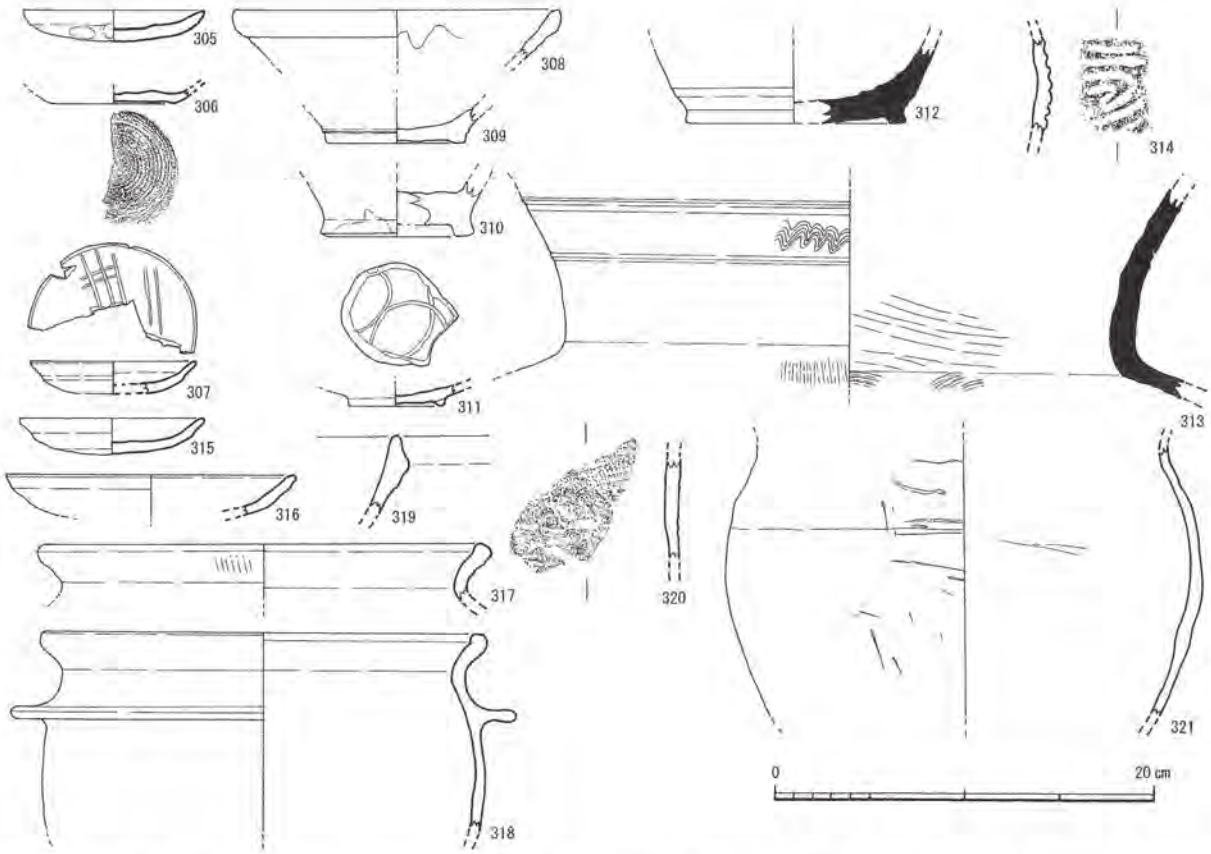
１．調査区の概要

丁ノ町・妙寺遺跡（07－２区）は、第２次調査地の中央に位置する調査区である。07－１区と同様に緩斜面上に位置し、斜面は雛段状に造成され果樹園として利用されていた。造成段は最も高い位置から計４段を数える。また、舌状に延びた中位段丘の先端と東側谷部にも調査区を設定した。遺構面は第３層下面で遺構検出を行い、07－２区の北西（２－１区）では第５層下面で一部遺構検出を行った。

後世の造成により削平を受け、検出できた遺構は少ない。しかし、07－２区の北西の造成段上では、焼成土坑を伴う掘立柱建物や焼成土坑等、削平を免れた中世の遺構を検出できた。調査区南側では耕作に伴う溝を良好な形で検出し、07－２区北側で縄文時代後期・晩期の土坑を検出している。また、東側谷部の調査区では、谷を流れる自然流路とそれに伴う石組み護岸を検出している。中世の遺構は第３層下面、縄文時代の遺構は第５層下面で検出した。

２．中世の遺構と遺物

掘立柱建物 11（2372）（図 142・144）　07－２区の北西（２－３・４区）で検出した掘立柱建物である。南半は段の造成により削平され、中世の造成以前に機能していた建物と考えられる。柱穴は２基のみの検出であるが、建物の周囲にはコの字形に区画溝が巡るため、掘立柱建物と判断した。建物の規模は南北 4.2 ｍ以上、東西 10.4 ｍで、区画溝の幅は 0.3 ｍを測る。



305～314：包含層第３層　315：掘立柱建物 11（2372）P１（2376）　316・317：掘立柱建物 11（2372）　318：掘立柱建物 11（2372）P２（2375）
319：耕作痕１（2048）　320：土坑７（2001）　321：土坑８（2002）

図 142　包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 07－２区）、掘立柱建物 11、耕作痕１、土坑７・８出土土器

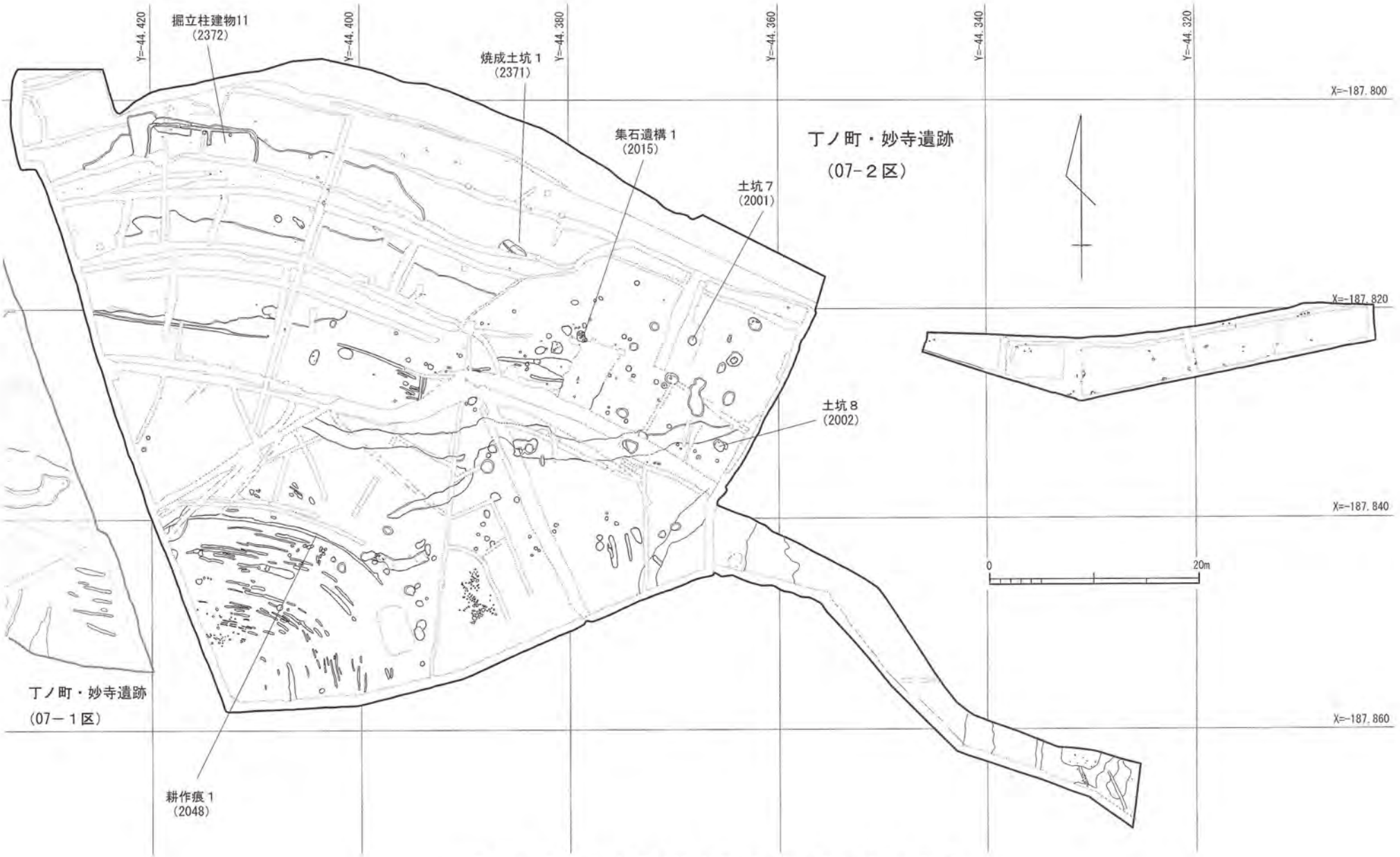


図 143　丁ノ町・妙寺遺跡（07－２区）全体図（S=1/500）

区画溝の北側中央には、建物床面へと延びる排水溝が取り付き、区画溝の北西には、炭化物・焼土を多量に含む焼成土坑が溝の上部に重複する。焼成土坑は南北1.5m、東西3.7m、深さ0.2mを測り、平面形は長方形を呈し、区画溝に伴うものとみられる。柱穴掘形は直径0.3～0.4m、深さ0.15m根石と思われる直径10cm程度の亜円礫を伴う。掘立柱建物11は焼成土坑を伴うことから、何らかの焼成を伴った工房のような性格を持つ建物であると考えられる。

遺物は、区画内から土師器皿（316）・甕（317）、柱穴から土師器皿（315）・羽釜（318）が出土しており、遺構の時期は、平安時代末から鎌倉時代（12世紀後半）と考えられる。

焼成土坑1（2371）（図145） 掘立柱建物11の東で検出した焼成土坑である。南半は段の造成により削平される。南北0.9m、東西2.7m、深さ0.2mを測り、平面形は長方形を呈すると思われる。土坑底面には長さ1.5m、幅0.15mの小溝が伴う。土坑埋土は2層に分けられ上層は炭化物がまばらに、下層は炭化物が多量に混じる。土坑底面は中央部分が焼け硬化する。

遺構の南半は削平を受け不明だが、焼成土坑の規模が同じであり、小溝を伴うことから、掘立柱建物11と同様の遺構であったと考えられる。なお、焼成土坑1出土の炭化物は樹種同定を行い、樹種はコナラ属クヌギ節という結果が得られている。

耕作痕1（2048）（図142） 調査区南側（2－1区）の造成段下の平坦地で検出した耕作に伴う溝である。耕作痕1より南は耕作に伴う鋤溝が地形に沿って扇状に広がる。耕作に伴う溝は上層の第3層の耕作土に伴う鋤溝で、幅20～30cm、深さ10cmを測る。耕作痕の東側には周辺では牛馬と思われる足跡が集中して遺存する箇所が見られる。07－1区・07－2区全域では耕作に伴う溝が検出されている。耕作痕1からは土師器、瓦質土器（319）が出土し、出土遺物、層位関係から、室町時代（14世紀）と考えられる。

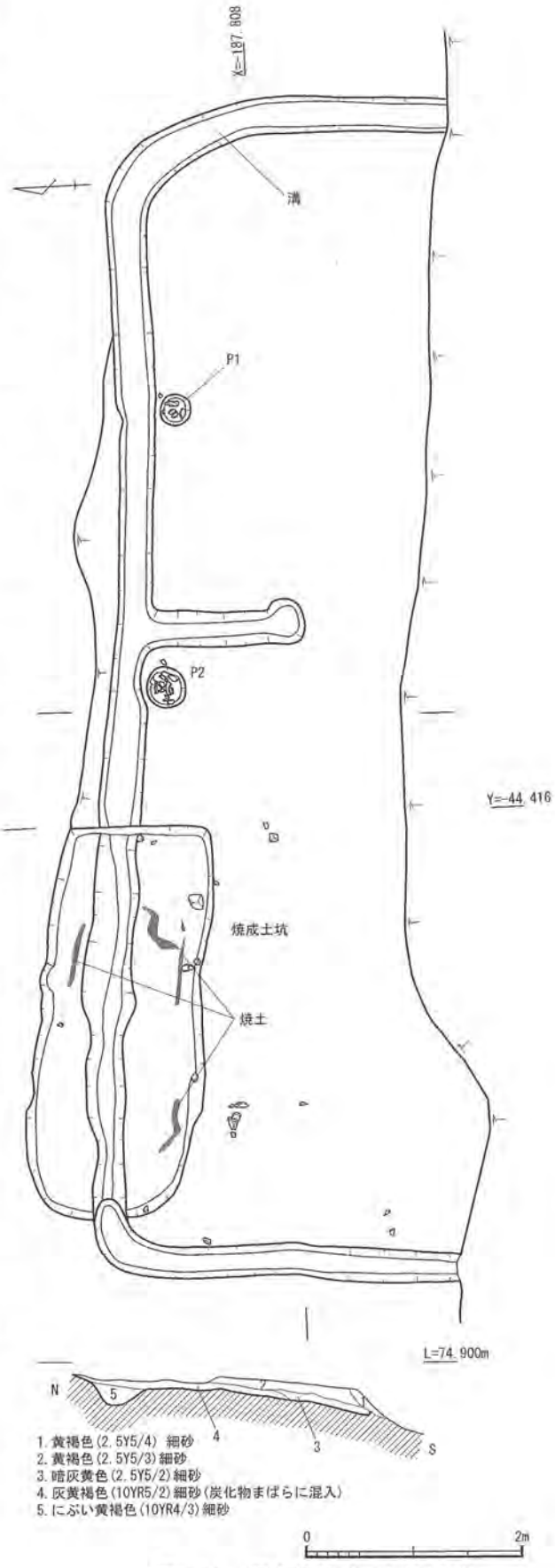


図144 掘立柱建物11（2327）
平面図・断面図 （S＝1/60）



図 145　焼成土坑 1（2371）平面図・断面図　(S=1/30)

自然流路 4 ～ 6（2984～2986）　07－2 区の最も東の調査区（2－9・10 区）では、自然流路流路 4・5 と護岸とみられる石列と、調査区西半に広がる整地層を検出した。石列は、円礫を並べた簡素なものである。北側の 1 m程はほぼ原位置をとどめるが、その南側は若干散乱した状態である。この石列からの出土遺物はほとんどなく、詳細な時期は確定できない。

また、調査区西半の整地層の下には、自然流路 6 が存在し部分的に石列が検出された。そのため、何時期かにわたって自然流路の護岸が行われていたと考えられる。

3．縄文時代の遺構と遺物

集石遺構 1（2015）（図 146）　07 －2 区の北側（2－1 区）5 層下面で検出した集石遺構である。長径 1.4 m、短径 1.1 m、深さ 0.3 mを測り、平面形は長楕円形を呈し、直径 20～30 ㎝大の円礫が集中する。埋土内には炭化物をごく少量含むが、遺物の出土は見られない。被熱痕等もみられない。集石遺構 1 の時期は不明であるが、後述する 07－3 区の縄文時代の集石遺構と類似し、縄文時代の遺構の可能性がある。

土坑 7（2001）（図 142･図 146）　07 －2 区の北側（2－1 区）の試掘トレンチ下面で検出した。層位は第 5 層下面で検出した。長径 0.65 m、短径 0.6 mを測り、平面形は円形を呈する土坑である。土坑上層から磨消縄文を施した縄文土器深鉢（320）が出土した。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

土坑 8（2002）（図 142・図 146）　土坑 7 の南東約 10 mの地点で検出した。長径 1.35 m、短径 0.9 mを測り、平面形は楕円形を呈する土坑である。埋土はにぶい黄色の細砂であり、直径 5～10 ㎝大の亜円礫、風化礫を含む。土坑埋土から縄文土器深鉢（321）が出土している。（321）の外面はケズリによる。遺構の時期は、縄文時代晩期（長原式）と考えられる。

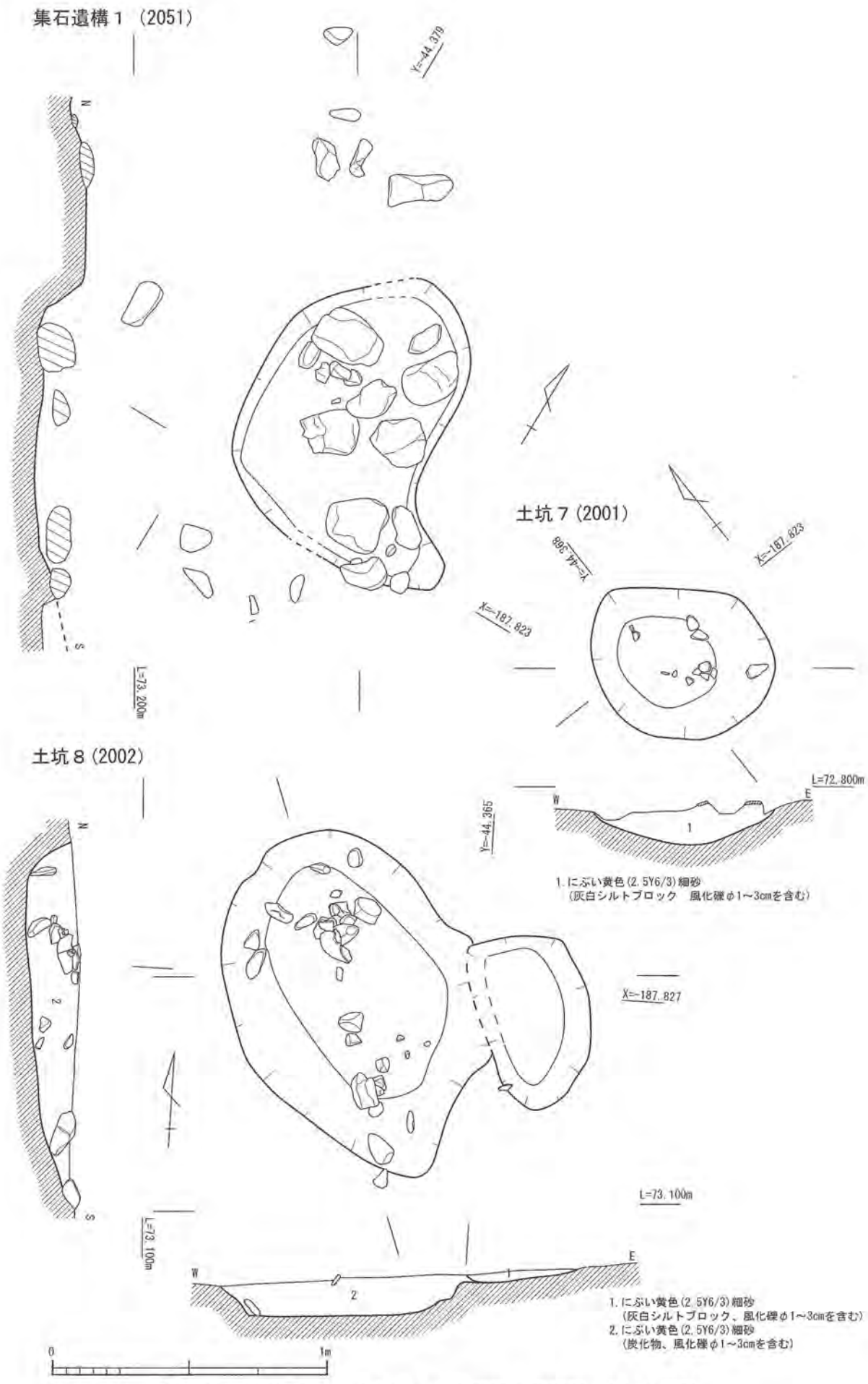


図 146　集石遺構１、土坑７・８平面図・断面図　(S＝1/20)

第４節　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）の調査成果

１．調査区の概要

丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）は、第２次調査地の最も東に位置する調査区である。調査地は北方向から南方向へ緩やかな傾斜があり、調査区西側の中位段丘東側の谷と、調査区東側の谷に挟まれた微高地上に位置する。調査区の東西は現有道路となっている。地形の高い調査区北側は近現代の撹乱が顕著で、暗渠排水溝が南北に走る。一方、07－３区の南側を中心に、古代から古墳時代、弥生時代、縄文時代の各時期の遺物包含層が良好に残存しており、複数の遺構面を検出した。

中世の遺物包含層である第３層下面では、中世から古代末の遺構面が認められ、自然流路、多数の溝を検出した。さらに下層の第４－２a層下面では、古代の遺構面が認められ、焼成土坑（焼成土坑２・３）を検出した。また、07－３区中央から東半にかけて第４－２b層が分布し、その下面で古墳時代中期から弥生時代後期の遺構面を形成する。第４－２b層下面では、古墳時代中期の竪穴建物４棟、および古墳時代前期の溝、土坑を検出している。

第４－３層下面では、弥生時代中期の遺構面が広がり、大規模な自然流路や土坑を検出した。07－３区西半では、第４－４層下面では弥生時代中期から弥生時代後期の遺構面が存在し、竪穴建物６棟、土坑、ピットを検出した。07－３区東半では大規模な自然流路が南北に貫流しており、一部下層確認にとどめたが、遺物の出土は極めて少ない。なお、第４－４層までの遺構面は航空写真測量のため同一面で記録している。

また、第５層下面では、縄文時代後期を中心とする遺構面を確認し、竪穴建物３棟、配石遺構２基、埋設土器４基、集石遺構10基、土坑等を検出した。さらに下層の第６層下面においても縄文時代後期の溝を検出している。

２．中世の遺構と遺物

溝５（3008）（図151）　07－３区西半の北側で、自然流路７から南方向へ分流する溝を検出した。溝５は幅1.5ｍ、深さ0.8ｍを測り、北方向から南方向へ流れる。溝底面には直径３～20㎝大の円礫が存在する。下層は細砂～シルト層、上層は粗砂～細砂層が堆積する。

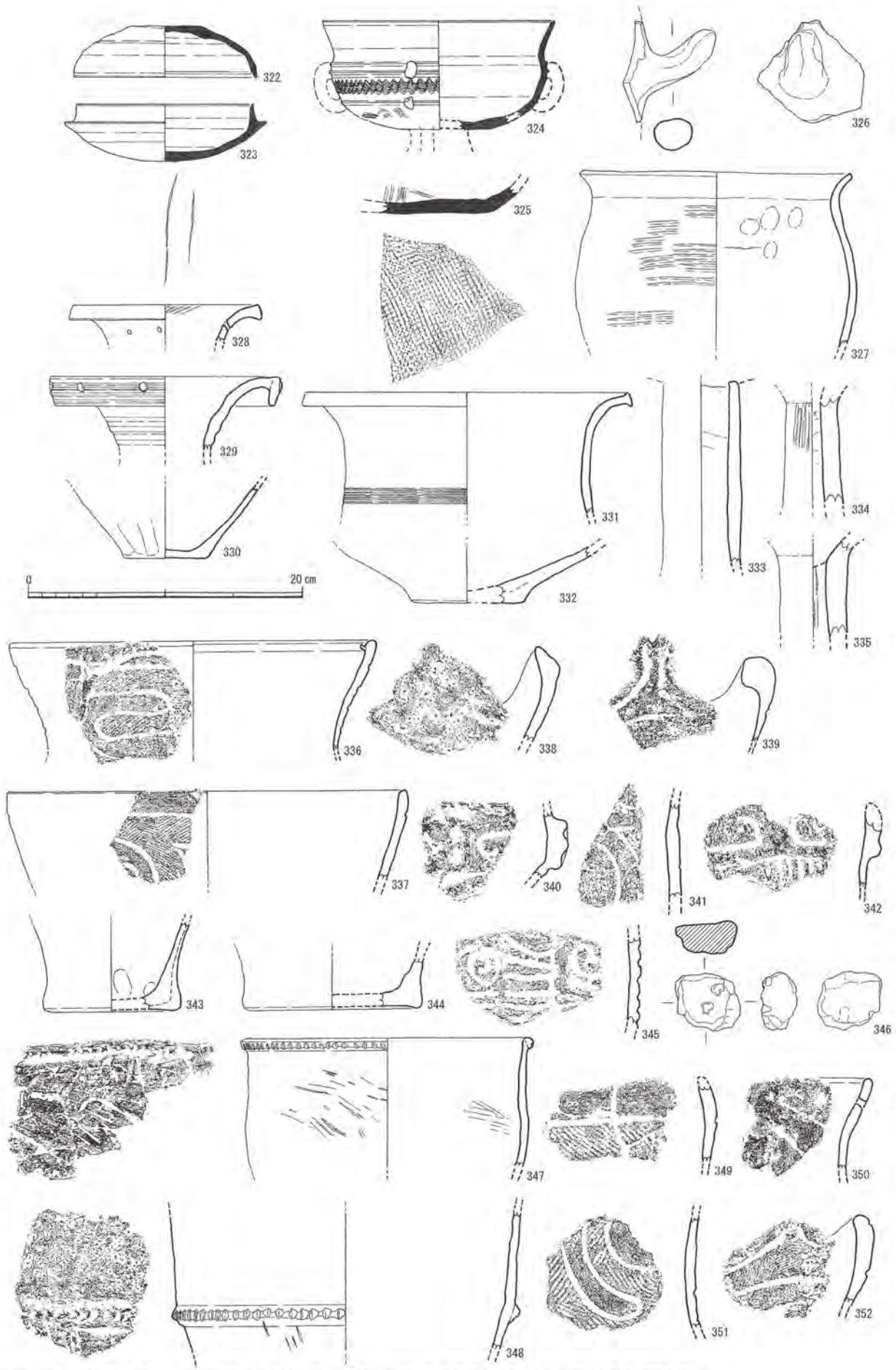
この溝５と自然流路７の接続部には、腐食が進行しているものの、木樋（Ｗ６）が遺存していた。木樋は木材を刳り貫いて、木蓋を被せたもので、長さ4.0ｍ、幅0.15ｍ、高さ0.15ｍを測る。自然流路７と溝５の関係から、自然流路７で水量調整された水流はこの木樋を通じて南側へ流されたものと見られる。遺構の時期は、自然流路７と同様に平安時代後期～鎌倉時代（12世紀後半）と考えられる。

自然流路７（3010）（図149・図150・図152）　07－３区の北西に位置し、幅6.0～7.0ｍ、深さ1.2ｍを測る北東方向から西南西方向に流れる自然流路である。07－４区においてもこの自然流路の続きを一部検出したが、後世の撹乱により大部分は失われていた。土層断面の観察から溝は大きく３時期にわたって機能していたと見られ、埋土は砂礫層、シルト層が交互に堆積している。おそらく規模、方向を変えながら、幾度も流水と堆積を繰り返していたと考えられる。

自然流路の底面と肩部には、木杭が多数打たれている。肩部に打たれた杭は、不規則な間隔で垂直に打たれ、溝の肩部を保護する護岸の機能を持つと考えられる。一方、底面に打たれた杭は、溝の南半と北半部分において規則的に並ぶ杭列となり、底面に対して垂直に打たれる。遺存状況の良好な箇所では、杭列は上流側に開口するコの字形を呈する。底面に打たれた杭列は、直交す



図 147　丁ノ町・妙寺遺跡（07－２区・07－３区・07－４区）上層遺構面　全体図（S=1/500）



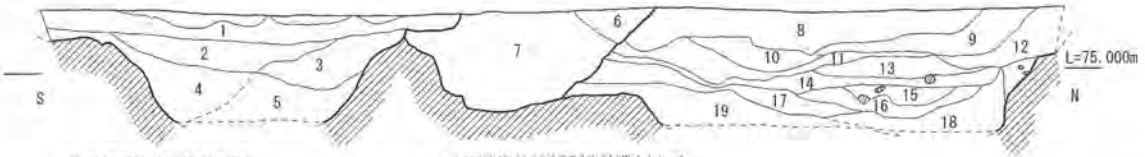
322・323：包含層第３層　324～335：包含層４層　336～348：包含層第５層　349～352：包含層第６層

図 148　包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 07－３区）出土土器・土製品



図 149　自然流路７（3010）平面図・立面図　（S＝1/80）

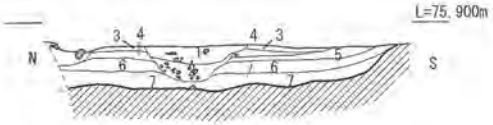
自然流路７（3010）西半部南北断面（S=1/60）



1. 灰黄褐色(10YR6/2)細砂
2. 灰黄褐色(10YR6/2)砂礫(褐灰色微砂混、φ1～3cm
3. 明褐色(10YR5/1)細砂
4. 明褐色(10YR5/1)砂礫
5. 褐灰色（N6I）＋灰色細砂(砂礫流)
6. 灰黄褐色細砂混　砂礫
7. 明黄褐色(10YR6/6)砂礫φ1～10cm(ほぼ礫)
8. 明黄褐色(10YR7/6)砂礫(φ1cm)
9. 灰黄褐色(10YR6/2)砂礫
10. 明褐色(7.5YR5/6)砂礫(φ1～3cm)
11. にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂(純砂質)
12. 黄褐色(10YR5/6)細砂
13. 暗青灰色(5PB3/1)シルト(黄ブロック含む)
14. 青灰色(5PB2/1)シルト(黄ブロック含む)
15. 黄褐色(10YR5/6)細砂(礫混)
16. 暗青灰色(黄ブロック混)
17. 暗灰色(5PB4/1)シルト(粘性強い)
18. 暗青灰色(5PB4/1)シルト(黄ブロック、黄褐色土含む)
19. 青灰色(5B6/1)粗砂＋シルト(礫混)φ1～3cm

0　2m

自然流路７（3010）東半部南北断面（S=1/40）



1. 褐灰色(10YR6/1)～灰黄褐色(10YR6/2)砂礫
(砂層がブロック状に入る)
2. 灰黄褐色(10YR6/2)砂礫(φ1～3cm、礫多い)
3. 明黄褐色(10YR6/8)砂礫(φ1～3cm砂岩多い)
4. 褐灰色(10YR6/1)中砂
5. 明黄褐色(10YR6/8)細砂(純砂質)
6. 明青灰色(5B7/1)シルト(鉄分含む)
7. 青灰色(5B5/1)粘土(鉄分含)

0　2m

自然流路７（3010）東半部（S=1/40）

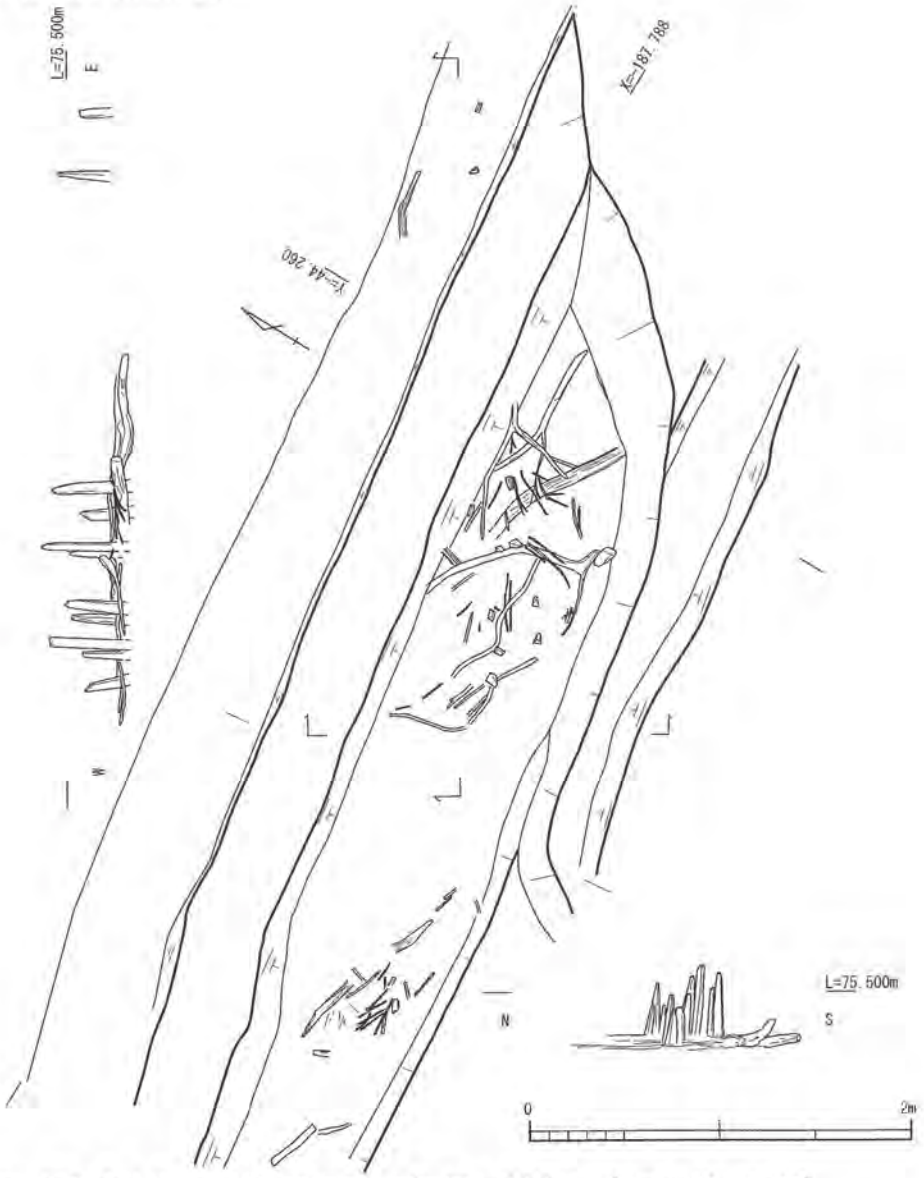


図 150　自然流路７（3010）平面図・断面図・立面図　（S＝1/40、1/60）

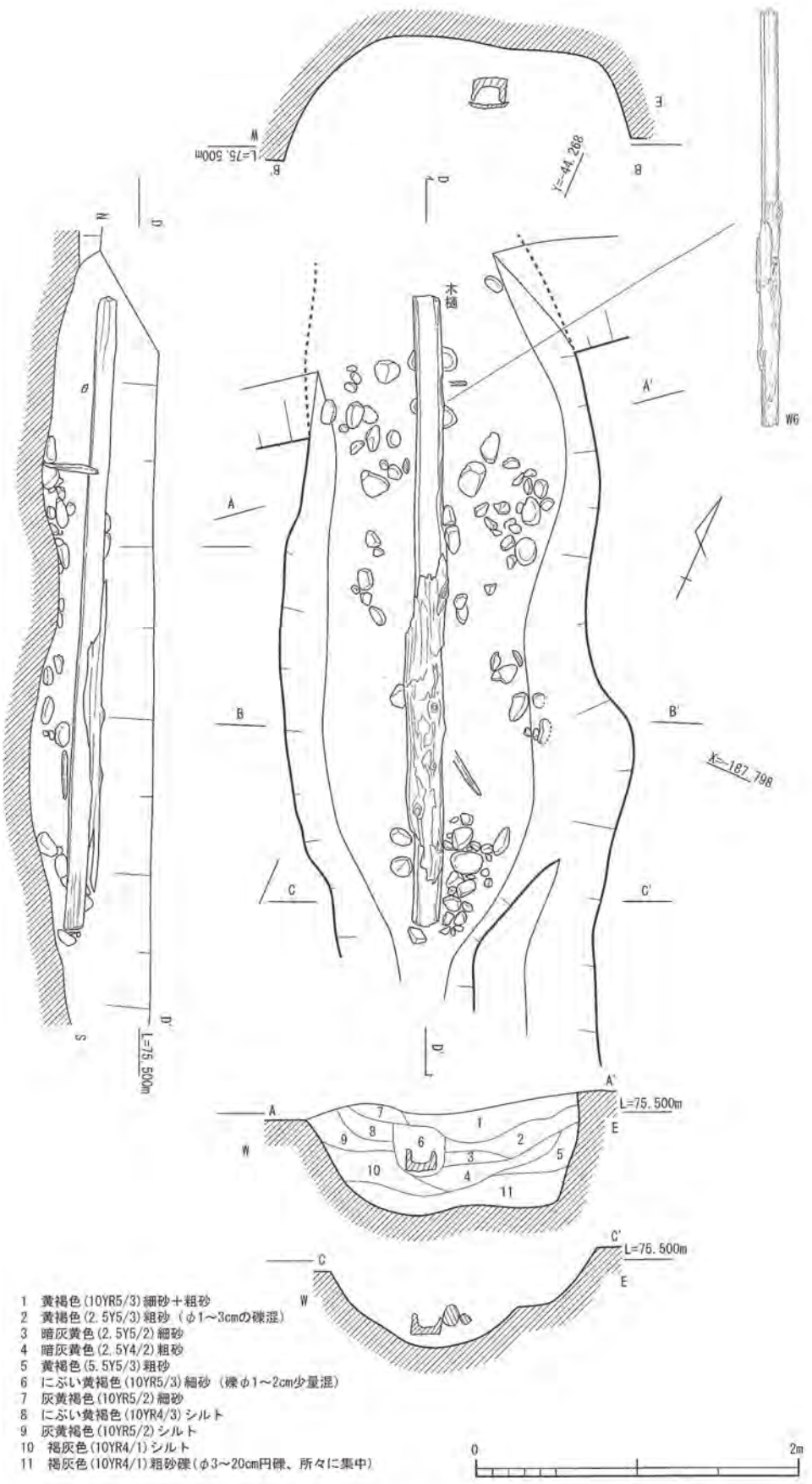
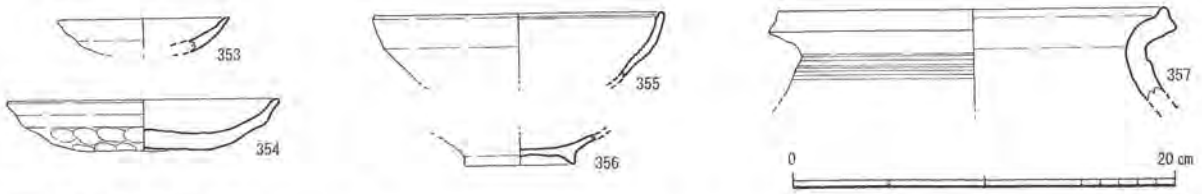


図 151　溝５（3008）平面図・断面図・立面図　（S＝1/40）



353～357：自然流路７（3010）

図 152　自然流路７（3010）出土土器

る形で杭や自然木が据えられていることから、水流を抑え土砂の堆積効果を目的とした水制の機能を持っていたと考えられる。他の溝が谷筋に沿って南北方向に流れるのに対して自然流路７のみが東西方向に流れる。溝５とともに自然流路７は、谷筋を流れる雨水を南方に流すため人工的に改変されたとみられる。

自然流路から遺物の出土は少ないが、土師器皿（353・354）、東播系須恵器甕（357）、瓦器椀（355・356）が出土している。また木製品は木杭（Ｗ２～Ｗ５）が出土している。遺構の時期は、平安時代後期～鎌倉時代（12 世紀後半）と考えられる。

３．古墳時代後期から古代の遺構と遺物

焼成土坑２(3005)（図 153）　07－３区西半の第４－２a 層下面で検出した。長径 1.8 m、短径 1.1 m、深さ 0.45 m を測り、平面形は長楕円形を呈する土坑である。埋土に炭化物を大量に含み、壁面は焼成を受け、赤褐色に赤変するため焼成土坑とした。

埋土は大きく４層に分けられ、底面よりやや上部から上層にかけて炭化物が厚く堆積する。炭化物層と壁面の赤変範囲は対応する。土坑底面は幅 10～20 ㎝程度の小穴が無数に穿たれ、凹凸が見られるが、赤変は認められない。土層断面の観察からは杭状のものが打ち込まれた痕跡が確認されるが、平面では検出できなかった。

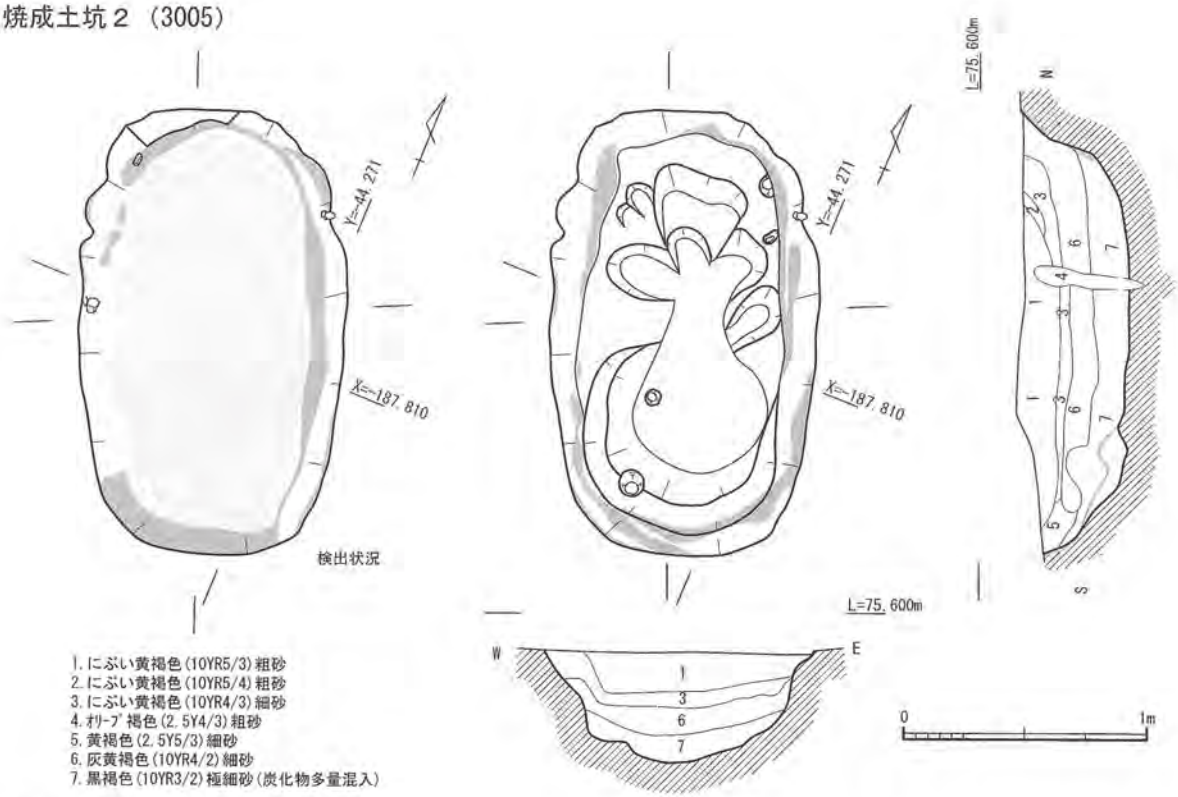
焼成土坑３（3006）（図 153）　焼成土坑２の東でこれに並列する形で検出した。長径 2.1 m、短径 1.15 m、深さ 0.45 m を測り、平面形は長楕円形を呈する土坑である。土坑壁面の赤変は焼成土坑５と比べ北半分のみに顕著である。埋土は焼成土坑２と同様に底面よりやや上部で炭化物層が広がる。土坑底面には小穴が無数に穿たれ、均一な平坦面をもたない。

焼成土坑２・３については出土遺物が見られず、土坑埋土の土壌水洗を行ったが顕著な遺物は得られなかった。検出遺構面である第４－２a 層下面の時期から判断すれば、遺構の時期は古墳時代後期から古代に相当すると考えられる。

また、焼成土坑２・３についてはその年代、性格を明らかにする目的で、考古地磁気年代推定、放射性炭素年代測定、出土炭化物の樹種同定を合わせて行った。熱残留磁化測定では、いずれの土坑も A.D.560 ± 25 年と A.D.780 年± 30 年という結果が得られている。放射性炭素年代測定ではコンタミネーションもみられるが、暦年代値で A.D.400～570 年、A.D.420～610 年という結果が得られた。２つの分析結果から、焼成土坑は古墳時代から古代にかけての時期の所産であり、検出層位から想定される時期と矛盾しない。炭化物の樹種はブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）とされる。

焼成土坑の用途について考えると、火葬墓、炭焼き窯、土器焼成土坑等が推定される。土坑底面が平坦ではなく、遺物の出土が皆無であること、後述する焼成土坑４・５についても同様に２基一対で存在するという遺構の検出状況が挙げられる。以上の分析結果と合わせて判断すれば、焼成土坑は炭焼き窯等の焼成施設である可能性が考えられる。

焼成土坑２（3005）



焼成土坑３（3006）

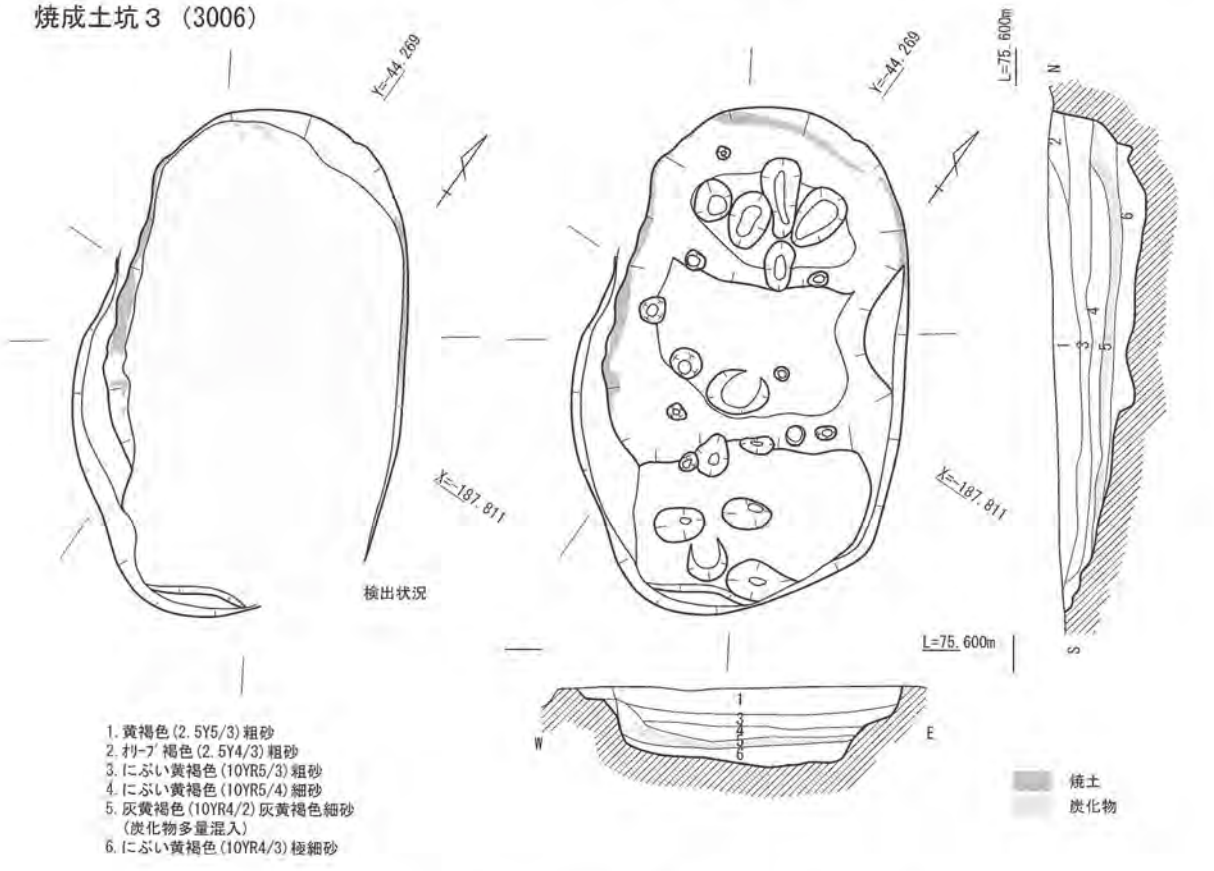


図 153　焼成土坑２・３平面図・断面図　(S＝1/30)

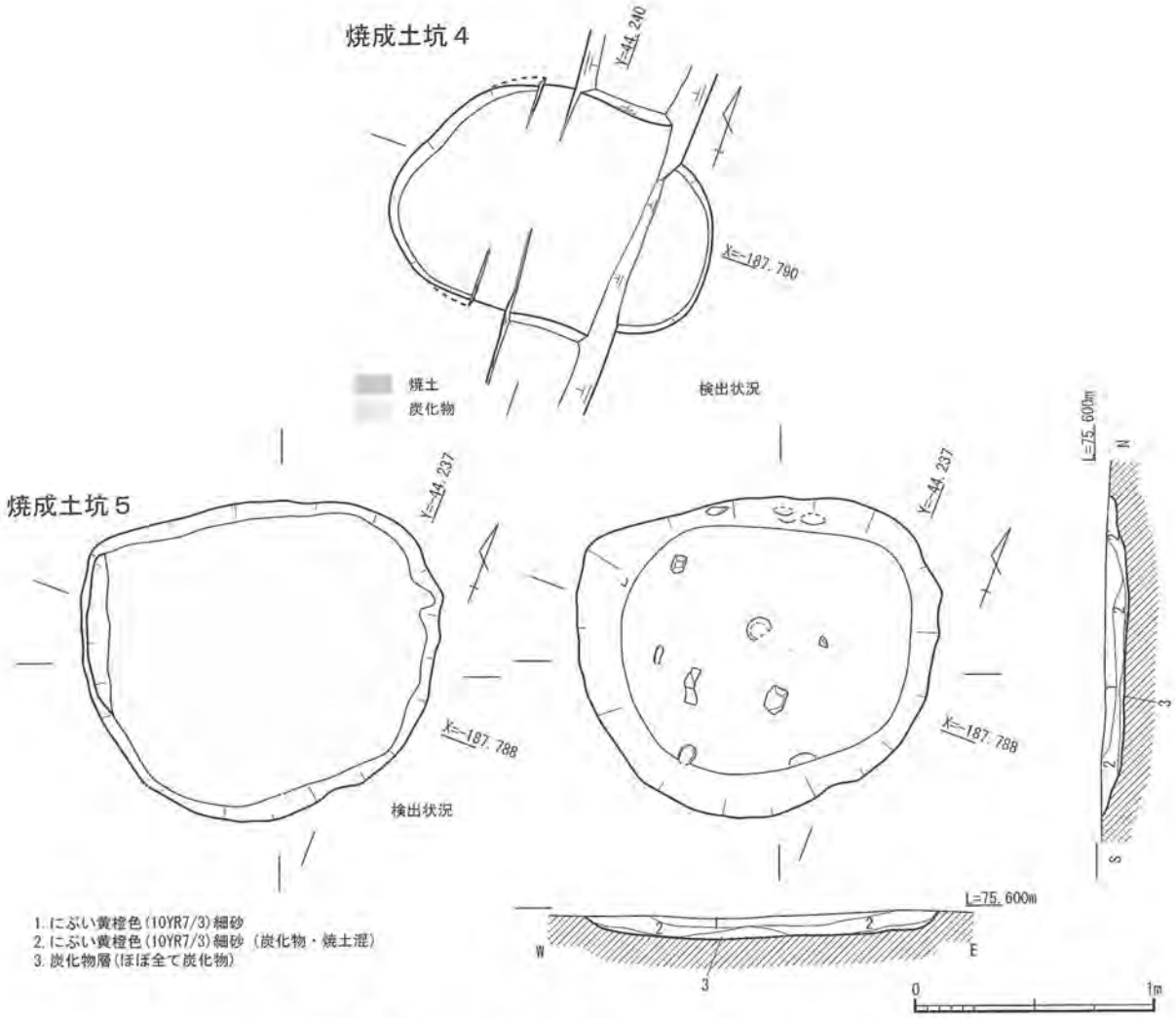


図 154　焼成土坑４・５平面図・断面図　(S=1/30)

焼成土坑４（3009）（図 154）　07－３区東半で検出した焼成土坑である。長径 1.35 m、短径 0.95 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土に炭化物を多量に含み、土坑底面はほぼすべて炭化物となる。焼成土坑２・３とは異なり土坑壁面の赤変は確認できない。遺物の出土は認められない。

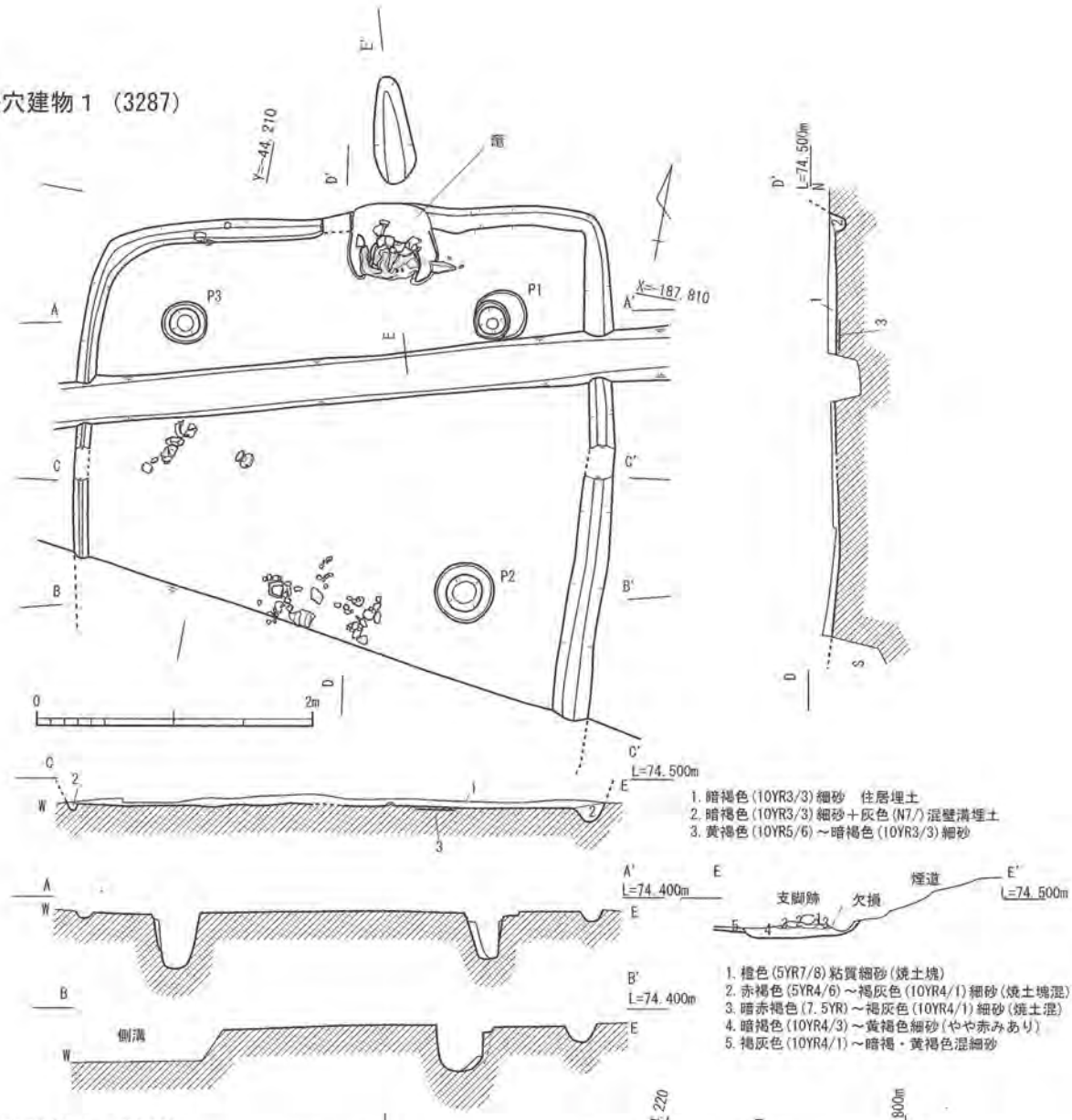
焼成土坑５（3282）（図 154）　焼成土坑４の北東で検出した焼成土坑である。長径 1.5 m、短径 1.3 m、深さ 0.1 mを測り、平面形は楕円形を呈する。焼成土坑４と同様に土坑壁面の赤変は確認できない。遺物の出土は認められない。

４．古墳時代前期から古墳時代中期の遺構と遺物

竪穴建物１（3287）（図 155・図 157）　07－３区西半では古墳時代中期の竪穴建物４棟を第４－２b 層下面で検出した。竪穴建物１は検出された竪穴建物の最も東に位置し、南端は調査区外となる。方形４本柱の竪穴建物で、建物の規模は南北 3.2 m以上、東西 4.0 mを測る。中世段階の造成により、建物上層の大部分は削平を受けている。

建物内部の構造は、幅 0.2 mの周壁溝および、柱穴３基と、住居北側に造り付け竈を備える。竈は燃焼部、袖部、煙道部が残存しており、燃焼部は長さ 0.6 m、幅 0.45 mで焼土塊が顕著に残る。袖部はわずかに残存しているのみで、地山削り出しによる。煙道部は長さ 1.3 m、幅 0.3 mの範囲で残存している。燃焼部では土師器、自然礫が検出されており、竈の支脚として用いられたと考えられる。床面からは遺物がまとまって出土している。遺物は、土師器甕（358～360）・直口

竪穴建物１（3287）



竪穴建物２（3292）

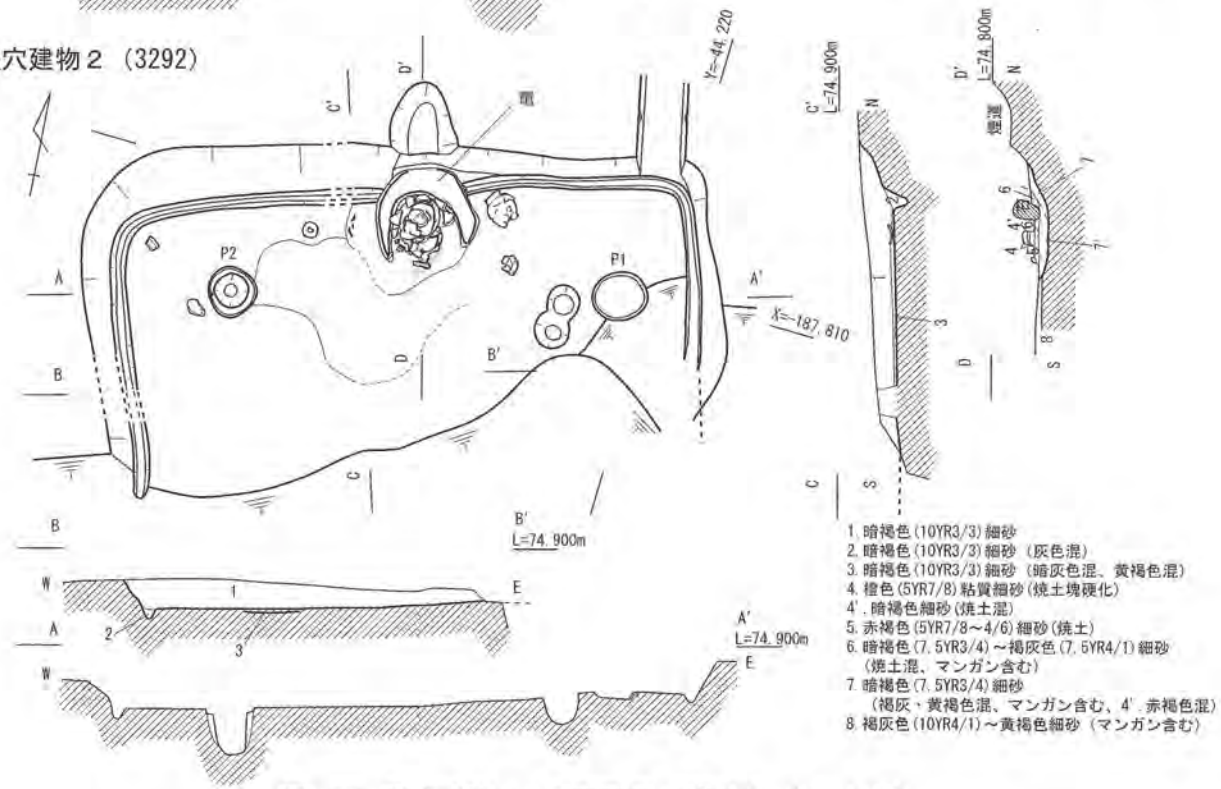
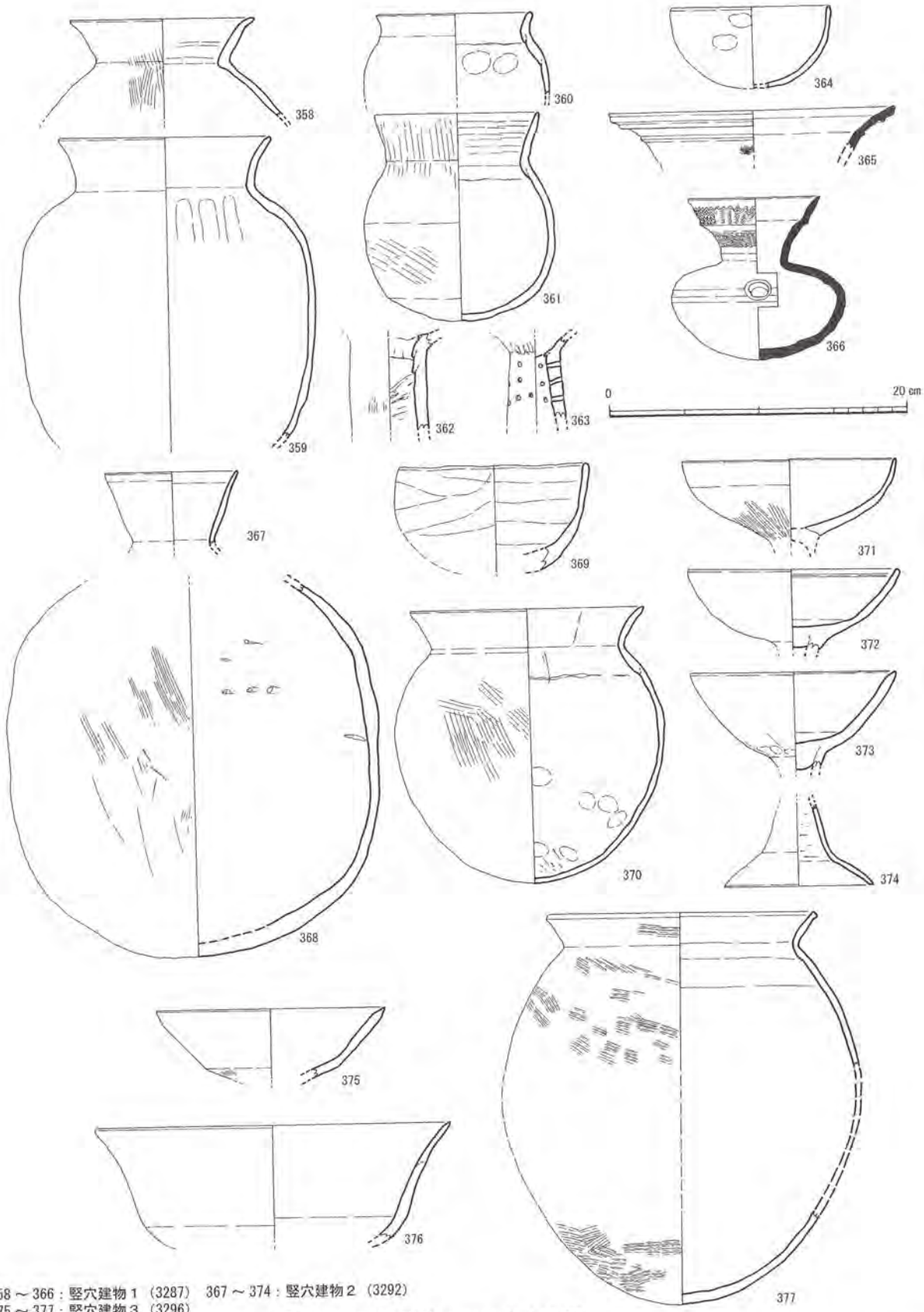


図155　竪穴建物１・２平面図・断面図　(S=1/50)

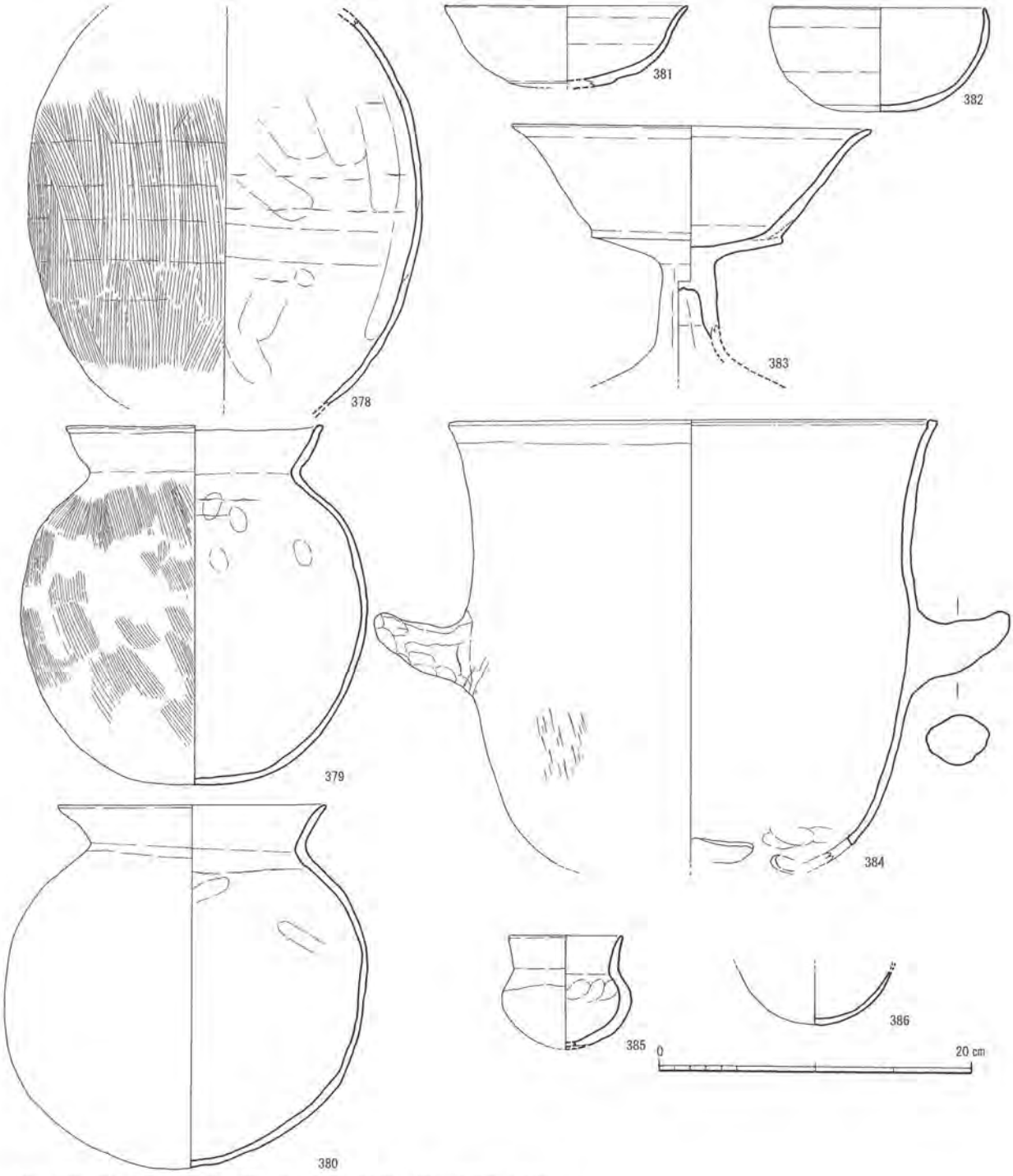


358～366：竪穴建物１（3287） 367～374：竪穴建物２（3292）
375～377：竪穴建物３（3296）

図157　竪穴建物１～３出土土器

遺物は、Ｖ様式形甕（403～407・409・410）・鉢（408）が出土している。遺構の時期は、古墳時代前期（庄内式～布留式前半）と考えられる。

ピット10（3086）（図158・図159）　07－３区中央北側で検出した。直径0.3ｍを測る円形のピットである。埋土からは土師器小型丸底壺（385）が出土した。遺構の時期は古墳時代前期（布



378～384：竪穴建物４（3300） 385：ピット10（3086） 386：土坑９（3125）

図158　竪穴建物4、土坑9、ピット10出土土器

留式前半）と考えられる。

溝６（3030）（図160・図161） 07－３区中央で検出した溝である。北西方向から南方向へと延びる溝と、それに接続する北東－南方向の溝を含めた。溝は幅3.2～1.5ｍ、深さ1.1ｍ程の自然流路の埋没途中で、幅１ｍ、深さ0.2ｍ程度の溝が掘削されたと考えており、溝の時期は土層断面の観察から、溝６以前の自然流路と、溝６古段階、新段階の３時期が考えられる。

溝埋土からは、土師器甕（392・397～400）・有稜高杯（387・388）・高杯（389・391）・小型丸底壺（393～395）が出土している。（390）は大型有段高杯の裾部と思われる。（396）は弥生土器で、下層流路からの混入品である。遺構の時期は、古墳時代中期（TK73型式～TK208型式）と考えられる。

自然流路８（3286）（図 161） 07－３区東半で検出した幅 6.0 ｍの自然流路で、南北方向に流れる２本の自然流路が合流する。07－３区東にかけて、自然流路が複数流れる谷地形であったと考えられ、遺構は完掘せず上面の検出だけにとどめた。上層からは須恵器甕（401・402）が出土している。（401・402）は平行タタキののち、水平に巡る圏線を施す。初源期の須恵器甕に多用される製作技法である。遺構の時期は、古墳時代中期（TK73 型式～TK208 型式）と考えられる。

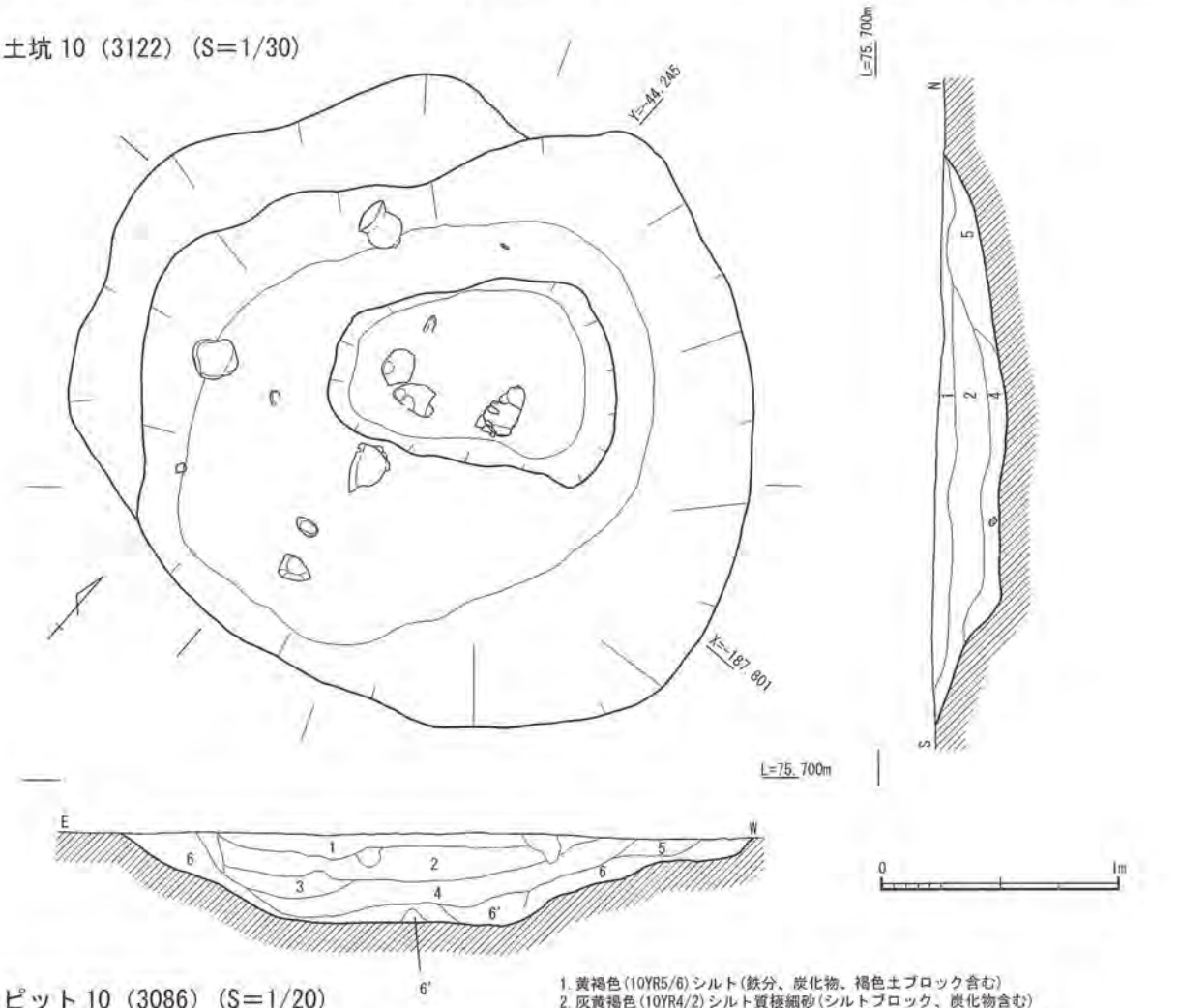
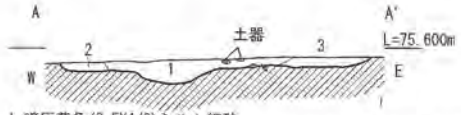
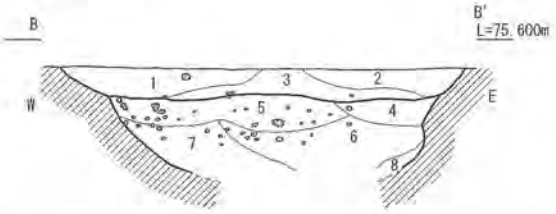


図 159　土坑 10、ピット 10 平面図・断面図　（S＝1/30、S＝1/20）



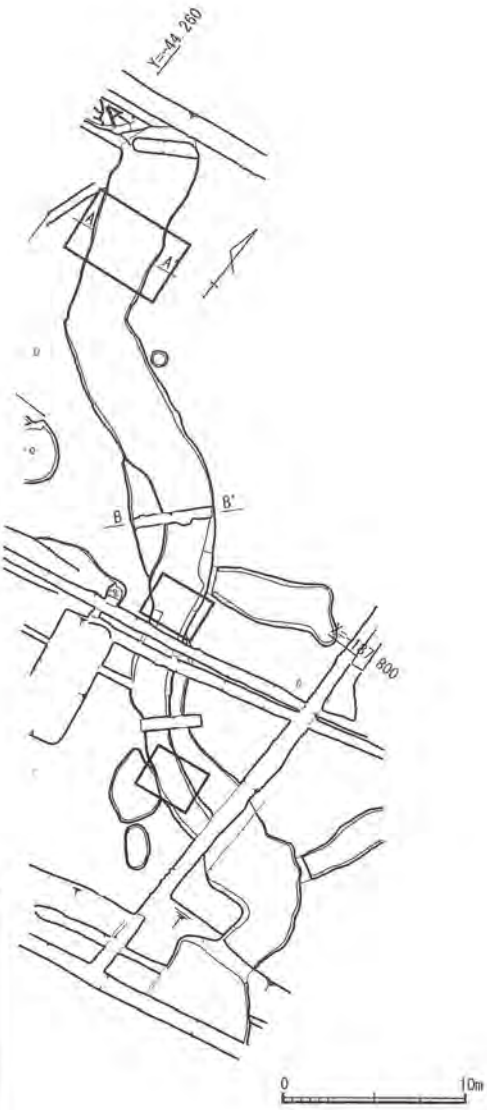
1. 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト細砂
（風化礫φ0.5～1cm少量・炭化物、灰白色(2.5Y8/1)シルトをブロック状に含む）
2. にぶい黄色系の砂(2.5Y6/4)
（灰白色(2.5Y8/1)シルトをブロック状に含む）
3. 黄褐色(2.5Y5/4)細砂
（φ1～3cmの明黄褐色(2.5Y6/6)の風化礫を多く含む
φ0.5～1cmの小礫）

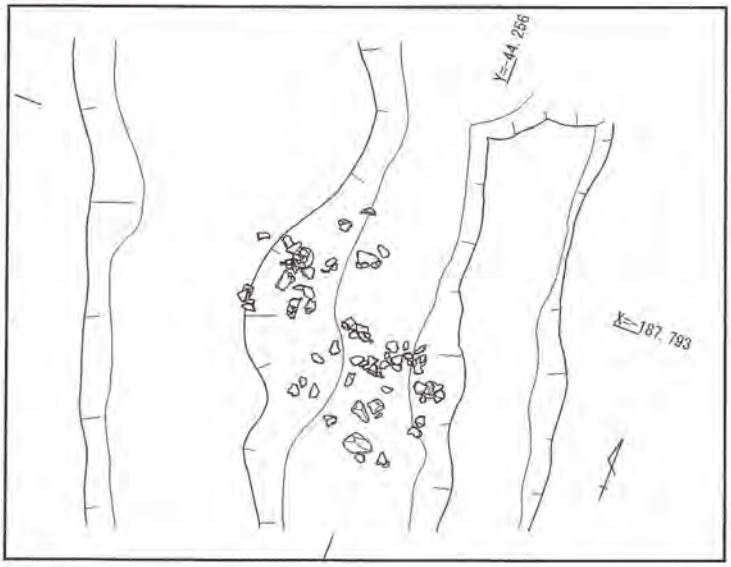


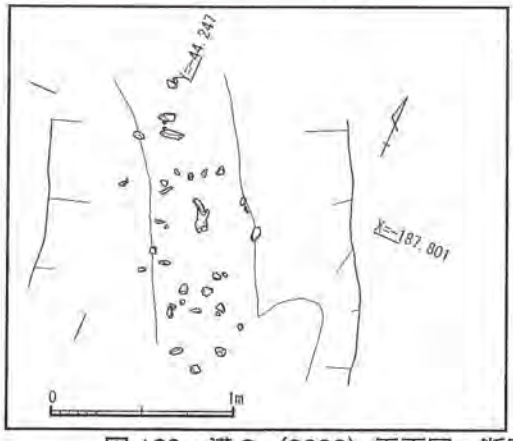
1. 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト～細砂
（風化礫φ1～0.5cm少量、炭化物、灰白色シルトブロックを含む）
2. 灰白色(5Y6/1)細砂～中砂（風化礫φ1～0.5少、にぶい黄色細砂混じる）
3. にぶい黄色(2.5Y6/4)細砂
（灰白色(2.5Y8/1)シルトをブロック状、風化礫φ1～0.5cm含む）
4. 灰白色(2.5Y7/1～)中～粗砂
5. 黄灰色(2.5Y6/1)中砂+砂礫
（φ5～1cmの風化礫(明黄褐色(2.5Y6/6)、φ3～1cmの小礫(白～灰)を多く含む）
6. 灰黄色(2.5Y6/2)中砂、(黄灰色(2.5Y6/1)中砂)
（φ5～1cmの風化礫(明黄褐色(2.5Y6/6)とφ3～1cm小礫を多く含む）
7. 灰色(5Y5/1)粗礫（風化礫φ1～2cm、小礫φ1～0.5cmを含む、6に比べ混じり小）
8. 灰色(5Y5/1)粗砂

溝6（3030）









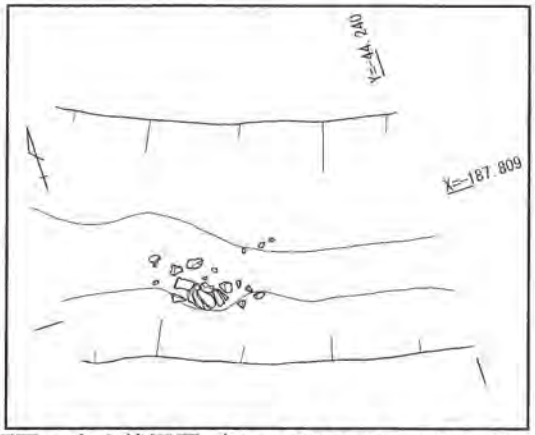
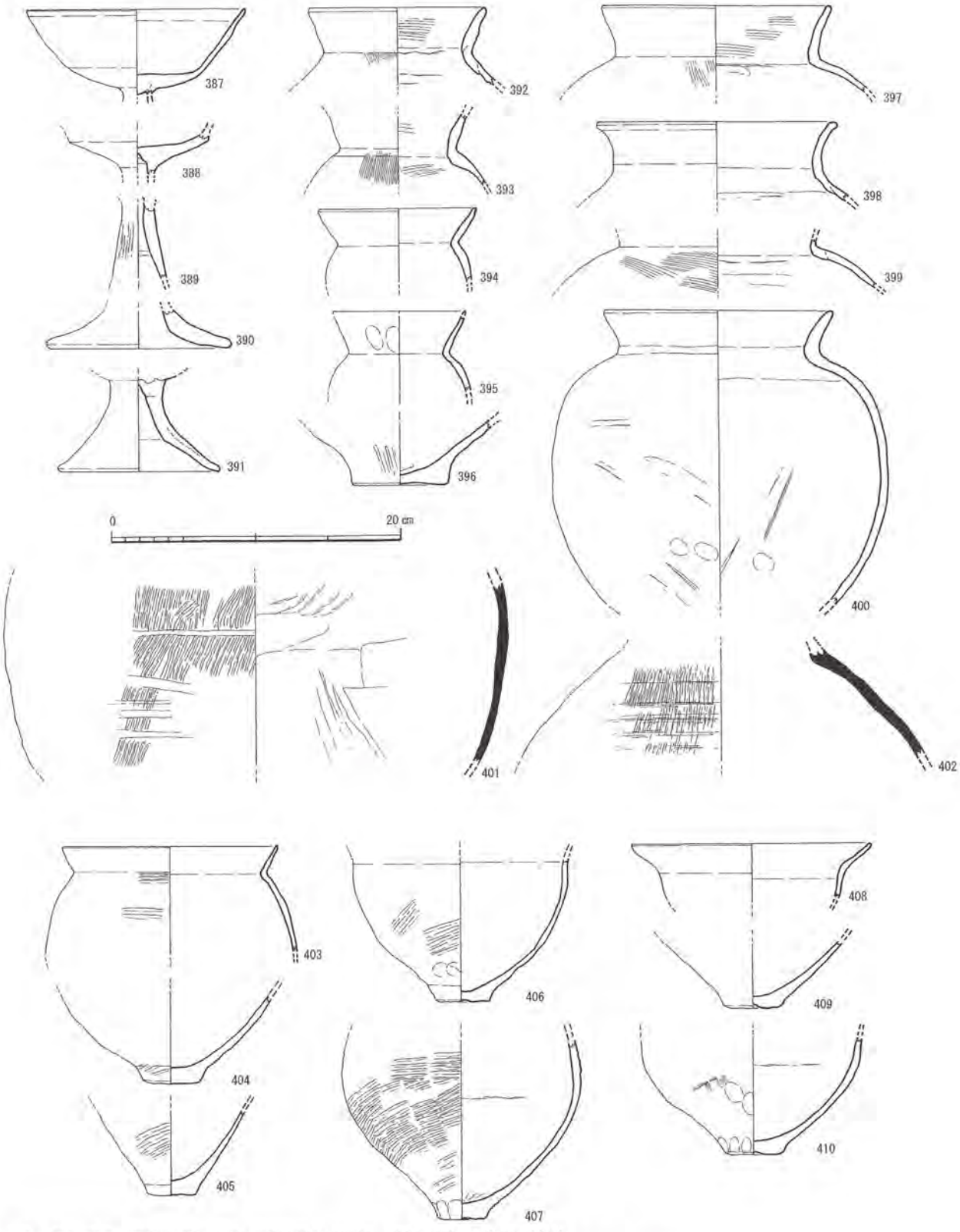


図160　溝6（3030）平面図・断面図・出土状況図（S=1/300、S=1/30、S=1/50）



387～400：溝6（3030） 401・402：自然流路8（3286） 403～410：土坑10（3122）

図161　土坑10、溝6、自然流路8出土土器

5．弥生時代の遺構と遺物

竪穴建物5（3018）（図162） 07－3区東半では、第4－4層下面で弥生時代の竪穴建物6棟を検出した。竪穴建物5は竪穴建物群の中で、最も西に位置する。建物南端は調査区外に続き、東側は中世の溝により削平されるため、全体の規模は不明である。方形4本柱の竪穴建物で、現

状では南北4.4ｍ以上、東西4.5ｍ以上の規模となる。

埋土は５㎝前後と極めて浅く、周壁溝、中央土坑、貯蔵穴、柱穴４基を検出している。周壁溝は幅0.2ｍ、深さ0.2ｍで、周壁溝内には直径0.1㎝前後の小穴が無数に並ぶ。おそらく、垂木の痕跡と考えられる。貯蔵穴は南西主柱穴の東側に存在し、長径0.55ｍ、短径0.2ｍを測る。主柱穴は円形で、直径0.25～0.5ｍ、深さ0.25～0.4ｍのものである。

遺物は、周壁溝内から弥生土器が出土しており、遺構の時期は、弥生時代後期（Ⅴ様式）とみられる。

竪穴建物６（3021）（図163） 竪穴建物５の北西で検出した。土坑12と重複し、竪穴建物６が後出する。西側は近世の暗渠排水溝によって削平される。

竪穴建物の埋土は確認されず、周壁溝のみの検出となった。方形竪穴建物とみられ、南北5.2ｍ、東西1.8ｍ以上の規模となる。周壁溝は幅0.25ｍ、深さ0.25ｍを測る。また、周壁溝の南側には、南北4.0ｍ、幅0.2ｍ、深さ0.2ｍを測る排水溝が取り付く。遺物の出土は見られないが、遺構の時期は、弥生時代後期（Ⅴ様式）と考えられる。

竪穴建物７（3020）（図164・図169） 竪穴建物５の東で検出した竪穴建物である。建物南端は調査区外となる。南北６ｍ以上、東西4.55ｍで平面形は長方形を呈する。竪穴建物７は平面形が長方形６本柱の竪穴建物となり、他の竪穴建物とは様相を異にする。

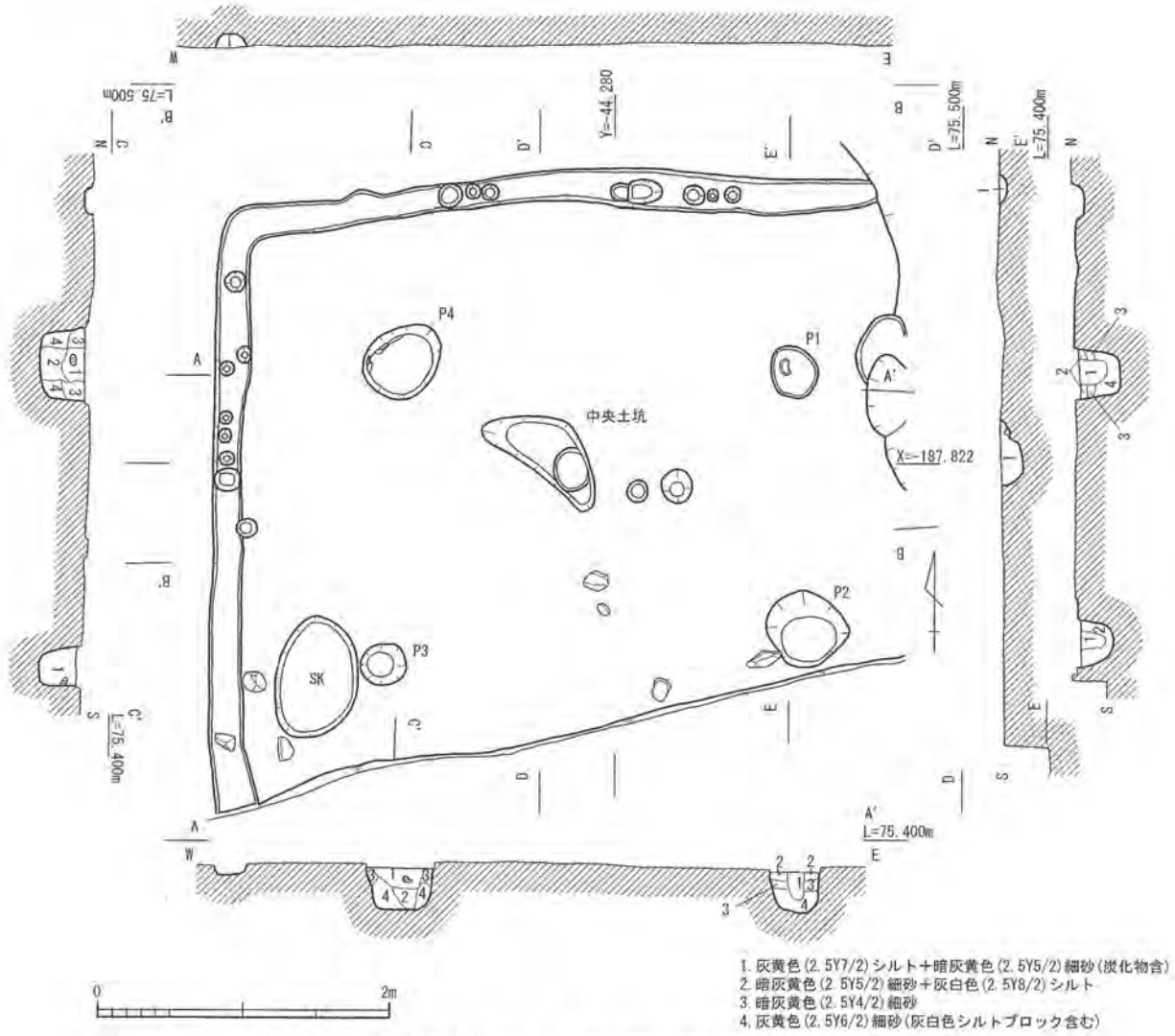


図162　竪穴建物５（3018）平面図・断面図　（S＝1/50）

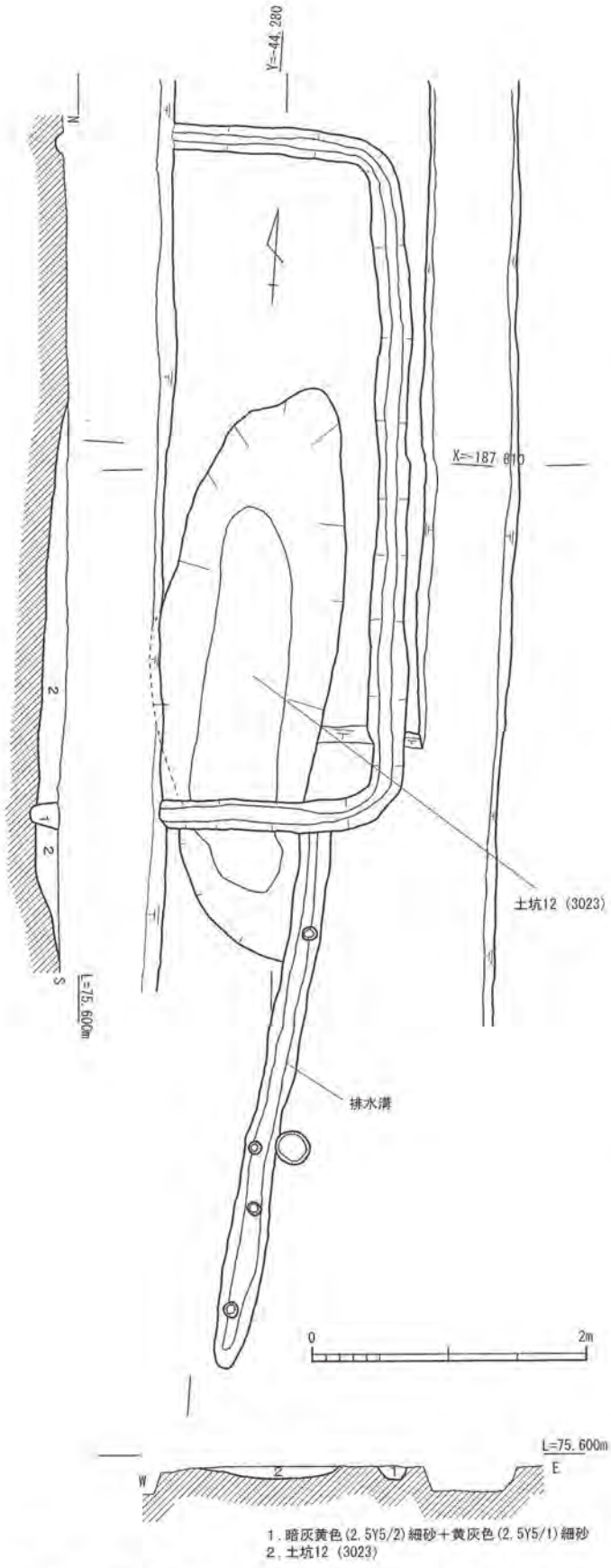


図163　竪穴建物６（3021）平面図・断面図　（S＝1/50）

竪穴建物の埋土は極めて浅く、床面で周壁溝、中央土坑、排水溝、貯蔵穴、柱穴６基を検出している。南西の主柱穴Ｐ４は調査区南壁面で検出した。周壁溝底面には竪穴建物５と同様の小穴を検出した。主柱穴は円形で直径0.4～0.65ｍ、深さ0.2～0.5ｍを測る。貯蔵穴は北西の主柱穴Ｐ１とＰ２の間で検出し、長径0.9ｍ、短径0.6ｍ、深さ0.15ｍを測る。中央土坑からは、長さ2.9ｍ、幅0.4ｍの排水溝が取り付き、建物外へと延びる。

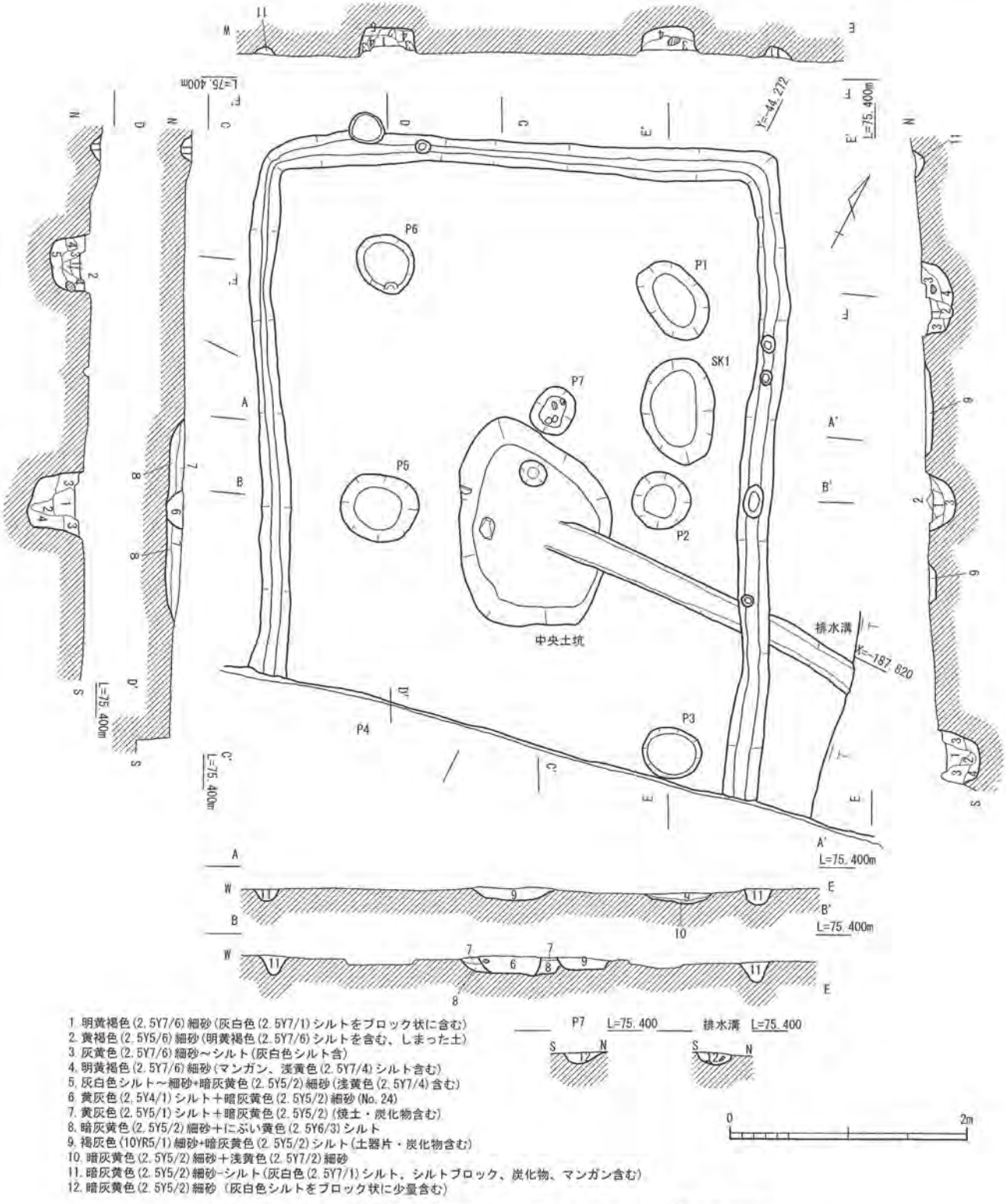
遺物の出土は極めて少なく、弥生時代中期の土器片が出土している（411～418）。これらは竪穴建物に伴うものではなく下面の包含層から出土したものと考えられる。遺構の時期は、竪穴建物の構造・検出状況からみて、竪穴建物５・６と同時期の弥生時代後期（Ⅴ様式）であろう。

竪穴建物８（3040）（図165）　竪穴建物５の北で検出した、小型の竪穴建物である。竪穴建物としては規模が小さいが、４基の柱穴を検出しており、柱痕跡が残るため竪穴建物とした。土坑状の遺構（3042）と重複するが、建て替えに伴う前身建物の掘形と考えられる。方形４本柱の竪穴建物で、建物の規模は南北2.0ｍ、東西1.6ｍ、深さ0.2ｍを測り、北隅のみ一辺0.4ｍの方形の突出部がみられる。

建物南隅には長さ2.7ｍ、幅0.2、深さ0.2ｍの排水溝が取り付き、調査区外へ延びる。主柱穴は円形で直径0.4ｍ、深さ0.2ｍを測り、直径0.15ｍ程度の柱痕跡が残る。遺物の出土は見られず、遺構の時期は不明であるが、周囲の竪穴建物から判断して弥生時代後期（Ⅴ様式）と考えられる。

竪穴建物９（3026）（図 165・図 169） 竪穴建物６の南、竪穴建物７の北に位置する竪穴建物である。円形７本柱の竪穴建物で、南北 3.6 m、東西 4.1 mを測る。平面形は不整円形を呈し、竪穴建物の埋土は極めて浅い。

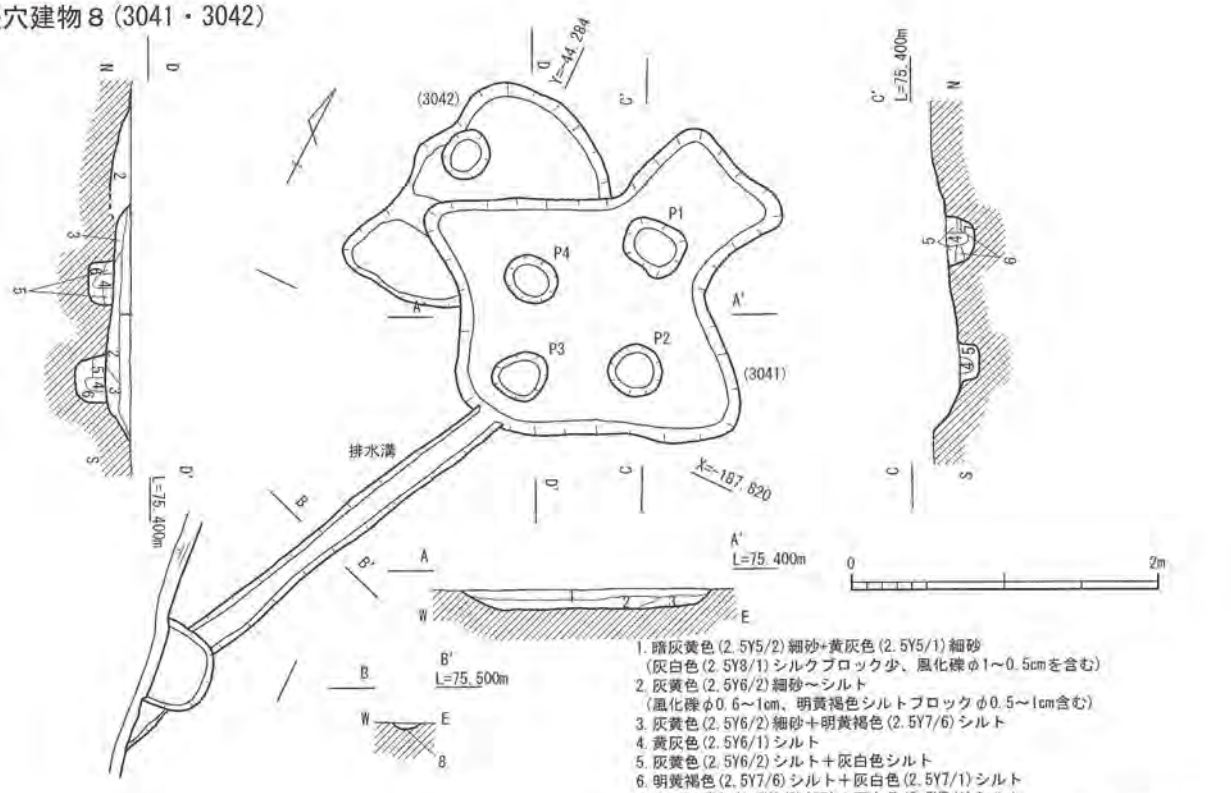
中央土坑を２基重複して検出した以外に、排水溝、土坑、柱穴７基、ピットを検出している。排水溝は長さ 1.5 m、幅 0.2 mを測り、中央土坑に取り付く。主柱穴はいずれも円形で、直径 0.2～0.45 m、深さ 0.1～0.2 mを測る。Ｐ８はＰ７と重複し、上層から切り込んだピットとみられる。住居埋土、住居



1. 明黄褐色(2.5Y7/6)細砂(灰白色(2.5Y7/1)シルトをブロック状に含む)
2. 黄褐色(2.5Y5/6)細砂(明黄褐色(2.5Y7/6)シルトを含む、しまった土)
3. 灰黄色(2.5Y7/6)細砂～シルト(灰白色シルト含)
4. 明黄褐色(2.5Y7/6)細砂(マンガン、淡黄色(2.5Y7/4)シルト含む)
5. 灰白色シルト～細砂+暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂(淡黄色(2.5Y7/4)含む)
6. 黄灰色(2.5Y4/1)シルト＋暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂(No.24)
7. 黄灰色(2.5Y5/1)シルト＋暗灰黄色(2.5Y5/2)(焼土・炭化物含む)
8. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂＋にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト
9. 褐灰色(10YR5/1)細砂+暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト(土器片・炭化物含む)
10. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂＋淡黄色(2.5Y7/2)細砂
11. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂-シルト(灰白色(2.5Y7/1)シルト、シルトブロック、炭化物、マンガン含む)
12. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂（灰白色シルトをブロック状に少量含む）

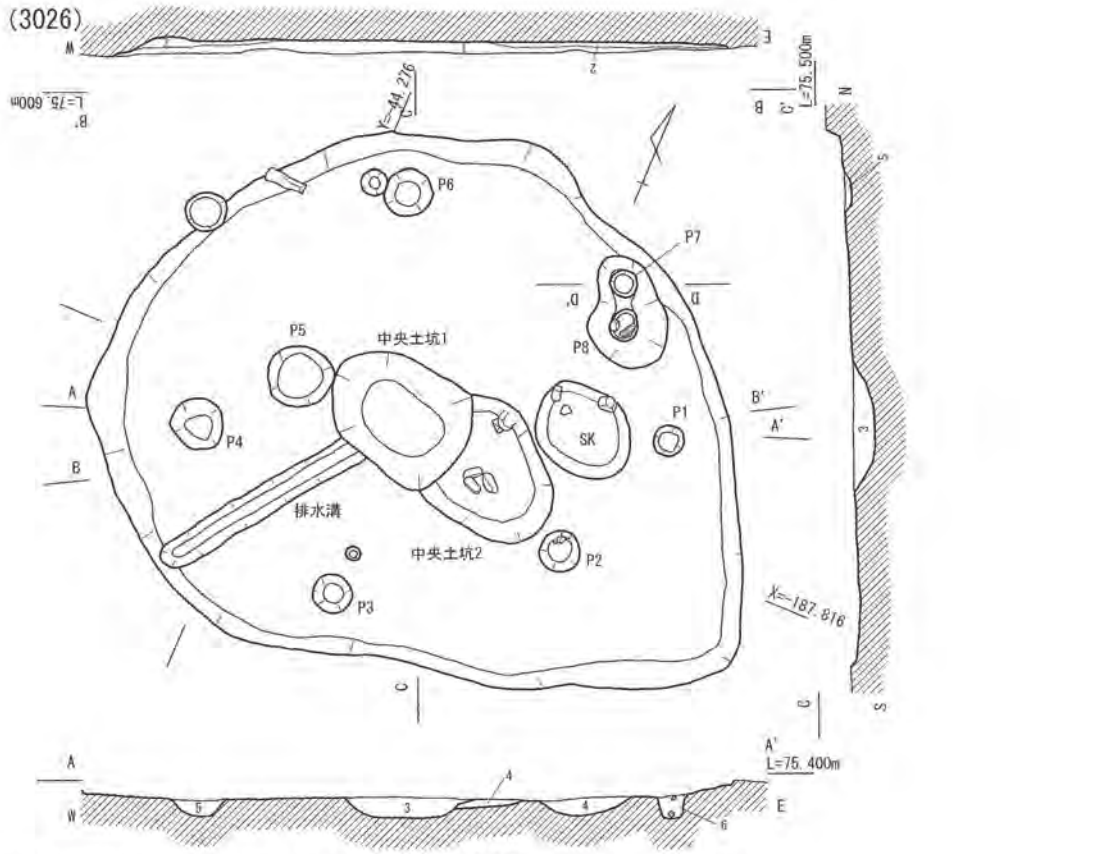
図 164　竪穴建物７（3020）平面図・断面図　（S＝1/50）

竪穴建物８（3041・3042）



1. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂+黄灰色(2.5Y5/1)細砂
（灰白色(2.5Y8/1)シルクブロック少、風化礫φ1～0.5cmを含む）
2. 灰黄色(2.5Y6/2)細砂～シルト
（風化礫φ0.6～1cm、明黄褐色シルトブロックφ0.5～1cm含む）
3. 灰黄色(2.5Y6/2)細砂＋明黄褐色(2.5Y7/6)シルト
4. 黄灰色(2.5Y6/1)シルト
5. 灰黄色(2.5Y6/2)シルト＋灰白色シルト
6. 明黄褐色(2.5Y7/6)シルト＋灰白色(2.5Y7/1)シルト
7. にぶい黄色(2.5Y6/3)細砂＋灰白色(2.5Y7/1)シルト
8. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂+暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂(炭化物、灰白色シルトブロック含む)

竪穴建物９（3026）



1. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂＋灰白色(2.5Y7/1)シルト(マンガン小礫φ0.5～1cmを少量含む)
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂＋灰黄色(2.5Y7/2～7/4)細砂(マンガン小礫φ0.5～1cmを含む)
3. 灰黄色(2.5Y7/2)シルト～細砂(風化礫・小礫φ0.5～1cm含)
4. 灰白色(10YR7/1)＋浅黄色(2.5Y7/4)シルト(風化礫・炭化物多く含む)
5. 灰白色(2.5Y7/1)シルト
6. 灰黄色(2.5Y5/1)＋暗灰黄色(2.5Y7/2)シルト(炭化物多く含む)
7. 暗灰黄色(2.5Y5/1)細砂＋黄灰色(2.5Y5/1)細砂
浅黄色(2.5Y7/4)細砂（マンガン、炭化物、小礫φ0.5cmを少量含む）
8. 暗灰黄色(2.5Y5/1)細砂＋黄灰色(2.5Y5/1)細砂

図 165　竪穴建物８・９平面図・断面図　(S＝1/50)

周辺からはサヌカイト剥片が多量に出土している。遺物は、弥生土器壺（419）が出土している。弥生土器（420・421）はＰ８からの出土で、弥生時代後期のものである。（421）は柱状部に上下２段の櫛描直線文を施す。遺物の出土は少ないが、遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

竪穴建物 10（3027・3051）（図 166・図 169） 竪穴建物９の東に位置する２条の並列する溝である。竪穴建物５～７は、竪穴建物埋土が極めて浅く、周壁溝のみの検出であったため、これらの並列する溝も竪穴建物の可能性が高い。遺構の規模は南北 5.7 m、東西 3.8 m、溝の幅は 0.25 m、深さ 0.05 ～ 0.1 m を測る。主柱穴、土坑等は検出されていない。遺物は周壁溝内から弥生土器の細片が出土しており、遺構の時期は弥生時代後期（Ⅴ様式）とみられる。

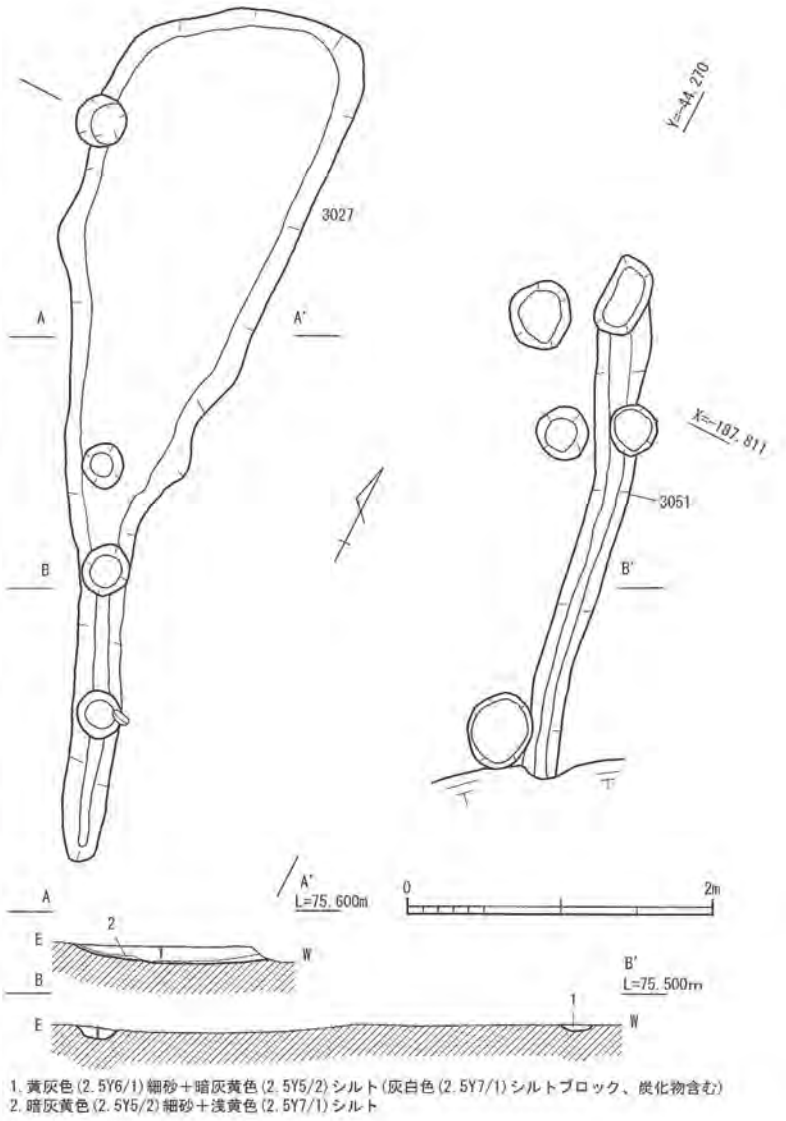
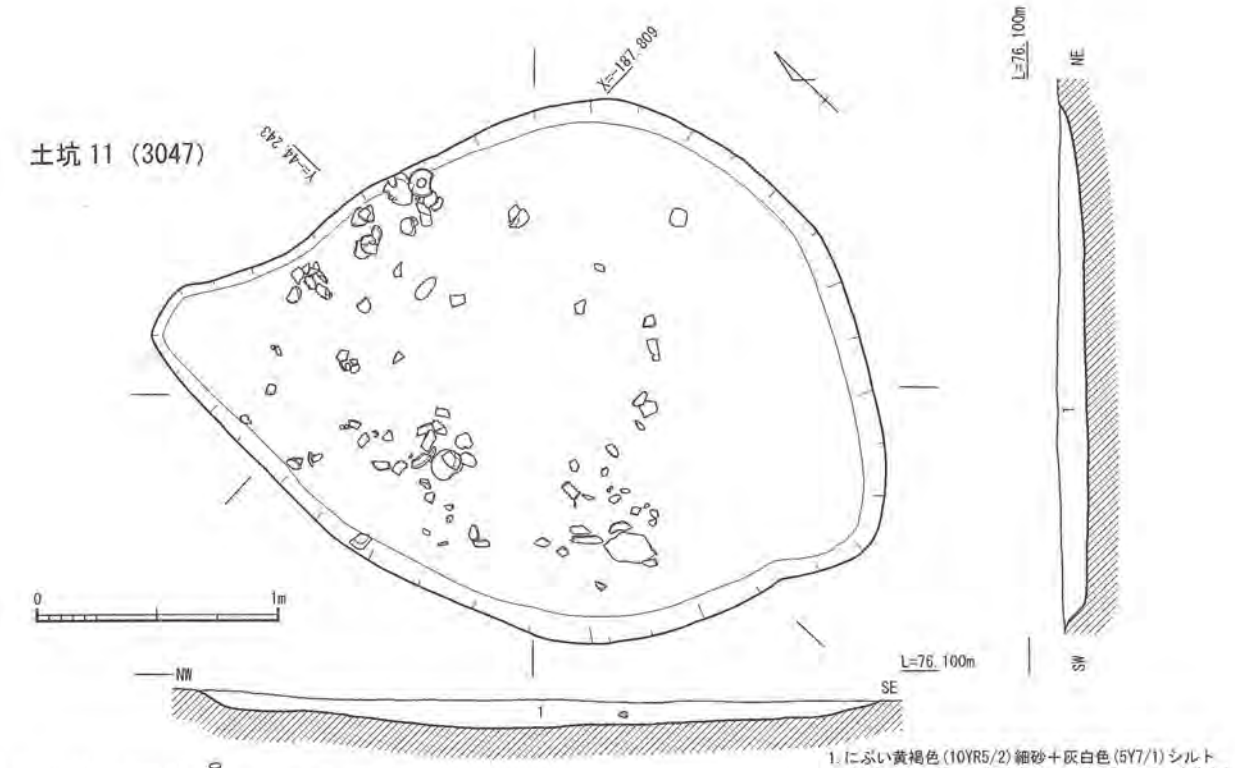


図 166　竪穴建物 10（3027）平面図・断面図　（S＝1/50）



図 167　溝状遺構１（3121、3126）平面図・断面図　（S＝1/30）



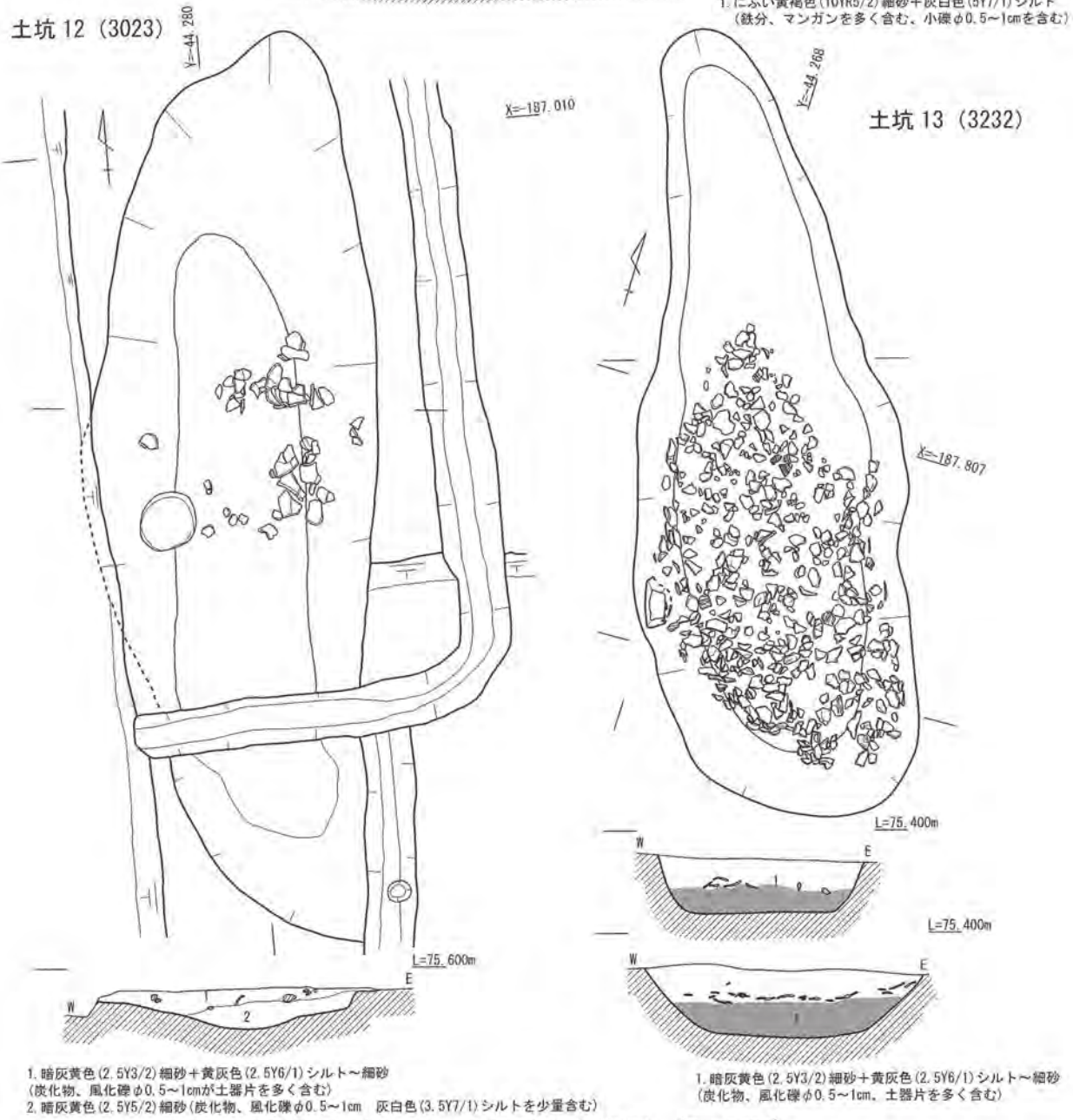
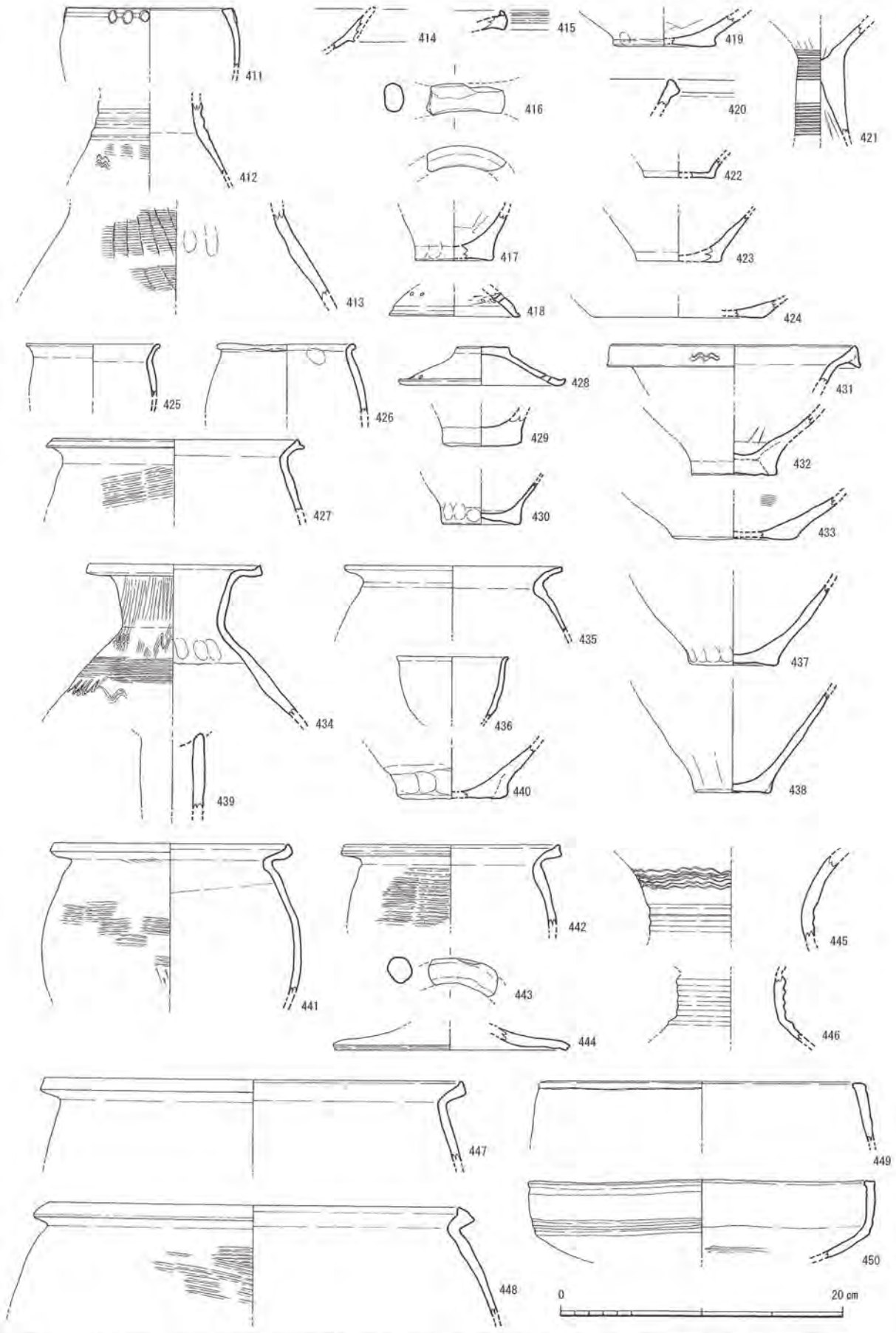
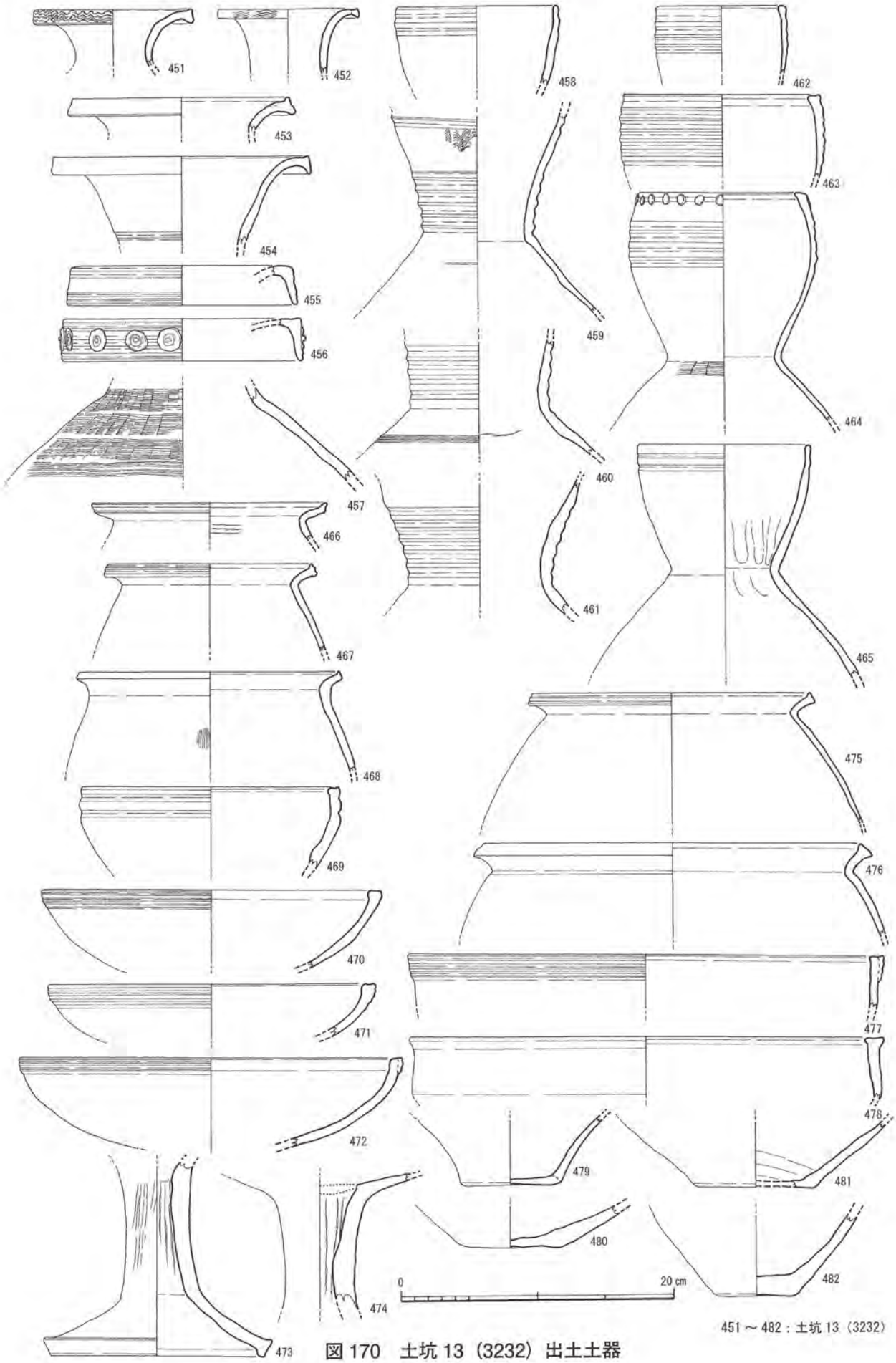


図 168　土坑 11～13 平面図・断面図　(S＝1/30)



411～418：竪穴建物7（3020） 419～421：竪穴建物9（3026） 420・421：竪穴建物9 P8（3048） 422～424：竪穴建物10（3027）
425～433：土坑11（3047） 434～438：溝状遺構1（3121） 439・440：溝状遺構1（3126） 441～450：土坑12（3023）

図169 竪穴建物7・9・10、土坑11・12、溝状遺構1出土土器



451～482：土坑 13（3232）

図 170　土坑 13（3232）出土土器

溝状遺構１（3121・3126）（図 167・図 169） 07－３区中央南で検出した東西に延びる溝状遺構である。第４－３層下面で検出した。遺構の東側で土坑 14 と重複し、土坑 14 が後出する。遺構の規模は南北 2.0 m、東西 11.0 m、深さ 0.2 mを測る。溝状遺構の中央には南北 0.9 m、東西 3.55 m、深さ 0.2 mの土坑（3121）が存在するが、溝状遺構に伴うものと判断した。埋土は３層に分けられ炭化物を含む。中央の土坑（3121）からは遺物がまとまって出土している。

遺物は、弥生土器広口壺（434）・壺（440）・甕（435・437・438）・小型鉢（436）・高杯（439）が出土している。（434）は屈曲して広がる口縁部をもつ。肩部外面に櫛描波状文・櫛描直線文を施す。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

土坑 11（3047）（図 168・図 169） 溝状遺構の北東で検出した土坑である。第４－３層下面で検出した。長径 3.0 m、短径 2.15 m、深さ 0.15 mを測り、平面形は不整形の三角形を呈する。埋土は浅く皿状に堆積し、マンガン・鉄分を含む。

遺物は、遺構上面から弥生土器広口壺（431）・壺（433）・小型甕（425・426）・甕（427・429・430・432）・蓋（428）が出土している。（428）は生駒西麓産の搬入品である。遺構の時期は、弥生時代後期前葉（Ⅴ様式前葉）と考えられる。

土坑 12（3023）（図 168・図 169） 竪穴建物６に重複して検出した土坑で、竪穴建物６が後出する。長径 4.2 m、短径 1.35 m、深 0.2 mを測り、平面形は長楕円形を呈する。埋土は暗灰黄色のシルト～細砂層で、炭化物を多く含む。土坑中央からは弥生土器、石器等がまとまって出土した。遺物は、弥生土器短頸壺（445）・壺（446）・甕（441・442・447・448）・水差（443）・蓋（444）・鉢（449）・高杯（450）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

土坑 13（3232）（図 168・図 170） 07－３区の弥生時代の遺構の最も北で検出した。長径 3.7 m、

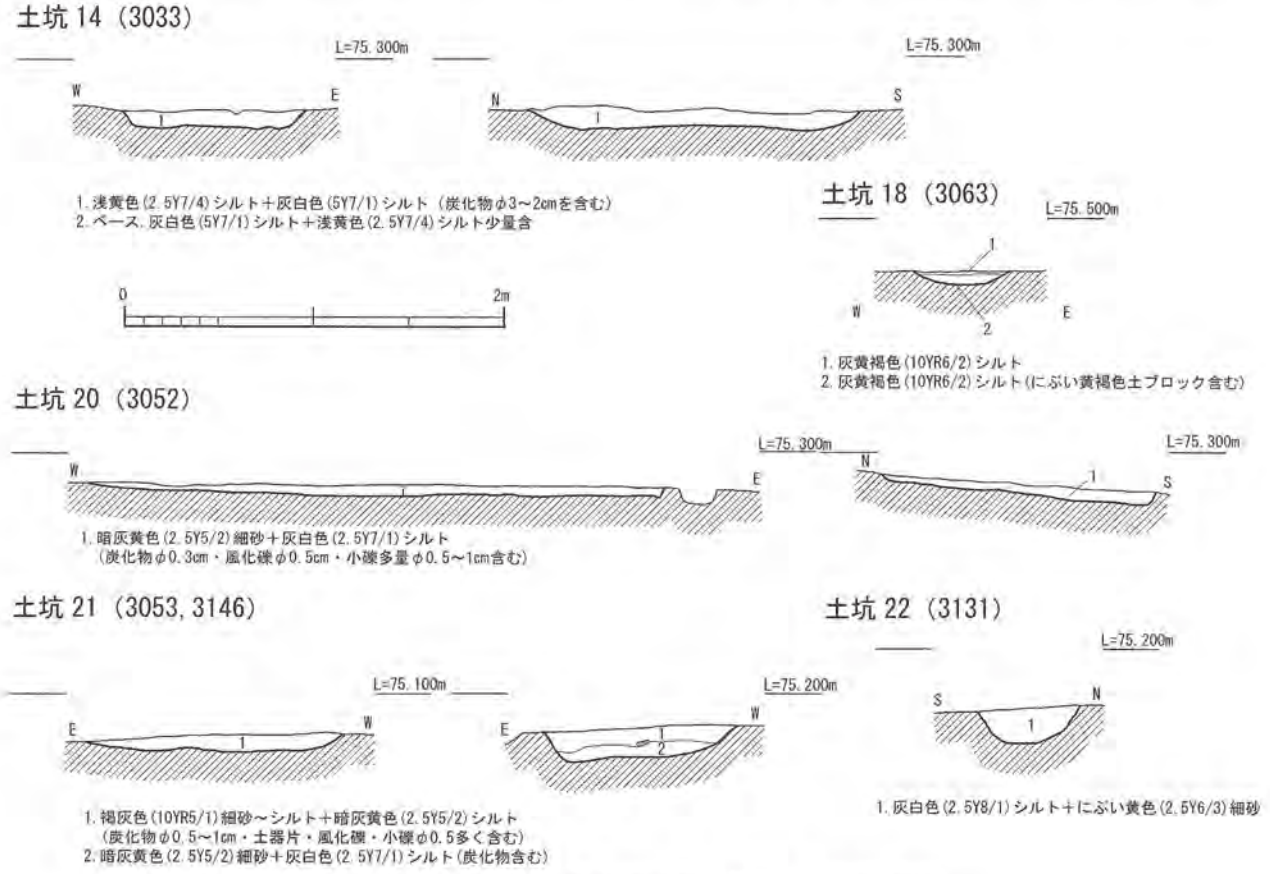


図 171　土坑 14・18・20・21・22 断面図　(S=1/40)

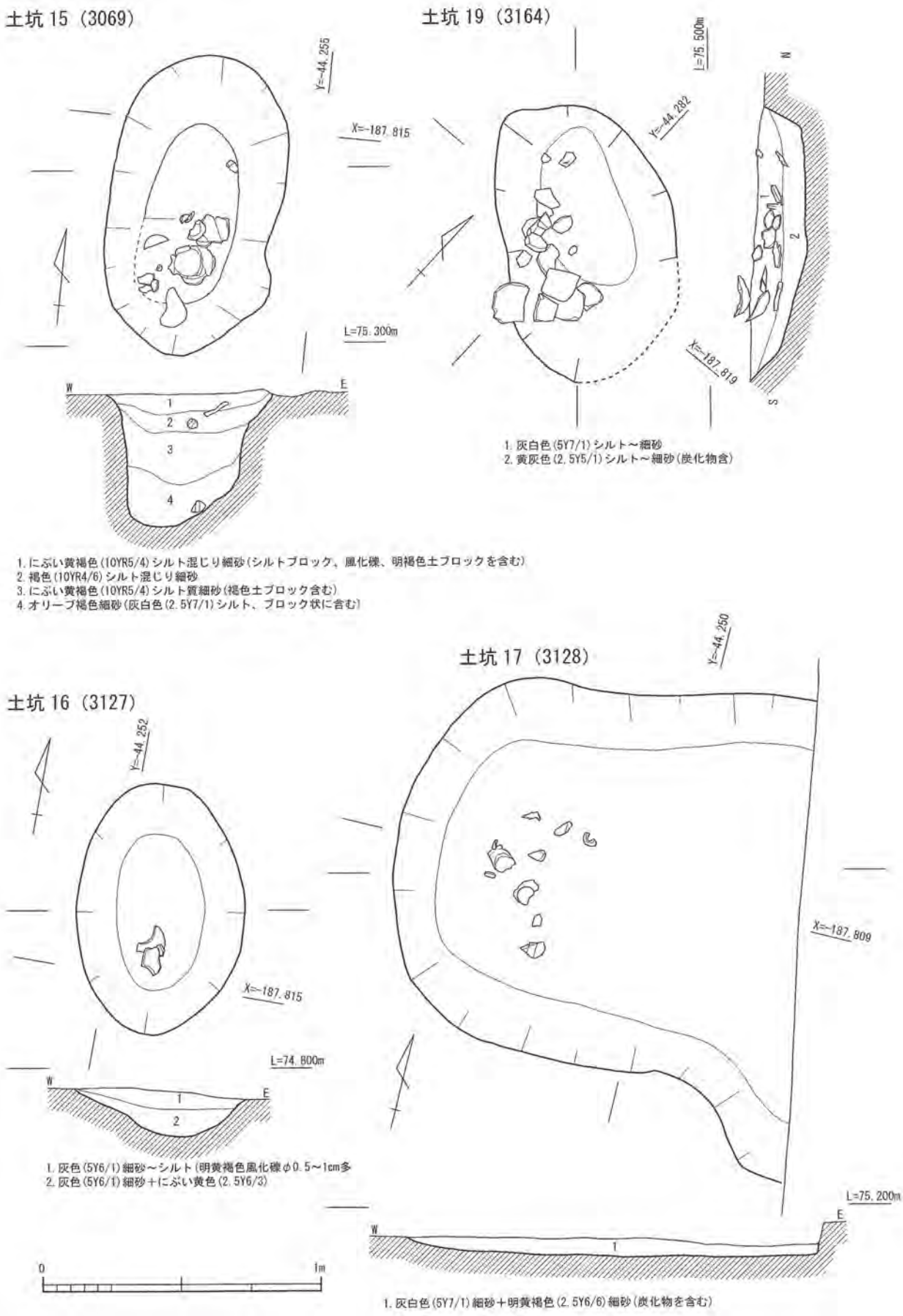


図 172　土坑 15～17・19 平面図・断面図　(S＝1/20)

短径1.2ｍ、深さ0.3ｍを測り、平面形は南北に長い長楕円形を呈する。土坑底面は北側から南側へ傾斜を持ち、北側は極めて浅い。土坑南半部を中心に土器細片が密集して出土し、土器廃棄土坑と考えられる。埋土には土器片と炭化物を多量に含む。いずれの弥生土器も摩滅が激しく、人為的に細片化されたとみられる。遺物は、弥生土器広口壺(451～457)細頸壺(458～465)・壺(480・482)・甕（466～468・475・476・479・482)・高杯（469～474)・鉢（477・478）が出土している。(464)は口縁端部に円形浮文を巡らせる。(477）は端部外面に粘土紐貼り付け、口縁部突帯を作る。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

土坑14（3033）（図171・図173） 土坑11の東で検出した土坑である。長径1.65ｍ、短径1.45ｍ、深さ0.2ｍを測り、平面形は長楕円形を呈する。埋土は浅黄色シルトと灰白色シルトが混じり、炭化物を含む。土坑から弥生土器甕（483）が出土しており、遺構の時期は、弥生時代後期後葉（Ⅴ様式後葉）と考えられる。

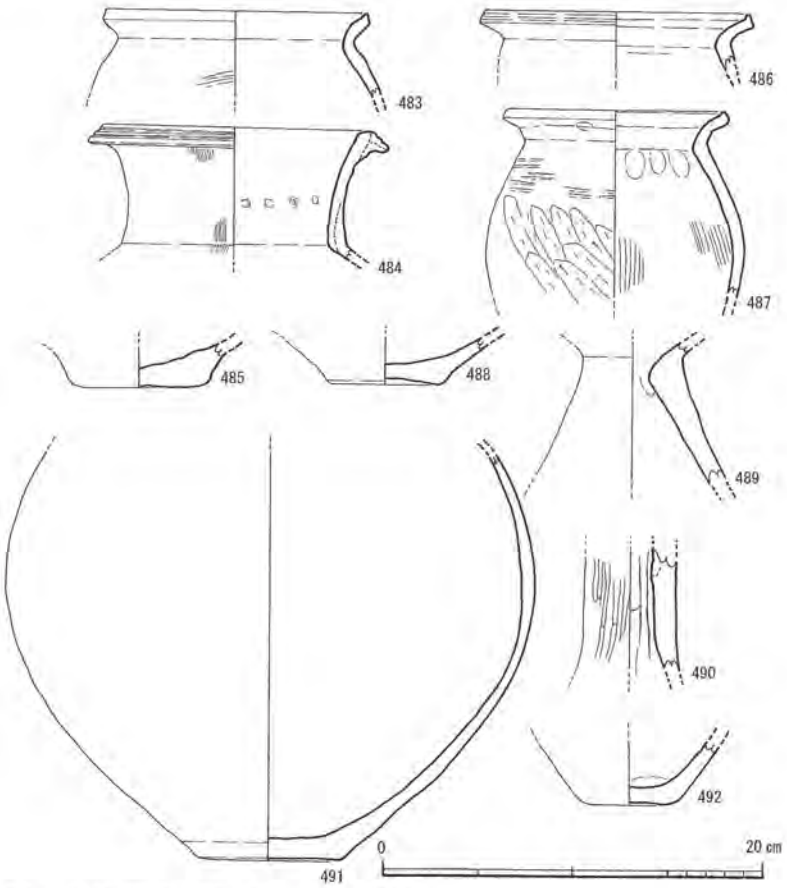
土坑15（3069）（図172・図173） 溝状遺構1の西で検出した土坑である。土坑22と重複し、これより後出する。長径1.3ｍ、短径0.65ｍ、深さ0.5ｍを測り、平面形は長楕円形を呈する。埋土は4層に分けられる。遺物はスクレイパー（S 116）が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期前葉（Ⅴ様式前葉）と考えられる。

土坑18（3063）（図171・図173） 竪穴建物10の東で検出した土坑である。長径0.5ｍ、短径0.4ｍ、深さ0.1ｍを測り、平面形は楕円形を呈する。遺構の時期は弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）と考えられる。

土坑19（3164）（図172・173） 竪穴建物5の北で検出した土坑である。長径1.0ｍ、短径0.6ｍ、深さ0.2ｍを測り、平面形は長楕円形を呈する。土坑上部は削平されており、埋土は2層に分けられ、下層には炭化物を含む黄灰色シルトが堆積する。弥生土器壺（491・492）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）と考えられる。

土坑20（3052）（図171） 竪穴建物10の南で検出した土坑である。竪穴建物10南側から地形が一段低くなり傾斜する。土坑21が南側に重複し、後出する。長径3.45ｍ、短径2.2ｍ、深さ0.05ｍを測り、平面形は不整円形を呈する。埋土は極めて浅く、炭化物の有無を基準に検出した。遺物は、土坑埋土から磨石・敲石（S 208）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期～後期と考えられる。

土坑21（3053・3146）（図171）



483：土坑14（3033） 484・485：土坑15（3069）
486・487：土坑16（3127） 488・489：土坑17（3128）
490：土坑18（3063） 491・492：土坑19（3164）

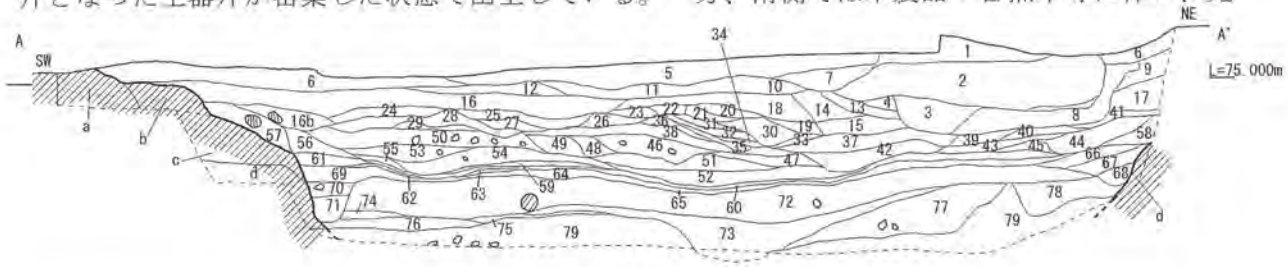
図173 土坑14～19出土土器

土坑20の南で重複して検出した土坑である。溝9と重複し、溝9が後出する。土坑21南側は下面遺構面で検出したため、遺構番号が異なる。長径4.0m、短径1.55mを測り、平面形は南北に長い長楕円形を呈する。遺物は、石鏃（S 69）、楔形石器（S 110）が出土している。遺構の時期は、弥生時代中期～後期と考えられる。

自然流路9（3150）（図175～図185）　07－3区中央付近、第4－3層下面で検出した。北側については調査区埋め戻しのため、平面プランのみを検出し、掘削は行っていない。北東から南西方向に流れる自然流路であり、幅約8.6m、深さ約1.6mを測る。土層の堆積状況から、流路は弥生時代後期後半には埋没し、上面で弥生時代後期の遺構面が形成される。流路中央に設けた東西セクションより北側と南側では、堆積状況が異なり、南側はやや深く落ち込む状況であったことがうかがえる。

上層・中層での遺物の出土はごくわずかであり、最下層に対応する緑灰シルト層と流路の肩部にかけて土器が集中的に出土している。流路の東肩は調査区外となり不明瞭であるが、西肩に土器が集中的に出土することから、流路の西側から土器や木製品が投棄されたものと考えられる。

また、東西セクションの北側と南側では土器の出土状況も異なり、北側では肩部に集中し、細片となった土器片が密集した状態で出土している。一方、南側では木製品・自然木等に伴い、完



1. 黄褐色(2.5Y5/6)細砂(小礫・風化礫φ1～3cmを含む)
2. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂+1層(φ5～15cm大の礫・風化礫多)
3. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂(φ5～10cm大の礫・風化礫多)　2より少
4. 3と同じ　3より少
5. 灰白色(2.5Y8/2)細砂＞明黄褐色(2.5Y7/6)細砂(しまりのない土)
6. 灰白色(2.5Y8/2)細砂＜明黄褐色(2.5Y7/6)細砂(しまりのない土)
7. 2と同じ　2より少
8. 黄灰色(2.5Y6/1)中砂(φ3～5cmの礫を含む)
9. 16と同じ
10. 12層と同じ
11. 灰白色(2.5Y7/1)細砂+にぶい黄色(2.5Y6/3)細砂(しまりのない土)
12. 明黄褐色(2.5Y6/6)細砂＜灰白色(2.5Y8/1)細砂(しまりのない土)
13. 7と同じ
14. 灰黄色(2.5Y6/2)中砂(φ1～3cmの風化礫を含む)
15. 14(φ1～5cmの風化礫多)
16. 明黄褐色(2.5Y6/6)細砂+にぶい黄色(2.5Y6/4)細砂+灰白色(2.5Y8/1)細砂
16bも同じ(黄色の多さ)
17. 16b層と同じ
18. 灰白色(5Y7/1)細砂～灰色(5Y6/1)(明黄褐色(2.5Y6/6)細砂少含)
19. 灰色(7.5Y7/1)細砂(混じりなし)～中砂(しまりのない土)
20. 19と同じ
21. 灰色(7.5Y6/1)細砂(混じりなし)
22. 灰色(7.5Y7/1)中砂(φ1～3cmの礫、風化礫多)
23. 21層と同じ
24. 灰白色(2.5Y8/1)細砂(明黄褐色(2.5Y6/6)細砂　ブロック含む)
25. 24と同じ
26. 灰白色(7.5Y7/1)細砂(混じりなし)
27. 26と同じ
28. 灰白色(2.5Y7/1)細砂(混じりない)
29. 灰白色(2.5Y7/1)細砂～砂礫(φ5～10cmの礫多)
30. 灰色(7.5Y6/1)粗砂(φ1～5cmの礫多)
31. 灰色(7.5Y6/1)細砂(鉄分、明黄褐色(2.5Y6/6)細砂含)
32. 灰色(7.5Y6/1)細砂(混じりない)
33. 32と同じ
34. 灰白色(7.5Y7/1)細砂～極細砂(ラミナ有)
35. 灰白色(5Y7/1)シルト(炭化物含)
36. 35+極細砂(混じりなし)
37. 30層と同じ
38. 34層と同じ
39. 灰色(10Y6/1)細砂
(風化礫φ3～5cmを含む)
40. 14層と同じ
41. 59層と同じ
42. 灰色(7.5Y6/1)粗砂(φ1～15cmの小礫・風化礫多)
43. 37と同じ
44. 56と同じ
45. 55と同じ
46. 42と同じ
47. 灰色(7.5Y6/1)中砂(混じりなし、ラミナ有)
48. 47と同じ
49. 35と同じ(ラミナ有)
50. 灰白色(5Y7/1)中砂(淡黄色(2.5Y7/4)細砂、鉄分、φ3～5cmの小礫を部分的に含む)
51. 灰色(10Y6/1)粗砂(φ1～3cmの小礫含む、52より少)
52. 灰色(7.5Y6/1)粗砂(φ1～3cmの小礫・風化礫多)
53. 灰白色(10Y7/1)中～粗砂(φ1～3cmの礫含む)
54. 明オリーブ灰色(5GY7/1)中～粗砂(φ1～5cmの小礫、風化礫多、礫層)
55. 明オリーブ灰色(5GY7/1)細砂(鉄分を含む、しまりのない土、ラミナ有)
56. 灰白色(5Y7/1)シルト～細砂(鉄分・木片を含む、やや粘)
57. 灰白色(5Y7/1)細砂～シルト(φ1～2cmの風化礫、鉄分含む)
58. 56と同じ
59. 灰白色(5Y7/2)シルト
60. 明黄褐色(2.5Y6/6)シルト(鉄分沈着層)
61. 灰色(5Y6/1)シルト～細砂(鉄分、炭含む)
62. 黄灰色(2.5Y5/1)シルト(鉄分、明黄褐色シルト化を一部含む)
63. 55と同じ
64. 黄灰色(2.5Y6/1～5/1)シルト
65. 黄灰色(2.5Y5/1)シルト～極細砂～灰色(10Y6/1)極細砂
66. 69と同じ
67. 70と同じ
68. 71と同じ
69. 黄灰色(2.5Y6/1)シルト(細砂、風化礫、炭含む)
70. 黄灰色(2.5Y6/1)シルト(炭化物、土器含む)
71. 黄灰色(2.5Y6/1)シルト+灰白色(10Y7/1)シルト(炭化物含む)
72. 緑灰色(5G6/1)シルト
→空気にふれるとオリーブ灰色(2.5GY)シルトに変化(炭化物・木材含む)
73. 緑灰色(5G6/1)中砂
74. 灰オリーブ色(5Y6/2)シルト
75. 74と同じ
76. オリーブ黄色(5Y6/3)中砂～上面明黄褐色中砂　(鉄分付着)
77. 緑灰色(7.5GY6/1)中砂、黄灰色(2.5Y6/1)シルトを縞状に含む(ラミナ有)
78. 74と同じ
79. 浅黄色(5Y7/3)中砂明黄褐色

ベース
a. 明黄褐色(2.5Y6/8)細砂+灰白色(2.5Y8/2)シルト(しまり有)　ベース、後期
b. 明黄褐色(2.5Y6/8)細砂+灰黄色(2.5Y7/2)細砂(φ1～3cmの風化礫含む)
c. 灰白色(5Y7/1)細砂(明黄褐色細砂少量含む、鉄分含む)
d. 灰白色(10Y7/1)細砂～シルト(風化礫φ1～10cmを含む)



図174　自然流路9（3150）断面図　（S＝1/60）

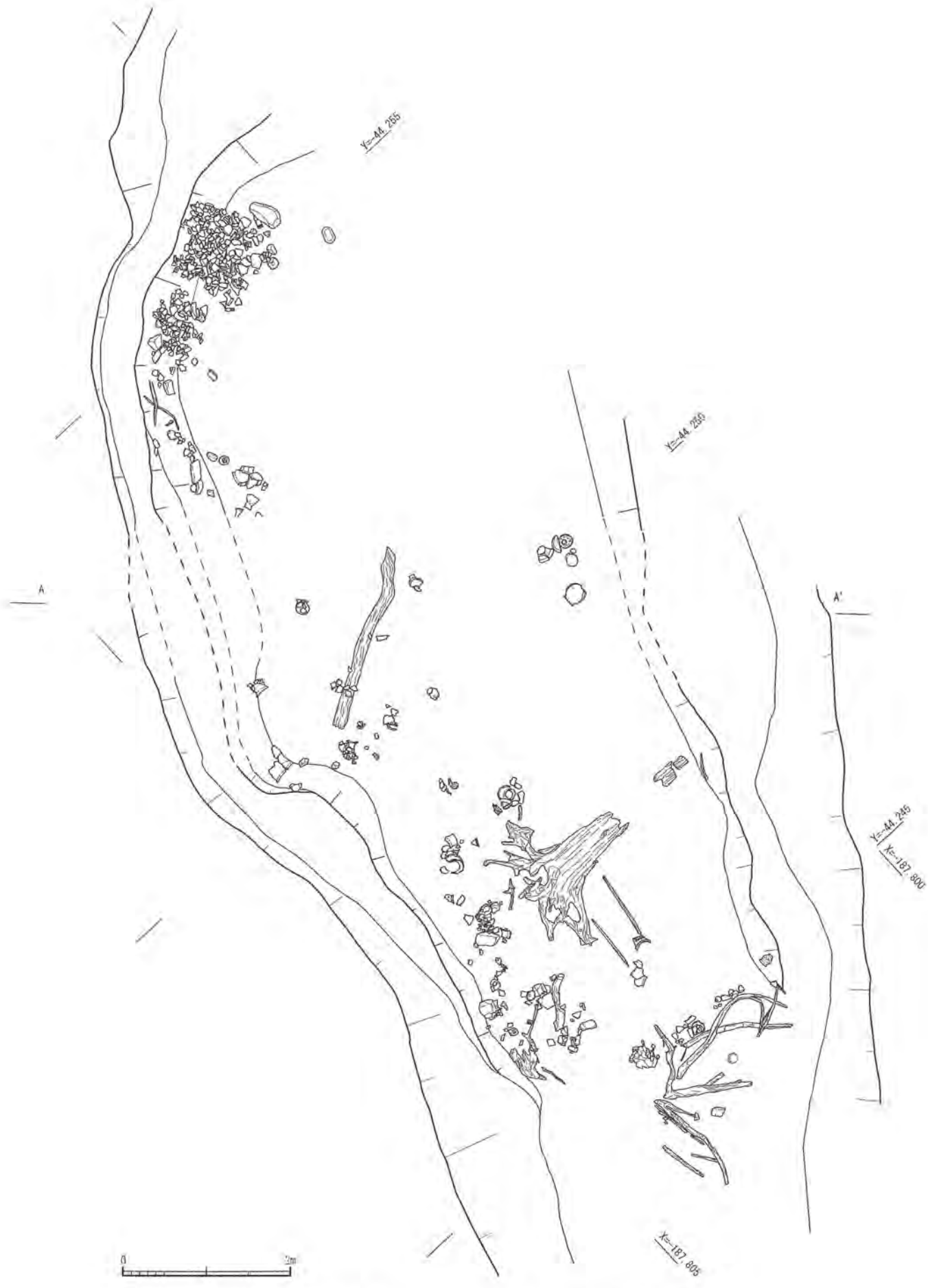


図 175　自然流路９（3150）平面図　（S＝1/60）

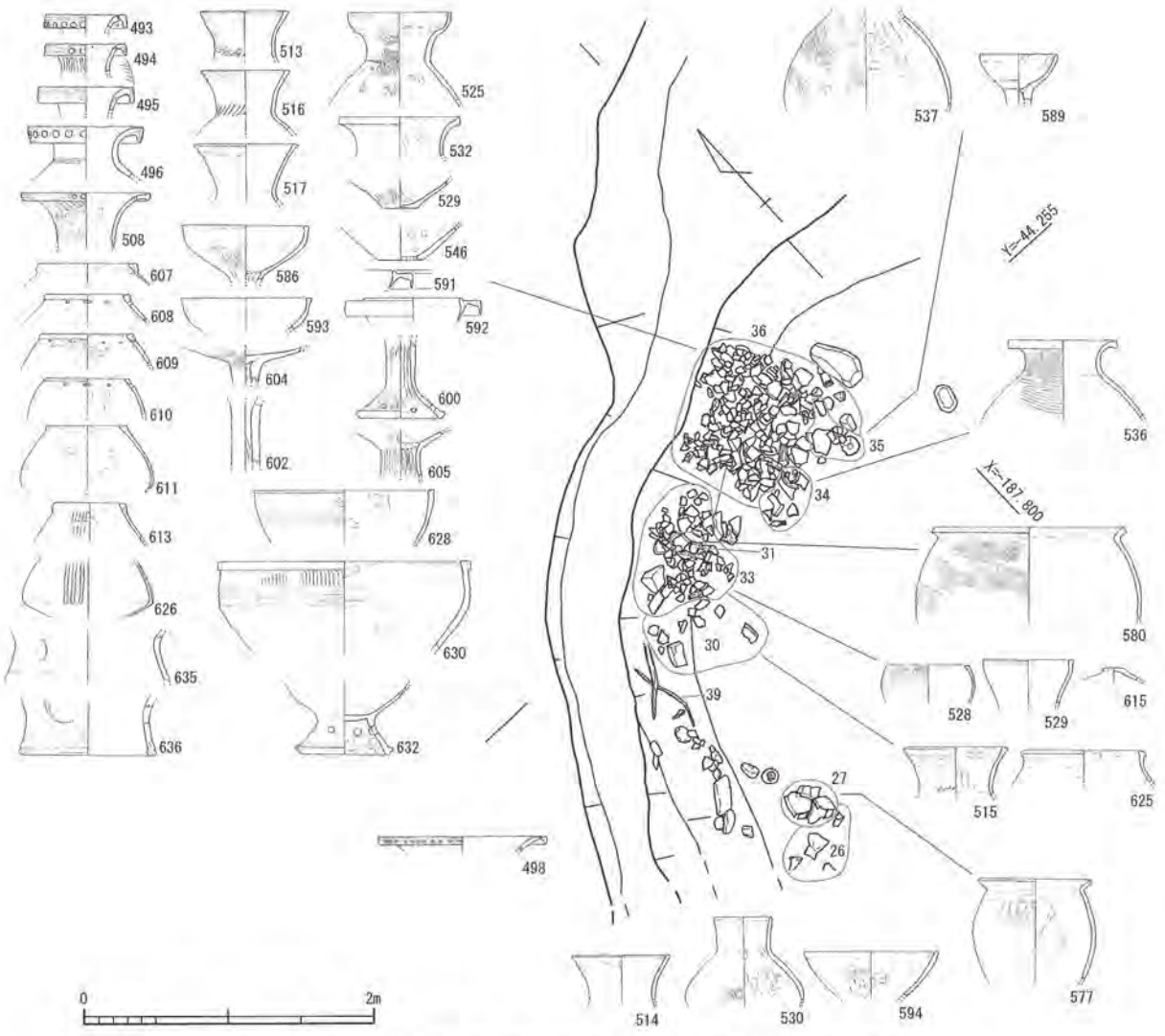


図 176　自然流路９（3150）北半遺物出土状況図　（S＝1/50）

形に近い状態で土器が出土している。

遺物は、弥生土器広口壺（493～511・518・519・532～536）・壺（512・524・537～546）・短頸壺（513～517・523・529・624）・広口短頸壺（520～522）・水差（530・531）・有段口縁壺（525・526）・把手付壺（527）・細頸壺（528）・無頸壺（607～613・619・625）・甕（547～573・575～583）・小型甕（574）・鉢（620・621・627～630・633・637）・把手付鉢（622）・台付鉢（623・626・631）・高杯（584～587・589～596・598～606）・脚台付土器（588・597・632・635・636）蓋（614～618）・器台（634）、石庖丁（Ｓ１・Ｓ２）、石棒（Ｓ 227）、矢柄研磨器（Ｓ 231）、機織具と考えられる有頭角棒状の木製品（Ｗ７～Ｗ９）が出土している。

広口壺には、口縁部を垂下させ、凹線文・円形浮文を施すもの（493～505）や、頸部に凹線文を施す壺（506～509）、口縁端部を上下に拡張し刺突を施す壺（501）のほかに、口縁端部を垂下させた無文の壺（535）が存在する。

文様は櫛描文を施す器種がわずかに残るが、多くは刺突文様や凹線のみであり、体部にタタキ目を残すもの（519・536）も存在する。（524）は体部外面に「｜｜｜」のヘラ描をもち、記号文と考えられる。（513～517）は外上方に直線的に伸びる口縁部をもつ短頸壺で頸部外面にはヘラ工具による刺突文を施す。（518・519）は頸部に刺突文をもち、口縁部は縦方向のハケ。523 は肩部外面に円形竹管状の刺突文を２段に施す。（525・526）の有段口縁部壺は有段口縁の屈曲部に

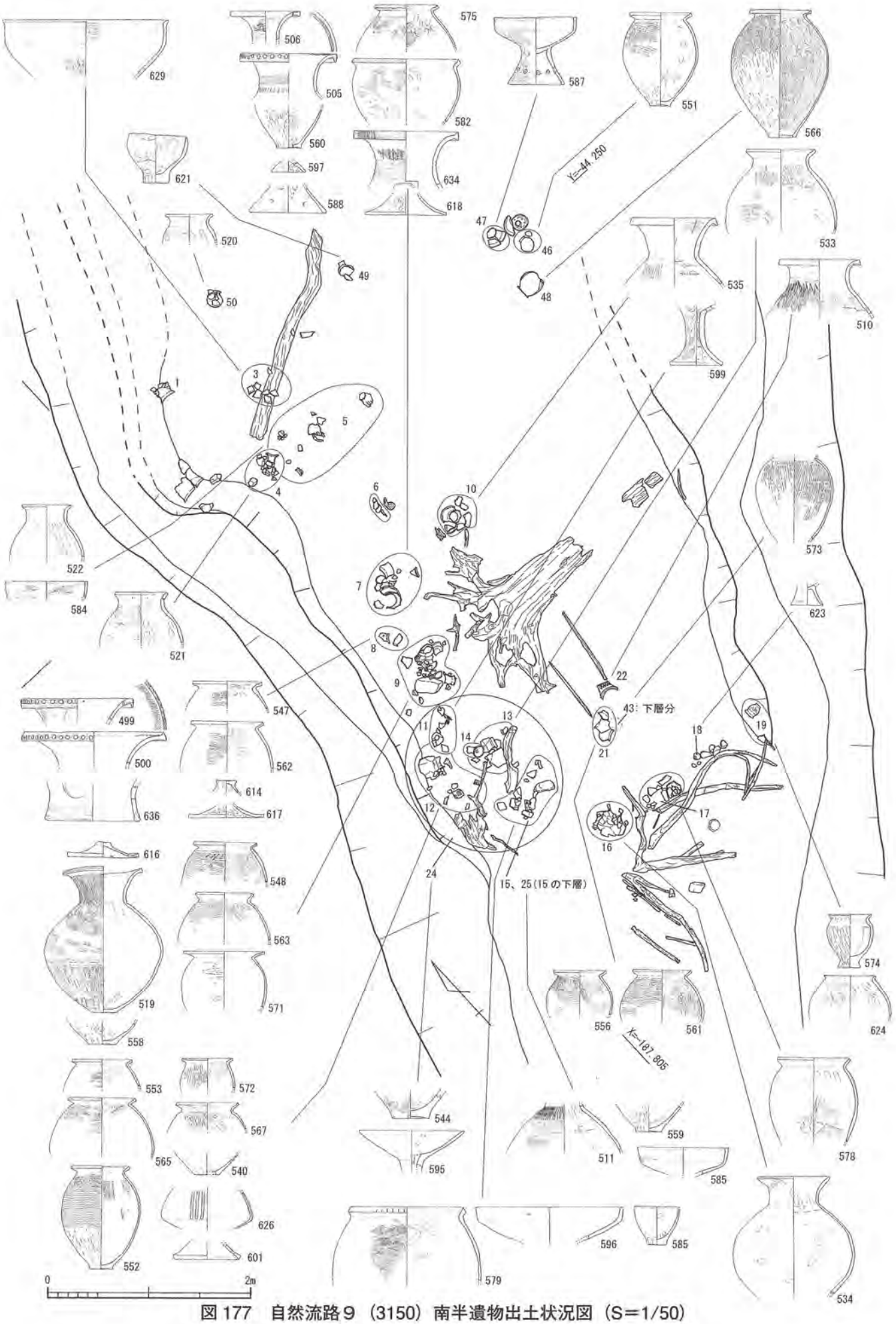
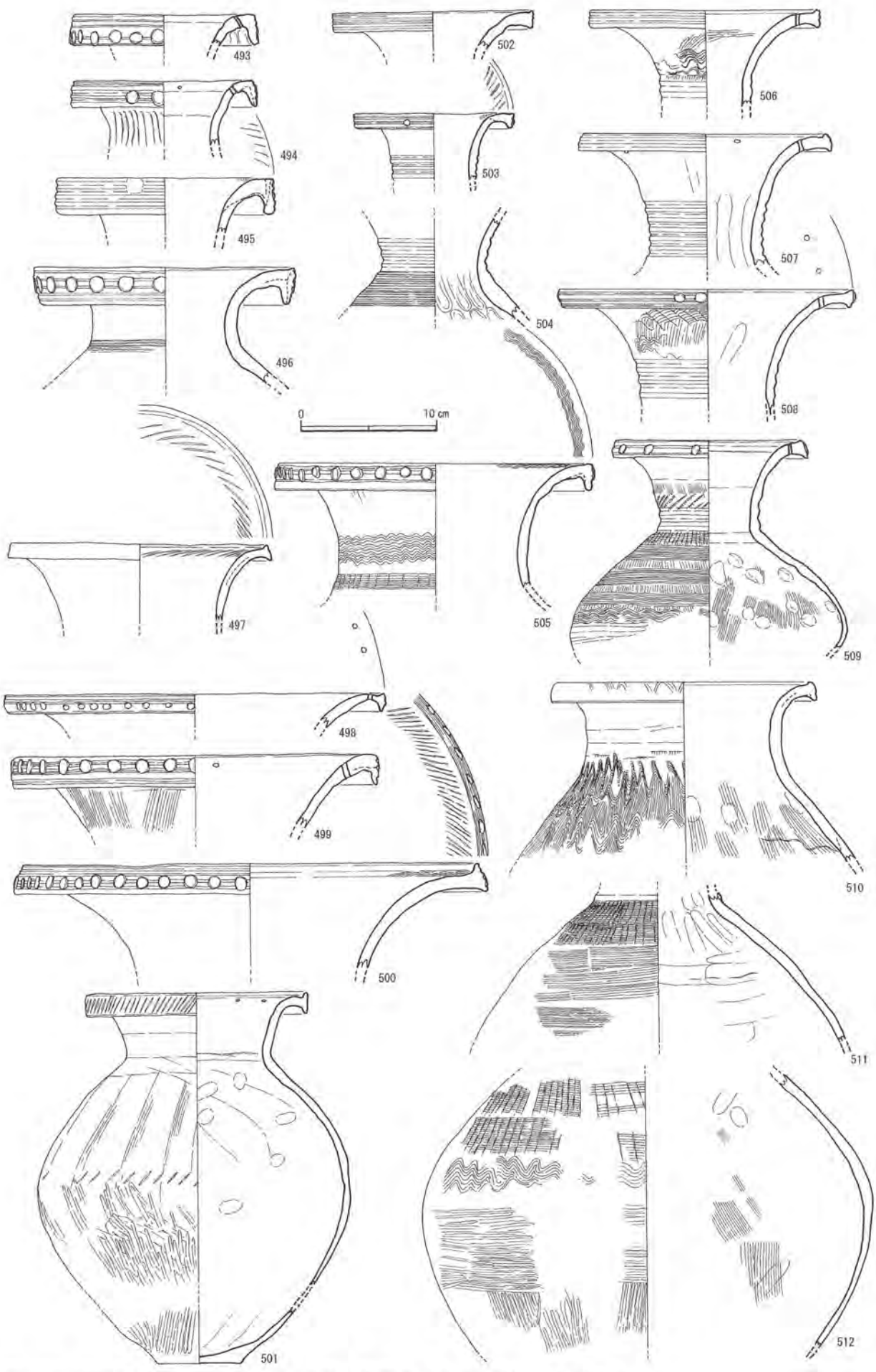
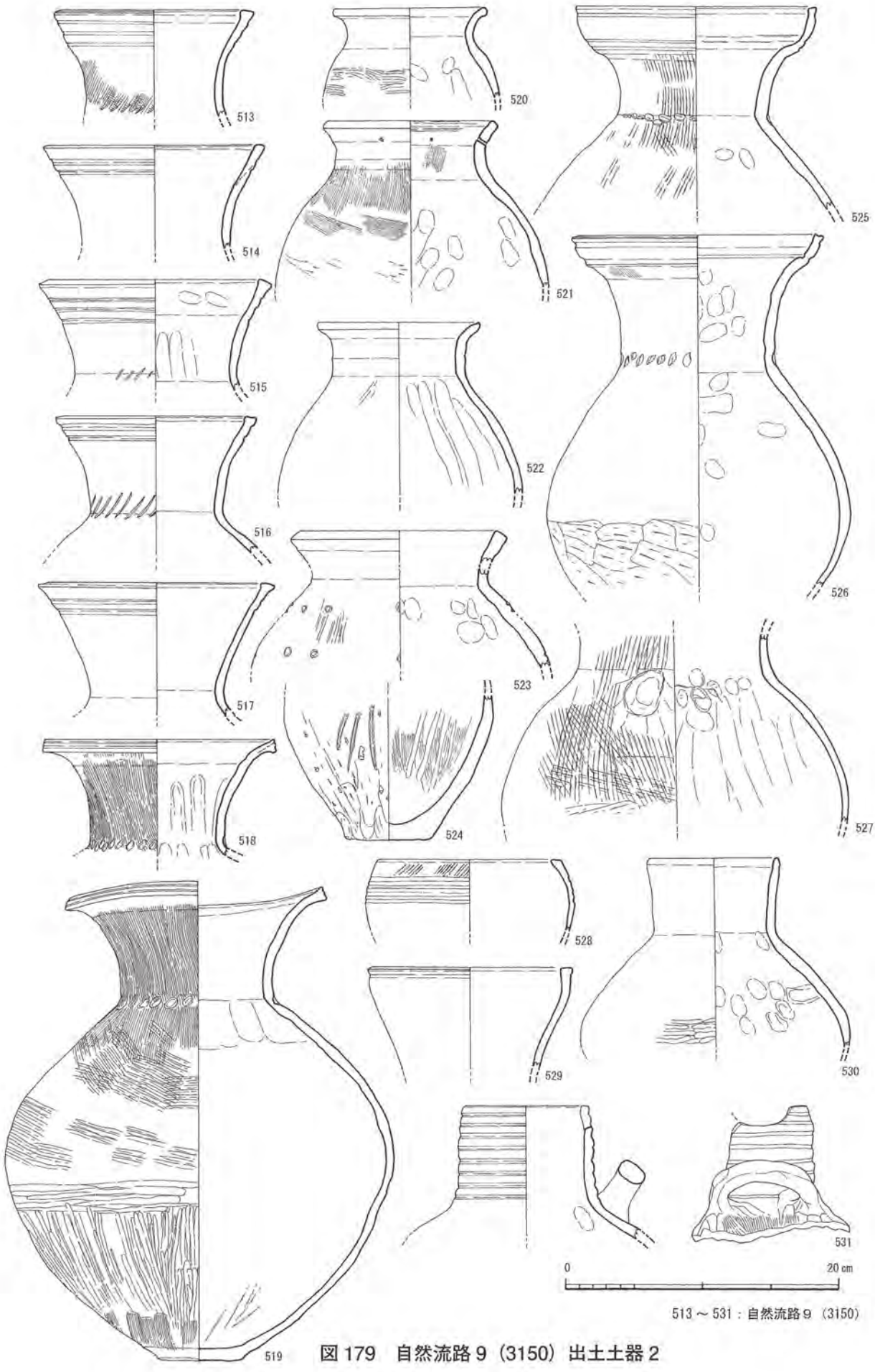


図 177　自然流路９（3150）南半遺物出土状況図（S＝1/50）



493～512：自然流路9（3150）

図178　自然流路9（3150）出土土器1



513～531：自然流路9（3150）

図 179　自然流路 9（3150）出土土器 2

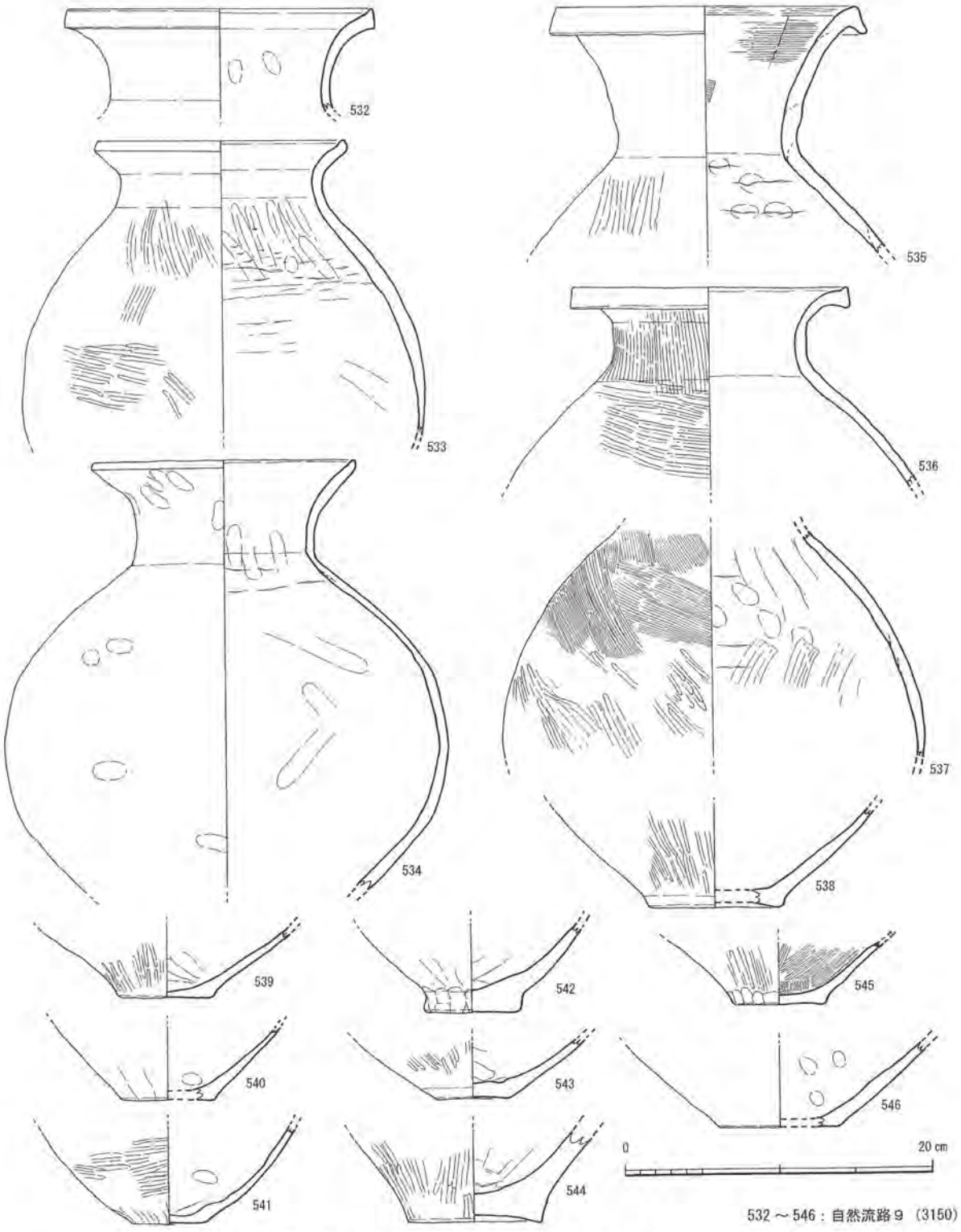
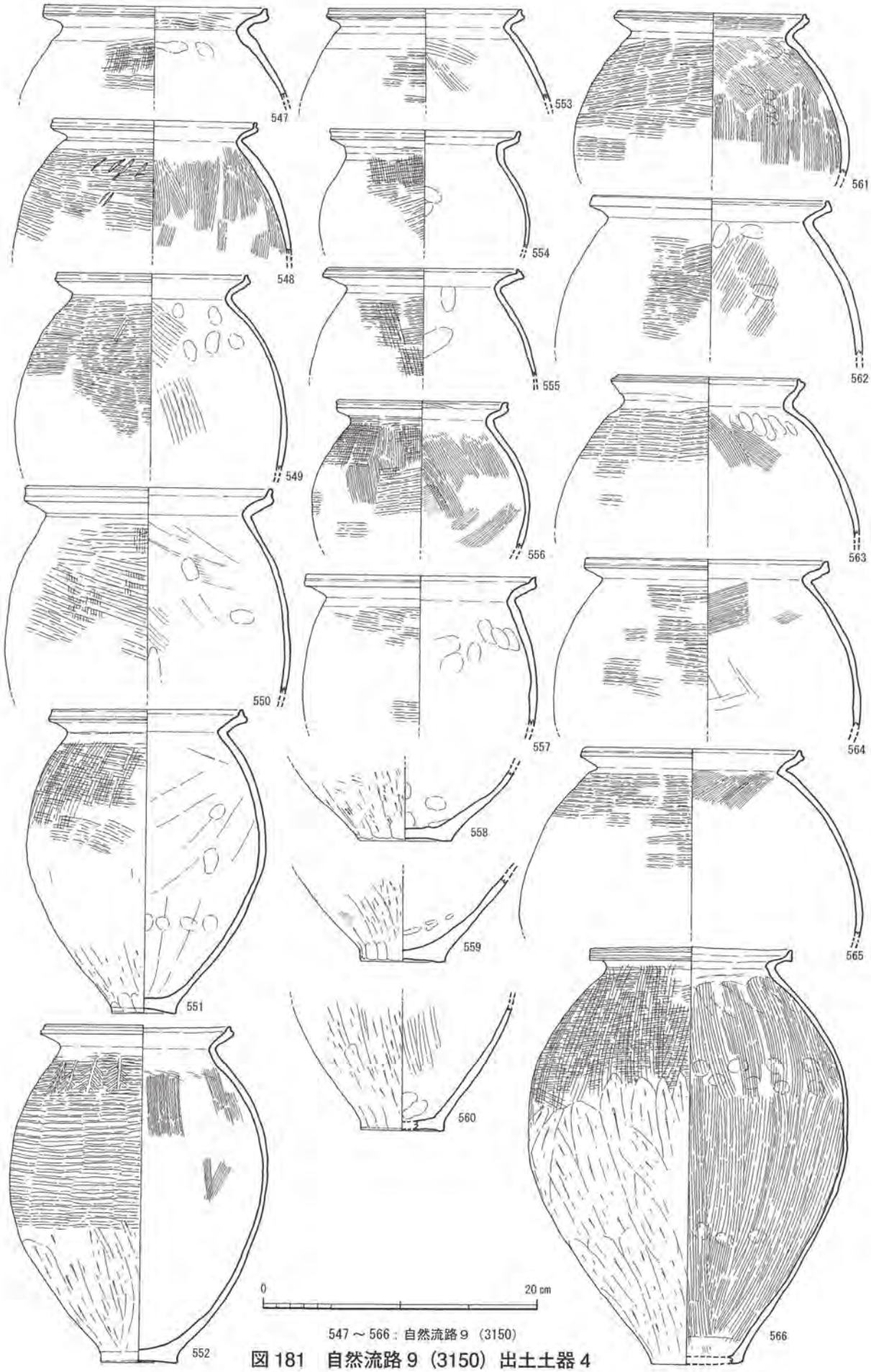


図 180　自然流路 9（3150）出土土器 3

凹線文を施し、頸部に刺突文を施す。(527) は把手が肩部に取り付くもので、壺Dと考えられる。無頸壺（607～613）は無文のものが主体を占め、流路からは比較的多く出土している。

甕は外面にタタキを残し、下半部をヘラケズリで仕上げるもの（547～566）、肩部付近までヘラケズリを行うもの（567～574）、外面はハケもしくは板ナデで平滑に整えるもの（575～578）の３種類に分類できる。主体はタタキを残す甕である。(552) は体部上半を水平タタキののちに、肩部に矢羽根状タタキを施す。(548) は肩部に刺突文を施す。小型の甕（574）は外面ヘラケズリしたものである。



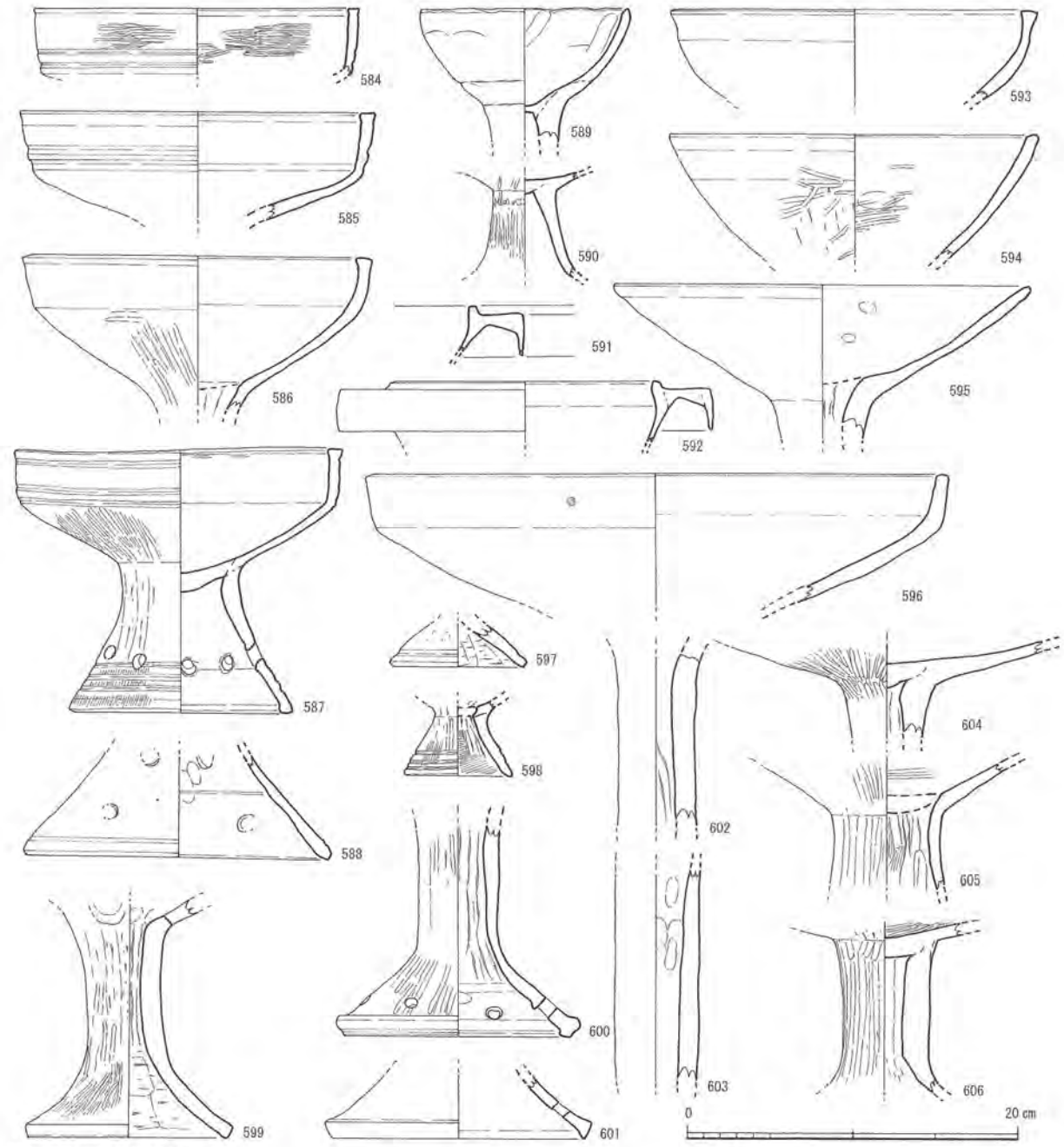
547～566：自然流路９（3150）

図 181　自然流路 9（3150）出土土器 4



567～583：自然流路９（3150）

図 182　自然流路９（3150）出土土器５



584 ～ 606：自然流路９（3150）

図 183　自然流路 9（3150）出土土器 6

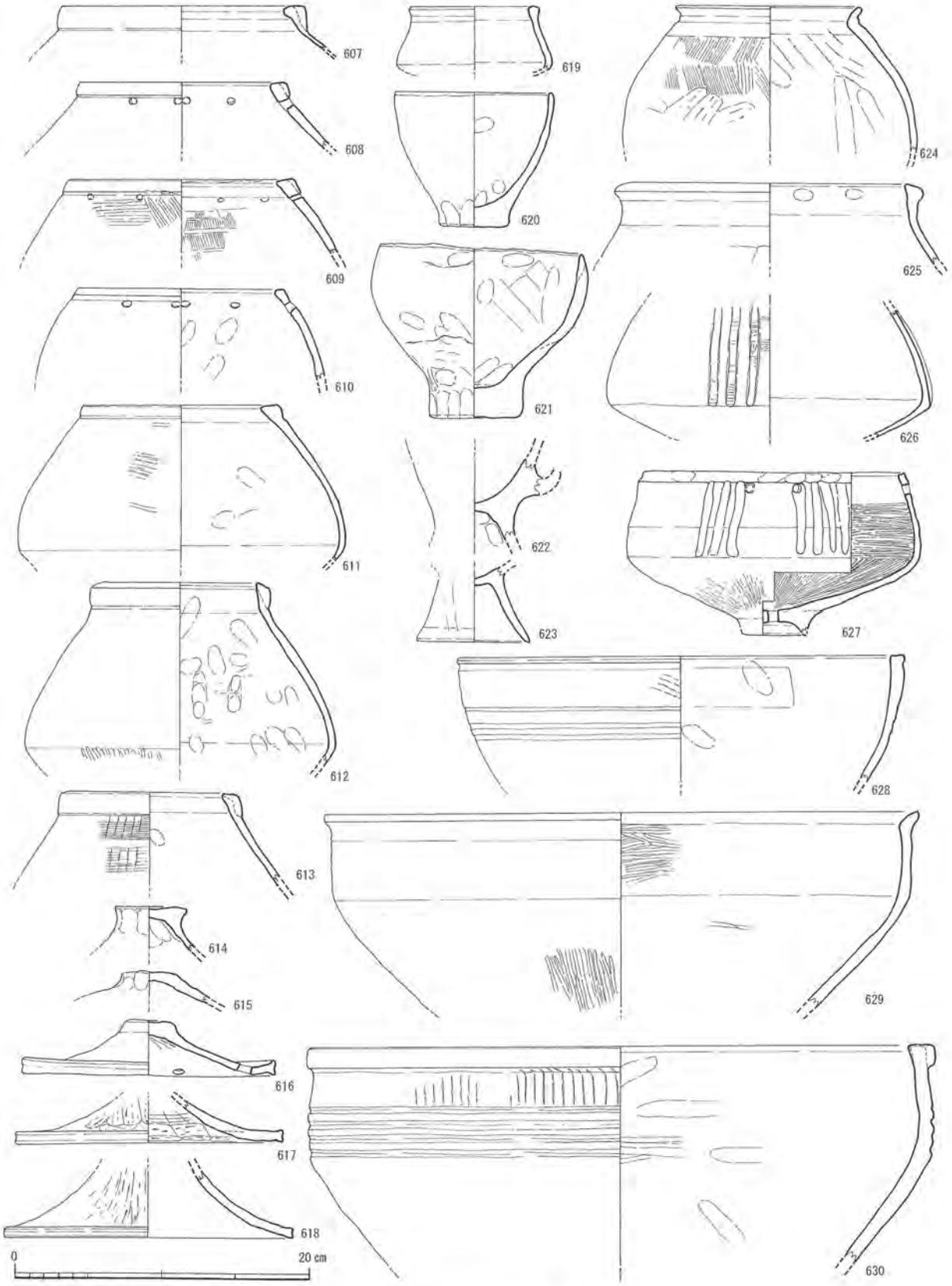
高杯は杯部の形体が小型の椀形を呈するもの（589）、水平口縁をもつもの（591・592）、やや口径が小さい皿状の杯部をもつもの（584～587・593）、大きく広がるもの（594～596）が存在する。（587）の高杯の脚部は、台付鉢などの脚台付土器と共通する短い脚部である。また、（597・598）は高杯形のミニチュア土器である。

高杯脚部（599）は内面に絞り痕をもつもので、胎土や作りは粗く器壁は厚い。杯底部付近には把手状の剥離痕が見られ、唐古・鍵遺跡で出土している取鍋形土器に類似する。（602・603）は柱状脚であるが通常のものよりも径が細く、鞴羽口に転用された可能性がある。

（627）は紐通穴を持つ鉢で、底部中央を穿孔する。外面には縦方向の棒状浮文の剥離痕が見られる。（622）はジョッキ形の土器で把手が取り付く。色調は赤褐色に発色する。橋本市柏原遺跡に類例が見られる。（631・632）は脚台付土器で。（631）は台付鉢と考えられる。水平方向に水差と共通する把手が取り付く。外面はヘラミガキ、把手に対応する位置に凹線文を５条施す。神

戸市玉津・田中遺跡に類例がみられる。(634) は器台である口縁部が広がり筒状となる。田原本町清水風遺跡で出土例がみられる。

搬入土器には (583) の生駒西麓産の甕が存在する。器壁は厚く、口縁端部を摘み上げずに丸く終わるもので、体部上半までヘラミガキを行うものである。生駒西麓のⅣ様式末葉段階に位置

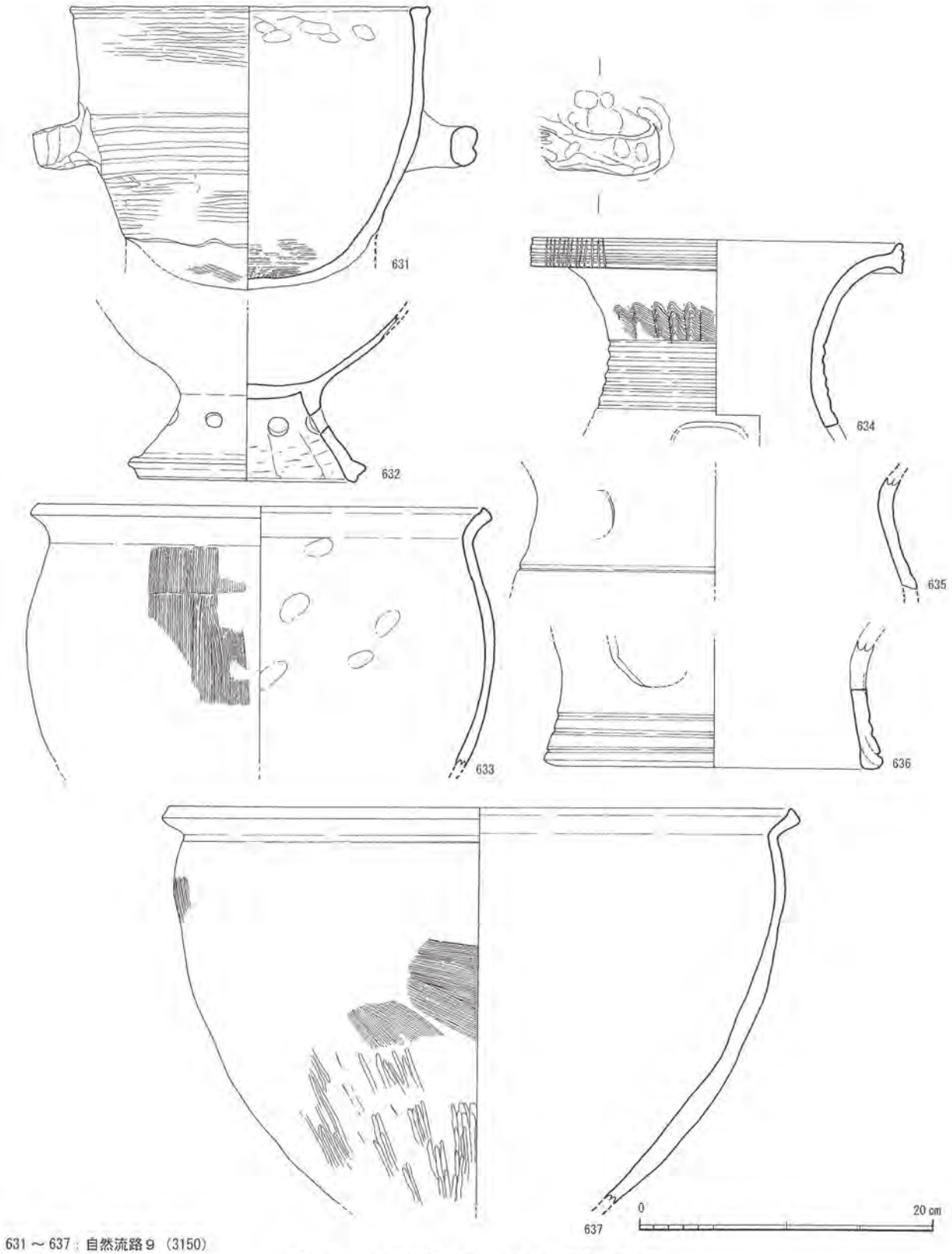


607～630：自然流路9（3150）

図 184　自然流路 9（3150）出土土器 7

付けられると思われる（濱田 1991）。（615）は生駒西麓産の蓋である。

自然流路という遺構の性格上、時期の取扱に注意が必要であるが、出土状況からは比較的短時間に埋没し、出土土器の一括性は高い。遺構の時期は、弥生時代中期末葉（Ⅳ様式末葉）と考えられる。ただし、東西セクションの北側と南側での出土状況の違いは、廃棄のわずかな時期差を示す可能性がある。なお、自然流路９では、プラントオパール分析、花粉分析、珪藻分析を行っている。



631 ～ 637：自然流路９（3150）

図 185　自然流路９（3150）出土土器８

6．縄文時代の遺構と遺物（第５層下面）

07－３区西半では、第５層下面において約 450 ㎡の範囲で縄文時代の遺構面を確認した。検出された遺構は、竪穴建物３棟、竪穴状遺構２基、配石遺構２基、埋設土器４基、集石遺構 10 基、土坑等が存在する。遺構の時期は、縄文時代後期初頭（中津式）～縄文時代後期前半（福田ＫⅡ式）を中心とし、一部、縄文時代中期末（北白川Ｃ式）、縄文時代晩期（長原式）の時期を含む。包含層中からは多量のサヌカイト剥片、石核、石器、縄文土器が出土している。

縄文時代の遺構は、配石遺構を中心に、周囲を竪穴建物、埋設土器、集石遺構が取り囲むように配置され、縄文時代後期の集落を良好な形で検出したといえる。

竪穴建物 11（3142）（図 187・図 188・図 191） 配石遺構の南西で検出した竪穴建物である。東側は中世の自然流路により削平される。竪穴建物北側で集石遺構５と重複し、竪穴建物中央では下層遺構面の土坑が重複する。埋土は大きく３層に分けられ層（上層）、３層（下層）で遺物が出土している。埋土にはマンガンを多く含む。

建物の規模は南北 2.7 m、東西 3.5 m以上、深さ 0.25 mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。床面で主柱穴５基を検出している。主柱穴は円形で直径 0.2～0.25 m、深さ 0.2～0.35 mを測る。竪穴建物の埋土からは、縄文土器、石器、自然礫がまとまって出土しており、遺構の埋没過程で廃棄されたものと考えられる。

遺物は、縄文土器深鉢（638～654）・浅鉢（655～658）、石鏃（Ｓ 13・Ｓ 19・Ｓ 23・Ｓ 28・Ｓ 30・Ｓ 32・Ｓ 36・Ｓ 44・Ｓ 47・Ｓ 49・Ｓ 51・Ｓ 56・Ｓ 68）、石錐（Ｓ 79）、楔形石器（Ｓ 79・Ｓ 85・Ｓ 87～Ｓ 89・Ｓ 91・Ｓ

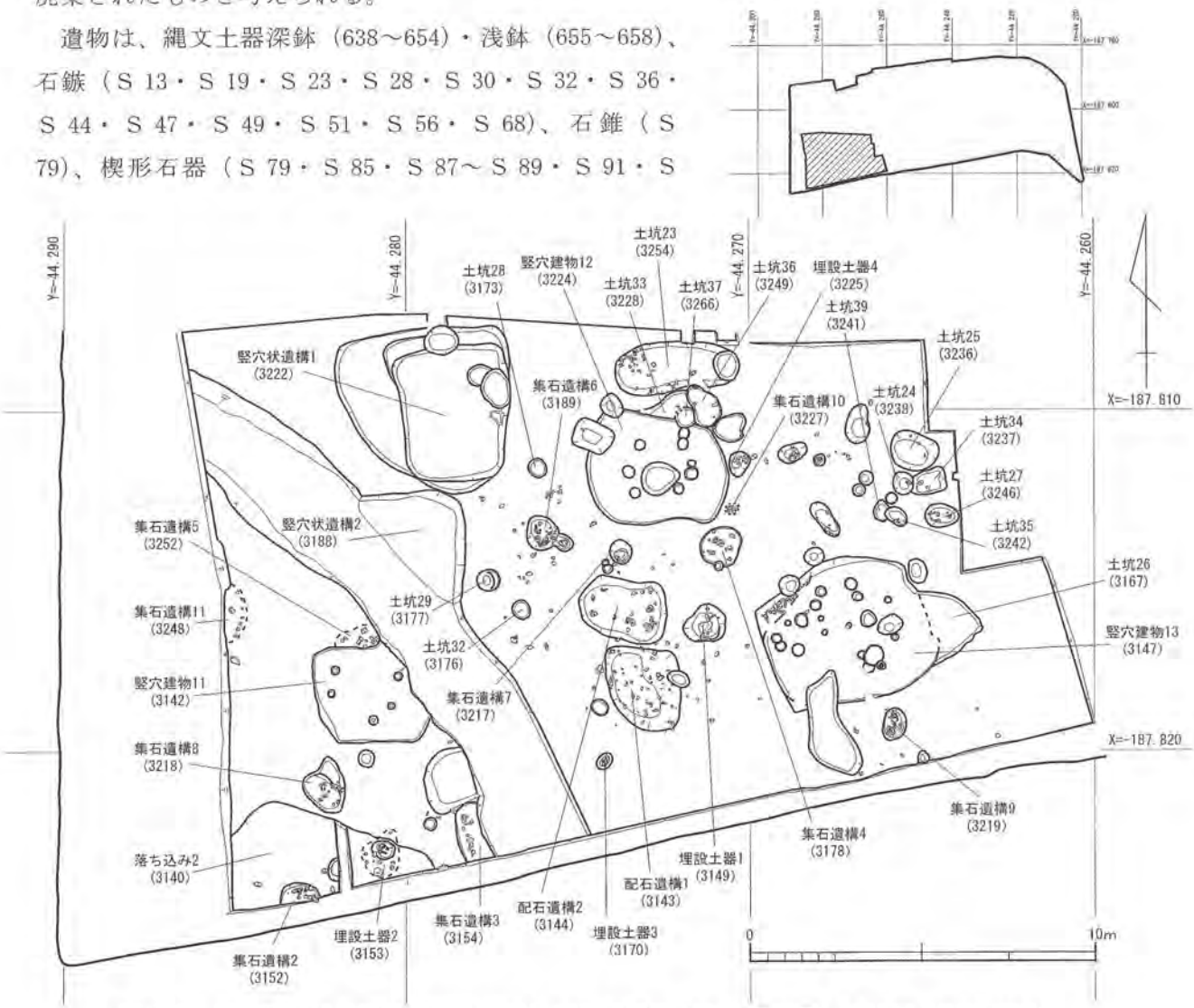


図 186　丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）下層遺構面（第５層下面）全体図（S=1/200）

92・S 94～S 99・S 101・S 103・S 105・S 107)、石錘（S 154)、磨石・敲石（S 202)、石核、サヌカイト剥片等が見られる。(656･657) は口縁部下の沈線文と胴部に垂下する沈線文が接する。(659～661) は縄文時代中期末のもので、(661) は口縁端部上端面に縄文を施す。これらは下層遺構に伴うものと考えられる。

竪穴建物 11 からは、大量のサヌカイト剥片、楔形石器が出土しており、竪穴建物においては石器製作がなされていたと推測できる。遺構の時期は､縄文時代後期（中津Ⅱ式）と考えられる。なお、検出段階から大量のサヌカイト剥片が出土したため、遺構埋土についてはすべて層位ごとに１ｍ単位での土壌採取を行い、土壌水洗、遺物選別作業を行った。

竪穴建物 12（3224）（図 189・図 191） 配石遺構の北で検出した竪穴建物である。建物北側で、土坑 33・36・37 と重複し、これらの土坑が後出する。建物の規模は南北 3.3 m、東西 4.1 m、深さ 0.3 mを測り、平面形は不整円形を呈する。床面で柱穴８基と中央部で炉を検出した。主柱穴は重複が見られるが、６本柱に復元できるものと考えられる。

竪穴建物埋土・床面からは、縄文土器深鉢（662・664・665)・縄文土器浅鉢（663)、石鏃（S 48・S 54・S 63)、スクレイパー、板状石核（S 136)、石錘（S 152・S 161・S 193)、磨石・敲石（S 204)、サヌカイト剥片が出土している。(663) は短い波状口縁部をもち、口縁部に段をつくりユビオサエを施す。遺構の時期は、縄文時代後期（中津Ⅱ式）と考えられる。

竪穴建物 13（3147）（図 190・図 191） 配石遺構の東で検出した竪穴建物である。建物西側で土坑 26 と重複し、竪穴建物が後出する。遺存状況は良好で、東西 4.7 m、南北 4.3 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。竪穴建物の北西隅、南西隅では、明確に建物の壁面を検

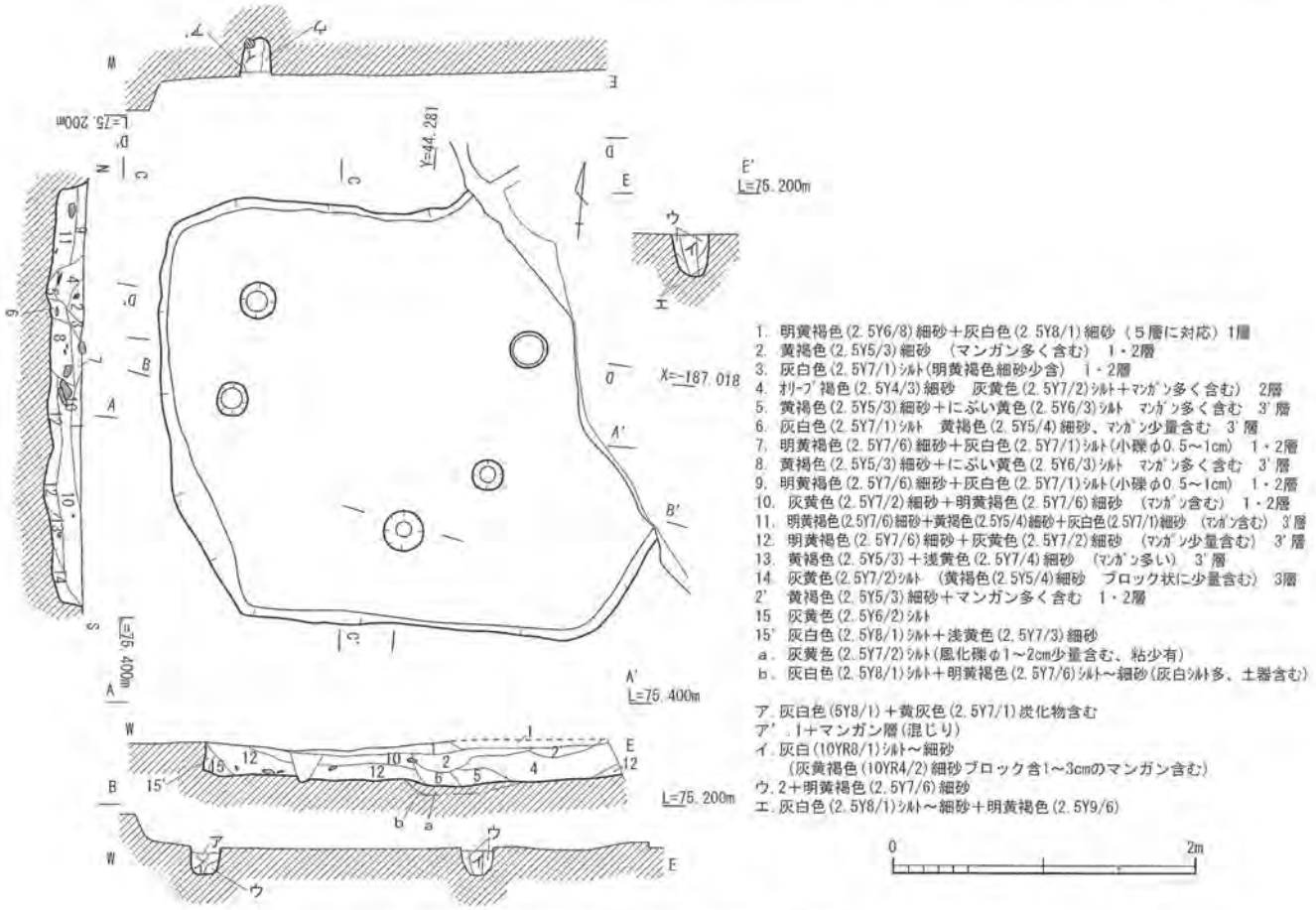


図 187　竪穴建物 11（3142）平面図・断面図　(S＝1/50)

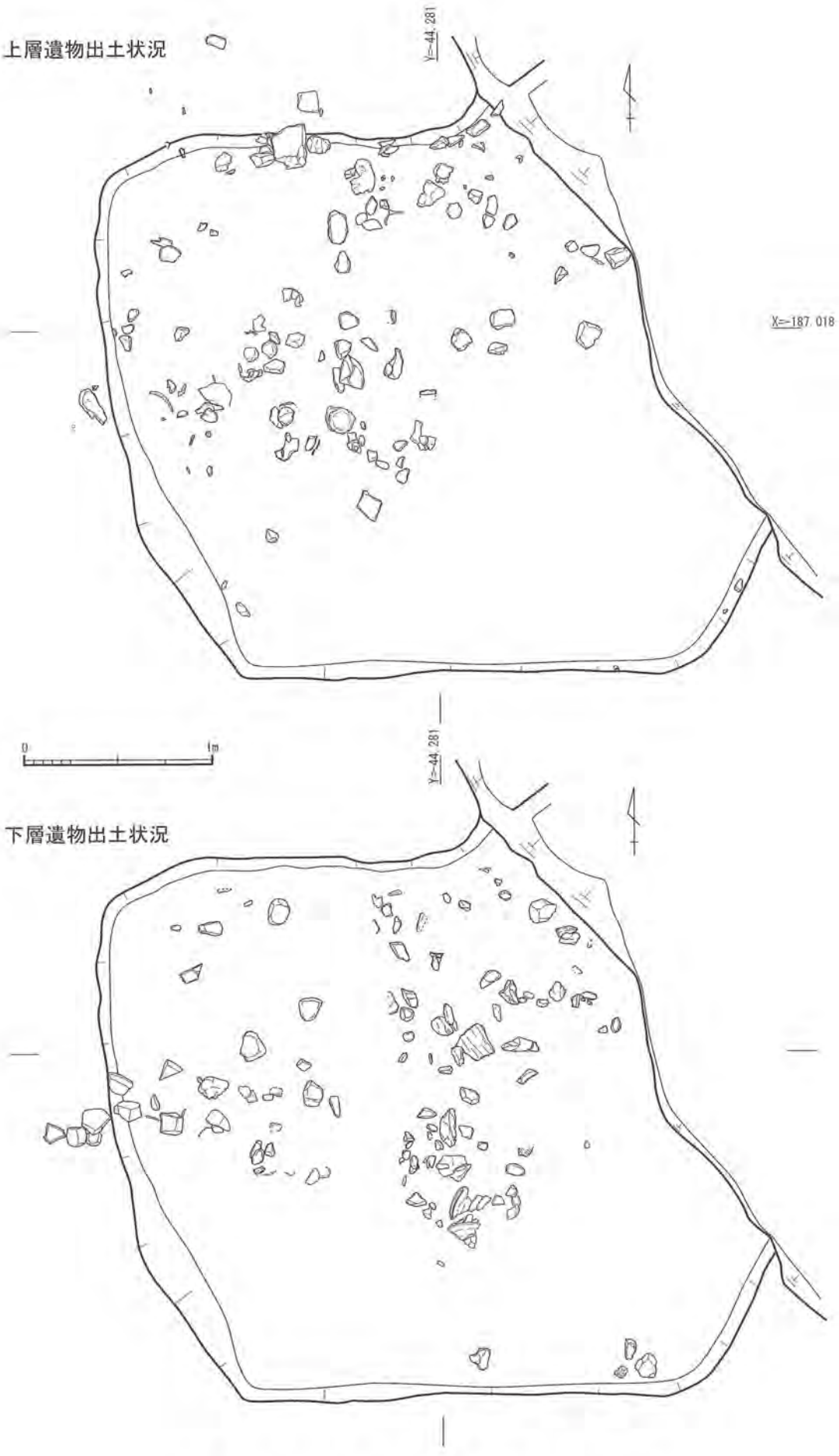


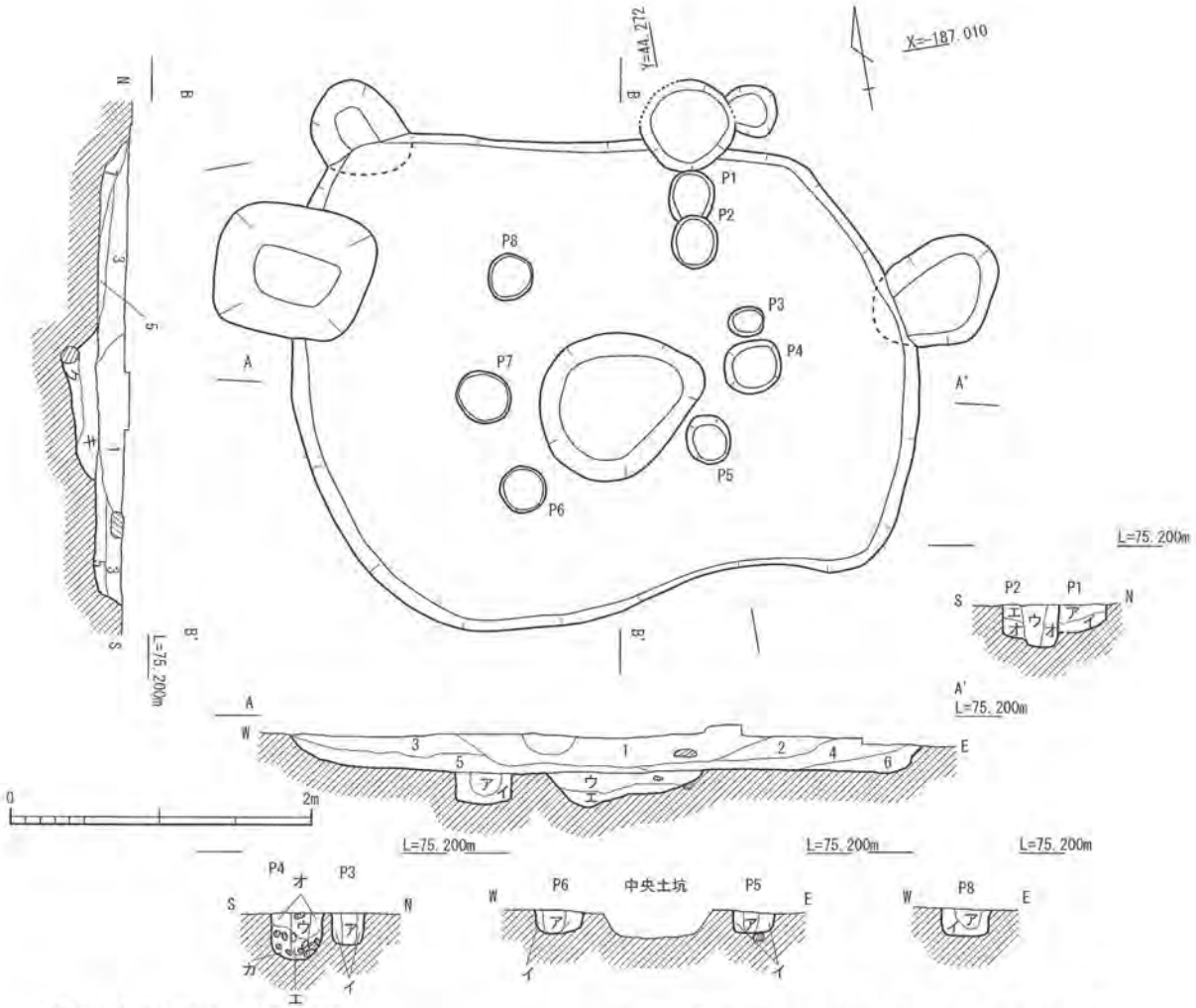
図 188　竪穴建物 11　(3142) 平面図　(S＝1/30)

出できなかった。竪穴建物床面では土坑、柱穴を検出しているが、主柱穴は明確に対応せず炉も検出できていない。調査時には竪穴建物に周壁溝が伴うものとして調査を進めたが、土層断面の観察から再度検討したところ、周壁溝は伴わないものと判断した。

竪穴建物内には直径10～20㎝の円礫、亜角礫からなる石組み状の集石が複数見られる。これらは、竪穴建物の埋土掘り下げ中に検出したため、平面で検出できなかった建物上部からの切り込みと考えられる。竪穴建物埋没過程で集石遺構が作られたものとみられ、中には結晶片岩の板石や磨石・敲石を転用し組み合わせた石組みピット状の集石遺構もみられる。

また、竪穴建物の北東部の床面から壁面にかけては、直径10㎝大の礫が集中して出土した。これらについては、下層遺構面の自然流路10に伴う礫と判断している。

竪穴建物埋土・床面・柱穴からは、縄文土器深鉢（666～670）、磨製石斧（S 5）、石鏃（S 25・S 59）、スクレイパー（S 113）、石核、石錘（S 155・S 197）、磨石・敲石（S 206・S 214・S 222）、石皿（S 232）、サヌカイト剥片が出土している。（S 5）は蛇紋岩製石斧で北陸地域からの搬入品とみられる。遺構の時期は、縄文時代後期（福田KⅡ式）である。



1. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂～シルト(マンガン多)
2. 黄灰色(2.5Y6/1)細砂＋黄褐色(2.5Y5/3)細砂(φ1～2cmの小礫、マンガン含む)
3. 浅黄色(2.5Y7/3)細砂＋灰黄色(2.5Y7/2)細砂(マンガン多　5より灰黄多い)
4. 浅黄色(2.5Y7/4)細砂＋灰白色(2.5Y8/2)細砂～シルト(マンガン少量含む)
5. 浅黄色(2.5Y7/3)細砂＋灰黄色(2.5Y7/2)細砂(マンガン含む)
6. 明黄褐色(2.5Y7/6)細砂＋淡黄色(2.5Y8/3)細砂
7. 明黄褐色(2.5Y7/6)細砂＋灰黄色(2.5Y7/2)細砂(マンガン含む)

ア. 灰白色(2.5Y7/1)シルト(黄褐色(2.5Y5/4)シルトブロック少量含む)
イ. 灰白色(2.5Y7/1)シルト＋明黄褐色(2.5Y7/6)シルト
ウ. 灰白色(2.5Y7/1)シルト(黄褐色(2.5Y5/4)シルトブロック少量含む)
エ. 灰白色(2.5Y7/1)細砂(小礫φ3～5cm多)
オ. 灰白色(2.5Y7/1)シルト＋明黄褐色(2.5Y7/6)シルト
カ. 灰黄色(2.5Y7/2)細砂(小礫5～10cm多)
キ. にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂＋灰白色(2.5Y7/1)シルト
ク. 灰白色(2.5Y7/1)シルト＋明黄褐色(2.5Y7/6)シルト（小礫φ3～5cm多く含む）

図189　竪穴建物12（3224）平面図・断面図　（S＝1/50）

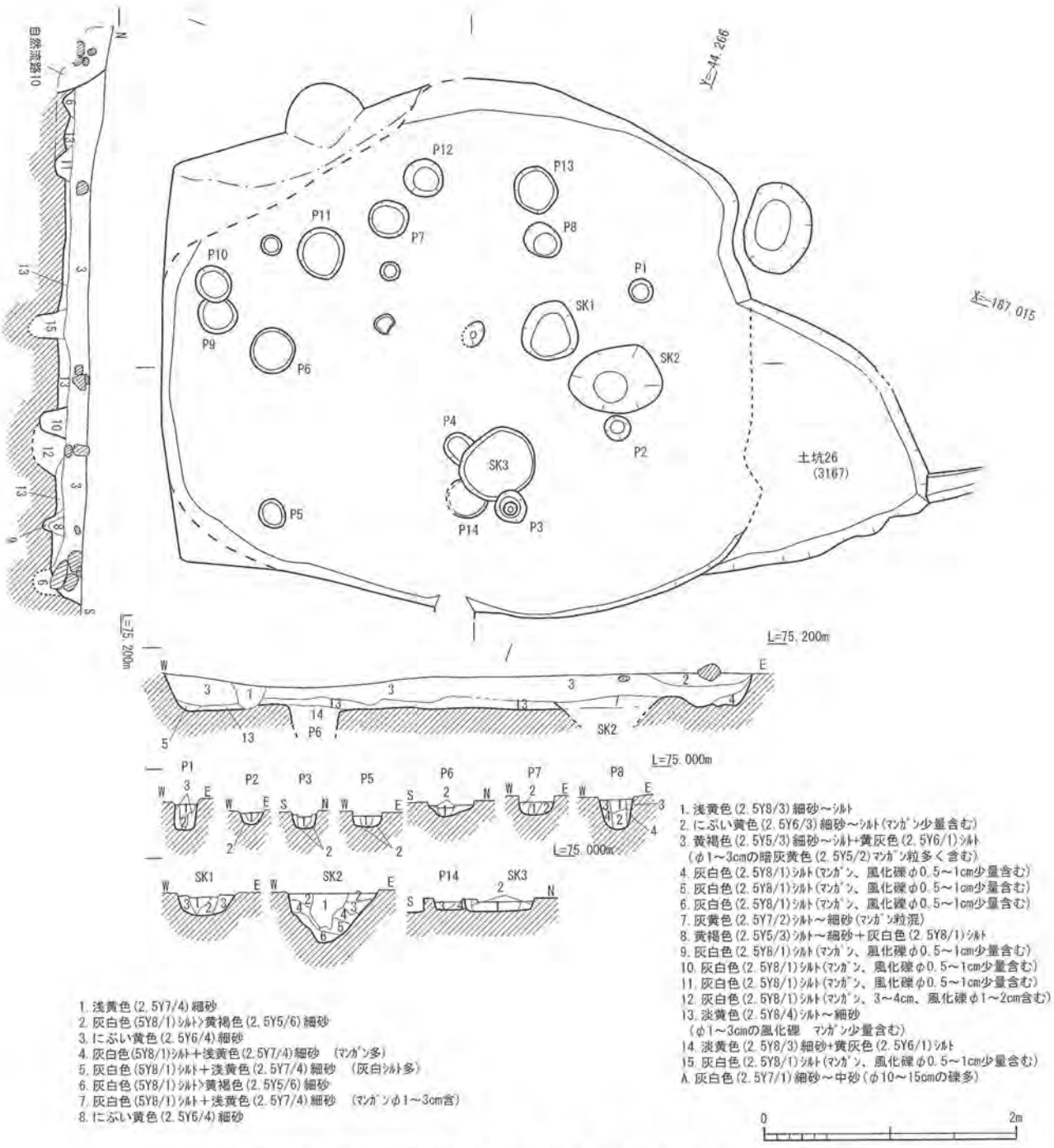
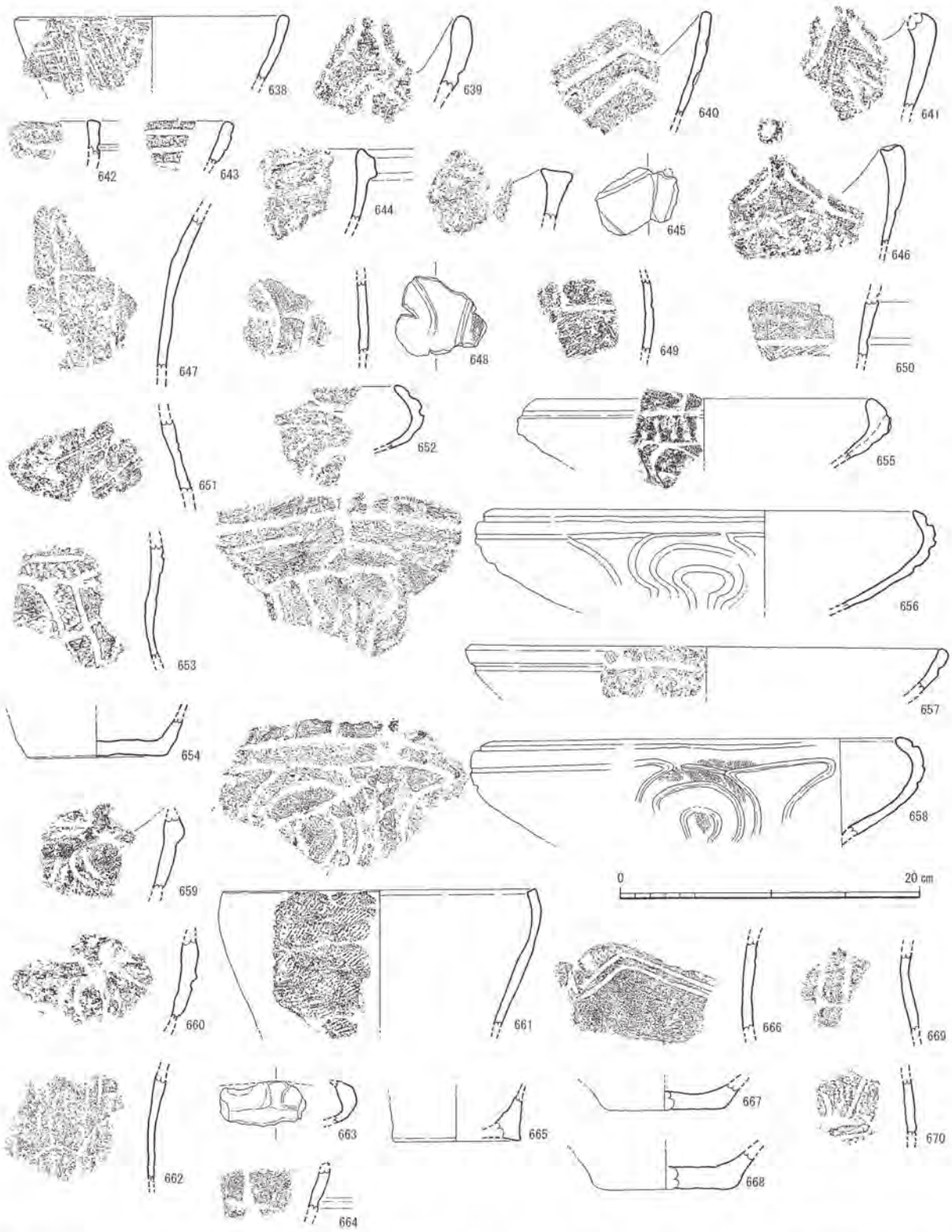


図 190　竪穴建物 13（3147）平面図・断面図　（S=1/50）

竪穴状遺構１（3222）（図 192）　竪穴建物２の北西で検出した竪穴状遺構である。南北 5.0 m、東西 4.75 m、深さ 0.2 mを測り、隅丸方形の竪穴状遺構と不整円形の竪穴状遺構と重複する。遺構の規模から考えると、竪穴建物となる可能性が高いが、炉、主柱穴を検出していないため、竪穴状遺構とした。竪穴状遺構床面では土坑２基、ピットを検出している。

竪穴状遺構埋土からは石鏃（S 50）、石錐（S 150）、磨石・敲石（S 218）が出土している。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

竪穴状遺構２（3188）（図 192・図 193・図 205）　竪穴建物１の北東、竪穴状遺構１の南で検出した。西半分を中世の溝により削平される。南北 3.3 m以上、東西 3.05 m以上、深さ 0.2 mを測り、土坑掘形壁面は垂直に立ち上がる。竪穴状遺構１と同様に竪穴建物の可能性があるが、柱穴、炉等は検出できていない。竪穴状遺構床面からは土器、石器のほか、切目石錘・打欠石錘からなる石錘が大量に出土した。

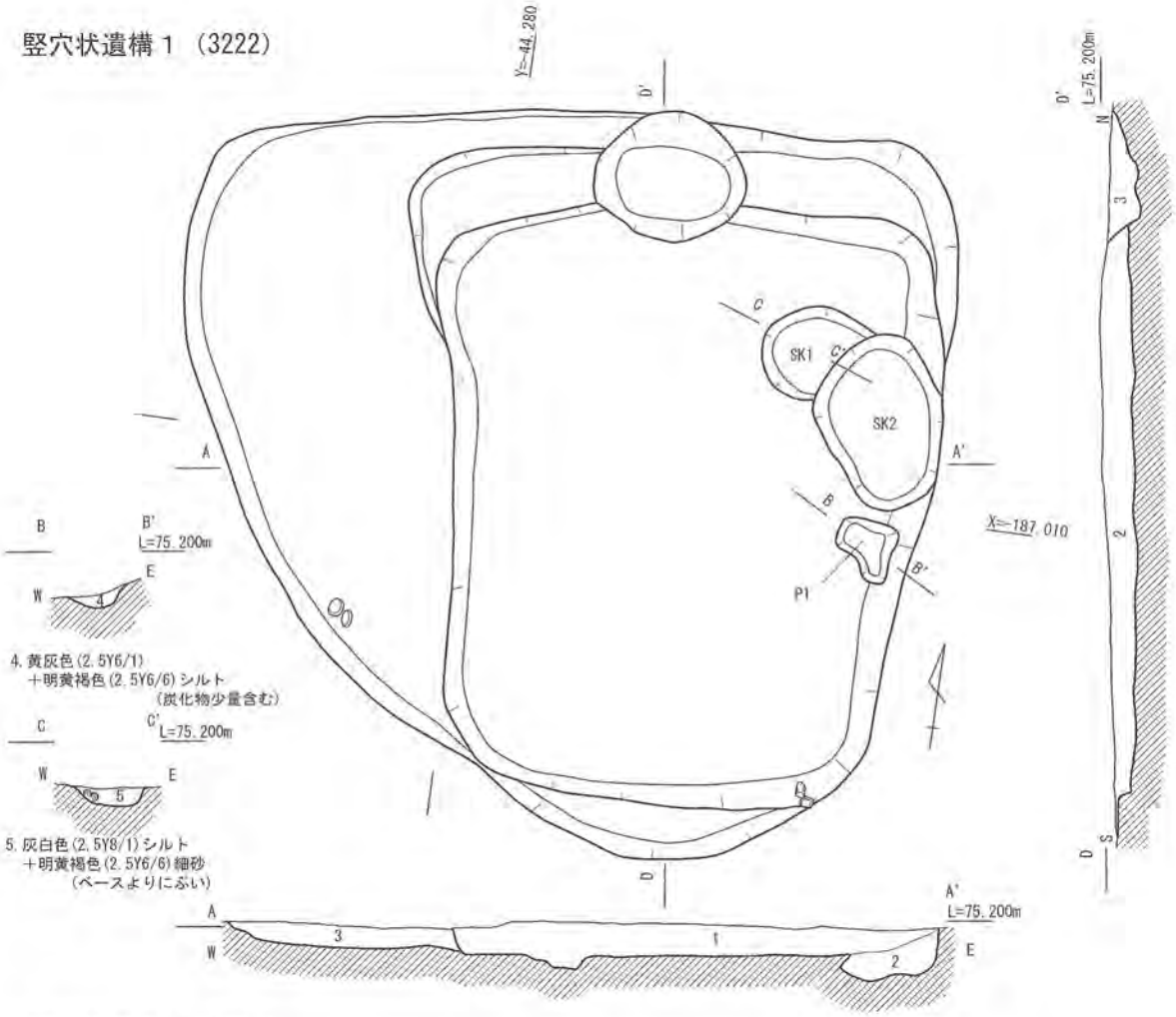


638～661：竪穴建物11【638～654・656～661：竪穴建物11（3142） 655：P5】 662～665：竪穴建物12（3224） 666～670：竪穴建物13（3147）

図191　竪穴建物11～13出土土器

石錘は15点余りが集中して出土した石錘集中区が存在し、約1.0ｍの範囲に石錘が２個１対で直線的に並ぶ。竪穴状遺構２からは、石錘集中区や周辺からの出土を含めると合計20点以上の石錘が出土している。石錘集中区では網紐等の植物繊維こそ遺存していないが、その出土状況から石錘が網に着装された状態で投棄されていたと考えられる。石錘集中区では切目石錘・打欠石錘が混在して出土し、両者はほぼ同じ機能で用いられたとみられる。遺物は、縄文土器深鉢（692

竪穴状遺構１（3222）



竪穴状遺構２（3188）

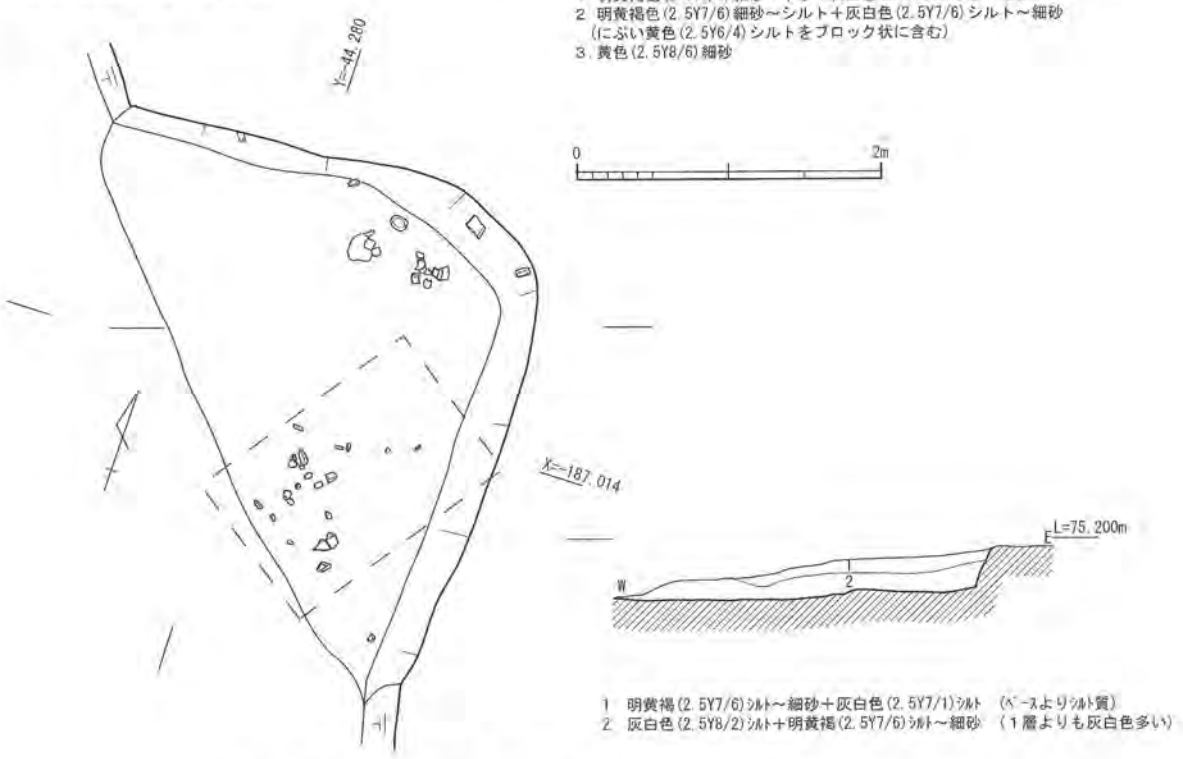


図 192　竪穴状遺構１・２平面図・断面図　(S＝1/50)

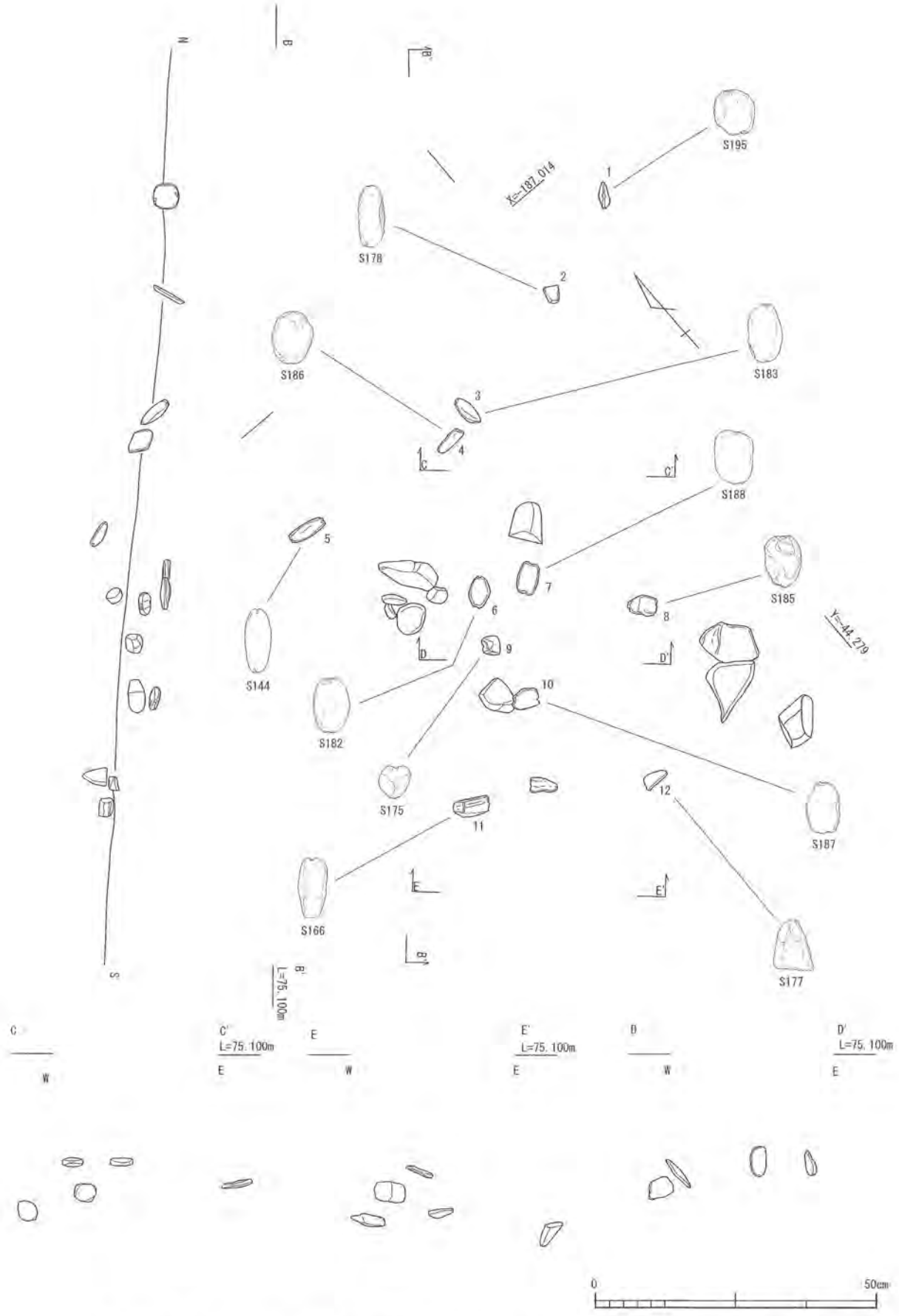


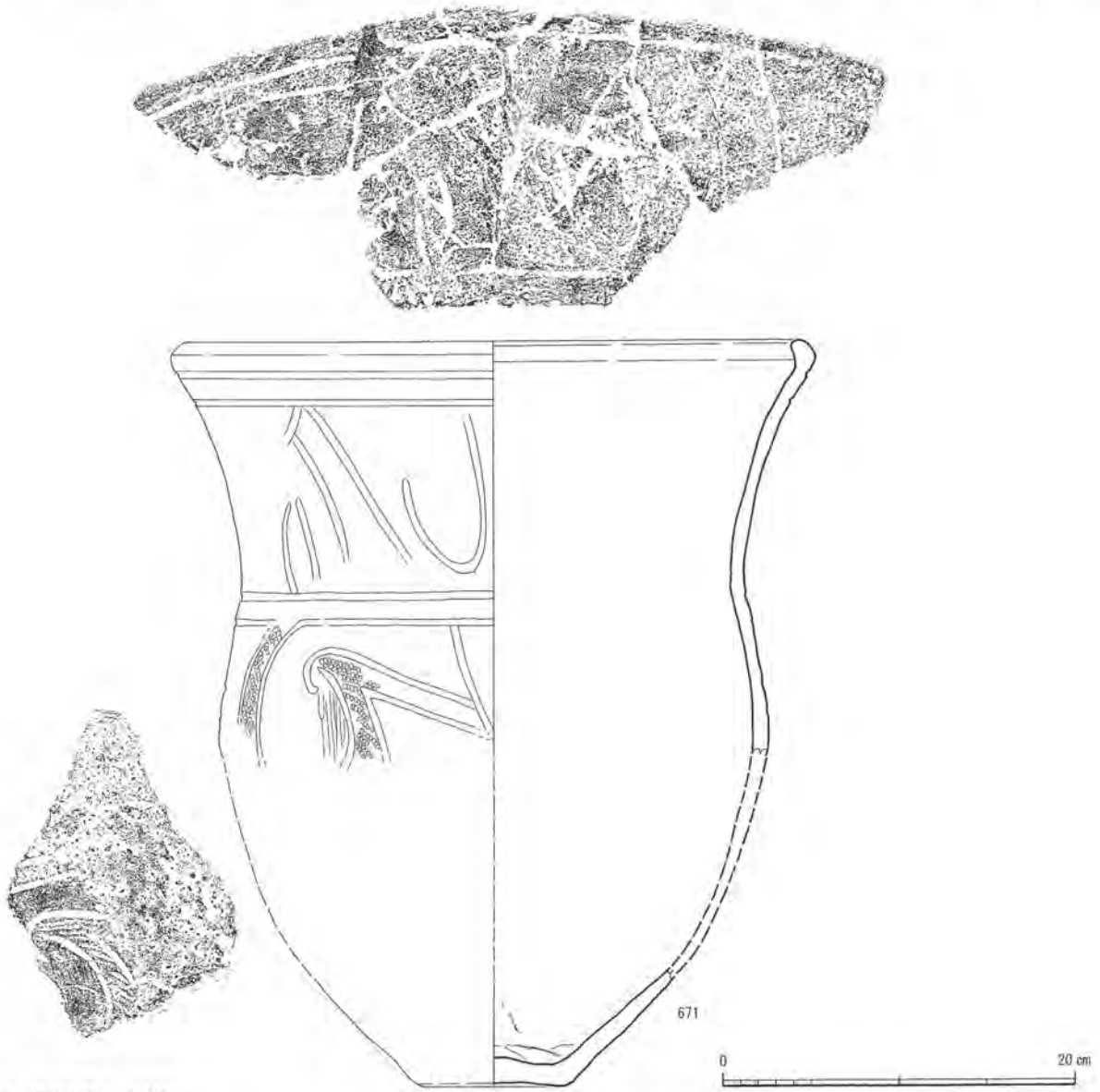
図 193　竪穴状遺構２（3188）石錐集中区出土状況図・立面図　（S＝1/10）

～696)、石鏃（S 21・S 42・S 52)、石匙（S 125)、石錘（S 144・S 157・S 166・S 171・S 174・S 175・S 177・S 178・S 180・S 182～189・S 191・S 192・S 194・S 195)、磨石・敲石が出土している。遺構の時期は、縄文時代後期（中津Ⅱ式）と考えられる。

埋設土器１（3149）（図 194・図 195） 配石遺構の東に近接して検出した埋設土器である。長径 1.25 m、短径 1.1 m、深さ 0.5 mを測る不整円形の土坑に縄文土器深鉢を埋設する。埋設土器１の下部は下層遺構面の自然流路 10 が重複する。

埋設土器の検出状況は、土坑検出面から 15 cmほど掘り下げた時点で、幅 40 cm、長さ 40 cmの結晶片岩製の板石（S 236）を検出した。この板石は埋設土器の蓋石として用いられたものと考えられる。蓋石を除去すると、土坑中央を中心に直径５～20 cm程度の亜角礫、円礫からなる礫群が帯状に出土する。さらに、礫群を取り除くと、完形の縄文土器深鉢（671）が横位に置かれ、押しつぶされた状況で出土した。埋設土器下部には蓋石と同様の大きさをもつ幅 40 cm、長さ 40 cmの結晶片岩製の板石（S 235）が出土している。この板石は埋設土器の底石として用いられたものと考えられる。土坑底部から 10 cm程度土砂を充填し、底石を据え付ける。

土層断面の観察から、土器埋設後、土圧により押しつぶされ、土坑上面に置かれた蓋石と下位



671：埋設土器１（3149）

図 194　埋設土器１（3149）出土土器

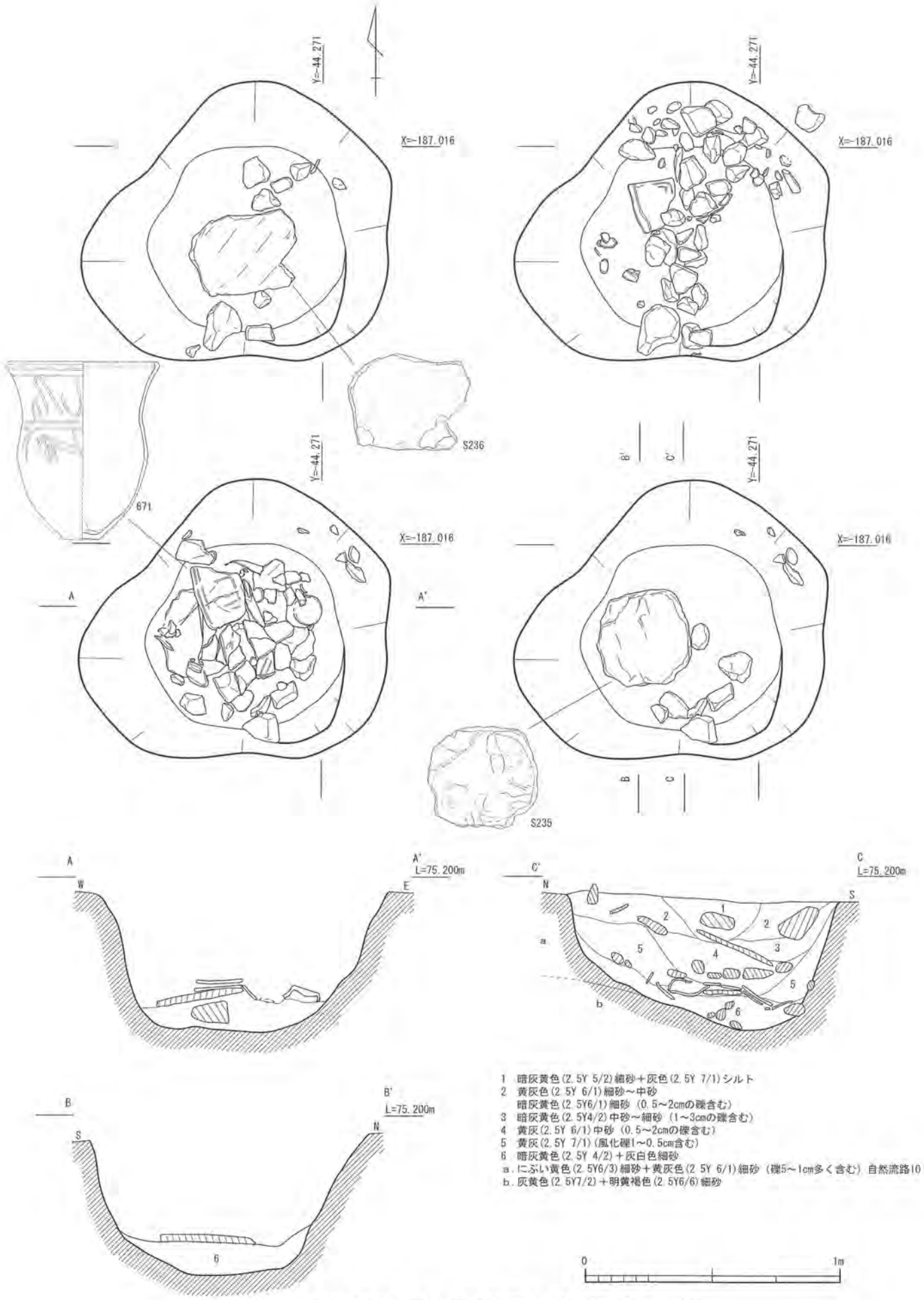


図 195　埋設土器 1 (3149) 平面図・断面図　(S＝1/20)

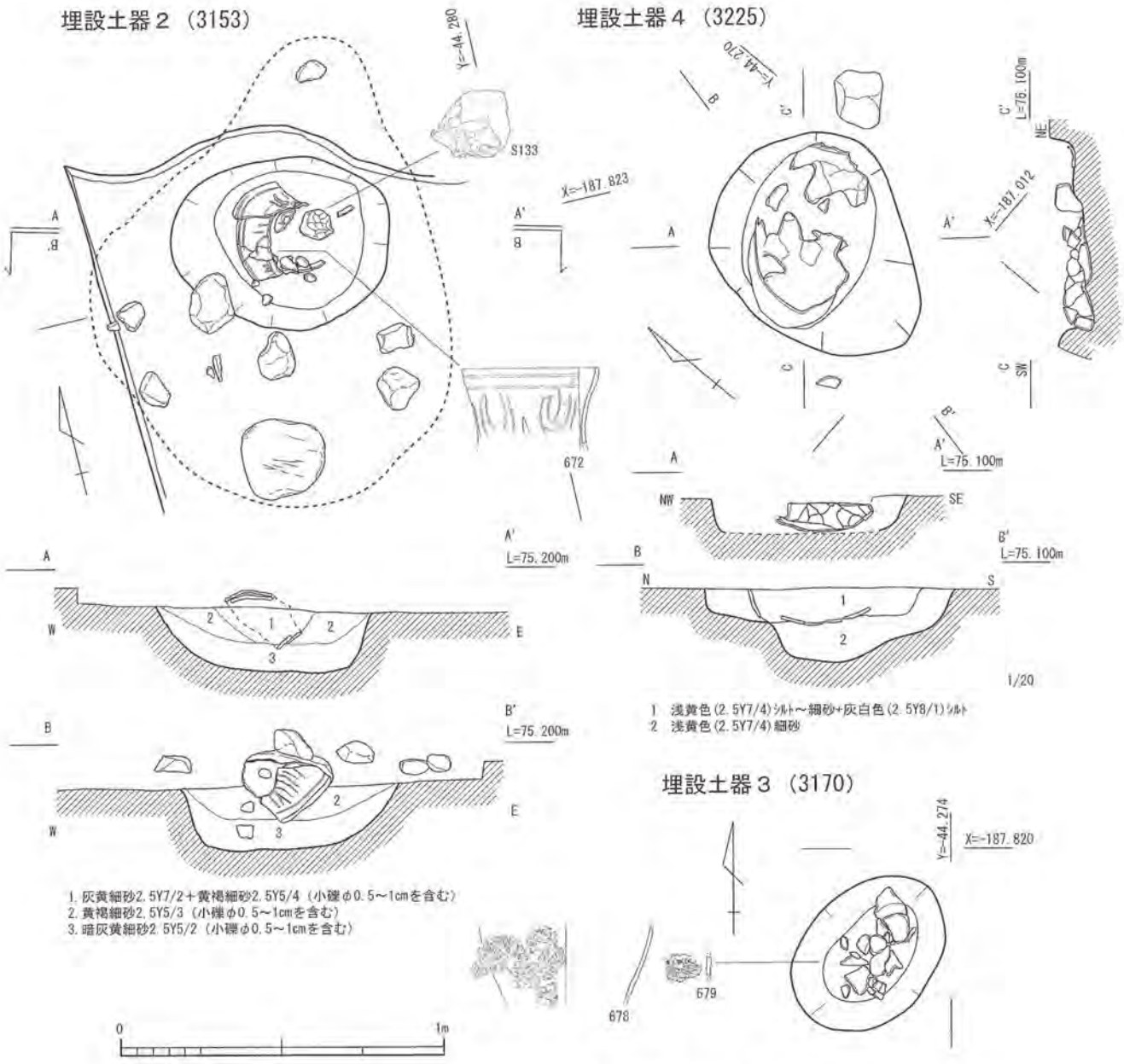
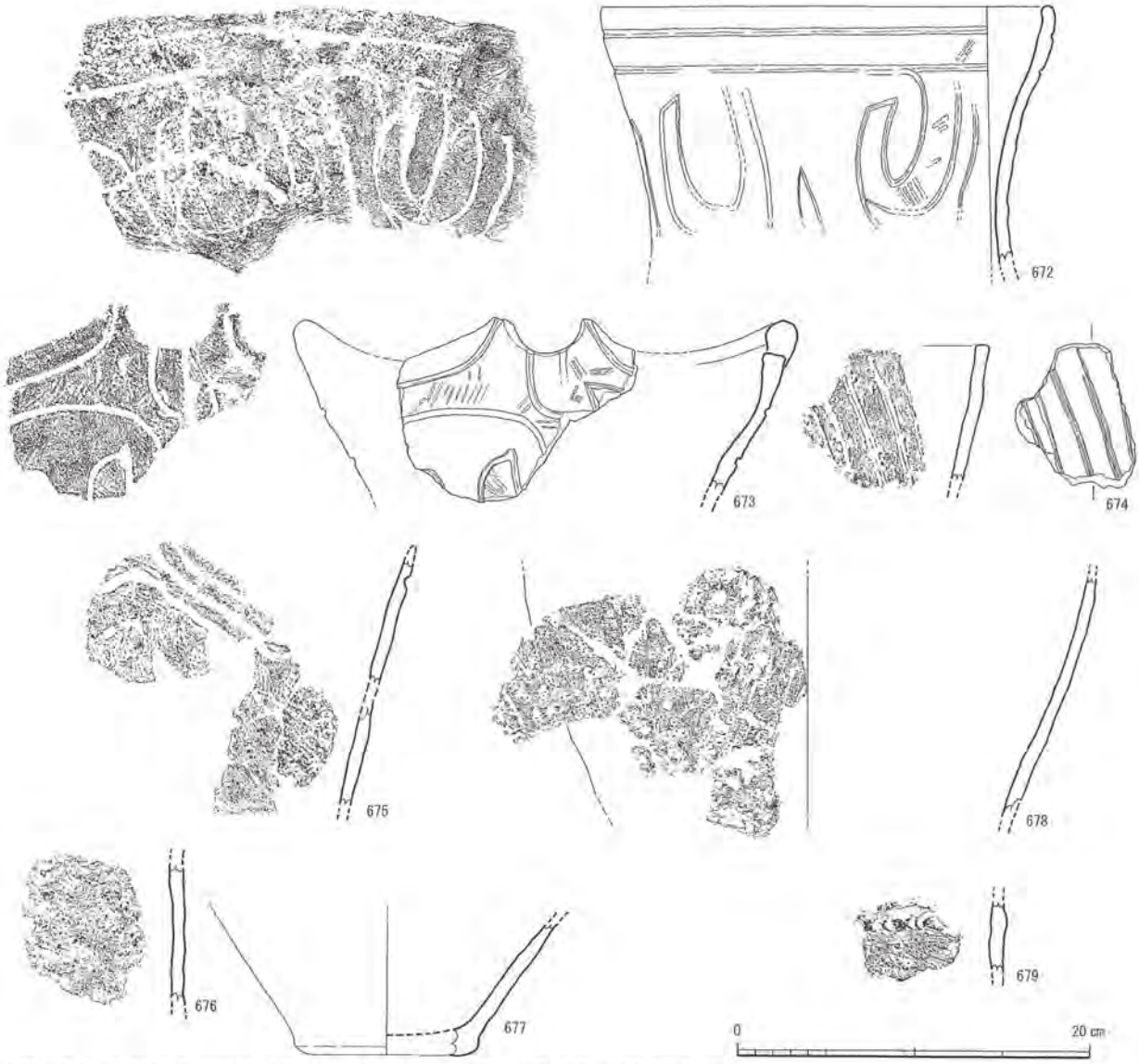


図 196　埋設土器２～４平面図・断面図　(S=1/20)

の礫群が落ち込んだものとみられる。

蓋石と底石は表面の摩耗具合から、石皿として用いられていたものを転用したと考えられる。板石の厚さを比較すると、蓋石は２cm程度の薄い板石を、底石は４cm程度の厚い板石を用いており、埋葬に際しての工夫と見られる。埋設土器１は結晶片岩製の板石を埋設土器の上下に配し、蓋石、底石としており、極めて特異な埋設といえる。(671) は完形で出土したが、土器の遺存状況が悪く完形には復元できていない。口縁部下には沈線文が巡る。胴部には鍵の手状に縄文帯を施す。遺構の時期は、縄文時代後期初頭（中津Ⅱ式）と考えられる。

埋設土器２（3153）（図 196・図 197）　竪穴住居２の南で検出された埋設土器である。長径 0.65 m、短径 0.5 m、深さ 0.3 mを測る楕円形の土坑に縄文土器深鉢 (672) を埋設する。埋設土器２の周囲には、直径 10～30 cm大の亜円礫が集中し、標石の可能性もある。埋設土器は口縁部を斜め下方向に埋設しており、土坑上部は削平を受け埋設土器下半部は欠損する。土坑内からは埋設土器の直近で



672～674：埋設土器２（3153） 675～677：埋設土器４（3225） 678・679：埋設土器３（3170）

図 197　埋設土器２～４出土土器

サヌカイト石核が出土しており、埋設土器に伴って副葬されたものと見られる。(672) は口縁部下に沈線文が巡り、胴部にＪ字文を施す。遺構の時期は、縄文時代後期（中津Ⅱ式）と考えられる。

埋設土器３（3170）（図 196・図 197）　配石遺構の南西で検出した埋設土器である。遺構上面を掘削した段階で検出したため、土坑の底面付近を検出したに過ぎない。埋設土器３上面からは多量の縄文土器深鉢が出土したため、埋設土器と判断した。検出できた範囲で長径 0.5 m、短径 0.4 m、深さ 0.05 mを測り、平面形は楕円形を呈する。なお、出土土器は細片化し遺存状況が悪く、縄文土器深鉢の下半部のみしか復元できていない。遺構の時期は、縄文時代晩期（長原式）と考えられる。

埋設土器４（3225）（図 196・図 197）　竪穴建物２の東に近接して検出した埋設土器である。長径 0.75 m、短径 0.6 m、深さ 0.25 mを測る楕円形の土坑に完形の縄文土器深鉢（675）を埋設する。埋設土器３の上面北側には、直径 15 ㎝大の亜円礫が出土しており、標石の可能性もある。埋設土器は横倒しに埋設している。(675) は波状口縁部をもち、口縁部下に二条の沈線文を施す。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。完形で出土したが、埋設土器の遺存状況が悪くその形を復元することが困難であった。

配石遺構１（3143）・配石遺構２（3144）（図198・図199・図205）縄文時代の遺構の中央では、竪穴建物や土坑は検出されず、幅2.5ｍ程の範囲で礫が広がる配石遺構２基（配石遺構１・２）を検出した。

配石遺構１は、落ち込み上に直径５～20㎝大の亜円礫、亜角礫が広がる。東西2.5ｍ、南北2.0ｍ、深さ0.15ｍを測り、平面形は不整円形を呈する。埋土は浅く、にぶい黄色細砂に灰白色シルトがクラック状に入り込む。

配石遺構２は、直径10～20㎝大の亜円礫、亜角礫が広がり、配石遺構１よりも大ぶりの石材が用いられる傾向がある。礫の多くは配石遺構の上面で検出した。また、配石遺構２の中央に、幅10㎝、長さ25㎝の棒状の結晶片岩が出土した。結晶片岩は遺構埋土に対して埋め込まれ、樹立された状況で検出している。類例から推測すると配石遺構に伴う大型石棒（または立石）とみられる。大型石棒の下端部は丸く整形され、上端は欠損する。大型石棒の中には復元長90㎝のものも存在することから、欠損する以前はさらに上部まで伸びていたことがうかがえる。

竪穴建物や埋設土器、集石遺構はこの配石遺構を取り囲むように配置されている。大型石棒を中央に配する配石遺構は、中央の空閑地に設けられ、祭祀空間として機能していたと考えられる。

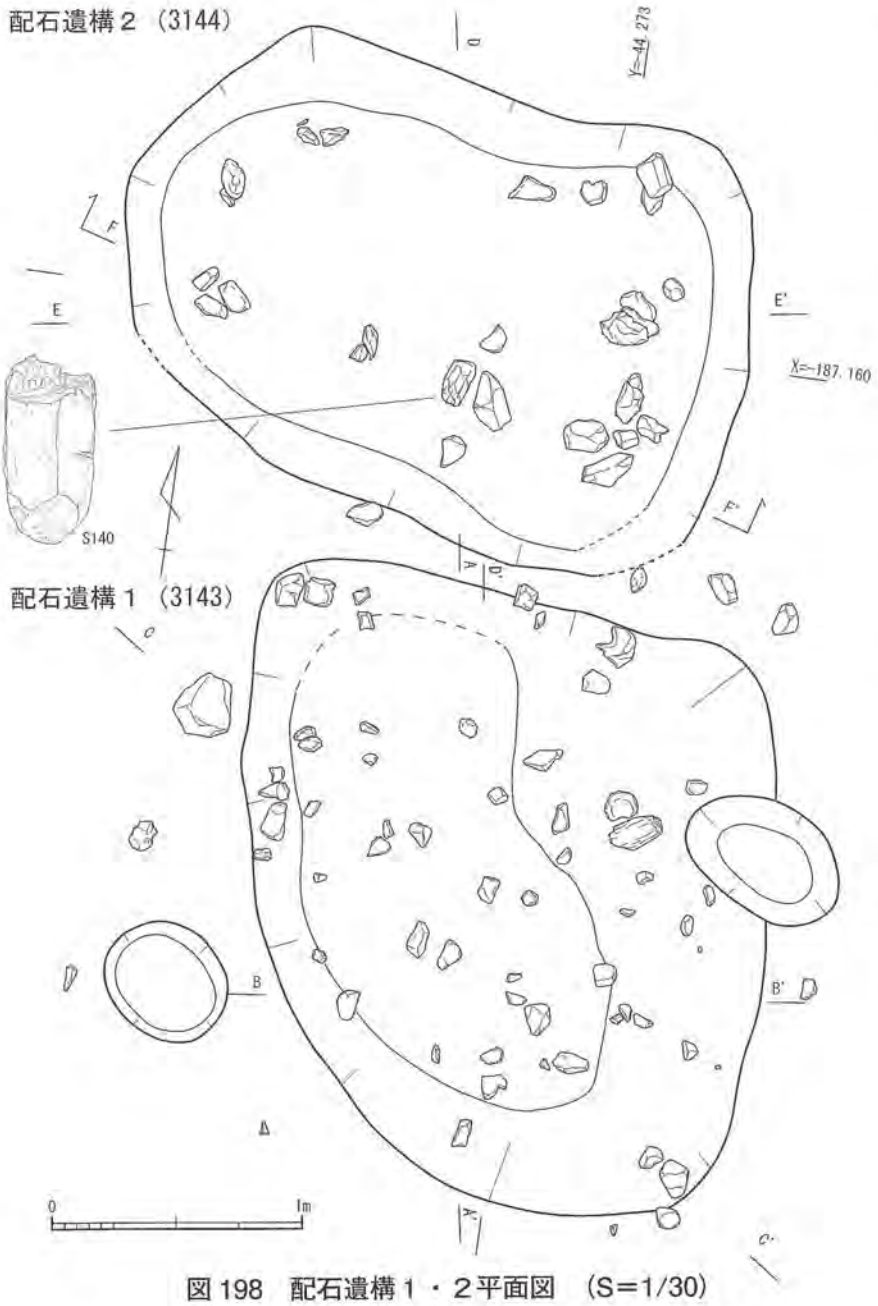
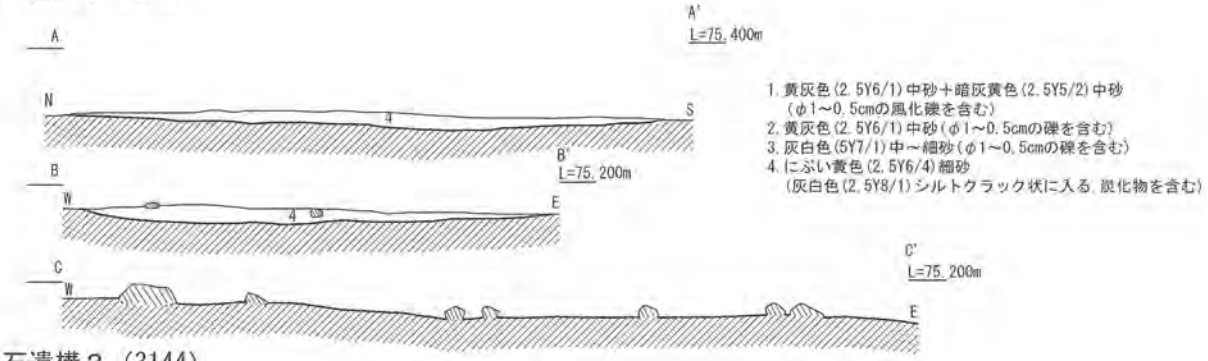


図198　配石遺構１・２平面図　(S=1/30)

遺物は、配石遺構１から縄文土器深鉢底部(680)、スクレイパー（S115）が出土し、配石遺構２からは縄文土器細片と大型石棒（S 140）が出土している。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

集石遺構２（3152）（図200）自然礫や礫石器からなる集石が10ヶ所以上見つかっており、これを集石遺構とした。集石遺構２は埋設土器２の西で検出した。南側は側溝の掘削により検出できなかった。直径１ｍ程の範囲で直径10～25㎝大の亜角礫、亜円礫が集中し、集石下部には土坑を伴う。土坑の規模は長径1.1ｍ、短径0.7ｍ以上、

配石遺構１（3143）



配石遺構２（3144）

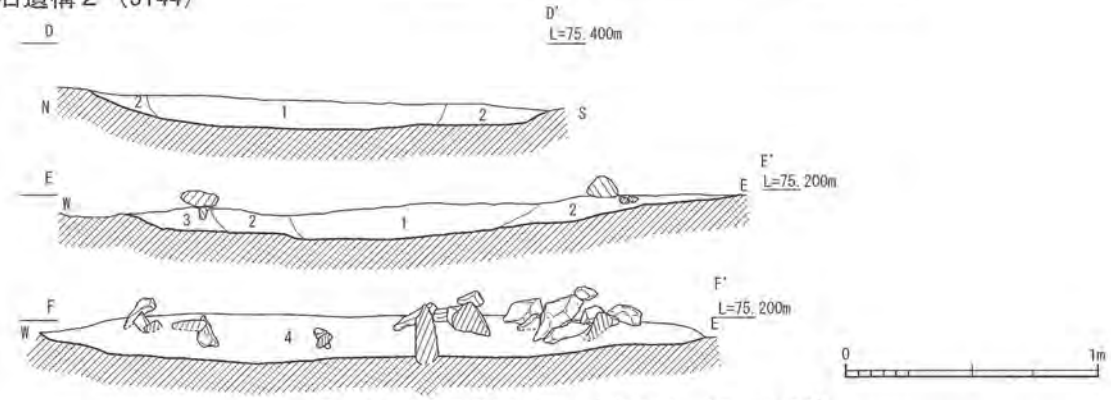


図 199　配石遺構１・２断面図　（S＝1/30）

深さ 0.15 ｍを測り、平面形は楕円形を呈する。集められた礫の中には焼成を受け、被熱により赤変したものも含まれる。集石遺構２については、遺構周辺に焼土が見られないものの屋外炉の可能性もある。遺物は、縄文土器が出土したが、いずれも細片である。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

集石遺構３（3154）（図 200）　埋設土器２の東で検出した集石遺構である。東側は中世の自然流路に削平され、南側は側溝の掘削により検出できなかった。南北 1.7 ｍ以上、東西 0.7 ｍ以上の範囲で浅く落ち込み、直径 15～20 ㎝大の亜円礫、亜角礫が縦長に分布する。礫に被熱は認められず、集石下部には土坑を伴わない。遺物の出土は認められない。

集石遺構４（3178）（図 200）　竪穴建物 12 の南に近接して検出した集石遺構である。直径１ｍ程の範囲で直径 10～25 ㎝大の亜角礫、亜円礫が集中し、集石下部には土坑を伴う。土坑の規模は長径 1.15 ｍ、短径 1.1 ｍ以上、深さ 0.35 ｍを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は３層に分けられ、にぶい黄色～灰黄色の細砂が堆積する。遺物は、石鏃（Ｓ 22）の他、縄文土器が出土したが、いずれも細片である。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

集石遺構５（3253）（図 200・図 205）　竪穴建物 11 の北に近接して検出した集石遺構である。直径１ｍ程の範囲で直径 10～25 ㎝大の亜角礫、亜円礫が集中する。集石の中には磨石・敲石を含む。礫に被熱は認められず、集石下部には土坑を伴わない。遺物は、縄文土器深鉢底部（681）、磨石・敲石が出土した。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

集石遺構６（3189）（図 201・図 205）　配石遺構の北西で検出した集石遺構である。２つの集石遺構が重複したものと考えられるが、切り合い関係や境界は判然としない。直径 0.8 ｍ程の範囲で浅く落ち込み、直径 10～25 ㎝大の亜角礫、亜円礫が集中する。礫に被熱は認められず、集石下部には土坑を伴わない。遺物は、縄文土器深鉢（682）、サヌカイト剥片が出土した。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

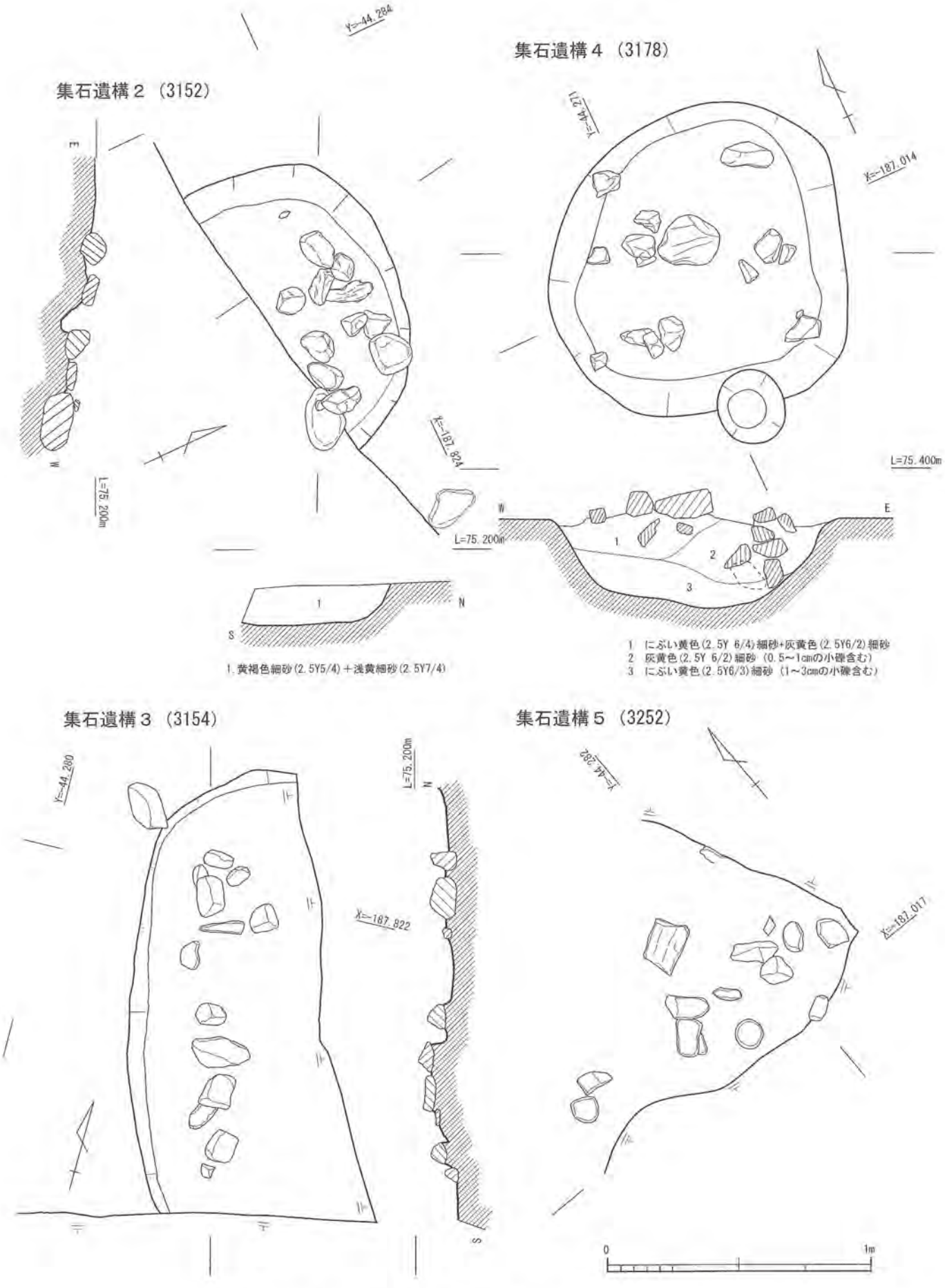


図 200　集石遺構２～５平面図・断面図　（S＝1/20）

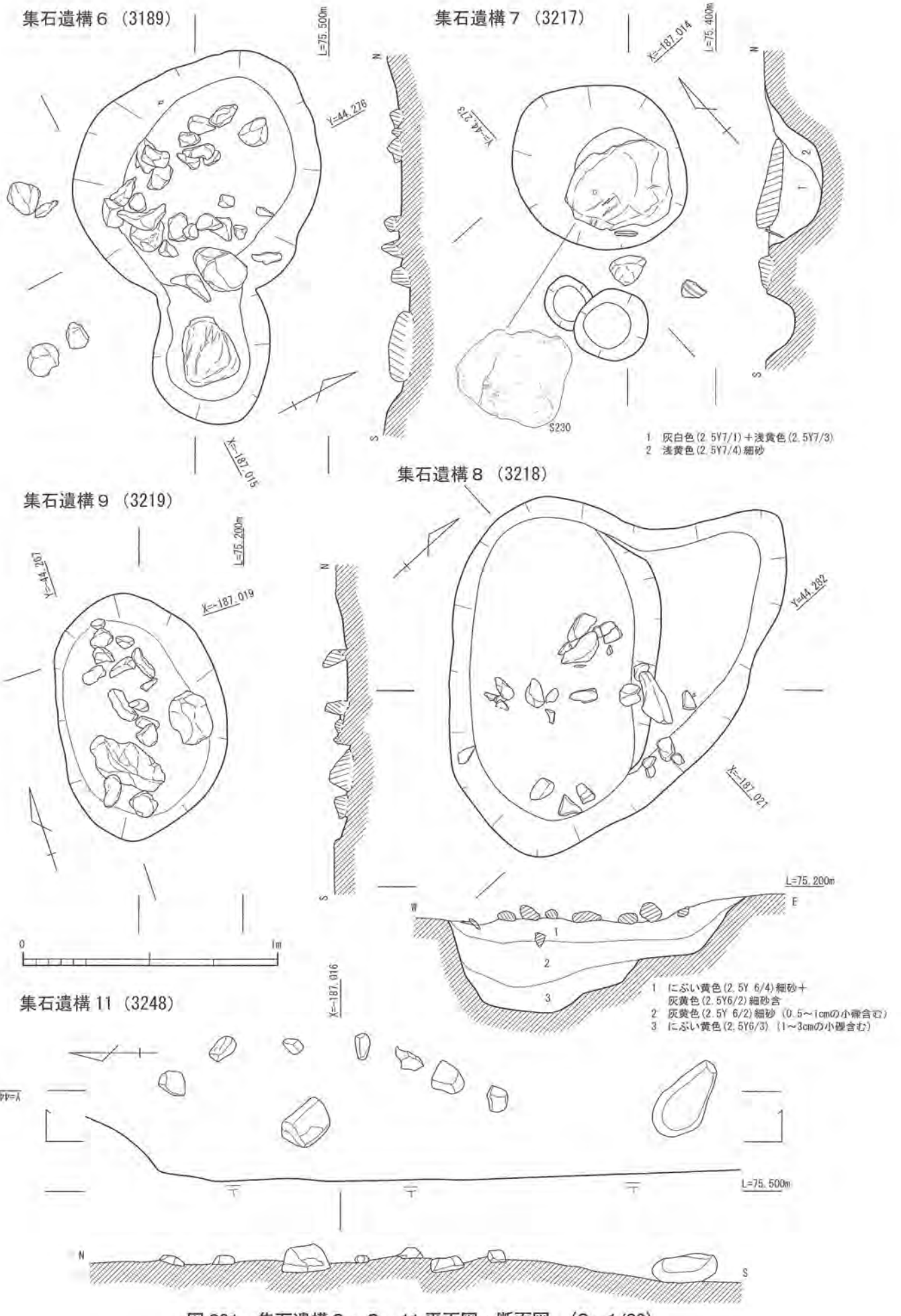


図 201　集石遺構６～９・11 平面図・断面図　（S＝1/20）

集石遺構７（3217）（図 201・図 205） 配石遺構の北に近接して検出した集石遺構である。長径 42 ㎝、短径 35.8 ㎝を測る台石と周囲に自然礫が置かれ、台石の直近からはスクレイパーが出土した。集石下部には土坑を伴う。土坑の規模は長径 0.7 m、短径 0.65 m、深さ 0.22 mを測り、平面形は円形を呈する。埋土は２層に分けられる。集石遺構７については台石の出土から屋外の調理施設である可能性が高い。遺物は、台石（S 230）、スクレイパーの他、縄文土器深鉢（683）が出土した。遺構の時期は、縄文時代後期（中津Ⅱ式）と考えられる。

集石遺構８（3218）（図 201・図 205）竪穴建物 11 の南で検出した集石遺構である。南直径 0.9 m程の範囲で直径 10～25 ㎝大の亜角礫、亜円礫が集中し、集石下部には土坑を伴う。土坑の規模は長径 1.65 m、短径 1.25 m、深さ 0.40 mを測り、平面形は不整三角形を呈する。埋土は３層に分けられ、にぶい黄色細砂と灰黄色細砂が混じる。遺物は、縄文土器深鉢（684・685）、石器が出土した。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

集石遺構９（3219）（図 201） 竪穴建物 12 の南に近接して検出した集石遺構である。直径 0.8 m程の範囲で直径 10～25 ㎝大の亜角礫、亜円礫が集中する。礫に被熱は認められず、集石下部には土坑を伴わない。遺物は、縄文土器、サヌカイト剥片が出土したが、いずれも細片である。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

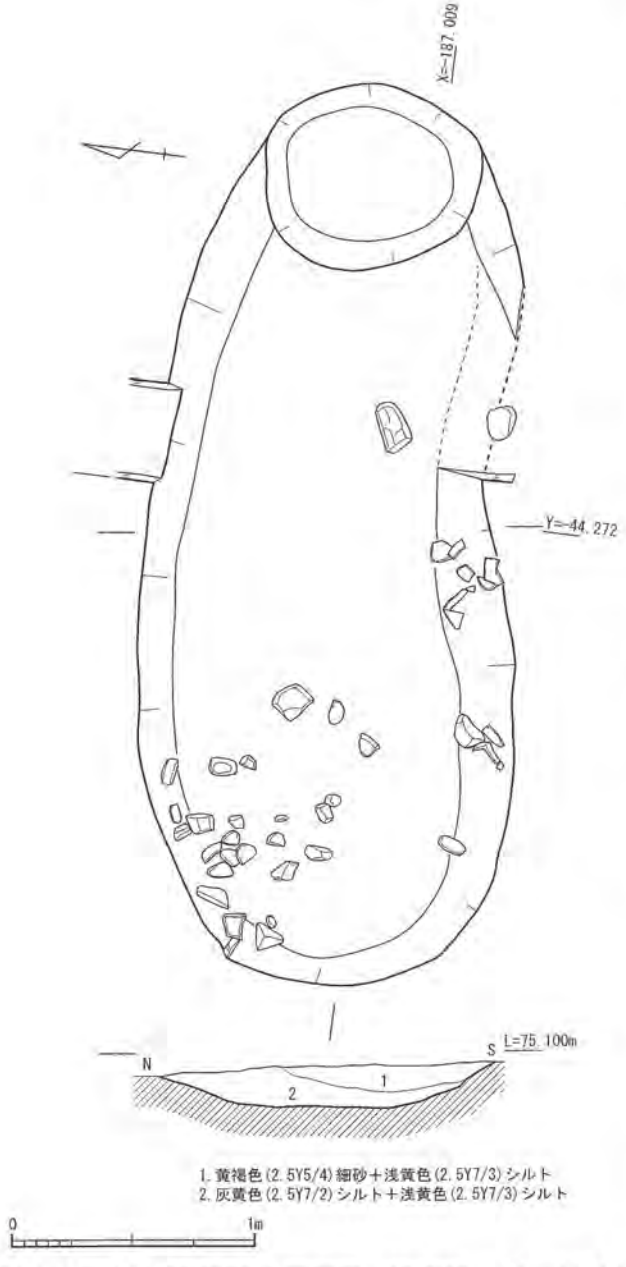


図 202　土坑 23 (3254) 平面図・断面図　(S＝1/30)

集石遺構 10（3227） 竪穴建物 13 の南東に近接して検出した集石遺構である。直径 0.5 m程の範囲で、直径 10～25 ㎝大の亜角礫、亜円礫が集中する。礫に被熱は認められず、集石下部には土坑を伴わない。遺物は、縄文土器、サヌカイト剥片が出土したが、いずれも細片である。

集石遺構 11（3248）（図 201） 縄文時代の遺構の最も西で検出した集石遺構である。西側は近世の造成により削平される。南北 2.0 m程の範囲で直径 10～30 ㎝大の亜角礫、亜円礫が円弧上に分布する。礫に被熱は認められず、集石下部には土坑を伴わない。遺物は縄文土器、サヌカイト剥片が出土したが、いずれも細片である。

土坑 23（3254）（図 202・図 205） 竪穴建物 12 の北で検出した土坑である。長径 3.6 m、短径 1.4 m、深さ 0.15 mを測り、平面形は東西に長い長楕円形を呈する。土坑西側で遺物と直径 10 ㎝大の亜角礫がまとまって出土した。遺物は縄文土器深鉢（686～691）石器が出土している。遺構の時期は、

縄文時代後期（中津Ⅱ式）と考えられる。

土坑 24（3238）（図 204・図 205） 縄文時代の遺構の北東では、複数の土坑がまとまって検出されている。東側は土坑 34 と重複し、土坑 24 が後出する。長径 0.65 m、短径 0.6 m、深さ 0.25 mを測り、平面形は円形を呈する。埋土は 3 層に分けられ、マンガン粒を含む。遺物は縄文土器深鉢（697）が出土している。遺構の時期は縄文時代後期（中津Ⅱ式）と考えられる。

土坑 25（3236）（図 204・図 205） 土坑 24 の北に近接して検出した土坑である。長径 1.4 m、短径 1.1 m、深さ 0.25 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は 4 層に分けられ、最下層には暗灰黄色細砂が堆積し、各層にマンガン粒を含む。遺物は、縄文土器深鉢（698・699）、石錘（S 143、S 146）が出土している。遺構の時期は、縄文時代後期（中津Ⅱ式）と考えられる。

土坑 26（3167）（図 203・図 205） 竪穴建物 13 の東側で重複して検出した土坑である。西側は竪穴建物により切られる。南北 2.1 m、東西 1.5 m以上を測り、平面形は楕円形を呈する大型の土坑である。土坑東側は、竪穴建物 12 と同様に上面から切り込んだと考えられる集石遺構が存在する。埋土には直径 10～20 cmの亜円礫を含み、土器、石器等を多く含む。

遺物は縄文土器片、土製品（701）、磨製石斧（S 8）、石錐（S 75）、石錘（S 159）、サヌカイト剥片が出土している。（701）は楕円形の土製品であり、周囲は欠損しており正確な形はわか

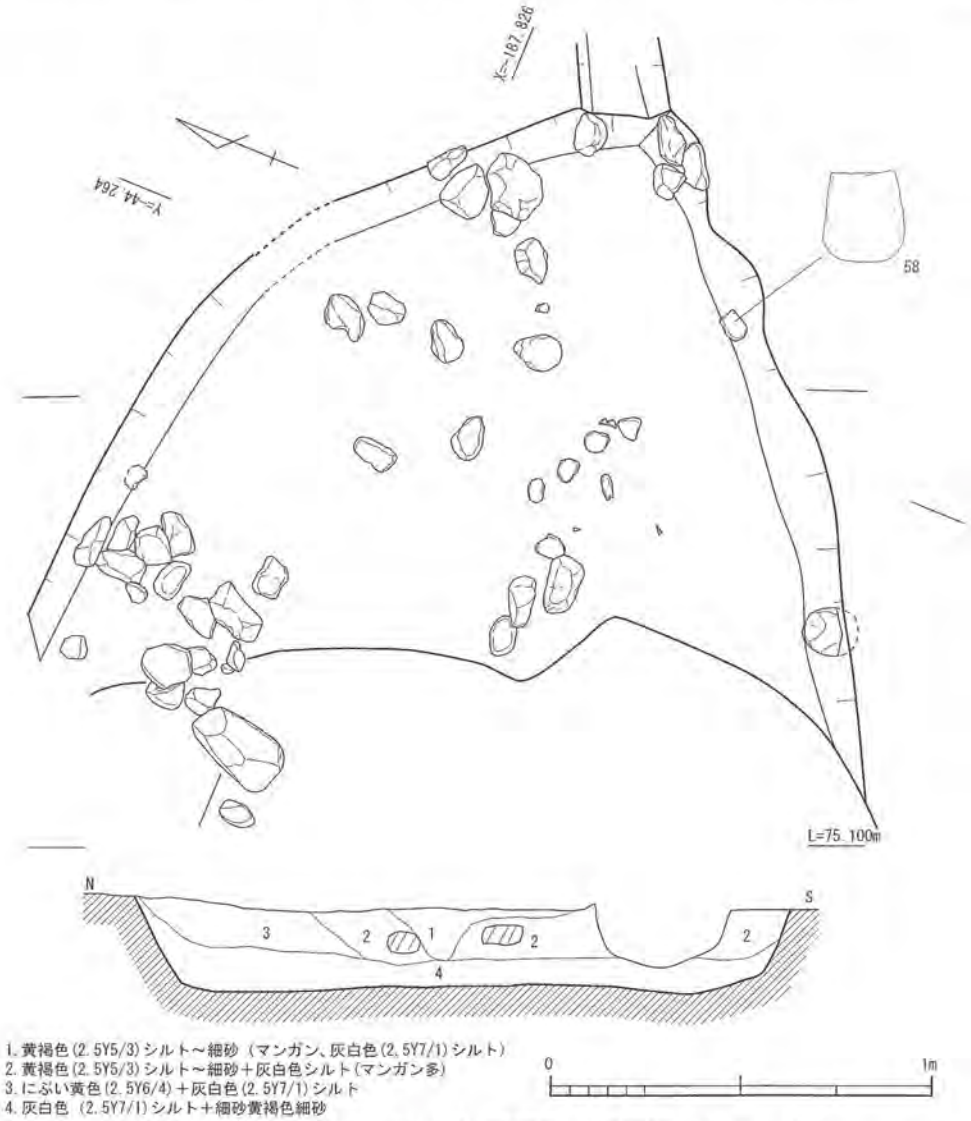
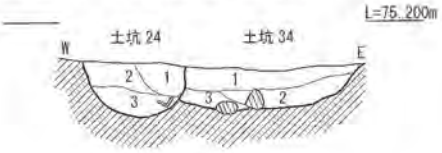


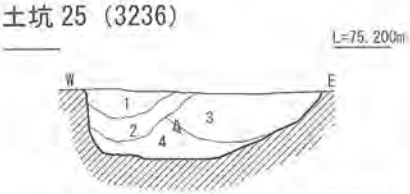
図 203 土坑 26（3167）平面図・断面図 （S＝1/20）

土坑 24・34（3238・3237）



1. にぶい黄色(2.5Y6/4)細砂
2. 黄灰色(2.5Y6/1)細砂＋黄褐色(2.5Y5/3)細砂
（φ1～2cmの礫含マンガン含む）
3. 黄灰色(2.5Y5/1)細～中砂＋マンガン含む

土坑 25（3236）



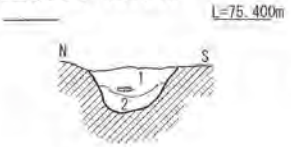
1. 黄灰色(2.5Y6/1)細砂＋黄褐色(2.5Y5/3)細砂(φ1～2cmの小礫、マンガン含む)
2. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂～中砂(マンガン含む)
3. にぶい黄色(2.5Y6/4)細砂(マンガン多)
4. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂(黄灰色(2.5Y6/1)細砂、マンガンφ1～0.5cmの小礫含む)

土坑 27（3246）



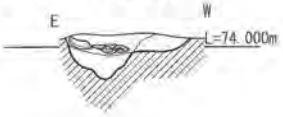
1. にぶい黄色(2.5Y6/4)細砂(マンガン多)
2. 黄灰色(2.5Y6/1)細砂＋黄褐色(2.5Y5/3)細砂(φ1～2cmの小礫、マンガン含)

土坑 28（3173）

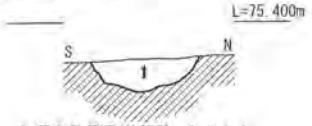


1. 灰白色(5Y7/1)細砂～シルト
＋にぶい黄色(2.5Y6/4)細砂
（φ1～3cmの風化礫黄色多く含む）
2. 黄灰色(2.5Y6/1)細砂＋暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂

土坑 31（3002）



土坑 32（3176）



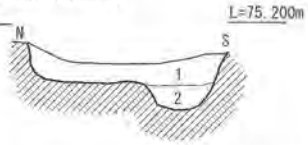
1. 灰白色(5Y7/1)細砂～シルト＋
にぶい黄色(2.5Y6/4)細砂
（φ1～3cmの風化礫を多く含む）

土坑 35・39（3242・3241）



1. 黄灰色(2.5Y6/1)細砂+黄褐色(2.5Y5/3)細砂
（φ1～2cmの小礫、マンガン含む）
2. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂～シルト(マンガン、土器片含む)
3. 黄灰色(2.5Y5/1)細砂～中砂(マンガン含む)

土坑 36（3249）



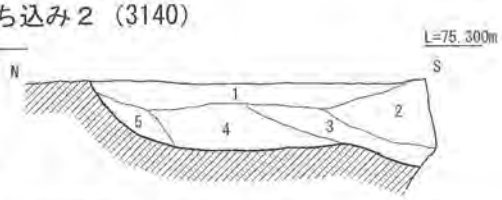
1. 黄灰色(2.5Y6/1)細砂＋黄褐色(2.5Y5/3)細砂
（φ1～2cmの小礫、マンガン含む）
2. 黄灰色(2.5Y6/1)シルト～細砂＋にぶい黄色(2.5Y6/2)シルト

土坑 37（3266）



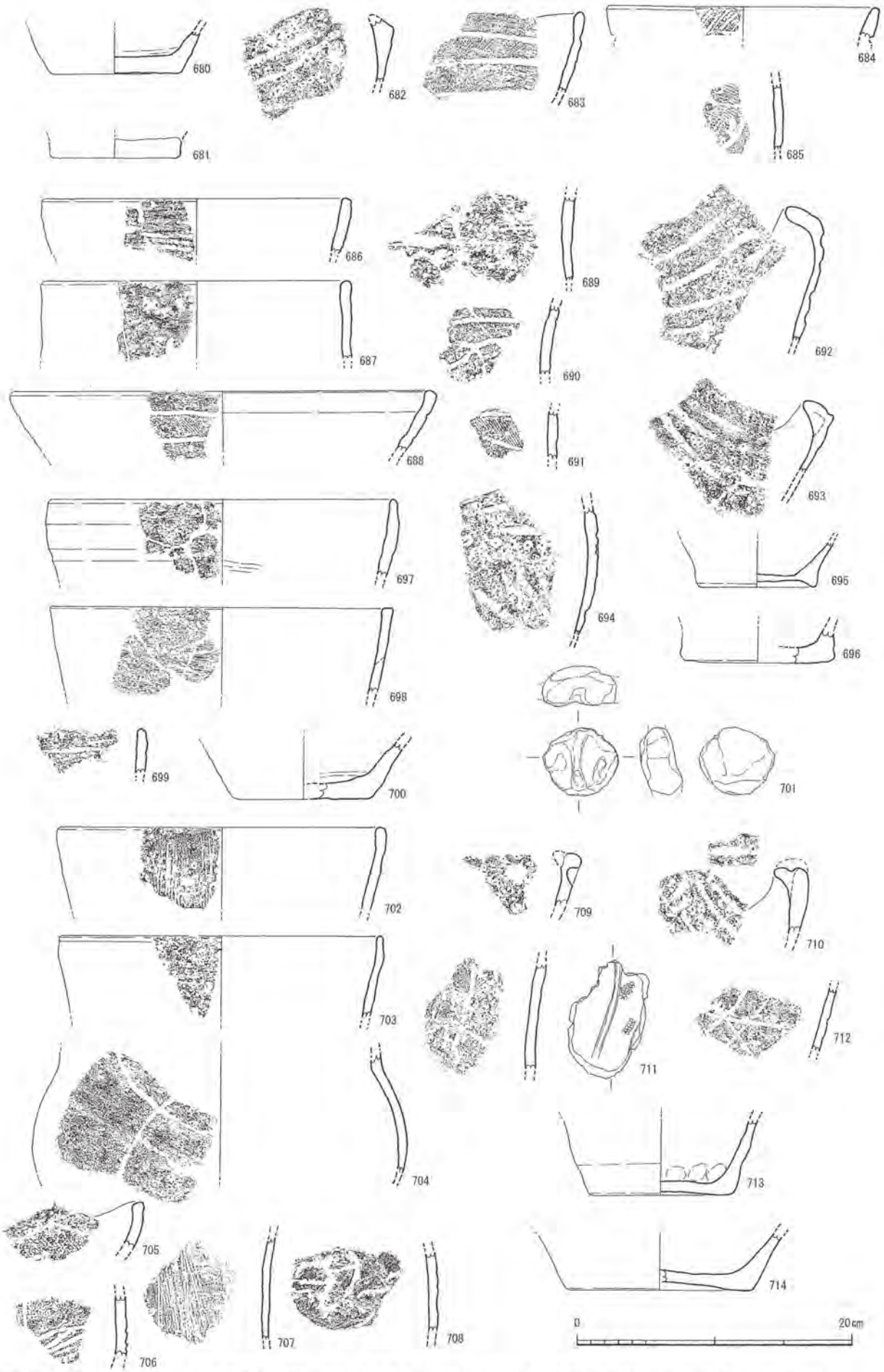
1. 褐灰色(10YR6/1)シルト＋灰白色(2.5Y7/1)シルト
2. 褐灰色(10YR6/1)シルト
3. 灰黄褐色(10YR6/2)シルト＋灰白色(2.5Y7/1)シルト

落ち込み２（3140）



1. にぶい黄色(2.5Y6/2)細砂～中砂＋暗灰黄色(2.5Y5/2)中砂
（φ0.5～3cmの礫、風化礫含む）
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2)細砂～中砂(φ1～3cmの風化礫、小礫多く含む)
3. 褐色(10YR5/1)粗砂～中砂（φ1～3cmの礫多）
4. 褐灰色(10YR6/1)中砂+灰黄色(2.5Y7/2)中砂（小礫φ1～3cm多）
5. 暗灰黄色(2.5Y5/2)中砂(小礫φ0.5～1cm多)

図 204　土坑 24・25・27・28・31・32・34～37、落ち込み２
平面図・断面図　(S＝1/60、S＝1/40)



680：配石遺構１（3143） 681：集石遺構５（3253） 682：集石遺構６（3189） 683：集石遺構７（3217） 684・685：集石遺構８（3218）
692～696：竪穴状遺構２（3188） 686～691：土坑 23（3254） 697：土坑 24（3238） 698～700：土坑 25（3236） 701：土坑 26（3167）
702～707：土坑 27（3246） 708：土坑 28（3173） 709・710：土坑 29（3177） 711：土坑 30（300１） 712～714：土坑 31（3002）

図 205　竪穴状遺構 2、配石遺構 2、集石遺構 5～8、土坑 23～31 出土土器・土製品

らないが、土偶の頭部または、体部の可能性がある。中央に縦方向の沈線が引かれ、左右に楕円形の刺突を行う。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

土坑 27（3246）（図 204・図 205） 土坑 24 の南西に近接して検出した土坑である。長径 1.0 m。短径 0.7 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は２層に分けられ、マンガン粒を多く含む。遺物は、縄文土器深鉢（702～707）が出土した。遺構の時期は、縄文時代後期（中津Ⅱ式）と考えられる。

土坑 28（3173）（図 204・図 205） 竪穴建物 12 の西で検出した土坑である。長径 0.5 m。短径 0.45 m、深さ 0.25 mを測り、平面形は円形を呈する。埋土は上下２層に分けられ、上層には風化礫を多く含む。遺物は縄文土器深鉢（708）が出土している。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

土坑 29（3177）（図 205） 竪穴状遺構２の東で検出した土坑である。長径 0.65 m。短径 0.60 m、深さ 0.1 mを測り、平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器深鉢（709・710）が出土した。遺構の時期は、縄文時代中期（北白川Ｃ１～Ｃ２式）と考えられる。

土坑 32（3176）（図 204） 配石遺構の西で検出した土坑である。長径 0.7 m、短径 0.4 m、深さ 0.25 mを測り、平面形は円形を呈する。埋土は１層で風化礫を多く含む。遺物はサヌカイト剥片が出土している。

土坑 33（3228） 竪穴建物 12 の北側で重複して検出した土坑である。土坑東側で土坑 36・37 と複雑に重複し、これらが後出する。東西 1.4 m以上、南北 0.8 m以上を測る。竪穴建物 12 の北東の主柱穴は重複し、先行する主柱穴は建物のやや北側に位置する。そのため、土坑 33 は建て替えに伴って縮小された、竪穴建物 12 の一部の可能性がある。遺物は石鏃（Ｓ 55）が出土している。



図 206 丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）下層遺構面（第６層下面）全体図（S=1/200）

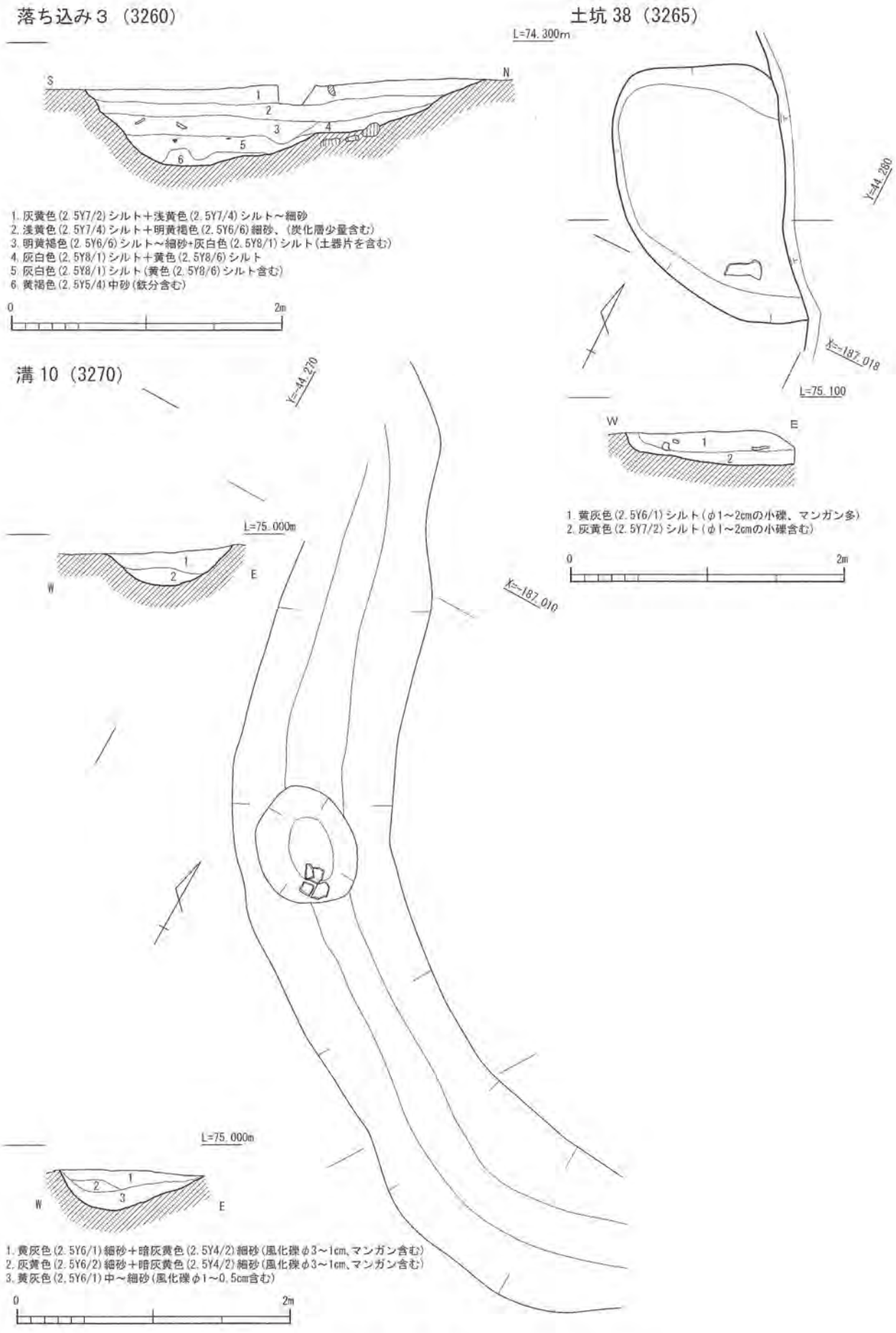
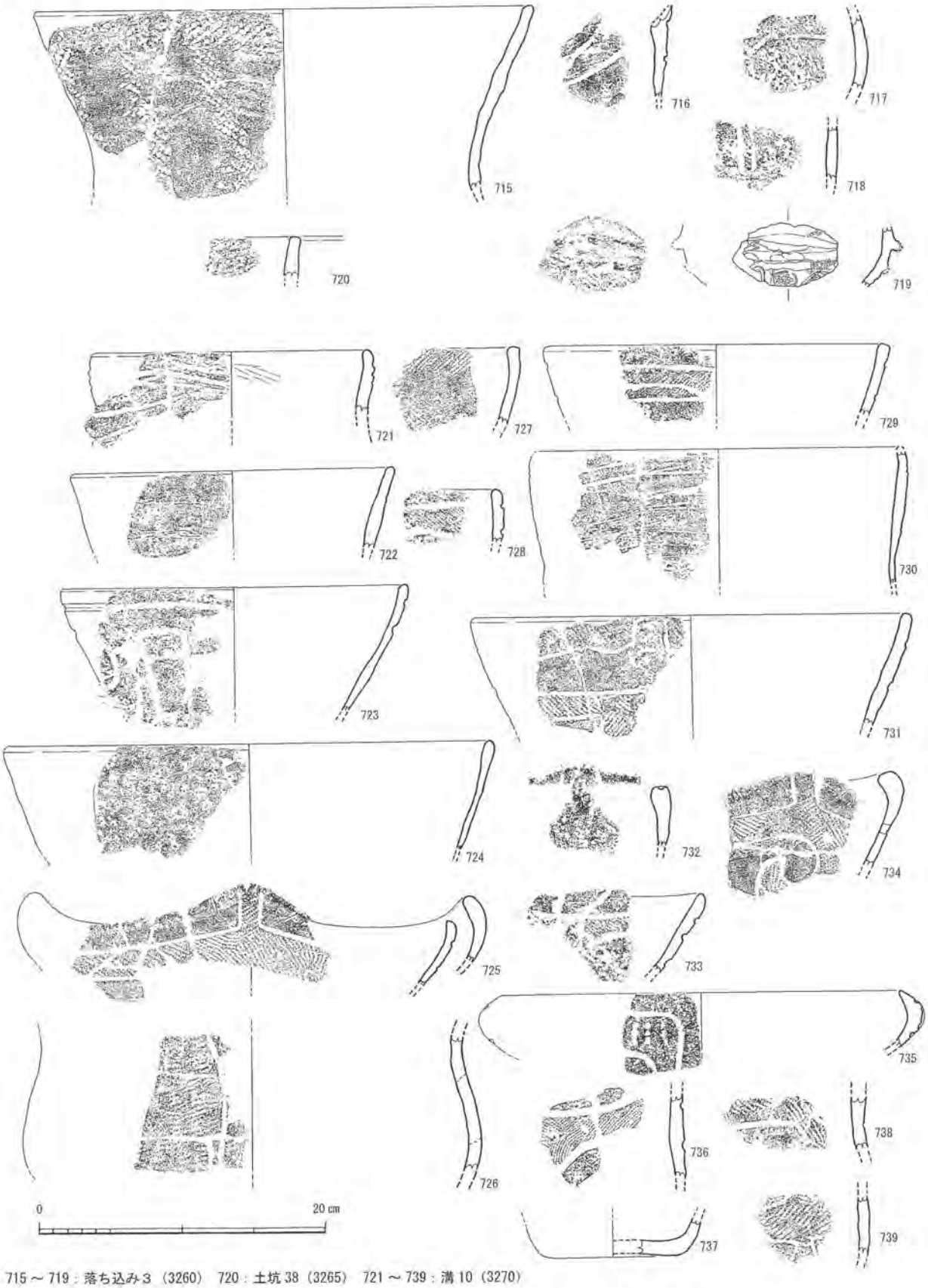


図 207　落ち込み３、土坑 38、溝 10 平面図・断面図　(S＝1/40)

土坑 34（3237）（図 204）　土坑 24 の西側で重複して検出した土坑である。長径 1.0 m、短径 0.65 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は3層に分けられ、マンガン粒を含む。遺物は縄文土器、サヌカイト剥片が出土しているが、いずれも細片である。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。



715～719：落ち込み3（3260）　720：土坑 38（3265）　721～739：溝 10（3270）

図 208　落ち込み 3、土坑 38、溝 10 出土土器

土坑 35（3242）（図 204） 土坑 24 の南で検出した土坑である。土坑西側で土坑 39 と重複し、土坑 35 が後出する。長径 0.65 m、短径 0.45 m、深さ 0.25 mを測り、平面形は楕円形を呈する。遺物の出土は認められなかった。

土坑 36（3249）（図 204） 竪穴建物 12 の北側で重複して検出した土坑である。土坑西側で土坑 33・37 と重複し、土坑 36 が後出する。長径 0.65 m、短径 0.4 m、深さ 0.25 mを測り、平面形は楕円形を呈する。遺物は石錐（S 74）が出土している。

土坑 37（3266）（図 204） 竪穴建物 12 の北側で重複して検出した土坑である。土坑西側で土坑 33・36 と重複する。長径 0.6 m、短径 0.6 m、深さ 0.2 mを測り、平面形は円形を呈する。遺物は石錘（S 170）が出土している。

7．縄文時代の遺構と遺物（第６層下面）

第５層下面よりさらに下層の第６層下面においても、縄文時代の遺構面を検出した。遺構は、縄文時代後期の落ち込み、土坑、溝、自然流路を検出しているが、遺構密度は低く集落形成の直前の段階と考えられる。

落ち込み３（3260）（図 207・図 208） 調査区の西で自然流路 10 に重複して検出した落ち込みである。東側で土坑 38 と重複し、これが後出する。上層遺構面では竪穴建物 11 が重複しており、竪穴建物の床面で落ち込み３の遺物を取り上げている。長径 2.6 m、短径 1.3 m、深さ 0.55 mを測り、平面形は東西に長い楕円形を呈する。自然流路 10 の内部の落ち込みと考えられる。遺物は縄文土器深鉢（715・716）、縄文土器浅鉢（719）、縄文土器（717・718）、磨石・敲石（S 205）が出土している。（715）は把手が取り付くものである。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

土坑 38（3265）（図 208） 落ち込み３に重複して検出した土坑である。東側は中世の自然流路により削平される。土坑西側で落ち込み３と重複する。上層遺構面では竪穴建物 11 が重複しており、竪穴建物 11 の床面で土坑 38 の遺物を取り上げている。長径 1.85 m、短径 1.2 m以上、深さ 0.15 mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は２層に分けられ、黄灰色～灰黄色のシルトからなる。遺物は縄文土器深鉢（720）が出土している。遺構の時期は、縄文時代後期（中津式）と考えられる。

溝 10（3270）（図 207・図 208） 調査区の東で自然流路 10 に重複して検出し、溝 10 が後出する。溝は南北約７mの長さで検出し、残りの範囲は調査区外へ延びる。幅 1.15 m、深さ 0.25 mを測り、北西方向から南東方向に屈曲し流れる。埋土は３層に分けられ、マンガン粒を多く含む。

溝の中央からは遺物がまとまって出土している。遺物は縄文土器深鉢（731～734・736～739）、縄文土器浅鉢（735）、鉄鏃（S 60）、石錘（S 151・S 173）磨石・敲石（S 212・S 220・S 224）が出土している。遺構の時期は、縄文時代後期（中津Ⅱ式）と考えられる。

自然流路 10（3261） 調査区を東西に流れる自然流路である。遺物の出土が認められないため、掘削は数か所の断ち割り調査にとどめた。上層遺構面では、埋設土器１、竪穴建物 13 の掘削時に自然流路 10 の一部を検出している。自然流路は幅 3.5 m、深さ 0.55 mを測る。埋土は大きく３層分けられ、上層は灰白シルト～灰黄中砂が混じり、中層は灰白シルト～細砂、下層はにぶい黄粗砂に直径３～10 ㎝大の亜円礫を多く含む。自然流路の地点によっては竪穴建物 13 の北東部でみられたように、直径 10 ㎝大の礫が集中する。遺物の出土は認められないが、重複する遺構が縄文時代中期（北白川Ｃ式）から縄文時代後期（中津式）であるため、それ以前の時期と考えられる。

第５節　丁ノ町・妙寺遺跡（07－４区）の調査成果

１．調査区の概要

丁ノ町・妙寺遺跡（07－４区）は、07－３区北側に位置する調査区である。07－３区よりも地形の高く、中世段階の造成、近現代の撹乱が著しい。中世段階の造成により07－３区で検出された第４層は削平されている。遺構は第３層下面で中世の遺構面と、削平を免れた古墳時代後期から古代の遺構を検出した。なお、07－４区北東では住宅基礎による撹乱が遺構面にまで及んでおり、協議の結果、調査の対象外とした。

２．古墳時代～中世の遺構と遺物

自然流路10（4004）　07－４区東半（４－１区）の南側で検出した自然流路である。自然流路南側は現有道路の下であり、調査区外へと続く。南北2.2ｍ以上、深さ0.25ｍと自然流路の一部を検出したに過ぎない。自然流路10の方向から推測して、自然流路７の北肩の一部と考えられる。遺物の出土は認められない。

焼成土坑６（4005）（図210）　07－４区西半（４－１区）で検出した焼成土坑である。焼成土坑２～５と同様の焼成土坑と考えられる。長径1.25、短径0.8ｍ、深さ0.20ｍを測り、平面形は長楕円形を呈する。土坑埋土は２層に分けられ、２層は炭化物層となり顕著に炭化物、灰粒を含み、土坑壁面に沿って赤変範囲が認められる。遺物の出土は認められないが、遺構の時期は焼成土坑２～５と同じと考えられる。

溝11（4007）（図209・図210）　07－４区西半（４－１区）で検出した溝である。溝北側は中世段階の削平を受け途切れる。南半は自然流路11と重複し、溝11が後出する。北西方向から南東方向へと流れる溝で、その方向から検出した溝６の延長と推測される。溝の下層には幅3.1～1.5ｍ、深さ1.1ｍ程の自然流路が重複する。溝埋土から１個体と思われる、土師器甕（741）が出土している。(741)は器壁が厚く、外面は板ナデ内面はユビオサエ・ヘラケズリを施すものである。作りが極めて粗雑な土器である。遺構の時期は、古墳時代中期（TK73型式～TK208型式）と考えられる。

自然流路11（4008）（図210）　溝11と重複して出した自然流路である。幅2.2ｍ、深さ0.25ｍを測り、東西方向に流れる流路である。遺物の出土は認められない。



740：包含層第３層　741：溝11（4007）

図209　包含層（丁ノ町・妙寺遺跡07－４区）、溝11出土土器

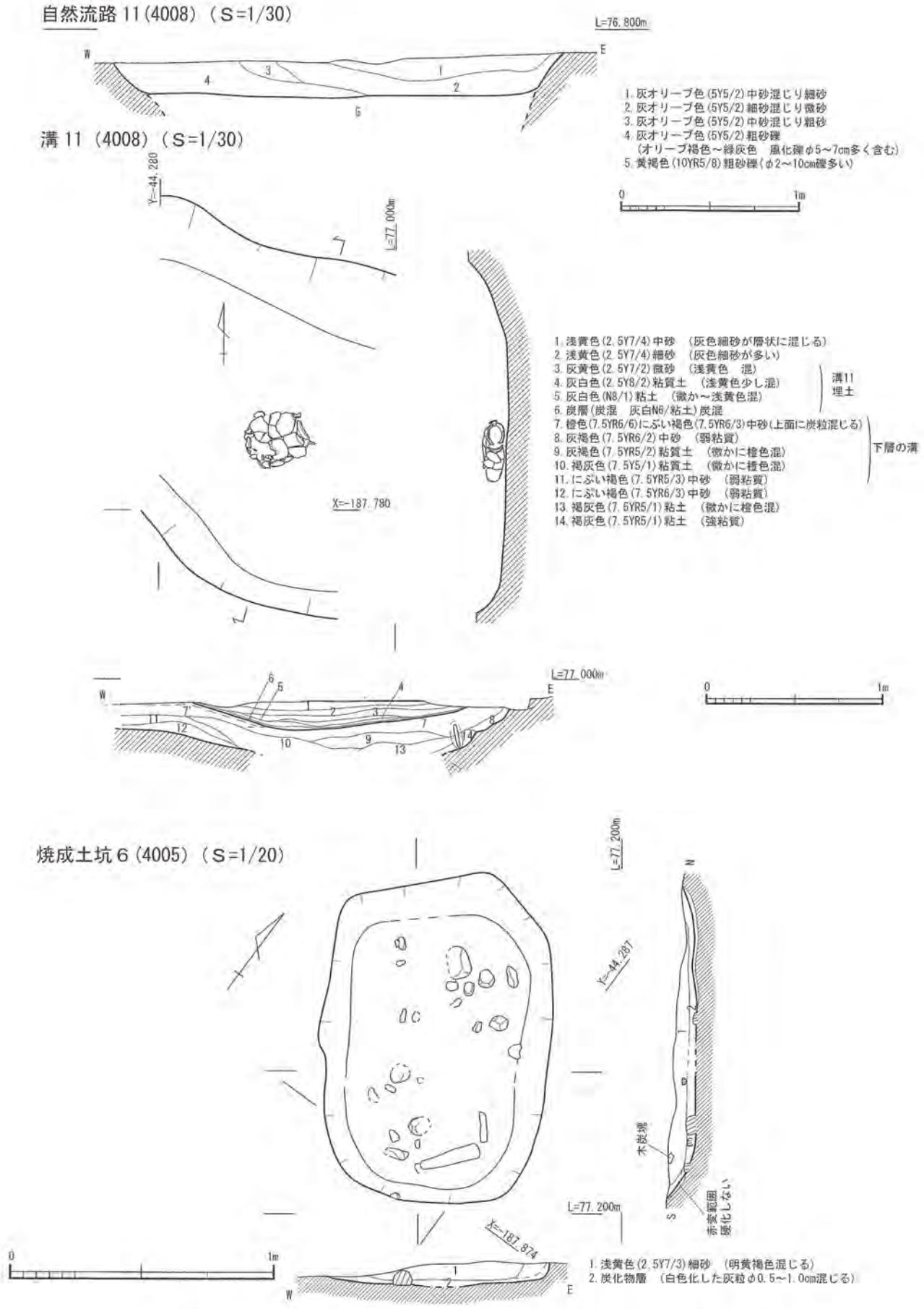


図 210 焼成土坑 6、溝 11、自然流路 11 平面図・断面図 (S=1/20・S=1/30)

第６節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の石器・石製品

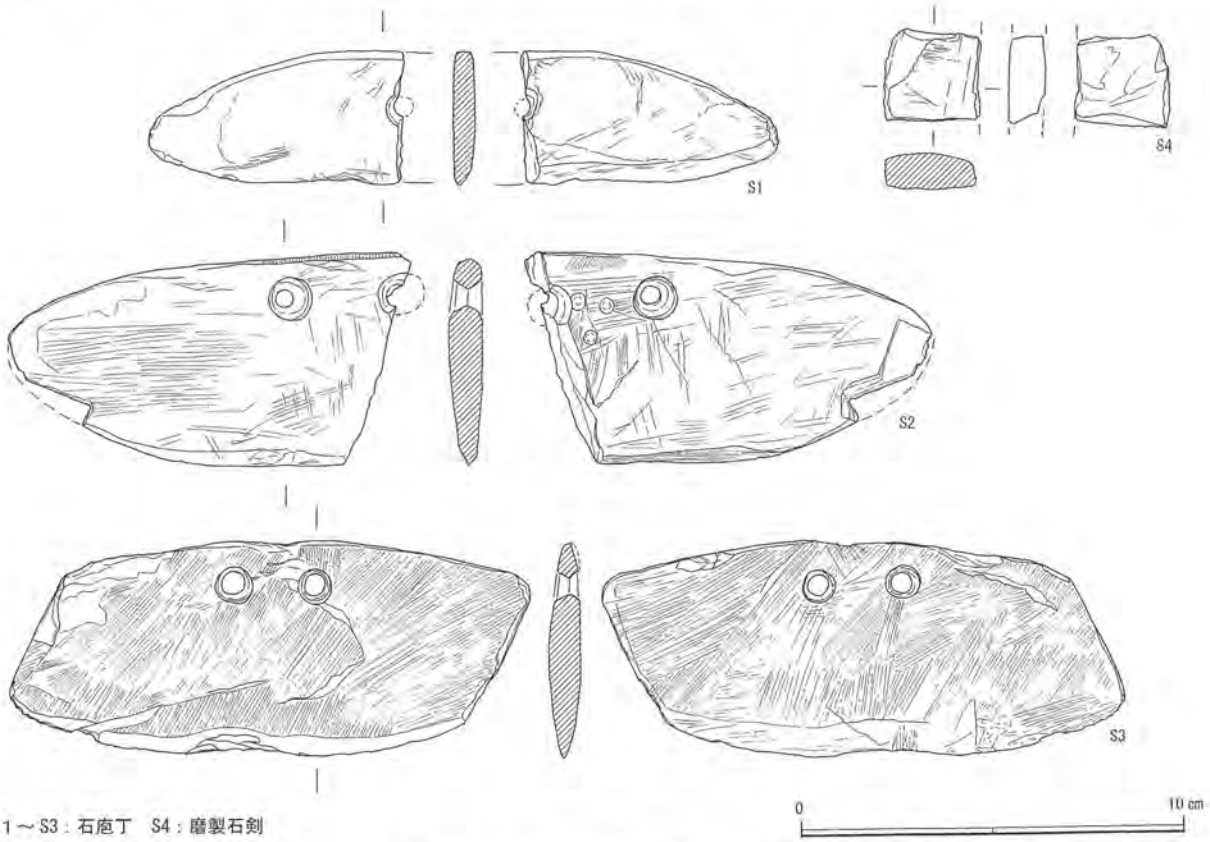
07－３区を中心とした調査区全域から石器・石製品が出土している。

磨製石器は、石庖丁（Ｓ１～Ｓ３）、磨製石剣（Ｓ４）、磨製石斧（Ｓ５～Ｓ 11）、が出土している。石庖丁は弥生時代、磨製石剣・磨製石斧は縄文時代のものである。

（Ｓ２）は、紐通し穴周辺に回転穿孔による穿孔途中孔がみられる。（Ｓ４）は結晶片岩製の石剣基部。（Ｓ５）は蛇紋岩製石斧であり、平面形は撥形を呈し北陸産と考えられる（田中 2008）。（Ｓ７・Ｓ８）は砂岩製の磨製石斧で（Ｓ８）の刃部は丸く、刃付を行っていない。（Ｓ９）は乳棒状石斧で、基部に抉りを持つ。

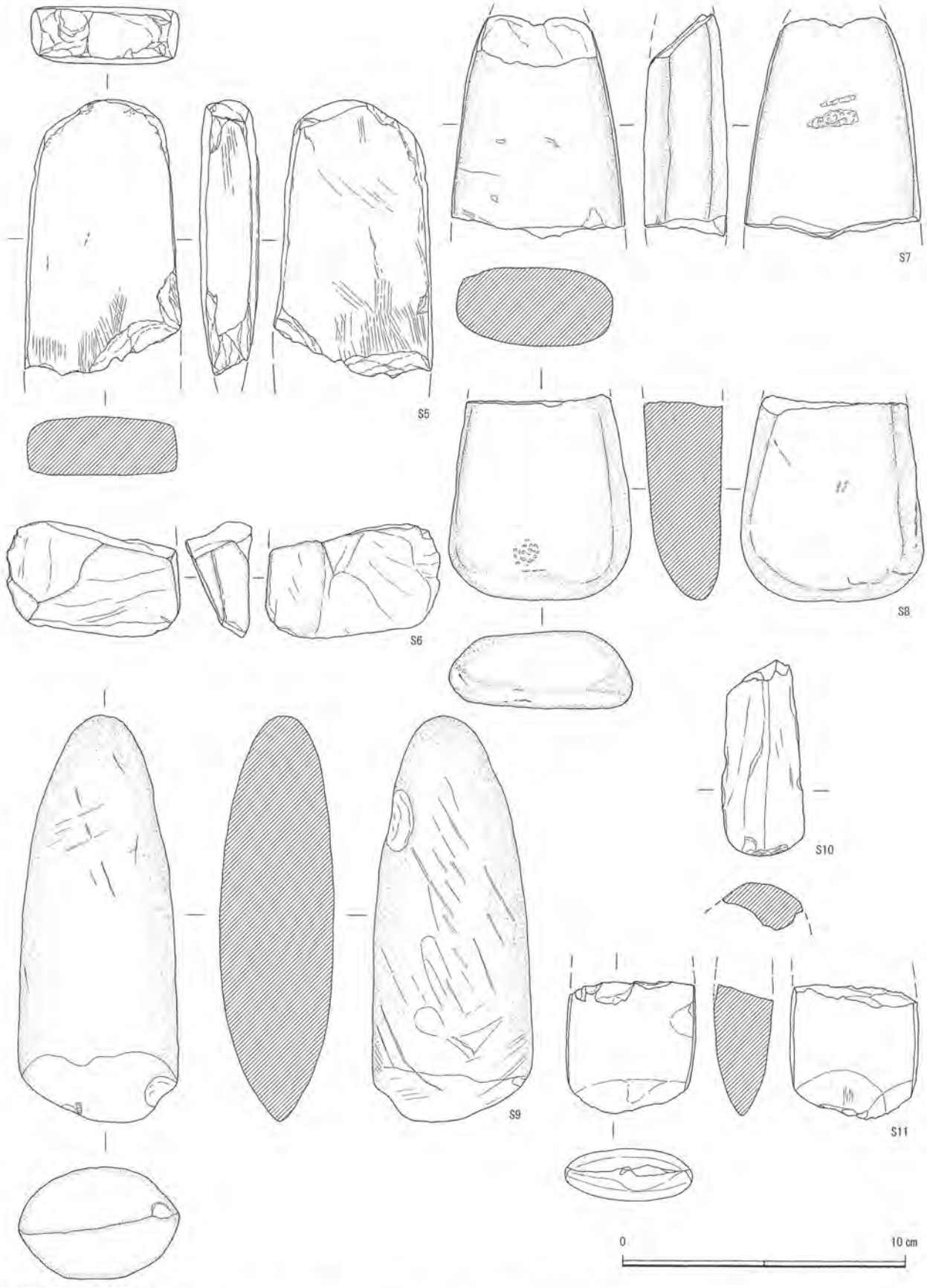
打製石器は、石鏃（Ｓ 12～Ｓ 73）、石錐（Ｓ 74～Ｓ 84）、楔形石器（Ｓ 85～Ｓ 110）、スクレイパー（Ｓ 111～Ｓ 116）、横刃形石器（Ｓ 117～Ｓ 119）、石匙（Ｓ 120～Ｓ 126）、削器（Ｓ 127）、打製石斧（Ｓ 138・Ｓ 139）が出土している。石鏃・石錐・楔形石器・スクレイパー、石匙はすべてサヌカイト製である。石鏃・石錐は弥生時代の石器も混じるが、多くは縄文時代のものである。（Ｓ 12～Ｓ 49）は凹基式、（Ｓ 50～Ｓ 62・Ｓ 65・Ｓ 66）は平基式、（Ｓ 63・Ｓ 64）は凸基Ⅰ式、（Ｓ 67～Ｓ 72）は凸基Ⅱ式、（Ｓ 73）は有茎式に分類される石鏃である。（Ｓ 45・Ｓ 46）は五角形の平面形を呈する。（Ｓ 66）は破損後、石錐に転用したものとみられる。石錐は頭部を明瞭に作り出すもの（Ｓ 74～79）、頭部を持たず杏仁形を呈するもの（Ｓ 80・Ｓ 83）。棒状で錐部のみのもの（Ｓ 81・Ｓ 82・Ｓ 84）が存在する。（Ｓ 118・Ｓ 119）は粘板岩製の横刃形石器。石匙は横長形（Ｓ 120～Ｓ 123）、縦長形（Ｓ 124～Ｓ 127）の両者が存在する。（Ｓ 138・Ｓ 139）は土掘具と考えられ、（Ｓ 138）は基部に抉りを持つ。

剥片・石核は、石核（Ｓ 128～Ｓ 135）、板状石核（Ｓ 136）、サヌカイト原石（Ｓ 137）が出土して



Ｓ１～Ｓ３：石庖丁　Ｓ４：磨製石剣

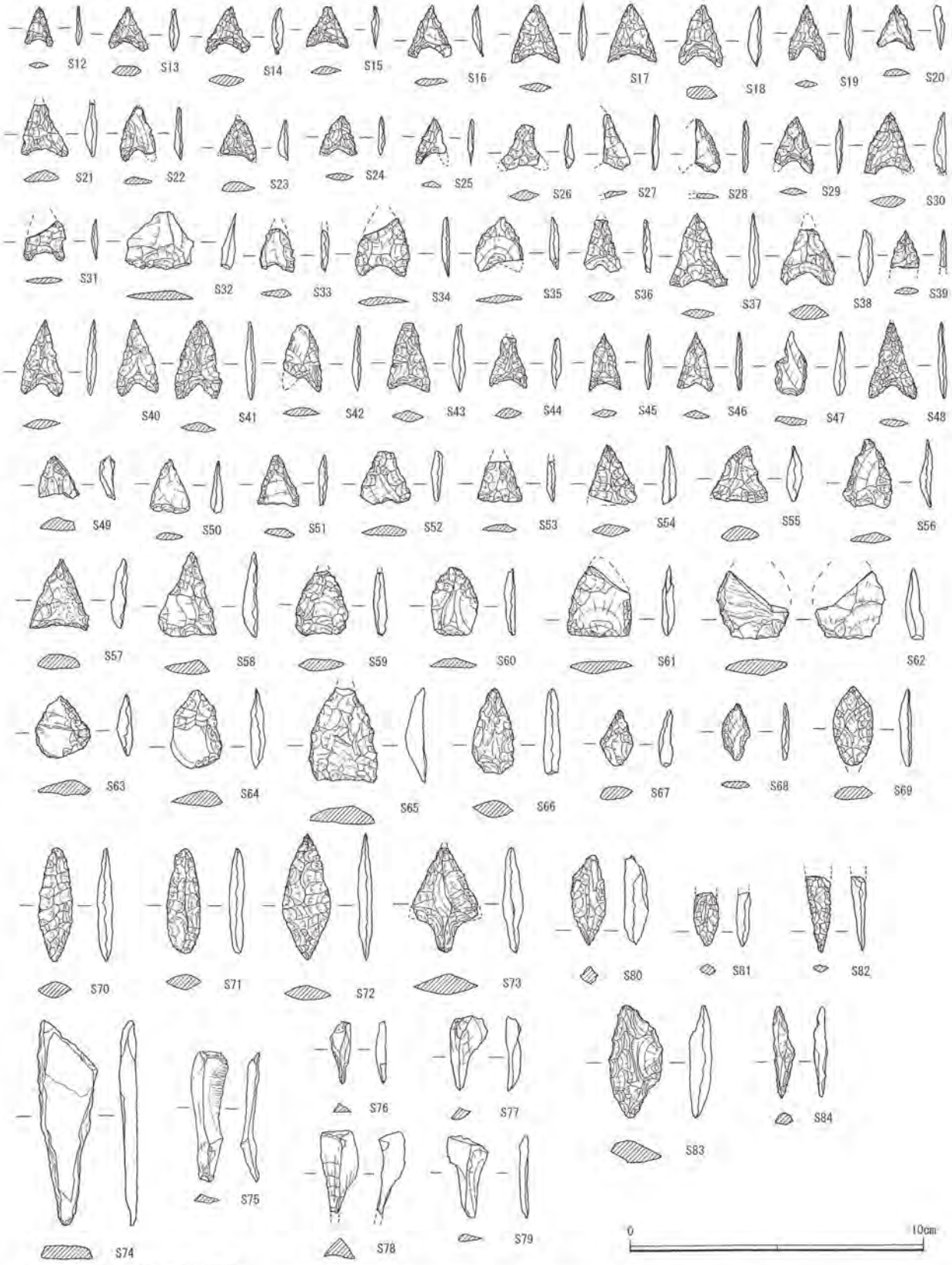
図 211　丁ノ町・妙寺遺跡（07－１～４区）遺構・包含層出土石器・石製品１



S5～S11：磨製石斧

図 212　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 2

いる。その他サヌカイト剥片が多量に出土している。すべてサヌカイト製でそれ以外の石材は存在しない。（S 133）は埋設土器２、（S 136）は竪穴建物２から出土している。（S 135）はスクレイパーに転用したものと考えられる。（S 137）は 07－２区の包含層から出土している。最大長 25.0 cm、最大幅 15.7 cmを測り、管見では和歌山県内で最も大きいサヌカイト原石と考えられる。



S12～73：石鏃　S74～84：石錐

図 213　丁ノ町・妙寺遺跡（07－１～４区）出土石器・石製品３

大型石棒（または立石）（S 140）は配石遺構２から出土している。基部は丸く加工し、石材は結晶片岩である。

礫石器は、石錘（S 141～S 197）、磨石・敲石（S 199～S 225）、砥石（S 226）、石棒（S 227・S 228）、円礫（S 229）、台石（S 230）、矢柄研磨器（S 231）、石皿・砥石（S 232～S 236）が出土している。磨石・敲石の一部、砥石（S 226）、石棒、矢柄研磨器は弥生時代の石器である。円礫は鎌倉時代のものである。その他はすべて縄文時代の石器である。石錘は、切目石錘（S 141～S 177）、打欠石錘（S 178～S 197）の両者が存在する。総出土点数は 87 点で、石

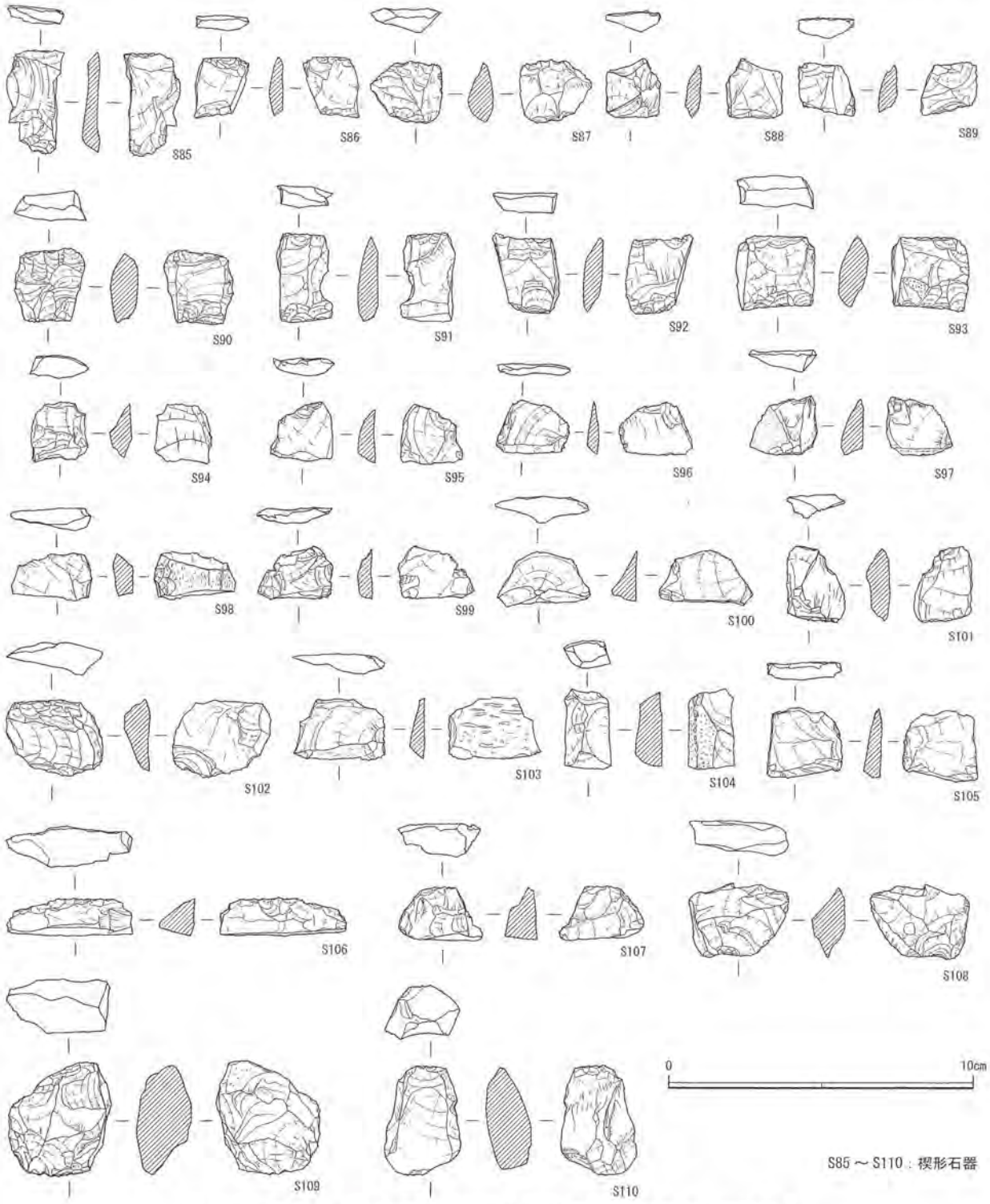
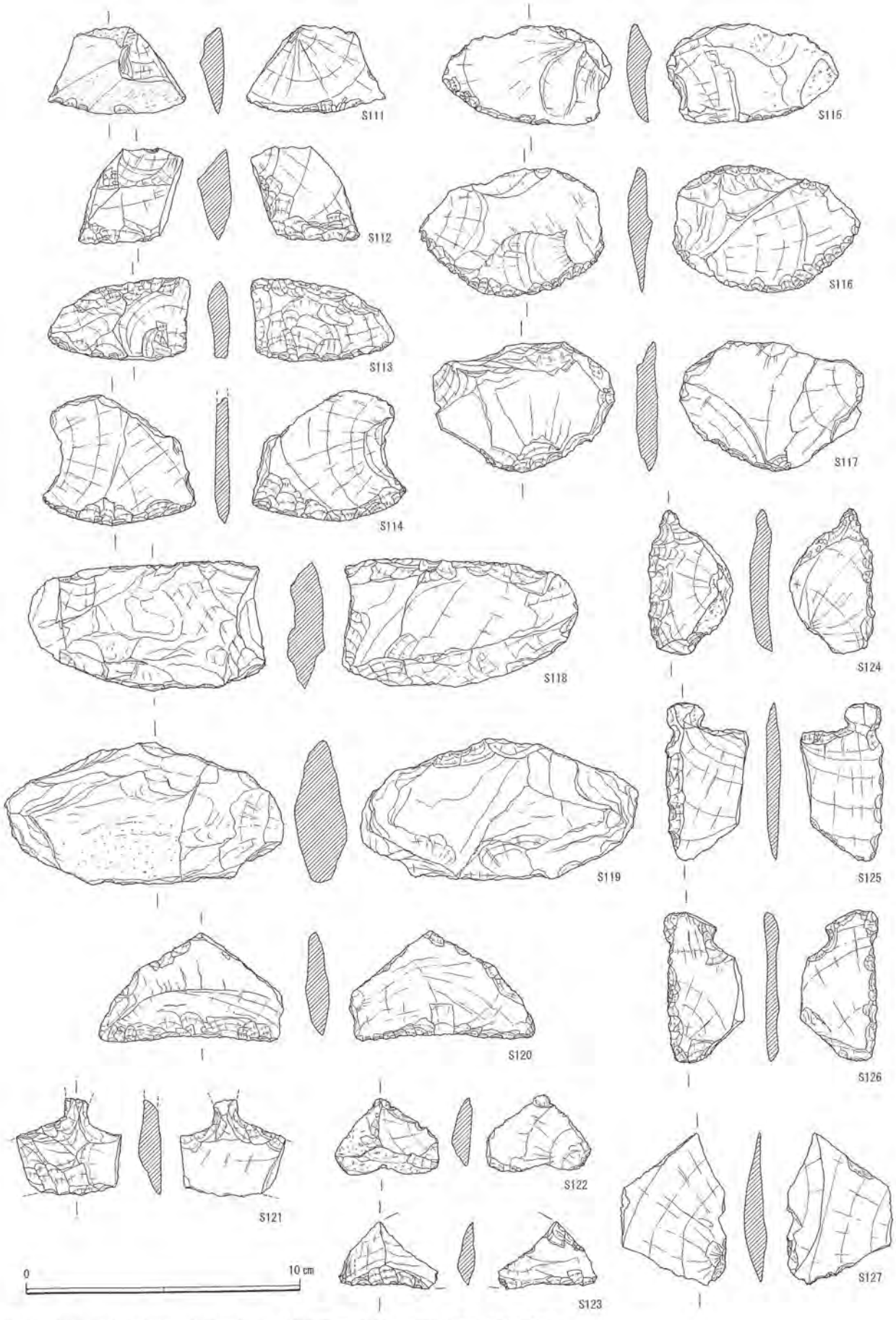
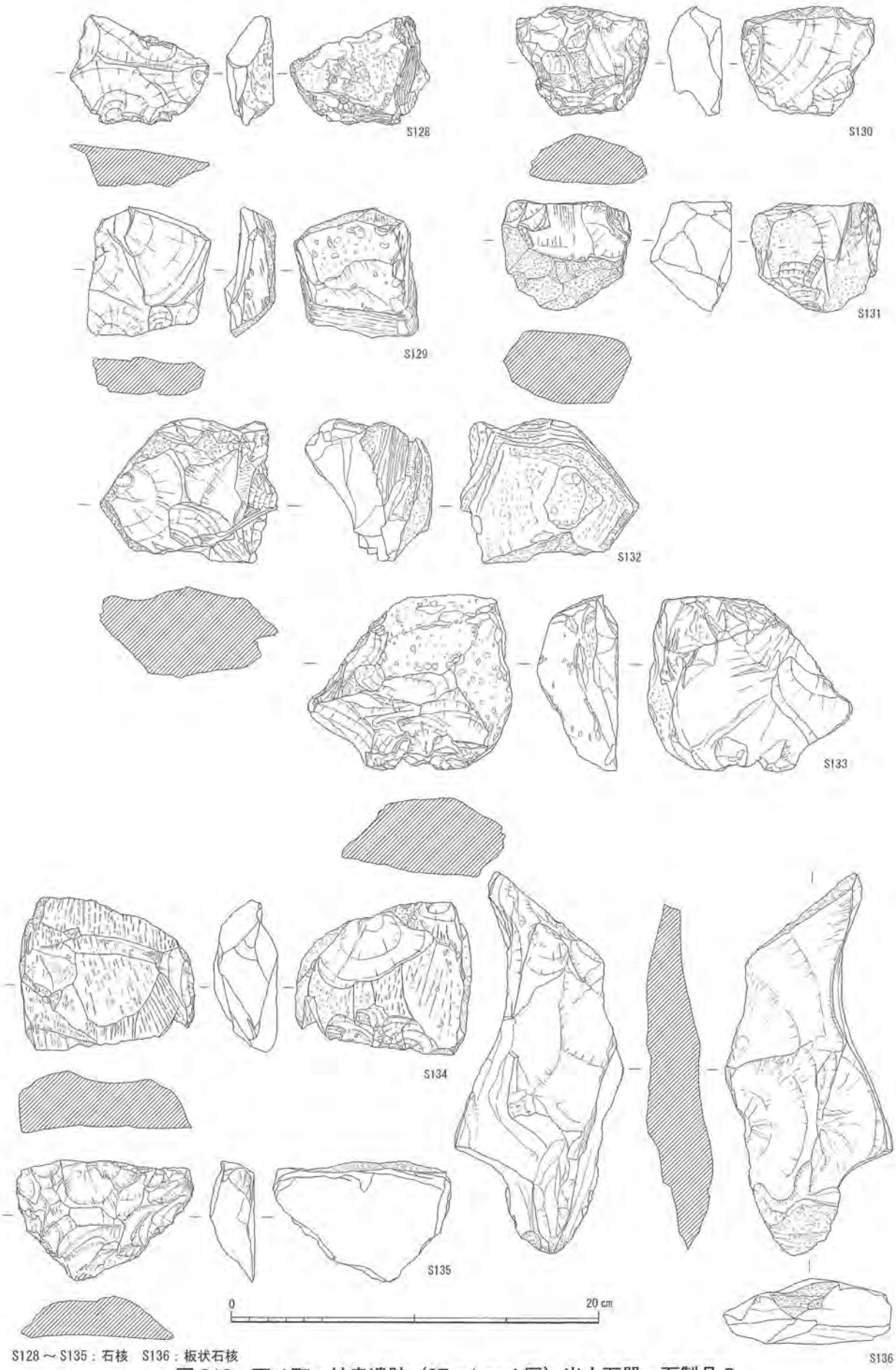


図 214　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～４区）出土石器・石製品４



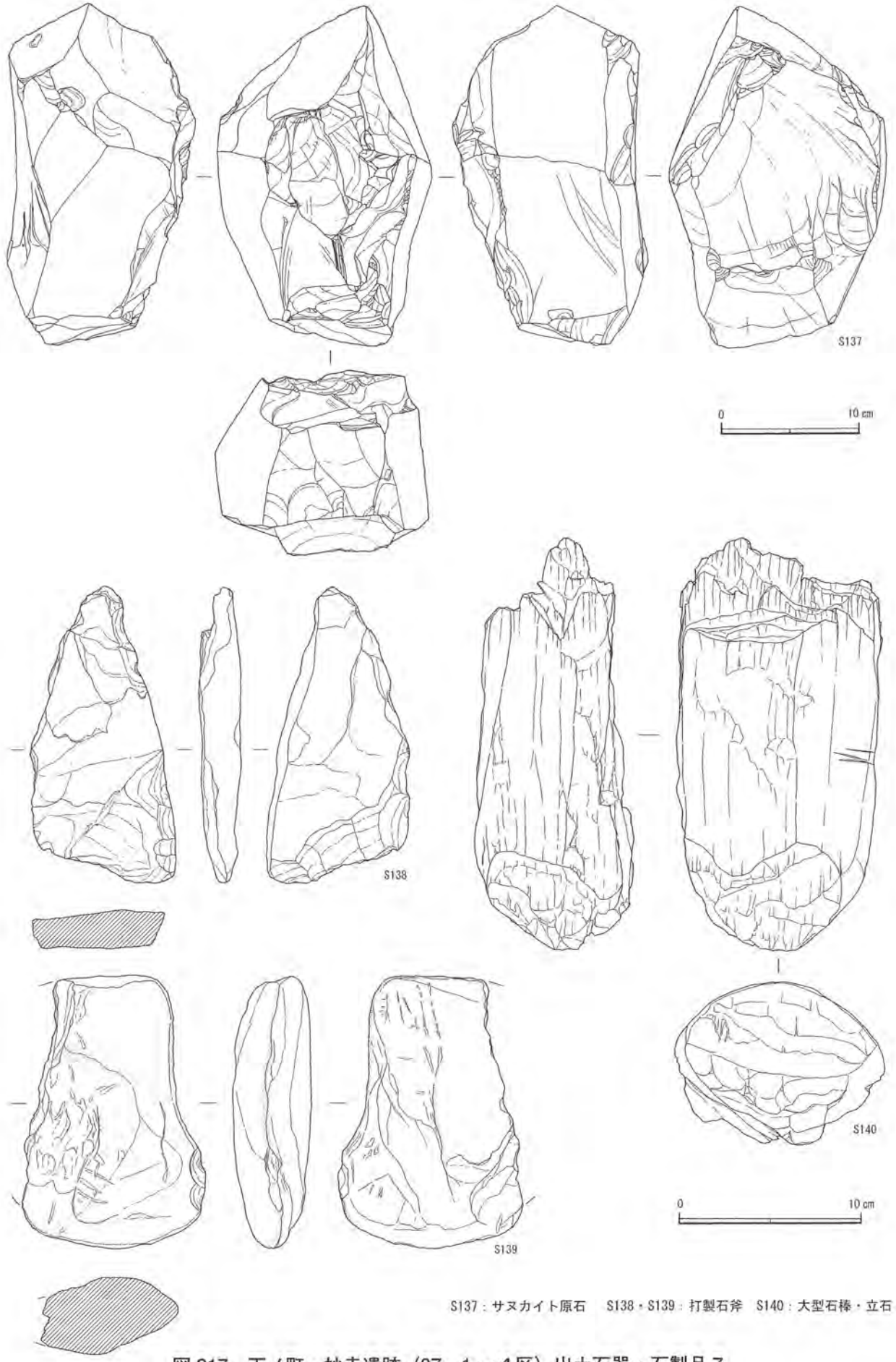
S111～S116：スクレイパー　S117～S119：横刃形石器　S120～S126：石匙　S127：削器

図215　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品5



S128～S135：石核　S136：板状石核

図 216　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4 区）出土石器・石製品 6



S137：サヌカイト原石　S138・S139：打製石斧　S140：大型石棒・立石

図217　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品7

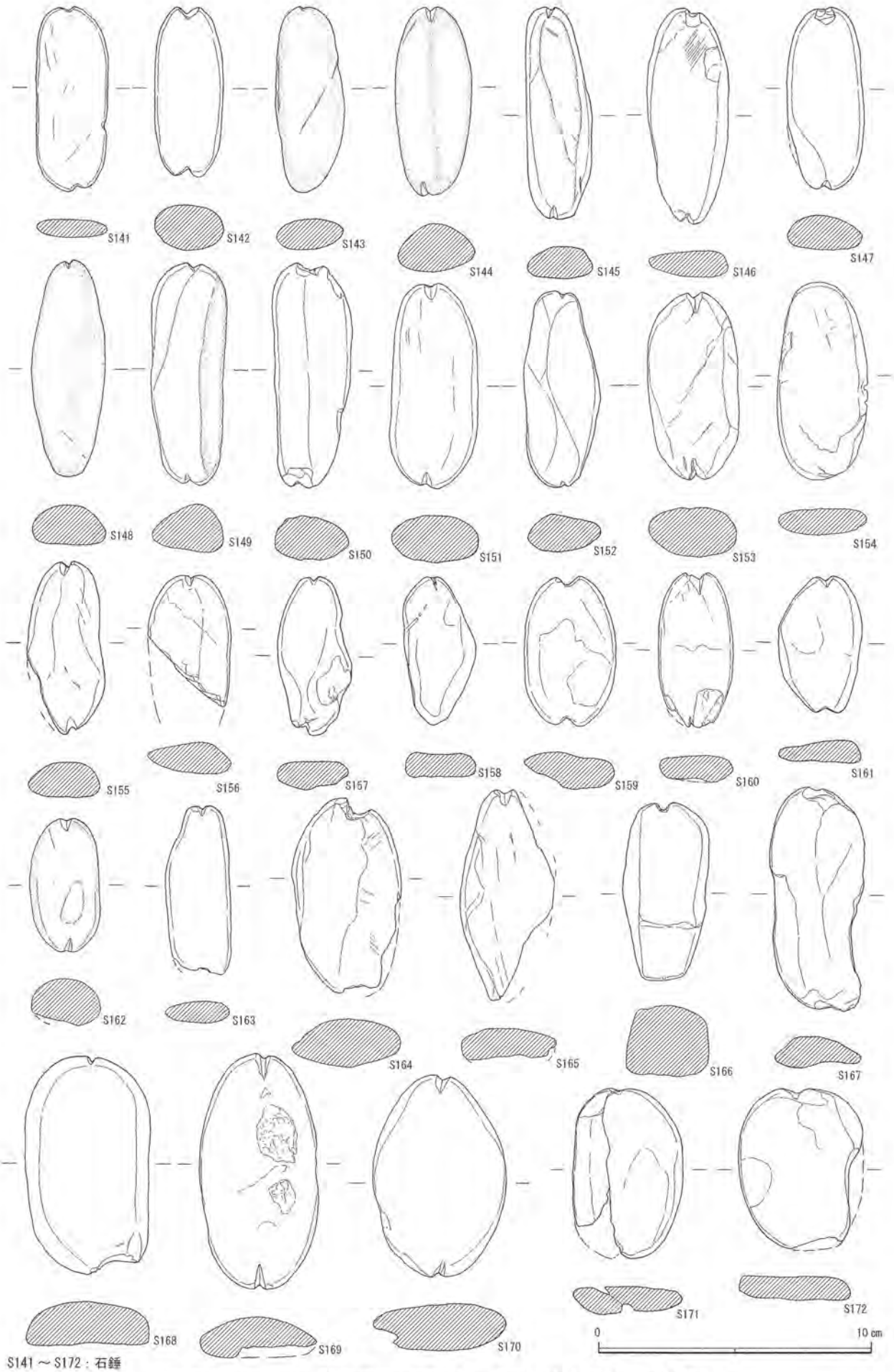
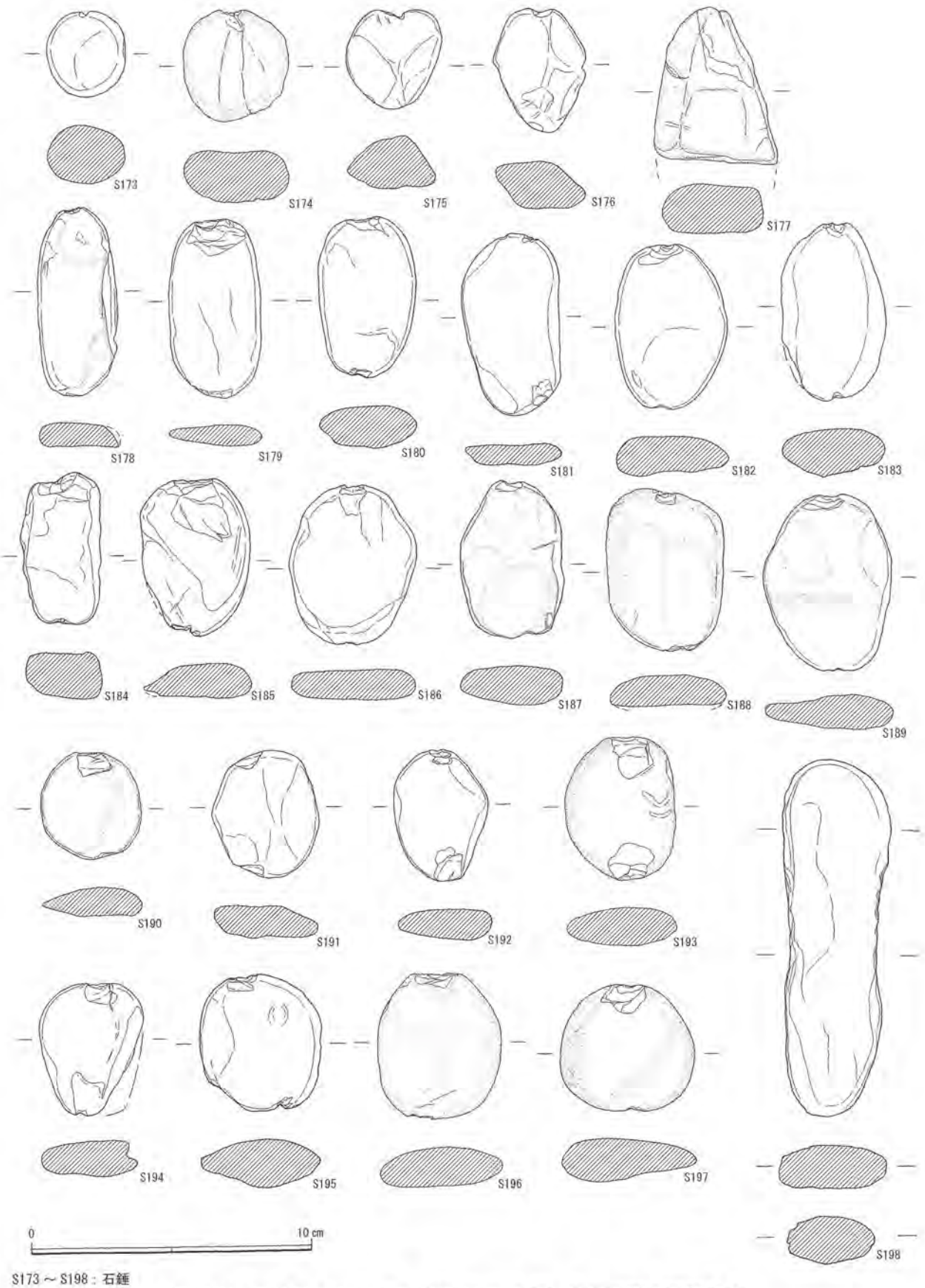


図218　丁ノ町・妙寺遺跡（07−1～4区）出土石器・石製品8



S173～S198：石錘

図219　丁ノ町・妙寺遺跡（07−1～4区）出土石器・石製品9

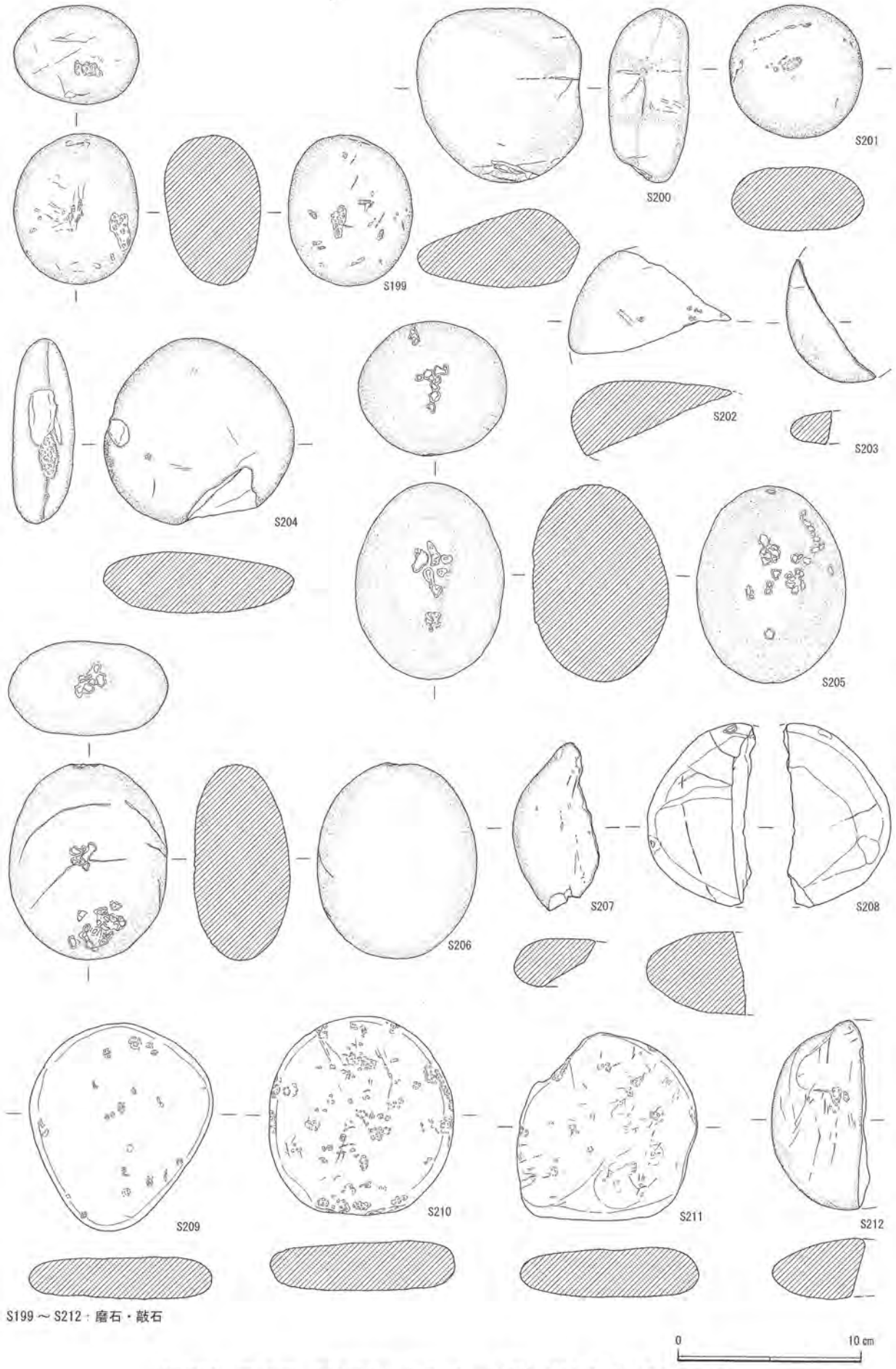


図 220　丁ノ町・妙寺遺跡（07−1 ～ 4 区）出土石器・石製品 10

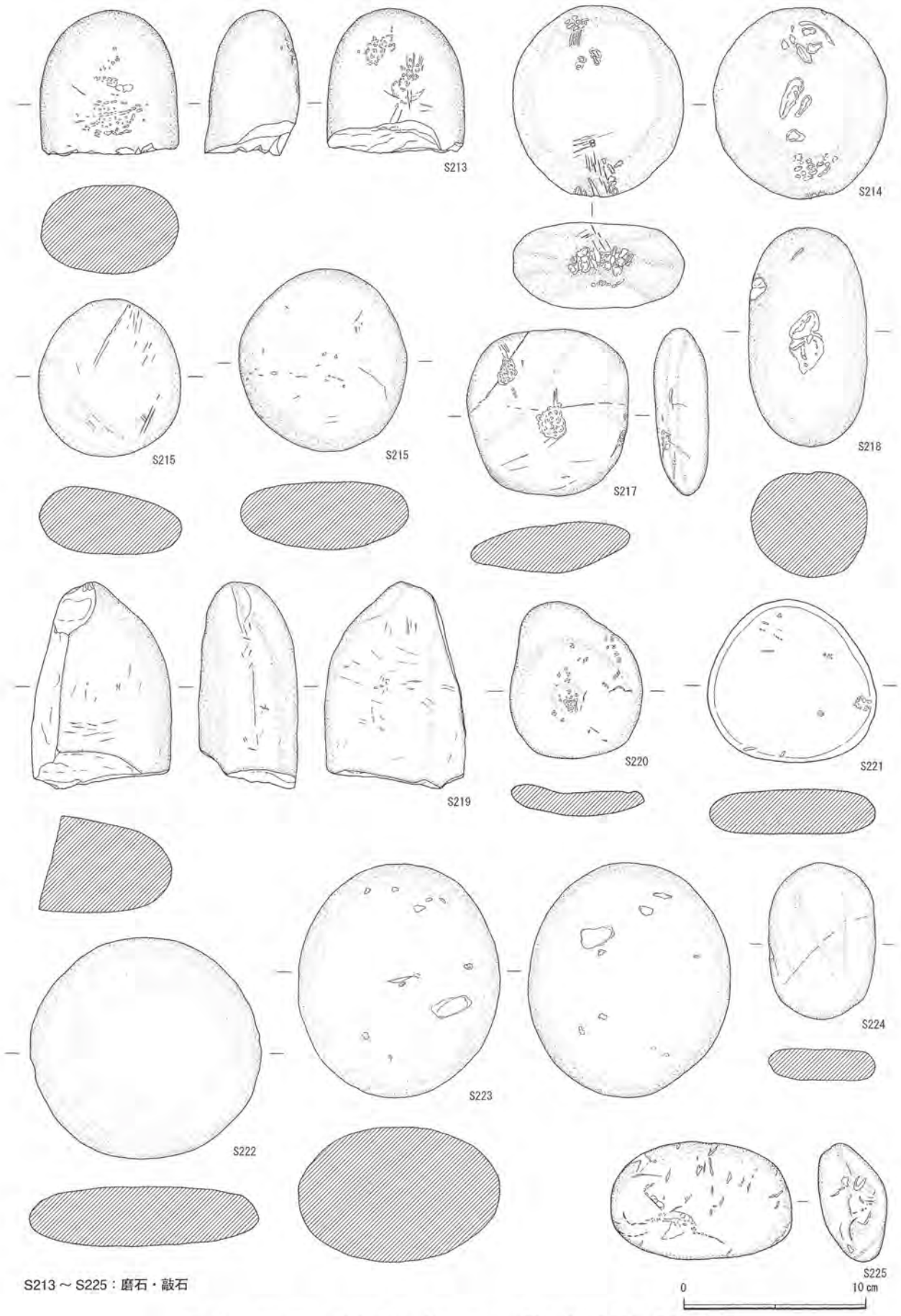
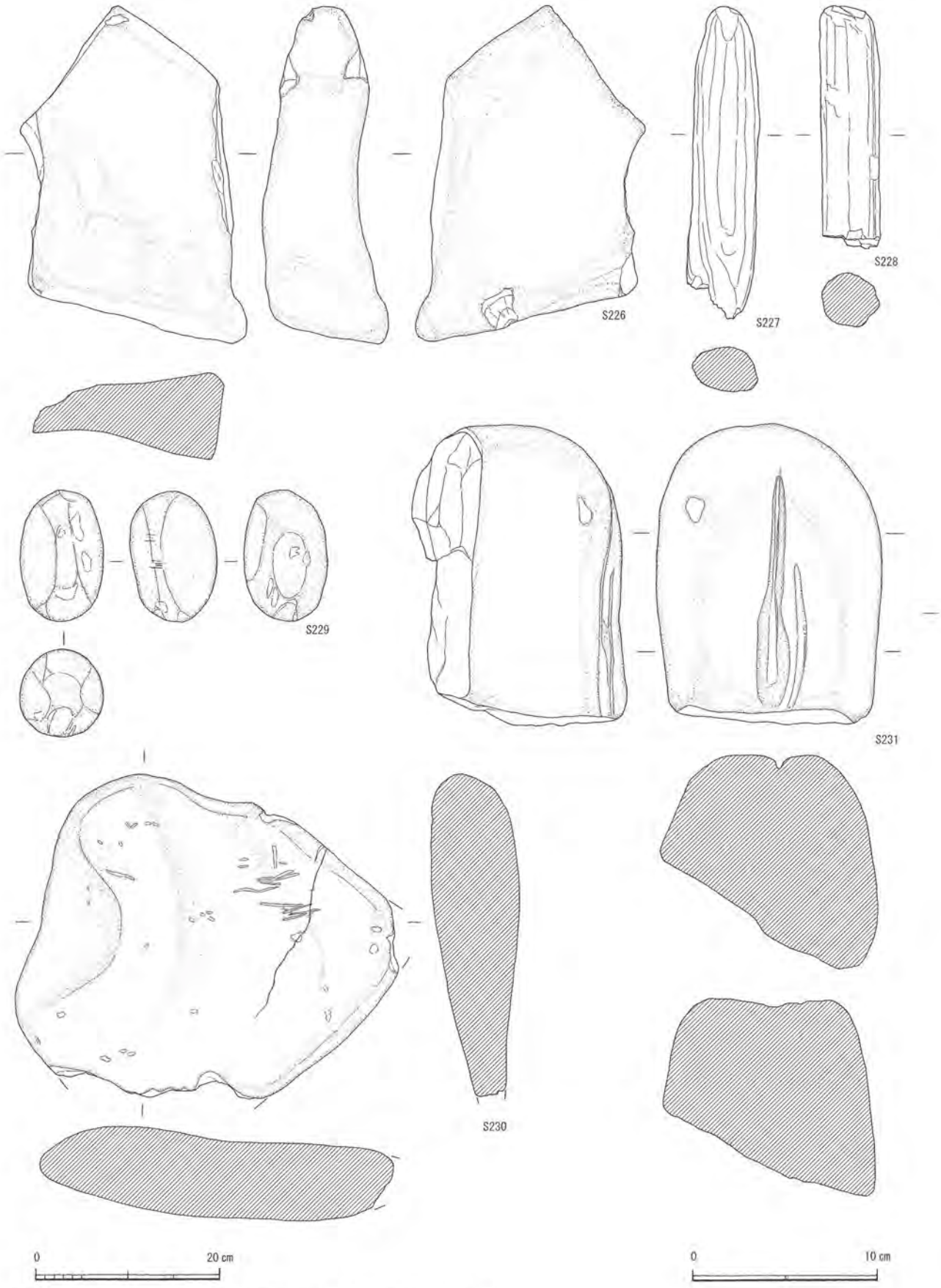


図 221　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 11



S226：砥石　S227・S228：石棒　S229：円礫　S230：台石　S231：矢柄研磨器

図 222　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 12

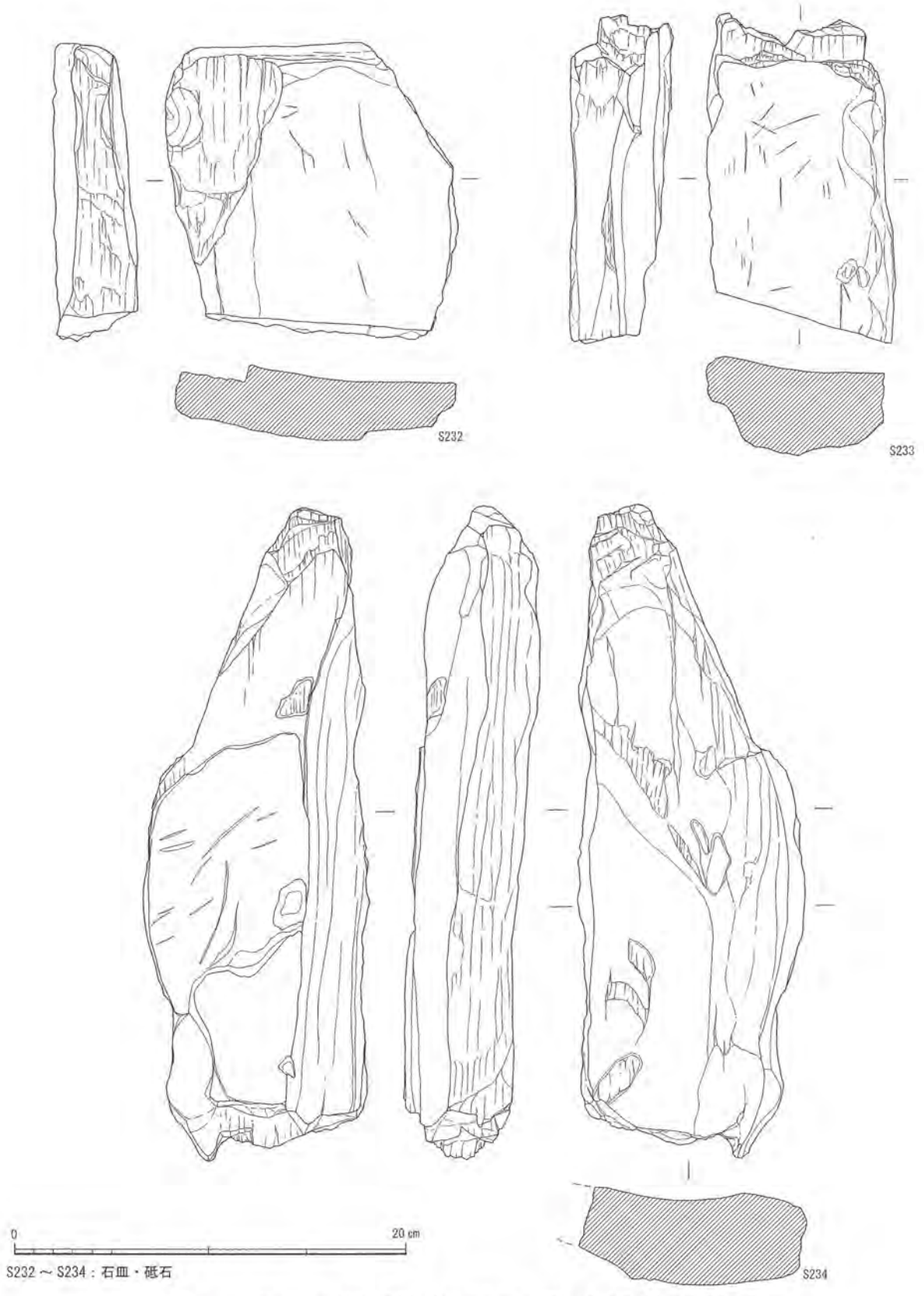


図 223　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1 ～ 4 区）出土石器・石製品 13

材は砂岩・結晶片岩・チャートなど様々である。形態から以下の６つに分類した。Ⅰ類（S 141 ～ S 154）：長さ 6.5 ㎝以上～８㎝未満、幅２～３㎝、厚さ 0.9～1.5 ㎝程度の細長棒状のもの。Ⅱ類（S 155～ S 163）：長さ５以上～6.5 ㎝未満、幅２～３㎝、厚さ１～1.5 ㎝程度の米粒状のもの。Ⅲ類（S 168～ S 170）：長さ 7.5 ㎝以上～８㎝未満、幅４～５㎝、厚さ１～1.5 ㎝程度の小判状



図 224　丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品 14

のもの。Ⅳ類（S 171・S 172・S 178～S 189）：長さ 6 ㎝前後、幅 4 ㎝前後、厚さ 1 ㎝前後の楕円形のもの。切目石錘・打欠石錘の両者が存在する。Ⅴ類（S 173～S 176・S 190～S 197）：長さ 2.8 ㎝以上～ 4 ㎝未満、幅 3 ～3.5 ㎝、厚さ 1 ～1.5 ㎝程度の小型円形のもの。切目石錘・打欠石錘の両者が存在する。Ⅵ類（S 198）：大型の石錘で、長辺の中央を打ち欠くもの。

磨石・敲石は表面に敲打痕をもつものや、両端部に敲打痕をもつもの、磨り面をもつものなどがみられる。（S 229）は表面に鉄分が付着し、全面に光沢をもつ。掘立柱建物 2 の布掘溝から出土しており、法具の一種と考えられる。（S 231）は自然流路 9 から出土しており、中央に 2 条の溝状の窪みをもつ。（S 232～234）は結晶片岩製の砥石で、人為的に割られている。長期的な使用により凹み面が残り、凹み面は滑らかで光沢をもつ。（S 232）は竪穴建物 13 の建物内の集石ピットを構成していた。（S 235･236）は埋設土器 1 の蓋石･底石。（S 236）の表面は平滑で、一部線状の使用痕が残る。

第７節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の木製品

木製品は、曲物（Ｗ１）、木杭（Ｗ２～Ｗ５）、木樋（Ｗ６）、棒状木製品（Ｗ７～Ｗ８）が出土している。

（Ｗ１）曲物底板で、土坑５から出土した。直径 12.5 ㎝、厚さ 0.75 ㎝を測り、側面２か所に結合孔をもつ。片面に漆を塗布する。コウヤマキ製である。

（Ｗ２～Ｗ５）は自然流路７から出土した。特徴的な木杭をサンプリングし掲載した。（Ｗ２・Ｗ３）は断面長方形を呈するもので片側を削るもの。（Ｗ４）は断面方形を呈し両端を削るもの。（Ｗ５）

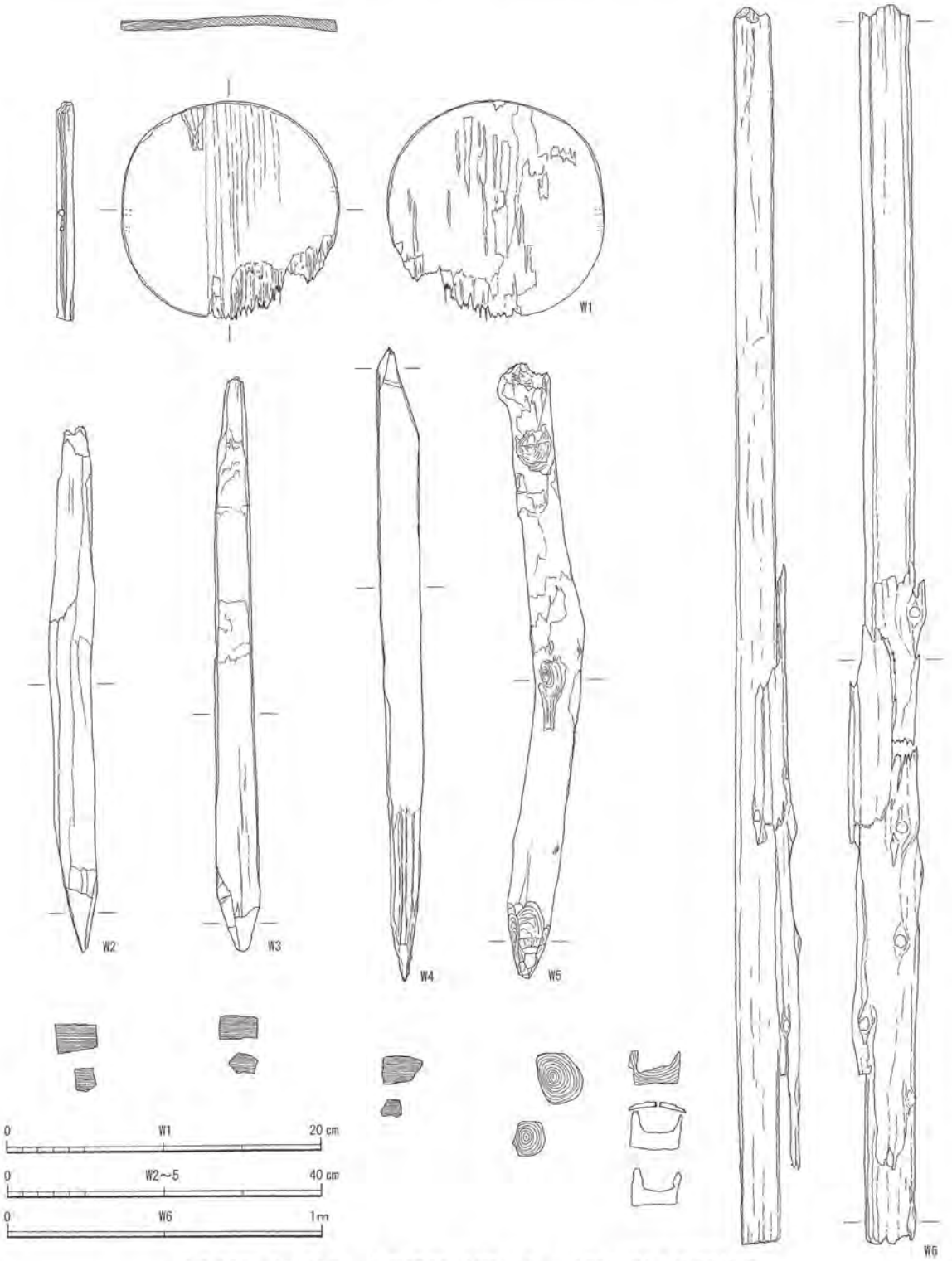


図 225　丁ノ町・妙寺遺跡（07－１～４区）出土木製品１

は断面円形を呈するもの。これらの木杭は自然流路の底面、肩側から出土した。

（W６）木樋で、溝５から出土した。一木を刳り貫き、樋身、樋蓋とする。

（W７～W９）は自然流路９から出土。（W７）は上端を有頭状に削り出し、下端は尖らせる。（W８）は両端を抉り、有頭状に削り出すもの。（W９）は断面方形の角棒状のもので、両端を斜めに削り出す。（W７・W８）についてはヒノキ製で、紡織具と考えられる。

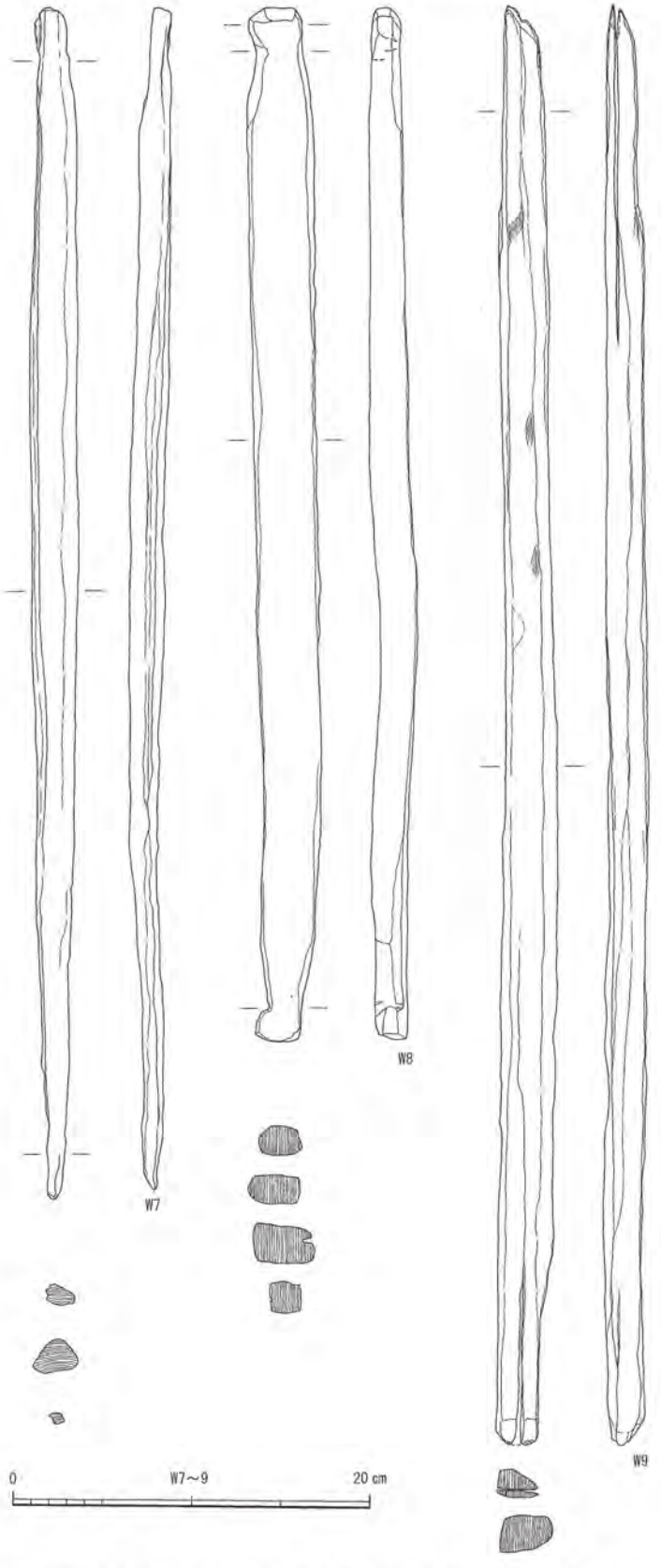


図 226　丁ノ町・妙寺遺跡（07－１～４区）出土木製品２

第８節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の鉄製品

鉄製品は、刀子（Ｉ１・Ｉ２）、釘（Ｉ３～Ｉ６）が出土している。

（Ｉ１～Ｉ４）は掘立柱建物２から出土した。（Ｉ５・Ｉ６）は遺物包含層からの出土である。

（Ｉ１）は脇差と考えられる小刀で、鎌倉時代のものと考えられる。腐食が顕著で厚さ４㎝程度の錆膨れが認められた。柄に目釘孔をもち、峰部は残存する。刀自体に反りは認められず刺刀と考えられる。

（Ｉ２）は刀子柄である。遺存状況は悪く、目釘孔周辺が残るのみである。

（Ｉ３～Ｉ６）は釘で断面方形を呈する。

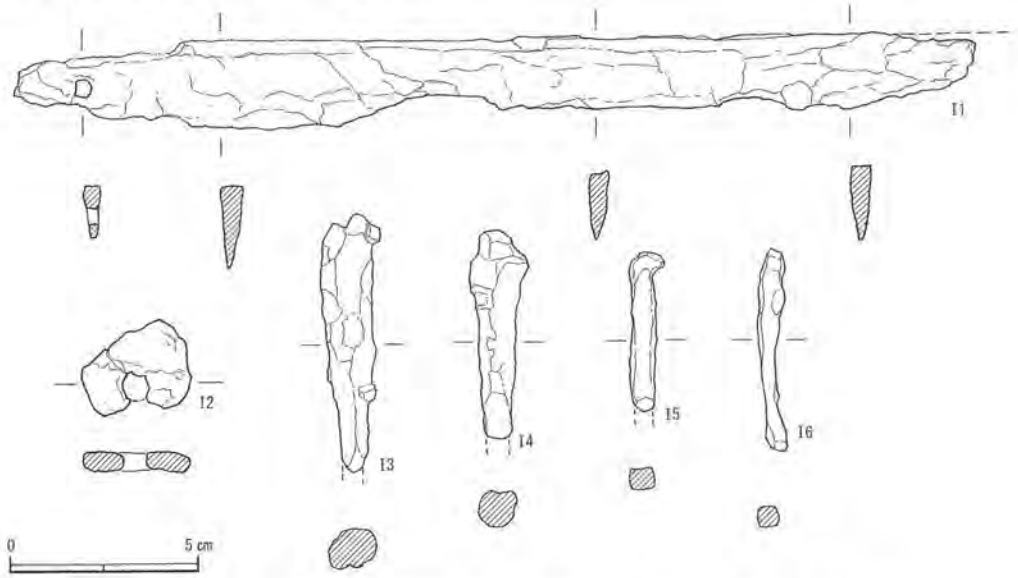


図 227　丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区）遺構・包含層出土鉄製品

第6章　総　括

1．中世の西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡

第１次調査の西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）、丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）では、鎌倉時代（12世紀以降）の水田を検出した。水田は洪水層である間層の上で検出され、平安時代の条里水田の大畦畔、東西畦畔を踏襲する。現在、地表面で観察できる妙寺条里と対応し、近年に至るまで長期間にわたって水田として使用されていたとみられる。

第２次調査の丁ノ町・妙寺遺跡では、中世の遺構を良好な形で検出できた。丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区・07－２区）の調査区は、緩やかな斜面を階段状に造成している。この造成段上に堆積する遺物包含層（第３層）に含まれる遺物から、少なくとも鎌倉時代（14世紀）には、造成が行われ周辺は開発されたようである。航空写真からも、現在の畑地の区画と造成段の対応が判別可能であり、中世の開発によりほぼ現在の地形が形成されたものと考えられる。

開発以前である第３層下面では、掘立柱建物３棟（掘立柱建物１・掘立柱建物２・掘立柱建物11）、礎石建物１、焼成土坑１などを検出した。古代の建物群が山裾に沿って立地するのに対し、中世のいずれの建物も斜面上に位置することから、この段階には斜面上へと次第に開発が行われ、農地が拡大したものとみられる。

掘立柱建物11は方形に屈曲する溝に区画され、北西隅には長径3.7ｍ、短径1.5ｍの焼成土坑が取り付く。焼成土坑には炭化物、焼土が多量に含まれ、何らかの焼成が行われたと考えられる。出土遺物は12世紀後半のものであり、段の造成以前の遺構と考えられる。同様の遺構とみられる焼成土坑１が、掘立柱建物11の東で検出されており、斜面上で生産活動が行われていたと推定される。

掘立柱建物２は、布掘溝を伴う掘立柱建物で、建物基礎は厚さ60㎝程の盛土整地を行い、現状では桁行５間以上、梁行２間以上の柱配置をもつ大規模な建物跡である。整地層上面および周辺には複数の礎石が存在し、掘立柱建物から礎石建物へと建て替えられたとみられる。

掘立柱建物、布掘溝及び上面の炭化物層から遺物が多量に出土している。出土遺物の内訳は土師器、瓦器、瓦質土器、備前焼、常滑焼、東播系須恵器、青磁・白磁、焼土塊、刀子、釘が出土している。掘立柱建物２に伴う遺物は、おおむね鎌倉時代の中でも13世紀半ばから13世紀後半

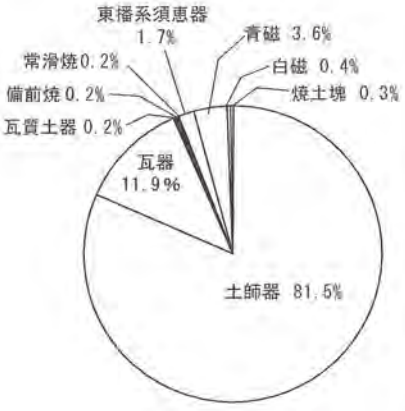


図228　種類別器種構成

表１　掘立柱建物２・礎石建物１出土土器（07－１区）の器種構成

	種類	器種		個体数(%)			換算個体数(%)		
国産土器	土師器	皿	小皿	288(53)	441(81.5)	505(93.6)	73.4(64)	98.9(86.2)	109.5(95.6)
			大皿	142(26.1)			21.7(19)		
			その他	9(2)			3.6(3)		
		鍋・羽釜		2(0.4)			0.2(0.2)		
	瓦器	椀		58(11)	63(11.9)		9.8(8.6)	10.5(9.3)	
		皿		4(0.7)			0.6(0.6)		
		鉢		1(0.2)			0.1(0.1)		
	瓦質土器	羽釜・擂鉢		1(0.2)	1(0.2)		0.1(0.1)	0.1(0.1)	
国産陶器	備前焼	大甕		1(0.2)	1(0.2)	11(2.1)	0.1(0.1)	0.1(0.1)	2.4(2.2)
	常滑焼	大甕		1(0.2)	1(0.2)		0.2(0.2)	0.2(0.2)	
	東播系須恵器	皿		1(0.2)	9(1.7)		0.1(0.1)	2.1(1.9)	
		片口鉢		8(1.5)			2(1.8)		
輸入陶磁器	青磁	椀		12(2.1)	20(3.6)	22(4)	1.2(1.1)	2(1.8)	2.4(2.2)
		盤・皿		8(1.5)			0.8(0.7)		
		水注		0(0)			0(0)		
	白磁	皿		1(0.2)	2(0.4)		0.3(0.3)	0.4(0.4)	
		壺		1(0.2)			0.1(0.1)		
	焼土塊			3(0.3)	3(0.3)	3(0.3)	—	—	—
合計				541(100)			114.3(100)		

※個体数は口縁部、底部など端部が2cm以上残存した土器片を1個体とし計測した。
※換算個体数は口縁部計測法による。
※直径11cmを基準とし、それ以上を大皿、それ未満を小皿に区分した。

に収まるものとみられ、礎石建物や遺構上面を覆う炭化物層は13世紀後半から14世紀前半と遺構の時期に違いがみられる。

出土土器の器種構成は、土師器が81.5%と多数を占め、次いで瓦器11.9%、青磁3.6%、東播系須恵器1.7%、白磁0.4%、常滑焼・備前焼・瓦質土器が各0.2%となる（図228）。1点のみ出土した瓦質土器は混入品とみられる。土師器と瓦器の比率は22：3となり土師器が圧倒的に優勢となる。周辺でほぼ同時期と考えられる遺跡の器種構成は粉河寺遺跡（(財）和歌山県文化財センター2008）で9：2、西田井遺跡（(財）和歌山県文化財センター1991）ＳＤ452で4：5であり、土師器の出土量が他の遺跡より多い特徴がある（表1）。また、瓦器椀については型式の判明するものでは、紀伊型瓦器椀が19点、大和型瓦器椀が23点と両者が拮抗する。

一方、器種組成の中で特徴的であるのが、青磁・白磁の輸入陶磁器が4％と同時期の資料と比較して多いことである。青磁碗以外にも、青磁盤、白磁四耳壺を含み、器種のバリエーションが豊富である。また、1点のみの出土であるが、備前焼大甕は色調が灰白色を呈し、赤褐色化する以前のものである。周辺の遺構からも同様の備前焼大甕が出土している。備前焼が広範に流通する前段階のもと見られ、県内では根来寺坊院跡で確認されるだけである（北野2002）。建物の整地や規模などの特徴とともに、広域に流通する以前の輸入陶磁器や国産陶器が器種組成の中で一定量を占めることは、建物の性格を考える上で重要であろう。

こうした中世の開発や、それ以前の遺構は高野山領官省符荘との関連が想定できる。官省符荘は、平安時代後期の永承四（1049）年に高野山領として太政官と民部省の符によって許認可された官省符荘が成立している。高野政所の九度山町慈尊院を中心に随時拡大され、東は橋本市神野々から西はかつらぎ町佐野まで広範囲に及ぶ。官省符荘は紀ノ川河南を河南方、北岸東側を河北方、その西側を下方と呼称されている。丁ノ町・妙寺遺跡地内も官省符荘下方に区分され、12世紀に「西伊揖」が、13世紀には「丁町」、13世紀後半には「妙寺湯屋西」の名が文献上で現れるようになる。中世の遺構または、中世の開発と相前後するように文献資料に地名が現れるため、官省符荘の領地拡大に伴い中世の開発が行われたものと考えられる。

また、丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）で検出した平安時代後期から鎌倉時代（12世紀後半）の自然流路7は、北東方向から西南西方向に流れる大規模な自然流路である。溝の底面と肩部には木杭が多数打たれている。底面に打たれた杭は、直交する形で杭や自然木が据えられていることから水制としての機能を持っていたと考えられる。自然流路7からは、南方向へ分流する溝5が検出されている。この溝5と自然流路7の接続部には木樋が遺存していた。木樋は木材を刳り貫いて、木蓋を被せたもので、自然流路7で水量調整された水流はこの木樋を通じて溝5へと流されたものと見られる。他の溝が谷筋に沿って南北方向に流れるのに対して、自然流路7のみが東西方向に流れる。南方には官省符荘の水田地帯が広がっており、谷筋の水流を流す水路の役割をしていたと考えられる。

現在の妙寺周辺の水源となる畑谷池は、応其上人によって整備、拡張されたと考えられている。『高野山文書』「諸寺諸社造営目録」には「妙寺の池、都合弐百石」とあり池の築造に際して米二百石を要したことが記されている。また、現在の畑谷池には安土桃山時代に造立された、興山上人（応其上人）名を記した五輪塔が存在する。五輪塔には天正17（1589）年に畑谷池改修を示す下りが見られ、1589年に畑谷池が整備・改修されたことを示す。それ以前にも「畑谷古池」「畑谷小池」などの記述が見られるが、丁ノ町、妙寺地内への水の供給は畑谷池整備・改修以降であろう。それ以前の遺跡周辺の用水は、自然流路7で見られたように谷を流れる小河川の水を取り込んでいたと見られる。

2．古代の条里水田・掘立柱建物群と妙寺条里の成立

第１次調査区の中央部は、両遺跡の接点部分に当たり埋没谷となっている。この埋没谷に相当する西飯降Ⅱ遺跡（06 － 2 区）の西半から丁ノ町・妙寺遺跡（06 － 1 区）東半で、古代の水田を検出した。水田跡の規模は東西 80 m、南北 50 mの範囲である。水田の中央に山際から流れる南北溝があり、この溝と直交するように東西方向の畦畔がある。この畦畔は中世以降大溝として踏襲され、現地形でも確認できる。この大溝は妙寺条里区の北端の境界線でもある。また、南北方向の小畦畔が約６m間隔に並んで見つかった。そして古代の水田跡を覆うように洪水砂層が 20 ～ 30cm ほど堆積し、その上にはさらに中世の水田が作られ、現代の果樹園となる以前まで水田として長期間利用されてきた。

水田は調査区内では洪水砂層によってパックされていたため、中世水田に削平されることなく古代の耕作土が保存される結果となった。南北溝と東西畦畔は条里地割に相当し、東西畦畔は条里北端の坪境にあたる。南北水路は坪境を越えて北へ延び、北側でも水田跡を検出した。

この条里地割はＮ－14°－Ｗと、国土座標からの西偏が認められる。水田の時期は、溝 18 及び、水田耕作土から出土した遺物より平安時代前期（９世紀後半）と考えられる。また、西飯降Ⅱ遺跡（06 － 1 区）では、条里坪境付近で自然流路２を検出し、自然流路には木樋を伴う堰が検出できた。時期は平安時代中期（10 世紀）のものと考えられる。

妙寺条里区に供される水田の水は、現在北東にある畑谷池と北西の桧ノ森池から取水しているが、条里制が施工された時点では和泉山脈から流れ出る開析谷の川から供給していたであろう。古代では水田の面積は大きくはなく、官省符荘の成立と、さらに畑谷池の拡張によって耕作面が拡大したと思われる。発掘調査の成果からも、微地形の高低差によって高い部分は中世以前の水田は確認できず、弥生時代・古墳時代の集落が検出された。古代の水田は低地の湿潤な部分が中心となると思われる。

和歌山県内におけるこれまでの条里遺構の検出は、平安時代後期以降のもので、今回見つかっ

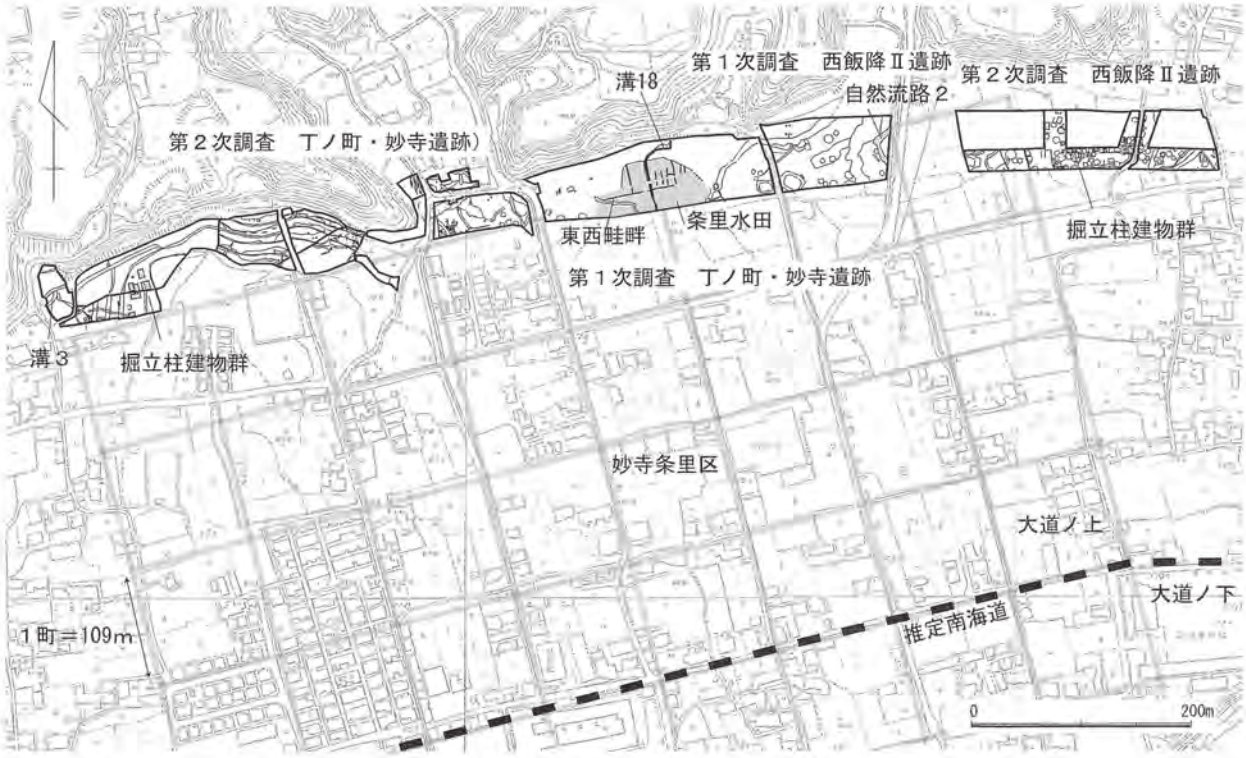


図 229　条里復元図（S＝ 1/7000）

た古代の条里地割は和歌山県で最古の検出例となった。これまで伊都郡の条里は妙寺条里区も含めて平安時代後期以降の高野山官省符荘の成立による開発とされることが多かったが、中野榮治氏は当地の妙寺に残る小字名の「大道ノ上」「大道ノ下」があることから、古代の官道である南海道を復元し、南海道と条里が関係すると推定している（中野 1989）。東隣にある村主郷に比定される応其条里区は正方位にのる条里であるが、妙寺条里が傾いて作られているのは、南海道を基準にして施行された結果と考えられる（図 229）。

第２次調査の丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 区）の北東部では、平安時代前期の掘立柱建物群を検出している。掘立柱建物は一部重複が認められるものの、計８棟を検出した。柱穴の切り合いがみられないため建物の重複関係は明確でないが、建物配置からみると、建物３・４・６・９の４棟が先行し、後に建物５・７が建てられたように見受けられる。建物４～６は南北棟の西廂が付きほぼ同規模、柱筋も揃えている。建物７～ 10 は東西棟で、やや小規模な建物である。建物はすべて主軸がＮ - ８～ 16.5° - Ｗと西偏し、規則性が認められる。建物群は南方へ広がる可能性も残すが、北側と西側は丘陵の裾部となり、山際に立地する。柱穴内や建物を覆う包含層出土遺物はほぼ平安時代前期（９世紀）に属し、大幅な時期差は認められず、長期間存続した建物群とは思われない。出土土器の器種構成では煮沸具の比率がきわめて少なく、椀・皿類からなる供膳具が多数を占める（表２）。一方、出土土器中では、製塩土器が８％と一定量を占め目立つ存在である。製塩土器は内陸部からの出土であり、貢納品としての塩の性格がうかがえる（図 230）。また、少数ながら墨書土器・硯も出土している（181・190・272・303・304）。さらに、丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 1 区）の建物群は、すべて妙寺条里区と同様に西偏する傾きをもち、明らかに条里地割と密接な関係が認められる。一方、今回は報告の対象外となった第２次調査の西飯降Ⅱ遺跡では、検出された建物群は正方位にそろえた建物が大半であった。

ところで、条里地割と南海道駅路との関係であるが、中野榮治氏から妙寺条里区復原では推定南海道部分に余剰帯がみられると指摘を受けた。しかし、南海道は大路ではなく小路のため道路幅が狭いと予想され、地図上で南海道を読みとることは困難であり、１／ 2500 の地図では確認できない。そのため、妙寺条里区は、南海道が使用されていた時に造られたものか、平安遷都で南海道が迂回した後に成立したのか不明である。しかし、直線で通っていた南海道を基準にして条里地割が行われたことは間違いないであろう。第２次調査の西飯降Ⅱ遺跡の掘立柱建物群は、

表２　掘立柱建物群・掘立柱建物周辺出土土器　（07 － 1 区）の器種構成

種類	建物柱穴出土個体数(%)	周辺包含層出土個体数(%)	出土総個体数(%)
貯蔵具・供膳具	138(84.1)	137(85.5)	275(85)
煮沸具	8(4.9)	8(5)	16(5)
製塩土器・その他	18(11)	14(9.5)	32(10)
合計	164(100)	159(100)	323(100)

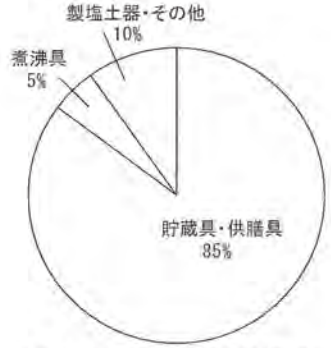


図 230　機能別器種構成

種類	器種	建物柱穴出土個体数(%)		周辺包含層出土個体数(%)		出土総個体数(%)	
土師器	杯・椀	34(20.7)	80(48.8)	6(3.8)	31(19.4)	40(12.4)	111(34.5)
	蓋	6(3.7)		1(0.6)		7(2.2)	
	皿	29 (17.7)		12(7.5)		41(12.7)	
	高杯・盤	3(1.8)		3(1.9)		6(1.9)	
	壺	0(0)		1(0.6)		1(0.3)	
	甕・鍋・羽釜	8(4.9)		8(5)		16(5)	
須恵器	杯・椀	41(25)	66(40.2)	61 (38.4)	113(71.3)	102(31.7)	179(55.4)
	皿	1 (0.6)		3(1.9)		4(1.2)	
	蓋	23(14)		34(21.5)		57(17.6)	
	甕	0(0)		4(2.5)		4(1.2)	
	壺	1 (0.6)		11(7)		12(3.7)	
	壺(蓋)	0(0)		1(0.6)		1(0.3)	
製塩土器		17(10.4)		9(5.7)		26(8)	
硯		0(0)		2(1.2)		2(0.6)	
土錘		1 (0.6)		2(1.2)		3(0.9)	
鞴羽口		0(0)		1(0.6)		1 (0.3)	
合計		164(100)		159(100)		323(100)	

※個体数は口縁部、底部など端部が2cm以上残存した土器片を1個体とし計測した。

古墳時代の集落に引き続き８世紀までに造られ、９世紀に入って妙寺条里区の施行と丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区）の掘立柱建物群が成立したと現段階では想定しておきたい。どちらの建物群も条里地割の外側に立地しているのであるが、丁ノ町・妙寺遺跡の建物群は条里を管理するために条里区外に設けられたともいえる。

伊都郡の郡衙跡はまだ見つかっていないが、伊都郡内で最も広い面積の条里区であること、白鳳期にさかのぼる神野々廃寺と名古曽廃寺の二つの古代寺院が存在することなどから、伊都郡衙の所在地は現段階で応其条里区（村主郷）内が最有力である。西隣の笠田条里区（桑原郷）佐野に佐野廃寺が存在しているのであるが、妙寺条里区内には古代寺院は認められない。

丁ノ町・妙寺遺跡の掘立柱建物群は、建物配置に規則性が認められ、少数ながら墨書土器・硯も出土し、役所的な施設と判断される。現状の評価としては、妙寺条里区（指理・飯降郷）を管理する郷家（郷衙）に関係する建物群、または、郡衙の出先機関と想定しておきたい。第２次調査の西飯降Ⅱ遺跡の古代の建物群も役所的な性格を示すものの、条里地割には関連づけにくいこと、出土遺物は水田遺構よりも時期が遡ることなどの違いが認められる。第１次調査の西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）の水田と、第２次調査の丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区）の建物群の出土遺物から、現在残る妙寺条里区は平安時代前期（９世紀）に成立した可能性が高くなったといえる。

３．古墳時代の集落

第１次調査では、竪穴建物７棟、焼成土坑、溝、自然流路などを検出した。また、第２次調査の丁ノ町妙寺遺跡においても、竪穴建物４棟、土坑を検出し、古墳時代の集落を検出している。

古墳時代後期の遺構は、西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）に集中し、竈をもつ竪穴建物３棟、自然流路、溝、焼成土坑３基、鋳造炉を検出している。遺構の時期は６世紀（ＴＫ 10 ～ＴＫ 43 型式）である。竪穴建物は散在し、第２次調査の西飯降Ⅱ遺跡における竪穴建物が集中する状況とは様相が異なる。調査区東側では自然流路５などの大規模な自然流路が南北に貫流し、集落域を分断する谷状地形を形成しており、西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）で検出された古墳時代後期の集落は、集落縁辺部に相当すると考えられる。集落縁辺部には、焼成土坑や鍛冶遺構などが検出されており、生産域として機能していた。また、調査区を流れる自然流路６は、屈曲部分に堰を築き、そこから分岐する溝によって周辺の水田を灌漑していたと考えられる。このように集落縁辺には、水田や生産域が広がっていたと推測され、西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）の西側からは遺構の分布は希薄となる。ところで、自然流路６からは、和歌山県内最古の出土例となったコウヤマキ製の下駄が出土している（Ｗ１）。出土例から下駄は、祭祀的な意味合いで用いられたと考えられ、集落縁辺部で執り行われた祭祀の可能性が高い。

一方、古墳時代中期の遺構は、第１次調査の西飯降Ⅱ遺跡では少なく、丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）と、第２次調査の丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）でその存在が確認される。丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）では下層確認調査から、弥生時代には複数の自然流路が流れ谷状地形を呈していたことが判明している。古墳時代中期の遺構は、自然流路を覆う第４－３層上に立地し、この段階には第１次調査区と第２次調査区を分断する谷状地形が埋没していたと考えられる。

遺構は、丁ノ町・妙寺遺跡（07－３区）では、竈をもつ竪穴建物４棟を検出している。また、丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）では樽形甕（582）が土坑 42 から出土しており、いずれの遺構の時期も５世紀前半（ＴＫ 216 ～ＴＫ 208 型式）を主体とし、初期須恵器段階の小規模な集落が存在していたことがうかがえる。対照的に西飯降Ⅱ遺跡ではこの時期の遺構は少なく、西飯降Ⅱ

遺跡の集落がこの時期に分散し、周辺で小規模な集落が点在していたものとみられる。

古墳時代前期の遺構は第１次調査の西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）、第２次調査の丁ノ町・妙寺遺跡(07－３区)で検出されているが、その規模は極めて小規模である。竪穴建物は西飯降Ⅱ遺跡(06－１区）で方形竪穴建物が４棟検出されている。この時期の竪穴建物の特徴としては、方形２本柱の竪穴建物や方形４本柱で中央に炉をもつ竪穴建物が存在する。これとは対照的に、第２次調査の西飯降Ⅱ遺跡では、古墳時代前期の竪穴建物がまとまって検出されている。第１次調査の西飯降Ⅱ遺跡で検出された古墳時代前期の集落は、古墳時代後期の状況と同様に集落の縁辺部分を検出したとみられる。

４．弥生時代の集落

第１次調査・第２次調査では弥生時代の遺構の数が最も多く、集落はピークを迎えると考えられる。第１次調査では西飯降Ⅱ遺跡（06－１・２区）で竪穴建物９棟、竪穴状遺構、方形周溝墓４基、土器棺墓５基、土坑、溝、自然流路などを検出し、丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）においても、竪穴建物４棟、竪穴状遺構、土器棺墓１基、土坑を検出している。第２次調査では（07－３区）で竪穴建物６棟、土坑、溝、自然流路を検出している。

弥生時代前期に遡る遺構は、現在のところ確認されていない。第１次調査の西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）の自然流路８から、弥生時代前期の壺体部片が１点のみ出土している。

弥生時代中期以降、遺構の数が増加し、西飯降Ⅱ遺跡（06－１・２区）では遺構が多数検出されている。西飯降Ⅱ遺跡では、弥生時代中期中葉から中期後葉の遺構が主体を占める。弥生時代中期中葉の遺構は、竪穴建物、方形周溝墓、土器棺墓を検出している。検出した方形周溝墓は、すべて弥生時代中期中葉のものと考えられ、集落の開始段階から墓域が形成されている。また、弥生時代中期後葉にかけては、竪穴建物や土器棺墓などの遺構が見られる。

竪穴建物の中には、中央に炉を築き、炉の両端に２柱穴をもつ、いわゆる「松菊里系（型）住居」が４棟検出されている。和歌山県内における松菊里系住居については、川口修実により集成されており、本遺跡の検出例を追加すれば、計21棟の検出例となる（川口2009）。検出例をみると、堅田遺跡や、溝ノ口遺跡、川辺遺跡などのように、同一遺跡でまとまって検出される例が多く、西飯降Ⅱ遺跡の検出例もこれと同様の傾向を示している。

また、特筆される遺物として、計７点出土した絵画土器が挙げられる（436～439・441～443)。絵画土器は、いずれも「鹿」が描かれ、頸の表現が単線で表現され、蹄脚の表現が見られる。類例からは大和地域においては弥生時代中期中葉古段階に同様のものが見られ、絵画土器としては古い様相を示すものと考えられる。絵画土器は、肉眼観察から明らかに在地の土器と胎土・焼成が異なる。また、併せて実施した胎土分析から、絵画土器は大和形甕と同様の胎土分類を示し、大和地域からの搬入品である可能性が高い。この他、大和地域との関係を示すものとしては、黒色粘板岩製の磨製石剣（Ｓ１）や大和形甕が挙げられる。磨製石剣は、研磨、鏑の形態から寺前分類によるＢ技法に分類され、大和地域に類例が多く出土している（寺前1998)。また、生駒西麓産の土器が土器資料の中に散見され、土器棺墓４（292～294）のように生駒西麓産の広口壺と在地の壺を組み合わせた例も存在し、他地域との一定の交流がうかがえる。一方、紀ノ川下流域の土器に特徴的である突帯文土器の出土は少なく、紀ノ川下流域とは様相を異にする。こうした遺物の様相は、大和地域、河内地域との交流の緊密さとともに、紀ノ川上・中流域の集落の特徴を示していると考えられる。

弥生時代中期中葉から中期後葉の西飯降Ⅱ遺跡の集落構造は、西飯降Ⅱ遺跡（06－1区）東半を中心に竪穴建物からなる居住域が広がる（図231）。また、竪穴建物の分布状況から、居住域は調査区南側へさらに広がると考えられる。一方、西飯降Ⅱ遺跡（06－1区）西半から（06－2区）にかけては、方形周溝墓、土器棺墓からなる墓域が展開する。谷状地形を挟んで東に位置する第2次調査の西飯降Ⅱ遺跡においても同様の状況が看取できる。以上のように西飯降Ⅱ遺跡の弥生時代の集落構造は、谷状地形と小河川に画された微高地上に立地し、墓域と居住域を核とした小規模な集団が組み合わさった集落構造を示すと考えられる。こうした状況は、橋本市柏原遺跡や橋本市血縄遺跡でも認められ、河川や谷状地形、段丘に挟まれた微高地上に位置する狭小なエリアに、墓域と居住域からなる小規模な集団が組み合わさり、集落を形成していたと考えられる。以上のような集落構造が、紀ノ川中・上流域の弥生時代集落に一般的な状況と推測される。

しかし、弥生時代中期末葉以降には、西飯降Ⅱ遺跡では遺構は確認されておらず、弥生時代の集落は弥生時代中期後葉を最後に断絶する。一方、西飯降Ⅱ遺跡の消長と対応するかのように、西に位置する丁ノ町・妙寺遺跡では、弥生時代中期後葉から弥生時代後期にかけての遺構が増加する。第2次調査の丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）では、自然流路9から弥生時代中期末葉の良好な土器資料が出土しており、自然流路の西には竪穴建物や、土坑など弥生時代中期後葉から弥生時代後期の遺構が広がる（田中2009）。また、丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）では、弥生時代後期前葉のものと考えられる瀬戸内系の大型壺を用いた土器棺墓6（633）をはじめ、弥生時代中期後葉から後期前葉の竪穴建物、土器棺墓、土坑を検出している。しかしながら、西飯降Ⅱ遺跡に比べ竪穴建物の数は少なく、谷状地形の両脇に広がる微高地上には竪穴建物数棟からなる小規模な集落が位置していたと考えられる。

弥生時代集落の消長からは、弥生時代中期後葉に西飯降Ⅱ遺跡の衰退という画期を見出すことができた。こうした状況は、和歌山市太田・黒田遺跡、和歌山市宇田森遺跡、海南市岡村遺跡などの紀ノ川流域の大規模・中規模集落にも認められ、弥生時代中期後葉を最後にその集落が途絶することはすでに指摘されている（前田1991・土井1994）。一方では、こうした変化に対応し、

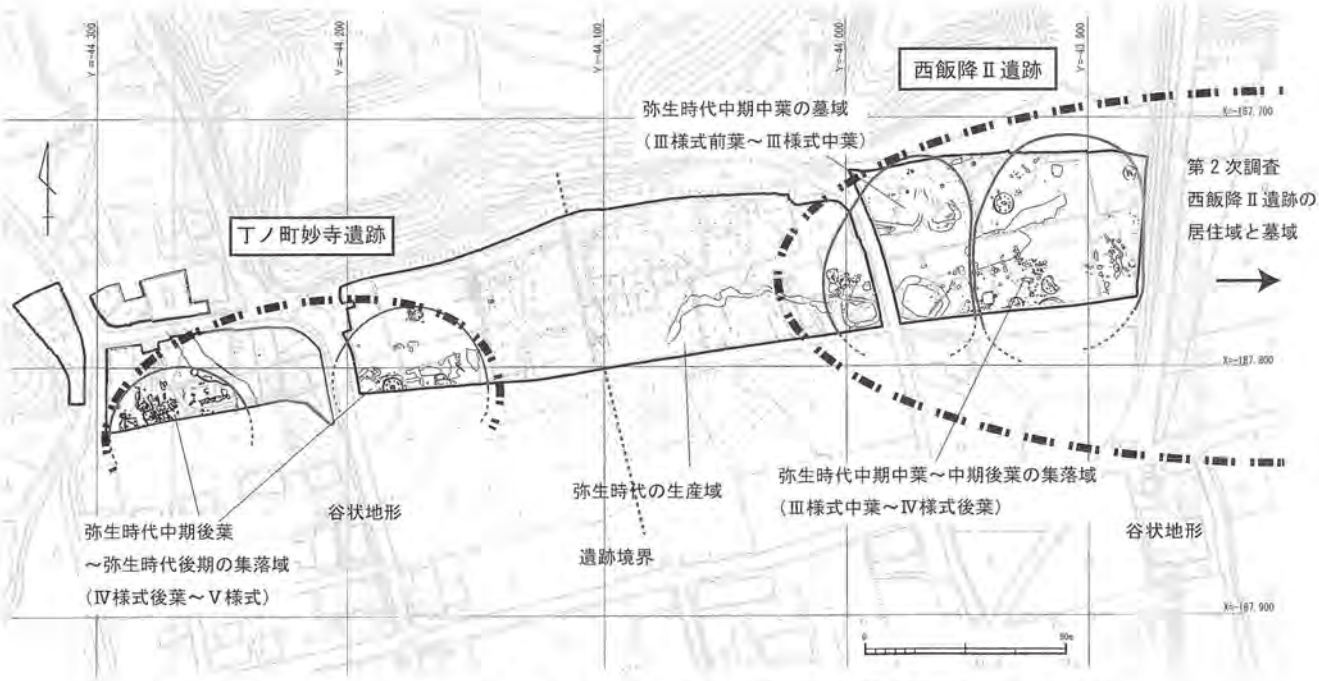


図231　弥生時代の西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡の集落構造（S＝1/3000）

丘陵上には和歌山市滝ヶ峰遺跡や和歌山市橘谷遺跡、有田市星尾山遺跡などの高地性集落が出現する。また、橋本市血縄遺跡も後期前葉にかけて狭小な河岸段丘上に集落が移動し、紀ノ川の中島に位置するかつらぎ町船岡山遺跡など、稲作に適さない河川の要衝地に位置する遺跡が弥生時代後期前葉にかけて出現する。従来、こうした弥生時代中期末葉から後期前葉の集落動態の変化は、軍事的緊張関係や、気候変動による居住環境の変化など二つの要因が考えられ弥生時代後期への変化として考えられてきた。

今回の調査で判明した、西飯降Ⅱ遺跡と丁ノ町・妙寺遺跡の二つの遺跡の動向は、集落の解体と、新たな集落の形成という状況を示しているといえる。しかし、2つの遺跡はわずかな距離しか離れておらず、比高差も10m程度しかみられないため、高地性集落や河川の要衝地への集落の移動といった現象とはやや状況が異なる。丁ノ町・妙寺遺跡の花粉分析からは周辺は森林の構成要素としてクリが高く、他に草本もやや多く、ソバ栽培がおこなわれていたと推定されている。また、プラントオパール分析からも周辺に森林が分布していたことがうかがわれる。この結果から考えるならば、弥生時代中期後葉段階に森林が分布する場所に移動し、新たに集落が形成されたと考えられる。このことから、弥生時代中期社会の解体は、従来言われてきたような、一様な解体、新たな集落の形成を示すのでは決してなく、集落ごとに様々な対応が選択されたといえる。こうした多様な対応が弥生時代中期末葉から後期前葉の集落動態の変化でみられることは、本遺跡がその要因について検討する一つの材料となりうると考えられる。

5．縄文時代の集落

縄文時代の遺構は第1次調査では確認されていない。包含層や遺構に混入した遺物にわずかに認められるのみである。一方、第2次調査の丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）では、約450㎡の範囲において竪穴建物3棟をはじめとした縄文時代の集落を検出した。縄文時代の集落は、配石遺構を中心に竪穴建物や、竪穴状遺構、大型土坑、埋設土器、集石遺構、土坑などが存在する。多くの遺構の時期は、多くが縄文時代後期初頭（中津Ⅱ式期～福田KⅡ式期）であり、まとまった時期に営まれた集落といえる。

和歌山県内における縄文時代の集落は、みなべ町徳蔵地区遺跡、海南市溝ノ口遺跡で竪穴建物が検出されているが、その数は決して多いとは言えない。さらに、紀ノ川上・中流域では、かつらぎ町船岡山遺跡、橋本市市脇遺跡、芋生小島遺跡などで縄文時代の遺構が検出されているが、竪穴建物の検出は芋生小島遺跡の1例にとどまり、今回の成果は、紀ノ川上・中流域では集落のまとまった検出例となった。

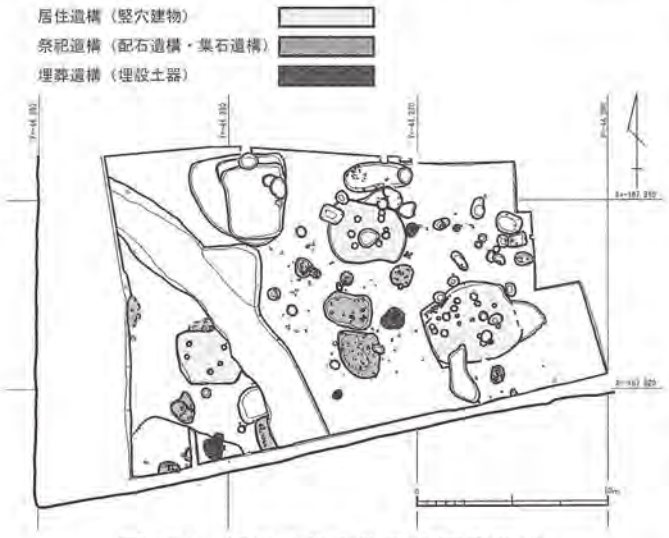


図231　縄文時代の集落の配置構成

竪穴建物の時期は縄文時代後期初頭であり、現状では2・3棟の竪穴建物が同時併存していたと見られる。集落は谷状地形の西に位置する狭小な微高地上に立地しており、調査区外にも集落が連続するような状況は見られない。極めて狭い範囲に竪穴建物2・3棟が

存在する集落であったと想定できる。近畿地方の縄文時代の集落について変遷と画期を検討した大野薫氏によれば、その本質的な特徴が少数・小規模性にあるとして、竪穴建物１棟から２棟で構成される姿が一般的であると指摘しており、当遺跡もその例に当てはまる（大野 2002）。

集落の構成は、竪穴建物３棟からなる居住遺構と、配石遺構・集石遺構からなる祭祀遺構、埋設土器からなる埋葬遺構の３種類の遺構で構成される（図 232）。また、検出された無数の土坑は貯蔵遺構であろうか。近畿地方で発見された縄文時代の集落は、埋葬・居住・祭祀・貯蔵のいずれか単独の機能を持つものと、複合した機能をもつ集落に分けられる。中でも、縄文時代中期末から後期初頭にかけては、大阪府和泉市仏並遺跡に見られるような複合機能を持つ集落が出現するとされる（岡田 2005）。当遺跡の事例もこうした現象を裏付ける、複合機能をもつ集落の一例となろう。

集落の配置は立石を伴う配石遺構を中心として、居住遺構、埋葬遺構が取り囲む状況を示している。一般的に近畿地方の縄文時代の集落は、環状配置を示さない配置で知られるが、今回検出した集落は祭祀遺構である配石遺構を中心として環状に分布しており、極めて計画的に配置されているといえる。今後の比較作業が進めば、新たな近畿地方の集落の配置を復元する手がかりとなる。また、配石遺構２で検出された大型石棒（Ｓ 140）は、大阪府阪南市向出遺跡や、奈良県川上村宮の平遺跡などで検出例がある。いずれも結晶片岩製であることから、近畿地方南部を中心とした結晶片岩製の立石祭祀の存在がうかがえる。さらに、配石遺構の東に位置する埋設土器１は、蓋石と底石に結晶片岩の板石を用いるもので、現在のところ類例を見ない埋葬遺構である。配石遺構に近接し、集落の中央に位置することからも、被葬者の性格が想像できるだろう。

丁ノ町・妙寺遺跡からは竪穴建物や、遺物包含層から良好な状態で遺物が出土しており、当該時期の一括資料として評価できる。特徴的な遺物としては、竪穴建物 13 から蛇紋岩製石斧（Ｓ５）が一点出土している。磨製石斧の平面形態は基部から刃部へと直線的に広がり、断面形態が四角形を呈するいわゆる定角式に分類され、近畿地方で出土する通有の磨製石斧とは形態が異なる。富山県を中心とした北陸地方では、蛇紋岩製石斧が大量に作られ各地に搬出されたことが知られるが、出土した蛇紋岩製石斧は、色調や蛇紋岩の質感が富山県のものと似ており、北陸地方からの搬入品である可能性が高い（土谷 2007・田中 2008）。豊富なサヌカイトの出土とともに、他地域との交流を示す事例といえる。また、集落の生業活動を示す遺物としては、石錘（打欠石錘・切目石錘）が挙げられる。出土総数で 90 点近く出土しており、狭小な調査範囲を勘案してもその数は極めて多い。紀ノ川上流域・吉野川流域に目を転じると、橋本市市脇遺跡においても石錘が多数出土していることが知られ、五条市野原北遺跡においても石錘埋納土坑が発見されている。また、吉野川上流の宮の平遺跡では 500 点近くの石錘が出土している。紀ノ川上・中流域や吉野川流域では石錘は、石器組成において主要な石器であり、河川での漁撈が当時の生業活動に大きな割合を占めていたと考えられる。

このように丁ノ町・妙寺遺跡で検出された集落は、集落の規模や構成、石器組成にみられる生業活動などから判断して、紀ノ川上・中流域での縄文時代の集落の典型例を示すと思われる。一方、第２次調査以降の京奈和自動車道改築事業に伴う発掘調査では、中飯降遺跡において大型竪穴建物が検出された。現在未整理の段階であるが、丁ノ町・妙寺遺跡の集落の廃絶後、中飯降遺跡で大型建物が築かれ集落が営まれることになる。建物の規模と特異性から、中飯降遺跡は一般的な集落ではないことは明白であるが、どのような要因で遺跡が形成されたか、両遺跡は時期的に近接しており、丁ノ町・妙寺遺跡がごく一般的な当時の集落の姿であるならば、その比較から中飯降遺跡の性格について推測していくことも可能であろう。

付 章　自然科学分析

第１節　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡(第１次調査)におけるプラント･オパール分析

株式会社古環境研究所

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（Si0２）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生･古環境の推定などに応用されている(杉山 2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山 1984)。

ここでは西飯降Ⅱ遺跡 06 － １・２区、丁ノ町・妙寺遺跡 06 － １区における稲作の可能性について、プラント・オパール分析から検討を行う。

２．試料

分析試料は、第１次調査は、西飯降Ⅱ遺跡 06 － １・２区ではNo.２地点、No.３地点、No.４地点の３地点、丁ノ町・妙寺遺跡 06 － １区ではNo.１地点の１地点の計４地点である。

各地点における分析試料は、西飯降Ⅱ遺跡のNo.２地点では、上位より３層、４－２層、42 層の上部と下部、47 層、46 層、45 層、４－４層の上部と下部、４－４－２層の上部と下部より採取された 11 点、No.４地点では、上位より 46 層、45 層、４－４層の上部と下部、４－４－２層、４－４－３層、５層より採取された７点、No.３地点では、上位より３－１層、４－２層、４－３－１層、４－３－２層、間層Ａ、間層、間層Ｂ、４－４層、５層より採取された９点、丁ノ町・妙寺遺跡のNo.１地点では、上位より３層、３－２層、４－２層、４－３層の上部と下部、間層、４－４層上位層、４－４層、４－５層、４－６層より採取された 10 点である。分析試料の採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

３．分析方法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原 1976）をもとに、次の手順で行った。

１）試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）
２）試料約１ｇに直径約 40 μｍのガラスビーズを約 0.02g 添加
（電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量）
３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
４）超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散
５）沈底法による 20 μｍ以下の微粒子除去
６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
７）検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400 倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上に

なるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料１ｇ中のプラント・オパール個数（試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重，単位：10－5g）を乗じて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、ミヤコザサ節は0.30である（杉山2000）。

４．結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科（メダケ節型、ネザサ節型、ミヤコザサ属型、その他）および未分類である。これらの分類群について定量を行い、その結果を表３～６、図233～図236に示した。主要な分類群については顕微鏡写真を示す。以下に、プラント・オパールの検出状況を記す。

（１）西飯降Ⅱ遺跡

１）No.２地点

イネは、３層、４－２層、47層、46層、４－４層、４－４－２層で検出されている。３層、４－４層の下部、４－４－２層では比較的高い密度である。ヨシ属は、４－２層、４－４層下部、４－４－２層下部で検出されているが、いずれも低い密度である。ススキ属型は、すべての試料で検出されている。４－４層下部と４－４－２層下部では高い密度である。メダケ節型は、３層、45層、４－４層下部、４－４－２層下部で検出されているが、いずれも低い密度である。ネザサ節型は、42層下部を除く各試料より検出されている。いずれも低い密度である。

２）No.４地点

イネは、すべての試料で検出されている。４－４層下部と４－４－２層では高い密度あり、４－４層上部と４－４－３層では比較的高い密度である。ヨシ属は、４－４層上部のみで検出されているが低い密度である。ススキ属型は、５層を除く各層で検出されている。４－４層上部と４－４－２層では高い密度であり、45層と４－４層下部では比較的高い密度である。メダケ節型は、46層と４－４層で検出されているが、いずれも低い密度である。ネザサ節型は、すべての層で検出されている。４－４層上部では比較的高い密度である。ミヤコザサ節型は、46層のみで検出されているが、低い密度である。

３）No.３地点

イネは、３－１層、４－２層、４－３－１層、４－３－２層、間層Ａで検出されている。いずれも低い密度である。ヨシ属は、３－１層と４－２層で検出されているが、いずれも低い密度である。ススキ属型は、３－１層、４－２層、４－３－１層、間層Ａ、間層Ｂ、４－４層および５層で検出されている。間層Ｂと５層では比較的高い密度である。メダケ節型は、間層Ａと間層Ｂで検出されているが、いずれも低い密度である。ネザサ節型は、すべての試料で検出されている。間層Ｂでは比較的高い密度である。ミヤコザサ節型は、３－１層のみで検出されているが、低い密度である。

（２）丁ノ町・妙寺遺跡（No.１地点）

イネは、間層を除く各試料より検出されている。３層、３－２層、４－４層、４－５層および

表3　西飯降Ⅱ遺跡　No.3地点のプラントオパール分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名・学名）＼層位		1－3区 No.3地点南壁								
		3a層	4-2層	4-3-1層	4-3-2層	間層A	間層	間層B	4-4層	5層
イネ科	Gramineae (Grasses)									
イネ	Oryza sativa	18	12	12	6	6				
ヨシ属	Phragmites	12	6							
ススキ属型	Miscanthus type	6	24	12		6		36	6	42
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)									
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus					6		6		
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	6	24	6	6	12	18	54	12	30
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	18								
その他	Others	6	6		6	6		6	6	6
未分類等	Unknown	90	103	84	102	85	84	150	114	120
プラント・オパール総数	Total	156	175	114	120	121	102	252	138	198

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	Oryza sativa	0.53	0.35	0.35	0.18					
ヨシ属	Phragmites	0.76	0.38							
ススキ属型	Miscanthus type	0.07	0.30	0.15		0.07		0.45	0.07	0.52
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus					0.07		0.07		
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	0.03	0.12	0.03	0.03	0.06	0.09	0.26	0.06	0.14
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	0.05								

表4　西飯降Ⅱ遺跡　No.2地点のプラントオパール分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名・学名）＼層位		2－3区 No.2地点南壁										
		3層	4-2層	42上	42下	47	46	45	4-4層上	4-4層下	4-4-2層上	4-4-2層下
イネ科	Gramineae (Grasses)											
イネ	Oryza sativa	30	12			18	6		12	24	30	42
ヨシ属	Phragmites		6							6		12
ススキ属型	Miscanthus type	12	12	12	6	18	6	12	18	54	18	48
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)											
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	6						6		6		6
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	36	6	6		18	24	6	12	30	12	36
その他	Others	12	6			6				12		6
未分類等	Unknown	144	121	54	42	97	114	90	103	150	114	175
プラント・オパール総数	Total	240	163	72	48	157	150	114	145	282	174	325

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	Oryza sativa	0.88	0.35			0.53	0.18		0.35	0.71	0.89	1.24
ヨシ属	Phragmites		0.38							0.38		0.76
ススキ属型	Miscanthus type	0.15	0.15	0.15	0.07	0.22	0.07	0.15	0.22	0.67	0.22	0.60
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	0.07						0.07		0.07		0.07
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	0.17	0.03	0.03		0.09	0.11	0.03	0.06	0.14	0.06	0.17

表5　西飯降Ⅱ遺跡　No.4地点のプラントオパール分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名・学名）＼層位		2－4区 No.4地点西壁						
		46	45	4-4層上	4-4層下	4-4-2層	4-4-3層	5層
イネ科	Gramineae (Grasses)							
イネ	Oryza sativa	6	18	24	48	48	30	12
ヨシ属	Phragmites			6				
ススキ属型	Miscanthus type	18	30	72	30	48	24	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)							
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	6		6	6			
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	36	36	48	30	12	30	12
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	6						
その他	Others	6		6			6	
未分類等	Unknown	120	108	162	174	126	120	108
プラント・オパール総数	Total	198	192	324	288	234	210	132

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	Oryza sativa	0.18	0.53	0.71	1.41	1.41	0.88	0.35
ヨシ属	Phragmites			0.38				
ススキ属型	Miscanthus type	0.22	0.37	0.89	0.37	0.60	0.30	
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	0.07		0.07	0.07			
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	0.17	0.17	0.23	0.14	0.06	0.14	0.06
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	0.02						

表6　丁ノ町・妙寺遺跡　No.1地点のプラントオパール分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名・学名）＼層位		1－1区 No.1地点南壁								
		3層	3-2層	4-2層	4-3-1層	4-3-2層	間層	4-4層上位層	4-4層	4-5層	4-6層
イネ科	Gramineae (Grasses)										
イネ	Oryza sativa	30	30	18	6	6		18	24	30	24
ヨシ属	Phragmites			12							
ススキ属型	Miscanthus type	24	30	30	12	12		18	6	30	30
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)										
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	6	6	6							
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	54	30	24	36	24	30	36	12	18	12
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	6						6			
その他	Others	12	12	6	6	6		6	12	12	6
未分類等	Unknown	145	133	115	114	90	84	127	144	145	108
プラント・オパール総数	Total	277	241	211	174	138	114	211	198	235	180

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	Oryza sativa	0.89	0.89	0.53	0.18	0.18		0.53	0.71	0.89	0.71
ヨシ属	Phragmites			0.76							
ススキ属型	Miscanthus type	0.30	0.37	0.37	0.15	0.15		0.22	0.07	0.37	0.37
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	0.07	0.07	0.07							
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	0.26	0.15	0.12	0.17	0.12	0.14	0.17	0.06	0.09	0.06
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	0.20						0.02			

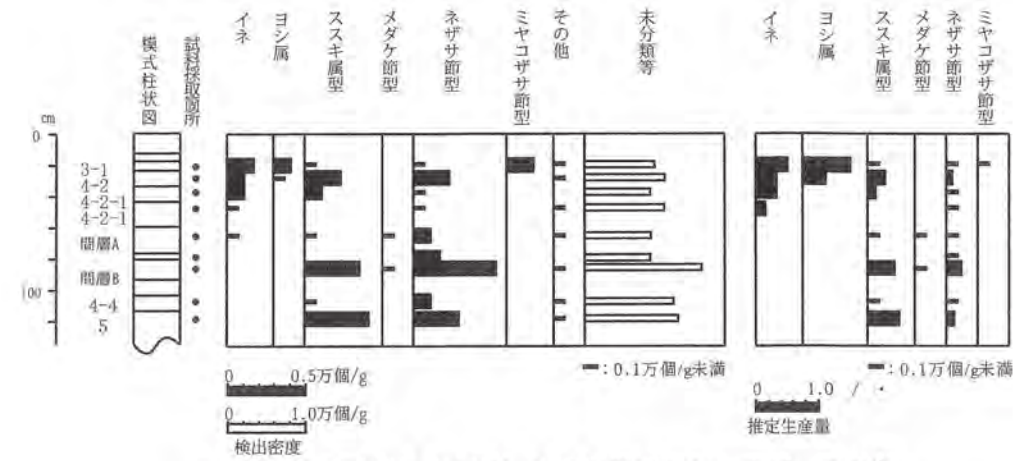


図 233　西飯降Ⅱ遺跡 No.3 地点のプラントオパール分析

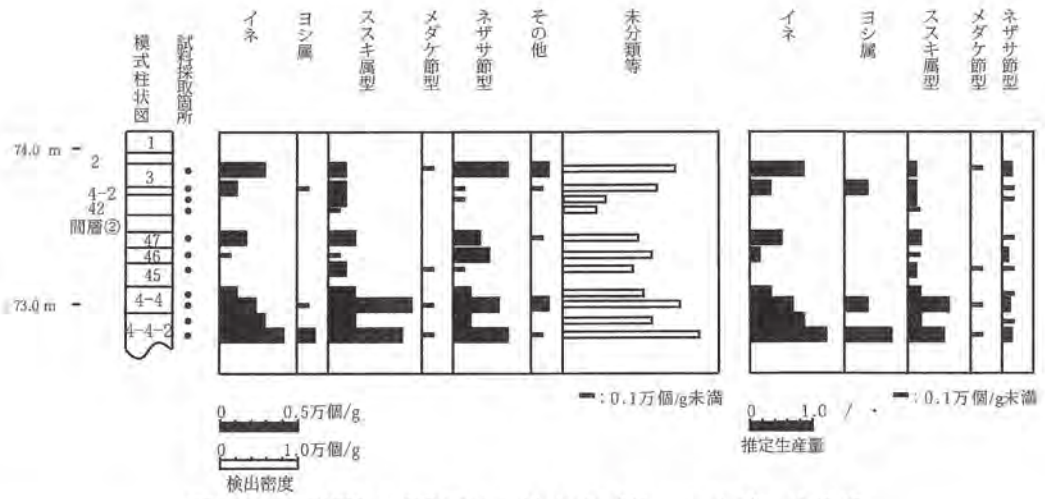


図 234　西飯降Ⅱ遺跡 No.2 地点のプラントオパール分析

４－６層では比較的高い密度である。ヨシ属は、４－２層のみで検出されているが、やや低い密度である。ススキ属型は、間層を除く各層より検出されている。３層～４－２層、４－５層および４－６層では比較的高い密度である。メダケ節型は、３層～４－２層で検出されている。いずれも低い密度である。ネザサ節型は、すべての試料で検出されている。３層でやや高い密度である以外はいずれも低い密度である。ミヤコザサ節型は、３層と４－４層上位層で検出されているがいずれも低い密度である。

５．考察

（１）稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料１ｇあたり 5,000 個以上の高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山 2000）。ただし、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。

１）西飯降Ⅱ遺跡

・No.３地点

３－１層～５層について分析を行った。イネは上位の３－１層～間層Ａにおいて検出された。プラント・オパール密度は 600 ～ 1,800 個 /g と低いことから、これらの層準では調査地において稲作が行われていた可能性を積極的に肯定することはできない。もし、稲作が営まれていたと

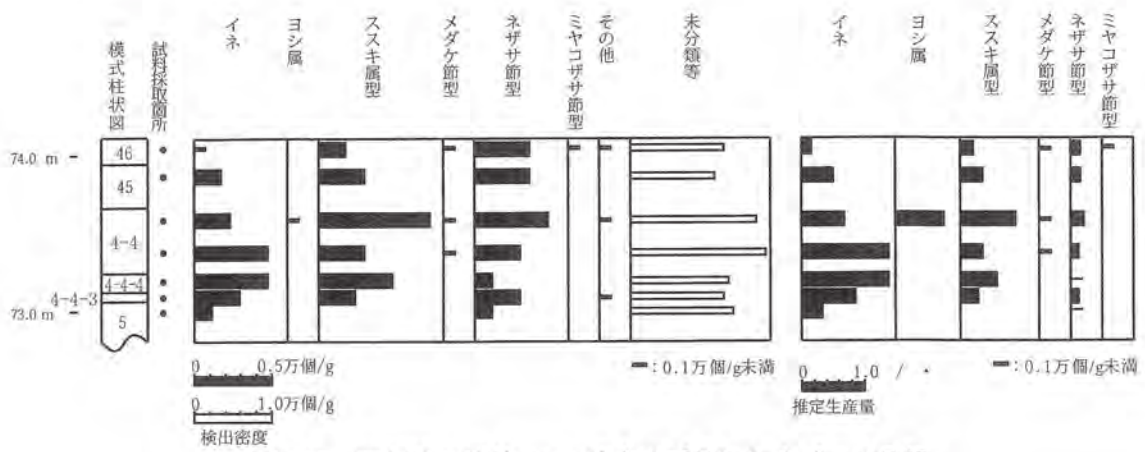


図 235　西飯降Ⅱ遺跡 No.4 地点のプラントオパール分析

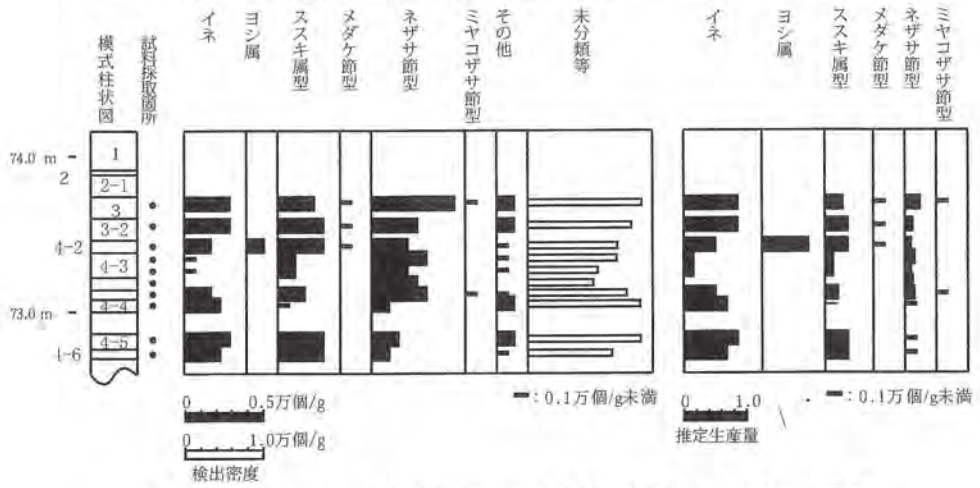


図 236　丁ノ町・妙寺遺跡 No.1 地点のプラントオパール分析

したならば、調査地の周辺であったと思われる。

・No.２地点

３層～４－４－２層について分析を行った。その結果、３層、４－２層、47 層、46 層、４－４層および４－４－２層からイネが検出された。このうち、３層と４－４－２層ではプラント・オパール密度が 3,000 ～ 4,200 個 /g と高い値である。また、４－４層下部でも 2,400 個 /g と比較的高い値である。ここでは直上層の 45 層からはイネはまったく検出されていないことから、上層からのプラント・オパールの混入は考えられない。こうしたことから、３層、４－４層さらに４－４－２層において稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他では密度が 600 ～ 1,800 個 /g と低いことから、稲作が行われていた可能性は考えられるものの、上層あるいは他所からの混入の危険性も否定できない。

・No.４地点

46 層～５層について分析を行った。イネはすべての層準から検出された。このうち、４－４層、４－４－２層、４－４－３層ではプラント・オパール密度が 3,000 ～ 4,800 個 /g と高い値である。したがって、これらの層準については稲作跡である可能性が高いと考えられる。その他の層準については密度が 600 ～ 1,800 個 /g と低いことから、稲作が行われていた可能性はあるものの、上層もしくは近傍からプラント・オパールが混入した危険性も否定できない。

２）丁ノ町・妙寺遺跡

・No.１地点

3層～4－6層について分析を行った。その結果、間層を除く各層からイネが検出された。このうち、3層、3－2層、4－5層ではプラント・オパール密度が3,000個/gであり、稲作跡の可能性を判断する際の基準値に達している。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。また、4－4層と4－6層でもそれぞれ2,400個/gと比較的高い密度である。とくに、4－4層では直上層に比べ高い値であることから、上層から後代のプラント・オパールが混入した危険性は考えにくい。こうしたことから、これらの層準においても稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の層準については密度が1,000個/g前後と低いことから、稲作が行われていた可能性は考えられるものの、上層あるいは他所からの混入の危険性も否定できない。

（2）プラント・オパール分析から推定される植生と環境

イネ以外の分類群では、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、ネザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも量的には少ない。おもな分類群の推定生産量によると、丁ノ町・妙寺遺跡No.1地点の4－2層、西飯降Ⅱ遺跡No.2地点の4－2層、4－4－2層、No.4地点の4－4層上部、No.3地点の3－1層と4－2層でヨシ属が高い生産量であったり、優勢となっている。こうしたことから、これらの層準では、調査地ないし周辺はヨシ属が多く生育する湿地の環境であり、そこを開いて水田稲作が営まれていたと推定される。また、西飯降Ⅱ遺跡のNo.2地点の4－4層下部、4－4－2層下部、No.4地点の4－4層上部、4－4－2層、No.3地点の間層Bと5層ではススキ属型が比較的高い密度であることから、これらの層準の堆積時の調査地周辺は、概ね乾いた環境であったと推定される。

6．まとめ

プラント・オパール分析の結果、丁ノ町・妙寺遺跡のNo.1地点の3層、3－2層、4－5層、4－4層および4－6層、西飯降Ⅱ遺跡のNo.2地点の3層、4－4層、4－4－2層、No.4地点の4－4層、4－4－2層、4－4－3層において、イネが概ね高い密度で検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。なお、No.1地点の4－2層、No.2地点の4－2層、4－4層、4－4－2層、No.4地点の4－4層の時期は、ヨシ属などが生育する湿地的なところも分布していたと推定される。なお、ヨシ属については休閑期間中に繁茂していたことや、施肥などの目的で水田内に持ち込まれた可能性も想定される。

第２節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）におけるプラント・オパール分析

株式会社古環境研究所

１．試料

分析試料は、07 －３区自然流路９（3150）の埋土から採取された試料１～試料５の５点である。

２．分析結果

（１）分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表７および図 237 に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕　ウシクサ族Ａ（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕　ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）

〔イネ科－その他〕　未分類等

〔樹木〕　ブナ科（シイ属）、クスノキ科、その他

（２）植物珪酸体の検出状況

試料５～試料２では、樹木（照葉樹）のブナ科（シイ属）が比較的多く検出され、部分的にクスノキ科も認められた。イネ科では、各試料からウシクサ族Ａが検出され、試料２ではネザサ節型も認められたが、いずれも少量である。試料１では、ブナ科（シイ属）が減少し、イネ科はほとんど検出されなかった。なお、イネ、ムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）などのイネ科栽培植物に由来する植物珪酸体は、いずれの試料からも検出されなかった。

３．植物珪酸体分析から推定される植生と環境

07 －３区自然流路９（3150）の埋土の堆積当時は、遺跡周辺にシイ属やクスノキ科などの照葉樹林が分布していたと考えられ、部分的にウシクサ族やメダケ属（ネザサ節）などのイネ科植物も生育していたと推定される。

表７　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	地点・試料	自然流路９（3150）			
		1	2	3	4	5
イネ科	Gramineae (Grasses)					
ウシクサ族Ａ	Andropogoneae A type		15	8	8	15
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)					
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa		8			
未分類等	Others		15		15	15
その他のイネ科	Others					
表皮毛起源	Husk hair origin		8			
棒状珪酸体	Rod-shaped	8				
未分類等	Others	8	54	23	8	8
樹木起源	Arboreal					
ブナ科（シイ属）	Castanopsis	38	54	83	98	60
クスノキ科	Lauraceae			8	15	
その他	Others	23	8	53	68	38
植物珪酸体総数	Total	77	162	175	212	136

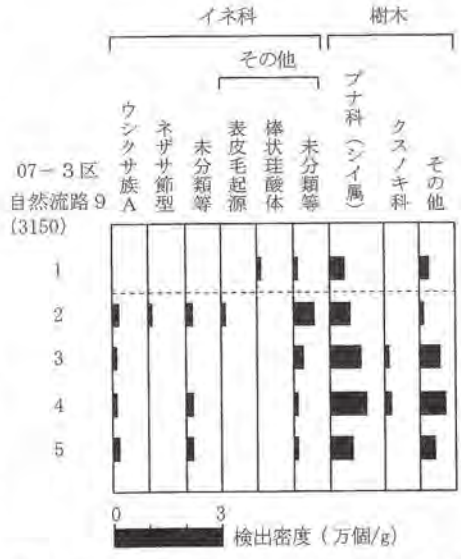


図 237 丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における植物珪酸体分析結果

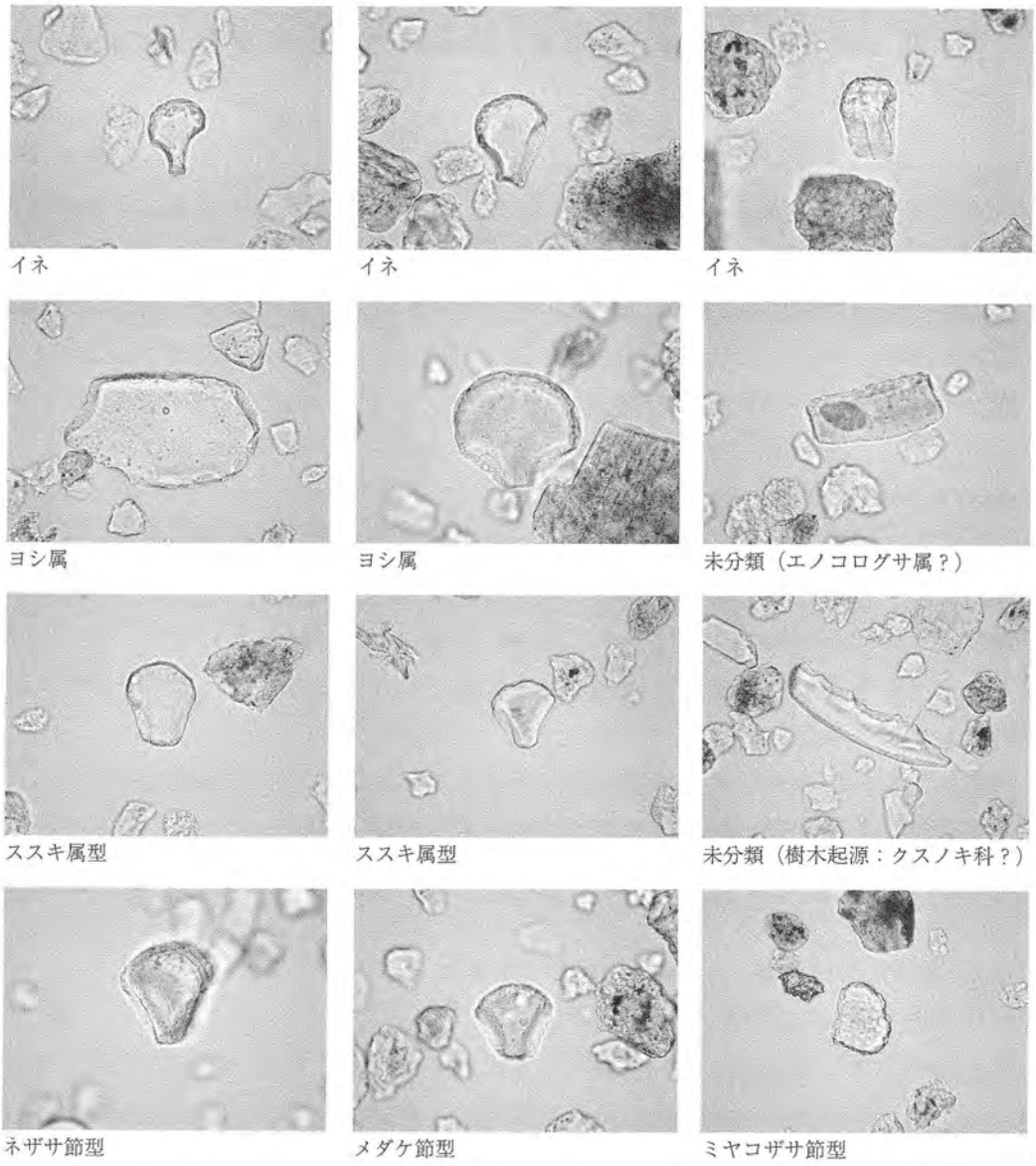


写真６　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第１次調査）プラント・オパールの顕微鏡写真

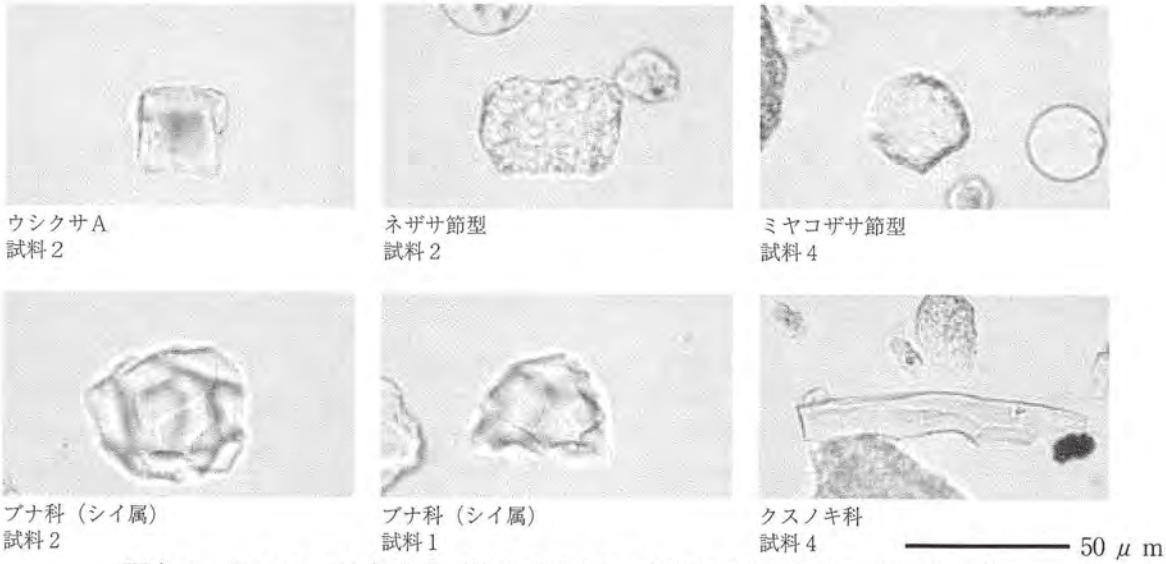


写真７　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）プラントオパールの顕微鏡写真

第３節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における放射性炭素年代測定

株式会社古環境研究所

１．はじめに

放射性炭素年代測定は、呼吸作用や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（14Ｃ）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。過去における大気中の14Ｃ濃度は変動しており、年代値の算出に影響を及ぼしていることから、年輪年代学などの成果を利用した較正曲線により14Ｃ年代から暦年代に較正する必要がある。

ここでは、丁ノ町・妙寺遺跡の遺構構築年代を検討するために、出土した炭化物を対象に加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を行った。測定にあたっては、米国のBeta Analytic Inc.，の協力を得た。

２．試料と方法

測定試料は、07－３区の焼成土坑２－１（３層）出土の泥炭、同焼成土坑２－２（４層炭層）、焼成土坑２－３（４層炭層炭集中）で出土した炭化物の計３点である。放射性炭素年代測定の手順は以下のとおりである。

まず、試料に二次的に混入した有機物を取り除くために、以下の前処理を行った。

１）蒸留水中で細かく粉砕後、超音波および煮沸により洗浄

２）塩酸（HCl）により炭酸塩を除去後、水酸化ナトリウム（NaOH）により二次的に混入した有機酸を除去

３）再び塩酸（HCl）で洗浄後、アルカリによって中和

４）定温乾燥機内で80℃で乾燥

前処理後、試料中の炭素を燃焼して二酸化炭素に変え、これを真空ライン内で液体窒素、ドライアイス、エタノール、ｎ－ペンタンを用いて精製し、高純度の二酸化炭素を回収した。こうして得られた二酸化炭素を鉄触媒による水素還元法でグラファイト粉末とし、アルミニウム製のターゲットホルダーに入れてプレス機で圧入しグラファイトターゲットを作製した。これらのターゲットをタンデトロン加速器質量分析計のイオン源にセットして測定を行った。測定試料と方法を表８にまとめた。

３．結果

年代測定の結果を表９に示す。

１）14Ｃ年代測定値

試料の14Ｃ/12Ｃ比から、単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値。14Ｃの半減期は国際的慣例によりLibbyの5568年を使用した（実際の半減期は5730年）。

表８　測定試料及び処理

試料名	地点	種類	前処理・調整	測定法
No.１	07－３区 焼成土坑２-１	泥炭	酸－アルカリ－酸洗浄	ＡＭＳ
No.２	07－３区 焼成土坑２-２	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄	ＡＭＳ
No.３	07－３区 焼成土坑２-３	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄	ＡＭＳ

※AMS（Accelerator Mass Spectrometry）は加速器質量分析法

表９　測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	^{14}C年代[1] (年BP)	δ^{13}C[2] (‰)	補正^{14}C年代[3] (年BP)	暦年代（西暦）[4]
No.1	242103	140±40	-28.7	80±40	交点：cal AD 1960
					1σ：cal AD 1700～1720,
					AD 1820～1920,
					AD 1950～1960
					2σ：cal AD 1680～1740,
					AD 1800～1940,
					AD 1950～1960
No.2	242104	1600±40	-26.5	1580±40	交点：cal AD 440, AD 490, AD 520
					1σ：cal AD 420～ 540
					2σ：cal AD 400～ 570
No.3	242105	1550±40	-26.4	1530±40	交点：cal AD 550
					1σ：cal AD 450～ 450,
					AD 460～ 480,
					AD 530～ 580
					2σ：cal AD 420～ 610

2）δ 13 C測定値

試料の測定 14 C /12 C比を補正するための炭素安定同位体比（13 C /12 C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3）補正 14 C年代値

δ 13 C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、14 C /12 Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料のδ 13 C値を -25(‰）に標準化することによって得られる年代である。

4）暦年代 Calendar Age

14 C年代測定値を実際の年代値（暦年代）に近づけるには、過去の宇宙線強度の変動などによる大気中 14 C濃度の変動および 14 Cの半減期の違いを較正する必要がある。暦年較正には、年代既知の樹木年輪の 14 Cの詳細な測定値およびサンゴの U/Th（ウラン／トリウム）年代と 14 C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新の較正曲線である IntCal04 では BC24050 年までの換算が可能である（樹木年輪データは BC10450 年まで）。

暦年代の交点とは、補正 14 C年代値と較正曲線との交点の暦年代値を意味する。１σ（68%確率）と２σ（95%確率）は、補正 14 C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の１σ・２σ値が表記される場合もある。

４．所見

加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定の結果、焼成土坑２－１（３層）出土の泥炭は 80 ± 40 年 BP（２σの暦年代で AD1680 ～ 1740 年、AD1800 ～ 1940 年、AD1950 ～ 1960 年）、焼成土坑２－２（４層炭層）で出土した炭化物は 1580 ± 40 年 BP（同 AD400 ～ 570 年）、焼成土坑２－３（４層炭層炭集中）で出土した炭化物は 1530 ± 40 年 BP（同 AD420 ～ 610 年）の年代値が得られた。なお、焼成土坑２（３層）の試料中には炭化物が認められず、辛うじて抽出された堆積物（泥炭）で測定を行った。年代測定の結果はかなり新しい年代値であることから、試料となった泥炭は後代からの混入物である可能性が高い。

第４節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における花粉分析

株式会社古環境研究所

１．はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

２．試料

分析試料は、07－３区の自然流路７（3010）のより採取された試料１～試料７の７点、自然流路９（3150）より採取された試料１～試料５の５点の計 12 点である。

３．方法

花粉の分離抽出は、（中村 1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）0.5%リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え 15 分間湯煎
２）水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
３）25%フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置
４）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す
５）再び氷酢酸を加えて水洗処理
６）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
７）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ～ 1000 倍で行った。花粉の同定は、（島倉 1973）および（中村 1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示す。イネ属については、（中村 1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。またこの処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

４．結果

（１）分類群

出現した分類群は、樹木花粉 27、樹木花粉と草本花粉を含むもの４、草本花粉 15、シダ植物胞子２形態の計 48 である。これらの学名と和名および粒数を表 10 に示し、花粉数が 200 個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図 238・図 239 に示す。なお、200 個未満であっても 100 個以上の試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。また、寄生虫卵についても同定した結果、１分類群が検出された。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科

表10　丁の町・妙寺遺跡（第２次調査）における花粉分析結果

分類群		07-3区 自然流路7（3010）							自然流路9（3150）				
学名	和名	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5
Arboreal pollen	樹木花粉												
Abies	モミ属		2					5			3	3	
Picea	トウヒ属											1	
Tsuga	ツガ属		7				2	7					1
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属		22				1	60	2	15	9	12	2
Cryptomeria japonica	スギ		13				1	17	4	2	1	2	
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ		1									1	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		8				4	31	3	6	11	6	5
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ		1					1				1	
Alnus	ハンノキ属						1						
Betula	カバノキ属							2	1				
Corylus	ハシバミ属		1	1			5	2	1		2	1	
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ		1				1	2		1	3		1
Castanea crenata	クリ		10				4	5	6	4	21	27	21
Castanopsis	シイ属		49				17	58	58	54	208	210	23
Fagus	ブナ属	1						2			1		
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	1	22	1			10	27	7	3	3	4	6
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	1	36	1			5	24	2		18	3	6
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ						2					3	1
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ						1						
Zanthoxylum	サンショウ属									1			
Rhus	ウルシ属			1									
Ilex	モチノキ属						1		1			1	
Aesculus turbinata	トチノキ							1					
Tilia	シナノキ属								5				
Elaeagnus	グミ属							1					
Ericaceae	ツツジ科							1					
Lonicera	スイカズラ属							1					
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉												
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科							2			3	2	
Rosaceae	バラ科		1				1						
Leguminosae	マメ科		1					1			1		
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属		1				1						
Nonarboreal pollen	草本花粉												
Alisma	サジオモダカ属		1										
Gramineae	イネ科	1	103	1		2	24	38	6	1	20	7	16
Cyperaceae	カヤツリグサ科		9				10	7	3	4	14	15	4
Polygonum	タデ属										1		
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節							1					
Fagopyrum	ソバ属		2				2	8					1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科							1		1		2	3
Ranunculus	キンポウゲ属							1				3	
Cruciferae	アブラナ科		1				3					2	
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属-フサモ属					1		2					
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科		6				2	3					
Apioideae	セリ亜科		1			1	3		6	6	11	4	7
Lactucoideae	タンポポ亜科		2				1	3	1				
Asteroideae	キク亜科		4				2	3					
Artemisia	ヨモギ属	4	67				14	86	7	7	17	15	5
Fern spore	シダ植物胞子												
Monolate type spore	単条溝胞子	1	19	1		3	7	20	8	20	31	26	20
Trilate type spore	三条溝胞子		31	1			10	67	1	7	20	21	18
Arboreal pollen	樹木花粉	3	173	4	0	0	55	247	90	86	280	275	66
Arboreal Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	3	0	0	0	2	3	0	0	4	2	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	5	196	1	0	4	61	153	23	19	63	48	36
Total pollen	花粉総数	8	372	5	0	4	118	403	113	105	347	325	102
Pollen frequencies of $1cm^3$	試料$1cm^3$中の花粉密度	6.6	4.5	4.9	0.0	2.8	9.1	7.8	3.6	6.9	3.4	8.6	6.9
		×10	$\times10^3$	×10		×10	$\times10^2$	$\times10^3$	$\times10^2$	$\times10^2$	$\times10^3$	$\times10^3$	$\times10^2$
Unknown pollen	未同定花粉	3	17	2	0	0	12	14	13	10	13	8	13
Fern spore	シダ植物胞子	1	50	2	0	3	17	87	9	27	51	47	38
Helminth eggs	寄生虫卵												
Trichuris(trichiura)	鞭虫卵							1					
Total	計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
Helminth eggs frequencies of $1cm^3$	試料$1cm^3$中の寄生虫卵密度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
								×10					
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

－ヒノキ科、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、サンショウ属、ウルシ属、モチノキ属、トチノキ、シナノキ属、グミ属、ツツジ科、スイカズラ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、バラ科、マメ科、ニワトコ属－ガマズミ属

〔草本花粉〕

サジオモダカ属、イネ科、カヤツリグサ科、タデ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科－ヒユ科、キンポウゲ属、アブラナ科、アリノトウグサ属－フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

鞭虫卵

（２）花粉群集の特徴

下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する。

１）自然流路７（3010）

・試料１～試料３

試料３では花粉密度が極めて低く、ほとんど検出されない。

試料２では花粉密度がやや高くなり、樹木花粉と草本花粉の占める割合がほぼ同じである。草本

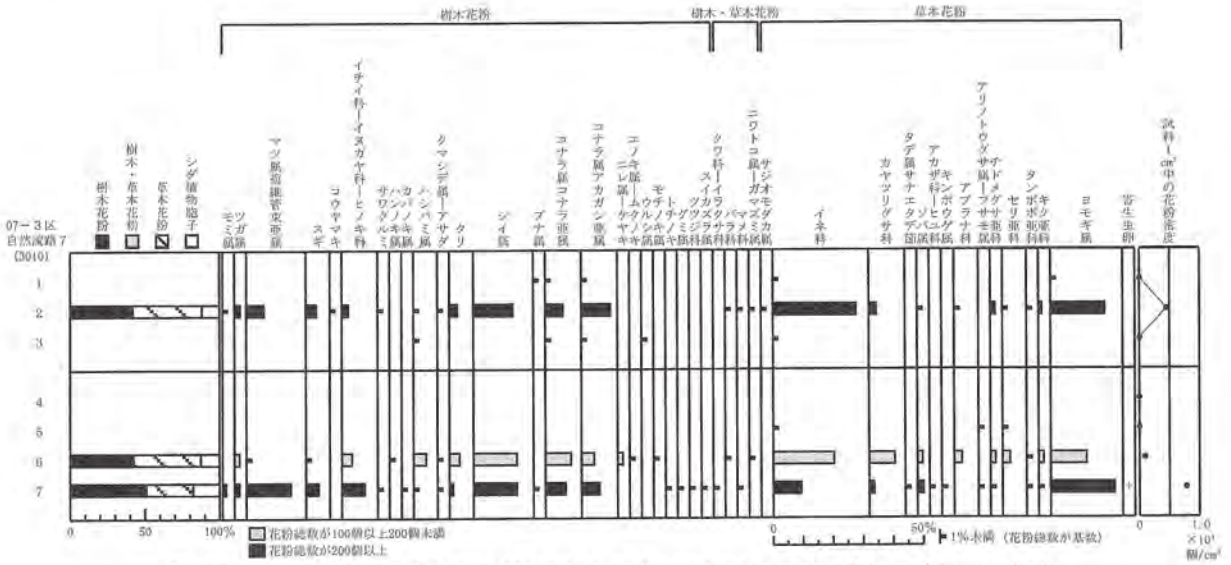


図 238　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における花粉ダイアグラム（１）

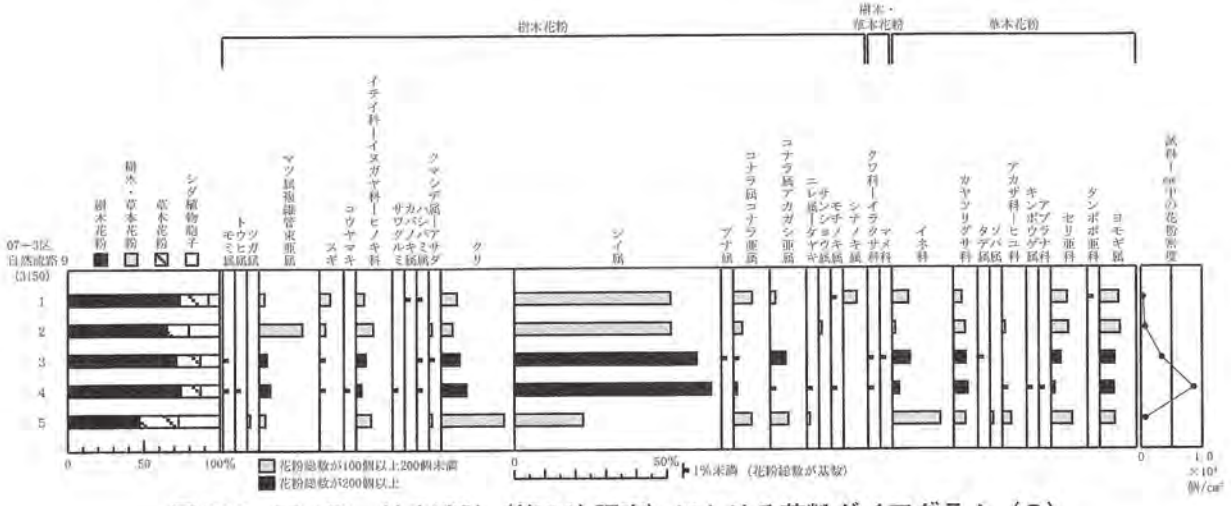


図 239　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における花粉ダイアグラム（２）

花粉ではイネ科とヨモギ属が優占し、カヤツリグサ科、チドメグサ亜科、キク亜科などが低率に出現し、ソバ属も出現する。樹木花粉ではシイ属、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、マツ属複維管束亜属、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ツガ属などが出現する。

試料１では花粉密度が低くなり、ほとんど検出されなくなる。

・試料４～試料７

試料７では、樹木花粉の占める割合が草本花粉より高い。シダ植物胞子の割合が約20%を占める。樹木花粉ではマツ属複維管束亜属、シイ属を主に、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、スギなどが出現する。草本花粉ではヨモギ属が優占し、イネ科、ソバ属、カヤツリグサ科などが出現する。寄生虫卵の鞭虫卵がわずかに検出される。

試料６では下位より花粉密度が低くなり、草本花粉の占める割合が増加する。マツ属複維管束亜属、モミ属、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が減少する。

試料４、試料５では下位より花粉密度がさらに低くなり、ほとんど検出されなくなる。

２）自然流路９（3150）

下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する。

試料５では花粉密度が低く、樹木花粉の占める割合が草本花粉より高い。シダ植物胞子の占める割合が約30%を占める。樹木花粉ではクリとシイ属を主に、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科などが出現する。草本花粉ではイネ科を主に、セリ亜科、ヨモギ属、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科、ソバ属などが出現する。

試料３、試料４では下位より花粉密度やや高くなり、樹木花粉が70%を占める。樹木花粉ではシイ属が卓越し、クリ、マツ属複維管束亜属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科などが伴われる。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、セリ亜科、ソバ属などが出現する。

試料１、試料２では花粉密度が低くなる。

５．花粉分析から推定される植生と環境

（１）自然流路７（3010）

１）試料１～試料３

花粉密度がやや高い試料２を中心に植生と環境を推定する。周辺は比較的草本が多く、イネ科とヨモギ属が主に生育し、比較的乾燥した環境が推定される。ヨモギ属に加え、チドメグサ亜科やキク亜科なども畑作雑草の性格をもち乾燥を好む草本であること、栽培植物のソバ属が検出されていることなどから、近隣にこれらが生育し、畑の分布が示唆される。また周辺には、シイ属、コナラ属アカガシ亜属の照葉樹、コナラ属コナラ亜属、マツ属複維管束亜属、クリの二次林要素、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ツガ属の針葉樹などの森林も分布し、かなり人為干渉を受けていたと考えられる。

２）試料４～試料７

花粉密度がやや高く検出された試料６と試料７を中心に植生と環境を推定する。周辺は比較的草本が多く、ヨモギ属とイネ科およびソバ属が主に生育し、カヤツリグサ科、チドメグサ亜科、アブラナ科、キク亜科、セリ亜科などの畑作物あるいは畑作雑草の性格をもち乾燥を好む草本も認められることから、畑の分布が示唆される。周辺には、シイ属、コナラ属アカガシ亜属の照葉樹、マツ属複維管束亜属、コナラ属コナラ亜属、クリの二次林要素、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ツガ属の針葉樹などが分布し、人為干渉によって二次林化の行われた森林の分布

が示唆される。

（2）自然流路9（3150）

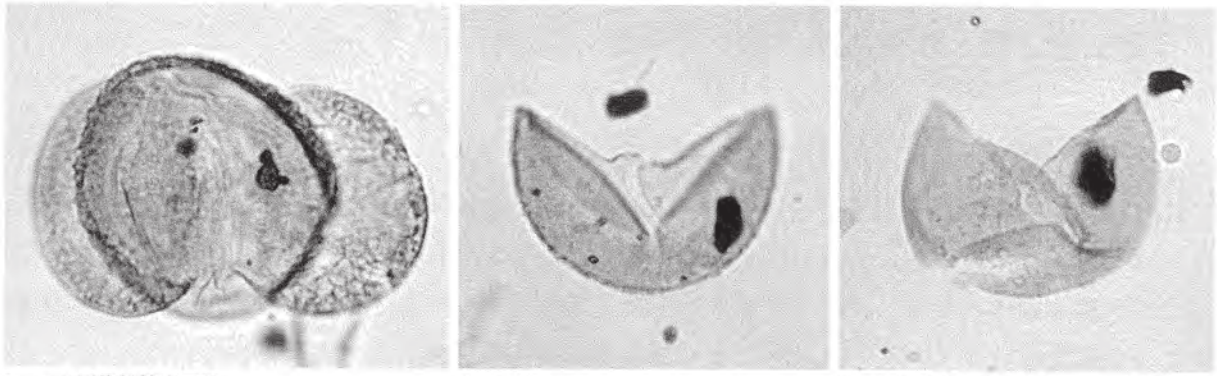
下位より試料5の層準では、樹木花粉の占める割合が高いことから、周辺は森林が優勢であり、クリとシイ属を主とする森林が分布していた。クリが多いことから乾燥化ないし二次林化が示唆される。他にコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科などが森林要素として分布していた。周辺にはイネ科を主に、セリ亜科、ヨモギ属、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科、ソバ属などの草本も分布し、ソバの栽培も行われていた。

試料4の層準から上部になると、周辺はシイ属を中心とする森林が拡大して分布する。草本は少ないが、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、セリ亜科などが生育していた。試料2の層準では、マツ属複維管束亜属（ニヨウマツ類）が一時的に増加する。

6．まとめ

丁ノ町・妙寺遺跡の07－3区で花粉分析を行った結果、自然流路7（3010）（平安時代後期～鎌倉時代）には、周辺にイネ科とヨモギ属が主に生育し、チドメグサ亜科やキク亜科などの畑作雑草と栽培植物のソバ属が生育し、畑の分布が示唆された。周辺地域の森林は、シイ属、コナラ属アカガシ亜属の照葉樹、コナラ属コナラ亜属、マツ属複維管束亜属などの二次林要素で構成される森林が分布し、かなり人為干渉を受けていたと推定された。

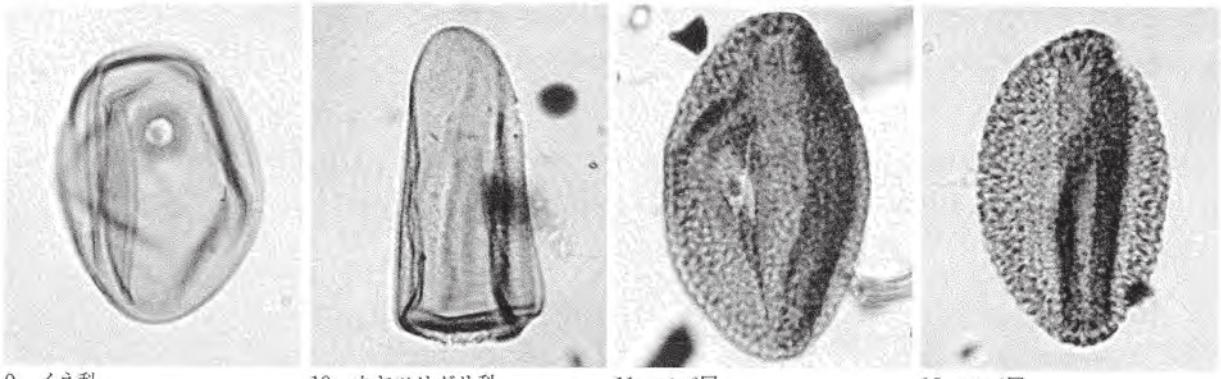
自然流路9（3150）（弥生時代中期末葉）の時期には、周辺はシイ属を中心とする森林が分布していた。最下部の試料5の層準は森林の構成要素としてクリが多く、ほかに草本もやや多く、ソバ栽培が行われていた。試料4の層準から上部になると、シイ属を中心とする森林が拡大した。試料2の層準ではマツ属複維管束亜属（ニヨウマツ類）が増加したと推定された。



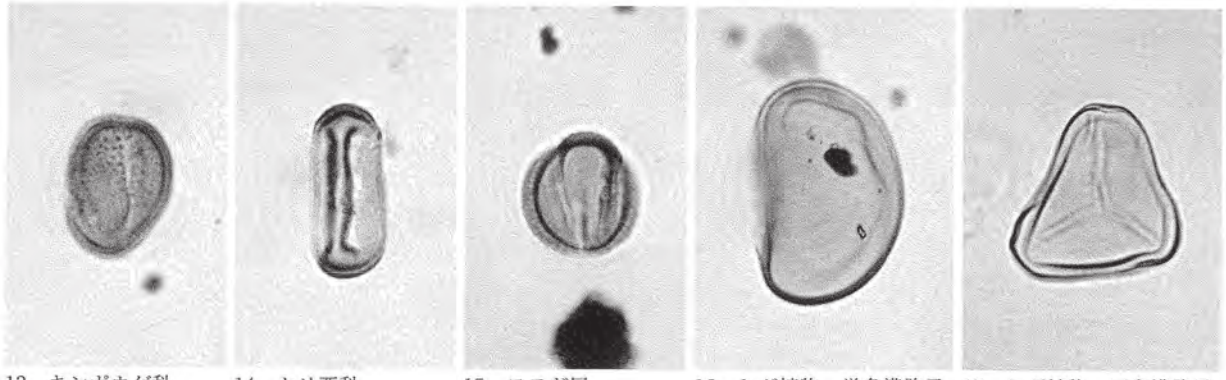
1　マツ属複維管束亜属　2　スギ　3　イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科



4　クリ　5　シイ属　6　コナラ属　コナラ亜属　7　コナラ属　アカガシ亜属　8　ニレ属-ケヤキ



9　イネ科　10　カヤツリグサ科　11　ソバ属　12　ソバ属



13　キンポウゲ科　14　セリ亜科　15　ヨモギ属　16　シダ植物　単条溝胞子　17　シダ植物　三条溝胞子

10 μm

写真８　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の花粉・胞子

第５節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における珪藻分析

株式会社古環境研究所

１．はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復元の指標として利用されている。

２．試料

分析試料は、07 － 3 区の自然流路７（3010）より採取された試料１～試料７の７点、自然流路９（3150）より採取された試料１～試料５の５点、07 － 3 区の下層確認トレンチより採取された試料１～試料 10 の 10 点の計 22 点である。

３．方法

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

１）試料から１cm3 を秤量

２）10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら１晩放置

３）上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗（５～６回）

４）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥

５）マウントメディアによって封入し、プレパラート作成

６）検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 600 ～ 1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 200 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

４．結果

（１）分類群

試料から出現した珪藻は、貧塩性種（淡水生種）４分類群である。表 11 に分析結果を示す。また、出現した分類群について顕微鏡写真を示した。以下に出現した分類群を記載する。

〔貧塩性種〕

Amphora　copulata、Amphora　sp.、Aulacoseira　granulata、Aulacoseira　spp.

（２）珪藻群集の特徴

１）自然流路７（3010）

珪藻密度が極めて低く、検出されない。

２）自然流路９（3150）

珪藻密度が極めて低く、検出されない。

３）07 － 3 区下層確認トレンチ

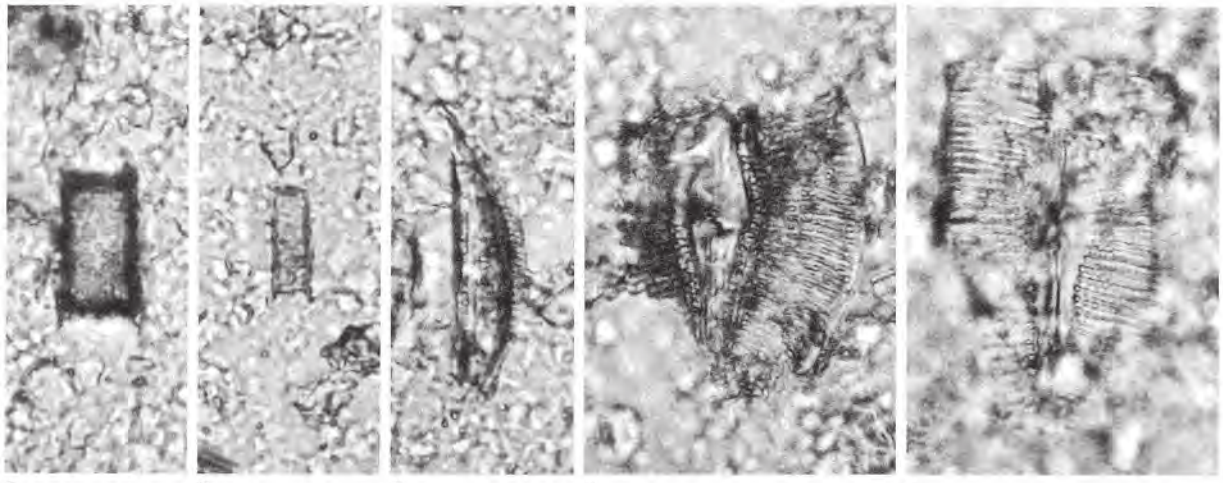
珪藻密度が低く、ほとんど検出されず、試料８、試料９において Aulacoseira　granulata、Aulacoseira　spp. などの真・好止水性種珪藻がわずかに出現する。

5．珪藻分析から推定される堆積環境

以上の分析結果から、自然流路７（3010）、自然流路９（3150）、07－３区下層確認トレンチにおいては、珪藻が検出されないかもしくは極少量検出されるだけであることから、各地点とも珪藻の生育しにくい乾燥した環境であったか、あるいは水流などにより分別され淘汰によって微細な珪藻が堆積されなかったことが考えられる。試料はいずれも河川堆積を主とする粗粒堆積物であり、排水のよい環境であったと考えられる。07－３区下層確認トレンチの試料８と試料９では、真・好止水性種珪藻がわずかに出現するが、極めて密度が低いため一時期的な滞水か二次堆積が考えられる。

表11　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における珪藻分析結果

分類群	07－3区																					
	自然流路７（3010）							自然流路９（3150）					下層確認トレンチ									
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
貧塩性種（淡水生種）																						
Amphora copulata																				1		
Amphora sp.																					1	
Aulacoseira granulata																				1		
Aulacoseira spp.																					1	
合　計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
未同定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
破片	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0
試料１cm³中の殻数密度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0 ×10²	8.0 ×10²	0.0
完形殻保存率（%）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－



1．Aulacoseira granulate　2．Aulacoseira spp.　3．Amphora copulata　4．Diploneis（破片）　5．Cymbella（破片）

写真９　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）の珪藻　　10 μm

第６節　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）出土炭化物の樹種同定

株式会社古環境研究所

１．はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２．試料

試料は、丁ノ町・妙寺遺跡より出土した炭化材９点である。

３．方法

試料を割折して新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって 50 ～ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

４．結果

表 12 に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

１）クリ－コナラ属コナラ節　Castanea crenata Sieb. et Zucc.-Quercus sect. Prinus　ブナ科

写真 10 － 1

横 断 面：部分的ではあるが、年輪のはじめに大型の道管が配列する。晩材部では火炎状に配列する小道管が見られる。

放射断面：平伏細胞からなる放射組織が見られる。

接線断面：単列で同性放射組織型の放射組織が見られる。

以上の形質よりクリ－コナラ属コナラ節に同定される。なおクリは単列の放射組織のみが存在し、コナラ属コナラ節の放射組織は単列のものと大型の広放射組織が存在する。本試料は小片であり広放射組織の有無など広範囲の観察は困難であったため、クリ－コナラ属コナラ節の同定にとどめる。

表 12　丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）における樹種同定結果

番号	地区	遺構・資料	結果（学名／和名）	
13	07－３区	焼成土坑２－１	Fagaceae	ブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）
14	07－３区	焼成土坑２－２	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.-Quercus sect. Prinus	クリ－コナラ属コナラ節
15	07－３区	焼成土坑２－３	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.-Quercus sect. Prinus	クリ－コナラ属コナラ節
16	07－３区	焼成土坑３－１	Fagaceae	ブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）
17	07－３区	焼成土坑３－２	Fagaceae	ブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）
18	07－３区	焼成土坑３－３	Fagaceae	ブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）
29	07－２区	焼成土坑１－１	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
30	07－２区	焼成土坑１－２	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
31	07－２区	焼成土坑１－３	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節

2）コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科　写真10－2

横 断 面：年輪のはじめに大型の道管が、１～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が、単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クヌギ節に同定される。コナラ属クヌギ節にはクヌギ、アベマキなどがあり、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15 m、径60cmに達する。材は強靭で弾力に富み、器具、農具などに用いられる。

3）ブナ科　Fagaceae　写真10－3

横 断 面：部分的ではあるが大型の道管と、火炎状に配列する小道管が見られる。

放射断面：放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりブナ科のクリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれかである。なお本試料は極めて小片であり、広範囲の観察が困難であったことから、ブナ科までの同定にとどめる。

5．所見

同定の結果、丁ノ町・妙寺遺跡の炭化材は、コナラ属クヌギ節３点、クリ－コナラ属コナラ節２点、ブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）４点であった。コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯に広く分布する落葉広葉樹で乾燥した台地や丘陵地に生育し二次林要素でもある。クリは、温帯に広く分布する落葉広葉樹であり、暖温帯と冷温帯の中間域では純林を形成することがある。乾燥した台地や丘陵地を好み、二次林要素でもある。コナラ属コナラ節は、温帯を中心に広く分布する落葉広葉樹で日当たりの良い山野に生育する。ミズナラなどの冷温帯落葉広葉樹林の主要構成要素や暖温帯性のナラガシワ、二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。シイ属にはスダジイとツブラジイがあり、どちらも常緑広葉樹で温帯下部の暖温帯に分布する照葉樹林の主要構成要素である。また二次林要素でもある。

以上のように、丁ノ町・妙寺遺跡の炭化材は、温帯から温帯下部の暖温帯に分布する樹種ばかりであり、当時遺跡周辺にも生育し、比較的容易に用いることができたと推定される。いずれの樹種も二次林要素が含まれることから、当時遺跡周辺に二次林が成立していた可能性がある。

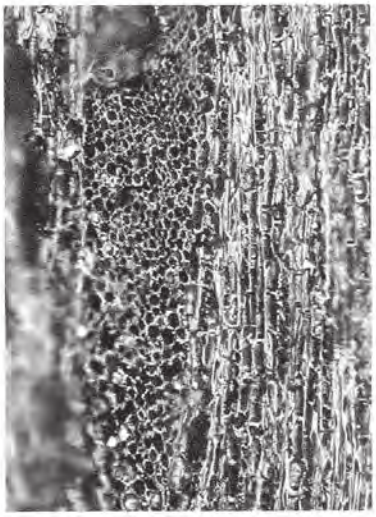




横断面 ——— : 0.4mm　放射断面 ——— : 0.2mm　接線断面 ——— : 0.2mm

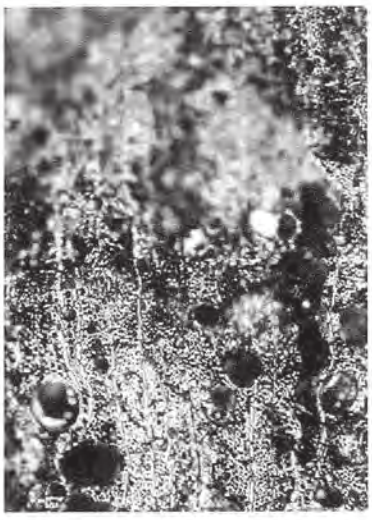
1. 15　07 － 3 区　焼成土坑 2-3　クリ - コナラ属コナラ節

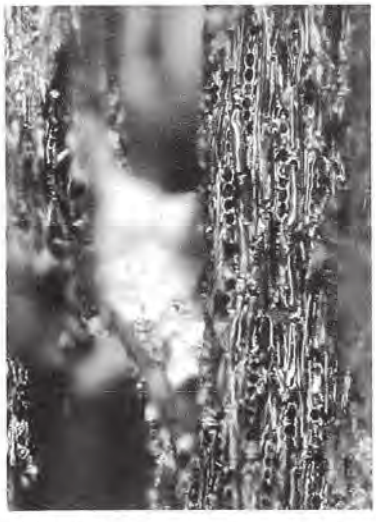




横断面 ——— : 0.4mm　放射断面 ——— : 0.2mm　接線断面 ——— : 0.2mm

2. 31　07 － 2 区　焼成土坑 1-3　コナラ属クヌギ節





横断面 ——— : 0.4mm　放射断面 ——— : 0.2mm　接線断面 ——— : 0.2mm

3. 18　07 － 3 区　焼成土坑 3-3　ブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）

写真 10　丁ノ町・妙寺遺跡（第 2 次調査）の炭化材

第７節　丁ノ町･妙寺遺跡(第２次調査)における考古地磁気年代推定

株式会社夏原技研

１．考古地磁気年代推定の基礎

磁石は北を指す。地球には地磁気が存在するためである。地磁気はベクトル量であり、ある地点における地磁気を記述するために、方向（偏角と伏角）と大きさ（全磁力）が必要である。一般に、磁気コンパスの磁針が指す北（磁北）は、真北（地図の経線方向）からずれている。この磁北と真北の間の角度が偏角である。磁針をその重心で支え、磁南北と平行な鉛直面内で自由に回転できるようにすると、北半球では磁針のＮ極が水平面の下になるように傾く。この傾斜角が伏角である。丁の町･妙寺遺跡調査地内の現在の偏角は約6.9° Ｗで､伏角は約48° である。また、全磁力は、約 0.45 エルステッドである。これら地磁気の三要素（偏角・伏角・全磁力）は観測する地点によって異なる値になる。全世界の地磁気三要素の観測データの解析から、現在の地磁気分布は、地球の中心に棒磁石を置いたときにできる磁場の分布に近似される。この棒磁石の軸方向は、自転軸から約 11.5 度傾いている。この磁軸と地表との交点が地磁気北（南）極である。

地磁気は絶えず変動し、時代と共にその地磁気北極の位置を変える。従って、ある地点で観測される偏角･伏角の値も時代と共に変化する。方向だけではなく、大きさ（全磁力）も変化する。この変動を地磁気永年変化と呼んでいる。

歴史時代の地磁気永年変化は，岩石や焼土の残留磁化の測定を基礎とする考古地磁気測定によって明らかにすることができる。どんな物質でも、ある（強）磁場中に置かれると磁化を帯び、そして磁場が取り除かれると､普通の物質からは磁化が消える。しかし､強磁性物質（磁石になれる物質）では、外部磁場が消えても磁化が残る。これが残留磁化である。残留磁化の強さや安定性は、磁化を獲得する時の条件によって異なる。残留磁化はその獲得方法の違いによっていろいろな名前で呼ばれる。考古地磁気学で地磁気の化石として最もよく利用するのが熱残留磁化である。岩石には小量の強磁性粒子（赤鉄鉱や磁鉄鉱などの鉄の酸化物）が含まれている。火成岩では、高温のマグマの状態から冷えて岩石になる過程で、強磁性粒子がその時の地磁気によって磁化を帯び、冷えてからはその残留磁化を保持し続ける。これが熱残留磁化である。土も焼かれると、冷却の過程で同様の熱残留磁化を獲得する。熱残留磁化の性質を簡単にまとめると、次のようになる。岩石の誕生時または土が焼かれた時の地磁気方向を記録していて、その大きさは地磁気の大きさに比例し、何億年もの長い期間でも変質しない。これらの性質によって、地磁気の化石として利用が可能なのである。(Hirooka1971) や (Shibuya1980) により遺跡の焼土の熱残留磁化測定から求められた過去2000 年間の西南日本における偏角－伏角の変化を図 240 に示す。偏角は 20° Wから 15° E、伏角は 35° から 60° の間で変化している。図 240 のような地磁気永年変化の標準曲線が得られると、逆に、年代の確かでない遺跡の焼土の残留磁化を測定し、永年変化曲線と比

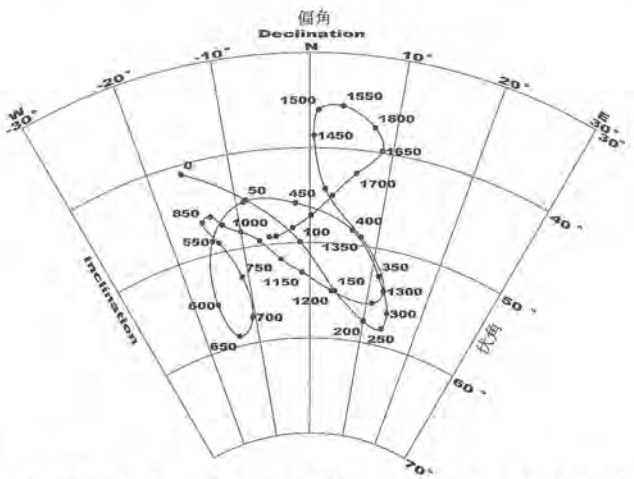


図 240 (広岡 1977)により求められた地磁気永年曲線変化

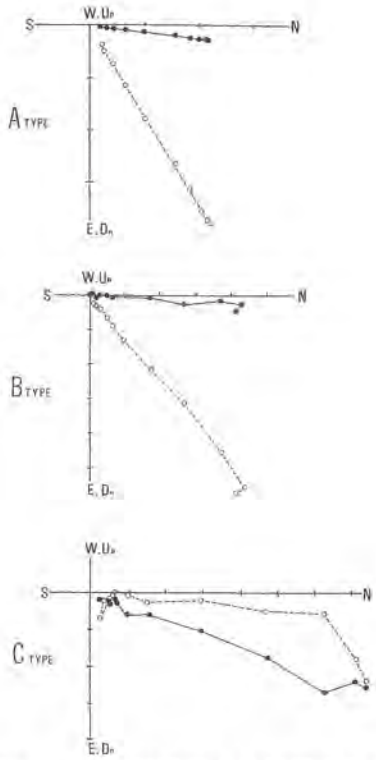


図 241　中島・谷崎による地磁ベクトル図

較することで、その年代の推定を行うことができる。これが考古地磁気による年代推定である。この方法は、14C 法やフィッション・トラック法のような放射（絶対）年代測定法とは異なり、それだけで独立して年代を決定できない。普通、偏角と伏角の組合せで永年変化曲線から 2 つか 3 つの候補年代が出てくる。そのうちの何れを採用するかは、考古学的推定に頼ることになる。

従来、考古地磁気年代推定では、二次磁化を除去するための消磁実験は行われていなかった。考古地磁気試料として用いられる焼土は、焼成温度がキューリー温度以上の高温に達していれば、その熱残留磁化は非常に安定なものであると考えられること。さらに、せいぜい 2000 年前までの歴史時代のものを測定の対象としているため、二次磁化の主成分である粘性残留磁化（VRM）は少量しか付いていないと推定されたためである。しかし、近年、測定器の性能の飛躍的な向上により測定精度が高くなり、わずかな二次磁化の影響も識別できるようになってきた。そこで、（中島・谷崎 1990）は、考古地磁気試料について段階交流消磁実験を実施して、考古地磁気試料にも消磁実験が必要であることを明らかにし、A, B, C3 つのタイプに分類している。図 241 に A, B, C の消磁ベクトル図（Zijderveld, 1967）を示す。同図の黒丸は水平成分、白丸は鉛直成分を表わしている。A タイプは方向変化がなく、原点に向かう直線上にプロットできる 1 つの成分（一次磁化）しか存在しない試料である。B タイプは方向変化があり、一次磁化と二次磁化の 2 成分が存在し、二次磁化が消えた（消磁）後に原点に向う直線（一次磁化成分）が得られる試料である。C タイプは、原点に向う直線が引けず、安定な磁化成分が得られない試料であるとしている。

本報告でもパイロット・サンプルを選び段階交流消磁を行い、その結果より最適消磁磁場を求める。全試料について最適消磁磁場強度で交流消磁を実施し、推定を行った。

2．試料の採取と測定

1）試料採取方法

遺構の焼土から次の様な手順で試料を採取する。

1. 焼土面に先の尖ったハンマーで、1 辺が数 cm 程度の立方体試料を取り出すための溝を、試料が床面から外れないように、手で押さえながら丁寧に掘る。
2. 溝を掘り終わった後、掘り込み作業中に試料表面についた砂や石を刷毛で丹念に取り除く。
3. 薄く溶いた石膏をビニール袋に入れ、試料全体にかけて表面を補強する。
4. 乾燥後、やや固めの石膏を試料上面にかけ、1 辺 5cm の正方形のアルミ板をすばやく押しつける。石膏が固まるのを待ち、アルミ板を外す。
5. アルミ板を用いて作った平面の最大傾斜の方位と傾斜角を、考古地磁気用磁気コンパス（Hirooka, 1971）で測定し、平面上に方位測定位置を示すマーク（平面を定義する 3 つの点）と試料番号を記入する。

6. ハンマーで試料を掘り起こし、試料の底面を石膏で補強し、新聞紙等に包み持ち帰る。

2）試料整形方法

遺構で採取した試料はそのままでは測定できないので、試料整形を以下のように行う。

1. 試料を1辺3.5cmの立方体に切断するために、プラスチックの型板（34 × 34mmの正方形）を利用し枠取りの線を引く。この時、型板のマークと試料表面の方位測定位置を示すマーク(3点)を合わせる。
2. 試料温度が上がるのを防ぐために冷却水をかけながら、ダイヤモンド・カッターで1面ずつ切断する。切断面が崩れないように石膏で補強し、次の面の切断を行う前に試料を充分乾燥させる。この作業を5回繰り返すと立方体試料が得られる。
3. 試料表面についた余分な石膏をカッターで削り落とす。

3）残留磁化測定方法

残留磁化は、当社製のリング・コア型スピナー磁力計（SMD-88）を用いて測定した。交流消磁実験には二軸回転方式の当社製DEM-8601-2型を使用した。この装置は、三層の円筒μ－メタルによって外部磁場（地磁気）は10nT以下にシールドされている。以下に今回実施した残留磁化測定と交流消磁の方法について述べる。

1. 採取した全試料について、自然残留磁化（NRM）測定を行う。
2. ＮＲＭ測定結果をみて、段階交流消磁実験を行うパイロット・サンプルを1個選ぶ。
3. パイロット・サンプルを2.5, 5, 7.5, 10, 15, 20, 30, 40, 50 mTの各磁場で順に消磁し、その都度、残留磁化を測定する。各消磁段階の測定結果を消磁ベクトル図に表し、同図の直線上にのる最適消磁強度を決定する。
4. 残りの試料を全て最適消磁強度で消磁し、その残留磁化を測定する。そして、その平均値（パイロット・サンプルのデータを含む）を、考古地磁気データとして採用する。

4）データ整理

測定結果として得られるデータは、試料に設定した座標に対するものなので、試料を遺構のもとの位置に戻した時の真北を基準方向とする座標に対するものに変換しなければならない。そのためには、試料が残留磁気を獲得した時の位置（地理的緯度，経度）、および方位（試料の一つの基準面の走向,傾斜）が必要である。位置については,2万5千分の1程度の縮尺の地形図から、その遺構の緯度，経度を読取ればいい。方位は、試料採取の作業で磁気コンパスを使って測定している。磁気コンパスの方位は、磁北に対するものなので、真北に対する方位に直すために、試料採取地点の現在の偏角分を補正する必要がある。現在の地磁気偏角は、国土地理院の偏角分布の実験式から求めることができる。

測定にはいろいろな要因での誤差がつきものであるため、一つの遺構から8～10個程度の試料を採取している。これらの試料の個々の測定で得られた偏角（Di），伏角（Ii）から平均値（Dm, Im）を求める。ここで用いる統計学的方法はFisherによって確立されたものである。各試料の測定値を、方向（Di, Ii）の単位ベクトルとして取り扱う。

まず、n組の（Di, Ii）より

$N = \Sigma \cos Ii \cdot \cos Di$　（北向きの成分）

$E = \Sigma \cos Ii \cdot \sin Di$　（東向きの成分）

$Z = \Sigma \sin Ii$　（鉛直の成分）

を求めると、合ベクトルの大きさR, およびDm, Imは、

$R = (Z2 + N2 + E2)\ 1/2$

Dm = tan-1E ／ N

Im = sin-1Z ／ R　で与えられる。

このとき、信頼度係数 k は、

k = (n − 1) ／ (n − R) となる。k が大きいほど、方向の集中はよい。よく焼けた窯跡では数百の値になる。

誤差角 α 95 は、危険率 5% として

α 95 = cos-1 [1 − (n − R) ／ R {(1 ／ 0.05) 1/(n − 1) − 1}] で与えられる。α 95 が小さいほど、方向の集中はよい。よく焼けた窯跡では数度以内になる。

これより Dm, Im のそれぞれの誤差の幅として、

δ D = α 95 ／ cos Im（偏角誤差）

δ I = α 95　　（伏角誤差）　が求められる。

以上のようにして得られた計算結果を、一つの遺構を代表する考古地磁気データとしている。

なお、考古地磁気年代推定の原理や測定方法については、（中島・夏原 1981）に詳しく解説されている。

3．残留磁化測定結果

発掘調査された丁の町・妙寺遺跡の 07 − 3 区の 2 ケ所の焼成土坑より 22 個の考古地磁気用の定方位試料を採取し、その熱残留磁気を測定した。熱残留磁気測定結果を表 1 と表 2 にまとめた。現在の地磁気偏角の補正は、国土地理院の 2000 年の磁気偏角図から読取った 6.9° W を使用した。

磁化の安定性を確かめるために行った各遺構のパイロット・サンプルの段階交流消磁の測定結果（消磁ベクトル図）を図 242 に示す。同図の黒丸は水平成分，白丸は鉛直成分を表している。S（南），N（北），E（東），W（西）は水平成分の方向、Up（上向き），Dn（下向き）は鉛直の方向である。白丸の横に記した数字は交流消磁の強度で、単位は mT（ミリテスラ）である。この図で、丸印の間をむすんだ直線がその消磁段階で消された磁化ベクトルとなる。磁化の各成分は図上では直線上に並ぶ点の列で表される。特に考古地磁気試料のような単純な受熱を持った試料では問題とする初期磁化は原点に向う直線として表される。

図 242 から、二次磁化の成分は 5.0 ～ 7.5mT で無くなり、原点に向かう直線となっている。（中島・谷崎 1990）で分類すると B タイプになる。段階消磁の測定結果より最適消磁強度を 7.5mT と

表 13　熱残留磁気測定結果

焼成土坑 2（3005）

試料名	交流消磁前 偏角(Di) ° E	伏角(Ii) °	強度 ×10⁻³emu	交流消磁後 消磁強度=7.5 mT 偏角(Di) ° E	伏角(Ii) °	強度 ×10⁻³emu
WN-1	-28.1	58.4	3.07	-17.9	55.5	1.80
WN-2	-34.3	51.2	2.87	-22.0	52.7	1.30
WN-3	-30.0	50.6	3.46	-11.3	51.6	1.38
WN-4	-16.5	46.7	6.98	-12.8	45.9	2.92
WN-5	-34.0	49.5	1.32	-24.4	54.2	0.56
WN-6	-16.6	41.6	5.29	-12.5	47.8	3.18
WN-7	-14.2	40.7	3.20	-13.4	49.4	1.51
WN-8	-17.1	39.1	1.41	-9.6	48.6	0.91
WN-9	1.5	44.0	3.31	-10.9	50.6	1.32
WN-10	10.8	55.5	2.58	-11.1	53.8	0.88
WN-11	8.4	52.6	1.21	-3.3	55.4	0.51
WN-12	3.7	48.8	3.57	-13.9	47.2	2.00

焼成土坑 3（3006）

試料名	交流消磁前 偏角(Di) ° E	伏角(Ii) °	強度 ×10⁻³ emu	交流消磁後 消磁強度=7.5 mT 偏角(Di) ° E	伏角(Ii) °	強度 ×10⁻³ emu
WN-21	-38.7	49.0	1.23	-14.4	46.6	0.67
WN-22	-37.0	57.6	0.94	-23.8	52.0	0.36
WN-23	-15.5	48.6	4.96	-12.5	45.2	2.71
WN-24	-29.4	61.6	1.03	-14.9	59.8	0.41
WN-25	-21.1	55.2	4.09	-14.0	54.9	1.88
WN-26	-25.5	51.6	1.11	-25.5	51.6	0.40
WN-27	-27.3	51.2	2.61	-21.3	54.0	1.17
WN-28	-31.2	52.7	3.61	-19.8	54.1	1.51
WN-29	8.6	37.0	2.37	-4.2	41.2	0.92
WN-30	2.7	43.3	2.97	-7.8	43.6	1.30

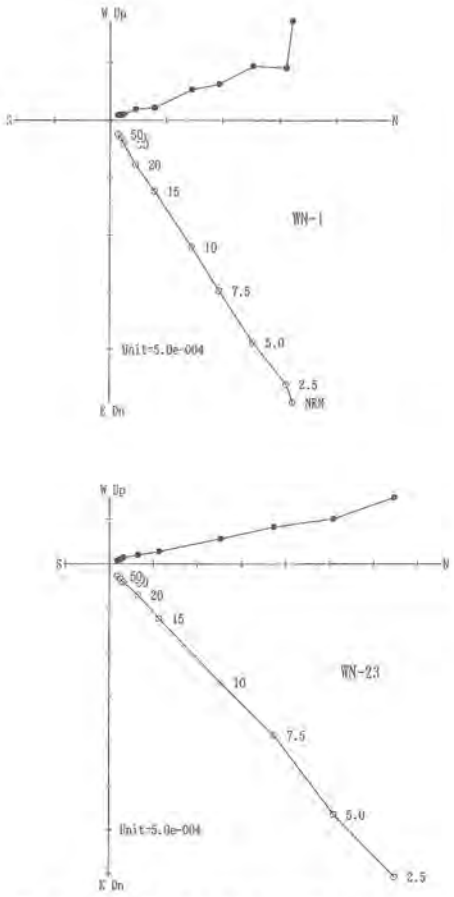


図 242　各焼成土坑の消磁ベクトル図

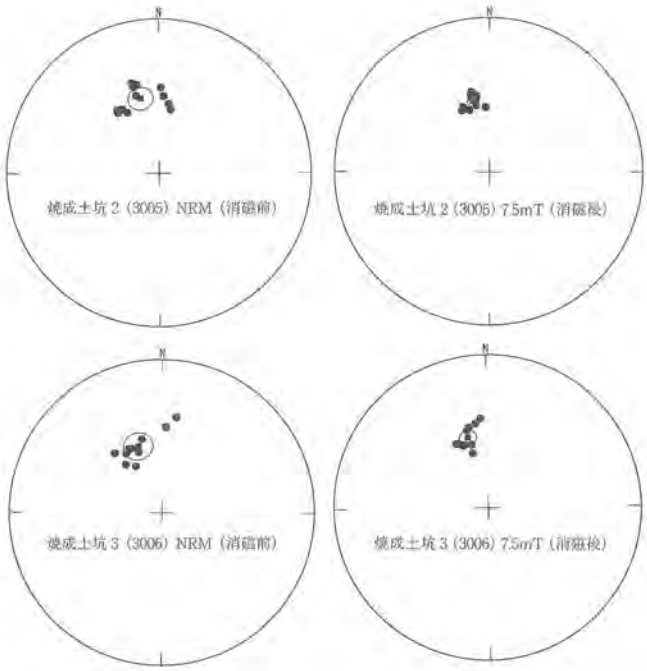


図 243　各焼成土坑の残留磁化方向の等面積投影図

判断して消磁後、測定を行った。

表 13 は、個々の試料の交流消磁前と消磁後の熱残留磁気測定結果(Di, Ii)である。図 243 には、消磁前と消磁後の磁化方向の等面積投影図を示した。表 14 に、消磁前と消磁後の、磁化方向の平均値（Dm, Im），誤差角（α 95）と信頼度係数（k），および平均磁気強度を示した。試料数 n は平均値（Dm, Im）を計算した試料数で、括弧内の数字は測定した全試料数である。

各試料の消磁前(NRM)の磁化強度は 10-3～10-4 emu で、焼土壙としては標準的な磁化強度であった。今回の測定は、二次磁化が少し見られたが消磁後のデータは誤差角 α 95 が小さく、k が大きい安定した磁化方向を持つ試料であったといえる。

4．推定年代

推定年代は、図 240 の（広岡 1977）の西南日本の地磁気永年変化曲線と消磁後の偏角，伏角，誤差角を比較して考古地磁気推定年代を求めた。

図 244 は消磁後の測定結果をプロットしたもので、黒丸は平均磁化方向を示し、それを囲む楕円の実線が誤差角 α 95 の範囲である。

この楕円の範囲の中あるいはこれに一番近い曲線の部分が焼成土坑の推定年代となる。

2 つの焼成土坑の測定結果は、6 世紀と 8 世紀の永年変化曲線と良く一致しており、考古地磁気から焼成土坑 2・焼成土坑 3 の焼成土坑には年代差はないと考えられ、A.D. 560 年 ± 25 年と A.D.780 ± 30 年の二つの年代が推定できる。何れをとるかは考古学推定に委ねる事となる。永年変化曲線と誤差角の比較から ± 25 年と ± 30 年の年代幅とした考古学からの年代（考古学的推定年代）は弥生以降との事で矛盾しない年代と思われる。

表 14　考古地磁気測定結果(平均磁化方向)

（1）　交流消磁前の測定結果

遺構名	試料数 n	Dm (° E)	Im (°)	α95 (°)	k	平均磁化強度 ×10⁻³ emu
№5　焼土壙	12	-14.0	48.8	6.4	47.1	3.18
№6　焼土壙	10	-20.0	51.9	7.6	41.5	2.49

（2）　交流消磁後の測定結果

遺構名	試料数 n	Dm (° E)	Im (°)	α95 (°)	k
№5　焼土壙	12	-13.5	51.2	2.6	290.6
№6　焼土壙	10	-15.4	50.5	4.4	120.4

表 13　考古地磁気年代推定年代

遺 構 名	考古地磁気推定年代（A.D.）
№5　焼土壙	660 年±25 年，780 年±30 年
№6　焼土壙	

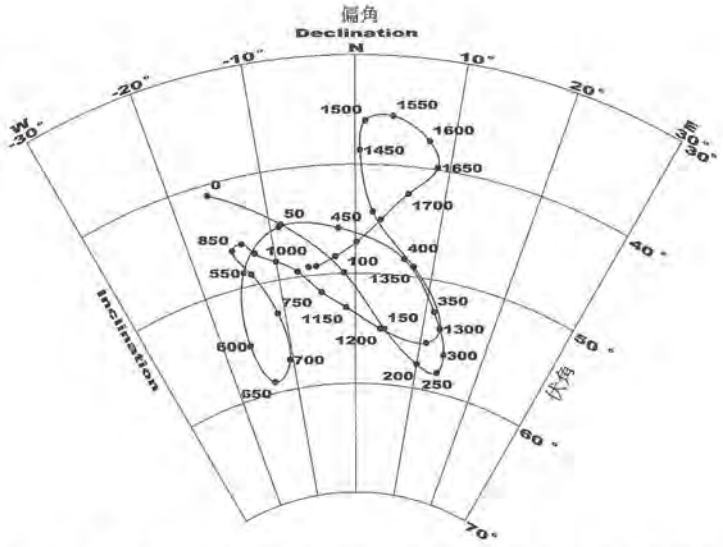


図 244　地磁気永年変化曲線と各焼成土坑の消磁後の測定結果
(黒丸は平均磁化方向、楕円は誤差角 α 95 の範囲を示す。)

図の説明

図 240：(広岡 1977) により西南日本の考古遺跡焼土の測定から求められた過去 2000 年間の地磁気永年変化曲線。

図 241：(中島・谷崎 1990) により、3 タイプに分類された消磁ベクトル図。

図 242：パイロット・サンプルについての消磁ベクトル図。

図 243：各試料の消磁前と消磁後の残留磁化方向の等面積投影図。

図 244：(広岡 1977) により西南日本の考古遺跡焼土の測定から求められた過去 2000 年間の地磁気永年変化曲線と測定結果（黒丸は平均磁化方向，楕円は誤差角 α 95 の範囲を示す。）

第８節　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土土器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１．はじめに

今回の分析調査では、紀ノ川中流域北岸に位置する西飯降Ⅱ遺跡から出土した弥生土器および土師器と、その西側に隣接する丁ノ町・妙寺遺跡から出土した弥生土器、さらに比較検討のため野田地区遺跡より出土した土師器の各時期の土器について、その材質（胎土）の特性を明らかにする。さらに、その特性から得られた地質情報と既存の紀ノ川沿いおよび有田川沿いの地質との比較により、土器の生産や移動に関わる資料を作成する。

２．試料

試料は、西飯降Ⅱ遺跡から出土した弥生土器片 10 点、同遺跡出土の土師器片 1 点、丁ノ町・妙寺遺跡から出土した弥生土器片 9 点、野田地区遺跡から出土した土師器片 2 点の合計 22 点である。

３．分析方法

当社では、これまでに兵庫県や大阪府など近畿地方各地の遺跡より出土した土器の胎土分析には、（松田ほか 1999）の方法を用いてきた。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いも見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、本分析においても（松田ほか 1999）の方法を用いる。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に 0.03㎜ の厚さに研磨して作成した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

表 16　試料一覧および胎土分類結果

資料No.	遺物番号	種類	器種	遺跡名	地区	遺構	時期	発掘調査所見による推定地域	胎土分類																	
									鉱物・岩石										粒径組成						砕屑物		
									A					B	C	D	E		a	b			c	d	e			
									1	2	3	4	5							1	2						I	II	III
①	449	弥生土器	壺	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	自然流路８	弥生時代中期	紀ノ川中流域		■									■							■		
②	427	弥生土器	壺	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	自然流路８	弥生時代中期	紀ノ川中流域	■														■			■		
③	435	弥生土器	壺	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	自然流路８	弥生時代中期	紀ノ川中流域				■							■									■
④	440	弥生土器	甕	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	自然流路８	弥生時代中期	紀ノ川中流域		■										■						■		
⑤	408	弥生土器	壺	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	自然流路８	弥生時代中期	紀ノ川中流域		■									■									■
⑥	579	弥生土器	甕	丁ノ町・妙寺遺跡	07－3区	自然流路９	弥生時代中期末葉	紀ノ川中流域		■									■									
⑦	630	弥生土器	鉢	丁ノ町・妙寺遺跡	07－3区	自然流路９	弥生時代中期末葉	紀ノ川中流域		■									■								■	
⑧	534	弥生土器	壺	丁ノ町・妙寺遺跡	07－3区	自然流路９	弥生時代中期末葉	紀ノ川中流域			■														■	■		
⑨	633	弥生土器	壺	丁ノ町・妙寺遺跡	06－1区	土器棺墓６	弥生時代後期前葉	瀬戸内			■														■	■		
⑩	501	弥生土器	壺	西飯降Ⅱ遺跡	06－2区	間層～４－４層	弥生時代中期	生駒西麓									■						■			■		
⑪	299	弥生土器	壺	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	土坑 12	弥生時代中期	紀ノ川中流域		■									■							■		
⑫	未報告	弥生土器	甕	丁ノ町・妙寺遺跡	07－3区	自然流路９	弥生時代中期末葉	生駒西麓									■						■			■		
⑬	未報告	弥生土器	壺	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	自然流路８	弥生時代中期	絵画土器									■		■									■
⑭	441	弥生土器	壺	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	自然流路８	弥生時代中期	絵画土器									■			■								■
⑮	523	弥生土器	壺	丁ノ町・妙寺遺跡	07－3区	自然流路９	弥生時代中期末葉	不明		■									■									■
⑯	620	弥生土器	甕	丁ノ町・妙寺遺跡	06－1区	土坑 45	弥生時代中期	大和地域					■												■		■	
⑰	292	弥生土器	壺	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	土器棺墓４	弥生時代中期	生駒西麓									■						■			■		
⑱	550	弥生土器	甕	丁ノ町・妙寺遺跡	07－3区	自然流路９	弥生時代中期末葉	紀ノ川中流域			■														■			■
⑲	144	土師器	直口壺	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	竪穴建物４	古墳時代前期	紀ノ川中流域					■										■					■
⑳	－	土師器	甕	野田地区遺跡	－	10	古墳時代前期	有田川下流域								■									■			■
㉑	－	土師器	高杯	野田地区遺跡	－	10	古墳時代前期	有田川下流域								■									■			■
㉒	352	弥生土器	鉢	西飯降Ⅱ遺跡	06－1区	土坑 25	弥生時代後期	大和地域									■						■					

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

4．結果

(1) 胎土分類

観察結果を表17～19、図245～247に示す。鉱物片および岩石片の組成をみると、試料間で類似する組成があり、それが複数あることも看取された。今回の22点の試料からは、以下に示すA～E類までの5分類の鉱物・岩石組成が認められた。

1)A類

鉱物片では石英が多く、次いで斜長石を比較的多く含み、岩石片ではチャート・頁岩・砂岩の堆積岩類と多結晶石英および花崗岩類、さらに片岩類・千枚岩・粘板岩・ホルンフェルス・緑色岩の各変成岩類を伴う組成をA類とした。今回の試料では最も多く認められた組成である。ただし、各鉱物の量比関係には試料によって違いが認められることから、A類をさらに以下の5種類に細分した。

A1類：堆積岩類が多く、なかでもチャートが比較的多く含まれ、さらに少量の凝灰岩や微量の流紋岩・デイサイトも伴う。ただし、他のA類には認められた変成岩類が含まれない。これに分類される試料は、西飯降Ⅱ遺跡出土の資料No.②の1点のみである。

A2類:A1類と同様に堆積岩類が多く含まれ、さらに少量の変成岩類を伴う組成。凝灰岩や流紋岩・デイサイトも試料によっては微量伴われる。今回の試料では、A2類に分類される試料が最も多く、資料No.①、④～⑦、⑪、⑮の計7点である。

A3類:A1類およびA2類に比べて堆積岩類が少なく、変成岩類が堆積岩類より若干多く含まれる。また、鉱物組成でもA1類およびA2類に比べて斜長石の割合がやや高く、緑簾石を少量含むことも特徴となる。これに分類される試料は、資料No.⑧、⑨、⑱の3点である。

A4類：堆積岩類が少量であることはA3類と同様であるが、変成岩類の量比がA3類よりも高く、特にホルンフェルスの割合が突出して多い。これに分類される試料は、西飯降Ⅱ遺跡出土の資料No.③の1点のみである。

A5類：A3類およびA4類と同様に堆積岩類が少量であり、さらに変成岩類もホルンフェルスが微量含まれるのみである。ただし、他のA類では微量しか含まれない花崗岩類が少量含まれている。さらに鉱物組成では斜長石の割合が高い。これに分類される試料は、丁ノ町・妙寺遺跡出土の資料No.⑯の1点のみである。

2)B類

鉱物組成は、石英が多く、少量の斜長石や緑簾石および雲母類を含むなどA類に近似するが、岩石片では堆積岩類が含まれないことから、A類とは区別してB類とした。堆積岩類が含まれないほかは、多結晶石英や片岩類および緑色岩が含まれるなど、A類との共通性が高い。これに分類される試料は、西飯降Ⅱ遺跡出土の土師器である資料No.⑲の1点のみである。

3)C類

鉱物組成において石英の割合が突出して多い組成の胎土をC類とした。石英以外の鉱物片は、微量の長石類が含まれるのみであり、岩石片は、チャートなどの堆積岩類が少量含まれ、石英片

表17　薄片観察結果（1）

| 資料No. | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | |

表 18　薄片観察結果（2）

| 資料No. | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | |

表19　薄片観察結果（3）

| 資料No. | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | |

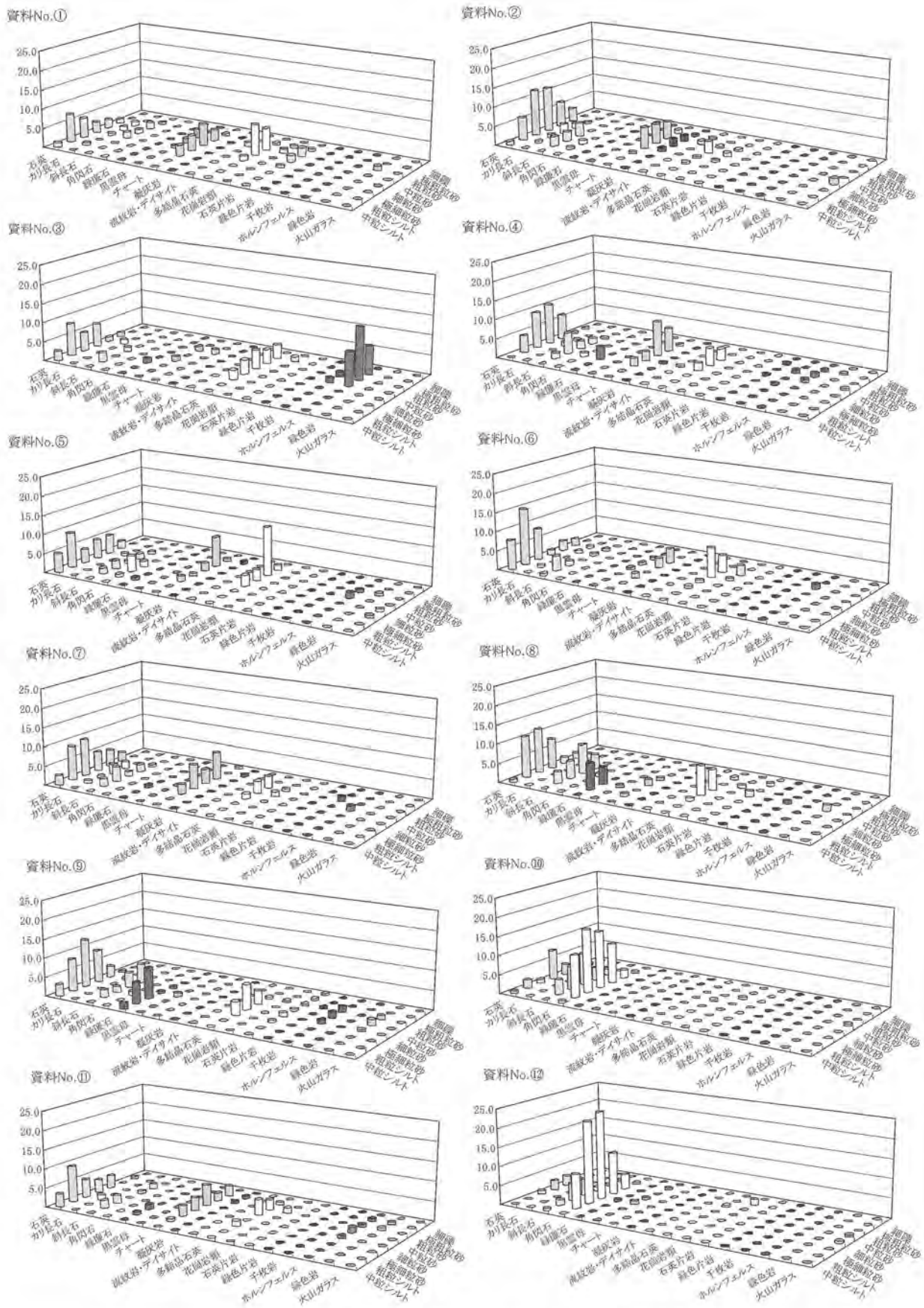


図 245　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（1）

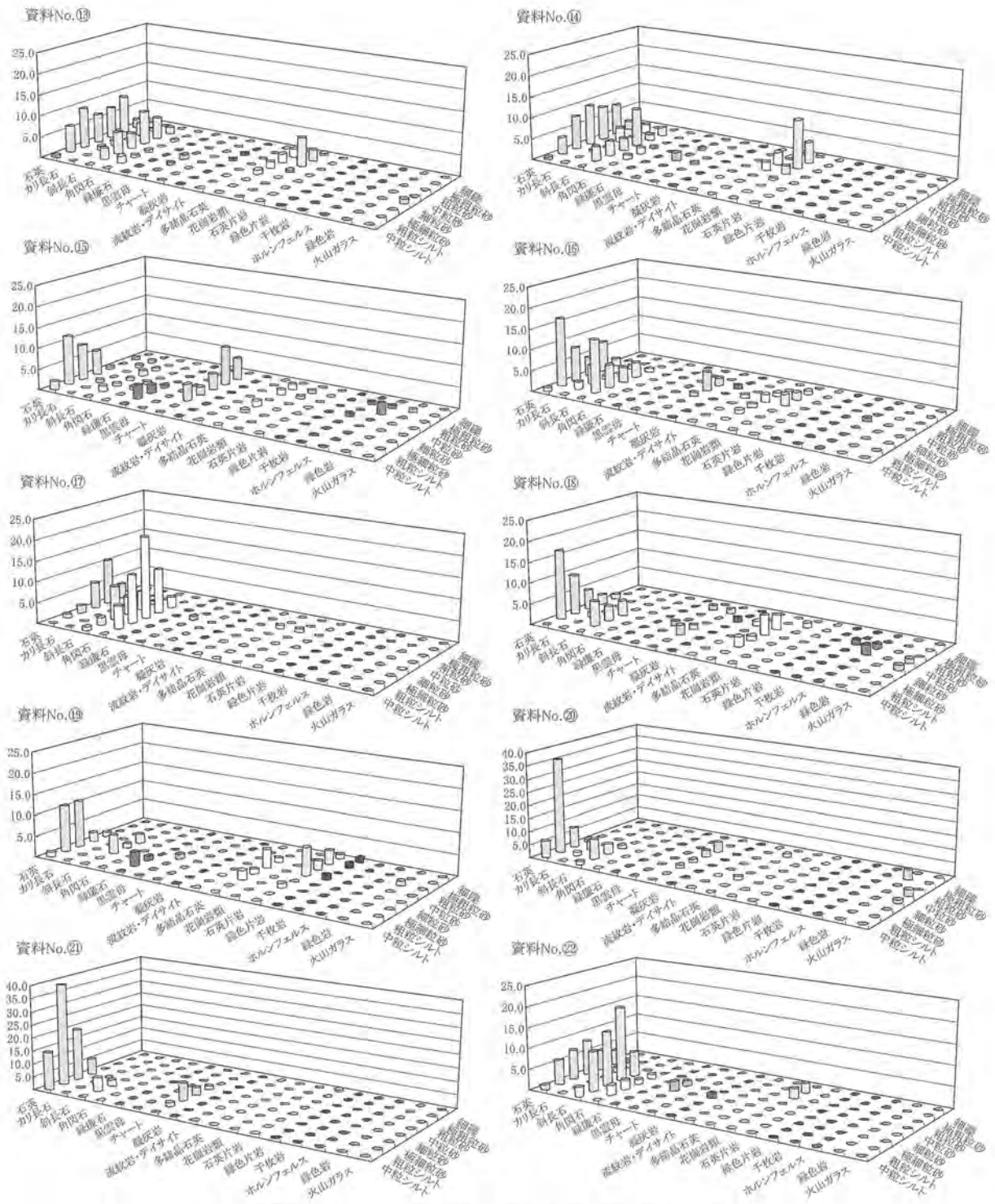


図 246　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（2）

5）E 類

鉱物組成において角閃石が非常に多い組成の胎土をＥ類とする。角閃石以外の鉱物片は、石英と斜長石が比較的多く含まれるが、いずれも角閃石よりも少ない。岩石片は、多結晶石英、花崗岩類、閃緑岩および角閃石岩が微量含まれる。これに分類される試料は、資料 No. ⑩、⑫、⑰の 3 点であり、いずれも発掘調査所見により、生駒西麓と記されている。

粒径組成（図 247）をみると、試料によってモードとなる粒径も異なり、また、ヒストグラムの形状も鋭いピークを示すものやなだらかなピークを示すもの、複数のピークを持つものなど

様々である。ここでは、モードとなる粒径により、a～e類に分類する。

a類：粗粒砂をモードとする。なお、極細粒砂または粗粒シルトに第二のピークが認められる。今回の試料では最も多く、資料No. ①、③、⑤～⑦、⑪、⑬、⑮の計8点がa類である。

b類：中粒砂をモードとする。資料No. ④、⑭、⑲の3点認められたが、これらのうち、資料No. ⑲は極細粒砂にも明瞭なピークを示すことから、b2類とし、他の2点はb1類とした。

c類：細粒砂をモードとする。a類に次いで多く、資料No. ②、⑩、⑫、⑰、㉒の計5点である。これらのうち、資料No. ⑩、⑫、⑰は、発掘調査所見により生駒西麓とされている試料である。

d類：極細粒砂をモードとする。資料No. ⑧、⑨の2点のみである。

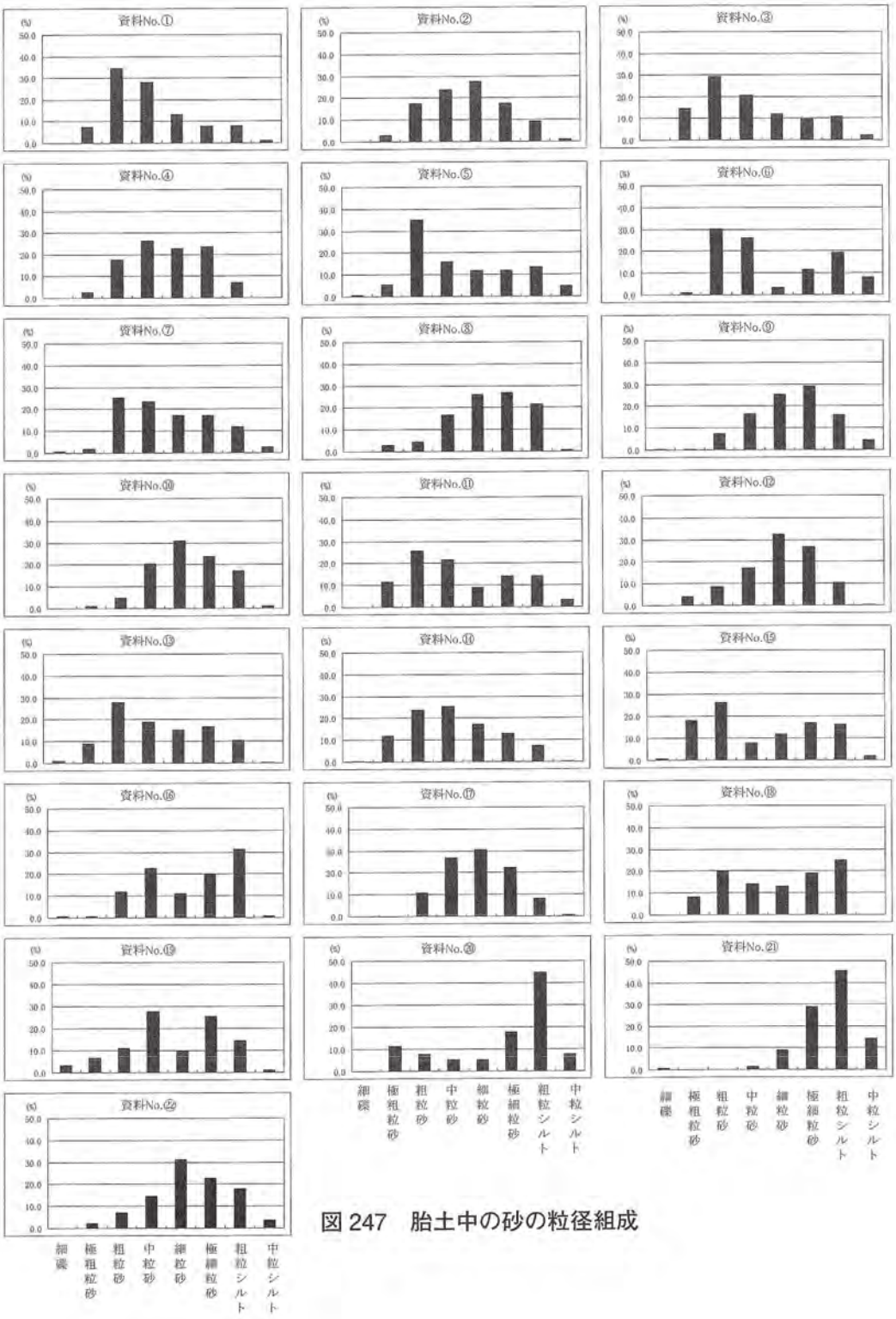


図247　胎土中の砂の粒径組成

e類：粗粒シルトをモードとする。資料No. ⑯、⑱、⑳、㉑の4点がe類である。その中で、資料No. ㉑以外の3点には、順に中粒砂、粗粒砂、極粗粒砂の各粒径に第二のピークが認められる。

各試料の砕屑物・基質・孔隙の割合（図248）をみると、試料によって砕屑物の割合が15～30%までを示す。ここでは、15～20%、20～25%、25%以上をそれぞれⅠ類、Ⅱ類、Ⅲ類とした。今回の試料ではⅢ類が最も多く、9点あり、次いでⅠ類が8点、Ⅱ類は5点である。

以上述べた各試料の胎土分類結果をまとめて表16に併記する。

（2）推定地域ごとの胎土の状況

1）紀ノ川中流域

弥生土器10点は全てA類に分類され、中でもA2類が多く、6点を占める。出土遺跡別および時期別にみると西飯降Ⅱ遺跡の弥生時代中期の土器は、6点中4点がA2類であり、A1類とA4類がそれぞれ1点ずつある。丁ノ町・妙寺遺跡の弥生時代中期末葉の土器4点は、A2類とA3類にそれぞれ2点ずつに分かれる。なお、鉱物・岩石組成と粒径組成との対応関係をみると、西飯降Ⅱ遺跡のA2類は、4点のうち3点までがa類であり、資料No. ④のみがb1類を示した。丁ノ町・妙寺遺跡では、A2類はともにa類であるが、A3類はd類とe類に分かれた。また、砕屑物の割合との対応関係は明瞭ではない。

紀ノ川中流域とされた中で唯一土師器とされた西飯降Ⅱ遺跡の資料No. ⑲は、B類に分類され、粒径組成はb1類に分類された。いずれの分類も、上記の弥生土器には認められていない。

2）瀬戸内

丁ノ町・妙寺遺跡の弥生時代後期前葉とされた資料No. ⑨の1点のみであるが、A3類かつd類に分類された。この胎土分類は、同遺跡出土の紀ノ川中流域とされた資料No. ⑧と同様である。

3）生駒西麓

西飯降Ⅱ遺跡の弥生時代中期の土器1点と丁ノ町・妙寺遺跡の弥生時代中期末葉の土器1点および丁ノ町・妙寺遺跡出土土器1点の計3点あるが、いずれもE類かつc類であり、さらにⅠ類である。所見と胎土分類との対応が最も明瞭な結果を示している。

4）有田川下流域

野田地区遺跡出土の土師器2点のみであるが、ともにC類かつe類およびⅢ類に分類された。上述した生駒西麓と並んで、所見と胎土との対応関係が明瞭な結果となっている。

5）大和盆地

丁ノ町・妙寺遺跡の弥生時代中期の土器はA5類かつe類であり、西飯降Ⅱ遺跡の弥生時代後期とされた土器は、D類かつc類である。両者の胎土に共通性は少ないが、A5類はA類の中でも花崗岩類の量比がやや高い傾向にあり、花崗岩類が主体を占めるD類との近似性は窺える。

6）絵画土器

西飯降Ⅱ遺跡出土試料で絵画土器が2点あり、発掘調査所見による推定地域は不明である。ともにD類に分類されたが、粒径組成はa類とb1類に分かれ、砕屑物もⅡ類とⅢ類に分かれる。上述したように大和盆地とされた土器の中にもD類が認められている。

5．考察

各試料の胎土に認められた鉱物・岩石組成は、胎土の材料となった粘土や砂の採取地の地質学的背景を反映していると考えられる。今回認められた胎土のうち、A類から推定される地質学的背景は、チャート、頁岩、砂岩を含む堆積岩類からなる地質と片岩類からなる変成岩帯が想定さ

れる。西飯降Ⅱ遺跡および丁ノ町・妙寺遺跡の位置する紀ノ川沿いの地質を（日本の地質「近畿地方」編集委員会 1987）および（栗本ほか 1998）などにより概観すると、西飯降Ⅱ遺跡および丁ノ町・妙寺遺跡の北側に広がる和泉山脈は、主に白亜紀後期の堆積岩類からなる和泉層群により構成され、山脈南縁には白亜紀に形成された片岩類からなる三波川帯の分布も狭小ながら認められる。ただし、和泉層群を構成する岩石は礫岩・砂岩・泥岩であり、また、礫岩中の礫種には、チャート、砂岩、泥岩、酸性火砕岩（流紋岩や流紋岩質凝灰岩などが含まれる）、花崗岩類、ホルンフェルス化した泥岩などがあげられているが、頁岩および緑色岩の記載はない（近畿西部 MTL 研究グループ 1981）。さらに、上述の狭小な三波川帯は、おもに砂質片岩や泥質片岩（石英片岩や雲母片岩など）から構成されており、緑色岩の分布は認められていない。したがって、西飯降Ⅱ遺跡および丁ノ町・妙寺遺跡の背後の山地から供給される堆積物のみでは、A 類の鉱物・岩石組成は構成されない。一方、紀ノ川南岸側の山地は、橋本市付近より下流側では広く三波川帯が分布し、九度山町付近より下流域の三波川帯には苦鉄質片岩（緑色片岩など）も分布している。また、橋本市付近より上流側すなわち吉野川の南岸の山地には、四万十帯と呼ばれる白亜紀後期の堆積岩類が広く分布している。この地域の四万十帯は、主に頁岩により構成されており、チャートや砂岩、さらには凝灰岩および緑色岩も含まれている。

以上述べた地質記載から、A 類は、和泉層群、三波川帯および四万十帯の 3 者に由来する砕屑物が混在する西飯降Ⅱ遺跡および丁ノ町・妙寺遺跡付近の紀ノ川の沖積低地の堆積物に由来する可能性がある。A1 ～ A5 類までの違いは、より局所的な採取地の違いが反映されていると考えられる。現時点では、西飯降Ⅱ遺跡および丁ノ町・妙寺遺跡付近における堆積物の分析例を得ていないため、A 類の中の細分類が示す地域までは推定できない。今後の検討課題として考えたい。

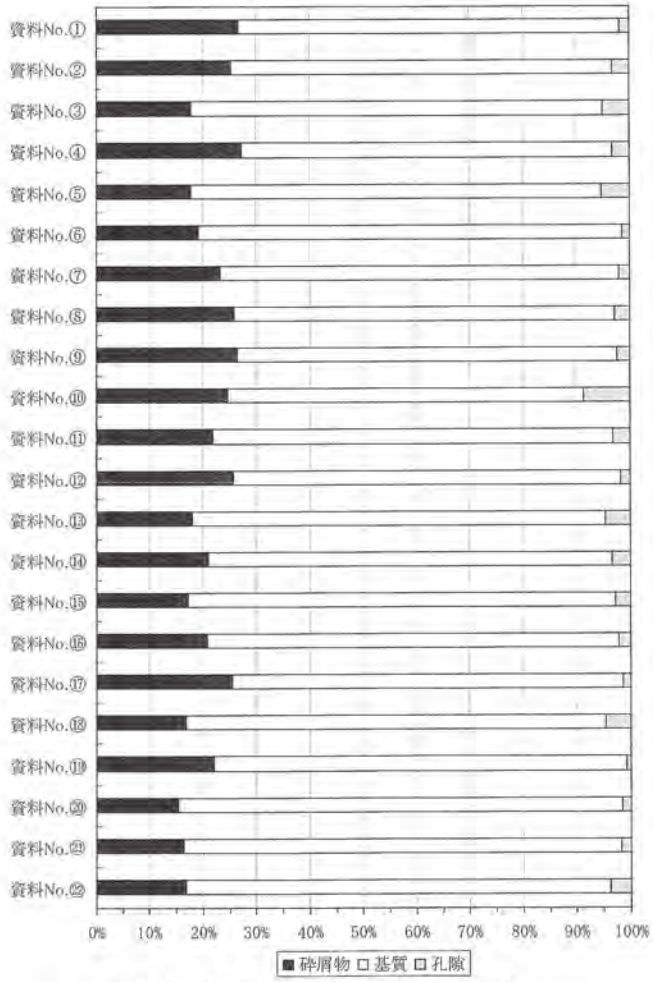


図 248　砕屑物・基質・孔隙の割合

B 類については、堆積岩類を全く含まないことから、和泉層群や四万十帯の分布する紀ノ川沿いの地域に由来する可能性は低い。紀ノ川流域周辺で考えるならば、三波川帯により構成されている山地に囲まれている海南市付近の低地などが、B 類の示す地域性として推定することができる。

C 類は、岩石片の組成から見れば、堆積岩類の主に広がる地質学的背景を示唆するが、極めて微量ながらも緑色岩や石英片岩を含むことを考慮すれば、変成岩帯に由来する砕屑物も混在するような地域が想定される。今回の試料に限ってみれば、C 類は有田川下流に位置する野田地区遺跡出土土器のみに認められているが、有田川下流域の地質学的背景として

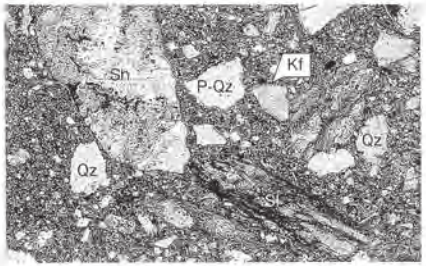
は、南岸側にジュラ紀の堆積岩類（主にチャート、砂岩、頁岩など）からなる秩父帯が分布し、北岸側には三波川帯の中でも緑色岩や緑色片岩、千枚岩および石英片岩からなる御荷鉾緑色岩類が広く分布している。このような地質学的背景を考慮すれば、C類の示唆する地域性として有田川下流域の特に南岸側という想定は可能である。

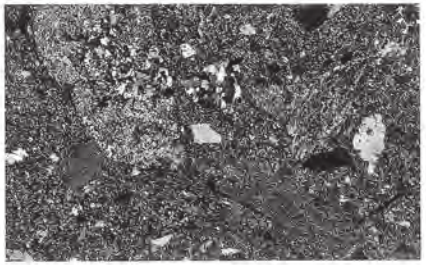
D類の岩石片の組成は、堆積岩類は含まれないか極めて微量であり、変成岩類は全く含まれない。これらの特徴は、上述した紀ノ川沿いや海南市および有田川下流域などの地質学的背景とは整合しない。したがって、少なくともこれらの地域には由来しないと考えられる。D類の特徴である花崗岩類からなる地質の、紀ノ川沿い周辺から最も近い分布域としては、領家花崗岩類の分布する和泉山脈北縁から奈良盆地を取り囲む金剛・生駒・高見・笠置・信楽の各山地におよぶ広い地域をあげることができる。今回の分析では、大和盆地とされた資料No. ㉒がD類であったことから、D類の地域性としては奈良盆地およびその周辺地域を推定することができる。

E類の特徴は角閃石を多量に含むことであるが、岩石片では花崗岩類や閃緑岩および角閃石岩などが認められており、堆積岩類や変成岩類などは全く含まれていない。したがってE類も、D類と同様に紀ノ川沿いや海南市、有田川下流域などの地域には由来しない。一方、E類は、今回の試料では、いずれも発掘調査所見により生駒西麓とされた試料にのみ認められている。生駒山地を構成する地質は、（生駒山地領家帯研究グループ 1986）などにより詳細を知ることができるが、主に角閃石はんれい岩からなる岩体を領家帯の花崗岩類が取り囲んでいる状況が確認される。また、E類の試料中に認められた角閃石の結晶の顕微鏡下における特徴は、閃緑岩やはんれい岩などの深成岩類に由来するものと同様であった。これらのことから、E類の示す地域性は、その考古学所見が示す生駒西麓地域であるとしても矛盾はない。

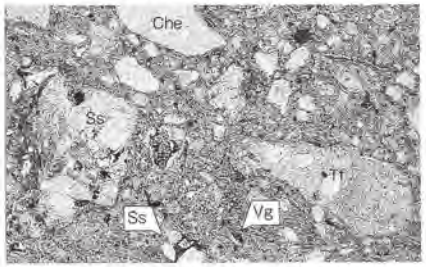
以上に述べたA類からE類までの各地域性は、今回の試料22点と既存の地質記載から推定したものであり、今後の課題としては、A類の地域性でも述べたように、実際の堆積物の分析例を得るなどの検証作業が必要であると考えられる。また、周辺各遺跡から出土した土器の分析例の蓄積も必要である。

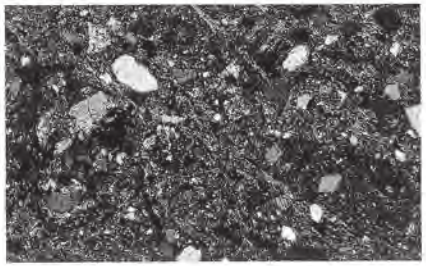
特に、紀ノ川沿いの地域性を問題とするならば、例えば奈良県五條市より上流の吉野川では、北岸に領家帯の花崗岩類、南岸に四万十帯が分布し、和歌山県に入って橋本市付近から九度山町付近までは北岸に和泉層群、南岸には三波川帯と四万十帯が分布、九度山町より下流では、北岸には和泉層群が分布するが、南岸には三波川帯が広く分布するという地質状況から、上流では花崗岩類と堆積岩類を主とした胎土、中流では堆積岩類と変成岩類を主とした胎土（今回のA類）、下流側では、四万十帯の影響がおそらくその上流域より少なくなっているという状況が推定されることから、頁岩を含まずに砂岩・泥岩を主とする堆積岩類と緑色片岩の多い変成岩類からなる胎土というような地域性が想定される。今後の分析例の蓄積によって、このような地域性が認められれば、紀ノ川沿いの集落間の関係などの研究において重要な資料を提供することも期待される。





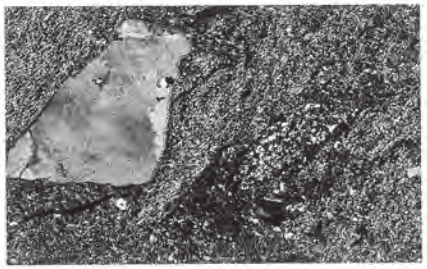
1. 資料 No.①（弥生土器　壺　弥生時代中期　2006　西飯降Ⅱ遺跡）



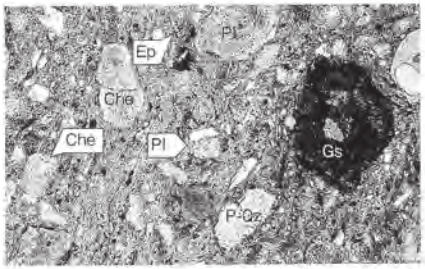


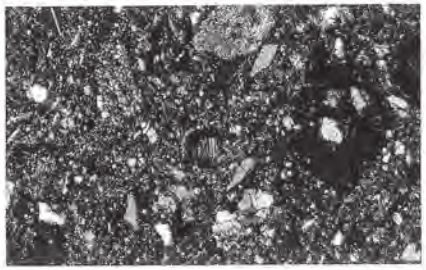
2. 資料 No.②（弥生土器　壺　弥生時代中期　2006　西飯降Ⅱ遺跡）





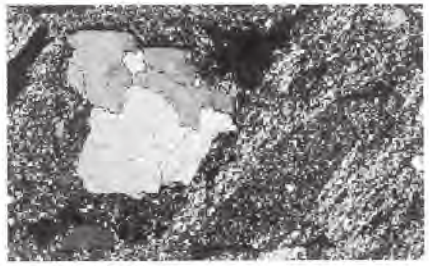
3. 資料 No.③（弥生土器　弥生時代中期　2006　西飯降Ⅱ遺跡）



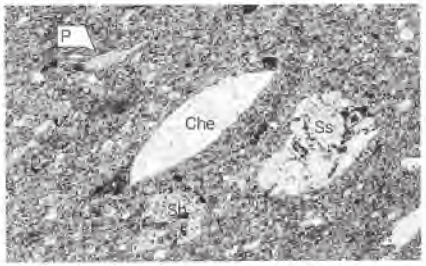


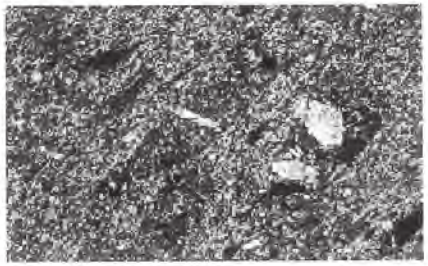
4. 資料 No.④（弥生土器　壺　弥生時代中期　2006　西飯降Ⅱ遺跡）



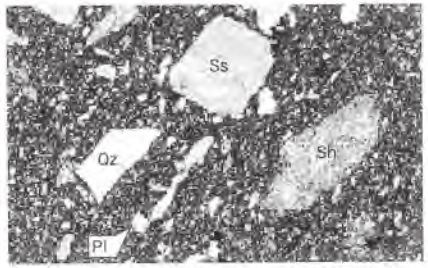


5. 資料 No.⑤（弥生土器　壺　弥生時代中期　2006　西飯降Ⅱ遺跡）



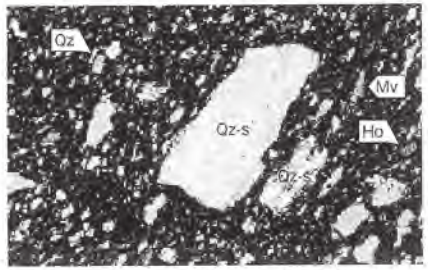


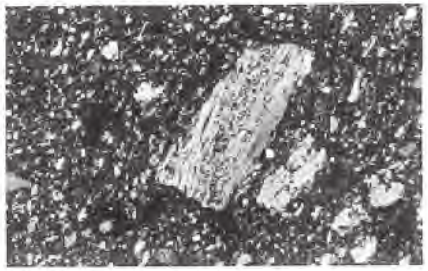
6. 資料 No.⑥（弥生土器　壺　弥生時代中期末葉　2007　丁ノ町・妙寺遺跡）





7. 資料 No.⑦（弥生土器　鉢　弥生時代中期末葉　2007　丁ノ町・妙寺遺跡）



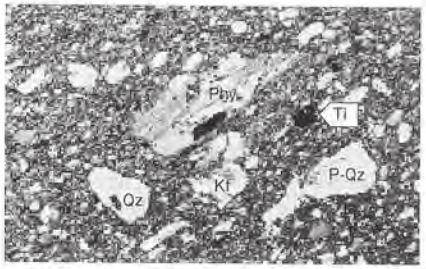


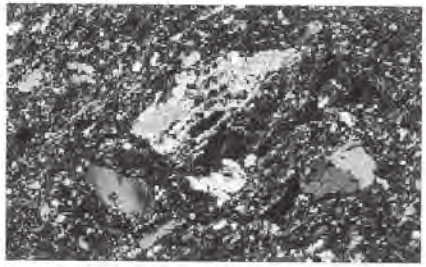
8. 資料 No.⑧（弥生土器　壺　弥生時代中期末葉　2007　丁ノ町・妙寺遺跡）

0.5mm

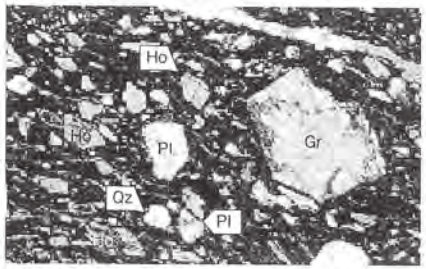
Qz: 石英．Kf: カリ長石．Pl: 斜長石．Ep: 緑レン石．Che: チャート．Sh: 頁岩．Ss: 砂岩．Tf: 凝灰岩．P-Qz: 多結晶石英．Hf: ホルンフェルス．Sl: 粘板岩．Gs: 緑色岩．Vg: 火山ガラス．
写真左列は下方ポーラー，写真右列は直交ポーラー下。

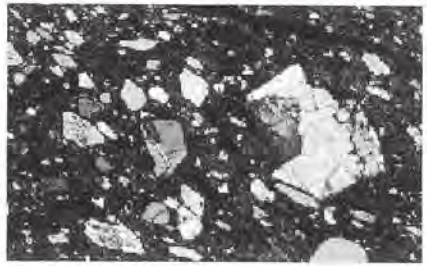
写真 11　胎土薄片（1）



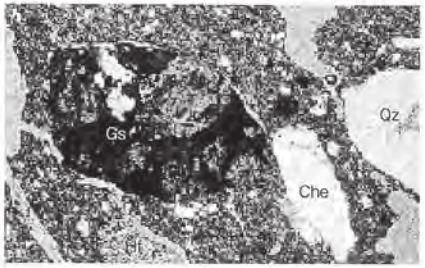


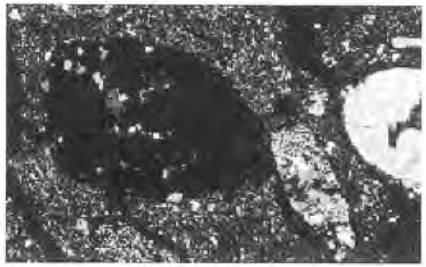
9. 資料 No. ⑨（弥生土器　壺　弥生時代後期初頭　2006　丁ノ町・妙寺遺跡）



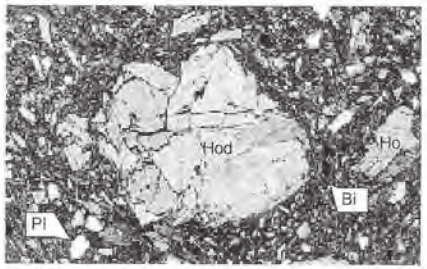


10. 資料 No. ⑩（弥生土器　壺　弥生時代中期　2006　西飯降Ⅱ遺跡）



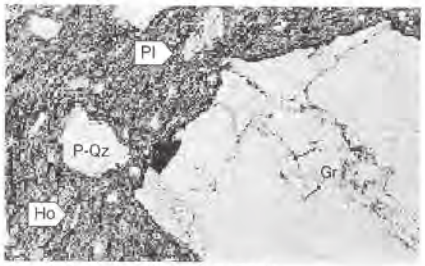


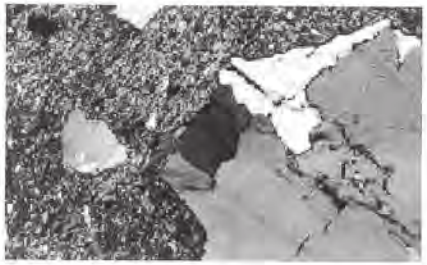
11. 資料 No. ⑪（弥生土器　壺　弥生時代中期　2006　西飯降Ⅱ遺跡）



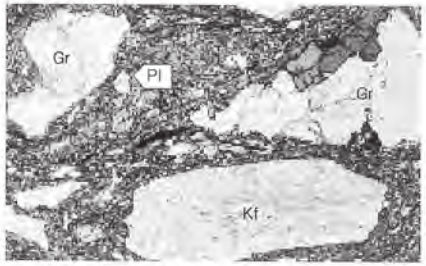


12. 資料 No. ⑫（弥生土器　甕　弥生時代中期末葉　2007　丁ノ町・妙寺遺跡）



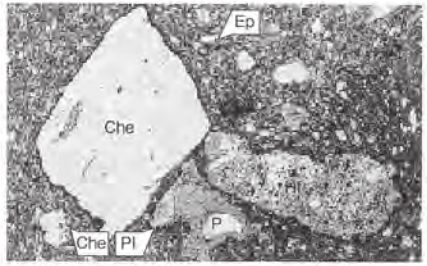


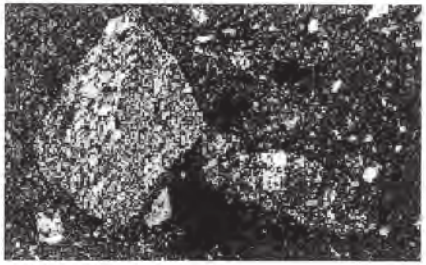
13. 資料 No. ⑬（西飯降Ⅱ遺跡）



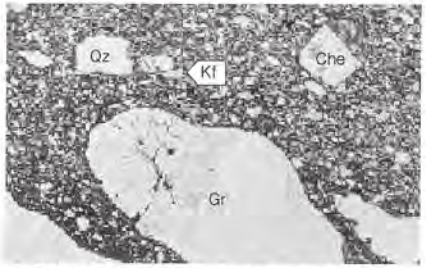


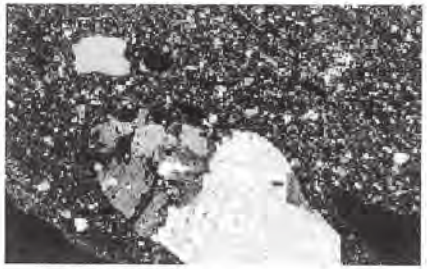
14. 資料 No. ⑭（西飯降Ⅱ遺跡）





15. 資料 No. ⑮（弥生土器　壺　弥生時代中期末葉　2007　丁ノ町・妙寺遺跡）



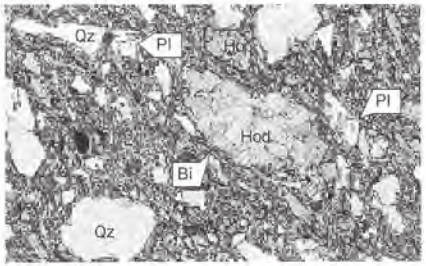


16. 資料 No. ⑯（弥生土器　甕　弥生時代中期　2006　丁ノ町・妙寺遺跡）

0.5mm

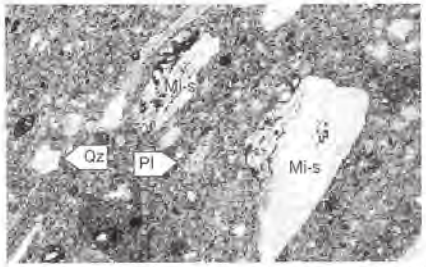
Qz: 石英．Kf: カリ長石．Pl: 斜長石．Ho: 角閃石．Bi: 黒雲母．Ti: チタン石．Che: チャート．P-Qz: 多結晶石英．Gr: 花崗岩．Hod: 角閃石岩．Phy: 千枚岩．Hf: ホルンフェルス．Gs: 緑色岩．
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

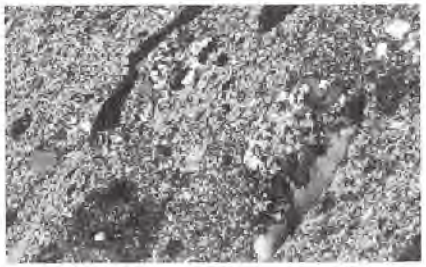
写真 12　胎土薄片（2）



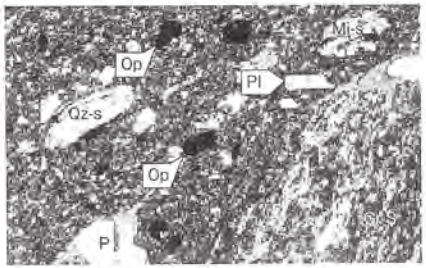


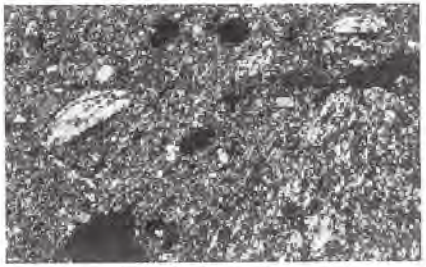
17. 資料 No. ⑰（丁ノ町・妙寺遺跡）



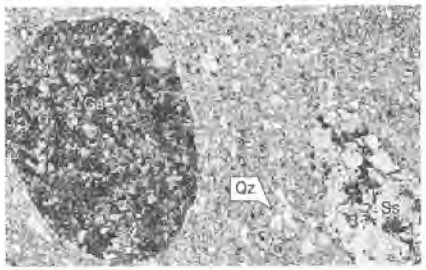


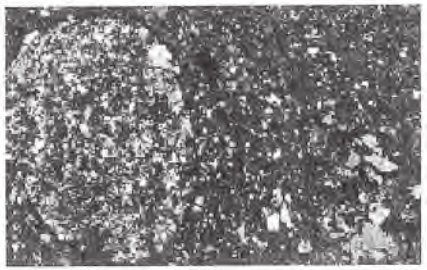
18. 資料 No. ⑱（弥生土器　甕　弥生時代中期末葉　2007　丁ノ町・妙寺遺跡）



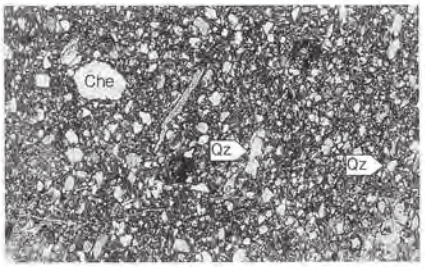


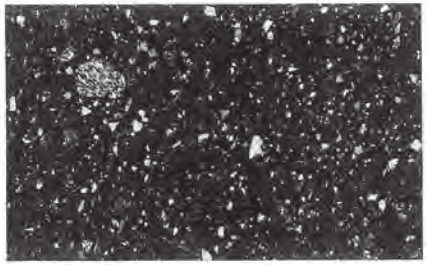
19. 資料 No. ⑲（古式土師器　直口壺　古墳時代前期　2006　西飯降Ⅱ遺跡）



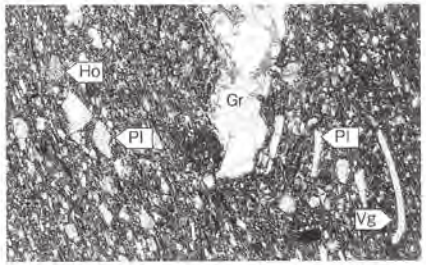


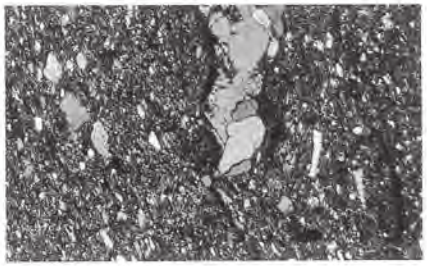
20. 資料 No. ⑳（土師器　甕　古墳時代前期　2006　野田地区遺跡）





21. 資料 No. ㉑（土師器　高杯　古墳時代前期　2006　野田地区遺跡）





22. 資料 No. ㉒（弥生土器　鉢　弥生時代後期　2006　西飯降Ⅱ遺跡）

Qz: 石英．Pl: 斜長石．Ho: 角閃石．Che: チャート．Gr: 花崗岩．Vg: 火山ガラス．
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

写真 13　胎土薄片（3）

第９節　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土サヌカイト製遺物の原材産地分析

有限会社遺物材料研究所

1. はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光Ｘ線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石製遺物の石材産地推定を行なっている（藁科・東村 1975、藁科・東村・鎌木 1977・1978、藁科・東村 1983)。最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千㎞は一般的で、６千㎞を推測する学者もでてきている。このような研究結果が出てきている現在、正確に産地を判定すると言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成の黒曜石が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千㎞の内にある石器の原材産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。ノーベル賞を受賞された益川敏英博士の言を借りれば、科学とは、仮説をたて正しいか否かあらゆる可能性を否定することにある。即ち十分条件の証明が非常に重要であると言い換えられると思われる。『遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されているとはじめて言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。』

2．産地分析の方法

先ず原石採取であるが、本来一つの産地から産出する全ての原石を採取（産地の何処の箇所から古代人が採取したか不明、現在採取地点が風雨で消滅している可能性のため）し分析する必要があるが不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも、産地全ての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測される方法として理論的に証明されている方法で、マハラノビスの距離を求めて行うホテリングのＴ２乗検定がある。

産地分析を正しく行うには、地質学の常識的な知識さえあればよく、火山学、堆積学などの専門知識は必要なく、実際の分析においては非破壊で遺物の形状の違いによる相対定量値の影響を評価しながら同定を行うことが必要であり、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って客観的な判定を行うかである。クラスター法、元素散布図法の欠点を解決するために考え出された方法が、理論的に証明された判定法であるホテリングのＴ２乗検定法である。それにはある産地の原石の元素組成と遺物の元素組成が一致すれば、そこの産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。

考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり、それらが一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味をもつ結果である。しかし、石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなど主観的要素が入った事象を十分条件の代用にすると産地分析は中途半端なものとなり、結果として遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性

がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の元素組成が一致し、必要条件を満たしたとき、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、偶然（産地分析法が不完全なために）に一致した可能性も大きくB、C、D・・・の産地でないとの証拠がないために、A産地だと言い切れない。そこで、考えられるのは、可能なかぎり地球上の全ての原産地（A、B、C、D・・・・）の原石群と遺物を比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを証明すればそれが十分条件となり、石器がA産地の原石を使用したものであると決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは各々の観察者で分類基準が異なるため混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によってそれぞれ異なり、実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかに左右され、比較した産地が少なければ信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分の元素組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分の元素組成には違いがあると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点が異なる可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのＴ２乗検定を行うことにより、古代人が原石を採取した地点を推測して産地分析ができる。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ元素組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・・一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。



図249　サヌカイトおよびサヌカイト様岩石の原産地

表20－1　各サヌカイト（安山岩）の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地名原石群名		分析個数	元素比									
			K／Ca	Ti／Ca	Mn／Sr	Fe／Sr	Rb／Sr	Y／Sr	Zr／Sr	Nb／Sr	Al／Ca	Si／Ca
北海道	無加林道露頭	43	0.343±0.012	0.435±0.010	0.082±0.002	5.012±0.059	0.165±0.011	0.115±0.008	0.898±0.018	0.022±0.009	0.021±0.001	0.177±0.005
	旭山動物園	80	0.351±0.011	0.288±0.010	0.089±0.005	5.064±0.140	0.174±0.011	0.096±0.009	0.903±0.029	0.015±0.012	0.015±0.001	0.141±0.005
	谷頭A	48	0.278±0.010	0.323±0.009	0.086±0.009	4.941±0.223	0.143±0.008	0.095±0.010	0.768±0.032	0.012±0.006	0.018±0.002	0.149±0.005
	谷頭B	82	0.341±0.014	0.295±0.017	0.085±0.011	4.787±0.310	0.177±0.014	0.102±0.015	0.929±0.041	0.021±0.010	0.021±0.002	0.169±0.008
	谷頭C	50	0.238±0.016	0.303±0.008	0.116±0.012	7.800±0.313	0.160±0.016	0.135±0.015	0.856±0.056	0.018±0.012	0.018±0.002	0.150±0.009
	谷頭D	49	0.319±0.008	0.466±0.011	0.119±0.012	6.686±0.217	0.131±0.012	0.140±0.012	0.894±0.042	0.012±0.007	0.019±0.002	0.160±0.007
群馬県	荒船山	43	0.194±0.070	0.360±0.028	0.129±0.014	9.205±1.153	0.080±0.034	0.085±0.014	0.458±0.082	0.008±0.010	0.013±0.021	0.123±0.022
神奈川県	火打沢	40	0.092±0.005	0.285±0.009	0.166±0.009	12.406±0.332	0.023±0.006	0.111±0.008	0.483±0.023	0.005±0.007	0.012±0.001	0.012±0.001
新潟県	東頸八川	42	0.139±0.003	0.424±0.005	0.065±0.002	5.040±0.127	0.091±0.004	0.044±0.003	0.575±0.008	0.015±0.008	0.018±0.000	0.110±0.001
	柚野	48	0.231±0.008	0.349±0.028	0.141±0.015	10.218±0.328	0.141±0.012	0.159±0.011	0.819±0.042	0.019±0.012	0.012±0.001	0.124±0.005
福井県	滝波川	52	0.327±0.010	0.333±0.008	0.056±0.005	3.145±0.088	0.084±0.005	0.510±0.006	0.606±0.027	0.015±0.006	0.020±0.002	0.150±0.005
	法恩寺山	38	0.478±0.029	0.349±0.020	0.033±0.003	2.137±0.099	0.148±0.007	0.038±0.008	0.667±0.028	0.022±0.006	0.024±0.002	0.192±0.012
長野県	横川	70	0.183±0.007	0.340±0.017	0.153±0.017	11.018±0.398	0.119±0.011	0.157±0.013	0.721±0.030	0.019±0.009	0.012±0.001	0.113±0.005
	八恵山	46	0.274±0.028	0.324±0.010	0.090±0.008	4.905±0.505	0.104±0.009	0.100±0.009	0.581±0.033	0.012±0.009	0.018±0.002	0.168±0.014
岐阜県	下呂	93	1.576±0.055	0.227±0.011	0.038±0.004	0.766±0.025	0.277±0.020	0.031±0.013	0.504±0.024	0.035±0.009	0.052±0.003	0.660±0.025
愛知県	豊川	51	0.299±0.007	0.568±0.020	0.052±0.009	4.672±0.338	0.115±0.006	0.083±0.019	0.848±0.028	0.031±0.009	0.020±0.002	0.151±0.005
	茶臼山	24	0.293±0.005	0.324±0.007	0.093±0.009	5.643±0.256	0.141±0.009	0.107±0.011	1.086±0.037	0.038±0.009	0.021±0.002	0.157±0.006
奈良県	一上山	51	0.288±0.010	0.215±0.006	0.071±0.006	4.629±0.270	0.202±0.012	0.065±0.009	0.620±0.022	0.024±0.010	0.019±0.001	0.144±0.005
	穴虫No94	46	0.280±0.010	0.207±0.005	0.069±0.002	4.544±0.116	0.197±0.009	0.064±0.005	0.592±0.021	0.012±0.009	0.015±0.001	0.121±0.003
	穴虫・田尻	44	0.248±0.009	0.196±0.006	0.072±0.002	4.884±0.107	0.205±0.008	0.061±0.007	0.588±0.016	0.009±0.007	0.016±0.001	0.135±0.005
大阪府	和泉	26	0.494±0.023	0.325±0.025	0.056±0.004	4.060±0.148	0.296±0.021	0.065±0.010	0.706±0.025	0.038±0.010	0.023±0.001	0.194±0.009
	柏原・奥山礫層2	44	0.295±0.003	0.230±0.004	0.045±0.002	4.036±0.084	0.202±0.008	0.078±0.006	0.623±0.009	0.016±0.001	0.016±0.001	0.128±0.002
兵庫県	追屋第1群	28	0.616±0.021	0.254±0.012	0.057±0.005	3.610±0.189	0.365±0.019	0.056±0.012	0.846±0.026	0.027±0.017	0.018±0.001	0.186±0.007
	追屋第2群	24	0.535±0.020	0.263±0.005	0.053±0.005	3.438±0.103	0.346±0.015	0.042±0.012	1.069±0.030	0.026±0.014	0.017±0.001	0.173±0.008
	波路第3群	48	0.782±0.032	0.257±0.011	0.065±0.003	4.086±0.103	0.395±0.015	0.088±0.017	1.175±0.055	0.030±0.018	0.039±0.001	9.284±0.011
	申山	22	0.390±0.017	0.154±0.005	0.056±0.007	3.350±0.261	0.130±0.012	0.061±0.033	0.574±0.021	0.012±0.007	0.018±0.001	0.159±0.006
香川県 五色台	国分寺	28	0.457±0.011	0.251±0.007	0.053±0.005	3.574±0.122	0.311±0.019	0.043±0.016	0.970±0.033	0.038±0.015	0.015±0.001	0.149±0.005
	蓮光寺	18	0.459±0.012	0.249±0.008	0.053±0.005	3.518±0.129	0.308±0.019	0.043±0.015	0.972±0.037	0.034±0.009	0.016±0.001	0.150±0.004
	白峰	51	0.534±0.015	0.262±0.005	0.053±0.005	3.376±0.108	0.340±0.014	0.040±0.016	1.071±0.051	0.032±0.011	0.017±0.001	0.173±0.007
	法印谷	25	0.397±0.009	0.239±0.004	0.069±0.005	4.619±0.127	0.277±0.012	0.059±0.011	1.145±0.029	0.031±0.013	0.015±0.001	0.130±0.004
金山	金山裏	48	0.478±0.014	0.227±0.006	0.076±0.009	4.511±0.119	0.293±0.022	0.033±0.014	1.163±0.046	0.020±0.010	0.025±0.003	0.188±0.005
	金山西	43	0.414±0.011	0.217±0.006	0.078±0.007	4.574±0.132	0.283±0.014	0.073±0.015	1.100±0.040	0.032±0.013	0.023±0.002	0.168±0.006
	金山東南	48	0.453±0.014	0.219±0.007	0.076±0.003	4.492±0.088	0.295±0.010	0.076±0.010	1.133±0.034	0.026±0.009	0.019±0.005	0.151±0.028
	城山	63	0.402±0.011	0.216±0.008	0.079±0.006	4.741±0.138	0.259±0.014	0.058±0.016	1.065±0.026	0.021±0.014	0.013±0.001	0.116±0.003
	双子山	54	0.350±0.007	0.233±0.005	0.074±0.006	4.898±0.169	0.261±0.012	0.061±0.014	1.093±0.035	0.023±0.016	0.011±0.002	0.105±0.004
	＊奥池第1群	51	0.842±0.046	0.127±0.006	0.024±0.006	2.087±0.088	0.492±0.030	0.018±0.018	0.722±0.047	0.045±0.013	0.035±0.003	0.434±0.024
	＊奥池第2群	50	0.641±0.052	0.133±0.007	0.033±0.007	2.471±0.135	0.391±0.028	0.021±0.017	0.934±0.067	0.038±0.011	0.029±0.003	0.331±0.027
	＊雄山	50	0.827±0.052	0.128±0.006	0.026±0.008	2.119±0.091	0.485±0.032	0.016±0.018	0.731±0.050	0.043±0.014	0.035±0.003	0.421±0.027
	＊神谷・雨山	51	0.852±0.040	0.131±0.007	0.027±0.008	2.083±0.033	0.495±0.026	0.026±0.016	0.703±0.045	0.050±0.014	0.035±0.004	0.433±0.023
	＊大麻山南第1群	39	0.693±0.072	0.149±0.007	0.041±0.010	2.792±0.180	0.473±0.043	0.034±0.021	0.965±0.061	0.044±0.012	0.029±0.003	0.344±0.038
	＊大麻山南第2群	34	0.992±0.041	0.124±0.009	0.034±0.011	2.370±0.138	0.691±0.024	0.021±0.022	0.774±0.032	0.054±0.015	0.038±0.004	0.480±0.018
愛媛県	中井谷	40	0.458±0.041	0.374±0.007	0.073±0.009	5.160±0.157	0.393±0.022	0.108±0.017	1.473±0.051	0.037±0.021	0.020±0.008	0.219±0.009
鳥取県	馬ノ山	41	0.188±0.007	0.178±0.006	0.011±0.001	0.916±0.033	0.032±0.002	0.001±0.002	0.177±0.009	0.004±0.002	0.015±0.001	0.111±0.005
	下砂見	46	0.168±0.003	0.162±0.004	0.021±0.003	1.447±0.038	0.028±0.004	0.011±0.003	0.262±0.026	0.007±0.003	0.016±0.001	0.119±0.005
	麻畑	51	0.442±0.012	0.444±0.044	0.061±0.006	3.570±0.097	0.109±0.008	0.030±0.009	0.988±0.032	0.078±0.009	0.027±0.003	0.206±0.006
広島県 冠山	冠高原	60	0.651±0.021	0.485±0.014	0.046±0.004	3.322±0.104	0.174±0.009	0.029±0.009	0.462±0.017	0.185±0.010	0.025±0.002	0.241±0.008
	仲間C	45	0.277±0.010	0.345±0.008	0.019±0.002	1.804±0.057	0.039±0.015	0.008±0.006	0.368±0.012	0.026±0.006	0.019±0.001	0.171±0.006
	仲間A	51	0.340±0.008	0.319±0.006	0.020±0.003	1.347±0.025	0.047±0.011	0.011±0.005	0.381±0.021	0.044±0.056	0.019±0.002	0.190±0.009
	冠山東	29	0.323±0.019	0.353±0.031	0.019±0.001	1.807±0.060	0.059±0.009	0.003±0.005	0.399±0.043	0.025±0.009	0.021±0.001	0.171±0.006
	御山	25	1.116±0.061	0.472±0.022	0.037±0.005	2.228±0.080	0.245±0.011	0.023±0.009	0.524±0.014	0.246±0.013	0.038±0.003	0.391±0.021
山口県	平生	45	0.184±0.009	0.190±0.006	0.112±0.031	7.290±0.346	0.170±0.015	0.077±0.011	0.691±0.040	0.026±0.010	0.011±0.001	0.087±0.004
	長島・瀬戸	48	0.136±0.023	0.198±0.014	0.122±0.008	8.329±0.502	0.146±0.020	0.108±0.011	0.642±0.019	0.023±0.015	0.010±0.001	0.079±0.006
	八島	45	0.234±0.010	0.227±0.004	0.078±0.004	6.121±0.201	0.198±0.008	0.043±0.004	0.784±0.014	0.017±0.007	0.024±0.001	0.129±0.003
福岡県 八女市	昭和池第1群	50	1.825±0.041	0.644±0.024	0.053±0.007	2.125±0.063	0.453±0.019	0.107±0.017	1.477±0.049	0.044±0.022	0.050±0.003	0.500±0.012
	昭和池第2群	50	1.592±0.066	0.609±0.020	0.061±0.005	2.075±0.123	0.534±0.009	0.111±0.020	1.671±0.134	0.049±0.012	0.042±0.003	0.418±0.014
	昭和池第3群	50	3.144±0.089	0.724±0.036	0.073±0.009	2.919±0.099	0.925±0.048	0.181±0.026	2.820±0.114	0.072±0.020	0.074±0.026	0.817±0.040
	昭和池第4群	50	1.922±0.108	0.681±0.050	0.064±0.005	3.023±0.103	0.607±0.033	0.122±0.017	1.887±0.098	0.050±0.015	0.050±0.004	0.499±0.018
佐賀県	多久第1群	40	0.820±0.053	0.405±0.013	0.056±0.009	4.680±0.233	0.494±0.033	0.049±0.029	0.912±0.045	0.199±0.030	0.031±0.003	0.284±0.017
	多久第2群	42	0.844±0.061	0.395±0.019	0.061±0.010	5.106±0.397	0.539±0.053	0.069±0.030	0.911±0.050	0.197±0.028	0.032±0.004	0.293±0.026
	扇野(多久第3群)	42	1.287±0.051	0.340±0.012	0.058±0.010	3.843±0.225	0.784±0.030	0.081±0.022	0.824±0.033	0.285±0.032	0.038±0.009	0.458±0.050
	志松山	62	0.704±0.029	0.314±0.009	0.073±0.015	5.266±0.176	0.533±0.035	0.077±0.027	0.720±0.053	0.191±0.035	0.026±0.028	0.249±0.010
	寺山・岡本	50	0.629±0.043	0.310±0.088	0.070±0.012	5.553±0.236	0.492±0.034	0.083±0.021	0.700±0.032	0.180±0.027	0.024±0.002	0.227±0.014
	西有田	42	0.461±0.023	0.332±0.008	0.098±0.003	7.468±0.217	0.309±0.013	0.081±0.005	0.569±0.011	0.109±0.010	0.019±0.001	0.174±0.006
	松尾転嶺	47	0.717±0.036	0.410±0.012	0.081±0.006	5.312±0.241	0.383±0.024	0.094±0.013	0.810±0.039	0.095±0.023	0.028±0.027	0.291±0.014
	松尾第2群	40	0.970±0.032	0.330±0.009	0.066±0.007	3.683±0.122	0.431±0.021	0.077±0.016	0.554±0.023	0.110±0.021	0.034±0.003	0.377±0.012
	椎葉屋第1群	42	0.822±0.027	0.369±0.010	0.065±0.007	3.888±0.236	0.392±0.021	0.076±0.018	0.540±0.049	0.089±0.020	0.027±0.009	0.330±0.013
	椎葉屋第2群	41	0.675±0.016	0.390±0.010	0.073±0.007	4.666±0.218	0.346±0.021	0.078±0.012	0.582±0.065	0.087±0.013	0.024±0.007	0.260±0.011
	椎葉屋第3群	12	0.538±0.011	0.401±0.007	0.076±0.010	5.271±0.189	0.296±0.019	0.075±0.015	0.587±0.024	0.075±0.009	0.022±0.002	0.227±0.009
	椎葉屋第4群	37	0.744±0.014	0.409±0.010	0.080±0.010	5.176±0.202	0.399±0.020	0.092±0.015	0.807±0.027	0.096±0.023	0.029±0.003	0.302±0.010
長崎県	大串	28	1.111±0.118	0.140±0.009	0.055±0.020	1.650±0.236	0.236±0.043	0.041±0.027	0.486±0.038	0.082±0.022	0.050±0.006	0.807±0.059
	亀岳	19	1.072±0.042	0.144±0.008	0.041±0.006	1.776±0.152	0.233±0.014	0.015±0.013	0.497±0.018	0.065±0.015	0.049±0.003	0.587±0.018
	牟田第1群	51	0.798±0.084	0.341±0.023	0.067±0.009	4.581±0.198	0.884±0.119	0.224±0.055	0.753±0.062	0.259±0.053	0.029±0.004	0.273±0.028
	牟田第2群	40	0.588±0.042	0.330±0.018	0.088±0.014	7.611±0.599	1.058±0.119	0.348±0.069	1.033±0.102	0.402±0.064	0.023±0.003	0.203±0.014
	川棚第1群	59	0.495±0.030	0.302±0.011	0.067±0.005	4.225±0.181	0.220±0.018	0.076±0.010	0.814±0.048	0.035±0.012	0.012±0.002	0.133±0.006
	川棚第2群	42	0.357±0.031	0.238±0.008	0.073±0.002	5.078±0.182	0.198±0.025	0.043±0.005	0.751±0.059	0.018±0.013	0.023±0.001	0.183±0.011
	福井第1群	46	0.634±0.019	0.330±0.007	0.087±0.016	7.527±0.226	1.174±0.030	0.381±0.042	1.096±0.047	0.480±0.070	0.023±0.002	0.217±0.007
	福井第2群	47	0.509±0.016	0.315±0.007	0.078±0.010	7.118±0.234	0.909±0.042	0.259±0.046	0.947±0.054	0.361±0.055	0.020±0.002	0.177±0.007
	崎針尾第1群	67	0.382±0.026	0.252±0.023	0.052±0.006	4.106±0.227	0.160±0.018	0.057±0.009	0.434±0.039	0.056±0.011	0.010±0.001	0.107±0.007
	崎針尾第2群	56	0.590±0.072	0.393±0.020	0.077±0.009	5.396±0.448	0.330±0.028	0.078±0.015	0.675±0.059	0.096±0.017	0.024±0.006	0.219±0.041
	鮫崎畑	42	0.635±0.072	0.309±0.009	0.071±0.012	5.519±0.425	0.500±0.050	0.076±0.025	0.690±0.065	0.183±0.030	0.025±0.003	0.231±0.025
熊本県	泉群第1群	39	1.999±0.212	0.664±0.061	0.067±0.011	1.662±0.368	0.476±0.060	0.126±0.023	1.647±0.181	0.067±0.014	0.067±0.010	0.802±0.086
	泉群第2群	44	1.045±0.171	0.547±0.064	0.056±0.008	2.822±0.410	0.312±0.048	0.088±0.015	1.108±0.160	0.046±0.013	0.036±0.006	0.302±0.038
	菊池	42	0.678±0.057	0.458±0.020	0.062±0.005	3.457±0.206	0.194±0.018	0.072±0.009	0.728±0.054	0.025±0.010	0.019±0.002	0.185±0.015
鹿児島県	上牛鼻	50	0.612±0.015	0.498±0.009	0.042±0.005	2.825±0.102	0.164±0.007	0.073±0.013	0.977±0.021	0.018±0.008	0.029±0.003	0.271±0.007
標準試料	JG－1*'	56	1.327±0.021	0.266±0.006	0.059±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.782±0.033	0.078±0.014	0.036±0.003	0.448±0.011

麻畑原石産地は岡山理科大学白石純氏発見の原産地(近日正式発表予定)
平均値±標準偏差値、　＊：黒曜石様ガラス質安山岩　　a) Ando,A., Kurasawa,H., Ohmori,T. & Takeda,E.(1974). 1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol.8 175-192.

今回分析した遺物は和歌山県伊都郡かつらぎ町西飯降・丁ノ町に位置する西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土のサヌカイト製遺物で産地分析の結果が得られたので報告する。

3．サヌカイト、ガラス質安山岩原石の分析

サヌカイトでは、K/Ca、Ti/Ca、Mn/Sr、Fe/Sr、Rb/Sr、Y/Sr、Zr/Sr、Nb/Sr の値を指標として用いる。サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題にのぼる産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて50ヶ所以上の調査を終えている。図249にサヌカイトの原産地の地点を示す。これらの原石群を良質の原石を産出する産地および原石産地不明の遺物を元素組成で分類すると

表 20－2　原産地不明の組成の似たサヌカイト(安山岩)製遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

遺跡名遺物群名		分析個数	元素比 K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
北海道	頭無川遺物群	35	0.352±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	5.376±0.721	0.170±0.015	0.103±0.016	0.874±0.101	0.018±0.011	0.017±0.021	0.156±0.090
	紋内No.17遺物群	48	0.284±0.006	0.316±0.006	0.113±0.016	9.214±0.461	0.158±0.013	0.160±0.013	1.067±0.046	0.022±0.012	0.020±0.002	0.164±0.0040
新潟県	吹上1遺物群	48	0.268±0.014	0.288±0.005	0.135±0.003	8.756±0.209	0.126±0.007	0.117±0.011	0.515±0.014	0.012±0.009	0.014±0.001	0.116±0.002
	吹上2遺物群	50	0.427±0.021	0.338±0.009	0.126±0.003	6.023±0.150	0.237±0.012	0.140±0.013	1.098±0.036	0.051±0.021	0.029±0.001	0.378±0.022
	吹上3遺物群	45	0.454±0.012	0.438±0.006	0.141±0.006	9.607±0.329	0.500±0.027	0.089±0.007	1.470±0.049	0.118±0.040	0.023±0.001	0.359±0.006
	吹上4遺物群	45	0.152±0.006	0.241±0.012	0.153±0.002	9.752±0.143	0.103±0.008	0.147±0.012	0.746±0.020	0.021±0.013	0.011±0.001	0.101±0.001
	吹上5遺物群	48	0.710±0.005	0.577±0.005	0.100±0.002	5.327±0.060	0.122±0.005	0.142±0.008	1.100±0.015	0.040±0.015	0.024±0.001	0.223±0.002
	吹上6遺物群	45	1.617±0.050	2.629±0.072	0.061±0.006	14.039±0.664	0.400±0.026	0.096±0.013	1.202±0.050	0.087±0.045	0.124±0.001	2.923±0.104
	吹上7遺物群	45	1.886±0.025	1.121±0.032	0.046±0.002	4.911±0.100	0.496±0.012	0.061±0.005	1.170±0.022	0.065±0.021	0.064±0.002	0.794±0.022
千葉県	千葉1群	32	0.089±0.002	0.307±0.005	0.177±0.013	13.143±0.459	0.066±0.006	0.116±0.012	0.557±0.030	0.016±0.008	0.012±0.002	0.102±0.004
	千葉2群	36	0.292±0.012	0.352±0.007	0.109±0.010	7.204±0.254	0.184±0.011	0.135±0.010	0.906±0.035	0.024±0.013	0.019±0.002	0.181±0.008
	千葉3群	48	0.098±0.002	0.306±0.004	0.141±0.012	8.952±0.285	0.032±0.008	0.096±0.008	0.419±0.019	0.011±0.006	0.014±0.001	0.120±0.003
	千葉4群	48	0.134±0.002	0.259±0.004	0.128±0.012	9.617±0.196	0.092±0.009	0.096±0.008	0.612±0.023	0.017±0.009	0.012±0.001	0.093±0.002
	有吉No.13群	48	0.143±0.002	0.243±0.004	0.114±0.010	7.889±0.163	0.091±0.009	0.087±0.008	0.566±0.029	0.016±0.009	0.015±0.002	0.117±0.003
	有吉No.14群	48	0.204±0.002	0.310±0.004	0.116±0.009	8.780±0.158	0.146±0.009	0.106±0.010	0.654±0.026	0.015±0.002	0.015±0.002	0.130±0.003
石川県	酒見遺物群	42	0.447±0.064	0.608±0.017	0.089±0.012	5.098±0.781	0.153±0.019	0.116±0.014	1.258±0.118	0.016±0.012	0.024±0.004	0.208±0.027
	地方15865群	48	0.366±0.011	0.341±0.013	0.077±0.008	4.116±0.119	0.115±0.012	0.087±0.010	0.566±0.059	0.012±0.008	0.022±0.002	0.204±0.007
岐阜県	野笹No.261他群	56	0.632±0.032	0.393±0.013	0.045±0.005	2.234±0.070	0.170±0.009	0.046±0.012	1.030±0.041	0.029±0.006	0.022±0.002	0.213±0.010
	野笹No.271他群	35	0.407±0.010	0.304±0.005	0.040±0.005	1.882±0.041	0.089±0.005	0.033±0.005	0.671±0.030	0.023±0.005	0.018±0.002	0.177±0.006
	野笹No.282他群	33	0.799±0.009	0.512±0.010	0.050±0.005	2.540±0.096	0.221±0.014	0.077±0.011	1.213±0.039	0.034±0.007	0.026±0.002	0.240±0.009
	野笹No.289他群	32	3.515±0.134	1.068±0.047	0.149±0.023	6.820±0.453	0.617±0.041	0.210±0.032	1.330±0.067	0.158±0.027	0.167±0.015	2.525±0.081
	野笹No.262群	40	0.384±0.004	0.318±0.006	0.057±0.005	2.356±0.068	0.102±0.007	0.051±0.007	0.651±0.022	0.027±0.005	0.017±0.002	0.161±0.004
	野笹No.295群	32	3.584±0.178	1.077±0.058	0.075±0.016	3.775±0.153	0.441±0.024	0.197±0.019	1.118±0.053	0.150±0.028	0.183±0.019	2.999±0.159
静岡県	川津No.1群	48	0.101±0.002	0.297±0.003	0.145±0.012	13.011±0.347	0.058±0.009	0.112±0.009	0.589±0.028	0.011±0.009	0.011±0.001	0.088±0.002
愛知県	朝日No.7群	35	0.334±0.004	0.362±0.005	0.067±0.009	3.895±0.150	0.082±0.005	0.044±0.007	0.758±0.044	0.027±0.009	0.017±0.002	0.147±0.010
	朝日No.15群	35	1.016±0.022	0.582±0.012	0.043±0.005	4.187±0.141	0.477±0.019	0.089±0.020	1.722±0.068	0.058±0.026	0.032±0.009	0.557±0.021
京都府	赤ケ平No.13群	48	0.458±0.012	0.199±0.003	0.053±0.007	3.752±0.073	0.217±0.017	0.060±0.011	0.635±0.047	0.013±0.006	0.019±0.002	0.145±0.004
大阪府	向出No.6群	48	0.236±0.003	0.189±0.003	0.075±0.005	4.966±0.089	0.194±0.010	0.063±0.011	0.588±0.019	0.010±0.011	0.015±0.001	0.127±0.002
	向出No.49群	48	0.310±0.003	0.203±0.003	0.052±0.004	3.734±0.074	0.228±0.016	0.059±0.010	0.610±0.021	0.011±0.012	0.017±0.001	0.147±0.002
	中社No.82群	48	0.340±0.003	0.226±0.003	0.065±0.005	4.305±0.085	0.208±0.010	0.069±0.009	0.626±0.015	0.010±0.010	0.016±0.001	0.136±0.002
	中社No.96群	48	2.638±0.057	0.949±0.026	0.025±0.008	4.536±0.105	0.624±0.019	0.139±0.027	1.425±0.050	0.059±0.018	0.087±0.033	1.903±0.055
	中社No.89群	48	0.600±0.005	0.287±0.004	0.046±0.004	3.077±0.060	0.363±0.014	0.046±0.012	1.088±0.022	0.022±0.016	0.028±0.002	0.256±0.004
	中社No.104群	48	0.133±0.002	0.117±0.002	0.095±0.006	6.365±0.096	0.112±0.007	0.044±0.010	0.328±0.020	0.009±0.009	0.011±0.001	0.102±0.002
	鬼虎No.16群	33	0.361±0.004	0.253±0.004	0.053±0.007	3.105±0.070	0.238±0.106	0.063±0.014	0.684±0.025	0.027±0.008	0.016±0.001	0.170±0.004
	鬼虎No.17群	33	0.372±0.004	0.250±0.004	0.049±0.007	2.987±0.060	0.241±0.010	0.056±0.009	0.675±0.024	0.023±0.008	0.018±0.001	0.176±0.005
	粟生間谷No.98群	48	0.421±0.009	0.227±0.005	0.066±0.009	4.359±0.132	0.217±0.015	0.067±0.009	0.651±0.025	0.026±0.009	0.015±0.002	0.129±0.006
	粟生間谷No.T5群	48	0.240±0.002	0.268±0.005	0.058±0.007	4.106±0.087	0.160±0.010	0.059±0.009	0.582±0.027	0.022±0.008	0.018±0.002	0.123±0.004
	山賀No.138群	45	0.297±0.002	0.229±0.002	0.046±0.003	4.115±0.127	0.213±0.006	0.081±0.008	0.609±0.011	0.018±0.010	0.015±0.001	0.123±0.002
	讃良郡条里遺物群	46	0.469±0.023	0.190±0.003	0.052±0.002	4.046±0.044	0.209±0.007	0.065±0.006	0.551±0.008	0.013±0.010	0.013±0.001	0.112±0.002
兵庫県	寺田No.117群	48	0.378±0.005	0.226±0.004	0.071±0.007	4.592±0.093	0.216±0.009	0.063±0.009	0.611±0.024	0.022±0.008	0.019±0.002	0.134±0.004
	郡内No.7群	55	0.290±0.004	0.180±0.003	0.078±0.007	4.603±0.180	0.243±0.015	0.055±0.012	0.351±0.057	0.015±0.007	0.017±0.002	0.141±0.004
	郡内No.13群	55	0.307±0.003	0.185±0.002	0.081±0.009	4.895±0.103	0.323±0.016	0.055±0.019	0.417±0.059	0.014±0.007	0.016±0.001	0.127±0.003
	郡内No.17群	48	0.271±0.013	0.196±0.003	0.074±0.009	4.661±0.148	0.183±0.008	0.056±0.013	0.808±0.027	0.017±0.007	0.019±0.002	0.145±0.005
	郡内No.33群	48	0.699±0.008	0.150±0.004	0.080±0.008	2.790±0.054	0.564±0.018	0.045±0.030	0.417±0.050	0.022±0.010	0.029±0.003	0.283±0.007
和歌山県	西飯降7106遺物群	44	0.869±0.043	1.133±0.068	0.020±0.001	1.486±0115	0.086±0.009	0.051±0.005	1.242±0.091	0.104±0.018	0.161±0.012	2.109±0.257
	堅田No.8遺物群	48	11.976±0.595	1.248±0.069	0.035±0.011	3.745±0.214	1.647±0.054	0.215±0.053	1.272±0.054	0.120±0.023	0.276±0.032	4.203±0.241
	堅田No.24遺物群	48	23.782±1.975	3.082±0.279	0.045±0.014	6.290±0.406	2.437±0.192	0.444±0.070	2.258±0.134	0.178±0.026	0.500±0.066	5.731±0.519
	堅田No.28遺物群	48	1.934±0.083	1.349±0.064	0.026±0.010	8.161±0.354	0.625±0.025	0.128±0.027	1.414±0.061	0.072±0.027	0.092±0.010	1.051±0.059
鳥取県	笹畝2No.2群	48	0.491±0.008	0.524±0.009	0.040±0.005	2.278±0.047	0.098±0.006	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006
	笹畝2No.3群	48	0.324±0.007	0.508±0.007	0.048±0.005	2.859±0.079	0.068±0.056	0.051±0.006	0.622±0.025	0.048±0.008	0.021±0.002	0.152±0.006
	文殊領Ⅰ No.335	44	4.166±0.209	4.141±0.168	0.089±0.009	10.053±0.912	0.660±0.051	0.077±0.008	1.019±0.069	0.073±0.031	0.215±0.012	3.364±0.135
	茶畑山道S-97	44	2.381±0.043	2.309±0.040	0.088±0.005	13.605±0.956	0.814±0.047	0.101±0.010	1.341±0.081	0.089±0.042	0.116±0.003	1.690±0.042
島根県	平田12遺物群	46	0.209±0.008	0.290±0.003	0.100±0.003	7.464±0.108	0.076±0.005	0.070±0.007	0.522±0.009	0.011±0.008	0.013±0.001	0.110±0.001
	平田13遺物群	46	0.219±0.008	0.301±0.003	0.085±0.002	7.846±0.100	0.077±0.005	0.067±0.006	0.512±0.008	0.008±0.005	0.013±0.001	0.112±0.001
	喜時雨遺物群	44	3.461±0.177	2.341±0.134	0.158±0.041	17.661±1.079	1.099±0.048	0.268±0.036	2.124±0.106	0.157±0.035	0.116±0.012	1.201±0.085
	下山遺物群	60	0.190±0.003	0.286±0.005	0.090±0.010	6.872±0.311	0.088±0.008	0.064±0.008	0.528±0.021	0.017±0.008	0.014±0.001	0.102±0.005
	下山No.5遺物群	48	0.178±0.002	0.284±0.003	0.086±0.007	7.148±0.141	0.082±0.007	0.060±0.009	0.501±0.023	0.013±0.005	0.012±0.001	0.092±0.003
	下山No.11遺物群	48	0.161±0.004	0.272±0.004	0.090±0.008	7.586±0.287	0.076±0.009	0.060±0.008	0.460±0.019	0.014±0.006	0.012±0.001	0.087±0.003
	東船1遺物群	48	4.547±0.269	0.836±0.030	0.168±0.048	10.523±1.762	2.447±0.594	0.375±0.120	14.278±3.081	1.094±0.248	0.114±0.008	1.029±0.047
	川平No.2遺物群	48	0.745±0.012	0.216±0.006	0.017±0.002	0.685±0.015	0.104±0.005	0.005±0.005	0.276±0.025	0.019±0.004	0.032±0.004	0.311±0.011
	槙ヶ峠石斧群	48	8.728±1.974	2.927±0.557	0.242±0.037	25.324±3.676	2.332±0.005	0.115±0.045	1.833±0.105	0.040±0.012	0.142±0.030	0.952±0.180
	槙ヶ峠石棒群	48	0.020±0.003	0.170±0.011	0.319±0.027	33.311±1.670	0.053±0.016	0.151±0.017	0.517±0.051	0.022±0.012	0.007±0.001	0.051±0.002
	家の後No.14群	48	1.518±0.195	0.929±0.064	0.108±0.014	7.721±0.024	0.462±0.036	0.101±0.022	1.134±0.046	0.026±0.011	0.049±0.007	0.384±0.041
	平田磨製石斧群	48	0.365±0.025	0.281±0.018	0.252±0.010	3.352±0.083	0.241±0.013	0.016±0.008	0.189±0.024	0.005±0.002	0.023±0.003	0.165±0.006
	金クソ谷3遺物群	45	3.474±0.162	3.909±0.510	0.137±0.010	21.097±1.158	0.644±0.050	0.109±0.015	1.380±0.090	0.092±0.059	0.218±0.028	5.114±0.651
	原田1遺物群	52	0.204±0.014	0.311±0045	0.108±0.011	7.515±0.310	0.092±0.006	0.078±0.016	0.530±0.029	0.015±0.001	0.013±0.001	0.117±0.016
	原田2遺物群	48	1.557±0.080	0.432±0.009	0.034±0.002	1.999±0.055	0.266±0.010	0.030±0.002	0.524±0.008	0.248±0.010	0.034±0.001	0.357±0.009
	原田3遺物群	46	0.253±0.004	0.402±0.005	0.031±0.002	2.784±0.032	0.065±0.003	0.021±0.002	0.492±0.007	0.014±0.000	0.008±0.001	0.061±0.001
	原田No.39遺物群	47	7.210±0.164	0.443±0.024	0.077±0.003	3.472±0.096	1.812±0.042	0.207±0.009	1.835±0.053	0.148±0.027	0.130±0.003	2.009±0.072
	原田No.67遺物群	47	0.313±0.003	0.393±0.005	0.031±0.001	2.784±0.031	0.093±0.004	0.029±0.003	0.618±0.008	0.036±0.004	0.009±0.001	0.067±0.002
	原田No.93遺物群	47	0.214±0.021	0.193±0.005	0.055±0.002	2.942±0.074	0.200±0.009	0.112±0.007	1.043±0.039	0.037±0.010	0.016±0.001	0.153±0.002
	原田No.107遺物群	47	1.388±0.037	0.373±0.011	0.073±0.008	2.262±0.145	0.328±0.016	0.093±0.006	1.961±0.041	0.117±0.020	0.056±0.002	0.645±0.023
	五明田No44-1遺物群	44	3.244±0.145	0.958±0.036	0.142±0.006	4.329±0.281	0.712±0.022	0.140±0.009	3.350±0.156	0.212±0.042	0.122±0.005	1.564±0.071
	矢野No.3遺物群	43	0.200±0.008	0.296±0.006	0.037±0.001	3.448±0.065	0.074±0.005	0.060±0.006	0.519±0.009	0.009±0.007	0.012±0.001	0.131±0.001
	矢野No.9遺物群	43	0.210±0.007	0.299±0.006	0.049±0.001	2.759±0.022	0.064±0.003	0.072±0.007	0.557±0.009	0.011±0.007	0.018±0.001	0.185±0.001
山口県	上太田6遺物群	45	0.261±0.005	0.202±0.004	0.077±0.002	5.481±0.073	0.276±0.011	0.076±0.013	0.861±0.020	0.016±0.013	0.020±0.001	0.127±0.001
	長谷77遺物群	45	0.788±0.013	0.252±0.006	0.014±0.001	0.611±0.003	0106±0.003	0.009±0.001	0.350±0.003	0.016±0.004	0.026±0.001	0.307±0.002
	長谷78遺物群	45	7.210±0.118	0.620±0.024	0.044±0.006	7.952±0.937	3.615±0.155	0.348±0.019	1.979±0.126	0.194±0.061	0.103±0.002	1.848±0.052
	長谷95遺物群	45	6.390±0.362	1.830±0.195	0.110±0.006	9.834±0.379	1.350±0.060	0.197±0.014	1.819±0.089	0.118±0.056	0.333±0.036	11.411±1.809
徳島県	城ノ内遺物群	50	3.129±0.089	1.851±0.049	0.185±0.028	17.480±0.603	1.168±0.046	0.235±0.052	2.177±0.082	0.115±0.038	0.144±0.012	1.445±0.053
香川県	六ツ目遺物群	30	0.307±0.004	0.258±0.005	0.067±0.005	4.736±0.096	0.235±0.010	0.058±0.014	0.840±0.023	0.030±0.013	0.016±0.005	0.133±0.004
	庵の谷遺物群	60	0.684±0.012	0.248±0.006	0.066±0.012	4.139±0.128	0.429±0.019	0.077±0.022	1.178±0.040	0.050±0.013	0.025±0.002	0.262±0.007
高知県	松ノ木遺物群	40	0.598±0.046	0.225±0.004	0.060±0.004	4.582±0.088	0.326±0.012	0.064±0.006	1.139±0.024	0.026±0.008	0.025±0.001	0.197±0.004
宮崎県	永迫No.18遺物群	48	0.293±0.007	0.237±0.003	0.050±0.006	3.976±0.127	0.164±0.010	0.061±0.010	0.658±0.026	0.024±0.008	0.017±0.002	0.127±0.007
	永迫No.19遺物群	48	0.440±0.065	2.190±0.242	0.028±0.005	0.671±0.068	0.012±0.002	0.057±0.005	0.913±0.047	0.050±0.008	0.339±0.037	4.867±0.543
	永迫No.328遺物群	45	0.239±0.006	0.195±0.003	0.065±0.002	5.106±0.092	0.174±0.010	0.063±0.007	0.628±0.014	0.013±0.010	0.010±0.001	0.097±0.001
	永迫329-316遺物群	50	1.017±0.015	0.270±0.006	0.057±0.002	3.168±0.082	0.538±0.016	0.114±0.007	1.194±0.030	0.021±0.013	0.037±0.001	0.386±0.015
	久木野10遺物群	34	0.397±0.006	0.297±0.007	0.071±0.009	3.723±0.129	0.181±0.011	0.048±0.012	0.397±0.029	0.071±0.010	0.021±0.002	0.139±0.012
	久木野12遺物群	48	0.687±0.010	0.369±0.008	0.046±0.005	2.596±0.074	0.132±0.008	0.033±0.010	0.985±0.027	0.066±0.011	0.033±0.003	0.284±0.014
	久木野17遺物群	45	37.546±7.947	8.872±1.512	0.055±0.024	12.163±1.242	1.718±0.118	0.319±0.060	1.898±0.167	0.211±0.052	1.490±0.316	16.795±3.403
	久木野26遺物群	49	20.336±1.582	7.598±0.614	0.046±0.015	7.914±0.477	1.359±0.073	0.396±0.064	3.562±0.227	0.050±0.029	0.903±0.096	8.469±0.649
	久木野44遺物群	45	0.766±0.067	0.513±0.029	0.049±0.019	2.430±0.163	0.334±0.034	0.418±0.052	0.739±0.083	0.069±0.036	0.080±0.016	4.625±0.293
	久木野45遺物群	48	1.207±0.070	1.243±0.056	0.022±0.009	1.545±0.063	0.152±0.015	0.060±0.015	0.493±0.039	0.030±0.012	0.160±0.020	7.566±0.327
	小田元1遺物群	48	3.016±0.070	0.776±0.023	0.072±0.015	5.825±0.210	1.422±0.045	0.327±0.070	2.927±0.123	0.128±0.032	0.095±0.010	1.075±0.035
	小田元2遺物群	48	6.808±0.509	6.350±0.483	0.053±0.019	28.371±1.498	0.952±0.046	0.273±0.046	2.286±0.179	0.114±0.041	0.505±0.068	10.179±0.870
	小田元16遺物群	48	10.792±0.566	6.922±0.400	0.039±0.011	7.800±0.181	0.941±0.035	0.152±0.048	2.189±0.088	0.103±0.027	0.449±0.040	3.550±0.188
	小田元17遺物群	48	7.394±0.483	5.276±0.388	0.087±0.020	16.004±0.737	1.026±0.046	0.209±0.053	1.914±0.088	0.094±0.042	0.359±0.039	3.562±0.299
	小田元18遺物群	48	1.235±0.051	1.195±0.063	0.066±0.029	1.396±0.168	0.779±0.069	0.908±0.074	2.009±0.190	0.139±0.063	0.100±0.013	5.405±0.216
	小田元20遺物群	48	4.151±0.104	0.877±0.032	0.069±0.018	5.517±0.162	1.853±0.058	0.515±0.061	3.206±0.112	0.197±0.011	0.129±0.011	1.394±0.045
	小田元21遺物群	48	0.152±0.015	0.188±0.022	0.023±0.010	2.606±0.215	0.123±0.023	0.227±0.026	0.621±0.086	0.033±0.019	0.026±0.005	1.251±0.131
	小田元22遺物群	48	2.988±0.185	1.712±0.113	0.083±0.018	12.064±0.315	0.995±0.031	0.214±0.069	2.217±0.088	0.114±0.033	0.099±0.009	0.801±0.048
	小田元23遺物群	48	1.071±0.027	0.751±0.028	0.075±0.012	10.726±0.392	0.708±0.030	0.147±0.040	1.690±0.066	0.093±0.025	0.043±0.004	0.377±0.010
鹿児島県	大原野24遺物群	48	0.783±0.013	0.525±0.008	0.041±0.006	2.415±0.071	0.202±0.010	0.091±0.016	1.131±0.034	0.025±0.011	0.033±0.003	0.324±0.006
	大原野27遺物群	48	7.505±0.286	3.161±0.125	0.065±0.019	16.100±1.244	1.072±0.042	0.154±0.049	1.722±0.067	0.102±0.032	0.190±0.021	1.418±0.080
	大原野28遺物群	48	7.403±0.961	2.017±0.279	0.096±0.039	0.621±0.075	1.250±0.098	0.800±0.091	1.995±0.192	0.118±0.062	0.326±0.065	16.352±2.120
	大原野34遺物群	48	0.694±0.010	0.337±0.005	0.079±0.011	6.278±0.208	0.592±0.023	0.081±0.031	0.872±0.034	0.190±0.002	0.043±0.004	0.258±0.008
	道下段76遺物群	50	0.354±0.006	0.302±0.004	0.072±0.001	4.520±0.051	0.174±0.009	0.073±0.011	0.677±0.018	0.020±0.013	0.023±0.001	0.155±0.001

注：向出遺跡、下山No.5,No11群、中ノ社遺跡、六ツ目遺跡、松ノ木遺跡、朝日遺跡、鬼虎川遺跡、野笹No.262、295群、粟生間谷遺跡、永迫2遺跡、笹畝2遺跡、川平Ⅰ遺跡、家の後遺跡、槙ヶ峠遺跡、川津町、有吉遺跡、堅田遺跡No8,24,28遺物群、地方遺跡、小田元第2遺跡、大原野遺跡、道下段遺跡、山賀遺跡、讃良郡条里遺跡、原田遺跡(No.39,No.67,No.93,No.107)、文珠領遺跡Ⅰ、茶畑山道遺跡、五明田遺跡、長谷遺跡(77,78,95)、矢野遺跡(3、9)、西飯降Ⅱ遺跡の分析個数は1個の遺物の分析場所を変えて分析した回数をあらわす。下山遺跡(No.4,No.14,No.15)、平田遺跡(No.12,No.13)、庵の谷遺跡、野笹遺跡、喜時雨遺跡、東船遺跡、千葉2、3、4遺物群、城ノ内遺物群(No.13,No.22)、原田遺跡(1,2,3)の分析個数はそれぞれ2個以上の遺物の分析場所を変えて分析した回数をあらわす。

185個の原石群・遺物群に分類でき、その結果を表20に示した。安山岩の原石産地の一部を簡単に記すると、香川県の坂出市、高松市に位置する金山・五色台地域では、多数の地点から良質のサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる。近年、丸亀市の双子山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材であり善通寺市の大麻山南からも産出している。香川県内の石器原材の産地である金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の6つの群に分かれ、金山・五色台地域外の産地では城山群および双子山群に分かれた。また、ガラス質安山岩は金山奥池、雄山、神谷町南山地区で採取され、さらに大麻山南産は大麻山南第一、二群の2群にそれぞれ分類されて区別が可能なことを明らかにした。これらガラス質安山岩は成分的に黒曜石に近く、また肉眼観察では下呂石に酷似するもの、西北九州産の中町、淀姫産黒曜石、大串、亀岳原石と酷似するものもみられ、風化した遺物ではこれら相互に似た原材を肉眼で区別するのは困難と思われ、正確に原材産地の判定をおこなうには分析が必要である。また、金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取される。さらに大阪府和泉・岸和田産地の礫層、和歌山県梅原産地礫層からも、金山・五色台地域の諸群の一部に一致するものがみられ（表21）、長い年月の間にこれらが金山・五色台地域から流れ着いたのではないかと推測される。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からもサヌカイト原石が採取される。奈良県北葛城郡当麻町に位置する二上山の原石で二上山群を作った。二上山群に一致する原石は柏原市奥山遺跡の地山転礫で見られ、地山転礫産出地を奥山礫層と名付ける。奥山礫層からは板状に剥離する原石が産出し剥離面には酸化鉄層が薄くあり、分析は主に酸化層面に直角な面を分析し奥山礫層2群を作った。奥山礫層中の奥山礫層2群と二上山群の出現比は約1：55であった。また、二上山群と元素組成の類似する原石は和泉・岸和田の礫層産地から6％の割合で採取される(表22)。梅原産地からは二上山産と一致する原石は見られなかった（表23)。中国山地のサヌカイト産地として代表的な産地は山口、島根、広島の県境に位置する冠山地域で、冠山、鬼ヶ城の山腹には安山岩の露頭があり、また山麓からは崖錐角礫の転石として見られる。伴蔵地区の冠高原スキー場一帯（冠高原地点と呼ぶ）から良質の原石が採取でき、冠高原群および伴蔵C、A群を作った。冠高原スキー場から南方の飯山地区の針山地点（飯山地点と呼ぶ）の原石で飯山群を作った。また、頓原地区産出の原石で冠山東群を作った。また、考古学者の間で石器原材として使用されたのではないかと話題にのぼる産地の一つである山口県熊毛郡平生町産の安山岩原石を分析し平生群を作り、この原石を使用した石器か否かの判定ができるようにした。九州地域産地は佐賀県多久、老松山と隣の岡本、西有田にあり、また嬉野町では松尾、椎葉川などで良質の原石が採取できる。長崎県では大串、亀岳、川棚産地があり、その他に福井洞窟遺跡地域で産出する福井産原石、松浦半島産の牟田産原石、そして、山下実氏発見の雲仙駒崎鼻産サヌカイトと福岡県昭和池採取原石の群が整備された。

4．結果と考察

遺跡から出土したサヌカイト製石器、石片は、風化のため表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なった。一方黒曜石製遺物は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表

表 21　岩屋原産地からのサヌカイト原石の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	２０個	３０％	淡路島、岸和田、和歌山に出現
第二群	２２	３３	白峰群に一致
	6	9	法印谷群に一致
	5	8	国分寺群に一致
	4	6	蓮光寺群に一致
	3	5	金山東群に一致
	2	3	和泉群に一致
	4	6	不明（どこの原石群にも属さない）

表 22　和泉・岸和田原産地からのサヌカイト原石の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
岩屋第一群	１２個	１７％	淡路島、岸和田、和歌山に出現
和　泉　群	9	１３	〃　、　〃　、　〃
岩屋第二群	6	8	白峰群に一致
	4	6	二上山群に一致
	1	1	法印谷群に一致
	1	1	金山東群に一致
	３９	５４	不明（どこの原石群にも属さない）

表 23　和歌山市梅原原産地からのサヌカイト原石の分類結果

原石群名	個数	百分率	他原産地および他原石群との関係
和　泉　群	１０個	４８％	淡路島、岸和田、和歌山に出現
岩屋第一群	1	5	〃　、　〃　、　〃
	１０	４８	不明（どこの原石群にも属さない）

面の泥を水洗いするだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析において水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、実際には影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/K の両軽元素比の値を除いて産地分析を行なった場合と除かずに産地分析を行った場合で同定される原産地に差はない。他の元素比の値についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡から出土したサヌカイト製遺物の分析結果を表 24 に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするため Rb/Sr の一変量だけを考えると、分析番号 104815 番の遺物は Rb/Sr の値が 0.206 で、二上山群の［平均値］±［標準偏差値］は、0.202 ± 0.012 であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群から 0.33 σ離れている。ところで二上山群の産地から 100 ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から± 0.33 σのずれより大きいものが 74 ヶある。すなわち、この遺物が、二上山群の原石から作られていたと仮定しても、0.33 σ以上離れる確率は 74％であると言える。だから、二上山群の平均値から 0.33 σしか離れていないときには、この遺物が二上山群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を城山群に比較すると、城山群の［平均値］±［標準偏差値］は、0.289 ± 0.014 であるから、遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群から 6 σ離れている。これを確率の言葉で表現すると、城山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 6 σ以上離れている確率は、十億分の一であると言える。このように、十億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、城山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は二上山群に 74％の確率で帰属され、信頼限界の 0.1％を満たしていることから二上山の原石が使用されていると同定され、さらに城山群に対しては一千万の一％の低い確率で帰属され、信頼限界の 0.1％に満たないことから城山産原石でないと同定される」。遺物が二上山群と一致したからと言っても、遺物が二上山産地から採取された証拠はなく、分析している試料は原石でなく遺物であり、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一

表24　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土サヌカイト製遺物の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
104814	0.850	1.196	0.017	1.497	0.074	0.052	1.311	0.110	0.159	2.053
104815	0.278	0.223	0.068	4.438	0.206	0.076	0.628	0.025	0.016	0.126
104830	0.272	0.230	0.068	4.408	0.206	0.073	0.623	0.023	0.016	0.124
104817	0.283	0.225	0.068	4.437	0.211	0.064	0.615	0.008	0.015	0.124
104818	0.281	0.226	0.069	4.425	0.212	0.070	0.619	0.015	0.016	0.125
104819	0.276	0.229	0.068	4.497	0.213	0.065	0.626	0.012	0.016	0.128
104820	0.276	0.226	0.069	4.573	0.213	0.078	0.626	0.014	0.015	0.124
104821	0.281	0.222	0.066	4.360	0.216	0.069	0.628	0.011	0.015	0.125
104822	0.277	0.229	0.067	4.510	0.210	0.069	0.616	0.023	0.016	0.126
104823	0.279	0.227	0.065	4.418	0.209	0.064	0.599	0.006	0.016	0.126
104824	0.282	0.225	0.067	4.467	0.214	0.068	0.612	0.013	0.015	0.124
104825	0.266	0.232	0.067	4.504	0.208	0.070	0.613	0.015	0.016	0.123
104826	0.281	0.232	0.068	4.441	0.211	0.060	0.614	0.010	0.016	0.128
104827	0.277	0.227	0.068	4.525	0.212	0.063	0.617	0.022	0.016	0.129
104828	0.285	0.228	0.069	4.465	0.218	0.070	0.642	0.010	0.016	0.129
104829	0.275	0.230	0.071	4.570	0.210	0.063	0.626	0.021	0.014	0.116
104830	0.276	0.229	0.067	4.453	0.202	0.063	0.601	0.000	0.015	0.123
104831	0.281	0.230	0.064	4.116	0.199	0.079	0.615	0.010	0.016	0.134
104832	0.277	0.226	0.066	4.398	0.206	0.066	0.622	0.021	0.015	0.125
104833	0.275	0.224	0.070	4.426	0.204	0.069	0.611	0.005	0.015	0.123
104834	0.278	0.223	0.069	4.451	0.208	0.066	0.617	0.014	0.015	0.125
104835	0.279	0.226	0.068	4.399	0.209	0.074	0.621	0.008	0.016	0.127
104836	0.294	0.231	0.065	4.391	0.221	0.068	0.613	0.006	0.016	0.128
104837	0.279	0.225	0.068	4.415	0.212	0.070	0.636	0.023	0.016	0.129
104838	0.279	0.230	0.069	4.445	0.217	0.067	0.620	0.024	0.016	0.127
104839	0.278	0.227	0.068	4.424	0.211	0.062	0.611	0.017	0.015	0.122
JG-1	1.265	0.284	0.052	2.736	0.737	0.171	0.854	0.045	0.036	0.410

JG-1：標準試料-Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

致しないとは言えない。また、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（二上山群）に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表20の185個すべての原石群について行ない、十分条件である低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて二上山産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Srといった唯1ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群では、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、仮にA群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する（表24・表25）。産地の同定結果は1個の遺物に対して、サヌカイト製のものは185個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上『記入』を省略しているだけであり、実際には185個の群全てについて計算しているため、省略産地の可能性が非常に低いことを確認したという重要な意味を含んでいる。すなわち、二上山産原石と判定された遺物について、金山東群産原石とか佐賀県多久産、香川県城山、北海道旭山の原石の可能性を考える必要がない結果で、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を表25に記入した。原石群を作った原石試料は直径2cm以上で精度良く分析される。遺物は、大きさ、形がさまざまで、これらの影響により分析値が少しは変化

表25　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土安山岩製遺物の原材産地分析結果

西飯降Ⅱ遺跡（第1次調査（06－1・2区））

分析番号	ホテリングT²検定	判定	報告書掲載番号	器種	地区	遺構
104814	西飯降7106遺物群(20%)	西飯降7106遺物群	S30	板状石核	06－1区	竪穴建物14(5523)
104815	二上山(91%),穴虫-94(1%),田尻・穴虫(0.1%)	二上山	S31	板状石核	06－1区	包含層第4d層
104816	二上山(90%)	二上山	S32	板状石核	06－1区	撹乱中
104817	二上山(99.7%),穴虫-94(0.9%),川棚第2群(0.1%)	二上山	S33	板状石核	06－1区	包含層第3層
104818	二上山(99.8%),穴虫-94(0.7%)	二上山	S34	板状石核	06－1区	包含層第4d層
104819	二上山(96%),穴虫-94(0.2%)	二上山	S35	板状石核	06－1区	包含層間層より上位層

丁ノ町・妙寺遺跡（第2次調査（07－2・3区））

分析番号	ホテリングT²検定	判定	報告書掲載番号	器種	地区	遺構
104820	二上山(87%),穴虫-94(0.6%),田尻・穴虫(0.3%)	二上山	S128	石核	07－3区	包含層第7層
104821	二上山(91%),穴虫-94(0.2%)	二上山	S129	石核	07－3区	包含層第6層
104822	二上山(98%),穴虫-94(7%),川棚第2群(0.5%)	二上山	S130	石核	07－3区	包含層第4層
104823	二上山(71%),穴虫-94(0.3%)	二上山	S131	石核	07－3区	包含層第5層
104824	二上山(99.7%),田尻・穴虫(0.3%),穴虫-94(0.1%)	二上山	S132	石核	07－3区	包含層第6層
104825	二上山(53%)	二上山	S133	石核	07－3区	埋設土器2(3153)
104826	二上山(90%)	二上山	S134	石核	07－3区	包含層第5層
104827	二上山(83%),穴虫-94(2%)	二上山	S135	石核　スクレイパー転用か	07－3区	包含層第5層
104828	二上山(84%)	二上山	S136	石核（板状石核）	07－3区	竪穴建物12(3224)
104829	二上山(92%),穴虫-94(0.4%)	二上山	S137	サヌカイト原石	07－2区	表採
104830	二上山(76%),穴虫-94(1%),川棚第2群(0.1%)	二上山	未報告	石核	07－3区	3164
104831	二上山(31%)	二上山	未報告	石核	07－3区	包含層第6層
104832	二上山(95%),穴虫-94(0.6%)	二上山	未報告	石核	07－3区	包含層第4層
104833	二上山(85%),穴虫-94(0.4%)	二上山	未報告	石核	07－3区	包含層第5層
104834	二上山(99.7%),穴虫-94(3%),田尻・穴虫(0.1%)	二上山	未報告	石核	07－3区	包含層第6層
104835	二上山(99.7%),穴虫-94(0.1%)	二上山	未報告	石核	07－3区	3230
104836	二上山(70%)	二上山	未報告	石核	07－3区	溝10(3270)
104837	二上山(96%),穴虫-94(0.2%)	二上山	未報告	石核	07－3区	溝10(3270)
104838	二上山(93%)	二上山	未報告	石核	07－3区	溝10(3270)

していることを推測し、判定の信頼限界を0.1%に設定した。判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するときに、低確率の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。

今回分析した西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡のサヌカイト製遺物26個のホテリングのＴ２乗検定法で表20の原石群・遺物群と比較した結果、二上山群が25個（９６．１%）、西飯降7106遺物群が１個（３．９%）が同定された。

また、複数の原産地に信頼限界の0.1%を越えて同定されたものの中で川棚第２群は最大で0.3%であり同じく同定された二上山に比べて極めて低い確率なので判定結果を二上山とした、また、穴虫群、田尻－穴虫群は二上山地域の中で、僅かに二上山群と異なる組成の原石で作った群で、原石産地としては二上山地域に含まれる。遺物登録番号7106番で分析番号104814番の遺物は既存の原石群・遺物群のいずれにも同定しなかったのでこの遺物の分析場所を変えて、統計処理が可能な複数回測定し新たに西飯降7106遺物群を作った。これにより他の遺跡で西飯降7106遺物群に同定される遺物が見つかった場合その遺跡と西飯降Ⅱ遺跡の間で交流があった、共通の石材供給源であるなどの可能性が分かるようになる。

この中で二上山群と一致する原石は大阪府和泉・岸和田の原産地から６%の割合で採取されることから、表22のそれぞれの群に帰属される頻度分布をもとめて、和泉・岸和田原産地の原石が使用されたか、否か判断しなければならない。大阪府和泉・岸和田の原産地から他産地の元素組成の原石を採取せず、二上山群と一致する石材のみを西飯降Ⅱ遺跡に５個採取する確率は0.06の６乗で求められ、0.0000001の確率になり、丁ノ町・妙寺遺跡ではさらに低い確率になって、和泉・岸和田産地から採取された可能性が極めて低く、この結果から遺物の交流を考察すると、奈良県二上山地域との交流があったことが推測された。

第10節　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡出土木製品の樹種調査

株式会社吉田生物研究所

1. 試料

試料は第1次調査の西飯降Ⅱ遺跡、第2次調査の丁ノ町・妙寺遺跡から出土した農具1点、紡織具2点、服飾具1点、容器1点の合計5点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果(針葉樹2種)を表26と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1）コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ（Sciadopitys verticillata Sieb. et Zucc.）
（遺物No.1,2,5）（写真No.1,2,5）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柾目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州（福島以南）、四国、九州（宮崎まで）に分布する。

2）ヒノキ科ヒノキ属（Chamaecyparis sp.）（遺物No.3,4）（写真No.3,4）

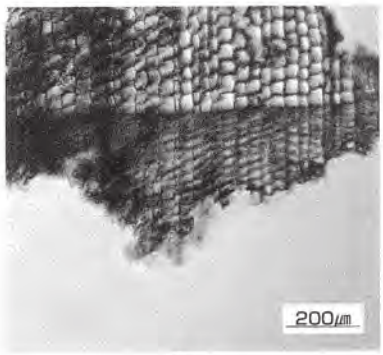
木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州（福島以南）、四国、九州に分布する。

◆使用顕微鏡◆

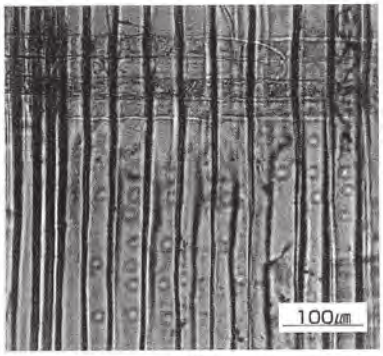
Nikon DS-Fi1

表26　西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡　樹種同定表

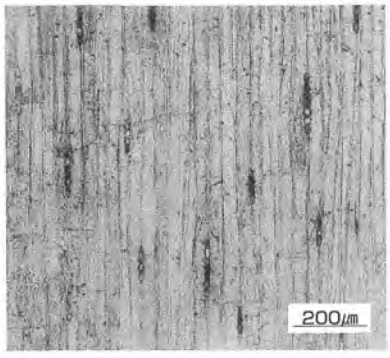
No.	掲載番号	調査次数	遺跡名	品名	樹種
1	W4	第1次	西飯降Ⅱ遺跡	田下駄	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
2	W1	第1次	西飯降Ⅱ遺跡	下駄	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
3	W8	第2次	丁ノ町・妙寺遺跡	紡織具	ヒノキ科ヒノキ属
4	W7	第2次	丁ノ町・妙寺遺跡	紡織具	ヒノキ科ヒノキ属
5	W1	第2次	丁ノ町・妙寺遺跡	曲物	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

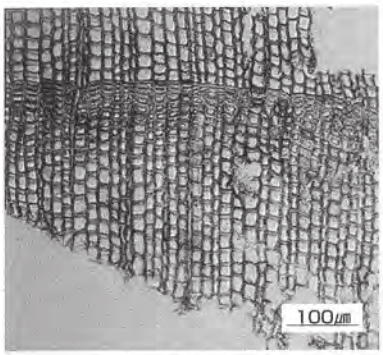


柾目

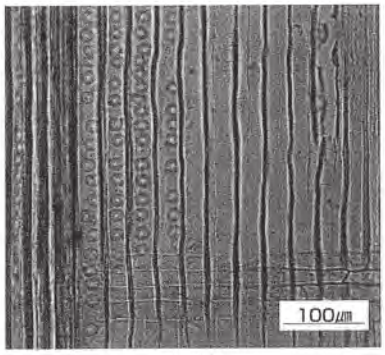


板目

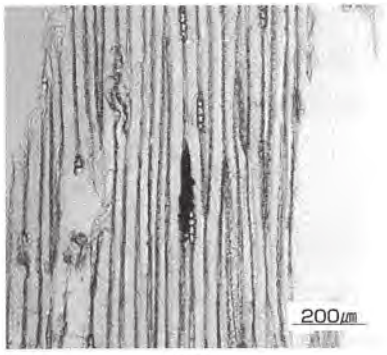
No-1　コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

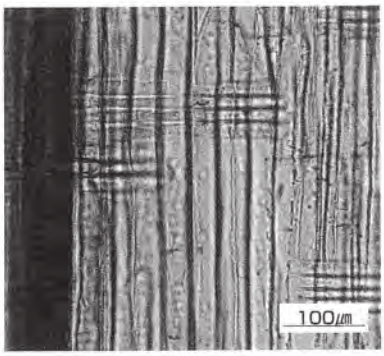


柾目

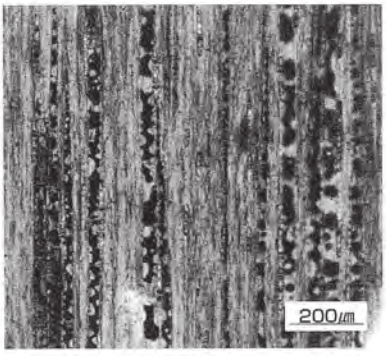


板目

No-2　コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ

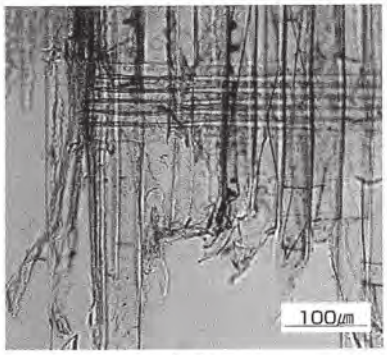


柾目

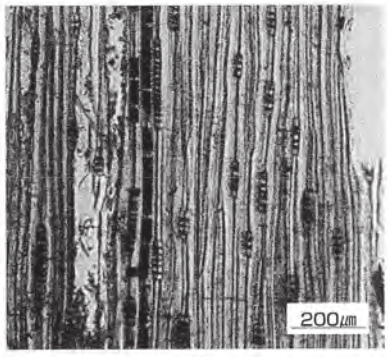


板目

No-3　ヒノキ科ヒノキ属



柾目



板目

No-4　ヒノキ科ヒノキ属

写真 14　樹種同定顕微鏡写真

＜参 考 文 献＞（第１章～第６章）

秋山浩三・仲原知之 1998・1999「近畿地方における石庖丁生産・流通の再検討Ⅰ－池上曽根遺跡の石庖丁製作過程－（上）、（下）」『大阪文化財研究』15・16 （財）大阪府文化財調査研究センター

泉　拓良・玉田芳英 1986「文様系統論－縁帯文土器」『季刊考古学』17　雄山閣

岩倉哲夫 2000「官省符荘」『きのくに荘園の世界』清文堂

大野　薫 2001「近畿・中国・四国地方における集落変遷の画期と研究の現状」『縄文集落研究の現段階』縄文時代文化研究会

大野　薫 2002「近畿地方の縄文後晩期集落の空間構造」『考古学ジャーナル』485

岡田憲一 2005「大規模葬祭空間の形成－近畿地方における縄文時代後晩期集落のあり方－」『関西縄文時代における石器・集落の諸様相』関西縄文論集２　関西縄文文化研究会

かつらぎ町史編纂委員会 2002「畑谷池輿山上人五輪塔」『広報かつらぎ』６月号

かつらぎ町史編纂委員会 2006『かつらぎ町史』通史編　かつらぎ町

かつらぎ町史編纂委員会 2006『かつらぎ町史』中世編　かつらぎ町

川口修実 2009「和歌山県における松菊里型・松菊里系住居の検討」『花園大学考古学研究論叢Ⅱ』花園大学考古学研究室 30 周念論集刊行会

関西縄文文化研究会 1995『関西の縄文住居：発表要旨・資料集』

関西縄文文化研究会 2005『縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』

関西縄文文化研究会 2006『関西縄文人の生業と環境』

紀の川水の歴史街道編纂委員会 1996『紀の川－水の歴史街道－』

紀の川流域荘園詳細分布調査委員会 2003『高野枡をつくらせた荘園』

北野隆亮 2002「和歌山県における中世備前焼の流通」『紀伊考古学研究』第５号

北野隆亮 2005「和歌山平野における瓦器の分類と変遷－紀伊型瓦器椀の認識とその評価－」『紀伊考古学研究』第８号

黒石哲夫 1999「川辺遺跡の縄文時代晩期の遺構と遺物について－紀ノ川下流の縄文時代晩期の集落跡－」『紀伊考古学研究』第２号

小賀直樹 1979「和歌山県の弥生土器」『和歌山の研究』１　地質・考古篇　清文堂

小森俊寛 2005『京から出土する土器の編年的研究－日本律令的土器様式の成立と展開、７～19 世紀』京都編集工房

財団法人和歌山県文化財センター 1990『佐野遺跡発掘調査概報』

財団法人和歌山県文化財センター 1991『西田井遺跡発掘調査報告書』

財団法人和歌山県文化財センター 2000『柿田荘（窪・萩原遺跡）－紀ノ川流域下水道伊都浄化センター建設に伴う発掘調査－』

財団法人和歌山県文化財センター 2007『考古資料から見た紀ノ川流域の弥生文化－京奈和自動車道橋本道路発掘調査報告会－』

財団法人和歌山県文化財センター 2008『粉河寺遺跡－長屋川砂防環境整備工事に伴う発掘調査報告書－』

渋谷高秀 1985「紀伊の中世土器」『中近世土器の基礎的研究』

武内雅人 1984「古代末期紀伊国の土器様相　－土師器食器類を中心として－在地様式的土器の成立と展開－」『考古学研究』第 31 巻第１号　考古学研究会

田中元浩 2008「丁ノ町・妙寺遺跡の蛇紋岩製石斧」『財団法人和歌山県文化財センター年報 2007』財団法人和歌山県文化財センター

田中元浩 2009「丁ノ町・妙寺遺跡の弥生土器－弥生時代中期最後の土器群－」『財団法人和歌山県文化財センター年報 2008』財団法人和歌山県文化財センター

田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店

玉田芳英 1989「中津・福田ＫⅡ式土器様式」『縄文土器大観』４　後期・晩期・続縄文　小学館

中世土器研究会編 1995『概説　中世の土器・陶磁器』

次山　淳 1993「布留式土器における精製器種の製作技術」『考古学研究』第 40 巻４号　考古学研究会

土谷崇夫 2005「関西地方の後晩期における磨製石斧の地域性－形態・石材・大きさを主に－」『縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』関西縄文文化研究会

土谷崇夫 2007「磨製石斧の供給」『縄文時代の考古学６　ものづくり－道具製作の技術と組織－』同成社

寺沢　薫 1986「畿内古式土師器の編年と二、三の問題」『矢部遺跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告書第 49 冊　奈良県教育委員会

寺沢　薫・森岡秀人編著 1989『弥生土器の様式と編年　』近畿編Ⅰ　木耳社

寺前直人 1998「弥生時打の武器形石器」『考古学研究』第 45 巻第２号　考古学研究会

土井孝之 1989「紀伊地域」『弥生土器の様式と編年』近畿編１　木耳社
土井孝之 1994「紀伊の弥生時代集落の動向と高地性集落」『文化財学論集』文化財学論集刊行会
中野榮治 1989『紀伊国の条里制』古今書院
中野晴久 1995「9．中世陶器（２）常滑・渥美」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
中村貞史 1979「縄文時代」『和歌山の研究　１　地質・考古篇』清文堂
奈良文化財研究所編　1993『木器集成図録　近畿原始偏』
額田雅裕 2003「地理・地質調査－官省符荘の地形環境－」『高野枡をつくらせた荘園』紀の川流域荘園詳細分布調査委員会
前田敬彦 1988「紀伊における弥生時代中期の突帯文について」『和歌山地方史研究』15　和歌山地方史研究会
前田敬彦 1991「紀伊における弥生時代集落と銅鐸」『古代文化』第 47 巻第 10 号　（財）古代学協会
前田義明 2008「紀伊国伊都郡妙寺条里区（指理郷）の発掘調査－和歌山県かつらぎ町丁ノ町・妙寺遺跡、西飯降Ⅱ遺跡－」
『条里制古代都市研究』24 条里制古代都市研究会
間壁忠彦 1991『備前焼』考古学ライブラリー 60　ニューサイエンス社
正岡睦夫 1992「備前地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社
水島大二監修 1995『定本・和歌山県の城』郷土出版社
三好孝一 1987「生駒西麓型土器についての一視点」『花園史學』第８号
森田　稔 1995「８．中世須恵器」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
桃野真晃・藤井保夫・久貝健 1977「和歌山県の古代寺院跡」『仏教芸術』116　毎日新聞社
橋本市教育委員会 1984『東家遺跡発掘調査概報』
濱田延充 1993「生駒西麓第Ⅲ・Ⅳ様式の編年」『弥生文化博物館研究報告』第２集　大阪府立弥生文化博物館
濱田延充 2001「畿内第Ⅳ様式の実像－西ノ辻Ｎ地点出土土器の再検討－」『ヒストリア』第 174 号　大阪歴史学会
平井　勝 1991『弥生時代の石器』考古学ライブラリー 64　ニューサイエンス社
藤田三郎・松本洋明 1989「大和地域」『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅰ　木耳社
藤田三郎 2003「（４）大和第Ⅳ様式」『奈良県の弥生土器集成』　奈良県立橿原考古学研究所
平凡社地方資料センター 1983『和歌山県の地名』日本歴史地名大系第 31 巻　平凡社
山本正敏 1991「蛇紋岩製磨製石斧の生産と流通」『季刊考古学』第 53 号　雄山閣
山本信夫 2000「陶磁器分類」『大宰府条坊跡ＸＶ』大宰府市教育委員会
和歌山井堰研究会 2002『紀ノ川流域堤防井堰等遺跡調査報告書Ⅰ（橋本市・伊都郡編）』
和歌山県教育委員会 2007『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』
和歌山県教育委員会 1986『船岡山遺跡発掘調査報告書－紀の川河川改修工事に伴う発掘調査－』
和歌山県史編さん委員会 1983『和歌山県史　考古資料』和歌山県
和歌山県文化財研究会 1980『歴史の道調査報告書（Ⅱ）－南海道・大和街道他－』和歌山県教育委員会

＜参 考 文 献＞（付章）

安藤一男 1990「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『東北地理』42
生駒山地領家帯研究グループ 1986「生駒山はんれい岩体について」『地球科学』40
伊東隆夫　1999『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ』京都大学木質科学研究所
伊藤良永・堀内誠示 1991「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』６
尾嵜大真 2005「CAL98 から IntCal04 へ」『学術創成研究費　弥生農耕の起源と東アジアNo.３－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－』
金原正明 1993「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第 10 巻　古代資料研究の方法』角川書店
北村四郎・村田　源 1979『原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ』保育社
近畿西部ＭＴＬ研究グループ 1981「和泉山脈東部の和泉層群の層序と構造」『地球科学』35
栗本史雄・牧本　博・吉田史郎・高橋裕平・駒沢正夫 1998『20 万分の１地質図幅』和歌山地質調査所
小杉正人 1986「陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－」『植生史研究』第１号　植生史研究会
小杉正人 1988「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究』27
佐伯浩・原田　浩 1985「針葉樹材の細胞」『木材の構造』文永堂出版
佐伯浩・原田　浩 1985「広葉樹材の細胞」『木材の構造』文永堂出版
島倉巳三郎 1973『日本植物の花粉形態』大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集

島地　謙・伊東隆夫 1982『図説木材組織』 地球社
島地　謙・伊東隆夫 1988『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣
杉山真二 1999「植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史」『第四紀研究』38(2)
杉山真二 2000「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』 同成社
辻誠一郎 1984「栃木県南部、二ノ宮町における立川期の植物遺体群集」『第四紀研究』23
中島正志・夏原信義 1980『考古地磁気年代推定法』考古学ライブラリー9　ニュー・サイエンス社
中島正志・谷崎有里 1990「考古地磁気試料の交流消磁実験」『福井大教育紀要』
中村俊夫 1999「放射性炭素法」『考古学のための年代測定学入門』 古今書院
中村　純 1973『花粉分析』 古今書院
中村　純 1974「イネ科花粉についてとくにイネ（Oryza sativa）を中心として」『第四紀研究』13
中村　純 1977「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号
中村　純 1980『日本産花粉の標徴』大阪自然史博物館収蔵目録第13集
奈良国立文化財研究所 1985『木器集成図録 近畿古代篇』奈良国立文化財研究所史料第27冊
奈良国立文化財研究所 1993『木器集成図録 近畿原始篇』奈良国立文化財研究所史料第36冊
日本の地質「近畿地方」編集委員会 1987『日本の地質』6 近畿地方　共立出版
東村武信 1976「産地推定における統計的手法」『考古学と自然科学』9　学生社
東村武信 1980『考古学と物理化学』 学生社
広岡公夫 1977「考古地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向」『 第四紀研究』15
深澤和三 1979『樹体の解剖』 海青社
藤原宏志 1976「プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－」
『考古学と自然科学』9
藤原宏志・杉山真二 1984「プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）－プラント・オパール分析による水田址の探査－」
『考古学と自然科学』17
古谷・田井 1993「大阪層群と段丘堆積層・沖積層の花粉化石」『大阪層群』 創元社
町田　洋・新井房夫 2003『新編火山灰アトラス』 東京大学出版会
松田順一郎・三輪若葉・別所秀高 1999「瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－」
『日本文化財科学会第16回大会発表要旨集』
安田喜憲・三好教夫 1998「関東地方の植生史」『図説日本列島植生史』 朝倉書店
山田昌久 1993「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成」『植生史研究特別第1号』植生史研究会
藁科哲男・東村武信 1975「蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（II）」『考古学と自然科学』8
藁科哲男・東村武信・鎌木義昌 1977・1978「蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（III）・（IV）」
『考古学と自然科学』10
藁科哲男・東村武信 1983「石器原材の産地分析」『考古学と自然科学』16
Hirooka, K., 1971 : Archaeomagnetic study for the past 2,000 years in Southwest Japan. Mem. Fac. Sci, Kyoto Univ., Ser. Geol. Mineral, 38
Shibuya, H., 1980 : Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2,000 years by means of archaeomagnetism. 大阪大基礎工修論
Zijderveld, J. D. A., 1967 : A. C. demagnetization of rocks : analysis of results. In Methods in paleomagnetism, Collinson et al. (eds.), Elsevier Pub. Com.
Paula J Reimer et al., 2004 IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46
Hustedt, F. (1937 － 1938) Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch. Hydrobiol, Suppl. 15
Lowe, R. L. (1974) Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh－water diatoms, National Environmental Reserch. Center.
K. Krammer・H. Lange-Bertalot (1986-1991) Bacillariophyceae・1－4.
Asai, K. &, Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10

付表１　遺構一覧表　第１次調査
西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）遺構一覧表

掲載遺構名	遺構番号	地区	取り上げグリッド			遺構の種類	検出層位	規模（cm）			出土遺物	時期	掲載遺物	備考
			大区画	中区画	小区画			長径	短径	深さ				
土坑１	5080	１－３区	Ⅱ２	J８	j12	土坑	第４・２層下面	55	50	20	備前焼	室町時代（15世紀）		
耕作痕１	5001	１－３区	Ⅱ２	J８	k5	畝溝	第３層上面	—	20	—	瓦器・土師器	鎌倉時代（13世紀）		
耕作痕２	5005	１－３区	Ⅱ２	J８	m4・5	畝溝	第３層上面	—	30	—	鉄滓	鎌倉時代以降		
溝１	5323	１－１区	Ⅱ２	I８	v6・u6～８	溝	第４・２層下面	—	170	60	土師器・黒色土器	平安時代中期（10世紀）	24・S26	自然流路２に切られる
土坑２	5348	１－４区	Ⅱ２	J８	j18	土坑	第４・２層下面	130	90	10	製塩土器	平安時代前期（９世紀）		
落ち込み１	5049	１－３区	Ⅱ２	J８	m～o12・k6・７	落ち込み	第４・２層下面	—	145	10	土師器・須恵器	平安時代前期（９世紀）	19～21	落ち込み1，第4-4層下で北へ続く
溝２	5082	１－３区	Ⅱ２	J８	q７・p７	溝	第４・２層下面	—	95	20	須恵器	奈良時代（８世紀）	27	自然流路１と重複
溝３	5027	１－３区	Ⅱ２	J８	n5～６・n６	溝	第４・２層下面	—	100～155	15	土師器・製塩土器・須恵器・土錘・石錘（砥石）	平安時代前期（９世紀後半）	28～49・S38	自然流路１に関連か，土器，礫，炭化物を含む。
自然流路１	5030	１－３区	Ⅱ２	J８	k5・６・l5～７・m～u6・７・v6・w6	自然流路	第４・２層下面	—	215	50	土師器・須恵器	鎌倉時代以降	22・23	落ち込み１、溝２と複雑に重複
自然流路２	5007	１－１区	Ⅱ２	I８	t８・９・l4～10・u9・10・u14～18・v10～14	自然流路	第４・２層下面	—	500	125	土師器・黒色土器・須恵器・木製品（矢板）・石器	平安時代中期（10世紀） （古墳時代後期混じる）	25・26・W2	溝１、5327と重複、調査区東側を流れる
	5327	１－１区・１－２区	Ⅱ２	I８	t８・t９・t10・t11	自然流路	第４・２層下面	—	—	100	土師器・須恵器			5007と接続
	5326	１－１区	Ⅱ２	I８	t９	堰	第４・２層下面	—	—	—	土師器・木樋		W9・W10	5007内、木樋
竪穴建物１	5089	１－３区	Ⅱ２	J８	m11・n11	竪穴建物	第４・２層下面（間層）	400	375	20	土師器・須恵器・石器（台石）	古墳時代後期（ＴＫ10型式）	50～66・S43	方形４本柱，焼失住居，垂木状の炭化材あり。
	竈	１－３区	Ⅱ２	J８	m11・n11	竈	第４・２層下面	75	65	15				
	P１	１－３区	Ⅱ２	J８	m11・n11	柱穴	第４・２層下面	20	20	5				
	P２	１－３区	Ⅱ２	J８	m11・n11	柱穴	第４・２層下面	20	20	5				
	P３	１－３区	Ⅱ２	J８	m11・n11	柱穴	第４・２層下面	20	20	5				
	P４	１－３区	Ⅱ２	J８	m11・n11	柱穴	第４・２層下面	20	20	5				
竪穴建物２	5335	１－４区	Ⅱ２	J８	g～h13・14	竪穴建物	第４・２層下面（間層）	460	460	20	土師器・須恵器	古墳時代後期（ＴＫ10型式）	67	方形４本柱
	P１（5341）	１－４区	Ⅱ２	J８	g～h14・15	柱穴	第４・２層下面	45	40	40				
	P２（5343）	１－４区	Ⅱ２	J８	g～h14・15	柱穴	第４・２層下面	40	35	20				
	P３（5342）	１－４区	Ⅱ２	J８	g～h14・15	柱穴	第４・２層下面	35	35	25				
	P４（5340）	１－４区	Ⅱ２	J８	g～h14・15	柱穴	第４・２層下面	45	40	40				
竪穴建物３	5095	１－２区	Ⅱ２	I８	u～v17・18	竪穴建物	第４・３層下面	420	410	5	土師器・須恵器・石器	古墳時代後期（ＴＫ10型式）	109～111・S19	方形４本柱，南西隅に礫散きをもつ
	竈	１－２区	Ⅱ２	I８	u～v17・18	竈	第４・３層下面	80	55	15				石製の支脚あり
	SK１	１－２区	Ⅱ２	I８	u～v17・18	貯蔵穴	第４・３層下面	75	60	35				
	SK２	１－２区	Ⅱ２	I８	u～v17・18	ピット	第４・３層下面	45	40	25				
	P１	１－２区	Ⅱ２	I８	u～v17・18	柱穴	第４・３層下面	48	46	40				
	P２	１－２区	Ⅱ２	I８	u～v17・18	柱穴	第４・３層下面	25	20	30				
	P３	１－２区	Ⅱ２	I８	u～v17・18	柱穴	第４・３層下面	30	25	25				
	P４	１－２区	Ⅱ２	I８	u～v17・18	柱穴	第４・３層下面	35	30	25				
竪穴状遺構１	5012	１－３区	Ⅱ２	J８	f10	竪穴状遺構	第４・２層下面	460	330	40	須恵器	古墳時代後期（ＴＫ10型式）	68	竪穴建物か
焼成土坑１	5501	１－１区	Ⅱ２	I８	x6	焼成土坑	第４・２層下面	70	60	15	土師器	古墳時代後期（ＴＫ10～ＴＫ217型式）	75・76	被熱を受ける
焼成土坑２	5301	１－３区	Ⅱ２	J８	n6	焼成土坑	第４・４層下面	120	50	15				
焼成土坑３	5302	１－３区	Ⅱ２	J８	n6	焼成土坑	第４・４層下面	70	45	20				
鍛冶遺跡１	5300	１－３区	Ⅱ２	J８	n6	鋳造炉	第４・４層下面	150	90	30				
土坑３	5040	１－３区	Ⅱ２	J８	l11	土坑	第４・２層下面	430	330	20	須恵器	古墳時代後期（ＴＫ10型式）	69・70	
土坑４	5332	１－４区	Ⅱ２	J８	k13・l4	土坑	第４・２層下面	200	185	20	土師器・須恵器	古墳時代後期（ＴＫ10～ＴＫ217型式）	71～73	溝６を切る
土坑５	5329	１－３区	Ⅱ２	J８	q８	土坑	第４・４層下面	550	300	10	土師器	古墳時代後期（ＴＫ10～ＴＫ217型式）	74	遺構番号重複
土坑６	5162	１－３区	Ⅱ２	J８	j９	土坑	第４・４層下面	110	95	10	須恵器	古墳時代後期（ＴＫ10型式）	112・113	自然流路４を切る
ピット１	5057	１－３区	Ⅱ２	J８	e８	ピット	第４・２層下面	40	35	5	須恵器	古墳時代後期（ＴＫ10型式）		
ピット２	5087	１－２区	Ⅱ２	I８	u17	ピット	第４・３層下面	40	35	20	土師器	古墳時代後期（ＴＫ10～ＴＫ43型式）	114	溝４に切られる
ピット３	5088	１－２区	Ⅱ２	I８	v14	ピット	第４・３層下面	45	45	25	須恵器	古墳時代後期（ＴＫ10～ＴＫ43型式）	115	
溝４	5084	１－２区	Ⅱ２	I８	u16・17・v16・w16・x15・16	溝	第４・２層下面	—	65	35	土師器・須恵器・製塩土器・弥生土器	古墳時代後期（ＴＫ10～ＴＫ217型式）	77・78	5010と同一溝
	5010	１－３区	Ⅱ２	J８、I８	d15・e14・f13・g～h13・j11・l2・k10	溝	第４・２層下面	—	50	30	土師器・須恵器			5084と同一溝
溝５	5324	１－１区	Ⅱ２	I８	x6～10・y6・７	溝	第４・２層下面	—	170	45	須恵器	古墳時代後期（ＴＫ10～ＴＫ43型式）	79～82	5325と同一溝
	5325－1	１－４区	Ⅱ２	J８	b12～17・c17・18・b19・a20	溝	第４・２層下面	—	430	80	土師器・須恵器			5324と同一溝

溝6（2区につづく）	5331－1	1－4区	Ⅱ2	J8	h～i13・i～k14・j・k～m15・m16	自然流路	第4－2層下面	—	130	20	須恵器	古墳時代後期（TK10型式）	83～85	土坑4，溝4に切られる
	5399	1－4区	Ⅱ2	J8	m～n14・15・o15・o～r16・r～s17	自然流路	第4－2層下面	—	130	15	土師器・須恵器			方形周溝墓3を切る溝
溝7	5013	1－3区	Ⅱ2	J8	b9・c9～11・d11・12・e11・12・f12	溝	第4－2層下面	—	160	50	土師器・須恵器・石器	古墳時代後期（TK10型式）	86～90	5014と関連
	5014	1－3区	Ⅱ2	J8	c11～15・e15・f・g16	溝	第4－2層下面	—	190	20	土師器・須恵器			5013と関連
溝8	5245	1－3区	Ⅱ2	J8	m5・n5・6	溝	第4－4層下面	—	190	30	破片のみ			
溝9	5179	1－3区	Ⅱ2	J8	m・n6・m～q7	溝	第4－4層下面				土師器・須恵器・石器	古墳時代後期（TK10～TK43型式）	116	遺物少ない
溝10	5194	1－2区	Ⅱ2	J8	w11～13・x10～12	溝	第4－3層下面	—	230	20	土師器・製塩土器	古墳時代後期（古墳時代前期混じる）	117	
自然流路3	5064	1－3区	Ⅱ2	J8	d6・e7・8・f～h9・h～m10	自然流路	第4－2層下面	—	400	40	土師器・須恵器	古墳時代後期（MT15～TK10型式）	91～103	自然流路4に切られる，完形の土器多数
自然流路4	5047	1－3区	Ⅱ2	J8	j6・7・k8・9・l～q9・q～s10	自然流路	第4－2層下面	—	145	60	土師器・須恵器	古墳時代後期（TK10～TK43型式）	104～108	自然流路1と重複
自然流路5	5472	1－4区	Ⅱ2	J8	t～c・5～20	自然流路	第4－4層下面	—	1555	50	土師器・須恵器・石器	古墳時代前期～後期（布留2式～TK10型式）	118～121・S2・S3	
自然流路6（2区につづく）	5186	1－3区	Ⅱ2	J8	f～i4・f～h5・h～16・i～m7・k～o8・j～v9・m～v10	溝	第4－4層下面	—	640	—	土師器・須恵器・弥生土器・石器	古墳時代後期（TK10～TK217型式）	122～137	自然流路4に切られる，06-2区に続く
	5324－2	1－3区	Ⅱ2	J8	o10	堰	第4－4層下面	—	—	—				自然流路6の堰
	5178	1－3区	Ⅱ2	J8	s～u11・r～u12	溝状遺構	第4－4層下面	—	165	40	土師器・須恵器・弥生土器・石器		139・140	5047，5186から派生する溝，弥生土器混入一部方形周溝墓2の遺物
	5259	1－3区	Ⅱ2	J8	p・q11・p～r12・r～s13	溝	第4－4層下面	—	70	—	土師器		138	5047，5186から派生する溝
竪穴建物4	5184	1－2区	Ⅱ2	I8	v11・v・x12	竪穴建物	第4－3層下面	360	330	10	土師器・石器	古墳時代前期（布留2式）	141	方形4本柱か?，自然流路2に削平される
	炉	1－2区	Ⅱ2	I8	v11・v・w12	炉	第4－3層下面	—	120	20				炭化物を含む
	SK	1－2区	Ⅱ2	I8	v11・v・w12	貯蔵穴	第4－3層下面	80	75	30	土師器		142・143・144	上面に土器投棄
	P1	1－2区	Ⅱ2	I8	v11・v・w12	柱穴	第4－3層下面	25	20	25				
	P2	1－2区	Ⅱ2	I8	v11・v・w12	柱穴	第4－3層下面	20	20	10				
竪穴建物5	5507	1－4区	Ⅱ2	J8	i・j14・15	竪穴建物	第4－4層下面	440	390	25	土師器	古墳時代前期（布留式前半）		方形2本柱
	炉（5519）	1－4区	Ⅱ2	J8	j14	炉	第4－4層下面	90	80	10				
	SK（5521）	1－4区	Ⅱ2	J8	j14	貯蔵穴	第4－4層下面	55	40	15	土師器		145・146	
	P1（5518）	1－4区	Ⅱ2	J8	j14	柱穴	第4－4層下面	25	20	30				
	P2（5520）	1－4区	Ⅱ2	J8	j14	柱穴	第4－4層下面	20	20	10				
竪穴建物6	5402	1－4区	Ⅱ2	I8	i19	竪穴建物	第4－4層下面	360	350	15	弥生土器・土師器	古墳時代前期（布留式前半）（弥生時代中期の遺物混じる）	147～151	方形4本柱
	SK1（5510）	1－4区	Ⅱ2	J8	i19	土坑	第4－4層下面	70	35	5				
	SK2（5511）	1－4区	Ⅱ2	J8	i19	土坑	第4－4層下面	65	45	5				
	P1	1－4区	Ⅱ2	I8	i19	柱穴	第4－4層下面	40	40	5				
	P2	1－4区	Ⅱ2	J8	i19	柱穴	第4－4層下面	40	40	5				
	P3	1－4区	Ⅱ2	J8	i19	柱穴	第4－4層下面	40	40	5				
	P4	1－4区	Ⅱ2	I8	i19	柱穴	第4－4層下面	40	40	5				
	P5	1－4区	Ⅱ2	J8	i19	柱穴	第4－4層下面	30	30	5				
竪穴建物7	5400	1－4区	Ⅱ2	I8	j19・k19	竪穴建物	第4－4層下面	420	400	25	弥生土器・石器	古墳時代前期（布留式前半）（弥生時代中期の遺物混じる）	152～156・S22	方形4本柱，下面で竪穴建物14を検出
	炉（5436）	1－4区	Ⅱ2	I8	j19	炉	第4－4層下面	140	140	15	弥生土器		157	
	P1（5438）	1－4区	Ⅱ2	I8	j19・k19	柱穴	第4－4層下面	35	35	5				
	P2（5439）	1－4区	Ⅱ2	I8	j19・k19	柱穴	第4－4層下面	45	40	5				
	P3（5440）	1－4区	Ⅱ2	I8	j19・k19	柱穴	第4－4層下面	50	45	5				
	P4（5437）	1－4区	Ⅱ2	I8	j19・k19	柱穴	第4－4層下面	40	40	5				
焼成土坑4	5401	1－4区	Ⅱ2	I8	i19	焼成土坑あり	第4－4層下面	100	70	25				被熱痕あり，炭化物含む
土坑7	5243	1－2区	Ⅱ2	I8	x11	土坑	第4－3層下面	135	90	20	土師器	古墳時代前期（布留2式）	158～161	土坑8と重複
土坑8	5244	1－2区	Ⅱ2	I8	y10・11	土坑	第4－3層下面	240	225	25	土師器	古墳時代前期（布留2式）	162・163	土坑7と重複
土坑9	5365	1－4区	Ⅱ2	I8	y13	土坑	間層中	345	165	10	土師器	古墳時代前期（布留2式）	164～166	
土坑10	5118	1－2区	Ⅱ2	I8	u16	土坑	第4－5層下面	150	115	30	土師器	弥生時代後期～古墳時代前期（V様式～庄内式）	167～169	
溝11	5386	1－3区	Ⅱ2	I8	y14・15・a16	溝	第4－4層下面	—	60	15	土師器	古墳時代前期（布留式前半）	170・171	自然流路5に切られる
溝12	5128	1－2区	Ⅱ2	I8	w17・18	溝	第4－3層下面	—	20	10	土師器		172	
竪穴建物8	5506	1－1区	Ⅱ2	I8	t6・7・u6・7	竪穴建物	第4－4層下面	580	530	10	サヌカイト剥片	弥生時代中期（Ⅲ様式～Ⅳ様式）		
	炉（5500）	1－1区	Ⅱ2	I8	u7	炉	第4－4層下面	190	160	45				
	P1（5512）	1－1区	Ⅱ2	I8	u6	柱穴	第4－4層下面	40	40	10				
	P2（5515）	1－1区	Ⅱ2	I8	u6	柱穴	第4－4層下面	35	35	10				
	P3（5516）	1－1区	Ⅱ2	I8	u6	柱穴	第4－4層下面	35	35	10				
	P4（5514）	1－1区	Ⅱ2	I8	u6	柱穴	第4－4層下面	50	50	20				
	P5（5513）	1－1区	Ⅱ2	I8	u6	柱穴	第4－4層下面	40	40	15				

竪穴建物9	5185	1・3区	Ⅱ2	J8	h・i8～10	竪穴建物	第4・4層下面	835	830	40	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）	173～186	円形8本柱、松菊里系住居
	炉1（5289）	1・3区	Ⅱ2	J8	h・i9	炉	第4・4層下面	220	185	25				
	SK1（5286）	1・3区	Ⅱ2	J8	i9	土坑	第4・4層下面	90	60	15				
	SK2（5287）	1・3区	Ⅱ2	J8	i9	土坑	第4・4層下面	90	60	10				
	P1（5272）	1・3区	Ⅱ2	J8	h9	柱穴	第4・4層下面	40	40	5	弥生土器			
	P2（5273）	1・3区	Ⅱ2	J8	h9	柱穴	第4・4層下面	40	40	15				
	P3（5276）	1・3区	Ⅱ2	J8	h9	柱穴	第4・4層下面	45	40	10				
	P4（5277）	1・3区	Ⅱ2	J8	h10	柱穴	第4・4層下面	40	40	30				
	P5（5279）	1・3区	Ⅱ2	J8	h10	柱穴	第4・4層下面	35	30	10				
	P6（5281）	1・3区	Ⅱ2	J8	i10	柱穴	第4・4層下面	50	50	15				
	P7（5284）	1・3区	Ⅱ2	J8	i9	柱穴	第4・4層下面	40	30	15				
	P8（5285）	1・3区	Ⅱ2	J8	i9	柱穴	第4・4層下面	50	40	10				
	P9（5321	1・3区	Ⅱ2	J8	h9	2柱穴	第4・4層下面	45	40	25				
	P10（5322）	1・3区	Ⅱ2	J8	i9	2柱穴	第4・4層下面	45	40	25				
竪穴建物10	5369	1・4区	Ⅱ2	J8	e～e・17～18	竪穴建物	第4・4層下面	750	—	10	弥生土器・石器	弥生時代中期（Ⅲ様式～Ⅳ様式）	S36	円形8本柱、松菊里系住居
	炉（5371）	1・4区	Ⅱ2	J8	d18・19	炉	第4・4層下面	120	110	35				
	SK1（5430）	1・4区	Ⅱ2	J8	c18・d18	土坑	第4・4層下面	100	90	25	弥生土器		187・188	
	SK2（5427）	1・4区	Ⅱ2	J8	c18・d18	土坑	第4・4層下面	80	80	20				
	P1（5397）	1・4区	Ⅱ2	J8	c～d・17～18	柱穴	第4・4層下面	50	45	25				
	P2（5394）	1・4区	Ⅱ2	J8	c～d・17～18	柱穴	第4・4層下面	45	45	5				
	P3（5393）	1・4区	Ⅱ2	J8	c～d・17～18	柱穴	第4・4層下面	60	50	30				
	P4（5392）	1・4区	Ⅱ2	J8	c～d・17～18	柱穴	第4・4層下面	40	40	5				
	P5（5391）	1・4区	Ⅱ2	J8	c～d・17～18	柱穴	第4・4層下面	75	70	30				
	P6（5390）	1・4区	Ⅱ2	J8	c～d・17～18	柱穴	第4・4層下面	45	40	10				
	P7（5425）	1・4区	Ⅱ2	J8	c18・d18	2柱穴	第4・4層下面	40	35	30				
	P8（5426）	1・4区	Ⅱ2	J8	c18・d18	2柱穴	第4・4層下面	35	30	5				
竪穴建物11	5370	1・4区	Ⅱ2	J8	c～e19・e20	竪穴建物	第4・4層下面	—	970	15	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）	189～193	円形
	炉	1・4区	Ⅱ2	J8	c～e19・e20	炉	第4・4層下面	—	120	10				
竪穴建物12	5373	1・4区	Ⅱ2	J8	g・h19・h20	竪穴建物	第4・4層下面	590	—	20	土師器・弥生土器	弥生時代中期（Ⅲ様式～Ⅳ様式）（古墳時代前期の遺物混じる）	194～196・S16	円形6本柱か？、松菊里系住居
	炉（5387）	1・4区	Ⅱ2	J8	g19	中央土坑	第4・4層下面	85	70	25				
	SK（5508）	1・4区	Ⅱ2	J8	g19・h19	土坑・壁際炉	第4・4層下面	140	75	20				
	P1（5389）	1・4区	Ⅱ2	J8	g19	柱穴	第4・4層下面	40	40	10				
	P2（5380）	1・4区	Ⅱ2	J8	g19	柱穴	第4・4層下面	35	35	15				
	P3（5388）	1・4区	Ⅱ2	J8	g19	柱穴	第4・4層下面	55	—	10				
	P4（5385）	1・4区	Ⅱ2	J8	g19	柱穴	第4・4層下面	40	35	10				
	P5（5375）	1・4区	Ⅱ2	J8	g19	2柱穴	第4・4層下面	30	25	5	石器（塵製石剣）		S1	
	P6（5383）	1・4区	Ⅱ2	J8	g19	2柱穴	第4・4層下面	25	25	5				
竪穴建物13	5183	1・3区	Ⅱ2	J8	f～g7～9	竪穴建物	第4・4層下面	500	460	35	弥生土器・土師器・石器	弥生時代後期後葉（Ⅴ様式後葉）	197～200・S40	方形4本柱、自然流路3に切られる
	SK（5313）	1・3区	Ⅱ2	J8	g8	貯蔵穴	第4・4層下面	100	50	10				
	P1（5305）	1・3区	Ⅱ2	J8	f8	柱穴	第4・4層下面	30	30	10				
	P2（5306）	1・3区	Ⅱ2	J8	f8	柱穴	第4・4層下面	30	30	15				
	P3（5308）	1・3区	Ⅱ2	J8	f8	柱穴	第4・4層下面	35	30	15				
	P4（5310）	1・3区	Ⅱ2	J8	g7	柱穴	第4・4層下面	30	25	10				
	P5（5311）	1・3区	Ⅱ2	J8	g7	柱穴	第4・4層下面	40	30	10				
	P6（5312）	1・3区	Ⅱ2	J8	g7	柱穴	第4・4層下面	30	30	5				
	P7（5314）	1・3区	Ⅱ2	J8	g8	柱穴	第4・4層下面	35	30	5				
竪穴建物14	5523	1・4区	Ⅱ2	J8	i～k19・j・k18	竪穴建物	第4・4層下面	540	480	30	弥生土器・石器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	201～206・S20・S30	円形4本柱、松菊里系住居
	炉	1・4区	Ⅱ2	J8	j19	炉	第4・4層下面	100	85	35				
	P1（5526）	1・4区	Ⅱ2	J8	j19	柱穴	第4・4層下面	30	20	20				
	P2（5525）	1・4区	Ⅱ2	J8	j19	柱穴	第4・4層下面	25	25	30				
	P3（5528）	1・4区	Ⅱ2	J8	j19	柱穴	第4・4層下面	35	30	20				
	P4（5527）	1・4区	Ⅱ2	J8	j19	柱穴	第4・4層下面	35	30	20				
	P5（5530）	1・4区	Ⅱ2	J8	j19	2柱穴	第4・4層下面	25	25	20				
	P6（5529）	1・4区	Ⅱ2	J8	j19	2柱穴	第4・4層下面	22	20	15				
竪穴状遺構2	5182	1・3区	Ⅱ2	J8	c・d5・6・c7	竪穴状遺構	第4・4層下面	440	415	15	弥生土器・土師器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	207～210	方形
方形周溝墓1	5269	1・3区	Ⅱ2	J8	m～n9～i1・o～p11～12	方形周溝墓	第4・4層下面	850（墳丘）	390（溝幅）	30	弥生土器・石器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）（Ⅳ様式後葉混じる）	211～238・S4・S8・S27	供献土器あり

方形周溝墓1	SK1（5330）	1・3区	Ⅱ2	J8	m10・o10	土坑（埋葬施設）	第4・4層下面	265	70	20		弥生時代中期（Ⅲ様式中葉）		方形周溝墓1、遺構番号重複
	SK2（5328）	1・3区	Ⅱ2	J8	n9・10	土坑（周溝内）	第4・4層下面	250	135	45	弥生土器	弥生時代中期（Ⅲ様式中葉）	239	方形周溝墓1周溝内、遺構番号重複
方形周溝墓2	5268	1・3区	Ⅱ2	J8	q8～12・r～u11・12	方形周溝墓	第4・4層下面	1700～	150～（溝幅）	60～80	弥生土器・石器	弥生時代中期（Ⅲ様式前葉～中葉）（Ⅳ様式後葉混じる）	240～267	
方形周溝墓3	5418	1・4区	Ⅱ2	J8	n～t・16～21	方形周溝墓	第4・4層下面	1530（墳丘）	1140（墳丘）	40	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）（Ⅳ様式後葉混じる）	268～289	自然流路8と遺物の接合関係あり
土器棺墓1	5246	1・3区	Ⅱ2	J8	r6	土器棺墓	第4・4層下面	75	65	25	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）	290・291	棺身に甕、蓋に壺体部を用いる。
土器棺墓2	5247	1・3区	Ⅱ2	J8	q6・r6	土器棺墓・土坑	第4・4層下面	135	85	15	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）	298	土器棺かどうか不明
土器棺墓3	5325	1・3区	Ⅱ2	J8	r8	土器棺墓	第4・4層下面	60	55	25	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）	297	小さい鉢形を採用，出土状況では完形品だが接合できず
土器棺墓4	5479	1・4区	Ⅱ2	J8	n・o17・18	土器棺墓	第4・4層下面	110	95	20	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）	292～294	生駒西麓産壺と在地土器を組み合わせる
土器棺墓5	5491	1・4区	Ⅱ2	J8	n18	土器棺墓	第4・4層下面	55	35	10	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式中葉）	295・296	壺単独の出土
土坑11	5326	1・3区	Ⅱ2	J8	r8	土坑	第4・4層下面	140	75	20		弥生時代中期		
土坑12	5320	1・3区	Ⅱ2	J8	g8	土坑	第4・4層下面	250	240	20	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅳ様式中葉）	299～309	自然流路3に切られる
土坑13	5406	1・3区	Ⅱ2	J8	g15	土坑	第4・4層下面	120	115	15	弥生土器・石器	弥生時代中期中葉（Ⅳ様式）	310～314	削平をうける
土坑14	5255	1・3区	Ⅱ2	J8	e5	土坑	第4・4層下面	105	80	10	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅳ様式前葉）	315～318	
土坑15	5298	1・3区	Ⅱ2	J8	k5・15	土坑	第4・4層下面	200	165	30	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅳ様式後葉）	319～322	
土坑16	5415	1・4区	Ⅱ2	J8	k15・16	土坑	第4・4層下面	510	110	15	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅳ様式中葉）	323～326	自然流路8を切る土坑
土坑17	5331	1・3区	Ⅱ2	J8	s8	土坑	第4・4層下面	120	70	10	弥生土器	弥生時代中期	327	遺構番号重複
土坑18	5177	1・2区	Ⅱ2	I8	x14・15	土坑	第4・3層下面	430	55	20	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）	328～332	
土坑19	5417	1・4区	Ⅱ2	J8	e18	土坑	第4・4層下面	60	58	20	弥生土器	弥生時代中期	333～335	
土坑20	5481	1・4区	Ⅱ2	J8	m16	土坑	第4・4層下面	120	100	15	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）	336～340	
土坑21	5434	1・4区	Ⅱ2	J8	g15	土坑	第4・4層下面	130	100	15	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）	341・342	
土坑22	5407	1・4区	Ⅱ2	J8	g14	土坑	第4・4層下面	145	90	15	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）	343・344	
土坑23	5480	1・4区	Ⅱ2	J8	l16・m16	土坑	第4・4層下面	—	190	40	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）	345～347	
土坑24	5533	1・4区	Ⅱ2	J8	j18	土坑	第4・4層下面	80	—	15	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）	348	竪穴建物7，竪穴建物14に切られる
土坑25	5524	1・4区	Ⅱ2	J8	j19	土坑	第4・4層下面	130	110	20	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式中葉）	349～352	土坑24に切られる
土坑26	5522	1・4区	Ⅱ2	J8	j18	土坑	第4・4層下面	150	90	20	弥生土器	弥生時代中期	353～355	竪穴建物14を切る土坑
土坑27	5489	1・4区	Ⅱ2	J8	m17・18	土坑	第4・4層下面	175	115	20	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）	356～358	
土坑28	5129	1・2区	Ⅱ2	I8	w17・18	土坑	第4・3層下面	240	170	10	弥生土器	弥生時代中期	359	
土坑29	5435	1・4区	Ⅱ2	J8	f17	土坑	第4・4層下面	140	100	20	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）	360	
土坑30	5410	1・4区	Ⅱ2	J8	i15	土坑	第4・4層下面	135	90	10	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	361	自然流路8を切る土坑
土坑31	5409	1・4区	Ⅱ2	J8	g14	土坑	第4・4層下面	200	115	15	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	362・363	自然流路8を切る土坑
土坑32	5504	1・4区	Ⅱ2	J8	g15	土坑	第4・4層下面	55	50	20	弥生土器	弥生時代中期	364	
土坑33	5432	1・4区	Ⅱ2	J8	i16・j16	土坑	第4・4層下面	160	110	20	弥生土器	弥生時代中期	365	
土坑34	5478	1・4区	Ⅱ2	J8	l20	土坑	第4・4層下面	120	—	80	石器	弥生時代中期	S7	
土坑35	5405	1・4区	Ⅱ2	I8	f15・g15	土坑	第4・4層下面	160	100	30	弥生土器・石器	弥生時代中期	S25	
ピット4	5150	1・2区	Ⅱ2	I8	w18	ピット	第4・3層下面	30	30	10	弥生土器	弥生時代中期	366	
ピット5	5509	1・4区	Ⅱ2	J8	w15	ピット	第4・4層下面	40	40	10	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）	367	
溝13	5258	1・3区	Ⅱ2	J8	f・g5・6	溝状遺構	第4・4層下面	400	100	15	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	368～390	遺構の規模に比して遺物量多い
溝14	5200	1・2区	Ⅱ2	I8	v・w13・14	溝	第4・3層下面	—	70	10	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）	391～394	籾多数出土
溝15	5112	1・2区	Ⅱ2	I8	u15	溝	第4・3層下面	90	70	10	弥生土器	弥生時代中期	395	
溝16	5420	1・4区	Ⅱ2	J8	m17・n17・n18・o18・19・p20	溝	第4・4層下面	—	55	30	弥生土器	弥生時代中期	396・397	方形周溝墓3と土器棺墓5を切る
溝17	5367	1・4区	Ⅱ2	I8	y17	溝	第4・4層下面	—	72	20	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式後葉）	398・399	
自然流路8	5180	1・3区 1・4区	Ⅱ2	J8	b～e9・c～g10・i～h11・g～j12	溝	第4・4層下面	500～1300（幅）	—	—	弥生土器・絵画土器・石器	弥生時代中期（Ⅲ様式前葉～Ⅳ様式後葉）（Ⅰ様式混じる）	400～495・S5・S9・S21・S22・S39	竪穴建物5，土坑16，22，30，31、自然流路6に切られる

西飯降Ⅱ遺跡（06－2区）遺構一覧表

掘立柱建物1	P1（89）	2・3区	Ⅲ2	A8	i・j10・11	柱穴	第4・2層下面	30	30	15		鎌倉時代（13世紀～14世紀）		梁間3間以上
	P2（89）	2・3区	Ⅲ2	A8	i・j10・11	柱穴	第4・2層下面	20	20	20				
	P3（89）	2・3区	Ⅲ2	A8	i・j10・11	柱穴	第4・2層下面	25	25	35				
	P4（89）	2・3区	Ⅲ2	A8	i・j10・11	柱穴	第4・2層下面	40	25	10				
	P5（89）	2・3区	Ⅲ2	A8	i・j10・11	柱穴	第4・2層下面	40	35	20				
溝18	1	2・3区	Ⅲ2	A8，B8	w～y12・y13	溝	第4・2層下面	—	175～250	40	須恵器・土師器	平安時代前期（9世紀後半）	514・515・517	条里水田の大畦畔と水路
土坑36	47	2・3区	Ⅲ2	A8	g11	土坑	第4・4層下面	160	80	15	土師器	平安時代	518	

溝 19	95	2・2区	Ⅱ2	J8	y11・I2	溝	第4・2層下面	—	120	20	須恵器・土師器	古墳時代後期（TK 10型式）	519・520	
溝 20 （1区に続く）	7	2・2区	Ⅱ2	J8	u・v19・w・x20・21	自然流路	第4・2層下面	—	290	15				方形周溝墓4を切る
自然流路 6 （06-1区に続く）	200	2・4区	Ⅲ2	J8	g19・20	自然流路	第4・2層下面	—	370	30	土師器	古墳時代前期～後期		46に接続
	46	2・1区 2・3区 2・4区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	多い	流路	第4・4層下面	—	380～625	70～100	須恵器・土師器・弥生土器・木製品（下駄・建築部材・田下駄）・石器	古墳時代後期（TK 10～TK 217型式）	523～545・W1・W3・W4・W5・W6・W7・W8	自然流路4との土器接合関係あり。06-1区5186と連続
溝 21	229	2・4区	Ⅲ2	A8	i17・j17・k17	溝	第4・4層下面	—	80	35	土師器	古墳時代前期（布留式前半）	521・522	
溝 22	252	2・4区	Ⅲ2	A8	i19・20・k20	溝状遺構	第4・4層下面	—	80	20				
溝 23	254	2・4区	Ⅲ2	A8	h21～22・h～j23	溝状遺構	第4・4層下面	—	95	20				自然流路6に切られる
溝 24	60	2・3区	Ⅲ2	A8	n16・o15・16・p14	溝	第4・2層下面	1220	30	10				
溝 25	61	2・3区	Ⅲ2	A8	n16・o15・16・p14	溝	第4・2層下面	410	40	10				
竪穴建物 15	63	2・2区	Ⅱ2	J8	y18	竪穴住居か	第4・4層下面	400	365	10				円形、不整形、竪穴状遺構6に切られる
	中央土坑	2・2区	Ⅱ2	J8	y18	中央土坑	第4・4層下面	45	45	15				
	排水溝	2・2区	Ⅱ2	J8	y18	排水溝	第4・4層下面	—	50	15				
	P 1	2・2区	Ⅱ2	J8	y18	柱穴	第4・4層下面	40	40	10				
	P 2	2・2区	Ⅱ2	J8	y18	柱穴	第4・4層下面	20	20	10				
	P 3	2・2区	Ⅱ2	J8	y18	柱穴	第4・4層下面	25	20	15				
	P 4	2・2区	Ⅱ2	J8	y18	柱穴	第4・4層下面	40	30	15				
	P 5	2・2区	Ⅱ2	J8	y18	柱穴	第4・4層下面	30	25	15				
	P 6	2・2区	Ⅱ2	J8	y18	柱穴	第4・4層下面	20	20	10				
竪穴建物 16	24	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・w16・17	竪穴住居	第4・4層下面	580	440	5				円形6本柱、不整形
	SK1	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・w16・17	中央土坑	第4・4層下面	70	70	5				
	SK2	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・a16・17	中央土坑	第4・4層下面	100	75	5				
	P 1	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・a16・17	柱穴	第4・4層下面	25	25	5				
	P 2	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・a16・17	柱穴	第4・4層下面	25	25	5				
	P 3	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・a16・17	柱穴	第4・4層下面	40	30	10				
	P 4	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・a16・17	柱穴	第4・4層下面	20	20	5				
	P 5	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・a16・17	柱穴	第4・4層下面	20	20	5				
	P 6	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・a16・17	柱穴	第4・4層下面	25	25	10				
	P 7	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・a16・17	柱穴	第4・4層下面	25	25	5				
竪穴状遺構 3	64	2・2区	Ⅱ2	J8	x18	竪穴状遺構	第4・4層下面	450	350	5				竪穴建物15に切られる。炭化物出土
竪穴状遺構 4	65	2・2区	Ⅱ2	J8	x18	竪穴状遺構	第4・4層下面	400	360	15				竪穴建物15、竪穴状遺構3、4と重複。中央に炭化物、焼土分布
竪穴状遺構 5	66	2・2区	Ⅱ2	J8	x17・18	竪穴状遺構	第4・4層下面	—	—	20				
竪穴状遺構 6	25	2・2区	Ⅱ2, Ⅲ2	J8、A8	y・a17・18	竪穴状遺構	第4・4層下面	480	360	20	弥生土器・炭化物			竪穴建物15、竪穴建物16に切られる、炭化物を含む
方形周溝墓 4	77	2・2区	Ⅱ2	J8	v～y19～21	方形周溝墓	第4・4層下面	1120 （墳丘）	750 （墳丘）	10～30	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式中葉）	546～550	溝20に切られる
土坑 37	75	2・2区	Ⅱ2	J8	w・x17	土坑	第4・4層下面	—	325	5	弥生土器	弥生時代中期		竪穴状遺構3、竪穴状遺構4に切られる
土坑 38	231	2・4区	Ⅲ2	A8	j・k17・18	土坑	第4・4層下面	—	—	100	弥生土器	弥生時代中期	551	自然流路7に切られる
土坑 39	28	2・2区	Ⅱ2	J8	w17	土坑	第4・4層下面	250	145	20	縄文土器		564	土坑の下層から土器出土
溝 26	228	2・4区	Ⅲ2	A8	e24・25	溝	第4・4層下面	—	80	30	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）	552	
溝 27	12	2・2区	Ⅱ2	J8	s～a19	溝	第4・2層下面	—	105	15	弥生土器・石器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）	553・554	
自然流路 7	244	2・4区	Ⅲ2	A8	j・k18・j～o19・k17・k～p20・o・p21p・q22・η～w23・u～w24	自然流路	第4・4層下面	—	270～340	70～80	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）	555～560	自然流路6に切られる溝、226と同一溝
	226	2・4区	Ⅲ2	A8	a18・á～d19・e20・f～j18	自然流路	第4・4層下面	—	275	50	弥生土器		561～563	自然流路6に切られる、244と同一遺構

丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）遺構一覧表

土坑 40	151	1・2区	Ⅲ2	B8	ā・b21	土坑	第4・2層下面	75	55	10	瓦器・土師器	平安時代後期～鎌倉時代 （12世紀後半）	575～580	
土坑 41	167	1・3区	Ⅲ2	B8	x18	土坑	第4・2層下面	395	176	55	須恵器	平安時代前期前期（9世紀）	581	
土坑 42	49	1・1区	Ⅲ2	B8	i11	土坑	第4・2層下面	40	25	20	須恵器（樽形壺）	古墳時代中期（ON 46型式）	582	
土坑 43	50	1・1区	Ⅲ2	B8	g19	土坑	第4・2層下面	180	130	40	土師器	古墳時代前期（布留3式）	583	
土坑 44	159	1・2区	Ⅲ2	B8	g24	土坑	第4・2層下面	200	120	10	土師器	古墳時代前期（布留3式）	584	
落ち込み 2	15	1・1区	Ⅲ2	B12	119～22	落ち込み	第4・2層下面	—	260～160	15	土師器	古墳時代前期（布留3・4式）	585・586	

溝 28	242	1・2区	Ⅲ2	B8	多い	溝	第4－4層下面	—	240～140	80	土師器・石器	古墳時代前期（布留3・4式）	587～600・S54・S55	
自然流路 9	20	1・1区	Ⅲ2	B12	q～u20・q～u21	自然流路	第4－2層下面	—	100～280	50				
竪穴建物 17	51 床面A	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	竪穴建物	第4－4層下面	805	—	20	弥生土器	弥生時代中期後葉～末葉（Ⅳ様式後葉～末葉）	601～609・S52	円形8本柱，床面Cから拡張される，途中貼床である床面B存在。
	炉1	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	炉	第4－4層下面	110	100	55				炉堤をもつ
	P1	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	柱穴	第4－4層下面	45	45	50				
	P2	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	柱穴	第4－4層下面	60	60	20				
	P3	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	柱穴	第4－4層下面	65	50	50				
	P4	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	柱穴	第4－4層下面	50	50	20				
	P5	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	柱穴	第4－4層下面	70	65	35				
	P6	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	柱穴	第4－4層下面	60	55	45				
	P7	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	柱穴	第4－4層下面	45	40	20				
	51 床面C	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	竪穴建物	第4－4層下面	740	—	15		弥生時代中期後葉（Ⅲ様式後葉～Ⅳ様式）		床面Aへ拡張
	炉2	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	炉	第4－4層下面	135	130	—				炉堤をもつ
	溝1	1・4区	Ⅲ2	B9	s・t2・3	溝状遺構	第4－4層下面	—	50	5				
	溝2（122）	1・4区	Ⅲ2	B9	s～u1・2	溝状遺構	第4－4層下面	—	160	25	弥生土器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）	610	仕切り溝状にめぐる
竪穴建物 18	63	1・1区	Ⅲ2	B8	p～r20・21	竪穴建物	第4－4層下面	600	410	15	弥生土器・石器	弥生時代中期中葉（Ⅲ様式～Ⅳ様式）	611・612・S51	円形4本柱か？不整形
	P1	1・1区	Ⅲ2	B8	p～r20・21	柱穴	第4－4層下面	30	30	5				
	P2	1・1区	Ⅲ2	B8	p～r20・21	柱穴	第4－4層下面	35	30	5				
	P3	1・1区	Ⅲ2	B8	p～r20・21	柱穴	第4－4層下面	40	30	5				
	P4	1・1区	Ⅲ2	B8	p～r20・21	柱穴	第4－4層下面	45	35	5				
	P5	1・1区	Ⅲ2	B8	p～r20・21	柱穴	第4－4層下面	25	20	5				
	P6	1・1区	Ⅲ2	B8	p～r20・21	柱穴	第4－4層下面	35	35	5				
竪穴建物 19	173	1・2区	Ⅲ2	B9	n・o1・2	竪穴建物	第4－4層下面	670	—	15	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後半）	613・614	円形，竪穴建物20を切る
	P1	1・2区	Ⅲ2	B9	n・o1・2	柱穴	第4－4層下面	35	30	20				
	P2	1・2区	Ⅲ2	B9	n・o1・2	柱穴	第4－4層下面	35	30	10				
	P3	1・2区	Ⅲ2	B9	n・o1・2	柱穴	第4－4層下面	30	25	10				
	P4	1・2区	Ⅲ2	B9	n・o1・2	柱穴	第4－4層下面	25	25	10				
	P5	1・2区	Ⅲ2	B9	n・o1・2	柱穴	第4－4層下面	30	25	10				
竪穴建物 20	172	1・2区	Ⅲ2	B9	m～o2	竪穴建物	第4－4層下面	505	—	10	弥生土器・石器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後半）	615～617	円形4本柱か，竪穴建物19に切られる
	SK1	1・2区	Ⅲ2	B9	m～o2	中央土坑	第4－4層下面	100	—	20				
	P1	1・2区	Ⅲ2	B9	m～o2	柱穴	第4－4層下面	35	30	25				
	P2	1・2区	Ⅲ2	B9	m～o2	柱穴	第4－4層下面	35	30	25				
	P3	1・2区	Ⅲ2	B9	m～o2	柱穴	第4－4層下面	35	30	20				
	P4	1・2区	Ⅲ2	B9	m～o2	柱穴	第4－4層下面	35	30	10				
	P5	1・2区	Ⅲ2	B9	m～o2	柱穴	第4－4層下面	30	25	10				
	P6	1・2区	Ⅲ2	B9	m～o2	柱穴	第4－4層下面	20	20	10				
竪穴状遺構 7	65	1・1区	Ⅲ2	B8	q～r23	竪穴状遺構	第4－4層下面	410	—	10	弥生土器	弥生時代中期		不整形
竪穴状遺構 8	74	1・1区	Ⅲ2	B8	S23・24	竪穴状遺構	第4－4層下面	420	—	20		時期不明		不整形
土器棺墓 6	169	1・3区	Ⅲ2	B8	v24	土器棺	第4－4層下面	95	95	20	弥生土器	弥生時代後期前葉（Ⅴ様式前葉）	633・634	
土坑 45	241	1・2区	Ⅲ2	B8	r24	土坑	第4－4層下面	95	55	10	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式中葉）	618～623	
土坑 46	118	1・1区	Ⅲ2	B8	i19・j19	土坑	第4－4層下面	105	50	25	弥生土器	弥生時代後期前葉（Ⅴ様式前半）	624・625	
土坑 47	84	1・1区	Ⅲ2	B8	r21	土坑	第4－4層下面	85	60	5	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	626	
土坑 48	52	1・4区	Ⅲ2	B9	v1・w1	土坑	第4－4層下面	—	185	20	弥生土器・石器	弥生時代中期末葉（Ⅳ様式末葉）	627～632	
土坑 49	85	1・1区	Ⅲ2	B8	p21・q21	土坑	第4－4層下面	100	60	5	弥生土器	弥生時代中期末葉（Ⅳ様式末葉）	635	
土坑 50	91	1・4区	Ⅲ2	B9	v1	土坑	第4－4層下面	115	60	25	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	636	
土坑 51	239	1・2区	Ⅲ2	B8	g25	土坑	第4－4層下面	110	80	20	弥生土器	弥生時代中期末葉（Ⅳ様式末葉）	637～639	
溝 29	171	1・2区	Ⅲ2	B9	g1・2・r1	溝	第4－4層下面	—	195	20	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式前葉）	640～643	
溝 30	177	1・2区	Ⅲ2	B8，B9	o・p25・1	溝	第4－3層下面	890	375	35	弥生土器	弥生時代中期	644・645	竪穴建物19に接する
溝 31	233	1・2区	Ⅲ2	B8，B9	k・l24・25・k1	溝	第4－4層下面	980	440～460	10	弥生土器	弥生時代中期	650・651	
溝 32	170	1・3区	Ⅲ2	B8	v22・23	溝	第4－4層下面	—	740	40	弥生土器	弥生時代後期前葉（Ⅴ様式前葉）	646・647	
溝 33	162	1・3区	Ⅲ2	B8	t24・u24	溝	第4－4層下面	—	50	10	弥生土器	弥生時代中期	648・649	小溝
溝 34	54	1・4区	Ⅲ2	B9	u1・2	溝	第4－4層下面	555	75～160	25	弥生土器	弥生時代後期後葉（Ⅴ様式後葉）	652～655	L字に屈曲する溝，方形周溝墓の可能性。
自然流路 10	176	1・2区	Ⅲ2	B8，B9	m24～1・n25～2	流路？	第4－4層下面	—	325	15	弥生土器	弥生時代中期（Ⅳ様式）	656～658	竪穴建物19，20と接する。
集石遺構 1	83	1・2区	Ⅲ2	B8	i19	集石遺構	第4－4層下面	245	195	30		縄文時代か		
集石遺構 2	115	1・2区	Ⅲ2	B8	g16	集石遺構	第4－4層下面	125	90	5		縄文時代か		

付表１　遺構一覧表　第２次調査
丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区）遺構一覧表

掲載遺構番号	旧遺構番号	地区	取り上げグリッド			遺構の種類	検出層位	規模			出土遺物	時期	掲載遺物	備考
			大区画	中区画	小区画			長径	短径	深さ				
掘立柱建物１	P1（1005）	1・1区	Ⅲ2	G9	b25	柱穴	第３層下面	35	35	25		鎌倉時代（13世紀～14世紀）		梁行２間、桁行３間、総柱建物、根石あり
	P2（1006）	1・1区	Ⅲ2	G9	b25	柱穴	第３層下面	30	30	15				
	P3（1007）	1・1区	Ⅲ2	G9	b25	柱穴	第３層下面	35	35	25	瓦器			根石あり
	P4（1008）	1・1区	Ⅲ2	G9	c25	柱穴	第３層下面	20	20	25				
	P5（1009）	1・1区	Ⅲ2	G9	c25	柱穴	第３層下面	25	25	35				
	P6（1010）	1・1区	Ⅲ2	G10	c1	柱穴	第３層下面	25	25	30	瓦器・土師器			根石あり
	P7（1011）	1・1区	Ⅲ2	G9	c25	柱穴	第３層下面	30	30	25				
	P8（1012）	1・1区	Ⅲ2	G9	c25	柱穴	第３層下面	30	30	20	土師器			根石あり
	P9（1013）	1・1区	Ⅲ2	G10	c1	柱穴	第３層下面	25	25	30				根石あり
	P10（1014）	1・1区	Ⅲ2	G9	d25	柱穴	第３層下面	25	25	25				
	P11（1015）	1・1区	Ⅲ2	G9	d25	柱穴	第３層下面	30	30	35	瓦器・土師器			
	P12（1016）	1・1区	Ⅲ2	G10	d1	柱穴	第３層下面	35	35	40				根石あり
掘立柱建物２	布掘溝（1256）	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w16	布掘溝	第３層下面	150	—	40	土師器・瓦器・東播系須恵器・青磁・白磁・備前焼・常滑焼・施釉陶器・炭化物	鎌倉時代（13世紀半ば～13世紀後半）	23 ～ 128・S229・I1・I2・I3・14	炭化物層、風化礫層が交互に堆積し、最上層は炭化物層に覆われる
	P1（1277）	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w15	柱穴	第３層下面	50	40	30	土師器		135	梁行２間以上、桁行５間以上、根石あり
	P2（1267）	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w16	柱穴	第３層下面	60	50	50				根石あり
	P3（1269）	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w16	柱穴	第３層下面	50	45	35	瓦器		134	根石あり
	P4（1282）	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w16	柱穴	第３層下面	65	60	50	土師器・瓦器・東播系須恵器		129 ～ 133	根石あり
	P5（1266）	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w17	柱穴	第３層下面	50	50	50				根石あり
	P6（1283）	1・2・3区	Ⅲ2	F9	v17	柱穴	第３層下面	55	50	25				
	P7（1275）	1・2・3区	Ⅲ2	F9	v18	柱穴	第３層下面	35	30	30			136	
礎石建物１	礎石１(1278)	1・2・3区	Ⅲ2	F9	v16	礎石	第３層下面	60	50	10	瓦器	鎌倉時代(13世紀後半～14世紀前半)	137	礎石、礎石据え付け穴
	礎石２(1281)	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w16	礎石	第３層下面	80	60	20				礎石、礎石据え付け穴
	礎石３(1284)	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w16	礎石	第３層下面	60	60	10	石器			礎石、礎石据え付け穴
	礎石４(1287)	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w16	礎石	第３層下面	60	70	10				礎石、礎石据え付け穴
	礎石５(1288)	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w16	礎石	第３層下面	60	60	—				礎石
	礎石６(1273)	1・2・3区	Ⅲ2	F9	v16・w16	礎石	第３層下面	40	40	30				礎石、礎石据え付け穴
	礎石７(1271)	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w16	礎石	第３層下面	40	35	15	瓦器		138	礎石あり
柱列１	P1（1113）	1・1区	Ⅲ2	G9	e22	柱穴	第３層下面	35	30	40		鎌倉時代（12世紀～13世紀）		
	P2（1114）	1・1区	Ⅲ2	G9	d22	柱穴	第３層下面	25	25	40				
	P3（1115）	1・1区	Ⅲ2	G9	d22	柱穴	第３層下面	35	30	30				根石あり
柱列２	P1（1119）	1・1区	Ⅲ2	G9	e22	柱穴	第３層下面	30	30	10		鎌倉時代（12世紀～13世紀）		
	P2（1120）	1・1区	Ⅲ2	G9	e22	柱穴	第３層下面	40	40	20				
	P3（1121）	1・1区	Ⅲ2	G9	e22	柱穴	第３層下面	40	30	15				
	P4（1122）	1・1区	Ⅲ2	G9	d22	柱穴	第３層下面	30	35	30				
柱穴３	1285	1・2・3区	Ⅲ2	F9	v16	柱穴	第３層下面	50	45	15		鎌倉時代（13世紀～14世紀）		
柱穴４	1251	1・2・3区	Ⅲ2	F9	v15	柱穴	第３層下面	40	40	20		鎌倉時代（13世紀～14世紀）		
土坑１	1255	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w19	土坑	第３層下面	240	—	20	土師器・瓦器・青磁・炭化物	鎌倉時代（13世紀半ば～後半）	142 ～ 143	炭化物層に覆われる
土坑２	1268	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w15	土坑	第３層下面	80	70	50	備前焼	鎌倉時代（13世紀後半）	154・155	掘立柱建物２を切る土坑
土坑３	1155	1・1区	Ⅲ2	F9	o22・n22	土坑	第３層下面	170	100	50		鎌倉時代（13世紀～14世紀）		
土坑４	1257	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w19	土坑	第３層下面	70	65	30	青磁・白磁	鎌倉時代（13世紀後半）	139 ～ 141	土坑１を切る柱穴
ピット１	1252	1・2・3区	Ⅲ2	F9	u19	ピット	第３層下面	30	30	20	土師器・瓦器	鎌倉時代（13世紀後半）	149 ～ 152	
ピット２	1270	1・2・3区	Ⅲ2	F9	w16	ピット	第３層下面	20	20	15		鎌倉時代（13世紀～14世紀）		根石あり
ピット３	1286	1・2・3区	Ⅲ2	F9	v17	ピット	第３層下面	35	30	25		鎌倉時代（13世紀～14世紀）		
溝１	1033	1・1区	Ⅲ2	F9	q19・r19	溝	第３層下面	600	50	10	土師器	鎌倉時代（13世紀～14世紀）	153	
溝２	1041	1・1区	Ⅲ2	F9	q20 ～ q23	溝	第４-1層下面	—	50	10	土師器・須恵器	鎌倉時代（13世紀～14世紀）	237・238	耕作に伴う溝か

掘立柱建物3	P1 (1181)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	90	85	25		平安時代前期（9世紀前半）		梁行2間、桁行3間、西廂、根石あり
	P2 (1182)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	75	75	20				
	P3 (1183)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	80	75	25				
	P4 (1184)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	90	85	30	土師器		171・174	
	P5 (1185)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	80	70	40				
	P6 (1186)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	80	75	25	土師器・須恵器		169・172・176～178	
	P7 (1187)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	85	70	25				
	P8 (1188)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	70	65	30	須恵器		183・185・187	
	P9 (1189)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	75	70	40	土師器・須恵器・製塩土器・墨書土器		156～162・164～168・170・179～181・184・186	
	P10 (1190)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	75	70	25	土師器・須恵器・製塩土器		163・173・182	根石あり
	P11 (1191)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	n17	柱穴	第4-1層下面	60	60	20				扁
	P12 (1248)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p18	柱穴	第4-1層下面	60	60	30				扁、根石あり
	P13 (1249)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p18	柱穴	第4-1層下面	60	60	25	製塩土器		175	扁
	P14 (1250)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p17	柱穴	第4-1層下面	50	45	25				扁、根石あり
掘立柱建物4	P1 (1192)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	90	85	30	須恵器	平安時代前期（9世紀前半）	197	梁行2間、桁行4間、西廂
	P2 (1193)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	70	65	30	土師器		193	
	P3 (1194)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	70	65	30				根石あり
	P4 (1195)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	80	75	25				
	P5 (1196)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	100	90	10				根石あり
	P6 (1197)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	80	70	30				
	P7 (1198)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	85	70	40	須恵器		194	
	P8 (1199)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	85	75	30				柱残存
	P9 (1200)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	80	80	20	土師器・須恵器・墨書土器・製塩土器		190・192・195・199	
	P10 (1201)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	70	65	15				根石あり
	P11 (1202)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	70	60	35	土師器・須恵器		189・196・198・200・201・202	根石あり
	P12 (1203)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	p14	柱穴	第4-1層下面	85	70	40	土師器		188	
	P13 (1229)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	q16	柱穴	第4-1層下面	65	60	25				扁
	P14 (1261)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	q16	柱穴	第4-1層下面	55	50	15			237	扁
	P15 (1234)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	q15	柱穴	第4-1層下面	60	60	25	土師器・製塩土器		191	扁
	P16 (1235)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	q14	柱穴	第4-1層下面	70	65	15				扁
掘立柱建物5	P1 (1215)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	r18	柱穴	第4-1層下面	75	75	35		平安時代前期（9世紀後半）		梁行2間、桁行3間
	P 2 (1204)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	r18	柱穴	第4-1層下面	75	70	40				
	P 3 (1205)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	r18	柱穴	第4-1層下面	65	65	45				
	P4 (1206)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	r18	柱穴	第4-1層下面	65	50	30				
	P5 (1207)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	r18	柱穴	第4-1層下面	65	55	25				
	P6 (1208)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	r18	柱穴	第4-1層下面	55	50	20				
	P7 (1209)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	r18	柱穴	第4-1層下面	70	50	35	土師器		203	
	P8 (1210)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	r18	柱穴	第4-1層下面	85	65	40				
	P9 (1213)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	r18	柱穴	第4-1層下面	65	65	20				
	P10 (1214)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	r18	柱穴	第4-1層下面	70	55	35				
掘立柱建物6	P1 (1170)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	g17	柱穴	第4-1層下面	70	70	15	製塩土器	平安時代前期（9世紀前半）	205	梁行2間、桁行3間、西廂、根石あり
	P2 (1171)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	g17	柱穴	第4-1層下面	75	75	15				
	P3 (1172)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	g17	柱穴	第4-1層下面	55	55	25	製塩土器・石器		204	根石あり
	P4 (1137)	1-1区	Ⅲ2	F9	p19	柱穴	第4-1層下面	85	80	25	須恵器		209	
	P5 (1138)	1-1区	Ⅲ2	F9	q19	柱穴	第4-1層下面	75	60	50	須恵器		206・208	
	P6 (1140)	1-1区	Ⅲ2	F9	p20	柱穴	第4-1層下面	100	80	60				
	P7 (1173)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	g17	柱穴	第4-1層下面	55	50	30	須恵器		207	根石あり
	P8 (1174)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	g17	柱穴	第4-1層下面	65	60	30				根石あり
	P9 (1175)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	g17	柱穴	第4-1層下面	80	65	20				
	P10 (1176)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	g17	柱穴	第4-1層下面	80	75	25				根石あり
	P11 (1159)	1-1区	Ⅲ2	F9	r19	柱穴	第4-1層下面	60	50	15				扁
	P12 (1178)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	g17	柱穴	第4-1層下面	70	60	25				扁
	P13 (1179)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	g17	柱穴	第4-1層下面	60	55	20				扁
	P14 (1180)	1-2・3区	Ⅲ2	F9	g17	柱穴	第4-1層下面	55	55	20				扁

掘立柱建物7	P1（1125）	1～1区	Ⅲ2	F9	p19	柱穴	第4-1層下面	60	60	15		平安時代前期（9世紀前半）		梁行2間、桁行4間。根石あり
	P2（1126）	1～1区	Ⅲ2	F9	p20	柱穴	第4-1層下面	60	50	20				
	P3（1127）	1～1区	Ⅲ2	F9	p20	柱穴	第4-1層下面	80	80	30				根石あり
	P4（1128）	1～1区	Ⅲ2	F9	p20	柱穴	第4-1層下面	75	65	35				根石あり
	P5（1129）	1～1区	Ⅲ2	F9	q21	柱穴	第4-1層下面	75	60	35	製塩土器		213	根石あり
	P6（1130）	1～1区	Ⅲ2	F9	q21	柱穴	第4-1層下面	75	75	35	製塩土器・須恵器		212・214～217	
	P7（1131）	1～1区	Ⅲ2	F9	r21	柱穴	第4-1層下面	80	60	45	製塩土器		211	
	P8（1132）	1～1区	Ⅲ2	F9	r20	柱穴	第4-1層下面	70	70	45				根石あり
	P9（1133）	1～1区	Ⅲ2	F9	r20	柱穴	第4-1層下面	80	75	50			219	根石あり
	P10（1134）	1～1区	Ⅲ2	F9	r20	柱穴	第4-1層下面	80	75	40				根石あり
	P11（1135）	1～1区	Ⅲ2	F9	q20	柱穴	第4-1層下面	75	70	25			218	根石あり
	P12（1136）	1～1区	Ⅲ2	F9	q20	柱穴	第4-1層下面	75	70	35	土師器		210	根石あり
掘立柱建物8	P1（1080）	1～1区	Ⅲ2	F9	s22	柱穴	第4-1層下面	30	30	15		平安時代前期（9世紀）		梁行2間
	P2（1081）	1～1区	Ⅲ2	F9	r22	柱穴	第4-1層下面	35	30	10				
	P3（1149）	1～1区	Ⅲ2	F9	s23	柱穴	第4-1層下面	35	30	10				
	P4（1083）	1～1区	Ⅲ2	F9	r23	柱穴	第4-1層下面	30	30	15				
	P5（1082）	1～1区	Ⅲ2	F9	r23	柱穴	第4-1層下面	30	30	10				
掘立柱建物9	P1（1022）	1～1区	Ⅲ2	F9	q24	柱穴	第4-1層下面	60	50	25		平安時代前期（9世紀前半）		梁行2間、桁行3間
	P2（1023）	1～1区	Ⅲ2	F9	q24	柱穴	第4-1層下面	65	60	20	土師器・須恵器			
	P3（1024）	1～1区	Ⅲ2	F9	q24	柱穴	第4-1層下面	65	55	25	須恵器		223	
	P4（1025）	1～1区	Ⅲ2	F9	r24	柱穴	第4-1層下面	70	60	10				
	P5（1026）	1～1区	Ⅲ2	F9	r24	柱穴	第4-1層下面	60	55	15	須恵器		221・222	
	P6（1027）	1～1区	Ⅲ2	F9	r25	柱穴	第4-1層下面	50	50	15				
	P7（1028）	1～1区	Ⅲ2	F9	s24	柱穴	第4-1層下面	60	50	15				
	P8（1029）	1～1区	Ⅲ2	F9	s24	柱穴	第4-1層下面	60	50	15				
	P9（1030）	1～1区	Ⅲ2	F9	r24	柱穴	第4-1層下面	60	55	15				
	P10（1031）	1～1区	Ⅲ2	F9	r24	柱穴	第4-1層下面	60	50	10	土師器		220	
掘立柱建物10	P1（1047）	1～1区	Ⅲ2	F9	u22	柱穴	第4-1層下面	80	70	30		平安時代前期（9世紀）		梁行2間以上
	P2（1046）	1～1区	Ⅲ2	F9	u22	柱穴	第4-1層下面	60	60	20	土師器			
	P3（1045）	1～1区	Ⅲ2	F9	u22	柱穴	第4-1層下面	70	60	30			224	
柱穴5	1156	1～1区	Ⅲ2	F9	q22	柱穴	第4-1層下面	60	60	10		平安時代前期（9世紀）		根石あり
柱穴6	1157	1～1区	Ⅲ2	F9	r23	柱穴	第4-1層下面	75	55	10		平安時代前期（9世紀）		
柱穴7	1158	1～1区	Ⅲ2	F9	q23	柱穴	第4-1層下面	110	50	20		平安時代前期（9世紀）		
土坑5	1247	1・2・3区	Ⅲ2	F9	r16・s16	土坑	第4-1層下面	140	130	60	土師器・木製品（曲物底板）	平安時代前期（9世紀）	232・M1	
土坑6	1035	1～1区	Ⅲ2	F9	x25・y25	土坑	第4-1層下面	220	210	35		平安時代前期（9世紀）		
ピット4	1245	1・2・3区	Ⅲ2	F9	s16	ピット	第4-1層下面	25	20	20	土師器・須恵器	平安時代前期（9世紀）	227～229	
ピット5	1237	1・2・3区	Ⅲ2	F9	n14	ピット	第4-1層下面	30	20	20	須恵器	平安時代前期（9世紀）	230	
ピット6	1263	1・2・3区	Ⅲ2	F9	r16	ピット	第4-1層下面	20	20	10	須恵器	平安時代前期（9世紀）	231	
ピット7	1243	1・2・3区	Ⅲ2	F9	s17	ピット	第4-1層下面	20	20	10	須恵器	平安時代前期（9世紀）	233	
ピット8	1239	1・2・3区	Ⅲ2	F9	r16	ピット	第4-1層下面	30	20	20	須恵器	平安時代前期（9世紀）	234	
ピット9	1241	1・2・3区	Ⅲ2	F9	r16	ピット	第4-1層下面	30	20	20	土師器・須恵器	平安時代前期（9世紀）	235・236	
落ち込み1	1274	1・2・3区	Ⅲ2	F9	o14・15	落ち込み	第4-1層下面	420	220	25	須恵器	平安時代前期（9世紀）	225・226	
溝3	1019	1～1区	Ⅲ2	G9	j・k・l～20・21・22	溝	第4-1層下面	—	300	130	土師器・須恵器	平安時代前期（9世紀）		
溝4	1105	1～1区	Ⅲ2	F9	o19～o24	溝	第4-1層下面	—	180	25	土師器・須恵器	平安時代前期（9世紀）	239～245	
自然流路1	1034	1～1区	Ⅲ2	F9、G9	s25・y25	自然流路	第4-1層下面	—	160	40		時期不明（平安時代以前）		
自然流路2	1051	1～1区	Ⅲ2	F9、G9	r25・s24・25・t24・u24・v24・w23・w24・x23・y23・a23・b23	自然流路	第4-1層下面	—	400	20		時期不明（平安時代以前）		
自然流路3	1002	1～1区	Ⅲ2	G10	g1・h1	自然流路	第5層下面	—	250	25	縄文土器	縄文時代後期（中津式）	246	

丁ノ町・妙寺遺跡（07－2区）遺構一覧表

掘立柱建物11	2372	2・3・4区	Ⅲ2	E9	c・d・1・2	区画内	第3層下面	1040	420	25	土師器	平安時代末後期～鎌倉時代（12世紀後半）	316・317	区画溝を伴う建物
	溝（2373）	2・3・4区	Ⅲ2	E9	c・d・1・2	溝（区画溝）	第3層下面	1040	30	40	土師器			コの字形にめぐる区画溝。南側は削平される
	焼成土坑（2374）	2・3・4区	Ⅲ2	E9	e2	焼成土坑	第3層下面	370	150	20				
	P1（2376）	2・3・4区	Ⅲ2	E9	d2	柱穴	第3層下面	30	30	15	土師器		315	
	P2（2375）	2・3・4区	Ⅲ2	E9	d2	柱穴	第3層下面	40	35	15	土師器		318	

耕作痕1	2048	2-1区	III2	D9	y12	畝溝	第3層下面	11000	20～30	10	土師器・瓦質土器	室町時代（14世紀）	319	
焼成土坑1	2371	2-3・4区	III2	D8	v4	焼成土坑	第3層下面	270	90	20	炭化物・焼土			樹種同定資料
自然流路4	2984	2-9区	III2	C18	b・c・18～23	護岸	第3層下面	—	100	80		鎌倉時代以降		東列
自然流路5	2985	2-9区	III2	C18, 19	b・c・18～23	護岸	第3層下面	—	200	80		鎌倉時代以降		西列
自然流路6	2986	2-9区	III2	C20	b・c・18～23	護岸	第3層下面	—	300	60	土師器出土	鎌倉時代以降		下層整地土の下
集石遺構1	2015	2-1区	III2	D9	t6	集石遺構	第5層下面	140	110	30				
土坑7	2001	2-1区	III2	D9	r6・r7	土坑	第5層下面	65	60	20	縄文土器	縄文時代後期（中津式）	320	試掘42トレンチ内で縄文土器出土
土坑8	2002	2-1区	III2	D9	q9	土坑	第5層下面	135	90	20	縄文土器	縄文時代晩期（長原式）	321	

丁ノ町・妙寺遺跡（07－3区）遺構一覧表

溝5	3008	3-1区	III2	C8	r25	溝	第3層下面	—	215	70	木製品（水樋）	平安時代後期～鎌倉時代（12世紀後半）	W6	木樋を埋設，自然流路7から分流する溝，花粉分析，珪藻分析資料
自然流路7	3010	3-1区	III2	C8, C9	u25～Y2	流路	第3層下面	—	600～700	120	土師器・東播系須恵器・瓦器・木製品（杭）	平安時代後期～鎌倉時代（12世紀後半）	353～357・W2・W3・W4・W5	底面、肩部に木杭を打ち込む，Sに接続
焼成土坑2	3005	3-1区	III2	C9	r3	焼成土坑	第3層下面	180	110	45	焼土・炭化物	古墳時代後期～平安時代前期	S17	壁面焼ける，熱残留磁気測定資料，C14測定資料，樹種鑑定資料
焼成土坑3	3006	3-1区	III2	C9	r3	焼成土坑	第3層下面	210	115	45	焼土・炭化物	古墳時代後期～平安時代前期		壁面焼ける，熱残留磁気測定資料
焼成土坑4	3009	3-1区	III2	C8	l24	焼成土坑	第3層下面	135	95	20	炭化物	古墳時代後期～平安時代前期		炭化物を含む
焼成土坑5	3282	3-2区	III2	C8	j22	焼成土坑	第3層下面	150	130	10	焼土・炭化物	古墳時代後期～平安時代前期		壁面焼ける
竪穴建物1	3287	3-2区	III2	C9	d3	竪穴建物	第4-2層下面	—	400	5	土師器・須恵器・弥生土器（混入）	古墳時代中期（TK216～TK208型式）	358～366	方形4本柱，南側削平される
	竈（3291）	3-2区	III2	C9	d3	竈	第4-2層下面	150	60	15	焼土			
	P1（3288）	3-2区	III2	C9	d3	柱穴	第4-2層下面	45	35	35				
	P2（3289）	3-2区	III2	C9	d3	柱穴	第4-2層下面	40	40	35				
	P3（3290）	3-2区	III2	C9	d3	柱穴	第4-2層下面	30	30	40				
竪穴建物2	3292	3-2区	III2	C9	f3	竪穴建物	第4-2層下面	—	420	15	土師器	古墳時代中期（TK216～TK208型式）	367～374	方形4本柱，南側削平される
	竈（3295）	3-2区	III2	C9	f3	竈	第4-2層下面	120	65	5	焼土			
	P1（3293）	3-2区	III2	C9	f3	柱穴	第4-2層下面	30	30	20				
	P2（3294）	3-2区	III2	C9	f3	柱穴	第4-2層下面	30	30	30				
竪穴建物3	3296	3-2区	III2	C9	g3	竪穴建物	第4-2層下面	—	290	5	土師器	古墳時代中期（TK216～TK208型式）	375～377	方形4本柱，南側削平される
	竈（3299）	3-2区	III2	C9	g3	竈	第4-2層下面	40	—	5	焼土			一部残存するのみ
	P1（3297）	3-2区	III2	C9	g3	柱穴	第4-2層下面	20	20	25				
	P2（3298）	3-2区	III2	C9	g3	柱穴	第4-2層下面	25	20	30				
竪穴建物4	3300	3-2区	III2	C9	g1	竪穴建物	第4-2層下面	360	360	25	土師器	古墳時代中期（TK216～TK208型式）	378～384	方形4本柱
	竈（3305）	3-2区	III2	C9	g1	竈	第4-2層下面	115	60	10	焼土			
	P1（3301）	3-2区	III2	C9	g1	柱穴	第4-2層下面	20	20	30				
	P2（3302）	3-2区	III2	C9	g1	柱穴	第4-2層下面	20	20	35				
	P3（3303）	3-2区	III2	C9	g1	柱穴	第4-2層下面	20	20	25				
	P4（3304）	3-2区	III2	C9	g1	柱穴	第4-2層下面	20	20	30				
土坑9	3125	3-1区	III2	C9	n1	土坑	第4-2層下面	—	410	10	土師器・製塩土器	古墳時代中期（TK216～TK208型式）	386	南側削平される
土坑10	3122	3-1区	III2	C9	n1	土坑	第4-4層下面	265	255	70	土師器・自然木	古墳時代前期（庄内式～布留式前半）	403～410	
ピット10	3086	3-1区	III2	C8	m23	ピット	第4-2層下面	30	30	10	土師器	古墳時代前期（布留式前半）	385	
溝6	3030	3-1区 3-2区	III2	C8, C9	g～i・l～n・25・1・2	溝	第4-2層下面	—	320～150	110	土師器・弥生土器	古墳時代中期（TK73～TK208型式）	387～400	2本の溝が交差する
溝7	3108	3-1区	III2	C9	o3	溝	第4-2層下面	1200	20	10		古墳時代中期		
溝8	3115	3-1区	III2	C9	p1・p2	溝	第4-2層下面		20	10		古墳時代中期		
自然流路8	3286	3-2区	III2	C8, C9	g22～b1	流路（東側）	第4-2層下面	—	600	—	須恵器・甕	古墳時代中期（TK73～TK208型式）	401・402	
竪穴建物5	3018	3-1区	III2	C9	t6・u6・v6	竪穴建物	第4-4層下面	440	450	5		弥生時代後期（V様式）		方形4本柱，溝底部に直径10～20cm程度の垂木痕跡が残る竪立建物
	中央土坑（3036）	3-1区	III2	C9	v6	中央土坑	第4-4層下面	80	60	35				
	SK	3-1区	III2	C9	u6	貯蔵穴	第4-4層下面	55	20	20				
	P1（3271）	3-1区	III2	C9	t6	柱穴	第4-4層下面	30	35	35				
	P2（3272）	3-1区	III2	C9	t6	柱穴	第4-4層下面	50	50	35				
	P3（3273）	3-1区	III2	C9	u6	柱穴	第4-4層下面	25	25	25				
	P4（3274）	3-1区	III2	C9	u6	柱穴	第4-4層下面	50	50	40				
竪穴建物6	3021	3-1区	III2	C9	w4	竪穴建物	第4-4層下面	520	25（溝幅）	20		弥生時代後期（V様式）		方形建物，土坑12と切り合う
	排水溝（3022）	3-1区	III2	C9	u5	排水溝	第4-4層下面	400	30	20				溝底部に直径10～20cm程度の垂木痕跡が残る，土坑12を切る

竪穴建物7	3020	3-1区	Ⅲ2	C9	s5	竪穴建物（周壁溝）	第4-4層下面	455	—	10	弥生土器	弥生時代後期（Ⅴ様式）	411～418	長方形6本柱，道構3024と切り合う
	中央土坑（3203）	3-1区	Ⅲ2	C9	r6	土坑（中央土坑）	第4-4層下面	175	170	15				中央土坑，排水溝が伸びる
	排水溝（3024）	3-1区	Ⅲ2	C9	r6	排水溝	第4-4層下面	290	40	10				
	SK（3204）	3-1区	Ⅲ2	C9	r5	土坑（貯蔵穴）	第4-4層下面	90	60	15				
	P1（3275）	3-1区	Ⅲ2	C9	r5・s5	柱穴	第4-4層下面	65	50	20				
	P2（3276）	3-1区	Ⅲ2	C9	r5	柱穴	第4-4層下面	60	50	25				
	P3（3277）	3-1区	Ⅲ2	C9	r6	柱穴	第4-4層下面	50	40	35				
	P4（3278）	3-1区	Ⅲ2	C9	s6	柱穴	第4-4層下面	—	40	35				壁面土層で検出
	P5（3279）	3-1区	Ⅲ2	C9	s6	柱穴	第4-4層下面	65	60	50				
	P6（3280）	3-1区	Ⅲ2	C9	r5	柱穴	第4-4層下面	50	50	30				
	P7（3281）	3-1区	Ⅲ2	C9	s5	ピット	第4-4層下面	40	30	20				
竪穴建物8	3040	3-1区	Ⅲ2	C9	u5	小型竪穴建物	第4-4層下面	200	160	20		弥生時代後期（Ⅴ様式）		方形4本柱，小型建物，3041を切る
	排水溝（3019）	3-1区	Ⅲ2	C9	u6	排水溝	第4-4層下面	270	20	20				
	P1	3-1区	Ⅲ2	C9	u5	柱穴	第4-4層下面	40	40	20				
	P2	3-1区	Ⅲ2	C9	u5	柱穴	第4-4層下面	40	40	20				
	P3	3-1区	Ⅲ2	C9	u5	柱穴	第4-4層下面	40	40	20				
	P4	3-1区	Ⅲ2	C9	u5	柱穴	第4-4層下面	40	40	20				
	3041	3-1区	Ⅲ2	C9	u5	小型竪穴建物	第4-4層下面	170	—	20				3040に切られる，3041に建て替え
竪穴建物9	3026	3-1区	Ⅲ2	C9	s4・5	竪穴建物	第4-4層下面	360	410	5	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	419	不正円形6本柱
	中央土坑1（3080）	3-1区	Ⅲ2	C9	s4	土坑（中央土坑）	第4-4層下面	100	75	10				
	中央土坑2（3103）	3-1区	Ⅲ2	C9	s4	土坑（中央土坑）	第4-4層下面	90	80	5				
	SK（3102）	3-1区	Ⅲ2	C9	s4	土坑（貯蔵穴）	第4-4層下面	65	60	10				
	排水溝（3104）	3-1区	Ⅲ2	C9	s5	溝	第4-4層下面	150	20	5				
	P1（3095）	3-1区	Ⅲ2	C9	s4	柱穴	第4-4層下面	20	20	15				
	P2（3096）	3-1区	Ⅲ2	C9	s5	柱穴	第4-4層下面	25	25	20				
	P3（3097）	3-1区	Ⅲ2	C9	s5	柱穴	第4-4層下面	25	25	10				
	P4（3098）	3-1区	Ⅲ2	C9	t5	柱穴	第4-4層下面	30	30	10				
	P5（3099）	3-1区	Ⅲ2	C9	t4	柱穴	第4-4層下面	45	40	10				
	P6（3101）	3-1区	Ⅲ2	C9	s4	柱穴	第4-4層下面	25	25	10				
	P7（3105）	3-1区	Ⅲ2	C9	s4	柱穴	第4-4層下面	20	20	20				3048に切られる
	P8（3048）	3-1区	Ⅲ2	C9	s4	ピット	第4-4層下面	75	50	20	弥生土器	弥生時代後期（Ⅴ様式）	420・421	
竪穴建物10	3027	3-1区	Ⅲ2	C9	r4	溝（周壁溝か）	第4-4層下面	570	160～25	5	弥生土器	弥生時代後期（Ⅴ様式）	422～424	
	3051	3-1区	Ⅲ2	C9	r4	小溝（周壁溝）	第4-4層下面	350	25	10				3027に平行する溝
溝状遺構1	3121	3-1区	Ⅲ2	C9	l4	溝状遺構	第4-4層下面	355	90	20	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	434～438	3126の下層で検出同一遺構
	3126	3-1区	Ⅲ2	C9	k4・l4・m4	溝状遺構	第4-4層下面	1100	200	25	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	439・440	
土坑11	3047	3-1区	Ⅲ2	C9	k3	土坑	第4-4層下面	300	215	15	弥生土器・石器	弥生時代後期前葉（Ⅴ様式前葉）	425～433	
土坑12	3023	3-1区	Ⅲ2	C9	t3	土坑	第4-4層下面	420	135	20	弥生土器・石器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	441～450	
土坑13	3232	3-1区	Ⅲ2	C9	g2	土坑	第4-4層下面	370	120	30	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	451～482	土器片が密集して出土
土坑14	3033	3-1区	Ⅲ2	C9	k3	土坑	第4-4層下面	165	145	20	弥生土器	弥生時代後期前葉（Ⅴ様式前葉）	483	
土坑15	3069	3-1区	Ⅲ2	C9	n4	土坑	第4-4層下面	130	65	50	弥生土器・石器	弥生時代後期前葉（Ⅴ様式前葉）	484・485・S116	
土坑16	3127	3-1区	Ⅲ2	C9	m・n4	土坑	第4-4層下面	90	60	15	弥生土器	弥生時代中期末葉（Ⅳ様式末葉）	486・487	
土坑17	3128	3-1区	Ⅲ2	C9	n3	土坑	第4-4層下面	170	140	10	弥生土器	弥生時代後期前葉（Ⅴ様式前葉）	488・489	
土坑18	3063	3-1区	Ⅲ2	C9	g4	土坑	第4-4層下面	50	40	10	弥生土器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）	490	
土坑19	3164	3-1区	Ⅲ2	C9	u5	土坑	第4-4層下面	100	60	20	弥生土器・石器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	491・492	
土坑20	3052	3-1区	Ⅲ2	C9	r5	土坑	第4-4層下面	345	220	5	石器	弥生時代中期～弥生時代後期	S208	
土坑21	3053	3-1区	Ⅲ2	C9	r5	土坑	第4-4層下面	400	155	15	弥生土器	弥生時代中期～弥生時代後期		
	3146	3-1区	Ⅲ2	C9	q5～r5	土坑	第4-4層下面	400	155	15	弥生土器・石器	弥生時代中期～弥生時代後期	S69・S110	
土坑22	3131	3-1区	Ⅲ2	C9	n4・o4	土坑	第5層下面	180	60	20	石器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）	S207	
ピット11	3184	3-1区	Ⅲ2	C9	r4	ピット	第4-4層下面	25	25	15	石器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）	S22	
溝9	3162	3-1区	Ⅲ2	C9	p5	溝	第4-4層下面	380	30	15	弥生土器・石器	弥生時代中期後葉（Ⅳ様式後葉）	S93	
自然流路9	3150	3-1区	Ⅲ2	C9	n1	流路	第4-3層下面	—	860	180	弥生土器・石器・木製品	弥生時代中期末葉（Ⅳ様式末葉）	493～637・S1・S2・S227・S231・W7・W8・W9	

竪穴建物 11	3142	3－1区	Ⅲ2	C9	t5・u5	竪穴建物	第5層下面	350	270	25	縄文土器・石錘・サヌカイト剥片多数	縄文時代後期（中津式）	638～654・656～658・S13・S19・S23・S28・S30・S32・S36・S44・S47・S49・S51・S56・S68・S76・S79・S85・S87～S89・S91・S92 S94～S99・S101・S103・S105・S107・S154・S202	隅丸方形5本柱か，東側削平される
	P1	3－1区	Ⅲ2	C9	t5・u5	柱穴	第5層下面	25	25	20				
	P2	3－1区	Ⅲ2	C9	t5・u5	柱穴	第5層下面	20	20	20				
	P3	3－1区	Ⅲ2	C9	t5・u5	柱穴	第5層下面	25	25	35				
	P4	3－1区	Ⅲ2	C9	t5・u5	柱穴	第5層下面	20	20	20				
	P5	3－1区	Ⅲ2	C9	t5・u5	柱穴	第5層下面	25	25	25			655	
	3221	3－1区	Ⅲ2	C9	u4	土坑	第5層下面	155	120	15	縄文土器・石器	縄文時代中期（北白川C1～C3式）	659～661	竪穴建物11の下層遺構
竪穴建物 12	3224	3－1区	Ⅲ2	C9	s3	竪穴建物	第5層下面	410	330	30	縄文土器・石錘	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	662～665・S48・S54・S63・S135・S152・S161・S193・S204	不正円形6本柱
	中央土坑	3－1区	Ⅲ2	C9	s3	中央土坑	第5層下面	100	75	20				
	P1	3－1区	Ⅲ2	C9	s3	柱穴	第5層下面	30	25	25				P2に切られる
	P2	3－1区	Ⅲ2	C9	s3	柱穴	第5層下面	35	30	30				P1を切る
	P3	3－1区	Ⅲ2	C9	s3	柱穴	第5層下面	20	20	20				
	P4	3－1区	Ⅲ2	C9	s3	柱穴	第5層下面	35	30	30				
	P5	3－1区	Ⅲ2	C9	s3	柱穴	第5層下面	30	30	15				
	P6	3－1区	Ⅲ2	C9	s3	柱穴	第5層下面	30	30	15				
	P7	3－1区	Ⅲ2	C9	s3	柱穴	第5層下面	35	30	15				
	P8	3－1区	Ⅲ2	C9	s3	柱穴	第5層下面	35	30	15				
竪穴建物 13	3147	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	竪穴建物	第5層下面	470	430	20	縄文土器・石器（蛇紋岩製石斧）	縄文時代後期（福田KⅡ式）	666～670・S5・S25・S59・S113・S156・S206・S214・S222・S232	隅丸長方形7本柱か，埋没中，埋没後にピット，集石遺構が多数切り込む
	SK1（3205）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	土坑	第5層下面	50	45	15				
	SK2（3206）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	土坑	第5層下面	70	50	40			S197	
	SK3（3208）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	土坑	第5層下面	60	55	10				
	P1（3204）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴	第5層下面	20	20	25				
	P2（3207）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴	第5層下面	15	15	10				
	P3（3209）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴	第5層下面	20	20	15				
	P4（3210）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴	第5層下面	30	25	15				
	P5（3216）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴	第5層下面	25	20	15				
	P6（3195）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴	第5層下面	35	30	10				
	P7（3214）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴	第5層下面	30	20	15				
	P8（3203）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴	第5層下面	25	25	25				
	P9（3196）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴か	第5層下面	25	20	15	石器			
	P10（3197）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴か	第5層下面	30	20	10				
	P11（3199）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴か	第5層下面	40	30	15				
	P12（3200）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴か	第5層下面	30	30	20				
	P13（3213）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	柱穴か	第5層下面	35	35	10				
	P14（3211）	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	ピット	第5層下面	35	—	10				
竪穴状遺構 1	3222	3－1区	Ⅲ2	C9	t3	竪穴状遺構	第5層下面	500	475	20	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津式）	S50・S150・S218	竪穴状遺構
	SK1（3250）	3－1区	Ⅲ2	C9	t3	土坑	第5層下面	—	60	10				
	SK2（3251）	3－1区	Ⅲ2	C9	t3	土坑	第5層下面	120	90	10				
	P1（3252）	3－1区	Ⅲ2	C9	t3	ピット	第5層下面	40	40	10				
竪穴状遺構 2	3188	3－1区	Ⅲ2	C9	u4・u4	竪穴状遺構	第5層下面	330	305	20	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	692～696・S21・S42・S52・S125・S144・S157・S166・S171・S174・S175・S177・S178・S180・S182～S189・S191・S192・S194・S195	西半を削平される，石鏃集中出土
埋設土器 1	3149	3－1区	Ⅲ2	C9	r5	埋設土器	第5層下面	125	110	50	縄文土器・石皿・石器	縄文時代後期（福田KⅡ式）	671・S235・S236	土器の上下に石皿を埋設する
埋設土器 2	3153	3－1区	Ⅲ2	C9	q6	埋設土器	第5層下面	65	50	30	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	672～674・S133	サヌカイト石核出土，剥離品か
埋設土器 3	3170	3－1区	Ⅲ2	C9	s6	埋設土器	第5層下面	50	40	5	縄文土器	縄文時代晩期（長原式）	678・679	
埋設土器 4	3225	3－1区	Ⅲ2	C9	r3	埋設土器	第5層下面	75	60	25	縄文土器	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	675～677	土器は復元できず
配石遺構 1	3143	3－1区	Ⅲ2	C9	s5～t・2	配石遺構	第5層下面	250	200	15	縄文土器・石器・立石	縄文時代後期（中津式）	680・S118	
配石遺構 2	3144	3－1区	Ⅲ2	C9	s5	配石遺構	第5層下面	255	160	15	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津式）	S140	立石を伴う配石遺構
集石遺構 2	3152	3－1区	Ⅲ2	C9	u5	集石遺構	第5層下面	110	70	15	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津式）		集石下，掘形あり，焼け石を伴う

集石遺構 3	3154	3－1区	Ⅲ2	C9	u6	集石遺構	第5層下面	170	75	5	石器	縄文時代後期（中津式）		集石下、掘形なし
集石遺構 4	3178	3－1区	Ⅲ2	C9	r4	集石遺構	第5層下面	115	110	35	石器	縄文時代後期（中津式）	S22	集石下、掘形あり
集石遺構 5	3253	3－1区	Ⅲ2	C9	u5	集石遺構	第5層下面	125	70	—	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津式）	681	集石下、掘形なし
集石遺構 6	3189	3－1区	Ⅲ2	C9	s4・t4	集石遺構	第5層下面	140	100	5	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津式）	682	集石下、掘形なし
集石遺構 7	3217	3－1区	Ⅲ2	C9	s4	集石遺構	第5層下面	70	65	20	縄文土器・石器（台石）	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	683・S230	集石下、掘形あり、台石出土
集石遺構 8	3218	3－1区	Ⅲ2	C9	u6	集石遺構	第5層下面	165	125	40	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	684・685	集石下、掘形あり
集石遺構 9	3219	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	集石遺構	第5層下面	95	65	5	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津式）		集石下、掘形なし
集石遺構 10	3227	3－1区	Ⅲ2	C9	r4	集石遺構	第5層下面	40	20	—	縄文土器	縄文時代後期（中津式）		集石下、掘形なし
集石遺構 11	3248	3－1区	Ⅲ2	C9	v5	集石遺構	第5層下面	140	50	—	石器	縄文時代後期（中津式）		集石下、掘形なし
土坑 23	3254	3－1区	Ⅲ2	C9	s3・r3	土坑	第5層下面	360	140	15	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	686～691	
土坑 24	3238	3－1区	Ⅲ2	C9	g4	土坑	第5層下面	65	60	25	縄文土器	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	697	
土坑 25	3236	3－1区	Ⅲ2	C9	g3	土坑	第5層下面	140	110	25	縄文土器・石器	縄文時代中期～縄文時代後期	698・699・700・S143・S146	
土坑 26	3167	3－1区	Ⅲ2	C9	q5	土坑	第5層下面	210	—	10	縄文土器・土偶・石器	縄文時代後期（中津式）	701・S8・S75・S159	竪穴建物13に切られる
土坑 27	3246	3－1区	Ⅲ2	C9	g4	土坑	第5層下面	100	70	20	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	702～707	
土坑 28	3173	3－1区	Ⅲ2	C9	g3	土坑	第5層下面	50	45	25	縄文土器	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	708	
土坑 29	3177	3－1区	Ⅲ2	C9	t4	土坑	第5層下面	65	60	10	縄文土器	縄文時代中期（北白川Ｃ１～Ｃ２式）	709・710	
土坑 30	3001	3－1区	Ⅲ2	C9	l5	土坑	第5層下面	—	60	25	縄文土器	縄文時代後期（中津式）	711	
土坑 31	3002	3－1区	Ⅲ2	C9	l5	土坑	第5層下面	—	65	20	縄文土器・炭化物	縄文時代後期（中津式）	712～714	
土坑 32	3176	3－1区	Ⅲ2	C9	t4	土坑	第5層下面	70	40	25	石器	縄文時代後期（中津式）		
土坑 33	3228	3－1区	Ⅲ2	C9	r・s3	土坑	第5層下面	140	80	25	石器	縄文時代後期（中津式）	S55	竪穴建物12に切られる
土坑 34	3237	3－1区	Ⅲ2	C9	g3・4	土坑	第5層下面	100	65	25	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津式）		
土坑 35	3242	3－1区	Ⅲ2	C9	g4	土坑	第5層下面	65	45	25	石器	縄文時代後期（中津式）		
土坑 36	3249	3－1区	Ⅲ2	C9	r3	土坑	第5層下面	55	40	25	石器	縄文時代後期（中津式）	S74	
土坑 37	3266	3－1区	Ⅲ2	C9	r・s~4	土坑	第5層下面	60	60	20	石器	縄文時代後期（中津式）	S170	
土坑 39	3241	3－1区	Ⅲ2	C9	r3	土坑	第5層下面	65	50	15		縄文時代後期（中津式）		
落ち込み 2	3140	3－1区	Ⅲ2	C9	u6～2・3	落込み	第5層下面	—	—	45	石器	縄文時代後期（中津式）		
落ち込み 3	3260	3－1区	Ⅲ2	C9	u5	落込み	第6層下面	260	130	55	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津式）	715～719・S205	
土坑 38	3265	3－1区	Ⅲ2	C9	u5	土坑	第6層下面	185	—	15	縄文土器	縄文時代後期（中津式）	720	
自然流路 10	3261	3－1区	Ⅲ2	C9	u5	自然流路	第6層下面	—	350	25		縄文時代中期（北白川Ｃ２式）以前		東西方向の流路
溝 10	3270	3－1区	Ⅲ2	C9	r3～g4	溝	第6層下面	—	115	25	縄文土器・石器	縄文時代後期（中津Ⅱ式）	721 ～ 739・S60・S151・S173・S212・S220・S224	L字状に蛇行する溝

丁ノ町・妙寺遺跡（07－4区）遺構一覧表

自然流路 10	4004	4－1区	Ⅲ2	C8	o19～s18	自然流路	第3層下面	—	250	25		平安時代末～鎌倉時代（12世紀後半）		自然流路7西半の北肩か
焼成土坑 6	4005	4－2区	Ⅲ2	C8	v19	焼成土坑	第4－2層下面	125	80	20	炭化物	古墳時代後期～平安時代前期		
溝 11	4007	4－2区	Ⅲ2	C8	u～s20	溝	第4－2層下面	—	310	35	土師器	古墳時代中期ＴＫ73～ＴＫ208形式	741	溝6の続きか
自然流路 11	4008	4－2区	Ⅲ2	C8	s20～t21	自然流路	第4-2層下面	—	220	25	須恵器・土師器	古墳時代後期		

付表２　遺物観察表　第１次調査
西飯降Ⅱ遺跡（06－１区）出土土器・土製品

（　）は復元値

番号	遺構名 層位・詳細	地区	種類 器種	口径	底部径	器高	残存率	胎土	色調	形態・技法の特徴など	備考
1	包含層第4-2層	1-3区	須恵器 杯蓋	(13.2)		4.7	口縁部 2分の1	長石、黒色粒φ0.3～0.6cmを含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	口縁部と天井部の境界は稜をもち屈曲する。天井部に回転ヘラケズリ。端部は内傾する面を作り沈線が巡る。	反転復元
2	包含層第4-2層	1-3区	須恵器 杯身	(12.8)		4.7	口縁部 3分の2	チャート、長石、黒色粒φ0.1cmを含む	内面　N7/　灰白 外面　N7/　灰白～N3/　暗灰	直立気味の立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。端部は内傾する面を作る。底部にはヘラ記号「/」をもつ。	反転復元
3	包含層第4-2層	1-3区	須恵器 平瓶	(9.0)	(9.8)	15.7	口縁部 5分の3	黒色粒φ0.2～0.4cm、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　N7/　灰白 外面　N7/　灰白	緩やかに広がり段をもつ口縁部をもつ。体部は扁平。底部外面は回転ヘラケズリ。	
4	包含層第4-2層	1-3区	須恵器 杯蓋	(14.5)		4.6	口縁部 2分の1	長石φ0.2～0.4cm、黒色粒φ0.1cmを含む	内面　5B5/1 青灰 外面　N5/　灰	口縁部と天井部の境界はわずかな稜をもち屈曲する。天井部に回転ヘラケズリ。端部外面は刻み目をもつ。	
5	包含層第4-3層	1-3区	須恵器 杯身	13.2		5.2	ほぼ完形	チャート、長石φ0.4cmを含む	内面　N5/　灰 外面　N4/　灰	内傾気味の立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。端部は内傾する面を作る。底部にはヘラ記号「/」をもつ。	
6	包含層第4-4層より上位層	1-3区	須恵器 提瓶			13.5	底部 3分の1	チャート、長石φ0.2～0.3cmを含む	内面　N4/　灰 外面　N4/　灰	楕円形の体部をもち回転ヘラケズリを施す面をもつ。肩部には環状の把手が取りつく。	
7	包含層間層	1-3区	須恵器 杯蓋	(13.9)		4.5	口縁部 2分の1	チャート、長石、黒色粒φ0.1～0.4cmを含む	内面　N6/　灰 外面　N5/　灰～N4/　灰	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部は丸い。天井部に回転ヘラケズリ。端部は内傾する面を作り沈線が巡る。	
8	包含層間層	1-3区	須恵器 杯蓋	(15.8)		4.3	口縁部 3分の2	チャート、長石、黒色粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　5PB5/1 青灰 外面　5PB4/　暗青灰	口縁部と天井部の境界はわずかな稜をもち屈曲する。天井部に回転ヘラケズリ。端部は丸くおさめる。	反転復元
9	包含層第4-4層	1-3区	須恵器 杯身	12.5		3.3	完形	チャート、長石φ0.2cmを含む	内面　N6/　灰 外面　5B6/1 青灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は平坦で回転ヘラケズリの範囲は狭い。	
10	包含層第間層	1-3区	須恵器 杯身	13.1		4.8	ほぼ完形	長石φ0.2cm、黒色粒φ0.3cmを含む	内面　N5/　灰 外面　N 5/　灰～N 7/　灰白	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	
11	包含層第間層	1-3区	須恵器 杯身	11.6		4.4	口縁部 6分の5	チャート、長石φ0.2cmを含む	内面　N6/　灰 外面　N 5/　灰よりやや黄灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	
12	包含層第間層	1-3区	須恵器 杯身	12.3		4.5	ほぼ完形	チャート、長石φ0.2cm、黒色粒φ0.1cmを含む	内面　N7/　灰白 外面　N 7/　灰白～5B6/1 青灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く、2分の1ほどを回転ヘラケズリ。	
13	包含層第4-4層	1-4区	弥生土器 小壺	(7.8)	4.1	10.3	口縁 10分の7	チャート、長石φ0.2～0.3cmを含む	内面　10YR4/2 灰黄褐 外面　2.5Y6/2 灰黄	くの字に内湾し伸びる口縁部をもち、底部は突出する。外面は縦方向のヘラミガキ。体部内面は下半部は斜めハケ。	反転復元
14	包含層第4-4層	1-3区	須恵器 杯蓋	14.6		4.7	5分の3	チャート、長石φ0.3cmを含む	内面　N7/　灰白～N6/　灰 外面　N7/　灰白～N6/　灰	天井部やや丸く。回転ヘラケズリ。口縁端部は内傾する面をもつ。	反転復元
15	包含層第4-4層	1-3区	須恵器 杯身	(12.4)		4.3	口縁 4分の1	長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面　7.5YR8/4 浅黄橙 外面　N5/　灰、7.5YR8/4 浅黄橙	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	反転復元
16	包含層第4-4層	1-3区	弥生土器 脚台付土器		(9.9)	5.5	脚部 10分の9	チャート、長石φ0.3～0.4cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	ハの字に広がる裾部をもつ。脚部端部は折り返し内側に肥厚する。外面はタテハケ。東海地方の台付鬼脚台か。	反転復元
17	包含層第4-4層	1-4区	弥生土器 壺(広口)	(23.4)		4.2	口縁部 4分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	緩やかに広がる口縁部をもち口縁端部を垂下させるもの。端部外面は2段の円形浮文。口縁部内面は櫛状工具による2段の刺突文を施す。	反転復元
18	包含層第4-4層	1-4区	弥生土器 壺(有段)	(23.9)		6.5	口縁部 8分の1	角閃石、長石、赤色斑粒φ0.2～0.4cmを含む	内面　7.5YR4/2 灰褐 外面　7.5YR4/2 灰褐	有段の口縁部をもち、二次口縁は内傾気味に伸びる。段外面は櫛描簾状文を2段に施す。	生駒西麓産
19	落ち込み1 (5049)	1-3区	黒色土器 椀	(13.8)		2.9	口縁部 12 分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　N5/　灰、7.5YR7/8 黄橙 外面　N5/　灰、7.5YR7/8 黄橙	底部から丸く立ち上がる碗形で、外面はヘラケズリ。焼成は不良であるが内面のみ黒化する。	反転復元
20	落ち込み1 (5049)	1-3区	土師器 甕			2.1	小破片	チャート、長石φ0.1cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。	
21	落ち込み1 (5049)	1-3区	須恵器 甕	(26.7)		6.6	口縁部 8分の1	チャート、長石φ0.3～0.4cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	くの字に外反し、端部を短く垂下させるもの。	
22	自然流路1 (5030)	1-3区	土師器 皿	(10.8)		1.1	口縁部 8分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　5YR5/4 にぶい赤褐 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。	反転復元
23	自然流路1 (5030)	1-3区	須恵器 高杯		(7.9)	9.2	脚部 5分の4	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　5Y7/1 灰白	短く広がる裾部をもち、直立気味に立ち上がる柱状部をもつ。	反転復元
24	溝1（5323）	1-1区	黒色土器 椀	(14.2)	6.7	4.9	口縁部 3分の1	長石、輝石φ0.2cmを少量含む	内面　N2/　黒 外面　7.5YR7/4 にぶい橙～7.5YR5/1 褐灰	明瞭な貼り付け高台をもち、外面はユビオサエ、内面はヘラミガキを施す。内面は全面、外面は口縁部のみ黒化する。	反転復元
25	自然流路2 (5007)	1-3区	須恵器 杯蓋	(12.7)	3.7		口縁部10 分の1	長石φ0.1～0.2cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N4/　灰	口縁部と天井部との稜は甘く、天井部からゆるく屈曲する。口縁端部は内傾する面をもつ。	反転復元
26	自然流路2 (5007)	1-1区	黒色土器 小型椀	(10.7)	(5.0)	3.6	口縁部 4分の1	赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　N2/　黒 外面　5YR7/4 にぶい橙	貼り付け高台をもち、底部外面はヘラケズリ。内面はヘラミガキを施す。内面は全面、外面は口縁部のみ黒化する。	反転復元
27	溝2（5082）	1-3区	須恵器 壺Ｇ		7.2	11.2	体部 2分の1	長石φ0.2cmを少量含む	内面　N4/　灰 外面　N4/　灰	断面台形の貼り付け高台をもつ。体部は球形。体部下半は櫛状工具の痕跡が残る。	
28	溝3（5027）	1-3区	土師器 椀Ａ	13.8	9.4	3.0	口縁部16 分の1	長石φ0.1～0.2cmを少量含む	内面　5YR7/4 にぶい橙、5YR7/6 橙 外面　5YR7/4 にぶい橙、5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもち、底部外面ヘラケズリを施すこと手法による。	反転復元
29	溝3（5027）	1-3区	土師器 皿Ａ	15.0	11.5	3.1	口縁部16 分の1 以下	チャートφ0.2cm、赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　2.5YR7/6 橙、2.5Y6/1 黄灰	底部から直線的に張り出す口縁部をもち、端部は強いナデにより外反気味におわる。底部はユビオサエ。	反転復元
30	溝3（5027）	1-3区	土師器 皿Ａ	16.0	13.5	2.15	口縁部16 分の7	長石φ0.1cmを少量含む	内面　5YR7/6 橙、10YR8/3 浅黄橙 外面　5YR7/6 橙、10YR8/3 浅黄橙	底部から丸く屈曲し、口縁端部は丸くおさめる。	反転復元
31	溝3（5027）	1-3区	土師器 皿Ａ	18.4	15.8	2.7	口縁部 4分の1	赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面　5YR7/4 にぶい橙、7.5YR8/4 浅黄橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	底部から丸く屈曲し、口縁端部は外反させる。	
32	溝3（5027）	1-3区	土師器 甕	(14.2)		2.95	口縁部 8分の1	チャート、長石φ0.2cm、片岩、赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　2.5YR7/4 淡赤橙、7.5YR6/2 灰褐	くの字にわずかに外反するロ縁部をもつ。体部外面は粗いタテハケ。内面ヘラケズリ。	反転復元
33	溝3（5027）	1-3区	土師器 甕	(14.0)		3.6	口縁部 8分の1	長石、石英φ0.2cmを含む	内面　5YR6/4 にぶい橙、、10YR5/1 褐灰 外面　5YR6/4 にぶい橙、7.5YR6/3 にぶい褐	くの字に外反するロ縁部をもつ。端部は上方につまみあげる。口縁部内面はヨコハケ。	反転復元
34	溝3（5027）	1-3区	土師器 甕	(14.0)		4.1	口縁部 6分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR6/3 にぶい黄橙、10YR5/3 灰黄褐 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に外反するロ縁部をもつもの。体部外面はタテハケ。口縁部内面は粗いヨコハケ。	反転復元
35	溝3（5027）	1-3区	土師器 甕	(19.0)		4.8	口縁部 8分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙、10YR6/1 褐灰 外面　2.5YR7/6 橙、5YR7/4 にぶい橙	くの字に外反するロ縁部をもち口縁端部を丸くつまみあげるもの。外面はタテハケ。	反転復元
36	溝3（5027）	1-3区	土師器 製塩土器	(11.4)		5.0	口縁部 8分の3	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　5YR8/4 淡橙、10YR6/2 灰黄褐 外面　5YR8/4 淡橙	直立気味に伸びる砲弾形の体部をもつもの。口縁端部は上方に面をもつ。内外面ともにユビオサエ、ナデ。	反転復元
37	溝3（5027）	1-3区	土師器 製塩土器	(10.6)		7.4	口縁部 8分の3	チャート、片岩φ0.2～0.4cmを含む	内面　5YR7/6 橙、7.5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/6 橙、7.5YR7/4 にぶい橙	直立気味に伸びる砲弾形の体部をもつもの。口縁端部は内傾する面をもちおわる。内外面ともにユビオサエ。	反転復元

38	溝3 (5027)	J-3区	土師器製塩土器	(11.2)		10.4	口縁部3分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 7.5YR7/6 橙、10YR8/3 浅黄橙	直立気味に伸びる砲弾形の体部をもつもの。口縁端部は内傾する面をもちおわる。内外面ともにユビオサエ。	反転復元
39	溝3 (5027)	J-3区	土師器製塩土器	9.0		5.7	口縁部2分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.4cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 2.5Y8/2 灰白	直立気味に伸びる砲弾形の体部をもつもの。口縁端部は内傾する面をもちおわる。内外面ともにユビオサエ、ナデ。	
40	溝3 (5027)	J-3区	土師器製塩土器	(7.9)		12.1	口縁部16分の1以下	チャート、長石φ0.1～0.2cmを多く含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR8/3 浅黄橙	直立気味に伸びる砲弾形の体部をもつもの。口縁端部は内傾する面をもちおわる。内外面ともにユビオサエ、ナデ。	
41	溝3 (5027)	J-3区	土師器製塩土器	(15.8)		10.25	口縁部12分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 5YR7/6 橙、2.5Y6/1 黄灰 外面 5YR7/6 橙、2.5Y6/1 黄灰	外上方に広がる砲弾形の体部をもつもの。内外面ともにユビオサエ、ナデ。	反転復元
42	溝3 (5027)	J-3区	土師器鍋			9.3	口縁部12分の1	赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 5YR7/8 橙、2.5YR7/8 橙 外面 2.5YR7/8 橙、7.5YR7/6 橙	扁平な三角形状の把手を貼り付けるもの。内外面ともに磨滅により不明。	反転復元
43	溝3 (5027)	J-3区	須恵器蓋	(17.0)		0.9	口縁部16分の1	長石φ0.1cmを僅かに含む	内面 2.5Y7/1 灰白よりやや灰 外面 2.5Y7/1 灰白よりやや灰	口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
44	溝3 (5027)	J-3区	土師器杯B	(13.2)	9.4	3.9	口縁部8分の1	チャート、長石φ0.1cmをごく少量含む	内面 5YR6/3 にぶい橙。5YR7/6 橙 外面 5YR6/3 にぶい橙。5YR7/6 橙	底部へ緩やかに屈曲し、貼り付け高台をもつ。口縁端部は外側にわずかに折り曲げる。	反転復元
46	溝3 (5027)	J-3区	土師器杯B	(15.6)	12.8	5.15	口縁部16分の1	チャート、長石φ0.1cmを少量含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR8/3 浅黄橙	底部へ緩やかに屈曲し、幅広の断面台形の貼り付け高台を待つ。杯底部はヘラ切による。	反転復元
46	溝3 (5027)	J-3区	須恵器杯A	(12.2)	10.0	3.1	口縁部8分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを少量含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 2.5Y8/2 灰白	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。焼成は不良。	反転復元
47	溝3 (5027)	J-3区	須恵器杯A	(13.6)	10.9	3.85	底部2分の1	チャートφ0.1cmをごく少量含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 2.5Y8/2 灰白	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。焼成は不良。	反転復元
48	溝3 (5027)	J-3区	須恵器鉢C	(17.4)	14.4	2.0	口縁部8分の1	風化礫φ0.1cmを少量含む	内面 10YR8/2 灰白、10YR7/2 にぶい黄橙 外面 10YR8/2 灰白、10YR7/2 にぶい黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。焼成は不良。	反転復元
49	溝3 (5027)	J-3区	土師器土錘				ほぼ完形	チャート、長石、輝石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR4/1 褐灰 外面 10YR4/1 褐灰	断面正円形の管状土錘。内外面ともにナデ。	
50	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯蓋	(14.7)		5.0	完形	長石φ0.3cmを少量含む	内面 5PB5/1 青灰 外面 N5/ 灰	天井部やや丸く、回転ヘラケズリ。口縁端部は丸くおさめる。	
51	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯蓋	(14.2)		4.8	3分の2	チャートφ0.3cm小粒多く含む	内面 灰7.5Y6/1 外面 灰白7.5Y7/1	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部は丸い。天井部に回転ヘラケズリ。口縁端部は内傾する面を作る。	
52	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯蓋	(14.2)		4.1	完形	長石φ0.2cm、黒色粒φ0.3cmを含む	内面 N7/ 灰白 外面 N7/ 灰白	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部は丸い。天井部に回転ヘラケズリ。ス ス付着。	
53	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯蓋	(14.2)		4.2	6分の1	長石、黒色粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5Y6/1 灰 外面 7.5Y7/1 灰白	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部は丸い。天井部に回転ヘラケズリ。	
54	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯身	12.0		5.0	完形	長石φ0.2～0.5cmを含む	内面 N灰6/ 外面 N灰6/	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	
55	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯身	11.9		4.5	完形	チャート、長石φ0.3cmを少量含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は回転ヘラケズリ。ス ス付着。	
56	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯身	12.7		4.5	完形	チャート、長石φ0.1～0.3cm少量含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	
57	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯身	12.6		4.5	ほぼ完形	チャートφ0.5cmを含む	内面 灰N6/ 外面 灰N6/	短く内傾する立ち上がり部をもつ。底部はやや平坦で回転ヘラケズリを施す。	
58	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯身	12.4		4.9	完形	チャート、長石φ0.3cmを含む	内面 7.5YR7/1 灰白 外面 7.5Y6/1 灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	
59	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯身	12.7		4.9	完形	長石0.1cmを小量含む	内面 10Y6/1 灰 外面 2.5Y6/1 オリーブ灰	短く内傾する立ち上がり部をもつ。底部は丸く回転ヘラケズリ。ス ス付着。	
60	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯身	(12.6)		4.6	5分の1	チャート、長石φ0.3cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	内傾する立ち上がり部をもつ。底部はやや平坦で回転ヘラケズリを施す。	
61	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯身	13.0		5.1	完形	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 5PB5/1 青灰 外面 N5/ 灰	内傾する立ち上がり部をもつ。底部は丸く回転ヘラケズリ。	
62	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯身	13.5	5.1	5.1	4分の3	長石φ0.1cmを少量含む、黒色粒0.1～0.4cm多く含む	内面 N7/ 灰白 外面 N7/ 灰白	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	
63	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器杯身	12.85		4.8	4分の3	チャートφ0.5cmを少量含む、黒色粒φ0.1cmを含む	内面 灰白5Y7/1 外面 灰白5Y7/1	短く内傾する立ち上がり部をもつ。受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリを施す。	
64	竪穴建物1 (5089)	J-3区	須恵器甕	(22.8)		28.2	肩部まで4分の1	長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 N6/ 灰～N3/ 暗灰	くの字に外反する口縁部をもち口縁部端部は内側に肥厚し、上端面をつくる。外面は平行タタキ。内面は当て具痕が残る。	
65	竪穴建物1 (5089)	J-3区	土師器鍋				10分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 2.5Y8/3 浅黄橙 外面 10YR8/3 浅黄橙	牛角状の把手をもつ鍋。把手はナデ。	
66	竪穴建物1 (5089)	J-3区	土師器甕	(15.5)		7.4	8分の1	長石φ0.2cm、赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面 5YR6/3 にぶい橙 外面 5YR7/1 明褐灰	くの字に外反する口縁部をもつ。口縁端部は丸くおさめる。頸部はユビオサエ。	
67	竪穴建物2 (5335)	J-4区	須恵器杯身	(13.2)		4.6	口縁部5分の3	チャート、長石φ0.1cmを少量含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は平坦で回転ヘラケズリ。底部外面にヘラ記号「ひ」をもつ。	反転復元
68	竪穴状遺構1 (5012)	J-3区	須恵器杯身			2.6	4分の1	長石φ0.1～0.2cmを少量含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	受け部は短く突出し、底部は平坦で回転ヘラケズリ。	反転復元
69	土坑3 (5040)	J-3区	須恵器杯蓋	(13.3)		3.1	口縁部10分の1	長石φ0.2～0.3cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 7.5Y6/1 灰	天井部やや丸く、回転ヘラケズリ。口縁端部は丸くおさめる。	反転復元
70	土坑3 (5040)	J-3区	須恵器杯B	(11.6)		4.2	口縁部3分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	反転復元
71	土坑4 (5332)	J-4区	須恵器杯身	(11.6)		3.0	口縁部10分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 5B6/1 青灰 外面 立ち上がりN7/ 灰白、体部N4/ 灰	内傾する立ち上がり部をもつ。	反転復元
72	土坑4 (5332)	J-4区	須恵器杯身	(13.5)		4.6	口縁部4分の1	チャートφ0.1cmを少量含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 7.5Y7/1 灰白	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	反転復元
73	土坑4 (5332)	J-4区	土師器平底鉢	(15.2)		20.3	口縁部5分の4	チャート、長石、金雲母φ0.1～0.2cmを多く含む	内面 10YR6/2 灰黄褐 外面 10YR5/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもち、底部は平底を呈する。体部外面は縦方向のハケのちユビオサエ。内面はユビオサエ。	反転復元
74	土坑5 (5329)	J-3区	土師器甕(長胴)	(19.4)		32.3	口縁部5分の4	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 10YR8/2 灰白	くの字に外反する口縁部をもち、長胴気味の体部、丸底の底部をもつ。外面はタテハケのちナデ、ユビオサエ。	反転復元
75	造成土坑1 (5501)	J-1区	土師器甕	(23.0)		4.2	口縁部4分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 10YR6/3 にぶい黄橙 外面 7.5YR6/4 にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は丸くおさめる。頸部にヘラ状工具による刺突を施す。	反転復元
76	造成土坑1 (5501)	J-1区	土師器甕	(34.0)		10.2	口縁部6分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR8/4 浅黄橙 外面 10YR8/4 浅黄橙、7.5YR8/6 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。頸部外面には接合痕、内面ヘラケズリ。	反転復元
77	溝4 (5084)	J-3区	土師器製塩土器	(9.3)		2.2	口縁部8分の1	赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面 5YR7/4 にぶい橙 外面 5YR7/6 橙	椀形の製塩土器で丸底Ⅱ式。口縁部内面は具痕条痕。	
78	溝4 (5084)	J-3区	須恵器杯蓋	(13.6)		2.7	口縁部14分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N7/ 灰白 外面 N6/ 灰	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部から丸く屈曲する口縁部をもつ。	反転復元
79	溝5 (5325)	J-3区	須恵器杯身			2.45		チャートφ0.1cmを少量含む	内面 N7/ 灰白 外面 N7/ 灰白	内傾する立ち上がり部をもつ。口縁部は欠損する。	反転復元

80	溝5 (5325)	1-4区	土師器 甕	(13.0)		4.0	口縁部 8分の1	チャート、長石、石英 φ 0.2～0.3 cmを含む	内面 10YR8/2 灰白、5YR6/4 にぶい橙 外面 10YR8/3 浅黄橙、10YR3/1 黒褐	緩やかに立ち上がる口縁部をもつ。端部は内傾する面をもちおわる。	反転復元
81	溝5 (5325)	1-4区	土師器 高杯(脚)			3.1		チャート、長石、金雲母 φ 0.2～0.4 cmを含む	内面 5YR7/6 橙 外面 2.5YR6/6 橙	椀形の杯部をもつもの。外面はタテハケ。	反転復元
82	溝5 (5325)	1-1区	土師器 壺	(14.0)		17.0	口縁 5分の1	チャート、片岩 φ 0.1～0.2 cmを少量含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 2.5Y8/2 灰白	くの字に外反する口縁部をもつ。体部はナデ、ユビオサエが顕著に残る。内面はヘラケズリ。	
83	溝6 (5331)	1-4区	須恵器 杯身	12.4		3.6	ほぼ完形	長石 φ 0.3 cm、黒色斑粒 φ 0.1 cmを含む	内面 N7/ 灰白 外面 N6/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、底部は丸く回転ヘラケズリを施す。杯内面に格子状の圧痕をもつ。	
84	溝6 (5331)	1-4区	須恵器 杯身	12.6		4.4	完形	長石 φ 0.3～0.5 cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	短く内傾する立ち上がり部をもち、底部は丸く回転ヘラケズリを施す。	
85	溝6 (5331)	1-4区	須恵器 杯身	13.5		4.6	完形	チャート、長石、黒色斑粒 φ 0.1～0.3 cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、底部はやや平坦で回転ヘラケズリを施す。	
86	溝7 (5013・5014)	1-3区	須恵器 杯身	11.4		3.8	口縁部 3分の2	チャート、長石 φ 0.1～0.3 cmを少量含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	
87	溝7 (5013・5014)	1-3区	須恵器 杯身	(11.7)		3.2	口縁部 8分の1	チャート、長石 φ 0.2～0.3 cmを含む	内面 5B4/1 暗青灰 外面 5B5/1 青灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	反転復元
88	溝7 (5013・5014)	1-4区	土師器 高杯(脚柱)			3.9	口縁部 4分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.2～0.3 cmを含む	内面 2.5YR5/8 明赤褐 外面 2.5YR5/8 明赤褐	半球形の椀形の杯部をもつもの。杯部と脚部の接合は脚頂部凸面接合による。	反転復元
89	溝7 (5013・5014)	1-3区	土師器 甕	(15.8)		9.65	口縁部 3分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.3～0.4 cmを含む	内面 10YR8/2 灰白、10YR8/3 浅黄橙 外面 7.5YR8/4 浅黄橙、N4/ 灰	くの字に外反する口縁部をもち、端部は丸くおさめる。体部外面は斜めハケ。内面はヘラケズリ。	反転復元
90	溝7 (5013・5014)	1-3区	土師器 甑		(8.0)	10.8	体部 3分の1	チャート、長石 φ 0.3～0.5 cmを含む	内面 2.5Y7/1 灰白 外面 10YR8/2 灰白、2.5Y7/1 灰白	半角状の把手をもつもの。蒸気孔は円形で中央に一つ、周囲に12方向もつ。外面は縦ハケ。内面はヘラナデ。	反転復元
91	自然流路3 (5064)	1-3区	須恵器 杯蓋	13.6		3.4	口縁部 3分の2	チャート、長石、黒色斑粒 φ 0.2～0.4 cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部から丸く屈曲する口縁部をもつ。天井部に自然釉が付着。	
92	自然流路3 (5064)	1-3区	須恵器 杯蓋	(14.8)		4.3	口縁部 2分の1	長石、黒色粒 φ 0.3～0.4 cmを少量含む	内面 N5/ 灰 外面 5B5/ 青灰	口縁部から天井部へ稜をもち丸く屈曲する。口縁端部は丸くおさめる。	反転復元
93	自然流路3 (5064)	1-3区	須恵器 杯蓋	14.6		3.9	ほぼ完形	長石、片岩 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面 N7/ 灰白 外面 5B5/1 青灰～N7/ 灰白	口縁部から天井部へ稜をもち屈曲する。口縁部は直立気味に立ち上がり端部は内傾面をもち、沈線一条を施す。	
94	自然流路3 (5064)	1-3区	須恵器 杯蓋	16.1		4.2	口縁部 10分の9	粗 長石 φ 0.3～0.4 cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰～N4/ 灰	口縁部と天井部の境界は鋭く、天井部から丸く屈曲する口縁部をもつ。	
95	自然流路3 (5064)	1-3区	須恵器 杯蓋	13.4		3.8	口縁部 5分の4	チャート、長石 φ 0.2～0.4 cm、黒色斑粒 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面 N4/ 灰 外面 5B4/1 暗青灰	口縁部から天井部へ稜をもち丸く屈曲する。口縁端部は丸くおさめる。	
96	自然流路3 (5064)	1-3区	須恵器 杯蓋	15.7		5.0	口縁部 4分の3	長石、黒色粒 φ 0.3～0.4 cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 N4/ 灰	口縁部から天井部へ稜をもち丸く屈曲する。口縁端部は内傾面をもつ。	
97	自然流路3 (5064)	1-3区	須恵器 杯身	12.5		4.5	完形	長石、黒色斑粒 φ 0.1～0.4 cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 N6/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	
98	自然流路3 (5064)	1-3区	須恵器 杯身	12.5		4.4	ほぼ完形	長石 φ 0.4 cm、チャート、黒色粒 φ 0.1 cmを含む	内面 7.5Y6/ 灰 外面 5Y7/1 灰白	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。底部外面にヘラ記号「\」をもつ。	
99	自然流路3 (5064)	1-3区	須恵器 提瓶	7.8		21.7	口縁部 10分の9	チャート、長石 φ 0.2～0.3 cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰、自然釉 5GY3/1 暗オリーブ	内湾気味に伸び受け口状の口縁部をもつもの。端部は内側に肥厚する。体部はカキメを施す面と回転ヘラケズリを施す面をもつ。把手は欠損するが、環状の把手になるものと思われる。	
100	自然流路3 (5064)	1-3区	土師器 甕	(19.4)		26.2	口縁部 3分の1	チャート、片岩 φ 0.2～0.4 cmを含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 2.5Y8/2 灰白	頸部から屈曲し、短く直立気味に伸びる口縁部をもつ。口縁部外面はユビオサエ。内面は板ナデ。	反転復元
101	自然流路3 (5064)	1-3区	土師器 甕	(16.7)		9.4	口縁部 6分の1	チャート、赤色斑粒 φ 0.2 cmを含む	内面 7.5YR6/2 灰褐 外面 7.5YR8/2 灰白～5YR7/3 にぶい橙	短く直立気味に伸びる口縁部をもつ。内外面はユビオサエ、ナデによる。	
102	自然流路3 (5064)	1-3区	土師器 甕	(18.1)		12.8	口縁部 4分の1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.3 cmを含む	内面 5YR7/2 灰白～10YR6/4 にぶい黄橙 外面 2.5Y7/3 浅黄～7.5YR7/4 にぶい橙	緩やかに外反する口縁部をもつ。内外面は磨滅。内面は粘土紐接合痕を残す。	
103	自然流路3 (5064)	1-3区	土師器 甕(長胴)	(15.8)		34.0	口縁部 3分の2	チャート、長石 φ 0.2～0.5 cmを多く含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 2.5Y7/3 浅黄～2.5Y4/2 暗灰黄	くの字に外反する口縁部をもち、長胴気味の体部、丸底の底部をもつ。外面はタテハケのちナデ、ユビオサエ。	反転復元
104	自然流路4 (5047)	1-3区	須恵器 蓋	(14.2)		3.3	口縁部 12分の1	長石 φ 0.2～0.3 cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 5B6/1 青灰	口縁部から丸く屈曲するもの天井部は丸い。端部は沈線1条を施す。	反転復元
105	自然流路4 (5047)	1-3区	須恵器 杯身	10.6		3.5	口縁部 5分の4	長石、風化礫 φ 0.3～0.4 cmを少量含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、底部は丸い。底部に「×」のヘラ記号をもつ。	
106	自然流路4 (5047)	1-3区	須恵器 甕	(22.5)		2.8	口縁部 10分の1	長石 φ 0.1 cmを少量含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	緩やかに広がり端部は丸く巻き込み肥厚する。口縁部外面はカキメを施し、ヘラ記号「へ」をもつ。	反転復元
107	自然流路4 (5047)	1-3区	須恵器 甕	(17.9)		7.5	口縁部 3分の1	長石 φ 0.2～0.3 cmを少量含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	くの字に外反する口縁部をもつもの。頸部外面はタタキのちカキメ。体部内面は青海波状の当て具痕をもつ。	反転復元
108	自然流路4 (5047)	1-3区	須恵器 甕	(24.8)		7.6	口縁部 4分の1	チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面 N4/ 灰 外面 N6/ 灰	くの字に外反する口縁部をもつもの。口縁端部は段をつくり沈線を施す。体部外面は平行タタキ。	反転復元
109	竪穴建物3 (5095)	1-3区	須恵器 杯蓋	(15.4)		4.3	3分の1	長石 φ 0.1～0.3 cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	口縁部と天井部の境界は鋭く、やや平坦な天井部をもつ。天井部に回転ヘラケズリを施す。	
110	竪穴建物3 (5095)	1-3区	須恵器 杯身	11.2		3.5	完形	チャート、長石 φ 0.1 cmを極少量含む	内面 N5/ 灰 外面 N6/ 灰	短く内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は平坦で浅い。杯底部内面には当て具による圧痕を残す。	
111	竪穴建物3 (5095)	1-3区	土師器 高杯	(16.2)		5.1	8分の1	チャート、長石 φ 0.5 cmを含む	内面 7.5YR7/6 橙 外面 7.5YR6/8 黄橙	平坦な杯底部から稜をもって屈曲し、杯上半部へとまっすぐに広がるもの。端部は尖っておわる。杯部内面はハケ。	
112	土坑6 (5162)	1-3区	須恵器 杯身	(13.8)		3.8	口縁 3分の1	長石 φ 0.3～0.5 cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 5B6/1 青灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は平坦で回転ヘラケズリ。	反転復元
113	土坑6 (5162)	1-3区	須恵器 杯身	受部径 (15.2)		3.5	口縁部 2分の1	チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 5PB6/1 青灰、2.5GY3/1 暗オリーブ灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	反転復元
114	ピット2 (5087)	1-3区	土師器 把手	長さ 4.6			把手 10分の9	チャート、長石 φ 0.1 cmを少量含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙 外面	甑または鍋の把手。断面形は楕円形。	
115	ピット3 (5088)	1-3区	須恵器 杯身	13.1		4.4	ほぼ完形	チャート、長石 φ 0.1 cmを少量含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、底部は丸く回転ヘラケズリを施す。焼ひずみが激しい。	
116	溝9 (5179)	1-3区	須恵器 杯蓋	(13.4)		2.9	口縁部 6分の1	長石 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面 N4/ 灰 外面 N4/ 灰	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部から丸く屈曲する口縁部をもつ。端部は丸くおさめる。	反転復元
117	溝10 (5194)	1-3区	土師器 甕	(17.9)		3.1	口縁部 8分の1	チャート、長石 φ 0.1 cmを多く含む	内面 7.5YR7/6 橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	くの字に屈曲し内湾して伸びる口縁部をもつ。端部は肥厚内傾面をもつ。	
118	自然流路5 (5472)	1-4区	須恵器 杯身			1.9	10分の1	チャート φ 0.1 cm以下を含む	内面 N7/ 灰白 外面 N7/ 灰白	平坦な底部をもち、受け部は横方向に突出する。	反転復元
119	自然流路5 (5472)	1-1区	土師器 甕	頸部径 (14.8)		22.1	頸部 4分の3	チャート、長石 φ 0.2～0.3 cmを多く含む	内面 N2/ 黒 外面 10YR1.7/1 黒～N1.5/ 黒	丸底の底部をもつ。外面はタテハケ。内面はユビオサエ。胎土が極めて粗く粗雑な土器。	

120	自然流路5 (5472)	I-1区	土師器 甕	(11.3)		22.5	口縁付近 3分の2	チャート、赤色斑粒φ0.3㎝を含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y6/2 灰黄	くの字に外反する口縁部をもつ。体部は肩が張り底部は丸底。外面はユビオサエ。底部内面はヘラケズリ。	反転復元
121	自然流路5 (5472)	I-1区	土師器 高杯(脚)	16.9	裾径 11.5	13.0	ほぼ完形	精良　赤色斑粒φ0.3㎝以下を極小量含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　7.5YR6/6 橙	平坦な杯底部から稜をもって屈曲し、杯上半部へまっすぐに広がるもの。外面は磨滅により不明。内面は横方向のヘラミガキ。杯部と脚部の接合は脚頂部凸面接合による。	
122	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 杯蓋	14.0		4.1	口縁部 4分の3	チャート、長石φ0.1～0.2㎝を含む	内面　N6/　灰、5Y7/1 灰白 外面　N6/　灰、5Y7/1 灰白	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部から丸く屈曲する口縁部をもつ。端部は内傾する面をもつ。	
123	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 杯蓋	(14.4)		4.15	口縁部 4分の1	長石、黒色斑粒φ0.1～0.3㎝を含む	内面　N6/　灰、N5/　灰 外面　N5/　灰、N5/　灰	口縁部からわずかに屈曲し、やや平坦な天井部をもつもの。端部は内傾する面をもち沈線一条を施す。	反転復元
124	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 杯蓋	(14.0)		4.65	口縁部 8分の1	長石、黒色斑粒φ0.1～0.3㎝を含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部は丸く回転ヘラケズリ。端部は内傾する面をもつ。	反転復元
125	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 杯蓋	(15.8)		5.1	口縁部 8分の5	長石、黒色斑粒φ0.1～0.3㎝を含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部は丸く回転ヘラケズリ。端部は内傾する面をもつ。	
126	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 杯身	(12.6)		4.6	チャート、長石φ0.2㎝を含む	チャート、長石φ	内面　N5/　灰 外面　N7/　灰白よりやや灰黄	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	反転復元
127	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 杯身	(12.4)		4.4	口縁部約 4分の3	チャート、長石φ0.3～0.4㎝を含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	
128	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 杯身	(12.6)		4.4	口縁部 8分の3	チャート、長石、黒色斑粒φ0.1～0.3㎝を含む	内面　N7/　灰白～N6/　灰 外面　N7/　灰白～N6/　灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部はやや平坦で回転ヘラケズリ。	反転復元
129	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 杯身	(13.0)		4.15	口縁部 16分の3	チャート、黒色斑粒φ0.3～0.5㎝を含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部はやや平坦で回転ヘラケズリ。	反転復元
130	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 杯身	(12.8)		5.3	口縁部 4分の1	長石、黒色斑粒φ0.1～0.2㎝を含む	内面　N7/　灰白 外面　N7/　灰白	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。「///」のヘラ記号をもつ。	反転復元
131	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 壺L	(9.4)		4.25	口縁部 8分の7	チャート、長石φ0.2～0.3㎝を含む	内面　10YR8/4 浅黄橙、10YR6/3 にぶい黄橙 外面　10YR8/4 浅黄橙、10YR6/3 にぶい黄橙	緩やかに広がる口縁部をもち、端部は上下に拡張し面つくる。	反転復元
132	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 蓋			14.25	10分の7	長石、黒色粒φ0.1～0.3㎝を含む	内面　N7/　灰白 外面　N7/　灰白	直線的に伸びる長い頭部をもつもの。頭部外面は波状文、カキメ。体部中央を穿孔し、刺突文を施す。底部はカキメ。	反転復元
133	自然流路6 (5186)	I-3区	須恵器 蓋	17.8		6.1	口縁部 8分の1	長石φ0.1～0.2㎝を含む	内面　N7/　灰白 外面　N7/　灰白	くの字に外反する口縁部をもち端部は丸く上下に肥厚する。頭部はカキメをもつ。肩部はヘラ記号「1」をもつ。	反転復元
134	自然流路5 (5186)	I-3区	土師器 小壺	7.3		8.9	口縁部 5分の2	チャート、長石φ0.2～0.5㎝を含む	内面　2.5Y8/3 淡黄、5Y4/1 灰 外面　2.5Y8/3 淡黄、5Y4/1 灰	くの字に外反する口縁部をもち端部は尖っておわる。底部は平坦な底面をもち外面はタテハケ。	反転復元
135	自然流路6 (5186)	I-3区	土師器 杯	15.6		3.3	口縁部 8分の1 未満	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2㎝を含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から丸く屈曲し、外反する口縁部をもつもの。	反転復元
136	自然流路6 (5186)	I-3区	土師器 製塩土器	8.6		3.5	口縁部 4分の1	長石φ0.3㎝を少量含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	椀形に伸びる口縁部をもつ。端部は丸くおさめる。	反転復元
137	自然流路6 (5186)	I-3区	土師器 甕	14.0		5.6	口縁部 8分の1	長石、片岩φ0.1～0.2㎝を含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/6 橙	内湾気味に伸びる口縁部をもち、端部は内側に肥厚する。内外面ともに磨滅により不明。	反転復元
138	自然流路6 (5259)	I-3区	土師器 甕(長胴)	(27.5)		23.6	口縁部 8分の1	チャートφ0.1～0.5㎝を含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　2.5Y7/3 浅黄	くの字に外反する口縁部をもつ。体部は長胴気味の胴部をもつ。体部外面はハケのちユビオサエ。	
139	自然流路6 (5178)	I-3区	須恵器 杯身	(12.3)		4.2	口縁部 3分の1	チャート、長石φ0.1～0.3㎝を含む	内面　N4/　灰 外面　N4/　灰、5YR4/3 にぶい赤褐	内傾する立ち上がり部をもつ。やや平坦な底部をもち回転ヘラケズリを施す。	反転復元
140	自然流路6 (5178)	I-3区	土師器 甕(長胴)		(14.1)	14.2	体部 3分の1	赤色斑粒φ0.1㎝を多く含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR5/3 にぶい赤褐	底部に平坦面を残す長胴気味の甕。外面はタテハケ。ナデ、内面は部分的なヘラケズリ。	反転復元
141	竪穴建物4 (5184)	I-3区	土師器 甕	(12.5)		3.1	8分の1	チャートφ0.3㎝を少量含む	内面　にぶい黄橙 10YR7/4 外面　にぶい黄橙 10YR7/4	くの字に屈曲する口縁部をもち、端部は外側へ外反させる。	
142	竪穴建物4 (5184) SK	I-3区	土師器 甕	(7.0)		14.0	上半のみ 4分の1	長石0.3㎝、片岩0.5㎝を含む	内面　黄灰 2.5Y4/1 外面　浅黄 2.5Y7/3	くの字に屈曲しやや長くのびる口縁部をもつ。体部外面はヘラケズリ、ナデ。体部内面は斜め方向のハケ、ヘラケズリ。	反転復元
143	竪穴建物4 (5184) SK	I-3区	土師器 甕	(13.7)		13.5	上半 4分の1	チャート0.1～0.5㎝、長石0.1～0.2㎝を少量含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　7.5YR6/6 橙	内湾気味に伸びる口縁部をもち、端部は内側に肥厚し内傾面を作る。体部外面は肩部ヨコハケ。内面はヘラケズリ。	反転復元
144	竪穴建物4 (5184) SK	I-3区	土師器 直口壺	16.8		31.0	2分の1 以下	チャート、長石、片岩φ0.1～0.5㎝を含む	内面　10YR8/4 浅黄橙 外面　10YR8/4 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は尖っておわる。底部外面はヘラケズリ。胴部内面から底部にかけてヘラケズリ。	
145	竪穴建物5 (5507) SK(5521)	I-4区	土師器 小型丸底 壺	10.3	1.6	9.1	完形	片岩φ0.1～0.5㎝を多く含み、長石φ0.3㎝を含む	内面　5YR5/8 明赤褐～5YR6/6 橙 外面　5YR5/8 明赤褐～5YR6/6 橙	くの字に外折する口縁部をもつ。底部は丸底で中央がくぼむ。内外面ともに磨滅。	
146	竪穴建物5 (5507) SK(5521)	I-4区	土師器 小型丸底 壺	頭部径 (10.0)		3.1	頭部 6分の1	チャート、長石、片岩φ0.3～0.4㎝を含む	内面　7.5YR5/3 にぶい褐 外面　5YR5/8 明赤褐	くの字外反する頸部。内面はユビオサエ。	反転復元
147	竪穴建物6 (5402)	I-4区	弥生土器 壺(広口)	(19.6)		3.2	口縁部 6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2㎝を含む	内面　欠損 外面　10YR6/3 にぶい黄橙	垂下する口縁端部をもつもの。端部外面には凹線文6条、円形浮文を施す。	
148	竪穴建物6 (5402)	I-4区	土師器 甕	(17.7)		10.5	口縁部 5分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3㎝を含む	内面　2.5Y6/2 灰黄 外面　5YR6/6 橙	くの字に内湾し伸びる口縁部をもち、端部は内側に肥厚するもの。内面はヘラケズリ。	反転復元
149	竪穴建物6 (5402)	I-4区	土師器 高杯	(14.1)		2.6	口縁部 12分の1	チャート、長石φ0.2～0.3㎝を含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	外反気味に伸びる杯部をもつもの。外面はタテハケ。内面はヨコハケ。	
150	竪穴建物6 (5402)	I-4区	土師器 高杯			3.5	杯部 4分の1	チャート、長石φ0.2～0.3㎝を含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	平坦な杯底部から稜をもち屈曲し、杯上半部へとまっすぐに広がるもの。	反転復元
151	竪穴建物6 (5402)	I-4区	土師器 高杯			6.0	脚部 3分の1	チャート、長石φ0.2～0.3㎝を含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	緩やかに広がる柱状部をもつ。外面はナデ。器壁は厚い。	反転復元
152	竪穴建物7 (5400)	I-4区	弥生土器 壺(広口)	(21.6)		3.1	口縁部 6分の1	チャート、赤色斑粒φ0.2～0.3㎝を含む	内面　7.5YR8/2 灰白 外面　7.5YR8/4 浅黄橙	緩やかに外反する口縁部をもち、端部は上下に拡張する。	反転復元
153	竪穴建物7 (5400)	I-4区	弥生土器 甕	(13.7)		6.8	口縁部 6分の1	チャート、片岩φ0.3㎝を含む	内面　2.5Y6/3 にぶい黄 外面　10YR5/1 褐灰	くの字に短く外反する口縁部をもち、体部外面は板ナデ。	反転復元
154	竪穴建物7 (5400)	I-4区	弥生土器 鉢か		5.2	2.8	完形	長石φ0.2㎝～片岩φ0.1㎝を含む	内面　5YR6/6 橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	平底の底部。底部側面はユビオサエ。	
155	竪穴建物7 (5400)	I-4区	弥生土器 甕	(25.4)		7.0	口縁部 8分の1	チャート、長石φ0.3～0.5㎝を含む	内面　7.5YR8/4 浅黄橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	くの字に短く外反する口縁部をもち、体部外面は磨滅により不明。	反転復元
156	竪穴建物7 (5400)	I-4区	弥生土器 甕	(31.3)		6.0	口縁部 16分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.5㎝を含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもち、口縁端部は上方に拡張する。	反転復元
157	竪穴建物7 (5400) P7(5436)	I-4区	弥生土器 高杯(脚)			9.0	体部 1分の1	チャート、長石、片岩φ0.3㎝を含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y7/2 灰黄	椀形を呈する深身の杯部をもつ。外面はヘラケズリ、ハケ。柱状部は縦方向のヘラミガキ。杯部の接合は円盤充填による。	反転復元
158	土坑7 (5243)	I-3区	土師器 甕	(15.6)		6.1	上半 5分の2	片岩φ0.3㎝を多く含む　長石、チャートφ0.5㎝を少量含む	内面　7.5YR6/5 明褐 外面　7.5YR6/5 明褐	くの字に外反し、口縁端部は丸くおさめる。口縁部外面はタテハケ、米粒状の刺点文をもつ。肩部外面はヨコハケ。	反転復元
159	土坑7 (5243)	I-3区	土師器 甕	(15.2)		7.5	上半 ほぼ完	長石、片岩φ0.5㎝を少量含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/6 橙	内湾気味に伸びる口縁部をもち、端部は肥厚し内傾面を作る。外面は肩部ヨコハケ、刺点文をもつ。内面はヘラケズリ。	反転復元
160	土坑7 (5243)	I-3区	土師器 甕	14.9		8.5	上半 ほぼ完	チャートφ0.3㎝、金雲母φ0.1㎝を含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	内湾気味に伸びる口縁部をもち、端部は丸く肥厚し、内傾する。外面は肩部ヨコハケ、斜め方向のヘラ描きをもつ。	

161	土坑 7 (5243)	1-3 区	土師器 小型甕			8.0	肩のみ 3 分の 1	チャート、赤色斑粒 φ 0.3 cm を少量含む	内面　にぶい黄橙 10YR7/3 外面　にぶい黄橙 10YR7/3	外面はナデ。内面はヘラケズリ、粗いハケ。	
162	土坑 8 (5244)	1-3 区	土師器 高杯			3	脚頂のみ	チャート φ 0.5 cm を少量含む	内面　褐灰 7.5YR4/1 外面　橙 7.5YR6/8	高杯脚部。杯部との接合は杯底部に脚頂部を挿し込み接合する。	反転復元
163	土坑 8 (5244)	1-3 区	土師器 低脚杯		(5.0)	5.7	口縁以外 完形	チャート、長石 φ 0.5 cm、片岩 0.3 cm を含む	内面　10YR8/4 浅黄橙～ 5YR7/3 にぶい橙 外面　10YR8/4 浅黄橙～ 5YR7/3 にぶい橙	緩やかに広がる杯部から、短く張り出した脚部を持つ。杯部外面はヨコハケ。	反転復元
164	土坑 9 (5365)	1-4 区	土師器 高杯(椀)	(20.0)		6.1	杯部 12 分の 1	チャート、長石、金雲母 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y7/2 灰黄	平坦な杯底部から稜をもって屈曲し、杯上半部へまっすぐに広がるもの。端部は尖っておわる。	反転復元
165	土坑 9 (5365)	1-4 区	土師器 高杯(椀)	(18.2)		5.4	杯部 5 分の 3	赤色斑粒 φ 0.1 cm をごく少量含む	内面　5YR5/6 明赤褐 外面　7.5YR7/6 橙	平坦な杯底部から稜をもって屈曲し、杯上半部へまっすぐに広がるもの。外面は斜め方向の板ナデ。	反転復元
166	土坑 9 (5365)	1-4 区	土師器 壺	(10.6)		15.2	口縁付近 3 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/4 にぶい橙	くの字に大きく外反する口縁部をもつ。底部は丸底。肩部内面に粘土紐接合痕を多く残す。	反転復元
167	土坑 10 (5119)	1-3 区	弥生土器 甕(小型)	体部径 (9.6)		7.0	口縁 (端部欠) 3 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.3 ～ 0.5 cm を含む	内面　2.5Y5/1 黄灰 外面　2.5Y7/2 灰黄	くの字に外反する口縁部をもつ。内面はユビオサエ。肩部内面に粘土紐接合痕を残す。	反転復元
168	土坑 10 (5118)	1-3 区	弥生土器 甕(小型)	(6.0)		10.1	口縁 3 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 cm、片岩、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　2.5Y5/3 黄褐～ 5Y3/1 オリーブ黒 外面　7.5YR6/3 にぶい褐	短くくの字に外反する口縁部をもつ。底部は大きく突出する。内面はユビオサエ、ヨコハケ。	反転復元
169	土坑 10 (5118)	1-3 区	弥生土器 甕		(6.6)	3.5	底部 2 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　10YR4/1 褐灰 外面　5Y6/1 灰	外側に張り出す底部をもつ。外面はナデ。内面は板条工具によるナデ。	反転復元
170	溝 11 (5366)	1-4 区	土師器 壺	18.0		3.2	口縁部 16 分の 1 以下	チャート、長石、片岩 φ 0.3 ～ 0.4 cm を含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	内湾する口縁部をもつ。口縁端部は内側に肥厚し内傾する。	反転復元
171	溝 11 (5366)	1-4 区	土師器 高杯		12.2	3.2	底部 16 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.3 ～ 0.4 cm を含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	ハの字に広がる裾部をもつ。端部は丸くおさめる。	反転復元
172	溝 12 (5125)	1-3 区	土師器 高杯(椀)	16.4		5.4	杯部 10 分の 9	長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	平坦な杯底部から稜をもって屈曲し、杯上半部へまっすぐに広がるもの。端部は尖っておわる。外面はユビオサエ。	反転復元
173	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 壺 (広口長頸)	(13.1)		1.4	口縁部 4 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　2.5Y7/1 灰白 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	緩やかに広がる口縁部をもち、端部は垂下させる。	反転復元
174	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 壺(広口)	(17.2)		4.1	口縁部 8 分の 1	チャート、片岩 φ 0.1 cm を含む	内面　2.5YR6/8 橙 外面　10R5/8 赤	緩やかに広がる口縁部をもち、端部は上下に拡張し面をもちおわる。	反転復元
175	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 壺(広口)	(19.0)		3.3	口縁部 8 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	緩やかに外反する口縁部をもち端部は上下に拡張し内傾面をつくる。頭部外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
176	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 壺(細頸)	(13.6)		1.7	口縁部 12 分の 1	チャート、金雲母 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　2.5Y3/1 黒褐	直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。端部は内側に肥厚し上方に面作る。外面は円形浮文、櫛工具による刺突文を施す。	反転復元
177	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 壺(広口)	(21.3)		1.8	口縁部 10 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	くの字に緩やかに外反する口縁部をもつ。端部は面を作る。口縁部内面に円形浮文を貼り付ける。	反転復元
178	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 壺(有段)	(24.2)		4.2	口縁部 12 分の 1	片岩、長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　2.5Y7/3 浅黄 外面　2.5Y7/2 灰黄	有段の口縁部をもつ。段の屈曲は緩やかである。段の外面は櫛描直線文、口縁部内面はナデによる。	反転復元
179	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 甕		(6.2)	1.8	底部 3 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.3 cm を含む	内面　N3/　暗灰 外面　7.5YR8/2 灰白	平底の底部。底部側面はナデによる。	反転復元
180	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 甕	(15.7)		4.8	口縁部 10 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　5YR6/6 橙～ 5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR6/6 橙	くの字に外反する口縁部をもち端部は面作りおわる。体部内面はナデ。	反転復元
181	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 壺		(7.4)	2.4	底部 4 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　7.5YR5/3 にぶい褐～ 5Y3/1 オリーブ黒	平底の底部をもつもの。	反転復元
182	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 甕		(6.8)	2.6	底部 2 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　2.5Y8/2 灰白	平底の底部をもつ。	反転復元
183	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 壺		(6.1)	6.9	底部 3 分の 1	長石 φ 0.3 ～ 0.5 cm、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　N4/　灰 外面　7.5YR9/4 浅黄橙	平底の底部から緩やかに広がるもの。内面はユビオサエ。	反転復元
184	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 甕	(22.8)		4.5	口縁部 10 分の 1	長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に外折し、端部は幅広の面をもつ。	反転復元
185	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 甕	(26.2)		3.4	口縁部 12 分の 1	チャート、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は上方に拡張する。	反転復元
186	竪穴建物 9 (5185)	1-3 区	弥生土器 甕	(31.0)		11.3	口縁部 6 分の 1	チャート、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR6/6 橙	くの字に短く外反する口縁部をもち、端部は上方につまみあげる。	反転復元
187	竪穴建物 10 (5369)SK(5430)	1-4 区	弥生土器 甕	(19.5)		5.0	口縁部 12 分の 1	チャート、長石、金雲母 φ 0.1 ～ 0.2 cm を多く含む	内面　10YR5/3 にぶい黄褐 外面　10YR4/1 褐灰	くの字に短く外反する口縁部をもつ。肩部外面はヘラケズリ。	反転復元
188	竪穴建物 10 (5369)SK(5430)	1-4 区	弥生土器 壺(広口)	(20.3)		4.4	口縁部 4 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　7.5YR8/3 浅黄橙 外面　7.5YR8/3 浅黄橙	くの字に大きく外反する口縁部をもつ。端部は上下に拡張し垂下させる。内外面ともに調整。	
189	竪穴建物 11 (5370)	1-4 区	弥生土器 壺(広口)	(14.3)		0.4	口縁部 6 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　2.5Y7/3 浅黄 外面　2.5Y7/3 浅黄	短い頸部から外反し伸びる口縁部をもつ。口縁端部は刻み目をもち頸部外面は縦方向粗いハケ。	大和か反転復元
190	竪穴建物 11 (5370)	1-4 区	弥生土器 甕		(6.4)	4.9	底部 4 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　7.5YR5/3 にぶい褐 外面　10YR6/3 にぶい黄橙	平底の底部から直線的に立ち上がる形態をもつ。外面はヘラケズリ。	反転復元
191	竪穴建物 11 (5370)	1-4 区	弥生土器 甕		9.4	7.6	底部 5 分の 3	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　N3/　暗灰 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	平底の底部をもつ。外面はヘラケズリ。底部側面はユビオサエ。	反転復元
192	竪穴建物 11 (5370)	1-4 区	弥生土器 鉢	(24.7)		4.8	口縁部 20 分の 1	長石、金雲母 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	口縁部を折り返し巻き込む形態をもつ。外面はナデ。	反転復元
193	竪穴建物 11 (5370)	1-4 区	弥生土器 壺(有段)	頸部径 (23.4)		7.5	頸部 12 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　2.5YR6/6 橙	頸部に粘土紐を貼り付け突帯を付加するもの。突帯はユビオサエをめぐらせる。	反転復元
194	竪穴建物 12 (5373)	1-4 区	土師器 甕	体部径 (23.3)		15.6	体部 6 分の 1	長石 φ 0.3 ～ 0.4 cm を含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　2.5Y7/3 浅黄	球胴の甕。外面は胴部中央はヨコハケ、底部はタテハケ。内面はヘラケズリ。	
195	竪穴建物 12 (5373)	1-4 区	弥生土器 甕		(5.2)	3.2	底部 4 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 cm を含む	内面　N3/　暗灰 外面　N3/　暗灰	平底の底部、底部外面はユビオサエ。	反転復元
196	竪穴建物 12 (5373)	1-4 区	土師器 高杯	頸部径 3.0		4.0	脚部 5 分の 4	チャート φ 0.2 cm を含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　7.5Y5/4 にぶい褐	緩やかに広がる脚部をもつもの。杯部との接合は杯底部に脚頂部を挿し込み接合する。	反転復元
197	竪穴建物 13 (5183)	1-3 区	弥生土器 壺(広口)	19.6		1.7	口縁部 8 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙、5Y6/1 灰 外面　7.5YR7/4 にぶい橙、5Y6/1 灰	大きく広がる口縁部をもち、端部を垂下させるもの。	反転復元
198	竪穴建物 13 (5183)	1-3 区	弥生土器 壺(頸か)	12.4		2.3	口縁部 8 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　10YR5/3 にぶい黄褐、10YR3/1 黒褐	くの字に外反する口縁部をもつ。	反転復元
199	竪穴建物 13 (5183)	1-3 区	弥生土器 甕		4.6	1.7	底部 8 分の 5	チャート、長石 φ 0.3 cm を含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	底部外面ヘラケズリを施すもの。	反転復元
200	竪穴建物 13 (5183)	1-3 区	弥生土器 壺		5.4	5.0	底部完形	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.5 cm を含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙、N3/　暗灰	平底の底部をもつ。外面は縦方向のヘラミガキ。内面はユビオサエ。	反転復元
201	竪穴建物 14 (5523)	1-4 区	弥生土器 甕か鉢	(17.5)		4.4	口縁部 10 分の 1	チャート、長石、石英、金雲母 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR6/4 にぶい黄橙	くの字に短く外反する口縁部をもち外面はヘラケズリ。	
202	竪穴建物 14 (5523)	1-4 区	弥生土器 甕		(4.9)	3.5	底部 3 分の 1	チャート、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面　2.5Y8/3 淡黄 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	下方に張り出す底部をもつ。底部側面はユビオサエ。	反転復元

203	竪穴建物 14 (5523)	I-4 区	弥生土器 高杯(有段)	(22.8)		5.7	口縁部 4 分の 1	片岩 φ 0.3 ～ 0.5 cm、長石 φ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y8/3 淡黄 外面 2.5Y7/4 浅黄	杯部中程で稜をもち屈曲する高杯。内面はヘラミガキ。	反転復元
204	竪穴建物 14 (5523)	I-4 区	弥生土器 高杯(椀形)			3.5	小破片 10 分の 1 以下	長石 φ 0.1 cm を含む	内面 7.5YH7/6 橙 外面 7.5YR4/2 灰褐	杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもの。口縁部下に凹線文 3 条を施す。	
205	竪穴建物 14 (5523)	I-4 区	弥生土器 高杯	頭部径 (4.6)		5.6	柱状部 3 分の 1	角閃石、長石、石英 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y5/3 黄褐 外面 10YR4/2 灰黄褐	中空の柱状部をもつ。外面はヘラミガキ。内面はユビオサエ、シボリ痕をもつ。	生駒西麓産 反転復元
206	竪穴建物 14 (5523)	I-4 区	弥生土器 高杯		(13.1)	2.1	脚裾部 3 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 cm を含む	内面 5YR8/4 淡橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	ハの字に開く裾部をもつ。端部は上方に拡張し、面をもっておわる。	反転復元
207	竪穴状遺構 2 (5182)	I-3 区	弥生土器 壺(広口)	(22.2)		1.6	口縁部 10 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 7.5YR6/6 橙 外面 7.5YR6/6 橙	緩やかに外反する口縁部をもつ。端部は上下に拡張する。	反転復元
208	竪穴状遺構 2 (5182)	I-3 区	弥生土器 壺(有段)	(21.6)		2.2	口縁部 14 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 5YR/2 灰白 外面 5YR/2 灰白	内湾気味に立ち上がる有段口縁部で、端部は肥厚し上方に面をつくる。	反転復元
209	竪穴状遺構 2 (5182)	I-3 区	弥生土器 壺		(5.1)	3.0	底部 5 分の 4	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 N5/ 灰 外面 10YR8/3 浅黄橙	平底の底部。内外面ともに磨滅。	
210	竪穴状遺構 2 (5182)	I-3 区	弥生土器 高杯	(26.7)		5.0	杯部 8 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	平坦な杯底部から稜をもって屈曲し、直立気味に伸びる口縁部をもつもの。端部は上方に面を作る。外面はヘラミガキ	反転復元
211	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺(広口)	11.6		3.4	口縁部 4 分の 3	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.4 cm を含む	内面 10YR5/1 褐灰 外面 2.5Y5/1 黄灰	短く外反する頸部から屈曲して伸びる口縁部をもつ。口縁端部は垂下させる。	
212	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺(広口)	(13.9)		4.4	口縁部 6 分の 1 分	長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cm を少量含む	内面 2.5Y7/3 浅黄 外面 2.5Y7/3 浅黄	短く外反する頸部から広がる口縁部をもつ。口縁端部は上下に拡張し面を作る。	
213	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺(広口)	(13.7)		7.1	口縁部 2 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 5YR7/4 にぶい橙	頸部から屈曲し、短く外反する口縁部をもつ。口縁部端部は上方に拡張する。頸部内面はユビオサエ。	反転復元
214	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺 (細頸広口)	10.1	5.5	23.2	ほぼ完形	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.5 cm を含む	内面 2.5Y3/1 黒褐 外面 2.5Y8/2 灰白	短く立ち上がる頸部から緩やかに広がる口縁部をもつ。体部外面は横方向のヘラミガキ。底部外面はヘラケズリ。内面は縦方向のナデ。頸部内面はヨコナデ。底部側面を穿孔する。	
215	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺 (広口細頸)	(14.1)		1.7	口縁部 3 分の 2	チャート、長石、片岩 φ 0.3 ～ 0.4 cm を含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもつ。口縁端部は垂下させ面を作る。端部には凹線文 3 条を施す。	
216	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺 (広口細頸)	(14.6)		6.1	口縁部 3 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙 外面 7.5YR7/3 にぶい橙	ゆるやかに広がる口縁部をもち、端部は垂下させる。頸部に櫛描文簾状文を施す。頸部内面はナデ。	
217	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺(細頸)	頸部径 (7.4)		10.4	頸部 2 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 7.5YR7/3 にぶい橙 外面 5YR7/4 にぶい橙	細頸壺の頸部。頸部外面に凹線文 6 条、櫛描簾状文をほどこす。	反転復元
218	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺		6.4	17.1	底体部 4 分の 3	チャート、長石 φ 0.2 cm を含む	内面 N4/ 灰 外面 7.5YR7/3 にぶい橙	体部が算盤玉形に張り出すもの。頸部以下櫛描直線文、櫛描波状を交互に施すもの。底部外面は縦方向のヘラミガキ。底部側面に穿孔を行う。	反転復元
219	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺		6.0	19.6	底体部 4 分の 3	チャート、長石 φ 0.2 cm を含む	内面 N4/ 灰 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	体部が算盤玉形に張り出すもの。頸部以下櫛描直線文、櫛描波状を交互に施すもの。底部外面は縦方向のヘラミガキ。底面に穿孔を行う。	
220	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺 (大形細頸)	(18.2)		4.6	口縁部 8 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 cm を多く含む	内面 5YR6/6 橙 外面 5YR6/6 橙	内湾気味に立ち上がる口縁部をもち、口縁端部は内側に肥厚し、上方に面を作る。口縁部に凹線 4 条をもつ。	
221	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺(有段)	(21.7)		5.5	口縁部 3 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cm を多く含む	内面 7.5YR8/6 淡黄橙 外面 5YR7/6 橙	外傾気味に伸びる有段口縁をもつもの。外面はナデ。	反転復元
222	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺(有段)	(28.9)		10.7	口縁部 6 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 cm を含む	内面 7.5YR7/3 にぶい橙 外面 5YR7/4 にぶい橙	頸部から大きく外反する一次口縁部をもち、内傾気味に伸びる二次口縁をもつもの。口縁端外面は斜め方向のハケ。	反転復元
223	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺(有段)	(31.6)		7.0	口縁部 12 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 2.5Y7/2 灰黄	有段口縁をもつ。端部上端に面をつくる。外面は端部をヘラで刻み、段の外面は櫛描斜格子文を施す。	反転復元
224	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺(有段)	(33.3)		17.4	口縁部 5 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.5 cm を含む	内面 5YR6/6 橙 外面 5YR5/6 明褐色	頸部から大きく外反する一次口縁部をもち、内傾気味に伸びる二次口縁をもつもの。口縁端外面は斜め方向のヘラミガキ。頸部には貼り付け突帯の剥離がみられる。	反転復元
225	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺			7.8	肩部 6 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を多く含む	内面 7.5YR8/4 浅黄橙 外面 5YR7/4 にぶい橙	体部外面に櫛描直線文 4 条を施すもの。体部内面はナデ。	
226	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺	9.0		4.4	底部 2 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 cm を含む	内面 2.5Y6/1 黄灰 外面 2.5Y7/2 灰黄	平底の底部をもち、内面はハケ、ナデ。	反転復元
227	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 壺		(8.2)	6.6	底部 3 分の 2	チャート φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR5/1 褐灰 外面 10YR5/1 褐灰	外面縦方向のヘラミガキ、内面はナデ、ハケ。	反転復元
228	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 高杯 (水平口縁)	24.0		4.5	口縁部 完形	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.5 cm を多く含む	内面 5YR7/4 にぶい橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	水平に屈曲する口縁部をもつもの。口縁端部は垂下させ凹線 1 条を施す。外面は縦方向のヘラミガキ。	
229	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 高杯	頭部径 (4.6)		5.4	脚頭部 3 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.4 cm を含む	内面 N3/ 暗灰 外面 2.5Y8/2 灰白	高杯脚部。杯底部は円盤充填が剥離する。	反転復元
230	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 甕	(13.0)		3.3	口縁部 6 分の 1	チャート、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 5YR7/6 橙 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	くの字に短く外折する口縁部をもち、端部には凹線を施す。体部外面は水平タタキ。	反転復元
231	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 甕	(14.7)		5.4	口縁部 8 分の 1	チャート、赤色斑 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 2.5Y6/2 灰黄 外面 10YR5/1 褐灰	くの字に屈曲する口縁部をもち、端部は面を作る。体部外面は水平タタキのちタテハケ。	反転復元
232	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 甕		(10.6)	5.4	底部 8 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.4 ～ 0.5 cm を含む	内面 5YR6/4 にぶい橙 外面 2.5Y7/2 灰黄	横方向に突出する底部をもつ。外面は縦方向のヘラケズリ。	反転復元
233	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 甕	(12.5)		10.9	口縁部 4 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cm を多く含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 2.5Y6/2 灰黄	くの字に短く外折する口縁部をもち、端部には凹線を施す。体部外面はタタキ、下半部はヘラケズリ。内面ユビオサエ。	反転復元
234	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 甕	(6.6)		5.1	底部 2 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 cm を少量含む	内面 N4/ 灰 外面 10YR5/1 褐灰	突出した底部。外面は縦方向のヘラケズリ。内面は板ナデ。	反転復元
235	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 甕	(15.8)		5.0	口縁部 6 分の 1	チャート、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	くの字に屈曲する口縁部をもち、端部は面を作る。体部外面は水平タタキ。	反転復元
236	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 甕	17.4		10.7	口縁部 8 分の 3	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 2.5Y8/2 灰白、10YR8/2 灰白 外面 2.5Y8/2 灰白、2.5Y5/1 黄灰	くの字に外反する口縁部をもち、端部は上方に拡張し凹線文を施す。体部は水平タタキのちタテハケ、内面はタテハケ。	反転復元
237	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 甕	(30.5)		38.4	口縁部 4 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を多く含む	内面 7.5YR7/3 にぶい橙 外面 2.5Y7/3 灰黄	くの字に外反する口縁部をもち胴部は長胴気味。外面はタテ方向～ナナメ方向のハケ。	反転復元
238	方形周溝墓 1 (5269)	I-3 区	弥生土器 台付甕		(6.0)	15.4	体部 2 分の 1	チャート。長石 φ 0.1 ～ 0.5 cm を多く含む	内面 2.5GY4/1 暗オリーブ 外面 7.5YR6/4 にぶい橙	大きく張り出す台をもつもの。ユビオサエにより台部を成形する。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	反転復元
239	方形周溝墓 1 (5269) SK1 (5368)	I-3 区	弥生土器 壺(直口)	12.8		23.7	口縁部 8 分の 3	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y6/2 灰黄、2.5Y7/3 浅黄 外面 2.5Y7/1 灰白、2.5Y7/2 灰黄	直立気味に伸びる口縁部をもつもの。端部は内外に拡張し面をもつ。体部外面は縦方向のハケ。	反転復元
240	方形周溝墓 2 (5268)	I-3 区	弥生土器 壺(直口)	8.2		25.1	口縁部 完形	チャート、長石 φ 0.2 cm を多く含む	内面 2.5Y8/2、7/1 灰白 外面 2.5Y8/2 灰白、N3/ 暗灰	細頸の頸部をもち直立気味に伸びるもの。頸部には突帯を施す。頸部から肩部にかけて櫛描直線文 3 条を施す。内面は頸部は絞り痕とユビオサエが残る。	反転復元

241	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 壷(広口)	(12.7)		3.9	口縁部 5分の1	長石、片岩φ0.1 ～0.4cmを含む	内面 10YR6/2灰黄褐 外面 10YR6/2灰黄褐	短く外反する頸部から広がる口縁部をもつ。口縁端部は上下に拡張し面を作る。	
242	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 壷(広口)	(15.3)		5.5	口縁部 8分の1	チャート、赤色斑 粒φ0.1～0.2cm を含む	内面 5Y6/1灰 外面 10YR7/3にぶい黄橙	緩やかに外反する口縁部をもち端部は上下に拡張する。	反転復元
243	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 壷(直口)	(19.1)		8.2	口縁部 6分の1	チャート、長石φ 0.3～0.4cmを含む	内面 7.5YR7/4にぶい橙 外面 10YR7/4にぶい黄橙	直立気味にたちあがる頸部をもち、口縁部は内側に内湾する。口縁部下に凹線文4条を施す。	反転復元
244	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 壷(有段)	(23.6)		4.1	口縁部 10分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y8/3淡黄 外面 2.5Y8/3淡黄	有段の口縁部をもつ。外面に凹線文4条を施す。	反転復元
245	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 壷(広口)	(24.4)		2.3	口縁部 10分の1	チャート、赤色斑 粒φ0.1～0.2cm を含む	内面 7.5YR7/4にぶい橙 外面 10YR8/4浅黄橙	大きく広がり端部を上下に拡張するもの。口縁部上端面には櫛状工具による刺突文を施す。	
246	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 水差(把手)			9.5	把手 10分の9	長石φ0.2cmを少 量含む	内面 7.5YR8/2灰白 外面 7.5YR8/2灰白	水差形土器の把手。ユビオサエが顕著に残る。	
247	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 壷		7.7	2.6	底部 10分の7	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/1灰白 外面 10YR8/3浅黄橙	平底をもつ。壷の底部。外面は縦方向のヘラミガキ。内面はユビオサエ。	反転復元
248	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 壷		(5.8)	5.0	底部 2分の1	長石、片岩、赤色 斑粒φ0.1～0.2 cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 2.5Y7/3浅黄	平底の底部を持ち外面は縦方向のヘラミガキ。	
249	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 壷		6.2	4.0	底部 3分の2	長石φ0.3～0.5 cm チャート、赤 色斑粒φ0.2cmを 含む	内面 2.5Y5/1黄灰 外面 10YR8/3浅黄橙	平底の底部をもつ。内外面ともに磨滅。	反転復元
250	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 高杯(椀形)	(19.5)		8.4	杯部 3分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.3～ 0.4cmを含む	内面 2.5Y8/2灰白 外面 2.5Y7/2灰黄	椀形を呈する杯部をもつ。外面はユビオサエののち縦方向のヘラミガキ。杯部の接合は円盤充填による。	反転復元
251	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 高杯(椀形)	18.8	5.5	15.0	口縁部 2分の1	チャート、長石、 石英、金雲母φ0.1 ～0.3cmを含む	内面 7.5YR7/3、7/4にぶい橙 外面 7.5YR6/4にぶい橙、10YR5/2灰黄褐	椀形の杯部をもつもの。脚部はハの字に広がる。口縁端部は上方に櫛描直線文2条、杯部下半はヘラミガキ。	反転復元
252	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 高杯(椀形)	(26.1)		4.3	口縁部 4分の1	チャート、長石φ 0.2～0.3cmを含む	内面 10YR7/2にぶい黄橙 外面 10YR7/2にぶい黄橙	浅い椀形の杯部をもち端部は上方に面をもち内側に肥厚する。内外面ともに横方向のヘラミガキ。	
253	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 高杯(組曲)	(31.4)		18.3	口縁 3分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.1～ 0.3cmを含む	内面 5YR7/6橙 外面 7.5YR7/6橙	杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもの。屈曲部に櫛描波状文、凹線文3条をもつ。杯下半部はヘラケズリのちヘラミガキ。脚部に6方向の透かし穴をもつ。	反転復元
254	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 高杯		12.5	7.1	脚部 10分の9	チャート、長石φ 0.2～0.3cmを含む	内面 10YR8/2灰白 外面 2.5Y8/2灰白	ハの字に開く裾部をもつ。外面は縦方向のヘラミガキ。内面はヘラケズリ。	
255	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 高杯		(12.8)	8.9	脚部 5分の3	チャート、長石、 片岩φ0.2～0.3 cmを含む	内面 10YR5/2灰黄褐 外面 5YR7/4にぶい橙	直立する柱状部から屈曲し、ハの字に開く裾部をもつ。裾部端部は上下に拡張する。柱状部内面はヘラケズリ。	反転復元
256	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 高杯			8.4	柱状部 4分の3	チャート、長石φ 0.1～0.3cmを含む	内面 10YR7/1灰白 外面 10YR8/3浅黄橙	内面にシボリ痕をもつ中空の柱状部をもつもの。	反転復元
257	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 高杯		(12.1)	6.1	脚裾部 4分の1	チャート、長石、 片岩φ0.2～0.3 cmを含む	内面 2.5Y8/2灰白 外面 10YR8/3浅黄橙	ハの字に開く裾部で、4方向の透かし穴をもつ。裾部端部は上下に拡張する。	反転復元
258	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 器台 (脚台付壷)	(17.8)		5.5	脚部 7分の1	チャート、赤色斑 粒φ0.1～0.2cm を含む	内面 5YR7/6橙 外面 N3/ 暗灰	内湾気味に広がる裾部をもつ。裾部に凹線文を施す。裾部内面はヘラケズリ。	反転復元
259	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 器台 (脚台付壷)		(18.2)	7.7	脚台部 6分の1	チャート、長石、 片岩φ0.1～0.2 cmを含む	内面 7.5YR7/6橙 外面 5YR6/6橙	内湾気味に広がる裾部をもつ。透かし穴は8方向に穿つ。裾部に凹線文を施す。裾部内面はヘラケズリ。	
260	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 鉢	(17.6)		5.0	口縁部 5分の1	チャート、片岩φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/2にぶい黄橙 外面 10YR5/1褐灰	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。	
261	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 鉢	(20.2)		10.3	口縁部 8分の1	チャート、長石φ 0.3cmを含む	内面 7.5YR8/3浅黄橙 外面 10YR6/2灰黄褐	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張するもの。	反転復元
262	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 鉢	(24.1)		4.3	口縁部 10分の1	チャート、長石φ 0.2cmを含む	内面 10YR7/2にぶい黄橙 外面 7.5YR8/2灰白	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張するもの。	反転復元
263	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 鉢	(17.5)		4.4	口縁部 7分の1	チャート、赤色斑 粒φ0.1cmを含む	内面 10YR8/2灰白 外面 10YR8/3浅黄橙	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張するもの。端部に凹線文を施す。	反転復元
264	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 鉢		9.5	7.4	底部 3分の2	チャート、長石、 片岩φ0.3～0.4 cmを多く含む	内面 N4/ 灰 外面 体部10YR8/3浅黄橙、底部N3/ 暗灰	下方に張り出す形態をもつ。外面はヘラケズリ。	反転復元
265	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 甕	(28.6)		7.1	口縁部 6分の1	チャート、赤色斑 粒φ0.2～0.3cm を含む	内面 2.5Y7/4灰白 外面 10YR7/3にぶい黄橙	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張するもの。	反転復元
266	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 甕	(40.0)		6.8	口縁部 8分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.2～ 0.3cmを含む	内面 2.5Y7/2灰黄 外面 2.5Y7/2灰黄	くの字に外反するの口縁部をもち端部は上方に拡張する。外面は水平タタキ。	反転復元
267	方形周溝墓2 (5268)	1-3区	弥生土器 甕	(37.8)		14.2	口縁部 2分の1	チャート、長石、 片岩φ0.2～0.3 cmを含む	内面 5YR7/4にぶい橙 外面 7.5YR7/3にぶい橙	くの字に外反するの口縁部をもち端部は上方に拡張する。外面は左上がり方向のタタキ。	反転復元
268	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 壷 (広口長頸)	(18.1)		2.7	口縁部 8分の1	チャート、長石、 赤色斑粒を含む	内面 2.5Y8/3浅黄 外面 2.5Y8/3浅黄	緩やかに外反する口縁部をもち、端部を垂下させるもの。端部に凹線文5条、円形浮文、上端面は鋸歯状の刺突文を持つ。	
269	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 壷(広口)	(17.8)		7.7	口縁部 5分の4	チャート、長石、片 岩φ0.2cmを含む	内面 10YR6/6明黄褐 外面 10YR7/3にぶい黄橙	緩やかに外反する口縁部をもつ。口縁端部は丸くおさめる。外面はナデ、上端面に櫛による刺突文をもつ。	
270	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 壷 (広口長頸)	(17.3)		3.3	口縁部 8分の1	チャートφ0.2cm を含む	内面 10YR8/3浅黄橙 外面 10YR8/3浅黄橙	緩やかに外反する口縁部をもち、端部は垂下させ櫛描波状文を施す。上端面には櫛による刺突文を施し、穿孔をもつ。	反転復元
271	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 壷(直口)	(12.6)		4.2	口縁部 8分の1	長石φ0.3cmを含む	内面 2.5Y5/1黄灰 外面 2.5Y4/1黄灰	直立気味に開く口縁部をもつ。外面は縦方向のハケののち、櫛描直線文を施す。	反転復元
272	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 壷(広口)	(21.1)		1.6	口縁部 10分の1	チャート、長石φ 0.3cmを含む	内面 2.5Y7/2灰黄 外面 2.5Y7/2灰黄	緩やかに外反するの口縁部をもち、端部は垂下させ櫛描波状文を施す。	
273	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 壷(広口)	(17.9)		7.4	口縁部 8分の1	チャート、長石、片 岩φ0.2cmを含む	内面 10YR7/4にぶい黄橙 外面 7.5YR6/6橙	緩やかに外反するの口縁部をもち、端部は垂下させ刺突文を施す。頸部には櫛描簾状文を2条施す。	反転復元
274	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 壷		(8.0)	3.9	底部 5分の1	チャート、長石、片 岩φ0.3cmを含む	内面 N3/ 暗灰 外面 N3/ 暗灰	平底の底部をもち、外面はユビオサエ。	反転復元
275	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 甕		(4.8)	3.6	底部 4分の1	チャート、長石φ 0.2cmを含む	内面 2.5Y6/1黄灰 外面 N2/ 黒、2.5Y8/3浅黄	平底の底部をもち、外面ヘラケズり。	反転復元
276	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 高杯 (水平口縁)	(12.2)		4.5	口縁部 10分の1	チャート、長石、片 岩φ0.2cmを含む	内面 2.5Y7/4浅黄 外面 2.5Y7/4浅黄	水平に屈曲する口縁部をもち、口縁端部はわずかに垂下する。口縁部内面の突帯は内傾きに突出する。	反転復元
277	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 高杯		(13.3)	3.3	裾部 5分の1	チャートφ0.1cm を多く含む	内面 2.5Y8/2灰白 外面 2.5Y8/3淡黄	ハの字に開く裾部をもち、端部は面取り上方に拡張する。内面はヘラケズリ。	反転復元
278	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 回転台形 土器	(12.6)		4.3	口縁部 2分の1	チャート、長石φ 0.2～0.4cmを多 く含む	内面 2.5Y7/3浅黄 外面 2.5Y7/3浅黄	回転台土器。内外面ともにナデ。	
279	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 鉢	(18.4)		3.1	口縁部 6分の1	チャート、長石、 片岩、赤色斑粒φ 0.2cmを含む	内面 7.5YR8/3浅黄橙 外面 10YR7/3にぶい黄橙	くの字に短く外反する口縁部をもつ。体部外面はヘラケズり。	反転復元
280	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 鉢	両面のみ		3.9	口縁部 10分の1	チャート、長石φ 0.2cmを含む	内面 10YR8/2灰白 外面 10Y3/1オリーブ黒	くの字に外反する口縁部をもつ。体部外面はヘラケズり。	
281	方形周溝墓3 (5418)	1-4区	弥生土器 壷		(8.1)	3.0	底部 4分の1	チャート、長石φ 0.2cmを含む	内面 2.5Y6/3にぶい黄 外面 2.5Y5/2暗灰黄	下方へ突出する底部をもつ。外面はヘラミガキ。	反転復元

282	方形周溝墓3 (5418)	I-4区	弥生土器 甕		(5.8)	1.4	底部 4分の1	角閃石、長石φ0.2 ～0.3cmを含む	内面　2.5Y3/1 黒褐 外面　2.5Y3/3 暗オリーブ褐	平底の底部をもつ。	生駒西麓産
283	方形周溝墓3 (5418)	I-4区	弥生土器 甕		(4.8)	2.2	底部 2分の1	チャート、長石φ 0.3cmを含む	内面　N5/　灰 外面　N4/　灰	平底の底部。	反転復元
284	方形周溝墓3 (5418)	I-4区	弥生土器 壺(有段)	(28.3)		3.6	口縁部 10分の1	チャート、片岩φ 0.3cmを含む	内面　7.5YR3/3 にぶい橙 外面　5YR6/6 橙	直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。端部は上方に面をつくる。外面はヘラ描斜格子文を施す。	反転復元
285	方形周溝墓3 (5418)	I-4区	鉢(大型)	(31.1)		7.4	口縁部 8分の1	チャート、長石、片 岩φ0.2cmを含む	内面　2.5Y8/3 淡黄 外面　2.5Y8/3 淡黄	内湾気味に立ち上がり、口縁端部に粘土紐を貼り付け、口縁部突帯とするもの。	反転復元
286	方形周溝墓3 (5418)	I-4区	弥生土器 甕	(25.1)		9.7	口縁部 6分の1	チャート、長石、片 岩φ0.3cmを含む	内面　7.5YR6/4 にぶい橙 外面　10YR4/1 褐灰	くの字に短く外反する口縁部をもつ。端部は上方に拡張する。	
287	方形周溝墓3 (5418)	I-4区	弥生土器 甕(大型)	(30.4)		5.2	口縁部 10分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.2cm を含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR8/3 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもち、端部は上方に拡張するもの。体部外面は水平タタキ。	反転復元
288	方形周溝墓3 (5418)	I-4区	弥生土器 甕(大型)	(28.2)		6.3	口縁部 6分の1	チャート、長石φ 0.2cmを含む	内面　7.5YR8/2 灰白 外面　7.5YR8/4 浅黄橙	くの字に短く外反する口縁部をもつ。体部外面はヘラケズリ。	反転復元
289	方形周溝墓3 (5418)	I-4区	弥生土器 甕(大型)	(28.6)		7.9	口縁部 4分の1	チャート。長石、片 岩φ0.3cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　2.5Y7/2 灰黄	くの字に外反する口縁部をもち、端部は上方に拡張するもの。体部外面は斜めハケ。	
290	土器棺墓1 (5246)	I-3区	弥生土器 壺(広口)			28.4		チャート、長石、 片岩φ0.2～0.3 cmを含む	内面　2.5Y6/2 灰黄 外面　2.5Y6/1 黄灰、2.5Y7/3 浅黄	倒卵形の体部をもつ。外面は胴部下半部は縦方向のヘラミガキを密に施す。肩部にはヘラによる記号文「///」をもつ。内面は縦方向のハケ肩部内面はユビオサエ。	土器棺墓 反転復元
291	土器棺墓1 (5246)	I-3区	弥生土器 甕	35.0	8.7	47.5	5分の3	チャート、長石、片 岩、赤色斑粒φ0.2 ～0.3cmを含む	内面　5Y8/6 黄～2.5Y4/1 黄灰 外面　2.5Y8/3 淡黄	くの字に短く外反する口縁部をもち、口縁端部は上下に拡張する。体部上半は板ナデ。体部下半から底部にかけてヘラケズリ。底部は突出し底部側面をユビオサエ。	反転復元
292	土器棺墓4 (5479)	I-4区	弥生土器 壺(広口)	29.0	7.0	42.5	全体の 10分の7	角閃石、長石、金 雲母φ0.2～0.3 cmを含む	内面　10YR6/4 にぶい黄橙 外面　10YR6/4 にぶい黄橙、N3/　暗灰	緩やかに広がる口縁部をもち端部を垂下させるもの。口縁部～頸部にかけて櫛描羽状文10条を施す。胴部下半は横方向の分割ヘラミガキ。	生駒西麓産 反転復元
293	土器棺墓4 (5479)	I-4区	弥生土器 壺	体部径 (31.7)		30.7	肩部 4分の1	片岩φ0.2～0.8 cm、チャート、長 石φ0.1～0.2cm を含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y7/3 浅黄	やや肩が張る体部をもつ。外面は縦方向のヘラミガキを密に施し、肩部にはヘラ状の工具により「/」が残る。内面はユビオサエ。	反転復元
294	土器棺墓4 (5479)	I-4区	弥生土器 壺(広口)		(7.1)	15.5	体部 3分の1	角閃石、長石φ0.1 ～0.8cmを含む	内面　10YR6/2 にぶい黄橙 外面　2.5Y3/1 黒褐	平底の底部をもつ。底部外面は横方向の分割ヘラミガキ。底部側面はユビオサエ。	生駒西麓産 反転復元
295	土器棺墓5 (5491)	I-4区	弥生土器 壺(広口)	(17.0)		5.0	口縁部 4分の1	チャート、片岩、 赤色斑粒φ0.3～ 0.5cmを含む	内面　2.5Y7/2 灰黄、10YR8/3 浅黄橙 外面　2.5Y7/2 灰黄、10YR8/3 浅黄橙	緩やかに外反する口縁部をもつもの。	反転復元
296	土器棺墓5 (5491)	I-4区	弥生土器 壺		8.8	7.2	底部 6分の1	チャート、長石、片 岩、石英φ0.3～0.5 cmを多く含む	内面　2.5Y6/1、5/1 黄灰、2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y6/1、5/1 黄灰、2.5Y7/2 灰黄	平底の底部をもち外面はユビオサエ。内面は磨滅のため不明。	反転復元
297	土器棺墓3 (5325)	I-3区	弥生土器 壺(広口)	20.8	7.6		口縁 3分の2	チャート、長石φ 0.2cmを多く含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　2.5Y8/2 灰白	緩やかに広がる口縁部をもち端部は上下に拡張させる。外面は磨滅により不明。内面はナデ。平底の底部をもつ。	
298	土器棺墓2 (5247)	I-3区	弥生土器 壺(広口)	(16.4)	6.0	30.8	口縁部 4分の1	チャート、長石φ 0.1～0.3cmを少 量含む	内面　2.5Y5/1 黄灰 外面　2.5Y7/4 浅黄	緩やかに広がる口縁部をもち、外端面に櫛描波状文を施す。頸部は櫛描直線文、波状文を施し、下半部はヘラミガキ。	土器棺
299	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 壺(細頸)	(8.2)		14.4	口縁部 16分の1 以下	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.2～ 0.3cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　10YR8/4 浅黄橙、2.5Y6/1 黄灰	細頸の頸部より直立内湾気味に伸びる口縁部をもつ。口縁部下は櫛描簾状文、頸部には櫛描直線文。	反転復元
300	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 壺(細頸)	(9.4)		4.6	口縁部 8分の3	チャート、長石、片 岩、赤色斑粒φ0.2 ～0.4cmを含む	内面　10YR8/2 灰白、7.5YR7/4 にぶい橙 外面　10YR8/2 灰白、5Y5/1 灰	細頸の頸部より直立内湾気味に伸びる口縁部をもつ。口縁部下は櫛描簾状文2条を施す。	反転復元
301	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 壺(細頸)	(10.4)		5.0	口縁部 4分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.2～ 0.3cmを含む	内面　2.5Y7/1 灰白、7.5YR8/4 浅黄橙 外面　2.5Y7/1 灰白、7.5YR8/6 浅黄橙	細頸の頸部より直立内湾気味に伸びる口縁部をもつ。口縁部下は胴突文、回線文3条を施す。	反転復元
302	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 壺(有段)	(23.2)		12.4	口縁部 4分の1	チャート、長石、 片岩φ0.1～0.3 cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙、10YR7/6 明黄褐 外面　10YR7/4 にぶい黄橙、5YR7/4 にぶい橙	有段の口縁部をもち、端部は外傾する面を作る。	反転復元
303	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 壺(広口)	(24.6)		2.95	口縁部 6分の1	チャート、長石、 片岩φ0.1～0.2 cmを含む	内面　7.5YR8/4 浅黄橙、2.5Y8/2 灰白 外面　7.5YR8/4 浅黄橙、2.5Y8/2 灰白	大きく広がる口縁部をもち、端部は下方に垂下させ、凹線文6条、円形浮文を貼り付ける。上端面は櫛描簾状文を施す。	反転復元
304	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 壺(広口)	(24.0)		3.8	口縁部 6分の1	チャート、長石、 片岩φ0.2～0.3 cmを含む	内面　2.5Y5/1 黄灰、10YR6/2 灰黄褐 外面　2.5Y5/1 黄灰、10YR6/2 灰黄褐	くの字に大きく広がる口縁部をもつ。	反転復元
305	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 壺(有段)	(27.2)		7.7	口縁部 6分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.3～ 0.4cmを含む	内面　10YR6/4 にぶい黄橙、10YR8/3 浅黄橙 外面　2.5YR7/3 淡赤橙、7.5YR8/2 灰白	有段の口縁部をもつもの。段の屈曲部には、刻み目を施す。口縁部は強いナデ。ヘラで描かれた文様が残る。絵画土器か？	反転復元
306	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 甕	(23.8)		4.1	口縁部 16分の1 以下	チャート、長石φ 0.2cmを含む	内面　5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙、10YR4/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもつもの。	反転復元
307	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 甕		8.0	6.55	底部 8分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.1～ 0.2cmを含む	内面　5Y5/1 灰よりやや灰 外面　2.5Y8/2 灰白、10YR7/4 にぶい黄橙	平底の底部をもつもの。外面はヘラケズリ。	反転復元
308	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 高杯 (水平口縁)	(29.4)		2.3	口縁部 6分の1	チャート、長石、 片岩φ0.3～0.8 cmを含む	内面　2.5YR6/6 橙 外面　2.5YR6/6 橙	屈曲し水平に伸びる口縁部をもつもの。口縁端部は垂下させる。	反転復元
309	土坑12（5320）	I-3区	弥生土器 壺(無頸)	(22.6)		5.7	口縁部 8分の1	チャート、長石、 片岩φ0.2～0.3 cmを含む	内面　2.5Y5/1 黄灰 外面　7.5YR8/3 浅黄橙	内傾気味に伸びる口縁部をもち、口縁端部に粘土紐を貼り付け、口縁部突帯とするもの。口縁部外面は櫛描簾状文。	反転復元
310	土坑13（5406）	I-4区	弥生土器 甕	(13.5)		4.3	口縁部 6分の1	長石、輝石、金雲 母φ0.1～0.3cm を含む	内面　10YR3/1 黒褐 外面　2.5Y4/1 黄灰	くの字に外反する口縁部をもち、口縁端部は外側に面をもつ。体部は内外面ともにタテハケ。	反転復元
311	土坑13（5406）	I-4区	弥生土器 甕	(15.8)		4.4	口縁部 4分の1	チャート、長石、 片岩φ0.2～0.3 cmを多く含む	内面　10YR6/2 灰黄褐 外面　10YR4/1 褐灰～5YR5/6 明赤褐	くの字に外反する口縁部をもち端部は丸くおさめる。外面は頸部下までヘラケズリ。	反転復元
312	土坑13（5406）	I-4区	弥生土器 甕	(35.9)		5.6	口縁部 8分の1	チャート、赤色斑 粒φ0.2～0.3cm を含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　7.5YR6/6 橙	くの字に外反する口縁部をもち、外側に面をもつ。	反転復元
313	土坑13（5406）	I-4区	弥生土器 甕	(21.2)		12.6	口縁部 4分の1	チャート、長石、 片岩、赤色斑粒φ 0.3～0.4cmを多 く含む	内面　5YR6/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	くの字に外折する口縁部をもち端部は面を作る。	反転復元
314	土坑13（5406）	I-4区	弥生土器 高杯 (水平口縁)	(24.7)		5.4	口縁部 4分の3	チャート、長石φ0.1 ～0.2cmを含む	内面　5YR6/8 橙 外面　5YR6/6 橙	屈曲し水平に伸びる口縁部をもつもの。口縁端部は短く垂下させる。杯部は直線的に広がる形態をもつ。	反転復元
315	土坑14（5255）	I-3区	弥生土器 壺(広口)	16.6		9.1	口縁部 3分の2	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.1～ 0.2cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/4 にぶい橙	くの字に大きく開く口縁部をもつ口縁端部は上下に拡張し、面を作る。上端面には2個1対で3方向の紐孔をもつ。	反転復元
316	土坑14（5255）	I-3区	弥生土器 壺(直口)			6.6	口縁部 2分の1	チャート、長石φ0.1 ～0.2cmを含む	内面　N4/　灰 外面　10YR6/2 灰黄褐	頸部から直線的に開く口縁部をもつ。頸部外面は縦方向のハケ。頸部上半には突帯文を施す。	反転復元
317	土坑14（5255）	I-3区	弥生土器 甕	(20.3)		5.7	口縁部 8分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.3～ 0.4cmを含む	内面　5YR6/6 橙 外面　7.5YR6/4 にぶい橙	くの字に外反するロ縁部をもち、口縁端部は上方に拡張する。外面は左上がりのタタキを施す。	反転復元
318	土坑14（5255）	I-3区	弥生土器 甕	(21.9)		23.1	口縁部 3分の1	長石、片岩、赤色 斑粒φ0.2～0.3 cmを多く含む	内面　7.5YR7/3 にぶい橙～7.5YR5/1 褐灰 外面　10YR6/2 灰黄褐	くの字に外反するロ縁部をもち、端部を内側に肥厚し沈線を巡らせる。外面は肩部に水平タタキ、体部は左上がりのタタキ。胴部下半はヘラケズリを施す。	反転復元

319	土坑 15 (5298)	1-3 区	弥生土器 壷(細頸)	(9.2)		10.4	口縁部 5 分の 4	チャート、長石、 片岩 φ 0.2 ～ 0.4 cmを含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	緩くすぼまった頸部から直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。外面は縦方向のヘラミガキ。	
319	土坑 15 (5298)	1-3 区	弥生土器 壷(細頸)		9.8	6.4	底部 5 分の 3	チャート、長石、 片岩 φ 0.2 ～ 0.4 cmを含む	内面　5YR5/6 明赤褐 外面　7.5YR5/4 にぶい褐	突出気味の底部をもち、外面は横方向のヘラミガキを施す。底部は剥離している。	
320	土坑 15 (5298)	1-3 区	弥生土器 壷(広口)	(19.2)		2.1	口縁部 10 分の 1	長石 φ 0.2 cm 角閃石 φ 0.1 cmを 含む	内面　N2/　黒 外面　10YR5/2 灰黄褐	口縁端部は丸く肥厚する。口縁部下はユビオサエを施す。	生駒西麓産 反転復元
321	土坑 15 (5298)	1-3 区	弥生土器 壷(広口)	(18.3)		5.7	口縁部 3 分の 1	長石 φ 0.2 cmを多 く含み、角閃石 φ 0.1 cmを含む	内面　2.5Y3/1 黒褐 外面　2.5Y4/1 黄灰	緩やかに広がる口縁部をもち、口縁端部は丸く肥厚する。口縁部下はユビオサエを施す。	生駒西麓産
322	土坑 15 (5298)	1-3 区	弥生土器 甕	頸部径 (18.5)		5.2	頸部～肩部 8 分の 1	金雲母 φ 0.1 ～ 0.2 cmを多く、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR3/1 黒褐 外面　10YR4/1 褐灰	くの字に外反する口縁部をもち、肩部外面は横方向のヘラケズリ。胎土粗なる。	反転復元
323	土坑 16 (5415)	1-4 区	弥生土器 壷	(16.4)		2.1	口縁部 7 分の 1	チャート、長石、 赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10YR4/2 灰黄褐 外面　7.5YR5/2 灰褐	ハの字に大きく開く形態をもつ。外面はヘラケズリ、内面はヨコハケ。	反転復元
324	土坑 16 (5415)	1-4 区	弥生土器 甕	(16.5)		3.4	口縁部 5 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y4/6 赤褐 外面　2.5Y5/6 明赤褐	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は面作りおわる。肩部外面はヘラケズリを施す。	反転復元
325	土坑 16 (5415)	1-4 区	弥生土器 甕		(5.8)	1.9	底部 2 分の 1	チャート、長石、 赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　7.5YR6/3 浅黄橙 外面　N3/　暗灰	平底の底部をもつ甕。底部側面はユビオサエ。	反転復元
326	土坑 16 (5415)	1-4 区	弥生土器 高杯		(13.9)	5.9	脚部 6 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 cmを含む	内面　10YR6/6 赤褐 外面　10YR4/1 褐灰	ハの字形に円錐状に開く脚部をもつ。外面は回線文 3 条を施す。	反転復元
327	土坑 17 (5331)	1-3 区	弥生土器 壷		(4.8)	1.4	底部 2 分の 1	長石、金雲母 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　5Y3/1 オリーブ黒 外面　10YR3/1 黒褐	平底の底部から大きく広がる形態をもつ。内外面は磨滅。	反転復元
328	土坑 18 (5177)	1-3 区	弥生土器 壷(広口壷)	(20.3)		6.5	口縁部 5 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　5YR7/6 橙 外面　10YR8/4 浅黄橙	大きく広がる口縁部をもち、口縁端部は垂下させる。頸部に櫛描波線文を施す。	反転復元
329	土坑 18 (5177)	1-3 区	弥生土器 壷		(8.4)	3.5	底部 6 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10R6/4 にぶい赤橙 外面　10R6/4 にぶい赤橙	平底の底部をもつもの。内外面ともに磨滅。	反転復元
330	土坑 18 (5177)	1-3 区	弥生土器 壷		(7.9)	4.5	底部 2 分の 1	チャート、長石、 金雲母 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR6/3 にぶい黄橙 外面　10YR5/2 灰黄褐～ 2.5YR6/6 橙	平底の底部をもつ。外面はヘラミガキ、内面はユビオサエ、ナデ。	大和 反転復元
331	土坑 18 (5177)	1-3 区	弥生土器 甕	(10.6)		2.8	口縁部 5 分の 1	長石、金雲母 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR6/4 にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。体部外面はヘラケズリ。	
332	土坑 18 (5177)	1-3 区	弥生土器 甕		(5.8)	6.3	底部 3 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	下方に張り出す底部をもつ。底部側面はユビオサエ。底部内面はユビオサエ。	反転復元
333	土坑 19 (5417)	1-4 区	弥生土器 壷(広口)	(22.7)		1.9	口縁部 8 分の 1	チャート、赤色斑 粒 φ 0.2 cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	くの字に短く外反する口縁部をもつ。端部は上下に拡張する。	反転復元
334	土坑 19 (5417)	1-4 区	弥生土器 甕	(24.2)		9.2	口縁部 6 分の 1	チャート、長石、片 岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを多く含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　5YR7/4 にぶい橙	くの字に短く外反する口縁部をもつ。端部は上方に拡張する。端部に凹線文 1 条を施す。	反転復元
335	土坑 19 (5417)	1-4 区	弥生土器 甕		(7.9)	2.4	底部 4 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 cmを含む	内面　10YR6/3 にぶい黄橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	平底の底部。内面はユビオサエ。	反転復元
336	土坑 30 (5481)	1-4 区	弥生土器 甕	(15.4)		3.6	口縁部 8 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　5Y6/1 灰、2.5Y7/2 灰黄 外面　10YR7/3 にぶい黄橙、10YR6/2 灰黄褐	くの字に短く外反する口縁部をもつ。肩部外面はヘラケズリ。内面は板ナデ。	反転復元
337	土坑 20 (5481)	1-4 区	弥生土器 甕	(14.6)		3.75	口縁部 8 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y5/1 黄灰、2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y4/1 黄灰、10YR6/2 灰黄褐	くの字に短く外反する口縁部をもつ。肩部外面はヘラケズリ。内面は板ナデ。	反転復元
338	土坑 20 (5481)	1-4 区	弥生土器 甕	(16.0)		5.0	口縁部 12 分の 1	チャート、長石、片 岩 φ 0.4 cmを含む	内面　10YR8/2 灰白、5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/6 橙	くの字に外反する口縁部をもち、端部は上方に拡張する。頸部内面はユビオサエ。	反転復元
339	土坑 20 (5481)	1-4 区	弥生土器 甕	(18.0)		4.5	口縁部 16 分の 1	片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙、2.5Y6/1 黄灰	くの字に外反する口縁部をもつもの。	反転復元
340	土坑 20 (5481)	1-4 区	弥生土器 甕		(6.6)	2.4	底部 8 分の 1	長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5YR6/2 灰赤 外面　5YR7/4 にぶい橙、2.5Y4/1 黄灰	平底の底部をもち、外面は板ナデ。	反転復元
341	土坑 21 (5434)	1-4 区	弥生土器 壷(広口)	(13.3)		3.5	口縁部 10 分の 1	長石 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　7.5YR6/6 橙	緩やかに広がる頸部をもち、口縁端部を上下に拡張するもの。	反転復元
342	土坑 21 (5434)	1-4 区	弥生土器 甕	(15.0)		6.3	口縁部 6 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR5/1 褐灰 外面　10YR7/1 灰白	くの字に外反する口縁部をもち、端部を上方に拡張するもの。外面は縦方向のハケ、内面は板ナデ、ユビオサエ。	反転復元
343	土坑 22 (5407)	1-4 区	弥生土器 壷(細頸)	(14.9)		4.3	口縁部 10 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　10YR8/2 灰白	細頸の頸部から内湾直立する口縁部をもつ。口縁部下には凹線文 4 条、櫛描簾状文を施す。	反転復元
344	土坑 22 (5407)	1-4 区	弥生土器 高杯	頸部径 5.2		5.4	頸部付近 10 分の 7	チャート、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　5YR8/3 淡橙 外面　7.5YR7/2 明褐灰	短く立ち上がる柱状部から大きく広がる裾部をもつ。柱状部はナデにより面取り。	反転復元
345	土坑 23 (5480)	1-4 区	弥生土器 甕	(14.0)		5.5	口縁部 8 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10YR6/2 灰黄褐 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	くの字外反する口縁部をもち外側に面をもちおわる。内面はナナメハケ。	反転復元
346	土坑 23 (5480)	1-4 区	弥生土器 甕	(16.2)		6.4	口縁部 4 分の 1	チャート、長石、片 岩 φ 0.2 cmを含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　10YR5/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもち、端部は上方に拡張し凹線文を施す。外面は水平タタキのちタテハケ	反転復元
347	土坑 23 (5480)	1-4 区	弥生土器 高杯			3.1	杯底部 4 分の 1	片岩、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cmを多 く含む	内面　5YR7/6 橙 外面　2.5YR6/4 にぶい橙	中空の柱状部をもち杯底部に円盤を充填するもの。内外面ともに磨滅。	反転復元
348	土坑 24 (5533)	1-4 区	弥生土器 甕	(20.8)		4.2	口縁部 18 分の 1	長石、金雲母 φ 0.2 cmを含む	内面　7.5YR5/1 褐灰 外面　5YR5/6 明赤褐	くの字に短く外反する口縁部をもち、体部外面は横方向のヘラケズリ。	反転復元
349	土坑 25 (5524)	1-4 区	弥生土器 甕	(16.4)		7.4	口縁部 8 分の 1	長石、一片岩、赤 色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR5/2 灰黄褐 外面　7.5YR4/1 褐灰	くの字に外反する口縁部をもつ。外面は左上がりのタタキ、内面はハケ、ユビオサエ。	反転復元
350	土坑 25 (5524)	1-4 区	弥生土器 甕	(14.4)		10.6	口縁部 6 分の 1	長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　10R6/4 にぶい赤橙 外面　2.5YR6/4 にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は上方に拡張し凹線文を施す。外面は左上がりのタタキ。	反転復元
351	土坑 25 (5524)	1-4 区	弥生土器 甕	(15.4)		13.6	口縁部 2 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR6/2 灰黄褐	くの字に短く外反する口縁部をもつ。外面は左上がりのタタキ。内面はユビオサエ。	反転復元
352	土坑 25 (5524)	1-4 区	弥生土器 小型鉢	(9.6)		4.8	口縁部 3 分の 1	長石、金雲母 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR4/2 灰黄褐 外面　10YR6/3 にぶい黄橙	椀形の体部をもち、端部を短く外反させ口縁部とする。外面はヘラミガキ、底部は板ナデ。	反転復元
353	土坑 26 (5522)	1-4 区	弥生土器 甕	(18.6)		6.6	口縁部 10 分の 1	長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10YR4/2 灰黄褐 外面　10YR4/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもち、端部は上方に拡張する。	
354	土坑 26 (5522)	1-4 区	弥生土器 甕		(9.0)	2.3	底部 3 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	平底の底部をもつ甕。底部外面はナデ。	反転復元
355	土坑 26 (5522)	1-4 区	弥生土器 甕	(29.9)		6.3	口縁部 6 分の 1	チャート、片岩 φ 0.3 cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/6 橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。口縁端部は上方に拡張し面を作る。内外面ともに磨滅により不明。	
356	土坑 27 (5489)	1-4 区	弥生土器 甕	(19.0)		10.4	口縁部 8 分の 1	長石、片岩 φ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y8/2 灰白、2.5Y5/2 暗灰黄 外面　10YR4/1 褐灰、10YR8/3 浅黄橙	くの字に短く外反する口縁部をもつ。外面は斜め方向のハケ、下半部はヘラケズリ。	反転復元
357	土坑 27 (5489)	1-4 区	弥生土器 甕	(13.4)		7.4	口縁部 6 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR4/1 褐灰～ 10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR6/1 褐灰	くの字に短く外反する口縁部をもち、端部は丸くおさめる。外面はヘラケズリ。内面は板ナデ。	反転復元
358	土坑 27 (5489)	1-4 区	弥生土器 壷		15.0	3.0	底部 8 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y5/1 黄灰 外面　10YR8/3 浅黄橙	平底の底部をもつ。底部径は大きく、大型の壷底部と考えられる。	反転復元
359	土坑 28 (5129)	1-3 区	弥生土器 壷	(16.8)		5.8	口縁部 6 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	頸部が直立気味に立ち上がり、大きく広がる口縁部をもつもの。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元

360	土坑 29 (5435)	I-4 区	弥生土器 甕	(34.4)		5.0	口縁部 12 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 2.5Y7/3 浅黄 外面 7.5YR7/3 にぶい橙	くの字に外反し口縁端部は面をもち、沈線を施すもの。外面はヘラケズリ。	反転復元
361	土坑 30 (5410)	I-4 区	弥生土器 高杯(脚部)	(21.4)		6.3	口縁部 8 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 10YR8/2 灰白	杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもの。屈曲部に凹線文 6 条をもつ。	反転復元
362	土坑 31 (5409)	I-4 区	弥生土器 壺(無頸)	(19.6)		3.6	口縁部 8 分の 1	チャート、長石、 赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面 10R6/6 赤褐 外面 10R5/6 赤	口縁部を折り返し段状の口縁部をもつもの。口縁部下は櫛描簾状文を施す。	反転復元
363	土坑 31 (5409)	I-4 区	弥生土器 壺		(12.4)	2.1	胴部破 6 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 7.5YR7/3 にぶい橙 外面 10YR6/1 褐灰	ハの字に開く裾部をもつ。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
364	土坑 32 (5504)	I-4 区	弥生土器 甕		7.3	8.1	底部 5 分の 3	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.5 cmを含む	内面 10YR7/4 にぶい黄橙 外面 5YR6/4 にぶい橙～底部 N3/ 暗灰	平底の底部から外上方に伸びる口縁部をもつ。底部は平底。外面はヘラケズリ，内面は板ナデ。	反転復元
365	土坑 33 (5432)	I-4 区	弥生土器 甕		(6.1)	3.1	底部 2 分の 1	チャート、赤色斑 粒 φ 0.3 ～ 0.4 cm を含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 2.5YR7/4 淡赤橙	平底の底部をもつ。底部内外面は板ナデ。	反転復元
366	ピット 4 (5150)	I-4 区	弥生土器 甕	(19.5)		7.2	口縁部 10 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 10YR7/4 にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。	反転復元
367	ピット 5 (5509)	I-4 区	弥生土器 甕	(11.8)		5.5	口縁部 4 分の 1	チャート、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面 7.5YR7/6 橙～ N5/ 灰 外面 5YR7/6 橙	くの字に外反する口縁部をもつ。肩部外面はヘラケズリ。	反転復元
368	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 甕 (広口長頸)	(13.3)		2.6	口縁部 8 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 cmを多く含む	内面 7.5YR8/4 浅黄橙 外面 7.5YR7/6 橙	外反する口縁部をもち，端部を上下に拡張するもの。	反転復元
369	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 壺 (広口長頸)	(17.2)		3.6	口縁部 5 分の 1	チャート，長石 φ 0.3 cmを含む	内面 10YR7/4 にぶい黄橙 外面 5YR6/6 橙	外反する口縁部をもち，端部を垂下させるもの。端部に凹線文 5 条を施す。端部内面には刺突文を施し，紐孔をもつ。	
370	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 壺(広口)	(22.5)		8.8	口縁部 3 分の 1	チャート、赤色斑 粒 φ 0.3 ～ 0.4 cm を含む	内面 5YR7/6 橙 外面 5YR6/6 橙	太頸の頸部から広がる口縁部をもつ。口縁端部は外側に面をもち，櫛描波状文を施す。	反転復元
371	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 壺	体部最 大径 (24.6)		14.7	体部 4 分の 1	チャート、長石 φ 0.4 cmを含む	内面 N3/ 暗灰 外面 5YR7/4 にぶい橙	体部が算盤玉形に張り出すもの。頸部以下櫛描直線文 4 条、櫛描波状を施すもの。底部外面は縦方向のヘラミガキ。	
372	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 壺(細頸)	(8.9)		10.1	口縁部 2 分の 2	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.6 cm を少 量含む	内面 5YR7/4 にぶい橙 外面 5YR7/6 橙	内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。口縁部に凹線 5 条をもち、頸部に櫛描波状文、肩部に櫛描直線文 3 条を施す。	反転復元
373	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 壺(有段)	(13.2)		11.3	口縁部 3 分の 1	チャート、長石、 石英 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面 10YR4/1 褐灰 外面 7.5YR5/6 明褐	直立気味に開き、口縁部は緩やかな段をもつ。端部は外側に引き出し、上方に面をもつ。口縁部外面は凹線文。	反転復元
374	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 壺		(6.1)	1.9	底部 5 分の 1	チャート、長石、片 岩 φ 0.2 cmを含む	内面 5Y7/1 灰白 外面 N3/ 暗灰	平底の底部。内外面ともにナデ。	
375	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 壺		8.0	1.8	底部 5 分の 4	チャート、長石、片 岩 φ 0.4 cmを含む	内面 5YR7/4 にぶい橙 外面 10YR5/4 にぶい黄褐	平底の底部。内面はユビオサエ。	反転復元
376	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 壺		(5.1)	7.0	底部 5 分の 1	チャート φ 0.1 ～ 0.3 cmを多く含む	内面 N3/ 暗灰 外面 10YR5/2 灰黄褐	平底の底部をもち，内面はハケ，ナデによる。	反転復元
377	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 台付鉢	(26.6)		11.9	口縁部 3 分の 1	チャート φ 0.3 ～ 0.5 cmを含む	内面 5Y7/2 灰白 外面 2.5Y7/3 浅黄	鉢部中ほどで屈曲し、内傾気味に立ち上がる鉢上半部をもつもの。端部は内外に拡張し、上方に内傾面を作る。外面は櫛描簾状文 2 条を施し。下半部は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
378	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 壺(無頸)	体部 径 (18.2)		7.6	体部 4 分の 1	チャート、片岩 φ 0.1 ～ 0.5 cm を含 む	内面 2.5Y3/1 黒褐 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	算盤玉形の体部をもち、内外面ともに横方向のヘラミガキ。	反転復元
379	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 高杯	柱状部 径 5.1		10.1	柱状部 5 分の 4	長石、輝石 φ 0.1 ～ 0.3 cmを多く含む	内面 脚部 N3/ 暗灰、脚部 2.5Y3/1 黒褐 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	柱実の脚部をもつもの。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
380	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 高杯	柱状部 径 4.6		7.2	柱状部 5 分の 4	チャート、長石 φ 0.2 cm～を含む	内面 4/ 灰 外面 10YR4/3 にぶい黄褐	外面は縦方向のヘラミガキ，内面はシボリ痕をもつ。	反転復元
381	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 高杯		(11.7)	4.1	裾部 4 分の 1	チャート，長石 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面 5YR7/6 橙 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	ハの字に開く裾部をもち端部は面作り上方に拡張する。	反転復元
382	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 甕	(15.8)		4.1	口縁部 6 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 cmを含む	内面 N3/ 暗灰 外面 5YR7/4 にぶい橙	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。	反転復元
383	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 甕	(14.0)		4.8	口縁部 4 分の 3	チャート，長石 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 2.5Y6/2 灰黄 外面 10YR5/2 灰黄褐	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。	
384	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 甕	(15.7)		4.8	口縁部 4 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 2.5Y5/2 暗灰黄 外面 10YR4/2 灰黄褐	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。口縁部はナデ。	
385	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 甕	(13.9)		6.6	口縁部 3 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 5BG4/1 暗青灰 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に外折し、口縁端部に面をもち凹線文を施すもの。肩部外面は縦方向のハケ。	反転復元
386	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 甕	(15.9)		5.9	口縁部 5 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 cmを含む	内面 2.5Y7/3 浅黄 外面 10YR5/3 にぶい黄褐	くの字に短く外折し、口縁端部に面をもつもの。肩部外面はハケ。	
387	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 甕	(13.6)		7.7	口縁部 4 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 7.5YR7/6 橙 外面 10YR4/1 褐灰	くの字に短く外折する口縁部をもち、端部は上方に拡張し凹線を施す。外面はタテ方向のハケを施す。	反転復元
388	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 甕		(6.0)	2.5	底部 2 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 cmを含む	内面 7.5YR4/4 褐 外面 7.5YR4/3 褐	平底の底部。内外面ともにナデ。	反転復元
389	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 甕	(13.0)		8.4	口縁部 3 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 7.5YR5/3 にぶい褐	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面はタテハケのちナデ、内面はユビオサエ。	
390	溝 13 (5258)	I-3 区	弥生土器 甕	(14.0)		14.5	口縁部 8 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 2.5Y4/1 黄灰	くの字に短く外折する口縁部をもち、端部は面をつくる。外面は斜め方向のハケを施す。	反転復元
391	溝 14 (5200)	I-3 区	弥生土器 高杯 (水平口縁)	(15.9)		1.8	口縁部 10 分の 1 以下	チャート φ 0.2 cm、 片岩 φ 0.1 ～ 0.4 cmを含む	内面 7.5YR7/3 にぶい橙 外面 7.5YR7/3 にぶい橙	水平に屈曲する口縁部をもち，端部は幅広の面をもち櫛描波状文を施す。受け部の突出は明瞭である。	反転復元
392	溝 14 (5200)	I-3 区	弥生土器 甕	(15.9)		3.3	口縁部 6 分の 1	角閃石、長石 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面 2.5Y3/1 黒褐 外面 10YR3/3 暗褐	くの字に外反する口縁部をもつ。	生駒西麓産 反転復元
393	溝 14 (5200)	I-3 区	弥生土器 壺		(8.4)	4.1	底部 2 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面 7.5YR6/4 にぶい橙 外面 5YR5/3 にぶい赤褐	平底の底部をもち，外面は左上タタキをもつ。	反転復元
394	溝 14 (5200)	I-3 区	弥生土器 壺(大型)		11.9	6.6	底部 10 分の 9	チャート，長石、 片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cmを多く含む	内面 10YR6/6 明黄褐 外面 2.5Y5/2 暗灰黄	大型で平底の底部。外面は横方向のヘラケズリ。内面はヨコハケのちヘラミガキ。	反転復元
395	溝 15 (5112)	I-3 区	弥生土器 甕		(6.1)	2.1	底部 4 分の 1	角閃石、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面 2.5Y6/2 灰黄 外面 7.5YR4/2 灰褐	直立気味に立ち上がる底部をもつ。底部外面はナデ。	反転復元 生駒西麓産
396	溝 16 (5420)	I-4 区	弥生土器 甕		(9.0)	4.5	底部 2 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面 2.5Y7/1 灰白 外面 2.5Y7/2 灰黄～ 7.5YR7/3 にぶい橙	下方に張り出す底部をもつ。	反転復元
397	溝 16 (5420)	I-4 区	弥生土器 甕	(35.4)		6.9	口縁部 16 分の 1	チャート、長石、 片岩 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 10YR4/1 褐灰 外面 10YR6/1 褐灰	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は上下に拡張し縦方向の刻み目を施す体部外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
398	溝 17 (5367)	I-4 区	弥生土器 甕	(14.4)		3.8	口縁部 4 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 5YR6/4 にぶい橙 外面 10YR4/2 灰黄褐	わずかに外反する口縁部をもつ。肩部外面はヘラケズリ。	反転復元
399	溝 17 (5367)	I-4 区	弥生土器 甕	(16.0)		6.4	口縁部 6 分の 1	チャート、片岩 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 7.5YR3/1 黒褐	短く外反する口縁部をもつ端部は丸くおさめる。肩部外面は縦方向のヘラケズリ。内面は板ナデ。	反転復元
400	自然流路 8 (5180)	I-4 区	弥生土器 壺 (広口細頸)	12.2		5.4	口縁部 5 分の 4	チャート、長石、 輝石 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙 外面 10YR6/2 灰黄褐	緩やかに外反する口縁部をもち，端部を上下に拡張し外面には櫛描波状文を，上端面には櫛による刺突文を施す。	

401	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺 (広口細頸)			4.5	肩部の 4分の1	チャート、長石φ 0.2㎝を含む	内面　10YR7/3にぶい黄橙 外面　2.5Y7/4 浅黄	頭部に櫛描簾状文3条を施すもの。内面はナデ。	
402	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺 (広口細頸)	(12.7)		6.1	口縁部 10分の9	チャート、長石φ 0.2㎝を多く含む	内面　5YR6/4 にぶい橙 外面　10YR6/3 にぶい黄橙	緩やかに外反する口縁部をもつ。端部は面を作り、上端面に櫛による刺突文を巡らせる。頸部に櫛描直線文をもつ。	反転復元
403	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(広口)	25.0		4.8	口縁部 6分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.1～ 0.2㎝を含む	内面　10YR8/3 浅黄橙、7.5YR7/4 にぶい橙 外面　10YR8/3 浅黄橙、2.5Y6/1、5/1 黄灰	口縁端部は外側に面をもち、櫛描波状文をもつもの。上端部には櫛状工具による鋸歯状の刺突文、縦孔をもつ。	反転復元
404	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 壺(広口)	(30.6)		5.2	口縁部 12分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.2～ 0.3㎝を含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	緩やかに広がる口縁部から口縁端部を垂下させるもの。口縁部上端面には櫛状工具による鋸歯状の刺突を施す。	反転復元
405	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(広口)	(25.4)		5.45	口縁部 8分の1	チャート、長石、 片岩φ0.1～0.3 ㎝を含む	内面　10YR8/3 浅黄橙、7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR8/3 浅黄橙、10YR8/2 灰白	大きく外反する口縁部から端部を上下に拡張する。口縁部端部外面は櫛描波状文。上端面に縦孔をもつ。	反転復元
406	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 壺(広口)	(21.0)		7.4	口縁部 3分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.1～ 0.2㎝を含む	内面　10YR8/3 浅黄橙、5Y5/1 灰 外面　2.5Y7/2 灰黄、7.5YR7/3 にぶい橙	太頸の頸部から外反する口縁部をもつ。端部は上下に拡張し面をもつ。頸部外面はタテハケ。頸部は櫛描簾状文を施す。	反転復元
407	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(広口)	(23.0)		5.8	口縁部 8分の1	チャート、長石、 片岩φ0.1～0.3 ㎝を含む	内面　10YR8/3 浅黄橙、2.5Y8/2 灰白 外面　10YR8/3 浅黄橙、2.5Y8/2 灰白	大きく外反する口縁部をもち口縁端部を上下に拡張するもの。	反転復元
408	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(広口)			8.3	頸部 3分の1	チャート、長石、 片岩φ0.2～0.4 ㎝を多く含む	内面　7.5YR7/3 にぶい橙 外面　5YR6/6 橙	頸部に突帯文2条以上をもち、頸部以下櫛描簾状文4条を施すもの。内面はユビオサエ。	反転復元
409	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(広口)			23.4	頸部 3分の1	チャート、長石、 片岩φ0.3～0.4 ㎝を含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/3 にぶい橙	太頸の頸部をもちなだらかな肩部をもつもの。外面は櫛描簾状文7条、櫛描鋸状文を施す。頸部内面はユビオサエ。	
410	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺 (広口太頸)	(22.0)		7.05	口縁部 4分の1	チャート、長石、片 岩、赤色斑粒φ0.2 ～0.5㎝を含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙、5YR7/6 橙	太頸の頸部から緩やかに広がる口縁部をもつ。端部は上下に拡張し凹線文3条を施す。上端面には鋸歯状の刺突文。	反転復元
411	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(広口)	(27.0)		3.1	口縁部 16分の1	長石、片岩、赤色 斑粒φ0.1～0.3 ㎝を含む	内面　2.5Y5/1 黄灰、2.5Y7/2 灰黄 外面　7.5YR7/4 にぶい橙、N5/　灰	大きく広がる口縁部をもち、口縁端部を上下に拡張するもの。上端面に刺突文をもつ。	反転復元
412	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(広口)			5.7	口縁部 4分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2㎝を多 く含む	内面　7.5YR8/3 浅黄橙 外面　7.5YR7/4 橙	緩やかに広がる口縁部から口縁端部を垂下させるもの。口縁部上端面には櫛状工具による鋸歯状の刺突を施す。	反転復元
413	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 壺(広口)	(27.0)		7.4	口縁部 2分の1	チャートφ0.2㎝ を粒状に多く含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR6/6 橙	ゆるやかに広がる口縁部をもち、口縁端部は垂下させる。端部外面には凹線文6条、3個1対の透穴をもつ。上端面には櫛状工具による鋸歯状刺突文と3個1対の円形刺突文をもつ。	反転復元
414	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(広口)	(24.0)		3.75	口縁部 6分の1	チャート、長石、 片岩φ0.1～0.3 ㎝を含む	内面　7.5YR8/4 浅黄橙、10YR8/2 灰白 外面　7.5YR8/4 浅黄橙、10YR8/2 灰白	端部を下方に垂下させ、凹線文6条、円形浮文を貼り付ける。上端面は鋸歯状の刺突文をもつ。	反転復元
415	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺 (広口長 頸)	(15.4)		11.3	口縁部 10分の7	チャート、片岩、 赤色斑粒φ0.2～ 0.3㎝を含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　5YR6/4 にぶい橙	細身の頸部から緩やかに広がる口縁部をもつ。端部外面は刻み目、上端面に櫛による刺突文を施す。	反転復元
416	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(広口)	(16.7)		1.7	口縁部 6分の1	長石、赤色斑粒φ 0.1～0.2㎝を少 量含む	内面　10YR6/3 にぶい黄橙 外面　7.5YR6/3 にぶい褐	緩やかに広がる口縁部をもち端部は垂下させる。端部外面は櫛状工具による刺突文を上下2段に施す。	反転復元
417	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(広口)	(18.1)		29.3	口縁部 2分の1	チャート、長石、 片岩φ0.1～0.5 ㎝を含む	内面　2.5Y6/2 灰黄 外面　2.5Y6/2 灰黄	くの字に外反し伸びる口縁部をもつ。口縁端部は外側に面作り上方に拡張する。体部は右上タタキ。内面はユビオサエ。	反転復元
418	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺 (広口太頸)	19.7		8.6	口縁部 2分の1	片岩、赤色斑粒 φ0.2～0.3㎝、 チャート、長石φ 0.3～0.4㎝を多 く含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR8/2 灰白	緩やかに広がる口縁部をもつ。端部は面をもち診わるもの。	反転復元
419	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺 (広口太頸)	(19.9)		10.1	口縁部 3分の1	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.1～ 0.3㎝を含む	内面　10YR8/4 浅黄橙 外面　10YR7/6 明黄褐	頸やかに広がる太頸の頸部から外反する口縁部をもつもの。	反転復元
420	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(有段)	(23.1)		3.7	口縁部 12分の1	チャート、長石φ0.1 ～0.2㎝を含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y7/2 灰黄	有段の口縁部をもつもの。段は凹線文と櫛描波状文を施す。	反転復元
421	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(有段)	(22.1)		5.0	口縁部 10分の1	チャート、長石、 片岩φ0.2～0.3 ㎝を含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　N3/　暗灰	内傾気味に立ち上がる有段口縁をもつ。段外面は櫛描簾状文、側突文、貼り付け円形浮文を施す。	反転復元
422	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺			10.6	肩部 6分の1	長石、片岩、金雲 母φ0.1㎝を含む	内面　2.5Y5/2 暗灰黄 外面　2.5Y6/3 にぶい黄	外面はヘラミガキ、口頸部界にヘラ描直線文、頸胴部界にヘラ描直線文3条を施す。内面はユビオサエ。	
423	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺			23.7		チャート、長石φ0.1 ～0.2㎝を含む	内面　10YR8/3 浅黄橙、7.5YR8/3 浅黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙、7.5YR8/3 浅黄橙	なだらかな肩部をもつ。肩部外面は櫛描直線文、櫛描波状文を交互に施す。内面はユビオサエ。	反転復元
424	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(直口)	(14.6)		5.7	口縁部 5分の1	チャート、片岩、 赤色斑粒φ0.2～ 0.4㎝を含む	内面　5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	直線的に伸びる口縁部をもつ。端部は上方に面をつくる。口縁部外面は櫛描刺突文を3段にわたって施す。	
425	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 壺(細頸)	(13.6)		6.1	口縁部6 分の1	チャート、長石φ0.1 ～0.3㎝を含む	内面　5YR6/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	細頸の頸部から内湾気味に立ち上がる口縁部をもつもの。外面は櫛描簾状文3条を施す。	反転復元
426	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 壺(直口)	(17.2)		5.6	口縁部 4分の1	チャート、片岩、 赤色斑粒φ0.3～ 0.5㎝を含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	直線的に伸びる口縁部をもつ。端部は内外に拡張し上方に面をつくる。口縁部外面は凹線文3条を施す。	反転復元
427	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 壺(直口)	(17.0)		12.2	口縁部 2分の1	チャート、片岩φ0.2 ～0.3㎝を含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR7/4 にぶい橙	頸部から直立し、口縁部が内湾するもの。口縁部下に凹線文5条を施す。	反転復元
428	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 壺(有段)			9.8	頸部 6分の1	チャート、長石、 片岩φ0.2～0.3 ㎝を含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR6/6 橙	直立気味に伸びる頸部をもち、頸部に刻み目を施す。頸部内面はユビオサエ。	
429	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺(直口)	(17.4)		10.8	口縁部 5分の2	チャート、長石、 片岩φ0.2～0.3 ㎝を含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR6/6 橙	頸部から直線的に開く口縁部をもつ。口縁部下は上から櫛描波状文、凸帯四条を貼り付け。櫛描直線文の順で施文する。	反転復元
430	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺		9.5	10.8	底部 2分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2㎝を多 く含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　10YR6/2 灰黄褐	平底の底部をもつ。外面は縦方向のヘラミガキ。内面は剥離により不明。	反転復元
431	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺		(10.0)	10.2	底部 5分の3	長石、片岩φ0.4 ㎝を多く含む	内面　2.5Y6/1 黄灰 外面　7.5YR8/4 浅黄橙、2.5Y8/2 灰白	平底の底部をもち突出する。外面縦方向のヘラミガキののち底部側面をユビオサエ。内面はユビオサエ。	反転復元
432	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 底		8.2	5.65	底部 ほぼ完形	チャート長石φ0.3 ～0.4㎝を含む	内面　2.5Y8/2 灰白、一部 10YR4/1 褐灰 外面　2.5YR8/2 灰白	平底の底部をもち内外面ヘラミガキ。底面にもヘラミガキを施す。	反転復元
433	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 鉢		5.2	11.3	底部 8分の5	チャート、長石、 赤色斑粒φ0.2～ 0.5㎝を含む	内面　2.5Y5/1 黄灰 外面　10YR8/2 灰白、2.5Y5/1 黄灰	平底の底部をもち、外面縦方向のヘラミガキのち横方向のヘラミガキ。底部内面は板ナデ。ユビオサエ。	反転復元
434	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺		6.0	4.7	底部 8分の5	チャート、長石、 風化礫φ0.1～0.5 ㎝を含む	内面　2.5Y4/1 黄灰 外面　2.5Y8/2 灰白、2.5Y4/1 黄灰	平底の底部をもつもの。底部側面はユビオサエ。底部外面はヘラケズリ。	反転復元
435	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壺		6.4	8.6	底部 ほぼ完形	チャート、長石、片 岩、赤色斑粒φ0.2 ～0.4㎝を含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR8/2 灰白、10YR4/1 褐灰	平底の底部をもち、外面はヘラケズリののち縦方向のヘラミガキ。内面はユビオサエ。	反転復元
436	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 線画土器 壺(有段)	(33.6)		3.8	口縁部 16分の1	長石、金雲母φ0.1 ～0.2㎝を含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙	有段口縁の外面にヘラ描きの線刻で鹿を描くもの。鹿の脚先表現はなく、角は主幹のみを表現し、体部を斜格子文で充填する。頭部から尾尻にかけて弧状の1本線で表現する。	線画土器 反転復元

437	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 絵画土器 壷(有段)	(31.0)		8.0	口縁部 16分の1	長石、石英、金雲母φ0.2～0.3cmを含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	有段口縁の外面にヘラ描きの線刻で鹿を描くもの。鹿の脚がわずかに描かれ、鹿の体部については欠損する。頭部外面は斜めハケ。	絵画土器 反転復元
438	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 絵画土器 壷(有段)	(37.0)		5.1	口縁部 12分の1	チャート、長石、金雲母φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	有段口縁の外面にヘラ描きの線刻で2頭の鹿を描くもの。左鹿は脚先が描かれ、角は角枝を表現する。右鹿は脚先表現はなく、角は主幹のみを表現する。	絵画土器 反転復元
439	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 絵画土器 壷(有段)	(37.0)		7.4	口縁部 16分の1	チャート、長石、石英、金雲母φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR8/3 浅黄橙、7.5YR7/4 にぶい橙	有段口縁の外面にヘラ描きの甕状の1本線で頸部から尾尻を描くもの。その後ナデにより簡消。描画途中でおわるもの。	絵画土器 反転復元
440	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 壷(有段)	頸部径 (26.0)		12.3	口縁部 4分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを多く含む	内面 5YR7/4 にぶい橙 外面 5YR6/6 橙	頸部に突帯を貼り付け、連続する二段のユビオサエにより押捺突帯を作り出すもの。	
441	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 絵画土器 壷(有段)			16.7	肩部の 5分の1	チャート、長石、石英、金雲母φ0.2～0.4cmを含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙、2.5Y8/2 灰白 外面 10YR8/3 浅黄橙、7.5YR7/4 にぶい橙	頸部に突帯を貼り付け。連続するユビオサエにより押捺突帯を作り出す。頸部は縦方向のヘラミガキ。肩部は横方向のヘラミガキ。肩部に頸の長い鹿を描く。角の表現は主幹のみ。	絵画土器 反転復元
442	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 絵画土器 壷(有段)					チャート、長石、石英、金雲母φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 5YR7/4 にぶい橙、10YR7/2 にぶい黄橙	絵画土器の体部片。外面は縦方向のヘラミガキ。外面にヘラ描きの線刻で鹿を描き、角は角枝を表現する。頸部は2本線で表現し、内部を斜格子文で充填する。	絵画土器 胎土分析資料
443	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 絵画土器 壷(有段)					長石、石英、金雲母φ0.1～0.3cmを含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 2.5Y8/2 灰白、7.5YR7/4 にぶい橙	胴部片。外面は縦方向のヘラミガキ。内面は刺離。外面に鹿の脚と思われるヘラ描きの線刻あり。	絵画土器
444	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(18.0)		5.9	口縁部 4分の1	チャート、長石φ0.2cmを含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙、10YR4/1 褐灰 外面 10YR7/2 にぶい黄橙、10YR4/1 褐灰	くの字に短く外反する口縁部をもつ。端部は丸くおさめる。肩部内面はナデ。	反転復元
445	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 甕	(12.0)		3.85	口縁部 6分の1	角閃石、長石、輝石φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 10YR5/2 灰黄褐、10YR4/1 褐灰	くの字に外反する口縁部をもつもの。端部は面作り回線文を施す。外面はタテハケ、内面はユビオサエ。	生駒西麓産 反転復元
446	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(16.0)		4.85	口縁部 8分の1	チャート、長石φ0.1cmを含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 2.5Y8/2 灰白	くの字に外反する口縁部をもつ。外面はタテハケ。	反転復元
447	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 甕	(17.0)		9.3	口縁部 3分の1	長石、片岩φ0.2～0.4cmを含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙、10YR4/1 褐灰 外面 10YR7/2 にぶい黄橙、10YR4/1 褐灰	くの字に外折する口縁部をもつ。端部は上方に拡張し、回線文を施す。肩部外面はタテハケ。内面は板ナデ。	反転復元
448	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(20.4)		6.7	口縁部 8分の1	チャート、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 2.5Y7/2 灰黄、10YR6/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもち、頸部に粘土紐接合痕をもつ。肩部内面は斜め方向のハケ。ユビオサエ。	反転復元
449	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 甕	(18.0)		14.4	口縁部 2分の1	チャート、長石φ0.2～0.3cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 10YR8/3 浅黄橙、10YR5/1 褐灰	くの字に外反する口縁部をもち、端部に回線文1条を施す。外面は縦ハケ、斜めハケを施す。	反転復元
450	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 甕	(33.0)		13.5	口縁部 16分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.4cmを多く含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 2.5Y8/3 淡赤橙、10YR8/2 灰白	くの字に外反する口縁部をもち、端部を上下に拡張する。体部外面はタテハケ。内面はナナメ方向のハケを施す	反転復元
451	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 甕	(38.6)		6.5	口縁部 16分の1 未満	長石φ0.2～0.4cm、チャートφ0.1cmを含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 10YR8/2 灰白、N3/ 暗灰	くの字に外反する口縁部をもち、口縁端部は上下に拡張する。体部外面は縦方向のハケ、体部内面は斜め方向のハケ。	反転復元
452	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(27.0)		6.2	口縁部 5分の1	チャート、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR8/4 浅黄橙、2.5Y6/1 黄灰 外面 7.5YR8/4 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。口縁端部は上方に拡張する。	反転復元
453	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(27.0)		8.0	口縁部 16分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙、2.5Y5/1 黄灰 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に屈曲し、内湾して伸びる口縁部をもつ。口縁端部は上方に拡張し面を作る。体部外面は左上がり気味のタタキ。	反転復元
454	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(26.0)		6.7	口縁部 16分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5YR7/6 橙 外面 5YR7/6 橙、7.5YR5/2 灰褐	くの字に外反する口縁部をもつ。体部外面は水平タタキのち縦ハケ。	反転復元
455	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(19.6)		4.9	口縁部 16分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR8/4 浅黄橙 外面 7.5YR8/4 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は刻み目をもつ。肩部は櫛状文をもつ。	反転復元
456	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(17.2)		7.1	口縁部 10分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/2 灰白、10YR4/1 褐灰 外面 10YR6/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもち、端部は面をもち刻む。内外面ともにナデ。	反転復元
457	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(30.0)		5.2	口縁部 16分の1 未満	チャート、長石φ0.1cmを含む	内面 10YR8/4 浅黄橙 外面 2.5Y7/2 灰黄、2.5Y6/1 黄灰	くの字に屈曲し、内湾して伸びる口縁部をもつ。端部下端に刻み目を施す。体部外面はハケ。	反転復元
458	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(31.0)		6.45	口縁部 8分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもつ。口縁端部は上下に拡張し、下端部に刻み目を施す。	反転復元
459	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 甕	(15.6)		4.8	口縁部 4分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y7/1 灰白 外面 7.5YR8/3 浅黄橙	くの字に短く外反する口縁部をもつ。肩部外面はヘラケズリ。	反転復元
460	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 甕	(12.2)		9.45	口縁部 3分の1	チャート、長石、片岩、金雲母φ0.2～0.3cmを多く含む	内面 2.5Y4/1 黄灰 外面 10YR7/2 にぶい黄橙、10YR5/1 褐灰	くの字に外折する口縁部をもつ。肩部外面はヘラケズリ。内面は板ナデ。	反転復元
461	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕		7.2	5.3	底部完形	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを多く含む	内面 10YR8/3 浅黄橙、10YR6/2 灰黄褐 外面 10YR8/3 浅黄橙、10YR6/2 灰黄褐	下方に張り出す底部をもつ。底部側面はユビオサエ。外面はヘラケズリ。	反転復元
462	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕		4.4	6.8	底部 5分の4	チャート、長石、片岩φ0.2cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR8/3 浅黄橙、一部2.5Y6/1 黄灰	平底の底部をもち、外面はヘラケズリ。	反転復元
463	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕		(8.4)	7.2	底部 8分の3	チャート、長石、片岩φ0.3～0.4cmを含む	内面 5Y4/1 灰 外面 10YR7/2 にぶい黄橙、N4/ 灰	平底の底部をもつもの。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	反転復元
464	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕		9.8	7.1	底部 6分の1	長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y8/2 灰白、10YR6/2 灰黄褐 外面 2.5Y8/2 灰白、10YR6/2 灰黄褐	下方に張り出す底部をもつ。外面はヘラケズリ。底部側面はユビオサエ。	反転復元
465	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	(19.6)		8.85	口縁部 4分の1	チャート、片岩φ0.2cmを多く含む	内面 10YR8/2 灰白、2.5Y5/1 黄灰 外面 10YR8/2 灰白、2.5Y5/1 黄灰	くの字に外反する口縁部をもつ。肩部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	反転復元
466	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	20.4		16.7	口縁部 4分の1	チャート、長石、片岩φ0.3～0.4cmを多量に含む	内面 2.5Y7/1 灰白、2.5Y4/1 黄灰 外面 2.5Y7/1 灰白、10YR8/2 灰白	くの字に外反する口縁部をもつ。肩部外面はヘラケズリ。内面はナデ、ユビオサエ。	反転復元
467	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 甕	23.6		6.3	口縁部 8分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを多く含む	内面 7.5YR8/3 浅黄橙、10YR6/2 灰黄褐 外面 7.5YR8/3 浅黄橙、10YR6/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもつ。体部外面はヘラケズリ。	反転復元
468	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 高杯(椀形)	(12.6)		7.1	口縁部 3分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 10YR6/6 赤橙	杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもの。屈曲部に回線文2条をもつ。杯下半はヘラミガキ。	反転復元
469	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 高杯 (水平口縁)			2.1	口縁部 8分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 5YR6/8 橙 外面 7.5YR7/3 にぶい橙	屈曲し水平に伸びる口縁部をもつもの。杯部は直線的に広がる形態をもつ。	反転復元
470	自然流路8 (5180)	1-3区	弥生土器 高杯(椀形)	(19.8)		5.6	口縁部 8分の1	長石、片岩、石英φ0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 5YR6/6 橙	椀形の杯部をもつ。口縁部下は回線文2条を施す。外面はユビオサエ、ヘラケズリ。	反転復元
471	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 高杯(椀形)	断面の み		3.7	小破片	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 N3/ 暗灰	椀形の杯部をもつ。口縁部下は回線文4条を施す。	
472	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 高杯(椀形)			6.7	口縁部 4分の1	チャート、長石、片岩φ0.2cmを含む	内面 7.5YR5/1 褐灰 外面 7.5YR5/1 褐灰	杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもの。屈曲部に回線文4条をもつ。杯下半はヘラケズリ、内面ハケ。	反転復元
473	自然流路8 (5180)	1-4区	弥生土器 高杯(椀形)	(25.6)		7.4	口縁部 6分の1	チャート、長石、片岩φ0.3～0.4cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 7.5YR5/2 灰褐	杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもの。屈曲部に回線文5条をもつ。	反転復元

474	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 高杯	(38.8)		7.4	口縁部 8分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR8/3 浅黄橙、10YR8/2 灰白 外面 7.5YR7/4 にぶい橙、2.5Y6/1 黄灰	内湾気味に立ち上がる椀形の杯部をもつもの。端部は内外に拡張し上方に面をつくる。口縁部下は凹線文３条、やや下がった杯部下半に凸帯２条を貼り付け刻み目を施す。	反転復元
475	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 蓋	(5.4)		5.5	つまみ部 4分の3	チャート、長石、片岩 φ 0.2～0.3cmを含む	内面 7.5YR8/3 浅黄橙、一部 10YR5/1 褐灰 外面 7.5YR8/3 浅黄橙	突出するつまみをもつ。外面はヘラケズリ。	反転復元
476	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 蓋		(18.4)	3.4	口縁部 9分の1	チャート、長石 φ 0.1cmを含む	内面 2.5Y7/3 浅黄 外面 2.5Y7/3 浅黄	大きく広がる蓋。２個１対の紐孔をもつ。外面はヘラケズリ。内面はヘラミガキ。	反転復元
477	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 台付鉢	(19.8)		4.6	口縁部 16分の1	チャート、長石 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y6/2 灰黄 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	短く外反する口縁部をもち端部は刻み目施す。肩部は櫛描直線文２条。櫛描波状文２条、横方向のヘラミガキを施す。	反転復元
478	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 壷(無頸)	(20.4)		4.8	口縁部 8分の1	チャート、長石 φ 0.2～0.3cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR8/3 浅黄橙	くの字に外折し。口縁部を折り返すもの。端部は上下に拡張し頸部には櫛描直線文を施す。	反転復元
479	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 壷(無頸)	(25.0)		5.5	口縁部 16分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.2～0.3cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙、2.5Y8/2 灰白 外面 10YR8/3 浅黄橙、2.5Y8/2 灰白	内傾気味に立ち上がる口縁部をもち粘り付け突帯３条、棒状浮文を施すもの。	反転復元
480	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 高杯		(11.9)	4.2	脚部 5分の2	チャート、長石 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 7.5YR8/3 浅黄橙	直立気味の柱状部より、ハの字に広がる裾部をもつ。	反転復元
481	自然流路８(5180)	1-3区	弥生土器 高杯		(11.0)	7.9	脚部 5分の3	チャート、長石、風化礫 φ 0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y6/3 にぶい黄 外面 2.5Y7/3 浅黄	中実の柱状部をもち、短く広がる裾部をもつ。外面はヘラミガキ。	反転復元
482	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 高杯		(15.5)	3.6	脚裾部 6分の1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.2～0.3cmを含む	内面 10YR7/4 にぶい黄橙 外面 10YR8/2 灰白、10YR5/6 赤	大きく広がる裾部をもつ。裾部にはヘラ状の刺突文を施す。端部は上下に拡張し、沈線２条を施す。	反転復元
483	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 脚台		(14.2)	6.8	脚部 4分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR6/2 灰褐 外面 10YR5/1 褐灰	ハの字状に緩やかに開く裾部をもち、端部は面をもたせ沈線２条。外面は縦方向のヘラミガキ。内面はシボリ。	反転復元
484	自然流路８(5180)	1-3区	弥生土器 器台		(15.4)	7.5	脚部 6分の1	チャート、片岩、金雲母 φ 0.2～0.3cmを含む	内面 2.5YR5/6 明赤褐 外面 7.5YR6/3 にぶい褐	直線的に広がる裾部をもち、端部は内外に拡張し面を作る。裾部には透かし穴をもち、外面は凹線文３条を施す。	反転復元
485	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 高杯		(6.8)	7.0	脚部 2分の1	チャート、長石 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR7/3 にぶい橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	直立気味に立ち上がる柱状部から短くハの字に広がる裾部をもつ。	反転復元
486	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 壷	22.0		5.6	口縁部 8分の1	角閃石、長石 φ 0.2～0.4cmを含む	内面 2.5YR6/6 橙 外面 2.5YR6/6 橙、10YR6/4 にぶい黄橙	緩やかに広がり、端部は上下に拡張し面を作る段状口縁をもつもの。端部外面、頂部は櫛描波状文を施す。	生駒西麓産 反転復元
487	自然流路８(5180)	1-3区	弥生土器 鉢(無頸)	15.0		3.2	口縁部 8分の1	角閃石、長石 φ 0.1～0.2cmを多く含む	内面 10YR6/3 にぶい黄橙 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	口縁部を折り返し段状の口縁部をもつもの。	生駒西麓産 反転復元
488	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 蓋					長石、石英 φ 0.2～0.4cm、角閃石 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y4/1 黄灰 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	櫛描簾状文、貼り付け円形浮文、斜格子文をもつ。内面は板ナデ。	生駒西麓産
489	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 壷(段状)	(28.4)		3.3	口縁部 8分の1	角閃石、長石 φ 0.1～0.5cmを含む	内面 7.5YR5/3 にぶい褐、5Y5/1 灰、5Y6/1 灰 外面 7.5YR5/3 にぶい褐、5Y5/1 灰、5Y6/1 灰	緩やかに広がる口縁部から端部が上下に拡張し段状の口縁部をもつもの。	生駒西麓産 反転復元
490	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 鉢	(21.2)		5.9	口縁部 6分の1	長石 φ 0.3cm、角閃石 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR6/3 にぶい黄橙 外面 10YR6/3 にぶい黄橙、5Y5/1 灰	くの字に短く外反し、口縁部を折り返すもの。端部は上下に拡張し、刻み目を巡らせる。肩部には櫛描簾状文３条を施す。	生駒西麓産 反転復元
491	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 壷		(8.8)	1.9	底部 3分の1	長石 φ 0.2～0.5cm、角閃石 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y6/3 にぶい黄 外面 2.5Y4/1 黄灰	平底の底部をもち外面は横方向のヘラミガキ。	生駒西麓産 反転復元
492	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 壷		(8.8)	2.2	底部 6分の1	角閃石、長石 φ 0.1～0.3cmを含む	内面 2.5YR6/2 灰黄 外面 2.5YR5/2 暗灰黄	平底の底部をもち外面は横方向のヘラミガキ。	生駒西麓産 反転復元
493	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 甕		(7.1)	4.7	底部完形	角閃石、長石、金雲母 φ 0.2～0.3cmを多く含む	内面 10YR6/3 にぶい黄橙 外面 10YR5/3 にぶい黄褐、10YR4/1 褐灰	平底の底部をもち、底部側面はユビオサエ、外面は縦方向のヘラミガキ。	生駒西麓産 反転復元
494	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 甕(大和)	(14.0)		3.7	口縁部 16分の1	長石、輝石、金雲母 φ 0.1cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもち。端部は刻み目。外面は縦方向の粗いハケを施す。口縁部内面は横方向のハケ。	大和 反転復元
495	自然流路８(5180)	1-4区	弥生土器 甕(瀬戸内)	(18.2)		5.5	口縁部 4分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.2～0.3mを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙、5YR7/4 にぶい橙 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	くの字に外反し、有段口縁をもつもの。頸部下にはヘラ状工具による刺突文をもつ。外面はタテハケ。内面はヨコハケ。	反転復元

西飯降Ⅱ遺跡（06－２区）出土土器・土製品

496	包含層第4-3層	2-4区	土師器 竈	(27.8)		15.5	口縁部 10分の1	チャート、長石 φ 0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y6/2 灰黄 外面 2.5Y7/3 浅黄	移動式竈。焚口に鍔がめぐるもので両側面には把手の剥離痕が見られる。外面はタテハケ。内面はユビオサエ、ケズリ。	反転復元
497	包含層間層～第4-4層	2-4区	須恵器 杯蓋	(17.5)		2.6	小破片	チャート、長石 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 N6/ 灰	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部は丸い。口縁端部は内傾する面をもつ。	反転復元
498	包含層間層～第4-4層	2-4区	須恵器 高杯			4.2	脚部 6分の1	長石 φ 0.1～0.2cmを少量含む	内面 N4/ 灰 外面 N4/ 灰	ハの字に緩やかに広がる柱状部をもつ。内外面ともに回転ナデ。	反転復元
499	包含層第4-4層	2-3区	弥生土器 体(大型鉢)	(37.3)		5.3	口縁部 16分の1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.2～0.3cmを含む	内面 5YR7/4 にぶい橙 外面 7.5YR8/3 浅黄橙	内傾気味に立ち上がる大型の鉢。外面は２段の斜方向の刺突文をもつ。	反転復元
500	包含層第4-4層	2-3区	弥生土器 壷		(8.1)	8.8	体部 5分の4	チャート、長石 φ 0.2～0.3cm、金雲母 φ 0.1～0.2cmを多く含む	内面 N2/ 黒 外面 10YR5/3 にぶい黄橙	平底の底部をもつ。底部側面はユビオサエ。底部内面は板ナデ。	反転復元
501	包含層間層～第4-4層	2-1区	弥生土器 壷(広口)	(18.6)		8.1	口縁部 4分の3	角閃石、長石 φ 0.2～0.3cmを含む	内面 10YR4/2 灰黄褐 外面 10YR4/2 灰黄褐	緩やかに広がる口縁部をもち、端部は垂下させる。頸部には櫛描簾状文２条を施す。	生駒西麓産
502	永田開連包含層第３層上面	2-3区	東播系須恵器 擂鉢	(21.5)		4.4	口縁部 12分の1	長石 φ 0.1～0.4cmを含む	内面 N7/ 灰白 外面 N7/ 灰白	口縁部がやや外反気味に広がり、端部をわずかに上方に拡張するもの。内面はカキ目、外面はヘラケズリ。	反転復元
503	永田開連包含層第３層上面	2-4区	土師器 皿		(7.8)	1.7	底部 4分の1	チャート、長石 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/6 明黄褐 外面 10YR7/6 明黄褐	底部から屈曲し外上方に延びるもの。	反転復元
504	永田開連包含層第４-２層上面	2-3区	瓦器 椀	(16.8)		2.8	口縁部 10分の1	黒色粒 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 N3/ 暗灰 外面 N3/ 暗灰	内湾気味に伸びる口縁部をもち、端部は内傾する面を作る。内面は渦巻き状の暗文を施す。	反転復元
505	永田開連包含層第４-２層上面	2-4区	瓦器 椀		(6.4)	1.2	底部 8分の1	黒色粒 φ 0.1cmを含む	内面 2.5GY6/1 オリーブ灰 外面 10GY2/1 緑黒	断面三角形の貼り付け高台をもつもの。	反転復元
506	永田開連包含層第４-２層上面	2-3区	瓦器 椀		(6.4)	1.6	底部高台の 4分の1	赤色斑粒 φ 0.1cmを含む	内面 5Y8/1 灰白 外面 N3/ 暗灰	断面三角形の貼り付け高台をもつもの。	
507	永田開連包含層第４-２層～洪水層	2-4区	須恵器 杯蓋	つまみ径2.7			つまみ部分のみ	黒色粒 φ 0.1cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	扁平な宝珠摘みをもつもの。	反転復元
508	永田開連包含層第４-２層～洪水層	2-4区	須恵器 壷M		(9.0)	3.6	底部 3分の1	長石 φ 0.1cmを僅かに含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰、自然釉 7.5Y5/1 灰	断面台形の突出した貼り付け高台をもつ。	
509	永田開連包含層第４-２層～洪水層	2-4区	土師器 椀	(12.8)		2.3	口縁部 10分の1	赤色斑粒 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5YR7/6 橙 外面 5YR7/4 にぶい橙	内湾気味に立ち上がる口縁部をもつもの。	
510	永田開連包含層第４-２層～洪水層	2-4区	土師器 皿		(8.2)	1.1	底部 4分の1	赤色斑粒 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5YR6/8 橙 外面 2.5YR6/8 橙	底部外面に回転糸切痕をもつもの。	反転復元
511	永田開連包含層第３層～開層	2-4区	須恵器 杯蓋	(15.5)		4.0	天井部～口縁 2分の1	チャート、長石 φ 0.1～0.2cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	口縁部から平坦な天井部へ稜をもち屈曲する。口縁端部は内傾する面をもつ。	反転復元

512	永田間遺包含層第3層～第4-3層	2-4区	東播系須恵器片口鉢	(27.6)		5.0	口縁部8分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 N6/ 灰、自然釉 N3/ 暗灰	口縁部がやや外反気味に広がり、端部をわずかに上方に拡張するもの。外面は回転ナデ。	
513	永田間遺包含層第3層上面	2-3区	東播系須恵器片口鉢		(13.8)	2.2	底部10分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5GY6/1 オリーブ灰（釉の色調） 外面 2.5Y7/2 灰黄	平底の底部をもつもの。内面施釉あり。	反転復元
514	溝18（1）	2-3区	須恵器杯B	(15.1)	(11.3)	5.1	口縁部3分の1	長石、黒色粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 N7/ 灰白 外面 N7/ 灰白	下端部を内外に引き出した、断面台形の貼り付け高台をもつ。口縁部端部は丸くおさめる。	反転復元
515	溝18（1）	2-3区	須恵器杯身		(10.1)	0.9	底部高台の5分の1	長石、砂岩φ0.1～0.2cmを少量含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
516	水田耕作土	2-3区	土師器坏A	(13.6)		3.8	口縁部16分の1	黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	底部から屈曲し外上方に延びる口縁部をもつ。底部外面はヘラケズリによるC手法による。	反転復元
517	溝18（1）	2-3区	須恵器壺	体部最大径(23.7)		9.6	体部8分の1	黒色粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/1 灰白 外面 10YR7/1 灰白	胴部が張る壺の体部。内外面ともに回転ナデ。	反転復元
518	土坑36（47）	2-1区	土師器杯			2.0	底部ほぼ完形	長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	底部外面はユビオサエによる。	反転復元
519	溝19（95）	2-1区	土師器杯	(11.5)	6.05	3.2	口縁部2分の1	赤色斑粒φ0.5cm、長石φ0.3cmを含む	内面 7.5YR8/3 浅黄橙、2.5Y7/1 灰白 外面 5YR7/4 にぶい橙、10YR8/3 浅黄橙	底部から丸く屈曲し外反する口縁部をもつもの。底部外面はユビオサエ。	
520	溝19（95）	2-1区	須恵器杯身	(13.0)		4.8	口縁部8分の3	チャート、長石φ0.2～0.3cmを含む	内面 N7/ 灰白 外面 N7/ 灰白	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。底部は丸く回転ヘラケズリ。	反転復元
521	溝21（229）	2-4区	弥生土器高杯			7.3		片岩、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 5YR7/6 橙、7.5YR7/6 橙 外面 5YR7/6 橙、7.5YR7/6 橙	直立気味に立ち上がる柱状部をもつもの。柱状部内面は絞り痕が残る。	反転復元
522	溝21（229）	2-4区	弥生土器高杯			6.6		チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 7.5YR8/3、8/4 浅黄橙 外面 7.5YR8/3、8/4 浅黄橙	直立気味に立ち上がる柱状部をもつもの。柱状部内面は絞り痕が残る。	反転復元
523	自然流路6（46）	2-4区	須恵器杯蓋	(14.4)		5.0	口縁部16分の1未満	チャート、長石φ0.2～0.3cmを含む	内面 N7/ 灰白、N8/ 灰 外面 N7/ 灰白、N8/ 灰	口縁部から天井部へ緩をもち丸く屈曲する。屈曲部には沈線がめぐる。口縁端部は丸くおさめる。	反転復元
524	自然流路6（46）	2-4区	須恵器杯蓋	(14.6)		3.8	口縁部16分の1	チャート、黒色粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 N7/ 灰白～N6/ 灰 外面 N7/ 灰白～N6/ 灰	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部は丸い。天井部に回転ヘラケズリ。	反転復元
525	自然流路6（46）	2-4区	須恵器杯蓋	(13.8)		4.7	口縁部8分の1	チャート、長石φ0.2～0.3cmを含む	内面 N7/ 灰白 外面 N7/ 灰白	口縁部から天井部へ緩をもち丸く屈曲する。屈曲部には沈線がめぐる。口縁端部は内傾する面をつくる。	反転復元
526	自然流路6（46）	2-4区	須恵器杯蓋	(16.0)		3.9	口縁部16分の1	チャート、長石φ0.1cmを含む	内面 N6/ 灰よりやや青みがかっている 外面 N6/ 灰よりやや青みがかっている	天井部やや丸く、回転ヘラケズリ。口縁端部は丸くおさめる。	反転復元
527	自然流路6（46）	2-4区	須恵器杯蓋	(14.0)		5.3	口縁部2分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	つまみをもち、中央はくぼむ。口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部は丸い。天井部に回転ヘラケズリ。	反転復元
528	自然流路6（46）	2-4区	須恵器杯身	(15.0)		3.05	口縁部16分の3	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。口縁端部は内傾する面をつくる。	反転復元
529	自然流路6（46）	2-4区	須恵器杯身	(12.0)		2.8	口縁部8分の1	黒色粒φ0.1～0.2cmを多く含む	内面 N7/ 灰白 外面 N7/ 灰白	内傾する立ち上がり部をもち、受け部は短く突出する。	反転復元
530	自然流路6（46）	2-4区	須恵器皿B		(13.0)	1.5	底部16分の1未満	チャート、長石、黒色粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 5Y8/1 灰白 外面 5Y8/1 灰白	断面三角形の貼り付け高台をもつもの。	反転復元
531	自然流路6（46）	2-4区	須恵器鉢		(5.0)	5.4		チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N6/ 灰より緑がかっている 外面 N6/ 灰より緑がかっている	扁平な体部をもつもの。胴部中央は2条の凹線で区画され刺突文を施す。底部外面は回転ヘラケズリ。	反転復元
532	自然流路6（46）	2-4区	須恵器壺(短頸)		(10.0)	10.1	頸部5分の4	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N6/ 灰 外面 N6/ 灰	短く立ち上がる口縁部をもつ。体部は球形で肩部に張をもつ。底部外面は回転ヘラケズリ。	反転復元
533	自然流路6（46）	2-4区	須恵器壺			4.35		長石φ0.2～0.3cm、チャートφ0.3cmを含む	内面 5YR5/3 にぶい赤褐 外面 10YR6/1 褐灰	丸底の壺底部。外面はカキ目。	反転復元
534	自然流路6（46）	2-4区	須恵器体部か		(16.6)	4.7	底部8分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	平底の底部より直立気味に立ち上がるもの。内面はナデ。	反転復元
535	自然流路6（46）	2-4区	須恵器壺	(20.2)		4.4	口縁部8分の3	チャート、長石、黒色粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 N6/ 灰	内湾気味に伸びる口縁部をもち口縁端部を内外に肥厚する。	反転復元
536	自然流路6（46）	2-1区	須恵器甕	(19.2)		8.9	口縁部16分の1	チャート、長石φ0.2～0.6cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 N5/ 灰	くの字に外反し、巻き込むように肥厚する口縁端部をもつ。体部外面はカキ目。成形に際して灰色・にぶい灰色の胎土を交互に積み上げる。	反転復元
537	自然流路6（46）	2-4区	須恵器甕	(23.4)		8.1	口縁部2分の1	長石、砂岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 N7/ 灰白、N4/ 灰 外面 N7/ 灰白、N4/ 灰	くの字に外反する口縁部をもち頸部は丸く肥厚し外反する。体部外面はタタキ、内面は当て具痕が残る。	反転復元
538	自然流路6（46）	2-1区	須恵器大甕	(30.0)		3.5	口縁部16分の1未満	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 N7/ 灰白 外面 N7/ 灰白	内湾気味に伸びる口縁部をもつ。口縁端部は内側に巻き込み、突線を付加する。頸部外面はカキ目。	反転復元
539	自然流路6（46）	2-1区	須恵器提瓶	(12.4)		13.3	口縁部2分の1	長石、黒色粒φ0.2～0.3cmを含む	内面 N7/ 灰白～N4/ 灰 外面 N7/ 灰白～N4/ 灰	くの字に外反し、肩段の口縁部をもつもの。肩部に半円形の把手が底りつく外面はカキ目。内面は当て具痕が残る。	反転復元
540	自然流路6（46）	2-1区	土師器甕	(18.0)		9.3	口縁部16分の1以下	角閃石、金雲母φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR4/2 灰黄褐 外面 10YR6/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は上方につまみあげる。体部外面はタテハケ。肩部内面はユビオサエ。	生駒西麓産 反転復元
541	自然流路6（46）	2-4区	土師器甕	(13.8)		7.8	口縁部16分の1未満	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 10YR8/3 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。体部外面はナデ・ナメハケ。体部内面はヘラケズリ。	反転復元
542	自然流路6（46）	2-4区	土師器羽釜	(26.5)		2.8	8分の1	チャート、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 10YR5/2 灰黄褐、10YR7/3 にぶい黄橙	大きく突出する鍔部をもつ鍔部は笠発を呈する。	反転復元
543	自然流路6（46）	2-4区	土師器製塩土器	(7.6)		4.6	口縁部16分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 10YR8/3 浅黄橙	平底形の楕形製塩土器。外面はユビオサエ。	反転復元
544	自然流路6（46）	2-4区	土師器高杯	脚部径(9.6)		5.5	脚部3分の2	チャート、長石、金雲母φ0.1～0.5cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR8/3 浅黄橙	ハノ字に開く脚部をもつ、内面は絞り目をもつ。	反転復元
545	自然流路6（46）	2-4区	土師器鍋(把手)					チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 10YR8/2 灰白、10YR5/1 褐灰	半角状の把手をもつもの。内外面はナデ、ユビオサエ。	
546	方形周溝墓4（77）	2-2区	弥生土器壺(広口)	18.0		7.0	口縁部16分の1以下	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 5YR7/6 橙 外面 5YR7/6 橙	緩やかに外反する口縁部をもつ。口縁部内面はユビオサエ。	反転復元
547	方形周溝墓4（77）	2-2区	弥生土器壺(広口)				口縁部16分の1以下	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 7.5YR8/3 浅黄橙 外面 2.5Y6/1 黄灰～2.5Y4/1 黄灰	緩やかに広がる口縁部をもつ。端部は上下に拡張する。	
548	方形周溝墓4（77）	2-2区	弥生土器甕	14.6		2.15	口縁部8分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/4 にぶい黄橙、10YR5/1 褐灰 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもち端部は上方に拡張する。	反転復元
549	方形周溝墓4（77）	2-2区	弥生土器鉢	27.0		4.4	口縁部8分の1	長石、片岩φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 7.5YR7/6 橙 外面 7.5YR7/6 橙、10YR8/4 浅黄橙	内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。内面はユビオサエ。	反転復元
550	方形周溝墓4（77）	2-2区	弥生土器甕		6.2	1.6	底部ほぼ完形	チャート、長石φ0.2cmを含む	内面 5YR7/6 橙、5Y4/1 灰 外面 5YR7/6 橙、5Y4/1 灰	平底の底部をもつもの。底部外面はユビオサエ。	
551	土坑38（231）	2-4区	弥生土器壺(広口長頸)	18.2		3.4	口縁部16分の1以下	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙、2.5Y4/1 黄灰 外面 7.5YR7/4 にぶい橙、2.5Y4/1 黄灰	緩やかに外反し、口縁部端部を垂下させるもの。	反転復元
552	溝26（223）	2-4区	弥生土器甕	14.8		7.5	口縁部12分の1	長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 2.5Y6/1 黄灰、10YR7/3 にぶい黄橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもち口縁端部は上方に拡張するもの。内面はユビオサエ。	反転復元

553	溝27（12）	2-2区	弥生土器 壺(広口)			12.4		チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面 5Y5/1灰、7.5YR7/4にぶい橙 外面 2.5Y6/1黄灰、7.5YR7/4にぶい橙	外反気味に伸びる壺の頸部。内面はユビオサエ。	反転復元
554	溝27（12）	2-2区	弥生土器 高杯				口縁部16分の1以下	チャート、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面 10YR8/4浅黄橙 外面 10YR8/4浅黄橙	杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもの。屈曲部に凹線文をもつ。	
555	自然流路7（244）	2-4区	弥生土器 甕	30.4		5.65	口縁部8分の1	チャート、長石、片岩φ0.3～0.1cmを含む	内面 2.5Y8/3淡黄 外面 2.5Y7/2灰黄、7.5YR7/4にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。口縁端部は上方に拡張し面を作る。口縁部外面は粘土紐接合痕。内面は粗いハケ。	反転復元
556	自然流路7（244）	2-4区	弥生土器 甕	32.0		5.3	口縁部16分の1	チャート、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 7.5YR7/4にぶい橙 外面 7.5YR7/4にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。口縁端部は上方に拡張し面を作る。	反転復元
557	自然流路7（244）	2-4区	弥生土器 甕		6.6	4.0	底部2分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y5/1、4/1黄灰 外面 2.5Y5/1、4/1黄灰	平底の底部をもつもの。底部外面は板ナデ。	反転復元
558	自然流路7（244）	2-4区	弥生土器 甕	16.4		4.1	口縁部8分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 7.5YR7/3にぶい橙、10YR6/2灰黄褐 外面 7.5YR7/3にぶい橙、10YR6/2灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもつ口縁端部は上方に摘み上げる。外面は左上がりのタタキ。	反転復元
559	自然流路7（244）	2-4区	弥生土器 高杯		15.0	10.7	底部8分の3	長石、赤色斑粒φ0.1～0.5cmを含む	内面 10YR8/2灰白 外面 10YR8/2灰白、脚部10YR4/1褐灰	中空の柱状部より緩やかに広がる脚部をもつもの。柱状部内面はヘラケズリ。	反転復元
560	自然流路7（244）	2-4区	弥生土器 高杯			9.2	柱状部100%	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 7.5YR7/4にぶい橙、5YR8/3淡橙 外面 7.5YR7/4にぶい橙、5YR8/3淡橙	中空の柱状部をもつもの。杯部下半部はヘラケズリ。杯底部は円盤充填技法による。	反転復元
561	自然流路7（226）	2-4区	弥生土器 甕	30.8		4.8	口縁部16分の1以下	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 5YR7/6橙、2.5Y4/1黄灰 外面 5YR7/6橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。肩部内面はユビオサエ。	反転復元
562	自然流路7（226）	2-4区	弥生土器 甕				口縁部16分の1以下	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/3浅黄橙、10YR7/3にぶい黄橙 外面 10YR8/3浅黄橙、10YR7/3にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ口縁部端部は上下に拡張し、内傾する面をつくるもの。	
563	自然流路7（226）	2-4区	弥生土器 壺	18.2		3.1	口縁部6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR7/6橙 外面 5YR7/6橙	有段口縁をもつもの。内面はユビオサエがめぐる。	反転復元
564	土坑39（28）	2-2区	縄文土器 深鉢	25.0		7.3	口縁部6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR3/1黒褐、10YR5/2灰黄褐 外面 5/2灰黄褐、10YR7/3にぶい黄橙	口縁部は肥厚し段をもち、波状の口縁部をなすもの。2条の沈線により区画された刻み目突帯を巡らせ、内面はミガキ。	反転復元

丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）出土土器・土製品

565	包含層第4-2層	1-1区	瓦質土器 羽釜	(20.6)		5.5	口縁部16分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N5/灰～2.5Y7/2灰黄 外面 2.5Y2/3浅黄	頭部部が内傾して立ち上がり、水平に突出する鍔部をもつもの。ヘラケズリは鍔下面に及ぶ。	反転復元
566	包含層間層	1-2区	瓦器 椀	(15.4)		4.7	口縁8分の1、底部6分の1	チャートφ0.1cmを少量含む	内面 N4/灰 外面 N4/灰	口縁部は外反気味に立ち上がる。口縁端部内面に沈線をもつ。口縁部外面はヘラミガキ、底部外面はユビオサエ。	反転復元
567	包含層間層	1-2区	瓦器 椀		6.0	1.0	底部2分の1	長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N4/灰～5Y7/2灰白 外面 N4/灰～5Y7/2灰白	断面台形の貼り付け高台をもつもの。	反転復元
568	包含層第4-5層	1-3区	弥生土器 壺		5.6	9.0	底部完形	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR7/6橙～7.5YR8/4浅黄橙 外面 5YR7/6橙～7.5YR8/4浅黄橙	平底の底部をもち内湾気味に立ち上がるもの。器壁は厚い。底面はヘラミガキ。	反転復元
569	包含層第4-4層	1-4区	弥生土器 甕		5.9	6.9	底部完形	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを多く含む	内面 10YR7/3にぶい黄橙～2.5Y4/1黄灰 外面 7.5YR7/3にぶい橙	平底の底部もつ。底部外面は左上がりのタタキを施す。内面はナデ。	反転復元
570	包含層第4-4層	1-1区	弥生土器 壺		7.0	5.4	底部3分の3	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y6/1黄灰 外面 5YR7/6橙	平底の底部をもつもの。内外面ともに磨滅により不明。	反転復元
571	包含層第4-6層	1-3区	弥生土器 鉢	(24.4)		11.8	口縁部12分の1	チャート、長石φ0.2～0.3cm、角閃石、輝石φ0.1cmを含む	内面 10YR5/2灰黄褐～10YR8/2灰白 外面 10YR5/1褐灰	くの字に外反する口縁部をもち。口縁端部は上下に拡張するもの。体部外面はタテハケ、体部はナデ。	反転復元
572	包含層第4-6層	1-3区	弥生土器 鉢	つまみ座(3.2)	13.4	3.6	底部6分の1	角閃石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR5/3にぶい黄褐 外面 10YR5/3にぶい黄褐	突出した摘みをもち、ハの字に広がるもの。端部は外反する。	生駒西麓産 反転復元
573	包含層第4-6層	1-3区	弥生土器 壺		8.2	3.5	底部完形	長石、片岩、金雲母φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR6/2灰黄褐 外面 2.5Y4/1黄灰、5/2灰黄褐	突出した平底の底部をもつもの。底部外面はユビオサエ。底部内面は板状工具による工具痕。	反転復元
574	包含層第4-6層	1-2区	弥生土器 壺		6.8	6.9	底部8分の7	長石、片岩、石英φ0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y4/1黄灰 外面 5YR7/6橙～7.5YR8/4浅黄橙	突出した平底をもつもの。底部側面はユビオサエ。内面は板状の工具痕をもつもの。	反転復元
575	土坑40（151）	1-2区	瓦器 椀	(14.2)		3.7	口縁部8分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N3/暗灰 外面 N3/暗灰	口縁端部内面に沈線をもつ。外面はミガキ。内面は渦巻き状の暗文を施す。	反転復元
576	土坑40（151）	1-2区	瓦器 椀	(15.6)		4.3	口縁部8分の1	チャートφ0.1cm以下をわずかに含む	内面 N8/灰白 外面 N8/灰白	口縁部は外反気味に立ち上がる。口縁部外面はヘラミガキ、底部外面はユビオサエ。内面は渦巻き状の暗文を施す。	反転復元
577	土坑40（151）	1-2区	瓦器 椀	(15.2)		4.4	口縁部6分の1	チャートφ0.1cm以下をわずかに含む	内面 N4/灰～5Y8/1灰白 外面 N4/灰～5Y8/1灰白	外面は口縁部上半ミガキ、下半はユビオサエ。内面は渦巻き状の暗文を施す。	反転復元
578	土坑40（151）	1-2区	瓦器 椀	(15.0)		4.4	口縁部6分の1	黒色粒φ0.1～0.3cmをわずかに含む	内面 5Y8/1灰白～5Y5/1灰 外面 5Y8/1灰白～5Y5/1灰	内湾気味に立ち上がる口縁部をもつもの。底部外面はユビオサエ。	反転復元
579	土坑40（151）	1-2区	瓦器 椀	(16.0)	5.65	5.75	口縁部3分の1	チャートφ0.2cmをわずかに含む	内面 N4/灰～5Y8/1灰白 外面 N4/灰～5Y8/1灰白	口縁部は外反気味に立ち上がる。口縁端部内面に沈線をもつ。口縁部外面はヘラミガキ、底部外面はユビオサエ。	反転復元
580	土坑40（151）	1-2区	土師器 皿	(13.6)		2.5	口縁部8分の1	チャート、赤色斑粒φ0.1cm以下を含む	内面 10YR7/4にぶい黄橙～7.5YR7/6橙 外面 10YR8/4浅黄橙	緩やかに広がる口縁部をもつもの。口縁部外面に黒色物付着。	反転復元
581	土坑41（167）	1-3区	須恵器 杯B		(11.0)	2.3	底部6分の1	長石φ0.1cmを含む	内面 2.5Y6/1黄灰よりやや灰 外面 2.5Y6/1黄灰よりやや灰	断面台形の貼り付け高台をもつもの。内外面ともに回転ナデ。	反転復元
582	土坑42（49）	1-1区	須恵器 博形鉢			17.5	ほぼ完形	長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N6/灰 外面 N6/灰～N3/暗灰	断面正円形の鉢形の体部をもつ。口縁は有段に屈曲するもの。体部には凸線がめぐる。図右側から成形し最終段階に図左側を閉塞する。外面は櫛描波状文8条を施す。	
583	土坑43（50）	1-1区	土師器 壺(直口)	(18.8)		5.5	口縁部8分の1	チャート、長石φ0.2～0.5cmを含む	内面 10YR7/3にぶい黄橙 外面 7.5YR7/3にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。口縁端部は尖っておわる。	反転復元
584	土坑44（159）	1-2区	土師器 甕	(11.4)		6.2	口縁部16分の1以下	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y8/2灰白～2.5YR7/6橙 外面 2.5Y8/2灰白～2.5YR7/6橙	くの字に外反する口縁部をもつ。体部外面はナナメハケ。	反転復元
585	落ち込み2（15）	1-1区	弥生土器 甕	(14.4)		6.15	口縁部8分の1	風化砂岩、赤色斑粒φ0.2～0.4cmを含む	内面 10YR7/1灰白 外面 2.5Y7/1灰白～5YR7/6橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。頸部内面は粘土紐接合痕、ユビオサエ。	反転復元
586	落ち込み2（15）	1-1区	弥生土器 甕(小型)	(14.2)		13.5	口縁部16分の1以下	石英、石英φ0.1～0.4cmを含む	内面 10YR7/3、にぶい黄橙 外面 10YR7/3、7/4にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。体部外面は緩ハケ、ナデメハケ。口縁部内面はヨコハケ、体部内面はヘラケズリ。	反転復元
587	溝28（242）	1-2区	土師器 甕	(12.2)		4.4	4分の3	長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR7/4にぶい橙 外面 7.5YR7/4にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもつ。頸部外面はユビオサエ。	反転復元
588	溝28（242）	1-2区	土師器 甕	(13.2)		3.3	4分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR5/8明赤褐 外面 10YR7/4にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は丸くおさめる。	反転復元

589	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 甕	(12.7)		4.6	4 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 5YR7/4 にぶい橙	緩やかに広がる柱状部。脚頂部は粘土塊を充填するもの。	反転復元
590	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 壺	頭部径 (8.3)		4.4	6 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.2 ～ 0.4 cm を含む	内面 5YR5/6 明赤褐 外面 2.5YR5/6 明赤褐	くの字に外反し立ち上がる口縁部をもつもの。頭部内面はユビオサエ。	反転復元
591	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 壺	(14.1)		9.2	3 分の 1	長石、片岩 φ 0.3 ～ 0.5 cm を多く含む	内面 10YR5/1 褐灰 外面 10YR6/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもつ。体部内面はヘラケズリ。	
592	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 甕	(26.8)		7.1	6 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR8/3 浅黄橙～ 10YR4/1 褐灰 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	くの字に屈曲し内湾気味に伸びる口縁部をもつ。体部外面はヘラケズリ。体部内面はヨコハケ。	反転復元
593	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 製塩土器	頭部径 (2.7)		2.4	10 分の 8	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR6/2 灰黄褐 外面 7.5YR6/3 にぶい褐	低い脚部をもつもの。脚部はハの字に張り出す。	反転復元
594	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 製塩土器		(6.1)	3.1	10 分の 8	チャート、片岩、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR5/1 褐灰 外面 10YR5/1 褐灰	低い脚部をもつもの。脚部はハの字に張り出す。	反転復元
595	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 小型丸底壺	(7.0)		5.8	10 分の 4	長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR8/3 浅黄橙	くの字に外反し立ち上がる口縁部をもつもの。底部は丸底で球形を呈する。底部内外面はユビオサエ。	反転復元
596	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 小型丸底壺	(7.9)		6.1	4 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 7.5YR8/3 浅黄橙	くの字に外反し立ち上がる口縁部をもつもの。底部は丸底で球形を呈する。底部内外面はユビオサエ。	反転復元
597	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 高杯	頭部径 (4.3)		4.1	8 分の 1	長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 2.5Y7/2 灰黄	椀形の杯部をもつもの。杯底部は粘土塊を充填し脚部と接合するもの。	反転復元
598	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 高杯	頭部径 (3.5)		6.1	10 分の 7	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 10YR8/2 灰白	緩やかに広がる脚部をもつもの。脚部内面はヘラケズリ。	反転復元
599	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 高杯	頭部径 (3.3)		5.3	2 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	緩やかに広がる中空の柱状部。杯部と脚部の接合は杯底部に脚頂部を挿入し付加していくもの。	反転復元
600	溝 28 (242)	1-2 区	土師器 高杯	頭部径 (4.0)		5.0	10 分の 6	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 2.5Y8/2 灰黄 外面 5YR6/6 橙	緩やかに広がる中空の柱状部。杯部と脚部の接合は杯底部に脚頂部を挿入し付加していくもの。	反転復元
601	竪穴建物 17 (51)	1-4 区	弥生土器 広口壺	(15.1)		2.8	8 分の 1	チャート、赤色斑 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 2.5YR6/6 橙 外面 5YR6/4 にぶい橙	緩やかに広がり口縁端部を垂下させるもの。端部外面には 2 段の円形浮文。櫛状工具による刺突文をもつ。	反転復元
602	竪穴建物 17 (51)	1-4 区	弥生土器 広口壺			3.1		チャート、赤色斑粒、風化砂岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 5Y5/1 灰 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	緩やかに外反し口縁端部を上下に拡張する。	
603	竪穴建物 17 (51)	1-1 区	弥生土器 壺			5.8	6 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.8 cm を含む	内面 10YR8/1 灰白 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に緩やかに外反する口縁部をもつもの。頭部外面は櫛描波状文をもつ。	反転復元
604	竪穴建物 17 (51)	1-4 区	弥生土器 甕	(17.4)		2.0	10 分の 1	チャート、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR3/1 黒褐 外面 10YR3/1 黒褐	くの字に外反する口縁部をもつもの。端部は上方に拡張し、凹線文を施す。	反転復元
605	竪穴建物 17 (51)	1-4 区	弥生土器 高杯	柱状部径 (5.4)		5.6	3 分の 1	チャート、片岩 φ 0.4 cm を含む	内面 2.5YR5/8 明赤褐 外面 5YR6/6 橙	直線的に立ち上がり中空の柱状部をもつもの。外面はヘラミガキ、内面はヘラケズリ。	反転復元
606	竪穴建物 17 (51)	1-4 区	弥生土器 高杯			7.0	4 分の 1	チャート、風化砂岩 φ 0.3 ～ 0.4 cm を含む	内面 2.5YR6/6 橙 外面 2.5YR6/6 橙	直線的に立ち上がり中空の柱状部をもつもの。内面は絞り痕が残る。	反転復元
607	竪穴建物 17 (51)	1-4 区	弥生土器 脚台		(9.1)	6.1	3 分の 1	長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y8/1 灰白 外面 7.5YR8/3 浅黄橙	ハの字に短く広がる裾部をもつもの。裾部に透かし穴をもつ。	反転復元
608	竪穴建物 17 (51)	1-4 区	弥生土器 壺	(11.9)		2.8	8 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 7.5YR7/2 明褐灰 外面 7.5YR6/2 灰褐	ハの字に広がる裾部をもつ。透かし穴は 2 個 1 対で穿孔される。	反転復元
609	竪穴建物 17 (51)	1-4 区	弥生土器 甕		1.6		2 分の 1	チャート、長石、輝石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR5/1 褐灰 外面 10YR6/2 灰黄褐	平底の底部をもつもの。底部外面はユビオサエ。	
610	竪穴建物 17 (51) 溝 2 (122)	1-4 区	弥生土器 広口壺			10.2	6 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 5Y8/2 灰白 外面 2.5Y8/3 浅黄	くの字に外反する頸部をもつもの。頸部から肩部にかけて櫛描直線文 6 条を施すもの。頸部内面はナデ。	反転復元
611	竪穴建物 18 (63)	1-1 区	弥生土器 壺			7.6	4 分の 1	角閃石、長石、金雲母 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR5/4 にぶい黄褐 外面 10YR4/2 灰黄褐	くの字に外折し、直線的に伸びる口縁部をもつもの。	生駒西麓産 反転復元
612	竪穴建物 18 (63)	1-1 区	弥生土器 甕		(6.3)	1.5	3 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 N5/ 灰 外面 N3/ 暗灰	平底の底部をもつもの。底部側面はユビオサエ。	反転復元
613	竪穴建物 19 (173)	1-2 区	弥生土器 甕	(15.6)		2.05	口縁部 16 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y6/1 黄灰～ 10YR6/2 灰黄褐 外面 7.5YR8/3 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもち、端部は外側に面をもち垂下させる。	反転復元
614	竪穴建物 19 (173)	1-2 区	弥生土器 高杯		(13.0)	2.8	裾部 8 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 5YR7/4 にぶい橙～ 2.5Y6/1 黄灰 外面 10YR8/3 浅黄橙	ハの字に広がる裾部をもつ。	反転復元
615	竪穴建物 20 (172)	1-2 区	弥生土器 甕	(19.0)		4.5	口縁部 6 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙～ 2.5Y8/2 灰白 外面 10YR8/3 浅黄橙、10YR5/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもち、端部は上方に拡張する。体部外面はタタキ。	反転復元
616	竪穴建物 20 (172)	1-2 区	弥生土器 甕	(18.0)		5.95	口縁部 12 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR7/4 にぶい黄橙～ 2.5Y7/2 灰黄 外面 10YR7/4 にぶい黄橙～ 2.5Y7/2 灰黄	くの字に外反する口縁部をもつもの。	反転復元
617	竪穴建物 20 (172)	1-2 区	弥生土器 壺		(3.2)	3.9	底部 3 分の 1	角閃石、長石、石英、金雲母 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR4/1 褐灰 外面 10YR5/2 灰黄褐～ 2.5Y6/3 にぶい黄	平底の底部をもつもの。底部外面は縦方向のヘラミガキ。内面はナデ。	生駒西麓産 反転復元
618	土坑 45 (241)	1-2 区	弥生土器 甕	(13.6)		5.9	6 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	くの字に短く外反する口縁部をもつ。端部には凹線文を施す。体部外面はタテハケ、ナナメハケ、内面は粗いタテハケ。	反転復元
619	土坑 45 (241)	1-2 区	弥生土器 甕	(15.6)		3.6	8 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 7.5YR6/4 にぶい橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ体部外面はヘラケズリ。	反転復元
620	土坑 45 (241)	1-2 区	弥生土器 甕	(14.4)		9.1	8 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	平底の底部をもつもの。外面はナデ、底部側面はユビオサエ。	大和 反転復元
621	土坑 45 (241)	1-2 区	弥生土器 甕	(32.9)		4.8	4 分の 1	チャート、片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 10YR8/2 灰白	くの字に外反する口縁部をもつ。口縁端部は凹線文を施す。体部外面はタタキ。	反転復元
622	土坑 45 (241)	1-2 区	弥生土器 壺		(5.4)	7.3	4 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 N3/ 暗灰 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	突出する平底をもつ。底部外面はヘラケズリ。	反転復元
623	土坑 45 (241)	1-2 区	弥生土器 甕		(6.0)	4.4	3 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 N3/ 暗灰～ 10YR6/3 にぶい黄橙	くの字に粗曲し内湾気味に伸びる口縁部をもつ。口縁部外面はユビオサエ、体部内面は板ナデ。	反転復元
624	土坑 46 (118)	1-1 区	弥生土器 甕	(14.0)		1.6	5 分の 1	チャート、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 5YR7/4 にぶい橙	くの字に外反し端部を上方に摘みあげるもの。	反転復元
625	土坑 46 (118)	1-1 区	弥生土器 甕		(4.4)	3.8	3 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 7.5YR6/6 橙 外面 7.5YR6/4 にぶい橙	突出したくぼみ底をもつ。内外面ともに磨滅。	反転復元
626	土坑 47 (84)	1-1 区	弥生土器 高杯	頭部径 (4.3)		11.0	10 分の 8	長石、片岩、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 5YR7/4 にぶい橙 外面 5YR6/6 橙	中空の柱状部をもち、杯底部は円盤充填技法による。内面は絞り痕が残る。	反転復元
627	土坑 48 (52)	1-4 区	弥生土器 高杯	(18.4)		7.3	10 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	椀形の杯部をもつ。杯部外面はヘラケズリ。内面はハケ。	反転復元
628	土坑 48 (52)	1-4 区	弥生土器 壺	(8.4)		7.0	6 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 2.5GY4/1 暗オリーブ灰 外面 7.5YR5/6 明褐	くの字に外反する口縁部をもち、体部外面はヘラミガキ。	反転復元

629	土坑 48 (52)	1-4 区	弥生土器 甕	(26.7)		6.1	10 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR3/1 黒褐 外面 7.5YR3/1 黒褐	くの字に外反する口縁部をもつ。肩部外面はヘラケズリ。	反転復元
630	土坑 48 (52)	1-4 区	弥生土器 甕			11.5	4 分の 1	片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cm、チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 2.5Y6/2 灰黄	斜格子目のタタキをもつ甕。内面はタテハケを施す。	反転復元
631	土坑 48 (52)	1-4 区	弥生土器 甕		(6.2)	2.6	10 分の 8	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 10YR6/2 灰黄褐	下方に張り出す底部をもつ。底部外面はユビオサエ。	反転復元
632	土坑 48 (52)	1-4 区	弥生土器 甕		7.4	4.0	10 分の 7	チャート、長石、φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 5Y3/1 オリーブ黒 外面 2.5Y4/1 黄灰	平底の底部をもつ。底部側面はユビオサエ。	反転復元
633	土器棺墓 6 (169)	1-3 区	弥生土器 壺		14.8	51.9	10 分の 7	チャート、長石、輝石、金雲母 φ 0.1 ～ 0.3 cm 含む	内面 N4/ 灰 外面 5Y7/2 灰白	肩が張る形態をもつ大型品。肩部外面には櫛描直線文、列点文を施す。体部内面はヘラケズリ。口縁部は頸部中ほどで打ち欠き水平にする。	瀬戸内 反転復元
634	土器棺墓 6 (169)	1-3 区	弥生土器 高杯	頸部径 (5.2)			10 分の 7	チャート、長石、片岩、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 7.5YR8/3 浅黄橙 外面 7.5YR6/4 にぶい橙	中空の柱状部をもち直線的に立ち上がる。内面はナデ。柱状部は粘土板により成形。杯底部は円盤充填技法による。	反転復元
635	土坑 49 (85)	1-1 区	弥生土器 器台			12.7	4 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 7.5YR6/8 橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	緩やかに外反する筒状部をもつ器台。中央に透かし穴をもつ。内面はユビオサエ。外面は磨滅により不明。	反転復元
636	土坑 50 (91)	1-4 区	弥生土器 高杯	頸部径 (5.0)		7.1	10 分の 7	チャート、長石、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 10YR8/2 灰白	直立気味に立ち上がる柱状脚から開く杯部をもつ。外面はヘラミガキ。杯底部は円盤充填技法による。	反転復元
637	土坑 51 (239)	1-2 区	弥生土器 広口壺	(20.8)		8.0	6 分の 1	チャート、砂岩、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR8/3 浅黄橙～ 7.5YR5/2 灰褐 外面 7.5YR7/4 にぶい橙～ 10YR5/1 褐灰	緩やかに広がる口縁部をもつ。口縁部端部は下方に垂下させる。	反転復元
638	土坑 51 (239)	1-2 区	弥生土器 壺			3.1	5 × 8 の破片	チャート、片岩、輝石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR4/1 褐灰 外面 10YR4/2 灰黄褐	櫛描直線文、櫛描波状文を交互に施すもの。	
639	土坑 51 (239)	1-2 区	弥生土器 高杯	柱状部径 4.4		4.0	10 分の 8	チャート、長石、輝石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 7.5YR6/4 にぶい橙 外面 2.5Y7/2 灰黄	中空の柱状部をもち、杯底部は円盤充填技法による。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
640	溝 29 (171)	1-2 区	弥生土器 壺	(20.3)		9.2	口縁部 ほぼ完形	チャート、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cm、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR5/3 浅黄橙、7.5YR6/4 浅黄橙 外面 10YR5/3 浅黄橙～ 7.5YR8/4 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。口縁端部は上方に拡張し、凹線文 3 条を施す。肩部には櫛描直線文を施す。	反転復元
641	溝 29 (171)	1-2 区	弥生土器 鉢	(19.0)		5.0	口縁部 12 分の 1	角閃石、長石、金雲母 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 2.5Y3/1 黒褐 外面 10YR5/2、4/2 灰黄褐	直立気味に立ち上がる口縁部をもつもの。口縁部外面は羽状の斜線文を施す。	生駒西麓産 反転復元
642	溝 29 (171)	1-2 区	弥生土器 高杯	25.8		8.7	口縁部 2 分の 1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 10YR6/1 褐灰、5YR7/6 橙	皿状の杯部をもち、口縁端部は内外に肥厚する。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
643	溝 29 (171)	1-2 区	弥生土器 台付鉢			7.1	口縁部 16 分の 1 以下	長石 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 5YR7/6 橙 外面 5YR7/6 橙	直立気味に立ち上がる口縁部をもち、外面に縦方向の貼り付け突帯を 5 条以上施すもの。	反転復元
644	溝 30 (177)	1-2 区	弥生土器 高杯		(14.8)	2.2	底部 6 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm を含む	内面 7.5YR8/3 浅黄橙 外面 5YR7/4 にぶい橙～ 2.5Y5/1 黄灰	ハの字に広がる裾部をもつ。裾端部は面を作り凹線文を施す。	反転復元
645	溝 30 (177)	1-2 区	弥生土器 甕		6.6	2.5	底部 3 分の 2	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 10YR8/2 灰白～ N4/ 灰 外面 2.5Y4/1 黄灰～ 7.5YR7/2 明褐灰	平底の底部をもつ底部外面は縦方向のヘラミガキ。内面は板条の圧痕が残る。	反転復元
646	溝 32 (170)	1-3 区	弥生土器 鉢	(20.7)	3.6	11.65	口縁部 8 分の 3	チャート、片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cm、風化砂岩 φ 0.2 cm	内面 7.5YR7/6 橙～ 5YR7/6 橙 外面 7.5YR7/6 橙～ 5YR7/6 橙	くの字に外反する口縁部をもち、底部は突出した平底をもつもの。底部側面はユビオサエ。	反転復元
647	溝 32 (170)	1-3 区	弥生土器 高杯			12.5	脚部完形	チャート、片岩、赤色斑粒 φ 0.3 cm を含む	内面 7.5YR8/4、8/6 浅黄橙 外面 7.5YR8/4、8/6 浅黄橙	中空の柱状部をもち直線的に立ち上がる。外面はヘラミガキ、内面はナデ。杯底部は円盤充填技法による。	反転復元
648	溝 33 (162)	1-2 区	弥生土器 甕		(6.6)	3.8	底部 4 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y8/2 灰白～ 2.5Y6/1 黄灰 外面 7.5YR7/3 にぶい橙	下方に張り出す底部をもつ。底部外面はユビオサエ。	反転復元
649	溝 33 (162)	1-2 区	弥生土器 壺	(17.4)		1.8	口縁部 16 分の 1	長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cm を含む	内面 7.5YR8/3 浅黄橙 外面 10YR8/2 灰白	緩やかに広がる口縁部をもち口縁端部を垂下させるもの。	
650	溝 31 (233)	1-2 区	弥生土器 甕			5.6	口縁部 16 分の 1 以下	チャート、長石、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙～ 5YR7/6 橙 外面 5YR7/6 橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。口縁端部外面は凹線文、体部外面はタタキを施す。	断面実測
651	溝 31 (233)	1-2 区	弥生土器 甕		(6.6)	8.0	底部 4 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.5 cm を含む	内面 10YR8/2 灰白～ 2.5Y6/1 黄灰 外面 10YR8/2 灰白	平底の底部をもち直線的に立ち上がるもの。内外面は磨滅により不明。	反転復元
652	溝 34 (54)	1-4 区	弥生土器 壺 (無頸)	(14.2)		2.9	12 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y7/1 灰白 外面 10YR6/2 灰黄褐	直立気味に立ち上がる口縁部をもつもの。外面はユビオサエ。	反転復元
653	溝 34 (54)	1-4 区	弥生土器 甕		(5.6)	3.8	2 分の 1	長石、片岩 φ 0.1 cm を含む	内面 10YR4/1 褐灰 外面 10YR4/1 褐灰	平底の底部をもつもの。底部外面、底部内面はユビオサエ。	反転復元
654	溝 34 (54)	1-4 区	弥生土器 小型壺	(11.1)		1.8	7 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 2.5Y6/1 黄灰 外面 10YR4/1 褐灰	くの字に外反する口縁部をもつもの。	反転復元
655	溝 34 (54)	1-4 区	弥生土器 小型壺	(11.4)		4.9	4 分の 1	長石、片岩 φ 0.1 cm を含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 10YR5/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部をもつもの。頸部内面はユビオサエ。	反転復元
656	自然流路 10 (176)	1-2 区	弥生土器 甕	(21.0)		4.4	口縁部 8 分の 1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 10YR7/2、7/3 にぶい黄橙 外面 10YR7/2、7/3 にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。口縁端部は上方に拡張し面を作る。体部外面はタタキ。	反転復元
657	自然流路 10 (176)	1-2 区	弥生土器 把手					チャート、長石 φ 0.1 cm を含む	内面 10YR8/2 灰白～ 2.5Y4/1 黄灰 外面 10YR8/2 灰白～ 2.5Y4/1 黄灰	水差しの把手。断面楕円形を呈する。	反転復元
658	自然流路 10 (176)	1-2 区	弥生土器 高杯			3.2		長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cm を含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙、7.5YR7/6 橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙、7.5YR7/6 橙	中空の柱状部をもつもの。杯底部は円盤充填技法による。直径 4 mm 程度の透かし穴を無数に穿孔する。	反転復元

付表２　遺物観察表　第２次調査
丁ノ町・妙寺遺跡（07－１区）出土土器・土製品

（　）は復元値

番号	遺構名 層位・詳細	地区	種類 器種	口径	底部径	器高	残存率	胎　土	色　調	形態・技法の特徴など	備考
1	包含層第3層	1-2・3区	土師器 皿	12.9	9.9	3.3	口縁部 4分の3	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cm、片岩φ0.3cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。内外面ともに磨滅。	
2	包含層第3層	1-2・3区	土師器 杯	16.8	15.1	4.3	口縁部 16分の5	チャート、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y8/2 灰白、5YR7/6 橙 外面　2.5Y8/2 灰白、5YR7/6 橙	わずかに外反する口縁端部をもつ。底部はユビオサエによる手づくね土器。	反転復元
3	包含層第3層	1-4区	土師器 羽釜	(30.2)		8.0	口縁部 10分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　5YR6/4 にぶい橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	くの字に外反屈曲する口縁部を持つ。鍔部の突出は低く、粘土紐をナデつけた程度である。	反転復元
4	包含層第3層	1-2・3区	土師器 羽釜	(27.6)	12.2		口縁部 7分の1	片岩、長石、チャート、輝石φ0.1～0.3cmを含む	内面　7.5YR7/3 にぶい橙 外面　7.5YR7/3 にぶい橙、7YR4/1 褐灰	くの字に外反屈曲する口縁部を持つ。口縁端部には沈線を施す。	反転復元
5	包含層第3層	1-2・3区	土師器 羽釜			15.0	体部 8分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR8/3 浅黄橙 外面　7.5YR6/4 にぶい橙	くの字に屈曲し、内湾気味に伸びる口縁部を持つ。鍔部は肩部上半に付き、長く突出する。	反転復元
6	包含層第3層	1-2・3区	土師器 羽釜	(32.4)		17.45	口縁部 3分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面　10YR8/2 灰白、5YR7/6 橙 外面　2.5YR7/6 橙、2.5Y4/1 黄灰	くの字に屈曲し、内湾気味に伸びる口縁部を持つ。口縁端部は内側に巻き込むように肥厚する。鍔部は長く突出する。	反転復元
7	包含層第3層 水田耕作土層	1-4区	土師器 羽釜			8.4	頸部 10分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR6/4 にぶい橙 外面　10YR6/3 にぶい黄橙	鍔部はの突出は低く、粘土紐をナデつけた程度である。	反転復元
8	包含層第3層	1-2・3区	瓦器 椀	(13.5)	4.2	4.9	口縁部 一部欠損	精良	内面　2.5Y6/1 黄灰 外面　2.5Y5/1 黄灰	口縁部にヨコナデ、内面は連結輪状の暗文と渦巻き状の暗文を施す。高台は断面台形状を呈する。	反転復元
9	包含層第3層	1-1区	白磁 椀	(15.8)		1.9	口縁部 14分の1	精良	内面　10Y8/1 灰白 外面　10Y8/1 灰白	玉縁状に肥厚する口縁端部をもつ。	反転復元
10	包含層第3層	1-1区	白磁 椀	(16.6)		2.5	口縁部 22分の1	精良	内面　5Y8/1 灰白 外面　5Y8/1 灰白	玉縁状に肥厚する口縁端部をもつ。	反転復元
11	包含層第3層	1-2・3区	青磁 椀		(5.8)	3.2	底部 7分の1	精良	内面　10Y6/2 オリーブ灰 外面　10Y6/2 オリーブ灰　2.5Y7/1 灰白	内面に片切彫文を施す。内外ともに貫入有。高台内は露胎する。	反転復元
12	包含層第3層	1-2・3区	青磁 椀		(5.4)	1.8	底部 2分の1	精良	内面　2.5GY6/1 オリーブ灰 外面　2.5Y6/1 オリーブ灰　2.5Y8/2 灰白	断面台形の高台をもつ。高台内面にも一部釉がかかる。内面片切彫文様を施す。トチン痕あり。	反転復元
13	包含層第3層	1-1区	青磁 椀		(5.4)	1.9	底部 6分の1	精良	内面　7.5Y6/2 灰オリーブ～5Y7/1 灰白 外面　7.5Y6/2 灰オリーブ～5Y7/1 灰白	断面台形の高台をもつ。高台の外面途中まで施釉。内面は輪状に釉が途切れる。	反転復元
14	包含層第3層	1-1区	白磁 椀		(5.0)	2.5	底部 3分の1	精良	内面　5Y8/1 灰白 外面　2.5Y8/1 灰白	外面に櫛目文様をもつ。底外面～高台内外面露胎。貫入有。	反転復元
15	包含層第4層	1-2・3区	青磁 椀	(15.2)		4.0	口縁部 8分の1	精良	内面　5GY6/1 オリーブ灰 外面　5GY6/1 オリーブ灰	内面に劃花文を施す。内外面貫入有。	反転復元
16	包含層第3層	1-2・3区	青磁 椀	(15.6)		3.9	口縁部 7分の1	精良	内面　10Y6/2 オリーブ灰 外面　10Y6/2 オリーブ灰	内面に片切彫文を施す。内外ともに貫入有。	反転復元
17	包含層第3層	1-1区	青磁 椀	(17.8)		3.4	口縁部 10分の1	精良	内面　5Y6/2 灰オリーブ 外面　5Y6/2 灰オリーブ	外面に片切彫による鎬蓮弁文を持つ。	反転復元
18	包含層第4層	1-2・3区	青磁 椀	(15.0)		4.7	口縁部 10分の1	精良	内面　10Y6/2 オリーブ灰 外面　10Y6/2 オリーブ灰	外面に片切彫による鎬蓮弁文を持つ。凹凸は大きい。	反転復元
19	包含層第4層	1-2・3区	常滑焼 大甕					長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　5YR5/3 にぶい赤褐 外面　5Y5/3 灰オリーブ　5Y4/3 暗オリーブ	内外面ともに自然釉が付着する。大甕の肩部。	断面実測
20	包含層第3層 水田耕作土層	1-4区	瓦質土鍋 釜	(20.4)		3.9	口縁部 7分の1	黒色粒φ0.1cm、長石φ0.1cmを少量含む	内面　2.5Y7/1 灰白 外面　2.5Y7/1 灰白	頸部部が内傾して立ち上がり、ヘラケズリは鍔下面に及ぶ。	反転復元
21	包含層第4層	1-2・3区	焼土 壁土					長石、チャートφ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5YR5/6 明赤褐 外面　2.5YR5/6 明赤褐	スサ入りの焼土、壁土と考えられる。	
22	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 受け皿	(4.4)	5.0	0.75	口縁部 2分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを少量含む 白っぽい胎土	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR8/2 灰白	口縁端部を内側に逆くの字状に折り曲げる受け皿。白色の色調を呈する。	反転復元
23	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	10.5	7.45	3.1	口縁部 3分の4	赤色斑粒、白色粒φ0.1～0.2cmを少量含む	内面　10YR8/4 浅黄橙 外面　10YR8/4 浅黄橙	底部から丸みを持って立ち上がる深身の皿。手づくね土器。	
24	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(10.6)	8.4	2.8	口縁部 3分の1	長石、チャートφ0.1cmを少量含む	内面　10YR8/4 浅黄橙 外面　10YR8/4 浅黄橙	深身の皿。底部から丸みを持って立ち上がる。手づくね土器。白色の色調を呈する。	反転復元
25	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	7.6	5.7	1.9	口縁部 3分の2	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む 白っぽい胎土質	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	深身の小型の皿。手づくね土器。白色の色調を呈する。	
26	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(8.6)	7.0	1.2	口縁部 2分の1	チャートφ0.1cmを少量含む。白っぽい胎土	内面　10YR8/4 浅黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙　5Y5/1 灰	口縁部が体部から直線的に張り出すもの。白色の色調を呈する。	反転復元
27	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(12.0)	8.1	3.5	口縁部 4分の1	長石φ0.1cm以下を少量含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	深身の皿。底部から丸みを持って立ち上がる。手づくね土器。白色の色調を呈する。	反転復元
28	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	8.9	6.25	1.65	口縁部 2分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR8/4 浅黄橙 外面　7.5YR8/6 浅黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	
29	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	8.5	5.9	1.7	口縁部 2分の1	長石0.1cmを少量含む	内面　5YR7/6 橙　2.5Y5/1 黄灰 外面　5YR7/6 橙　2.5Y5/1 黄灰	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
30	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(8.6)	6.0	1.55	口縁部 12分の5	赤色斑粒φ0.1cm、マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR8/6 浅黄橙 外面　7.5YR8/6 浅黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	反転復元
31	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	8.4	6.5	1.3	口縁部 16分の15	精良	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙　10YR8/3 浅黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
32	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	8.8	7.1	1.3	口縁部 4分の3	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR8/6 浅黄橙 外面　7.5YR8/6 浅黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。外面に板目が残る。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	
33	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	8.4	6.0	1.5	口縁部 4分の3	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含むマーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR8/6 浅黄橙　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR8/6 浅黄橙　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
34	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(8.6)	6.7	1.7	口縁部 4分の1	黒色粒、赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙　5Y5/1 灰	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残し、沈線がめぐる。	反転復元
35	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(8.2)	6.2	1.8	口縁部 2分の1	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	反転復元
36	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	8.7	6.1	1.6	口縁部 3分の3	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残し、沈線がめぐる。	
37	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(9.6)	6.8	1.75	口縁部 4分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。スス付着灯明か？	反転復元
38	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	8.8	6.8	1.5	口縁部 6分の5	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　10YR7/6 明黄褐　7.5YR8/6 浅黄橙 外面　10YR7/6 明黄褐　7.5YR8/6 浅黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	

39	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	8.4	6.4	1.65	口縁部 3分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の貼土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
40	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(9.6)	7.0	1.65	口縁部 8分の3	赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	反転復元
41	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(9.2)	7.0	1.6	口縁部 3分の1	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
42	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	8.2	6.5	1.6	口縁部 8分の7	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/4 にぶい橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	
43	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	9.3	6.75	1.3	口縁部 3分の2	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	
44	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(12.6)	8.4	3.1	口縁部 4分の1	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙　2.5Y4/1 黄灰	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
45	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(12.6)	8.6	2.7	口縁部 6分の1	赤色斑粒。チャートφ0.1～0.2cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、スノコ状の板状圧痕をもつ。	反転復元
46	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	11.6	8.0	3.05	口縁部 4分の1	赤色斑粒φ0.1cmを含む。マーブル状に二種の貼土混じる	内面　10YR8/3 浅黄橙　7.5YR7/6 橙 外面　10YR8/3 浅黄橙　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
47	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	13.4	8.6	2.75	口縁部 2分の1	赤色斑粒φ0.1～0.2cmを少量含む。マーブル状に二種の貼土混じる	内面　5YR7/6 橙　10YR8/4 浅黄橙 外面　5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
48	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(13.0)	8.6	3.0	口縁部 2分の1	チャート、長石φ0.1cmを含む。マーブル状に二種の貼土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕と思われる。	反転復元
49	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(12.2)	7.5	3.05	口縁部 8分の1	チャート、長石φ0.1cmを含む	内面　7.5YR7/6 橙　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
50	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	11.8	7.6	3.1	口縁部 8分の5	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
51	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 皿	11.9	8.2	2.85	口縁部 4分の3	赤色斑粒、チャートφ0.1cmを少量含む	内面　7.5Y8/6 浅黄橙 外面　7.5Y8/6 浅黄橙	底部から丸みを持って立ち上がる口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	
52	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	土師器 甕	(21.0)		5.6	口縁部 12分の1	チャート、長石、金雲母φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	くの字に短く屈曲し、内湾気味に伸びる口縁部を持つ。端部は上方に拡張する。	反転復元
53	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	東播系須恵器 片口鉢	(22.6)		4.1	口縁部 2分の1	長石0.1cmを少量含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　5Y7/1 灰白　口縁部 N5/ 灰	口縁部がやや外反気味に広がり、端部をわずかに上方に拡張するもの。	反転復元
54	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	東播系須恵器 片口鉢	(26.4)		4.1	口縁部 12分の1	長石0.1cmを少量含む	内面　口縁部 2.5Y3/1 黒褐　N7/ 灰白 外面　口縁部 2.5Y3/1 黒褐　N7/ 灰白	口縁部がやや外反気味に広がり、端部を上方に拡張するもの。	反転復元
55	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	東播系須恵器 片口鉢	(29.2)		3.8	口縁部 10分の1	チャート、姿石φ0.1cmを含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　5Y7/1 灰白　口縁 N5/ 灰	口縁部がやや外反気味に広がり、端部をわずかに上方に拡張するもの。	反転復元
56	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	東播系須恵器 片口鉢	(31.6)		5.8	口縁部 12分の1	長石、チャートφ0.1cmを少量含む	内面　口縁部 N3/ 暗灰 外面　5Y7/1 灰白より灰	口縁部がやや外反気味に広がり、端部をわずかに上方に拡張するもの。	反転復元
57	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	東播系須恵器 片口鉢		(9.0)	5.4	底部 3分の1	長石、チャートφ0.2～0.3cmを含む	内面　N7/1 灰白　N6/1 灰の間の色 外面　N7/1 灰白　N6/1 灰の間の色	静止糸切痕を残し、平坦な底部をもつ。	反転復元
58	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	東播系須恵器 皿		(5.2)	1.2	底部 2分の1	黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　2.5Y7/1 灰白 外面　2.5Y7/1 灰白	静止ヘラ切痕を残し、平坦な底部をもつ。	反転復元
59	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	施釉陶器 皿		(5.0)	1.6	底部 3分の1	石英0.1cmを少量含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　6/1 黄灰　2.5Y2/1 黒	外面にダール状の釉が付着する陶器皿。	反転復元
60	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	瓦器 椀	(13.4)		3.7	口縁部 3分の1	精良	内面　N5/ 灰 外面　N5/ 灰	外面ユビオサエ、内面は渦巻き状の暗文を施し、端部内面には沈線を施す。	反転復元
61	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	瓦器 椀	12.9	4.6	4.45	完形	長石φ0.1cm以下を少量含む	内面　5Y6/1 灰　5Y5/1 灰 外面　5Y6/1 灰　5Y5/1 灰	口縁部は内外面ヨコナデ、体部外面はユビオサエ。内面は渦巻き状の暗文を施す。断面三角形の高台をもつ。	
62	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	瓦器 椀	(14.4)		5.0	口縁部 8分の1	黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　N4/ 灰 外面　N4/ 灰	外面ユビオサエ、内面は渦巻き状の暗文を施す。断面三角形の高台をもち、端部内面には沈線を施す。	反転復元
63	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	瓦器 椀		(5.0)	1.2	底部 2分の1	チャートφ0.1cmを少量含む	内面　2.5Y6/1 黄灰 外面　2.5Y6/1 黄灰	内面は渦巻き状の暗文を施し、断面台形の高台をもつ。	反転復元
64	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	瓦器 椀	14.0	5.9	4.1	口縁部 4分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　5Y4/1 灰 外面　5Y4/1 灰	口縁部は内外面ヨコナデ。体部外面はユビオサエ。内面は渦巻き状の暗文を施し、断面三角形の高台をもつ。	反転復元
65	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	瓦器 椀	(12.6)	2.4	3.75	口縁部 3分の1	黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　5Y6/1 灰　5Y5/1 灰 外面　5Y6/1 灰　5Y5/1 灰	口縁部の内外面に強いヨコナデを施し、外反気味に広がる。体部外面はユビオサエ。内面は渦巻き状の暗文を施す。	反転復元
66	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	瓦器 椀	(12.0)	2.9	3.7	口縁部 3分の1	黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　5Y4/1 灰よりやや灰 外面　5Y4/1 灰よりやや灰	口縁部の内外面に強いヨコナデを施し、外反気味に広がる。体部外面はユビオサエ。内面は渦巻き状の暗文を施す。	反転復元
67	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	瓦器 椀	13.0	4.5	4.45	口縁部 4分の1	黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　N4/ 灰 外面　N4/ 灰	外面ユビオサエ、内面は連結輪状の暗文と渦巻き状の暗文を施し、断面三角形の高台をもつ。端部内面には沈線を施す。	反転復元
68	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	瓦器 椀		3.8	2.5	底部 ほぼ完形	チャートφ0.1cmを少量含む	内面　N5/ 灰　5Y6/ 灰 外面　N5/ 灰　5Y6/ 灰	外面ユビオサエ、内面は連結輪状の暗文と渦巻き状の暗文を施し、断面台形の高台をもつ。	反転復元
69	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	瓦器 皿	11.2	7.35	2.45	口縁部 6分の5	チャート、黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　5Y5/1 灰　5Y6/1 灰	口縁部は内外面ヨコナデ、体部外面はユビオサエ。	
70	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	備前焼 大甕		(34.2)	6.1	底部 12分の1	長石、黒色粒0.1～0.3cmを含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　N8 灰	平坦な底部から直線的に立ち上がる。底部外面はヘラケズリを施す。須恵質に近い焼き上がりを呈する。	反転復元
71	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 皿	(11.0)		2.3	口縁部 8分の1	精良	内面　5Y6/2 灰オリーブ 外面　5Y6/2 灰オリーブ　露胎 5Y7/1 灰白	同安窯産釉はやや透明がかった緑色を呈する。底部は露胎する。	反転復元
72	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 碗	(13.4)		3.65	口縁部 8分の1	精良	内面　2.5GY6/1 オリーブ灰 外面　2.5GY6/1 オリーブ灰	外面に片切彫による鎬蓮弁文を持つ。凹凸は大きい。内面貫入有。	反転復元
73	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 碗	(16.6)		4.4	口縁部 10分の1	精良	内面　7.5Y5/3 灰オリーブ 外面　7.5Y5/3 灰オリーブ	外面に片切彫による鎬蓮弁文を持つ。凹凸は大きい。内外面ともに貫入有。	反転復元

74	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 碗		(9.8)	1.7	底部 3分の1	精良	内面・外面　5Y5/3 灰オリーブ 露胎 7.5YR7/4 にぶい橙	畳付部分は釉を削り取り，細く尖った形状の高台をもつ。内外面貫入有。	反転復元
75	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 碗	(12.8)		2.2	口縁部 2分の1	精良	内面　7.5Y5/3 灰オリーブ 外面　7.5Y5/3 灰オリーブ	口縁部が外反するもの。	反転復元
76	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 碗	(13.6)		3.95	口縁部 10分の1	精良	内面　10GY7/1 明緑灰より緑がかる 外面　10GY7/1 明緑灰より緑がかる	外面に片切彫による鎬蓮弁文を持つ。凹凸は大きく開弁をもつ。外面貫入有。	反転復元
77	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 碗	(15.4)		4.7	口縁部 10分の1 以下	精良	内面　10Y6/2 オリーブ灰 外面　10Y6/2 オリーブ灰	外面に片切彫による鎬蓮弁文を持つ。凹凸は大きく開弁をもつ。	反転復元
78	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 盤	(23.0)		3.1	口縁部 6分の1	精良	内面　5Y5/3 灰オリーブ 外面　5Y5/3 灰オリーブ	口縁部をくの字状に屈曲させ，端部を上方へ摘みあげるもの。内外面貫入有。	反転復元
79	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 盤	(22.2)		3.25	口縁部 6分の1	精良	内面　10GY7/1 明緑灰より緑がかる 外面　10GY7/1 明緑灰より緑がかる	口縁部をくの字状に屈曲させ，端部を上方へ摘みあげるもの。内外面貫入有。	反転復元
80	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 盤	(21.6)		4.3	口縁部 3分の1	精良	内面　5Y5/3 灰オリーブ 外面　5Y5/3 灰オリーブ	口縁部をくの字状に屈曲させ，端部を上方へ摘みあげるもの。内外面貫入有。	反転復元
81	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 1層	1-2・3区	青磁 盤		(10.4)	2.2	底部 8分の1	精良	内面　10GY8/1 明緑灰より緑色 外面　10GY8/1 明緑灰，7.5YR6/3 にぶい褐	畳付部分は釉を削り取り，細くとがった形状の高台をもつ。内外面貫入有。	反転復元
82	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 皿	8.4	7.4	1.45	口縁部 8分の7	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕，板状圧痕を残す。	
83	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 皿	8.4	6.4	1.4	口縁部 12分の11	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　10YR7/6 明黄褐 外面　10YR7/4 にぶい黄橙，5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕，板状圧痕を残す。	
84	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 皿	9.2	5.7	1.5	口縁部 4分の1	長石，赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR6/3 にぶい黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転ヘラ切痕を残す。	反転復元
85	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 皿	(8.6)	6.2	1.7	口縁部 2分の1	赤色斑粒，長石φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕，板状圧痕を残す。	反転復元
86	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 皿	8.8	6.5	1.25	口縁部 8分の5	ほとんど含まない．マーブル状に二種の胎土混じる．赤褐胎土	内面　7.5YR8/6 浅黄橙 外面　10YR8/4 浅黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
87	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 皿	12.4	8.2	3.4	口縁部 4分の1	赤色斑粒0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
88	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 皿	(12.4)	(7.1)	3.0	口縁部 2分の1	赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR8/6 浅黄橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕，板状圧痕を残す。	反転復元
89	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 皿	(13.4)	9.3	2.6	口縁部 8分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から外反気味に伸びる口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
90	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 皿	12.4	9.4	3.0	口縁部2 分の1	赤色斑粒φ0.1～0.2cmを少量含む。二種の胎土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から丸みを持って立ち上がる深身の皿。底部外面に回転糸切痕を残す。	
91	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 土錘	長さ3.3				赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	断面円形の管状土錘。内外面ともにナデ。	
92	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	土師器 甕	(15.2)		5.7	口縁部 16分の1 以下	チャート，長石φ0.1cmを少量含む	内面 10YR6/3 にぶい黄橙 外面　10YR5/2 灰黄褐，10YAR3/1 黒褐	くの字に短く屈曲し，内湾気味に伸びる口縁部を持つ。端部は内側へ巻き込むように肥厚する。	反転復元
93	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	東播系須恵器 片口鉢	(23.2)		4.2	口縁部 8分の1	長石0.1cmを含む	内面　5Y6/1 灰 外面　5Y6/1 灰，N6/1 灰	口縁部がやや外反気味に広がり，端部をわずかに上方に拡張するもの。	反転復元
94	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	白磁 四耳壺				4分の1	精良	内面　7.5Y6/1 灰白 外面　7.5Y7/1 灰	内面は回転ナデによる段をもつ。	反転復元
95	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	青磁 碗	(12.6)		3.8	口縁部 8分の1	精良	内面　2.5GY6/1 オリーブ灰 外面　2.5GY6/1 オリーブ灰	外面に片切彫による鎬蓮弁文を持つ。鎬はわずかに残る。	反転復元
96	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	青磁 碗		(7.2)	1.4	底部 2分の1	精良	内面　7.5GY7/1 明緑灰 外面　7.5GY7/1 明緑灰	高台内は露胎し，離れ砂痕跡をもつ。 メンコに転用される。	反転復元
97	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	青磁 盤		(10.4)	3.3	底部 8分の1		内面　10GY7/1 明緑灰 外面　10GY7/1 明緑灰	畳付部分は釉を削り取り，細くとがった形状の高台をもつ。内外面貫入有。	反転復元
98	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 2層	1-2・3区	常滑焼 大甕	(45.0)		9.6	口縁部 6分の1	長石，チャートφ0.1cmを含む	内面　2.5YR4/1 赤灰，5Y5/2 灰オリーブ 外面　2.5YR4/1 赤灰，5Y5/2 灰オリーブ	口縁部が水平方向に外反屈曲し，口縁端部を上方に拡張し，受け口状の口縁部を呈する。	反転復元
99	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	土師器 皿	(9.0)	7.0	1.35	口縁部 4分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。	反転復元
100	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	土師器 皿	8.2	6.2	1.3	口縁部 4分の3	チャート，長石φ0.1cmを少量含む．マーブル状に二種の胎土混じる	内面　5YR7/6 橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
101	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	土師器 皿	9.0	6.5	1.6	完形	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　5YR7/6 橙　10YR5/2 灰黄褐 外面　5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ．端部外面は沈線を施す。底部外面は回転ヘラ切痕を残す。	
102	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	土師器 皿	8.3	6.1	1.6	口縁部 8分の6	チャートφ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　2.5YR7/6 橙 外面　7.5YR8/4 浅黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。	
103	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	土師器 皿	(9.6)	6.1	1.5	口縁部 4分の1	片岩φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
104	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	土師器 皿	8.35	7.65	1.1	完形	赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
105	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	土師器 皿	12.2	7.4	2.9	口縁部 10分の1	赤色斑粒φ0.1cm少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
106	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	瓦器 椀	(11.2)	3.4	3.35	口縁部 4分の1	赤色斑粒，長石φ0.1cmを含む	内面　2.5Y4/1 黄灰，2.5Y6/1 黄灰 外面　10YR8/4 浅黄橙	口縁部は内外面ヨコナデ，体部外面はユビオサエ。内面は渦巻き状の暗文を施す。断面三角形の高台をもつ。	反転復元
107	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	瓦器 椀	(14.0)		3.7	口縁部 4分の1	チャート，黒色粒φ0.1cm以下を少量含む	内面　5/ 灰　5Y6/1 灰 外面　5/ 灰　5Y6/1 灰	口縁部は内外面に強いヨコナデ，体部外面はユビオサエ。内面は渦巻き状の暗文を施す。端部内面に沈潜を施す。	反転復元
108	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	白磁 口禿皿	(12.8)		2.6	口縁部 16分の1	精良	内面　5Y8/1 灰白　口縁部 N5/ 灰 外面　5Y8/1 灰白　口縁部 N5/ 灰	口禿の白磁である。内外面ともに火中し，端部は無釉で煤が付着する。	反転復元
109	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	青磁 碗	(15.2)		4.25	口縁部 10分の1	精良	内面　5Y6/3 オリーブ黄 外面　5Y6/3 オリーブ黄	内面に劃花文を施す。内外面貫入有。	反転復元

110	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	青磁 盤		(9.6)	1.75	底部 3分の1	精良	内面　10GY8/1 明緑灰 外面　10GY8/1 明緑灰	畳付部分は釉を削り取り、幅くとがった形状の高台をもつ。内外面貫入有。	反転復元
111	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	焼土 壁土					チャート、長石φ0.3～0.4cmを含む	内面　7.5YR8/4 浅黄橙、10YR8/2 灰白 外面　7.5YR8/4 浅黄橙、10YR8/2 灰白	スサ入りの焼土。壁土と考えられる。	
112	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	焼土 壁土					チャート、長石φ0.3～0.4cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙、10YR5/1 褐灰 外面　10YR7/4 にぶい黄橙　10YR8/3 浅黄橙	スサ入りの焼土。壁土と考えられる。	
113	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 3層	1-2・3区	東播系須恵器 片口鉢	(30.0)		3.4	口縁部 8分の1	長石0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y4/1 黄灰 外面　2.5Y4/1 黄灰、N7/　灰白	口縁部がやや外反気味に広がり、端部をわずかに上方に拡張するもの。	反転復元
114	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	(8.4)	(7.3)	1.1	口縁部 8分の3	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面 7.5YR8/4 浅黄橙 外面 7.5YR8/4 浅黄橙、7.5YR7/4 にぶい橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
115	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	8.65	5.75	1.4	口縁部 4分の3	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙、7.5YR5/2 灰褐	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	
116	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	8.6	6.8	1.15	口縁部 4分の3	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　10YR8/4 浅黄橙 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	
117	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	(9.0)	7.6	1.3	口縁部 8分の3	チャートφ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　2.5YR6/6 橙、2.5Y5/1 黄灰 外面　2.5YR6/6 橙　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は静止糸切痕を残す。スス付着し灯明皿か？	反転復元
118	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	9.1	7.15	1.3	口縁部 2分の1	白色粒φ0.1cm以下を少量含む。水簸粘土	内面　5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
119	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	8.5	6.4	1.4	完形	赤色斑粒φ0.1～0.2cm、マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
120	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	(8.6)	6.4	1.4	口縁部 8分の3	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
121	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	8.7	6.5	1.6	口縁部 6分の5	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
122	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	(8.8)	6.4	1.45	口縁部 8分の3	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
123	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	8.7	6.7	1.5	口縁部 2分の1	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
124	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	(8.4)	7.2	1.3	口縁部 2分の1	チャート、長石φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　5YR6/6 橙、7.5YR6/4 にぶい橙 外面　5YR6/6 橙、7.5YR6/4 にぶい橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は静止糸切痕を残す。スス付着。	反転復元
125	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	(13.5)	10.4	2.3	口縁部 16分の1	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から丸みを持って立ち上がる口縁部をもつ。口縁部は内外面ともに強いナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
126	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	12.6	8.95	2.75	口縁部 2分の1	長石、赤色斑粒0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR6/4 にぶい橙、10YR4/1 褐灰 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	底部から丸みを持って立ち上がる口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。スス付着。	反転復元
127	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	土師器 皿	11.8	8.1	2.75	口縁部 8分の5	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR7/6 橙、10YR8/3 浅黄橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	
128	掘立柱建物2 布掘溝(1256) 4層	1-2・3区	瓦器 椀	(13.6)		3.55	口縁部 6分の1	チャート、黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　2.5Y5/1 黄灰 外面　2.5Y8/2 灰白、2.5Y5/1 黄灰	口縁部は内外面ヨコナデ、体部外面はユビオサエ。内面は渦巻き状の暗文を施す。	反転復元
129	掘立柱建物2 P4(1282) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(8.8)	6.3	1.55	口縁部 6分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
130	掘立柱建物2 P4(1282) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(9.0)	6.6	2.1	口縁部 8分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む。マーブル状に二種の胎土混じる	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	反転復元
131	掘立柱建物2 P4(1282)	1-2・3区	土師器 皿	(8.0)	6.0	1.35	口縁部 4分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	底部から丸みをもって伸びる口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
132	掘立柱建物2 P4(1282)	1-2・3区	瓦器 椀	(12.0)		3.5	口縁部 16分の1以下	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　5Y4/1 灰 外面　5Y4/1 灰	外面ユビオサエ、内面は渦巻き状の暗文を施す。	反転復元
133	掘立柱建物2 P4(1282)	1-2・3区	東播系須恵器 片口鉢	(29.0)		6.55	口縁部 6分の1	チャート、長石φ0.3～0.1cmを含む	内面　N6/ 灰 外面　N6/ 灰、自然釉部分 5Y4/1 灰	口縁部がやや外反気味に広がり、端部をわずかに上方に拡張するもの。	反転復元
134	掘立柱建物2 P3(1269) 1層	1-2・3区	瓦器 椀	(13.0)		2.7	口縁部 6分の1	精良	内面　N5/ 灰 外面　N5/ 灰	外面ユビオサエ、内面は渦巻き状の暗文を施す。端部内面には沈線を施す。	反転復元
135	掘立柱建物2 P1(1277) 1層	1-2・3区	土師器 皿	(8.4)	6.1	1.8	口縁部 4分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕、板状圧痕を残す。	反転復元
136	掘立柱建物2 P7(1275) 1層	1-2・3区	焼土、 壁土					チャート、長石、φ0.1～0.5cmを含む。スサ入り	内面　2.5Y5/1 黄灰　10YR6/3 にぶい黄橙 外面　2.5Y5/1 黄灰　10YR6/3 にぶい黄橙	スサ入りの焼土。壁土と考えられる。	
137	礎石建物1 礎石1(1278) 1層	1-2・3区	瓦器 椀	(13.0)		2.6	口縁部 6分の1	精良	内面　N5/ 灰 外面　N5/ 灰	外面ユビオサエ、内面は渦巻き状の暗文を施す。口縁部は強いナデにより外反する。	反転復元
138	礎石建物1 礎石7(1271) 1層	1-2・3区	瓦器 椀	(13.1)	5.0	3.65	口縁部 16分の1以下	黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　5Y4/ 灰 外面　5Y4/ 灰　5Y7/1 灰白	外面ユビオサエ、内面は渦巻き状の暗文を施す。断面三角形の高台をもつ。	反転復元
139	土坑4(1257)	1-2・3区	焼土 壁土					チャート、長石、片岩φ0.1～0.4cmを含む。スサ入り	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	スサ入りの焼土。壁土と考えられる。	
140	土坑4(1257)	1-2・3区	青磁 水注 不遊環					精良	内面　10GY7/1 明緑灰より、緑 N6/ 灰 外面　10GY7/1 明緑灰より、緑 N6/ 灰	水注の不遊環と考えられる。	
141	土坑4(1257)	1-2・3区	白磁 四耳壺		肩部 (2.0)		肩部 4分の1	精良	内面　7.5Y6/1 灰 外面　2.5GY5/1 オリーブ灰	白磁の肩部。カキ目をもち、把手の痕跡が残る。	反転復元
142	土坑1(1255) 炭化物層	1-2・3区	土師器 皿	(8.4)	6.6	1.65	口縁部 3分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含むマーブル状に二種の胎土混じる	内面　7.5YR8/6 浅黄橙 外面　7.5YR8/6 浅黄橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
143	土坑1(1255) 炭化物層	1-2・3区	土師器 皿	(10.0)	9.0	1.75	口縁部 4分の1	精良	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元

144	土坑1(1255) 炭化物層	1-2・3区	姫土 壁土					チャート、長石、φ0.1～0.4cmを含むスサ入り	内面　7.5YR8/4 浅黄橙 外面　7.5YR8/4 浅黄橙	スサ入りの焼土。壁土と考えられる。	
145	土坑1(1255) 炭化物層	1-2・3区	土師器 皿	(12.4)	9.0	2.75	口縁部 8分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1cmを少量含み、マーブル状に貼土痕じる	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
146	土坑1(1255) 炭化物層	1-2・3区	土師器 皿	(13.2)	8.2	2.7	口縁部 6分の1	精良　水簸粘土	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
147	土坑1(1255) 炭化物層	1-2・3区	瓦器 椀	(13.6)		3.0	口縁部 12分の1	精良	内面　2.5Y8/2 灰白　2.5Y5/1 黄灰 外面　2.5Y8/2 灰白	外面ユビオサエ、内面は渦巻き状の暗文を施す。端部内面には沈線を施す。焼成不良。	反転復元
148	土坑1(1255) 炭化物層	1-2・3区	青磁 碗	(16.6)		4.25	口縁部 6分の1	精良	内面　10GY7/1 明緑灰 外面　10GY7/1 明緑灰	外面に片切彫による鎬蓮弁文を持つ。凹凸は大きい。	反転復元
149	ピット1(1252)	1-2・3区	土師器 皿		(7.5)		底部 4分の1	赤色斑粒φ0.1～0.2cmを少量含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/4 にぶい橙	底部外面は回転糸切痕を残す。	反転復元
150	ピット1(1252)	1-2・3区	瓦器 皿	(11.8)		3.0	口縁部 9分の1	精良	内面　N4/ 灰 外面　N4/ 灰	外面ミガキ、内面渦巻き状の暗文を施す。口縁部はわずかに外反する。	反転復元
151	ピット1(1252)	1-2・3区	瓦器 椀	12.6	3.3	3.4	2分の1	精良	内面　5Y5/1 灰 外面　5Y5/1 灰	外面ユビオサエ、内面は渦巻き状の暗文を施す。口縁部は強いナデにより外反する。断面台形の高台をもつ。	反転復元
152	ピット1(1252)	1-2・3区	瓦器 椀				口縁部 8分の1	精良	内面　5Y4/1 灰 外面　5Y4/1 灰	外面ユビオサエ、内面は渦巻き状の暗文を施す。口縁部は強いナデにより外反する。	断面実測
153	溝1(1033)	1-1区	土師器 皿	14.0		2.5	2分の1	長石　チャートφ0.1cmを少量含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR8/2 灰白	底部から丸みをもって伸びる口縁部をもつ。口縁部は内外面ともにナデ。底部外面は回転糸切痕を残す。	
154	土坑2(1268)	1-2・3区	備前焼 大甕	(49.4)		10.3	口縁部 10分の1	長石、黒色粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　N7/ 灰白～3/ 暗灰 外面　N7/ 灰白～3/ 暗灰	口縁部を丸く折り曲げ、玉縁状を呈する。焼成は還元焔焼成で須恵質に焼きあがる。間壁編年II期の備前焼か。	反転復元
155	土坑2(1268)	1-2・3区	備前焼 大甕	(49.0)		17.9	口縁部 12分の1以下	長石、黒色粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　5Y6/1 灰 外面　N6/ 灰、2.5Y8/1 灰白、2.5Y7/2 灰黄	口縁部を丸く折り曲げ、玉縁状を呈する。焼成は還元焔焼成で須恵質に焼きあがる。	反転復元
156	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 杯A	(13.1)		3.2	8分の1	赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/4 にぶい橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもち、端部は強いナデにより外反気味におわる。	反転復元
157	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 椀A	(14.0)		3.0	10分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを少量含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	底部から外反気味に伸びる口縁部をもつ。	反転復元
158	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 杯A	(14.4)		2.9	8分の1		内面　2.5Y8/2 灰白 外面　2.5Y8/2 灰白	底部から直線的に張り出す口縁部をもち、端部は強いナデにより外反気味におわる。	反転復元
159	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 椀C	(16.0)		2.3	10分の1	黒色斑φ0.1cmを含む	内面　2.5YR6/6 橙 外面　5YR5/4 にぶい赤褐	底部から外反気味に伸びる口縁部をもつ。	反転復元
160	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 皿C	(11.7)		1.7	10分の1		内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　5YR5/4 にぶい赤褐	底部から外反気味に伸びる口縁部をもつ。	反転復元
161	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 皿C	(14.5)		2.6	10分の1	赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR5/3 にぶい黄褐 外面　10YR5/3 にぶい黄褐	底部外面をヘラケズリにより調整するC手法による。口縁部は外反気味におおめる。	反転復元
162	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 皿A	(17.0)		2.9	10分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR5/2 灰褐 外面　7.5YR5/2 灰褐	底部外面ヘラケズリを施すC手法による。	反転復元
163	掘立柱建物3 P10(1190)	1-2・3区	土師器 皿A	(17.4)		2.5	12分の1		内面　10YR5/2 灰黄褐 外面　10YR6/2 灰黄褐	底部から緩やかに伸びる口縁部をもち、内面には漆状の付着物が残る。	反転復元
164	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 皿A	(18.3)		2.7	12分の1	長石、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR6/2 灰黄褐	底部から外反気味に伸びる口縁部をもち、端部を外側へさらに外反させる。端部に沈線を施す。	反転復元
165	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 皿A	(19.5)		2.0	12分の1		内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	底部から外反気味に伸びる口縁部をもち、端部を外側へ拡張する。	反転復元
166	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 皿A	(18.6)		2.0	6分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.3cmを少量含む	内面　2.5YR6/6 橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	底部から外反気味に伸びる口縁部をもち、端部を外側へさらに外反させる。	反転復元
167	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 皿A	(19.9)		3.0	8分の1	赤色斑粒φ0.2cmを含む	内面　2.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	底部から直線的に張り出す口縁部をもち、端部は強いナデにより外反気味におわる。	反転復元
168	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 甕	(13.9)		3.2	5分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面　5YR6/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/3 にぶい橙～7.5YR5/2 灰褐	くの字に外反する口縁部をもつ。口縁端部把は摘みあげ気味におわる。	反転復元
169	掘立柱建物3 P6(1186)	1-2・3区	土師器 甕	(21.1)		3.6	10分の1	赤色斑粒φ0.2cmを含む	内面　7.5YR8/3 浅黄橙 外面　7.5YR7/3 にぶい橙	くの字に外反し、内側に肥厚するもの。口縁部内面ヨコハケ。	反転復元
170	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	土師器 高杯	(15.4)		2.3	10分の1	長石、赤色斑粒φ0.3cmを少量含む	内面　5YR6/4 にぶい橙 外面　7.5YR6/2 灰褐	皿状の杯部をもつ小型の高杯。端部は丸く肥厚する。外面にわずかにヘラミガキが残る。	反転復元
171	掘立柱建物3 P4(1184)	1-2・3区	土師器 高杯			4.1	4分の1	長石、赤色斑粒を少量含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y7/2 灰黄	外面をメントリした断面多角形の柱状部をもつもの。	反転復元
172	掘立柱建物3 P6(1186)	1-2・3区	土師器 土錘		直径 1.5	2.9	2分の1	長石φ0.1cmを少量含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y7/2 灰黄	断面円形の管状土錘。内外面ともにナデ。	
173	掘立柱建物3 P10(1190)	1-2・3区	土師器 製塩土器	(12.8)		3.4	8分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　2.5Y8/3 淡黄	内湾気味に立ち上がり端部にかけて肥厚する。端部は内傾する面を作り、凹線状のナデを施す。	反転復元
174	掘立柱建物3 P4(1184)	1-2・3区	土師器 製塩土器	(9.3)		5.0	7分の1	チャート、長石φ0.1cmを含む	内面　5YR6/4 にぶい橙 外面　7.5YR6/4 にぶい橙	内湾気味に立ち上がり端部は肥厚して丸く収めるもの。内外面ともにユビオサエとナデ調整を施す。	反転復元
175	掘立柱建物3 P13(1249)	1-2・3区	須恵器 製塩土器			5.9	6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5GY5/1 オリーブ灰 外面　2.5Y5/2 暗灰黄	外反気味に立ち上がる。外面ユビオサエ、内面繊維状の工具によるナデ。	反転復元
176	掘立柱建物3 P6(1186)	1-2・3区	須恵器 蓋	(13.9)		1.3	5分の1	長石φ0.2cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
177	掘立柱建物3 P6(1186)	1-2・3区	須恵器 蓋	(12.6)		1.1	8分の1	長石φ0.1cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
178	掘立柱建物3 P6(1186)	1-2・3区	須恵器 蓋	(14.4)		1.0	8分の1	長石、黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
179	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	須恵器 蓋 転用硯	(14.6)		1.1	6分の1	チャート、長石φ0.1cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。転用の痕跡あり。転用硯か。	反転復元
180	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	須恵器 蓋	(15.6)		0.9	8分の1	チャート、長石φ0.2cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N6/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
181	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	須恵器 墨書土器 蓋	(13.6)		2.1	5分の1	長石φ0.1cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	天井部から口縁部へ緩やかに屈曲し、端部を垂下させるもの。墨書「采●」をもつ。	反転復元
182	掘立柱建物3 P10(1190)	1-2・3区	須恵器 杯B	(14.5)		3.7	10分の1	長石φ0.1cmを少量含む	内面　N8/　灰 外面　N5/　灰	端部付近を強くなでつけ、外反気味におさめる。	反転復元
183	掘立柱建物3 P8(1188)	1-2・3区	須恵器 杯B		(9.8)	1.5	6分の1	黒色粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　10Y7/1 灰白 外面　10Y7/1 灰白	断面台形の貼り付け高台をもつ。高台の端面に沈線を施す。	反転復元
184	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	須恵器 杯B	(12.8)	(9.9)	3.9	4分の1	チャート、長石φ0.1cmを含む	内面　N6/　灰 外面　N5/　灰	断面台形の貼り付け高台をもつ。底部は回転ヘラ切ののち高台貼り付け。	反転復元
185	掘立柱建物3 P8(1188)	1-2・3区	須恵器 杯B		(11.9)	1.5	8分の1	長石、黒色斑φ0.1cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N4/　灰	内側に張り出す断面台形の貼り付け高台をもつ。高台の端面は凹む。	反転復元
186	掘立柱建物3 P9(1189)	1-2・3区	須恵器 杯B		(13.0)	1.5	4分の1	黒色粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　N5/　灰 外面　5B5/1 青灰	幅広の断面台形の貼り付け高台を持ち、高台端面はナデにより凹む。	反転復元
187	掘立柱建物3 P8(1188)	1-2・3区	須恵器 杯B	(16.2)	(13.0)	5.3	4分の1		内面　7.5Y5/1 灰 外面　N6/　灰	高台から底部へ緩やかに屈曲し、幅広の断面台形の貼り付け高台を持つ。内面に重ね焼きの底跡残る。	反転復元
188	掘立柱建物4 P12(1203)	1-2・3区	土師器 杯A	(11.2)		3.7	10分の1	チャート、長石φ0.1cmを少量含む	内面　5YR5/3 にぶい赤褐 外面　7.5YR7/3 にぶい橙	底部から丸みを持って立ち上がり、端部は肥厚し内側に沈線を施す。内面はヘラミガキ。	反転復元
189	掘立柱建物4 P11(1202)	1-2・3区	土師器 皿A	(13.3)		2.4	7分の1	チャート、長石φ0.1cmを少量含む	内面　2.5YR8/2 灰白 外面　5YR6/6 橙	底部から外反気味に伸びる口縁部をもち、端部を外側へさらに外反させる。底部外面はヘラケズリ。	反転復元

190	掘立柱建物4 P9(1200)	1-2・3区	土師器 黒書土器 皿・椀				小破片	赤色斑粒 φ 0.2～0.3 cmを含む	内面　10YR5/2 灰黄褐 外面　10YR5/2 灰黄褐	黒書「十」をもつ。	断面実測
191	掘立柱建物4 P15(1234)	1-2・3区	土師器 製塩土器	(8.8)		3.9	6 分の 1	チャート φ 0.3 cmを含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/4 にぶい橙	内湾気味に立ち上がり丸く肥厚する端部をもつ。内外面ともにユビオサエ。	反転復元
192	掘立柱建物4 P9(1200)	1-2・3区	土師器 製塩土器	(11.5)		4.6	6 分の 1	チャート、長石、片岩 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。端部は丸く肥厚する。内外面ともにユビオサエ。	反転復元
193	掘立柱建物4 P2(1193)	1-2・3区	土師器 高杯			1.7	2 分の 1	赤色斑粒、風化礫 φ 0.1 cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　剥離のため不明	外面をメントリした断面多角形の柱状部をもつもの。	反転復元
194	掘立柱建物4 P7(1198)	1-2・3区	須恵器 壺 L	(8.6)		2.6	4 分の 1	チャート、黒色粒 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　2.5Y8/1 灰白 外面　2.5Y8/1 灰白	緩やかに外反する口縁部をもつ。端部は上方に拡張し面を作る。焼成不良。	反転復元
195	掘立柱建物4 P9(1200)	1-2・3区	須恵器 蓋	(13.2)		1.4	8 分の 1	黒色粒 φ 0.1 cmを小量含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　N7/　灰白	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。扁平化な摘みが付く。外面にスス付着。	反転復元
196	掘立柱建物4 P11(1202)	1-2・3区	須恵器 蓋	(18.6)		1.2	8 分の 1	黒色粒 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　N4/　灰 外面　N4/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
197	掘立柱建物4 P1(1192)	1-2・3区	須恵器 蓋	(13.4)	摘み径 2.1	2.2	4 分の 1	長石 φ 0.1 cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。扁平化した宝珠摘みが付く。成形時の補修痕有	反転復元
198	掘立柱建物4 P11(1202)	1-2・3区	須恵器 蓋		(15.5)	1.3	6 分の 1	黒色粒 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
199	掘立柱建物4 P9(1200)	1-2・3区	須恵器 杯 B		(11.0)	1.5	5 分の 1	チャート、黒色粒 φ 0.1 cmを含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	外側へ引き出した断面台形の細い貼り付け高台をもつ。	反転復元
200	掘立柱建物4 P11(1202)	1-2・3区	須恵器 杯 B		(9.8)	3.8	6 分の 1	長石 φ 0.1 cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	底部へ緩やかに屈曲し、幅広の断面台形の貼り付け高台を持つ。糸底部はヘラ切による。	反転復元
201	掘立柱建物4 P11(1202)	1-2・3区	須恵器 杯 B	(12.7)		2.8	10 分の 1	黒色粒 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　N4/　灰 外面　N4/　灰	内外面ともに回転ナデ。	反転復元
202	掘立柱建物4 P11(1202)	1-2・3区	須恵器 杯 B		(7.3)	2.1	6 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 cmを含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	外側へ引き出した断面台形の細い貼り付け高台をもつ。高台端部に沈線を施す。	反転復元
203	掘立柱建物5 P7(1209)	1-2・3区	土師器 皿 A	(17.6)		2.8	12 分の 1	長石、赤色斑粒 φ 0.1 cmを少量含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR8/2 灰白	端部肥厚させ内側に巻き込む形態をもつ。端部には沈線を施す。	反転復元
204	掘立柱建物6 P2(1172)	1-2・3区	土師器 製塩土器	(9.6)		4.1	6 分の 1	チャート、赤色斑粒 φ 0.1～0.3 cmを含む	内面　端部 5YR7/6 橙、他 N4/　灰 外面　2.5YR6/6 橙	外傾気味に立ち上がり端部は肥厚して丸くおさめる。内外面ともに磨滅。	反転復元
205	掘立柱建物6 P1(1170)	1-2・3区	土師器 製塩土器	(11.1)		5.2	8 分の 1	チャート、赤色斑粒 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	直立気味に立ち上がり端部は肥厚して丸くおさめる。内外面ともにユビオサエ。	反転復元
206	掘立柱建物6 P5(1138)	1-1区	土師器 甕	(30.5)		6.1	16 分の 1	チャート、長石 φ 0.3 cmを含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR4/1 褐灰	くの字の外反する口縁部をもち、端部は上方に摘みあげる。	反転復元
207	掘立柱建物6 P7(1173)	1-2・3区	須恵器 杯 A	(11.0)	(8.2)	2.6	5 分の 1	黒色粒 φ 0.1 cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N7/　灰白～N6/　灰	内外面ともに回転ナデ。貼土のが上下で異なる。	反転復元
208	掘立柱建物6 P5(1138)	1-1区	須恵器 杯 B	(12.4)	(8.8)	4.0	2 分の 1	長石、黒色斑 φ 0.1 cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	断面台形の貼り付け高台をもつ。内面はヨコナデ。	反転復元
209	掘立柱建物6 P4(1137)	1-1区	須恵器 杯 B			1.1	小破片	チャート、長石 φ 0.1 cmを少量含む	内面　N4/　灰 外面　N4/　灰	内側に張り出す断面台形の貼り付け高台をもつ。	断面実測
210	掘立柱建物7 P12(1136)	1-1区	土師器 皿 A	(17.0)		1.2	8 分の 1	赤色斑粒 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　5YR6/4 にぶい橙 外面　5YR6/4 にぶい橙	底部外面へラケズリを施すC手法による。	反転復元
211	掘立柱建物7 P7(1131)	1-1区	土師器 製塩土器	(8.6)		4.1	6 分の 1	チャート φ 0.2～0.3 cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	外傾気味に伸びる口縁部を持つ。外面ユビオサエ。	反転復元
212	掘立柱建物7 P6(1130)	1-1区	土師器 製塩土器	(9.9)		4.0	4 分の 1	チャート、長石 φ 0.2 cmを多く含む	内面　10YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	内湾気味に立ち上がり端部は肥厚して丸く収めるもの。内外面ともにユビオサエとナデ調整を施す。	反転復元
213	掘立柱建物7 P5(1129)	1-1区	土師器 製塩土器	(10.8)		4.8	8 分の 1	チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　5YR6/4 にぶい橙 外面　5YR6/4 にぶい橙	直立気味に立ち上がり端部は肥厚して丸くおさめる。内外面ともにユビオサエ。	反転復元
214	掘立柱建物7 P6(1130)	1-1区	須恵器 蓋			0.9	小破片	長石 φ 0.1 cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	断面実測
215	掘立柱建物7 P6(1130)	1-1区	須恵器 蓋	(13.8)		1.0	10 分の 1	チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
216	掘立柱建物7 P6(1130)	1-1区	須恵器 蓋	(16.2)		1.0	6 分の 1	チャート、黒色粒 φ 0.1 cmを少量含む	内面　5Y8/1　灰白 外面　5Y8/1　灰白	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。焼成不良。	反転復元
217	掘立柱建物7 P6(1130)	1-1区	須恵器 杯 A	(13.2)	(9.3)	3.3	4 分の 1	長石、黒色粒 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　N8/　灰白 外面　N8/　灰白	内外面ともに磨滅する。焼成不良。	反転復元
218	掘立柱建物7 P11(1135)	1-1区	須恵器 杯 A	(14.6)	(9.8)	3.5	3 分の 1	長石、風化礫 φ 0.1 cmを少量含む	内面　N4/　灰 外面　N4/　灰	内外面ともに磨滅。焼成不良。	反転復元
219	掘立柱建物7 P9(1133)	1-1区	瓦器 椀		(6.6)	1.1	5 分の 1	長石 φ 0.1 cm以下を僅かに含む	内面　N4/　灰 外面　N3/　暗灰	混入品	反転復元
220	掘立柱建物9 P10(1031)	1-1区	土師器 甕	(21.9)		3.2	14 分の 1	チャート、長石 φ 0.1～0.3 cmを含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y7/3 浅黄	くの字に外反屈曲する口縁部をもつもの。	反転復元
221	掘立柱建物9 P5(1026)	1-1区	須恵器 転用硯	(19.1)		0.8	8 分の 1	長石 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。転用の痕跡あり。転用硯か。	反転復元
222	掘立柱建物9 P5(1026)	1-1区	須恵器 杯 C			2.3	小破片	長石 φ 0.1 cm～を少量含む	内面　2.5GY6/1 オリーブ灰 外面　N5/　灰	内湾気味に伸びる口縁部をもち、端部は沈線を施す。	反転復元
223	掘立柱建物9 P3(1024)	1-1区	須恵器 蓋			0.9	小破片	長石 φ 0.1～0.2 cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	断面実測
224	掘立柱建物10 P3(1045)	1-1区	土師器 椀			1.9	小破片	赤色斑粒 φ 0.1 cmを含む	内面　2.5YR7/6 橙 外面　5YR8/4 淡橙	内外面ともに磨滅。	断面実測
225	落ち込み1 (1274)	1-2・3区	須恵器 杯 B	(12.3)	9.4	3.8	口縁部 16 分の 1 以下	黒色粒 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　5Y8/1 灰白 外面　5Y8/1 灰白	高台から底部へ緩やかに屈曲し、幅広の断面台形の貼り付け高台を持つ。	反転復元
226	落ち込み1 (1274)	1-2・3区	須恵器 杯 B	(12.6)	9.6	4.35	口縁部 8 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 cm以下を極少量含む	内面　2.5Y8/1　灰白 外面　2.5Y8/1　灰白、2.5Y7/1 灰白	外側へ引き出した断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
227	ピット4(1245)	1-2・3区	土師器 杯 C	13.6	7.0	3.2	口縁部 15 分の 2	赤色斑粒 φ 0.1 cmを少量含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	底部から丸みを持って立ち上がり、端部は直立気味に終わるもの。	一部反転復元
228	ピット4(1245)	1-2・3区	土師器 杯 A	(13.7)		4.2	口縁部 6 分の 1	赤色斑粒 φ 0.1～0.2 cmを少量含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR8/3 浅黄橙	底部から丸みを持って立ち上がり、端部はさらに外反するもの。	反転復元
229	ピット4(1245)	1-2・3区	須恵器 杯 B	(8.7)	6.4	3.2	口縁部 2 分の 1	長石 φ 0.1 cmを少量含む	内面　N5/ 灰 外面　N5/ 灰	小型の杯。幅広の断面台形の高台を張り付ける。	反転復元
230	ピット5(1237)	1-2・3区	須恵器 杯 B	(12.0)	8.3	4.0	8 分の 1	長石 φ 0.1～0.2 cmを少量含む	内面　N6/ 灰 外面　N6/ 灰	幅広の貼り付け高台をもつ。やや外側に張り出す。	反転復元
231	ピット6(1263)	1-2・3区	須恵器 壺 L		(8.8)	2.4	底部 3 分の 1	黒色粒、長石 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　N7/ 灰白 外面　N7/ 灰白	外側へ張り出した、幅広の断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
232	土坑5(1247)	1-2・3区	須恵器 壺 L		(7.4)	3.8	底部 5 分の 1	チャート、長石 φ 0.1 cmを少量含む	内面　2.5Y7/1 灰白 外面　N7/ 灰白	幅広の貼り付け高台をもつ。	反転復元
233	ピット7(1243)	1-2・3区	須恵器 杯 B		(10.2)	3.6	底部 10 分の 1	長石 φ 0.1～0.2 cmを少量含む	内面　N5/ 灰 外面　N5/ 灰	細い断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
234	ピット8(1239)	1-2・3区	須恵器 杯 B	(14.4)	10.4	4.5	底部 7 分の 1	長石 φ 0.1 cmを少量含む	内面　N6/ 灰 外面　10Y6/1 灰	細い断面台形の貼り付け高台をもつ。外側に張り出した形状をもつ。	反転復元
235	ピット9(1241)	1-2・3区	土師器 皿 A	(16.6)	10.8	1.4	口縁部 16 分の 1	赤色斑粒 φ 0.1 cmを少量含む	内面　2.5YR5/6 明赤褐 外面　5YR4/6 赤褐	内面ヨコナデのち暗文をもつ。外面はヘラケズリ。内面はヘラミガキを施す。	反転復元
236	ピット9(1241)	1-2・3区	須恵器 蓋			1.5	天井部 10 分の 1	長石 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　5Y7/1 灰白	平坦な天井部をもち、扁平な摘みをもつ。	反転復元
237	溝2(1041)	1-2・3区	須恵器 甕、壺	(23.0)		2.3	口縁部 10 分の 1	長石 φ 0.1～0.2 cmを少量含む	内面　N6/ 灰 外面　N5/ 灰	緩やかに外反する口縁部をもち端部は上下に拡張し面をつくる。	反転復元
238	溝2(1041)	1-1区	須恵器 甕	(29.2)		3.6	口縁部 10 分の 1	長石、チャート φ 0.1 cmを少量含む	内面　N5/ 灰 外面　N4/ 灰	緩やかに外反する口縁部をもち端部は上下に拡張し面をつくる。	反転復元

239	溝4(1105)	1-1区	須恵器 壺	(14.4)		1.7	口縁部 13分の1	長石、黒色粒φ0.1 cmを少量含む	内面　N6/ 灰 外面　N6/ 灰	天井部から口縁部へ緩やかに屈曲し、端部を垂下させるもの。	反転復元
240	溝4(1105)	1-1区	須恵器 蓋	(20.0)		0.7	口縁部 5分の1	長石φ0.1cmを少 量含む	内面　N7/ 灰白～N6/ 灰 外面　N7/ 灰白～N6/ 灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
241	溝4(1105)	1-1区	須恵器 杯A	(13.2)		3.6	口縁部約 13分の1	黒色粒φ0.1cmを 少量含む	内面　N7/ 灰白 外面　N7/ 灰白	底部から外反気味に伸びる口縁部をもち、端部がさらに外反するもの。	反転復元
242	溝4(1105)	1-2・3区	土師器 皿A	(26.2)		2.4	口縁部 26分の1	黒色粒、赤色斑粒 φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/3 にぶい橙 外面　2.5YR6/4 にぶい橙	底部から外反気味に伸びる口縁部をもち、端部を外側へさらに外反させる。底部外面はナデ。	反転復元
243	溝4(1105)	1-2・3区	土師器 杯B		(15.0)	1.8	底部 18分の1	赤色斑粒φを少量 含む	内面　2.5Y8/3 浅黄 外面　2.5Y8/3 浅黄	断面台形の丈高な高台をもつもの。	反転復元
244	溝4(1105)	1-1区	須恵器 杯B		(10.6)	2.1	底部 5分の1	長石φ0.1cmを少 量含む	内面　5Y6/1 灰 外面　5Y6/1 灰	幅広の貼り付け高台をもつ。やや内側に張り出す。	反転復元
245	溝4(1105)	1-1区	須恵器 杯B		(10.0)	1.0	底部 5分の1	長石、黒色粒φ0.1 cmを少量含む	内面　5Y6/1 灰 外面　5Y6/1 灰	断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
246	自然流路3 (1002)	1-1区	縄文土器 深鉢		(10.4)	1.9	底部 3分の1	チャート、片岩、長 石φ0.1～0.5cm を多く含む	内面　10YR8/6 黄橙　10YR3/2 黒褐 外面　10YR6/2 灰黄褐	直立気味に立ち上がる底部をもつもの。	反転復元
247	包含層第3層	1-2・3区	土師器 杯A	(15.5)	(13.2)	3.85	口縁部 12分の1	赤色斑粒φ0.1cm を含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　10YR8/3 浅黄橙、10YR5/4 にぶい黄橙	底部から丸みを持って立ち上がり、端部は内側に巻き込むように肥厚し、内側に沈線を施す。	反転復元
248	包含層第4-1層	1-2・3区	土師器 杯A	(14.0)	(10.9)	3.2	口縁部 16分の1	チャート、長石φ 0.1cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙、2.5Y7/2 灰黄 外面　10YR8/3 浅黄橙、2.5Y7/2 灰黄	底部から内湾気味に伸びる口縁部をもち、端部は直立気味におわるもの。底部外面はユビオサエ。	反転復元
249	包含層第4-1層	1-2・3区	土師器 椀A	(16.2)	(9.4)	3.1	口縁部16 分の1	赤色斑粒φ0.1cm を含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR8/2 灰白	底部から内湾気味に伸びる口縁部をもち、端部を内側へさらに内湾させる。底部外面はナデ。	反転復元
250	包含層第4-1層	1-2・3区	土師器 皿A	(16.4)	14.0	2.5	口縁部 16分の1	チャート、長石φ 0.1cmを含む	内面　10YR4/1 褐灰、10YR4/2 灰黄褐 外面　10YR4/1 褐灰、10YR4/2 灰黄褐	底部から外反気味に伸びる口縁部をもち、端部を外側へさらに外反させる。底部外面はナデ。	反転復元
251	包含層第3層	1-2・3区	土師器 皿A	(20.6)	17.4	2.5	口縁部 16分の1 以下	赤色斑粒φ0.2cm を少量含む	内面　5YR7/4、6/4 にぶい橙 外面　10YR5/4 浅黄橙	底部から外反気味に伸びる口縁部をもち、端部を外側へさらに外反させる。底部外面はナデ。	反転復元
252	包含層第3層	1-2・3区	土師器 盤		(9.6)	3.5	底部 8分の1	赤色斑粒φ0.1～ 0.2cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙、10YR8/3 浅黄橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙、10YR8/3 浅黄橙	断面台形の丈高な高台をもつもの。	反転復元
253	包含層第3層	1-2・3区	土師器 盤		(12.4)	4.0	底部 8分の1	長石、赤色斑粒φ 0.1cmを含む	内面　5YR7/6 橙、7.5YR8/4 浅黄橙 外面　5YR7/6 橙、7.5YR8/4 浅黄橙	断面三角形の高台をもつ大型の盤。	反転復元
254	包含層第3層	1-2・3区	土師器 甕	(14.2)		5.0	口縁部 16分の1	チャート、長石φ 0.1cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙、10YR4/1 褐灰 外面　7.5YR5/3 にぶい褐	くの字に外反屈曲し端部を丸く収めるもの。外面はナデ。	反転復元
255	包含層第4-1層	1-2・3区	土師器 甕	(15.6)		4.9	口縁部 6分の1	チャート、長石、片 岩φ0.1cmを含む	内面　10YR4/1 褐灰、10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	くの字に外反屈曲し端面に面作りおわるもの。外面は板ナデ。	反転復元
256	包含層第4-1層	1-2・3区	土師器 甕	(16.0)		5.0	口縁部 6分の1	長石、片岩φ0.1 ～0.3cmを含む	内面　10YR6/1 褐灰 外面　10YR8/3 浅黄橙、10YR7/3 にぶい黄 橙	くの字に外反屈曲し端部に面作りおわるもの。外面は板ナデ。	反転復元
257	包含層第3層	1-2・3区	土師器 甕	(18.0)		5.1	口縁部 6分の1	チャート、長石φ 0.1cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙。 外面　10YR8/3 浅黄橙、10YR7/2 にぶい黄 橙	くの字に外反屈曲し端部に面作りおわるもの。外面は板ナデおよびﾊｹﾒ。	反転復元
258	包含層第4-1層	1-2・3区	土師器 壺B	(9.6)		3.5	口縁部 16分の1	チャート、赤色斑 粒φ0.1cmを含む	内面　2.5Y3/1 黒褐、5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	扁平な丸みを帯びた体部から、短く外反する口縁部をもつ。内外面ともにユビオサエ。内面炭化物付着。	反転復元
259	包含層第3層	1-2・3区	土師器 土錘				ほぼ完形	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面　10YR4/1 褐灰 外面　10YR4/1 褐灰	断面円形の管状土錘。内外面ともにナデ。	
260	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 土錘				ほぼ完形	黒色粒φ0.1cmを 少量含む	内面　5Y8/1 灰白 外面　5Y8/1 灰白	断面円形の管状土錘。内外面ともにナデ。焼成不良	生焼け
261	包含層第3層	1-2・3区	土師器 製塩土器	(5.6)		5.4	口縁部 8分の1	チャート、長石φ 0.2～0.3cmを多 く含む	内面　10YR8/4 浅黄橙 外面　10YR8/4 浅黄橙	内湾気味に立ち上がり端部は内傾面をつくる。内外面ともにナデ。	反転復元
262	包含層第3層	1-2・3区	土師器 製塩土器	(10.4)		4.3	口縁部 ほとんどなし	長石、赤色斑粒φ 0.1cmを含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR8/3 浅黄橙、5YR8/4 淡橙	内湾気味に立ち上がり、端部は丸く収める。内外面ともにユビオサエ。	反転復元
263	包含層第4-1層	1-2・3区	土師器 製塩土器	(9.6)		6.9	口縁部 4分の1	チャート、長石φ 0.1cmを多く含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　5Y7/1 灰白	内湾気味に立ち上がり端部は内傾面をつくる。内外面ともにナデ。	反転復元
264	包含層第4-1層	1-2・3区	土師器 製塩土器	(11.2)		5.2	口縁部 6分の1	チャート、長石φ 0.2cmを多く含む	内面　7.5YR8/2 灰白、10YR8/2 灰白 外面　7.5YR8/2 灰白、10YR8/2 灰白	外反気味に立ち上がり端部は丸く肥厚する。外面はユビオサエ。	反転復元
265	包含層第4-1層	1-2・3区	土師器 製塩土器	(7.8)		5.4	口縁部 4分の1	チャート、長石φ 0.3～0.4cmを多 く含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　2.5Y8/2 灰白	外反気味に立ち上がる。端部は内傾面をつくり。凹線を施す。内外面ともにユビオサエ。	反転復元
266	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 蓋	9.4		1.75	口縁部 6分の1	長石φ0.1cmを少 量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部は平坦で、端部を垂下させるもの。口縁部の屈曲は緩やかで、口径は小さい。扁平な摘みが付く。	反転復元
267	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 蓋	(12.4)		1.15	口縁部 8分の3	長石、黒色粒φ0.1 cmを僅かに含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
268	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 蓋	14.4		1.0	口縁部 2分の1	長石φ0.1cmを少 量含む	内面　N7/　灰白、N6/　灰 外面　N7/　灰白、N6/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
269	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 蓋	14.0		2.55	口縁部 3分の1	長石φ0.1cmを少 量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。扁平な摘みが付く。	反転復元
270	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 蓋	(14.2)		2.2	口縁部 6分の1	長石φ0.1～0.2 cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部から口縁部へ緩やかに屈曲するもの。	反転復元
271	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 蓋	(14.2)		0.9	口縁部 6分の1	黒色粒φ0.1～0.2 cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
272	包含層第3層	1-1区	須恵器 墨書土器 蓋			1.1	小破片	長石、黒色粒φ0.1 cmを少量含む	内面　7.5Y6/1 灰 外面　N6/　灰	壷と考えられる。文字は判読不能。	断面実測
273	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 ミニチュア 杯B	(5.2)	(4.0)	1.95	口縁部 16分の1 以下	長石φ0.1cmを少 量含む	内面　N7/　灰白 外面　N7/　灰白	小型の杯B、ミニチュア土器か。	反転復元
274	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 杯B	(10.5)	(7.0)	4.35	口縁部 16分の1	長石φ0.1～0.2 cmを少量含む	内面　N/5　灰 外面　N/5　灰	細い断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
275	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 杯B	(12.3)	(9.0)	2.55	口縁部 16分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面　N7/　灰白、N6/　灰 外面　N6/　灰、N5/　灰	高台から底部へ緩やかに屈曲し、細い断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
276	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 杯B	(11.0)	(8.4)	3.85	口縁部 4分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	幅広の断面台形の貼り付け高台を持つ。	反転復元
277	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 杯B	(13.2)	(9.6)	3.8	口縁部 4分の1	長石φ0.1cmを少 量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	高台から底部へ緩やかに屈曲し、断面台形の貼り付け高台を持つ。	反転復元
278	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 杯B	(13.0)	(10.0)	2.75	口縁部 16分の1	長石、風化礫φ0.1 ～0.2cmを含む	内面　N5/　灰、N4/　灰 外面　N5/　灰、N4/　灰	外側へ引き出した断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
279	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 杯B	(13.0)	(9.2)	3.9	口縁部 8分の3	長石、黒色粒φ0.1 ～0.2cmを少量含む	内面　N7/　灰白、5Y7/1 灰白 外面　N7/　灰白、5Y7/1 灰白	断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
280	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 杯B	(13.2)	9.4	3.65	口縁部 6分の1	長石φ0.1～0.3 cmを少量含む	内面　N6/　灰、N5/　灰 外面　N6/　灰、N5/　灰	細い断面台形の貼り付け高台をもつ。	一部反転
281	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 杯A	(12.4)	(9.0)	3.8	口縁 16分の1 以下	チャート、長石φ 0.1cmを少量含む	内面　5Y7/1 灰白よりやや灰 外面　5Y7/1 灰白よりやや灰	底部から直線的に屈曲し、端部外面に沈線を施すもの。底部外面はヘラ切りによる。	反転復元
282	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 杯A	(13.6)	(9.2)	3.6	口縁部 16分の1	長石、石英岩状の石 φ0.2～0.3cmを含む	内面　5Y6/1 灰よりやや灰 外面　5Y6/1 灰よりやや灰	口縁部内外面は回転ナデ、底面は回転ヘラケズリによる。やや焼成不良。	反転復元
283	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 蓋L		(10.0)	2.9	底部 12分の5	長石、黒色粒φ0.1 cmを含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	外側へ張り出した、幅広の断面台形の貼り付け高台をもつ。底部外面は回転ヘラケズリののち高台貼り付け。	反転復元
284	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 蓋			2.3	摘み部 完形	長石φ0.2cmを少 量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲するもの。扁平な摘みが付く。	反転復元

285	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 蓋	16.4		3.0	口縁部 6分の1	黒色粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　5Y7/1 灰白	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。扁平な摘みが付く。	反転復元
286	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 蓋	(17.6)		1.0	口縁部 3分の1	黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。天井部は回転ヘラケズリ。	反転復元
287	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 蓋	(16.8)		1.5	口縁部 12分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを少量含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　5Y7/1 灰白	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
288	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 蓋	(18.0)		1.5	口縁部 5分の1	黒色粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　5Y7/1 灰白	天井部は平坦で、口縁部は屈曲し端部を垂下させるもの。	反転復元
289	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 杯B	(15.2)	10.6	5.05	口縁部 6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを少量含む	内面　N7/　灰白 外面　N8/　灰よりやや黄	幅広の断面台形の貼り付け高台を持ち、高台端面に沈線を施す。	反転復元
290	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 杯B	(15.0)	10.8	5.0	口縁部 4分の1	黒色粒φ0.1～0.2cmを少量含む	内面　5Y7/1 灰白、N7/　灰白 外面　5Y7/1 灰白、N7/　灰白	幅広の断面台形の貼り付け高台を持つ。	反転復元
291	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 杯B	(15.0)	10.8	5.5	口縁部 16分の1	長石φ0.1cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	高台から底部へ緩やかに屈曲し、幅広の断面台形の貼り付け高台を持つ。	反転復元
292	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 杯B	(17.8)	11.6	5.4	口縁部 ほとんどなし	長石φ0.1cmを少量含む含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	深身の杯部で、断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
293	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 杯B	(16.2)	11.0	7.35	口縁部 16分の1以下	長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　5Y8/1 灰白、5Y7/1 灰白 外面　5Y8/1 灰白、5Y7/1 灰白	深身の杯部で、細い断面台形の貼り付け高台をもつ。	反転復元
294	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 皿C	(15.6)	13.0	1.5	口縁部 8分の1	長石、黒色粒φ.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　2.5Y8/2 灰白	底部から直線的に屈曲し端部は外反するもの。焼成不良。	反転復元
295	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 皿C	(16.7)	13.2	2.3	口縁部 6分の1	長石、黒色粒φ.1～0.2cmを含む	内面　N5/　灰、2.5Y8/1 灰白 外面　N5/　灰、2.5Y8/1 灰白	外傾面を作り肥厚する端部をもつ。内外面ともにナデ。	反転復元
296	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 皿C	(17.6)	15.0	2.4	口縁部 8分の1	赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面　2.5Y8/1 灰白 外面　2.5Y8/1 灰白	底部から直線的に屈曲し端部は外反するもの。焼成不良。	反転復元
297	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 蓋(蓋A)	(13.2)		2.6	口縁部 4分の1	チャート、長石φ0.1cmを少量含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	平坦な天井部からほぼ直角に折れ曲がる口縁部をもつもの。	反転復元
298	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 蓋A		(13.6)	5.6	底部 16分の1	長石φ0.1～0.2cmを少量含む	内面　5Y8/1 灰白 外面　5Y8/1 灰白	外側へ張り出した断面台形の貼り付け高台をもつ。底部外面は回転ヘラケズリを施す。	反転復元
299	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 壺	(22.4)		3.2	口縁部 16分の1	長石φ0.2cmを少量含む	内面　N5/　灰 外面　N5/　灰	緩やかに伸びる口縁部をもち、端部は上下に拡張し外側に面を作るもの。	反転復元
300	包含層第3層	1-2・3区	須恵器 壺	(26.0)		5.0	口縁部 12分の1	長石、黒色粒φ0.1cmを含む	内面　N7/　灰白 外面　N7/　灰白	緩やかに伸びる口縁部をもち、端部は上下に拡張し外側に面を作るもの。頸部には縦方向のタタキ目が残る。	反転復元
301	包含層第4-1層	1-2・3区	瓦					チャート、長石φ0.1cmを少量含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　5Y7/1 灰白	磨滅により調整不明。焼成不良。	
302	包含層第4-1層	1-2・3区	鞴羽口					長石、チャートφ0.1cmを含む	内面　2.5Y8/3 浅黄 外面　10YR8/3 浅黄橙	メントリにより断面八角形を呈するもの。二次焼成を受けるが、気泡は見られない。	
303	包含層第3・4層	1-2・3区	須恵器 円面硯	(10.8)		1.8	口縁部 5分の1	精良	内面　N6/ 灰 外面　N6/ 灰	硯面部から縁部にかけての破片。10方向に復元できる長方形透かしの上部には水平に突出する突帯をもつ。	反転復元
304	包含層第4-1層	1-2・3区	須恵器 円面硯	(11.2)		1.7	円面部分 9分の1	精良	内面　N6/ 灰 外面　N6/ 灰	圏脚円面硯の硯面部から縁部にかけての破片。縁部は直立し、長方形透かしの上部には水平に突出する突帯をもつ。	反転復元

丁ノ町・妙寺遺跡（07－2区）出土土器・土製品

305	包含層第3層	2-3区	土師器 皿	(9.4)		1.6	口縁部 2分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	底部外面はユビオサエによる、手づくね土器。	反転復元
306	包含層第3層	2-1区	陶器 皿		(6.5)	0.8	底部 2分の1	精良	内面　N4/ 灰　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　N5/ 灰　5YR7/4 にぶい橙	底部に回転糸切痕を残すもの。	反転復元
307	包含層第3層	2-1区	瓦器 皿	(8.7)		1.7	口縁部 2分の1	精良	内面　N3/ 暗灰 外面　N5/ 灰	内面に格子目状の暗文をもつ、小型の皿。	反転復元
308	包含層第3層	2-3・4区	白磁 椀	(16.8)		2.6	口縁部 7分の1	精良	内面　2.5GY7/1 明オリーブ灰 外面　2.5GY7/1 明オリーブ灰	玉縁状に肥厚する口縁端部をもつ。	反転復元
309	包含層第3層	2-1区	白磁 椀		(7.3)	2.0	底部 2分の1	精良	内面　釉色2.5G7/1 明オリーブ灰 外面　10Y7/1 灰白	高台外面は露胎する。ケズリにより掻き取る。	反転復元
310	包含層第3層	2-1区	白磁 四耳壺		(8.1)	2.9	底部 6分の1	精良	内面　釉色2.5G8/1 灰白 外面　N8/ 灰白	幅広の断面台形の高台をもつ。高台外面途中と高台内面・畳付は露胎する。	反転復元
311	包含層第3層	2-2区	瓦器 椀		4.9	1.1	底部 10分の8	精良	内面　N3/ 暗灰 外面　N3/ 暗灰	内面に連結輪状の暗文を施し、断面三角形の高台を持つ。	反転復元
312	包含層第3層	2-3・4区	須恵器 壺L		(11.5)	4.1	底部 5分の1	チャート、長石φ0.1cmを少量含む	内面　N7/ 灰白 外面　N7/ 灰白	断面台形の貼り付け高台をもつ。高台は外側へ引き出す形態を呈する。	反転復元
313	包含層第3層	2-1区	須恵器 大甕			11.1	頸部 8分の1	長石、黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面　5PB6/1 青灰 外面　N6/ 灰	頸部から外反気味に伸びる口縁部をもつ。頸部には凸線と波状文を施す。体部外面は平行タタキ。	反転復元
314	包含層第3層	2-7・8区	縄文土器 深鉢			5.3		チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR3/2 黒褐 外面　7.5YR5/6 明褐	渦巻き状の沈線に区画された口縁部。	断面実測
315	掘立柱建物11(2372) P1(2376)	2-3・4区	土師器 皿	(9.7)		1.9	口縁 10分の8	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む　マーブル状貼土	内面　5YR6/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	底部外面はユビオサエによる、手づくね土器。内面にススが付着。	反転復元
316	掘立柱建物11(2372)	2-3・4区	土師器 皿	(15.0)		2.1	口縁部 8分の1	赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面　7.5YR6/4 にぶい橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	底部から丸く立ち上がる皿。端部は内傾面をもっておわる。	反転復元
317	掘立柱建物11(2372)	2-3・4区	土師器 甕	(22.9)		3.0	口縁部 12分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを少量含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は内側へ丸く肥厚する。	反転復元
318	掘立柱建物11(2372) P2(2375)	2-3・4区	土師器 羽釜	(23.0)		10.5	口縁部 6分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR6/3 にぶい黄橙	くの字に屈曲し、内湾気味に伸びる口縁部を持つ。鍔部は胴部上半に付き、長く突出する。	反転復元
319	耕作痕1(2048)	2-1区	瓦質土器 擂鉢					長石φ0.1cmを少量含む	内面　N3/ 暗灰 外面　N3/ 暗灰	口縁部がやや内湾気味に立ち上がり、端部を上方に拡張するもの。	断面実測
320	土坑7(2001)	2-1区	縄文土器 深鉢			5.3		チャート、長石φ0.1cm～0.3cmを含む	内面　5YR4/6 赤褐 外面　10YR4/2 灰黄褐	沈線文に区画された内部に縄文を充填するもの。	断面実測
321	土坑8(2002)	2-1区	縄文土器 深鉢			14.4	頸部 8分の1	チャート、長石、片岩φ0.1cm～0.3cmを含む	内面　2.5Y5/2 暗灰黄　2.5Y2/1 黒 外面　2.5Y4/1 黄灰	肩の張った胴部をもち、外面はヘラケズリ。	反転復元
322	包含層第3層	3-2区	須恵器 杯蓋	(13.3)		3.7	2分の1	長石、黒色粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　N6/　灰 外面　N4/　灰	口縁部と天井部の境界は鈍く、天井部に回転ヘラケズリ。天井部内面は当て具による圧痕を残す。	反転復元

323	包含層第3層	3-2区	須恵器 杯蓋	(12.8)		4.1	3分の1	チャート、黒色粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y8/2 淡白 外面 2.5Y8/2 淡白	天井部に回転ヘラケズリ。並行する2条のヘラ記号「//」をもつ。	反転復元
324	包含層第4層	3-2区	須恵器 無蓋高杯	(16.9)		7.0	6分の1	長石、チャートφ0.1cmを含む	内面 GPB6/1 青灰、5Y7/1 外面 N5/ 灰	深い杯部から杯端部が外反屈曲して伸び、把手が二方向に付く。杯部外面は上から、凸線、櫛描波状文を交互に施す。	反転復元
325	包含層第4層	3-1区	須恵器 甕			2.0		長石、黒色粒φ0.1cmを少量含む	内面 N4/ 灰 外面 N6/ 灰	外面格子目タタキをもつもので、底部は偏み平坦面をもつ。	断面実測
326	包含層第4層	3-1区	土師器 把手(鉢)				把手	長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR6/6 橙 外面 7.5YR6/6 橙	牛角状の鉢の把手、先端は丸くおさめる。内外面ともにナデ調整。	断面実測
327	包含層第4層	3-1区	弥生土器 甕	(19.3)		12.6	6分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	くの字にゆるやかに外反する口縁部をもつ。外面水平方向のタタキ。内面ユビオサエ。	反転復元
328	包含層第4層	3-1区	弥生土器 壺(短頸)	(13.3)		2.6	12分の1	チャート、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR8/4 浅黄橙 外面 10YR8/4 浅黄橙	垂下させる端部をもち、口縁端部内面には刺突文を施す。口縁部には2孔1対の紐通し孔をもつ。	反転復元
329	包含層第4層	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(16.7)		5.4	4分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	口縁端部は垂下させる。頸部には回線文3条以上、口縁端部には回線文4条及び円形浮文を貼り付ける。	反転復元
330	包含層第4層	3-1区	弥生土器 甕		(5.8)	5.4	2分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR5/4 にぶい褐 外面 7.5YR4/3 褐	外面はナデ、内面は磨滅。	反転復元
331	包含層第4層	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(23.3)		8.9	8分の1	長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y6/6 橙 外面 10YR7/4 にぶい黄橙	緩やかに外反する頸部をもち、頸部外面には櫛描直線文を施す。	反転復元
332	包含層第4層	3-1区	弥生土器 甕		(8.2)	4.1	4分の1	長石、角閃石φ0.1～0.2cmを多く含む	内面 10YR3/1 黒褐 外面 2.5Y4/2 暗灰黄	底部からゆるやかに広がる形態をもつ。生駒西麓産。	反転復元
333	包含層第4層	3-1区	弥生土器 高杯			13.4	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒、緑石φ0.1～0.3cmを含む	内面 5YR5/6 明赤褐 外面 10YR5/2 灰黄褐、10YR7/4 にぶい黄橙	内面ナデ調整を施す柱状脚。器壁は薄い。外面は磨滅。	反転復元
334	包含層第4層	3-1区	弥生土器 高杯			7.9	4分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1cmを少量含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	内面にヘラケズリを行う柱状脚。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
335	包含層第4層	3-1区	弥生土器 高杯			7.1	4分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR7/4 にぶい橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	内面にシボリ痕を残す柱状脚をもつ。外面は磨滅。	反転復元
336	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢	(26.4)		8.1	12分の1	長石、チャート、花崗岩、金雲母φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 7.5YR4/4 褐 外面 7.5YR5/4 にぶい褐	内湾気味に伸びる口縁部をもつ広口深鉢。端部は内側に肥厚し沈線を施す。外面は逆S字状の磨消縄文を施す。	反転復元
337	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢	(28.7)		6.6	20分の1	長石、チャート、金雲母φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 2.5Y4/2 暗灰黄 外面 10YR3/2 黒褐	内湾気味に伸びる口縁部をもつ。外面は縄の手状に屈曲する磨消縄文を施す。	反転復元
338	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢			7.0		花崗岩、チャート、長石、角閃石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 2.5GY3/1 暗オリーブ灰 外面 10YR3/3 暗褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部が内側に肥厚する。	断面実測
339	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢			6.1		長石、花崗岩、角閃石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 10YR5/4 にぶい黄褐、10YR2/3 黒褐 外面 10YR6/6 明黄褐、2、5Y3/1 黒褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部は内外に肥厚する。波頂部から口縁部下の縄文帯、J字文が伸びる。	断面実測
340	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢			5.0		花崗岩、長石、金雲母φ0.1～0.4cmを多く含む	内面 10YR3/2 黒褐 外面 10YR4/4 褐	縦位に突起を張り付け刺突文を施す。突起の両側には沈線紋が巡る。	断面実測
341	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢			7.3		長石、チャートφ0.1～0.3cmを多く含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 N2/ 黒	外反気味に広がるもので、縄の手状の渦巻文をもつ。	断面実測
342	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢			6.7		長石、花崗岩、金雲母φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 10YR5/4 にぶい黄褐 外面 10YR3/4 暗褐	縦位に突起を張り付け刺突文を施す。突起の両側には方形に区画された沈線紋と区画から縦方向に伸びる沈線文をもつ。	断面実測
343	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢		(9.0)	6.4	2分の1	花崗岩、長石、金雲母φ0.1～0.4cmを多く含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 5YR4/3 にぶい赤褐	外反気味に立ち上がる底部をもつ。内面はユビオサエ。	反転復元
344	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢		(12.7)	3.7	5分の1	花崗岩、長石、チャートφ0.1～0.3cmを多く含む	内面 10YR4/3 にぶい黄褐 外面 7.5YR5/4 にぶい褐	外反気味に立ち上がる底部をもつ。	反転復元
345	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢			6.7		花崗岩、チャート、長石φ0.1～0.4cmを多く含む	内面 2.5Y8/3 淡黄 外面 7.5YR4/2 灰褐	沈線文による渦巻紋と横方向の連弧文を4から5条巡らせるもの。	断面実測
346	包含層第5層	3-1区	土製品 土偶か				10分の8	チャート、長石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 10YR8/4 浅黄橙	土偶の頭部か。円形の表現2つあり。	
347	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢	(20.4)		9.4	8分の1	チャート、長石φ0.2～0.3cmを多く含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	口縁部に凸帯文を張り付け、刻み目を施す。外面は斜め方向のケズリ。	反転復元
348	包含層第5層	3-1区	縄文土器 深鉢			10.1		片岩、長石、チャートφ0.1～0.3cmを含む	内面 N3/ 暗灰 外面 2.5Y7/2 灰黄	胴部屈曲部に凸帯文を張り付け、刻み目を施す。外面は斜め方向のケズリ。	反転復元
349	包含層第6層	3-1区	縄文土器 深鉢			5.6		花崗岩、長石、角閃石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 10YR5/3 にぶい黄褐 外面 10YR4/2 灰黄褐	口縁部下に磨消縄文帯をもつもの。	断面実測
350	包含層第6層	3-1区	縄文土器 深鉢			6.9		長石、ケツ岩φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 2.5Y6/2 灰黄	外反気味に伸びる口縁部をもち、口縁端部は内側へ肥厚する。補修孔をもつ。	断面実測
351	包含層第6層	3-1区	縄文土器 深鉢			8.1		花崗岩、長石、角閃石、金雲母φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 2.5Y5/3 黄褐 外面 10YR3/1 黒褐	逆J字状の磨消縄文帯をもつもの。	断面実測
352	包含層第6層	3-1区	縄文土器 深鉢			6.5		長石、チャートφ0.1～0.3cmを多く含む	内面 5YR5/6 明赤褐 外面 7.5YR5/4 にぶい褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部は内側に肥厚する。波頂部から口縁部直下の縄文帯が伸びる	断面実測
353	自然流路7 (3010)	3-1区	土師器 皿	(9.0)		1.3	8分の1	チャート、長石φ0.1cmを含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 2.5Y8/2 灰白	内外面ともに磨滅。底面はナデ。ユビオサエによる。	反転復元
354	自然流路7 (3010)	3-1区	土師器 皿	(14.4)		2.7	3分の2	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面 2.5Y8/2 灰白 外面 2.5Y8/2 灰白	口縁部横ナデ、底部はユビオサエによる手づくね土器。内面はヨコナデ。	反転復元
355	自然流路7 (3010)	3-1区	瓦器 椀	(15.2)		3.4	6分の1	精良	内面 N4/ 灰 外面 N4/ 灰	口縁端部内面に沈線をもつ。外面は口縁部のナデがにより明瞭な稜をもつ。	反転復元
356	自然流路7 (3010)	3-1区	瓦器 椀		(5.7)	1.6	10分の7	精良	内面 N3/ 暗灰 外面 2.5Y6/6 明黄褐	断面逆三角形となる比較的しっかりした高台をもつ。	反転復元
357	自然流路7 (3010)1層	3-1区	東播系 須恵器 甕	(20.1)		4.9	10分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 N5/ 灰 外面 N6/ 灰	くの字に外反する口縁部をもち、端部は上方に拡張する。頸部下にはカキ目を残す。	反転復元
358	竪穴建物1 (3287)	3-2区	土師器 甕	(12.5)		6.8	6分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.4cmを含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	くの字に外折する口縁部をもつ。頸部から肩部の外面はタテハケ、口縁部内面ヨコハケ。	反転復元
359	竪穴建物1 (3287)	3-2区	土師器 甕	(14.6)		20.7	4分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	くの字形く外反する口縁部をもつ。頸部内面はユビオサエ。	反転復元
360	竪穴建物1 (3287)	3-2区	土師器 甕(小型)	(10.6)		5.7	6分の1	チャート、長石、金雲母φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR6/3 にぶい黄橙 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	ゆるやかに外反する口縁部をもつ。頸部内面はユビオサエがめぐり、貼土組接合痕を残す。	反転復元
361	竪穴建物1 (3287)	3-2区	弥生土器 壺(直口)	(11.0)		14.2	10分の7	チャート、片岩、長石φ0.1～0.5cmを含む	内面 7.5YR6/6 橙 外面 10YR6/4 にぶい黄橙	直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。口縁部外面はタテハケ、内面は粗いハケ。胴部下半部は左上がりのタタキ。	反転復元

362	竪穴建物1 (3297)	3-2区	土師器 高杯			6.7	3分の1	長石、チャートφ0.1 ～0.2cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR7/1 灰白	内面ヘラケズリ。接合痕を残す柱状脚。外面は磨滅。	反転復元
363	竪穴建物1 (3287)	3-2区	弥生土器 高杯			5.7	2分の1	チャート、赤色斑 粒φ0.1cmを少量 含む	内面　7.5YR8/3 浅黄橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	複数個所に及び、φ0.3cmの穿孔を柱状部に行う。外面はヘラミガキ。混入品	反転復元
364	竪穴建物1 (3287)	3-2区	土師器 椀	(10.4)		5.5	4分の1	長石、チャート、片 岩φ0.1～0.2cm を含む	内面　2.5Y4/1 黄灰 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	半球状の椀。口縁部は直立気味に立ち上がる。外面はユビオサエ。	反転復元
365	竪穴建物1 (3287)	3-2区	須恵器 壺	(19.1)		2.9	8分の1	長石、チャートφ 0.1～0.3cmを含む	内面　N7/　灰白 外面　2.5Y7/2 暗オリーブ灰	口縁部外面に凸線を巡らし、頸部外面には櫛描波状文を施す。内外面ともに回転ナデ。	反転復元
366	竪穴建物1 (3287)	3-2区	須恵器 甕	(8.8)		11.0	10分の9	チャート、長石、黒 色粒φ0.1～0.2 cmを含む	内面　N6/　灰 外面　口縁部N2/　黒、体部N6/　灰	扁球状の体部をもつ。胴部中央に穿孔し、穿孔部外面をナデにより調整する。口縁部～頸部にかけて櫛描波状文2条を施し、内面はナデ。	反転復元
367	竪穴建物2 (3292)	3-2区	土師器 壺(直口)	(9.0)		5.3	3分の1	チャート、赤色斑 粒φ0.1～0.2cm を少量含む	内面　5YR5/6 橙 外面　5YR6/6 橙	小型の直口壺。	反転復元
368	竪穴建物2 (3292)	3-2区	土師器 甕(長胴)			25.4	下半部 ほぼ完形	長石、チャート、片 岩赤色斑粒φ0.3～ 0.6cmを多く含む。	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　2.5Y8/2 灰白	器壁が極めて厚く、胎土が粗い粗製土器。底部は丸底を呈する。外面はハケまたは草本によるナデ。	
369	竪穴建物2 (3292)	3-2区	土師器 椀	12.6		5.3	4分の3	長石、片岩チャー ト、赤色斑粒φ0.2 ～0.5cmを多く含む	内面　10YR5/2 灰黄褐 外面　10YR6/2 灰黄褐	粗製で口縁部は大きくゆがむ。内外面ともに粗いヨコナデ。	
370	竪穴建物2 (3292)	3-2区	土師器 甕	(15.8)		18.6	2分の1	長石、チャート、片 岩、赤色斑粒φ0.1 ～0.4cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　7.5YR4/2 褐	くの字に外反する口縁部をもつ。底部は丸底で、底部内面はヘラケズリのち、ユビオサエ。頸部付近には粘土紐接合痕が顕著に残る。外面はタテハケ。	反転復元
371	竪穴建物2 (3292)	3-2区	土師器 高杯 (椀形)	14.25		5.6	杯部完形	チャート、長石、赤 色斑粒φ0.1～0.2 cmを含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/4 にぶい橙	半球状の杯部をもつ。杯部内面に沈線を施す。杯部外面は縦方向のヘラミガキ。脚頂部凸面接合による。	
372	竪穴建物2 (3292)	3-2区	土師器 高杯 (椀形)	14.1		5.6	5分の4	赤色斑粒、シャモッ ト、片岩φ0.1～0.4 cmを多く含む	内面　7.5YR6/4 にぶい橙 外面　7.5YR6/4 にぶい橙	半球状を呈する椀形の杯部をもつ。杯部内面に沈線を施す。	
373	竪穴建物2 (3292)	3-2区	土師器 高杯 (椀形)	13.7		6.5	5分の3	赤色斑粒、シャモッ ト、長石、片岩φ0.1 ～0.5cmを多く含む	内面　2.5Y6/6 橙 外面　5Y6/6 橙	椀形の杯部をもつ。杯部と脚部の接合方法は粘土塊を充填する。杯底部はユビオサエ。	
374	竪穴建物2 (3292)	3-2区	土師器 高杯 (椀形)		10.0	5.6	脚部のみ 完形	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	高杯脚部。中空の柱状部からハの字状に広がる裾部をもつ。柱状部内面はヘラケズリ。	
375	竪穴建物3 (3296)	3-2区	土師器 高杯 (有稜)	(15.1)		4.8	10分の4	チャート、赤色斑 粒φ0.1cmを含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR6/4 にぶい橙	杯底部から明確な稜をもち屈曲する杯部をもつ。杯底部外面はハケ。	反転復元
376	竪穴建物3 (3296)	3-2区	土師器 高杯 (有稜)	(20.3)		7.9	6分の1	チャート、長石、片 岩、赤色斑粒φ0.1 ～0.3cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　7.5YR6/6 橙	大型の有稜高杯。明確な稜から外反気味にのびる杯部をもつ。内外面ともに磨滅。杯部上半と下半で胎土異なる。	反転復元
377	竪穴建物3 (3296)	3-2区	土師器 甕	(17.7)		26.6	2分の1	長石、チャート、片 岩、赤色斑粒φ0.1 ～0.3cmを含む	内面　5YR4/6 赤褐 外面　10YR5/2 灰黄褐	くの字に外反する口縁部、丸底の底部をもつ。外面は体部上半にかけて左上がりのタタキ。内面はナデ。	反転復元
378	竪穴建物4 (3300)	3-2区	土師器 甕(長胴)			25.0	体部 5分の2	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを多 く含む	内面　7.5YR4/2 灰褐 外面　7.5YR5/4 にぶい橙	長胴気味の胴部をもつ。外面はタテハケ、内面は板ナデ及びユビオサエ。	反転復元
379	竪穴建物4 (3300)	3-2区	土師器 甕	(16.6)		23.2	3分の2	チャート、長石、金 雲母φ0.1cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　2.5Y8/2 灰白	くの字に内湾する口縁部をもつ。口縁端部は下端を外側に引き出し上方に面をつくる。体部外面は縦方向のハケ。	反転復元
380	竪穴建物4 (3300)	3-2区	土師器 甕	17.2		23.5	5分の3	チャート、長石、片 岩φ0.1～0.3cm を含む	内面　7.5YR7/6、5/6 橙、5YR6/6 橙 外面　7.5YR7/6、5/6 橙、5YR6/6 橙	くの字に外反する口縁部をもつ	反転復元
381	竪穴建物4 (3300)	3-2区	土師器 高杯 (椀形)	(15.6)		5.3	2分の1	チャート、長石、片 岩、赤色斑粒φ0.1 ～0.2cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	杯底部から緩やかに外反し伸びる杯部をもつ。杯底部に稜をもつ。	反転復元
382	竪穴建物4 (3300)	3-2区	土師器 椀	(13.4)		6.7	完形	チャート、長石、片 岩　φ0.3～0.4 cm、赤色斑粒φ0.1 ～0.2cmを含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	半球状の体部から、直立気味に立ち上がる口縁部をもつ。内外面ともに磨滅。	反転復元
383	竪穴建物4 (3300)	3-2区	土師器 高杯 (大型有段)	(22.7)		16.55	2分の1	チャート、長石、赤 色斑粒φ0.1～0.2 cmを含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	明確な稜をもち直立気味に立ち上がる杯部をもつ。脚部内面には刺突痕をもつ。	反転復元
384	竪穴建物4 (3300)	3-2区	土師器 鉢	(31.4)		28.6	3分の1	長石、チャートφ 0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y7/3 浅黄 外面　10YR8/3 浅黄橙	半角状の把手をもつ鉢。口縁部は直立気味に伸びる。底部は丸みを帯び内形の蒸気孔が穿たれる。把手はナデ。	反転復元
385	ピット10 (3086)	3-1区	土師器 小型丸底 壺	(7.2)		7.1	10分の7	チャート、赤色斑 粒φ0.1～0.2cm を含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	短く直立気味に伸びる口縁部をもつ。頸部内面はユビオサエ。	反転復元
386	土坑9(3125)	3-1区	土師器 製塩土器			3.5	10分の6	チャート、長石、赤 色斑粒φ0.1～0.2 cmを含む	内面　2.5Y7/3 浅黄 外面　7.5YR4/6 褐	半球形の底部をもつ。内外面ともに磨滅。	反転復元
387	溝6(3030)	3-2区	土師器 高杯	14.9		5.8	3分の2	赤色斑粒、片岩φ 0.1～0.3cmを含む	内面　5YR6/8 橙 外面　5YR6/8 橙	椀形の杯部をもつ。杯部と脚部の接合方法は粘土塊を充填する。杯底部はユビオサエ。	
388	溝6(3030)	3-2区	土師器 高杯			2.7	3分の1	長石、赤色斑 粒、チャートφ0.1 ～0.2cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　2.5Y8/3 淡黄	明確な稜をもち屈曲して伸びる大型高杯。脚頂部内面に刺突痕をもつ。	反転復元
389	溝6(3030)	3-1区	土師器 高杯			5.2	3分の1	長石、チャートφ 0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR5/4 にぶい褐 外面　10YR6/4 にぶい黄橙	中空の柱状部。外面は粗いハケ、内面はヘラ状工具によるナデ。	反転合成
390	溝6(3030)	3-2区	土師器 高杯			2.6	2分の1	チャート、片岩φ 0.1～0.3cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR8/2 灰白	大型高杯の裾部。外面はヘラミガキ、内面はナデ。	反転復元
391	溝6(3030)	3-1区	土師器 高杯		器径 (11.1)	9.7	5分の4	チャート、長石φ 0.1～0.3cmを含む	内面　7.5YR8/4 浅黄橙 外面　7.5YR7/3 にぶい橙	内外面ともに磨滅。透孔は見られない。	反転復元
392	溝6(3030) 1層	3-1区	土師器 甕	(12.0)		5.3	8分の1	チャート、長石φ 0.1～0.3cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR6/4 にぶい橙	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は丸くおさめる。肩部外面は斜めハケ、口縁部内面は横ハケ、体部内面は頸部以下ナデ、粘土紐接合痕を明瞭に残す。	反転復元
393	溝6(3030)	3-1区	土師器 小型丸底 壺			5.0	5分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR5/6 明褐 外面　7.5YR5/6 明褐	肩部外面縦ハケ、体部内面ヘラケズリ。口縁部は内外面ともに横ナデ。	反転復元
394	溝6(3030)	3-1区	土師器 小型丸底 壺	(9.7)		5.2	4分の1	チャート、長石φ 0.1～0.3cmを含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙、10YR8/3 浅黄橙	くの字に内湾屈曲する口縁部をもつ。口縁部は内外面ともに横ナデ	反転復元
395	溝6(3030)	3-1区	土師器 小型丸底 壺			4.9	4分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含 む石含む	内面　5YR6/8 橙 外面　2.5Y5/3 黄褐	内外面ともに磨滅。口縁部にユビオサエ。	反転復元
396	溝6(3030)	3-1区	弥生土器 壺		6.6	4.4	10分の7	長石、片岩φ0.1 ～0.2cmを含む	内面　N3/　暗灰 外面　2.5Y7/2 灰黄	明瞭な平底をもち、外面は縦方向のヘラミガキ。弥生時代後期の混入か。	反転復元
397	溝6(3030)	3-1区	土師器 甕	(15.5)		6.0	3分の1	チャート、長石、片 岩φ0.1～0.3cm を含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR6/4 にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。肩部外面は縦方向のハケ、口縁部内面横ハケ、体部内面ヘラケズリ。	反転復元
398	溝6(3030)	3-1区	土師器 甕	(16.2)		5.4	4分の1	チャート、長石、片 岩φ0.1～0.3cm を含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　10YR5/4 にぶい黄褐	くの字にゆるやかに外反口縁部をもつ。端部は丸くおさめる。頸部内面よりやや下がった位置からヘラケズリ。	反転復元

399	溝6(3030)	3-1区	土師器 甕			3.5	5分の1	長石、チャートφ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR5/4 にぶい橙 外面 7.5YR4/3 褐	肩部外面斜め方向のハケ、内面は粘土紐接合痕を残し、ナデ。	反転復元
400	溝6(3030)	3-2区	土師器 甕	(15.4)		20.4	5分の1	チャート、長石、金雲母φ0.1cmを含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 10YR5/3 にぶい黄褐、7.5YR4/3 褐	短く外反する口縁部をもち端部は丸くおさめる。球形の体部は、外面基本によるナデ、内面はヘラケズリ。	反転復元
401	自然流路8(3286)	3-2区	須恵器 甕					チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	自然流路8 (3286) B4/1 暗青灰 外面 N6/ 灰	外面平行タタキのちカキメ。平行沈線による圏線を施す。	反転復元
402	自然流路8(3286)	3-2区	須恵器 甕					チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 5B4/1 暗青灰 外面 N6/ 灰	外面平行タタキのちカキメ、平行沈線による圏線を施す。	反転復元
403	土坑10(3122)	3-1区	土師器 V様式形甕	(14.8)		7.3	10分の3	チャート、赤色斑粒φ0.1cmを含む	内面 5YR6/6 橙 外面 5YR5/8 明赤褐	くの字状に短く外反する口縁部をもつ。外面はタタキ、内面はナデ調整。	反転復元
404	土坑10(3122)	3-1区	土師器 V様式形甕		(4.0)	6.1	5分の4	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR6/3 にぶい黄橙 外面 5YR6/6 橙	突出した平底をもつ。外面は右上がりのタタキ。	反転合成
405	土坑10(3122)	3-1区	土師器 V様式形甕		(3.5)	5.9	2分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙 外面 10YR5/3 にぶい黄褐	平底から直線的に立ち上がる。外面は右上タタキ。内面はナデ調整。	反転復元
406	土坑10(3122)	3-1区	土師器 V様式形甕		(3.7)	9.9	10分の4	チャート、赤色斑粒、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 7.5YR5/4 にぶい褐 外面 7.5YR6/4 にぶい橙	平底をもつ深めの鉢。外面は右上がりのタタキ、内面はナデ。	反転合成
407	土坑10(3122)	3-1区	土師器 V様式形甕		3.5	12.4	3分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y6/1 黄灰 外面 10YR3/1 黒褐	突出した平底をもち、胴部はやや膨まった形態をもつ小型の甕。外面は右上がりのタタキ、内面はナデ、板ナデを施す。	反転合成
408	土坑10(3122)	3-1区	土師器 V様式形甕	(16.2)		3.7	6分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR6/4 にぶい橙 外面 7.5YR6/4 にぶい橙	くの字状に短く外反する口縁部をもつ。内外面は磨滅。	反転復元
409	土坑10(3122)	3-1区	土師器 V様式形甕		4.0	4.6	5分の4	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR3/1 黒褐 外面 5YR6/6 橙	ドーナッツ底をもち、内外面ともに磨滅。	反転合成
410	土坑10(3122)	3-1区	土師器 V様式形甕		(4.4)	8.4	5分の3	チャート、砂岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 5YR5/6 明赤褐 外面 7.5YR5/2 灰黄	ドーナッツ底をもつ。体部外面ハケ、ユビオサエ、底部周辺ユビオサエ。	反転合成
411	竪穴建物7(3020)	3-1区	弥生土器 壺(細頸)	(12.0)		4.2	13分の1	チャート、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR7/8 橙 外面 5YR7/8 橙	内湾気味に伸びる口縁部をもち、端部は内側へ肥厚する。端部外面に円形浮文3個1組を施す。	反転復元
412	竪穴建物7(3020)	3-1区	弥生土器 壺			5.2	頸部破片	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	やや小型の壺の頸部。頸部外面には凹線文4条、櫛描羽状文、櫛描波状文を施す。	反転復元
413	竪穴建物7(3020)	3-1区	弥生土器 壺			6.5	胴部破片	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR6/1 褐灰 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	肩部外面に櫛描羽状文、内面はナデ、ユビオサエ。	反転復元
414	竪穴建物7(3020)	3-1区	弥生土器 壺			3.1	口縁部破片	長石、チャートφ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 7.5YR7/4 にぶい橙	肩段の口縁部をもつ。	断面実測
415	竪穴建物7(3020)	3-1区	弥生土器 壺			1.2	口縁部破片	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 10YR8/3 浅黄橙	端部外面に凹線文2条を施す。	断面実測
416	竪穴建物7(3020)	3-1区	弥生土器 水差把手			5.6	把手破片	チャート、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 10YR8/4 浅黄橙	水差の把手。	断面実測
417	竪穴建物7(3020)	3-1区	弥生土器 甕		(5.4)	3.5	5分の1	長石、角閃石φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR4/6 褐 外面 7.5YR4/6 褐	底部外面はユビオサエ、底部内面は板状工具の工具圧痕が残る。	反転復元
418	竪穴建物7(3020)	3-1区	弥生土器 蓋		(9.2)	1.8	6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y6/6 橙 外面 2.5Y6/6 橙	垂通し穴3孔1対を二方向にもつ。内面はヘラケズリ。	反転復元
419	竪穴建物9(3026)	3-1区	弥生土器 壺		(6.6)	2.2	4分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 5YR7/6 橙 外面 2.5Y7/2 灰黄	底部外面ユビオサエ、内面板ナデ。	反転復元
420	竪穴建物9(3048)	3-1区	弥生土器 壺			2.0	口縁部破片	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR7/5 にぶい橙 外面 10YR8/2 灰白	口縁端部を上下に拡張する。	断面実測
421	竪穴建物9(3048)	3-1区	弥生土器 高杯			8.1	柱状部のみ	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR8/3 浅黄橙	中実の柱状部で、内面はシボリ痕をもつ。外面は櫛描直線文（11条1対）を胴曲部に施す。	反転復元
422	竪穴建物10(3027)	3-1区	弥生土器 甕(小型)		(4.8)	1.4	4分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR5/1 にぶい黄褐 外面 10YR5/3 にぶい黄褐	小型の甕の底部。	反転復元
423	竪穴建物10(3027)	3-1区	弥生土器 甕		(4.2)	3.4	7分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR5/4 にぶい橙 外面 7.5YR5/4 にぶい橙	内外面ともに磨滅。	反転復元
424	竪穴建物10(3027)	3-1区	弥生土器 壺		(12.0)	1.3	5分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 7.5YR7/6 橙 外面 5YR6/6 橙	内外面ともに磨滅。	反転復元
425	土坑11(3047)	3-1区	弥生土器 甕(小型)	(9.6)		3.8	7分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	短く外反する口縁部をもつ小型の甕。	反転復元
426	土坑11(3047)	3-1区	弥生土器 甕(小型)	(9.6)		5.0	6分の1	チャート、長石、角石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙 外面 10YR5/3 にぶい黄褐	短く巻き込む口縁部をもつ、端部はユビオサエが残り波うつ。	反転復元
427	土坑11(3047)	3-1区	弥生土器 甕	(17.6)		5.1	10分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 10YR8/2 灰白	くの字の外反する口縁部をもつ。外面は右上がりのタタキ。	反転復元
428	土坑11(3047)	3-1区	弥生土器 蓋	11.2		2.7	5分の4	チャート、長石φ0.1～0.2cm、角閃石φ0.1cmを含む	内面 10YR6/4 にぶい黄橙 外面 10YR6/4 にぶい黄橙	短く広がる蓋、紐孔は2対2方向穿孔する。	生駒西麓産
429	土坑11(3047)	3-1区	弥生土器 甕		4.6	2.2	底部のみ	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/4 にぶい黄橙 外面 10YR5/1 褐灰、7.5YR7/6 橙	突出した平底をもつ。内外面ともにナデ。	
430	土坑11(3047)	3-1区	弥生土器 甕		(5.4)	3.0	2分の1	長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 7.5YR3/1 黒褐、5YR4/6 赤褐 外面 7.5YR3/1 黒褐、5YR4/6 赤褐	くぼみ底をもつ。底部外面はユビオサエ。	反転復元
431	土坑11(3047)	3-1区	弥生土器 鉢(広口)	(17.2)		2.8	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 7.5YR7/3 にぶい橙	ゆるやかに広がる口縁部をもち、端部は垂下させる。端部は櫛描波状文を施す。	反転復元
432	土坑11(3047)	3-1区	弥生土器 甕		(5.8)	4.5	5分の2	石英、長石、輝石φ0.1～0.2cmを含む。	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 2.5Y7/3 浅黄、7.5YR6/6 橙	突出した平底をもつ。内面は板状工具の放射状圧痕が残る。	搬入品か 反転復元
433	土坑11(3047)	3-1区	弥生土器 壺		(8.0)	3.2	4分の1	長石、チャートφ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR8/3 浅黄橙	ゆるやかに広がる底部。内面はわずかにハケが残る。	反転復元
434	溝状遺構1(3121)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(12.2)		10.8	4分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 N3/ 暗灰、7.5YR7/3 にぶい橙 外面 10YR8/3 浅黄橙	大きく広がる口縁部をもつ。口頸部外面は縦方向のヘラミガキ、頸部以下櫛描波状文、直線文条を交互に施す。	反転復元
435	溝状遺構1(3121)	3-1区	弥生土器 甕	(15.4)		4.7	4分の3	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR5/3 にぶい黄褐 外面 7.5YR5/3 にぶい黄褐	くの字に外反屈曲する口縁部をもつ。内外面ともに磨滅。	反転復元
436	溝状遺構1(3121)	3-1区	弥生土器 鉢(小型)	(8.0)		4.5	7分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y6/2 灰黄 外面 2.5Y6/4 にぶい黄	深い椀形を呈し、端部は外側へ短く折り曲げる。	反転復元
437	溝状遺構1(3121)	3-1区	弥生土器 甕		6.4	5.9	2分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 7.5YR5/4 にぶい橙 外面 7.5YR4/3 褐	底部外面にユビオサエがめぐる。内外面ともに磨滅。	反転復元
438	溝状遺構1(3121)	3-1区	弥生土器 甕		(6.4)	7.3	2分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y5/2 暗灰黄 外面 10YR3/2 黒褐	平底から直線的に立ち上がる形態をもつ。内面はナデ、外面は磨滅。	反転復元
439	溝状遺構1(3126)	3-1区	弥生土器 高杯			5.5	4分の1	チャート、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR7/4 にぶい黄橙 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	柱状脚。内外面ともに磨滅。	反転復元
440	溝状遺構1(3126)	3-1区	弥生土器 壺		(8.0)	3.9	6分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/2 黄灰 外面 10YR6/2 灰黄褐、底部 N3/ 暗灰	底部外面はナデ、外面はナデを施す。底面に織維状の圧痕が残る。	反転復元

441	土坑12(3023)	3-1区	弥生土器 甕	(16.6)		10.7	6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　N4/　灰 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	くの字に内湾屈曲する口縁部をもつ。口縁端部は上方に拡張する。外面は水平タタキ、胴部下半部はヘラケズリ。	反転復元
442	土坑12(3023)	3-1区	弥生土器 甕	(15.1)		5.9	8分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR6/6 明黄褐	くの字に外反する口縁部をもち、口縁端部には凹線文1条を施す。外面は水平タタキ。	反転復元
443	土坑12(3023)	3-1区	弥生土器 水差把手				2分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	水差の把手。	断面実測
444	土坑12(3023)	3-1区	弥生土器 甕	(16.2)		1.6	10分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR5/2 灰褐 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	端部に面を作り凹線文1条を施す。	反転復元
445	土坑12(3023)	3-1区	弥生土器 壺(短頸)			6.1	4分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y7/1 灰白 外面　7.5YR7/6 橙	頭部に櫛描波状文1条、凹線文3条を施す。	反転復元
446	土坑12(3023)	3-1区	弥生土器 壺			4.3	5分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR5/6 明褐 外面　7.5YR7/6 橙、7.5GY3/1 暗緑灰	頭部に凹線文5条を施す。内面はナデ。	反転復元
447	土坑12(3023)	3-1区	弥生土器 甕	(29.7)		5.8	8分の1	チャート、赤色斑粒、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に短く外反する口縁部をもつ。口縁端部は上方に拡張する。	反転復元
448	土坑12(3023)	3-1区	弥生土器 甕	(29.2)		7.8	6分の1	長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを多く含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	くの字に短く屈曲する口縁部をもつ。口縁端部は上下に拡張する。外面は左上がりのタタキ。内面は磨滅。	反転復元
449	土坑12(3023)	3-1区	弥生土器 鉢	(23.2)		4.3	10分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　2.5Y5/1 黄灰	杯底部から屈曲し直立気味に立ち上がる鉢。端部はやや内側に肥厚し、端部外面に沈線をもつ。	反転復元
450	土坑12(3023)	3-1区	弥生土器 高杯	(24.7)		5.7	2分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR8/4 浅黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	杯底部から緩をもち屈曲する形態の杯部をもつ。杯端部に凹線文1条、屈曲部に凹線文2条をもつ。	反転復元
451	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(11.4)		4.3	2分の1	チャート、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y8/3 淡黄 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	外反する口縁部をもち、端部に櫛描波状文を施す。	反転復元
452	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(10.4)		4.7	4分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面　N6/　灰 外面　N6/　灰	外反する口縁部をもち、端部に櫛描波状文を施す。	反転復元
453	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(15.7)		2.6	5分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y7/3 浅黄 外面　2.5Y7/3 浅黄	外反し端部は上下に拡張する。	反転復元
454	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(18.7)		6.6	4分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR7/6 明黄褐 外面　7.5YR7/6 橙	ゆるやかに広がる口縁部をもち、端部は垂下させる。頸部に凹線文2条を施す。	反転復元
455	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(16.2)		2.9	6分の1	長石、チャートφ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y7/4 浅黄 外面　10YR7/6 明黄褐	大きく垂下した口縁端部をもち、端部外面に凹線文3条を施す。円形浮文の痕跡あり。	反転復元
456	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(17.4)		3.2	2分の1	長石、チャート、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　7.5YR7/6 橙	口縁端部を垂下させ、端部に凹線文5条、直径2cm大の貼り付け竹管文を施す。	反転復元
457	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(広口)			7.0	4分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y7/1 灰白 外面　2.5Y8/2 灰白	頸部以下肩部にかけて櫛描波状文3条、櫛描直線文1条を施す。櫛原体やや粗い。	反転復元
458	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(細頸)	(11.6)		5.9	4分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　N7/　灰白	口縁端部外面に凹線文2条を施す。	反転復元
459	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(細頸)			14.8	2分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　10YR7/6 明黄褐	頸部から外上方へのびる口縁部をもつ。口縁部に凹線文を施す。口縁部と頸部の間には櫛描波状文、羅状文、凹線文6条を施す。	反転復元
460	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(細頸)			8.4	4分の1	長石、チャートφ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y6/3 黄褐 外面　10YR4/2 灰黄褐	頸部外面に凹線文5条、肩部外面櫛描直線文を施す。	反転復元
461	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(細頸)			9.9	6分の1	長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y5/4 にぶい赤褐 外面　5YR6/6 橙	頸部外面に凹線文7条を施す。	反転復元
462	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(細頸)	(9.4)		5.0	4分の3	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　7.5YR7/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	内湾気味に伸びる口縁部をもち、端部は肥厚する。端部外面に凹線文4条を施す。	反転復元
463	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(細頸)	(14.1)		6.2	3分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR5/4 にぶい黄褐 外面　7.5YR5/4 にぶい橙	内湾気味に立ち上がる口縁部をもち、端部は内側に肥厚する。口縁端部以下凹線文7条を施す。	反転復元
464	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(細頸)	(12.0)		16.9	2分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR8/2 灰白	内湾気味に立ち上がる口縁部をもち、端部は内側に肥厚する。口縁端部には凹線文1条ののち、円形浮文を施す。口縁部には凹線文4条、頸部外面は櫛描波状文1条を施す。	反転復元
465	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壺(細頸)	12.3)		17.2	8分の1	長石、チャートφ0.1～0.3cmを含む	内面　7.5YR6/6 橙 外面　7.5YR6/6 橙	口縁端部の凹線文2条施す。内面はナデによる。	反転復元
466	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 甕	(17.3)		2.8	10分の1	チャート、長石、緑石φ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y5/2 暗灰黄 外面　5YR5/3 にぶい赤褐	くの字に外反する口縁部をもつ。端部には凹線状のナデを施す。内面は粗い横ハケ。	反転復元
467	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 甕	(14.9)		6.4	5分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　7.5YR6/4 にぶい橙	端部を上下に拡張し端面に凹線文2条を施す。内外面ともに磨滅。	反転復元
468	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 甕	(19.1)		7.4	10分の1	長石、チャートφ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y7/4 浅黄 外面　10YR8/4 浅黄橙	くの字状に短く外反する口縁部をもつ。外面は縦ハケを施す。	反転復元
469	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 高杯	(18.7)		6.0	12分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR3/1 黒褐 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	椀形に広がる杯部をもつ。端部外面には凹線2条を施す。	反転復元
470	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 高杯	(25.1)		5.8	12分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR6/3 にぶい橙 外面　5YR6/6 橙	浅い皿状の杯部をもつ。端部は肥厚し、凹線文3条を施す。内外面ともに磨滅。	反転復元
471	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 高杯	(24.2)		3.9	10分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y6/6 橙 外面　10GY2/1 緑黒	浅い皿状の杯部をもつ。端部は肥厚し、凹線文4条を施す。	反転復元
472	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 高杯	(28.4)		6.6	6分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5YR6/4 にぶい橙 外面　2.5YR6/4 にぶい橙	浅い椀形の杯部をもつ。端部は粘土紐を貼り付けにより段をもち、凹線文2条を施す。	反転復元
473	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 高杯		脚部 (15.5)	14.3	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR6/6 明黄褐 外面　2.5YR6/8 橙	内面にシボリ痕をもつ高杯。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
474	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 高杯			10.0	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	内面にシボリ痕をもつ高杯、杯部と脚部の接合は円盤充填による。	反転復元
475	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 甕	(20.4)		9.6	8分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR6/6 明黄褐 外面　10YR7/6 明黄褐	端部を上下に拡張し端面に凹線文2条を施す。	反転復元
476	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 甕	(27.5)		6.0	4分の1	長石、チャート、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR6/3 にぶい黄橙 外面　7.5YR7/6 橙	くの字の屈曲し、端部を上下に拡張する。内外面ともに磨滅。	反転復元
477	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 鉢	(34.8)		3.9	12分の1	長石、チャートφ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y5/3 黄褐 外面　N3/　暗灰	直立気味に屈曲し立ち上がる。端部は粘土紐貼り付けにより段をもち、凹線文3条を施す。	反転復元
478	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 鉢	(34.6)		4.6	10分の1	チャート、砂岩、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR7/6 明黄褐 外面　5YR6/6 橙	直立気味に屈曲し立ち上がる口縁部をもつ。端部は内外に拡張させる。内外面ともに磨滅。	反転復元
479	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 甕		(7.4)	5.1	3分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　7.5YR6/4 にぶい橙 外面　2.5Y5/2 暗灰黄	平坦な底部より緩やかに広がる形態をもつ。内外面ともに磨滅。	反転復元

480	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壷		4.0	3.1	2分の1	長石、チャート、赤色斑粒φ0.1～0.4cmを含む	内面　7.5YR7/4 にぶい橙 外面　10YR6/6 明黄褐	大きく広がる形態をもつ底部。内外面ともんび磨滅。	反転復元
481	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 壷		(8.4)	4.9	4分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y6/2 灰黄 外面　10YR6/6 明黄褐	底部外面に黒斑。内面は斜め方向のナデ。	反転復元
482	土坑13(3232)	3-1区	弥生土器 甕		6.1	6.0	3分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y7/3 浅黄 外面　7.5YR6/6 橙	厚みのある平底より立ち上がる形態をもつ。	反転合成
483	土坑14(3033)	3-1区	弥生土器 甕	(13.7)		4.4	6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y8/3 淡黄 外面　2.5Y8/3 淡黄	くの字に外反する口縁部をもつ。口縁端部は面を作り終わる。体部外面に右上がりのタタキ。	反転復元
484	土坑15(3069)	3-1区	弥生土器 壷 (広口短頸)	(14.0)		7.0	5分の4	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	ゆるやかに外反し、立ち上がる頸部をもつ。端部は垂下させ凹線文2条を施す。頸部内面・口縁部内面には竹管状の工具による刺突がみられる。	反転復元
485	土坑15(3069)	3-1区	弥生土器 壷		(7.0)	2.4	2分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　N3/　暗灰 外面　2.5Y6/2 灰黄	明瞭な平底をもつ。	反転復元
486	土坑16(3127)	3-1区	弥生土器 甕	(13.8)		3.0	8分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR8/3 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもつ。端部は上方に拡張し、端面に凹線状のナデ。	反転復元
487	土坑16(3127)	3-1区	弥生土器 甕	(11.3)		9.8	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR8/3 浅黄橙	短く外反する口縁部をもつ。体部は水平方向のタタキのち、下半部にかけてヘラケズリ。頸部内面はユビオサエ。	反転復元
488	土坑17(3128)	3-1区	弥生土器 壷		(6.2)	2.6	2分の1	長石、輝石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　N4/ 灰	底面に木葉文をもつ。	反転復元
489	土坑17(3128)	3-1区	弥生土器 高杯			7.5	10分の7	赤色斑粒、輝石φ0.1～0.2cmを含む	内面　7.5YR5/4 にぶい褐 外面　7.5YR4/3 褐	ハの字状に大きく開く脚部をもつ。内外面ともに摩滅。	反転復元
490	土坑18(3063)	3-1区	弥生土器 高杯			6.5	柱状部 4分の1	赤色斑粒、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR8/2 灰白	内面にシボリ痕をのこす柱状脚。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
491	土坑19(3164)	3-1区	弥生土器 壷		7.6	21.7	底部 3分の2 以上	長石、片岩、チャートφ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR6/2 灰黄褐 外面　5YR5/6 明赤褐	体部中程に胴部最大径が位置する壷。内外面ともに摩滅。	反転合成
492	土坑19(3164)	3-1区	弥生土器 壷		(4.2)	3.5	2分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　7.5YR3/1 黒褐 外面　7.5YR4/3 褐	内面ナデ、ユビオサエ。	反転復元
493	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(13.2)		2.3	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR8/2 灰白	口縁端部を垂下させるもの。端部外面に凹線文3条、円形浮文を施す。上端に穿孔をもつ。	反転復元
494	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(13.1)		4.8	4分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　N3/　暗灰 外面　10YR8/2 灰白	口縁端部を垂下させるもの。端部に凹線文2条、円形浮文、頭部には板ナデを施す。上端に穿孔をもつ。	反転復元
495	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(19.1)		8.6	4分の1	チャート、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを多く含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　5YR7/4 にぶい橙	緩やかに外反する口縁部をもち、端部を垂下させるもの。端部に凹線文5条、円形浮文、頭部に櫛描直線文を施す。	反転復元
496	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(15.8)		4.1	4分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　5YR6/6 橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	口縁端部を垂下させるもの。端部外面に凹線文4条、円形浮文を施す。上端に櫛による列点文を施す。	反転復元
497	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壷(広口)	18.8		5.8	3分の2	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　5YR7/6 橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	緩やかに外反する口縁部をもち端部は上下に拡張する。上端には櫛工具による列点文を施す。	
498	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(28.0)		2.5	口縁部6 分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR8/4 浅黄橙、7.5YR7/4 にぶい橙 外面　10YR8/4 浅黄橙、7.5YR7/4 にぶい橙	緩やかに外反する口縁部をもち端部は上下に拡張し、凹線文2条、円形浮文を施す。上端面に穿孔をもつ。	反転復元
499	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(27.0)		5.5	6分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　N3/　暗灰 外面　2.5Y8/2 灰白	口縁端部を垂下させるもの。端部に凹線文3条、円形浮文、頭部にはタテハケを施す。上端に穿孔をもつ。	反転復元
500	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(35.4)		8.2	5分の1	チャート、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面　5YR7/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	緩やかに外反する口縁部をもち端部は上方に拡張し、凹線文4条、円形浮文を施す。上端面には櫛描列点文を施す。	
501	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(16.1)		21.75	口縁部 8分の7	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y6/3 にぶい黄、10YR4/1 褐灰 外面　2.5Y7/3 浅黄、10YR5/2 灰黄褐	直立気味の頸部から外反し、口縁端部を上下に拡張するもの。口縁部、胴部には板状の刺突文、下半部はヘラミガキ。	反転復元
502	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(14.7)		2.8	8分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y5/1 黄灰 外面　2.5Y7/2 灰黄	緩やかに広がる口縁部をもち、端部を上下に拡張し凹線文4条を施す。	反転復元
503	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(11.8)		4.9	6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cm、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y8/3 淡黄 外面　2.5Y8/3 淡黄	外反する口縁部をもち、端部を垂下させるもの。端部に凹線文3条、円形浮文、頸部に凹線文4条を施す。上端に櫛による列点文を施す。	反転復元
504	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壷(広口)		頸部 (7.7)	7.3	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　N3/　暗灰 外面　10YR8/3 浅黄橙	頸部から肩部の外面にかけて、凹線文4条、櫛描直線文を施す。頸部内面はユビオサエ。	
505	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(広口)	22.8		9.9	5分の4	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　5YR7/4 にぶい橙～10YR8/3 浅黄橙	口縁端部を垂下させ、端部に凹線文3条、円形浮文、頸部に櫛描波状文、羅状文を施す。上端面に波状文をもつ。	
506	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(16.4)		7.9	6分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　5YR7/6 橙～10YR3/1 黒褐 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	細い頸部から緩やかに伸びる口縁部をもつ。端部は上下に拡張し凹線文を、頸部には櫛描波状文、凹線文を施す。	反転復元
507	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(17.7)		9.7	6分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　5YR6/6 橙 外面　2.5YR6/6 橙	緩やかに外反する口縁部をもつ。端部は上下に拡張し、凹線文3条を施す。頸部外面に凹線文6条を施す。	反転復元
508	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(広口)	(21.4)		9.3	口縁部 16分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5Y8/2 灰白、5YR7/4 にぶい橙 外面　2.5Y8/2 灰白	口縁端部を上下に拡張させ、凹線文3条、円形浮文を施す。頸部には櫛描波状文、凹線文を施す。上端面に穿孔をもつ。	反転復元
509	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(広口)	13.4		15.5	上半 ほぼ完形	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面　5YR8/3 淡黄 外面　5YR8/3 淡黄	口縁端部を上下に拡張するもの。頸部に刺突文、凹線文3条、肩部以下、羅状文、直線文、波状文を施す。穿孔有。	
510	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷 (広口)	(18.4)		13.3	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　2.5Y7/2 灰黄	太頸の頸部から広がる口縁部をもつ。口縁端部には櫛描波状文、肩部にかけてタテハケのち櫛描波状文3条。	反転復元
511	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(広口)			11.3	頸部上半 4分の1	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面　N3/1 暗灰 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	頸部に張り付け突帯をもち、櫛描羅状文2条、櫛描直線文3条を施すもの。内面はナデ。	反転復元
512	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壷			20.45	体部 4分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙、5YR7/3 にぶい橙	肩部以下、櫛描羅状文2条、櫛描波状文を施し、胴部最大径横方向のヘラミガキ、下半部は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
513	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(短頸)	13.05		7.8	口縁部 4分の3	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面　10YR6/4 にぶい赤橙、 外面　10YR6/6 赤橙、10YR7/3 にぶい黄橙	外上方に直線的に伸びる口縁部をもつ。外面は口縁部に凹線文3条、頸部にナナメハケ、刺突文を施す。	反転復元
514	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(短頸)	(16.4)		8.2	4分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面　5YR7/3 にぶい橙 外面　5YR6/4 にぶい橙	頸部から外上方に直線的に伸びる口縁部をもつ。口縁部外面に凹線文2条を施す。	反転復元
515	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(短頸)	(15.4)		8.3	口縁部 8分の3	チャート、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR7/4 にぶい黄橙、2.5Y6/1 黄灰	頸部から外上方に直線的に伸びる口縁部をもつ。口縁部外面に凹線文3条、頸部に刺突文を巡らせる。	反転復元
516	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壷(短頸)	(14.8)		10.1	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	頸部から外上方に直線的に伸びる口縁部をもつ。口縁部外面に凹線文2条、頸部に刺突文を巡らせる。	反転復元

517	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(短頸)	(17.5)		9.8	5分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.3 ～ 0.5 cmを含む	内面　5YR7/6 橙 外面　5YR7/6 橙	頸部から外上方に直線的に伸びる口縁部をもつ。口縁部外面に回線文2条を施す。	反転復元
518	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺 (広口外反)	(16.8)		8.6	3分の2	チャート、長石、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR6/2 灰黄褐 外面　10YR8/3 浅黄橙	緩やかに外反し、口縁端部は上下に拡張し回線文を施す。頸部外面は縦方向のハケ、刺突文を巡らせる。	反転復元
519	自然流路9 (3180)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(18.5)	6.1	35.6	口縁部 完形	チャート、長石、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　7.5YR8/2 灰白 外面　7.5YR8/2 灰白	緩やかに外反し、口縁端部は上下に拡張する。頸部外面は刺突文を巡らせる。体部上半部はタタキのちハケ、胴部最大径をヨコヘラミガキ、下半部はタテヘラミガキ。	反転復元
520	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺 (広口短頸)	(11.0)		6.65	口縁部 4分の1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm、輝石 φ 0.1 cmを含む	内面　2.5Y6/2 灰黄 外面　2.5Y5/1、4/1 黄灰、2.5Y7/2 灰黄	くの字に短く外反する口縁部をもつ。肩部外面は横方向のヘラミガキ。	反転復元
521	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺 (広口短頸)	(12.1)		12.3	2分の1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm、輝石 φ 0.1 cmを含む	内面　10YR6/2 灰黄褐～10YR4/1 褐灰 外面　10YR8/2 灰白～10YR6/1 褐灰	くの字に短く外反する口縁部をもつ。直用の紐孔を3方向2対でもつ。外面は細かな条線をもつ板ナデ。	
522	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺 (広口短頸)	(11.8)		12.8	10分の8	チャート、長石、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y6/1 黄灰 外面　2.5Y6/2 灰黄	直立気味の頸部より、くの字に短く外反する口縁部をもつ。内外面ともにナデ。	
523	自然流路9 (3150)中層	3-1区	弥生土器 壺(短頸)	(14.5)		10.2	4分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR6/2 灰黄褐	短く外反する口縁部をもち端部は外傾する面を作る。肩部外面には円形竹管文を上下2段に巡らせる。	反転復元
524	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺 (底部)		5.3	10.7	10分の6	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　5Y7/1 灰白 外面　2.5Y7/2 灰黄	外面縦方向のヘラケズリ、内面ナデ。縦方向のヘラミガキ。外面には3条のヘラ描あり。記号文か。	反転復元
525	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(有段)	(17.4)		15.0	口縁部 ほぼ完形	片岩、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y3/1 黒褐、7.5YR7/6 橙 外面　10YR8/2 灰白	受口状の口縁部をもつもの。外面は端部と屈曲部に回線文を施し、頸部はタテハケのち刺突文。	反転復元
526	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(有段)	(17.2)		26.2	口縁部 2分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cmを多く含む	内面　5Y6/1 灰、10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	受口状の口縁部をもつもの。外面は屈曲部に回線文2条、頸部に刺突文、体部下半部はヘラケズリを施す。	反転復元
527	自然流路9 (3150)10層	3-1区	弥生土器 壺(把手付)					チャート、長石、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　10YR8/3 浅黄橙	把手がつく壺D。外面は縦方向の粗いハケ。肩部一次調整に左上がりのタタキ。下半部にかけてヘラケズリを施す。	
528	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(細頸)	(13.4)		5.3	口縁部 4分の1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　5Y5/1、4/1 灰 外面　5Y5/1、4/1 灰	内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。外面斜め方向の刺突文、回線文4条を施す。	反転復元
529	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(短頸)	(15.0)		7.6	口縁部 4分の1	長石 φ 0.3 ～ 0.4 cmを含む	内面　2.5Y8/2 灰白 外面　2.5Y8/2 灰白、2.5Y5/1 黄灰	内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。端部は内外に肥厚し上方に面をつくる。	反転復元
530	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(短頸 か水差)	(9.5)		14.1	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　5YR6/6 橙～N3/ 暗灰 外面　5YR6/8 橙	直立気味に伸びる口縁部をもつ。外面は横方向のヘラミガキ、内面はユビオサエ。	反転復元
531	自然流路9 (3150) 灰色細砂	3-1区	弥生土器 水差	(9.1)		9.8	4分の1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　5YR7/6 橙	直立する口縁部をもち、回線文8条を施す。把手、側に抉りをもつ。	
532	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(20.0)		6.8	口縁部 6分の1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y8/2 灰白、10R6/4 にぶい赤橙 外面　2.5Y8/2 灰白、10R6/4 にぶい赤橙	緩やかに外反する口縁部をもち端部を上方に拡張するもの。	反転復元
533	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺 (広口短頸)	(16.2)		19.4	口縁部 4分の1	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cm、輝石 φ 0.1 cmを含む	内面　2.5Y6/2 灰黄、5Y4/1 灰 外面　2.5Y6/2 灰黄、2.5Y7/2 灰黄	短い頸部からくの字に外反する口縁部をもつもの。外面はタテハケ、ヘラミガキ。肩部内面はナデ。	反転復元
534	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(17.2)		28.3	口縁部 4分の3	チャート、長石、片岩 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　7.5YR7/6 橙、5YR6/8 橙 外面　5YR6/8 橙	直立気味に伸びる頸部より外反する口縁部をもつもの、内面はナデ、外面は磨滅により不明。	反転復元
535	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(19.4)		16.3	10分の7	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.4 cmを含む	内面　2.5Y8/1 灰白 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	外上方に広がる口縁部から端部を垂下させるもの。体部外面は縦方向のヘラミガキ。口縁部内面は板ナデ。	反転復元
536	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(広口)	(17.7)		13.2	2分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　5YR8/4 淡橙	緩やかに立ち上がる頸部から大きく外反する口縁部をもつもの。外面は頸部タテハケ、体部は左上タタキ。	反転復元
537	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 蓋			15.0	3分の1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　2.5Y7/2 灰黄～7.5YR5/1 褐灰	なだらかな傾斜する肩部をもつ。肩部は顕著のタテハケ、胴部にかけて縦方向のヘラミガキ。内面は板ナデ。	反転復元
538	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 鉢		(8.4)	6.5	底部4分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　N3/　暗灰 外面　10YR6/2 灰黄褐、2.5Y7/3 灰黄	底部から外上方にひろがるもの。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
539	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 鉢		(5.8)	4.75	底部ほぼ 完形	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　2.5Y5/1 黄灰、2.5Y5/2 暗灰黄 外面　5YR7/6 橙	外面縦方向のヘラミガキ、内面板状工具による板ナデ。	反転復元
540	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 鉢		(6.0)	4.9	底部8分の3	長石 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　7.5YR6/4 にぶい橙、10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR5/2 灰黄褐、5YR6/4 にぶい橙、N3/ 暗灰	外面板ナデ。内面ユビオサエ。	反転復元
541	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 鉢		(4.95)	6.4	底部ほぼ 完形	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y5/2 暗灰黄、2.5Y4/1 黄灰 外面　10YR7/2 にぶい黄橙、 7.5YR7/4 にぶい橙	外面横方向～縦方向のヘラミガキ、内面ユビオサエ。	反転復元
542	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 鉢		6.8	5.9	底部完形	チャート、長石、φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙、2.5Y5/1 黄灰 外面　10YR8/3 浅黄橙、2.5Y5/1 黄灰	厚みのある平底より立ち上がる形態をもつ。外面はユビオサエ、ナデ。	反転復元
543	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 鉢		(4.8)	3.8	底部完形	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y8/2 灰白、N4/ 灰	外面縦方向のヘラミガキ、内面ユビオサエ。	反転復元
544	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺		(8.6)	5.85	底部ほぼ 完形	チャート、長石、片岩 φ 0.3 cmを多く含む	内面　N4/　灰 外面　N4/　灰、2.5Y7/1 灰白、 2.5Y6/1 黄灰	外面縦方向のヘラミガキ、内面板ナデ、板状工具による圧痕が残る。	反転復元
545	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺		(6.0)	4.1	4分の3	チャート、長石 φ 0.2 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　2.5Y7/2 灰黄	外面タテヘラミガキ、内面タテハケ。	反転復元
546	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺		(7.0)	5.6	底部8分の3	チャート、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙	底部から外上方にひろがるもの。外面は磨滅により不明。	反転復元
547	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(16.3)		7.7	5分の1	チャート、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　7.5YR6/2 灰褐 外面　7.5YR6/2 灰褐	くの字に外反し、口縁端部を上方に拡張し回線文を施すもの。外面は水平方向のタタキ。口縁部内面はヨコハケ。	反転復元
548	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(14.9)		9.7	2分の1	長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　5YR5/4 にぶい橙～7.5YR6/2 灰褐 外面　7.5YR5/3 にぶい褐	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し回線文を施すもの。外面は水平タタキ、肩部に刺突文をもつ。	反転復元
549	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(14.0)		15.4	口縁部 8分の1	チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　5YR6/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/4 にぶい橙、2.5YR6/6 橙	くの字に外反し、口縁端部を上方に拡張し回線文を施すもの。外面は水平方向のタタキ。	反転復元
550	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 甕	(18.0)		15.2	口縁部 10分の1	チャート、長石 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y8/2 灰白、N4/ 灰	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し回線文を施すもの。外面は水平から左上タタキのちタテハケ。	反転復元
551	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	14.0	4.6	22.4	口縁部 3分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒 φ 0.1 ～ 0.3 cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　2.5Y7/2 灰黄、2.5Y4/1 黄灰	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し回線文を施すもの。外面は水平タタキのちタテハケ、底部はヘラケズリ。	反転復元
552	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	12.5	5.6	24.9	10分の7	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　10YR7/3 にぶい黄橙～ 10YR5/2 灰黄褐色	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し回線文を施す。外面は右上タタキ、肩部には矢羽根状のタタキ目をもつ。底部外面はヘラケズリ。内面は縦方向のハケ。	
553	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(14.0)		6.8	3分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.1 ～ 0.2 cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	くの字に外反し、口縁端部を上方に拡張し回線文を施すもの。外面は水平方向のタタキ。	反転復元

554	自然流路9 (3150) 下層	3-1区	弥生土器 壺	13.8		3.65	口縁部 8分の1	チャート、長石φ 0.1cmを含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 10YR7/2 にぶい黄橙、10YR4/1 褐灰	くの字に内湾し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面は水平方向のタタキ。	反転復元
555	自然流路9 (3150) 下層	3-1区	弥生土器 甕	14.0		8.0	口縁部 6分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR6/6 橙 外面 5YR7/6 橙、煤部分 10YR3/1 黒褐	くの字に外反し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面は水平方向のタタキ。	
556	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(12.6)		10.7	4分の3	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR6/3 にぶい黄橙 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	くの字に内湾し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面は水平方向のタタキのちタテハケ。	
557	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(16.6)		11.0	3分の1	チャート、長石、片岩φ 0.3～0.4cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 10YR5/2 灰黄褐	くの字に外反し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面は左上方向のタタキ。内面はユビオサエ。	反転復元
558	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕		(6.5)	5.6	3分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y8/1 灰白 外面 10YR7/2 にぶい黄橙～2.5Y4/1 黄灰	外面縦方向のヘラケズリ。内面はユビオサエ、ナデ。	反転復元
559	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕		(6.2)	6.5	2分の1	チャート、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 10YR5/1 褐灰	外面縦方向のヘラケズリ。内面はユビオサエ、ナデ。工具先端の当たり有。	反転復元
560	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕		(6.1)	8.5	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	外面縦方向のヘラケズリ。内面はヘラミガキ、ナデ。	反転復元
561	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(13.4)		11.9	2分の1	チャート、輝石φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y5/2 暗灰黄 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施す。外面は右上タタキ、内面は縦方向～斜め方向のハケ。	反転復元
562	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(17.0)		11.4	口縁部 6分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR6/4 にぶい橙 外面 2.5YR5/4 にぶい赤褐、5YR6/4 にぶい橙	くの字に外反し、口縁端部を上方に拡張するもの。外面は水平方向のタタキ。内面はタテハケ。	反転復元
563	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(13.0)		11.5	3分の1	チャート、長石φ 0.2～0.3cmを含む	内面 10YR4/3 にぶい黄褐 外面 10YR7/3 にぶい黄橙	くの字に内湾し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面は水平方向のタタキ。内面はナデメハケ。	反転復元
564	自然流路9 (3150) 下層	3-1区	弥生土器 甕	(17.5)		12.4	5分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5YR6/6 橙～2.5Y3/1 黒褐 外面 10YR6/2 灰黄褐	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面は水平タタキ。	反転復元
565	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(15.6)		13.6	4分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR4/2 灰黄褐 外面 10YR6/2 灰黄褐	くの字に外折し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面は水平タタキ、内面は斜め方向のハケ。	反転復元
566	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(14.5)	(6.7)	30.7	2分の1	長石、石英、金雲母φ 0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y6/2 灰黄 外面 2.5Y6/2 灰黄	口縁端部を上下に拡張し凹線文を施す。体部外面は水平タタキのちタテハケ、下半部はヘラケズリ。内面はタテハケ。	反転復元
567	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(14.5)		6.5	約4分の1	チャート、片岩、赤色斑粒φ 0.1cmを含む	内面 5YR5/2 灰褐～10YR7/2 にぶい黄橙 外面 2.5YR6/6 橙	くの字に外反し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面は縦方向のヘラケズリ、内面は板ナデ。	
568	自然流路9 (3150) 下層	3-1区	弥生土器 甕	(16.0)		7.0	4分の1	チャート、長石、片岩φ 0.1～0.3cmを含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 10YR3/1 黒褐	くの字に外反し、端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面は横方向のヘラケズリ、内面はナデ。	反転復元
569	自然流路9 (3150) 下層	3-1区	弥生土器 甕	(15.3)		8.7	6分の1	輝石φ 0.1cm、石英φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/2 灰白灰白 外面 10YR3/2 黒褐	くの字に内湾する口縁部から端部は上方に拡張する。外面はヘラケズリののち縦方向のヘラミガキ。	反転復元
570	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(22.0)		7.5	口縁部 6分の1	チャート、長石φ 0.2～0.3cmを含む	内面 10YR4/1 褐灰、2.5Y6/1 黄灰 外面 10YR7/2 にぶい黄橙、10YR6/2 灰黄褐	くの字に外折し、口縁端部は面を作りおわるもの。外面は縦方向のヘラケズリ、内面はナデ。	反転復元
571	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(18.3)		13.7	4分の1	チャート、長石、片岩φ 0.1～0.2cmを多く含む	内面 5YR6/6 橙～7.5YR4/2 灰褐 外面 2.5YR6/6 橙～7.5YR7/4 にぶい橙	くの字に外反し、口縁端部に面をつくるもの。外面は横方向のヘラケズリ、内面はナデ。	反転復元
572	自然流路9 (3150) 下層	3-1区	弥生土器 甕	(11.7)		7.4	4分の1	チャート、長石φ 0.2～0.3cmを含む	内面 5Y7/1 灰白 外面 10YR4/1 褐灰	くの字に外反し、口縁端部は面を作り丸線を施すもの。外面は縦方向の粗いハケ。大和形態か。	反転復元
573	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕			20.1	3分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR6/2 灰黄褐 外面 10YR6/3 にぶい黄橙	外面左上がりのタタキのち、粗いタテハケ。内面は粗いタテハケ。搬入品か？	反転復元
574	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 小型甕	10.1	5.3	13.0	10分の9	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ 0.1～0.4cmを含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 2.5Y7/2 灰黄、2.5Y5/2 暗灰黄	くの字に短く外反する口縁部をもつ小型の甕。外面は縦方向のヘラケズリ。	
575	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	14.8		10.3	口縁部 6分の1	チャート、長石φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙、2.5Y4/1 黄灰 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	くの字に内湾し、口縁端部は上方に拡張するもの。外面は縄条のナナメハケを施す。内面はナナメハケ	反転復元
576	自然流路9 (3150) 下層	3-1区	弥生土器 甕	(18.5)		8.7	3分の1	チャート、長石、輝石φ 0.1～0.3cmを含む	内面 10YR4/1 褐灰 外面 10YR5/1 褐灰	くの字に内湾する口縁部から端部は上方に拡張する。内面は縦方向のナデ。外面は板ナデ、ナデによる。	反転復元
577	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	18.0		16.8	10分の7	チャート、長石φ 0.3cm、輝石、金雲母φ 0.1cmを含む	内面 10YR6/2 灰黄褐 外面 7.5YR5/2 灰褐	くの字に内掩する口縁部をもつ。外面は板ナデ、もしくはナデ、内面は縦方向の板ナデ。	反転復元
578	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(17.0)		20.3	6分の1	チャート、長石、輝石、金雲母φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 10YR4/2 灰黄褐	くの字に内湾する口縁部をもつもの。内面は縦方向のハケ。外面はナデ、下半部はヘラケズリによる。	
579	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕、鉢	(27.0)		17.8	口縁部 8分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙、2.5Y4/1 黄灰 外面 10YR8/3 浅黄橙、5YR7/6 橙	くの字に短く屈曲し、上方に拡張する口縁部をもつ。端部は工具端による押圧。体部外面は左上～右上タタキ。	反転復元
580	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(30.9)		15.5	2分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ 0.2～0.3cmを含む	内面 5YR7/6 橙 外面 5YR7/6 橙	くの字に短く外反し、口縁端部を上下に拡張するもの。体部は左上タタキ。	
581	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	36.0		5.3	口縁部 12分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 2.5Y7/2 灰黄	くの字に短く外反し上下に拡張する口縁部をもつ。外面水平タタキ。	反転復元
582	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕、鉢	25.0		15.1	口縁部 4分の1	長石、赤色斑粒φ 0.1～0.2cmを含む	内面 5YR7/4 にぶい橙、7.5YR7/2 明褐灰 外面 2.5YR6/6 橙、7.5YR8/3 浅黄橙	くの字に外反し、口縁端部を上方に拡張し凹線文を施すもの。外面は水平方向のタタキ。下半部はヘラケズリ。	反転復元
583	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 甕	(15.3)		11.0	10分の6	角閃石、長石、金雲母φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y3/2 黒褐 外面 10YR3/1 黒褐	器壁は厚く、口縁端部を摘み上げずに丸く終わるもので、体部上半までヘラミガキを行うもの。	生駒西麓産 反転復元
584	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯(脚)	(19.9)		9.2	6分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ 0.1～0.2cmを含む	内面 5YR6/4 にぶい橙 外面 7.5YR7/2 明褐灰	杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもの。屈曲部に凹線文2条をもち、内外面は横方向のヘラミガキ。	反転復元
585	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯(脚)	(21.6)		6.5	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ 0.1cmを多く含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 10YR7/2 にぶい黄橙	杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がる口縁部をもつもの。屈曲部に凹線文2条をもつ。	反転復元
586	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯(脚)	(21.2)		9.2	口縁部 16分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ 0.2～0.3cmを含む	内面 2.5YR7/6 橙、2.5Y4/1 黄灰 外面 10YR6/6 黄橙	杯部中ほどに稜をもち、屈曲して立ち上がるもの。端部は内外に拡張する。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
587	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯(脚)	20.1	13.6	16.0	10分の9	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ 0.2～0.3cmを含む	内面 10YR8/2 灰白 外面 2.5Y7/2 灰黄	杯下半から屈曲して直立気味に立ち上がるもの。杯部外面はヘラミガキのち凹線文を施す。透かし穴は9方向もつ。	
588	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 器台付土器		(18.2)	6.3	脚部 6分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ 0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 7.5YR8/4 浅黄橙、N5/ 灰	円錐状に広がる脚部をもち、上下2段に透かし穴をもつ。	反転復元
589	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯(脚)	12.6		8.1	口縁部 4分の3	チャート、長石、片岩φ 0.1～0.4cmを多く含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 5YR7/6 橙、10YR8/3 浅黄橙	口縁部が直立気味に伸びる椀形の杯部をもつもの。粘土紐接合痕、ユビオサエを顕著に残す粗雑な土器。	反転復元
590	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯			6.1	脚部 3分の1	チャート、長石、片岩φ 0.1～0.3cmを少量含む	内面 10YR8/2 灰白、2.5Y8/2 灰白 外面 10YR8/2 灰白、2.5Y8/2 灰白	外面縦方向のヘラミガキをもつ。上層からの混入か（弥生後期～布留）。	反転復元
591	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯 (水平口縁)			3.05	口縁部 16分の1以下	長石、片岩φ 0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/2 灰黄、5YR7/6 橙 外面 2.5Y7/2 灰黄、5YR7/6 橙	水平口縁部をもち端部を垂下させるもの。	断面実測

592	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯 (水平口縁)	垂下部 (23.0)		3.7	垂下部 6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/2灰白、2.5Y6/1、5/1黄灰 外面 10YR8/2灰白、2.5Y6/1、5/1黄灰	水平口縁部をもち端部を垂下させるもの。内外面ともに摩滅により不明。	反転復元
593	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯(皿状)	(22.0)		5.4	口縁部 8分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.3～0.4cmを含む	内面 2.5Y6/4にぶい橙 外面 5YR7/6橙	皿状の杯部をもつもの。端部は内外に拡張し上方に面を作る。	反転復元
594	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯(皿状)	(22.0)		7.5	口縁部 8分の1	チャート、長石、輝石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/2灰黄 外面 2.5Y7/2灰黄	皿状で深めの杯部をもつもの。杯下半部はヘラケズリのち、乱方向のヘラミガキ。	反転復元
595	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯(皿状)	(27.0)		9.4	口縁部 8分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面 10YR8/3浅黄橙、7.5YR8/4浅黄橙 外面 10YR8/3浅黄橙、7.5YR8/4浅黄橙	杯底部から外上方に緩やかに伸びる杯部をもつ。	反転復元
596	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯(皿状)	(35.4)		7.8	4分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面 5YR7/4にぶい橙 外面 5YR7/4にぶい橙	皿状の杯部から屈曲して口縁部が直立するもの。端部外面に刺突をもつ。	反転復元
597	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 脚台付土器		(7.8)	2.6	底部 6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/2灰黄 外面 2.5Y7/2灰黄	ミニチュアの脚台付土器もしくは高杯。円錐状に広がる裾部をもち、裾端部に凹線文を施す。内面はヘラケズリ。	反転復元
598	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 高杯		8.6	4.6	10分の9	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y6/2灰黄 外面 5Y6/2灰オリーブ	ミニチュアの脚台付土器もしくは高杯。円錐状に広がる裾部をもち、裾端部に凹線文3条を施す。内面はハケ。	
599	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯(脚)		12.0	14.55	脚部完形	チャート、長石、片岩φ0.2～0.4cmを含む	内面 7.5YR7/4にぶい橙、2.5Y8/2灰白 外面 7.5YR7/4にぶい橙、2.5Y8/2灰白	内面に絞り痕をもつ柱状部。裾部内面はヘラケズリ。脚上端に把手状の剥離した痕跡が残る。盤壁厚く取鍋形土器か？	反転復元
600	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯		13.6	12.9	底部 3分の2	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面 5YR7/4にぶい橙 外面 2.5YR7/4淡赤橙、2.5Y7/1灰白	内面に絞り痕をもつ柱状部。端部は上下に肥厚し端面に凹線文を施す。透かし穴は6方向。外面縦方向のヘラミガキ。	反転復元
601	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯		(15.2)	3.9	底部 6分の1	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/2灰黄 外面 2.5Y7/2灰黄	円錐状に広がる脚部をもつ。	反転復元
602	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯			10.5	3分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR6/4にぶい橙 外面 5YR6/6橙	粘土板により成形された柱状脚。縦方向に接合痕が残る。鰭の羽口か？	反転復元
603	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 鞴羽口、高杯転用か			12.5	2分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR7/4にぶい橙～10GY6/1緑灰 外面 7.5YR7/4にぶい橙	長くまっすぐに伸びる柱状脚。内面はユビオサエ。鰭の羽口か？	反転復元
604	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯			6.1	脚部 5分の2	チャート、長石φ0.2～0.3cmを含む	内面 7.5YR7/4にぶい橙、 外面 7.5YR7/4にぶい橙	内面にシボリ痕をもつ柱状部から外上方に広がる杯部をもつもの。外面は縦方向のヘラミガキ。	反転復元
605	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 高杯			7.7	5分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR7/2にぶい黄橙 外面 10YR7/2にぶい黄橙	内面ヘラによる痕跡が残る柱状脚。外面はタテ方向のヘラミガキ。	反転復元
606	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 高杯			10.4	10分の7	チャート、長石、輝石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/2灰黄 外面 2.5Y7/3浅黄	内面にシボリ痕をもつ柱状部をもつ。外面は縦方向のヘラミガキ、裾部はヘラケズリ。円盤充填法による。	反転復元
607	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(無頸)	(16.4)		3.1	口縁部 8分の3	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面 5Y4/1灰 外面 5Y4/1灰	口縁部に粘土紐を張り付け厚みをもたせ、端面をもつもの。	反転復元
608	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(無頸)	(14.0)		4.55	口縁部 6分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 7.5YR8/3浅黄橙 外面 5YR7/3にぶい橙、7.5YR8/4浅黄橙	口縁部に粘土紐を張り付け厚みをもたせたもの。口縁部に2孔の紐孔をもつ。	反転復元
609	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(無頸)	(15.2)		5.1	口縁部 4分の1	チャート、長石φ0.1を少量含む	内面 10YR8/2灰白 外面 10YR8/2灰白	口縁部に粘土紐を張り付け厚みをもたせたもの。外面はヘラミガキ。口縁部に2孔の紐孔をもつ。	反転復元
610	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(無頸)	(14.0)		6.2	口縁部 10分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y4/1黄灰、2.5Y7/1灰白 外面 5YR7/3にぶい橙、N4/灰	口縁部に粘土紐を張り付け厚みをもたせたもの。口縁部に2孔の紐孔をもつ。	反転復元
611	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(無頸)	(13.2)		10.7	口縁部 16分の1以下	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面 10YR8/3浅黄橙 外面 10YR8/3浅黄橙、5YR7/4にぶい橙	胴部は膨らみをもち、体部中程に屈曲をもつ。口縁部は粘土紐を貼り付け厚みをもつ。外面ヘラミガキ。	反転復元
612	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壺(無頸)	(10.6)		12.4	口縁部 20分の1	チャート、長石、輝石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y4/1黄灰、2.5Y7/2灰黄 外面 10YR6/2灰黄褐	胴部は膨らみをもち、体部中程に屈曲をもつ。口縁部は粘土紐を貼り付け厚みをもつ。内面ユビオサエ。	反転復元
613	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(無頸)	(12.0)		6.3	口縁部 16分の1	チャート、長石、赤色斑粒、金雲母φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR7/2、7/3にぶい黄橙 外面 10YR7/2、7/3にぶい黄橙	胴部は膨らみをもち、体部中程に屈曲をもつ。口縁部は粘土紐を貼り付け厚みをもつ。外面櫛描波状文。	反転復元
614	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 蓋		摘み径 (4.8)	3.0	10分の8	チャート、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/2灰黄 外面 2.5Y7/3浅黄	摘み部が突出する蓋。	反転復元
615	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 蓋		摘み径 (3.7)	2.1	5分の3	角閃石、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 N2/ 黒 外面 2.5Y3/1黒褐	摘み部がわずかに突出するもの。	生駒西麓産 反転復元
616	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 蓋	(17.1)	摘み径 (3.4)	3.8	2分の1	チャート、長石φ0.1～0.4cmを含む	内面 2.5Y2/1黒 外面 10YR4/2灰黄褐	摘み部がわずかに突出するもの。紐孔2孔1対をもつ。	反転復元
617	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 蓋	(18.1)		2.9	10分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR7/3にぶい黄橙 外面 2.5Y7/3浅黄	緩やかに広がる裾部をもつ。端部は面を作り凹線文を施す。内外面ともにヘラケズリ。	反転復元
618	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 蓋	(19.5)		4.6	5分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR7/2にぶい黄橙 外面 10YR6/2灰黄褐	緩やかに広がる裾部をもつ。端部は面を作り凹線文を施す。外面はヘラケズリ。	反転復元
619	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 壺(無頸)	(8.6)		4.4	4分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR4/2灰褐 外面 5YR6/4にぶい橙	体部から屈曲し、内傾気味に伸びる口縁部をもつ。端部は丸く肥厚する。	反転復元
620	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 鉢	10.6	4.6	9.2	口縁部 3分の1	長石、片岩、赤色斑粒φ0.2～0.3cm、輝石φ0.1cmを含む	内面 10YR7/3にぶい黄橙、2.5Y7/2灰黄 外面 10YR7/3にぶい黄橙、2.5Y7/2灰黄	直立気味に伸びる口縁部をもつ。底部外面はユビオサエ、粘土は粗い。	反転復元
621	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 鉢	13.65	6.0		口縁部 2分の1、底部完形	チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR8/3浅黄橙 外面 10YR8/3浅黄橙、黒斑 n4/灰	内湾気味に立ち上がるもの。内外面ともにナデ ユビオサエ、接合痕を顕著に残す。口縁部はゆがむ。	
622	自然流路9 (3150)下層	3-1区	弥生土器 把手付鉢	頸部 (5.5)		5.5	10分の8	長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 5YR4/8明赤褐 外面 5YR4/8明赤褐	縦方向に把手がつき台をもつコップ形の鉢。胎土赤褐色を呈する。搬入品か？	
623	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 台付鉢		7.5	5.1	底部完形	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面 5YR7/6橙、10YR8/3浅黄橙 外面 5YR7/6橙、10YR8/3浅黄橙	ハに字に短く広がる脚台。内外面ともに磨滅により不明。	
624	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(短頸)	(12.0)		9.9	口縁部 18分の1	チャート、長石φ0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y7/2灰白 外面 2.5Y7/2灰白	短く外反する口縁部をもつもの。外面はナナメハケ、内面は板ナデによる。	反転復元
625	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 壺(無頸)	(20.6)		5.4	口縁部 8分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面 2.5Y7/2灰黄 外面 2.5Y8/3淡黄、2.5Y7/1灰白	口縁部に粘土紐を張り付け厚みをもたせる。	反転復元
626	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 台付鉢			8.8	体部 8分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.2～0.3cmを含む	内面 N3/ 暗灰、5YR5/4にぶい橙 外面 N3/ 暗灰、5YR5/4にぶい橙	胴部は膨らみ下半部に明瞭な稜をもつ。外面には垂直方向に棒状浮文を3条1組で貼り付ける。	反転復元
627	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 鉢(無頸壺)	(17.6)	(4.4)	11.1	10分の9	長石、石英φ0.2～0.3cmを含む	内面 2.5Y6/2灰黄 外面 2.5Y6/3にぶい黄	胴部から屈曲し内傾気味に伸びる口縁部をもつ。2孔1対の紐孔をもつ。外面は棒状浮文の剥離痕が残る。内面はヘラミガキ。	反転復元
628	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 鉢	30.0		8.7	口縁部 12分の1	チャート、長石、片岩φ0.1～0.2cmを含む	内面 5YR7/6橙、2.5Y4/1黄灰 外面 2.5YR6/8橙	内湾気味に立ち上がる口縁部をもつもの。端部下に凹線文を施す。	反転復元
629	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 鉢(大型)	40.9		13.4	口縁部 6分の1	チャート、長石、片岩φ0.3～0.4cmを含む	内面 5YR6/6橙、10YR6/6明黄褐 外面 7.5YR6/4にぶい橙、N4/灰	緩やかに立ち上がり、口縁端部を外反させるもの。胴部下半は縦方向のヘラミガキ、口縁部内面は横方向のヘラミガキ。	反転復元

630	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 鉢	(42.2)		14.9	口縁部 12分の1	長石φ0.3～0.5cm チャート、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを多く含む	内面　2.5Y4/1 黄灰、10YR8/4 浅黄橙 外面　5YR7/6 橙、2.5Y4/1 黄灰	胴部上半で屈曲し、直立気味に伸びる口縁部をもつ。口縁端部は粘土紐を張り付け厚みをもつ。屈曲部に凹線文4条。	反転復元
631	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 台付鉢	(24.7)		19.5	10分の7	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	2方向に横位の把手をつける深手の鉢、下半には脚台部がつく。外面は把手部分に凹線文4条、底部内外面にタタキ。	反転復元
632	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 脚台付土器		14.8	11.6	底部 8分の5	チャート、長石、片岩φ0.2～0.3cmを含む	内面　2.5YR6/6 橙 外面　2.5YR6/6 橙、10YR7/4 にぶい黄橙	短くハの字に広がる脚台部。裾端部は上下に拡張する。透かし穴は6方向。内面はヘラケズリ。	反転復元
633	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 鉢	30.6		17.8	口縁部 6分の1	チャートφ0.3～0.4cmを含む	内面　5Y6/1 灰、2.5Y8/2 灰白 外面　10YR8/3 浅黄橙	くの字に外反する口縁部をもつもの。外面は板ナデまたは突出の少ないハケ。	反転復元
634	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 器台	24.9		12.1	4分の3	チャート、長石、赤色斑粒φ0.1～0.3cmを含む	内面　2.5YR6/6 橙～7.5YR8/6 浅黄橙 外面　2.5YR6/6 橙	緩やかに外反する受部をもつ。端部は上下に拡張し、凹線文、刻み目を施す。筒状部は櫛描波状文、凹線文を施す。	
635	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 脚台付土器			7.6	8分の1	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　5YR6/6 橙 外面　7.5YR6/4 にぶい橙	外反気味に立ち上がる脚台部をもち、外面に凹線文を施す。透かし穴をもつ。	反転復元
636	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 脚台付土器	(23.0)		8.9	4分の3	チャート、長石、片岩、赤色斑粒φ0.1～0.2cmを含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	外反気味に立ち上がる脚台部をもち、外面に凹線文を施す。4方向の透かし穴をもつ。	反転復元
637	自然流路9 (3150)	3-1区	弥生土器 鉢	(42.2)		27.3	4分の1	チャート、長石、赤色斑粒φ0.2～0.3cm、輝石φ0.1cm以下を含む	内面　7.5YR7/2 明褐灰 外面　10YR7/2 にぶい黄橙	くの字に外反する口縁部をもち、端部は上方に拡張する。体部外面はタテハケ、下半部はヘラミガキ。	
638	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢	(18.6)		4.5	8分の1	長石、チャートφ0.1～0.3cmを少量含む	内面　5Y6/2 灰オリーブ 外面　7.5YR4/3 褐	縦方向に施された巻貝による条痕をもつ粗製土器。	反転復元
639	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			5.1		長石、花崗岩、チャートφ0.1～0.3cmを多く含む	内面　7.5YR3/2 黒褐 外面　10YR5/2 灰黄褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部は内外に肥厚しくぼみをもつもの。波頂部から口縁部下へ縄文帯が伸びる。	断面実測
640	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			6.9		チャート、長石、花崗岩φ0.1～0.4cmを多く含む	内面　2.5Y3/2 黒褐 外面　5YR4/4 にぶい赤褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部に沿って、二条の山形沈線文を施す。	断面実測
641	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			6.5		チャート、花崗岩、金雲母φ0.1～0.3cmを多く含む	内面　7.5YR6/2 灰黄褐 外面　10YR4/2 灰黄褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部は内外に肥厚する。波頂部から口縁部下の縄文帯。J字文が伸びる。	断面実測
642	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			2.6		チャート、長石φ0.1～0.2cmを多く含む	内面　2.5Y7/3 浅黄 外面　10YR4/3 にぶい黄褐	口縁部下に縄文帯をもつもの。口縁端部は上方に面をつくる。	断面実測
643	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢		2.9	14.0		長石、チャートφ0.1～0.5cmを多く含む	内面　7.5YR5/3 にぶい褐 外面　10YR3/1 黒褐	沈線文に区画された2条の縄文帯をもつもの。内面はミガキ。	反転復元
644	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			4.8		チャート、長石、花崗岩φ0.1～0.3cmを多く含む	内面　2.5YR5/6 明赤褐 外面　2.5YR5/6 明赤褐	口縁部直下に凸帯文をもつもの。	断面実測
645	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			3.5		チャート、長石、石英φ0.1～0.3cmを多く含む	内面　10YR5/3 にぶい黄褐 外面　7.5YR4/4 褐	波状口縁深鉢の波頂部。端部は内側へ大きく拡張する。補修孔をもつ。	断面実測
646	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			6.7		長石、花崗岩、金雲母φ0.1～0.3cmを多く含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR4/2 灰黄褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部は丸くに肥厚するもの。波頂部から口縁部下へ縄文帯が伸びる。	断面実測
647	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			10.5		チャート、長石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面　2.5Y7/4 浅黄 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	縦方向に垂下させる磨消縄文帯をもつもの。	断面実測
648	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			4.8		チャート、長石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　2.5Y7/3 浅黄	縦方向の縄文帯をもつ有文土器。	断面実測
649	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			5.0		チャート、長石、石英、花崗岩φ0.1～0.4cmを多く含む	内面　10YR4/2 灰黄褐 外面　2.5Y2/1 黒	沈線文に区画された縄文帯をもつもの。	断面実測
650	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			4.1		チャート、長石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面　10YR6/6 明黄褐 外面　2.5Y3/1 黒褐	口縁部直下に2条の縄文帯を施すもの。補修孔をもつ。	断面実測
651	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			4.9		チャート、長石φ0.1～0.2cmを多く含む	内面　10YR5/1 褐灰 外面　10YR3/2 黒褐	二枚貝による条痕を持つ粗製土器。	断面実測
652	竪穴建物11 (3142) 1層	3-1区	縄文土器 浅鉢			4.3		長石、花崗岩φ0.1～0.3cmを多く含む	内面　5YR6/6 橙 外面　7.5YR6/4 にぶい橙	体部から内側に大きく内湾し、内頸して伸びる口縁部をもつ。口縁部下の縄文帯から下方に渦巻状文が伸びる。	断面実測
653	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢			7.8		チャート、長石φ0.2～0.5cmを多く含む	内面　10YR3/1 黒褐 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	縦方向の沈線文に区画された、縄文帯を垂下させるもの。	断面実測
654	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 深鉢		(9.3)	2.5		チャート、長石、花崗岩φ0.1～0.4cmを多く含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR4/1 褐灰	緩やかに立ち上がる底部をもつ。内外面ともに磨滅。	反転復元
655	竪穴建物11 (3142)　P5	3-1区	縄文土器 浅鉢	(22.1)		4.2	16分の1	角閃石、長石φ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR4/3 にぶい黄褐 外面　7.5YR3/2 黒褐	体部から内側に大きく内湾し、内頸して伸びる口縁部をもつ。屈曲部には沈線文で区画し、刺突文を施す。	反転復元
656	竪穴建物11 (3142)1・2層	3-1区	縄文土器 浅鉢	(27.7)		6.8	6分の1	長石、チャートφ0.1～0.3cmを多く含む	内面　7.5YR3/3 暗褐 外面　7.5YR4/3 褐	体部から内側に大きく内湾し、内頸して伸びる口縁部をもつ。口縁部下の沈線文と垂下する沈線文が接する。	反転復元
657	竪穴建物11 (3142)	3-1区	縄文土器 浅鉢	(31.2)		3.2	14分の1	チャート、長石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面　2.5YR7/2 灰黄 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	体部から内側に大きく内湾する口縁部をもつ口縁部下には沈線文を巡らせる。	反転復元
658	竪穴建物11 (3142)1・2層	3-1区	縄文土器 浅鉢	(26.9)		6.6	6分の1	長石、チャートφ0.1～0.3cmを多く含む	内面　10YR6/2 灰黄褐 外面　10YR5/3 にぶい黄褐	体部から内側に大きく内湾し、内頸して伸びる口縁部をもつ。口縁部下の沈線文と垂下する沈線文が接する。	反転復元
659	竪穴建物11	3-1区	縄文土器 深鉢			5.0		長石、チャートφ0.1～0.3cmを多く含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　7.5YR4/3 褐	隆帯と並行する数条の沈線文をもち口縁部の文様帯を区画し、口縁部直下には渦巻状文を施す。	断面実測
660	竪穴建物11	3-1区	縄文土器 深鉢			5.5		片岩、チャートφ0.1～0.4cmを多く含む	内面　7.5YR4/3 褐 外面　7.5YR4/3 褐	隆帯と並行する沈線文をもち口縁部の文様帯を区画し、口縁部直下には渦巻状文を施す。	断面実測
661	竪穴建物11	3-1区	縄文土器 深鉢	(20.8)		9.3	10分の1	長石、チャートφ0.1～0.3cmを多く含む	内面　7.5YR4/3 褐 外面　7.5YR4/3 褐	内湾気味に伸びる口縁部をもつ。口縁端部は上端面をつくり、縄文を施文する。外面は全面に縄文を施す。	反転復元
662	竪穴建物12 (3224)	3-1区	縄文土器 深鉢			7.5		長石、チャートφ0.1～0.3cmを含む	内面　10YR4/2 灰黄褐 外面　10YR5/2 灰黄褐	巻貝による条痕をもつ粗製深鉢	断面実測
663	竪穴建物12 (3224)	3-1区	縄文土器 浅鉢			2.9		チャート、長石、花崗岩φ0.1～0.4cmを多く含む	内面　2.5Y5/1 黄灰 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	体部から内側に大きく内湾し、内頸して伸びる口縁部をもつ。短い波状口縁部をもち波頂部はユビオサエ。	断面実測
664	竪穴建物12 (3224)	3-1区	縄文土器 深鉢			3.9		チャート、長石φ0.1～0.2cmを含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR6/4 灰黄褐	口縁部下に磨消縄文帯をもつもの。	断面実測
665	竪穴建物12 (3224)	3-1区	縄文土器 深鉢		8.6	3.1		長石、チャート、花崗岩φ0.1～0.3cmを多く含む	内面　7.5YR4/4 褐 外面　7.5YR5/4 にぶい褐	直立気味に立ち上がる底部をもつもの。	反転復元
666	竪穴建物13 (3147)	3-1区	縄文土器 深鉢			6.1		チャート、長石φ0.1～0.2cmを多く含む	内面　10YR8/2 灰白 外面　7.5YR5/2 灰褐	斜め方向に流れる二条の沈線文をもつ。指先による刺突文をもつ。	断面実測

667	竪穴建物13 (3147)	3-1区	縄文土器 深鉢		(7.8)	1.8	3分の2	チャート φ 0.1～0.4 cmを多く含む	内面　10YR　5/3 にぶい黄褐 外面　7.5YR6/6 橙	外上方に立ち上がる底部をもつもの。	反転復元
668	竪穴建物13 (3147)	3-1区	縄文土器 深鉢		(9.0)	2.8	3分の1	長石、チャート φ 0.1～0.2 cmを多く含む	内面　10YR8/3 浅黄橙 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	外上方に立ち上がる底部をもつもの。	反転復元
669	竪穴建物13 (3147)	3-1区	縄文土器 深鉢			5.5		チャート、長石、片岩 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　2.5Y5/1 黄灰 外面　10YR5/2 灰黄褐	磨消縄文帯をもち縦方向に垂下するもの。	断面実測
670	竪穴建物13 (3147)	3-1区	縄文土器 深鉢			3.9		チャート、長石、片岩 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　5YR5/4 にぶい赤褐 外面　5YR3/4 暗赤褐	磨消縄文帯による渦巻文。	断面実測
671	埋設土器1 (3149)	3-1区	縄文土器 深鉢	(35.0)	8.1		3分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.1～0.3 cmを多く含む。	内面　10YR6/3 にぶい橙 外面　10YR6/3 にぶい橙	胴部上半でくびれ、外反して伸びる口縁部をもつもの。胴部には縦の手状の縄文を施す。	反転復元
672	埋設土器2 (3153)	3-1区	縄文土器 深鉢	(25.8)		14.7	3分の4	チャート、長石 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　10YR6/4 にぶい黄橙 外面　2.5Y6/3 にぶい黄	外反して伸びる口縁部をもち、口縁部下に横方向の縄文帯を施し、J字文をもつ。	反転復元
673	埋設土器2 (3153)	3-1区	縄文土器 深鉢	(28.8)		10.0	6分の1	石英、チャート、長石 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　10YR4/2 灰黄褐 外面　2.5Y6/2 暗灰黄	波頂部が二叉に分かれる波状口縁をもつもの。口縁部直下には横方向の縄文帯を施し、J字文をもつ。	反転復元
674	埋設土器2 (3153)	3-1区	縄文土器 深鉢			7.8		長石、φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　10YR7/3 にぶい黄橙 外面　10YR6/2 灰黄褐	ナナメ方向にひかれた条縄文をもつ粗製土器。先端が二又状に分かれた工具による。	断面実測
675	埋設土器2 (3153)	3-1区	縄文土器 深鉢		(10.3)			片岩 φ 0.3～0.9 cm、チャート、長石 φ 0.1～0.5 cmを多く含む	内面　10YR6/1 褐灰、2.5Y6/2 灰黄 外面　10YR3/1 黒褐	外上方に広がる波状口縁をもつ。幅広の山形沈線文を波状口縁にそって施す。	断面実測
676	埋設土器4 (3225)	3-1区	縄文土器 深鉢		(10.3)			片岩 φ 0.3～0.9 cm、チャート、長石 φ 0.1～0.5 cmを多く含む	内面　10YR6/1 褐灰、2.5Y6/2 灰黄 外面　10YR3/1 黒褐	675と同一個体と思われる。	断面実測
677	埋設土器4 (3225)	3-1区	縄文土器 深鉢		(10.3)			片岩 φ 0.3～0.9 cm、チャート、長石 φ 0.1～0.5 cmを多く含む	内面　10YR6/1 褐灰、2.5Y6/2 灰黄 外面　10YR6/2 灰黄褐	675と同一個体と思われる。外上方に伸びる底部をもつもの。	反転復元
678	埋設土器3 (3170)	3-1区	縄文土器 深鉢			13.9		長石、片岩、チャート φ 0.1～0.4 cmを多く含む	内面　10YR4/2 灰黄褐 外面　10YR5/3 にぶい黄褐	刺隆した底部。内外面ともに摩滅。	反転復元
679	埋設土器3 (3170)	3-1区	縄文土器 深鉢			4.1		片岩、チャート φ 0.1～0.2 cmを多く含む	内面　10YR5/2 灰黄褐 外面　10YR4/2 灰黄褐	D字の刻み目をもつ凸帯文をもつ。下半部はケズリによる。	断面実測
680	配石遺構1 (3143)	3-1区	縄文土器 深鉢		9.4	3.1	10分の9	チャート、長石、花崗岩 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　2.5Y7/3 浅黄 外面　10YR7/3 にぶい黄橙	外上方に立ち上がる底部をもつもの。	反転復元
681	集石遺構5 (3253)	3-1区	縄文土器 深鉢		9.6	1.5		チャート、長石 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　5YR6/6 橙 外面　5YR6/6 橙	外上方に立ち上がる底部をもつもの。	反転復元
682	集石遺構6・7 (3189・3217)	3-1区	縄文土器 深鉢			4.6		長石、角閃石、花崗岩 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　10YR5/3 にぶい黄褐 外面　10YR4/4 褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部に沿って、二条の山形沈線文を施す。	断面実測
683	集石遺構7 (3217)	3-1区	縄文土器 深鉢	(23.9)		4.5	14分の1	長石、花崗岩 φ 0.1～0.4 cmを多く含む	内面　10YR5/3 にぶい黄褐 外面　10YR5/3 にぶい黄褐	外反して伸びる口縁部をもち、口縁部直下に横方向1条の縄文帯を施す。	断面実測
684	集石遺構8 (3218)	3-1区	縄文土器 深鉢	(19.1)		2.2	16分の1	チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを多く含む	内面　7.5YR5/3 にぶい褐 外面　7.5YR5/3 にぶい褐	口縁部直下に斜め方向の刻み目を施し、その下に沈線文を巡らせるもの。	反転復元
685	集石遺構8 (3218)	3-1区	縄文土器 深鉢			4.8		チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを多く含む	内面　7.5YR4/2 灰褐 外面　10YR3/2 黒褐	外面は沈線文に区画されたJ字文をもつ。内面はナデ。	断面実測
686	土坑23(3254)	3-1区	縄文土器 深鉢	(27.8)		4.1	14分の1	チャート、片岩 φ 0.1～0.3 cmを含む	内面　7.5YR5/3 にぶい褐 外面　10YR4/2 灰黄褐	巻貝による条痕をもつ粗製深鉢	反転復元
687	土坑23(3254)	3-1区	縄文土器 深鉢	(22.8)		6.8	12分の1	チャート、片岩 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　2.5Y7/3 浅黄 外面　10YR3/1 黒褐	縦方向の沈線をもつ。内外面ともにナデ・ユビオサエによる。	反転復元
688	土坑23(3254)	3-1区	縄文土器 深鉢	(30.6)		4.5	4分の1	チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを多く含む	内面　2.5Y6/2 灰黄 外面　10YR4/2 灰黄褐	口縁部下に磨消縄文帯を巡らせるもの。	反転復元
689	土坑23(3254)	3-1区	縄文土器 深鉢			6.1		チャート、長石 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　7.5YR6/4 にぶい橙 外面　2.5Y6/1 黄灰	巻貝による横方向の条痕をもつ粗製深鉢	断面実測
690	土坑23(3254)	3-1区	縄文土器 深鉢			5.1		チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを多く含む	内面　7.5YR4/1 褐灰 外面　7.5YR5/3 にぶい褐	横方向の沈線文をもつ。	断面実測
691	土坑23(3254)	3-1区	縄文土器 深鉢			3.4		チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを多く含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　10YR5/2 灰黄褐	沈線文により区画された磨消縄文帯をもつもの。	断面実測
692	竪穴状遺構2 (3188)	3-1区	縄文土器 深鉢		10.0			長石、角閃石、花崗岩、金雲母 φ 0.1～0.5 cmを多く含む	内面　2.5Y6/3 にぶい黄 外面　2.5Y3/2 黒褐	波状口縁深鉢。キャリパー状の口縁部を呈する。波頂部に沿って三条の山形沈線文を施し、波頂部で渦巻文となる。	断面実測
693	竪穴状遺構2 (3188)	3-1区	縄文土器 深鉢			5.2		花崗岩、長石 φ 0.1～0.5 cmを多く含む	内面　2.5Y5/3 黄褐 外面　2.5Y3/2 黒褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部は内側に肥厚し、上端に沈線を施す。波状口縁に沿って、三条の山形沈線文を施す。	断面実測
694	竪穴状遺構2 (3188)	3-1区	縄文土器 深鉢			9.4		長石、角閃石、花崗岩 φ 0.1～0.4 cmを多く含む	内面　10YR5/2 灰黄褐 外面　2.5Y5/2 暗灰黄	巻貝状の工具による幅広の沈線文と、竹管による刺突文を施すもの。	断面実測
695	竪穴状遺構2 (3188)	3-1区	縄文土器 深鉢		8.3	3.4	3分の2	長石、角閃石、花崗岩 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　10YR4/3 にぶい黄褐 外面　10YR4/2 灰黄褐	外上方に立ち上がる底部をもつもの。	反転復元
696	竪穴状遺構2 (3188)	3-1区	縄文土器 深鉢		(11.2)	2.7	5分の1	チャート、長石、花崗岩 φ 0.1～0.4 cmを多く含む	内面　7.5YR5/6 明褐 外面　5YR5/6 明赤褐	直立気味に立ち上がる底部をもつもの。	反転復元
697	土坑24(3328)	3-1区	縄文土器 深鉢	(25.6)		5.7	14分の1	チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR6/2 灰黄褐	緩やかに伸びる口縁部を持ち、外面はナデ、内面は横方向のミガキを施す。	反転復元
698	土坑25(3236)	3-1区	縄文土器 深鉢	(25.1)		6.3		チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを多く含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　7.5YR4/2 灰褐	二枚貝による横方向の条痕をもつ粗製深鉢。	反転復元
699	土坑25(3236)	3-1区	縄文土器 深鉢			3.3		チャート、長石、赤色斑粒 φ 0.1～0.3 cm含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　10YR5/1 褐灰	口縁部下に巻貝による横方向の条痕をもつ粗製深鉢。	断面実測
700	土坑25(3236)	3-1区	縄文土器 深鉢		(10.2)	4.2		チャート、長石 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　10YR7/2 にぶい黄橙 外面　2.5Y7/2 灰黄	外上方に立ち上がる底部をもつもの。	反転復元
701	土坑26(3167)	3-1区	土製品 土偶か				10分の8	チャート、長石 φ 0.1～0.2 cmを多く含む	内面　7.5YR8/6 浅黄橙 外面　10YR8/4 浅黄橙	土偶の頭部か。中央に真中線表現があり、左右にも表現あり。	
702	土坑27(3246)	3-1区	縄文土器 深鉢	(24.1)		6.0	14分の1	チャート、長石 φ 0.1～0.2 cm、金雲母 φ 0.1～0.2 cmを多く含む	内面　10YR6/3 黄橙 外面　10YR6/3 黄橙	二枚貝による縦方向の条痕をもつ粗製深鉢。	反転復元
703	土坑27(3246)	3-1区	縄文土器 深鉢	(23.7)		5.9	14分の1	チャート、長石、片岩 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　10YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR6/4 にぶい黄橙	外面ナデによる粗製深鉢。	反転復元
704	土坑27(3246)	3-1区	縄文土器 深鉢			8.8	6分の1	チャート、長石、金雲母 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　10YR5/3 にぶい黄褐 外面　10YR3/2 黒褐	深鉢胴部。外面沈線文、ナデ。	反転復元
705	土坑27(3246)	3-1区	縄文土器 深鉢			3.4		チャート、金雲母、長石 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　10YR6/4 にぶい黄橙 外面　2.5Y6/4 にぶい黄	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部が外側に肥厚する。	断面実測
706	土坑27(3246)	3-1区	縄文土器 深鉢			4.5		チャート、長石 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　2.5Y7/3 浅黄 外面　2.5Y7/2 灰黄	口縁部下に巻貝による横方向の条痕をもつ粗製深鉢。	断面実測
707	土坑27(3246)	3-1区	縄文土器 深鉢			7.3		チャート、長石、花崗岩、金雲母 φ 0.1～0.3 cmを多く含む	内面　2.5Y7/2 灰黄 外面　10YR6/2 灰黄褐	二枚貝による縦方向の条痕をもつ粗製深鉢。	断面実測

708	土坑28(3173)	3-1区	縄文土器深鉢			5.8		長石・金雲母・チャートφ0.～0.3cmを多く含む	内面 2.5Y3/2 黒褐 外面 10YR3/2 黒褐	外面は沈線文に区画されたJ字文をもつ。内面はナデ。	断面実測
709	土坑29(3177)	3-1区	縄文土器深鉢			3.9		長石，花崗岩，角閃石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 10YR4/3 にぶい黄褐 外面 7.5YR3/4 暗褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部が内側に肥厚するもので，口縁部外面にφ1cm大の刺突文を巡らせる。	断面実測
710	土坑29(3177)	3-1区	縄文土器深鉢			4.7		長石，花崗岩：角閃石φ0.1～0.5cmを多く含む	内面 10YR4/4 褐 外面 10YR5/3 にぶい黄褐	波頂部が内側に肥厚し，上端に沈線文を加える。外面は波状口縁に並行して数条の沈線文，刺突文を施す。	断面実測
711	土坑30(3001)	3-1区	縄文土器			7.9		チャート，長石，0.1～0.3cmを多く含む	内面 10YR3/1 黒褐 外面 10YR3/2 黒褐	沈線文に区画された上下に垂下する磨消縄文をもつ。	断面実測
712	土坑31(3002)	3-1区	縄文土器			5.3		チャート，長石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 7.5YR4/3 褐 外面 7.5YR2/1 黒	沈線文による斜格子文をもつ。	断面実測
713	土坑31(3002)	3-1区	縄文土器深鉢		10.5	5.6	10分の7	チャート，長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR5/4 にぶい黄褐 外面 2.5Y6/4 にぶい黄	直立気味に立ち上がる底部を持つ。底部内面はユビオサエ。	反転復元
714	土坑31(3002)	3-1区	縄文土器深鉢		(13.5)	4.3	2分の1	チャート，長石，赤色斑粒φ0.2～0.3cmを多く含む	内面 2.5Y7/3 浅黄 外面 10YR7/4 にぶい黄橙	緩やかに立ち上がる底部をもつ。内外面ともに摩滅。	反転復元
715	落ち込み3(3260)	3-1区	縄文土器深鉢	(34.7)		13.0	6分の1	長石，チャートφ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/3 浅黄 外面 7.5YR2/1 黒	口縁部に横位の縄文帯をもち，そこから垂下させる縄文帯をもつもの。縄文の原体は太い。	反転復元
716	落ち込み3(3260)	3-1区	縄文土器深鉢			6.3		長石，チャートφ0.1～0.3cm含む	内面 2.5Y7/4 浅黄 外面 10YR6/4 にぶい黄橙	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部に沿って，二条の山形沈線文を施す。	断面実測
717	落ち込み3(3260)	3-1区	縄文土器			5.4		チャート，長石φ0.1～0.2cmを多く含む	内面 10YR6/3 にぶい黄橙 外面 10YR5/3 にぶい黄褐	沈線文をもつ。	断面実測
718	落ち込み3(3260)	3-1区	縄文土器			4.1		長石，チャートφ0.1～0.3cmを多く含む	内面 10YR7/4 にぶい黄橙 外面 7.5YR4/3 褐	縦方向の沈線文を2条施す。	断面実測
719	落ち込み3(3260)	3-1区	縄文土器浅鉢			4.3		長石，チャートφ0.1～0.2cmを多く含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 10YR6/2 灰黄褐	屈曲部に二条の隆帯がつくもので，把手がつくものと思われる。隆帯の下には磨消縄文帯をもつ。	反転復元
720	土坑38(3265)	3-1区	縄文土器深鉢			3.0		チャート，長石φ0.1cmを多く含む	内面 10YR7/2 にぶい黄橙 外面 10YR4/2 灰褐	外面ナデによる粗製深鉢。	断面実測
721	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢	(19.7)		4.7	10分の1	チャート，長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR3/1 黒褐 外面 10YR6/2 灰黄褐	櫛具により横方向から斜め方向の条痕を施す粗製深鉢。	反転復元
722	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢	(22.9)		5.7	12分の1	チャート，長石，金雲母，角閃石φ0.1～0.2cmを含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 10YR5/1 褐灰	ヘラ状の工具により縦位または横位に沈線文を施す。	反転復元
723	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢	(24.4)		8.7	8分の1	チャート，長石，片岩φ0.1～0.2cmを多く含む	内面 10YR6/1 褐灰 外面 10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部下に沈線文を巡らせ，そこから縦方向に垂下させるもの。縄文は摩滅により不明。	反転復元
724	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢	(34.4)		7.7	12分の1	長石，片岩，花崗岩岩片φ0.1～0.4cmを多く含む	内面 10YR7/4 にぶい黄橙 外面 N3/ 暗灰	外面ナデによる粗製深鉢。	反転復元
725	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢	(30.5)		6.4	5分の1	長石，チャートφ0.1～0.3cmを多く含む	内面 2.5Y4/1 黄灰 外面 2.5Y3/2 黒褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部は内側に肥厚し，口縁部下の縄文帯，J字文が伸びる。LR方向の撚りをもつ。	反転復元
726	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢			9.5		チャート，長石，片岩φ0.1～0.2cmを多く含む	内面 2.5Y7/2 灰黄 外面 10YR5/2 灰黄褐	外面全面に縄文を施す。	反転復元
727	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢			5.5		金雲母，長石，チャートφ0.1～0.3cm含む	内面 10YR5/3 にぶい黄褐 外面 10YR5/2 灰黄褐	口縁部直下に縄文を施すもの。	断面実測
728	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢			3.5		長石，チャートφ0.2～0.4cmを多く含む	内面 7.5YR6/4 にぶい橙 外面 7.5YR4/2 灰褐	口縁部下に磨消縄文帯をもつもの。	断面実測
729	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢	(24.1)		5.1	12分の1	チャート，長石φ0.1～0.2cmを含む	内面 10YR6/2 灰黄褐 外面 10YR5/2 灰黄褐	口縁部下に磨消縄文帯をもつもの。	反転復元
730	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢			9.2	8分の1	長石，チャートφ0.1～0.2cmを多く含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 10YR7/3 にぶい黄褐	ヘラ状の工具により横方向または斜め方向に沈線文を施す粗製深鉢。	反転復元
731	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢	(30.8)		7.8	9分の1	チャート，長石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 10YR8/3 浅黄橙 外面 7.5YR4/2 灰褐	口縁部下に沈線文を巡らせ，そこから縦方向に垂下させるもの。	反転復元
732	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢			4.2		チャート，長石φ0.2～0.3cmを多く含む	内面 7.5YR4/2 灰褐 外面 10YR5/3 にぶい黄褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部が内側に肥厚する。上端には円形の刺突文を施す。	断面実測
733	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢			5.5		長石，チャート，花崗岩，角閃石φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 10YR 4/2 灰黄褐 外面 7.5YR3/2 黒褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部は方形を呈し，上端に沈線文を施す。	断面実測
734	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢			6.7		長石φ0.1cmを多く含む	内面 2.5Y6/2 灰黄 外面 5YR5/4 にぶい赤褐	波状口縁深鉢の波頂部。波頂部は内側に肥厚し，口縁部下の縄文帯，J字文が伸びる。補修孔有。赤色顔料塗布。	断面実測
735	溝10(3270)	3-1区	縄文土器浅鉢	(27.6)		4.1		長石φ0.1cm含む	内面 10YR3/2 黒褐 外面 10YR4/2 灰黄褐	体部から内側に大きく内湾し，内傾して伸びる口縁部をもつ。屈曲部には沈線文で区画し，刺突文を施す。	反転復元
736	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢			6.1		石英，チャート，長石，片岩φ0.1～0.2cmを多く含む	内面 10YR5/2 灰黄褐 外面 10YR3/1 黒褐	磨消縄文帯をもち縦方向に垂下するもの。	断面実測
737	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢		(9.5)	2.7	4分の1	チャート，長石φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR7/3 にぶい黄橙 外面 5YR7/6 橙	直立気味に立ち上がる底部をもつもの。	反転復元
738	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢			7.2		チャート，長石，石英φ0.1～0.3cmを含む	内面 10YR7/4 にぶい黄橙 外面 10YR2/1 黒	磨消縄文帯をもち縦方向に垂下するもの。	断面実測
739	溝10(3270)	3-1区	縄文土器深鉢			4.6		長石，チャートφ0.2～0.3cmを多く含む	内面 10YR6/3 にぶい黄橙 外面 10YR4/2 灰黄褐	横方向の磨消縄文帯から縦方向に垂下する縄文帯をもつもの。	断面実測

丁ノ町・妙寺遺跡（07－4区）出土土器・土製品

740	包含層第3層	4-2区	土師器 壺	(17.8)		5.2	8分の1	チャート，長石，片岩φ0.1～0.3cmを多く含む	内面 7.5YR7/4 にぶい橙 外面 10YR8/2 灰白	くの字に外反する口縁部をもつ。内外面ともに摩滅。	反転復元
741	溝11(4007)	4-2区	土師器 甕(長胴)	16.4		23.0	7分の6	チャート，長石，片岩φ0.1～0.4cmを多く含む	内面 2.5Y7/3 浅黄 外面 2.5Y7/3 浅黄	くの字に外反する口縁部をもつ。口縁部外面はユビオサエ，体部外面はナデ。体部内面はヘラケズリ。胎土は極めて粗い。	

付表２　遺物観察表　第１次調査
西飯降Ⅱ遺跡（06－１・２区）出土石器・石製品

（　）は復元値

番号	地区	遺構	種類	器種	最大幅	最大長	厚さ	石材	残存率	特徴
S1	1－4区	竪穴建物12(5373)P5(5375)	磨製石器	磨製石剣	3.0	17.6	0.9	黒色粘板岩	100%	明瞭な鎬はもたず、断面形は六角形を呈する
S2	1－4区	自然流路5（5472）	磨製石器	柱状片刃石斧	2.6	8.5	4.1	結晶片岩	60%	断面台形を呈し、基部・刃部を欠損する
S3	1－4区	自然流路5（5472）	磨製石器	柱状片刃石斧	2.7	8.9	3.7	結晶片岩	刃部100%	基部を欠損する
S4	1－3区	方形周溝墓1（5269）	磨製石器	石庖丁	5.4	8.1	0.6	結晶片岩	約60%	紐孔を２つもち、刃部に刃こぼれが見られる
S5	1－3区	自然流路8（5180）	磨製石器	石庖丁未製品	5.0	7.0	0.95	結晶片岩	約60%	紐孔穿孔前の敲打痕あり
S6	1－2区 1－4区	包含層	磨製石器	石庖丁未製品	4.3	8.8	1.0	結晶片岩	60%	紐孔穿孔前の敲打痕有り、柱状片刃石斧の転用品
S7	1区	土坑34（5478）	磨製石器	石庖丁未製品	4.5	11.8	0.7	結晶片岩		回転穿孔途中品、紐孔穿孔前に刃付けを行う
S8	1－3区	方形周溝墓1（5269）	磨製石器	石庖丁未製品	5.2	9.4	1.6	結晶片岩	50%	研磨有り
S9	1－4区	自然流路8（5180）1層	磨製石器	石庖丁未製品	3.7	8.0	0.9	結晶片岩	約60%	研磨有り
S10	1区	包含層	磨製石器	石庖丁未製品	5.0	7.1	0.9	結晶片岩	70%	粗割段階のもの
S11	1－4区	包含層	磨製石器	石庖丁未製品	5.3	13.0	0.95	結晶片岩	100%	粗割段階のもの
S12	1－4区	包含層第4－4層	打製石器	尖頭器	2.2	4.2	1.2	サヌカイト	約60%	尖頭器・石剣の基部か
S13	1－3区	包含層	打製石器	尖頭器	1.9	3.15	0.6	サヌカイト	約50%	
S14	1－4区	包含層第4－3層	打製石器	石鏃	1.6	3.9	0.8	サヌカイト	約90%	先端を欠損する凸基Ⅱ式
S15	1－2区	包含層第4－3層	打製石器	石鏃	1.5	3.3	0.3	サヌカイト	100%	凸基Ⅰ式
S16	1－4区	竪穴建物12（5373）	打製石器	石鏃	2.2	3.9	0.6	サヌカイト	100%	有茎式
S17	1－4区	包含層第5層	打製石器	石鏃	1.9	4.65	0.5	サヌカイト	約80%	先端を欠損する、有茎式尖頭器か
S18	1－4区	包含層第4－4層	打製石器	石錐	2.5	4.5	0.6	サヌカイト	97%	大きい頭部をもち、頭部は短い
S19	1－2区	竪穴建物3（5095）	打製石器	石錐	2.1	(5.0)	0.7	サヌカイト	98%	
S20	1－4区	竪穴建物14（5523）	打製石器	石錐	1.1	5.1	0.4	サヌカイト	100%	
S21	1－4区	自然流路8（5180）1層	打製石器	石錐	1.1	(4.2)	0.6	サヌカイト	97%	基部と先端を欠損する
S22	1－4区	竪穴建物7（5400）	打製石器	石錐	0.7	(3.9)		サヌカイト	97%	基部を抉りにより作りだす石錐か
S23	2－3区	包含層第5層	打製石器	石匙	6.1	4.1	0.6	サヌカイト	100%	未製品、摘部を作りだし、刃部はもたない
S24	1－3区	包含層間層	打製石器	石匙	5.5	5.3	0.6	サヌカイト	約70%	
S25	1－4区	土坑35（5405）	打製石器	横刃形石器	6.2	4.65	0.9	サヌカイト	50%	
S26	1－4区	溝1（5323）	剥片・石核	横刃形石器	6.6	5.2	1.4	サヌカイト	100%	
S27	1－3区	方形周溝墓1（5269）	磨製石器	横刃形石器・石庖丁	6.9	3.8	0.8	サヌカイト	100%	研磨有り，刃部をもつ
S28	1－4区	包含層第4－4層	剥片・石核	石核	5.4	7.2	1.2	サヌカイト	100%	
S29	1－3区	包含層	剥片・石核	石核	4.0	7.4	1.6	サヌカイト	100%	
S30	1－4区	竪穴建物14（5523）	剥片・石核	板状石核	6.8	9.9	3.2	サヌカイト	100%	原材産地分析資料
S31	1－4区	包含層第4－4層	剥片・石核	板状石核	11.7	8.9	1.2	サヌカイト	100%	原材産地分析資料
S32	1－2区	撹乱中	剥片・石核	板状石核	7.9	12.9	1.7	サヌカイト	100%	原材産地分析資料
S33	1－3区	包含層第3層	剥片・石核	板状石核	8.5	14.8	1.9	サヌカイト	100%	原材産地分析資料
S34	1－4区	包含層第4－4層	剥片・石核	板状石核	8.7	16.3	1.9	サヌカイト	100%	原材産地分析資料
S35	1－3区	包含層間層より上位層	剥片・石核	板状石核	7.6	13.0	1.7	サヌカイト	100%	原材産地分析資料
S36	1－4区	竪穴建物10（5369）	礫石器	砥石	16.2	15.5	5.6	砂岩	100%	
S37	1－4区	包含層間層	礫石器	砥石	5.75	13.1	3.9	砂岩	100%	断面四角形を呈し，４面の砥面をもつ
S38	1－3区	溝3（5027）	礫石器	砥石	5.7	19.0	4.5	砂岩	約90%	断面六角形を呈する
S39	1－4区	自然流路8（5180）2層	礫石器	磨石・敲石	12.4	15.4	2.5	砂岩	100%	
S40	1－4区	竪穴建物13（5183）1層	礫石器	磨石・敲石	5.7	12.0	4.0	砂岩	100%	中央に敲打痕あり
S41	1－2区	竪穴建物4（5184）	自然礫	棒状礫	5.2	16.5	3.4	結晶片岩	約80%	
S42	1－3区	包含層サブトレンチ③	礫石器	砥石または台石	21.9	21.1	7.9	砂岩	100%	
S43	1－3区	竪穴建物1（5089）	礫石器	台石	25.6	25.4	8.2	砂岩	90%	側面黒く焼けている
S44	1－2区	包含層第4－4層以下	石製品	滑石製紡錘車	4.6		2.0	滑石	約100%	
S45	2－3区	包含層第3層	石製品	五輪塔　水輪	22.2	18.0		砂岩	100%	梵字「バン」あり

丁ノ町・妙寺遺跡（06－１区）出土石器・石製品

S46	1－2区	包含層間層	磨製石器	石庖丁	5.1	5.8	5.0	結晶片岩	約50%	研磨痕あり，刃部は片刃である
S47	1－4区	包含層第4－4－2層	磨製石器	石庖丁	4.3	7.1	0.7	結晶片岩	約50%	直線刃半月形
S48	1－4区	包含層第3層	打製石器	尖頭器	3.9	(8.1)	1.5	サヌカイト	70%	打製石剣先端か中ほどから欠損する
S49	1－4区	包含層第4－4－2層	打製石器	横刃形石器	5.0	3.1		サヌカイト		
S50	1－4区	包含層第4－4層	打製石器	石鏃	2.0	2.9	0.6	サヌカイト	98%	有茎式
S51	1－1区	竪穴建物18（63）	打製石器	石鏃	2.2	3.4	0.3	サヌカイト	ほぼ100%	凹基式
S52	1－4区	竪穴建物17（51）	打製石器	石鏃	2.8	4.1	0.7	サヌカイト	95%	先端を欠損する有茎式
S53	1－1区	包含層第4－4層	礫石器	磨石	11.0	14.6	4.7	砂岩	100%	
S54	1－2区	溝28（242）	礫石器	砥石	4.2	8.8	3.8	砂岩		断面四角形を呈し，４面の砥面をもつ一部欠損する
S55	1－2区	溝28（242）	礫石器	砥石	4.85	12.8	2.7	砂岩	100%	断面四角形を呈し，４面の砥面をもつ

付表２　遺物観察表　第２次調査
丁ノ町・妙寺遺跡（第２次調査）出土石器・石製品

番号	地　区	遺　構	種　類	器　種	最大幅	最大長	厚さ	石　材	残存率	特　徴
S1	3－1区	自然流路９（3150）	磨製石器	石庖丁	3.55	6.7	0.55	結晶片岩	約50%	研磨痕あり
S2	3－1区	自然流路９（3150）	磨製石器	石庖丁	5.7	10.65	0.9	結晶片岩	約50%	回転穿孔途中３箇所、研磨痕あり
S3	3－1区	包含層第３層	磨製石器	石庖丁	5.7	13.7	0.85	結晶片岩	ほぼ100%	全面に研磨痕あり
S4	3－1区	包含層第６層	磨製石器	磨製石剣	(2.5)	(2.5)	(1.0)	結晶片岩	基部一面のみ	
S5	3－1区	竪穴建物13（3147）	磨製石器	磨製石斧（蛇文岩製石斧）	5.6	9.9	2.1	蛇紋岩	刃部欠損	定角形石斧。断面短冊形を呈し、全面に丁寧な研磨痕が残る
S6	3－1区		磨製石器	磨製石斧	6.15	4.1	2.3	砂岩	刃部一部のみ	
S7	3－1区	包含層第６層	磨製石器	磨製石斧	6.2	8.0	2.8	砂岩	刃部・基部欠損	
S8	3－1区	土坑26（3167）	磨製石器	磨製石斧	6.5	7.45	2.7	砂岩	基部欠損	刃部は丸く刃付けを行っていない
S9	1－1区	包含層第３層	磨製石器	磨製石斧	5.7	14.55	4.0	砂岩	100%	乳棒形石斧基部に抉りあり
S10	3－1区	包含層第５層	磨製石器	磨製石斧一未成品	2.9	7.0	2.2	結晶片岩	側面のみ	
S11	3－1区	包含層第６層	磨製石器	磨製石斧	4.5	4.8	1.8	砂岩	基部欠損	
S12	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	0.95	1.4	0.2	サヌカイト	100%	凹基式
S13	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	1.35	1.45	0.35	サヌカイト	100%	凹基式
S14	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.5	1.65	0.4	サヌカイト	100%	凹基式
S15	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.5	1.45	0.3	サヌカイト	約90%	凹基式
S16	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.45	1.8	0.25	サヌカイト	100%	凹基式
S17	3－1区	造成土坑２（3005）	打製石器	石鏃	1.65	2.0	0.3	サヌカイト	100%	凹基式
S18	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.5	2.15	0.45	サヌカイト	100%	凹基式
S19	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	1.25	1.95	0.25	サヌカイト	100%	凹基式
S20	3－1区		打製石器	石鏃	1.3	1.6	0.25	サヌカイト	100%	加工途中品、凹基式
S21	3－1区	竪穴状遺構２（3188）	打製石器	石鏃	1.6	1.85	0.4	サヌカイト	約90%、先端欠損	凹基式
S22	3－1区	集石遺構４（3178）	打製石器	石鏃	1.25	1.9	2.5	サヌカイト	約80%、基部欠損	凹基式
S23	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	12.5	1.45	3.5	サヌカイト	約90%、基部欠損	凹基式
S24	3－1区	包含層第４－４層	打製石器	石鏃	1.3	1.45	0.25	サヌカイト	約90%	凹基式
S25	3－1区	竪穴建物13（3147）	打製石器	石鏃	1.05	1.6	0.2	サヌカイト	約80%、基部欠損	凹基式
S26	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.4	1.55	0.35	サヌカイト	約70%、基部欠損	凹基式
S27	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	0.95	1.9	0.2	サヌカイト	約50%	凹基式
S28	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	0.9	1.85	0.15	サヌカイト	約50%、半分欠損	凹基式
S29	3－1区	包含層第５層	打製石器	石鏃	1.3	1.95	0.25	サヌカイト	約80%、基部欠損	凹基式
S30	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	1.2	2.15	0.4	サヌカイト	約90%	凹基式
S31	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.5	1.45	0.2	サヌカイト	約50%、先端欠損	凹基式
S32	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃未製品	2.4	2.0	0.35	サヌカイト		凹基式
S33	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.15	1.5	0.25	サヌカイト	約80%、先端欠損	凹基式
S34	3－1区	包含層第４－４層	打製石器	石鏃	1.85	2.05	0.3	サヌカイト	約70%、先端欠損	凹基式
S35	3－1区	包含層第５層	打製石器	石鏃	1.65	1.9	0.3	サヌカイト	約70%、基部欠損	凹基式
S36	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	1.3	1.85	0.35	サヌカイト	約90%、先端欠損	凹基式
S37	1－1区		打製石器	石鏃	2.0	2.6	0.35	サヌカイト	100%	凹基式
S38	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.9	1.9	0.5	サヌカイト	約90%、先端欠損	凹基式
S39	3－1区	包含層第４－４層	打製石器	石鏃	0.95	1.3	0.25	サヌカイト	基部欠損	凹基式
S40	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.45	2.85	0.35	サヌカイト	100%	凹基式
S41	3－1区		打製石器	石鏃	1.6	2.7	0.3	サヌカイト	100%	凹基式
S42	3－1区	竪穴状遺構２（3188）	打製石器	石鏃	1.3	2.35	0.3	サヌカイト	約80%、基部欠損	凹基式
S43	1－1区	1017	打製石器	石鏃	1.45	2.4	0.4	サヌカイト	100%	凹基式
S44	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	1.3	1.75	0.35	サヌカイト	約90%、先端欠損	凹基式
S45	3－1区	包含層第４－４層	打製石器	石鏃	1.1	2.0	0.25	サヌカイト	100%	凹基式
S46	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.25	2.05	0.3	サヌカイト	100%	凹基式
S47	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	1.05	2.25	0.3	サヌカイト	90%、先端欠損	凹基式
S48	3－1区	竪穴建物12（3224）	打製石器	石鏃	1.7	2.7	0.3	サヌカイト	ほぼ100%	凹基式
S49	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	1.4	1.5	0.45	サヌカイト	100%	凹基式
S50	3－1区	竪穴状遺構１（3222）	打製石器	石鏃	1.85	1.35	0.25	サヌカイト	約95%	平基式
S51	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	1.4	1.8	0.3	サヌカイト	100%	平基式
S52	3－1区	竪穴状遺構２（3188）	打製石器	石鏃	1.75	1.8	0.35	サヌカイト	約80%、先端欠損	平基式
S53	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.5	1.4	0.3	サヌカイト	約80%、先端欠損	平基式
S54	3－1区	竪穴建物12（3224）	打製石器	石鏃	1.65	2.05	0.45	サヌカイト	80%、基部欠損	平基式
S55	3－1区	土坑33（3228）	打製石器	石鏃	1.85	2.0	0.5	サヌカイト	約90%	平基式
S56	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	1.7	2.4	0.3	サヌカイト	100%	平基式
S57	3－1区	3184	打製石器	石鏃	2.05	2.5	0.55	サヌカイト	100%	平基式
S58	3－1区	包含層第５層	打製石器	石鏃	2.0	2.9	0.5	サヌカイト	100%	平基式
S59	3－1区	竪穴建物13（3147）	打製石器	石鏃	1.8	2.2	0.4	サヌカイト	約80%、先端欠損	平基式
S60	3－1区	溝10（3270）	打製石器	石鏃	1.65	2.4	0.35	サヌカイト	100%	平基式
S61	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	2.2	2.4	0.4	サヌカイト	約70%、先端欠損	平基式
S62	3－1区	包含層第５層	打製石器	石鏃未製品	2.45	2.4	0.55	サヌカイト	先端欠損	未成品、平基式
S63	3－1区	竪穴建物12（3224）	打製石器	石鏃	1.9	2.15	0.55	サヌカイト	100%	加工途中。凸基Ⅰ式
S64	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.8	2.75	5.5	サヌカイト	100%	凸基Ⅰ式
S65	3－1区	包含層第５層	打製石器	石鏃	2.35	3.3	0.65	サヌカイト	90%、先端欠損	片面加工、平基式
S66	3－1区	包含層第５層	打製石器	石鏃→石錐に転用	14.5	3.0	0.6	サヌカイト		石鏃→破損→石錐に転用、平基式
S67	3－1区	包含層第５層	打製石器	石鏃	1.1	1.9	0.45	サヌカイト		凸基Ⅱ式
S68	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石鏃	9.5	2.0	0.25	サヌカイト	100%	凸基Ⅱ式
S69	3－1区	土坑21（3146）	打製石器	石鏃	1.35	2.75	0.45	サヌカイト	約90%、先端欠損	凸基Ⅱ式
S70	3－1区		打製石器	石鏃	1.2	3.95	0.55	サヌカイト	100%	凸基Ⅱ式
S71	3－1区	包含層第５層	打製石器	石鏃	1.2	3.65	0.5	サヌカイト	100%	凸基Ⅱ式
S72	3－1区	包含層第６層	打製石器	石鏃	1.65	4.4	0.5	サヌカイト	100%	凸基Ⅱ式
S73	3－1区	包含層第４－４層	打製石器	石鏃	2.25	3.65	0.75	サヌカイト	ほぼ100%	有茎式
S74	3－1区	土坑36（3249）	打製石器	石錐、石鏃	2.1	7.1	0.5	結晶片岩		
S75	3－1区	土坑26（3167）	打製石器	石錐	1.3	4.5	0.3	サヌカイト	先端欠損	
S76	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石錐	0.7	2.15	0.35	サヌカイト		把手をもつ
S77	3－1区	包含層第５層	打製石器	石錐	1.3	2.6	0.45	サヌカイト	100%	把手をもつ

S78	3－1区	包含層第5層	打製石器	石錐	1.35	2.9	0.95	サヌカイト	錐部欠損	把手をもつ
S79	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	石錐	1.4	2.9	0.3	サヌカイト		把手をもつ
S80	3－1区	包含層第5層	打製石器	石錐	1.2	3.0	0.65	サヌカイト		
S81	3－1区	包含層第5層	打製石器	石錐	0.85	1.9	0.4	サヌカイト	基部欠損	
S82	3－1区	包含層第4－4層	打製石器	石錐	0.8	2.7	0.3	サヌカイト	70%、基部欠損	
S83	3－1区	包含層第5層	打製石器	石錐	1.8	3.9	0.75	サヌカイト		弥生時代の石鏃か
S84	3－1区	包含層第6層	打製石器	石錐	0.8	3.2	0.4	サヌカイト		
S85	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	1.9	3.4	0.65	サヌカイト		
S86	3－1区	包含層第5層	打製石器	楔形石器	1.85	2.05	0.5	サヌカイト		
S87	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	2.35	2.1	0.8	サヌカイト		
S88	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	1.8	1.95	0.5	サヌカイト		
S89	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	1.3	1.8	0.6	サヌカイト		
S90	3－1区	包含層第4－4層	打製石器	楔形石器	2.35	2.5	0.9	サヌカイト		
S91	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	1.9	3.0	0.7	サヌカイト		
S92	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	2.2	2.7	0.65	サヌカイト		
S93	3－1区	溝9（3162）	打製石器	楔形石器	2.5	2.5	1.0	サヌカイト		
S94	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	1.9	2.05	0.8	サヌカイト		
S95	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	2.05	1.95	0.6	サヌカイト		
S96	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	2.4	1.8	0.35	サヌカイト		
S97	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	2.2	2.0	0.75	サヌカイト		
S98	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	2.65	1.6	0.65	サヌカイト		
S99	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	2.5	1.75	0.5	サヌカイト		
S100	3－1区	包含層第5層	打製石器	楔形石器	3.1	1.8	0.85	サヌカイト		
S101	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	1.9	2.5	0.75	サヌカイト		
S102	3－1区	包含層第5層	打製石器	楔形石器	3.2	2.6	0.8	サヌカイト		
S103	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	3.05	2.05	0.5	サヌカイト		
S104	3－1区	包含層第6層	打製石器	楔形石器	1.55	2.65	0.9	サヌカイト		
S105	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	2.5	2.3	0.55	サヌカイト		
S106	3－1区	包含層第4－4層	打製石器	楔形石器	4.2	1.3	1.15	サヌカイト		
S107	3－1区	竪穴建物11（3142）	打製石器	楔形石器	2.8	1.8	1.0	サヌカイト		
S108	3－1区	包含層第5層	打製石器	楔形石器	3.25	2.5	1.1	サヌカイト		
S109	3－1区	包含層第4－4層	打製石器	楔形石器	3.4	3.75	1.8	サヌカイト		
S110	3－1区	土坑21（3146）	打製石器	楔形石器	2.5	3.65	1.5	サヌカイト		
S111	3－1区	包含層第6層	打製石器	スクレイパー	5.05	3.2	0.85	サヌカイト		
S112	3－1区	包含層第5層	打製石器	スクレイパー	3.9	3.5	1.2	サヌカイト		楔形石器か
S113	3－1区	竪穴建物13（3147）	打製石器	スクレイパー	5.25	3.1	0.8	サヌカイト		
S114	3－1区	包含層第6層	打製石器	スクレイパー	5.6	4.8	0.6	サヌカイト		自然面残る
S115	3－1区	配石遺構2（3143）	打製石器	スクレイパー	6.15	3.7	0.85	サヌカイト		
S116	3－1区	土坑15（3060）	打製石器	スクレイパー	6.75	4.75	0.9	サヌカイト		両刃のスクレーパー縄文時代
S117	3－1区		打製石器	横刃形石器（打製石庖丁）	6.6	4.85	0.8	サヌカイト		
S118	3－1区	包含層第6層	打製石器	横刃形石器	8.7	4.8	1.4	粘板岩	100%	
S119	3－1区	包含層第5層	打製石器	横刃形石器	10.15	5.25	1.9	粘板岩	100%	打製石斧か
S120	3－1区		打製石器	石匙	6.75	4.0	0.85	サヌカイト	一部欠損	横長三角形の石匙
S121	1－2・3区	包含層第4層	打製石器	石匙	3.85	3.6	0.8	サヌカイト		横長三角形の石匙、摘部は欠損する
S122	3－1区	包含層第6層	打製石器	石匙	3.8	2.8	0.8	サヌカイト		短い摘部をもつ
S123	3－1区	包含層第5層	打製石器	石匙	3.65	2.45		サヌカイト	刃部のみ	
S124	3－1区	包含層第6層	打製石器	石匙	3.1	5.35	0.8	サヌカイト		縦長の石匙、摘部は欠損する
S125	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	打製石器	石匙	3.0	5.8	0.5	サヌカイト	100%	縦長の石匙
S126	3－1区	包含層第4－4層	打製石器	石匙	2.85	5.55	0.5	サヌカイト		縦長の石匙、摘部は二方向から抉り出す
S127	3－1区	包含層第5層	打製石器	削器	3.8	5.65	0.8	サヌカイト		
S128	3－1区	包含層第7層	剥片・石核	石核	7.7	6.0	2.5	サヌカイト		原料産地分析資料
S129	3－1区	包含層第6層	剥片・石核	石核	6.8	7.2	2.8	サヌカイト		原料産地分析資料
S130	3－1区	包含層第5層	剥片・石核	石核	7.3	6.0	2.7	サヌカイト		原料産地分析資料
S131	3－1区	包含層第5層	剥片・石核	石核	7.1	6.1	4.0	サヌカイト		原料産地分析資料
S132	3－1区	包含層第6層	剥片・石核	石核	9.7	8.0	6.95	サヌカイト		原料産地分析資料
S133	3－1区	埋設土器2（3153）	剥片・石核	石核	11.2	9.6	4.5	サヌカイト		原料産地分析資料
S134	3－1区	包含層第5層	剥片・石核	石核	9.6	8.4	3.5	サヌカイト		原料産地分析資料
S135	3－1区	包含層第5層	剥片・石核	石核	9.7	6.7	2.4	サヌカイト		スクレイパーに転用か？原料産地分析資料
S136	3－1区	竪穴建物12（3224）	剥片・石核	板状石核	21.1	9.1	3.6	サヌカイト		板状の石核原料産地分析資料
S137	2－1区	表採	剥片・石核	サヌカイト原石	15.7	25.0	13.7	サヌカイト		原料産地分析資料
S138	3－1区	包含層第5層	打製石器	打製石斧	8.0	16.4	2.2	結晶片岩		石鍬か
S139	1－2・3区		打製石器	打製石斧	10.2	15.15	4.3	結晶片岩	80%	石鍬か
S140	3－1区	配石遺構1（3144）		大型石棒・立石	11.7	22.9	9.2	結晶片岩		基部を丸く加工し、上半部は欠損する
S141	3－1区	包含層第4－4層	礫石器	石錘（切目石錘）	2.65	6.85	0.65	粘板岩	約95%	
S142	3－1区	包含層第5層	礫石器	石錘（切目石錘）	2.55	6.35	1.7	結晶片岩	100%	
S143	3－1区	土坑25（3236）	礫石器	石錘（切目石錘）	2.55	6.9	1.1	砂岩	100%	上端のみ切目有り
S144	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（切目石錘）	2.85	7.0	1.8	砂岩	100%	
S145	3－1区	包含層第5層	礫石器	石錘（切目石錘）	2.4	7.9	1.2	砂岩	100%	
S146	3－1区	土坑25（3236）	礫石器	石錘（切目石錘）	3.0	8.0	0.95	結晶片岩	100%	
S147	3－1区	包含層第5層	礫石器	石錘（切目石錘）	2.8	6.8	1.3	砂岩	約90%	
S148	3－1区	包含層第5層	礫石器	石錘（切目石錘）	2.75	8.05	1.45	砂岩	100%	
S149	3－1区	包含層第5層	礫石器	石錘（切目石錘）	2.8	8.3	1.8	砂岩	100%	
S150	3－1区	竪穴状遺構1（3222）	礫石器	石錘（切目石錘）	3.0	8.4	1.65	結晶片岩	約90%	
S151	3－1区	溝10（3270）	礫石器	石錘（切目石錘）	3.25	7.65	1.75	結晶片岩	100%	
S152	3－1区	竪穴建物12（3224）	礫石器	石錘（切目石錘）	2.3	7.3	1.4	チャート	100%	
S153	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	3.3	7.0	2.8	チャート	100%	
S154	3－1区	竪穴建物11（3142）	礫石器	石錘（切目石錘）	3.3	7.4	0.95	粘板岩	約70%	
S155	3－1区	竪穴建物13（3147）	礫石器	石錘（切目石錘）	2.9	6.45	1.3	粘板岩	約80%	
S156	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	3.05	4.9	1.2	チャート	60%	
S157	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（切目石錘）	2.75	5.9	1.05	チャート	100%	
S158	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	2.7	5.55	9.5	砂岩	100%	上端のみ切目有り
S159	3－1区	土坑26（3167）	礫石器	石錘（切目石錘）	3.35	5.6	1.4	結晶片岩	100%	

S160	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	2.7	5.8	1.0	チャート	ほぼ100%	
S161	3－1区	竪穴建物12（3224）	礫石器	石錘（切目石錘）	3.05	5.2	0.9	チャート	100%	
S162	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	2.6	5.0	1.8	砂岩	約90%	
S163	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	2.4	6.3	0.85	砂岩	約90%	
S164	3－1区	包含層第5層	礫石器	石錘（切目石錘）	4.0	7.3	1.8	結晶片岩	約85%	
S165	3－1区	包含層第5層	礫石器	石錘（切目石錘）	3.45	7.9	残 1.1	砂岩	約70%	
S166	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（切目石錘）	3.2	6.6	2.7	砂岩	100%	
S167	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	3.45	8.4	1.15	結晶片岩	100%	上端のみ切目有り
S168	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	4.6	8.15	1.65	チャート	約80%	
S169	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	4.3	8.8	残 1.5	砂岩	100%	
S170	3－1区	土坑37（3266）	礫石器	石錘（切目石錘）	4.85	7.5	1.7	チャート	約90%	
S171	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（切目石錘）	4.05	6.3	1.05	チャート	約80%	
S172	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	4.55	5.95	0.9	結晶片岩	約90%	
S173	3－1区	溝10（3270）	礫石器	石錘（切目石錘）	2.8	3.05	2.1	チャート	100%	上端のみ切目有り
S174	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（切目石錘）	3.8	4.0	1.9	砂岩	100%	上端のみ切目有り
S175	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（切目石錘）	3.45	3.55	1.9	チャート	100%	上端のみ切目有り
S176	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（切目石錘）	3.3	4.45	1.7	チャート	100%	上端のみ切目有り
S177	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（切目石錘）	4.3	5.65	1.8	砂岩	約80%	上端のみ切目有り
S178	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	2.85	6.8	0.9	チャート	約60%	
S179	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.3	6.5	0.8	頁岩、チャート	100%	
S180	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.5	5.8	1.55	チャート	100%	
S181	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.5	6.55	0.75	結晶片岩	100%	
S182	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.95	6.0	1.4	チャート？	100%	
S183	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.7	6.4	1.75	チャート	約70%	
S184	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	2.9	5.5	1.7	石英	100%	
S185	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.9	5.7	1.3	チャート	約80%	
S186	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	4.5	5.75	1.1	チャート	100%	
S187	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.7	5.7	1.4	砂岩	100%	
S188	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	4.15	5.9	1.1	砂岩	約70%	裏面にも打欠痕残る
S189	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	4.5	6.4	1.25	石岩	約70%	
S190	3－1区	包含層第6層	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.6	3.8	1.0	砂岩	約95%	
S191	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.8	4.6	1.2	チャート	100%	
S192	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.35	4.75	1.15	チャート	100%	
S193	3－1区	竪穴建物12（3224）	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.9	5.2	1.4	砂岩	100%	
S194	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	3.7	4.8	1.35	チャート	約70%	
S195	3－1区	竪穴状遺構2（3188）	礫石器	石錘（打欠石錘）	4.35	4.95	1.7	チャート	100%	
S196	3－1区	包含層第5層	礫石器	石錘（打欠石錘）	4.4	5.3	1.45	砂岩	100%	
S197	3－1区	竪穴建物13（3147）	礫石器	石錘（打欠石錘）	4.75	4.6	1.6	砂岩	約90%	
S198	3－1区	包含層第5層	礫石器	石錘	3.8	12.8	1.7	結晶片岩	100%	棒状の礫の中央を打欠く
S199	3－1区	包含層第6層	礫石器	磨石・敲石	7.4	7.3	5.4	砂岩	100%	敲打痕有
S200	3－1区	包含層第5層	礫石器	磨石・敲石	9.2	9.6	4.4	砂岩	100%	
S201	3－1区	包含層第6層	礫石器	磨石・敲石	7.3	7.3	3.5	砂岩		中央に敲打痕有
S202	3－1区	竪穴建物11（3142）	礫石器	磨石・敲石	9.0	5.7	4.1	砂岩		
S203	3－1区	包含層第5層	礫石器	磨石・敲石	4.9	6.9	1.8	砂岩		
S204	3－1区	竪穴建物12（3224）	礫石器	磨石・敲石	10.2	10.5	3.4	砂岩		
S205	3－1区	落ち込み3（3260）	礫石器	磨石・敲石	7.5	10.9	7.5	砂岩	100%	中央と両端に敲打痕有
S206	3－1区	竪穴建物13（3147）	礫石器	磨石・敲石	8.7	10.8	5.3	砂岩	100%	中央と両端に敲打痕有
S207	3－1区	土坑22（3131）	礫石器	磨石・敲石	4.7	9.3	2.65	砂岩		
S208	3－1区	土坑20（3052）	礫石器	磨石・敲石	5.3	10.2	4.6	チャート		
S209	3－1区	包含層第5層	礫石器	磨石・敲石	10.1	11.5	2.4	泥岩、砂岩	100%	
S210	3－1区	3234	礫石器	磨石・敲石	10.2	11.1	2.7	泥岩	100%	
S211	3－1区	排土中	礫石器	磨石・敲石	10.0	10.4	2.8	泥岩		
S212	3－1区	溝10（3270）	礫石器	磨石・敲石	5.4	10.5	3.4	砂岩	50%	中央に敲打痕有
S213	3－1区	包含層第6層	礫石器	磨石・敲石	7.7	8.0	5.0	砂岩		中央に敲打痕有
S214	3－1区	竪穴建物13（3147）	礫石器	磨石・敲石	9.5	10.6	4.8	砂岩	100%	中央と両端に敲打痕有
S215	3－1区	包含層第5層	礫石器	磨石・敲石	8.0	8.8	3.8	砂岩	100%	
S216	3－1区	包含層第6層	礫石器	磨石・敲石	9.3	10.2	3.8	砂岩		
S217	3－1区	包含層第6層	礫石器	磨石・敲石	9.0	9.3	3.0	砂岩		中央に敲打痕有
S218	3－1区	竪穴状遺構1（3222）	礫石器	磨石・敲石	6.5	12.2	5.9	砂岩		中央に敲打痕有
S219	3－1区	包含層第6層	礫石器	磨石・敲石	7.7	11.6	5.6	砂岩		
S220	3－1区	溝10（3270）	礫石器	磨石・敲石	7.4	8.8	1.8	砂岩		中央に敲打痕有
S221	3－1区	包含層第5層	礫石器	磨石・敲石	9.3	9.1	2.5	泥岩、砂岩		
S222	3－1区	竪穴建物13（3147）	礫石器	磨石・敲石	12.8	12.4	3.6	不明		
S223	3－1区	包含層第6層	礫石器	磨石・敲石	11.1	13.2	7.6	砂岩		
S224	3－1区	溝10（3270）	礫石器	磨石・敲石	6.0	8.7	1.8	砂岩	100%	
S225	3－1区	3234	礫石器	磨石・敲石	6.1	10.0	3.85	砂岩		
S226	3－1区	包含層第4－4層	礫石器	砥石	11.2	16.8	4.8	砂岩		
S227	3－1区	自然流路9（3150）	礫石器	石棒	3.7	17.0	2.5	結晶片岩		
S228	3－1区	包含層第4d層	礫石器	石棒	3.2	13.2	3.0	紅簾石片岩		
S229	1－1区	掘立柱建物2 布掘溝（1256）	礫石器	円礫	4.7	7.1	4.5	花崗岩		全面に光沢をもち、鉄分が付着
S230	3－1区	集石遺構7（3217）	礫石器	台石	42.1	35.8	9.5	砂岩	約80%	
S231	3－2区	自然流路9（3150）	礫石器	矢柄研磨器	12.2	16.5	11.7	砂岩		中央に2条の溝
S232	3－1区	竪穴建物13（3147）	礫石器	石皿・砥石	15.1	15.3	4.3	片岩		
S233	3－1区	包含層第7層	礫石器	石皿・砥石	9.7	17.0	4.5	片岩		
S234	3－1区	包含層第5層	礫石器	石皿・砥石				片岩		研磨痕あり
S235	3－1区	埋設土器1（3149）	礫石器	石皿・砥石	40.0	37.5		片岩		底石
S236	3－1区	埋設土器1（3149）	礫石器	石皿・砥石	35.2	44.1		片岩		使用痕あり、整形

写真図版

写真図版1

西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第1次調査）



1. 調査地遠景（西から）



2. 調査地空中写真
（西から）



3. 調査地空中写真
（南から）

写真図版2

西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡（第1次調査）



1. 調査区全景



2. 西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）全景



3. 西飯降Ⅱ遺跡（06－2区）、丁ノ町・妙寺遺跡(06－1区）全景



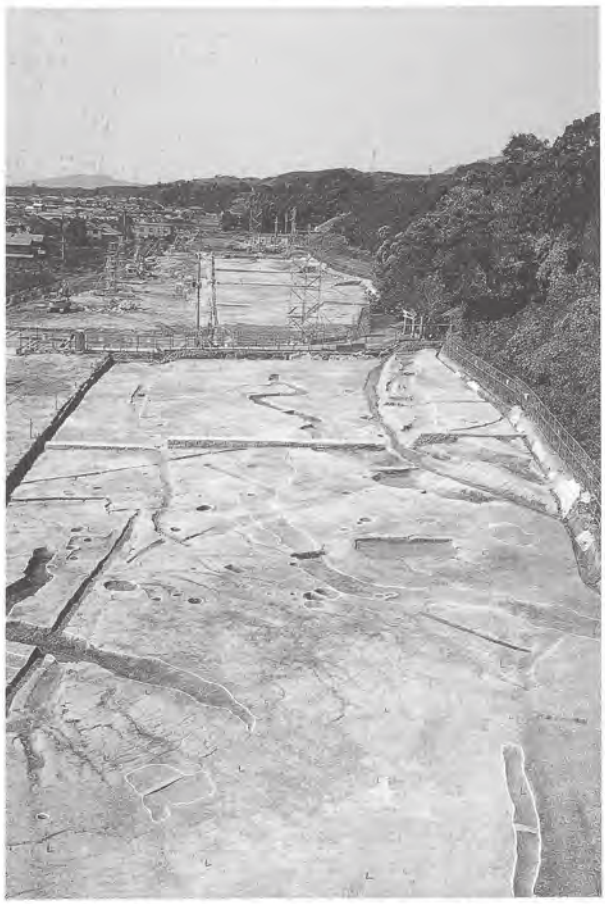
1. 西飯降Ⅱ遺跡（06－1－4区）上層遺構面全景（西から）



2. 西飯降Ⅱ遺跡（06－1－3区）上層遺構面全景（北から）



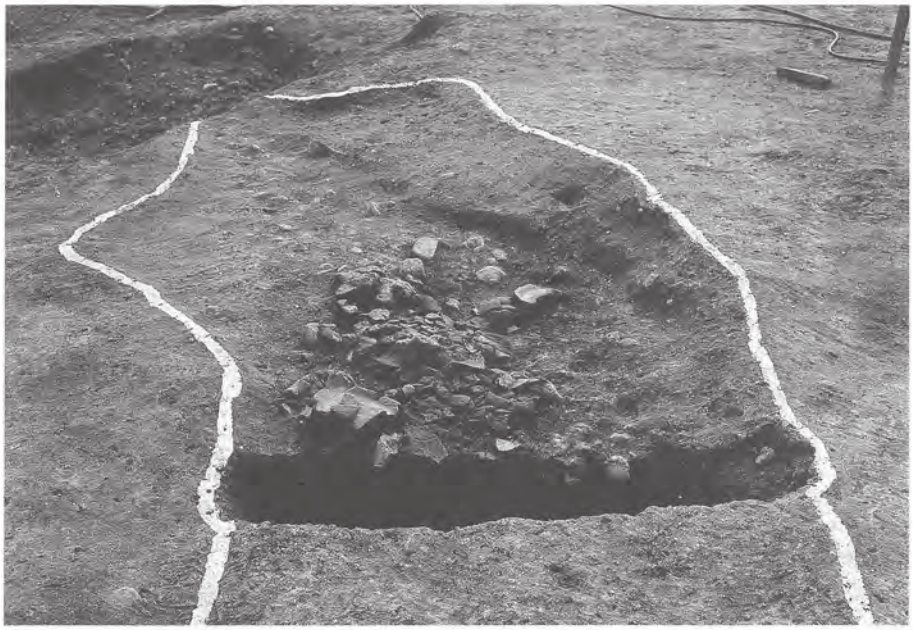
1. 西飯降Ⅱ遺跡（06－1－4区）下層遺構面全景（東から）



2. 西飯降Ⅱ遺跡(06－1－3区)上層遺構面全景(東から)



3. 西飯降Ⅱ遺跡(06－1－3区)下層遺構面全景(西から)



1. 溝3（5027）遺物出土状況（北から）



2. 自然流路2(5007)北半（南から）



3. 自然流路2（5007）南半（北から）

写真図版6

西飯降Ⅱ遺跡（06－1区）



1. 自然流路２堰（5326）
検出状況（東から）



2. 自然流路２木樋(5326)
検出状況（東から）



3. 自然流路２堰（5326）
検出状況（東から）



1. 竪穴建物１（5089）遺物、炭化材出土状況（東から）



2. 竪穴建物１(5089)遺物､炭化材出土状況(北から)



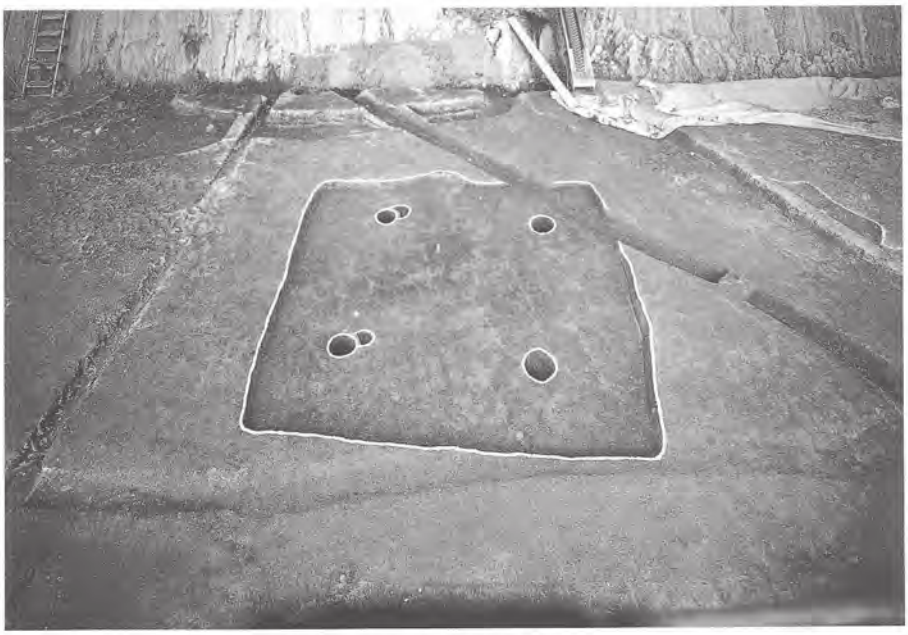
3. 竪穴建物１（5089）炭化材出土状況（南東から）



4. 竪穴建物１（5089）遺物出土状況（西から）



5. 竪穴状遺構１（5012）（西から）



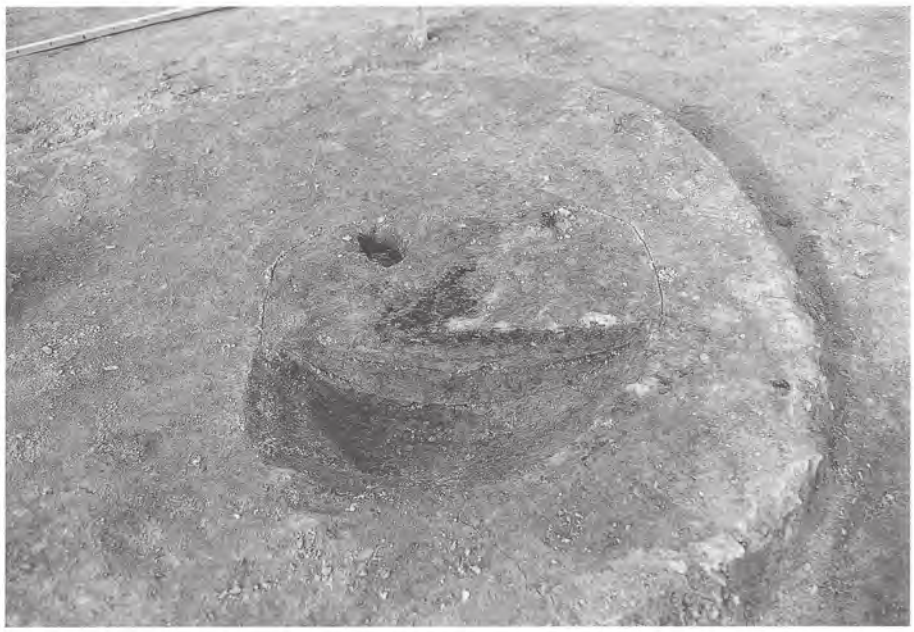
1. 竪穴建物２（5335）
（南から）



2. 竪穴建物３（5095）
（西から）



3. 竪穴建物３（5095）
竈完掘状況（南東から）



1. 焼成土坑１（5501）
（南から）



2. 焼成土坑２（5301）
（西から）



3. 鍛冶遺構１（5300）
（西から）



1. 西飯降Ⅱ遺跡（06－1－3区）下層遺構面全景（西から）



2. 自然流路6（5324）堰検出状況（東から）



3. 溝6（5331）遺物出土状況（東から）



4. 自然流路7（5472）南半（北から）



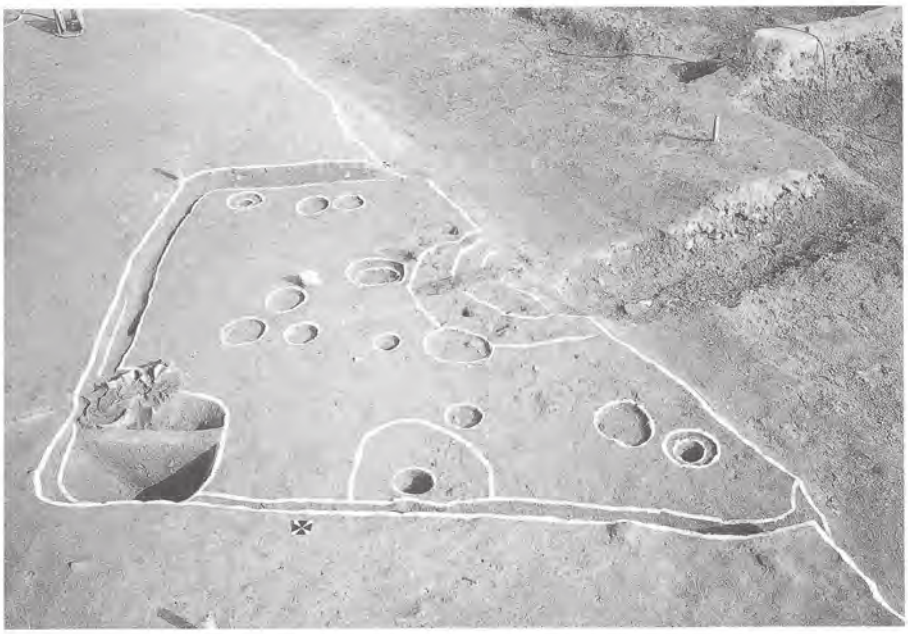
5. 自然流路7（5472）遺物出土状況（北から）



1. 西飯降Ⅱ遺跡（06－1－3区）弥生時代遺構全景（東から）



2. 西飯降Ⅱ遺跡（06－1－4区）弥生時代遺構全景（北から）



1. 竪穴建物４（5184）
（南から）



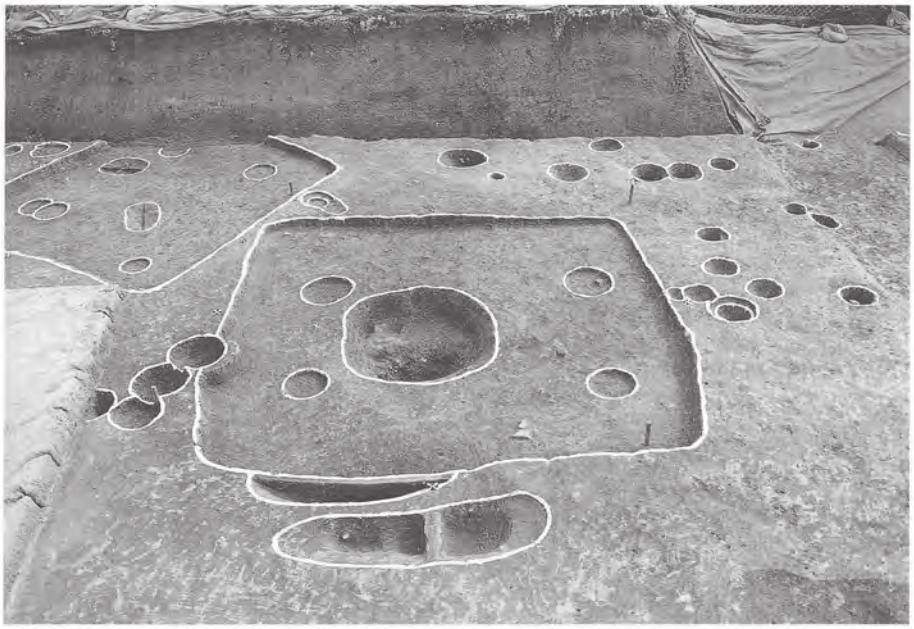
2. 竪穴建物４（5184）
SK 遺物出土状況
（北から）



3. 竪穴建物４（5184）
炉（北から）



1. 竪穴建物５（5507）（南から）



2. 竪穴建物６（5402）・７（5400）（北から、手前が竪穴建物７）



3. 土坑７（5243）・８（5244）遺物出土状況（南から）



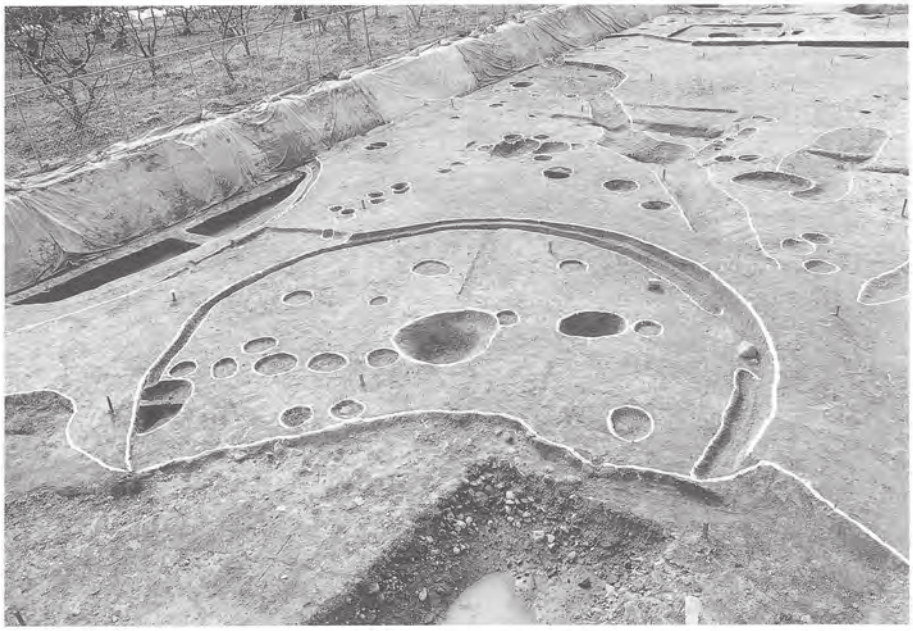
1. 竪穴建物８（5506）
（西から）



2. 竪穴建物９（5185）
（南から）



3. 竪穴建物９（5185）
（西から）



1. 竪穴建物 10（5369）
（東から）



2. 竪穴建物 11（5370）
（西から）



3. 竪穴建物 13（5183）
（東から）



1. 竪穴建物 12（5373）
（北から）



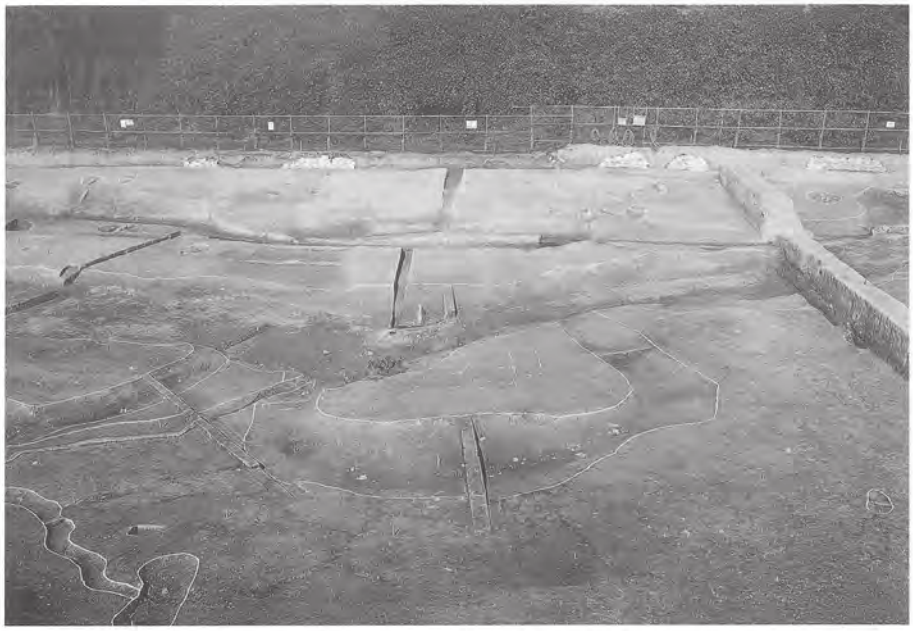


2. 竪穴建物 12（5373）
P5 磨製石剣出土状況
（北東から）

3. 竪穴建物 12（5373）
P5 磨製石剣出土状況
（北西から）



4. 竪穴建物 14（5523）
（北から、竪穴建物 7 の
下層）



1. 方形周溝墓１（5269）・２（5268）（南から）



2. 方形周溝墓１（5269）・２（5268）（南東から）



3. 方形周溝墓３（5418）（北西から）



1. 方形周溝墓 1（5269）（西から）



2. 方形周溝墓　1（5269）南セクション（東から）



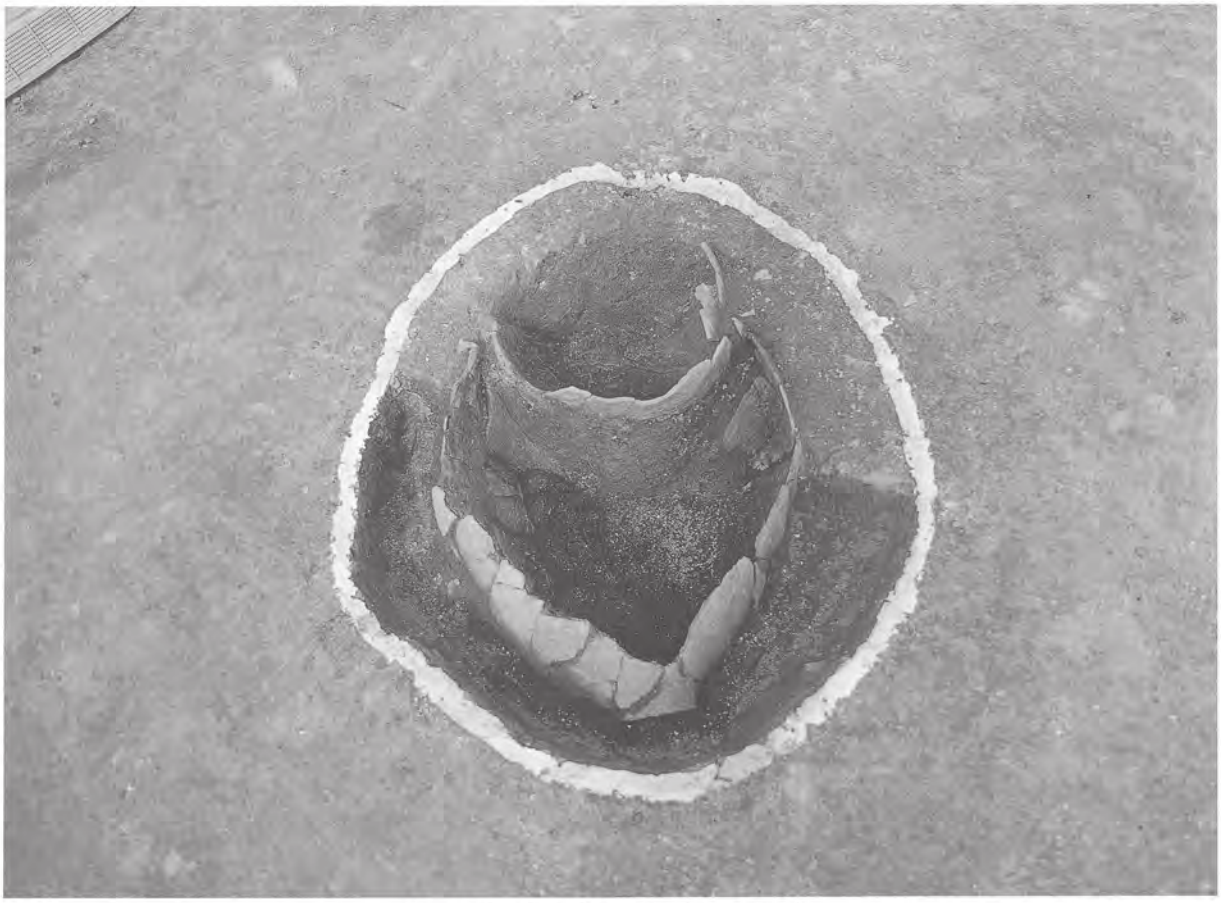
3. 方形周溝墓　1（5269）遺物出土状況（東から）



4. 方形周溝墓　1（5269）周溝内 SK2（5328）（南から）



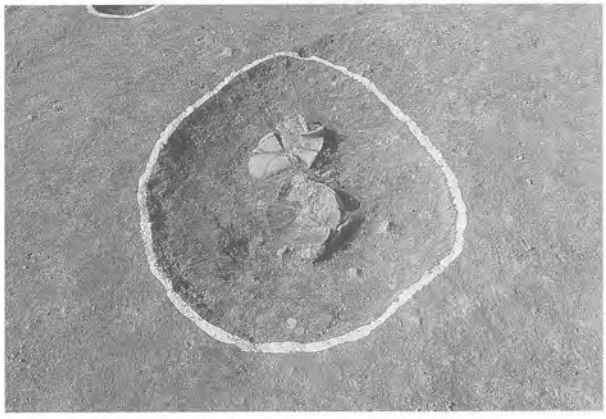
5. 周溝内 SK　2（5328）遺物出土状況（南から）



1. 土器棺墓 1（5246）（南西から）



2. 土器棺墓 1（5246）検出状況（南西から）



3. 土器棺墓 2（5247）（南東から）



4. 土器棺墓 3（5325）（南から）



5. 土器棺墓 5（5491）（東から）



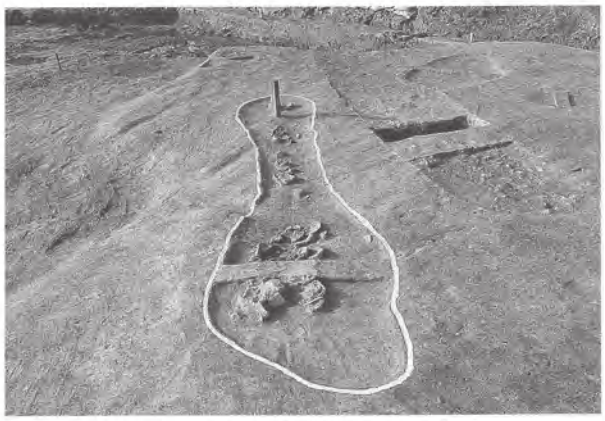
1. 土器棺墓 4（5479）（東から）



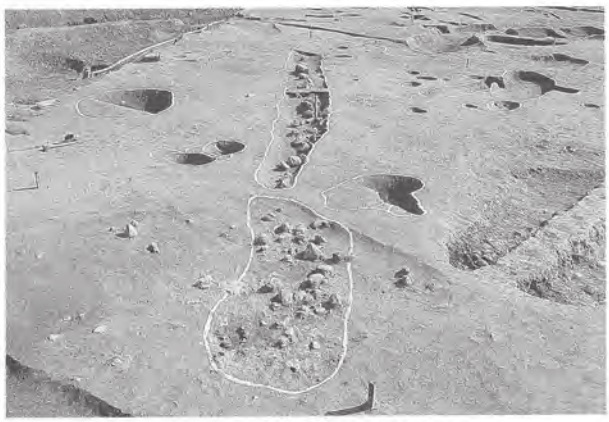
2. 土坑 12（5320）（南から）



3. 土坑 15（5298）（西から）



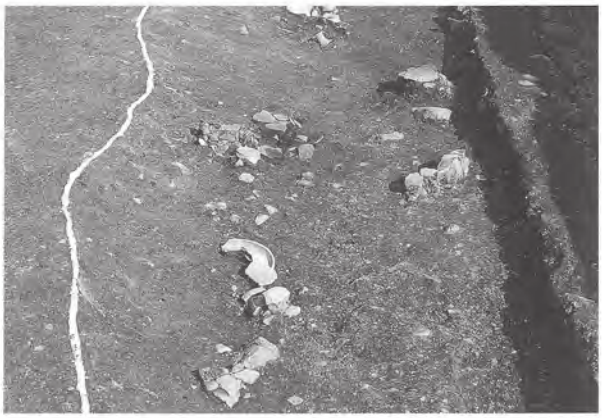
4. 溝 13（5258）（南から）



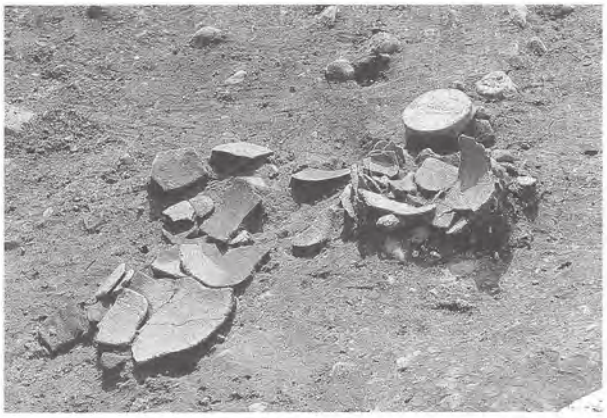
5. 溝 14（5200）（北から）



1. 自然流路 8（5180）北半（南から）



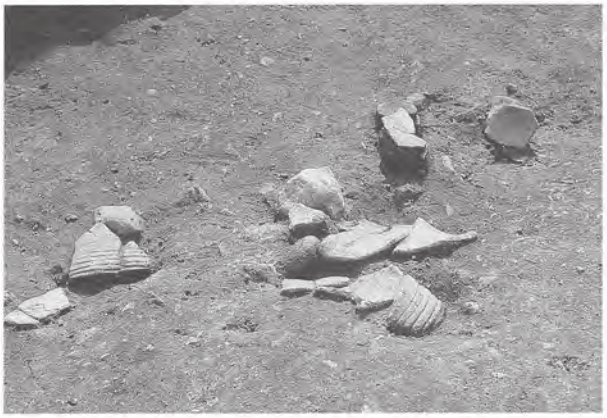
2. 自然流路 8（5180）北半遺物出土状況 1（西から）



3. 自然流路 8（5180）北半遺物出土状況 2（西から）



4. 自然流路 8（5180）北半遺物出土状況 3（南から）



5. 自然流路 8（5180）北半遺物出土状況 4（南から）

写真図版22

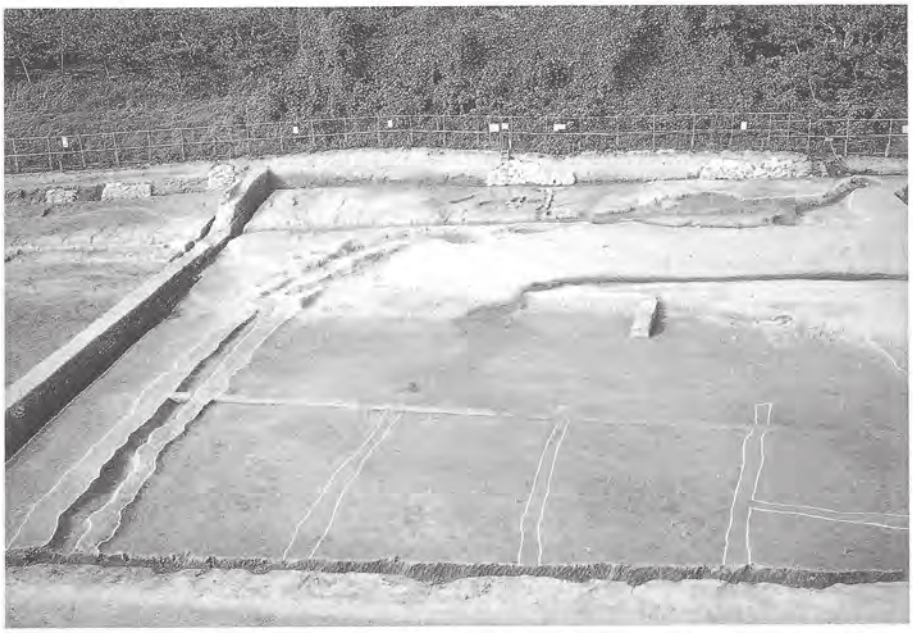
西飯降Ⅱ遺跡（06－2区）



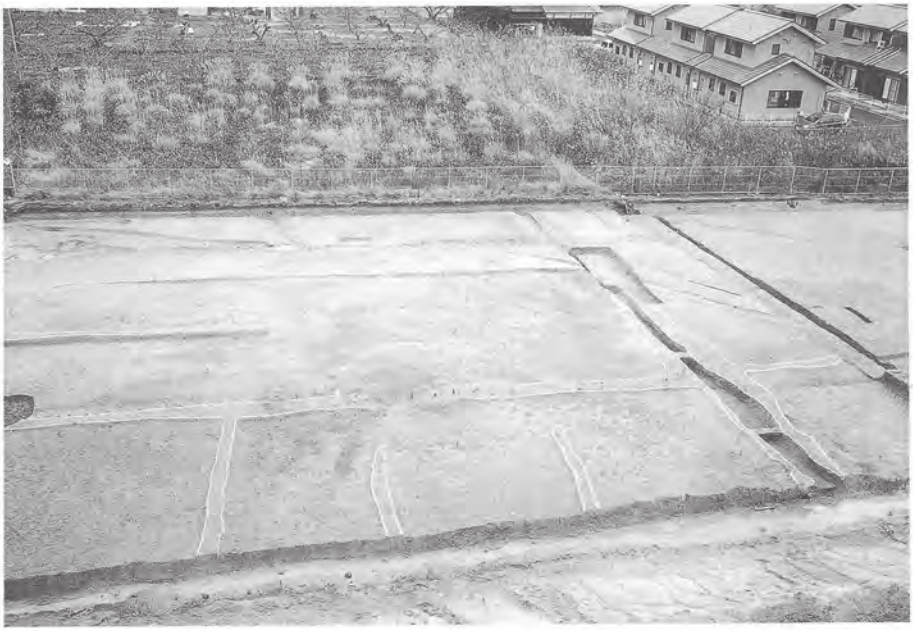
1. 西飯降Ⅱ遺跡
（06－2－4区）
下層遺構面全景
（東から）



2. 西飯降Ⅱ遺跡
（06－2－2区）
下層遺構面全景
（北から）



1. 溝 18(1)・条里水田畦畔
北半（南から）



2. 溝 18(1)・条里水田畦畔
南半（北から）



3. 溝 18（1）土層断面
（南から）



4. 水田畦畔断割状況
（南から）



1. 自然流路６（46）南半（北西から）



2. 自然流路６（46）北側堰検出状況（東から）



3. 自然流路６（46）北側堰検出状況（南から）



4. 自然流路６（46）南側堰状況（北から）



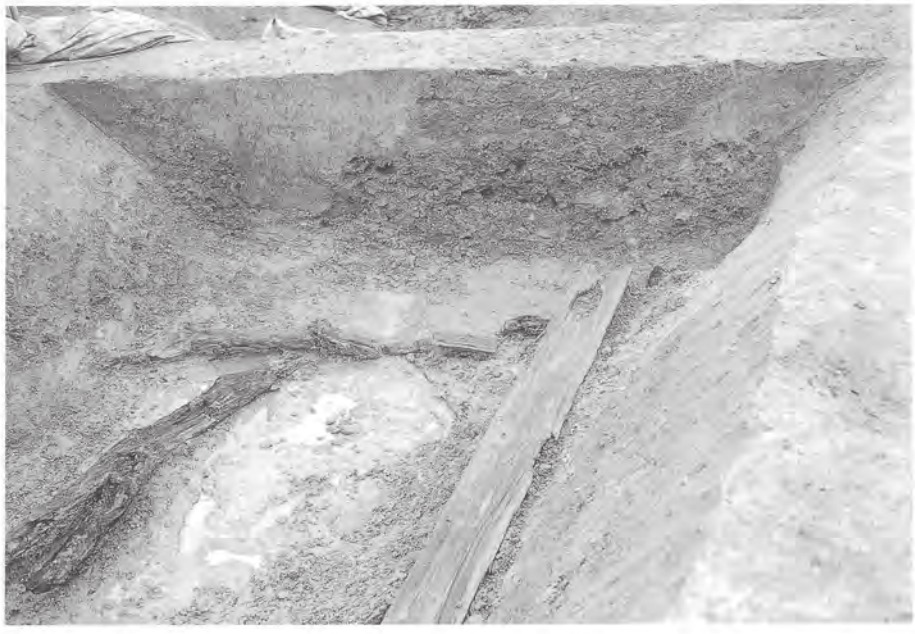
5. 自然流路６（46）田下駄出土状況（西から）



1. 自然流路６（46）南半
（北西から）



2. 自然流路６（46）
下駄出土状況（北から）



3. 自然流路６（46）
木製品出土状況
（北から）



1. 西飯降Ⅱ遺跡（06－2－2区）竪穴建物、竪穴状遺構全景（北から）



2. 竪穴建物15（63）（南から）



3. 竪穴建物16（24）（南から）



4. 竪穴状遺構4（65）（西から）



5. 竪穴状遺構4（65）土層断面図（西から）



1. 丁ノ町・妙寺遺跡
（06－1－1区）
上層遺構面全景
（西から）



2. 丁ノ町・妙寺遺跡
（06－1－2区）
下層遺構面全景
（西から）



3. 丁ノ町・妙寺遺跡
（06－1－4区）
下層遺構面全景
（東から）



1. 落ち込み 2（15）（西から）



2. 土坑 43（50）（南から）



3. 土坑 42（49）樽形瓶出土状況 1（東から）



4. 土坑 42（49）樽形瓶出土状況 2（東から）



5. 土坑 42（49）樽形瓶出土状況 3（東から）



1. 竪穴建物 17（51）床面 A（東から）



2. 竪穴建物 17（51）床面 A（北から）



3. 竪穴建物 17（51）床面 C（東から）



4. 竪穴建物 17（51）溝 2（122）土層断面（東から）



5. 竪穴建物 17（51）床面 A 炉（東から）



1. 竪穴建物 18（63）土層断面（東から）



2. 竪穴建物 18（63）（東から）



3. 竪穴建物 19（173）・20（172）
（北から手前が竪穴建物 19）



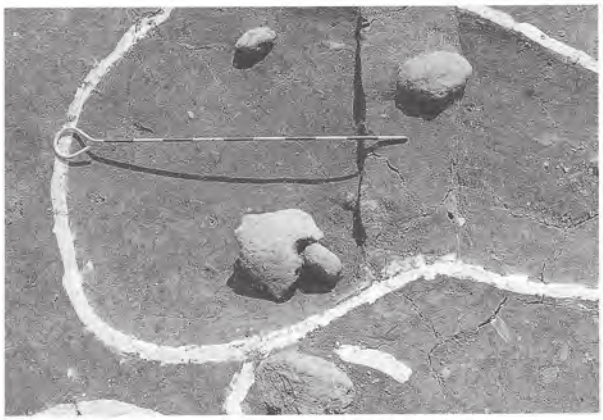
4. 竪穴建物 19（173）土層断面（東から）



5. 土器棺墓 6（169）（南から）



6. 土坑 47（84）（東から）



7. 土坑 49（85）遺物出土状況（北から）



8. 溝 34（54）（北から）



1. 調査地遠景（東から）



2. 調査地遠景（北から）



3. 調査区空中写真
（南から）



1. 調査区全景



2. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－1・2区）全景



3. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－2・3・4区）全景



1. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－1－1区）全景（東から）



2. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－1－4・5区）全景（西から）



1. 掘立柱建物群北半全景（北西から）



2. 掘立柱建物群南半全景（北西から）



1. 掘立柱建物１（北から）



2. 掘立柱建物２（北から）



3. 掘立柱建物２
（南西から）



1. 掘立柱建物２布掘溝（1256）（北から）



2. 掘立柱建物２布掘溝（1256）遺物出土状況（南から）



3. 掘立柱建物２布掘溝（1256）土層断面（南から）



4. 掘立柱建物２整地層断ち割り（南から）



5. 礎石建物１礎石出土状況（南から）



1. 掘立柱建物４（南から）



2. 掘立柱建物５（南から）



3. 掘立柱建物６（南から）



1. 掘立柱建物 7（南から）



2. 掘立柱建物 4、P8 木柱検出状況（西から）



3. 掘立柱建物 10（北から）



4. 掘立柱建物 7、P12 根石検出状況（北から）



5. 土坑 5（1247）曲物出土状況（南から）



1. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－2－1区）全景（西から）



2. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－2－3・4区）全景（西から）

写真図版40　丁ノ町・妙寺遺跡（07－2区）



1. 掘立柱建物 11（2327）
（北西から）



2. 焼成土坑 1（2371）
（西から）



3. 集石遺構 1（2051）
（南から）



1. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－3－1区）上層遺構面全景（東から）



2. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－3－2区）全景（西から）



1. 自然流路７（3010）
（西から）



2. 自然流路７（3010）
木杭検出状況（西から）



3. 溝５（3008）
木樋検出状況（北から）



1. 焼成土坑 2（3005）・3（3006）（南から、手前が焼成土坑 3）



2. 焼成土坑 2（3005）・3（3006）土層断面（東から）



3. 焼成土坑 3（3006）完掘状況（南から）



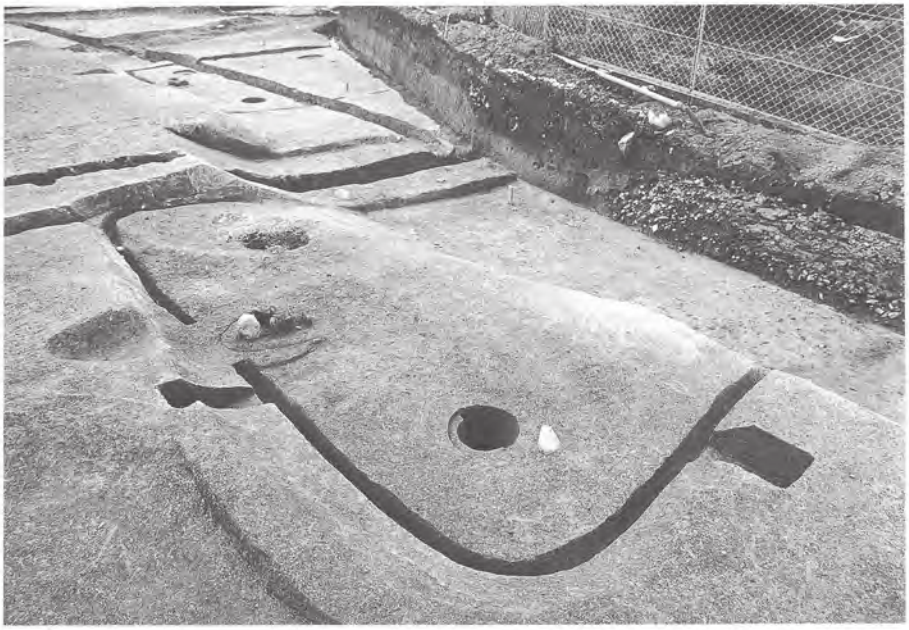
4. 焼成土坑 3（3006）赤変状況（南から）



5. 焼成土坑 5（3282）（南から）



1. 竪穴建物１（3287）（北から）



2. 竪穴建物２（3292）・３（3296）（北西から、手前が竪穴建物２）



3. 竪穴建物４（3300）（北西から）



1. 竪穴建物 1（3287）遺物出土状況（東から）



2. 竪穴建物 2（3292）竈遺物出土状況（南東から）



3. 竪穴建物 3（3296）竈遺物出土状況（南東から）



4. 竪穴建物 4（3300）遺物出土状況（南西から）



5. 竪穴建物 4（3300）竈遺物出土状況（南から）



6. 竪穴建物 4（3300）、P3 遺物出土状況（北から）



7. 竪穴建物 2（3292）竈完掘状況（南から）



8. 竪穴建物 4（3300）竈完掘状況（南から）



1. 溝 6（3030）（南から）



2. 土坑 10（3122）（西から）



3. 丁ノ町・妙寺遺跡（07 － 3 － 1 区）弥生時代遺構全景（北東から）



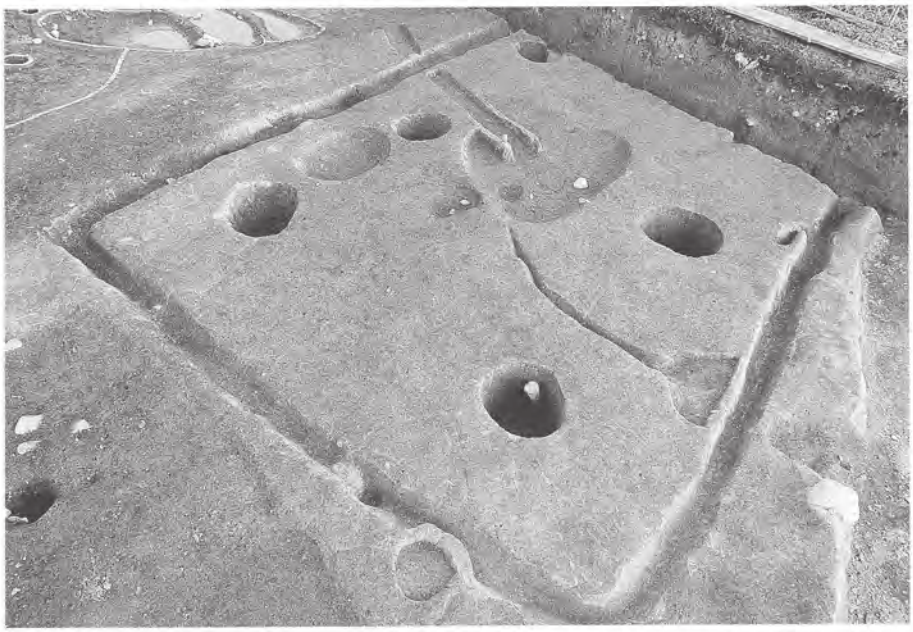
4. 竪穴建物 6（3021）・土坑 12（3023）（南から）



5. 竪穴建物 8（3040）（北から）



1. 竪穴建物５（3018）
（北から）



2. 竪穴建物７（3020）
（北西から）



3. 竪穴建物９（3026）
（東から）



1. 溝状遺構 1（3121・3126）（西から）



2. 溝状遺構 1（3126）遺物出土状況（南から）



3. 土坑 11（3047）（北から）



4. 土坑 12（3023）遺物出土状況（南から）



5. 土坑 13（3232）（南から）



6. 土坑 13（3232）土層断面（南から）



7. 土坑 15（3069）（北から）



8. 土坑 19（3164）（南から）



1. 自然流路 9(3150)南半
遺物出土状況 1(南から)



2. 自然流路 9(3150)南半
遺物出土状況 2(北から)



3. 自然流路 9(3150)北半
遺物出土状況 (北から)



1. 自然流路 9（3150）全景（南から）



2. 自然流路 9（3150）土層断面（南西から）



3. 自然流路 9（3150）46～48 遺物出土状況 46～48（北から）



4. 自然流路 9（3150）1 ～ 5 遺物出土状況（東から）



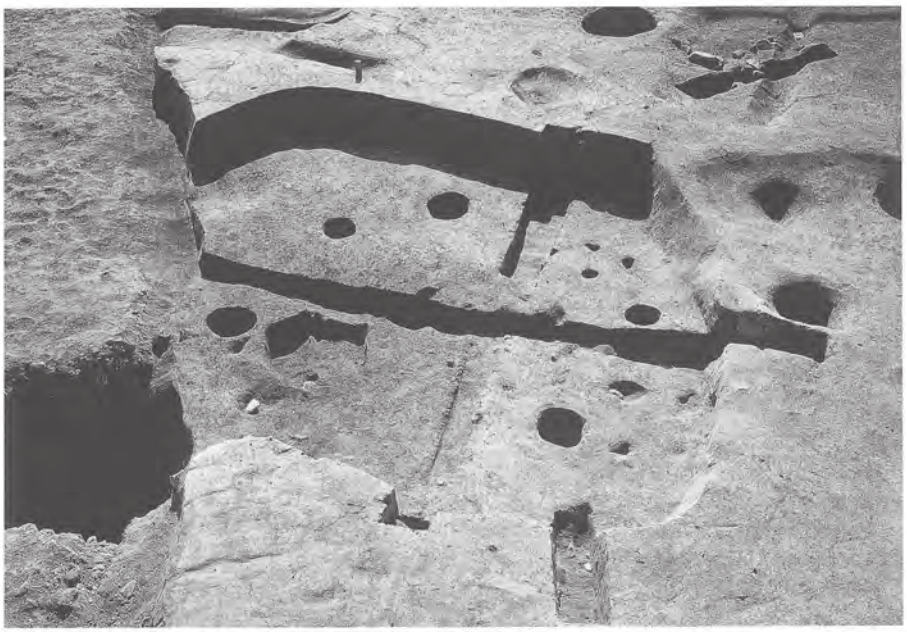
5. 自然流路 9（3150）木製品 W8 出土状況（南から）



1. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－3－1区）下層遺構面全景（北から）



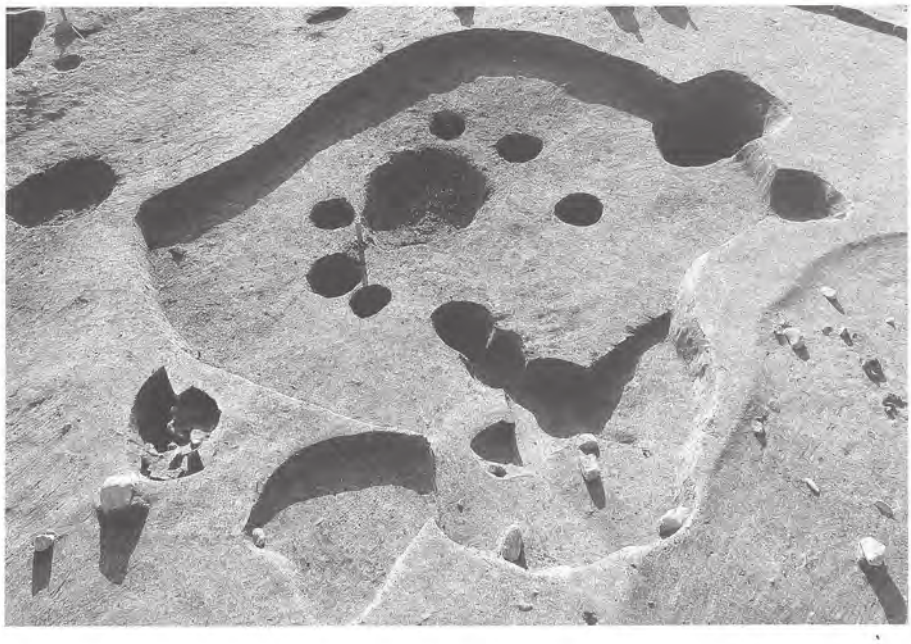
2. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－3－1区）下層遺構面南半（西から）



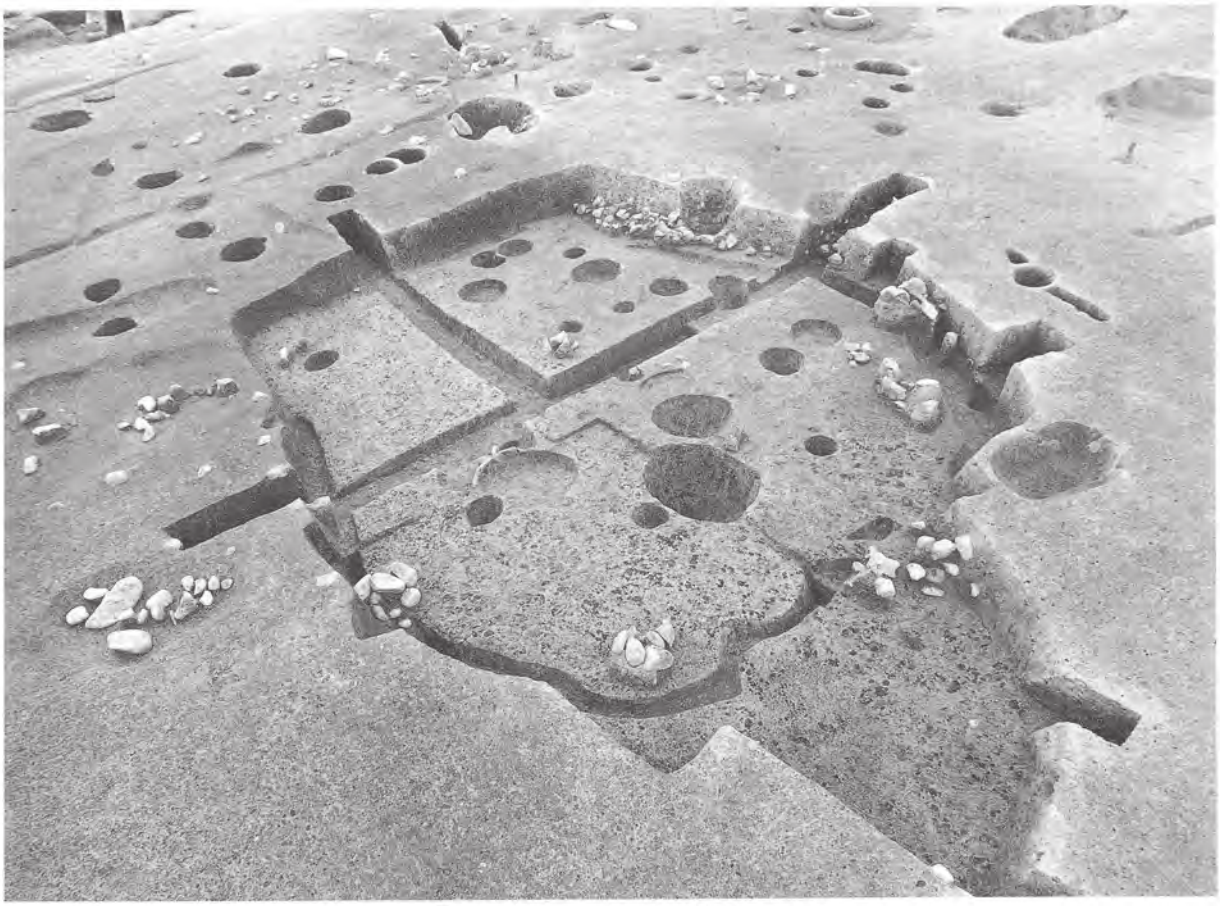
1. 竪穴建物 11（3142）
（北から）



2. 竪穴建物 11（3142）
上層遺物出土状況
（北から）



3. 竪穴建物 12（3224）
（北東から）



1. 竪穴建物 13（3147）（南東から）



2. 竪穴建物 13（3147）土層断面（南東から）



3. 竪穴建物 13（3147）土層断面（北西から）



4. 竪穴建物 13（3147）集石 1（南から）



5. 竪穴建物 13（3147）集石 2（東から）



1. 竪穴状遺構 1（3222）
（北から）



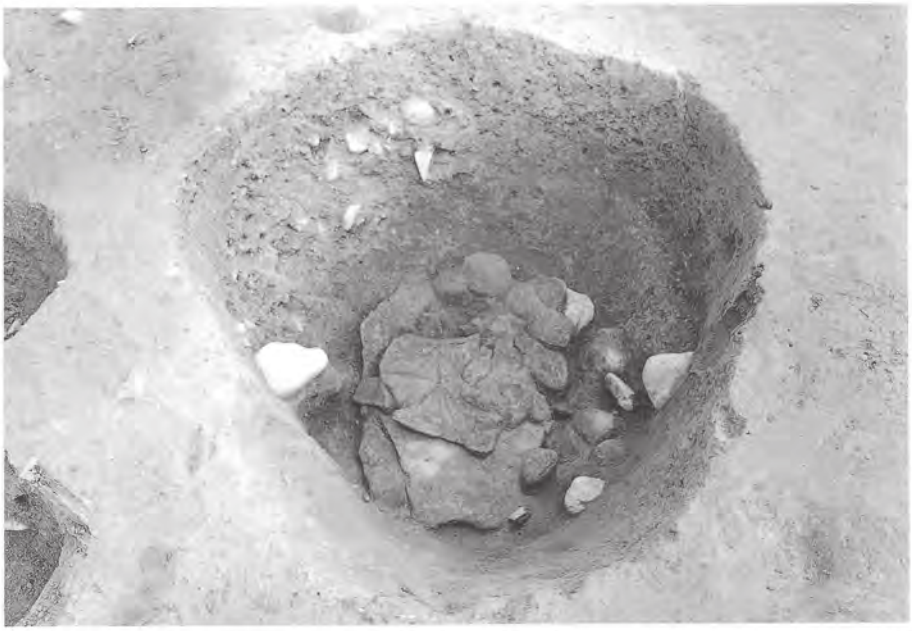
2. 竪穴状遺構 2（3188）
北半（西から）



3. 竪穴状遺構 2（3188）
石錘集中出土状況
（南から）



1. 埋設土器１（3149）
蓋石検出状況（南から）



2. 埋設土器１（3149）
土器出土状況（西から）



3. 埋設土器１（3149）
底石検出状況（西から）



1. 埋設土器 2（3153）
（北から）



2. 埋設土器 2（3153）
石核出土状況
（南東から）



3. 埋設土器 4（3225）
（北から）



1. 配石遺構1（3143）・2（3144）（南から手前が配石遺構1）



2. 配石遺構2（3144）（西から）



3. 配石遺構2（3144）立石検出状況（西から）



1. 埋設土器 1、配石遺構 1・2、集石遺構 6・7 全景（北から）



2. 集石遺構 6（3189）（南から）



3. 集積遺構 7（3127）（西から）



4. 集石遺構 8（3218）（東から）



5. 集石遺構 9（3219）（西から）



1. 土坑群全景（北から）



2. 土坑 23（3254）上層遺物出土状況（東から）



3. 土坑 27（3246）（西から）



4. 土坑 26（3167）磨製石斧出土状況（東から）



5. 溝 10（3270）（北西から）



1. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－4－2区）全景（南東から）



2. 丁ノ町・妙寺遺跡（07－4－1区）全景（東から）



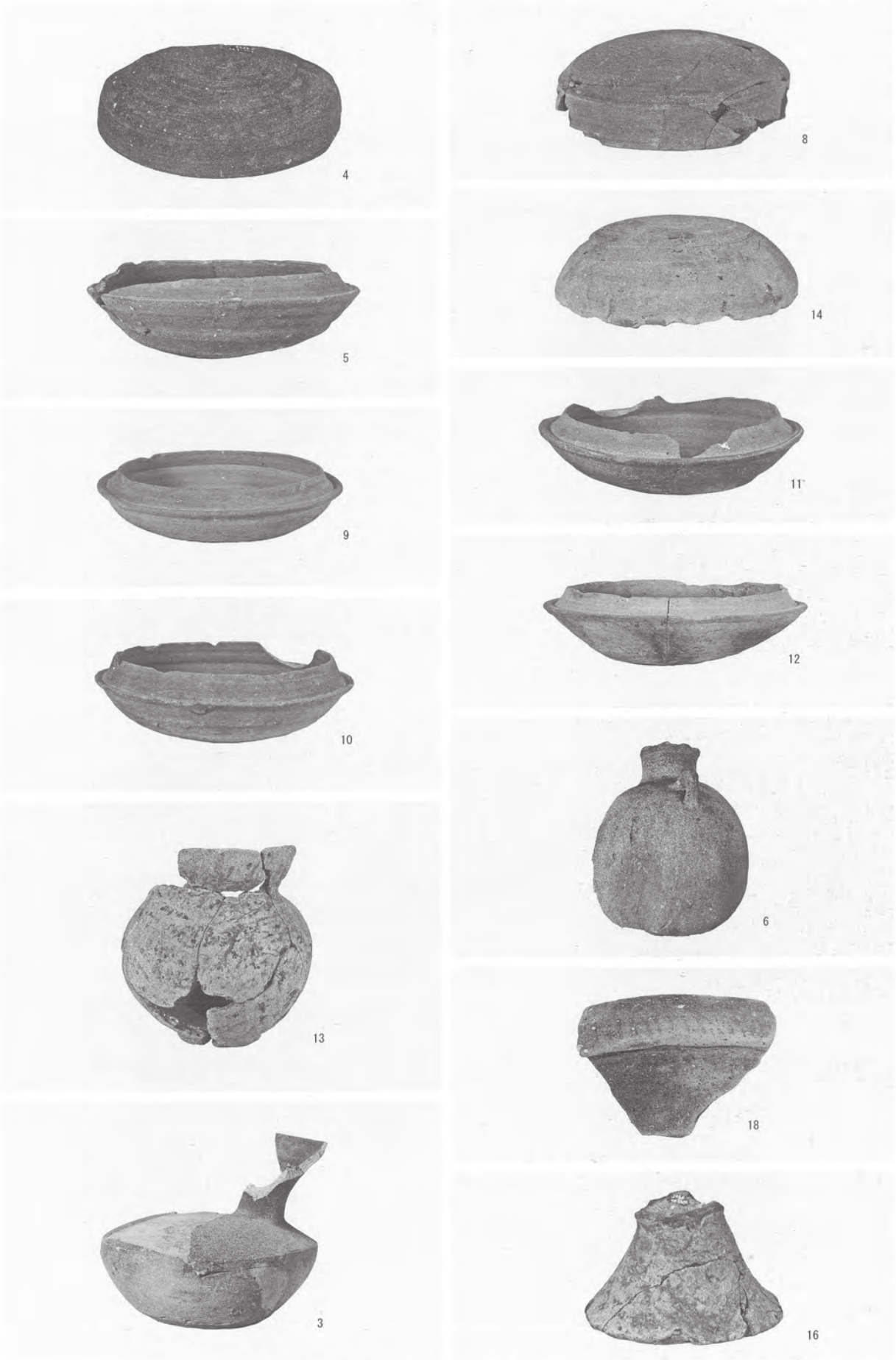
3. 焼成土坑6（4005）（北東から）



4. 溝11（4008）（南東から）



5. 溝11（4008）遺物出土状況（南東から）



包含層（西飯降Ⅱ遺跡 06 － 1 区）出土土器



落ち込み1、溝1～3、自然流路1・2出土土器


50


56


51


57


52


58


65


61


73


76


64

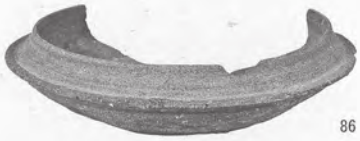

74

竪穴建物１、竪穴状遺構１、土坑４・５、焼成土坑１出土土器


83

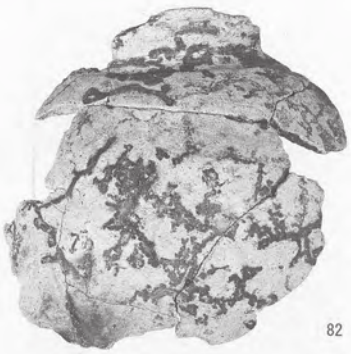

84


85

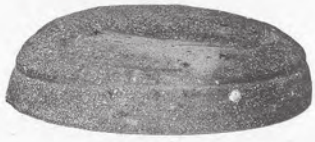

86


100


103


82


90


94


91


97


98

溝６・７、自然流路３出土土器


110


105


99


107


102


108


115


119


121


120



竪穴建物３、ピット１、自然流路３～５出土土器


122


133


125


131


127


134


132


144


145


142


148


143

竪穴建物４・５、自然流路６出土土器


158


163


159


165

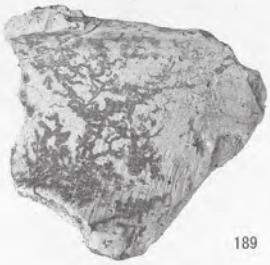

160


166


167


168

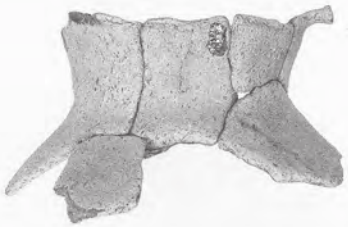

172


189


210


191

竪穴建物 11、竪穴状遺構 2、土坑 7 ～ 10、溝 11・12 出土土器


213


223


216


222

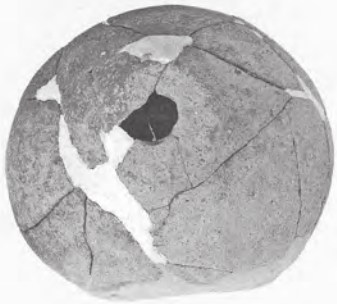

217


224


228


214

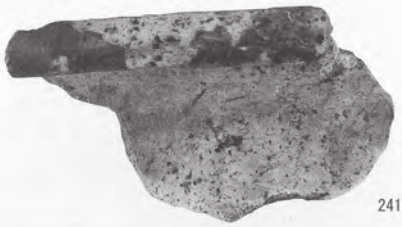

219




218

方形周溝墓１出土土器


236


241


233


252


264


239


261


238


243


237

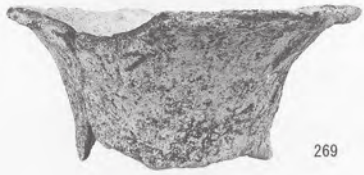

240

方形周溝墓１・２出土土器


253


250

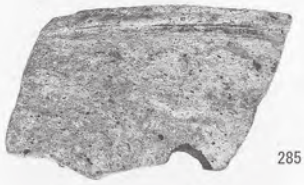

257


269


255


273

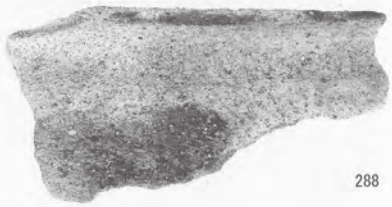

254


285


251


289


276

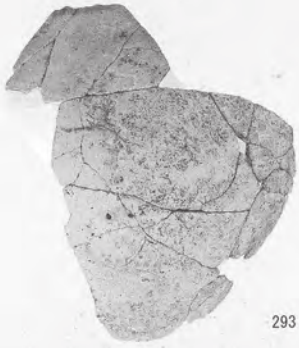

288

方形周溝墓２・３出土土器

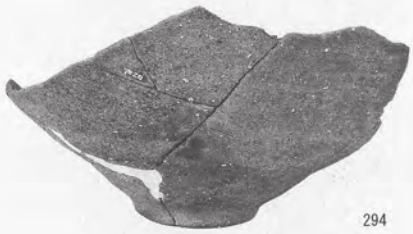

286


297

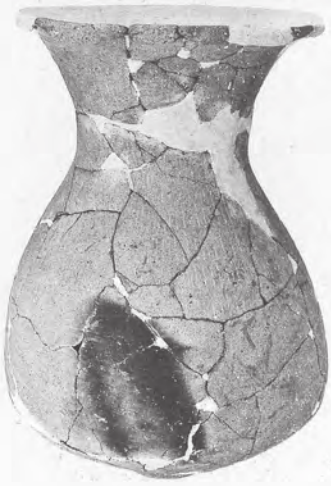

298


293


290


294

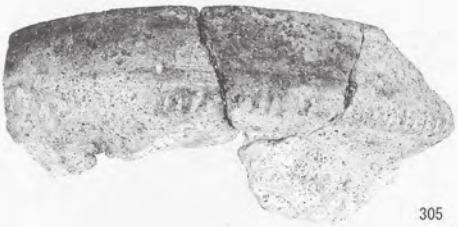

291


292

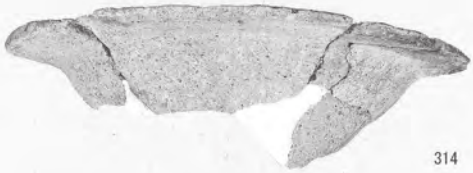
方形周溝墓 3、土器棺墓 1 ～ 4 出土土器

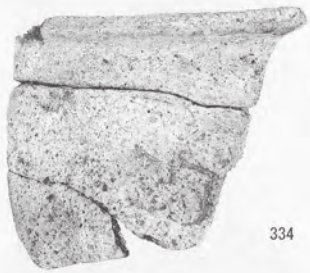

302


319

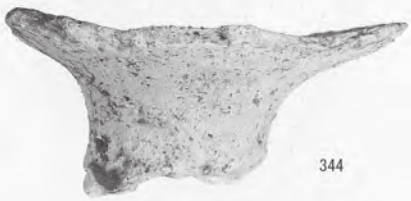

305


321


314


334


315


344


318


342


364

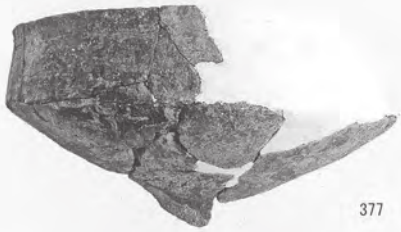
土坑 12 ～ 15・19・21・22・32 出土土器


351

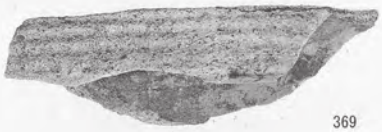

370


356


372


377


373


369


389


378


379

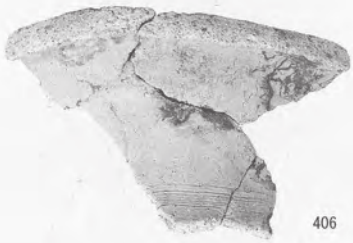

371


381

土坑 25・27、溝 13 出土土器

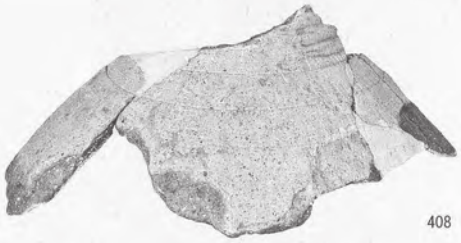

400

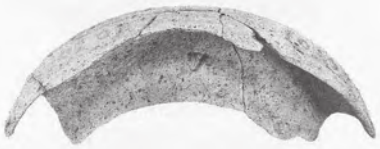

402


406

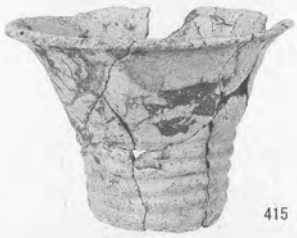

412


413

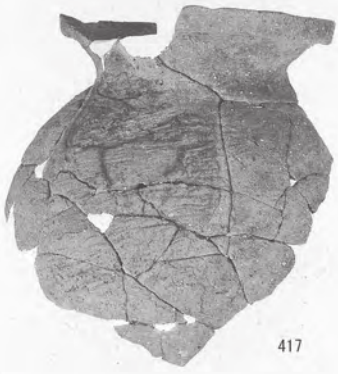

408


414

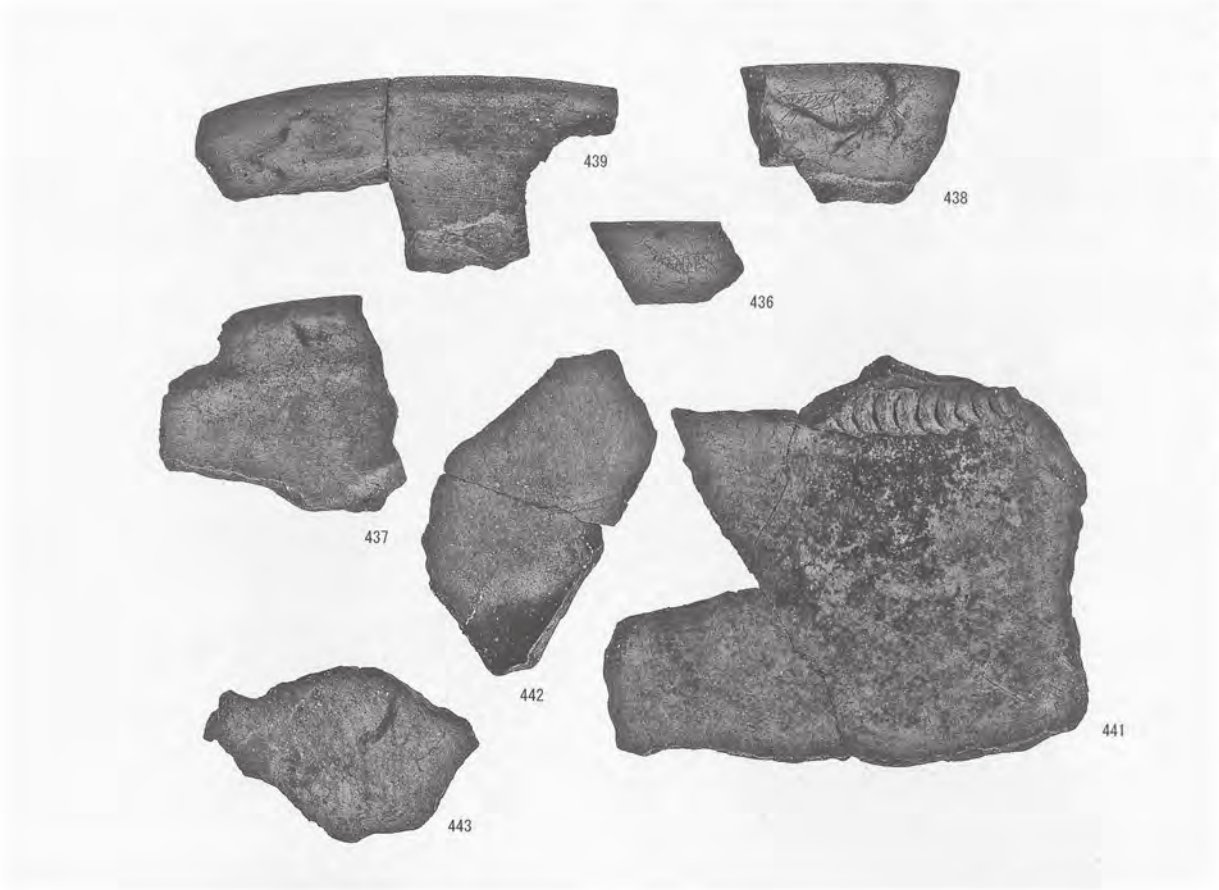

409

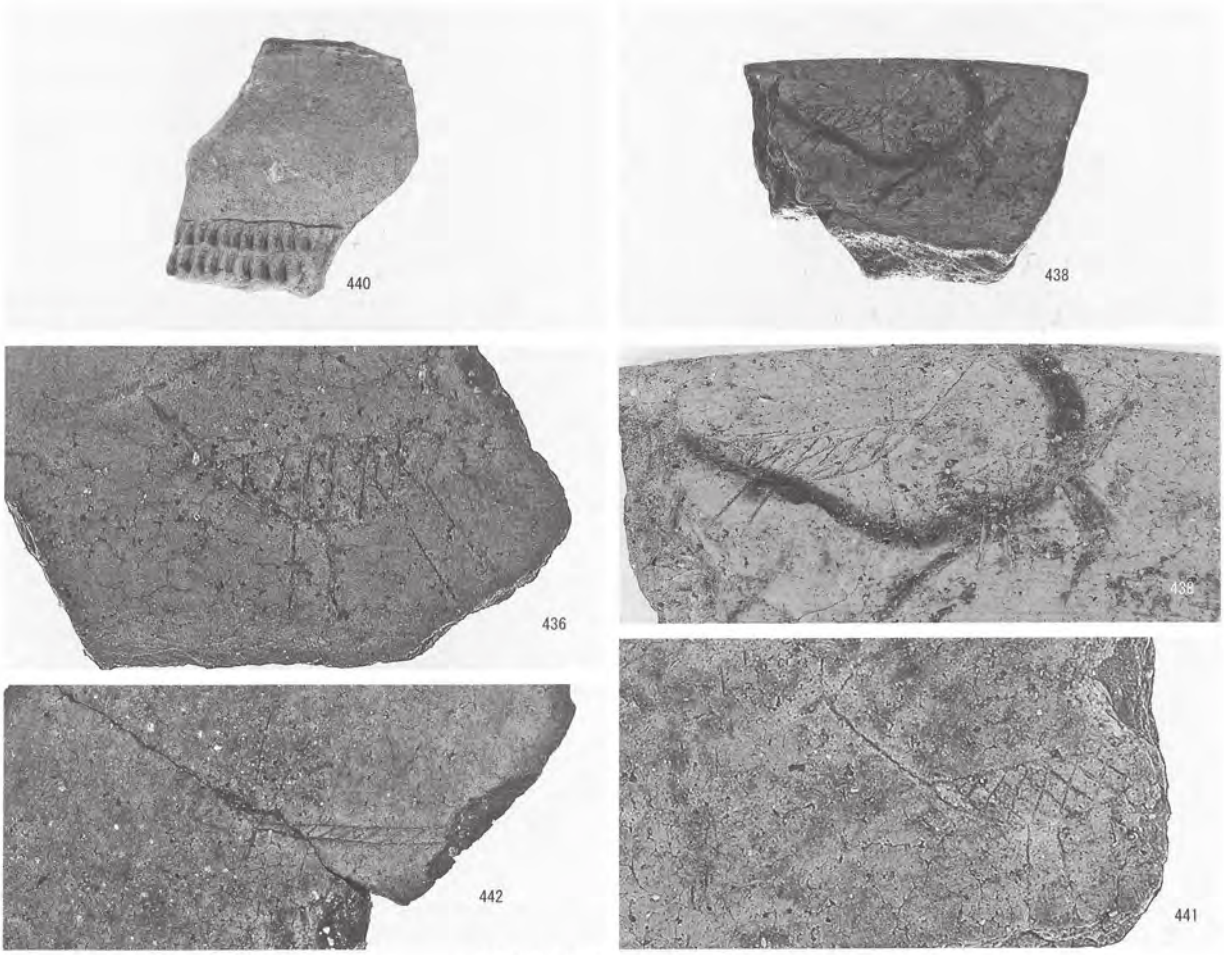

415


423

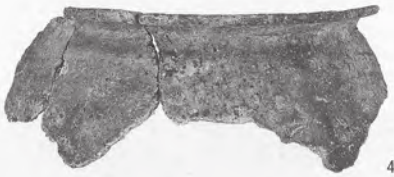

417

自然流路 8 出土土器 1



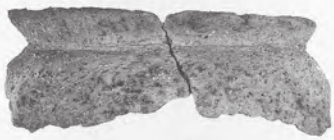


自然流路８出土土器２

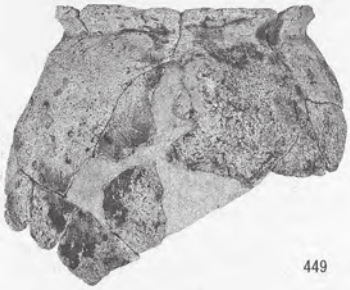

444


448

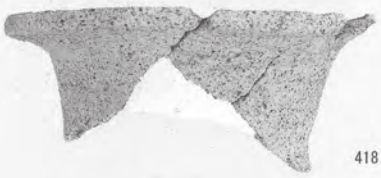

460

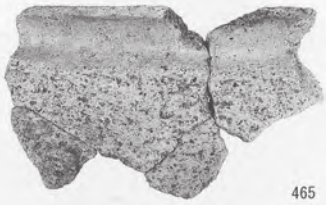

459


450


449


447


418


465


475


466


462

自然流路８出土土器３


474


486


479


488


472


490


473


493


481




425



495

自然流路８出土土器４


519


521


509


525

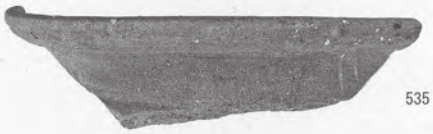

514


528


516


532


501


535


500


536


496


537

包含層（西飯降Ⅱ遺跡 06 － 2 区）、溝 18、条里水田（古代）周辺、自然流路 6 出土土器



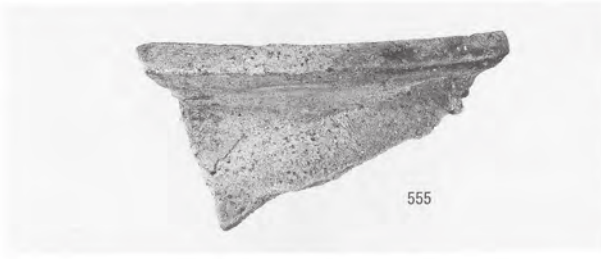


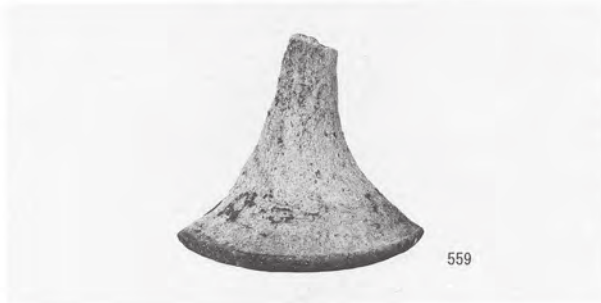






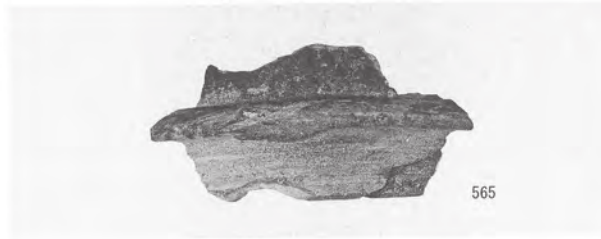










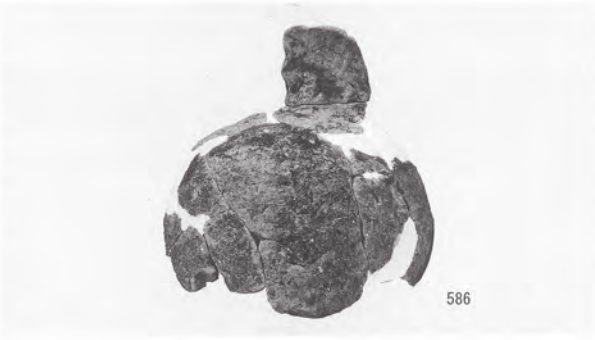




土坑 39、自然流路 6・7、包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 06 － 1 区）出土土器


579


581


586


593


607


592


615


620


611

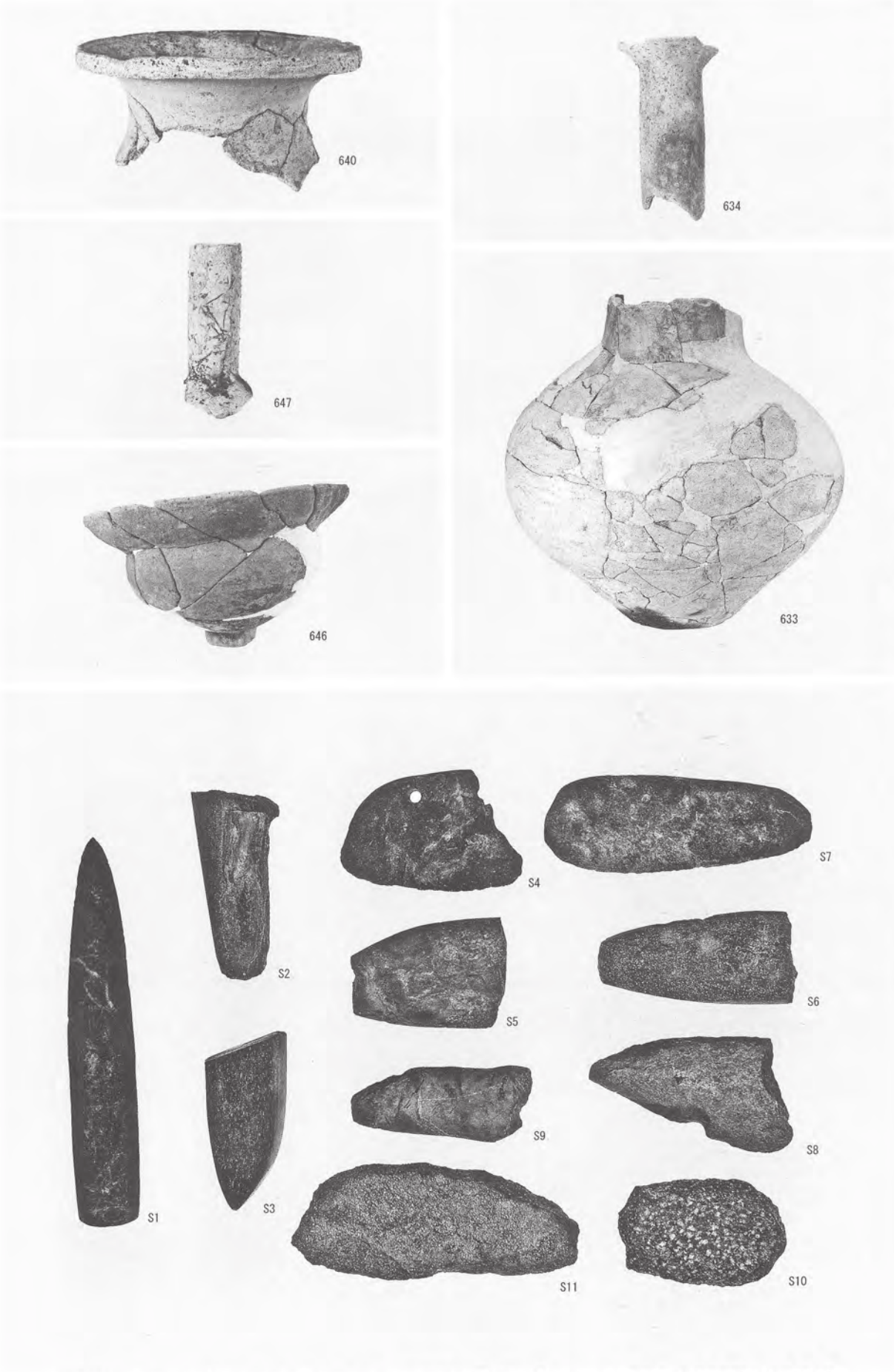



630

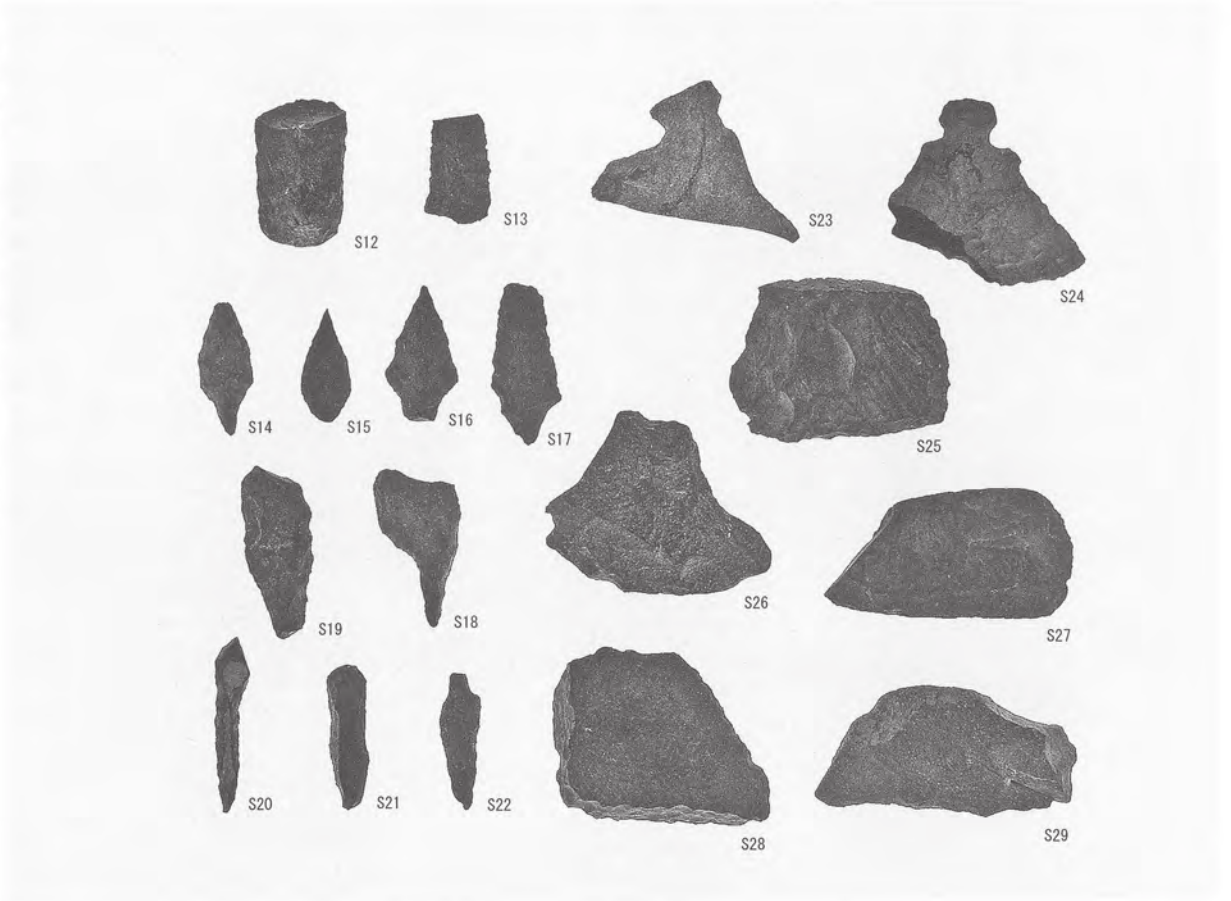

582

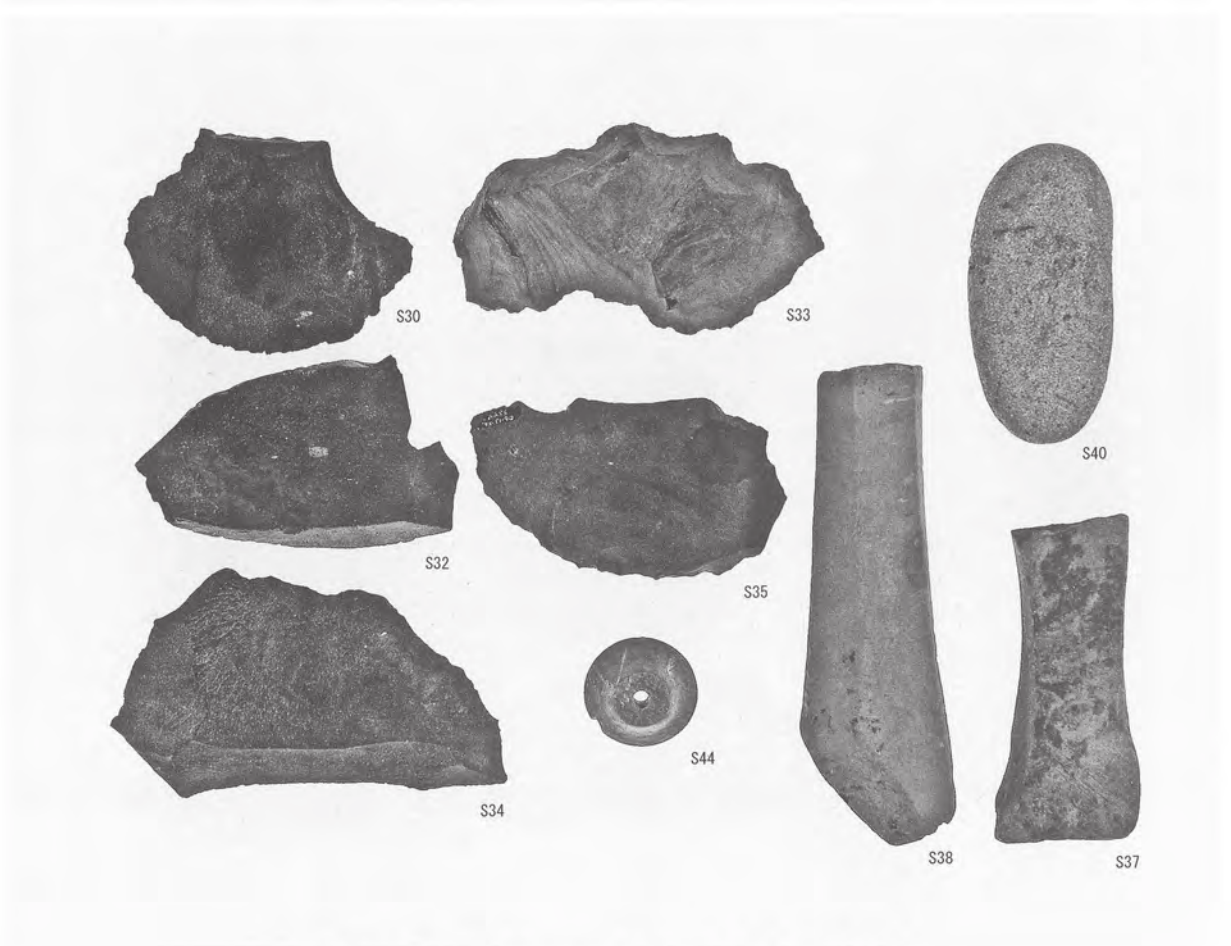

635

竪穴建物 17・18・20、土坑 40 ～ 42・45・48・49、落ち込み 2、溝 28 出土土器



土器棺墓6、溝29・溝32出土土器、西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）出土石器・石製品





西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）出土石器・石製品



















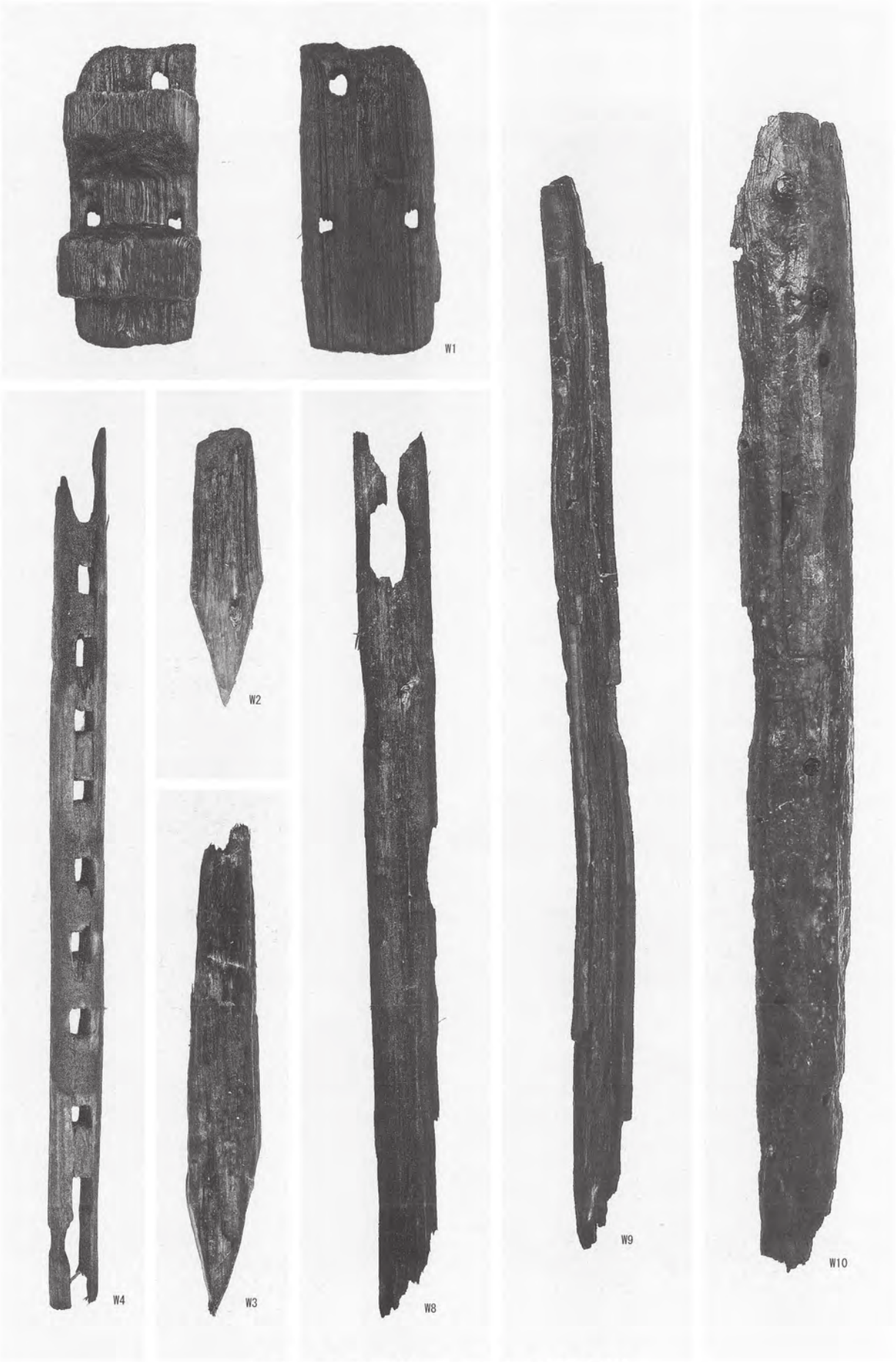








西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）丁ノ町・妙寺遺跡（06－1区）出土石器・石製品



西飯降Ⅱ遺跡（06－1・2区）出土木製品

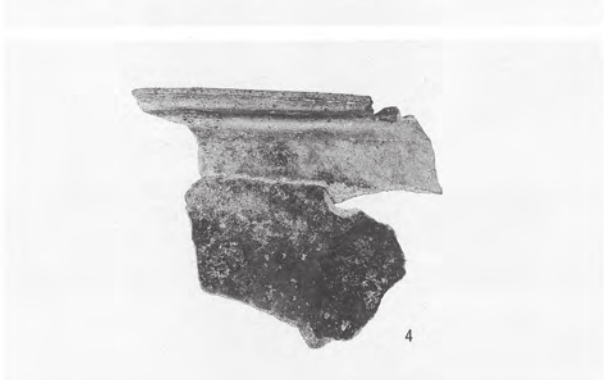






















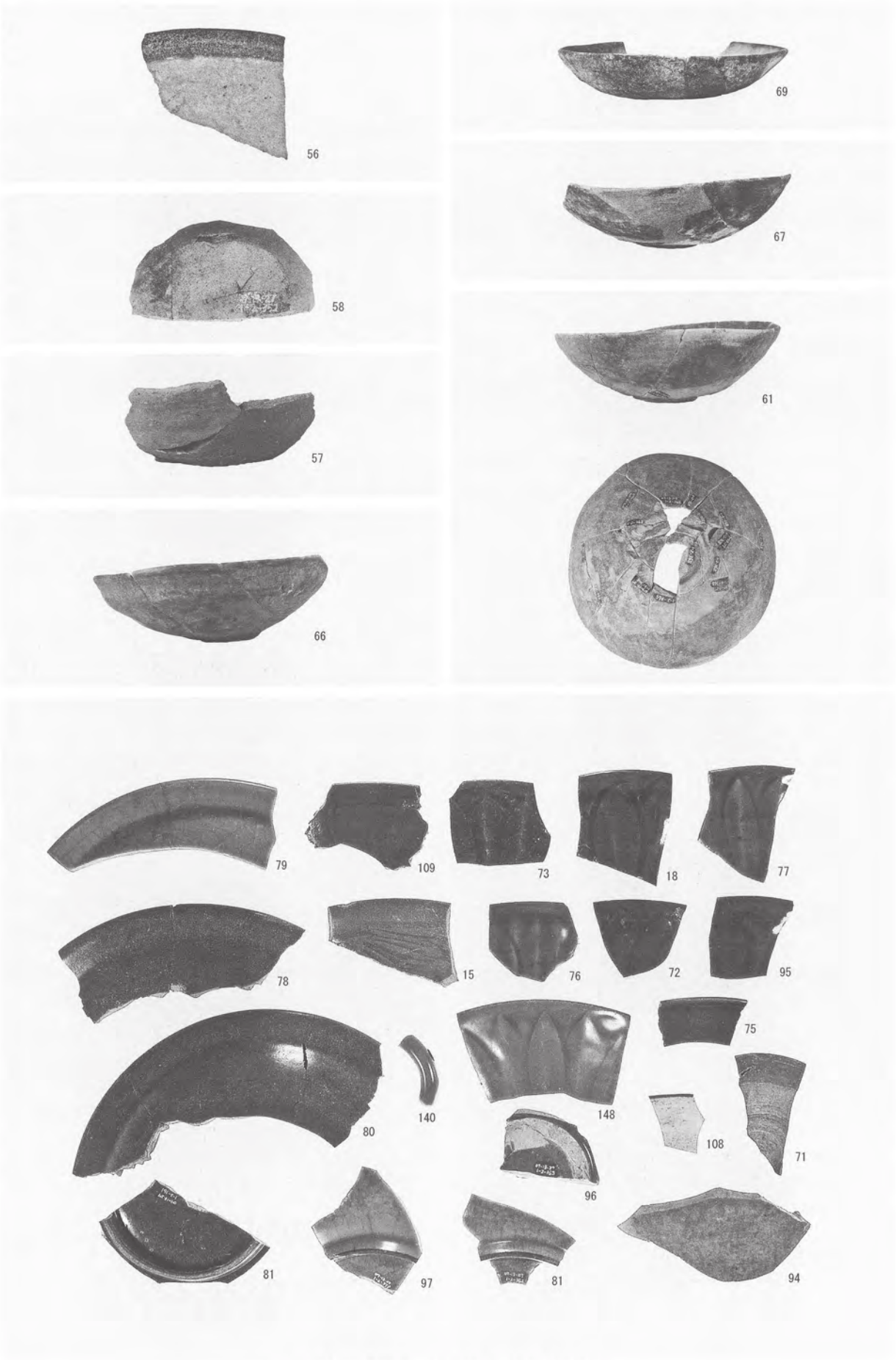








包含層（丁ノ町・妙寺遺跡 07 － 1 区）、掘立柱建物 2 出土土器



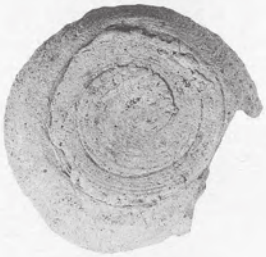
掘立柱建物２、土坑１・４出土土器


83


82

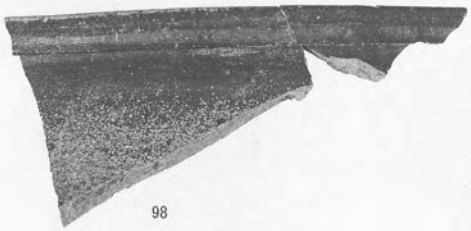

91


84




90




98


101


102


104


115


116


119


121


126


105



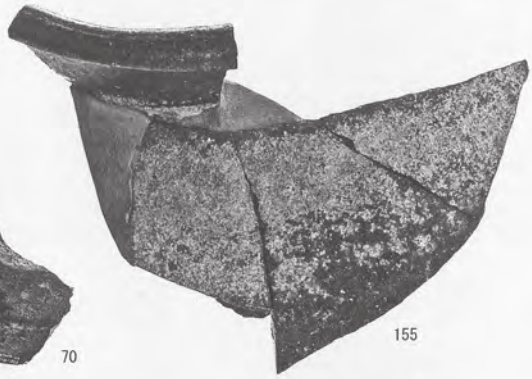
掘立柱建物２出土土器



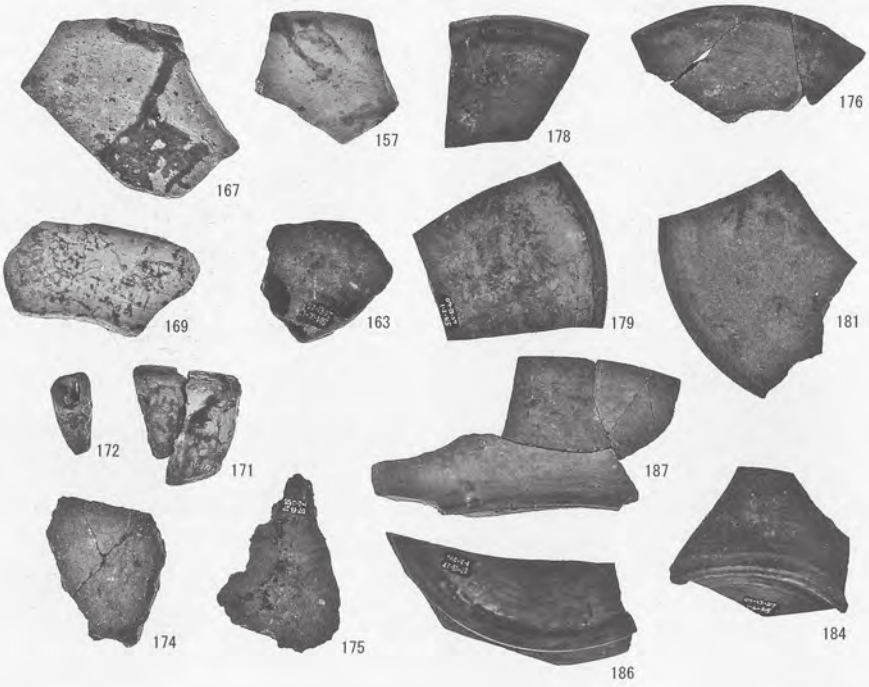










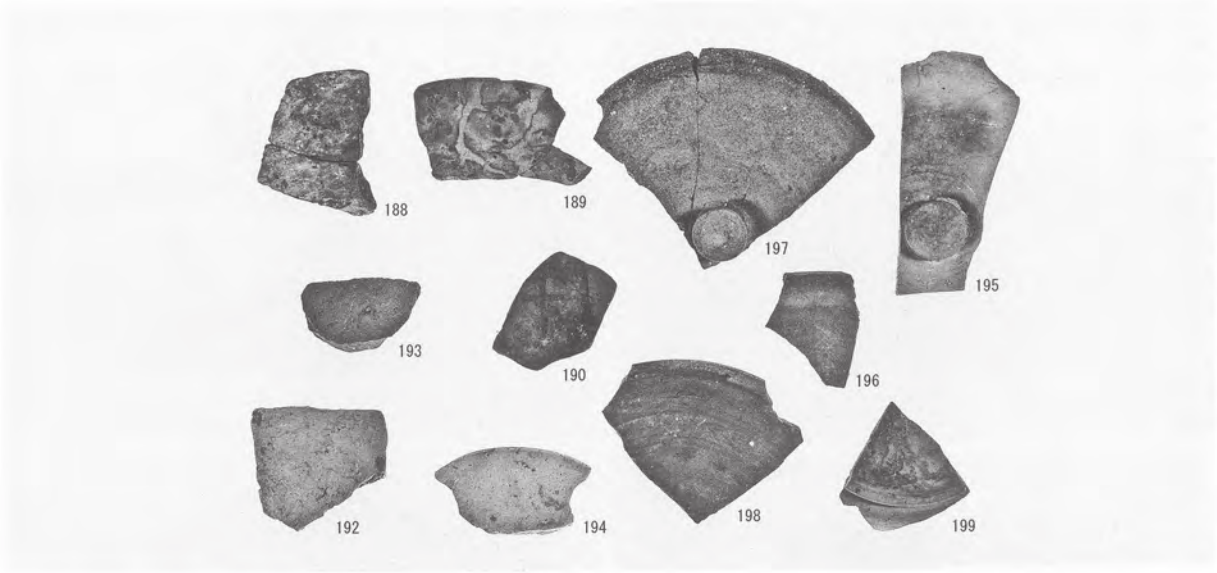


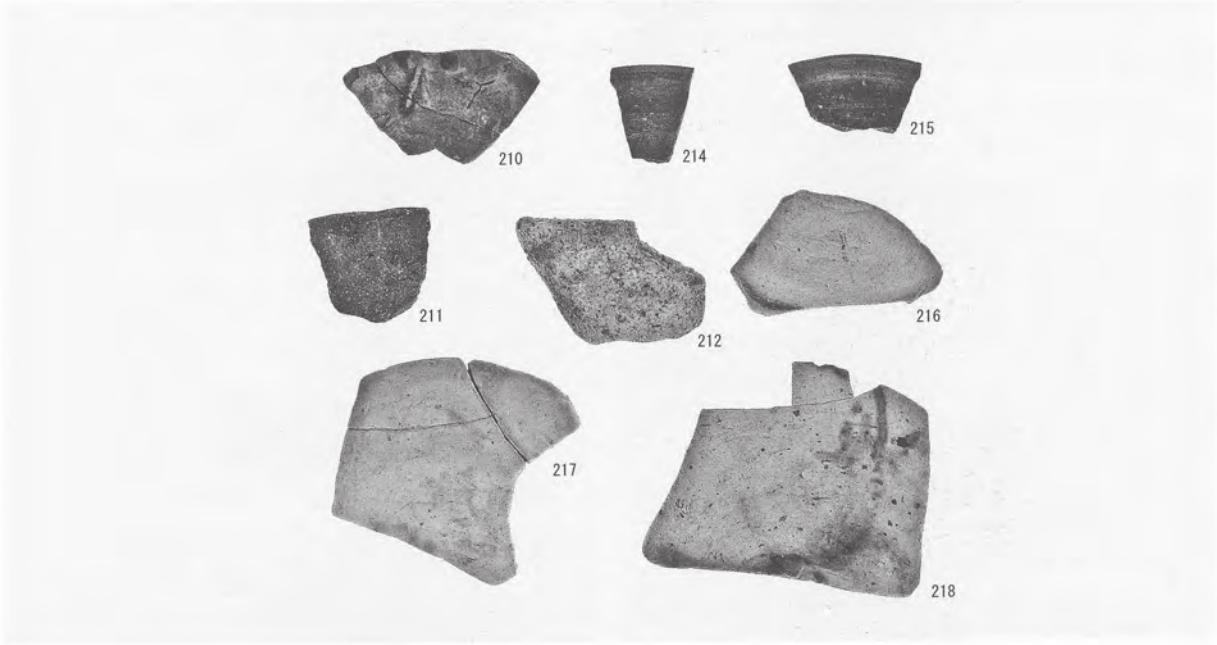


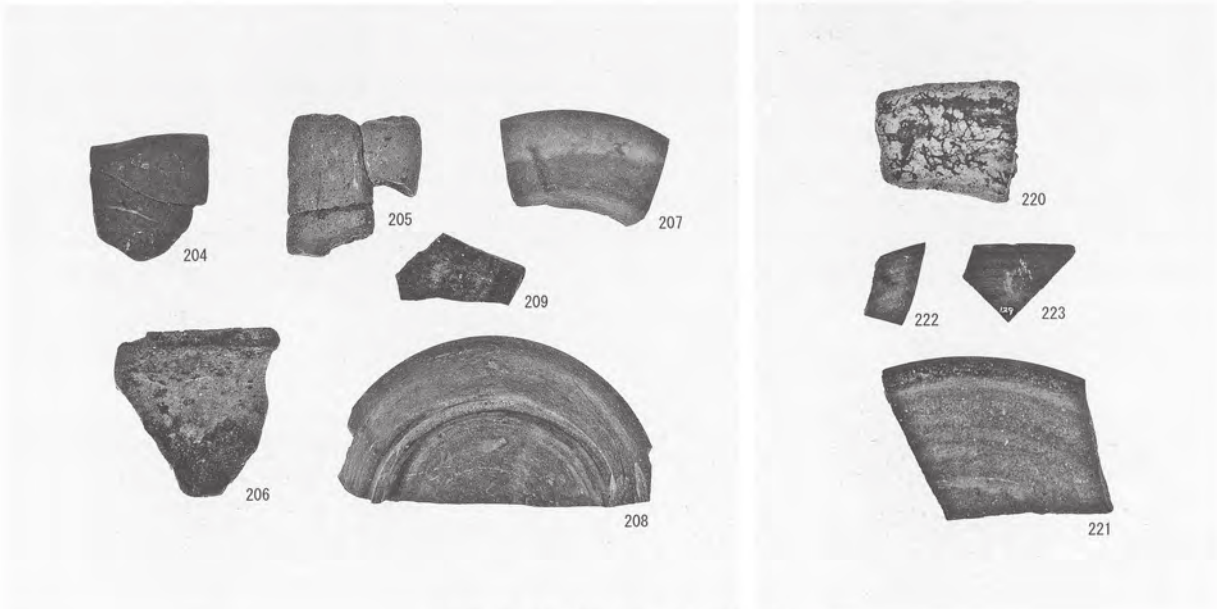




掘立柱建物２・３・４、ピット１、土坑２、溝１、包含層（丁ノ町妙寺遺跡 07 － １区）出土土器

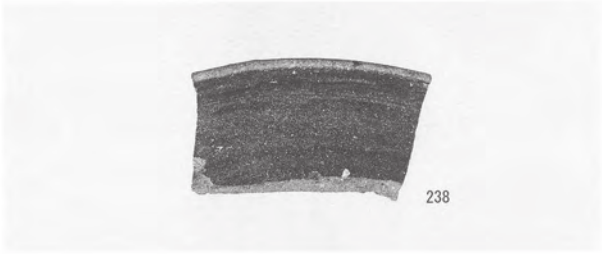






掘立柱建物４・６～９出土土器


229

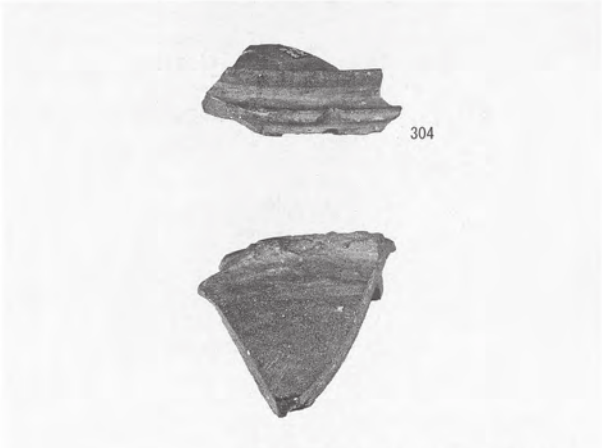

238


289


290


280


277


304


266

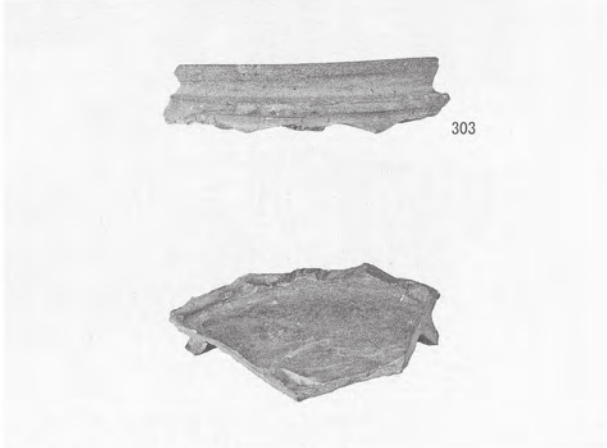

269


285

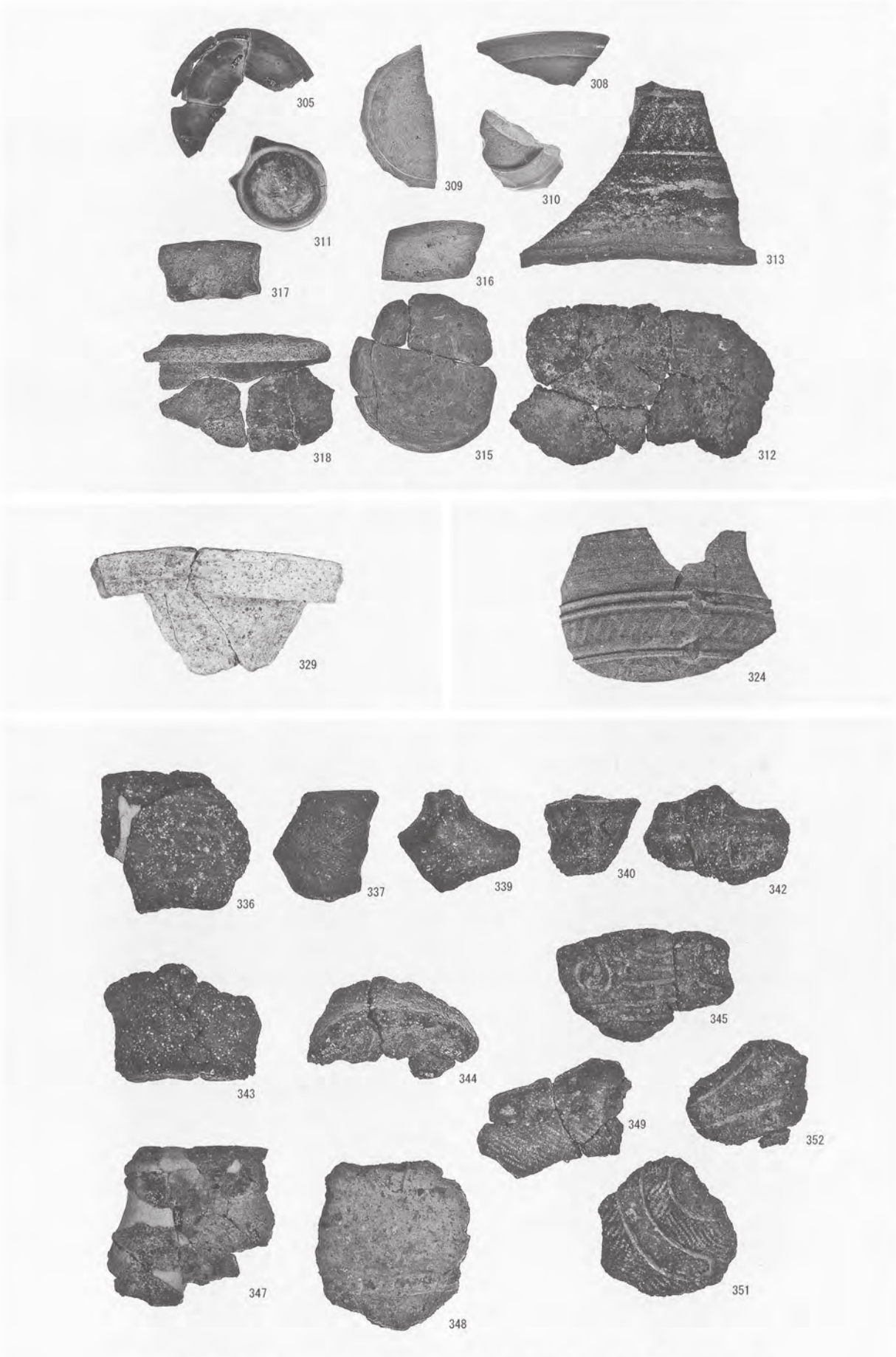

295


273


302


303

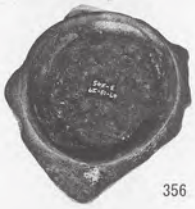
ピット 4、溝 4、掘立柱建物（古代）周辺出土土器・土製品

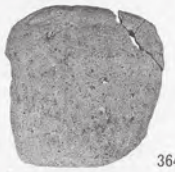


掘立柱建物 11、土坑 8、包含層（丁ノ町妙寺遺跡 07 － 2・3 区）出土土器


354


357


356


364


366


361


377


369


370


371


372


368


373


374

竪穴建物１～３、自然流路７出土土器


385


400


381


382


383

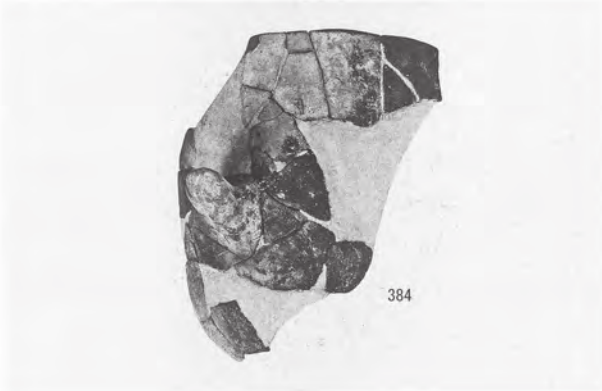

378


394


387


391


380


384


379

竪穴建物 4、ピット 10、土坑 9、溝 6 出土土器


402


428


421


404

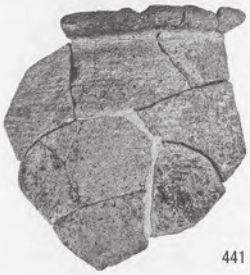

410

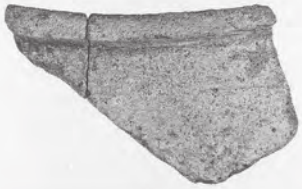

406


407


450


445


441

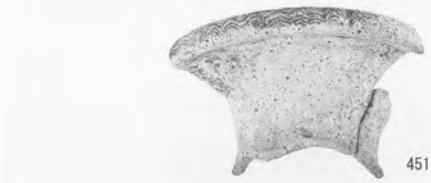

448


484


487


491

竪穴建物9、土坑10～12・15・16・19、溝状遺構1、自然流路8出土土器


451


472


459


464

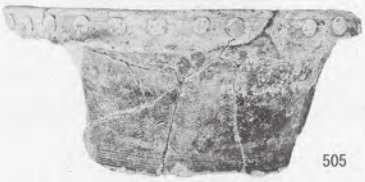

465


476


473


475


467


505


509


501

土坑 13、自然流路 9 出土土器 1


499


520


513

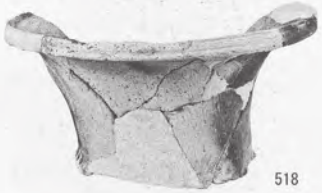

521


510


522


524


525

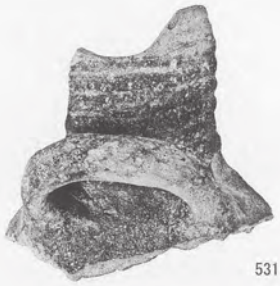

518


519


526

自然流路９出土土器２


523


531


512


527


533


530


535


534


561


566

自然流路９出土土器３


556


576


564


548


577


565


578


573


552

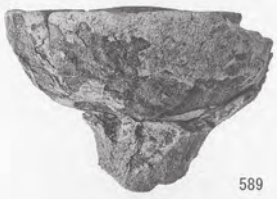

551

自然流路９出土土器４


574


585


583


589


603


579


602


598


599

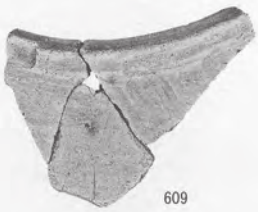

604


587



自然流路９出土土器５


596


609


600


612


606


620


616


621




622

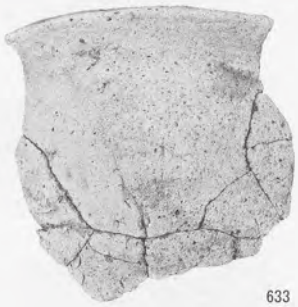

627


630

自然流路９出土土器６


634


626


633


636


637




632

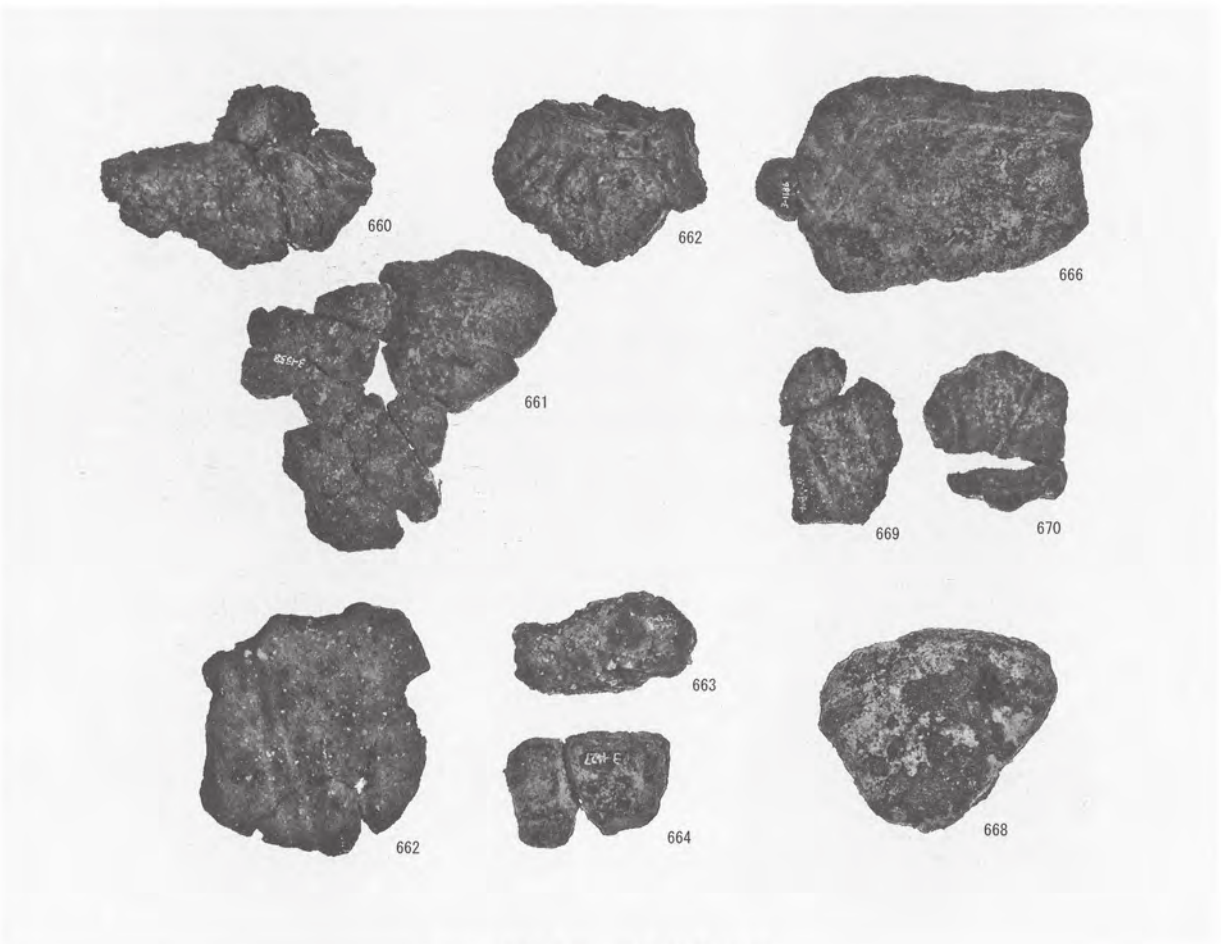

631



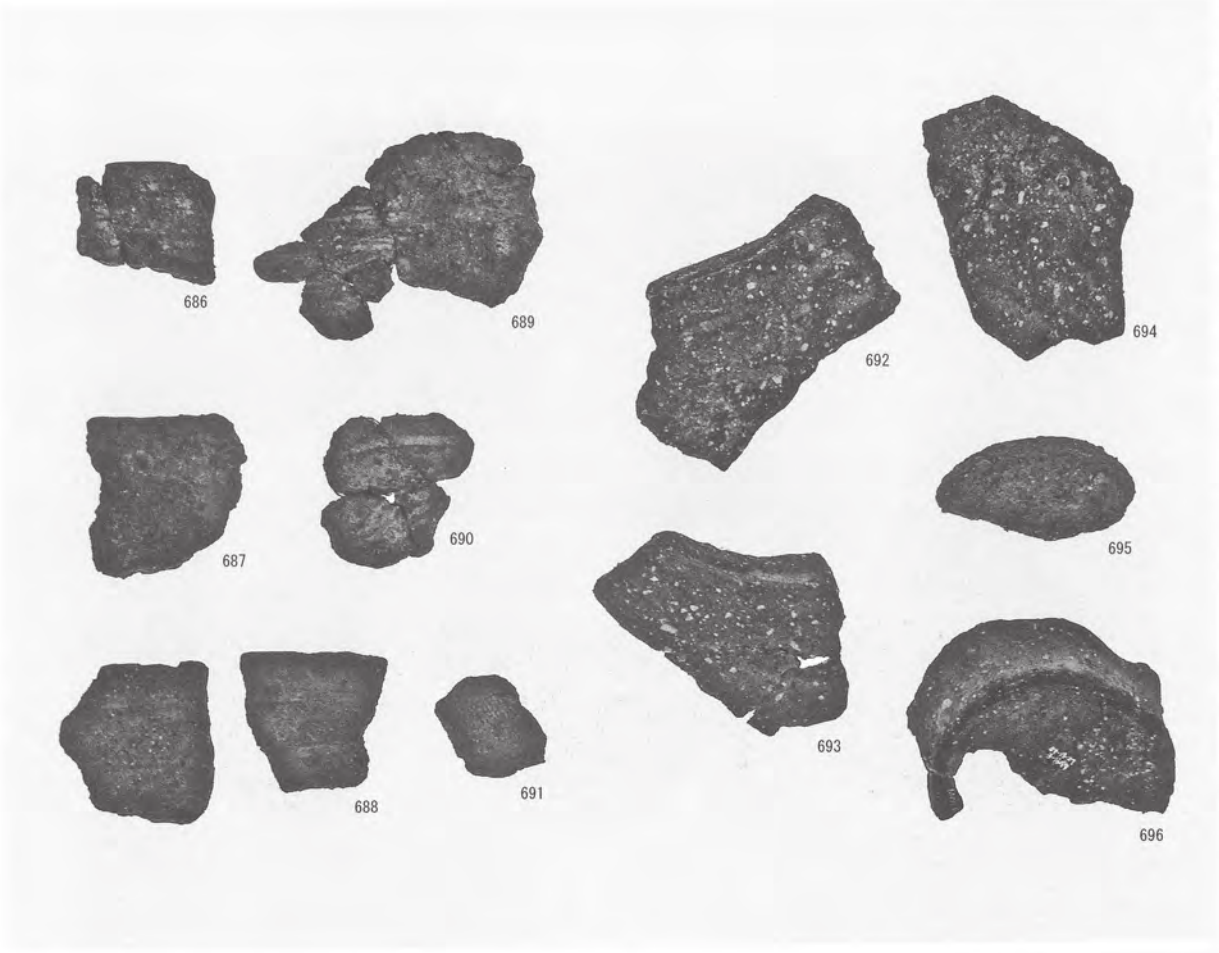


自然流路９出土土器７



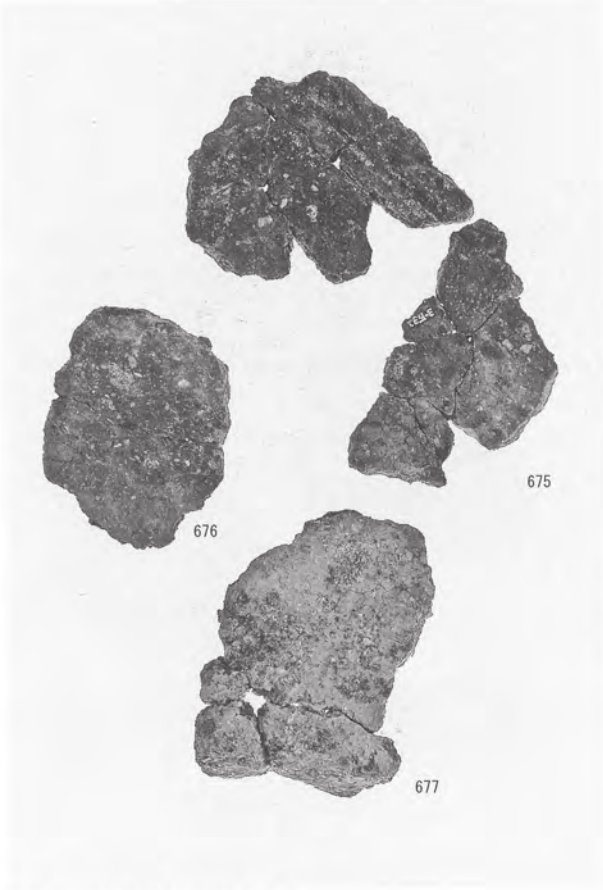


竪穴建物 11 ～ 13 出土土器



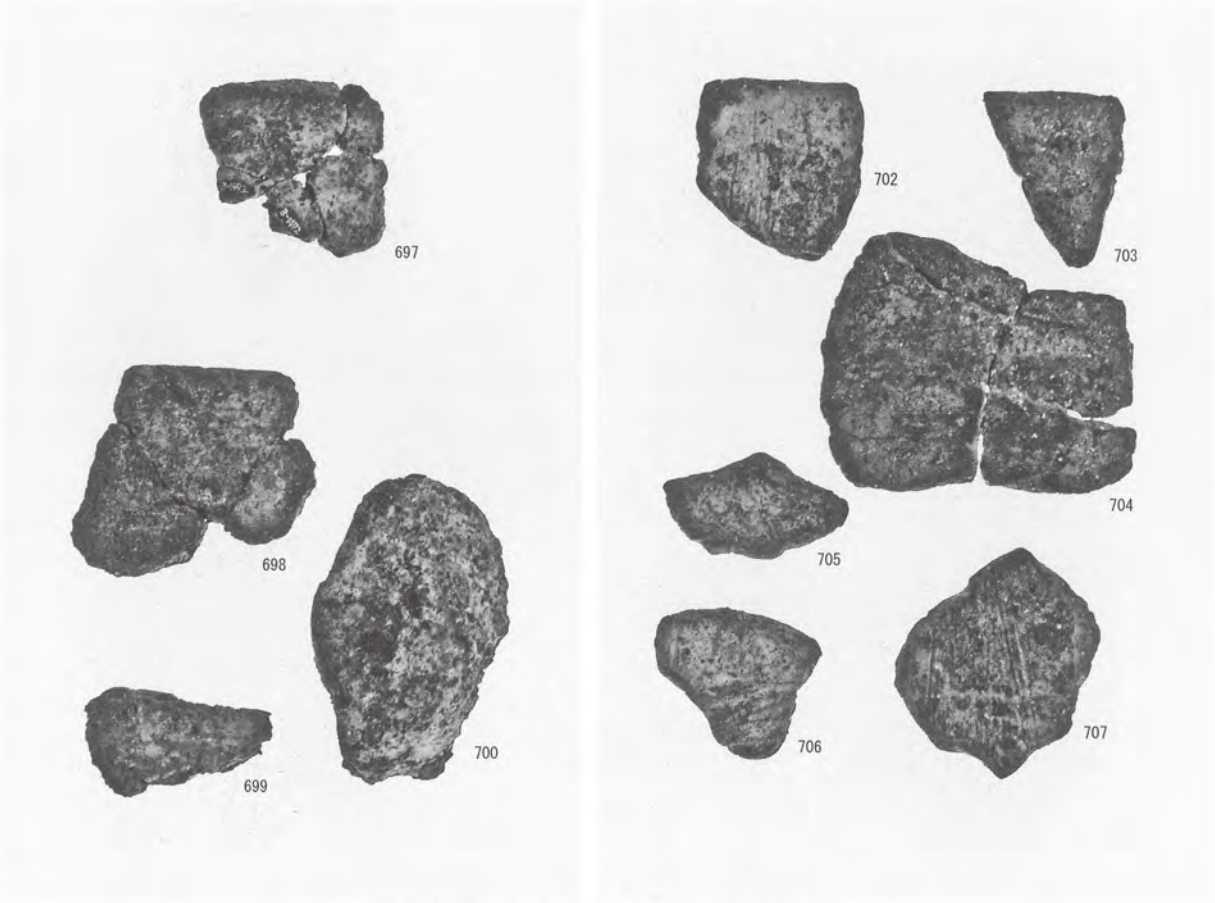






竪穴状遺構 2、埋設土器 2・3、土坑 23 出土土器

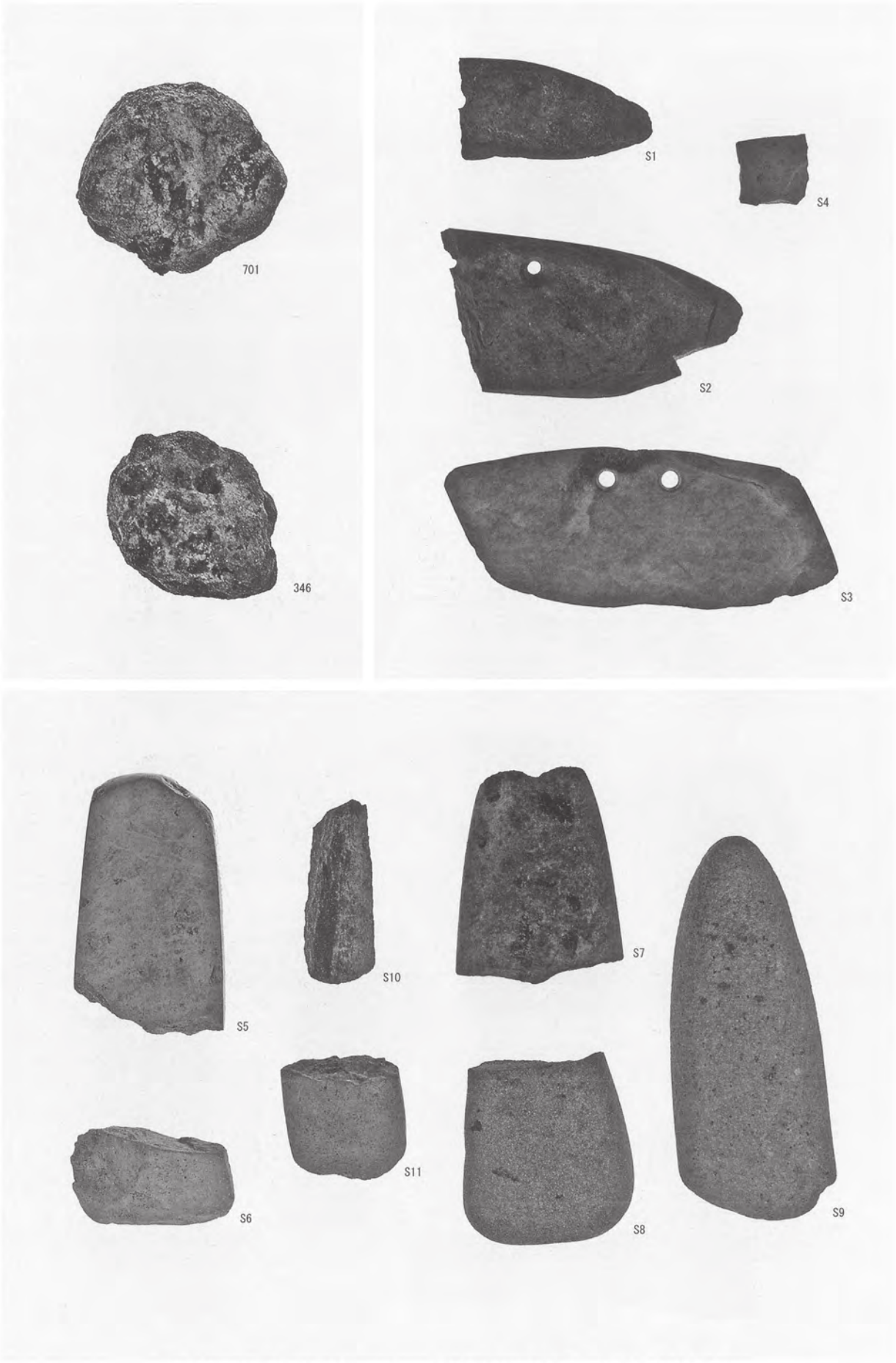




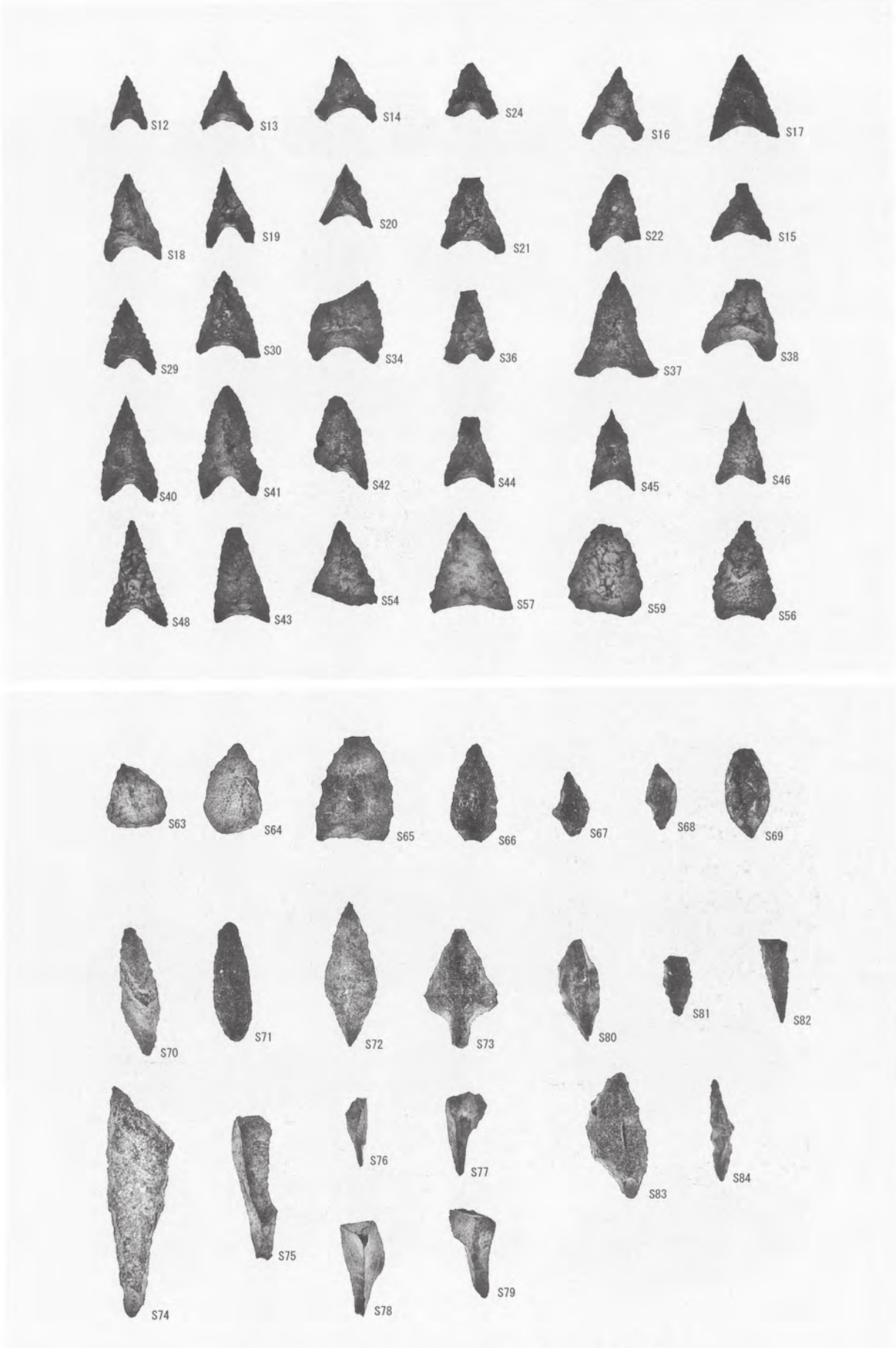
埋設土器 1、土坑 24・25・27 出土土器



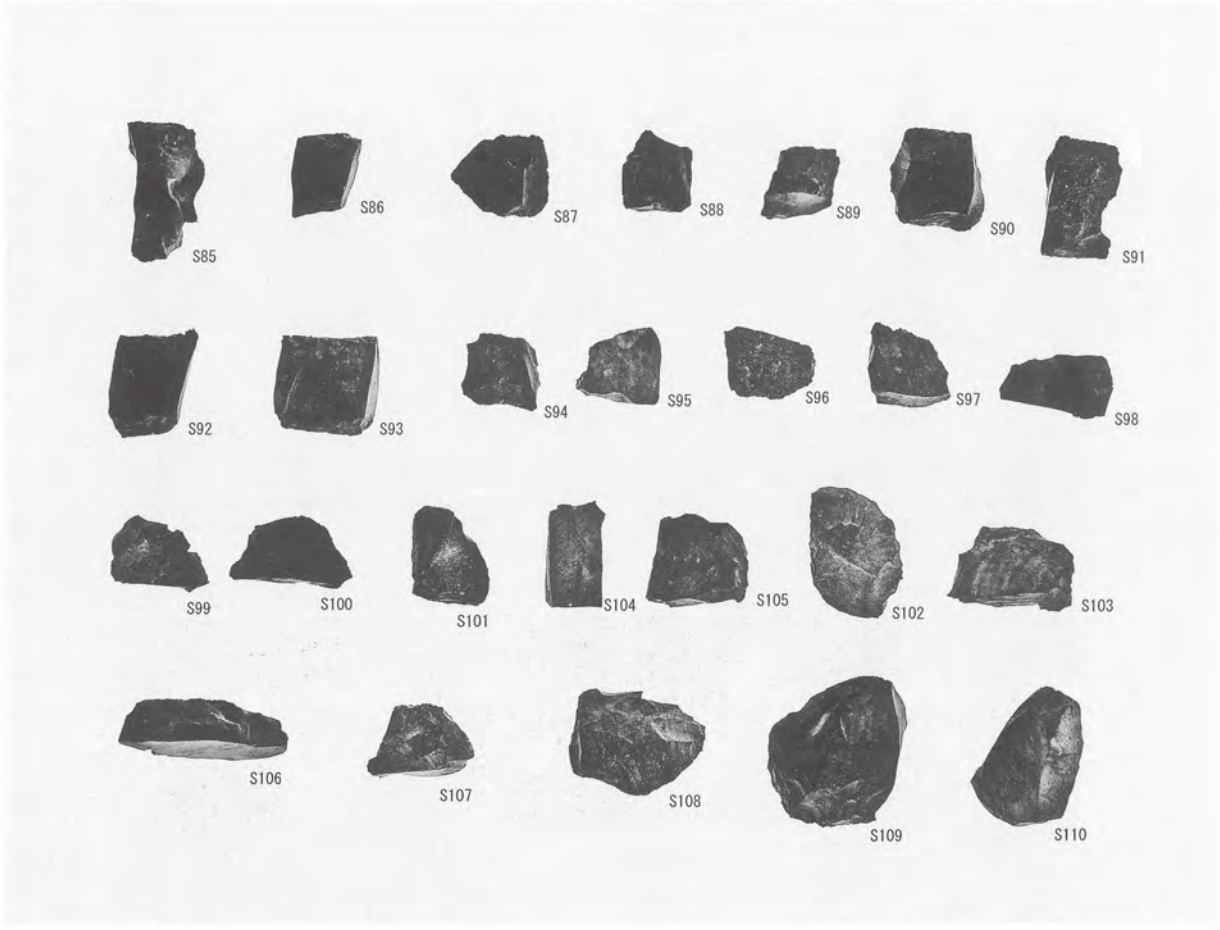
配石遺構 2、集石遺構 5 ～ 8、落ち込み 3、溝 10 出土土器

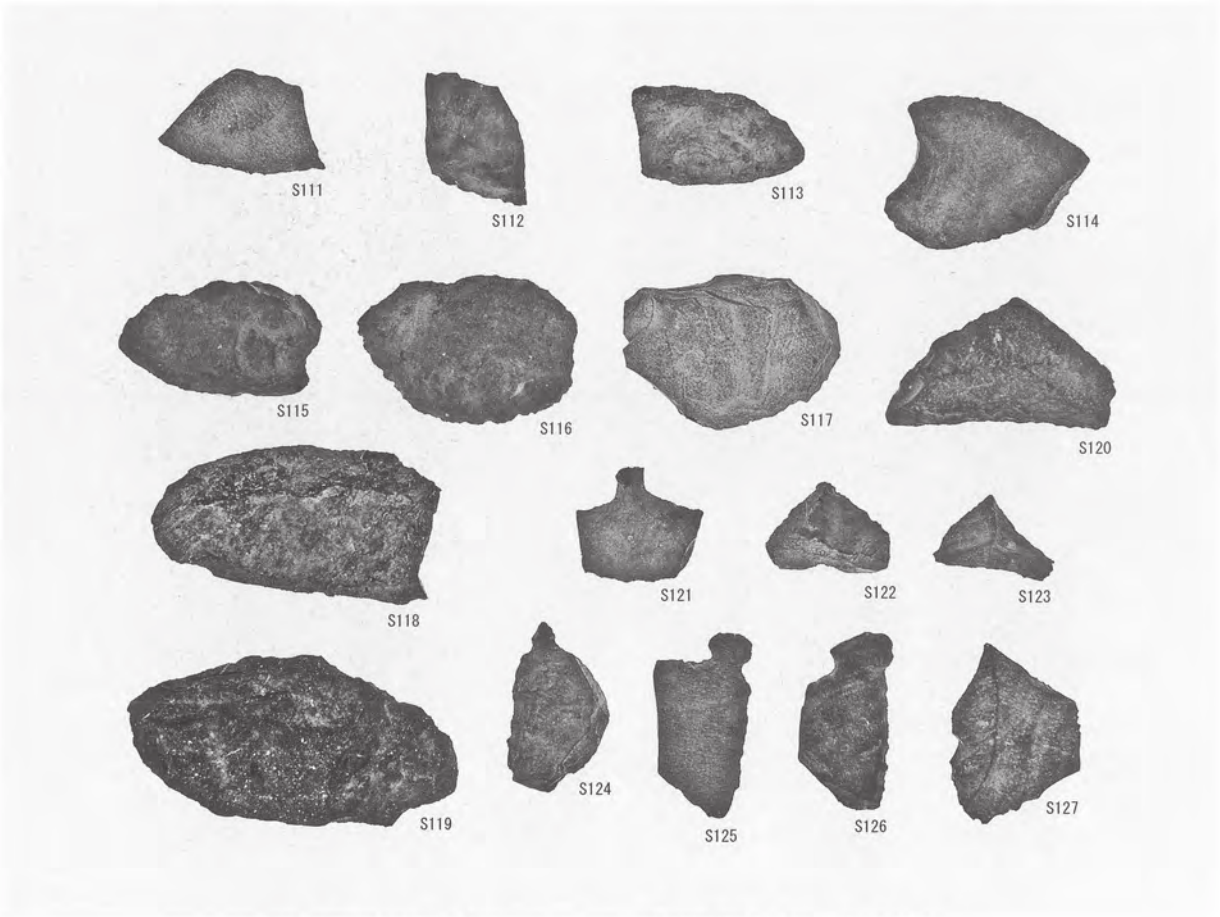


丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土土製品、石器・石製品1

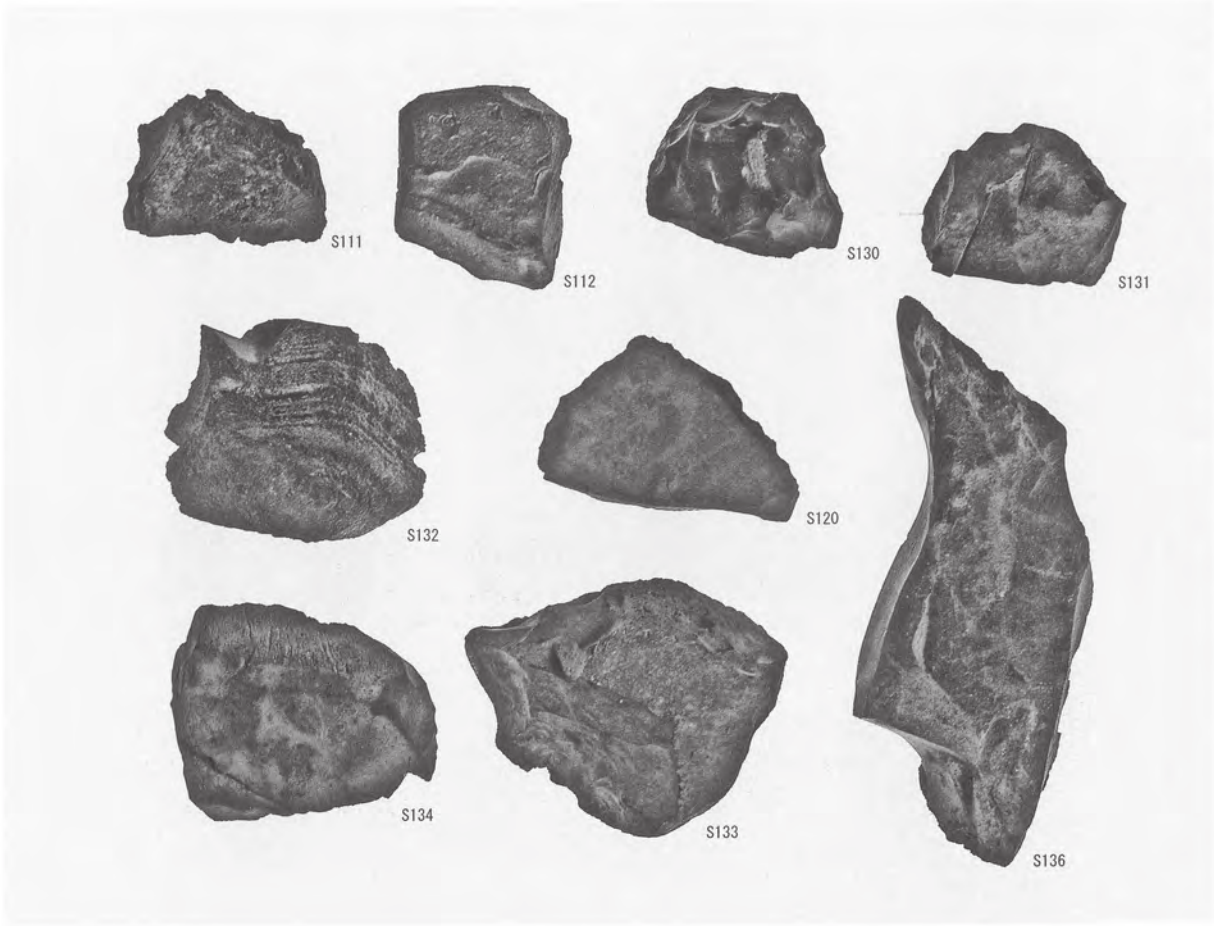


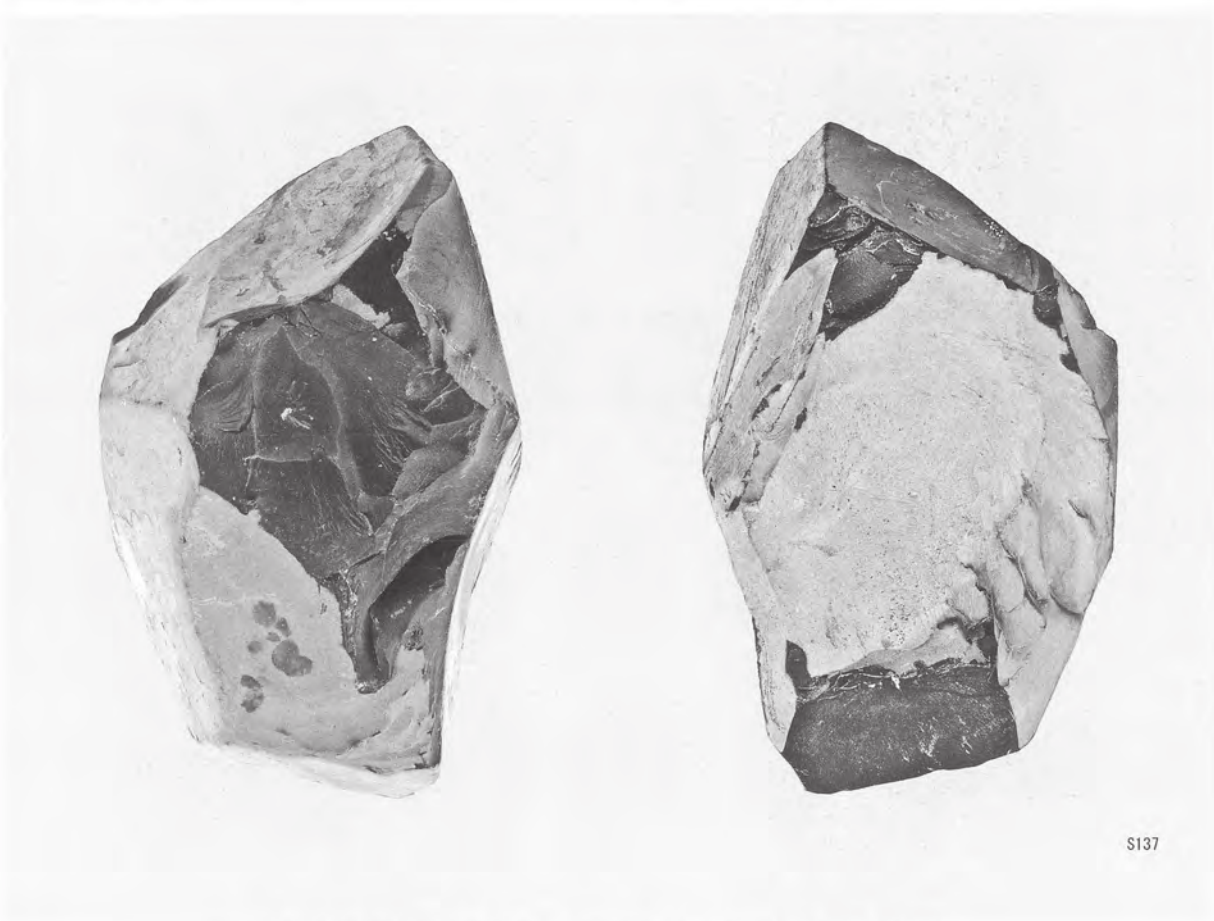
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品2





丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品3



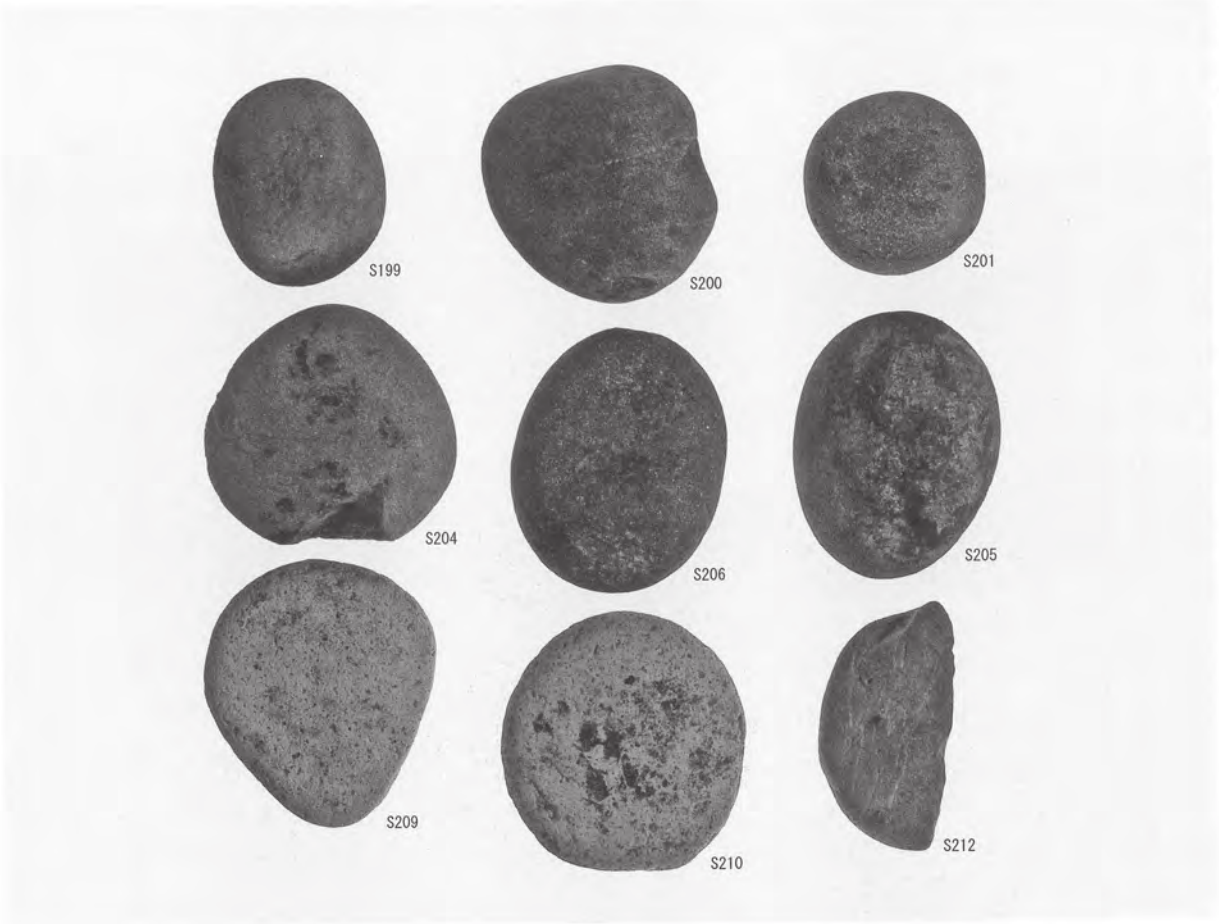


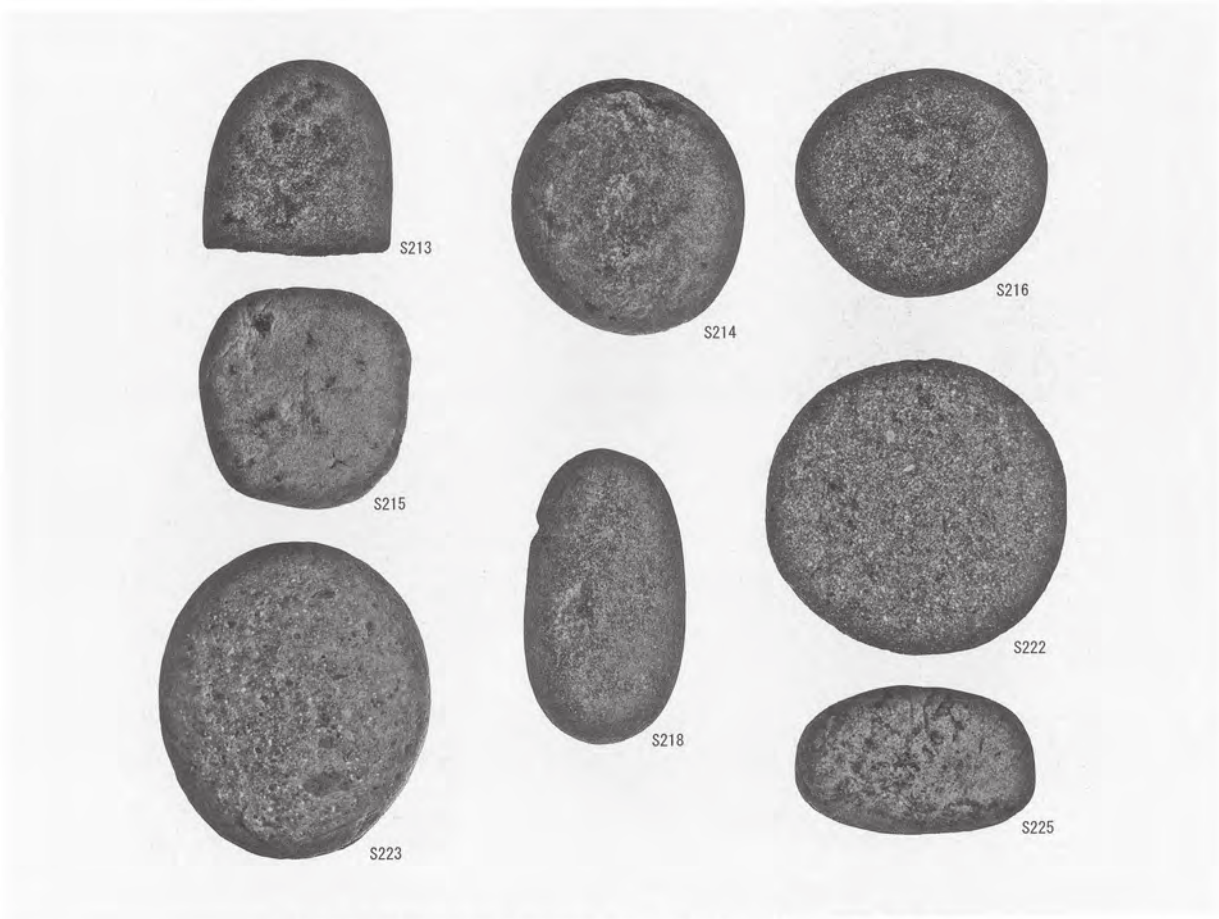
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品4





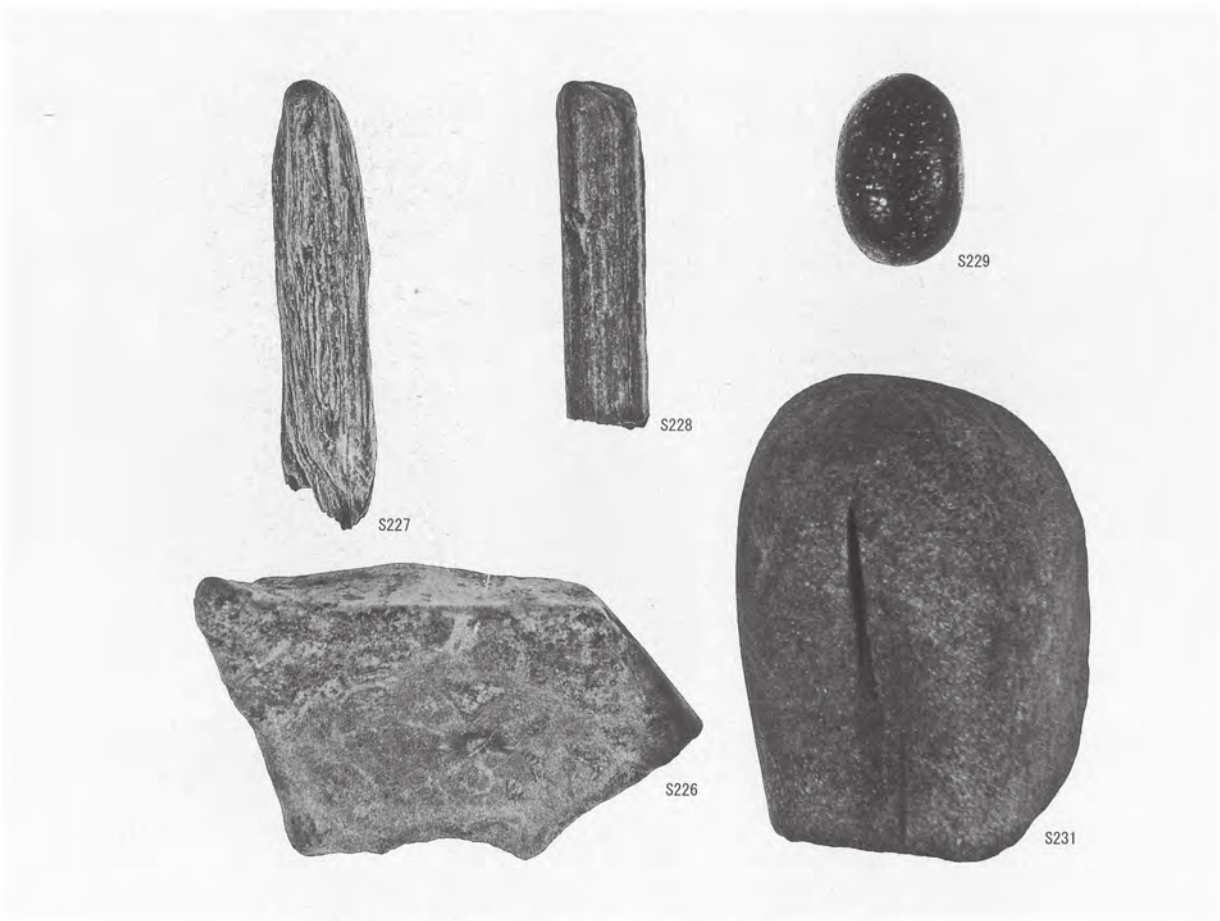
丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品5



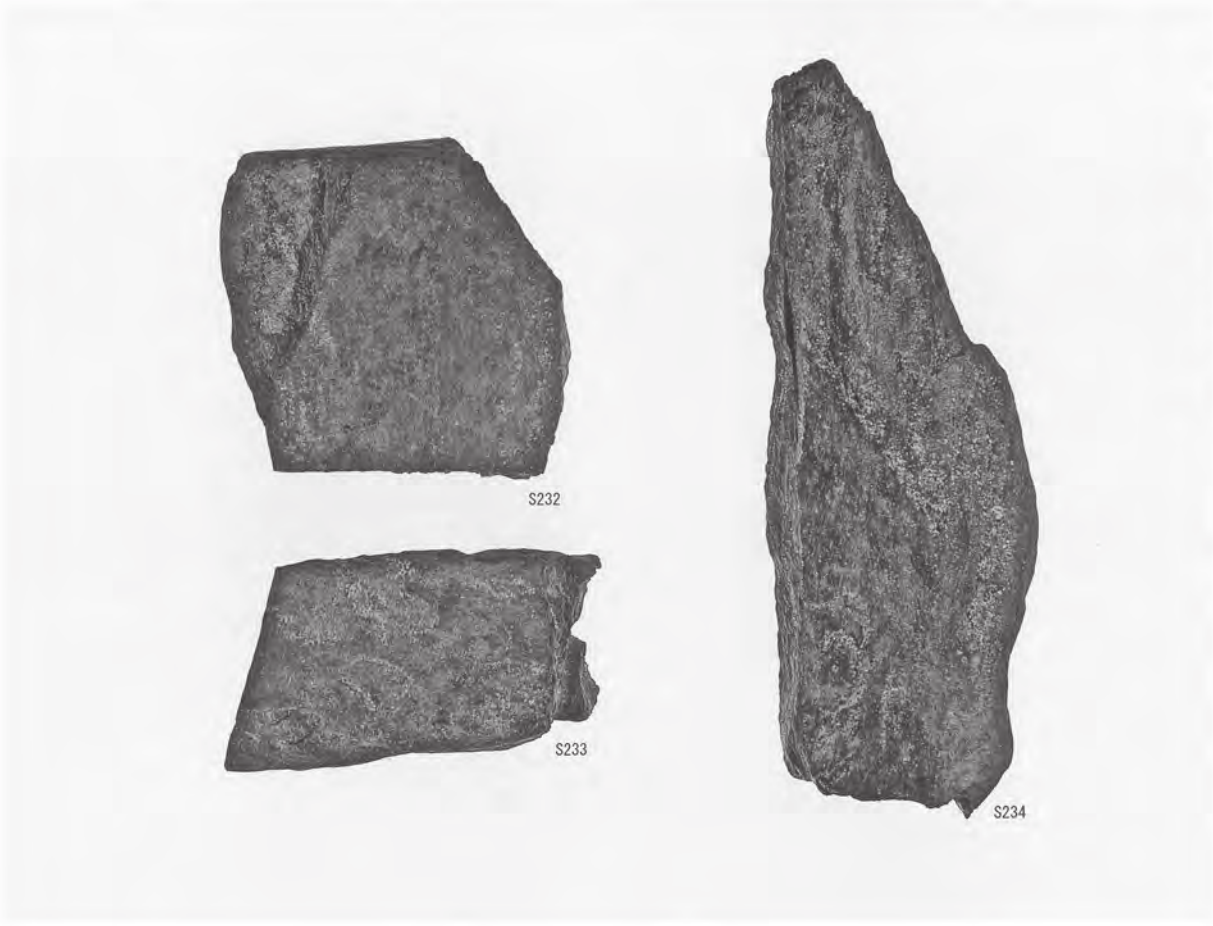


丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品6





丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品7



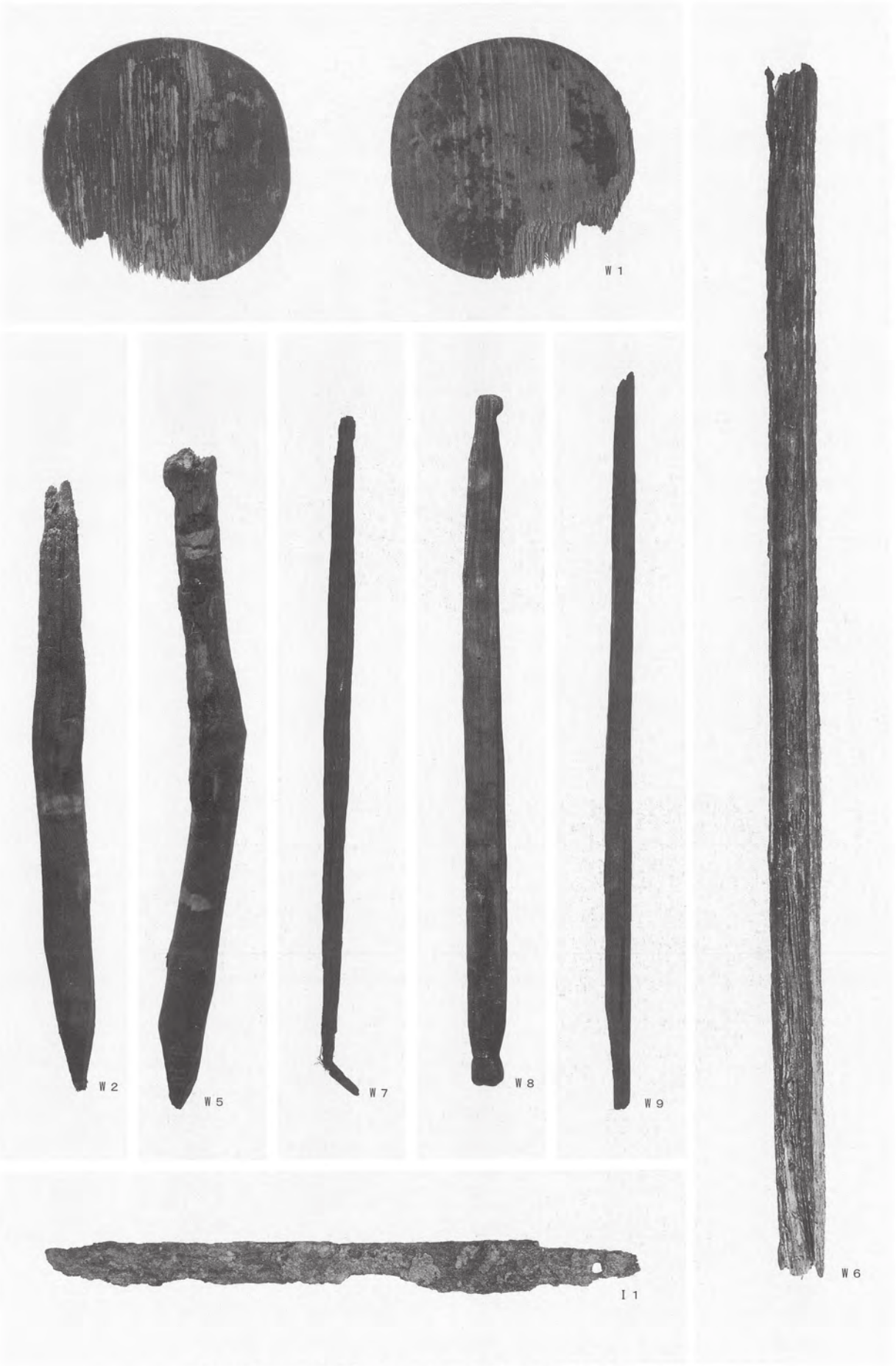


丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品8





丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土石器・石製品9



丁ノ町・妙寺遺跡（07－1～4区）出土木製品・鉄製品

報告書抄録

ふりがな	にしいぶりにいせき、ちょうのまち・みょうじいせき
書　名	西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡
副書名	一般国道24号京奈和自動車道(紀北東道路)改築事業に伴う第1次・第2次発掘調査報告書
編著者名	田中　元浩
編集機関	財団法人　和歌山県文化財センター
所在地	〒640－8246　和歌山県和歌山市湊571－1　　TEL　073-433-3843
発行年月日	西暦2010年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
にしいぶりにいせき 西飯降Ⅱ遺跡	わかやまけん 和歌山県 いとぐん 伊都郡 かつらぎちょう かつらぎ町	30341	26	34° 18′ 23″	135° 31′ 19″	第1次調査 2006年 5月20日 ～ 2007年 3月27日	18,776㎡	一般国道24号 京奈和自動車道 (紀北東道路)の 改築
ちょうのまち・みょうじいせき 丁ノ町・妙寺遺跡	にしいぶり 西飯降 ちょうのまち 丁ノ町 みょうじ 妙寺		27	34° 18′ 20″	135° 31′ 03″	第2次調査 2007年 5月16日 ～ 2008年 2月29日	17,223㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西飯降Ⅱ遺跡	集落 生産	弥生時代	竪穴建物、方形周溝墓、土器棺墓、土坑、ピット、溝、自然流路	弥生土器、絵画土器、石器、木製品	弥生時代中期の集落、絵画土器
		古墳時代	竪穴建物、焼成土坑、土坑、ピット、溝、自然流路	土師器、須恵器、製塩土器、石製品	古墳時代前期、古墳時代後期の集落
		平安時代	焼成土坑、鍛冶遺構、土坑、水田、溝、自然流路	土師器、製塩土器、黒色土器、須恵器、木製品	条里地割に基づく水田
		鎌倉時代 室町時代	掘立柱建物、土坑、水田	瓦器、土師器、須恵器、国産陶器、鉄製品	鎌倉時代～室町時代の生産地
丁ノ町・妙寺遺跡		縄文時代	竪穴建物、竪穴状遺構、埋設土器、配石遺構、集石遺構、土坑、溝、自然流路	縄文土器、土製品、石器	縄文時代後期の集落
		弥生時代	竪穴建物、竪穴状遺構、土器棺墓、土坑、ピット、溝、自然流路	弥生土器、石器、木製品	弥生時代中期後葉から後期の集落と土器
		古墳時代	竪穴建物、土坑、ピット、落ち込み、溝，自然流路	土師器、須恵器、製塩土器、石製品	古墳時代中期の集落
		平安時代	掘立柱建物、焼成土坑、柱穴、土坑、水田	土師器、製塩土器、黒色土器、墨書土器、須恵器、木製品、石製品	主軸をそろえた掘立柱建物群、墨書土器
		鎌倉時代 室町時代	掘立柱建物、礎石建物、柱列、焼成土坑、耕作溝	土師器、瓦器、国産陶器、輸入陶磁器、鉄製品	鎌倉時代～室町時代の生産地

要約

西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡の調査を行った。縄文時代では立石を伴う配石遺構を中心に、竪穴住居3棟、埋設土器、集石遺構が配置され、縄文時代後期初頭の集落を良好な形で検出した。同時期には竪穴建物1～2棟が存在しており、近畿地方における縄文時代集落の特徴を端的に表す。

弥生時代では、西飯降Ⅱ遺跡では弥生時代中期中葉から後葉を中心とする集落を検出した。竪穴建物9棟、方形周溝墓4基、土器棺墓5基などから構成され、調査区東側に居住域、居住域の西側で墓域が展開する。自然流路からは絵画土器が出土している。一方、丁ノ町・妙寺遺跡では、弥生時代中期後葉から弥生時代後期にかけての小規模な集落を検出した。2つの集落はその盛行期が異なり、弥生時代中期に盛期を迎えた西飯降Ⅱ遺跡の解体・分散を示す。また自然流路から出土した土器群は、紀伊の弥生時代中期末葉の指標となる一群である。

古墳時代後期では、竈を持つ竪穴住居、焼失建物、水制を備える自然流路、溝などを検出した。遺物では県内最古の出土例となる下駄を検出した。古代では平安時代前期（9世紀）の掘立柱建物群8棟と古代の条里水田を検出した。掘立柱建物群は方位をそろえ整然と並び、出土遺物には硯、墨書土器を含む。条里水田は、現在も周辺の地割りとして名残をとどめる妙寺条里と方位、位置が共通し、妙寺条里の施工時期は古代にさかのぼるとみられる。掘立柱建物群は郷庁や妙寺条里を管理する施設であろう。中世では鎌倉時代（13世紀後半）に相当する掘立柱建物や、工房、水田を検出した。これらの遺構は高野山領官省符荘に関連すると思われる。

西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡

一般国道24号京奈和自動車道（紀北東道路）改築事業に伴う
第1次・第2次発掘調査報告書

発行年月日／2010年3月26日
編集・発行／財団法人 和歌山県文化財センター
和歌山県和歌山市湊571－1
印刷・製本／株式会社　協　和
和歌山県海南市南赤坂5－3